講義科目名称： 医療・福祉・教育の基礎　　授業コード： S1000

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	選択
担当教員			
小林　義信・岡野　康幸・田中　輝幸・大島　由之			
基礎教養科目	講義		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 医療・福祉・教育に関わる専門職の基礎について学び、専門職者としての素養を身に付けることを目的とする。 的とする。 【到達目標】 ①医療・福祉・教育に関わる法・制度について理解・説明できる。 ②医療・福祉・教育に関わる専門職と、その役割ついて理解・説明できる。 ③ライフステージに応じた対象者の生活支援に関して、各専門職の取り組みを理解・説明できる。 ④対人コミュニケーションや多職種連携の重要性について理解・説明することができる。
授業の概要	人は生まれてから最期を迎えるまで、多様な生活を送る。医療・福祉・教育に関わる支援者の役割は、人々が必要な教育を受け、幸福で健康的な生活を送ることができるようにすることである。本講義では、乳幼児期から老年期にある様々な年代の対象者が、生き生きと生活を送るために、どのような専門職が、どのように治療・指導・援助に関わっているか演習を交えながら学ぶ。 また、治療・指導・援助の際には、対象者や多くの専門職とのコミュニケーション（多職種連携）が必要不可欠である。講義内で行われる、グループワークなどの演習を通し、人とのコミュニケーションの重要性についても理解を深めて欲しい。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	オリエンテーション／「ボランティア活動」と「サービス・ラーニング」（中越信一） 【key words】 【授業概要】 本学の建学の精神である「仁」をもとに、「ボランティア活動」と「サービス・ラーニング」の基本について学びます。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第２回	生命と倫理について考える（岡野康幸・半田正） 【key words】 【授業概要】 科学の進展は人間の生命の誕生や死も、ある程度の管理を可能としました。人間の誕生と死から生命と倫理の関係を考えます。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】

	第３回	苦痛の回避・軽減とアクティビティ・サービス（清水久二雄） 【key words】 【授業概要】 苦痛が回避され、軽減していく快さの意義をアクティビティ・サービスの視点から学びます。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第４回	病院窓口の仕組み　～あなたの知らない診療報酬の世界～（下村由香） 【key words】 【授業概要】 私達が病院に行くと最初に接するのが窓口です。カルテ、領収書や明細書、処方箋の実際を学んでみましょう。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第５回	心の不調への気づきと対処（成田みぎわ） 【key words】 【授業概要】 目に見えにくいストレスによる心の不調に気がつき、上手にストレスと付き合う方法を学びましょう。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第６回	子どもの成長と発達（原田和美） 【key words】 【授業概要】 子どもはどのように大きくなるのでしょう。子どもの成長と発達の特徴について学びます。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第７回	暮らしを支える住宅看護について（塚越八重子） 【key words】 【授業概要】 地域でその人らしい暮らしを実現するために、その人自身の力を引き出す支援をする在宅看護について学びましょう。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第８回	リハビリテーションの基礎と専門職の役割（小林昭博） 【key words】 【授業概要】 リハビリテーションの意味を正しく理解し、実際に関わるリハビリ専門職種が果たす役割について学びます。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第９回	理学療法士の仕事とその実際（小林雄斗） 【key words】 【授業概要】 医療・福祉、スポーツなど、それぞれの領域で理学療法士がどのような役割を担っているのかを学びます。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第１０回	作業療法士の仕事とその実際（高坂駿） 【key words】 【授業概要】 今までの生活が上手くいかなくなった人を支援する作業療法。様々な場で活躍する作業療法士を

	紹介します。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１１回　現代医療に貢献する臨床検査技師について（菅野佳之） 【key words】 【授業概要】 現代の高度多様化した医療に臨床検査は不可欠です。臨床検査を担う検査のプロ、臨床検査技師について学びましょう。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１２回　時代が求める医療職、臨床工学技士とは（秋山康則） 【key words】 【授業概要】 技術革新する先端医療、最新医療を担う臨床工学技士について学びます。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１３回　高度医療を支える医療機器（立原敬一） 【key words】 【授業概要】 新型コロナウイルス感染症の治療でも用いられる高度医療機器について学びます。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１４回　保護者に求められる力　～子どもの発達に合わせた遊びの展開～（田中輝幸） 【key words】 【授業概要】 子どもたちの発達に合わせた遊びや絵本、環境設定の工夫について、実演えお通しながら具体的に学びます。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１５回　特別支援教育について知ろう（小林義信） 【key words】 【授業概要】 特別な支援を必要とする子どもたちの学びの場は？学びの内容は？先生たちの支援は？これらについて学びます。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１６回　心と心理学　～こころを科学する視点～（大島由之） 【key words】 【授業概要】 「心」の「理（ことわり）」の「学」問である心理学について、医療・福祉・教育の場面を例に学びます。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・本講義は、高大連携事業の一環で行われ、履修者は主に初学者（高校生）となる。 ・授業形態は、対面またはオンデマンドとなる。オンデマンドの場合は、PC、インターネット環境が必要となる。 ・予習復習をしっかりすること。 ・講義では、学びを深めるグループワークや演習も行うので、積極的にアクティビティに参加すること。 ・各講義の終盤には小テストを実施予定のため、聞き落としたことや質問は授業内にすること。 ・講義は前橋キャンパスを中心に行うが、専門分野についての学びを深めるために、看護学部（藤岡キャンパス）や、リハビリテーション学部（本町キャンパス）での講義も行う。 〔受講のルール〕

	・講義は特別な事情のない限り、欠席のないようにすること。 ・講義内外問わず、積極的に自ら調べたり、質問をすること。 ・講義中の私語など他学生に迷惑となる行為は禁止する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	オムニバス形式の授業のため、その単元の内容に関わるものは単元を担当した教員に、なるべくその場で質問をすること。
授業外時間にかかわる情報	授業を受ける前に必ずシラバスを確認して、授業内容の把握や予習を進めておくこと。 また、分からないことを解決したり、授業で扱った内容の理解を深めるため、自ら調べ学習を進めること。
オフィスアワー	講義時に指示する。
評価方法	各講義終了時の試験を総合して評価する。（100%）
教科書	講義内で適時資料配布する。
参考書	講義内で適時紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） ■情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 ■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 哲学　　授業コード： S1015

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
鈴木　利定			
基礎教養科目	講義		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	「人間とは何か」　我々はこれまで幾度となくこの問いかけを繰り返してきた。中国の思想家たちは、この問いにどのように解答しているのか。そしてそれぞれの解答に対して自分自身はどう思うのかを自ら問うてみる学問をねらいとしている。
授業の概要	孔子は人間にいかに生くべきかという問いについて、人間によるべき新しい「道」をどのように考えたか。仁と礼について、特に最近は礼儀をわきまえないという声もある。つまり「形式的な礼など無用だ。真心さえ持っていればそれでよいのでは虚礼廃止だ。」ということもあるが、孔子の説いた礼をもとに現代における礼のあり方を学ぶ。プラトンと同じく孔子は、理想国家を説くことにより政治のあり方を説いた。孔子の説いた政治道徳の現代にあてはまることを学ぶ。老子・荘子は孔子と並ぶ中国の代表的な思想家である。両者は全く相反する傾向すら持っている。この両者の思想を比較し、学ぶ。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	○
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	◎
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	○
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	△
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画		
	第１回	科目オリエンテーション / 論語序説「史記」孔子出家で孔子の履歴を知る。学ぶことの意義、孝弟について、文を学ぶことは人倫の大きなる者について、信と義について。君子と貧しきものの生き方。学問について。
	第２回	政とは如何なるべきか。志学より従心までの心持。孝と敬と。人物の観察法。身を正すこと。内省。志の大切さ。道に志す。性善論。信の大切さ。
	第３回	教育論、礼に反する儀式について。僭し泰れに旅したこと。祭りと祭神について。射にみる古道について。
	第４回	大学の道についての孔子の説明。大学辛句（右経一章）　明徳を明らかにするを釈く。民を新に釈く。（右伝の三章、右伝の二章）
	第５回	至善に止まるを釈く。本末を釈く。（右伝の三章、右伝の四章）　心を正しくして身を脩めて、家を斉う。（右伝の七章、右伝の八章）
	第６回	家を斉へて国を治むるを釈く。（右伝の十章）　朱子の中庸に対する解説であり、孔子の孫子思が道学のその伝を失わんことを優えて作るより説きおこす。（中庸章句序）
	第７回	道に対する知者、愚者、賢者、不肖のかかわりを論ずる。（右章第四章、五章、六章）
	第８回	顔回が中庸をえらび人生に処したことを論ずる。（右第七、八、九章）

	第９回　国に道あると無きとに関せず節操を持つべきを子略に示す。（右第十、十一章） 第１０回　孔子が憂いが無いのは文王だけだろうと語った理由を論ず。（右第十九章） 第１１回　よく民を治めるには、誠は天の道なるを知るに有るを論ず。（右第二十章） 第１２回　孔子の思想が「人間中心」であり、「ヒューマニズム」であるといわれるのはなぜかを学ぶ。 第１３回　孟子の人間観と筍子の人間観は孔子を中心とした仁と礼のいずれかの強調からきたものである。孟子、筍子はそれぞれを重視するものか、仁を重視するものかを考える。「四端の心」について学ぶ。 第１４回　老荘思想においては、人間をどのようにとらえるか。又、儒教の人間観に対してどのような批判をしているかを学ぶ。 第１５回　老荘思想と儒教のどちらの人間観により自己の思想を築いていくのかを学ぶ。
受講生に関わる情報および受講のルール	成績評価は、試験・レポート・出席状況を監み、一度も休みのない者については、成績としては十分な評価を与える。出欠席は重視する。理由なくして欠席、遅刻の多い者（二回以上の者）は成績評価を受ける資格を失う。欠席の虚偽申告（代返等）をした者は単位を認めない。講義中のノート筆記は必ず行い、質問に対して的確な解答ができるよう努める。私語は厳禁。注意を促し、場合によっては退出を命ずる。再試は1回のみ。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	テキストの予習・復習をすること。
オフィスアワー	火曜日 10:30～12:00
評価方法	■筆記試験（□論述 □客観）　■レポート　□口答試験　□実地試験　□その他 評価配分：成績評価は、試験（60%）・レポート（20%）・授業取組み状況（20%）を鑑み、評価を与える。
教科書	鈴木利定著「儒教哲学の研究－修正版」（明治書院）　　咸有一徳（中央法規）
参考書	講義の中で適宜紹介していく。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 道徳教育　　授業コード： S1091

英文科目名称： moral education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
岡野　康幸			
基礎教養科目	講義		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 社会の一員として人は他者と協力し共存しながら生活をしていきます。では、どのようにすれば自他ともによりよい生活を送ることが可能でしょうか。それは人が誰しも心の奥に存在する「人間らしくよりよく生きよう」とする小さな声、つまり道徳心を構築することから始まります。この講義では道徳心をどのように育てていくのかを建学の精神（儒学の「仁」）と関連しながら解説していきます。また、小・中教員免許の習得を目指す学生もいるため、日本における小・中学校における道徳教育についても触れ、義務教育で道徳教育が展開される理由を理解しましょう。 【到達目標】 ・自覚的に道徳心を養おうとする態度を身につけ、感情ではなく道徳的判断を可能としその道徳的判断を論理的に説明できる。 ・小中学校で道徳教育がおこなわれる理由について説明ができる。
授業の概要	・人はどのような時に道徳心を発揮するのか、テキスト掲載の中国古典を例に学生との議論や解説を通じて考察する。その過程を経ることにより、人としてのあり方・生き方について自ら学び、積極的に社会に参加できる力を養う。 ・児童・生徒が日常的に経験する事例から道徳の端緒を探り、どのように拡充していくかを討論から考察する。 ・道徳や倫理に限らず、考察の根本は先ず「知る」ことです。そして「知る」ための手段が読書です。課題図書や読書に関する発表やレポートを課します。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	△
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	◎
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	○
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	○
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	◎
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	授業オリエンテーション（講義内容・方法・授業時の留意事項・評価）ハチドリのひとしずく（事象の論説・事実把握・論述すること） 【key words】 受講の際の注意事項　はちどり　自分にできること 【授業概要】 受講の際の注意点を最初に説明します。ハチドリのひとしずくをを読み、どのように感じたか書いてもらい、発表をしてもらいます。何人かに発表をしてもらった後に傾向を分析し、人間の道徳的判断の基準について解説していきます。 【教科書ページ・参考文献】 プリントを配布します 【課題・予習・復習・授業準備指示】 初回は特にないが、遅刻をしないこと。 【予習復習に必要な想定時間】 初回はなし。
	第２回	咸有一徳とは　学長訓話「若きみなさんへ」Ｉ 【key words】 咸有一徳　仁　習慣 【授業概要】 これから２週にわたり、「若きみなさんへ」を読んでいきます。この訓話はテキスト『咸有一徳』及び本学教育方針のエッセンスです。この訓話が理解できれば本学の精神のおおよそは理解

		できたと言っても過言ではないでしょう。この回では「咸有一徳」の意味と「躾と習慣」についてともに考えていきましょう。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ１５～Ｐ２８ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前に教科書の該当部分を必ず読み、意味不明瞭な言葉に当たったら、必ず参考文献に挙げてある辞書類で調べておくこと。これらの辞書類は図書館に備わっています。 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
	第３回	咸有一徳とは　学長訓話「若きみなさんへ」Ⅱ 【key words】 古典　論語　仁　建学の精神 【授業概要】 訓話「若きみなさんへ」の後半です。教養を身に付ける方法はいくつもあるでしょう。しかしその中でも読書、なかんずく古典を読むことは、オーソドックスな身に付け方ではないでしょうか。この回では、本学の建学精神とも関わる、中国の古典『論語』を例に教養について考えてみましょう。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ２８～Ｐ３９ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前に教科書の該当部分を必ず読み、意味不明瞭な言葉に当たったら、必ず参考文献に挙げてある辞書類で調べておいてください。これらの辞書類は図書館に備わっています。 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
	第４回	「仁」とは何か　「真心」とは何か 【key words】 仁　真心　惻隠の心　四端 【授業概要】 「仁」の意味を一言で述べるのは実に難しいことです。それは『論語』の中で孔子が仁の意味を定義せず、場面場面で違うことを述べているからです。しかし、それでも最大多数的に述べることは可能です。この回では論語に現れた「仁」を分析し、どのような意味が付与されているのか、そして私たちに「仁」は何を要求しているのか。「真心」という言葉とともに考えてみましょう。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ４１～Ｐ５８ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前に教科書の該当部分を必ず読み、意味不明瞭な言葉に当たったら、必ず参考文献に挙げてある辞書類で調べておいてください。くこと。これらの辞書類は図書館に備わっています。 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
	第５回	「至誠」とは何か 【key words】 至誠　尽くす　儒教　儒学 【授業概要】 「至誠」とは「真心」の漢語的表現です。至誠なればこそ人を動かすことが可能なのです。中国古典によれば、人間も本来は善≒至誠なのですが、そのようになれないのは何故なのでしょうか。「至誠」という言葉をキーワードに中国古典の中から考えていきましょう。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ５９～Ｐ７２ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前に教科書の該当部分を必ず読み、意味不明瞭な言葉に当たったら、必ず参考文献に挙げてある辞書類で調べておいてください。これらの辞書類は図書館に備わっています。 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
	第６回	家庭生活の基本マナー　福祉界が望むマナー（儒学における関係古典文献より考察） 【key words】 家族　あいさつ　服装　ホウレンソウ 【授業概要】 社会は人と人との関係で成り立っています。お互いが快適に生活するための礼儀作法、それがマナーです。マナー違反は罪ではないですが悪にはなります。それは他人をして不愉快にするからです。お互いが快適に生活するためにどのようなマナーを身に付けなくてはならないのか。この回では家庭と多くの学生が就職するであろう福祉界を例に考えていきましょう。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ７３～Ｐ８８ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前に教科書の該当部分を必ず読み、意味不明瞭な言葉に当たったら、必ず図書館にある各種辞書類で調べてください。 【予習復習に必要な想定時間】 ２０分
	第７回	ボランティアにおける品位あるマナー　学校生活における品位あるマナー（中国古典、先達の言葉から考察） 【key words】 ボランティア　礼儀　あいさつ　学校生活　服装　環境美化活動 【授業概要】 私たちはボランティア先で、学ばせてもらう立場の者です。したがって、ボランティア先で失礼な言動や礼儀に欠けた行為をすることは断じて許されません。快く受け入れてもらい、お互いが気持ちよく作業するためのマナーをここでは学びます。また、学校生活におけるマナーについて考えて生きます。「親しき仲にも礼儀あり」ということわざが示すように、友人同士でもマナーは必要です。また先生に対する「礼」というのも重要です。友人や先生にどのように接するべきなのか考えてみましょう。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ８９～Ｐ１２６

【課題・予習・復習・授業準備指示】
敬語の使い方を高校までに使用した便覧等を用いて復習しておくこと。講義前に教科書の該当部分を必ず読み、意味不明瞭な言葉に当たったら、必ず図書館にある各種辞書類で調べてください。
【予習復習に必要な想定時間】
２０分

第８回　豊かな人間性の涵養と人格の向上について（交際・礼儀作法・エチケット）
【key words】
礼儀作法　エチケット　noblesse oblige
【授業概要】
フランス語に“noblesse oblige”（位高き者は徳高くあれ） という言葉があります。社会的地位が高くなればなるほど、その地位にふさわしい人格にならなければならないとする考えです。つまり人が人である限り人格の向上は絶えず付いてくるのです。我々はどのようにして人格を高めていくべきなのか考えていきましょう。
【教科書ページ・参考文献】
配布プリント。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前に配布したプリントを読んでおく。
【予習復習に必要な想定時間】
２０分

第９回　日本における道徳教育の現状について
【key words】
学習指導要領
【授業概要】
なぜ、みなさんは小中学校で「特別の教科　道徳」の授業を受けてきたのでしょうか。もちろん、それは教科化されているからです。とはいえ、「道徳」は他の科目と位置づけが異なります。文教政策として考えた際に、国としてはどのような意図で道徳教育を考えているのか。学習指導要領を中心に解説していきます。
【教科書ページ・参考文献】
配布プリント。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前に配布したプリントを読んでおく。
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第１０回　西洋哲学における道徳の考え方
【key words】
徳倫理　アリストテレス　義務論　カント　功利主義　べんさむ、ミル
【授業概要】
『咸有一徳』は建学の精神「仁」を代表とする東洋哲学を中心とした考えに基づいて編集されてあります。この回からは２回連続で、西洋哲学における道徳に関する基本的な三つの枠組みについて理解します。
【教科書ページ・参考文献】
配布プリント。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ブリタニカ国際大百科事典またはブリタニカオンラインジャパンでkey wordの言葉を調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１１回　生命倫理という考え方
【key words】
生命倫理
【授業概要】
生命倫理とは、生殖医療、終末期医療（安楽死・尊厳死）臓器移植、中絶といった、人間の生命に直接関わる問題を扱います。従来の道徳心や倫理観では対処に困難を覚える場合が出てきます。では、どのようなときに、困難―要するにジレンマ―に陥るのか、具体例を挙げて解説していきます。また、そのような場合に、あなたならどうするかを話し合ってもらいます。
【教科書ページ・参考文献】
配布プリント。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
生命倫理という言葉について、ブリタニカ国際大百科事典またはブリタニカオンラインジャパンでkey wordの言葉を調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
２０分

第１２回　道徳と読書Ⅰ
【key words】
道徳　読書
【授業概要】
我々の道徳心や倫理観を養うものは自己の体験になります。この体験の中には、自らが経験したものと、知識として吸収したものとの二つに大別されるでしょう。この回では読書を通じて道徳を考えてみます。その題材として芥川龍之介の作品から「侏儒の言葉」を読んでいきます。この箴言から芥川は何が言いたかったのでしょうか。そして我々は、自分の考えが果たして本当に妥当なのか、ということを考察していきましょう。
【教科書ページ・参考文献】
青空文庫に収録されている「侏儒の言葉」を各自ダウンロードして印刷しかつ読んでおくこと。または文庫本で持っていれば当然それでも構いません。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
「侏儒の言葉」を読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１３回　道徳と読書Ⅱ
【key words】
道徳　読書

	【授業概要】 前回の講義で扱った芥川の「侏儒の言葉」について、各自が考えたことについて発表をしてもらいます。またいくつかのグループに分かれて「道徳」「正しさ」について討論してもらいます。 【教科書ページ・参考文献】 各自が所有している芥川龍之介「侏儒の言葉」 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義の時までに４００字から６００字程度に自己の考察をまとめてくること。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分 第１４回　それぞれの現場における道徳 【key words】 道徳心　倫理観 【授業概要】 昨今、それぞれの現場に於ける利用者への虐待や不当な対応が新聞や報道で取り上げられています。自らの立場を利用して、放縦に陥るケースは多々ありますが、そのようにならないためには自制心が必要です。そしてこの自制心を養うものが道徳心や倫理観です。なぜこのようなことが起こってしまうのかを、道徳の視点から考察していきます。 【教科書ページ・参考文献】 配布プリント 【課題・予習・復習・授業準備指示】 どのような事件があったのかを調べておく 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分 第１５回　時事問題の考察・発表・解説（人としてのあり方・生き方を考える） 【key words】 時事問題 【授業概要】 最近の入社試験における時事問題は、答えのない時事問題を出す企業が増加しているようです。情報化社会において知りたい情報は直ぐに手に入りますが、手に入れた情報をどう分析し活用するかは、その人の思考力にかかっています。答えが一つでない問いに対し、どのように答えるか。時事問題について考察し提出してもらいます。 【教科書ページ・参考文献】 各自が一週間前後の新聞記事から、気になった話題を選んできてください。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 気になった新聞記事について、相手にどのようにわかりやすく発表するか。家で400字から600字でまとめてきてください。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間～２時間
受講生に関わる情報および受講のルール	・ただ授業を聞くといった受け身の姿勢ではなく、「学ぶ意義」を自身に問いかけながら、積極的に参加すること。 ・周囲の迷惑になるので私語は慎むこと。注意をしてもやめない時は退室を命ずる。 ・本人の責に帰す遅刻早退は認めない。 ・不明な用語に当たったら、辞典類で調べること。 ・臨機応変の対応ができるよう、15回の講義中に１人１分で発表をしてもらいます。 ・道徳に関する問題について、毎回受講生に議論と意見を表明してもらいます。道徳は他人の問題でなく、自分の問題です。また学生諸君に課題を出しますので積極的・能動的に取り組むこと。 ・シラバスは講義の進行状況によって変わることもある。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	・講義に臨む前に、指定個所を必ず読んでおくこと。読んでいるという前提で講義を進める。 ・社会は人間相互の道徳心で成立していることを、新聞・ニュース等を契機として自分の頭で考えること。 ・１年生のうちに文庫本・親書100冊以上を読みこなすという気合を持つこと。
オフィスアワー	毎週火曜１４時～１６時
評価方法	期末試験７０％　課題１５％　発表１５％
教科書	鈴木利定・中田勝著『咸有一徳』修訂第３版、中央法規、2020年5月
参考書	『岩波哲学・思想事典』岩波書店、1998年3月、マイケル サンデル『これからの「正義」の話をしよう』ハヤカワ・ノンフィクション文庫、2011年11月
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）

	■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 健康論　　授業コード： S1111

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
櫻井　秀雄			
基礎教養科目	講義		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 生涯を通じて健康で豊かな生活を送るため、自らの健康観に基づく取り組みを、地域社会の健康施策と連携し、健康生活を実現することを図る。特に、日常生活の心身のを通じて、健康を増進し疾病を予防する「一次予防」に焦点をあて、日常生活に取り入れられるよう、さまざまな工夫と方法を習得する。 【到達目標】 ①個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めることができる。 ②日常的に栄養･休養･運動を積極的に取り入れ、健康生活の向上を図ることができる。 ③生涯を通して自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てることができる。
授業の概要	健康の意義、疾病やその対処法、心の健康とその保持、社会と健康の関わり、健康の自己管理、体力つくりの方法、運動の持つ文化性、食と健康との関わりについて学ぶ。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	◎
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	△
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	◎
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回　科目オリエンテーション　健康を考える（意識、意義、人間の幸福） 【key words】 WHOの健康の定義 【授業概要】 シラバスの説明、「健康」を考えるをテーマに、健康の社会的マネジメント（健康を社会問題として考える、健康マネジメント施策の歴史と展開、ヘルスプロモーション）を学び、健康を考えることの大切さを習得する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：「大学生のための健康論」　ー健康･運動･スポーツの基礎知識ー　p1-7 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「ヘルスマネジメント」について学習しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第２回　ヘルスマネジメント論（我が国の動向、健康の個人的マネジメント） 【key words】 健康政策　健康管理 【授業概要】 わが国の動向（健康づくり政策、健康増進政策と個人の身体運動との関わり）、健康の個人的マネジメント（運動不足を生む現代的背景、健康と運動、“運動不足病”の始まり、分銅不足がもたらすもの、健康をつくるということ）を学び、健康管理の大切さを習得する。 【教科書ページ・参考文献】

		教科書：「大学生のための健康論」　ー健康･運動･スポーツの基礎知識ー　　p 8-p22 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「生活習慣」について学習しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第３回	疾病予防論（生活習慣病） 【key words】 疾病　生活習慣 【授業概要】 生活習慣病（がん、循環器疾患、高血圧、心血管疾患、脳血管疾患、糖尿病、高脂血症、生活習慣病を予防するライフスタイル：運動、栄養、喫煙、飲酒、休養、・睡眠など）について学び、、日常生活で予測される疾病を取り上げ、その対処方法を習得する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：　「大学生のための健康論」　ー健康･運動･スポーツの基礎知識ー　　p 23-p34 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「感染症」について学習しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第４回	疾病予防論（感染症） 【key words】 疾病　感染症 【授業概要】 感染症（近年の感染症の動向と感染症の発症要因、主な感染症とその対策、かぜ、とインフルエンザ、結核、ＨＩＶ，ＡＩＤＳ、感染経路、話題になった感染症）、について学び、日常生活で予測される疾病を取り上げ、その対処方法について習得する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：「「大学生のための健康論」　ー健康･運動･スポーツの基礎知識ー　　p 35-p43 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「メンタルヘルス」について学習しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第５回	メンタルヘルス論（精神の正常と異常、心身相関、精神障がいの分類） 【key words】 精神衛生　健康管理 【授業概要】 精神の正常と異常（健康と病気、正常と異常、事例性）、心身相関（心身相関の問題、脳と精神現象、精神心理学、ニューロンと精神伝達物質）、精神障害の分類（伝統分類、操作的分類）について学び、心の健康とその保持を習得する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：「大学生のための健康論」　ー健康･運動･スポーツの基礎知識ー　　p 44-p52 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「青年期の心性と身体」について学習しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第６回	メンタルヘルス論（青年期の身体と心性、青年期に多い精神障がいとその治療） 【key words】 精神衛生　健康管理 【授業概要】 青年期の身体と心性（青年期の身体変化、青年期の心性）、青年期に多い精神障害とその治療（青年期の主な精神障害、疾病分類以外の視点からの状態像分類）、精神の健康増進と予防（キャンパス内、大学保健管理センター）について学び、心の健康とその保持について習得する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：「大学生のための健康論」　ー健康･運動･スポーツの基礎知識ー　　p 53-p70 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「体力」について学習しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第７回	体力論（体力、体力診断、青少年の体力、青少年の体力、加齢と体力） 【key words】 体力 【授業概要】 体力となにか（体力の概念、体力の分類、体力と健康とのかかわり）、体力診断（意義、歴史、新体力テストの概要）、青少年の体力（発育・発達と体力、体力の性差、体力の年次変化、運動

		習慣と体力）、加齢と体力（加齢の影響、加齢と体力の個人差、暦年齢と体力年齢）を学び、体力の把握とその増進方法を習得する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：「大学生のための健康論」　一健康･運動･スポーツの基礎知識ー　　p 71-p96 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「運動のプログラム」など経験したことをまとめておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第８回	運動プログラム論（身体運動プログラムの考え方、運動の実際） 【key words】 運動プログラム 【授業概要】 運動プログラムの考え方（意義、効果的な運動、プロセス、運動プログラムの自由度、運動の自覚的効果）、運動処方の実際（心肺機能を高める運動、筋力と筋持久力を高める運動）、運動処方の現実と課題を学び、具体的な体力増進のための方法を習得する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：「大学生のための健康論」　一健康･運動･スポーツの基礎知識ー　　p 97-p114 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「スポーツと健康」について学習しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第９回	スポーツと健康論（スポーツと寿命、スポーツとスキル、運動スキルの学習） 【key words】 運動　スキル 【授業概要】 スポーツと健康をテーマに、スポーツと寿命（アスリートの寿命、運動と寿命）、スポーツとスキル（アスリートのスキル、スキルの個人差）、運動スキルの学習（運動スキルの学習と転移、ゴールデンエイジとシナプスの可塑性、運動システムとミラーシステム）を学び、個々の健康つくりにスポーツの大切さと応用方法を習得する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：「大学生のための健康論」　一健康･運動･スポーツの基礎知識ー　　p 115-p132 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「運動文化」について学習しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第１０回	運動文化論（身体運動と文化、運動･スポーツの文化と思想、現代のスポーツ･身体運動） 【key words】 運動　文化 【授業概要】 身体運動と文化（身体運動に対する視線、今日の健康ブームと身体観）、運動・スポーツの文化と思想（古代ギリシャ・ローマ時代の身体運動文化、中世・近世の身体文化、西洋の身体運動文化、日本における身体運動文化、中東の身体運動文化）、現代のスポーツ・身体運動（文化としてのスポーツ・身体運動、レジャーとしてのスポーツ）について学び、運動の持つ文化性に着目し運動の意味を習得する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：「大学生のための健康論」　一健康･運動･スポーツの基礎知識ー p 133～143 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「生涯スポーツ」について学習しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第１１回	生涯スポーツ論（スポーツ行政と地域スポーツ） 【key words】 スポーツ基本法　総合型スポーツクラブ 【授業概要】 生涯スポーツと健康生活の推進について、スポーツ基本法の生涯スポーツ振興施策で、種目の多様性、多世代、指導者、会員が集う拠点施設、自主的運営を掲げ、地域に根ざした自主的運営型・複合型スポーツクラブとして「総合型地域スポーツクラブ」を推進していることを学び、これからの健康つくりに地域住民が主体的に運営する生涯スポーツクラブの推進が重要であることを習得する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：（資料）スポーツ基本法　総合型地域スポーツクラブ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「職と健康」について学習しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第１２回	食の健康論（食生活の推移、各栄養素の役割、ＰＦＣバランスと健康、スポーツと運動） 【key words】 食　食育　健康　スポーツ 【授業概要】 日本人の食生活推移（食生活の変遷、食品群別摂取量の年次推移、エネルギー産生栄養素の年次推移、食料自給率、和食文化）、各栄養素の役割、食に関する日本の政策（食事摂取基準、食生活指針、食事バランスガイド、日本人の長寿を支える「健康な食事」のあり方）、ＰＦＣバラン

	スと健康（日本型食生活、ＰＦＣバランスと減量効果、糖質制限と健康）、スポーツと栄養（栄養摂取とリカバリー、運動パフォーマンスと栄養摂取）を学び、食生活のスポーツとの関連を習得する 【教科書ページ・参考文献】 教科書：「大学生のための健康論」　一健康･運動･スポーツの基礎知識ー p 149～169 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「職と健康」について学習しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１３回　健康つくりと運動（ラジオ体操・みんなの体操の基礎理論と実践） 【key words】 身体運動　リズム　健康 【授業概要】 ラジオ体操皆の体操の基礎理論と実践を通じて、身体運動の正しい動きの仕組み、運動の組み合わせと実施方法、運動中の留意点等を学び、ラジオ体操・皆の体操の理解と指導方法を習得する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：（資料）参考文献:　ラジオ体操教則本　日本郵政公社　日本ラジオ体操連盟 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「ラジオ体操」について学習しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１４回　健康つくりと運動（ラジオ体操・みんなの体操の応用理論と実践） 【key words】 身体運動　リズム　健康 【授業概要】 ラジオ体操・みんな体操の応用理論と実践を通じて、身体運動の正しい動きの仕組み、運動の組み合わせと実施方法、運動中の留意点等を学び、ラジオ体操・みんなの体操の理解と指導方法を習得する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：（資料）参考文献:　ラジオ体操教則本　日本郵政公社　日本ラジオ体操連盟 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「ラジオ体操、みんなの体操」についてまとめておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１５回　まとめ 【key words】 健康　運動　栄養　休養 【授業概要】 現代の健康つくりに係わる様々な問題を取り上げ、現在あるいは未来に向かって生きていくためにどのように考えていけばよいのか質疑応答をおこなう。個々の健康つくりについて自己評価をおこなう。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：「大学生のための健康論」　一健康･運動･スポーツの基礎知識ー　p 176-p183 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分自身の健康つくりについてまとめておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
受講生に関わる情報および受講のルール	【受講者に関すること】 スレッドで次回の案内、授業資料を送付するので、必ず予習を行うこと。 後期①限の講義であるので、健康管理に配慮して、遅刻・欠席の内容にすること。 1学年全員の受講になるので、座席指定を行う。 「健康つくりと運動」は、外部講師を招聘して実施するので日程については決定後連絡をする。 【受講のルール】 1学年全員の受講になるので、座席指定を行う。 私語は慎むこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカードを使用
授業外時間にかかわる情報	新聞、ニュースなどで最新の健康情報に関することはメモをしておくなど、特に意識するよう習慣づけること。
オフィスアワー	講義の初日に周知する　　他の時間の希望時は随時相談。
評価方法	筆記試験（70%）　日常の健康管理や授業への取り組みなどの平常点（30%）　総合評価で60%以上
教科書	電気通信大学健康・スポーツ科学部会編：　大学生のための「健康」論　一健康･運動･スポーツの基礎知識ー：　道和書院：　2021
参考書	笹川スポーツ財団：「スポーツ白書」2020
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容

	公立学校教員（保健体育）21年管理職6年、群馬県教育委員会指導部体育課指導主事（学校体育、生涯スポーツ指導）4年、群馬県スポーツ振興事業団健康スポーツ課指導主事（県内市町村の健康スポーツ普及指導）群馬県教育委員会スポーツ振興課課長補佐（県内市町村の健康スポーツ指導）2年、群馬県知事部局（障害福祉・社会福祉・保健福祉）、群馬県社会福祉事業団、群馬県立ふれあいスポーツプラザ次長・指導課長5年（高齢者・障がい者の健康・スポーツ指導に当たる）群馬県教育委員会教育長表彰（保健体育）群馬県障がい者スポーツ指導者協議会会長（現在） アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 ■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： スポーツ及びレクリエーション実技　　授業コード：S1121　S1122

英文科目名称： Sports and RecreationPractical Skill Training

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年次	2単位(60)	必修
担当教員			
田口　敦彦			
基礎教養科目	演習		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	「授業の目的」 レクリエーションプログラムの習得と企画や運営、指導技術を身につける。学びを通して、ゲームや歌、集団遊び、スポーツといったアクティビティを効果的に活用し、福祉施設、病院、幼児・学校教育の現場等で対象者や目的に合わせた支援活動できるようになることを目的とする。 ［到達目標］ 1.福祉分野や教育分野などで、高齢者や子どもなどの対象者の心の元気づくりの手助けをすることができる。 2.1 対1、1 対集団といった場面で、コミュニケーションを促進する力を身につけている 3.既存のアクティビティを、対象に合ったアクティビティへとアレンジする力を身につけている 4.対象者の主体性や協調性を引き出す力を身につけている 5.福祉施設や保育や学校教育など、現場に応じたレクリエーションプログラムを企画・展開する力を身につけている
授業の概要	レクリエーションの楽しさを知り、ゲームや歌、集団遊び、スポーツといったアクティビティを効果的に活用したレクリエーション支援の技術を習得する。そのための指導理論、組織論、事業論などの学習を通じ、支援者(指導者)としての実践力を高める。レクリエーションインストラクター資格取得のための科目である。 アリーナでの身体的活動が中心となるが、教室で実施した場合でもコミュ二ケーションゲーム、脳トレ、体操などの実技活動を必ず取り入れる。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	◎
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	○
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	◎
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回	科目オリエンテーション・レクリエーションの理解　アイスブレーキング　コミュ二ケーションゲーム 【key words】 レクリエーション 【授業概要】 余暇活動におけるレクリエーション援助の役割を理解する。さらに基本的人権としてレクリエーション活動が位置づけられていることも同時に学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P8 学習課題の概要を確認しておくこと 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ｱｲｽﾌﾞﾚｰｷﾝｸﾞとして相応しい材料を検討しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第２回	レクリエーション活動の習得　モデルプログラムの習得　コミュ二ケーションゲーム　実技 レクリエーション支援のためのゲーム

		【key words】 アイスブレーキング 【授業概要】 集団の雰囲気を和らげ、無理なく、無駄なく、快く活動が進められるようなアイスブレーキングを実践し、その効果を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P57　アイスブレーキングの意味を説明できるようにしておくこと 【課題・予習・復習・授業準備指示】 コミュニケーションゲームを実践したが、どのような効果があったのか確認しておくこと。次回は室内でできるレクリエーションを実践するがどのような活動があるか考えておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第３回	レクリエーション活動の習得　モデルプログラムの習得　新聞紙を使ったレクリエーションゲーム　実技 【key words】 レク財　アレンジ　アクティビティ 【授業概要】 新聞紙を使った遊びについて理解する。新聞紙を使用するだけで様々なゲーム・遊びができることを確認する。子どもから高齢者まで楽しめるアクティビティについて知る。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 高齢者、障がい者、子どもにどのような形でレクリエーションが提供できるか、またその効果がどのようなものか考える。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第４回	レクリエーション活動の習得　モデルプログラムの習得　「子ども・高齢者と遊ぼう」企画実践活動に向けてグループワーク 【key words】 子ども　高齢者　共生社会　レクリエーション支援　生きがいづくり　企画書　計画書 【授業概要】 「子ども・高齢者と遊ぼう」 をテーマにレクリエーション計画の基本的な考え方に基づき、支援実践活動の企画を行う。グループを編成し、自分たちにどんな活動ができるかを検討する。また企画書などの提出方法について確認しする。 【教科書ページ・参考文献】 テキストまたは図書館にある資料を参考にする。インターネットを利用して資料を集めることも可 【課題・予習・復習・授業準備指示】 グループで計画を立て話し合いを進めておくこと。ブレインストーミングを利用して意見を出し合う。 【予習復習に必要な想定時間】 2時間
	第５回	レクリエーション支援の方法　段階的に成功体験をしやすくするアレンジの基本と応用　バウンドボールバレー実技① 【key words】 アレンジの方法　ニュースポーツ 【授業概要】 アレンジ例を通してもともとの素材・アクティビティを最初の段階と位置付け、それを楽しむことで個人と集団の土台に、効力感を高めやすい付け足していくという原則を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書　P74～P77 【課題・予習・復習・授業準備指示】 アレンジ方法を用いて幼児向け又は中高年向けの身体活動などを検討してみる。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第６回	レクリエーション支援の方法　段階的に成功体験をしやすくするアレンジの基本と応用　バウンドボールバレー実技② 【key words】 アレンジの方法　ニュースポーツ 【授業概要】 アレンジ例を通してもともとの素材・アクティビティを最初の段階と位置付け、それを楽しむことで個人と集団の土台に、効力感を高めやすい付け足していくという原則を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書　P74～P77 【課題・予習・復習・授業準備指示】 アレンジ方法を用いて幼児向け又は中高年向けの身体活動などを検討してみる。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第７回	レクリエーション支援の方法　信頼関係づくりの方法・ホスピタリティ　①あたたかくもてなすという意識と配慮 【key words】 ホスピタリティ、コミュニケーションワーク 【授業概要】 レクリエーションの提供を効果的に行うためには、対象者との良好なコミュニケーションが欠かせないことを理解する必要がある。そのためのホスピタリティについて学習する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P38～P55 【課題・予習・復習・授業準備指示】 日常の生活の中でホスピタリティについて意識してみる。そこから良好なコミュニケーションの取り方を実践してみる。 【予習復習に必要な想定時間】

		2時間
	第８回	レクリエーション活動の習得　レクリエーション支援のための様々な活動　キンボール実技① 【key words】 キンボール　ニュースポーツ 【授業概要】 対象者にあわせたレクリエーション・ワークの全体像を理解する。様々なアレンジの手法を知ると共に、基本となる「段階的なアレンジ法」を体験して理解する。　　ニュースポーツ　キンボールを体験する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 風船ボールは様々な用途がある。どのような形で提供できるか検討してみる。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第９回	レクリエーション活動の習得　モデルプログラムの習得　「子ども・高齢者と遊ぼう」企画実践活動に向けてグループワーク 【key words】 子ども　高齢者　共生社会　レクリエーション支援　生きがいづくり　企画書　計画書 【授業概要】 「子ども・高齢者と遊ぼう」 をテーマにレクリエーション計画の基本的な考え方に基づき、支援実践活動の企画を行う。グループを編成し、自分たちにどんな活動ができるかを検討する。また企画書などの提出方法について確認しする。 【教科書ページ・参考文献】 テキストまたは図書館にある資料を参考にする。インターネットを利用して資料を集めることも可 【課題・予習・復習・授業準備指示】 グループで計画を立て話し合いを進めておくこと。ブレインストーミングを利用して意見を出し合う。 【予習復習に必要な想定時間】 2時間
	第１０回	レクリエーション支援の実施　「子ども・高齢者と遊ぼう」プログラムの実施1ー①　（実践） 【key words】 子ども　高齢者　共生社会　レクリエーション活動　生きがいづくり　企画書　計画書 ホスピタリティ　アイスブレーキング　CSSプロセス 【授業概要】 学生企画：レクリエーション計画の基本的な考え方に基づき、支援実践活動を行う。グループごとに自分たちが企画したレクリエーション活動を実践し、参加者に対する接し方、声かけの仕方、コミュニケーションの取り方など実践する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P66～P73 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実践活動となるので支援者は参加者に快さ、快適さ、楽しさ等を提供すること。参加者は積極的に参加することを心がけること。 【予習復習に必要な想定時間】 2時間
	第１１回	レクリエーション支援の実施　「子ども・高齢者と遊ぼう」プログラムの評価１－②　（フィードバック） 【key words】 子ども　高齢者　共生社会　レクリエーション活動　生きがいづくり　企画書　計画書 ホスピタリティ　アイスブレーキング　CSSプロセス 【授業概要】 学生企画：レクリエーションを企画し、実施、運営を行ったことについての評価及び反省会を実施する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 評価での指摘事項は今後の実践活動（ボランティア・実習）を行う上で、参考となるのでしっかりと受け止め、ノート、メモにまとめておくこと。今後活動を行うグループは参考とすること。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１２回	レクリエーション支援の方法　信頼関係づくりの方法・ホスピタリティ　②対象者の気持ちを受け止めていることを伝える技術 【key words】 ラポート　ジョイニング　トラッキング　アコモデーション　マイム 【授業概要】 対象者との良好なコミュニケーションをとるために信頼関係を成立させる必要性やそのための技法をについて理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P38～P55 【課題・予習・復習・授業準備指示】 日常生活の会話の中で信頼関係が築かれている状態とはどのようなものか。ラポートの成立している状態等について意識してみる。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１３回	レクリエーション支援の実施　「子ども・高齢者と遊ぼう」プログラムの実施2ー①（実践） 【key words】 子ども　高齢者　共生社会　レクリエーション活動　生きがいづくり　企画書　計画書 ホスピタリティ　アイスブレーキング　CSSプロセス 【授業概要】 学生企画：レクリエーション計画の基本的な考え方に基づき、支援実践活動を行う。グループごとに自分たちが企画したレクリエーション活動を実践し、参加者に対する接し方、声かけの仕

		方、コミュニケーションの取り方など実践する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P66～P73 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実践活動となるので支援者は参加者に快さ、快適さ、楽しさ等を提供すること。参加者は積極的に参加することを心がけること。 【予習復習に必要な想定時間】 2時間
	第１４回	レクリエーション支援の実施　「子ども・高齢者と遊ぼう」プログラムの評価2－②（フィードバック） 【key words】 子ども　高齢者　共生社会　レクリエーション活動　生きがいづくり　企画書　計画書 ホスピタリティ　アイスブレーキング　CSSプロセス 【授業概要】 学生企画：レクリエーションを企画し、実施、運営を行ったことについての評価及び反省会を実施する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 評価での指摘事項は今後の実践活動（ボランティア・実習）を行う上で、参考となるのでしっかりと受け止め、ノート、メモにまとめておくこと。今後活動を行うグループは参考とすること。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１５回	レクリエーション支援の方法　良好な集団作りの方法・アイスブレーキング　集団がまとまる仕組みを活かすプログラム　アイスブレーキングモデル　　前期の振り返り　まとめ 【key words】 アイスブレーキングモデル　レクリエーション支援 【授業概要】 レクリエーション支援の目的が対象者のよりよい生の実現につながることを理解する。目的に合わせて、レクリエーション支援を展開するイメージを確認する。 前期の授業の振り返りとレポートについての確認を行う。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前期レポート指示を確認し振りを行うこと 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１６回	生きがい支援　生きがい保障　健康長寿のためのスポートロジー 【key words】 生きがい支援　生きがい保障　スポートロジー 【授業概要】 健康長寿のためのスポートロジーについて理解を深め、介護予防の観点と照らし合わせながらスポーツにおける身体的、心理的効果について知る。放送大学が提供している映像をもとに講義を進める 【教科書ページ・参考文献】 放送大学　第01回　健康長寿のためのスポートロジー https://v.ouj.ac.jp/view/ouj/#/navi/vod?caa=1710133p 【課題・予習・復習・授業準備指示】 スポートロジーは比較的新しい新しい言葉である。講義前にどのような意味を持つものか事前に調べておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１７回	レクリエーション活動の習得　レクリエーション支援のための様々な活動　音楽に合わせたレクリエーション活動　リズム　ダンス実技 【key words】 リズム、地域文化伝承、地域貢献 【授業概要】 前橋だんべえ踊りについて実践する。基本、サンバ、ファンク等のバージョンの一連の流れの確認と地域のおける文化伝承、お祭り、行事等のレクリエーションについて理解を深める。リズムと心の高揚の効果について理解する 【教科書ページ・参考文献】 教科書　P33 【課題・予習・復習・授業準備指示】 積極的な参加を心がけること 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１８回	福祉サービスにおけるレクリエーション援助の役割　基本的人権としてのレクリエーション 【key words】 生きがい、基本的人権、良循環 【授業概要】 余暇活動におけるレクリエーション援助の役割を理解する。さらに基本的人権としてレクリエーション活動が位置づけられていることも同時に学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 参考書　レクリエーション活動援助法P2～P7 【課題・予習・復習・授業準備指示】 これからレクリエーションを活用して人々や地域を支える支援者にとってのレクリエーションの在り方について考えてみる。 【予習復習に必要な想定時間】 30分

	第１９回	レクリエーション支援の実施　「子ども・高齢者と遊ぼう」プログラムの実施３－①（実践） 【key words】 子ども　高齢者　共生社会　レクリエーション活動　生きがいづくり　企画書　計画書 ホスピタリティ　アイスブレーキング　CSSプロセス 【授業概要】 学生企画：レクリエーション計画の基本的な考え方に基づき、支援実践活動を行う。グループごとに自分たちが企画したレクリエーション活動を実践し、参加者に対する接し方、声かけの仕方、コミュニケーションの取り方など実践する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P66～P73 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実践活動となるので支援者は参加者に快さ、快適さ、楽しさ等を提供すること。参加者は積極的に参加することを心がけること。 【予習復習に必要な想定時間】 2時間
	第２０回	レクリエーション支援の実施　「子ども・高齢者と遊ぼう」プログラムの評価3－②（フィードバック） 【key words】 子ども　高齢者　共生社会　レクリエーション活動　生きがいづくり　企画書　計画書 ホスピタリティ　アイスブレーキング　CSSプロセス 【授業概要】 学生企画：レクリエーションを企画し、実施、運営を行ったことについての評価及び反省会を実施する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 評価での指摘事項は今後の実践活動（ボランティア・実習）を行う上で、参考となるのでしっかりと受け止め、ノート、メモにまとめておくこと。今後活動を行うグループは参考とすること。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第２１回	レクリエーション活動の習得　レクリエーション支援のための様々な活動　ユニバーサルホッケー実技① 【key words】 ユニバーサルホッケー　ニュースポーツ 【授業概要】 ユニバーサルホッケーはいつでも・どこでも・誰でも楽しめるスポーツとして愛好されること知る。このスポーツは、安全生が高く、年齢・性別を越えて幅広くプレイできるのが特徴を理解しながら実践活動を進める。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回も同様の活動を行うので競技ルールの確認を行っておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第２２回	レクリエーション活動の習得　レクリエーション支援のための様々な活動　ユニバーサルホッケー実技② 【key words】 ユニバーサルホッケー　ニュースポーツ 【授業概要】 ユニバーサルホッケーはいつでも・どこでも・誰でも楽しめるスポーツとして愛好されること知る。このスポーツは、安全生が高く、年齢・性別を越えて幅広くプレイできるのが特徴を理解しながら実践活動を進める。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第２３回	レクリエーション支援の実施　「子ども・高齢者と遊ぼう」プログラムの実施4－①（実践） 【key words】 子ども　高齢者　共生社会　レクリエーション活動　生きがいづくり　企画書　計画書 ホスピタリティ　アイスブレーキング　CSSプロセス 【授業概要】 学生企画：レクリエーション計画の基本的な考え方に基づき、支援実践活動を行う。グループごとに自分たちが企画したレクリエーション活動を実践し、参加者に対する接し方、声かけの仕方、コミュニケーションの取り方など実践する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実践活動となるので支援者は参加者に快さ、快適さ、楽しさ等を提供すること。参加者は積極的に参加することを心がけること。 【予習復習に必要な想定時間】 2時間
	第２４回	レクリエーション支援の実施　「子ども・高齢者と遊ぼう」プログラムの評価4－②（フィードバック） 【key words】 子ども　高齢者　共生社会　レクリエーション活動　生きがいづくり　企画書　計画書 ホスピタリティ　アイスブレーキング　CSSプロセス 【授業概要】 学生企画：レクリエーションを企画し、実施、運営を行ったことについての評価及び反省会を実施する。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
評価での指摘事項は今後の実践活動（ボランティア・実習）を行う上で、参考となるのでしっかりと受け止め、ノート、メモにまとめておくこと。今後活動を行うグループは参考とすること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２５回　レクリエーション活動の習得　レクリエーション支援のための様々な活動　ボッチャ　実技
【key words】
ボッチャ　パラスポーツ
【授業概要】
ボッチャとは、イタリア語で「ボール」を意味し、重度脳性まひ者もしくは同程度の四肢重度機能障がい者のために考案されたヨーロッパ発祥のスポーツである。パラスポーツを実践し競技内容についての理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
日本ボッチャ協会
https://japan-boccia.com/
【課題・予習・復習・授業準備指示】
パラスポーツについての理解を深め、普及にはどのようなことが必要となるか検討しておくこと

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２６回　レクリエーション支援の方法　自主的、主体的に楽しむ力を高める展開方法　対象者の相互作用を促進するコミュニケーション技法の活用方法（CSSプロセス）
【key words】
素材・アクティビティ、ハードル設定、CSSプロセス
【授業概要】
支援者の願い＝対象者の生活課題の充実に向けて、様々な支援の「素材・アクティビティ」を選択し、展開していく際の原則的な考え方を理解する。併せて、実際の選択時に参考できる既存の「素材・アクティビティ」の分類方法について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P38～P55
【課題・予習・復習・授業準備指示】
目的に合わせたレクリエーションワークを構成する3つの技術について確認しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２７回　レクリエーション支援の実施　「子ども・高齢者と遊ぼう」プログラムの実施5－①（実践）
【key words】
子ども　高齢者　共生社会　レクリエーション活動　生きがいづくり　企画書　計画書
ホスピタリティ　アイスブレーキング　CSSプロセス
【授業概要】
学生企画：レクリエーション計画の基本的な考え方に基づき、支援実践活動を行う。グループごとに自分たちが企画したレクリエーション活動を実践し、参加者に対する接し方、声かけの仕方、コミュニケーションの取り方など実践する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
実践活動となるので支援者は参加者に快さ、快適さ、楽しさ等を提供すること。参加者は積極的に参加することを心がけること。
【予習復習に必要な想定時間】
2時間

第２８回　レクリエーション支援の実施　「子ども・高齢者と遊ぼう」プログラムの評価5－②（フィードバック）
【key words】
子ども　高齢者　共生社会　レクリエーション活動　生きがいづくり　企画書　計画書
ホスピタリティ　アイスブレーキング　CSSプロセス
【授業概要】
学生企画：レクリエーションを企画し、実施、運営を行ったことについての評価及び反省会を実施する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
評価での指摘事項は今後の実践活動（ボランティア・実習）を行う上で、参考となるのでしっかりと受け止め、ノート、メモにまとめておくこと。今後活動を行うグループは参考とすること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２９回　レクリエーション活動の習得　モデルプログラムの習得　レクリエーション支援のための歌　手遊び　体操
【key words】
歌　手遊び　体操　二重課題　デュアルタスク　脳トレ
【授業概要】
室内でできるレクリエーションゲーム実践する。歌を歌いながら体を動かす、運動しながら計算するなど2重課題活動の支援方法について理解する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
紹介した活動の中で、子ども、高齢者に対しどのよう活動が提供できるか考えてみる。次回、本講義の確認テストを行うのでノート、テキストを見直しておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第３０回　1年間の振り返り　まとめ　確認テスト
【key words】

	レクリエーション支援 【授業概要】 1年の授業の振り返りと確認テストを行う。 【教科書ページ・参考文献】 テキスト 【課題・予習・復習・授業準備指示】 試験に向けて配付したプリントを確認しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
受講生に関わる情報および受講のルール	・レクリエーション活動(実技)を行う場合は、指定体育着、体育館シューズを着用すること。 ・装飾品や爪など活動時に支障とならないようにすること。 ・積極的に授業に取り組むこと。また支援者として好感のもてる態度、身だしなみを心掛けること ・実技活動、グループ活動は仲間と協力して作業をすすめること。自分勝手な行動をとる受講者は減点の対象とする。 ・遠隔授業にて受講する場合はにはカメラ機能をオンにすること。通信環境により実施できない場合は申し出ること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	・日頃からレクリエーションに関する情報を新聞、雑誌、テレビ　インターネット等で収集するよう心がけること。 ・地域で行われているレクリエーション活動に積極的に参加すること。
オフィスアワー	月曜日　5時限　(変更時は掲示する)
評価方法	評価の基準：到達目標の達成度を評価する。 評価の方法：筆記試験50%　ﾚﾎﾟｰﾄ等提出物(活動企画書)20%　実技30%　として総合的に評価する。
教科書	スポーツ・レクリエーション指導者養成テキスト - スポレク活動で健康寿命を延伸 (財)日本レクリエーション協会編
参考書	参考書　【楽しさの追求を支えるサービスの企画と実施】　【楽しさの追求を支える理論と支援の方法】(日本レクリエーション協会)　【レクリエーション活動援助法】　(中央法規)
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 介護予防運動指導員（東京都健康長寿医療センター）、福祉レクリエーションワーカー（日本レクリエーション協会）として地域の介護予防・フレイル予防活動に取り組んでいる。また地域スポーツクラブにおけるスポーツ指導の経験があり、障がい者スポーツ指導員養成研修講師としてパラスポーツ活動にも取り組んでいる。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 情報処理演習　　授業コード：S1132　S1134

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年次	2単位(60)	必修
担当教員			
藤本　壱			
基礎教養科目	演習		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 演習を中心として、情報リテラシーの理解や情報利活用能力を高め、レポート・論文の作成やプレゼンテーション、データ分析などに生かせるようにすることを目的とする 【到達目標】 ①パソコンの基本的な操作を理解する ②基本的な情報の利活用（収集・分析など）ができる ③Microsoft Wordでレポート等の文章を作成できる ④P検3級の試験を受験できる ④Microsoft Excelでデータの集計や分析を行うことができる ⑤Microsoft PowerPointでプレゼンテーションができる ⑥情報セキュリティや情報モラルについて正しく理解できる
授業の概要	授業を通し、情報リテラシーを理解し、情報利活用能力を高め、レポート・論文などの各種の文書を作成したり、基本的なデータ分析を行ったり、プレゼンテーションを行ったりすることができるようになることを目標とする。 また、パソコン検定の「P検」の3級レベルを受験できる程度の知識と技能を得られうようにする

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	△
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	○
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	◎
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	△
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回　オリエンテーション、パソコンの基本操作 【key words】 情報リテラシー、パソコンの基本 【授業概要】 情報リテラシーの必要性や、情報処理とパソコンの関係などを学習する ・講義のオリエンテーション ・情報リテラシーの必要性 ・情報を利活用する上でのパソコンの役割 ・パソコンの基本操作（キーボードの使い方など） 【教科書ページ・参考文献】 スライド資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・情報リテラシーの基本を復習する ・キーボード入力を練習する 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第２回　情報の収集と利用 【key words】 インターネット、検索、図書館 【授業概要】 レポート作成などの元となる情報の収集や利用の方法を学習する ・主な情報源(新聞、書籍、インターネット、etc) ・インターネットの仕組み

・ホームページの検索(Google)
・インターネットの主な情報源(統計データ、WikiPediaなど)
・図書館の蔵書の検索
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・ホームページで各種の情報を検索する
・図書館で必要な蔵書を検索する
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第３回　レポート・論文の作成(1)
【key words】
レポート、論文
【授業概要】
レポートや論文を作る基本的な流れを学習する
・レポート・論文の基本(作文との違いなど)
・レポートの構成の立て方(アウトラインを作ってから詳細に進む)
・Wordでの文書作成の基本
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テーマを立ててレポートの構成を考え、それをWordで入力する練習をする
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第４回　レポート・論文の作成(2)
【key words】
書式、構成
【授業概要】
レポートや論文を構成する各種の項目と、それをWordで作成する手順を学習する
・基本的な書式の設定(ページ書式、文字書式、段落書式)
・文書の構成を整える(箇条書きなど)
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
適切な書式設定を行い、読みやすいレポートを作成する練習をする
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第５回　情報の分析や可視化(1)
【key words】
Excel、表、分析、可視化
【授業概要】
情報の分析・可視化のツールとなるExcelの基本を学習する
・情報の分析・可視化とExcelの関係
・Excelでの情報管理の基本(データの入力・整理など)
・Excelでの基本的な書式設定
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
Excelで情報を管理する練習をする(各種のデータの入力や整理など)
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第６回　プレゼンテーション(1)
【key words】
プレゼンテーション、PowerPoint
【授業概要】
プレゼンテーションの一連の流れや、資料作成の基本について学習する
・プレゼンテーションの流れ(準備作業、資料作成、発表など)
・資料作成前の準備(データ収集、構成の検討、会場設備の確認など)
・PowerPointでの資料作成の基本(スライド作成、書式設定など)
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
プレゼンテーションのテーマを立てて、実際にプレゼンテーションすることを想定して準備作業などを行う練習をする
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第７回　レポート・論文の作成(3)
【key words】
表
【授業概要】
レポートや論文の中で表を使って情報をまとめる場面は多いので、表の作り方を学数する
・表の作成とデータ入力
・表の操作（行／列の挿入、削除、コピー、セルの結合など操作)
・表の書式設定(罫線、網掛け、文字配置など)
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
表を作る練習をしてWordやPowerPointでレポートや論文を作る際に活用する
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第８回　レポート・論文の作成(4)
【key words】

		図形、写真、ワードアート、スマートアート 【授業概要】 レポートや論文に図や写真を入れる場面も多いので、それらの扱い方を学習する ・図形の挿入と書式設定 ・図や写真の挿入 ・図等のレイアウト ・ワードアート(特殊なレイアウトの文字の並び)の挿入 ・スマートアート(よく使いそうな図)の挿入 【教科書ページ・参考文献】 スライド資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 図形や写真を含む文書を作る練習をしてレポートや論文を作る際に活用する 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第９回	レポート・論文の作成(5) 【key words】 改ページ、表紙、ヘッダー、フッター、スタイル、目次 【授業概要】 レポートや論文を仕上げる際に行う作業について学習する ・レポートの推敲(文章を読み直す、誤字脱字のチェック、不備がないかどうかのチェックなど) ・改ページの挿入 ・ヘッダー(上余白)とフッター(下余白)の利用 ・スタイル(書式の組み合わせ)の利用と設定 ・目次の作成 【教科書ページ・参考文献】 スライド資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 レポートを美しく仕上げる練習をする 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１０回	情報の分析や可視化(2) 【key words】 棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ 【授業概要】 多くの情報をグラフで可視化する方法を学習する ・棒グラフの作成 ・グラフ要素の追加軸ラベル、データラベルなど）と書式設定 ・折線、円グラフの作成 ・複合グラフの作成 【教科書ページ・参考文献】 スライド資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 グラフの作成を練習する 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１１回	情報の分析や可視化(3) 【key words】 計算、集計、分析 【授業概要】 多くの情報を分析する際の基本となる計算や関数の使い方を学ぶ ・Excelでの計算の基本 ・データの集計(合計、最大値、最小値など) ・データ分析の基本(平均、標準偏差など) 【教科書ページ・参考文献】 スライド資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 数式や関数を使った計算を練習する 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１２回	プレゼンテーション(2) 【key words】 アニメーション、動画 【授業概要】 聞き手にとって分かりやすいプレゼンテーションを行うための手法や、それをPowerPointで実現する手順を学ぶ ・動きのあるプレゼンテーションの作成(アニメーション、画面切り替え) ・プレゼンテーション内での動画や音声の利用 【教科書ページ・参考文献】 スライド資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 動きのあるプレゼンテーションを作れるように練習する 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１３回	プレゼンテーション(3) 【key words】 発表、練習、アフターフォロー 【授業概要】 プレゼンテーション直前、当日、そして終了後に行うことや、それらに関するPowerPointの機能を学習する ・プレゼンテーション前の準備(発表の練習、発表時間の測定と発表内容の調整など) ・プレゼンテーションでの話し方(視線誘導、ジェスチャーなど) ・アフターフォロー(プレゼンテーション後の資料の配布など) 【教科書ページ・参考文献】

スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実際のプレゼンテーションを行えるように練習する
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１４回　文書等の活用と管理
【key words】
コピー、貼り付け、ドライブ、フォルダ、ファイル
【授業概要】
レポートや論文を作る際に、アプリケーション間でデータをコピーしたりなど、各種の作業が必要となるので、それらについて学習する
・アプリケーション間のコピーと貼り付け
・ドライブ／フォルダ／ファイルの概念
・フォルダ／ファイルの操作（コピー、移動、削除など）
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
アプリケーション間のデータのやり取りを練習する
ファイル操作に慣れる
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１５回　情報セキュリティ・情報モラルと課題説明・作成
【key words】
情報セキュリティ、情報モラル、課題
【授業概要】
情報を利活用する上で知っておくべき情報セキュリティや情報モラルを学習する
また、課題の作成も行う
・情報セキュリティ
・情報モラル
・課題内容の説明
・課題作成実習
・課題を作成して期限までに提出
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
情報セキュリティに留意し、ウィルス感染などの被害を受けないようにする
情報モラルを守り、他の人に迷惑をかけないようにする
課題を作成して期限までに提出する
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１６回　レポート・論文の作成(6)
【key words】
脚注、図表番号、テンプレート
【授業概要】
レポートや論文を作る上で便利な機能を学習する
・脚注の設定(ページ末尾の脚注、文末脚注)
・図表番号の設定(図表番号の入力、図表番号の参照)
・テンプレートの作成
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
レポートを作る際に目次や脚注等の機能を利用する
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１７回　レポート・論文の作成(7)
【key words】
セクション、ブックマーク、相互参照、引用文献
【授業概要】
レポートや論文を作る上で便利な機能を学習する
・段組みの設定(2段組み等)
・セクションで文章を複数のブロックに区切る
・ブックマーク(文章内に付ける目印)の挿入
・相互参照(ブックマークの位置のページ番号等の情報を挿入する)
・引用文献の挿入
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
長文作成の際にブックマークや相互参照を活用する
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１８回　情報の分析や可視化(4)
【key words】
スパークライン、条件付き書式
【授業概要】
Excelで情報を可視化する方法を学習する
・スパークラインの作成
・条件付き書式の設定
・各種の条件付き書式（データバー、カラーバー、アイコンセット）
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
スパークラインや条件付き書式を活用してデータを見やすくする
【予習復習に必要な想定時間】

30分
第１９回　情報の分析や可視化(5)
【key words】
データベース、並べ替え、抽出、ピボットテーブル
【授業概要】
多くのデータを元に分析を行う方法を学習する
・データベース用のデータ入力
・データの並べ替え
・データの抽出
・ピボットテーブルを使った集計
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
アンケートなどのデータを整理する際にExcelを活用する
【予習復習に必要な想定時間】
30分
第２０回　情報の分析や可視化(6)
【key words】
相対参照、絶対参照、関数
【授業概要】
情報の分析の際に必要な各種の計算方法を学習する
・相対参照と絶対参照
・順位(RANK関数)
・複合条件(AND関数／OR関数)
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
Excelで複雑な計算を行う際にこの回で行ったことを利用する
【予習復習に必要な想定時間】
30分
第２１回　情報の分析や可視化(7)
【key words】
名前、関数
【授業概要】
情報の分析の際に必要な各種の計算方法を学習する
・セルに名前を付けて数式で利用する
・セルにふりがなを表示する
・日付に関する関数
・文字列に関する関数
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
名前機能や各種の関数の使い方を理解する
【予習復習に必要な想定時間】
30分
第２２回　情報の分析や可視化(8)
【key words】
ワークシート、インポート、マクロ
【授業概要】
情報の分析などの際に必要な各種の機能を学習する
・複数のワークシートを使う
・データのインポート
・マクロの基本
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
名前機能や各種の関数の使い方を理解する
【予習復習に必要な想定時間】
30分
第２３回　文書の共同作成
【key words】
Googleドキュメント、Googleスプレッドシート
【授業概要】
複数の人で共同して文書を作る方法を学習する
・Googleドキュメントの利用
・Googleスプレッドシートの利用
・文書の共有と同時編集
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
Googleドキュメントなどを使って文書を共同で編集できるようになる
【予習復習に必要な想定時間】
30分
第２４回　画像の編集(1)
【key words】
画像、レイヤー、GIMP
【授業概要】
画像編集ソフトのGIMPを使って、基本的な画像を作る手順を学習する
・GIMPの概要
・GIMPのインストール
・画像の作成手順
・レイヤーの利用

【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
GIMPを自分のパソコンにインストールして使ってみる
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２５回　画像の編集(2)
【key words】
加工、フィルタ
【授業概要】
既存の画像を加工したりフィルタをかけたりする手順を学習する
・画像の加工（サイズ変更、色の調整など）
・画像にフィルタをかける（モザイクなど）
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
画像の加工やフィルタを復習する
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２６回　線画の編集(1)
【key words】
線画、ベクター形式、ビットマップ形式
【授業概要】
線画をコンピュータで扱う仕組みを理解する
・ベクター形式とビットマップ形式の違い
・Inkscapeの概要
・Inkscapeのインストール
・Inkscapeの基本操作
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
線画をInkscapeで描く練習をする
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２７回　線画の編集(2)
【key words】
レイヤー、パス、フィルタ
【授業概要】
Inkscapeでの線画のより細かな扱い方を理解する
・レイヤーの利用
・線画のパスへの変換
・線画のフィルタ
・動画のデータ化
・データベース
・プログラムとフローチャート
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
Inkscapeで様々な線画を作成する練習をする
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２８回　動画の編集(1)
【key words】
動画、タイムライン
【授業概要】
動画編集の基本的な手順を解説する
・PowerDirectorの概要
・素材の作成
・タイムラインの編集
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
動画編集の基本的な手順を復習する
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２９回　動画の編集(2)
【key words】
動画、テロップ、フィルタ
【授業概要】
動画をより細かく編集する手順を解説する
・テロップを入れる
・動画にフィルタをかける
・BGMをつける

【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
動画の編集方法を復習する
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第３０回　課題について
【key words】

	課題 【授業概要】 課題の内容の説明と、作成を行う ・課題内容の説明 ・課題の作成 【教科書ページ・参考文献】 スライド資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 画像や動画を組み合わせて期日までに課題を作成する 【予習復習に必要な想定時間】 30分
受講生に関わる情報および受講のルール	[受講生に関わる情報]　配布資料は当授業のホームページから各自ダウンロードすること。 [受講のルール] 積極的に授業に臨むこと。 演習形式の授業なので、話を聞くだけでなく、手を動かしてパソコンの操作を身につけること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	配布資料を使って復習する
オフィスアワー	授業前後20分
評価方法	・前期 レポート課題による評価 レポートとしてのまとまり(30%)、Wordの各種機能の活用度(50%)、Excelの各種機能の活用度(20%) ・後期 レポート課題（30%） 筆記試験（70%）
教科書	繰り返して慣れる!完全マスターWord　Office365・Office2019対応、NOA出版 繰り返して慣れる!完全マスターExcel　Office365・Office2019対応、NOA出版 ドリルでマスター!PowerPoint&プレゼンテーション、NOA出版
参考書	なし
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 Office関連雑誌原稿執筆多数 パソコン関連書籍執筆多数 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 ■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 ■その他 その他の具体的内容 授業を毎回録画してYouTubeで配布

講義科目名称： 英語Ⅰ　　授業コード：S1151　S1152　S1154

英文科目名称： English Ⅰ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期(社福①・社福②・子ども)	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
戸塚　泰聖			
基礎教養科目	講義		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	・英語４技能の能力を高め、英語検定２級・準２級合格レベルの力をつけることを目標とする。
授業の概要	・単語力をつけるため毎回豆テストを実施する。 ・身近な話題について英語でのコミュニケーションができるよう、ペアでの対話練習を通してスピーキング力をつける。 ・英語検定のテキストの長文読解問題を利用し、リーディング力をつける。（要予習） ・英語検定のテキストのリスニング問題等を利用し、リスニング力をつける。 ・オリジナルテーマや英検テキストのライティング問題テーマについて英語で文章を書き、添削を受けることでライティング力をつける。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	◎
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	○
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	△
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	
	第１回　科目オリエンテーション 【key words】 英語検定２級・準２級 ４技能 Self-introduction 【授業概要】 ・英語を学習する意味について考えを深める。 ・講座の進め方・評価方法・予習復習方法について知る。 ・Self-introduction ・プレイスメントテスト ・リスニングアプリの使用法を知る。 ・英検２級・準２級受験について知る。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ２２年度準２級第２回筆記　(B)Spicy Soda１ p.28-29　予習プリントを利用して問題を解き、下線部を和訳する。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間
	第２回　Spicy Soda１ 【key words】 Ginger Ale soda drink 【授業概要】 ・Pair conversation ・リーディング力養成 ・リスニング力養成 【教科書ページ・参考文献】

		２２年度準２級第２回筆記　(B)Spicy Soda p.28-29 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ２２年度準２級第２回筆記　(B)Spicy Soda１ p.28-29　予習プリントを利用して問題を解き、下線部を和訳する。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第３回	Spicy Soda２ 【key words】 customer popularity 【授業概要】 ・Vocabulary test ・Pair conversation ・リーディング力養成 ・リスニング力養成 ・ライティング力養成 【教科書ページ・参考文献】 ２２年度準２級第２回筆記　(B)Spicy Soda１ p.28-29 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ２２年度準２級第２回筆記　３(B)Hungry Hikers p.25 予習プリントを利用して問題を解き、下線部を和訳する。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第４回	Hungry Hikers 【key words】 elephants protected area 【授業概要】 ・Vocabulary test ・Pair conversation ・リーディング力養成 ・ライティング力養成 【教科書ページ・参考文献】 ２２年度準２級第２回筆記　３(B)Hungry Hikers p.25 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ２２年度準２級第１回筆記　４(B)The Return of the Wolves１ p.52-53 予習プリントを利用して問題を解き、下線部を和訳する。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第５回	The Return of the Wolves１ 【key words】 packs of wolves protect 【授業概要】 ・Vocabulary test ・Pair conversation ・リーディング力養成 ・リスニング力養成 【教科書ページ・参考文献】 ２２年度準２級第１回筆記　４(B)The Return of the Wolves１ p.52-53 予習プリントを利用して問題を解き、下線部を和訳する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ２２年度準２級第１回筆記　４(B)The Return of the Wolves２ p.52-53 予習プリントを利用して問題を解き、下線部を和訳する。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第６回	The Return of the Wolves２ 【key words】 army wild animals 【授業概要】 ・Vocabulary test ・Pair conversation ・リーディング力養成 ・リスニング力養成 ・ライティング力養成 【教科書ページ・参考文献】 ２２年度準２級第１回筆記　４(B)The Return of the Wolves２ p.52-53 予習プリントを利用して問題を解き、下線部を和訳する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ２２年度準２級第１回筆記　３(B)Getting to Know New Orleans p.49 予習プリントを利用して問題を解き、下線部を和訳する。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第７回	Getting to Know New Orleans 【key words】 unique culture beignet chicory 【授業概要】 ・Vocabulary test

		・Pair conversation ・リーディング力養成 ・リスニング力養成 【教科書ページ・参考文献】 ２２年度準２級第１回筆記　３(B)Getting to Know New Orleans p.49 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ２２年度２級第２回筆記　２(A)Trouble at Sea p.22-23 予習プリントを利用して問題を解き、下線部を和訳する。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間
	第８回	Trouble at Sea 【key words】 plastic waste environmental protection 【授業概要】 ・Vocabulary test ・Pair conversation ・リーディング力養成 ・リスニング力養成 【教科書ページ・参考文献】 ２２年度２級第２回筆記　２(A)Trouble at Sea p.22-23 予習プリントを利用して問題を解き、下線部を和訳する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ２２年度２級第２回筆記　２(B)Performing Cats p.24-25 予習プリントを利用して問題を解き、下線部を和訳する。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第９回	Performing Cats 【key words】 The Phantom of the Opera poem performance 【授業概要】 ・Vocabulary test ・Pair conversation ・リーディング力養成 ・リスニング力養成 ・ライティング力養成 【教科書ページ・参考文献】 ２２年度２級第２回筆記　２(B)Performing Cats p.24-25 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ２２年度２級第２回筆記　３(A)ZX950LCD TV p.26-27 予習プリントを利用して問題を解き、下線部を和訳する。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第１０回	ZX950LCD TV 【key words】 online store instruction manual replacement remote control 【授業概要】 ・Vocabulary test ・Pair conversation ・リーディング力養成 ・ライティング力養成 【教科書ページ・参考文献】 ２２年度２級第２回筆記　３(A)ZX950LCD TV p.26-27 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ２２年度２級第２回筆記　３(B)The Empress's Favorite Clothes１ p.28-29 予習プリントを利用して問題を解き、下線部を和訳する。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第１１回	The Empress's Favorite Clothes１ 【key words】 Bangladesh Dhaka muslin 【授業概要】 ・Vocabulary test ・Pair conversation ・リーディング力養成 ・リスニング力養成 【教科書ページ・参考文献】 ２２年度２級第２回筆記　３(B)The Empress's Favorite Clothes１ p.28-29 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ２２年度２級第２回筆記　３(B)The Empress's Favorite Clothes２ p.28-29　予習プリントを利用して問題を解き、下線部を和訳する。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第１２回	The Empress's Favorite Clothes２ 【key words】

	exhibition thread 【授業概要】 ・Vocabulary test ・Pair conversation ・リーディング力養成 ・リスニング力養成 ・ライティング力養成 【教科書ページ・参考文献】 ２２年度２級第２回筆記　３(B)The Empress's Favorite Clothes２ p.28-29 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ２２年度２級第２回筆記　３(C)Desert Delight１ p.30-31　予習プリントを利用して問題を解き、下線部を和訳する。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第１３回　Desert Delight１ 【key words】 tribe desert 【授業概要】 ・Vocabulary test ・Pair conversation ・リーディング力養成 ・ライティング力養成 【教科書ページ・参考文献】 ２２年度２級第２回筆記　３(C)Desert Delight１ p.30-31 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ２２年度２級第２回筆記　３(C)Desert Delight２ p.30-31　予習プリントを利用して問題を解き、下線部を和訳する。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第１４回　Desert Delight２ 【key words】 Saguaro cactus independent traditional 【授業概要】 ・Vocabulary test ・Pair conversation ・リーディング力養成 ・リスニング力養成 【教科書ページ・参考文献】 ２２年度２級第２回筆記　３(C)Desert Delight２ p.30-31 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第１５回　The History of Firefighting 【key words】 firefighter fire engine 【授業概要】 ・Pair conversation ・リーディングテスト ・リスニング力養成 ・授業評価 【教科書ページ・参考文献】 英検準２級１９年度第１回筆記３ (A)　p.52-53 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	・授業中、指名し英文の意味を発表してもらうので、長文読解問題の英文についてはよく予習をして望むこと （予習想定時間は１時間）。※予習方法は講義の中で指示する。 ・スピーキング力をつけるため、ペアで英語での会話をする機会を設けるので、積極的に取り組むこと。 ・ライティング課題は、添削をし返却する。必ずライティング課題を提出すること。 ・英和辞典もしくは電子辞書を必ず持参すること。 ・ファイル・ノートを用意し毎回持参すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	・授業の最後に、コメントカードを配布し、質問や授業の感想を書く時間を設ける。
授業外時間にかかわる情報	・英検を受験する学生は、英検受験に向けて授業以外でも過去問の学習を進めること。 ・英語についての質問や海外研修に関して知りたいことがあれば、高等教育支援センターまで来てください。
オフィスアワー	月曜～木曜まで、高等教育支援センターに在室の時は、いつでも質問に応じます。
評価方法	・単語テスト（10%）・予習状況および授業への参加姿勢（20%）※予習をしてあるかどうかを、授業開始前に毎回チェックします。※授業中、積極的に英語で発言することを評価します。・定期試験（70%）

教科書	2023年度版　英検２級過去６回全問題集　旺文社 および2023年度版　英検準２級過去６回全問題集　旺文社
参考書	英和辞典もしくは電子辞書
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 Ｓ５７（４月）～H20（３月）までの管理職になるまでの間、群馬県高等学校外国語（英語）の教諭として教壇に立った。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 ■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 英語Ⅱ　　授業コード：S1163　S1164　S1165

英文科目名称： EnglishⅡ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期(社福①・社福②・子ども)	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
戸塚　泰聖			
基礎教養科目	講義		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	・英語４技能の能力を高め、英語検定２級（準２級）合格レベルの力をつける。 ・SDGｓに関連する英語教材を通じて、現代の諸課題に対する認識を深める。
授業の概要	・単語力をつけるため毎回豆テストを受ける。 ・様々なテーマについて英語でのコミュニケーションができるよう、ペアでの対話練習を通してスピーキング力をつける。 ・英語検定のテキストの長文読解問題を利用し、リーディング力をつける。（要予習） ・様々なテーマについて英語で文章を書き添削を受けることで、ライティング力をつける。 ・SDGｓに関連したテーマの英語スピーチを聞くことで、リスニング力を高めると共に現代の諸課題に対する認識を深める。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	◎
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	○
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	△
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画

第１回　科目オリエンテーション

【key words】
・小学校での英語授業（こども専攻）
・社会福祉と英語（社会福祉専攻）

【授業概要】
・小学校での英語授業について
・社会福祉と英語について
・Pair conversation
・プレイスメントテスト
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
２２年度２級　第１回筆記　2(A)An Answer in a Teacup p.48-49　予習プリントを利用し、問題に答えるとともに下線部を和訳する。
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第２回　An Answer in a Teacup

【key words】
plastic waste
kulhads
flavor

【授業概要】
・Vocabulary test
・Pair conversation
・リーディング力養成
・リスニング力養成
【教科書ページ・参考文献】

		２２年度２級　第１回筆記　2(A)An Answer in a Teacup p.48-49 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ２１年度準２級　第３回筆記　３(B)Pest Protection p.73 予習プリントを利用し、問題に答えるとともに下線部を和訳する。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間
	第３回	Pest Protection 【key words】 insect chemical duck 【授業概要】 ・Vocabulary test ・Pair conversation ・リーディング力養成 ・リスニング力養成 【教科書ページ・参考文献】 ２１年度準２級　第３回筆記　３(B)Pest Protection p.73 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ２２年度２級　第１回筆記　２(B)More than Just a Pretty Bird p.50-51 予習プリントを利用し、問題に答えるとともに下線部を和訳する。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間
	第４回	More than Just a Pretty Bird 【key words】 parrot seed conservation group 【授業概要】 ・Vocabulary test ・Pair conversation ・リーディング力養成 ・リスニング力養成 ・ライティング力養成 【教科書ページ・参考文献】 More than Just a Pretty Bird p.50-51 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ２１年度準２級　第３回筆記　４(B)The Mystery of the Crannogs１ p.76-77 予習プリントを利用し、問題に答えるとともに下線部を和訳する。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間
	第５回	The Mystery of the Crannogs１ 【key words】 crannogs research 【授業概要】 ・Vocabulary test ・Pair conversation ・リーディング力養成 ・リスニング力養成 【教科書ページ・参考文献】 ２１年度準２級　第３回筆記　４(B)The Mystery of the Crannogs１ p.76-77 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ２１年度準２級　第３回筆記　４(B)The Mystery of the Crannogs２ p.76-77 予習プリントを利用し、問題に答えるとともに下線部を和訳する。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間
	第６回	The Mystery of the Crannogs２ 【key words】 ceremony purpose 【授業概要】 ・Vocabulary test ・Pair conversation ・リーディング力養成 ・リスニング力養成 【教科書ページ・参考文献】 ２１年度準２級　第３回筆記　４(B)The Mystery of the Crannogs２ p.76-77 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ２２年度２級　第１回筆記　３(B)Tweed１ p.54-55 予習プリントを利用し、問題に答えるとともに下線部を和訳する。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間
	第７回	Tweed１ 【key words】 tweed waterproof estate

【授業概要】
・Vocabulary test
・Pair conversation
・リーディング力養成
・リスニング力養成
【教科書ページ・参考文献】
２２年度２級　第１回筆記　３(B)Tweed１ p.54-55
【課題・予習・復習・授業準備指示】
２２年度２級　第１回筆記　３(B)Tweed２ p.54-55 予習プリントを利用し、問題に答えるとともに下線部を和訳する。
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第８回　Tweed２

【key words】
wealthy people
fashionable
popularity

【授業概要】
・Vocabulary test
・Pair conversation
・リーディング力養成
・リスニング力養成
・ライティング養成
【教科書ページ・参考文献】
２２年度２級　第１回筆記　３(B)Tweed２ p.54-55
【課題・予習・復習・授業準備指示】
２１年度準２級　第２回筆記　４(B)An Unusual Spice１ p.100-101 予習プリントを利用し、問題に答えるとともに下線部を和訳する。
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第９回　An Unusual Spice１

【key words】

Hing
asafetida
【授業概要】
・Vocabulary test
・Pair conversation
・リーディング力養成
・リスニング力養成
【教科書ページ・参考文献】
２１年度準２級　第２回筆記　４(B)An Unusual Spice１ p.100-101
【課題・予習・復習・授業準備指示】
２１年度準２級　第２回筆記　４(B)An Unusual Spice２ p.100-101 予習プリントを利用し、問題に答えるとともに下線部を和訳する。
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第１０回　An Unusual Spice２

【key words】
flavor
medicine
【授業概要】
・Vocabulary test
・Pair conversation
・リーディング力養成
・ライティング力養成
【教科書ページ・参考文献】
２１年度準２級　第２回筆記　４(B)An Unusual Spice２ p.100-101
【課題・予習・復習・授業準備指示】
２１年度２級２回　３　(B)Beards in History１ p.106-107　予習プリントを利用し、問題に答えるとともに下線部を和訳する。
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第１１回　Beards in History１

【key words】
beard
wisdom

【授業概要】
・Vocabulary test
・Pair conversation
・リーディング力養成
・リスニング力養成
【教科書ページ・参考文献】
２１年度２級２回　３　(B)Beards in History１ p.106-107
【課題・予習・復習・授業準備指示】
２１年度２級２回　３　(B)Beards in History２ p.106-107　予習プリントを利用し、問題に答えるとともに下線部を和訳する。

	【予習復習に必要な想定時間】 １時間 第１２回　Beards in History２ 【key words】 attitude popular 【授業概要】 ・Vocabulary test ・Pair conversation ・リーディング力養成 ・リスニング力養成 ・ライティング力養成 【教科書ページ・参考文献】 ２１年度２級２回 ３ (B)Beards in History２ p.106-107 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ２１年度準２級１回 ４ (B)While You Wait１ p.124-125 予習プリントを利用し、問題に答えるとともに下線部を和訳する。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間 第１３回　While You Wait１ 【key words】 airport museum 【授業概要】 ・Vocabulary test ・Pair conversation ・リーディング力養成 ・ライティング力養成 【教科書ページ・参考文献】 ２１年度準２級１回 ４ (B)While You Wait１ p.124-125 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ２１年度準２級１回 ４ (B)While You Wait２ p.124-125 予習プリントを利用し、問題に答えるとともに下線部を和訳する。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間 第１４回　While You Wait２ 【key words】 artwork gallery 【授業概要】 ・Vocabulary test ・Pair conversation ・リーディング力養成 ・リスニング力養成 【教科書ページ・参考文献】 ２１年度準２級１回 ４ (B)While You Wait２ p.124-125 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１５回　Female Airline Pilots 【key words】 female pilot hire flexible 【授業概要】 ・Pair conversation ・リーディングテスト ・リスニング力養成 ・授業評価 【教科書ページ・参考文献】 ２０年度準2級　第１回筆記　４(B)Female Airline Pilotsp.124-125 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	・授業中、指名し英文の意味を発表してもらうので、長文読解問題の英文についてはよく予習をして望むこと （予習想定時間は１時間）。※予習方法は講義の中で指示する。 ・スピーキング力をつけるため、ペアで英語での会話をする機会を設けるので、積極的に取り組むこと。 ・ライティングの課題は添削して返却します。必ずライティング課題を提出すること。 ・英和辞典もしくは電子辞書を必ず持参すること。 ・ファイル・ノートを用意し毎回持参すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	授業の最後に、コメントカードを配布し、質問や授業の感想を書く時間を設ける。
授業外時間にかかわる情報	・英検を受験する学生は、英検受験に向けて授業以外でも過去問の学習を進めること。 ・英語についての質問や海外研修に関して知りたいことがあれば、高等教育支援センターまで来てください。
オフィスアワー	月曜～木曜まで、高等教育支援センターに在室の時は、いつでも質問に応じます。

評価方法	・単語テスト（10%）・予習状況および授業への参加姿勢（20%）※予習をしてあるかどうかを、授業開始前に毎回チェックします。※授業中、積極的に英語で発言することを評価します。・定期試験（70%）
教科書	2023年度版　英検２級過去６回全問題集　旺文社および2023年度版　英検準２級過去６回全問題集　旺文社
参考書	英和辞典もしくは電子辞書
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 Ｓ５７（４月）～Ｈ２０（３月）までの管理職になるまでの間、群馬県高等学校外国語（英語）の教諭として教壇に立った。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 ■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 国際文化論　　授業コード： S1301

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	選択
担当教員			
久山　宗彦			
基礎教養科目	講義		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的・到達目標】 国際文化論（intercultural studies）では、国際的な相互依存関係の中で生きていく私達が、自立した個人として生き生きと活躍していくためには、自国の文化に根差した自己の確立や、異なる文化を持った人達をも受け入れ、彼らと繋がっていける能力や態度を身に付けていくことを主眼としている。
授業の概要	世界の諸事情と日本との関係を知り、自らの歩む道について考える。更に、日本と世界（諸外国）の関係がどのように発展したらよいかについても考察する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	○
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	「国際文化論が目指すのは国際平和である」～特に難民問題に対する日本の関わりを巡って～ 【key words】 ウクライナ・シリア難民、対話と独語、平和 【授業概要】 特に難民問題と日本の関わりを巡って言及する 【教科書ページ・参考文献】 授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特にはありません。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第２回	和の文化（1）～その構造について～ 【key words】 和、多様性、聖徳太子 【授業概要】 「和」と同一性・均一性の違いを特に強調したい 【教科書ページ・参考文献】 授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特にはありません。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第３回	和の文化（2）～神の文化との比較～ 【key words】 Open-nationalism,日本人としてのIdentity 【授業概要】 自分たちが持っている優れた特徴ある文化的なものを、これからは国際社会で貢献できるもの、分かち合えるものにしていってはどうであろうか 【教科書ページ・参考文献】 授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特にはありません。

【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第４回　マルティン・ブーバー（Martin Buber）の「関係」の哲学（1）
【key words】
「はじめに関係があった」、対話と独語、Ich-Du　Ich-Es

【授業概要】
人間は他者に対して、「我～汝」、「我～それ」の二つの態度をとっている。
【教科書ページ・参考文献】
授業レジュメを配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
特にはありません。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第５回　マルティン・ブーバー（Martin Buber）の「関係」の哲学（2）～医療世界への応用～
【key words】
ブーバー、主観と客観、主体と客体、
【授業概要】
ブーバーの理論は、医療従事者と患者がいかなる関係になるべきかを明示してくれている
【教科書ページ・参考文献】
授業レジュメを配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
特にはありません
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第６回　日本外交の原点に位置する聖徳太子・福沢諭吉
【key words】
聖徳太子、華夷秩序、脱亜論
【授業概要】
聖徳太子が隋の煬帝に送った「日出ずる処の天子、書を日没する処の天子に致す。つつがなきや」という手紙に、日本外交の原点があるのではないか
【教科書ページ・参考文献】
授業レジュメを配布

【課題・予習・復習・授業準備指示】
特にはありません。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第７回　日本・韓国・中国の文化の違い
【key words】
日・韓・中の比較文化、歴史問題
【授業概要】
日本・韓国・中国の文化の違いを私たちはどのように乗り越えていったらよいかについて論じる
【教科書ページ・参考文献】
授業レジュメを配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
特にはありません。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第８回　ヨーロッパ文明とEU、そしてEUの英国・トルコとの関わり（東アジアと比較）
【key words】
ドイツ・フランス・イタリア、ド・ゴール、東アジア共同体構想
【授業概要】
EUはアメリカニズムに対する危機感から生じたとも言える。しかし、地域統合には独自性と一体性があるから、限界もある。
【教科書ページ・参考文献】
授業レジュメを配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
特にはありません。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第９回　日本と中東（１）
【key words】
ムハンマド、共存・共生、斎戒
【授業概要】
「和」を提唱した聖徳太子と「サラーム」（平和）の世界観を紹介したムハンマドが同時代人であったということもあって、日本と中東には共通の観念が多々見られることも紹介し、現代の中東世界の特徴についても言及する
【教科書ページ・参考文献】
授業レジュメを配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
特にはありません。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１０回　日本と中東（２）
【key words】
ハリーファ、サウジアラビアからヨルダンまで、統合と断絶
【授業概要】
日本史に現れる権威としての天皇と将軍は、イスラーム史におけるハリーファ（カリフ）とスルターンの関係のようである。ところで、中東地域それぞれの国家の統合の柱は、宗教、言語（民族）の視点で見ると分かり易いと思う
【教科書ページ・参考文献】

	授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特にはありません。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分 第１１回　国際ボランティア活動、かつての湾岸戦争後のイラクの弱者に対する救援活動 【key words】 イラク、国際ボランティア活動、経済制裁 【授業概要】 湾岸戦争後、１３回も出かけることになったイラクの乳幼児に対する緊急救援活動を通して、イラクと日本での国際ボランティア活動のスタートから終了までの大事な諸点を紹介し、ボランティア精神の重要性を明らかにする 【教科書ページ・参考文献】 授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特にはありません。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分 第１２回　ダブリン（Dublin）のホスピスの発祥の地である「聖母ホスピス」を訪ねて 【key words】 ターミナルケア、聖母ホスピス、careとcure 【授業概要】 医療技術は絶えず最新のものでなければならないが、「死」に対する深い精神的な態度は変わるものではない。 【教科書ページ・参考文献】 授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特にはありません。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分 第１３回　「国際平和」実現への第一歩とは（1） 【key words】 旧約新約聖書とクルアーン、報復、汝の敵を赦す・愛する 【授業概要】 「あなたの目はその人に憐みを掛けてはいけない。命には命、目には目、歯には歯、手には手、足には足をもって償わせなければならない」（申命記１９～２１）とあるが、この旧約の報復の論理を身をもって克服・完成させたのは誰であろうか。 【教科書ページ・参考文献】 授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特にはありません。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分 第１４回　「国際平和」実現への第一歩とは（２） 【key words】 ウクライナ・シリア難民、聖遷、聖家族エジプト避難の旅、積極的な反一抵抗・敵対 【授業概要】 聖遷（ヘジュラ）と聖家族エジプト避難の旅の今日への問題提起 【教科書ページ・参考文献】 授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特にはありません。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分 第１５回　国際文化論として考えるリハビリテーション 【key words】 リハビリテーション観、宗教観、障害 【授業概要】 世界をリードする立場にある日本のリハビリテーションであるが、それぞれの国との関係では、言語・行政問題以外では、リハビリテーション観・宗教観の違いに注目することが重要である 【教科書ページ・参考文献】 授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特にはありません。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
受講生に関わる情報および受講のルール	・授業レジュメは原則として毎回配布する。 ・授業には積極的な態度で臨むように。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	世界の国々と関わる日本のニュースにも、いつも関心を持っていただきたい。
オフィスアワー	授業後の10分間は対応可能です。
評価方法	最終レポート試験（80%）、授業時等のレポート（20%）
教科書	教科書は使用しないが、毎回の授業時には授業レジュメのほかに、時々参考資料を配布する。
参考書	授業時に随時紹介する。久山宗彦著「神の文化と和の文化」（北樹出版）もそのうちの一つである。
実務者経験/アクティブラーニング/	授業担当教員

リテラシー教育	□実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： チームケア入門Ⅰ　　授業コード： S1401

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年次	1単位(15)	選択
担当教員			
江原　京子・石井　千麻・大久保　圭介・吉澤　幸・櫻井　秀雄			
基礎教養科目	演習		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] ねらい：「包括的視点で対象者を捉え、多職種による円滑なケアが展開できるための基礎的知識・技術・態度について学び多職種連携のあり方を修得する」 目的：他学部・学科との学生間の交流を通して、多職種の連携の必要性について気づくことができる。 [到達目標] 1) 自己の職種について他者に伝えることができる。 2) 他職種の基本的な役割について述べることができる。 3) ケアチームとして一連の取り組みのまとめ、報告、自己の評価ができる。 4) 他職種との連携について関心が持てる。
授業の概要	保健医療福祉の動向に伴い、多様なニーズを必要とする対象者が増加しており保健医療福祉教育専門職に求められることも多様化している。対象者のケアの目標を達成するためには、多職種間の連携が不可欠となる。保健医療福祉教育職種が連携を取り合うことの意義・必要性と多様なチームケアの在り方について学習する。群馬医療福祉大学の福祉・医療総合大学の特色を生かし、3学部・短期大学1学科合同チームによる、講義、演習を通して「チームケア」について学ぶ。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	◎
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回	科目オリエンテーション 【key words】 講義概要、チームケア、多職種連携、地域包括ケアシステム 【授業概要】 全8回の講義の進め方や評価方法等のオリエンテーション後、医療・福祉・教育領域において、なぜ今連携なのか、チームケアの目的・意義、背景、多職種の種類とその役割、連携の目的・意義について解説を行う。 【教科書ページ・参考文献】 ・教科書：配布資料のみ ・参考資料：講義内で紹介 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：配布されたワークシートに沿い、自分の所属しているコースで取得が可能な資格／専門職を1つ取り上げ、具体的に、どんな仕事をしているのか」を簡単にまとめてくること。 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分
	第２回	チームケアを担う人々を理解する 【key words】 社会福祉士、精神保健福祉士、公認心理師、特別支援学校教諭、中学校・高校教諭 【授業概要】 医療・福祉・教育領域におけるチームケアを担う各専門職の役割について、各自が作成した課題を用いたグループワークと解説を通じて理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】

		・教科書：なし ・参考資料：講義内で紹介 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：配布されたワークシートに沿い、自分の選択した専門職について以下の事柄を調べ、まとめること ①根拠法規、②対象者、③活躍の場、④具体的な業の内容、⑤他職種との連携、⑥その他 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第３回	チームケア・チーム医療を担う人々を理解する 【key words】 多職種連携、認知症患者へのチームケア、発達障害を持つ児童へのチームケア 【授業概要】 医療・福祉・教育領域におけるチームケアを担う各専門職の役割について、各自が作成した課題を用いたグループワークを行い、他職を目指す学生にどのように説明することが望ましいかの検討を行う。また、呈示された事例へのチームでの対応の中で自職の担う役割についてグループでの検討を行い、自職の専門性に関する理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 ・教科書：なし ・参考資料：講義内で紹介 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業準備：合同演習で使用する自職の紹介についての資料を班ごとに作成し、担任に添削を受けること 課題：配布されたワークシートに沿い、事例内での自職の関わりについて班内で検討を行い、まとめること 【予習復習に必要な想定時間】 60-120分
	第４回	チームケアにおける多職種の役割、連携方法についての合同討議。 【key words】 多職種連携 【授業概要】 医療・福祉・教育領域におけるチームケアを担う各専門職の役割について、他学部の学生との間でお互いが作成した資料を用いたグループワークを行い、それぞれの専門職に関する基本的理解について理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 ・教科書：なし ・参考資料：講義内で紹介 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業準備：自職について調べた資料をグループの人数分、用意・持参すること 【予習復習に必要な想定時間】
	第５回	チームケアにおける多職種の役割、連携方法についての合同討議、報告準備。 【key words】 多職種連携、認知症患者へのチームケア、発達障害を持つ児童へのチームケア 【授業概要】 医療・福祉・教育領域におけるチームケアを担う各専門職の役割について、共通の事例に対するそれぞれのかかわりについて他学部の学生との間でグループワークを行い、それぞれの専門職の専門性について理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 ・教科書：なし ・参考資料：講義内で紹介 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業準備：自職の事例への関わりについてまとめた資料を持参すること 【予習復習に必要な想定時間】
	第６回	チームケアにおける多職種の役割、連携方法についての合同討議・報告会① 【key words】 多職種連携 【授業概要】 医療・福祉・教育領域におけるチームケアを担う各専門職の役割に関するこれまでの討議をもとに、多職種が連携することの意義について他学部の学生との間でグループワークを行い、その必要性や求められる姿勢について理解を深める 【教科書ページ・参考文献】 ・教科書：なし ・参考資料：講義内で紹介 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業準備：各グループ内で指定された時間の発表ができるよう準備を行なうこと 【予習復習に必要な想定時間】
	第７回	チームケアにおける多職種の役割、連携方法についての合同討議・報告会② 【key words】 多職種連携 【授業概要】 医療・福祉・教育領域においてチームケアを行うことの意義についての討議結果について、演習参加者全員でのシェアリングを行い、多職種連携を行う中での自職の役割や他職との連携方法について考察を行う。 【教科書ページ・参考文献】 ・教科書：なし ・参考資料：講義内で紹介 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：第4回～第7回の合同演習に関する振り返りを指定されたワークシートに行うこと 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分
	第８回	学習成果をリフレクションする。一連の学習過程を評価・考察し自己の課題に気付くことができる。 【key words】

	多職種連携 【授業概要】 一連の学習過程について振り返りを行い、医療・福祉・教育領域におけるチームケアを担う専門職を目指す今後の学習に向けた目標設定や課題設定を行う。 【教科書ページ・参考文献】 ・教科書：なし ・参考資料：講義内で紹介 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：指定されたレポート課題 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分
受講生に関わる情報および受講のルール	［受講生に関わる情報］ ①予習：指示された事前学習課題を整理し、授業時活用する。 ②復習：授業で配布したプリント・資料を読み返す。 ③授業日程：履修者に対して6～7月を目安に掲示板にて8回の日程を提示するため、留意すること。 ［受講のルール］ ①積極的に取り組むこと。 ②レポート等の課題について、提出期限を厳守すること。 ③授業の学びをぽ配布されるポートフォリオ等に記載すること。 ④欠席・遅刻については大学事務局に必ず連絡を行い、後日授業担当教員に対応を確認すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	学習ポートフォリオ内の感想の記載欄など
授業外時間にかかわる情報	・自分の目指す職種等に関する調べ学習など、各回で課題が提示される予定である。それらに積極的に取り組むこと。 ・課題作成に用いた資料はフラットファイルなどに保管し、合同討議の際、参考にできるようにしておくこと。
オフィスアワー	初回に指示する。
評価方法	①グループワークでの取り組み50%。 ②ポートフォリオ評価50%。
教科書	各回で資料を配布する。
参考書	1. 鷹野和美著： チームケア論　　ぱる出版, 2008. 2. 小松秀樹： 地域包括ケアの課題と未来、ロハス・メディカル、 2015
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 海外語学研修（カナダ）　　授業コード：S1501

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	1年次～4年次	2単位(60)	選択
担当教員			
田口　敦彦			
基礎教養科目	演習		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 海外研修を通じて国際社会に貢献する意欲を養い、様々な人と出会い交流し、文化や言葉の壁を越えた理解を深めながらコミュニケーション能力を身につける。また国際社会で活躍する医療福祉人材として、海外での様々な体験を通して世界を違う視点から見ることができるようになることを目的とする。本プログラムは参加者の英語能力を、面接授業、ワークショップ及びセミナーを通して向上させ、さらにカナダの歴史、文化、伝統等について学んだり、現地でのフィールドワークに携わったりしながら、カナダ独特の文化に触れ英語能力の更なる向上を目指していく。現地の学生やホームスティ先のホストファミリーとの交流により、英語によるコミュニケーション能力並びに異文化体験の機会を得る。
授業の概要	研修は、群馬医療福祉大学の協定・提携大学　カナダ・レジャイナ大学との間に企画された、誰もが参加しやすい語学学習(英語)に重点を置いたプログラムである。事前学習として訪問先の文化・社会等についての理解を深め、日常英会話についのコミュニケーション能力を高める。その後、本学の協定大学における11日間の研修プログラム(講義又フィールドワーク）を中心に実施し、帰国後、それらの講義、体験をもとに、まとめ・報告会を行う。　研修期間　2022年8月24日～9月3日 ただしコロナウィルスの感染状況により中止となる場合もある。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	◎
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回	研修先の概要(1)オリエンテーション　海外研修プログラムについての概要　申込書などの記入の仕方 【key words】 【授業概要】 グローバル人材海外研修を通じて、国際社会に貢献する意欲を養い、様々な人と出会い交流し、文化や言葉の壁を越えた理解を深めながらコミュニケーション能力を身につけることを理解する。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)を熟読しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第２回	研修先の概要(2)　リジャイナ大学についての概要 【key words】 【授業概要】 リジャイナ大学についての概要 訪問するレジャイナ大学の概要について理解するとともに、レジャイナ大学が提携するESL(English as a Second Language class)プログラムを確認する。海外渡航学生マニュアル(群

		馬医療福祉大学作成)パスポートやETA取得をスムーズに行うため事前に外務省等のホームページを確認して置くこと。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第３回	カナダ研究(1)　世界とカナダの関係について　文化、歴史、経済、習慣等について 【key words】 【授業概要】 カナダの歴史、文化、伝統　自然等について学び、現地でのフィールドワークに活かせるよう知識、教養を身につける。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)ネット、情報誌等でカナダの文化、歴史等を収集しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第４回	手続きガイダンス(1)　海外渡航に必要となる諸手続きについて 【key words】 【授業概要】 パスポート、ETAの申請について 。さらに渡航前の健康管理と安全管理について確認する。また、リスクマネジメントを徹底し、病状悪化などの緊急時用の対応ができるよう安全管理について渡航前から学ぶ。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成) 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第５回	英語研修(1)　日常英会話　英語圏の生活に必要なこと 【key words】 【授業概要】 入国審査カードの書き方、入国審査での質問、機内での英会話 機内、出入国で使用する英語について学ぶ。さらに挨拶、日常会話について理解を深める。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第６回	英語研修(2)　日常英会話　自文化を紹介する態度、言い回し 【key words】 【授業概要】 英語で自らの文化、習慣、伝統等を紹介する方法について学ぶ。またレジャイナ大学の学生と交流する機会があるので、レクリエーションプログラム等の計画を立てる。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第７回	英語研修(3)　日常英会話　研修先でのコミュニケーション 【key words】 【授業概要】 研修時の日常で困ったことがないよう基本的なコミュ二ケーション方法等についてロールプレイを行いながら学ぶ。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第８回	英語研修(4)　日常英会話　寮、ホームスティ　研修先での注意事項 【key words】 【授業概要】 研修時の日常で困ったことがないよう基本的なコミュ二ケーション方法等についてロールプレイを行いながら学ぶ。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること。 【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第９回　英語研修(5)　日常英会話　危機管理
【key words】

【授業概要】
研修時の日常で困ったことがないよう基本的なコミュ二ケーション方法等についてロールプレイを行いながら学ぶ。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１０回　協定校での授業　会話、課外授業　　Meet with Program Team
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１１回　協定校での授業　会話、課外授業　　Welcome &Program Orientation
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１２回　協定校での授業　会話、課外授業　　Campus Orientation & Tour
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１３回　協定校での授業　会話、課外授業　　Language Canada-at-aGlance ①
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１４回　協定校での授業　会話、課外授業　　Language Canada-at-aGlance ②
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１５回　協定校での授業　会話、課外授業　　Tour of the Royal Saskatchewan Museum
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第16回　協定校での授業　会話、課外授業　Language History ①
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第17回　協定校での授業　会話、課外授業　Language History ②
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第18回　協定校での授業　会話、課外授業　Farmer,s Market and Regina Down Town Tour
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第19回　協定校での授業　会話、課外授業　Language Culture ①
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第20回　協定校での授業　会話、課外授業　Language Cu l ture②
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第21回　協定校での授業　会話、課外授業　Tour of Sa s katoon & Western Development Museum
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第22回　協定校での授業　会話、課外授業　Language Sports ①
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第23回　協定校での授業　会話、課外授業　Language Sports ②
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第24回　協定校での授業　会話、課外授業　Tour of the Royal Canadian Mounted Police & Government House
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第25回　協定校での授業　会話、課外授業　　Language Arts ①
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第26回　協定校での授業　会話、課外授業　　Language Arts ②
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第27回　協定校での授業　会話、課外授業　Kayaking on Wascana & Barbeque wiyh U of R students
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第28回　協定校での授業　会話、課外授業　Program Closing Ceremony
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第29回　協定校での授業　会話、課外授業　Program Closing Ceremony
【key words】

【授業概要】
研修事業の成果報告会に向けて発表の準備及び研修前と研修後の意識変化について確認する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
1時間
第30回　研修成果　報告会　（まとめとふりかえり）
【key words】

【授業概要】
研修成果　報告会　（まとめとふりかえり）
【教科書ページ・参考文献】

	【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 2時間
受講生に関わる情報および受講のルール	①研修への参加責任及び費用負担義務の所在が本人及び保護者であることを十分理解し、研修について保護者とよく話 し合い、同意を得る。 ②研修予定地の事情をよく調べ、研修機関のサポート内容などを確認しながら研修計画を作成する。 ③旅行保険等の加入など万全の準備をするほか、連絡体制についても明確にし、大学に伝える。 ④担当教員による事前・事後指導も評価の対象となるので、誠実な態度で指導を受ける。 ⑤国際情勢の急な変化によって研修実施が困難となる場合もあることに留意する。 ⑥小学校における英語必修化に伴い初等教育コースの学生は履修することが望ましい ⑦本講義は10人以上により開講する
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	渡航先の語学や会話を授業で受講しておくこと。また日常から海外のニュースを見聞きし、情報を得ておくことが必要である。旅券の取得、現地通貨などの準備、ツアーや航空券の手配、保険の申請などがある。
オフィスアワー	月曜日　16:00～17:30　(変更が生じた場合は適宜指示する)
評価方法	海外研修時において学生個人が定めた目的に対し、十分な学習経験を得ていると認められる活動に対し、単位を認める。 成績は、事前指導、事後指導への参加状況、研修中の活動記録(40%)、研修後報告書の課題(60%)をもとに評価する。原則として以下の条件を満たすこと。 ① 学内におけるガイダンス、事前・事後指導にすべて出席すること。 ② 事前に研修期間を通して学修・研究すべき課題を決め、事前レポートを提出すること。 ③ 滞在期間中に必要な学習活動を行うこと。 ④ 研修期間中の活動記録を提出すること。 ⑤ 帰国後、指定された時期までに報告書などの課題を提出すること。 海外研修時において学生個人が定めた目的に対し、十分な学習経験を得ていると認められる活動に対し、単位を認める。 成績は、事前指導、事後指導への参加状況、研修中の活動記録(40%)、研修後報告書の課題(60%)をもとに評価する。原則として以下の条件を満たすこと。 ① 学内におけるガイダンス、事前・事後指導にすべて出席すること。 ② 事前に研修期間を通して学修・研究すべき課題を決め、事前レポートを提出すること。 ③ 滞在期間中に必要な学習活動を行うこと。 ④ 研修期間中の活動記録を提出すること。 ⑤ 帰国後、指定された時期までに報告書などの課題を提出すること。 海外研修時において学生個人が定めた目的に対し、十分な学習経験を得ていると認められる活動に対し、単位を認める。 成績は、事前指導、事後指導への参加状況、研修中の活動記録(40%)、研修後報告書の課題(60%)をもとに評価する。原則として以下の条件を満たすこと。 ① 学内におけるガイダンス、事前・事後指導にすべて出席すること。 ② 事前に研修期間を通して学修・研究すべき課題を決め、事前レポートを提出すること。 ③ 滞在期間中に必要な学習活動を行うこと。 ④ 研修期間中の活動記録を提出すること。 ⑤ 帰国後、指定された時期までに報告書などの課題を提出すること。
教科書	担当教員が適宜指示する。
参考書	海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)　渡航先に関するガイドブック、新聞、海外ニュース、ネットなどによる最新の情報など 海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)　渡航先に関するガイドブック、新聞、海外ニュース、ネットなどによる最新の情報など
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等)

	□情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 海外医療福祉研修（フィリピン）　　授業コード： S1505

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	1年次～3年次	2単位(60)	選択
担当教員			
田口　敦彦・小林　洋子			
基礎教養科目	演習		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	海外研修を通じて国際社会に貢献する意欲を養い、様々な人と出会い交流し、文化や言葉の壁を越えた理解を深めながらコミュニケーション能力を身につける。また国際社会で活躍する医療福祉人材として、海外での様々な体験を通して世界を違う視点から見ることができるようになることを目的とする。このプログラムはフィリピンでの医療福祉事情の理解と臨床現場での実地体験を目的としたプログラムを組み込んでいる。医療・福祉施設（小児がん治療施設・リハビリデイケアセンター・障害者施設・病院)にて実地体験を経験し、国際的な視野、協調性、行動力、自主性といった能力を中心に培いながら、現地の学生との交流により、英語によるコミュニケーション能力並びに医療英語や英会話を含む英語能力の向上や異文化体験の機会をも得ることを目的とする。
授業の概要	研修は、群馬医療福祉大学の協定・提携大学　フィリピン・アレリアノ大学との間に企画された、誰もが参加しやすい医療福祉ボランティア学習に重点を置いたプログラムである。事前学習として訪問先の文化・社会等についての理解を深め、医療英語及び日常英会話についのコミュニケーション能力を高める。その後、本学の協定大学における8日間の研修プログラム(講義又フィールドワーク）を中心に実施し、帰国後、それらの講義、体験をもとに、まとめ・報告会を行う。 研修期間　2023年3月下旬を予定　ただしコロナウィルスの感染状況により中止となる場合もある。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	◎
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第1回	研修先の概要(1)オリエンテーション　海外研修プログラムについての概要　申込書などの記入の仕方 グローバル人材海外研修を通じて、国際社会に貢献する意欲を養い、様々な人と出会い交流し、文化や言葉の壁を越えた理解を深めながらコミュニケーション能力を身につけることを理解する。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)を熟読しておくこと。
	第2回	研修先の概要(2)　アレリアノ大学についての概要 訪問するアレリアノ大学の概要について理解するとともに、アレリアノ大学が提携する病院、福祉施設訪問プログラムを確認する。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)パスポート取得をスムーズに行うため事前に外務省等のホームページを確認しておくこと。
	第3回	フィリピン研究(1)　世界とフィリピンの関係について　文化、歴史、経済、習慣等について フィリピンの歴史、文化、伝統　自然等について学び、現地でのフィールドワークに活かせるよう知識、教養を身につける。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)ネット、情報誌等でフィリピンの文化、歴史等を収集しておくこと。
	第4回	手続きガイダンス(1)　海外渡航に必要となる諸手続きについて パスポート、ETAの申請について 。さらに渡航前の健康管理と安全管理について確認する。また、リスクマネジメントを徹底し、病状悪化などの緊急時用の対応ができるよう安全管理について渡航前から学ぶ。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)
	第5回	医療福祉研修(1)　ボランティア先での注意事項 海外でボランティアを行う上での心構えや英語でのコミュニケーションまた英語以外でのコミュニケーションの方法等について理解する。レクリエーションの企画立案をグループごとに行う。レクリエーション企画について事前に自分たちができそうなことを事前に準備しておくこと。
	第6回	医療福祉研修(2)　ボランティア先でのレクリエーション企画について

		海外でボランティアを行う上での心構えや英語でのコミュニケーションまた英語以外でのコミュニケーションの方法等について理解する。レクリエーションの企画立案をグループごとに行う。日本の文化を紹介するにはどのように行ったらよいのかを考えてみる。
	第7回	英語研修(1)　日常英会話　英語圏の生活に必要なこと　　入国審査カードの書き方、入国審査での質問、機内での英会話 機内、出入国で使用する英語について学ぶ。さらに挨拶、日常会話について理解を深める。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること。
	第8回	英語研修(2)　日常英会話　自文化を紹介する態度、言い回し 研修時の日常で困ったことがないよう基本的なコミュニケーション方法等についてロールプレイを行いながら学ぶ。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること。
	第9回	英語研修(3)　医療英語　　患者及び施設利用者とのコミュニケーション 研修時の日常で困ったことがないよう基本的なコミュニケーション方法等についてロールプレイを行いながら学ぶ。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること。
	第10回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 アレリアノ大学　医療福祉研修プログラムへ参加し海外での実践活動・講義及びフィールドワークについて確認する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
	第11回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 アレリアノ大学のキャンパス見学及び概要説明。現地大学生との交流を行う。
	第12回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 アレリアノ大学のキャンパス見学及び概要説明。現地大学生との交流を行う。
	第13回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 Esperanza Health Center and Lying In Clinicにて　健康診断　栄養管理　予防接種、体重モニタリング、について学ぶ。フィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。
	第14回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 Esperanza Health Center and Lying In Clinicにて　健康診断　栄養管理　予防接種、体重モニタリングについて学ぶ。フィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。
	第15回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 Esperanza Health Center and Lying In Clinicにて　健康教育、出産について学ぶ。フィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。
	第16回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 Esperanza Health Center and Lying In Clinicにて　産前産後検診について学ぶフィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。
	第17回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 Kaisaka Rehabilitative therapies　リハビリ病院訪問　フィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。
	第18回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 Kaisaka Adult day care services　高齢者デイケア訪問　フィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。
	第19回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 Kaisaka Caring for persons with disabilities and social rehabilitation　身体障害者施設を訪問し社会復帰プログラムについて理解を深める。フィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。
	第20回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 Arellano University Rehabilitation Clinic Rehabilitation terapiesを訪問し　リハビリ療法、成人向けデイケアサービス、障害者のケアと社会復帰に向けた支援について学ぶ。フィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。
	第21回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 Arellano University Rehabilitation Clinic　リハビリ療法、成人向けデイケアサービス、障害者のケアと社会復帰に向けた支援について学ぶ。
	第22回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 Arellano University Rehabilitation Clinic　リハビリ療法、成人向けデイケアサービス、障害者のケアと社会復帰に向けた支援について学ぶ。
	第23回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 マニラおよび近郊の文化、観光施設 現地でのフィールドワークに活かせるよう知識、教養を身につけておくこと。
	第24回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 マニラおよび近郊の文化、観光施設 現地でのフィールドワークに活かせるよう知識、教養を身につけておくこと。
	第25回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 マニラおよび近郊の文化、観光施設 現地でのフィールドワークに活かせるよう知識、教養を身につけておくこと。
	第26回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 CHILD HAUS children`s home,day care centersを訪問し、がんなどの重篤な病気に罹患している子どもたちとの交流活動を行う。子どもたちのプレゼントを事前に用意しておくこと。
	第27回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 CHILD HAUS children`s home,day care centersを訪問し、がんなどの重篤な病気に罹患している子どもたちとの交流活動を行う。子どもたちのプレゼントを事前に用意しておくこと。
	第28回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 CHILD HAUS children`s home,day care centersを訪問し、がんなどの重篤な病気に罹患している子どもたちとの交流活動を行う。子どもたちのプレゼントを事前に用意しておくこと。
	第29回	研修成果　　レポート及び報告会プレゼンテーション準備

	研修事業の成果報告会に向けて発表の準備及び研修前と研修後の意識変化について確認する。 第30回　研修成果　報告会　（まとめとふりかえり） 研修事業の振り返りと研修の成果について確認を行う。
受講生に関わる情報および受講のルール	①研修への参加責任及び費用負担義務の所在が本人及び保護者であることを十分理解し、研修について保護者とよく話し合い、同意を得る。 ②研修予定地の事情をよく調べ、研修機関のサポート内容などを確認しながら研修計画を作成する。 ③旅行保険等の加入など万全の準備をするほか、連絡体制についても明確にし、大学に伝える。 ④担当教員による事前・事後指導も評価の対象となるので、誠実な態度で指導を受ける。 ⑤国際情勢の急な変化によって研修実施が困難となる場合もあることに留意する。 ⑥本講義は10人以上により
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	渡航先の語学や会話を授業で受講しておくこと。また日常から海外のニュースを見聞きし、情報を得ておくことが必要である。旅券の取得、現地通貨などの準備、ツアーや航空券の手配、保険の申請などがある。
オフィスアワー	月曜日　5時限　（変更が生じた場合は適宜指示する）
評価方法	海外研修時において学生個人が定めた目的に対し、十分な学習経験を得ていると認められる活動に対し、単位を認める。 成績は、事前指導、事後指導への参加状況、研修中の活動記録(40%)、研修後報告書の課題(60%)をもとに評価する。原則として以下の条件を満たすこと。 ① 学内におけるガイダンス、事前・事後指導にすべて出席すること。 ② 事前に研修期間を通して学修・研究すべき課題を決め、事前レポートを提出すること。 ③ 滞在期間中に必要な学習活動を行うこと。 ④ 研修期間中の活動記録を提出すること。 ⑤ 帰国後、指定された時期までに報告書などの課題を提出すること
教科書	担当教員が適宜指示する。
参考書	海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)　渡航先に関するガイドブック、新聞、海外ニュース、ネットなどによる最新の情報など
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 福祉心理学　　授業コード： S3001

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
齊藤　和良			
専門科目	講義		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 　高齢者、障害者、乳幼児等の社会的弱者やその福祉現場の仕事に携わる福祉専門職について理解を深め、人道的な支援や受容・共感的態度を身につける。 〔到達目標〕 ①家庭における児童の問題や青少年の問題行動について説明できる。 ②福祉現場において生じる問題及びその背景について説明できる。 ③福祉現場における心理社会的課題及び必要な支援方法について説明できる。 ④虐待、認知症に関する必要な支援方法について説明できる。
授業の概要	福祉心理学は、社会福祉の対象となるすべての人々とその支援者のウエルビーイング（well-being）のために、心理学的な手法を用いて支援していくことを探求する学問である。本授業では、発達及び加齢や障害の概念を学習することから始め、当事者と家族の福祉的な問題そして福祉従事者の抱える問題について整理し、これらの福祉心理学的な対応について学習する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	○
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	△
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	○
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画

第１回　オリエンテーション　（福祉心理学とは　福祉　社会的弱者　福祉領域）

【key words】
福祉心理学　福祉心理学の対象　社会的弱者　ソーシャルビーイング　ノーマライゼーション　インクルージョン
【授業概要】
科目「福祉心理学」のオリエンテーションとして、まず、心理学と福祉について述べ、福祉心理学の目的及び福祉心理学の対象である福祉領域について概観する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書 p.1 - p.14（序章　福祉領域の概観）　プリント資料の配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前学習として、シラバス及び教科書「序章　福祉領域の概観　p.1 - p.14」を予め読んでから授業に臨むこと。事後学習として、福祉心理学の対象をまとめること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第２回　子ども家庭福祉を見渡す

【key words】
児童虐待　DV　児童相談所　ネグレクト　社会的養護　児童福祉施設　児童心理治療施設
【授業概要】
子ども家庭福祉分野にの施策ついて概観する。まず、各地で進められている子育て世代包括支援センターの設置、要保護児童対策地域協議会、代表的な関連機関、そして児童相談所について述べる。次に、児童虐待防止に関する法律や制度について述べ、DV防止法の内容についても触れる。最後に、社会的養護の実態、児童福祉施設、里親制度について解説し、施設職員や里親からの虐待についても言及する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書 p.15 - p.27（第1章　子ども家庭福祉を見渡す）　プリント資料の配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前学習として、教科書「第1章　　p.15- p.27」を予め読んでから授業に臨むこと。事後学習と

		して、社会的養護についてまとめること。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第３回	市町村における子ども家庭支援 【key words】 母子保健　乳幼児検診　発達相談　障害児保育　児童虐待　要保護児童 【授業概要】 市町村は住民に身近な自治体として、子育てに関する様々な制度の情報やサービスを提供できる機能をもっており、子どもと子育てを行っている保護者への支援を行う。母子保健法に基づき、乳幼児健診、障害の早期発見と早期療育、そして児童虐待防止法に基づく児童虐待と要保護児童について概観する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書　p.29 - p.４７（第2章　市町村における子ども家庭支援）　プリント資料の配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前学習として、教科書「第2章　p.29- p.47」を予め読んでから授業に臨むこと。事後学習として、児童虐待についてまとめること。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第４回	児童相談所や婦人相談所での援助業務 【key words】 児童相談所　DV（ドメスティック・バイオレンス）　虐待　被害者支援　トラウマケア　暴力被害 【授業概要】 子ども虐待相談、児童虐待問題における児童相談所の役割、そしてDV（配偶者からの暴力）への支援について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書 p.49 - p.68（第3章　児童相談所や婦人相談所での相談業務）　プリント資料の配布。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前学習として、教科書「第3章　p.49- p.68」を予め読んでから授業に臨むこと。事後学習として、児童相談所の役割についてまとめること。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第５回	子どもの入所施設における支援と課題 【key words】 社会的養護　児童養護施設　児童心理治療施設　乳児院　母子生活支援施設 【授業概要】 社会的養護の種類、児童養護施設の役割・業務、児童心理治療施設の役割・業務、そして乳児院、母子生活支援施設、及び児童自立支援施設の役割・業務について概説し、それぞれの課題について論ずる。 【教科書ページ・参考文献】 教科書 p.69 - p.86（第4章　子どもの入所施設における支援と課題）　プリント資料の配布。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前学習として、教科書「第4章　p.69 - p.86」を予め読んでから授業に臨むこと。事後学習として、社会的養護の役割についてまとめること。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第６回	障害児・者の福祉を見渡す 【key words】 障害の概念　国際障害分類　国際生活機能分類（ICF）　障害者総合支援法　障害福祉サービス　障害受容 【授業概要】 国際障害分類や国際生活機能分類に基づく障害の概念を紹介し、障害の二捉え方ついて述べる。次に、障害者総合支援法に基づき障害福祉サービスを紹介する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書 p.87 - p.99（第5章　障害児・者の福祉を見渡す）　プリント資料の配布。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前学習として、教科書「第5章　p.87 - p.99」を予め読んでから授業に臨むこと。事後学習として、社会的養護の役割についてまとめること。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第７回	知的障害・発達障害・強度行動障害児・者への支援 【key words】 療育手帳　発達障害　発達障害者支援法　自閉症スペクトラム　強度行動障害 【授業概要】 ここでは、脳の働きに障害のある知的障害、発達障害や強度行動障害などの障害福祉分野を紹介する。心理学的観点からだけでなく、社会全体を俯瞰（ふかん）してシステム的に物事を把握することが求められる。 【教科書ページ・参考文献】 教科書 p.101 - p.113（第6章　知的障害・発達障害・強度行動障害児・者への支援）　プリント資料の配布。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前学習として、教科書「第6章　p.101 - p.113」を予め読んでから授業に臨むこと。事後学習として、障害の概念についてまとめること。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第８回	身体障害児・者等への支援 【key words】 身体障害　重症心身障害　視覚障害　聴覚障害　身体障害者手帳 【授業概要】 ここでは、それぞれの身体障害に応じた心理的支援の特徴や実際の手立てについて解説し、この領域の心理職に求められる心構えや態度を養う。 【教科書ページ・参考文献】

		教科書 p.115 - p.128（第7章　身体障害児・者等への支援）　プリント資料の配布。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前学習として、教科書「第7章　p.115 - p.128」を予め読んでから授業に臨むこと。事後学習として、重症心身障害についてまとめること。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第９回	精神障害者への心理支援の実際 【key words】 精神障害　神経症　適応機制　精神保健福祉法　障害者総合支援法　障害者雇用促進法　権利擁護 【授業概要】 精神障害　神経症　適応機制　精神保健福祉法　障害者総合支援法　障害者雇用促進法　権利擁護 【教科書ページ・参考文献】 教科書 p.87 - p.99（第5章）、p.101 - p.113（第6章）　プリント資料の配布。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前学習として、教科書「第5章　p.87 - p.99、第6章　p.101 - p.113」を予め読んでから授業に臨むこと。事後学習として、精神障害についてまとめること。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第１０回	高齢者の在宅支援と施設利用者の支援　- 利用者と支援者を支えるしくみ - 【key words】 高齢者　老人福祉法　介護保険法　成年後見制度　在宅支援　介護職 【授業概要】 高齢者福祉制度の法律として老人福祉法と介護保険法がある。ここでは、老人福祉法と介護保険法を紹介し、高齢者の権利擁護のための成年後見制度やケアマネジメントについて述べる。 【教科書ページ・参考文献】 教科書 p.129 - p.（第8章　高齢者の在宅支援と施設利用者の支援　前半）　プリント資料の配布。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前学習として、教科書「第8章　p.129 - p.141」を予め読んでから授業に臨むこと。事後学習として、高齢者福祉制度についてまとめること。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第１１回	高齢者の在宅支援と施設利用者の支援　- 認知症高齢者の心理支援の実際 - 【key words】 アルツハイマー型認知症　認知機能障害　グループホーム　ユニットケア 【授業概要】 認知症の定義や認知症における症状の特徴とさまざまな心理問題を概説し、認知症高齢者の心理支援の実際につて述べる。 【教科書ページ・参考文献】 教科書 p.142- p.１４９（第8章　高齢者の在宅支援と施設利用者の支援　後半）　プリント資料の配布。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前学習として、教科書「第8章　p.142 - p.149」を予め読んでから授業に臨むこと。事後学習として、認知症についてまとめること。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第１２回	高齢者心理へのアプローチの実際 【key words】 認知症　アセスメント　トータルケア　パーソンセンタードケア　回想法　高齢者虐待防止法 【授業概要】 まず、高齢者心理へのアプローチの実際として、認知症等のアセスメントに関して、用いられる手法、用いる者の留意点や姿勢について述べる。続いて、トータルケアについて、歴史を振り返りながら今後求められるパーソンセンタードケア等を概説する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書 p.151 - p.１６８（第9章　高齢者心理へのアプローチの実際）　プリント資料の配布。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前学習として、教科書「第9章　p.151 - p.168」を予め読んでから授業に臨むこと。事後学習として、認知症等のアセスメントについてまとめること。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第１３回	福祉分野でのその他の取り組み　- 福祉のその先を見据えて - 【key words】 社会的ひきこもり　生活困窮者　ホームレス　子どもの貧困 【授業概要】 社会的ひきこもりの実態、生活困窮者の生活支援、不登校・ひきこもりの福祉的支援、及び地域社会における予防的支援と心理職の役割について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書 p.169 - p.186（第10章　福祉分野でのその他の取り組み）　プリント資料の配布。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前学習として、教科書「第10章　p.169 - p.186」を予め読んでから授業に臨むこと。事後学習として、引きこもりについてまとめること。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第１４回	心理職業務への自己視点と他者視点からの考察 【key words】 アセスメント　トリートメント　ケアマネージメント　専門職　多職種協働（IPW） 【授業概要】 心理職の立場から母子保健での発達相談や子育て相談等について概観し、多職種協働に関わる専門職とその役割、多職種協働とチームアプローチ及び多職種協働における公認心理師の役割について述べる。

	【教科書ページ・参考文献】 教科書　p.187 - p.205（第11章　心理職業務への自己視点と他者視点からの考察）　プリント資料の配布。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前学習として、教科書「第11章　p.187 - p.1205」を予め読んでから授業に臨むこと。事後学習として、多職種協働についてまとめること。 【予習復習に必要な想定時間】 90分 第１５回　福祉心理学のまとめ 【key words】 福祉心理学の対象　虐待　いじめ　認知症　発達　障害の概念 【授業概要】 福祉心理学のまとめと試験対策 【教科書ページ・参考文献】 プリント資料の配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 福祉心理学全体に対する復習と期末試験の対策 【予習復習に必要な想定時間】 90分～120分
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・教科書を必ず持参すること。 ・虐待を始めとして、乳幼児、高齢者、障害者に関する問題について、各種メディア（新聞やテレビ、インターネットなど）で日常的に報道されているニュースに対して常に問題意識を持つように、主体的に捉えていく態度を日頃から養うこと。 〔受講のルール〕 ・事後学習として教科書や授業時に配布したプリントを復習し、要点をまとめておくこと。 ・授業には、積極的に参加すること。 ・私語や携帯電話・スマートフォンの使用など他の受講生の迷惑になる行為の厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	・新聞、ニュースなどで関連事項があればチェックしておき、各自の意識を高めること。 ・参考図書や関連書籍を読み、授業内に解説したキーワードについて理解を深めること。
オフィスアワー	本学出講時に授業の事前事後で対応する。
評価方法	定期試験（70%）と課題への積極的な取り組み（30%）でもって総合的に評価する。課題はコメントカードの記述内容を点数化する。
教科書	川畑隆・笹川宏樹・宮井研治［編著］公認心理師の基本を学ぶテキスト 17 福祉心理学　- 福祉分野手背の心理職の役割 - ミネルヴァ書房　2020年5月30日　ISBN978-4-623-08718-1
参考書	中島健一 編: 公認心理師の基礎と実践　第17巻 福祉心理学 遠見書房 (2018/8/19) ISBN978-4-86616-067-2 適宜、授業時に紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 福祉施設（日本盲人職能開発センター）での指導員として勤務した経験をもとに、福祉領域での心理臨床的な関わりの必要性や心理的支援の在り方について講じる。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 ■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容 ある実際の事例を取り上げ、その問題の解決方法についてディスカッションの形で検討する。

講義科目名称： 社会福祉史　　授業コード： S3011

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	社会福祉コース・必修／福祉心理コース・学校教育コース・児童福祉コース・選択
担当教員			
田中　博一			
専門科目	講義		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 古くから人間はお互いに助け合って生きてきた。むしろ、助け合いが人類の存続をもたらしたともいえる。その助け合いは人類の歴史のなかで変化を遂げてきており、社会福祉は20世紀に入ってから生まれた新しい助け合い概念である。福祉国家の下にそれぞれの時代における福祉サービス体系を分析し、現代福祉の座標軸を認識し、これからの社会福祉の方向性を見出す。
授業の概要	18世紀から20世紀のイギリス、アメリカおよび日本の社会福祉（慈善・社会事業を含む）の歴史を講義する。 慈善事業から社会事業へ、そして社会福祉への変遷をたどり分析する。とりわけ日本の歴史を詳しく、また社会福祉の実践家の業績にも触れる

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	△
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	△
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	◎
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画		
	第１回	産業革命と社会事業の起こり 【key words】 新救貧法　COS運動　セツルメント運動 【授業概要】 イギリスでは、18世紀から19世紀にかけての産業資本の発展（産業資本主義）にともなう低賃金・失業よる貧困対策ために制定された新救貧法（1834）の意図と内容を理解し、一方で友愛組合や慈善・博愛主義のCOS運動やセツルメント活動が展開される私的社会事業の登場を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 19世紀初頭前後のイギリスの産業革命の文献を読む 【予習復習に必要な想定時間】 45
	第２回	社会改良主義と公的社会事業の出現 【key words】 【授業概要】 1873年から始まったアメリカとヨーロッパにおける恐慌によって、自由放任主義（レセ・フェール）から社会改良主義の政策が登場した。チャールズ・ブースやシーボーム・ロウントリーによる生活調査結果等から、公的社会事業の登場と発展を理解する 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 労働力の再生産の意味を調べる 【予習復習に必要な想定時間】 45
	第３回	フランスにおける「社会権」の形成 【key words】 フランス共和国憲法　フランス革命　社会的デモクラシー

【授業概要】
社会福祉の権利性については「社会権」の思想が欠かせない。社会権が一般的になったのは第１次大戦後のヨーロッパの諸憲法で「新しい人権」として登場した。フランスの憲法で「社会・経済権」が論じられてきたが、とりわけ1791年憲法の「公的保障」概念の理解から今日的社会権思想の源流を理解する
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
フランス革命について調べる
【予習復習に必要な想定時間】
45

第４回　アメリカにおける社会改良とセツルメント・ソーシャルケースワークの萌芽
【key words】
慈善組織協会　友愛訪問　ソーシャル・セツルメント
【授業概要】
アメリカにおいても、19世紀初頭からの慈善が、1873年の恐慌のもとで組織化され慈善組織協会が発生した。その過程において友愛訪問という方法がソーシャル・ケースワークの母体となった。また、この時期にソーシャル・セツルメント運動も発生し、種々の救済活動が展開された。アメリカ産業革命下の社会改良運動の流れを理解する
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
1873年の恐慌について調べ、この時代を認識する
【予習復習に必要な想定時間】
45

第５回　ソーシャルワークの成立とアメリカの社会保障法の制定
【key words】
メアリー・リッチモンド　専門社会事業技術　ニューディール政策
【授業概要】
1890年代からアメリカの資本主義経済は飛躍的に発展したが、貧困者の救済は公的救済より私的救済が発展した。メアリー・リッチモンドは1922年に慈善組織協会の友愛訪問を理論化して『ソーシャル・ケースワークとは何か』出版し、ソーシャルワーク発達の起点となった。さらに、1930年代ニューディールにおける社会保障法（1935）により、救済事業を連邦化した。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
1900年初頭からニューディール政策（1930年代後半まで）の社会・経済状況を調べる。
【予習復習に必要な想定時間】
45

第６回　日本の近代社会と福祉Ⅰ（恤救規則と感化事業）
【key words】
恤救規則　横山源之助　日本の下層社会
【授業概要】
1868年の明治維新による新政府の救済事業を窮民救済と児童保護を中心に解説する。窮民救済は恤救規則の内容とその基本的な思想を理解し、横山源之助の『日本の下層社会』におけるその当時の窮民の生活実態と救済制度の事実を認識する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
明治時代の日本の社会状況を調べる。
【予習復習に必要な想定時間】
45

第７回　日本の近代社会と福祉Ⅱ（明治・大正期の慈善事業家）
【key words】
石井十次　留岡幸助　岡山孤児院　家庭学校
【授業概要】
明治期の代表的な慈善事業家である岡山孤児院の創設者の石井十次の活動とその思想を通してその意義を知る。また、石井と並んで慈善事業の実践者であった留岡幸助の家庭学校の活動から留岡の人・思想を解説する。明治・大正期の時代背景における石井および留岡の活動と思想の意義を理解する
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
感化救済事業及び児童自立支援について調べる
【予習復習に必要な想定時間】
45

第８回　日本の現代社会と福祉Ⅰ（救護法の制定と社会事業の体系化）
【key words】
米騒動　救護法　方面委員制度
【授業概要】
1920年代の経済不況は米騒動が起こり、また関東大震災の被害も社会不安をもたらし、窮民状態にある貧民が恤救規則では救済されないことから、1929年救護法が制定され、救貧行政の転換がなされた。救貧制度の不備を補うために方面委員制度が成立し、さらに、社会事業行政機関の整備等、社会事業の体系化が展開された。このような時代背景から社会事業が生まれ体系化されたことを理解する
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
米騒動・関東大震災の関連文献読み写真を見る
【予習復習に必要な想定時間】
45

第９回　日本の現代社会と福祉Ⅱ（賀川豊彦・小河滋次郎）

【key words】

【授業概要】
方面委員制度を構想し社会事業協会を設立した小河滋次郎の思想を理解する。また、賀川豊彦の貧民救済活動、セツルメント、消費者組合運動等を通じて、社会改良の一環としての社会事業論を理解する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
セツルメント　消費者組合　方面委員
【予習復習に必要な想定時間】
45

第１０回　日本の現代社会と福祉Ⅲ（戦後の社会福祉の確立期1945～1964）
【key words】
社会福祉6法　社会保障制度に関する勧告　国家責任
【授業概要】
1946年の旧生活保護法に始まり、1964年の母子福祉法の制定によりいわゆる福祉6法体制が確立した。その間、1954年に出された社会保障制度審議会の「社会保障制度に関する勧告」を読み、その時代の意識を共有し、そして福祉6法の目的と概要を理解する
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
戦後の基本的人権に関する事項を調べる。
【予習復習に必要な想定時間】
45

第１１回　日本の現代社会と福祉Ⅳ（糸賀一雄の思想と実践）
【key words】
発達保障　田村一二　池田太郎
【授業概要】
戦後最初の児童福祉施設である滋賀県の近江学園々長の糸賀一雄の活動と思想を振り返り、公的な支援が極めて不十分な時代における社会福祉の主体的視点を焦点して理解する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
糸賀一雄の著作を調べる。
【予習復習に必要な想定時間】
45

第１２回　日本の現代社会と福祉Ⅴ（充実期1965～1972）
【key words】
児童手当　老人医療費無料化　公害
【授業概要】
日本は1955年から約20年間、年平均10％の高度経済成長により国民所得が上昇したが、一方で公害や所得の階層間格差の拡大等の社会のひずみが生じ、高度成長に取り残された人々に対して種々の福祉施策の充実が行われた。児童手当や老人医療の無料化制度の導入を中心に福祉施策の充実の内容とその社会的背景を理解する
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
国民所得倍増計画等の日本の高度経済成長に関することを調べる。
【予習復習に必要な想定時間】
45

第１３回　日本の現代社会と福祉Ⅵ（調整・転換期　1973～1999）
【key words】
低成長経済　老人保健法　社会福祉基礎構造改革　福祉8法改正
【授業概要】
約20年間続いた高度経済成長が低成長期に入り、石油危機をきっかけとして老人保健法による老人保健医療の構造改革および社会福祉の基礎構造改革が展開された。社会福祉の基礎構造改革とは何かを理解する
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
ゴールドプランやエンゼルプランに関する文献を読む。
【予習復習に必要な想定時間】
45

第１４回　日本の現代社会と福祉Ⅶ（再構築期　2000~現代）
【key words】
介護保険法　　障害者綜合支援法　社会福祉法
【授業概要】
少子高齢社会の社会保障制度の在り方について、社会保障審議会の1995年「社会保障の再構築勧告」は制度の再構築の必要性を勧告した。勧告後に社会保障がどのように再構築され、その理由と施策の実態を理解する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
社会福祉法の改正部分を調べる。
【予習復習に必要な想定時間】
45

第１５回　振り返り
【key words】
基本的人権　社会権　福祉国家
【授業概要】
近代社会における慈善事業、社会事業そして現代の社会福祉の変遷を振り返る。

	とりわけ、社会福祉の権利性についてその根拠や行使について振り返る。 【教科書ページ・参考文献】 ノートを読み返して社会福祉の歴史の概要をつかむ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 45 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	講義ノートをしっかりとること
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	授業中に質問する
授業外時間にかかわる情報	授業のなかで必要に応じて伝える
オフィスアワー	授業のなかで伝える
評価方法	期末試験　８０％　　授業の中での質問等での参加など取り組み状況等　２０％
教科書	使用しない
参考書	授業のなかで適宜伝える
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） ■情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 心理学研究法　　授業コード： S3051

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	社会福祉コース・学校教育コース・選択／福祉心理コース・必修
担当教員			
森　慶輔			
専門科目	講義		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 心理学で用いられている研究法の共通する基礎的知識・考え方を理解する。 【到達目標】 実験法・調査法・観察法・面接法の概容を理解する。 研究を「公表する」ときのルールを理解する。
授業の概要	本講義の目的は、心理学研究入門としての技能・技術の最低限の基盤知識を紹介し、基本的な考え方を理解することである。具体的には、心理学における研究法である実験法・調査法・観察法・面接法の概要を紹介することで、心理学の知見がどのように生みだされるのかを理解し、また研究結果を公表するということに関してのルールを理解することである。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	◎
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画

第１回　ガイダンス

【key words】
心理学　心　意識現象　意識　行動　実証的科学
【授業概要】
心理学の知見はどのように生みだされるのかを例を挙げて解説した上で、この授業で何を学ぶのかを説明します。
【教科書ページ・参考文献】
pp. i～iii, v, 1～7（序章）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〔予習〕教科書を読んでくる．質問事項は授業ノートに書き留めておき，準備する．〔復習〕授業ノートと教科書を読み直す．考えた事はノートに書き足す．質問事項はノートに書き留めておき，次の授業に備える．
【予習復習に必要な想定時間】
３時間

第２回　心理学のなりたち

【key words】
アリストテレス　還元主義　ダーウィン　進化論　比較心理学　ヴント　近代心理学　内観法　ゲシュタルト心理学　行動主義　フロイト　精神分析　社会心理学　認知心理学　バンデューラ　社会的学習理論

【授業概要】
心理学とはどのような学問であるのか、どのような歴史があるのかを説明します。
【教科書ページ・参考文献】
pp. 10～24（第1章）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〔予習〕教科書を読んでくる．質問事項は授業ノートに書き留めておき，準備する．〔復習〕授業ノートと教科書を読み直す．考えた事はノートに書き足す．質問事項はノートに書き留めておき，次の授業に備える．
【予習復習に必要な想定時間】

	３時間
第３回	研究の準備：心理学研究の基礎知識 【key words】 概念　定義　概念的定義　操作的定義　妥当性　信頼性　誤差　系統誤差　偶然誤差　相関　因果　共変　変数　独立変数　従属変数　操作　剰余変数　交絡　統制 【授業概要】 心理学の研究を行う上で必要な概念を説明します。（概念的定義と操作的定義、信頼性と妥当性、相関関係と因果関係、独立変数と従属変数） 【教科書ページ・参考文献】 pp. 25～36（第2章） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〔予習〕教科書を読んでくる．質問事項は授業ノートに書き留めておき，準備する．〔復習〕授業ノートと教科書を読み直す．考えた事はノートに書き足す．質問事項はノートに書き留めておき，次の授業に備える． 【予習復習に必要な想定時間】 ３時間
第４回	研究の準備：先行研究の探し方 【key words】 J-STAGE　メディカルオンライン　CiNii Articles　PsycARTICLES　PsycINFO　KAKEN（科学研究費助成事業データベース） 【授業概要】 心理学の先行研究はどうやったら読むことができるのかを説明し、実際に各自が興味関心のある論文を探します。 【教科書ページ・参考文献】 pp. 37～52（第3章） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〔予習〕教科書を読んでくる．質問事項は授業ノートに書き留めておき，準備する．〔復習〕授業ノートと教科書を読み直す．考えた事はノートに書き足す．質問事項はノートに書き留めておき，次の授業に備える． 【予習復習に必要な想定時間】 ３時間
第５回	研究の基礎：研究法概説 【key words】 実験法　統制群　要求特性　実験者効果　調査法　質問紙　尺度　評定法　内的一貫性　時間的安定性　オンライン調査　自然観察　実験的観察法　参与観察法　逸話記録法　行動目録法　生態学的妥当性　面接法 【授業概要】 実験法、調査法、観察法、面接法についてアウトラインを説明します。 【教科書ページ・参考文献】 pp. 53～65（第4章） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〔予習〕教科書を読んでくる．質問事項は授業ノートに書き留めておき，準備する．〔復習〕授業ノートと教科書を読み直す．考えた事はノートに書き足す．質問事項はノートに書き留めておき，次の授業に備える． 【予習復習に必要な想定時間】 ３時間
第６回	研究の基礎：人間を対象とする測定における諸問題 【key words】 参加者効果　要求特性　社会的望ましさ　デセプション　デブリーフィング　キャリーオーバー効果　実験者効果　二重盲検法　努力の最小限化　IMC　生態学的妥当性 【授業概要】 心理学の研究を行う上でどのようなことが問題となるのかを説明します。（参加者効果、実験者効果、努力の最小限化、生態学的妥当性との両立） 【教科書ページ・参考文献】 pp. 66～78（第5章） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〔予習〕教科書を読んでくる．質問事項は授業ノートに書き留めておき，準備する．〔復習〕授業ノートと教科書を読み直す．考えた事はノートに書き足す．質問事項はノートに書き留めておき，次の授業に備える． 【予習復習に必要な想定時間】 ３時間
第７回	データの中身を知る：記述統計 【key words】 変数　尺度　測定　比率尺度　間隔尺度　順序尺度　名義尺度　心理尺度　度数分布　ヒストグラム　代表値　平均　外れ値　中央値（メディアン）　最頻値（モード）　散布度　分散　標準偏差　四分位範囲 【授業概要】 数値データの処理方法（記述統計）について説明します。 【教科書ページ・参考文献】 pp. 79～95（第6章） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〔予習〕教科書を読んでくる．質問事項は授業ノートに書き留めておき，準備する．〔復習〕授業ノートと教科書を読み直す．考えた事はノートに書き足す．質問事項はノートに書き留めておき，次の授業に備える． 【予習復習に必要な想定時間】 ３時間
第８回	データから対象を見通す：推測統計

【key words】
標準化　標準得点　z値　偏差値　相関　散布図　相関係数　連関　疑似創刊　選抜効果　母集団　標本（サンプル）　推測統計　無作為抽出（ランダムサンプリング）　サンプルサイズ　標本統計量　標準誤差

【授業概要】
数値データの処理方法（推測統計）について説明します。
【教科書ページ・参考文献】
pp. 90～101（第6章の後半，第7章の前半）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〔予習〕教科書を読んでくる．質問事項は授業ノートに書き留めておき，準備する．〔復習〕授業ノートと教科書を読み直す．考えた事はノートに書き足す．質問事項はノートに書き留めておき，次の授業に備える．
【予習復習に必要な想定時間】
３時間

第９回　データから対象を見通す：推測統計

【key words】
統計的仮説検定　帰無仮説　有意水準　有意確率（p値）　第１種の過誤　第２種の過誤　検定力

【授業概要】
数値データの処理方法（推測統計）について、特に統計的仮説検定と統計的仮説検定における2種類の誤りについて説明します。
【教科書ページ・参考文献】
pp. 102～104（第7章の後半）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〔予習〕教科書を読んでくる．質問事項は授業ノートに書き留めておき，準備する．〔復習〕授業ノートと教科書を読み直す．考えた事はノートに書き足す．質問事項はノートに書き留めておき，次の授業に備える．
【予習復習に必要な想定時間】
３時間

第１０回　研究倫理：研究者として「なすべきこと」

【key words】
インフォームド・コンセント　デセプション　デブリーフィング　倫理審査　ＩＲＢ
【授業概要】
研究倫理について、研究者がしなければならないことを説明します。
【教科書ページ・参考文献】
pp. 113～124（第8章）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〔予習〕教科書を読んでくる．質問事項は授業ノートに書き留めておき，準備する．〔復習〕授業ノートと教科書を読み直す．考えた事はノートに書き足す．質問事項はノートに書き留めておき，次の授業に備える．
【予習復習に必要な想定時間】
３時間

第１１回　研究倫理：研究者として「やってはいけないこと」

【key words】
問題のある研究実践　仮説の後づけ（HARKing）　後知恵バイアス　偽陽性　確証バイアス　p値ハッキング（p -hacking）　出版バイアス　「お蔵入り」問題

【授業概要】
研究倫理について、研究者がしてはいけないことを説明します。
【教科書ページ・参考文献】
pp. 125～134（第9章）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〔予習〕教科書を読んでくる．質問事項は授業ノートに書き留めておき，準備する．〔復習〕授業ノートと教科書を読み直す．考えた事はノートに書き足す．質問事項はノートに書き留めておき，次の授業に備える．
【予習復習に必要な想定時間】
３時間

第１２回　先行研究を調べてみる

【key words】
先行研究　CiNii Articles　実験法　調査法　観察法　面接法

【授業概要】
論文検索サイトを使い、実験法、調査法、観察法、面接法を使った研究論文を探します。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
〔予習〕第４回の授業内容を復習しておく．質問事項は授業ノートに書き留めておき，準備する．〔復習〕授業ノートを読み直す．考えた事はノートに書き足す．質問事項はノートに書き留めておき，次の授業に備える．
【予習復習に必要な想定時間】
３時間

第１３回　先行研究の概要をプレゼンテーションする①

【key words】
先行研究　CiNii Articles　実験法　調査法　観察法　面接法

【授業概要】
前回の授業で探した研究論文について、プレゼンテーションを行うための準備をします。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
〔予習〕前回調べた研究論文を読んでくる．質問事項は授業ノートに書き留めておき，準備する．〔復習〕授業ノートを読み直す．考えた事はノートに書き足す．質問事項はノートに書き留

	めておき，次の授業に備える． 【予習復習に必要な想定時間】 ３時間 第１４回　先行研究の概要をプレゼンテーションする② 【key words】 先行研究　CiNii Articles　実験法　調査法　観察法　面接法 【授業概要】 前々回の授業で探した研究論文について、プレゼンテーションを行います。（10名程度） 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〔予習〕プレゼンテーション資料の作成．質問事項は授業ノートに書き留めておき，準備する． 〔復習〕授業ノートを読み直す．考えた事はノートに書き足す．質問事項はノートに書き留めておき，次の授業に備える． 【予習復習に必要な想定時間】 ３時間 第１５回　先行研究の概要をプレゼンテーションする③ 【key words】 先行研究　CiNii Articles　実験法　調査法　観察法　面接法 【授業概要】 前々回の授業で探した研究論文について、プレゼンテーションを行います。（10名程度） 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〔予習〕プレゼンテーション資料の作成．質問事項は授業ノートに書き留めておき，準備する． 〔復習〕授業ノートと教科書を読み直す．考えた事はノートに書き足して，学期末試験に備える． 【予習復習に必要な想定時間】 ３時間
受講生に関わる情報および受講のルール	コメントペーパーを提出してください。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	提出されたコメントペーパーによります。
授業外時間にかかわる情報	予習・復習にかける時間は３時間を目安とし、事前に教科書の該当部分に目を通してください。
オフィスアワー	原則として、毎回授業前後に質問・学習相談等に応じます。
評価方法	最終レポートを５０％、プレゼンテーションを２０％、コメントペーパーを３０％として評価します。
教科書	三浦 麻子（監修・著）『なるほど！心理学研究法』北大路書房，2017，ISBN 978-4-7628-2966-6
参考書	講義の中で適宜紹介します。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 学習心理学（学習・言語心理学）　　授業コード： S3061

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	社会福祉コース・学校教育コース・選択／福祉心理コース・必修
担当教員			
加藤　篤士			
専門科目	講義		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 学習・言語心理学を学ぶための基礎知識習得を目的とする。 【到達目標】 レスポンデント条件付け・オペラント条件付け・観察学習、言語発達に関する基本的な概念を説明できる。 学習心理学、言語心理学に関連した専門用語、学習のプロセス等に関する基本的な知識を得る。
授業の概要	本講義では、初学者が対象であることを念頭に、学習・言語心理学で見出された研究の解説を体系的に行う。内容としては、学習の基本的メカニズム、レスポンデント条件づけ、オペラント条件づけ、概念学習、言語発達、社会性の発達などを取り上げる。理解をより深めるために、アクティブラーニングの手法を積極的に活用する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	○
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回　ガイダンス，学習・言語心理学の概要 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２回　古典的条件づけ 【key words】 古典的条件づけ(レスポンデント条件づけ)・条件づけの形成・臨床的応用 【授業概要】 経験によって行動が変化することを「学習」といいます。古典的条件づけはパブロフの犬の実験でもよく知られています。臨床的にも、この理論で説明可能なものが数多くあります。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業で扱ったトピックスで関心を持ったものについて、文献にあたるなど自らの知識拡充に努めてください。 【予習復習に必要な想定時間】 180分 第３回　オペラント条件づけ 【key words】 オペラント条件づけ(道具的条件づけ)・行動の形成・応用行動分析 【授業概要】

		オペラント条件づけは、私たちの行動の多くを説明するとともに、問題行動の修正から心理療法まで幅広く用いられています。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業で扱ったトピックスで関心を持ったものについて、文献にあたるなど自らの知識拡充に努めてください。 【予習復習に必要な想定時間】 180分
	第４回	知識・概念の獲得と変容 【key words】 知識・スキーマ・概念・素朴概念・誤概念 【授業概要】 私たちが持っている様々な知識や概念は、どのように獲得されるのでしょうか。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業で扱ったトピックスで関心を持ったものについて、文献にあたるなど自らの知識拡充に努めてください。 【予習復習に必要な想定時間】 180分
	第５回	学習と問題解決 【key words】 問題解決・アルゴリズム・ヒューリスティクス・転移 【授業概要】 私たちは日々刻々、様々な問題を解決しながら過ごしています。そして、問題解決を通じて学習が起こっています。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業で扱ったトピックスで関心を持ったものについて、文献にあたるなど自らの知識拡充に努めてください。 【予習復習に必要な想定時間】 180分
	第６回	社会や集団での学習 【key words】 徒弟制・協働学習・仮説実験 【授業概要】 私たちは、周囲との関わり合いの中で様々なことを学んでいきます。関わり合いの中で、どのように学習が深まっていくのか、身近な事例を挙げながら解説します。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業で扱ったトピックスで関心を持ったものについて、文献にあたるなど自らの知識拡充に努めてください。 【予習復習に必要な想定時間】 180分
	第７回	学習の熟達と身体化 【key words】 熟達化・記憶・身体化・チャンク 【授業概要】 経験を積むことで、様々なことが出来るようになった経験は誰でも持っているものです。経験を積んで熟達した人と、そうでない人の違いは何なのか考えていきます。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業で扱ったトピックスで関心を持ったものについて、文献にあたるなど自らの知識拡充に努めてください。 【予習復習に必要な想定時間】 180分
	第８回	学習への動機づけ 【key words】 内発的動機づけ・外発的動機づけ・自己決定理論・アンダーマイニング効果 【授業概要】 行動を引き起こしたり、持続させたりする過程や機能を「動機づけ」といいます。ここでは、内発的動機づけの概念から、自律的な行動と自己決定理論について考えてみたいと思います。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業で扱ったトピックスで関心を持ったものについて、文献にあたるなど自らの知識拡充に努めてください。 【予習復習に必要な想定時間】 180分
	第９回	言葉の発生の基盤 【key words】 言語・模倣・チョムスキー・ブローカ野・ウェルニッケ野 【授業概要】 １歳くらいになると言葉を話し始め、やがて豊富な会話が出来るようになります。ここでは、子どもが言葉を獲得する仕組みについて考えます。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】

		授業で扱ったトピックスで関心を持ったものについて、文献にあたるなど自らの知識拡充に努めてください。 【予習復習に必要な想定時間】 180分
	第１０回	話し言葉の発達 【key words】 クーイング・アタッチメント・社会性の発達 【授業概要】 話し言葉の発達という観点から言語習得のメカニズムを考えていきます。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業で扱ったトピックスで関心を持ったものについて、文献にあたるなど自らの知識拡充に努めてください。 【予習復習に必要な想定時間】 180分
	第１１回	書き言葉の獲得 【key words】 疑似文字・ディスクレシア・語彙・自伝的記憶 【授業概要】 書き言葉の発達という観点から言語習得のメカニズムを考えていきます。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業で扱ったトピックスで関心を持ったものについて、文献にあたるなど自らの知識拡充に努めてください。 【予習復習に必要な想定時間】 180分
	第１２回	生涯発達 【key words】 リテラシー・ワーキングメモリー・メタ認知 【授業概要】 読み書きの能力は義務教育を通じて完成させていきます。その発達過程や多様性について、考えてみたいと思います。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業で扱ったトピックスで関心を持ったものについて、文献にあたるなど自らの知識拡充に努めてください。 【予習復習に必要な想定時間】 180分
	第１３回	外国語の習得 【key words】 バイリンガル・臨界期・喃語・語彙 【授業概要】 最初に習得する言語を第一言語(母語)、それ以降に習得した言語を第二言語と言います。第二言語はどのように習得されるのか考えてみたいと思います。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業で扱ったトピックスで関心を持ったものについて、文献にあたるなど自らの知識拡充に努めてください。 【予習復習に必要な想定時間】 180分
	第１４回	学習と言語の障害 【key words】 限局性学習障害・ADHD・ASD・アセスメント 【授業概要】 学齢期に学習や言語の障害が顕著になることがあります。ここでは、学校等で相談支援する際に押さえておくべき点について考えていきます。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業で扱ったトピックスで関心を持ったものについて、文献にあたるなど自らの知識拡充に努めてください。 【予習復習に必要な想定時間】 180分
	第１５回	まとめ 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 180分
	第１６回	到達テスト 【key words】 【授業概要】

	【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 講義の最後に授業内容に関するリアクションペーパーを作成して提出することが求められる。 〔受講のルール〕 配布資料を冊子としてまとめておく、あるいはノートを作成すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	リアクションペーパー
授業外時間にかかわる情報	次週の内容に関する文献、および講義中に配布・紹介した資料を使って各自で問題意識を持って受講して欲しい。
オフィスアワー	授業前後を予定している。
評価方法	リアクションペーパー（30%）、期末テスト（70%）
教科書	使用しない
参考書	実森 正子 ・ 中島 定彦（著） 学習の心理―行動のメカニズムを探る（コンパクト新心理学ライブラリ 2） サイエンス社 2019年改版 第2版 その他、講義の中で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 医療機関での心理士業務 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） ■情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 発達心理学　　授業コード： S3071

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年次	4単位(60)	社会福祉コース・学校教育コース・選択／福祉心理コース・必修
担当教員			
橋本　広信			
専門科目	講義		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 人は人として生きるように独自の準備をして生まれてくる。しかし、ただ生まれただけでは、「ヒト」として普通に生きていくことは不可能である。人は人として生きるために、誕生後に多くの変化を遂げることを前提に生まれてくるのである。しかも、その変化は一人で達成できるものではなく、親を代表とする周囲の環境との相互作用において、はじめて成しうる形になっている。本講義では、こうした人の生涯（Life）の中で起こる絶え間ない変化を”発達”として捉え、そこに潜む発達のメカニズムを学ぶことを第一の目的とする。 また、その理解を通して、人が経験する出来事や変化が、人生全体（生涯発達）においてはどのような意味を持つのかについて、その影響の仕方を理解する感性と力を磨いてもらいたい。その力が、今目の前にいる人に対してどのような支援が必要なのかを適切に理解する前提となるからである。 【到達目標】 ①人の発達的変化における心理的過程とその基本的なメカニズムを理解できる。 ②人の発達的変化を踏まえたうえで、各発達段階において顕著になる心理的特性を理解できる。 ③生涯発達の枠組みから見た各段階における心理的変化の意味や意義を理解し、各段階で人が背負う発達上の課題を説明することができる。
授業の概要	この授業では基本的に教科書のトピックに即しながら、生涯発達心理学の視点に立って各発達段階の一般的な心理的特性と発達的変化の過程を学習する。さらに、提示する参考資料を基に学習したことを応用し、具体的な人物の心理や発達的変化の意味や意義を考察し、学習の理解を深めていく。各自、“人”という存在に興味を持ち、積極的に人とその人生を探究する気持ちを持って受講してもらいたい。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	◎
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	△
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回　　科目オリエンテーション　生涯人間発達論（序説）：ヒトとして生まれるということ 【key words】 【キーワード】 ・進化、遺伝と環境、シュテルン、輻輳説、ジェンセン、環境閾値説、ルクセンブルガー、ライフサイクル、エリクソン、心理社会的危機 【授業概要】 ・科目のオリエンテーションを行う。1年間をかけながら「発達に関する心理学」を学ぶ見通しについて説明する。そして、人の連続的な変化の様相を「発達」としてとらえる見方について解説する。 ・また、あらゆる人が、誰かの子として生まれ、そこで育ち、どこかの社会に入り込み、やがて死と向き合いながら老いていくという基本的なライフサイクルを進む“旅”をしているというイメージについて考え、今後の学習課題のイメージを広げ、共有していく。 （予定ワーク「生まれてから死ぬまでの一生涯をいくつかの時期に分けるとするならば、どのように分けるか。また、そのように分けた理由を説明できるようにしておくこと。」） 【教科書ページ・参考文献】 ・教科書1－15ページ

		【課題・予習・復習・授業準備指示】 ①「ヒトの一生」をイメージしＡ４用紙に絵で表現する。余白に解説を加えること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間
	第２回	ヒトの誕生の独自性 【key words】 自己意識、共同注意、ポルトマン、離巣性、就巣性、生理的早産、祖母仮説、ブロンフェンブレンナー、生態学的システム理論、遺伝子型、表現型、双生児法、共有環境、行動遺伝学、 【授業概要】 ・ヒトは誕生のあり方が他の動物と比較すると特徴的であること、また長い子ども期をもつことなどの発達的な意義について学んでいく。 【教科書ページ・参考文献】 教科書18-20ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 哺乳類を中心に、どのような生まれ方をしてくるか、５種類程度調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間
	第３回	胎児期：生命の芽生えから誕生まで 【key words】 胎児、胎芽、感覚、出生前診断、トリソミー、新優生学 【授業概要】 ヒトの「胎児期」の発達状態についてまず学習する。ヒトとしての発達は受精直後からスタートするといえるが、時にはその時点での環境や発達上の問題が大きく人生を左右することを理解する。くこと。 後半は出生をめぐる現代的な問題として、新型出生前診断がもたらす影響について検討し、「新優生学」について考えていく。 【教科書ページ・参考文献】 教科書18-34ページ、プリント 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書、行動遺伝学について調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間
	第４回	赤ちゃんがとらえる世界①　生まれたときにできること、できないこと 【key words】 タブラ・ラサ、選好注視法（ファンツ）、馴化ー脱馴化法、期待背反法、原始反射、原始行動、神経伝達物質、シナプス、シナプス形成、シナプスの刈込み 【授業概要】 ・ヒトが生まれた時に“本能的にできる”こと（原始反射・原始行動）を学び、それを備えて生まれてくることの意味を考えていく。人が生まれた時にはどのような状態であるのか。 歩き話せるようになるまでの１年程度の間に、どのような身体的・運動的機能が伸びるのかを概観する。この時期に身体感覚と運動能力を駆使しながら、全身で生きる体験を積むことの重要性を考える。 【教科書ページ・参考文献】 プリント・資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書に詳細な説明がない用語の説明の会になるので、あらかじめスレッドで配信された資料に目を通して予習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間
	第５回	赤ちゃんがとらえる世界②　認知の発達 【key words】 表象、対象の永続性、サビタイジング、顔の認知、ピアジェの認知発達理論、シェマ、同化、調節、均衡化、操作、感覚運動期、前操作期、具体的操作期、形式的操作期、脱中心化、三つ山問題 【授業概要】 ・子どもが感じている感覚的な世界と大人の感じる世界の違いについて、ピアジェの理論を通して学んでいく。また、そこに見られる「子どもらしさ」というものがもたらす認知の特徴について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 プリント・資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書に詳細な説明がない用語の説明の会になるので、あらかじめスレッドで配信された資料に目を通して予習をしておくこと。ピアジェ理論は様々な教科で扱われる重要理論になるので、予習をよくしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間
	第６回	他者との関係性の発達 【key words】 ・ベビースキーマ、共鳴動作、生理的微笑、社会的微笑、デュシェンヌ・スマイル、ボウルビィ、愛着（アタッチメント）、ハーロウ、エインズワース、ストレンジシチュエーション法、Ａ～Ｄ型 【授業概要】 ・赤ちゃんとして生まれた時の特徴を踏まえ、それらが引き出す大人の反応を理解する。また、誕生と同時に、それぞれの個性を持った赤ちゃんと親の間に、強い関係性が生じるが、それらの型がどのように発達に影響を及ぼしていくかについて、新規場面法の実験を通して理解する。 【教科書ページ・参考文献】 プリント中心、教科書27ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書に詳細な説明がない用語の説明の会になるので、あらかじめスレッドで配信された資料に目を通して予習をしておくこと。愛着理論は様々な場面で扱われる重要理論になるので、予習をよくしておくこと。

【予習復習に必要な想定時間】
予習2時間、復習2時間

第７回　言語と遊びの発達①

【key words】
スターン、表象、延滞模倣、象徴機能、シンボル、ふり遊び、ごっこ遊び、構音、クーイング、規準喃語、共同注視、共同注意、9カ月の奇跡、社会的参照、指さし行動（要求、叙述、応答）、初語
【授業概要】
・言葉を持たずに生まれてきた赤ちゃんの世界は感覚的な世界として成り立っていると推測されるが、そこに言葉というものが入り込むプロセスを見ていく。また、単純ではあるが、一つの言葉を備えることによって、子どもの世界がどのように広がり、変化をしていくかについてイメージをできるようにする。
【教科書ページ・参考文献】
プリント中心
【課題・予習・復習・授業準備指示】
言葉の発達の基本について、その流れをあらかじめ予習しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第８回　言語と遊びの発達②

【key words】
一次的ことば、二次的ことば、ビューラーの遊びの分類、パーテンの遊びの分類、ソーシャル・スキル
【授業概要】
言葉そのものの発達によって広がる知的感覚的世界と、それに伴って広がっていく、子どもの遊びの様相について学ぶ。
また、子どもの遊びの背後にある、知的感覚的世界を理解することで、何が育っているか、どのような能力を使っているかを理解する。
また、多様な遊びができるようになることで発達する、社会性についても考える。

【教科書ページ・参考文献】
教科書54－70ﾍﾟｰｼﾞ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
小学校以前の幼い頃に自分がどのようなおもちゃで遊んでいたか書き出しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習2時間、復習2時間

第９回　幼児後期①：自己の芽生えと発達

【key words】
主体としての自己、客体としての自己、ダブルタッチ、生態学的自己、対人的自己、マークテスト、第1次反抗期、自己主張期
【授業概要】
生まれた時には、ヒトはおそらく自分がどのような人間なのかなどということを考えることさえできない。しかし、毎日の暮らしの中で積み上がっていく体験や感覚的世界の中で、やがて身体で感じる感覚、心に湧き出る感情などを通し、ある時「自己」というものの存在に気づく。ここでは、乳幼児期の自己の発達の様相を見ていくことで、ヒトらしさの元ともなる自己意識の形成過程を学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
教科書39-45ﾍﾟｰｼﾞ、プリント
【課題・予習・復習・授業準備指示】
抽象的な概念であるが重要な「自己」の発達を扱う。ワークなどを行うので積極的に参加すること。
【予習復習に必要な想定時間】
予習2時間、復習2時間

第１０回　幼児後期②：仲間の中での育ちと道徳性の発達

【key words】
うそ、心の理論（プレマック）、誤信念課題、だまし箱課題、社会的知性仮説、道徳性、コールバーグ、3水準6段階の道徳性発達理論
【授業概要】
・自己を客体として見ることができるようになり、自分の経験を表現する手段である話し言葉が発達するに伴い、子どもは自分の内面に注意を向け、理解するとともに、他者から望まれている自己を演じることができるようになる。こうした力は、やがて「嘘」や演技をする力として育ち、周囲の人たちの要求に調和的に振る舞う抑制力を育てていく。さらに、世の中でどのような振る舞いや価値が求められるのかという、道徳性の発達にもつながっていく。今回は、こうした発達を支える心の理論を中心と道徳性について学んでいく。
【教科書ページ・参考文献】
教科書76-83ﾍﾟｰｼﾞ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・幼い頃、何をしたら怒られたか、罰を受けたかを書き出しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習2時間、復習2時間

第１１回　対人関係の発達と社会的スキル

【key words】
ギャング・グループ、ギャング・エイジ、チャムシップ（サリヴァン）、ソーシャル・スキル（生活技能）、ソーシャル・スキルズ・トレーニング（SST）
【授業概要】
児童期は親に依存していた状態から少しずつ自律・自立に向かう時期。子ども同士の関係において、集団関係の体験を重ねることで、〈ソーシャルスキル〉を得る時期とも考えられる。現代は、集団を作りにくい社会であるため、社会性を伸ばす環境が弱いことや、だからこそ意図的にＳＳＴなどでそうした力を伸ばす必要性があるということについて考えていく。
【教科書ページ・参考文献】
教科書72-84ﾍﾟｰｼﾞ、プリント
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書該当部分を熟読しておくこと。

【予習復習に必要な想定時間】
予習2時間、復習2時間

第１２回　エリクソンの発達段階論　児童期（学童期）まで

【key words】
ライフサイクル、エピジェネティック・チャート、基本的信頼、自律性、勤勉性、コンピテンシー等
【授業概要】
エリク・エリクソン（E.H.Erikson）は、誕生から死に至るまで、人は特徴的な発達の段階を経ながら、一連の継続する過程を進むとした（ライフサイクル論）。今回は、ここまでの授業を振り返りながら、エリクソンのエピジェネティックチャート（漸成発達理論図）の基本的な見方を学びながら、その前半部である第4段階までを概観する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書1-79ﾍﾟｰまで全体を通して。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書該当部分を熟読しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習2時間、復習2時間

第１３回　思春期の発達危機

【key words】
二次性徴、めざめ感、自己中心性、自我体験、不安、自意識、孤独感、夢、思春期モーニング
【授業概要】
子ども期と大人期の狭間の時期が青年期である。その前半である思春期の発達について学ぶ。特に二次性徴という激しい質的・量的変化とともに引き起こされる自我体験にスポットをあて、子どもの時期が終わっていくとともに、次の大人に向けた変化がどのように起こってくるかを考える。
【教科書ページ・参考文献】
教科書88-96ﾍﾟｰ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
自分の思春期の頃の作文や日記などをもとに、思春期に起きた内面的な変化についてレポートできる準備をしておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習2時間、復習2時間

第１４回　思春期の発達的な問題とケア

【key words】
反抗、家庭内暴力、いじめ、不登校、神経症、依存症
【授業概要】
事例を通して、思春期の発達的な問題について理解を深めていく。思春期の発達的問題は大きく身体的変化に基づくが、同時に、それは親子関係の問題や仲間関係の問題とも深く関わりながら現れてくる。この時期の様々な問題を、発達的な意義の側面から考えてみることで見えてくる、発達的な意義を考える。
【教科書ページ・参考文献】
教科書96-101ﾍﾟｰ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
コグニティブ・トレーニングを調べておくこと。できれば宮口幸治の本を調べて読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第１５回　子どもからの卒業　言葉を失うこと・つかむこと

【key words】
想定書簡法、言語化不能の時期
【授業概要】
前期のまとめとして、「子どもの終わり」（卒業）について考えていく。児童期までの土台の上に、心身の大きな変化が加わり、意識が自己に集中する過程を理解する。そして、この過程において、一度自分が混乱し、自己を掴んで語る言葉を見失うことが生じる。思春期のこうした言葉の喪失と再獲得の様相を通して、子どもからの卒業のあり方について考えていく。
【教科書ページ・参考文献】
教科書96-101ﾍﾟｰ、プリント
【課題・予習・復習・授業準備指示】
「子ども時代とは、どのような時代なのか」について話し合う。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第１６回　青年期①　アイデンティティ・クエストと未来の職業選択

【key words】
アイデンティティ、アイデンティティ拡散、マーシャ、アイデンティティ・ステイタス理論、コミットメント、危機、伝統的移行モデル、MAMAモデル、ゼロ・アイデンティティ
【授業概要】
青年期は人によりその動揺の程度は異なるものの、等しく「変容の過程」だといってよい。この過程の先に、自分が誰でどのような人間であるかというアイデンティティの課題への答えが選ばれ、それぞれの人の“パーソナリティ”の形が明確になってくる。また、青年期の出口では、社会で働く（就職）ことが大きな課題であるため、こうしたアイデンティティの課題と“働くこと”の課題は、重なり合いながら、青年に解決を求めていく。このアイデンティティ探索の過程と働くことのかかわりについて、本講義ではマーシャの理論を中心に学んでいく。

【教科書ページ・参考文献】
教科書104-115ﾍﾟｰ、プリント
【課題・予習・復習・授業準備指示】
マーシャの同一性地位論について調べておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第１７回　青年期②　親子関係から

【key words】
アイデンティティ、アイデンティティ・クエスト、ジェンダー・アイデンティティ、性の受容、

		親子関係、脱衛生化、心理的離乳、共依存、毒親 【授業概要】 子どもから大人への過渡期である青年期には、親子の関わりが再び重要なテーマにもなってくる。自立に向けたプロセスにおいて、かつて青年期を経験した親との間に、どのような関係が浮かんでくるか。ここでは、心理的離乳という言葉を手掛かりに、子どもが親の力も借りながら、親からも卒業し、一人の人として自立するステップについて理解していく。 【教科書ページ・参考文献】 教科書106-109ﾍﾟｰｼﾞ、プリント 【課題・予習・復習・授業準備指示】 友情や恋愛感情がうまく表現されていると思われる作品を探して、説明できるようにしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間
	第１８回	青年期③　青年期の友人関係と恋愛関係 【key words】 ・ホール（Hall,S.）、疾風怒涛、ジェンダー、形式的操作、第二反抗期、青年期年期平穏説、友人の機能、チャムシップ、恋愛、恋愛スタイル 【授業概要】 人生の十字路ともいえる青年期には大きな選択や変化を体験する。動揺することによって、新たな大人としての自己を生む過程において、自己を互いに支え合う仲間である友人の役割が大きくなる。また、そうした親密な関係づくりを通して、異性との出会いや関係の基本的スタイルも出来上がるといえる。ここでは、友人関係と恋愛関係のあり方の中に見える、青年期の心理について学んでいく。 【教科書ページ・参考文献】 教科書107-109ﾍﾟｰｼﾞ、プリント 【課題・予習・復習・授業準備指示】 心理的離乳について調べておくこと。また、自分の日ごろの親子の関わり方について振り返っておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習2時間
	第１９回	青年期の発達的な問題とケア 【key words】 青年期境界例、境界性パーソナリティー障害、アイデンティティ拡散症候群、同一性確立の困難さ 【授業概要】 ・青年期の変容過程においては、進むべき道を見失ったり、自分がわからなくなったり、様々な混乱を体験することが多くなる。少年院や心理臨床場面の事例などをもとに、人生を前に向かって進めなくなる青年たちの多くが体験する青年期の発達的な問題を整理し、何が本質的な課題であり、そこから進むために必要な支援は何かを探索する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書110－117ﾍﾟｰｼﾞ、プリント 【課題・予習・復習・授業準備指示】 指定する人物について調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習2時間
	第２０回	成人前期①　愛することと成人前期の課題「親密性　対　孤立」 【key words】 親密性、モラトリアム、山アラシのジレンマ、ピーターパン・シンドローム、シンデレラ・コンプレックス、アパシー・シンドローム、社会的ひきこもり 【授業概要】 青年期を通過し、社会に居場所を得たところで成人前期は始まる。大人として扱われる中で、青年期に選択した役割や責任を引き受けられるかどうか、試される中で、社会における自己を確立していくことになる。今回は、成人前期における発達上の課題についてまず理解をし、それが引き延ばされる、という現代的な問題についても感が手見る。 【教科書ページ・参考文献】 教科書120-132ﾍﾟｰｼﾞ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ピーターパン・シンドローム、シンデレラ・コンプレックス、ヤマアラシのジレンマなどの言葉について調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習2時間
	第２１回	成人前期の危機と精神病理：大人になれない大人たち 【key words】 不安神経症、パーソナリティ障害、自傷、摂食障害、境界性人格障害、アタッチメントの問題、創造的退行 【授業概要】 ・青年期までに解決できなかった問題を抱えたまま大人の年齢に入ることは珍しくない。この未解決の問題が、成人期になってから形になり、心理的にも社会的にも「病的」な状態になることがある。ここでは、そうした問題について、どのように受け止め、支援をしていくべきかについて考えていく。 【教科書ページ・参考文献】 アパシー、バーンアウト、社会的ひきこもり、パラサイトシングル 【課題・予習・復習・授業準備指示】 パーソナリティ障害について調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間
	第２２回	職業選択とキャリア発達 【key words】 ライフロール、ライフ・キャリア・レインボー（スーパー）、ロストジェネレーション、早期離職、希望格差社会 【授業概要】 ・社会人としての責任を負い始めることで、青年は自らの青年期を終わらせ、徐々に「成人」と

		しての自分を生き始め、キャリア発達を遂げていく。しかし、社会人としての経験が浅い中で、求められる役割をしっかりと果たせる成人ばかりではない。ここでは、成功する例はもちろん、一度成人期に出ても継続して社会生活を送ることができない事例も挙げて、成人期のキャリア発達の課題について考えていく。 【教科書ページ・参考文献】 教科書144-149ﾍﾟｰｼﾞ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 働くことが、収入の確保以上に何をもたらすかについて、考えておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習2時間
	第２３回	成人中期①　中壮年期概観 【key words】 生殖性（ジェネラティヴィティ）　対　停滞、世話の活力、相互性、機能不全家族 【授業概要】 エリクソンのライフサイクル論における、成人期の一般的な発達上の課題について、特にジェネラティヴィティ（生殖性）という言葉を中心に学んでいく。また、成人期の大きな課題として多くの人が向かい合う、《新たな家族の形成》（または家族を形成しないで生きていく）という課題について学び、〈家族の機能〉について考える。また、機能不全家族の淵源についても検討し、〈大人になってから、自分の過去を取り戻そうとする〉という心理について考える 【教科書ページ・参考文献】 教科書134-140ﾍﾟｰｼﾞ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「家族」の研究は多く社会学や人類学等で行われてきている。家族の役割についてあらかじめよく調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間
	第２４回	レヴィンソンとグールドの発達理論 【key words】 レヴィンソン、生活構造、安定期、過渡期、グールド、誤った想像 【授業概要】 ・エリクソンンとは別の発達心理学者による成人期の理論について学んでいく。特に、有名なレヴィンソンのモデルとその研究から成人期の発達の様相を学び、グールドの7つの発達段階論を通して、成人の発達を詳しく見ていく。 【教科書ページ・参考文献】 教科書140-142ﾍﾟｰｼﾞ、プリント 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ワークシートに沿って、自分の親とその親について、簡単なインタビューをしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間
	第２５回	成人中期の発達的な問題とケア 【key words】 ・アルコール依存、ストレス、中高年のひきこもり、中年期の危機、個性化 【授業概要】 ・かつてはあまり注目されなかった、大人になってからの精神的な問題や社会的不適応の問題について検討する。特に依存症と中高年のひきこもりに焦点を当て、「中年期の危機」とその意義（再生）について学んでいく。 【教科書ページ・参考文献】 教科書142-150 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・藤田孝典（2019）『中高年ひきこもり：社会問題を背負わされた人たち』（扶桑社新書）の概要を調べてできれば読んでおくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間
	第２６回	成熟期 【key words】 ・加齢、空の巣症候群、ビューラー、ヴェイラントの発達論、バトラー、ライフレビュー、サクセスフル・エイジング、役割の喪失、時計の時間、心の時間 【授業概要】 ・生活の中にライフサイクルの最終段階への意識が入りこむ成熟期。この時期には加齢による様々な変化が押し寄せてくる。また心理社会的な変化も大きい時期であり、一人ひとりの個性が強く出てくる時期ともいえる。こうした成熟期の発達上のテーマについて学び、支援の道筋を考える手がかりを見出していく。 【教科書ページ・参考文献】 教科書152-158ﾍﾟｰｼﾞ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・松島恭子編（2004）『ライフサイクルの心理療法』（創元社）から（プリント） 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間
	第２７回	成熟期の発達的な問題とケア 【key words】 ・絶望、後悔の心理、熟年離婚、熟年の自殺、健康と病 【授業概要】 ・成熟期は病や老い、経済的な困窮など、さまざまに解決しがたい問題とも向き合っていかなければならない。また、同時に、自分の「これまで生きてきた私と再び向き合い直す」という発達上の課題があり、人によりこの過去との向き合いの中に、さらなる「危機」を体験することを学んでいく。 【教科書ページ・参考文献】 プリント 【課題・予習・復習・授業準備指示】 映画『ストレイト・ストーリー』のあらすじを確認しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】

	予習3時間、復習1時間 第２８回　成人後期 【key words】 統合　対　絶望、高齢者の知恵、グリーフケア、モーニングケア、死の受容 【授業概要】 ・成人後期はいわゆる老年期である。この人生最終盤の心の仕事は、自分というものの終わりを受容していく課題だともいえる。それは、その日その瞬間が来るまで、生きている限り生き続けていくことだともいえる。数々の心身の不調や不安に襲われながらも、自己を統合し続けていくという老年期の心理的課題を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 キューブラー・ロスの死の受容の理論についてあらかじめ調べておくこと。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 指定する映画のあらすじを調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間、復習3時間 第２９回　統合しきれない物語　ライフクリプトについて 【key words】 語れない物語、ライフクリプト、グリーフケア、モーニングケア、ＰＴＳＤ、ＰＴＧ 【授業概要】 ・長い人生を生きていく中では、人それぞれに、誰にも語ることのできない物語を抱え込むことが予想される。笑顔の奥に潜む、心の傷や負の記憶などを抱えて生きることの意味を理解し、そうした思い出を含めて、まるごと人を支える態度の大切さを解説する。 【教科書ページ・参考文献】 プリント 【課題・予習・復習・授業準備指示】 指定した論文をもとに授業を行う。人によって、誰にも語れない物語を抱えていくことを前提に、そのようなことが描かれている作品を探して説明できるようにしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習2時間 第３０回　まとめ　”私”のライフサイクルの完結 【key words】 終末期の死のプロセス、キューブラー＝ロス、お迎え体験、スピリチュアル・ペイン、延命治療と尊厳死、ライフサイクルの完結 【授業概要】 ・老年期に至り、「死」が現実のものとして意識されてくると、自分の人生を閉じるということが、リアリティをもつテーマとなります。 ・発達心理学の最後のテーマは、長い時間を築き上げてきた「私」の時間が終わることについて考える。映画の架空の物語を一つの題材として、「私が死んでいく」ということに対する意識や、死の瞬間について学び、本講義のまとめとする。 【教科書ページ・参考文献】 教科書188-196ﾍﾟｰｼﾞ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 映画『ワンダフルライフ』をできる限り視聴しておくこと。最低限あらすじを調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習2時間
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・人生初期から終末期に至るまで長期間の発達を扱う。人の生涯全般に興味を持ち、人生そのものを深く考える姿勢を求める。 ・各発達段階の講義終了時などに、「まとめ課題」「調べ課題」など、ミニレポートの提出を求める予定。 〔受講のルール〕 ・遅刻、居眠り、飲食等はせず、集中して受講すること。 ・他の受講生の迷惑になる行為（私語等）や指示のない中での情報通信機器（スマートフォン・ノートPC等）の操作はしないこと。 ・勝手な振る舞いなど、講義の妨げになる行為を繰り返す場合、退出を命ずる。この理由での退出は欠席扱いとするので注意すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	資料を配布するシステムのスレッドに返信する形で、各授業終わりにコメントを入れておくこと。出席の確認のためにも行うので、必ず学籍番号と名前を入れて、コメントを書き込んでおくこと。
授業外時間にかかわる情報	授業ごとの授業計画で、授業の前に調べておくことや授業後に整理すべきこと等の課題を課し、授業外学習を求めることがある。事前にシラバスをもとに何をすることを求められているかについて理解をし、準備や事後学習をすること。
オフィスアワー	高等教育支援センターにて授業後30分を予定。その他センターにて声をかけること。メールでの相談や質問も受け付ける。hashimoto@shoken-gakuen.ac.jp
評価方法	①前期後期の期末にそれぞれ筆記試験を実施する。この到達度を見る試験（80%）、②授業時に指示をする「まとめ」もしくは「調べ」課題（レポート課題等）に関する総合評価（20%）、これら①～②を合わせて総合評価を出し60%以上の評価得点のものを単位認定する。レターグレード（S・A・B・C）については、本学基準に沿って算出する。
教科書	服部祥子（2020）『生涯人間発達論：人間への深い理解と愛情を育むために』（医学書院）
参考書	適宜指示をする
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素

	□PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 ■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容 ネット上で公開されている動画などの視聴をあらかじめ義務付け、授業の前提とすることがあるので、指示に従って準備をすること。

講義科目名称： 教育心理学（教育・学校心理学）　　授業コード： S3111

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	社会福祉コース・選択／福祉心理コース・学校教育コース・必修
担当教員			
橋本　広信			
専門科目	講義		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。 【到達目標】 ①発達段階や個人差を前提にした、適切な教育のあり方を理解する。 ②学校や園での教育を中心とした、発達と教育に関する心理学の基礎知識を修得する。 ③学習方法や指導法や教授法、学びや認知の過程の理解を深めることで、よりよい教育の成立のために必要なことについて理解し、説明できる。
授業の概要	発達段階や個人差を心理面からよく理解した上で、一人一人の子どもに対する適切な教育のあり方について、これまでの教育心理学の成果をふまえて考えていく。また、学校を中心とする子どもたちの集団での学びおよびその学びの場で、幼児、児童及び生徒が出会う発達上の課題や教育上の問題について理解する。 　本講義では、学生自身の体験を自ら振り返りながら、よりよい教育的な関わりとはどのようなことなのか、話し合う機会も多く設けたい。また、子どもが体験する具体的な学習項目も挙げながら、幼児、児童及び生徒の学習や認知的プロセスの傾向性を理解し、個に応じた指導や多様な教授法の基本となる考え方を理解する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	○
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	発達と教育科目オリエンテーション：教育心理学を学ぶことの目標 【key words】 獲得と喪失、ナチュラル・ペダゴジー説、促進的教育、発達の再近接領域（ヴィゴツキー）、足場かけ 【授業概要】 科目オリエンテーションとして、発達と教育の関係性を学ぶ。特に、人の営みとしての「教育」がもつ特殊性の理解から、人が集団で社会を形成して生きる道を選んだこと、そこでの教育の可能性をいかに考えるかということが、「教育」の効果を左右する要因となる点などについて理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書2-16ページ（教科書第1章） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ヴィゴツキーという人物について調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間
	第２回	認知の発達 【key words】 ピアジェ、シェマ、同化と調節、感覚運動期、前操作期、象徴的思考段階、直観的思考段階、具体的操作期、形式的操作期 【授業概要】

		ピアジェが考えた認知発達のプロセスを理解する。子どもがどのように世界と自分を理解し、大人とどのように異なるのかを考える。また、ピアジェ以後の研究でわかってきたことや、関わり合いの中で子どもを見ることの重要性について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書17-29ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ピアジェの認知発達理論について予習を行っておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間
	第３回	学習の理論 【key words】 パブロフ、古典的条件付け、スキナー、オペラント条件付け、バンデューラー、観察学習、状況論的アプローチ（ヴィゴツキー）、正統的周辺参加、状況に埋め込まれた学習 【授業概要】 行動論、認知論、状況論という三つの立場から、学習はそれぞれどのようにとらえられるのかについて学ぶ。様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を学びながら、どのようなことが起これば学習が成立したと考えるべきなのかについて検討する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書32-44ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 パブロフとスキナーの考え方の違いについてよく理解するために予習をすること。レイヴとウェンガーの「正統的周辺参加」の概念は難しいので、あらかじめ予習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間
	第４回	知識の獲得と問題解決 【key words】 選択的注意、短期記憶、ワーキングメモリー、長期記憶、チャンク、リハーサル、体制化、精緻化、宣言的記憶、非宣言的記憶、意味記憶、エピソード記憶、手続き記憶、問題解決、洞察 【授業概要】 日々の学習は記憶として脳内に保存される。ここでは、子どもの日々の学びがどのようにして記憶として蓄積されるのか。記憶のメカニズムを理解し、子どもの知識獲得や問題解決のプロセスの土台を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書45-51ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 記憶は特に重要な部分なので、よく復習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習2時間
	第５回	学習への意欲と動機づけ 【key words】 マズロー、ケンリック、内発的動機づけ、外発的動機づけ、自己調整学習、アンダーマイニング効果、エンハウンシング効果、期待価値論、学習性無力感、達成目標理論 【授業概要】 学習のあり方を左右する要因としての「動機」に注目する。動機の背景に潜む欲求をマズローの欲求階層説をもとに整理する。また、動機づけの代表的分類である内発的動機づけと外発的動機づけについて取り上げる。また学習への動機づけの強さと、個人のコンピテンスや自己効力感、原因帰属との関係についても学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書52-66ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 学習に関する思い出を掘り起こし、「やる気が出た」状況と、「やる気を失った」状況を挙げておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習2時間
	第６回	協働学習 【key words】 協働学習、他者の影響、バズ学習、ジグソー学習、 【授業概要】 学習に関する理論を学んだところで、ここでは他の学習者とともに学ぶことの意義や教室の中でそのような学習が行われる方法について学ぶ。特に、教室の中でグループを作って学ぶ方法の特徴について学んでいく。 【教科書ページ・参考文献】 教科書67-73ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 グループ学習などの体験を振り返り、仲間と共に学習をする形態のメリットとデメリットをあらかじめ箇条書きにして、発表できるようにしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間
	第７回	授業のタイプ 【key words】 発見学習（ブルーナー）、有意味受容学習、プログラム学習、ICTの利用、反転授業 【授業概要】 教室で行われる授業について、学習過程に注目して分類できることを理解する。特に、学習を有意味なものとしてとらえるのか、機械的なものとしてとらえるのか、また、学習者自身が発見的に取り組むのか、与えられたものを受容するのかということで分類しあり方について理解し、それぞれの特徴を整理する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書74-81ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分が受けた授業のタイプを分けて整理しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間

	第８回	個に応じた学びと指導 【key words】 適正処遇交互作用（クロンバック）、学力の個人差、多重知能理論（ガードナー）、認知カウンセリング 【授業概要】 教室には、性格も学力も生活背景も異なる子どもたちが集まっている。そこでは当然、様々なレベルの「個人差」があることになる。ここでは、そうした個人差を理解し対応をしていくために、個に応じた個別指導と認知カウンセリングについて理解を深め、子どもの学び方に基づいた支援を行うための基礎知識を得る。 【教科書ページ・参考文献】 教科書82-91ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 87ページの「基本的学習観質問紙」をやっておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間
	第９回	学習観と学習方略 【key words】 学習観、学習方略、自己調整学習（ジマーマン）、ごまかし勉強、 【授業概要】 子どもたちがとっている意識的、無意識的な学習行動を「学習方略」としてとらえ、それらのあり方から学習をどうとらえているかという「学習観」の理解の手掛かりを得ることについて学ぶ。また、自分自身で自己の学習方略を振り返りながら調整をしていく「自己調整学習」という考え方についても理解を深めていく。 【教科書ページ・参考文献】 教科書92-101ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ジマーマンの自己調整学習について、あらかじめネットなどで調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間
	第１０回	教室の中の人間関係 【key words】 学級集団、学級風土、教師のリーダーシップ、PM理論、教師期待効果（ピグマリオン効果）、ゴーレム効果、ハロー効果（光背効果）、ソシオメトリック・テスト、社会的促進、社会的抑制 【授業概要】 教育の効果は、理屈以上に教師と児童生徒との人間関係が大きな影響を及ぼす。今回は、教室の中の人間関係について、学級集団や学級風土がいかに作られていくのか、また教師と児童生徒、児童生徒同士の関係性に影響する要因や関係性をいかにとらえることができるかについて、学んでいく。 【教科書ページ・参考文献】 教科書104-117ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書110ページの「教師のリーダーシップを測定する項目」のところをやっておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間
	第１１回	不適応への理解と指導 【key words】 不登校、いじめ、非行、連携 【授業概要】 子どもを取り巻く社会状況はめまぐるしく変化している。こうした変化に対応するように、子どもたちが抱え込む問題も多様化し、より深刻さを増してきている。家庭や社会の教育力の低下も指摘される中、教師はどのように彼らの問題を受け止め、どこまで対処をしていけばいいのか。今回は子どもの不適応の理解と指導のあり方の基本について考えていく。 【教科書ページ・参考文献】 教科書118-128ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 子どもの不登校者数や自殺者数について調べ、改善するためには何をすべきかについて、一つ、案を出しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間
	第１２回	発達障害と特別支援教育 【key words】 自閉スペクトラム症、学習障害、注意欠陥多動性障害、特別支援教育 【授業概要】 現在発達上の障害があると考えられている子どもたちが多く存在する。しかし、発達障害については正しい理解がなかなか進まず、定型発達の子どもたちとの差異が強調されるだけになりがちな現状がある。ここでは、発達障害を概観するとともに、発達障害を持つ児童生徒への支援と特別支援教育の基本的なあり方について考えていく。 【教科書ページ・参考文献】 教科書129-141ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ASD、LD、AD/HDについて調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習2時間
	第１３回	心理アセスメントと心理療法 【key words】 心理アセスメント、知能検査、精神分析、来談者中心療法、認知行動療法 【授業概要】 問題を抱える子どもと出会った時、普通のように見えて、どこかに適応的に生きられない問題があると感じることがある。そうしたとき、感覚や直感ではなく、実際に子どもにとって不適応を

	引き起こす原因がどこにあるかを調べ、探し、特定していくために、様々なアセスメントや検査の方法が用いられる。ここでは知能検査をはじめとした代表的なアセスメントの方法を知り、基本的な児童生徒への対応についても考えていく。 【教科書ページ・参考文献】 教科書142-152ﾍﾟｰｼﾞ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 知能検査は大変重要な項目になるので、よく予習復習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習3時間 第１４回　教育における評価 【key words】 測定と評価、評価のタイミング、評価の基準、ルーブリック、ポートフォリオ 【授業概要】 教育の成果をどのように把握するのか。教育における重要テーマである「評価」の方法について学ぶ。単に学期末のテストで教育の成果を測るという狭い意味での評価を越えて、評価を正しく行い、改善に用いることの意義を学ぶ。また、評価に関する新しい考え方や方法についても理解をする。 【教科書ページ・参考文献】 教科書168-176ﾍﾟｰｼﾞ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 これからの時代の教師に求められる「資質」「能力」「人格」とは何か、考えておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間 第１５回　学び合うコミュニティ 【key words】 コミュニティ、資質・能力、教師の成長、校内研修、自主研究会、ALACTモデル、コルトハーヘン 【授業概要】 教育の実践的な場面での教師の資質・能力向上のためのコミュニティの意味とその具体的な役割について学ぶ。教師としての資質や能力を育むには、コミュニティの中で省察と対話を中核とした交流が必要になる。学校の内外で、こうしたつながりの中に身を置き、教師自らが主体的な学習者（アクティブ・ラーナー）として成長するために必要なことについて考えていく。 【教科書ページ・参考文献】 教科書153-167ﾍﾟｰｼﾞ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「授業評価アンケート」についてシステム上で実施をすること。実際のテストについての指示をよく確認し、準備をすること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習2時間
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・教科書を毎回持参すること。授業のスライドなどの資料を毎回配布するため、ファイル等を用いて各自管理をすること。 ・定期的に「まとめ」や「調べ」課題を出す予定。 〔受講のルール〕 ・遅刻、居眠り、飲食等はせず、集中して受講すること。 ・他の受講生の迷惑になる行為（私語等）や指示のない中での情報通信機器の操作はしないこと。 ・勝手な振る舞いなど、講義の妨げになる行為を繰り返す場合、退出を命ずる。この理由での退出は欠席扱いとするので注意すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	授業資料を配信するスレッドに、授業後毎回すぐにコメントを投稿することで、双方向性を確保する。一行コメントにならないようにすること。必ずコメントを投稿すること。
授業外時間にかかわる情報	授業概要を参考に、次回の授業に出てくる用語について教科書、心理学辞典、ネットなどであらかじめ調べて授業に臨む努力をすること。 授業時に紹介する資料や図書など、積極的に調べておくこと。
オフィスアワー	高等教育支援センターにて授業後30分、もしくはメールでの相談を随時受け付ける。 hashimoto@shoken-gakuen.ac.jp
評価方法	①期末に実施する理解度・到達度を見る試験（80%）、②授業時に指示をする「まとめ」もしくは「調べ」課題（レポート課題等）に関する総合評価（20%）、これら①～②を合わせて総合評価を出し60%以上の評価得点のものを単位認定する。レターグレード（S・A・B・C）については、本学基準に沿って算出する。
教科書	魚崎　祐子（2020）『教えと学びを考える　教育心理学』（玉川大学出版会）
参考書	適宜指示をする
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法

	等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 ■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容 ネット上の動画教材を利用し、事前学習や事後学習を促進する。

講義科目名称： 教育原理　　授業コード： S5001

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	社会福祉コース／福祉心理コース・選択／学校教育コース・必修
担当教員			
江原　京子			
基礎教養科目	講義		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 　教育の①理念並びに歴史及び思想、②教育課程の意義及び編成の基礎的理解を得る。新しい時代に必要とされる資質・能力の育成とカリキュラム･マネジメントを行うことの意義を理解する。 [到達目標] 1　教育思想の変遷に基づき、歴史的背景から教育の本質を捉えることができる。 2　学校の歴史・義務教育の意義が理解できる。 3　教育課程を理解し、教育活動の展開の実際を身につける。
授業の概要	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想を社会的背景に照らし合わせて考察し、学習指導要領を基準として各学校で編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、教育の基本的概念を習得する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション（授業概要、評価方法等）、教育の可能性 【key words】 教育の語源、教育の可能性･必要性、カント 【授業概要】 科目オリエンテーション（授業概要、評価方法等）、教育の可能性･授業の冒頭に示す【視点】を意識し授業に臨む。 毎回、【視点】にそった内容のミニミニレポートを課す。課題をミニミニレポートという形でまとめることにより、授業内容をより理解し、各自の興味関心が膨らむ。・講義内容によっては、資料、レジュメ等で進める回もある。各自が捉える「教育」とは何かについて、意見・考えを述べる。教育の語源に視点をあてながら、語源からみえる「教育」とは何かについて考える。 【教科書ページ・参考文献】 テキストpp.2-7　第1章　教育学入門～Ｉ教育の本質 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・教育の語源からみえてくる「教育」とは何かについて、本時の内容をミニミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 ・テキストpp.44-47 Ⅲ教育の理念を確認しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第２回	子ども観と教育観（積極的教育、消極的教育、助教法、助産術） 【key words】 積極的教育、消極的教育、助産術、ソクラテス、ルソー 【授業概要】 子ども観と教育観について、積極的教育、消極的教育から捉える。

【教科書ページ・参考文献】
テキストpp.44-47 Ⅲ教育の理念
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・子ども観と教育観について、積極的教育、消極的教育から捉え、本時の内容をミニミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
・テキストpp.60-61　西洋の古代・中世の学校　Ⅳ教育の制度
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第３回　教育における人間像　（古代１、古代２、中世、あるゆる人にあらゆるものを、国民、市民
【key words】
7自由科、アテネの教育、スパルタの教育
【授業概要】

教育における人間像について、古代、中世に遡り、国民、市民となっていった歴史的変遷を学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
・テキストpp.60-61　西洋の古代・中世の学校　Ⅳ教育の制度
・資料、レジュメ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・教育における人間像について、アテネとスパルタの教育観を比較し、ミニミニニミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
・テキストpp.62-P67、学校の教育制度について事前に学習しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第４回　近代学校の誕生と発展（下構型・上構型の学校システム、複線型・分岐型・単線型の就学形態）
【key words】
下構型・上構型の学校システム、複線型・分岐型・単線型の就学形態
【授業概要】

下構型・上構型の学校システムと複線型・分岐型・単線型の就学形態について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
・テキストpp.62-P67　Ⅳ教育の制度
・資料・レジュメ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・複線型・分岐型・単線型の就学形態について、本時の内容をミニミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
・テキストp.40～Ⅲ教育の理念について事前に学習しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第５回　義務教育の意義
【key words】
宗教改革、国家要求、活版印刷、児童保護
【授業概要】

義務教育の意義を4つの視点から考える。
【教科書ページ・参考文献】
・テキストp.40～Ⅲ教育の理念
・資料；ルターの宗教改革、活版印刷術
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・義務教育の意義を4つの視点から捉え、ミニミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
・テキストpp.30-31 Ⅱ教育の歴史　日本の公教育制度の成立について、確認しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第６回　日本における義務教育の成立と展開（明治以前、明治～昭和10年代、昭和20年代以降）
【key words】
学制、小学校令、学校教育法

【授業概要】

日本における義務教育の成立と展開（明治以前、明治～昭和10年代、昭和20年代以降）を学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
・テキストpp.30-31 Ⅱ教育の歴史　日本の公教育制度の成立
・資料：レジュメ（義務教育の成立）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・日本の義務教育の成立と展開について、本時の内容をミニミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
・テキストp.40～Ⅲ教育の理念について、確認しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第７回　教育実践を支える思想（児童中心主義、教師中心主義、問題解決／活動／労作の原理）
【key words】
児童中心主義、教師中心主義、問題解、デューイ
【授業概要】

教育実践を支える思想（児童中心主義、教師中心主義、問題解決／活動／労作の原理）を学ぶ。
3つの思想について、課題点をグループで話し合う。

【教科書ページ・参考文献】
・テキストp.40～　Ⅲ教育の理念
・資料：教育実践を支える3つの思想
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・教育実践を支える3つの思想について、本時の内容をミニミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
・テキストpp.26-27、pp.74-75を確認しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第８回　学校は誰のためにあるのか、閉鎖性の体制と開放性の体制

【key words】
権力による支配、オルタナティブ教育
【授業概要】
近代国家が教育を支配する巧妙な支配方式であることを学び、教育を学校のみに閉じ込めてしまう閉鎖性の体制から開放性へと向う多様化する学校について考察する。改めて学校は誰のためにあるのかを確認する。
【教科書ページ・参考文献】
・テキストpp.26-27、pp.74-75
・レジュメ（閉鎖性の体制と開放性の体制）、
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・閉鎖性の体制と開放性の体制について、本時の内容をミニミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。

【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第９回　教育課程編成の主体（学校で何を教え、何を学ぶか）

【key words】
学校の定義、教育課程の編成、

【授業概要】

教育課程編成の主体は何かを学び、学校で何を教え、何を学ぶのかを考察する。
【教科書ページ・参考文献】
資料：本時の内容のまとめ・レジュメ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・教育課程編成の主体とは何かを確認し、本時の内容をミニミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
・テキストpp.90-91、教育課程とその類型について、事前に学習しておくこと。Ⅶ教育課程
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第１０回　教育課程の類型　（経験主義、系統主義）

【key words】
教育課程の類型、経験主義、系統主義

【授業概要】

教育課程の類型である経験主義と系統主義について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
・テキストpp.90-91、教育課程とその類型　Ⅶ教育課程
・資料：経験主義、系統主義
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・教育課程の類型について、本時の内容をミニミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
・テキストpp.96-99　Ⅶ教育課程学習指導要領の変遷について、事前に学習しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第１１回　学習指導要領の変遷①（小学校則～国民学校令施行規則まで、試案としての学習指導要領）

【key words】
小学校教則、国民学校令施行規則、学習指導要領（試案）、経験主義

【授業概要】

学習指導要領の変遷（小学校教則～国民学校令施行規則まで、試案としての学習指導要領）について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
・テキストpp.96-99　Ⅶ教育課程
・資料：学習指導要領の変遷
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・学習指導要領の変遷について、本時の内容をミニミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
・テキストpp.96-99　Ⅶ教育課程について事前に学習しておくこと。

	【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分 第１２回　学習指導要領の変遷②（告示としての学習指導要領） 【key words】 改訂のねらいと特徴 【授業概要】 告示としての学習指導要領の改訂のねらいと特徴について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 ・テキストpp.96-99　Ⅶ教育課程 ・文部科学省(2018)中学校学習指導要領／高等学校指導要領 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・学習指導要領の変遷について、本時の内容をミニミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 ・テキストpp.94-95　Ⅶ教育課程、pp.114-115、Ⅷ学力論を読み、事前に学習しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分 第１３回　主体的・対話的で深い学び／社会に開かれた教育課程 【key words】 新学習指導要領、社会に開かれた教育課程の実現、主体的･対話的で深い学び 【授業概要】 主体的・対話的で深い学びとは何か、社会に開かれた教育課程とは何かについて グループで意見交換を行う。 【教科書ページ・参考文献】 ・テキストpp.94-95　Ⅶ教育課程、pp.114-115、Ⅷ学力論 ・文部科学省(2018)中学校学習指導要領／高等学校指導要領 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・主体的・対話的で深い学びとは何かについて、本時の内容をミニミニレポートにまとめて提出すること。 ・テキストpp.70-71、Ⅴ学校経営、カリキュラム・マネイジメントについて、調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分 第１４回　カリキュラム・マネイジメントと評価 【key words】 カリキュラム･マネイジメント、評価 【授業概要】 カリキュラム･マネイジメントと評価について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 ・テキストpp.70-71、Ⅴ学校経営、カリキュラム・マネイジメント ・資料・レジュメ:カリキュラム・マネイジメントと評価(文科省) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・カリキュラム･マネイジメントと評価について、本時の内容をミニミニレポートにまとめ、提出する。 ・テキストpp.78～Ⅵ教員養成と教職を熟読し、教師の仕事･教職の専門性について事前に学習しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分 第１５回　教師について考える 【key words】 教師の仕事、教員養成、教職の専門性 【授業概要】 教師の仕事とは何か、教職の専門性とは何かについて学ぶ。 グループで意見交換を行う。 【教科書ページ・参考文献】 テキストpp.78～Ⅵ教員養成と教職 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・教師の仕事、教職の専門性について、ミニミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 ・教育原理の講義で学んだことを復習し、定期試験に向けて準備をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
受講生に関わる情報および受講のルール	１　遅刻・欠席は授業時間前に必ず届け出ること。無断欠席や遅刻の多い学生は受講取消もあり得る。 ２　授業中に課したミニレポート・シャトルカードを必ず提出すること。 ３　予習復習を必ず行い、疑問点を確認しておくこと。 ４　将来、教職に携わる者としての資質を養うため、私語を慎み、誠意ある態度での受講を求める。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード、ミニミニレポート
授業外時間にかかわる情報	授業の要約もしくは課題をミニミニレポートとシャトルカードにまとめ、指定した日時までに提出すること。ミニミニレポートをまとめる際、語句の意味や内容を専門書等で調べ詳細にまとめること。 定期試験やミニミニレポートのまとめは授業中の内容が中心となるため、真摯な態度で授業に臨み、毎回の授業内容を確認し、疑問点等を残さないようにしておくこと。

オフィスアワー	水曜日　16時～17時30分　それ以外の時間帯については、要相談・要予約
評価方法	授業中に課したミニミニレポートの内容（30%）、試験またはレポート（70%）を総合して評価する。
教科書	安藤忠彦他編著『よくわかる教育学原論』ミネルヴァ書房、2020年
参考書	田中耕治他著(2005)『新しい時代の教育課程』有斐閣アルマ 文部科学省(2018)中学校学習指導要領／高等学校指導要領 講義の中で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 社会福祉特講Ⅰ　　授業コード： S8001

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	1単位(30)	社会福祉コース・福祉心理コース・学校教育コース・児童福祉コース・選択
担当教員			
白石　憲一・石井　千麻			
専門科目	講義	社会福祉士指定科目ではないが国家試験受験希望者は履修すること	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 社会福祉士国家試験に向けた学習方法を自分なりに把握することを目的とする。 【到達目標】 社会福祉士国家試験に向けて、自主的・主体的な学習方法を形成し、継続して学習する習慣を身につける。自身が作成した解説を用い、他者に説明することができる。月例テストを行うことで、学びが身についているのかを自身で判断できる。
授業の概要	既習科目を中心に学習していく。社会福祉士国家試験に合格するための基礎的学習方法と基礎的学力の向上を図るため、過去問を解いた上で、自身で解説を作成し提出する。自身が作成した解説を他者に伝える。月に1回、月例テストを行う。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	△
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画

第１回　社会福祉士国家試験の概要
【key words】
社会福祉士国家試験
【授業概要】
社会福祉士国家試験の出題傾向やレポートの作成方法について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
14頁～21頁
【課題・予習・復習・授業準備指示】
社会福祉振興・試験センターのHPを調べる。
【予習復習に必要な想定時間】
4時間

第２回　社会福祉士の仕事（１）
【key words】
社会福祉士
【授業概要】
地域福祉の中核機関としての社会福祉協議会の中で、社会福祉士に求められる役割を学習する。
【教科書ページ・参考文献】
14頁～352頁
【課題・予習・復習・授業準備指示】
社会福祉協議会をHPから調べる。
【予習復習に必要な想定時間】
4時間

第３回　社会福祉士の仕事（２）
【key words】
社会福祉士、医療ソーシャルワーカー、福祉事務所、ケースワーカー
【授業概要】
医療機関で社会福祉の立場からクライエントの相談にのり支援する医療ソーシャルワーカー、福

		祉事務所のケースワーカーの役割を学習する。 【教科書ページ・参考文献】 45、132、200頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分の身近な病院や福祉事務所のHPを調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
	第４回	社会福祉士の仕事（３） 【key words】 社会福祉士、特別養護老人ホーム、生活相談員、地域包括支援センター 【授業概要】 特別養護老人ホームの生活相談員や地域包括支援センターの相談員の役割を学習する。 【教科書ページ・参考文献】 76、85頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分の身近な特別養護老人ホームや地域包括支援センターのHPを調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
	第５回	社会福祉士国家試験基礎知識（１） 【key words】 社会福祉士国家試験 【授業概要】 社会福祉士国家試験で必要とされる知識を学習する。 【教科書ページ・参考文献】 14頁～352頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布資料 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
	第６回	第1回　中間テスト 【key words】 社会福祉士国家試験 【授業概要】 中間テストに解答し、習熟度を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 14頁～352頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布資料 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
	第７回	社会福祉士国家試験基礎知識（2） 【key words】 社会福祉士国家試験 【授業概要】 社会福祉士国家試験で必要とされる知識を学習する。 【教科書ページ・参考文献】 64～78、84～87、296～312、314～318、138～140頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布資料 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
	第８回	第2回　中間テスト 【key words】 社会福祉士国家試験 【授業概要】 中間テストに解答し、習熟度を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 64～78、84～87、296～312、314～318、138～140頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布資料 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
	第９回	「読解力」が問われる国家試験問題の紹介と解説 【key words】 事例問題、社会福祉士国家試験 【授業概要】 社会福祉士国家試験の事例問題で、読解力の重要性を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 社会福祉士国家試験の過去問題 【課題・予習・復習・授業準備指示】 各教科の教科書を使って、文章を読む練習をする。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
	第１０回	レポート作成（１） 【key words】 社会福祉士国家試験 【授業概要】 該当科目のポイントや勉強方法について学習し、社会福祉士国家試験の過去問題2問の解説を、レポートとして各自で作成する。 【教科書ページ・参考文献】

	社会福祉士国家試験の過去問題 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間 第１１回　レポート作成（２） 【key words】 社会福祉士国家試験 【授業概要】 該当科目のポイントや勉強方法について学習し、社会福祉士国家試験の過去問題2問の解説を、レポートとして各自で作成する。 【教科書ページ・参考文献】 社会福祉士国家試験の過去問題 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間 第１２回　第3回　中間テスト 【key words】 社会福祉士国家試験 【授業概要】 中間テストに解答し、習熟度を理解する 【教科書ページ・参考文献】 14頁～352頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間 第１３回　レポート作成（３） 【key words】 社会福祉士国家試験 【授業概要】 該当科目のポイントや勉強方法について学習し、社会福祉士国家試験の過去問題2問の解説を、レポートとして各自で作成する。 【教科書ページ・参考文献】 社会福祉士国家試験の過去問題 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間 第１４回　レポート作成（４） 【key words】 社会福祉士国家試験 【授業概要】 該当科目のポイントや勉強方法について学習し、社会福祉士国家試験の過去問題2問の解説を、レポートとして各自で作成する。 【教科書ページ・参考文献】 社会福祉士国家試験の過去問題 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間 第１５回　期末テスト 【key words】 社会福祉士国家試験 【授業概要】 1年次に履修している科目について、国家試験形式で期末試験を実施する。 【教科書ページ・参考文献】 社会福祉士国家試験の過去問題等 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。該当科目の国家試験の過去問題を解く。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
受講生に関わる情報および受講のルール	各回において、最新の国家試験該当科目をプリントアウトし持参すること。各回の該当科目のテキスト、ノート等を用意すること。 各回の事前に最新の国試該当科目を解いておくこと。授業内で解答の解説作りを行う。授業内で作り終えない場合には、原則翌週までに提出すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	各回の事前に最新の国試該当科目を解いておくこと。授業内容に該当する授業科目の教科書を事前に通読しておくこと。授業で学習した内容は、その日のうちにしっかりと理解するように努めること。学内模試が行われる場合には、参加すること。
オフィスアワー	木曜日4限
評価方法	レポート20%、テスト40%、課題への取り組み・提出物など40%。
教科書	いとう総研資格取得支援センター「見て覚える！社会福祉士国試ナビ」（中央法規）
参考書	社会福祉小六法　社会福祉用語辞典（ 出版社は指定しないが、最新版のもの）
実務者経験/アク	

ティブラーニング/ リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 基礎演習Ⅰ

授業コード： S9001　S9002　S9003　S9004
S9005　S9006　S9007

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年次	1単位(30)	必修
担当教員			
富澤　一央・石井　千麻・時田　詠子			
基礎教養科目	演習		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 本学の建学の精神・教育目標に基づき、高校と大学の相違をさまざまな観点から学び、円滑な移行を目指して初年次教育をおこなう。基礎演習Ⅰにおいては、礼儀・挨拶、ボランティア活動、環境美化活動を理解し、積極的に取り組み、人間としての基礎的教養力と自律的実践能力を養う。基礎演習の導入として、高校のリメディアル教育、学問への動機づけ、コミュニケーション能力など、学習成果を保証するための学習方法や技術を総合的に学ぶことを目的とする。 【到達目標】 ①本学の教育方針である、礼儀・挨拶、ボランティア活動、環境美化活動を理解し、積極的に取組むことができる。 ②基礎演習Ⅰにおける学習の基礎能力として、授業の受け方、図書館利用指導、レポート作成などの学習スキルを身に付けることができる。 ③クラス内での活動を通して、問題解決能力、コミュニケーション能力を養うことができる。
授業の概要	初年次教育を主眼におき、授業を①建学の精神と実践教育、②学士力育成、③進路・資格取得、④心身の健康の4つのプログラムから構成し、建学の精神に則り、礼儀・挨拶、ボランティア活動、環境美化活動等に関する人間としての基礎的教養力と自律的実践能力を養成するとともに、基礎的学習スキルを身に付けることにより、リーディング・ライティング力、問題解決能力、コミュニケーション能力を高め、学士力の基礎を確立する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	○
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	△
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回	建学の精神と実践教育プログラム①1学年オリエンテーション（学長訓話・学部長講話、環境美化活動について-学問としての清掃-、基礎演習Ⅰの内容、授業の受け方、各担当教員より） 【key words】 建学の精神：訓話･講話、基礎演習Ⅰ、環境美化活動 【授業概要】 ①学長訓話・学部長講話を聴き、本学の建学の精神を理解し、1年間の目標を立てる。 ②基礎演習Ⅰの概要を確認する。 ③大学生活について（各担当教員より） 【教科書ページ・参考文献】 学生ハンドブック、配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本時の内容を基礎演習（Ⅰ）ワークシートにまとめ、期日までに提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第２回	心身の健康プログラム①－相手に好感をもたれるメールの送り方 【key words】 礼儀・挨拶、人間関係:好感度、メールの送り方 【授業概要】 ①好感のもたれるメールの送り方を知る。 ②礼儀をわきまえた文章の作成について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の内容を基礎演習（Ⅰ）ワークシートにまとめ、期日までに提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第３回　心身の健康プログラム②－クラス裁量パートⅠ：クラスメイトの得意分野を知る
【key words】
仲間づくり、得意分野、特技
【授業概要】
①クラスメイトの得意分野を知り、互いに尊重する気持ちを育む。
②互いに特技を披露する。
【教科書ページ・参考文献】
特になし
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の内容を基礎演習（Ⅰ）ワークシートにまとめ、期日までに提出すること
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第４回　心身の健康プログラム③－クラス裁量パートⅡ：クラス運営・クラスの交流
【key words】
クラス運営、仲間との交流
【授業概要】
①クラスメイトとの交流を通してクラス運営の在り方を知る。
②円滑なクラス運営の在り方を身につける。
【教科書ページ・参考文献】
特になし
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・本時の内容を基礎演習（Ⅰ）ワークシートにまとめ、期日までに提出すること。
・『知へのステップ第５版』くろしお出版 第5章、第6章を読んでおくこと
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第５回　学士力プログラム①　図書館の利用の仕方
【key words】
蔵書検索、文献検索、インターネット検索
【授業概要】
①本学の図書館司書を招き、「図書館の利用の仕方」を学ぶ。
②蔵書検索、文献検索の仕方を学ぶ。
③インターネットによる情報収集の仕方を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
・配布資料
・学習技術研究会 2020年『知へのステップ第５版』くろしお出版 第5章、第6章
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・本時の内容を基礎演習（Ⅰ）ワークシートにまとめ、期日までに提出すること。
・『知へのステップ第５版』第1章、第2章を読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第６回　学士力育成プログラム②　『知へのステップ』スタディ・スキルズとは／ノートテイキング
【key words】
生徒から学生へ、スタディ・スキルズ、ノートテイキング
【授業概要】
①スタディ・スキルズの全体像をつかむ。
②ノートテイキングの方法を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
学習技術研究会 2020年『知へのステップ第５版』くろしお出版 第1章、第2章
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・本時の内容を基礎演習（Ⅰ）ワークシートにまとめ、期日までに提出すること。
・『知へのステップ第５版』第3章、第4章を読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第７回　学士力育成プログラム③　『知へのステップ』リーディングの基本スキル
【key words】
テキストの種類、読みの種類、構成、要約
【授業概要】
①テキストの種類に応じた読み方を身につける。
②テキストを読んで、要約する方法を身につける。
【教科書ページ・参考文献】
学習技術研究会 2020年『知へのステップ第５版』くろしお出版　第3章、第4章
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・本時の内容を基礎演習（Ⅰ）ワークシートにまとめ、期日までに提出すること。
・『知へのステップ第５版』第8章を読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第８回　学士力育成プログラム④　『知へのステップ』アカデミック・ライティングの基本スキル
【key words】
序論・本論･結論、レポート、事実と意見、引用

【授業概要】
①レポートと感想文の相違を実例を通じて学ぶ。
②レポートの構成を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
学習技術研究会 2020年『知へのステップ第５版』くろしお出版　第8章
【課題・予習・復習・授業準備指示】

・本時の内容を基礎演習（Ｉ）ワークシートにまとめ、期日までに提出すること。
・『知へのステップ第５版』第9章を読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第９回　学士力育成プログラム⑤　『知へのステップ』効果的なアカデミック・ライティングのために
【key words】
文、文章、表現、箇条書き
【授業概要】
①わかりやすい文を書くためのポイントをつかむ。
②視覚的にわかりやすい表現方法のポイントをつかむ。
【教科書ページ・参考文献】
学習技術研究会 2020年『知へのステップ第５版』くろしお出版　第9章
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・本時の内容を基礎演習（Ｉ）ワークシートにまとめ、期日までに提出すること。
・『知へのステップ第５版』第11章、第12章を読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１０回　学士力育成プログラム⑥　『知へのステップ』プレゼンテーションの基本スキル
【key words】
プレゼンテーション、レジュメ、パワーポイント

【授業概要】
①わかりやすいプレゼンテーションの基本スキルを学ぶ。
②相手に伝わる資料の作成方法を身につける。
【教科書ページ・参考文献】
学習技術研究会 2020年『知へのステップ第５版』くろしお出版　第11章、第12章
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の内容を基礎演習（Ｉ）ワークシートにまとめ、期日までに提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１１回　進路・資格取得プログラム①　就職能力試験
【key words】
職種、適性、一般常識
【授業概要】
①就職能力試験を実施し、各自の適性を知る。
②将来、就きたい職種を意識する。
【教科書ページ・参考文献】
就職能力試験
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の内容を基礎演習（Ｉ）ワークシートにまとめ、期日までに提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１２回　心身の健康プログラム④　生活の充実について（防犯教育）
【key words】
防犯、ネット被害、安全･安心な大学生活、ＳＮＳの上手な使用方法
【授業概要】
①安全･安心な大学生活を過ごすための留意点を知る。
②ネット犯罪・被害の実態について、講話を聴く。
②サイバー被害にあわないための方策を考える。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本日の内容を基礎演習Ｉワークシートにまとめ、期日までに提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１３回　進路・資格取得プログラム②　４年生講話
【key words】
先輩学生との交流、資格取得、就職
【授業概要】
①コース毎に４年生、約5名を招聘し講話を聞く。
②コース・専攻毎の分科会に分かれ、全体会より一層具体的な講話を聞く。
③自己の将来を考えるようにする。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料等
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・本時の内容を基礎演習（Ｉ）ワークシートにまとめ、期日までに提出すること。

【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１４回　学士力育成プログラム⑦　「研究」とは
【key words】
研究倫理、興味･関心、追及
【授業概要】
①研究倫理について学ぶ。
②研究は何のためにするのか。
③どのような研究をどのように行うのか。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料等
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の内容を基礎演習（Ｉ）ワークシートにまとめ、期日までに提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

	第１５回　建学の精神と実践教育プログラム②　1年間の振り返り、総括、演習ファイルの整理、授業アンケート、次年度 【key words】 総括、振り返り、授業アンケート、次年度 【授業概要】 ①基礎演習1ノートの総括をまとめる。 ②授業評価アンケートを実施する。 ③次年度に向けて計画を立てる。 【教科書ページ・参考文献】 基礎演習（Ｉ)ノート、基礎演習（Ｉ）　ワークシート 【課題・予習・復習・授業準備指示】 基礎演習（Ｉ)ノート、基礎演習（Ｉ）　ワークシートの記入漏れがないかを確認し、期日までに提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１６回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１７回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１８回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１９回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２０回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２１回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２２回 【key words】

【授業概要】
【教科書ページ・参考文献】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習復習に必要な想定時間】
第２３回
【key words】
【授業概要】
【教科書ページ・参考文献】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習復習に必要な想定時間】
第２４回
【key words】
【授業概要】
【教科書ページ・参考文献】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習復習に必要な想定時間】
第２５回
【key words】
【授業概要】
【教科書ページ・参考文献】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習復習に必要な想定時間】
第２６回
【key words】
【授業概要】
【教科書ページ・参考文献】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習復習に必要な想定時間】
第２７回
【key words】
【授業概要】
【教科書ページ・参考文献】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習復習に必要な想定時間】
第２８回
【key words】
【授業概要】
【教科書ページ・参考文献】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習復習に必要な想定時間】
第２９回
【key words】
【授業概要】
【教科書ページ・参考文献】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習復習に必要な想定時間】
第３０回

	【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	1　基礎演習は、本学の人間教育の要である。そのことに深く留意して取り組むこと。 2　私語は慎み、出欠席の状況や受講態度等本学の学生にふさわしい態度で臨むこと。 3　全体オリエンテーション等の学校行事は必ず出席すること。 4　基礎演習Ⅰで使用した資料等は、必ず基礎演習Ⅰファイルに綴じておくこと。 ※　コロナ禍の状況下で、授業内容が変更となる場合があることを了承いただきたい。その場合は口頭もしくは別途授業予定表を配布するなどして周知する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	基礎演習(Ⅰ) ワークシート
授業外時間にかかわる情報	図書館利用、インターネット利用、レポートの作成等に関する時間は、授業時間外の活用が重要である。
オフィスアワー	各担当者に確認すること
評価方法	基礎演習Ⅰへの取り組み（30%）、基礎演習Ⅰノートの内容（30%）、基礎演習Ⅰワークシートの内容（40%）を総合して評価する。
教科書	1 鈴木利定・中田勝（著）2002年『咸有一徳』中央法規 2 中田勝（翻訳）2009年 初編『伝習録』明治書院 3 学習技術研究会 2020年『知へのステップ』くろしお出版
参考書	その他、講義の中で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 担当者が、それぞれ社会福祉（社会福祉士、精神保健福祉士他）、子ども（保育園、幼稚園、小学校他）、学校教育（特別支援、中学校、高等学校、教育委員会での教育行政他）等で勤務実績を積み上げている。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 ■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 倫理学　　授業コード： S1035

英文科目名称： Ethics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	社会福祉専攻・必修
担当教員			
鈴木　育三			
基礎教養科目	講義		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	地球生命の一部として存在する人類の直面している諸課題を（共生の倫理）の視点から実践事例をあげて考察する。
授業の概要	①　倫理の思想と歴史 ②　自然との共生　Eco-Ethica(生圏倫理）を中心にして ③　社会的存在としての人間の歴史的現実と倫理的諸課題 ④　社会福祉（保障）と共生の倫理 ⑤　グローバル化社会の倫理的諸課題についてシラバスに従って展開する

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	◎
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回　orientation 【key words】 Ethos（エートス） 【授業概要】 ①　倫理とは何か、その意味について考え、その言葉の由来を考察する。 ②　履修上の諸注意 ③　推薦図書紹介 ・今道友信著「エコエティカ」生圏倫理学入門（講談社学術文庫） ・山脇直司著「公共哲学とは何か」ちくま新書 【教科書ページ・参考文献】 参考文献　今道友信著「エコエティカ」生圏倫理学入門　ect. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２回　倫理主体としての「人間」とは 【key words】 人間性（humanity） 【授業概要】 『人間的実存の基本的事実は「人と人が共存しつつある人間」である』ーM,Buber 推薦図書　M・ブバー著「人間とは何か」児島洋訳、理想社 【教科書ページ・参考文献】 参考文献　絵本「あおくんときいろちゃん」レオ・レオーニ作　至光社 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第３回　共生する＜生命＞の倫理 【key words】 Bio Ethics（生命倫理） 【授業概要】 中村元著、構造倫理講座Ⅲ「＜生命＞の倫理」を中心にして、生命科学の進歩と生命の不思議さ

について学び、その倫理的課題について、生命倫理について考察する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第４回　共生（Convivency)とは
【key words】
Ecology
【授業概要】
「地球上のあらゆる生物は、お互いの関係なしには生存できず、すべてがネットワークをつくっているわけです。このなかのどこかにほころびができると、ネットワークはうまく働かなくなるわけで、いまでは共生は生態系を構成するすべての生き物の関係と考えられるようになりました。『「生きもの」感覚で生きる』中村桂子著、講談社p.33ー共生は生きもののルールより

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第５回　自然との共生①ー自然とLifeCycle
【key words】

【授業概要】
「もう一度、共生と循環という哲学を人類は取り戻さなければならない。もちろん人間にとって進歩は必要です。ですから科学技術を共生と循環という哲学のもとに共存させていく。」梅原猛著、「共生と循環の哲学」p.112
「人間は、自然を父とし母として生まれたものであり、自然のなかの他のすべての生きとし生けるものと共生する以外には生きられない。人間には神によって与えられた自然支配の特権などというものは存在しない。この自然との共生を人類の根本原理としなければならない」p.60
【教科書ページ・参考文献】
参考文献　上掲書　梅原猛「共生と循環の哲学」小学館
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第６回　生態学Ecologyと経済学Economics
【key words】
自然環境破壊と科学技術
【授業概要】
科学技術の発展によって、自然環境破壊は、著しく広大、深刻化しています。公害、気候異変ect.は、人間の生活のみならず、多様な生物を絶滅へと追いやっています。現代社会の倫理的課題を考察。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第７回　人間の歴史と倫理的課題（Ⅰ）
【key words】
①戦争
【授業概要】
共生の倫理の重要な課題は、戦争－国家が他国に対し、政治的な意志を貫徹するためにとる最終的かつ暴力的手段－である。
何故人間は‘戦争’という手段を行使するのか、人間の内に秘んでいるディーモーニッシュな＜悪性＞についてアウシュビッツ強制収容所の『夜と霧』DVDを教材にして考察する。
【教科書ページ・参考文献】
参考文献　「共生と平和への道」聖心女子大学キリスト教文化研究所
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第８回　人間の歴史と倫理的課題（Ⅱ）
【key words】
②差別と偏見
【授業概要】
・「ハンセン病重監房の記録」宮坂道夫著
・水平社運動－部落解放運動の原点から差別・偏見の歴史を学ぶ
【教科書ページ・参考文献】
参考文献　DVD「草津重監房収容者」の記録
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第９回　多様性と共生への道
【key words】
apartheid
【授業概要】
南アフリカ共和国のアパルトヘイト（人種差別制度）及びその政策に対して、隔離政策関連を廃止させ、南アフリカ初の黒人大統領となった、ネルソン・マンデラの生涯に学ぶ。
教材　DVD「マンデラとデクラーク」
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

	【予習復習に必要な想定時間】 第１０回　社会福祉の思想と共生の倫理 【key words】 Human Rights 【授業概要】 人権思想の歴史と、世界人権宣言を中心にして、社会福祉（保障）の基本的理念について学ぶ。 ・基本的人権の尊重（９条） ・生存権（２５条） 【教科書ページ・参考文献】 参考文献　日本国憲法（１９４６年１１月３日発布） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１１回　科学技術と人類の課題（Ⅰ） 【key words】 ＜核エネルギーと共生の倫理＞ 【授業概要】 情報技術（IT)の発展によって、グローバル化する世界にあって、地球倫理の構築が必要とされている今日、核エネルギーをはじめ、技術革新によってもたらされる利便性と弊害について考察する。 ・福島原発事故をめぐって ・大気汚染と気候異変 【教科書ページ・参考文献】 参考文献　松井孝典著『地球倫理へ』岩波書店 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１２回　科学技術と人類の課題（Ⅱ） 【key words】 Pandemic 【授業概要】 ２０２０年、新型コロナウィルスが世界的規模で大流行している。これに対応するために、我々は今、何をするべきか。 「重要なことは、生命倫理をめぐる個々の解答をするよりも、むしろそうした個々の判断のベースにある『価値の体系（信念体系）』をできるだけ一貫した形で個人が築いていくことではないだろうか」広井良典著、『生命の政治学』岩波書店p.212 【教科書ページ・参考文献】 上掲書 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１３回　倫理学・補足講義（1）いかに生きるか？ 【key words】 【授業概要】 「われわれは、好むと好まざるとにかかわらず人間として生まれ、人間として生きてきたのであるが、今後どのように生きたらよいのであろうか？」中村元著『＜生きる道＞の倫理　春秋社p.3 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１４回　倫理学・補足講義（2）分ち合の行為 【key words】 ＜実践＞すること 【授業概要】 「仏教の理想は＜慈悲＞であるが、人々に対する温かな思いやりというものは、単に心の中で思っているだけでは慈悲にならない。それは実際の行為、奉仕の行に具現されねばならない。」上掲書p.208 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１５回　倫理学　総括：質疑・応答 【key words】 【授業概要】 最終レポート提出について、課題の提示 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	私語厳禁
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	リアクション・ペーパー提出
授業外時間にかかわる情報	講義時に指示する。

オフィスアワー	講義時に指示する。
評価方法	リアクション・ペーパー、及び出席　５０点 レポート提出　５０点
教科書	教科書は無いが、随時参考文献を紹介する。
参考書	随時提示
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 15年間、教会牧師の経験あり。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 日本国憲法　　授業コード： S1081

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	社会福祉コース／福祉心理コース／児童福祉コース・選択／学校教育コース／初等教育コース・必修
担当教員			
森田　隆夫			
基礎教養科目	講義		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　日本国憲法が実質的にも日本の最高法規となりうるのは、それが人権の体系であるからである。基本的人権は、すべての法領域に妥当する普遍的原理であり、社会福祉法、社会福祉六法といった社会福祉に関する法律も、これを基礎とする。この憲法に触れ、人権の意味を知り、一般人としての、また、社会福祉の専門家としての基礎を作る。 【到達目標】 ①六法で条文を調べることができる。 ②憲法につきその重要な概念、制度等を説明することができる。 ③法を解釈するという思考方法をとることができる。
授業の概要	先ずは、条文に当たり、その理解をしたい。次に、それを基礎にして考えてほしい判例を、出来るだけ多く示す。適宜、関連する法律(特に行政法)の紹介も行う。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	○
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	○
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	◎
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	△
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	◎
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	○
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	△

授業計画	第１回　科目オリエンテーション、　人権①（～前文） 【key words】 憲法　基本原理 【授業概要】 社会規範について説明をする。 憲法の意義、歴史、基本原理を説明する。 【教科書ページ・参考文献】 ｐｐ17～22 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書　ｐｐ22～28 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第２回　人権②（天皇～私人間効力） 【key words】 国民主権　平和主義　人権享有主体性 【授業概要】 日本国憲法の基本原理である国民主権、平和主義について説明をする。 基本的人権総論として、人権共有主体性等の説明をする。〞 【教科書ページ・参考文献】 ｐｐ22～28 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書　ｐｐ28～31 【予習復習に必要な想定時間】

		60分
	第３回	人権③（包括的基本権・法の下の平等） 【key words】 包括的基本権　法の下の平等 【授業概要】 新しい人権を生む１３条と自由とともに保障されている平等権について説明をする。 【教科書ページ・参考文献】 ｐｐ28～31 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書ｐｐ31～33 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第４回	人権④（精神的自由（１）） 【key words】 精神的自由　思想良心の自由　信教の自由　学問の自由 【授業概要】 精神的自由権について、思想良心の自由　信教の自由　学問の自由を題材に説明をする。 【教科書ページ・参考文献】 ｐｐ31～33 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書　ｐｐ33～35 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第５回	人権⑤（精神的自由（２）） 【key words】 表現の自由　知る権利　検閲 【授業概要】 精神的自由の中心と位置付けられる表現の自由、そこから生まれる知る権利等について説明する。 関連する判例事案について討議する。 【教科書ページ・参考文献】 ｐｐ33～35 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書　ｐｐ35～36 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第６回	人権⑥（経済的自由） 【key words】 経済的自由　職業選択の自由　財産権　居住・移転の自由 【授業概要】 職業選択の自由、財産権等を題材とし、精神的自由と比較して経済的自由について説明をする。 【教科書ページ・参考文献】 ｐｐ35～36 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書　ｐｐ36～38 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第７回	人権⑦（人身の自由） 【key words】 人身の自由　適性手続の保障 【授業概要】 人身の自由の保障と、そのための適正手続の重要性について説明をする。 【教科書ページ・参考文献】 ｐｐ36～38 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書　ｐｐ38～40 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第８回	人権⑧（生存権・教育を受ける権利） 【key words】 生存権　プログラム規定説　教育を受ける権利 【授業概要】 社会権につき自由権との比較のうえ説明する。 特に、福祉の基礎となる生存権に関する判例の考え方を紹介する。 関連する判例事案について討議する。 【教科書ページ・参考文献】 ｐｐ38～40 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書　ｐｐ40～42、ｐ38 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第９回	人権⑨（労働権・参政権・国務請求権・国民の義務） 【key words】 労働権　参政権　国務請求権　国民の義務

【授業概要】
前回までに取り上げた人権以外の人権につき概説する。
国民の義務を説明する。〃

【教科書ページ・参考文献】
ｐｐ40～42、ｐ38
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】教科書　ｐｐ43～49

【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１０回　統治①（統治機構・国会）
【key words】
権力分立　立法権　国会　二院制
【授業概要】
日本国憲法が定める統治機構について説明をし、そのうちの立法権を担う国会につき説明する。

【教科書ページ・参考文献】
ｐｐ43～49
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】教科書　ｐｐ49～51

【予習復習に必要な想定時間】
60分
60分

第１１回　統治②（内閣）
【key words】
行政権　内閣　議員内閣制
【授業概要】
行政権を担う内閣について説明をする。
国会との関係において議院内閣制を説明する。

【教科書ページ・参考文献】
ｐｐ49～51
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】教科書　ｐｐ52～57
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１２回　統治③（裁判所Ⅰ）
【key words】
司法権　裁判所　統治行為論　三審制

【授業概要】
司法権の意義・範囲とその限界を説明する。
司法権を担う裁判所の組織について説明する。

【教科書ページ・参考文献】
ｐｐ52～57
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】教科書　ｐｐ57～59
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１３回　統治④（裁判所Ⅱ（裁判員制度含む））
【key words】
裁判官の独立　違憲審査権　裁判員制度
【授業概要】
裁判所を構成する裁判官の独立性、法律等を違憲とする違憲審査権につき説明をする。
あわせて、裁判員制度について概説する。

【教科書ページ・参考文献】
ｐｐ57～59
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】教科書　ｐｐ59～63
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１４回　統治⑤（財政・地方自治）
【key words】
財政立憲主義　公金支出　地方自治の本旨
【授業概要】
社会福祉に関しても重要性を有する財政、地方自治について説明する。

【教科書ページ・参考文献】
ｐｐ59～63
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】教科書、プリントを見直しておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
60分

	第１５回　　まとめ 【key words】 憲法　人権　統治 【授業概要】 憲法に関し、特に重要と思われる事項につき再度説明をし、復習をしてもらう。 【教科書ページ・参考文献】 ｐｐ17～63 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	・可及的に多くの情報を提供したいので、予習復習は必ず行うこと。 ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。 ・社会福祉を志す者として、出席時間の厳守し、態度や身だしなみ等を整えること。 ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	教科書で予習・復習すること、特に憲法の条文に目を通しておくことが絶対に必要です。
オフィスアワー	火曜　14時半～16時、　金曜　14時半～16時
評価方法	定期試験（６０％）、授業時間に行う小テスト（４０％）を総合して評価する。
教科書	森長秀 編著「法学入門 第2版 」光生館，2022年
参考書	小六法（例：「ポケット六法」有斐閣，2023年）
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 韓国語Ⅰ　　授業コード： S1194

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位(30)	選択
担当教員			
金　暎姫			
基礎教養科目	講義		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 ハングル（文字）の成り立ちや発音を学習し、文字が読み、書けるようにする。日常生活の中でよく使う基本会話を身に付 ける。韓国語で自己紹介が出来るようにする。パソコンで韓国語の入力が出来るようにする。 【到達目標】 １）ハングル文字が書けて正しく読める。 ２）挨拶・生活の基本会話を身に付ける。 ３）韓国語で自己紹介が出来る。 ４）　パソコンで韓国語の入力が出来る。
授業の概要	ハングルの特長、話し言葉の特徴や発音、イントネーションを日常生活及び一般的な話題を通じて学び、基礎会話が 出来る様に何度も口に出して練習する。 ハングルの仕組、特徴を理解し読み書き出来る様にくり返し練習する。パソコン・CD・DVD等の視聴覚教材も用いる。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	○
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	◎
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	△
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回　オリエンテイション　ハングルについて、語順、仕組み、特徴 【key words】 ハングル・仕組み・語順 【授業概要】 ハングルが創られた時代、歴史的な背景をDVDを見せて説明して、ハングルの仕組みと語順、特徴、漢字との関連性を説明する。 【教科書ページ・参考文献】 ｐ14～17 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ハングルの仕組みを理解して次の授業に備える。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第２回　ハングルの母音、出会いの挨拶 【key words】 母音・組み合わせ・挨拶 【授業概要】 ハングルの10個の基本母音の読み書きを説明して練習させて組み合わせを説明して覚えさせる。 出会いの時の挨拶を口に出して練習させる。 【教科書ページ・参考文献】 ｐ20～24 【課題・予習・復習・授業準備指示】 母音10個の読み書きを復習して覚えること。

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第３回　ハングルの子音、発音のコツ、別れの挨拶

【key words】
子音・平音・激音・有声音化

【授業概要】
ハングルの基本子音14個の形と発音の読み書きを復習して覚える。基本母音との組み合わせを説明して、子音には平音と激音があり発音の際にコツがあることを教える。別れる時の会話を口に出して繰り返して練習させる。
【教科書ページ・参考文献】
p 26～37
【課題・予習・復習・授業準備指示】
子音14個の読み書きを復習して覚えること。であいと別れの時の会話を復習して次の授業でペアで発表すること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分～60分

第４回　ハングルの子音（平音、激音、濃音の相違点）　感謝、謝罪の際の会話

【key words】
濃音・感謝・謝罪

【授業概要】
ハングルの基本子音14個以外に5個の子音(濃音)を平音、激音と比較しながら息の量で発音のコツを覚えさせる。感謝と謝罪の時の会話を口に出して練習させる。
【教科書ページ・参考文献】
p 38～47
【課題・予習・復習・授業準備指示】
平音・激音・濃音の違いを理解して書けるように復習すること。教科書48 p 49 p 課題を提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第５回　ハングルの二重母音、有声音化　食事の時の会話

【key words】
複合母音・組み合わせ

【授業概要】
基本母音を二重に組み合わせて、さらに11個の複合母音(二重母音)を書けて読めるように練習させる。
食事の時の会話を何度も口に出して練習して、ペアで発表する。
【教科書ページ・参考文献】
p 50～55
【課題・予習・復習・授業準備指示】
基本母音、二重母音、子音(平音・激音・濃音）を組み合わせた文字を書いて提出する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第６回　ハングルのパッチム、出かける時の会話

【key words】
パッチム・有声音パッチム・連音化

【授業概要】
パッチムとは何かを説明して、パッチムの中で有声音パッチムの読み方、書き方を覚えて発音出来るようにする。出かける時の会話(行って来ます、行ってらっしゃい)を何度も口に出してペアで練習する。
【教科書ページ・参考文献】
p 58～61
【課題・予習・復習・授業準備指示】
パッチムのある単語の読み書きを復習して覚える。
【予習復習に必要な想定時間】
60

第７回　ハングルの二重パッチム、お願いの時の会話

【key words】
二重パッチム・無声音パッチム

【授業概要】
パッチムは有声音パッチムと無声音パッチムと二重パッチムに分類し区別して説明して、発音出来るように練習させる。お願いの時の会話を何度も口に出して練習する。
【教科書ページ・参考文献】
p62～65
【課題・予習・復習・授業準備指示】
無声音パッチムの読み書きを復習して覚える。

【予習復習に必要な想定時間】
60分

第８回　ハングルの発音の法則

【key words】
有声音化・連音化・弱化・鼻音化・激音化・濃音化

【授業概要】
ハングルの発音の際には様々な発音の法則(有声音化・連音化・弱化・鼻音化・激音化・濃音化)があることを説明して、正確に発音出来るように練習する。
【教科書ページ・参考文献】
p66～69　付録 p 204～207

【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書67ｐ69ｐ練習ドリルをやること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第９回　ハングルのカナ表記法による人名、地名などの固有名詞の表記
【key words】
人名・地名・住所

【授業概要】
日本語の人名・地名などをハングルで書く時に表記法によるルールを説明して、名前と住所をハングルで書いてみる。
【教科書ページ・参考文献】
ｐ25
【課題・予習・復習・授業準備指示】
日本の都道府県名をハングルで書いてみること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１０回　パソコンでのハングルの入力の仕方
【key words】
ハングルのキーボード

【授業概要】
パソコンでのハングルのキーボードを画面上に出す方法を操作して打ち方を教えて簡単な自己紹介文を打ってみる。
【教科書ページ・参考文献】
ｐ102
【課題・予習・復習・授業準備指示】
家のパソコンを操作してハングルが打ってるようにして自己紹介文を打ってプリントアウトして提出する。

【予習復習に必要な想定時間】
30分～60分

第１１回　～は～ですの文型、自己紹介
【key words】
人称代名詞・職業

【授業概要】
人称代名詞・職業の韓国語の単語を覚えて～は～ですの文型を練習して自己紹介文を書いてみる。
【教科書ページ・参考文献】
ｐ75～77
【課題・予習・復習・授業準備指示】
人称代名詞を復習して暗記して来ること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１２回　～は～ですか？の文型
【key words】
国名・何人(日本人、韓国人、中国人、イギリス人、アメリカ人)

【授業概要】
国名を韓国語で覚えてあなたは何人ですか、私は～人ですの文型を国の名前を入れ替えながら練習する。
【教科書ページ・参考文献】
ｐ78～79
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書80ｐ課題を書いて提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60％

第１３回　これは～ですか、それは～ですの文型、指示代名詞
【key words】
指示代名詞・これ・それ・あれ・どれ・身の回りの単語

【授業概要】
指示代名詞と身の回りの単語を覚えてこれは～ですか、それは～ですの文型を書いてみる。又ペアで単語を入れ替えながら読む練習をする。
【教科書ページ・参考文献】
ｐ83～85
【課題・予習・復習・授業準備指示】
指示代名詞を復習して暗記して来ること。

【予習復習に必要な想定時間】
30分～60分

第１４回　助詞～も、～ではありませんの文型、ハングルゲーム

	【key words】 教室の中のもの・野菜・果物・動物の名前動物の名前をゲーム形式 【授業概要】 教室の中にあるものの単語を覚えてこれも～ですか、それは～ではありませんの文型を単語を入れ替えながら繰り返して練習して覚える。ハングルで野菜、果物、動物の名前をゲーム形式で探すことをしてハングルの読む能力を確かめる。 【教科書ページ・参考文献】 ｐ86～87 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書88ｐ課題を書いて提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１５回　読み書きのまとめ、日常会話の復習 【key words】 まとめ・基礎会話 【授業概要】 ハングル文字が書けて発音の変化の法則通り正しく読めるかをまとめて復習する。日常生活での基礎会話と自己紹介を韓国語で発表する。 【教科書ページ・参考文献】 プリント 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テストに備えての復習用のプリントを書いて提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
受講生に関わる情報および受講のルール	日本語に無い発音が多い為、正しい発音を身に付けるためには、積極的に出席し積極的に何度も口に出して練習する 事が望ましい。 文字の読み書きから覚えて行く初めての言語なので文字を覚える為には、繰り返しの練習、復習が必要である。 韓国語Ⅰに続けて韓国語Ⅱも一緒に履修する事が望ましい。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	毎回の授業後に復習用の宿題を次回授業時に提出する事
オフィスアワー	授業の15分前、授業後の30分は対応可能。
評価方法	定期試験60%　宿題及びレポート40%
教科書	李 昌圭 著　『　韓国語へ旅しよう　（初級）　』　　朝日出版社
参考書	自作プリント
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 韓国語Ⅱ　　授業コード： S1196

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	選択
担当教員			
金　暎姫			
基礎教養科目	講義		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 基礎会話から少し進んだ日常会話を身に付ける。数字、番号、物の値段が言えるようにする。言葉を通じて韓国語と日本語の発想、表現の違いなどを確認して行く。韓国に興味が持て、現代韓国社会・文化と現代日本社会・文化との共通点と相違点を知る。 【到達目標】 1）基礎会話から進んだ日常会話を身に付ける。 2）月・日・番号・値段が言える。 3）韓国語と日本語の共通点、相違点を知る。 4）簡単な発表などを韓国語で出来る様にする。 5）韓国の社会・文化・歴史に対する理解を深める。
授業の概要	韓国語Ⅰで韓国語の基礎会話、発音の習得を終えた学生を対象に、書く・読む・話すの4機能のうち書くこと・話す事にやや比重を置いて授業を進めて行き会話力を身に付ける。疑問詞、数詞などを用いて教科書の項目別文例をもとに、対応の言い換え練習を行いながら会話を覚えて行く。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	○
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	◎
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	△
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回	科目オリエンテーション、この人は誰ですか、助詞～の 【key words】 家族の呼び名・性別・三人称 【授業概要】 韓国語では性別によって呼び名が違うことを知って呼び名を覚える。三人称代名詞この方、その方、あの方どの方を覚える。 【教科書ページ・参考文献】 p97 【課題・予習・復習・授業準備指示】 家族の呼び名を覚えて暗記して来ること。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第２回	指示代名詞 （事物・場所）、これは誰のものですかの文型 【key words】 この、その、あの、どの、省略 【授業概要】 この人は～です、この～は～の物ですの文型に物や人物の名を入れ替えながら練習する。助詞～

		のは会話の中でほとんど省略されることは日本語との相違点である事を知る。 【教科書ページ・参考文献】 p91～96 【課題・予習・復習・授業準備指示】 この～は～の物ですの文を10個作って宿題として提出する。 【予習復習に必要な想定時間】 30分～60分
	第３回	助詞（も）、否定形、家族の呼び名、指示代名詞の復習 【key words】 まとめ・復習 【授業概要】 人称代名詞、家族の名称、身の回りの単語を用いて今まで習った文型に書き入れる練習をして復習ししっかり覚えたかを確認していく。 【教科書ページ・参考文献】 p98～101 【課題・予習・復習・授業準備指示】 指示代名詞、身の回りの単語、家族の名称を復習して暗記して来ること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第４回	助詞（と）、位置関係の言葉 【key words】 前後・左右・上下・パッチムある単語、ない単語 【授業概要】 位置関係の言葉を口に出して練習して覚える。助詞～もはパッチムある単語とない単語のあとに形で接続を理解してそれぞれの形を覚える。 【教科書ページ・参考文献】 p103～105 【課題・予習・復習・授業準備指示】 位置関係の言葉を復習して暗記して来ること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第５回	助詞（に）、～に～があります、ありませんの文型 【key words】 居る・ある・場所 【授業概要】 位置関係の言葉と場所の言葉を用いて～に～があります、ありませんの文型を練習して覚えて行く。居る・あるを区別しない事もと日本語との相違点である事を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 p106～110 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ～に～がありますの文を10個作って次回に宿題として提出する事。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第６回	用言の「です・ます形」、助詞（を） 【key words】 基本形・語幹・語尾・活用 【授業概要】 生活の中でよく使う動詞、形容詞の基本形から語尾を変えて～です、ます形の会話体にすることを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 p111～115 【課題・予習・復習・授業準備指示】 学校、教室の中でよく使う動詞、形容詞を20個覚えること。 【予習復習に必要な想定時間】 30分～60分
	第７回	～で～をしますの文型、助詞（で） 【key words】 丁寧な会話体 【授業概要】 覚えた基本動詞と形容詞を丁寧な会話体に書き換える練習をして～で～をしますの文型を覚える。 【教科書ページ・参考文献】 p116～117 【課題・予習・復習・授業準備指示】 113ｐのドリルをして提出する事。 【予習復習に必要な想定時間】 30分～60分
	第８回	映像（韓国映画）で学ぶハングル 【key words】 映画・聴き取り・感想文 【授業概要】 映像（韓国映画）を通して文化を知って、今まで教科書で学んだ会話文の聴き取り能力を確かめる。

【教科書ページ・参考文献】
DVD
【課題・予習・復習・授業準備指示】
韓国映画の感想文を書いて提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第９回　否定の表現、体の名称
【key words】
後置否定形

【授業概要】
覚えた基本動詞と形容詞を語尾を変えて、否定形（～しません、～くありません）の文型を覚える。体の名称を覚える。
【教科書ページ・参考文献】
ｐ118～120
【課題・予習・復習・授業準備指示】
体の名称を復習して暗記して来ること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１０回　曜日の言い方、尊敬会話体
【key words】
何曜日・いつ・尊敬補助語幹

【授業概要】
一週間の曜日の言い方を練習して覚える。尊敬補助語幹を用いて尊敬会話体の文章作りの練習をする。
【教科書ページ・参考文献】
ｐ121～125
【課題・予習・復習・授業準備指示】
曜日の言い方を復習して暗記して来ること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１１回　不規則活用、連結語尾～しにの文型
【key words】
脱落・連結語尾

【授業概要】
用言を尊敬会話体に活用する際に不規則活用の用言があることを説明して覚える。連結語尾～しにを用いて文作りの練習をする。
【教科書ページ・参考文献】
ｐ126～129
【課題・予習・復習・授業準備指示】
～しにの語尾を用いて5個の文作りをして提出する事。
【予習復習に必要な想定時間】
30分～60分

第１２回　疑問詞
【key words】
誰・いつ・どこ・なぜ・何・いくら・どうやって

【授業概要】
疑問詞を用いての疑問文を単語を入れ替えながら練習して覚える。
【教科書ページ・参考文献】
プリント
【課題・予習・復習・授業準備指示】
疑問詞7個を復習して暗記して来ること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１３回　過去形、過去尊敬形
【key words】
過去時制補助語幹

【授業概要】
用言の基本形の過去補助語幹と尊敬補助語幹を用いて過去形、過去尊敬形の会話文を復習して覚える。
【教科書ページ・参考文献】
ｐ135～137、ｐ140～141
【課題・予習・復習・授業準備指示】
138ｐ139ｐのドリルで復習して提出する事。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第１４回　　連結語尾～て、して、連結語尾～けれとも、が
【key words】
動作の継続・順序・内容の対立

【授業概要】
動作の継続と順序の連結語尾～で、～してと内容の対立の連結語尾～けれともを用いて会話文作りの練習をして覚える。
【教科書ページ・参考文献】
ｐ142～144
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書145ｐの課題をやって提出すること。

	【予習復習に必要な想定時間】 第１５回　　まとめて復習 【key words】 助詞・活用・不規則活用 【授業概要】 今までの助詞、活用した会話文、単語、文型をまとめて復習して日常会話、教室会話を二人ペアで発表させる。 【教科書ページ・参考文献】 なし 【課題・予習・復習・授業準備指示】 日常生活会話、教室会話を復習してテストに備える。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
受講生に関わる情報および受講のルール	日常生活及び身近な一般的な題材を中心に会話を学んで行く授業である。日本語の発音と似ている単語も多く、新たな発見も有り、とても学び易い言語でもある。身に付ける為には、繰り返しの練習、復習が必要である。原則として「韓国語Ｉ」の修了者を対象とする。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	毎回の授業後に復習用の宿題を次回授業時に提出する事。
オフィスアワー	授業の15分前、授業後の30分は対応可能。
評価方法	定期試験60%　宿題及びレポート40%
教科書	李 昌圭 著　『 韓国語へ旅しよう （初級） 』　朝日出版社
参考書	自作プリント
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 中国語Ⅰ　　授業コード： S1197

英文科目名称： Chinese (Mandarin)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位(30)	選択
担当教員			
岡野　康幸			
基礎教養科目	講義		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 ・中国語の正確な発音と初歩の文法・語彙を修得することにより、自身に関する簡単なことが言えるようにする。 ・中国語の学習を通じて、日本語との構造の差異に着目する。 【到達目標】 ・ピンインを見て発音ができるようになる。 ・中国語であいさつ・簡単な自己紹介ができるようになる。
授業の概要	中国語は声調（音声の高低）によって意味が変わる言語であり、また日本語には存在しない発音も多い言語です。発音を徹底的に練習することにより、正しい発音の習得と今後の自発的学習（予習・復習）の筋道をつける。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	○
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	◎
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	◎
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	○
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション　諸注意　読みなれている言葉を中国語で発音してみよう 【key words】 受講にあたっての諸注意　中国語　漢語　簡体字　繁体字　ピンイン 【授業概要】 みなさんにとって中国語を本格的に学ぶのは初めてのことだと思います。初回に中国語と中国に関する概説をします。漢字や漢文表現は日本語の一部となっています。しかしもとは中国語（古典中国語）です。孔子やラーメンを中国語で発音し、日本語との差異を感じてください。なお、この授業で言う「中国語」とは、中華人民共和国で使用されている“普通话”（普通話）を指して言います。 【教科書ページ・参考文献】 P2 【課題・予習・復習・授業準備指示】 この日講義した内容を忘れないように、帰宅後もう一度ノートを見返してください。大まかな中国語の概略の定着が図れます。 【予習復習に必要な想定時間】 １０分
	第２回	発音の決まりごと（１） 【key words】 ピンイン　声調（四声）　単母音　複合母音 【教科書ページ・参考文献】 教科書 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【授業概要】 中国語は声調言語（音の高低によって意味が異なる）です。故に入門段階では発音の練習が最も重視されます。著名な中国語研究者が「中国語　発音よければ　半ばよし」と言うほど、中国語における発音の比重は高いのです。この回では、声調（四声）・単母音・複合母音について発音

		練習していきます。 【教科書ページ・参考文献】 P2・P3 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習の段階では、教科書付録のCDや音声ストリーミングを聞くだけでいいです。決して一人で発音練習をしないでください。入門段階で中国語の発音練習をすると、間違った発音を覚える可能性が大だからです。 【予習復習に必要な想定時間】 １５分
	第３回	発音の決まりごと（２） 【key words】 声調　併音 【授業概要】 前回に続き発音の練習をします。今回は鼻母音・軽声・声調変化について練習していきます。また中国語の発音表記法である併音（ピンイン）の使い方についても講義します。 【教科書ページ・参考文献】 P4～P7 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習の段階では、教科書付録のCDや音声ストリーミングを聞くだけでいいです。決して一人で発音練習をしないでください。入門段階で中国語の発音練習をすると、間違った発音を覚える可能性が大だからです 【予習復習に必要な想定時間】 １５分
	第４回	第０課　你好！（こんにちは　その1） 【key words】 你好　併音 【授業概要】 外国語を学ぶ際にあいさつはどの言語でも最初に学ぶ語彙でしょう。発音の練習をしっかりやっていきます。またピンインの綴り方を学習します。 【教科書ページ・参考文献】 P4・P5 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習の段階では、教科書付録のCDや音声ストリーミングを聞くだけでいいです。復習の際には、音声を聞きながら自分でも言ってみても構いません。 【予習復習に必要な想定時間】 １５分
	第５回	第０課　你好！（こんにちは　その2） 【key words】 你好　併音　名前の尋ねかた 【授業概要】 今回より意味も含め本格的に中国語を学んで行きます。あいさつ・自己紹介・よろしくのあいさつ三大要素を暗記できるまで言ってみましょう。また中国語では名前の尋ねかた、あいさつの仕方についても何通りかあります。語彙を増やして表現を豊富にしてみましょう。 【教科書ページ・参考文献】 P4・P5 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習の段階では、教科書付録のCDや音声ストリーミングを聞くだけでいいです。復習の際には、音声を聞きながら自分でも言ってみても構いません。 【予習復習に必要な想定時間】 １５分
	第６回	第１課　你是日本人吗？（あなたは日本人ですか　その１） 【key words】 是構文（名詞述語文） 【授業概要】 この回では人称代名詞と動詞“是”「～です」について学習します。動詞“是”の構文は名詞述語文と呼ばれるもので基本構造の文です。この構文を使って会話と作文をしていきます。 【教科書ページ・参考文献】 P10・P11 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習の段階では、教科書付録のCDや音声ストリーミングを聞くだけでいいです。復習の際には、音声を聞きながら自分でも言ってみても構いません。 【予習復習に必要な想定時間】 １５分
	第７回	第１課　你是日本人吗？（日本人ですか　その２） 【key words】 是　不是　也　吗 【授業概要】 前回の復習から始めます。知識をしっかり植えつけましょう。新しく動詞“是”の疑問文・否定文のつくり方と副詞”也”の使い方そして疑問文の作り方を学習します。練習問題にも取り組み自力で解いてみましょう。 【教科書ページ・参考文献】 P10～P13 【課題・予習・復習・授業準備指示】

		予習の段階では、教科書付録のCDや音声ストリーミングを聞くだけでいいです。復習の際には、音声を聞きながら自分でも言ってみても構いません。 【予習復習に必要な想定時間】 １５分
	第８回	第２課　这是什么？（これは何ですか　その１） 【key words】 这个 那个 哪个 【授業概要】 この回では指示代名詞（こそあど【これ・それ・あれ・どれ】）について学習します。この構文を使って会話と作文をしていきます。 【教科書ページ・参考文献】 P14・P15 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習の段階では、教科書付録のCDや音声ストリーミングを聞くだけでいいです。復習の際には、音声を聞きながら自分でも言ってみても構いません。 【予習復習に必要な想定時間】 １５分
	第９回	第２課　这是什么？（これは何ですか　その２） 【key words】 什么 谁 哪里 的 【授業概要】 前回の復習から始めます。知識をしっかり植えつけましょう。疑問詞疑問文“什么”“谁”“哪里”を使って疑問 文を作ってみましょう。また助詞“的”を使い所有を示す「～の」の構文も学習します。練習問題にも取り組み自力で解いてみましょう。 【教科書ページ・参考文献】 P14～P17 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習の段階では、教科書付録のCDや音声ストリーミングを聞くだけでいいです。復習の際には、音声を聞きながら自分でも言ってみても構いません。 【予習復習に必要な想定時間】 １５分
	第１０回	第３課　今天几月几号？（今日は何月何日ですか　その１） 【key words】 曜日の言い方 【授業概要】 日付・曜日の尋ねかたについて学習します。日付･曜日の言い方は基本的に日本語と同じですが、語彙が異なりますので気をつけてください。 【教科書ページ・参考文献】 P18・P19 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習の段階では、教科書付録のCDや音声ストリーミングを聞くだけでいいです。復習の際には、音声を聞きながら自分でも言ってみても構いません。 【予習復習に必要な想定時間】 ２０分
	第１１回	第３課　今天几月几号？（今日は何月何日ですか　その２） 【key words】 動詞文　S+V+O 【授業概要】 前回の復習から始めます。知識をしっかり植えつけましょう。動詞文（主語+動詞【+目的語】）の構文は動 詞述語文と呼ばれるものです。動作を表す語彙を用いて表現力を豊富にしていきましょう。練習問題にも取り組み自力で解いてみましょう。 【教科書ページ・参考文献】 P18～P21 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習の段階では、教科書付録のCDや音声ストリーミングを聞くだけでいいです。復習の際には、音声を聞きながら自分でも言ってみても構いません。 【予習復習に必要な想定時間】 ２０分
	第１２回	第４課　你今年多大？（あなたは今年何歳ですか？　その１） 【key words】 年齢の尋ね方 【授業概要】 年齢の尋ねかた・年の言い方について学習します。中国語では年齢を聞くときに、①子ども②同世代･年下③目上の人で尋ね方が異なります。（日本語でもそうですよね）難しいことはありませんが、使い分けができるようにしてください。また年の言い方（おととし・去年・今年・来年・再来年）の言い方についても学習します。 【教科書ページ・参考文献】 P22・P23 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習の段階では、教科書付録のCDや音声ストリーミングを聞くだけでいいです。復習の際には、音声を聞きながら自分でも言ってみても構いません。次回、既習分の小テストを実施します。 【予習復習に必要な想定時間】

	２０分 第１３回　第４課　你今年多大？（あなたは今年何歳ですか？　その２） 【key words】 年の言い方　数の数え方 【授業概要】 小テスト及び前回の復習から始めます。知識をしっかり植えつけましょう。この回では一から百までの数の数え方を学習します。練習問題にも取り組み自力で解いてみましょう。 【教科書ページ・参考文献】 P22～P25 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習の段階では、教科書付録のCDや音声ストリーミングを聞くだけでいいです。復習の際には、音声を聞きながら自分でも言ってみても構いません。 【予習復習に必要な想定時間】 ２０分 第１４回　第５課　现在几点？（いま何時） 【key words】 時間 【授業概要】 講義の前に再小テストを実施します。講義では、時刻の尋ねかた・言い方について学習します。日本語と時刻の言い方が異なる場面もありますので、その違いに注意しながら学習していきましょう。 【教科書ページ・参考文献】 P26～P29 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習の段階では、教科書付録のCDや音声ストリーミングを聞くだけでいいです。復習の際には、音声を聞きながら自分でも言ってみても構いません。 【予習復習に必要な想定時間】 ２０分 第１５回　前期総復習 【key words】 総復習　発音　併音の綴り方 【授業概要】 前期に学習したことが定着しているか復習します。特に発音は中国語学習における最大のポイントです。確実に定着させましょう。 【教科書ページ・参考文献】 P3～P29 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前期最後の講義になりますので、よく理解できなかった点や発音しにくいところをリスト化して講義に来てください。また練習問題や小テストの間違えた部分を再度やり直して講義に臨んでください。 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
受講生に関わる情報および受講のルール	・ただ授業を聞くといった受け身の姿勢ではなく、「学ぶ意義」を自身に問いかけながら、積極的に参加すること。 ・周囲の迷惑になるので私語は慎むこと。・本人の責に帰す遅刻早退は認めない。中国語Ⅰに続けて中国語Ⅱも一緒に履修することが望ましい。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	漢字で書かれていても中国語は外国語です。漢字を見て中国語ではどのように発音するのかと意識してみてください。
オフィスアワー	毎週火曜１４時～１６時
評価方法	期末試験７０％　小テスト３０％
教科書	川邉雄大『体育・スポーツ系のための入門中国語』朝日出版社、２０１９年１月
参考書	相原茂『はじめての中国語』講談社現代新書、１９９０年２月
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育

	■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 中国語Ⅱ　　授業コード： S1196

英文科目名称： Chinese (Mandarin)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	選択
担当教員			
岡野　康幸			
基礎教養科目	講義		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 ・中国語Ⅰに続き、正確な発音、初級文法・語彙を修得することにより、身辺の日常的な事柄を表現できるようにする。 ・中国語の学習を通して、日本語日本文化との相違に着目する。 ・語学学習を通して、異文化理解を深めます。 【到達目標】 ・簡単・初歩的な日常会話ができるようにする。このレベルは真面目に予習復習をすれば中国語検定４級のレベルになります。
授業の概要	中国語は声調（音声の高低）によって意味が変わる言語であり、また日本語には存在しない発音も多い言語です。発音を徹底的に練習することにより、正しい発音の習得と今後の自発的学習（予習・復習）の筋道をつける。加えて、中国語Ⅱは語学のみならず、中国の文化歴史にも着目し授業を進めます。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	○
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	◎
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	◎
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	○
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	第６課　你家有几口人？（あなたの家族は何人ですか　その１） 【key words】 你家　几 【授業概要】 数の数え方について学習します。中国語では１０以下か以上かで尋ね方が異なります。家族の場合はたいてい１０人以下でしょうから“几”になります。また家族人員を示す語彙も覚えましょう。 【教科書ページ・参考文献】 P30・P31 【課題・予習・復習・授業準備指示】 P30・P31の音声を講義の前に必ず聞いておいてください。 【予習復習に必要な想定時間】 20分
	第２回	第６課　你家有几口人？（あなたの家族は何人ですか　その２） 【key words】 動詞“有” 【授業概要】 所有を示す動詞“有”を使い「ある、持っている」を表す文章を作っていきます。肯定文以外にも否定文･疑問文のつくり方も覚えましょう。関連表現も覚えていきましょう。また練習問題にも取り組み自力で解いてみましょう。 【教科書ページ・参考文献】 P30～P33 【課題・予習・復習・授業準備指示】 P33の単語帳（家族）を聞き、中国語で家族名称が答えられるようよく予習をしてください。合わ

		せてP30・P31の音声をもう一度よく聞き、聞き取れるように復習をしてください。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第３回	第７課　体育馆在哪儿？（体育館はどこですか　その１） 【key words】 動詞“在”所在・在所を表す 【授業概要】 所在・存在を示す“在”を使い「ある、いる」を表す文章を作っていきます。肯定文以外にも否定文･疑問文のつくり方も覚えましょう。更に願望を示す助動詞“想”を使い自分の願望を表す文章を作ってみましょう。 【教科書ページ・参考文献】 P34・P35 【課題・予習・復習・授業準備指示】 P34・P35の音声を講義の前に必ず聞いておいてください。 【予習復習に必要な想定時間】 20分
	第４回	第７課　体育馆在哪儿？（体育館はどこですか　その２） 【key words】 連動文 【授業概要】 動作が二つ連続して行なわれる文章を連動文と言います。例えば、体育館に行ってバスケットをする。と言った場合、“行って”と“する”の二つの動詞からこの一文は成り立っています。中国語での連動文を作ってみましょう。練習問題にも取り組み自力で解いてみましょう。 【教科書ページ・参考文献】 P34～P37 【課題・予習・復習・授業準備指示】 P37の単語帳（方位詞）を聞き、中国語で方位名称が答えられるようよく予習をしてください。合わせてP34・P35の音声をもう一度よく聞き、聞き取れるように復習をしてください。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第５回	第８課　山田太郎在家吗？（山田太郎は家にいますか　その１） 【key words】 100以上の数の数え方　動詞“在”の活用（肯定文・否定文・疑問文） 【課題・予習・復習・授業準備】 【授業概要】 この回では１００以上の数の数え方を学習します。日本語の数え方と若干異なりますので気をつけてください。また前々回に学習した所在・存在を示す“在”を使い（わたしは～にいる）という文章を作っていきます。 【教科書ページ・参考文献】 P38・P39 【課題・予習・復習・授業準備指示】 P38・P39の音声を講義の前に必ず聞いておいてください。 【予習復習に必要な想定時間】 20分
	第６回	第８課　山田太郎在家吗？（山田太郎は家にいますか　その２） 【key words】 电话 番号として言うときの“一”の発音 【授業概要】 電話口での中国語会話を学習します。電話で外国語を使用するのは想像以上に難しいです。（相手の顔が見えないので、表情を窺えません）しかし、初級者でも基本的なことはいえますので、基礎的な会話を学習しましょう。練習問題にも取り組み自力で解いてみましょう。 【教科書ページ・参考文献】 P38～P41 【課題・予習・復習・授業準備指示】 p41の単語帳（街中）を聞き、中国語で街中に関する言葉を答えられるようよく予習をしてください。合わせてP38・P39の音声をもう一度よく聞き、聞き取れるように復習をしてください。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第７回	第９課　你喜欢什么？（あなたは何が好きですか　その１） 【key words】 Ｓ+V+O　喜欢 【授業概要】 中国語の基本構文はＳ+V+O（主語+述語+目的語）です。この構文を体に染み込むまで徹底して学習します。“喜欢”を使い（～が好き）という文章を作っていきます。 【教科書ページ・参考文献】 P42・P43 【課題・予習・復習・授業準備指示】 P42・P43の音声を講義の前に必ず聞いておいてください。 【予習復習に必要な想定時間】 20分
	第８回	第９課　你喜欢什么？（あなたは何が好きですか　その２） 【key words】 喜欢　動詞

【授業概要】
“喜欢”を使って、肯定文以外に否定文や疑問文を作っていきます。中国語は日本語と異なり「～するのが好き」という形になります。ですから日本語では「野球が好き」で通じますが中国語の場合、「野球をするのが好き（我喜欢打棒球）」となります。（打が動作を示す）このことについても学習し理解してください。練習問題にも取り組み自力で解いてみましょう。
【教科書ページ・参考文献】
P42～P45
【課題・予習・復習・授業準備指示】
p45の単語帳（行動）を聞き、中国語で行動に関する言葉を答えられるようよく予習をしてください。合わせてP42・P43の音声をもう一度よく聞き、聞き取れるように復習をしてください。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第９回　第10課　你身体真棒！（あなたの体は本当にすばらしい　その１）
【key words】
副詞　很 真

【授業概要】
形容する際の文章（形容詞述語文）について学習し、習得してもらいます。形容詞述語文の大きな特徴として必ず副詞“很”“真”などを付けなければなりません。“是”構文との相違に着目しながら解説していきます。
【教科書ページ・参考文献】
P46・P47
【課題・予習・復習・授業準備指示】
P46・P47の音声を講義の前に必ず聞いておいてください。
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第１０回　第10課　你身体真棒！（あなたの体は本当にすばらしい　その２）
【key words】
主述述語文　吧

【授業概要】
主述述語文（～は～が～だ、例として象は鼻が長い）と文末の“吧”について学習します。特に“吧”は３種類の使い方があるので注意して学習していきましょう。練習問題にも取り組み自力で解いてみましょう。
【教科書ページ・参考文献】
P46～P47
【課題・予習・復習・授業準備指示】
p49の単語帳（対義語）を聞き、中国語で対義語を答えられるようよく予習をしてください。合わせてP46・P47の音声をもう一度よく聞き、聞き取れるように復習をしてください。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１１回　第11課　　您要什么？（あなたは何が欲しいですか　その１）
【key words】
助動詞　要（要には二つの意味があるので気をつけてください）

【授業概要】
助動詞“要”は（～したい）という願望を意味するときと、（欲しい）の意味の場合と二つあります。この差異に注意して学習していきます。
【教科書ページ・参考文献】
P50・P51
【課題・予習・復習・授業準備指示】
P50・P51の音声を講義の前に必ず聞いておいてください。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１２回　第11課　　您要什么？？（あなたは何が欲しいですか　その２）
【key words】
金額の数え方

【授業概要】
お金の数え方について学習します。また買い物の際の中国語を身につけましょう。練習問題にも取り組み自力で解いてみましょう。
【教科書ページ・参考文献】
P50～P53
【課題・予習・復習・授業準備指示】
p53の単語帳（色）を聞き、中国語で色を答えられるようよく予習をしてください。合わせてP50・P51の音声をもう一度よく聞き、聞き取れるように復習をしてください。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１３回　第12課　　你打羽毛球打得很好！
【key words】
様態補語　得

【授業概要】
様態補語“得”について学習します。日本語とは言い表し方が異なりますので、差異に着目しながら学習します。
【教科書ページ・参考文献】
P54・P55

	【課題・予習・復習・授業準備指示】 P54・P55の音声を講義の前に必ず聞いておいてください。 【予習復習に必要な想定時間】 20分 第１４回　第12課　你打羽毛球打得很好！ 【key words】 助動詞　会 【授業概要】 助動詞“会”（できる）は学習･練習の結果何らかの技能が「できる」と言う意味を表します。この“会”を使い文章を作ります。練習問題にも取り組み自力で解いてみましょう。 【教科書ページ・参考文献】 P54～P57 【課題・予習・復習・授業準備指示】 p57の単語帳（動作）を聞き、中国語で動作を答えられるようよく予習をしてください。合わせてP54・P55の音声をもう一度よく聞き、聞き取れるように復習をしてください。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第１５回　ドリル　総復習中国語のまとめ 【key words】 復習　外国語を学ぶ意義 【授業概要】 ドリル問題を解き弱点を把握し解決していきます。この時点でしっかりマスターしていれば中国語検定４級のレベルになります。４級は中国語の基礎をマスターしたレベルになります。中国語検定試験４級に挑戦してみるのも面白いと思います。最終回ですので、外国語を学ぶ意義について受講生とともに考えます。 【教科書ページ・参考文献】 P58～P69 【課題・予習・復習・授業準備指示】 P58～P62は初歩レベルですので、家で解いてきてください。（即ち宿題を意味します） 【予習復習に必要な想定時間】 60分
受講生に関わる情報および受講のルール	・ただ授業を聞くといった受け身の姿勢ではなく、「学ぶ意義」を自身に問いかけながら、積極的に参加すること。 ・周囲の迷惑になるので私語は慎むこと。 ・本人の責に帰す遅刻早退は認めない。 ・中国語Ⅰに続けて中国語Ⅱも一緒に履修することが望ましい。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	漢字で書かれていても中国語は外国語です。漢字を見て中国語ではどのように発音するのかと意識してみてください。
オフィスアワー	毎週火曜１４時～１６時
評価方法	期末試験７０％　小テスト３０％
教科書	川邉雄大『体育・スポーツ系のための入門中国語』朝日出版社、２０１９年１月
参考書	相原茂他「why？にこたえる　はじめての　中国語の文法書新訂版』同学社、２０１６年１１月　倉石武四郎『中国語五十年』岩波新書、１９７３年１月
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 経済学　　授業コード： S1211

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	選択
担当教員			
白石　憲一			
基礎教養科目	講義		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 経済学の基礎を学習していないと、毎日報道される経済関係のニュースに対して自分なりの的確な見解を持つことは難しい。この授業では学生がマクロ経済学の基礎を理解することを目的とする。 【到達目標】 そして毎日起きる経済事象について自分なりの意見を持つことを授業の到達目標とする。
授業の概要	経済学の基礎理論について概観していく。あわせて現実の経済データを用いて、経済の実態についても講義をしていく。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	◎
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	○
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	△
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテ-ション 【key words】 経済学 【授業概要】 授業の概要について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 21頁～240頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを確認する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
	第２回	貧困 【key words】 【key words】 相対的貧困 【授業概要】 貧困の種類について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 「国民生活基礎調査」（厚生労働省） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 相対的貧困について調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
	第３回	社会保障と経済 【key words】 医療保険制度、アメリカ 【授業概要】

	福祉施策と経済学との関わりについて学習する。 【教科書ページ・参考文献】 「社会保障」（中央法規） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 アメリカの医療保険制度について調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
第４回	GDP 【key words】 ＧＤＰ、三面等価の原則 【授業概要】 ＧＤＰのデータの作成方法、データの読み方について説明する。 【教科書ページ・参考文献】 「国民経済計算」（内閣府） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「国民経済計算」（内閣府）の統計数値を確認する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
第５回	経済成長 【key words】 ソロー、労働、資本、技術進歩 【授業概要】 新古典派の経済成長理論について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 「入門マクロ経済学」（日本評論社） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 経済成長率の統計を確認する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
第６回	ストック経済学 【key words】 株価 【授業概要】 株価データの見方、キャピタルゲインの計算方法について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 「入門マクロ経済学」（日本評論社） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 日本の株価を新聞で確認する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
第７回	国際収支 【key words】 国際収支表 【授業概要】 国際収支表の統計について、具体的な統計数字を用いて学習する。 【教科書ページ・参考文献】 「入門マクロ経済学」（日本評論社） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 国際収支表の統計を確認する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
第８回	国際金融 【key words】 為替レート 【授業概要】 為替レートの意味を理解し、貿易との関係について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 「入門マクロ経済学」（日本評論社） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 為替レートの統計数字を確認する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
第９回	経済史 【key words】 経済史 【授業概要】 所得不平等の歴史について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 「21世紀の資本」（みすず書房） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「21世紀の資本」（みすず書房）の関心のある章を学習する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
第１０回	21世紀の資本 【key words】 トマ・ピケティ

	【授業概要】 近年の世界的な所得格差拡大の実態について説明する。 【教科書ページ・参考文献】 「21世紀の資本」（みすず書房） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ジニ係数の統計数値を確認する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
第１１回	金融 【key words】 貨幣ストック 【授業概要】 貨幣ストックについて学習する。 【教科書ページ・参考文献】 「入門マクロ経済学」（日本評論社） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 貨幣ストックの種類を調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
第１２回	金融政策 【key words】 中央銀行 【授業概要】 金融政策の概要と経済との関係について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 「入門マクロ経済学」（日本評論社） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 金融政策の種類を確認する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
第１３回	ナッジ 【key words】 行動経済学 【授業概要】 ナッジの概要と活用事例について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 「予想どおりに不合理」（早川書房） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ナッジの活用事例を調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
第１４回	教育の経済学 【key words】 認知能力、非認知能力 【授業概要】 認知能力、非認知能力の意味を理解し、仕事の業績との関係について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 「学力の経済学」（ディスカヴァー・トゥエンティワン） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 認知能力、非認知能力について調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
第１５回	経済学と日本経済 【key words】 経済理論 【授業概要】 経済理論と経済現象の関係について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 21頁～240頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 新聞を読む。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
受講生に関わる情報および受講のルール	新聞、ニュースなどで最新の経済の情報について確認すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	予習を毎回行い、質問があればコメントカードを活用すること。
オフィスアワー	木曜日4限

評価方法	試験（60%）と授業中の課題（40%）によって評価
教科書	井堀利広「大学4年間の経済学が10時間でざっと学べる」（KADOKAWA）2015
参考書	中谷巌「入門マクロ経済学」（日本評論社）2007
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： チームケア入門Ⅱ　　授業コード：S1405

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	1単位(15)	選択
担当教員			
原　純子・田中　浩之			
基礎教養科目	演習		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 包括的視点で対象者を捉え、多職種による円滑なケアが展開できるための基礎的知識・技術・態度について学び多職種連携のあり方を修得する。具体的な事例検討を通してチームケアの実践につながる演習を行うことができる。 [到達目標] 1) 事例検討を通して、職種毎に課題を明確化し、自らできること、やるべきことを列挙できる。 2) 事例検討を通して、多職種の特徴・連携の必要性・連携上の留意点を理解することができる。 3) 多職種連携・チームケアのあり方・今後の課題に気付くことができる。 4) 多職種連携・チームケアの気付き・課題について継続した取り組みができる。 5) チームメンバーを尊重し主体的・計画的・協力的に取り組むことができる。
授業の概要	保健医療福祉の動向に伴い、多様なニーズを必要とする対象者が増加しており保健医療福祉教育専門職に求められることも多様化している。対象者のケアの目標を達成するためには、多職種間の連携が不可欠となる。IPE (Interprofessional Education occurs)は、2職種間、またはそれ以上の専門職が主体となって、共同とケアの質を改善することを目的とし「共に学び、互いから学び、互いについて学ぶ」という方法をとる。その基本は共に尊重し学び合うという視点である。本学が目指す各専門職教育過程は、どの段階においても複数の職種との相互作用が求められる。IPEの体験は「仲間づくり、主体的学習、自身の考えを相手に伝える」という基本的学習姿勢を培う機会となる。初年次のIPEの体験の導入は、高学年の専門職連携を意図した実習に直接つながり、基礎教育の早期から段階的に積み上げ発展させていくことにより現在の保健医療福祉の変化に多様な対応が可能となる基礎的能力を養う。 保健医療福祉教育職種が連携を取り合うことの意義・必要性と多様なチームケアの在り方について学習する。群馬医療福祉大学の福祉・医療総合大学の特色を生かし、3学部合同チームによる「チームケア教育」を行う。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	◎
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	○
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	○
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	○
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回　チームケア入門Ⅱ-① 【key words】 多職種連携 【授業概要】 科目オリエンテーション、多職種連携、チームケアの考え方、取り巻く背景、リハビリ・福祉職・看護職の役割について学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２回　チームケア入門Ⅱ-② 【key words】

【授業概要】
各グループごとに事例展開に関する調べ学習を行う。(情報交換・共有)
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第３回　チームケア入門Ⅱ-③
【key words】

【授業概要】
事例展開に関する調べ学習・自職種の特徴を踏まえ、事例の問題点・課題点を挙げ、自職種ができることやるべきことをまとめる（学部毎）。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第４回　チームケア入門Ⅱ-④
【key words】

【授業概要】
事例について各学部毎に課題（問題点）を明確化し、自分の職種ができることやるべきことを職種ごとに明らかにするための準備を行う。パワーポイントにて作成。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
ワークシートの様式3～様式8までを記入
【予習復習に必要な想定時間】

第５回　チームケア入門Ⅱ-⑤
【key words】

【授業概要】
事例について各学部毎に課題（問題点）を明確化し、自分の職種ができることやるべきことを職種ごとに明らかにするための合同会議(3学部小グループ)。報告準備。パワーポイントにて作成。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
ワークシートの様式9～様式10までを記入
【予習復習に必要な想定時間】

第６回　チームケア入門Ⅱ-⑥
【key words】

【授業概要】
明確化した課題（問題点）について自分の職種ができることやるべきことについて全学部で報告（3学部大グループ）、共有する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第７回　チームケア入門Ⅱ-⑦
【key words】

【授業概要】
明確化した課題（問題点）について自分の職種ができることやるべきことについて全学部で報告（3学部大グループ）、共有する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第８回　チームケア入門Ⅱ-⑧
【key words】

【授業概要】
事例検討による一連の学習過程を評価・考察する。― チームケア教育への関心・自己の課題に気付き課題を達成するための方法を考えることができるようにする ―
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
ワークシートの様式11～様式13-2までを記入
【予習復習に必要な想定時間】

第９回
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

	【予習復習に必要な想定時間】 第１０回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１１回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１２回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１３回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１４回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１５回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	①予習：事前学習課題を整理し、授業時活用する。 ②復習：授業で配布したプリント・資料を読み返す。 [受講のルール] ①積極的に取り組むこと。 ②レポート等の課題について、提出期限を厳守する。 ③授業の学びを必ず記載すること。記載することで表現力を養うものである。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	・関連文献、新聞などに関心を持ち情報収集することを期待する。
オフィスアワー	別途指示をする。
評価方法	①グループワークでの取り組み50%　　②ポートフォリオ評価50%
教科書	資料配布
参考書	1. 鷹野和美著：チームケア論　ぱる出版, 2008.　2. 小松秀樹：地域包括ケアの課題と未来、ロハス・メディカル、2015
実務者経験/アク	

ティブラーニング/ リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 社会保障　　授業コード： S2202

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	4単位(60)	社会福祉コース・必修／福祉心理コース・学校教育コース・児童福祉コース・選択
担当教員			
松原　直樹			
専門科目	講義	社会福祉士・精神保健福祉士指定科目	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 社会保障制度は、私たちが生活していく中で誰もが直面する失業や病気・けが、介護の必要性などの困難な状況に社会全体で手助けをしようとする制度である。社会保障は、日常生活に困難を抱えている場面において、なくてはならない仕組みであり、社会福祉に関わる仕事に就く人だけでなく、生活者としても、理解しておく必要のある事がらである。さまざまな場面でセーフティネットとなっている社会保障に関する理解を深めていくことを授業の目的とする。 【到達目標】 １．社会保障の概念・理念及び社会保障制度の展開についての理解 ２．現代の社会保障制度の役割・意義及び課題の理解 ３．公的保険制度と民間保険制度の関係についての理解 ４．社会保障制度の体系と概要についての理解 ５．諸外国における社会保障制度の概要についての理解
授業の概要	まず社会保障を取り巻く環境について理解した上で、社会保障制度の全体像について理解する。特に年金・医療・介護・労働などの各保険制度の概要や現状、今後の課題について理解する。また現実のデータから社会保障の動向について整理を行い、さらに社会福祉士・精神保健福祉士国家試験における、社会保障の過去問を活用しながら、具体的な事例を想定し、社会保障制度の目的・役割・課題について理解を深める。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回	オリエンテーション、現代社会における社会保障の現状 【key words】 社会保障　人口動態　少子高齢化　人口減少社会　非正規雇用　ワークライフバランス 【授業概要】 社会保障の学習予定について概観する。また、社会福祉士国家試験出題基準及び精神保健福祉士国家試験出題基準における社会保障の位置づけを知る。そして、社会保障制度を取り巻く現在の環境について理解する。特に、社会保障にとって大きな影響を及ぼす経済環境の変化について学習する。少子高齢化、人口減少期を迎えている日本の現状とそうした状況下での労働人口やその将来予測について検討し、それに関連する労働環境の現状および整備について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 p. ｉ ～p. viii、p. 1～p. 15 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〈予習〉 教科書第1章を読んでおく。 〈復習〉 本日の授業の概要を確認する。まとめチェック1で質問された事項について、正解を調べておく。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分、復習120分
	第２回	社会保障の概念・理念と対象 【key words】

		社会保障の概念　社会保障の役割　社会保障の機能　社会保障の理念　社会保障の対象　セーフティネット 【授業概要】 　社会保障の概念について知る。さらに、現代の社会保障における個人・政府・地方自治体及び社会福祉事業者の関わりについて知る。また、社会保障と福祉国家の関係について理解する。さらに、日本国憲法及び基本的人権と社会保障の関係について理解する。続いて、社会保障全体についての目的及び機能について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 p.16～p.35 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〈予習〉教科書第2章1～4節を読んでおく。 〈復習〉配布プリントを見ながら、本日の授業の概要を確認する。まとめチェック2で質問された事項について、正解を調べておく。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分、復習120分
	第３回	社会保障制度の展開 【key words】 救貧法　社会保険法　恤救規則　救護法 【授業概要】 社会保障がどのような経緯をたどって現在に至っているかを理解し、また社会保障制度の思想や哲学の知識や流れを全体的に把握する。 【教科書ページ・参考文献】 p.36～p.46 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〈予習〉教科書第2章5節を読んでおく。 〈復習〉配布プリントを見ながら、本日の授業の概要を確認する。まとめチェック3で質問された事項について、正解を調べておく。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分、復習120分
	第４回	社会保障と財政① 【key words】 社会保障費用統計　社会保障給付費　政策分野別・部門別・機能別社会保障給付費　国民負担率 【授業概要】 最新社会保障費用統計を見て、その特徴を理解する。また、部門別、機能別の社会保障給付費に関する統計を検討し、その特徴を理解する。また、その上で、社会保障と国民経済の関係および国民負担率について現状を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 p.47～p.57 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〈予習〉教科書第3章を読んでおく。 〈復習〉配布プリントを見ながら、本日の授業の概要を確認する。まとめチェック4で質問された事項について、正解を調べておく。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分、復習120分
	第５回	社会保障と財政②　　社会保険と社会扶助 【key words】 社会保障・税一体改革　社会保障関係費　国民経済　国民負担率　社会保険　社会扶助 【授業概要】 社会保障が経済活動にどのような影響を及ぼしているのかを理解する。また、国民の生活を保障する社会保障の方法として、社会保険と社会扶助について、それぞれの概念とその内容を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 p.57～p.75 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〈予習〉教科書第4章を読んでおく。 〈復習〉配布プリントを見ながら、本日の授業の概要を確認する。まとめチェック5で質問された事項について、正解を調べておく。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分、復習120分
	第６回	民間保険と社会保険、民間保険の概要 【key words】 民間保険　生命保険　損害保険　第三分野の保険 【授業概要】 公的保険による所得補償では不十分な場合、それを補完するものとして重要な役割を有している民間保険について、公的保険との相違を中心に理解する。民間保険の諸原則及び保険給付の対象範囲について、理解する。 【教科書ページ・参考文献】 p.76～p.86 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〈予習〉教科書第5章を読んでおく。 〈復習〉授業の概要を確認する。まとめチェック6で質問された事項について、正解を調べておく。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分、復習120分
	第７回	医療保険制度①医療保険制度の概要 【key words】 国民皆保険　高齢者の医療の確保に関する法律　被用者保険　地域保険 【授業概要】 医療保険制度がこれまでどのように形作られてきたかについて理解する。そして、医療保険制度の全体像について理解する。また、保険診療をめぐる利用者・医療機関・保険者の関係について理解する。 【教科書ページ・参考文献】

		p.87～p.89 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〈予習〉教科書第6章1節(1)を読んでおく。 〈復習〉配布プリントを見ながら、本日の授業の概要を確認する。まとめチェック7で質問された事項について、正解を調べておく。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分、復習120分
	第８回	医療保険制度②被用者保険 【key words】 健康保険　協会けんぽ　健康保険組合　療養の給付 【授業概要】 被用者保険である健康保険と共済制度について理解する。そのため、それぞれの保険の被保険者および保険者について理解する。また、共通する保険給付の内容について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 p.89～p.94 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〈予習〉教科書第6章1節(2)を読んでおく。 〈復習〉配布プリントを見ながら、本日の授業の概要を確認する。まとめチェック8で質問された事項について、正解を調べておく。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分、復習120分
	第９回	医療保険制度③国民健康保険 各種共済組合 【key words】 国民健康保険　国民健康保険組合　国民健康保険財政　　各種共済組合 【授業概要】 地域保険である国民健康保険について理解する。この保険の被保険者および保険者について理解する。また、国民健康保険財政について、理解する。 各種共済組合の概要を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 p.94～p.101 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〈予習〉教科書第6章1節(3)(4)を読んでおく。 〈復習〉配布プリントを見ながら、本日の授業の概要を確認する。まとめチェック9で質問された事項について、正解を調べておく。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分、復習120分
	第１０回	医療保険制度④高齢者医療制度 【key words】 後期高齢者医療制度　高齢者の医療の確保に関する法律　広域連合 【授業概要】 後期高齢者医療制度のしくみについて理解する。被保険者、保険料、および財源構成について、学習する。その他の高齢者医療に関する制度についても概観する。 【教科書ページ・参考文献】 p.102～p.106 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〈予習〉教科書第6章1節(5)を読んでおく。 〈復習〉配布プリントを見ながら、本日の授業の概要を確認する。まとめチェック10で質問された事項について、正解を調べておく。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分、復習120分
	第１１回	医療保険制度⑤公費負担医療、国民医療費 【key words】 公費負担医療　国民医療費　医療費適正化　混合医療の拡大　診療報酬改定 【授業概要】 公費負担医療について理解する。最新のデータにより国民医療費について理解する。また、最近の医療費や医療提供体制に関わる動向について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 p.106～p.109 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〈予習〉教科書第6章1節(6)を読んでおく。 〈復習〉配布プリントを見ながら、本日の授業の概要を確認する。まとめチェック11で質問された事項について、正解を調べておく。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分、復習120分
	第１２回	介護保険制度①介護保険制度制定の経緯、介護保険制度の基本的なしくみ(1) 【key words】 措置から契約　介護保険法　介護保険法改正 第1号被保険者・第2号被保険者 【授業概要】 介護保険制度が創設された背景と創設された経緯について、理解する。まず、介護保険制度創設以前の高齢者福祉・老人保健制度について概観し、介護保険の創設過程及び介護保険制度の見直しの経緯について学習する。また、現在の介護保険制度の概要について、保険者・被保険者および保険料について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 p.110～p.117 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〈予習〉教科書第6章2節(1)～(３)を読んでおく。 〈復習〉本日の授業の概要を確認する。まとめチェック12で質問された事項について、正解を調べておく。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分、復習120分
	第１３回	介護保険制度②介護保険制度の基本的なしくみ(2)　介護サービスの種類 【key words】 要介護認定　介護保険審査会　要介護　要支援　介護給付　予防給付　施設サービス　居宅サー

		ビス　介護予防サービス 【授業概要】 利用手続きについて、要介護認定を含む介護保険利用手順を理解する。介護保険の給付について、要介護1～5の認定を受けた要介護者を対象とした介護給付と要支援1～2の認定がされた要支援者を対象とした予防給付について、その内容について、理解する。 【教科書ページ・参考文献】 p.118～p.126 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〈予習〉教科書第6章2節(4)1)2)を読んでおく。 〈復習〉配布プリントを見ながら、本日の授業の概要を確認する。まとめチェック13で質問された事項について、正解を調べておく。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分、復習120分
	第１４回	介護保険制度③　地域密着型サービス、地域支援事業、地域包括ケアシステム、政策動向 【key words】 地域密着型サービス　地域支援事業　地域包括支援センター　地域包括ケアシステム　介護保険財政　介護保険制度改革 【授業概要】 地域密着型サービス、地域密着型介護予防サービスについてもその内容を理解する。次に、地域支援事業について、理解する。また、地域包括ケアシステムについて、その理念と内容について理解する。介護保険財政及び介護保険制度の課題について、理解する。 【教科書ページ・参考文献】 p.124～p.135 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〈予習〉教科書第6章2節(4)2)～(6)を読んでおく。 〈復習〉授業の概要を確認する。まとめチェック14で質問された事項について、正解を調べておく。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分、復習120分
	第１５回	前半のまとめ、中間テスト 【key words】 社会保障の概念や対象及びその理念　社会保障の財源と費用　医療保険制度の具体的内容　介護保険制度の具体的内容 【授業概要】 これまで学習した「社会保障の概念や対象及びその理念」「社会保障の財源と費用」「医療保険制度の概要」「介護保険制度の概要」について、その概要を復習する。また、その範囲について、社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験問題の解答・解説によって、理解を深める。その後、40分間の中間テストを実施する。 【教科書ページ・参考文献】 p.1～p.135 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〈予習〉配布プリントを通読しておく。 〈復習〉授業で取り上げた、社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験問題の解答・解説を復習する。また、中間テストの解答をもとに復習する。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分、復習120分
	第１６回	年金保険制度①公的年金制度の沿革と概要 【key words】 国民皆年金体制　公的年金制度の沿革　年金制度改革 【授業概要】 公的年金の概要について理解する。そのため、公的年金制度が現在の制度に至る過程について理解する。さらに、公的年金制度めぐる近年の改革について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 p.136～p.141 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〈予習〉教科書第6章3節(1)(2)を読んでおく。 〈復習〉配布プリントを見ながら、本日の授業の概要を確認する。まとめチェック16で質問された事項について、正解を調べておく。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分、復習120分
	第１７回	年金保険制度②国民年金・厚生年金 【key words】 国民年金第1～3号被保険者　厚生年金適用事業所　国民年金の免除　学生納付特例制度　国民年金保険料　厚生年金保険料率 【授業概要】 国民年金の概要と被保険者の種類について理解する。また、厚生年金の概要と被保険者について理解する。さらに、国民年金と厚生年金の関係について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 p.141～p.144 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〈予習〉教科書第6章3節(3)(4)を読んでおく。 〈復習〉授業の概要を確認する。まとめチェック17で質問された事項について、正解を調べておく。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分、復習120分
	第１８回	年金保険制度③老齢基礎年金・老齢厚生年金 【key words】 老齢基礎年金　老齢厚生年金　年金支給要件　年金額 【授業概要】 国民年金および厚生年金の給付の種類について、理解した後、老齢基礎年金及び老齢厚生年金の支給のための要件および年金額について、理解する。 【教科書ページ・参考文献】 p.144～p.146

【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈予習〉教科書第6章3節(5)1)を読んでおく。
〈復習〉授業の概要を確認する。まとめチェック18で質問された事項について、正解を調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分、復習120分

第１９回　年金保険制度④障害基礎年金・障害厚生年金、遺族基礎年金・遺族厚生年金
【key words】
障害基礎年金　障害厚生年金　遺族基礎年金　遺族厚生年金
【授業概要】
障害基礎年金及び障害厚生年金の支給のための要件および年金額について、理解する。また、遺族基礎年金及び遺族厚生年金の支給のための要件および年金額について、理解し、両者の支給対象者の違いについて、理解する。
【教科書ページ・参考文献】
p.144, p.147～p.151
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈予習〉教科書第6章3節(5)2)～4)を読んでおく。
〈復習〉授業の概要を確認する。まとめチェック19で質問された事項について、正解を調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分、復習120分

第２０回　年金保険制度⑤　年金保険制度の実際
【key words】
国民年金　厚生年金
【授業概要】
国民年金及び厚生年金の概要・被保険者・給付要件及び給付内容の具体例について、過去問を利用して、問題演習により理解する。
【教科書ページ・参考文献】
p.136～151
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈予習〉教科書第6章3節(1)～(5)を読んでおく。
〈復習〉授業の概要を確認する。まとめチェック20で質問された事項について、正解を調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分、復習120分

第２１回　年金保険制度⑥　私的年金
【key words】
企業年金　確定拠出年金　確定給付年金　個人年金
【授業概要】
公的年金を補完する役割を担っている企業年金と個人年金について、その概要と具体的なしくみについて理解する。
【教科書ページ・参考文献】
p.151～p.154
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈予習〉教科書第6章3節(6)を読んでおく。
〈復習〉授業の概要を確認する。まとめチェック21で質問された事項について、正解を調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分、復習120分

第２２回　年金保険制度⑦年金保険の動向
【key words】
社会保障制度改革国民会議 税・社会保障一体改革　マクロ経済スライド 財政検証 所得代替率 厚生年金基金
【授業概要】
社会保障・税一体改革以来の年金制度をめぐる動向について理解する。そして、現在の年金制度に関する課題と今後の見通しについて知る。
【教科書ページ・参考文献】
p.154～p.160
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈予習〉教科書第6章3節(7)を読んでおく。
〈復習〉配布プリントを見ながら、本日の授業の概要を確認する。まとめチェック22で質問された事項について、正解を調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分、復習120分

第２３回　労働保険制度①労働保険制度の概要と沿革、労働者災害補償保険
【key words】
労働保険　労働者災害補償保険　労働基準監督署　ハローワーク　労災認定
【授業概要】
労働者に対する保険制度である雇用保険・労働者災害補償保険について、概要と沿革を理解する。今回は、労働者災害補償保険の対象、保険給付の内容及び給付の前提となる労災認定について、理解する。
【教科書ページ・参考文献】
p.161～p.170
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈予習〉教科書第6章4節(1)～(5)を読んでおく。
〈復習〉授業の概要を確認する。まとめチェック23で質問された事項について、正解を調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分、復習120分

第２４回　労働保険制度②雇用保険、求職者支援、労働保険制度をめぐる最近の動向
【key words】
雇用保険　失業等給付　雇用保険二事業　就職促進給付　雇用継続給付

【授業概要】
労働保険のうち、雇用保険について、理解する。失業等給付の具体的な給付内容について、理解し、また雇用保険二事業について、その内容を理解する。雇用保険の財源構成についても理解する。さらに、最近の労働環境と労働保険の関係についても理解する。
【教科書ページ・参考文献】
p.170～p.179
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈予習〉教科書第6章4節(6)～(8)を読んでおく。
〈復習〉授業の概要を確認する。まとめチェック24で質問された事項について、正解を調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分、復習120分

第２５回　生活保護制度、社会手当制度
【key words】
生存権　公的扶助　生活保護制度　社会手当　児童手当　児童扶養手当
【授業概要】
生活保護法の内容について、特に基本原理・生活保護の種類・保護施設について理解する。また、税を財源とする金銭給付である社会手当制度について、具体的な施策を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
p.180～p.204
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈予習〉教科書第6章5～6節を読んでおく。
〈復習〉授業の概要を確認する。まとめチェック25で質問された事項について、正解を調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分、復習120分

第２６回　社会福祉制度①沿革と概要、児童福祉、母子・父子福祉
【key words】
社会福祉法　社会福祉事業　社会福祉財政　児童福祉法　児童福祉施設　子ども・子育て支援新制度　母子・父子及び寡婦福祉法
【授業概要】
社会福祉制度が整備されてきた経緯を学習し、社会福祉制度の現状を理解する。児童を対象とした福祉施策について、児童福祉法及び子育て支援関連法にもとづき、理解する。また、ひとり親家庭を対象とした福祉施策についても理解する。
【教科書ページ・参考文献】
p.205～p.221
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈予習〉教科書第6章7節(1)～(5)1)を読んでおく。
〈復習〉授業の概要を確認する。まとめチェック26で質問された事項について、正解を調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分、復習120分

第２７回　社会福祉制度②障害者福祉、高齢者福祉
【key words】
障害者基本法　障害者総合支援法　老人福祉法　高齢者虐待防止法
【授業概要】
障害者を対象とした福祉施策について、障害者基本法・障害者総合支援法をはじめとした障害者福祉関連法にもとづき、理解する。高齢者を対象とした福祉施策について、老人福祉法法にもとづき、理解する。また、介護保険法との関連についても理解する。さらに、高齢者の権利保障についての施策も理解する。
【教科書ページ・参考文献】
p.221～p.226
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈予習〉教科書第6章7節(5)2)～3)を読んでおく。
〈復習〉授業の概要を確認する。まとめチェック27で質問された事項について、正解を調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】

第２８回　諸外国における社会保障制度①ヨーロッパ
【key words】
スウェーデンの社会保障　ドイツの社会保障　フランスの社会保障　イギリスの社会保障
【授業概要】
人口構成の高齢化を迎えている欧米諸国の社会保障制度について、2つの類型に分けて、検討した上で、まずは具体的にヨーロッパ４カ国の社会保障制度についても日本と比較しながら理解する。
【教科書ページ・参考文献】
p.227～p.237
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈予習〉教科書第7章1～2節を読んでおく。
〈復習〉授業の概要を確認する。まとめチェック28で質問された事項について、正解を調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分、復習120分

第２９回　諸外国における社会保障制度②アメリカ、オセアニア、中国、ロシア、韓国
【key words】
アメリカの社会保障　オーストラリアの社会保障　ロシアの社会保障　中国の社会保障　韓国の社会保障　社会保障協定
【授業概要】
人口構成の高齢化を迎えている日本の近隣諸国等の社会保障制度について、検討した上で、具体的に５カ国の社会保障制度についても日本と比較しながら理解する。社会保障に関わる諸協定について、理解する。
【教科書ページ・参考文献】
p.237～p.243
【課題・予習・復習・授業準備指示】

	〈予習〉教科書第7章3～5節を読んでおく。 〈復習〉授業の概要を確認する。まとめチェック29で質問された事項について、正解を調べておく。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分、復習120分 第３０回　全体のまとめ 【key words】 年金保険　労働者災害補償保険　雇用保険　社会福祉制度 【授業概要】 これまで学習してきたもののなかで、特に「年金保険」「労働保険」及び「社会福祉制度」について、その概要を復習する。また、社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験問題の解答・解説によって、理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 p.1～p.246 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〈予習〉教科書終章を読んでおく。これまでの配付資料を通読しておく。 〈復習〉授業で取り上げた、まとめチェックその他の解答・解説を復習する。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分、復習120分
受講生に関わる情報および受講のルール	・自己責任(無断欠席・遅刻等しない) で受講すること。 ・主体的に社会保障分野の内容が理解できるように努めること。 ・社会福祉分野の国家試験と深い関わりがある科目のため、予習・復習をすること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	ミニテスト(質問・コメント含む)
授業外時間にかかわる情報	配布資料、ミニテストの復習、新聞や社会保障に関連する参考書等を自主的に勉強すること。
オフィスアワー	授業日の15時50分から
評価方法	期末試験（55%），中間テスト(25%)・受講状況（20%）
教科書	川村匡由 編著『福祉ライブラリ　改訂 社会保障』建帛社
参考書	『最新　社会福祉士養成講座　精神保健福祉士養成講座 ７社会保障』中央法規出版 社会福祉小六法・社会福祉用語辞典（最新版）
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） ■情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 心理統計学(心理学統計法)　　授業コード： S3081

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	4単位(60)	社会福祉コース・学校教育コース・選択／福祉心理コース・必修
担当教員			
河内 和直			
専門科目	講義		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 本講義は，心理学データの分析・解釈に必要な統計的方法の習得を目的とする． 【到達目標】 単に統計学の基本的概念を理解するだけでなく，人の精神活動や行動に関する情報を統計学的根拠に則して読みとくことができる．
授業の概要	授業は講義形式での説明のほか，模擬データを配布して実際に統計処理を行い，その結果を解釈するという演習形式を取りながら学習を進める．

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	オリエンテーション　心理学研究の基礎としての統計学
	第２回	統計学の初歩Ⅰ　「統計をとる」ことの意義
	第３回	統計学の初歩Ⅱ　変数と尺度，シグマ(Σ)記号の意味
	第４回	度数分布Ⅰ　質的変数の度数分布
	第５回	度数分布Ⅱ　量的変数の度数分布
	第６回	基本統計量Ⅰ　代表値(平均値，中央値，最頻値)
	第７回	基本統計量Ⅱ　散布度(分散，標準偏差)
	第８回	基本統計量Ⅲ　分布型(歪度，尖度，正規性)
	第９回	基本統計量Ⅳ　標準正規分布の使い方
	第１０回	相関と回帰Ⅰ　散布図，相関関係の理解
	第１１回	相関と回帰Ⅱ　ピアソンの積率相関係数
	第１２回	相関と回帰Ⅲ　相関行列，多変数間の相関分析

	第１３回　　相関と回帰Ⅳ　回帰分析 第１４回　　相関と回帰Ⅴ　回帰分析の応用(重回帰分析) 第１５回　　前期の総括 第１６回　　統計的検定Ⅰ　母集団と標本 第１７回　　統計的検定Ⅱ　統計的検定の考え方 第１８回　　カイ2乗検定Ⅰ　ピアソンの適合度の検定 第１９回　　カイ2乗検定Ⅱ　ピアソンの独立性の検定 第２０回　　t検定Ⅰ　対応のある標本の平均値の差の検定 第２１回　　t検定Ⅱ　独立2標本の平均値の差の検定 第２２回　　t検定Ⅲ　ウェルチの方法による平均値の差の検定 第２３回　　分散分析Ⅰ　分散分析の考え方 第２４回　　分散分析Ⅱ　一元配置の分散分析 第２５回　　分散分析Ⅲ　多重比較検定 第２６回　　その他の検定　中央値の検定　ほか 第２７回　　統計的検定をめぐる諸問題　その限界と適用上の留意点 第２８回　　多変量解析の概説Ⅰ　因子分析 第２９回　　多変量解析の概説Ⅱ　クラスター分析 第３０回　　後期の総括
受講生に関わる情報および受講のルール	数学的素養はほとんど必要ありませんが，数値情報を読解するための根気と思考力を要します．十分な学習意欲・態度をもって臨んでください．また，受講に際しては必ず恒常的に出席してください．なお，欠席した場合は別途，授業外課題に取り組んで頂きます.
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	その他（質問等は授業ごとに随時対応。紙面にて対応する場合あり。）
授業外時間にかかわる情報	統計概念の復習に重点をおき，わからない点は何度でも質問し，理解を深めること.
オフィスアワー	授業後に教室内で次の授業に支障の出ない時間で対応.
評価方法	前期・後期の筆記試験の結果（８０％）と平常点（２０％）（宿題，演習課題）で総合評価を行います．演習課題は全て提出することが原則です.
教科書	繁枡算男・山田剛史【編】(2019) 心理学統計法　遠見書房
参考書	適宜紹介
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育

	□情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 老人心理学　　授業コード： S3091

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	社会福祉コース・学校教育コース・選択／福祉心理コース・必修
担当教員			
齊藤　和良			
専門科目	講義		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 　老化が及ぼす様々な心理的影響について理解し、高齢者の心理に関する基礎的知識を習得するとともに，高齢者の抱える心理的諸問題についての理解を深めていくことを目的とする。同時に，高齢者への心理的支援についての知識や対応の仕方についての習得を目指す。 〔到達目標〕 ① 高齢者の心理的特徴について説明できる。 ② 高齢者の心理社会的課題及び必要な支援について説明できる。 ③ 高齢者の生活状況について、身体・心理・社会的側面から説明できる。 ④ 認知症の症状理解に基づき、適切な支援方法を考案することができる。
授業の概要	本講義では、高齢者の基本的理解として老化が及ぼす心理的影響（感覚・知覚の老化、認知機能の老化など）や高齢者を取り囲む環境の変化に触れ、高齢者の抱える心理的な諸問題を取り上げ、その支援のあり方について考察する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	△
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	◎
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	オリエンテーション　－ 高齢者心理学（老人心理学）とは 【key words】 老人（高齢者）　超高齢社会　老化　老化の特徴 【授業概要】 高齢者の定義、超高齢社会、高齢者心理学の目的と対象、老化と加齢の違い、老化の定義（アーキング：蓄積性、進行性、内因性、有害性）老化の特徴、生理機能の低下、ストレス耐性の低下、老化に伴う増大（疾病羅漢率の増大、死亡率の増大）について述べる。 【教科書ページ・参考文献】 教科書 p.12-p.21（Ⅱ 基礎知識②社会的側面）　p.186 - p.187（5 超高齢期）　プリント教材の配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前学習として、シラバス及び教科書（p.12 - p.21，p.186 - p.187）を精読しておくこと。事後学習として、老人心理学の目的をまとめること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第２回	老化の特徴と老化現象 【key words】 老化現象　ライフサイクル　発達課題 【授業概要】 ライフサイクルと老年期の課題、高齢者の生活機能の偏差値モデル（シュロック）、老化現象、生理機能の老化、脳神経系機能の加齢変化、脳神経機能とは、加齢に伴う脳神経系機能の変化及び脳神経系機能の加齢変化がもたらす影響について概説する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書 p.2-p.7（Ⅰ 基礎知識①生物学的側面）　プリント資料の配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前学習として、教科書（p.2 - p.7）を一読して授業に臨むこと。事後学習として、老化の定義

		と老化の特徴についてまとめること。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第３回	高齢者の日常生活動作（ADL）、感覚・知覚 【key words】 日常生活動作（ADL）　手段的日常生活動作（IADL）　感覚　知覚　注意 【授業概要】 高齢者の日常生活能力（ADL、IADL）、高齢者の理解と対応（ペックによる中高年期の発達課題と心理的危機）、高齢者の感覚・知覚（加齢に伴う感覚の変化、感覚の加齢変化がもたらす影響）及び知覚の加齢変化について概説する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書 p.8-p.１１（4 感覚器の老化の特徴）、p.132 - p.133（2 ボランティア）　プリント資料の配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前学習として、教科書（p.8 - p.11, p.132 - p,133）を一読して授業に臨むこと。事後学習として、日常生活動作（ADL）についてまとめること。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第４回	高齢者の注意（高齢者の認知機能 ①　－ 注意） 【key words】 注意の種類　選択性注意　分配性注意　ストループ課題　カクテルパーティー効果 【授業概要】 注意の種類（持続性注意、選択性注意、転換性注意、分配性注意）、意図的過程（注意の切り替え、切り替えコスト）、非意図的過程（ストループ課題、注意の捕捉、注意の解放）及び日常場面の注意（中心視と周辺視、加齢効果、自動車運転）について概説する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書 p.52-p..６１（Ⅳ 認知情報処理②注意）　プリント資料の配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前学習として、教科書（p.52 - p.61）を一読して授業に臨むこと。事後学習として、注意の種類と高齢者の注意についてまとめること。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第５回	高齢期の認知機能 ②　－ 記憶 【key words】 記憶のモデル　感覚記憶　短期記憶　長期記憶　エビングハウスの忘却曲線 【授業概要】 高齢者の記憶、エビングハウスの忘却曲線、記憶のメカニズムとシステム（感覚記憶、短期記憶、長期記憶）及び記憶の種類（顕在記憶　潜在記憶　意味記憶　エピソード記憶）について概説する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書 p.62-p.７８（Ⅶ 認知情報処理③記憶と学習）プリント資料の配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前学習として、教科書（p.62 - p.78）を一読して授業に臨むこと。事後学習として、記憶についてまとめること。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第６回	高齢者の認知機能 ③　－ 知能 【key words】 知能の定義　知能検査　結晶性知能　流動性知能 【授業概要】 知能の定義と知能検査、高齢者の知能（結晶性知能、流動性知能）高齢期の知能（加齢と知能の関連、発達曲線）、高齢期の知能研究法（横断法、縦断法、系列法）、シャイエの知能発達曲線及び高齢者の知能に影響する諸要因（健康状態、性差、教育的背景）について概説する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書 p.80 - p.89（Ⅷ 認知情報処理④高次の情報処理）　プリント資料の配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前学習として、教科書（p.80 - p.89）を精読して授業に臨むこと。事後学習として、結晶性知能と流動性知能についてまとめること。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第７回	高齢者のパーソナリティ 【key words】 パーソナリティ（人格）　性格　パーソナリティ類型　適応機制　老年期における三つの喪失 【授業概要】 パーソナリティ（人格）とは、エリクソンの心理社会的発達段階、高齢者のパーソナリティと適応、ライチャードのパーソナリティの類型（円熟型、安楽椅子型、自己防衛型、他罰型、自罰型）、高齢期の適応、適応機制（防衛機制。逃避規制、攻撃規制）及び老年期における三つの喪失（健康、経済、役割）について概説する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書 p.100 -p .107（Ⅹ 情動・感情①パーソナリティ）　プリント資料の配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前学習として、教科書（p.100 - p.107）を一読して授業に臨むこと。事後学習として、パーソナリティと適応ついてまとめること。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第８回	高齢者の感情と欲求 【key words】 感情　欲求　マズローの欲求階層説 【授業概要】 老年期の三つの喪失（経済的喪失、健康の喪失、役割の喪失）と適応、高齢者の感情、感情の加齢的変化、欲求の加齢変化及びマズローの欲求階層説について紹介する。 【教科書ページ・参考文献】

		教科書 p.108-p.117（XI　情動・感情②感情）　プリント資料の配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前学習として、教科書（p.108 - p.117）を一読して授業に臨むこと。事後学習として、感情についてまとめること。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第９回	高齢期の適応と精神障害 【key words】 死への適応　キューブラー・ロス　死の受容へのプロセス（五段階説）　障害の受容　精神障害の分類 【授業概要】 死への適応、キューブラー・ロスの「死ぬ瞬間」、死の受容へのプロセス（五段階説）、障害の受容、障害の受容過程、高齢期における精神障害、精神障害の分類（外因性精神障害、内因性精神障害、心因性精神障害、神経症）、精神障害の三大症状、器質性疾患と機能性疾患及び老年期精神障害の特徴について述べる。 【教科書ページ・参考文献】 教科書 p.158-p.167（XVI 社会④死別）　プリント資料の配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前学習として、教科書（p.108 - p.117）を一読して授業に臨むこと。事後学習として、死への適応についてまとめること。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第１０回	高齢期のライフイベント 【key words】 ライフイベント　配偶者との死別 悲嘆のプロセス グリーフケア 生きがい 【授業概要】 配偶者との死別、複雑性悲嘆の診断基準、正常でない悲嘆反応の危険因子、死別後の悲嘆、通常の悲嘆と正常でない悲嘆、悲嘆のプロセス、グリーフケア、高齢期における役割の変化、生きがい及び高齢者の日常生活と就労について概説する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書 p.130-p.139（Ⅷ 社会①社会とのかかわり）　プリント資料の配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前学習として、教科書（p.130 - p.139）を一読して授業に臨むこと。事後学習として、配偶者との死別についてまとめること。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第１１回	高齢期の認知症 【key words】 認知症　中核症状　周辺症状 アルツハイマー病　　脳血管障害 【授業概要】 老年期うつ病、老化による物忘れと認知症、変性疾患に伴う認知症（アルツハイマー病、レビー小体型認知症、前頭側頭葉変性症、血管性認知症）及び認知症の中核症状と周辺症状について紹介する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書p.194 - p.195（XIX 研究と実践 3 認知機能評価法）　プリント資料の配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前学習として、教科書（p.194 - p.195）を精読して授業に臨むこと。事後学習として、認知症についてまとめること。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第１２回	高齢期の病気と健康増進 【key words】 老年症候群 廃用症候群 ヘルスプロモーション 【授業概要】 健常老化と病的老化、老年症候群と廃用症候群、高齢者を取り巻く環境上の問題、高齢者の健康・病気・疾病率、身体機能の障害と高齢者のADL、高齢者の健康改善の向上、ヘルスプロモーション及び健康的な行動実施の支援について述べる。 【教科書ページ・参考文献】 教科書p.178 - p.189（XVIII 社会⑥現代的問題）　　プリント資料の配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前学習として、教科書（p.178 - p.189）を一読して授業に臨むこと。事後学習として、配偶者との死別についてまとめること。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第１３回	高齢者への心理的支援　① 施設入所高齢者への心理的支援 【key words】 施設入所高齢者への対応 動機づけ療法　施設職員の心理的負担 【授業概要】 高齢者への対応、社会的対応、施設入所老人への対応、現実見当識プログラム、再動機づけ療法、施設で暮らす高齢者、施設で暮らす高齢者への心理的援助及び施設職員の心理的負担と援助について概説する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書　p.168-p.177（XVII 社会⑤介護）　プリント資料の配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前学習として、教科書（p.168 - p.177）を一読して授業に臨むこと。事後学習として、高齢者の介護についてまとめること。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第１４回	高齢者への心理的支援　② 在宅高齢者への心理的支援 【key words】 ソーシャルネットワーク　コンボイモデル　地域包括ケアシステム

	【授業概要】 ソーシャルネットワーク、高齢期の対人関係、コンボイモデル、ソーシャルサポートの緩衝効果と直接効果、ストレスの概念、高齢者福祉関連の法律と制度、老人福祉法、介護保険法、高齢者虐待防止法及び地域包括ケアシステムについて述べる。 【教科書ページ・参考文献】 教科書　p.140-p.149　(XIV 社会②対人関係)　p.150-p.157　(XV 社会③社会的援助)　プリント資料の配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前学習として、教科書（p.140 - p.157）を一読して授業に臨むこと。事後学習として、高齢者の在宅支援についてまとめること。 【予習復習に必要な想定時間】 90分 第１５回　老人心理学（高齢者心理学）のまとめ 【key words】 老人心理学　知能の二面性　記憶の種類　認知症 【授業概要】 高齢者心理の基礎、生理的老化の学説、高齢者の感覚と知覚（視覚、聴覚）、高齢者の知能、知能の二面性（結晶性と流動性）、高齢者の記憶、パーソナリティと適応、高齢者の喪失感、死への適応、老年期の精神障害及び認知症について復習する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書（よくわかる高齢者心理学）　プリント資料の配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前学習として、今までに配布したプリント資料を一読すること。事後学習として、期末試験の準備をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 90分～120分
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・教科書を必ず持参すること。 ・事後学習として、教科書や授業時に配布したプリントを復習し、要点をまとめておくこと。 〔受講のルール〕 ・私語や携帯電話・スマートフォンの使用など他の受講生の迷惑になる行為の厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	・新聞、ニュースなどで関連事項があればチェックしておき、各自の意識を高めること。 ・参考図書や関連書籍を読み、授業内に解説したキーワードについて理解を深めること。
オフィスアワー	本学出講時に授業の事前事後で対応する。
評価方法	定期試験（70%）と課題への積極的な取り組み（30%）により総合的に評価する。課題はコメントカードの記述内容を点数化する。
教科書	佐藤眞一・権藤恭之 編著:（やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ）　よくわかる高齢者心理学　ミネルヴァ書房　2016年 ISBN978-4-623-07655-0
参考書	佐藤泰正・渡邉映子・大川一郎 編著: 高齢者の心理　おうふう　2011年11月30日 ISBN978-4-273-03672-0 適宜、授業時に紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 ■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容 ケースメソッド（ある実際の事例を取り上げ、その問題の解決方法についてグループディスカッションの形で検討する。事例については３回を予定。）

講義科目名称： 障害児（者）心理学　　授業コード： S3101

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位(30)	社会福祉コース・学校教育コース・選択／福祉心理コース・必修
担当教員			
齊藤　和良			
専門科目	講義		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 　本講義では、障害児（者）の基本的理解として、障害が及ぼす心理的影響（感覚・知覚、認知、自己概念、行動など）を学び、重要な心理的な諸問題を取り上げ、その支援の在り方について理解を深める。 〔到達目標〕 ①身体障害、知的障害及び精神障害について概説できる。 ②障害が及ぼす心理的影響について理解できる。 ③障害者（児）の心理社会的課題及び必要な支援について説明できる。
授業の概要	障害児（者）心理学では、まず身体障害、知的障害及び発達障害などの様々な障害の特性（心理や行動）を学び、各障害児（者）に対する心理社会的な支援のあり方について理解を深める。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	◎
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回　　オリエンテーション　　－　障害の概念、障害の捉え方、障害児（者）心理学とは 【key words】 障害の概念　国際障害分類　　国際生活機能分類（ICF）　障害者差別解消法　合理的配慮　公認心理師 【授業概要】 科目「障害児（者）心理学」のオリエンテーションとして、世界保健機関（WHO）の国際障害分類及び国際生活機能分類に基づく障害の捉え方について学び、、障害児（者）心理学の目的を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書 p.11 - p.24　（1 社会における「障害」の変遷）　プリント資料の配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習として、教科書の「1 社会における「障害」の変遷　p.11 - p.24」を一読しておくこと。復習は国際障害分類、国際生活分類及び合理的配慮についてまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第２回　　特別支援教育とは 【key words】 ノーマライゼーション　インテグレーション　インクルージョン　特別支援教育の定義　特別支援教育の内容 【授業概要】 特殊教育、障害児教育から特別支援教育への転換、特別支援教育の背景にある理念（ノーマライゼーション、インテグレーション、インクルージョンなど）を学び、特別支援教育の内容について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書　「2 特別支援教育（p.25 - p.48）」　プリント資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業の予習として 、教科書　「2 特別支援教育（p.25 - p.48）」を一読し、ノーマライゼーションとインテグレーションについて調べておくこと。復習として、特別支援教育の対象をまとめる

		こと。 【予習復習に必要な想定時間】 90分～120分
	第３回	視・聴覚障害者（児）の理解と支援 【key words】 視覚障害　盲　弱視　聴覚障害　ろう（聾）　伝音性難聴　感音性難聴　発達・心理特性　支援のあり方 【授業概要】 視覚障害の概要（定義と分類）、視覚障害児・者の発達・心理特性について述べ、次に、聴覚障害の概要（定義と分類）、聴覚障害児・者（とりわけ聾）の発達・心理特性について述べる。以上を通して、視覚障害児者・聴覚障害児・者の理解と支援に関する基本的知識を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書 p.49 - p.77（3 視・聴覚障害者（児）の理解と支援）　プリント資料 の配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業の予習として 、教科書 「3 視・聴覚障害者（児）の理解と支援（p.49 - p.77）」を予め精読してから授業に臨むこと。復習として、視覚障害と聴覚障害の心理的特性をまとめること。 【予習復習に必要な想定時間】 90分～120分
	第４回	知的障害者（児）の理解 【key words】 米国知的障害・発達障害協会（AAIDD）　DSM（精神障害の診断・統計マニュアル）-5　就学基準　療育手帳 【授業概要】 米国知的障害・発達障害協会（AAIDD）における知的障害の定義と分類、そしてわが国の知的障害の定義と分類について解説する。次に、知的障害の原因、疫学、他の障害との関係について述べる。 【教科書ページ・参考文献】 教科書 p.78 - p.94（4 知的障害者（児）の理解）　プリント資料の配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業の予習として、教科書の該当範囲（ p.78 - p.94）を予め読んでから授業に臨むこと。授業の復習として、知的障害の定義と分類についてまとめること。 【予習復習に必要な想定時間】 90分～120分
	第５回	知的障害者（児）への支援 【key words】 知的障害　適応行動　心理的特徴　支援プログラム 【授業概要】 知的障害は、知的能力と適応行動の障害である。知的障害の知的能力に関する研究は歴史的に古く、そこから得られた知見は、今でも知的障害者（児）支援に礎になっている。ここでは、その基礎を学び、知的障害者（児）心理支援・教育的支援につなげる。 【教科書ページ・参考文献】 教科書 p.95 - p.117（5 知的障害者（児）への支援）　プリント資料の配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業の予習として、教科書の該当範囲（ p.95 - p.117）を予め読んでから授業に臨むこと。授業の復習として、知的障害の知的能力についてまとめること。 【予習復習に必要な想定時間】 90分～120分
	第６回	肢体不自由者（児）の理解 【key words】 肢体不自由　脳性まひ　重症心身障害　脳損傷と非脳損傷　幻肢（痛） 【授業概要】 肢体不自由とは何か、その分類と原因となる疾患と、その特徴について述べる。また、「脳性まひ」について、随伴症状や心理的特性を取り上げ、さらに肢体不自由に知的障害を伴った重症心身障害や重複障害について述べる。それらを踏まえて、肢体不自由児（者）の困難さと心理特性を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書 p.118 - p.131（6 肢体不自由者（児）の理解）　プリント資料の配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業の予習として、教科書の該当範囲（ p.118 - p.131）を予め読んでから授業に臨むこと。授業の復習として、肢体不自由と脳性まひについてまとめること。 【予習復習に必要な想定時間】 90分～120分
	第７回	肢体不自由者（児）の支援 【key words】 肢体不自由　中途障害　脳損傷　非脳損傷　アセスメント　心理支援 【授業概要】 肢体不自由者の支援においては、医療や福祉的支援が中心になる。その中で、心理的支援が必要とされる問題について述べる。肢体不自由による日常生活や社会生活上の困難に対して多職種と連携しながら支援を進めていく必要がある。 【教科書ページ・参考文献】 教科書 p.132 - p.144（7 肢体不自由者（児）の支援）　プリント資料の配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業の予習として、教科書の該当範囲（ p.132 - p.144）を予め読んでから授業に臨むこと。授業の復習として、肢体不自由児・者の支援についてまとめること。 【予習復習に必要な想定時間】 90分～120分
	第８回	身体疾患のある者（児）の理解と支援 【key words】 身体疾患　病弱　身体虚弱　悪性腫瘍　心理支援　QOL　慢性疾患 【授業概要】 人は生活をしていくうえで、さまざまな病気を経験する。その病気が慢性疾患の場合には、比較的長期にわたって、治療や生活機制が必要となる。ここでは、身体疾患のある者の体験理解、心

		理支援に関わる内容を理解する。さまざまな病気により生活機制を必要となる者に対する理解に必要な観点を紹介し、彼らの心理社会的課題や心理支援について述べる。 【教科書ページ・参考文献】 教科書 p.145 - p.158（8 身体疾患のある者（児）の理解と支援）　プリント資料の配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業の予習として、教科書の該当範囲（ p.145 - p.158）を予め読んでから授業に臨むこと。授業の復習として、病弱児・者の支援についてまとめること。 【予習復習に必要な想定時間】 90分～120分
	第９回	精神障害者（児）の理解と支援 【key words】 精神疾患　精神障害の分類　精神障害の症状　心理支援　情緒障害 【授業概要】 精神疾患のある者の心理社会的課題と支援について解説する。精神障害や情緒障害の種類や症状について概説し、その分類や診断についてアメリカ精神医学会や世界保健機関の基準を紹介する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書 p.159 - p.171（9 精神障害者（児）の理解と支援）　プリント資料の配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業の予習として、教科書の該当範囲（ p.159 - p.171）を予め読んでから授業に臨むこと。授業の復習として、精神障害の分類と症状についてまとめること。 【予習復習に必要な想定時間】 90分～120分
	第１０回	発達障害者（児）の理解と支援　- ADHD（注意欠陥多動性障害） - 【key words】 発達障害　ADHD（注意欠陥/多動性障害）　不注意　多動性　衝動性　発達障害者支援法 【授業概要】 まず2004年に制定、2005年に施行され、2016年に改正された発達障害者支援法に基づき、わが国の発達障害の概念について述べる。続いて、医学と教育におけるADHDの定義と分類、原因、疫学、併存症について概説する。ADHDはさまざまな障害と併存しやすい。最後に、ADHDのある人への支援のあり方や家族への支援について論ずる。 【教科書ページ・参考文献】 教科書 p.172 - p.195（10 発達障害者（児）の理解と支援 - ADHD -）　プリント資料の配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業の予習として、教科書の該当範囲（ p.172 - p.195）を予め読んでから授業に臨むこと。授業の復習として、注意欠陥多動性障害（ADHD）についてまとめること。 【予習復習に必要な想定時間】 90分～120分
	第１１回	発達障害者（児）の理解と支援　- LD（学習障害） - 【key words】 学習障害(LD)　読み書き障害　心理的特徴　心理・教育支援　デイスレクシア 【授業概要】 学習障害（LD）は、学ぶ際に使用する基礎的学習技能の障害である。基礎的学習技能が障害されているため、教科学習がうまくいかなかったり、勉強に苦労したりする。ここでは、心理学的アプローチによる支援のための知識を学ぶ。学習障害の中で最も多い「デイスレクシア（読字障害）」について、障害特性に基づく指導方法の例を提示する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書 p.196 - p.216（11 発達障害者（児）の理解と支援 - LD -）　プリント資料の配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業の予習として、教科書の該当範囲（ p.196 - p.216）を予め読んでから授業に臨むこと。授業の復習として、学習障害（LD）についてまとめること。 【予習復習に必要な想定時間】 90分～120分
	第１２回	発達障害者（児）の理解と支援　- 自閉症 - 【key words】 発達障害の定義　広汎性発達障害　自閉症　アスペルガー症候群　障害の三つ組 【授業概要】 自閉症は、症状の程度、併存する障害（知的障害、ADHD、不安障害等）の有無、発達段階等により、多様な様相を示す障害である。自閉症は広汎性発達障害の一つで、広汎性発達障害共通の特徴として「障害の三つ組」が挙げられ。その障害の三つ組について述べる。 【教科書ページ・参考文献】 教科書 p.217-p.233（発達障害者（児）の理解と支援 - 自閉症 -）　プリント資料の配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業の予習として、教科書の該当範囲（ p.217 - p.233）を予め読んでから授業に臨むこと。授業の復習として、広汎性発達障害についてまとめること。 【予習復習に必要な想定時間】 90分～120分
	第１３回	乳幼児期における障害とその支援 【key words】 母子保健　乳幼児健康診査　早期発見と療育　保育所・幼稚園での支援　就学相談 【授業概要】 乳幼児における障害とその支援を中心に取り上げ、親への支援のあり方や早期発見・早期療育の重要性について考える。障害の早期発見、乳幼児の親や家族に対する支援、そして保育所や幼稚園での支援、就学指導ついて取り上げる。障害への気づきから子育て支援の活用、また保育所や幼稚園における取り組み、小学校への就学移行などにおいて、心理専門職への期待を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書 p.234-p.247（13 乳幼児期における障害とその支援）　プリント資料の配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業の予習として、教科書の該当範囲（ p.234 - p.247）を予め読んでから授業に臨むこと。授業の復習として、学習障害（LD）についてまとめること。 【予習復習に必要な想定時間】 90分～120分

	第１４回　障害の理解・受け止めと家族支援 【key words】 家族の支援　障害の告知　障害の受容　障害受容過程　価値転換理論 【授業概要】 親としてわが子の障害に気づき、病院で障害を告知される場合がある。親や家族及び障害のある当事者がその事実を理解し、受け止める過程は、心理的負担が大きい。ここでは、まず障害があるという事実を理解していく過程について考える。また、子供の成長段階ごとに生ずる不安や迷いを取り上げ、親や家族が必要とする支援をら検討する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書 p.248-p.261（14 障害の理解・受け止めと家族支援）　プリント資料の配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業の予習として、教科書の該当範囲（ p.248 - p.261）を予め読んでから授業に臨むこと。授業の復習として、障害の受容についてまとめること。 【予習復習に必要な想定時間】 90分～120分 第１５回　障害と地域生活　- 社会参加 -　　障害児（者）心理学のまとめ 【key words】 障害の捉え方　障害者観　社会参加　障害者の就労 【授業概要】 この講義のまとめとして、社会一般の人たちが障害者をどのように捉え、どのように観ているのかといった障害者に対する態度や障害者観を歴史的に概観し、障害者の社会参加を曽我精している要因について考察していく。そして期末試験について、その傾向と対策について述べる。 【教科書ページ・参考文献】 教科書 p.262-p.274（障害と地域生活 - 社会参加 -）　プリント資料の配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 障害児（者）心理学のまとめ　期末試験対策 【予習復習に必要な想定時間】 90分～120分
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・教科書を必ず持参すること。 ・障害者の問題に関するメディア（新聞やインターネットなど）の情報を日頃から注意し、常に問題意識を養うこと。 〔受講のルール〕 ・授業には、積極的に参加すること。 ・私語や携帯電話・スマートフォンの使用など他の受講生の迷惑になる行為の厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	・新聞、ニュースなどで関連事項があればチェックしておき、各自の意識を高めること
オフィスアワー	本学出講時に授業の事前事後で対応する。
評価方法	定期試験の結果（70%）と課題に対する積極的な取り組み（30%）でもって総合的に評価する。課題はコメントカードの記述内容を点数化する。
教科書	古賀精治 著: 障害者・障害児心理学（放送大学大学院教材）　放送大学教育振興会;　(2021/3/20) ISBN978-4-595-32251-8
参考書	柘植雅義・石倉健二・野口和人・本田秀夫 編: 公認心理師の基礎と実践 13　障害者・障害児心理学 遠見書房　ISBN: 978-4-86616-063-4
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 視覚障害者のための福祉施設（日本盲人職能開発センター）にて点字やオプタコン訓練等のコミュニケーション指導員として約５年間の勤務経験あり。その時の臨床経験を活かし、障害児(者)理解に対する必要な知識や心理的支援について講ずる。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 ■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容 【アクティブラーニングについて】

	ケースメソッド（ある実際の事例を取り上げ、その問題の解決方法についてグループディスカッションの形で検討する。事例は３例を予定。）

講義科目名称： 心理学実験実習Ⅰ(心理学実験)　　授業コード：S3121

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	4単位(60)	福祉心理コース・必修
担当教員			
大野　俊和			
専門科目	演習		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 心理学における実験の意義、独立変数、従属変数などの概念を理解できるようになることを目的とする。 【到達目標】 実験計画や実験の手続きを理解できるようになる。 データの収集および適切な処理ができる。 独立変数・従属変数を操作・測定する統計的方法を学ぶ。 実験改善を発案する力を得る。 実験レポートを作成できるようになる。
授業の概要	通年の実験実習をとおして、研究の基本的なマナーを習得する。講義ではいくつかの有名な実験研究を取り上げ、心理学の実験に対する基本的な理解と実践的知識の習得を目的とする。各テーマ毎にレポート提出が行われるが、難しく捉えずに気軽に受講してもらいたい。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	△
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	◎
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	○
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回　心理学実験と実験計画 【key words】 【授業概要】 ガイダンスの後に、心理学における実験と、実験計画について学びます。独立変数、従属変数、因果関係第3の変数（剰余変数）について説明します。 アクティブラーニング　課題「第3の変数」についてグループ単位で話し合い、理解を深めます。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２回　課題の解説と「錯視」実験準備 【key words】 【授業概要】 課題の回収および解説ののち、次週の実験実施のための錯視刺激の調整・準備をします。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第３回　実験の実施と個人データの集計 【key words】 【授業概要】

	錯視実験を実施します。その後、個人単位でデータを集計します。 アクティブラーニング　実験の実施およびデータの集計を行います。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
第４回	錯視実験のデータの分析 【key words】 【授業概要】 課題「錯視　全データを用いた分析」を実施します。 同時に、エクセルの関数の復習を行います。 アクティブラーニング　PCを用いたデータの集計および分析を行います。ここでは、要約統計量の算出を行います。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
第５回	課題の回収および講評、課題実施 【key words】 【授業概要】 最初に課題の提出と講評、錯視の解説を行います。 その後、課題「グラフ作成」を行います。 アクティブラーニング　エクセルを用いて研究結果に適したグラフを選び作成します。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
第６回	グラフ課題の実施および提出 【key words】 【授業概要】 講義時間内にグラフ課題を提出します。その後、グラフ作成の講評を行います。 アクティブラーニング　エクセルを用いて研究結果に適したグラフを作成します。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
第７回	「ストループ効果」実験の実施 【key words】 【授業概要】 インストラクションののちにストループ効果の実験を行います。 また、理解を促す論文を指定します。 アクティブラーニング　実験者および実験協力者になり、データを取得する手順を理解します。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
第８回	「ストループ効果」実験の分析 【key words】 【授業概要】 ストループ効果のデータの受け渡しと実験の解説およびデータの分析を行います。 アクティブラーニング　PCを用いたデータの集計および分析を行います。ここでは、要約統計量の算出を行います。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
第９回	「ストループ効果」課題の分析 【key words】 【授業概要】 集計データに基づいて、課題を行います。 アクティブラーニング　PCを用いてデータの分析および課題を解きます。ここでは、t検定を行います。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
第１０回	「ストループ効果」課題の提出、課題の講評、実験計画 【key words】

【授業概要】
前週に引き続き課題を行います。課題提出後、講評と授業内課題「癒し系音楽の効果の検討」を行います。
アクティブラーニング　PCを用いてデータの分析および課題を解きます。ここでは、実験計画として2群比較の計画を立ててもらいます。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１１回　「触2点閾」実験の実施
【key words】

【授業概要】
実験者と実験協力者とでペアとなり、測定具を用いて、実際に背中の触2点閾を測定します。
アクティブラーニング　交互に実験者、実験協力者となり、実際にデータを取得する手順を理解します。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１２回　「触2点閾」実験の解説およびデータの集計
【key words】

【授業概要】
実験の解説および個人データの整理・集計を行います。その後、データの送信を行います。
アクティブラーニング　PCを用いてデータの集計を行います。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１３回　「触2点閾」実験　データの分析
【key words】

【授業概要】
課題のため、全データをダウンロードし、触2点閾についての分析を行います。
代表値の算出を主とします。
アクティブラーニング　PCを用いてデータの分析を行います。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１４回　「触2点閾」実験　データの分析　課題提出
【key words】

【授業概要】
課題提出後、配布したデータを用いて他に興味深い結果があるかを自主的に分析し、まとめます。
アクティブラーニング　PCを用いて主体的にデータを眺め、分析・報告します。ここでは、要約統計量の算出を行います。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１５回　ユニバーサルデザイン
【key words】

【授業概要】
いくつかの失敗例を紹介しながら、ユニバーサルデザインについて考え、改善策を考えていきます。
アクティブラーニング　グループ単位で意見を出し合った後に、各自で改善案を作成・提出します。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１６回　「囚人のジレンマ」の実施
【key words】

【授業概要】
繰り返しのある囚人のジレンマのデモンストレーションを行います。その後、各自で得点を算出します。
アクティブラーニング　デモンストレーションに参加するとともによい方略を作成します。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１７回　「囚人のジレンマ」解説
【key words】

【授業概要】
デモンストレーションの解説および囚人のジレンマ研究の背景について解説します。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１８回　「囚人のジレンマ」
【key words】

【授業概要】
囚人のジレンマから社会的ジレンマの研究を解説します。
アクティブラーニング　社会的ジレンマの定義に即した具体例についてグループ討議していきます。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１９回　「囚人のジレンマ」
【key words】

【授業概要】
ジレンマ研究から利他行動、2次のジレンマ問題について解説します。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２０回　「記憶実験」の計画立案
【key words】

【授業概要】
これまで行われてきた記憶に関する実験を紹介したのち、グループ単位で記憶の実験の計画を提出してもらいます。
アクティブラーニング　グループ単位で記憶に関する実験計画を考えます。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２１回　「記憶実験」実験の実施と解説と課題提示
【key words】

【授業概要】
記憶実験の実施と解説、課題の指示、データの分析を行います。
アクティブラーニング　全データを用いて記憶のパターンについてPCを用いて分析します。ここでは、要約統計量の算出を行います。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２２回　「記憶実験」の課題遂行
【key words】

【授業概要】
前週に続いてデータの分析およびレポートの作成を行います。
アクティブラーニング　全データを用いて記憶のパターンについてPCを用いて分析します。ここでは、要約統計量の算出を行います。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２３回　「記憶実験」の課題
【key words】

【授業概要】
レポートの作成に関する補足的説明と、記憶のスキーマについてのデモンストレーションを行います。
アクティブラーニング　データ分析とともに、記憶のデモンストレーションに参加します。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２４回　「漢字とかなの処理」　実験刺激の作成
【key words】

【授業概要】
「漢字とかなの処理」の実験に先立ち、実験で使用する刺激の作成を行います。
アクティブラーニング　インターネットを用いてグループ単位で刺激（2字熟語）の作成を行います。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２５回　「漢字とかなの処理」実験実施と解説、課題提示
【key words】

【授業概要】
文字種の違いが認知処理に及ぼす差異についての実験と解説を行います。
各自で取得したデータを送信したのち、課題を提示します。
アクティブラーニング　実験者と実験協力者がペアとなり、実験を実施し、データをそれぞれ所得します。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２６回　「漢字とかなの処理」の課題遂行
【key words】

【授業概要】
課題に基づいた分析及びレポートの作成を行います。ここでは、要約統計量の算出を行います。
アクティブラーニング　エクセルを用いてデータの集計および分析を行ったのち、レポートを作成します。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２７回　「アクションスリップ」実験の実施および解説
【key words】

【授業概要】
「アクションスリップ」実験および解説を行います。その後、アクションスリップの実験計画について解説します。
アクティブラーニング　実験者と実験協力者がペアとなり、スマートフォンを用いてデータの測定、データの送信を行います。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２８回　「アクションスリップ」課題の実施
【key words】

【授業概要】
「アクションスリップ」課題を解いていきます。ここでは、要約統計量の算出を行います。
アクティブラーニング　PCを用いて、実験結果を分析し課題を解きます。また、アクションスリップの日常例について検討します。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２９回　「仕掛けの考案」仕掛けの紹介および仕掛けの考案
【key words】

【授業概要】
仕掛け学における仕掛けについて紹介します。その後、具体的な社会問題を提示し、それを解く仕掛けを考案します。
アクティブラーニング　グループによる検討および次週の発表準備
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第３０回　「仕掛けの考案」発表および講評
【key words】

【授業概要】
各グループ単位での仕掛けを発表します。
アクティブラーニング　パワーポイントを用いたグループによる発表を行います。
【教科書ページ・参考文献】

	【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 事前にUSBメモリを用意することが望ましい。LL教室を多用する。 〔受講ののルール〕 各回メールでのコメント提出が義務付けられている。レポートは授業時間内に提出する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	講義中に指定した文献は各自で事前に読んでおくこと。また、課題の作成は、時間外学習時に行う必要がある。
オフィスアワー	金曜日3時限目（206研究室）
評価方法	レポート課題(50%)、授業内小課題（30%）、授業内でのコメント（20%）
教科書	なし。授業中にプリントを配布する。
参考書	講義の中で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 青年心理学　　授業コード： S3191

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	社会福祉専攻・選択
担当教員			
橋本　広信			
専門科目	講義		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 単に青年心理学に関連する知識を吸収するのではなく、まさに今青年期を生きる者として、学んだ用語や事柄を手がかりに自己洞察を深め、同時に他者への共感と理解を深めていく視点を得ることを目的とする。 【到達目標】 ①子どもとおとなの間にある、そのどちらでもない数年間のあり方が、いかにその他の人生の時期とつながっているのかを理解する。 ②青年期に何が彼らの課題となり、それはどのような意味・意義をもつのかについて、アイデンティティ概念を手掛かりに深く捉えられる。 ③青年期に意識されてくる心理的なテーマについて、「問い」の形で整理しながら、それらがもつ人生上の意味を理解し説明できる。
授業の概要	教科書に沿って、一回につき一つ、大きなテーマをとりあげ、青年心理学の基礎用語や知識を解説する。 毎回の授業で、テーマに沿った「問い」を想定し、通常の知識の学習とともに、思考実験や互いの考えを出し合い共有するような課題を設定する。また、事例の考察などを通してテーマに関する青年心理の理解を深める努力をしていく。 以上のように、毎回の授業において、自分自身の中にある青年心理について省察をしながら授業を展開する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	○
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション：青年期と青年とは？ 【key words】 ・周辺人、疾風怒涛、第二の誕生、サモアの青春 【授業概要】 ・科目のオリエンテーションを行う。 ・青年心理学の探求の対象となる「青年期・青年」というものについて、歴史的な変遷も踏まえながら学ぶとともに、青年期という発達段階の特質について、仲間同士で簡単にインタビューやディスカッションなどをしながら、検討をしていく。 【教科書ページ・参考文献】 教科書2-13ﾍﾟｰｼﾞ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・グループに分かれて、「青年らしさ」について話し合う予定なので、それぞれが考える「青年らしさ」を言葉にできる準備をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間、復習3時間
	第２回	青年期の思考と感情①　特に道徳性に注目して 【key words】 形式的操作、想像上の観衆、道徳性、コールバーグ、3水準6段階モデル、（エリクソン）Allness or Nothingness、罪と罰

【授業概要】
・青年期には思考の力や抽象的な情報を処理する力が伸びることで、自分の生きる世界に青年は観念的に向き合う機会が増えていく。ここではその一般的な傾向を学びつつ、特に鋭敏化しやすい正義に関する判断や道徳性の発達について学んでいく。
【教科書ページ・参考文献】
教科書22-37ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・コールバーグの道徳性理論について予習をしておくこと。ジレンマ課題を提示しながら道徳的な判断をし、その理由について話し合う予定。生命倫理の観点からのジレンマ課題について予習をしておくこと。

【予習復習に必要な想定時間】
予習2時間、復習2時間

第３回　青年期の思考と感情②　生きがい、価値観・特に現代青年に注目して

【key words】
いい子症候群、理想自己、夢、価値観
【授業概要】
現代の青年の代表である〈大学生〉を論じた本にある、「いい子症候群」という言葉をまず手掛かりに現代青年（学生）の思考と感情の特質を理解する。そして、そこを越えようとする心理として働く「理想自己」の問題について、「夢」という言葉を手掛かりに考えていく。
【教科書ページ・参考文献】
教科書38-41ページ　（参考）金間大介（2022）『先生、どうか皆の前で、ほめないで下さい』（東洋経済新報社）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
参考書について調べておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習2時間、復習2時間

第４回　身体の発達：からだとこころ

【key words】
第二の発育スパート、早熟、晩熟、ボディ・イメージ、ジェンダー・アイデンティティ、性役割、性受容
【授業概要】
・男として、もしくは女として生まれてくることの意味を強く実感していくのが青年期であり、青年期に人は「性をもつ存在」としての自己と出会っていきます。
・それは同時に異性の発見ももたらしながら、恋愛や自分の身体への認識を形成することで、人をより個性的にしていくことになります。今回は、こうした身体の発達に伴う青年らしい心理について検討します。
【教科書ページ・参考文献】
教科書42-49ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・醜形恐怖症について調べておくこと。身体醜形障害の事例を通して、身体への理解が及ぼす意識の変化について話し合う予定です。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第５回　恋愛・結婚

【key words】
愛の三角形理論、リーの恋愛の６類型、結婚、離婚、晩婚化

【授業概要】
思春期以降、異性間で働く「恋愛」感情を中心に、漠然とした未来の「結婚」への意識も含めた変化が生じる。男女の恋愛に対する受け止め方の違いや、時代、文化、国など地域差などについても見ていく。最後に、青年期の段階で「親になる」ことについて、考えていく。

【教科書ページ・参考文献】
教科書50-57ページ、174－175ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・恋愛名言集を調べ、自分の恋愛観をピッタリと表す言葉を抜き出しておくこと。
・悩み相談の事例をもとに、青年期の恋愛についてどのように捉えるべきかについてグループ討議をする予定
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第６回　青年期の自我と自己

【key words】
内向化、自我体験、理想自己、現実自己、対話的自己論（ハーマンス）、自己受容、自己愛、自己愛性パーソナリティ障害

【授業概要】
・青年期には注意や関心が自己の内面に向かう。これを内向化と呼ぶが、内向化をしない青年も増加しているともいわれる。青年期、通常であれば自分を見つめる自分の心（自我）が急速に発達することで、青年らしいともいえる様々に複雑な心理を生じさせる。ここでは、そうした自我と自己をめぐる青年心理について考えていく。
【教科書ページ・参考文献】
教科書58-65ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
青年期に急速に発達する自己と自己意識のあり方について理解するため、ワークなどを積極的に行う。主体的に参加をし、自己理解を深めていくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第７回　アイデンティティ

【key words】

		・自我親和感（エゴシントニック）、自我異和感（エゴディストニック）、、自我体験、役割実験、モラトリアム、アイデンティティ・ステイタス理論（マーシャ） 【授業概要】 ・青年期の発達課題の柱とみなされる「アイデンティティ」について、その概念の基礎について学んでいく。一人一人の青年の人生に即して、どのような形でアイデンティティが発達するかを考えながら、アイデンティティ概念の理解を深めていく。 【教科書ページ・参考文献】 教科書66-67、74-75ページ、配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 青年期のアイデンティティ 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間
	第８回	青年の自立：家族との関係 【key words】 ・心理的離乳、第二反抗期、ブロス、マーラー、第二の分離―固体化過程、家族システム 【授業概要】 ・青年期の大きな課題である「自立」について、親子関係を軸にして検討します。 ・特に、自立が親子関係、なかでも親自身の青年期の越え方が子への向き合い方を左右し、結果として青年の自立に影響を及ぼしていくという、ジェネレイションナル・サイクルの問題についても考えていく。 【教科書ページ・参考文献】 教科書76-83ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・高村光太郎、新島襄の生涯について概要をあらかじめ調べておくこと ・「シャイン」などの映画のシナリオを通して、青年の自立と親子関係について意見を交換します。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間
	第９回	青年期の友人関係 【key words】 ・ヤマアラシのジレンマ、親密圏、公共圏、友人の機能、チャムシップ（サリバン）、役割モデル、友人関係の機能、「やさしさ」（栗原彬）、自己開示、孤独感 【授業概要】 ・同年代の仲間との間における相互に指示的な「かかわり」や「つながり」である友人関係が青年期にもつ意味、意義について考えていきます。特に、友人関係の発達段階やそれぞれの青年にとっての「友人」の質がどのように決まっていくかについて理解を深めていきます。 【教科書ページ・参考文献】 教科書84-95ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・あらかじめ、「友情」を描いた小説やマンガ、映画などを探し、どこに青年らしい友情が描かれているかを説明できるようにしておくこと。それぞれが調べてきたものを通して意見交換をする予定。 【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習2時間
	第１０回	青年と学業：なぜ勉強をするのか 【key words】 ・時間的展望、発達段階－環境適合理論、学業的自己疎外感、学校ストレス、インサイド・アウト、アウトサイド・イン、古典的モラトリアム、ビルドゥングスなきビルドゥングス 【授業概要】 ・学生の個人化やまじめ化、生徒化の流れをふまえた上で、現代の大学生を中心とした青年期における学業の意味について検討を加えていく。 【教科書ページ・参考文献】 教科書96-111ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 進学競争や受験の歴史など、日本の青年期と学校との関係について調べ、理解を深めておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間
	第１１回	青年期のキャリア発達：青年にとって働くこととは 【key words】 進路指導、アルバイト、インターンシップ、役割実験、ワーキング・プア、ウィーク・タイズ、ストロング・タイズ、ＮＥＥＴ、早期離職 【授業概要】 ・「働くこと」は「愛すること」とともに、成熟した大人がクリアすべき課題だといえます。それは、直接的にアイデンティティの課題に答えを出すことにも関わってくる大事な問題として、青年にも捉えられ、青年が自己と向き合う契機になることを理解していきます。ただし、働くということは、社会の状況と密接に関連したことであり、能力とは別に世代全体を巻き込むような大きな影響を与えるということも解説をしていきます。これらのことを「ロスト・ジェネレーション」という言葉を手掛かりに学びながら、それぞれの進路探求を振り返ります。 【教科書ページ・参考文献】 教科書114-131ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・それぞれの進路意識についてワークシートを作成する予定。一通りの学習ののち、自らの職業選択について振り返り、グループ内で意見交換をしていきます。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間
	第１２回	青年と文化・社会意識 【key words】 ファッション、ブランド、ブーム、CMC、PARサイクル、アカルチュレーション、政治行動、患者性（patienthood）エリクソン

【授業概要】
・子ども世代と大人世代の狭間を生きる青年たちは、次世代の社会を引き継いでいく立場にある。青年たちが大人たちが作る社会の文化や価値観を継承しないものは当然次世代にも継承されにくくなると同時に、青年たちに継承をされるものも、青年たち独自の創造によって、それまでとは異なるものに作り替えられていく面も持つ。ここでは、そうしたジェネレイショナル・サイクルの視点から、歴史的には大人世代と青年世代の間にどのような葛藤とドラマがあったかを中心に、青年と文化の関係性について検討をしていく。
【教科書ページ・参考文献】
教科書138-149ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
青年心理の中にとりこまれた文化の時代的変遷について、あらかじめ調べておくこと。特に、流行、ブームになったものを中心に調べておくとよい。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第１３回　青年期の心理臨床①　非社会的行動を中心に

【key words】
不登校、いじめ、社会的ひきこもり、

【授業概要】
・事例を通しながら、青年期を終らせて自立に向かうことを妨げる内面的な問題を理解することを目指す。今回は特に、自宅や自分の内側に退却をする方向の問題に対して焦点を当て、青年の引き起こす非社会的な行動のもつ意味、意義について考えていく。
【教科書ページ・参考文献】
教科書150-153、158-163ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
青年期に生じやすい精神疾患や病理について調べておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習2時間、復習2時間

第１４回　青年期の心理臨床②　反社会的行動を中心に

【key words】
非行、少年犯罪、少年院、リスク行動、家出
【授業概要】
・事例を通しながら、青年期のうちに社会のルールや道徳に反するような逸脱行動を起こし、表社会への接続を難しくする反社会的行動に焦点を当て、その発達上の意味について考えていく。また、こうした行動上の問題を持つ青年に対して関わりながら、健全な青年の自立を支援する人々の姿や支援のあり方についても検討をしていく。
【教科書ページ・参考文献】
教科書154-157ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・少年犯罪や少年院の仕組みについて調べておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第１５回　成人になること：　ポートレート作成を含めて

【key words】
・心理的離乳、夢、ポートレート

【授業概要】
・授業のまとめとして、これまで学んだことを振り返りながら、青年にとっての「夢」の意味なども考えながら、青年期の出口と成人になることについて整理をしていく。そして、各自の青年期の今を記念にポートレートにして残しておく作業を行う。
【教科書ページ・参考文献】
教科書170-183ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
西平直喜（1990）『成人になること：生育史心理学から』（東京大学出版会）
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

【key words】

【授業概要】

	【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・青年期をリアルタイムで生きる大学生の時にしか生き生きと学べない内容でもあるので、積極的に受講をしてもらいたい。 ・知識を覚えるというより、それを自己や他者の理解に「応用」し考える問いを多く発する授業を行う。したがって、そうした問いに対して誠実に応え、考える姿勢を授業で求める。 〔受講のルール〕 ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は退席を命じる。その場合は欠席扱いとする。 ・評価にある通り、期末課題以外に、3回程度小課題や感想文を課す。それぞれ評価の対象になるので、必ず提出すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	毎回の授業終了時に、授業資料を配布するスレッドへのコメント投稿の形で授業の感想や質問・意見等を書きこむこと。このコメントにはできる限り返信をし、双方向性の確保に努める。
授業外時間にかかわる情報	青年が主人公の物語、映画、漫画等を探索して3作品を目標に把握しておくこと。授業内でテーマに即して発表を求めることがある。授業後、テーマに関連した事件、出来事、物語、映画などを探し、授業理解を深めておくこと。　この授業の最大の特徴として〈インタビュー〉を通して、同世代の青年や青年期を通過した大人たちに自分の青年期を振り返っていただき、レポートとしてまとめる課題を実施する。あらかじめ、自分のことを話してもらえるようないろいろな年齢の人たちに依頼をし、インタビュー調査対象者を3名以上確保するよう努力をすること。
オフィスアワー	水曜日　9：00～11：30　メールはいつでも受け付けているので、遠慮なく相談をするように。 hashimoto@shoken-gakuen.ac.jp
評価方法	〈総合評価〉総合得点60～69点：C　70～79：B　80～89：A　90点以上：S　で評価。 〈評価割合〉期末レポート（インタビューを通した青年心理の理解）試験70%、小レポート・ポートレート等提出物 30%（30点÷提出回（予定3回）＝1提出物得点（1回10点））
教科書	・白井利明（編）『よくわかる青年心理学　第2版』（ミネルヴァ書房、2015）
参考書	・藤森旭人『小説・漫画・映画・音楽から学ぶ児童・青年期のこころの理解―精神力動的な視点から』（ミネルヴァ書房、2016）他　適宜指示
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容 インタビューによるレポートの他に、自分の肖像画の代わりになるような、ポートレートも作成する。この授業を通して、自己内対話や他者との対話を積極的に展開してほしい。

講義科目名称： 公衆衛生学　　授業コード： S3211

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位(30)	選択
担当教員			
山﨑　博幸			
専門科目	講義		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 公衆衛生学の概要を理解し、疫学を含む公衆衛生学的な考え方を養う。将来、社会福祉専門職（又は医療専門職）として相応しい公衆衛生の基本、知識、保健統計の読み方を身につける。 【到達目標】 公衆衛生学は何かという点を説明できると共に、これまでの人類の歴史において公衆衛生がどのように機能してきたか、今後どのように活かしていけるかを説明できる。
授業の概要	社会福祉専門職又は教育職として必要な公衆衛生・衛生学の知識を理解・習得して、人々・患者・利用者・児童生徒・職員等の身体的・精神的健康と施設・機関の安全、及び福祉の向上に寄与する責任と自覚を形成できるよう進めていく。基本的にはテキストに沿って講義を進める。不明点や質問はGoogle Formやコメントカードを活用して受け付ける。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	○
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	△

授業計画

第１回　公衆衛生学序論

【key words】
ウインスロー、健康の定義、ICF、ソーシャルキャピタル、生命倫理
【授業概要】
公衆衛生学概論
・ウインスローの公衆衛生の定義について理解する
・公衆衛生学の扱う範囲や活動内容について理解する
・生活と健康について理解する

【教科書ページ・参考文献】
第１章　p1-p17
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前に教科書指定のページを読んでおくこと。
授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第２回　保健統計

【key words】
健康水準、健康指標、平均余命、平均寿命、人口統計、国勢調査、人口動態
【授業概要】
・健康水準をはかるための物差しである健康指標について理解する。
・日本の人口動態及び主要死因別にみた死亡率の推移について理解する。

【教科書ページ・参考文献】
第２章　p19-p30
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前に教科書指定のページを読んでおくこと。
授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。

【予習復習に必要な想定時間】
45分

第３回　疫学

【key words】
Ｊスノウ、疫学調査、疾病分類、コホート研究、症例対照研究、介入研究、オッズ比
【授業概要】
・イギリスにおけるＪスノウのコレラの予防について理解する。
・疫学調査の基本について理解する。
・疫学の方法について概要を理解する。

【教科書ページ・参考文献】
第３章　p31-p51
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前に教科書指定のページを読んでおくこと。
授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第４回　疾病予防と健康管理

【key words】
疾病の自然史、疾病リスク、疾病予防の段階（1次、二次、三次）、ポピュレーションアプローチ、ハイリスクアプローチ、スクリーニング検査、健康日本２１
【授業概要】
・疾病予防の段階について理解する
・スクリーニング検査を含めた健康管理について理解する
・日本の国民健康づくり運動「健康日本２１」について理解する

【教科書ページ・参考文献】
第４章　p53-p82
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前に教科書指定のページを読んでおくこと。
授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第５回　主な疾病の予防

【key words】
感染症、予防接種、循環器系疾患、高血圧、心疾患、糖尿病、メタボリックシンドローム、がん、アレルギー疾患
【授業概要】
・感染症のなりたち、予防について理解する
・生活習慣病のリスク因子、予防について理解する
・動脈硬化がどのような疾病の原因になるか理解する。

【教科書ページ・参考文献】
第５章　p83-p138
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前に教科書指定のページを読んでおくこと。
授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第６回　環境保健１
〃

【key words】
生態系、環境汚染、温室効果、放射線、化学物質、病原性微生物、薬剤耐性菌
【授業概要】
・地球の生態系、環境汚染から地球環境問題の概要を理解する
・放射線、有害化学物質の人体への影響について理解する
・病原性微生物とその感染経路について理解する

【教科書ページ・参考文献】
第６章　p139-p178
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前に教科書指定のページを読んでおくこと。
授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第７回　環境保健２

【key words】
大気汚染、CO、NOx、SOx、上下水道、水質基準、産業廃棄物、食中毒、
【授業概要】
・大気汚染と環境基準及び人体への影響について理解する
・上下水道の仕組み、水質基準について理解する
・食中毒及び住居における室内空気汚染について理解する

【教科書ページ・参考文献】
第６章　p179-p220
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前に教科書指定のページを読んでおくこと。
授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第８回　地域保健と保健行政

【key words】

		コミュニティ、保健所、消費者保健、 【授業概要】 ・地域保健の特徴及び展開を理解する ・薬害等に関して消費者保護について理解する 【教科書ページ・参考文献】 第７章　p221-p236 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前に教科書指定のページを読んでおくこと。 授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。 【予習復習に必要な想定時間】 45分
	第９回	母子保健 【key words】 合計特殊出生率、死産・死亡、障害、児童虐待 【授業概要】 ・母子保健の水準について、各指標を理解する ・母子保健の課題、及び母子保健活動の歴史について理解する 【教科書ページ・参考文献】 第８章　p237-p251 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前に教科書指定のページを読んでおくこと。 授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。 【予習復習に必要な想定時間】 45分
	第１０回	学校保健 【key words】 子どもの疾病、子どものメンタルヘルス、定期健康診断、歯科保健、保健教育 【授業概要】 ・子どもの健康状況、体力、ライフスタイルについて理解する。 ・学校保健の領域、組織・運営、について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 第９章　p253-p278 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前に教科書指定のページを読んでおくこと。 授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。 【予習復習に必要な想定時間】 45分
	第１１回	産業保健 【key words】 産業医、労働安全衛生法、労働災害、職業病、ハラスメント 【授業概要】 ・働く人々の健康問題に関する歴史を理解する ・労働災害や職業病について理解する 【教科書ページ・参考文献】 第１０章　p279-p306 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前に教科書指定のページを読んでおくこと。 授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。 【予習復習に必要な想定時間】 45分
	第１２回	高齢者の保健・医療・介護 【key words】 加齢、老化、健康寿命、認知症、介護保険、地域包括ケアシステム 【授業概要】 ・加齢に伴う様々な健康上の問題について理解する ・高齢者の保健と医療について理解する 【教科書ページ・参考文献】 第１１章　p307-p324 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前に教科書指定のページを読んでおくこと。 授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。 【予習復習に必要な想定時間】 45分
	第１３回	精神保健 【key words】 ストレス、ソーシャルキャピタル、うつ病、統合失調症、精神保健福祉 【授業概要】 ・精神障害の疫学と分類について理解する ・精神保健福祉活動について理解する 【教科書ページ・参考文献】 第１２章　p325-p344 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前に教科書指定のページを読んでおくこと。 授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。 【予習復習に必要な想定時間】 45分

	第１４回　国際保健医療 【key words】 WHO、UNICEF、FAO、SDGs 【授業概要】 ・国際保健の意義と課題について理解する ・主な国際機関の概要について理解する 【教科書ページ・参考文献】 第１３章　p345-p359 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前に教科書指定のページを読んでおくこと。 授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。 【予習復習に必要な想定時間】 45分 第１５回　保健医療福祉の制度と法規 【key words】 国民皆保険制度、医療法、医療提供施設、国民医療費 【授業概要】 ・保健医療行政の概要と基礎知識について理解する ・これまでの授業の振り返りを行う。 【教科書ページ・参考文献】 第１４章　p361-p383 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前に教科書指定のページを読んでおくこと。 授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。 【予習復習に必要な想定時間】 45分
受講生に関わる情報および受講のルール	基本的に教科書に沿って進めていく。講義の内容はノートを取って、講義後に復習を行うこと。 教科書の内容は多めなので、事前に該当する箇所を読んで予習をしておくこと。 受講のルール：私語厳禁。スマホの使用、写真・動画撮影、その他授業の妨害行為を禁止とする。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード　又は　Google Form
授業外時間にかかわる情報	授業時に指示する。
オフィスアワー	木曜日、金曜日の4限（面会希望の学生は事前に要連絡）
評価方法	定期試験（100%）
教科書	『シンプル衛生公衆衛生学』最新版　南江堂
参考書	「よくわかる公衆衛生の基本としくみ」第2版　秀和システム
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） ■情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 人間関係論（産業・組織心理学）　　授業コード： S3231

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	社会福祉コース・学校教育コース・選択／福祉心理コース・必修
担当教員			
加藤　篤士			
専門科目	講義		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 職場における問題や人間関係の問題、職場での支援方法についての心理学的知見を理解する。 【到達目標】 産業・組織心理学の基本的な知識・技法を理解・習得する。 自律型キャリア形成についてのプロセスを理解する。 労働法の基礎的知識を理解・習得する。
授業の概要	本講義では、職場における問題や人間関係の問題、職場での支援方法についての心理学的知見について解説する。 動機づけ（モチベーション）、リーダーシップ、人事評価、安全衛生管理とストレス、キャリア形成、組織論といった概念について学び、ワークシート、グループワーク等を通して実践的に身につける。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	○
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回　授業ガイダンス　イントロダクション・産業・組織心理学とは何か 【key words】 【授業概要】 授業概要，シラバス（内容・評価法など），授業方式と注意点について理解する。 産業・組織心理学とは何かを概観する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２回　採用と面接 【key words】 パーソナリティ・能力・職業選択 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 教科書第１章 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書該当ページを読む。 復習：関心を持ったトピックスについて参考文献にあたる。 【予習復習に必要な想定時間】 180分 第３回　ワーク・モチベーション① 【key words】 ホーソン実験・内発的動機づけ

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】
教科書第２章
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書該当ページを読む。
復習：関心を持ったトピックスについて参考文献にあたる。
【予習復習に必要な想定時間】
180分

第４回　ワーク・モチベーション②

【key words】
期待価値モデル・職務満足感
【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】
教科書第２章
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書該当ページを読む。
復習：関心を持ったトピックスについて参考文献にあたる。
【予習復習に必要な想定時間】
180分

第５回　コミュニケーション①

【key words】
組織・組織内コミュニケーション・情報伝達
【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】
教科書第３章
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書該当ページを読む。
復習：関心を持ったトピックスについて参考文献にあたる。
【予習復習に必要な想定時間】
180分

第６回　コミュニケーション②

【key words】
コンフリクト・集団意思決定
【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】
教科書第３章
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書該当ページを読む。
復習：関心を持ったトピックスについて参考文献にあたる。

【予習復習に必要な想定時間】
180分

第７回　仕事の能率と安全

【key words】
ヒューマンエラー・ハインリッヒの法則・安全マネジメント
【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】
教科書第４章
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書該当ページを読む。
復習：関心を持ったトピックスについて参考文献にあたる。
【予習復習に必要な想定時間】
180分

第８回　職場の快適性

【key words】
ストレスチェック・疲労・ストレス・メンタルヘルス
【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】
教科書第５章
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書該当ページを読む。
復習：関心を持ったトピックスについて参考文献にあたる。
【予習復習に必要な想定時間】
180分

第９回　キャリア展開

【key words】
キャリア・ライフサイクル・生涯発達
【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】
教科書第６章
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書該当ページを読む。
復習：関心を持ったトピックスについて参考文献にあたる。
【予習復習に必要な想定時間】

180分
第１０回　リーダーシップ
【key words】
リーダーシップ・管理者・交流型・変革型
【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】
教科書第７章
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書該当ページを読む。
復習：関心を持ったトピックスについて参考文献にあたる。

【予習復習に必要な想定時間】
180分
第１１回　人事評価
【key words】
絶対評価法・相対評価法・ハロー効果
【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】
教科書第８章
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書該当ページを読む。
復習：関心を持ったトピックスについて参考文献にあたる。

【予習復習に必要な想定時間】
180分
第１２回　消費者行動
【key words】
消費者行動・マーケティング
【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】
教科書第９章

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書該当ページを読む。
復習：関心を持ったトピックスについて参考文献にあたる。
【予習復習に必要な想定時間】
180分
第１３回　価格
【key words】
価格判断・プロスペクト理論・心的会計
【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】
教科書第１０章
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書該当ページを読む。
復習：関心を持ったトピックスについて参考文献にあたる。
【予習復習に必要な想定時間】
180分
第１４回　消費者の意思決定
【key words】
情報探索・決定方略・意思決定・認知的不協和
【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】
教科書第１１章

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書該当ページを読む。
復習：関心を持ったトピックスについて参考文献にあたる。

【予習復習に必要な想定時間】
180分
第１５回　人間工学
【key words】
サイズ・インターフェイス・デザイン工学・表示
【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】
教科書p169～p213
教科書第１２章

	【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書該当ページを読む。 復習：関心を持ったトピックスについて参考文献にあたる。 【予習復習に必要な想定時間】 180分
受講生に関わる情報および受講のルール	各授業の最後に次週の予告をするので、関連する文献を読むなど問題意識を持って受講して欲しい。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	リアクションペーパー・授業掲示板
授業外時間にかかわる情報	次回講義に関する文献や雑誌・新聞記事などを各自で事前に読んでおくこと。
オフィスアワー	授業の前後を予定している。
評価方法	平常点(リアクションペーパー)30%、期末試験70%
教科書	使用しない
参考書	山口裕幸ら著　産業・組織心理学(改訂版)　有斐閣　2020 金井　篤子（編）　産業・組織心理学講座第１巻　産業・組織心理学を学ぶ　心理職のためのエッセンシャルズ 北大路書房　2019 その他、講義に際に適宜指定する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 民間企業での人事・総務担当者、および医療機関での心理士業務 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） ■情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 教育社会学　　授業コード： S5011

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位(30)	学校教育コース・初等教育コース・必修／児童福祉コース・選択
担当教員			
木部　日出雄			
専門科目	講義		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 子どもの社会化過程を中心に、具体的な教育事象について社会学の視点から考察する。 〔到達目標〕 ・子どもが家庭・学校・地域社会といった各集団を通して社会化されていく過程を具体的に把握できる。 ・各回の具体的な教育事象に興味・関心を持ち、それに即した身近な事例をとらえることができる。
授業の概要	・教育社会学の研究成果をもとに、教育と社会との相互関係を実証的・客観的に考察する。 ・親・教師・子どもの相互行為としての教育、教育に対する社会の影響、教育の社会に及ぼす影響等について考察する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	◎
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	△
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	○
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	◎
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション ー子どもの発達と社会化（教科の全体像、人間の発達と社会、子どもの社会化過程の概要の把握） 【key words】 社会化、成長・発達、敏感期、発達課題 【授業概要】 講義の初めとして、教育社会学とは何かについて概要を理解し、次いで人間の発達と社会、子どもの社会化過程についてその概要を知り、今後の学習の見通しを持つ。 【教科書ページ・参考文献】 2p～18p 【課題・予習・復習・授業準備指示】 子どもの社会化過程について、詳しく考察していこうとする心構えを持つ。次回に向けて教科書20p～37pを読み、自身が幼い頃に家族から受けた様々な影響について想起してみる。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間程度 １時間程度
	第２回	家族集団と子どもの社会化（家族における親からの社会化、現代における家族の社会化をめぐる諸問題の考察） 【key words】 家族集団、父親不在、母親不在、しつけモデル、育児不安 【授業概要】 運命的な出会いの集団である家族において、親からの社会化について学び、現代社会において指摘される「父親不在と母親密着」「母親の就業と母親不在」「しつけモデルの喪失」「育児不安」など、社会化をめぐる諸問題について考察する。 【教科書ページ・参考文献】 20ｐ～37ｐ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 現代社会における家族集団のありようが子どもの社会化に与える影響について考える。次回に向けて教科書38ｐ～52ｐを読み、自身が幼い頃仲間集団から受けた影響について想起する。 【予習復習に必要な想定時間】

		１時間程度
	第３回	仲間集団と子どもの社会化（子どもの仲間集団の特徴、その変容、変容の背景と変容がもたらす諸問題の考察） 【key words】 自発的選択性・対等性・流動性、重要な他者、一般化された他者 【授業概要】 子どもの仲間集団の特徴について理解し、仲間集団の現代的状況として「仲間集団の変容」「変容の背景」「遊びの変化」「変容がもたらす社会化の問題」について考察する。 【教科書ページ・参考文献】 38ｐ～52ｐ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 仲間集団の変容と社会化の諸問題について考える。次回に向けて教科書53ｐ～66ｐを読み、自身の近隣集団とのかかわりについて想起してみる。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間程度
	第４回	近隣集団と子どもの社会化（地域社会の社会化機能と現代の弱体化傾向、その克服を目指した活動事例の考察） 【key words】 近隣集団、水平的関係、垂直的関係 【授業概要】 地域社会における社会化機能について理解し、現代社会における地域社会で「社会化機能の弱体化」の傾向と現在みられる「地域集団の子どもを対象にした活動事例」について考察する。 【教科書ページ・参考文献】 53p～66p 【課題・予習・復習・授業準備指示】 現在、各地域で行われている子どもを対象にした各種活動が子どもの社会化に及ぼす影響について考える。次回に向けて教科書67p～70pを読み、自身の経験した学校集団について想起してみる。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間程度
	第５回	学校集団と子どもの社会化（1） ―学校の構造と組織―（学校集団について、教員・児童生徒の関係から考察） 【key words】 行政制度、社会制度、集団意識、組織体、校務分掌組織 【授業概要】 「学校」について「制度」「集団」「組織」の面から考察し、さらに「学校集団の構造と組織」について「教員」「児童生徒」及び「教員と児童生徒との関係」の観点から考察する。 【教科書ページ・参考文献】 67p～70p 【課題・予習・復習・授業準備指示】 意図的な社会化機能をもつ「学校」についてその構造と組織を考察し、自身の体験も重ねて整理する。次回に向けて教科書71p～80pを読み、学校集団の社会化機能について考えてみる。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間程度
	第６回	学校集団と子どもの社会化（2） ―学校集団の社会化機能―（顕在カリキュラムと潜在カリキュラム等の考察） 【key words】 制度的カリキュラム、隠れたカリキュラム 【授業概要】 学校集団における子どもの社会化について、教育の対象、目的、内容、方法及び社会の成立と存続に欠かせない機能を有することを考察し、学校集団による社会化は顕在するカリキュラムによって行われるとともに潜在的なカリキュラムによっても行われることを理解する。 【教科書ページ・参考文献】 71p～80p 【課題・予習・復習・授業準備指示】 隠れたカリキュラムについて、具体的にどのようなものがあるか挙げてみる。次回に向けて教科書93p～106pを読み、テレビ、新聞等の子どもたちへの影響について考えてみる。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間程度
	第７回	マス・メディアと社会化環境（子どもの生活におけるマス・メディアの影響、その対応策について考察） 【key words】 マス･メディア、印刷メディア、電波メディア、疑似環境 【授業概要】 現代社会とマス･メディア、子どもの生活におけるマス･メディアの影響について考察し、マス･メディアへの対応について考える。 【教科書ページ・参考文献】 93p～106p 【課題・予習・復習・授業準備指示】 身近なマス･メディアである新聞や雑誌、テレビ等に、自身はどのような影響を受けているか、具体的に考えてみる。次回に向けて教科書107p～122pを読み、ニューメディアにどのようなものがあるか挙げてみる。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間程度
	第８回	ニューメディアと子どもたち（ニューメディアの特徴、メディアリテラシー教育の必要性、情報化社会の諸問題の考察） 【key words】 ニューメディア、ネットワーク化、マルチメディア化、モバイル化、メディアリテラシー、情報モラル 【授業概要】 ニューメディアの特徴、様式等について理解し、情報化社会の諸問題と主な対策として「メディアリテラシー教育の必要性」「コンピュータウイルスや同犯罪に対する心構え」「情報モラル」

		「個人情報の保護」について考察する。 【教科書ページ・参考文献】 107p～122p 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ニューメディアの一つ「スマホ」の活用と注意すべき点は何か具体的に考え、特に「ﾒﾃﾞｨｱﾘﾃﾗｼｰ教育の必要性」を把握する。次回に向けて124p～138ｐを読み、最近の少年非行について考えてみる。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間程度
	第９回	社会の変動と少年非行（逸脱行動、非行について理解し、現代の少年非行の特徴と原因について考察） 【key words】 逸脱行動、初発型非行、被害者なき犯罪 【授業概要】 逸脱行動、非行とは何かについて理解し、現代の少年非行の特徴及びその原因について資料を基に考察する。 【教科書ページ・参考文献】 124p～138p 【課題・予習・復習・授業準備指示】 逸脱行動、非行の意味について理解し、現代の少年非行の特徴、原因について考える。次回に向けて教科書139ｐ～153ｐを読み、児童虐待の報道事例等について想起してみる。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間程度
	第１０回	社会問題化する児童虐待（児童虐待の定義、その現状と社会問題化、児童虐待への対応の難しさについて考察） 【key words】 児童虐待防止法、児童福祉法、児童の権利に関する条約 【授業概要】 児童虐待について、その意味やどのように社会問題化してきたかについて考察する。また、児童虐待の現状を統計資料から読み取り、その対応の困難性について考える。 【教科書ページ・参考文献】 139p～153p 【課題・予習・復習・授業準備指示】 児童虐待の意味・現状を知り、その対応について考える。次回に向けて教科書154p～166pを読み、不登校・ひきこもりの報道事例等について想起してみる。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間程度
	第１１回	現代社会の不登校とひきこもり（不登校等の現状と推移、社会的背景、友人関係や支援の仕方等について考察） 【key words】 不登校、居場所づくり、進学・就職支援 【授業概要】 不登校の現状や推移について知り、その増加の社会的背景について考え、社会学の視点からのとらえ方、友人関係及び必要とされる支援の在り方について考察する。 【教科書ページ・参考文献】 154p～166p 【課題・予習・復習・授業準備指示】 学校基本調査等の資料から不登校児童生徒の現状や推移について読み取り、その友人関係や支援の仕方について考える。次回に向けて学校生活における安全上の課題について想起してみる。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間程度
	第１２回	学校の安全管理・安全教育（学校安全の必要性、生活安全・交通安全・災害安全及び新たな安全上の課題についての考察） 【key words】 安全管理、安全教育、学校保健安全法 【授業概要】 生活安全、交通安全、災害安全の各領域や新たな安全上の課題について、安全管理及び安全教育の両面から具体的な取組ついて考察する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書には該当ページ無し　参考書：渡邉正樹編著「学校安全と危機管理」（改訂版）大修館書店 【課題・予習・復習・授業準備指示】 危機管理を含む学校安全の目的、具体的な取組を理解する。次回に向けてコミュニティ・スクールについて調べてみる。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間程度
	第１３回	学校と地域の連携･協働による教育（開かれた学校づくり及び現在のコミュニティ・スクール推進について考察） 【key words】 開かれた学校、コミュニティ・スクール 【授業概要】 地域との連携を基とする開かれた学校づくりが進められてきた経緯について理解するとともに、現在推進されているコミュニティ・スクールについて、その目的と内容、現状等について考察する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書には該当ページ無し　参考文献：文部科学省資料「コミュニティ・スクール」、貝瀬　滋著「図説コミュニティ・スクール入門」一藝社 【課題・予習・復習・授業準備指示】 コミュニティ・スクールについて目的、内容、現状等について理解する。次回に向けて諸外国の教育事情について見聞きしたことを想起してみる。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間程度
	第１４回	国際化する社会と教育（国境を越えた教育流動とアメリカ・ドイツ・中国等諸外国の教育事情に

	ついて考察） 【key words】 ミドルスクール運動（アメリカ）、教育スタンダードの導入（ドイツ）、課程標準（中国） 【授業概要】 近年の教育政策の動向及び諸外国の教育事情や教育改革の動向について考察する。諸外国としてはアメリカ、ドイツ、中国等を取り上げる。 【教科書ページ・参考文献】 教科書には該当ページ無し　参考文献：二宮　皓編著「新版　世界の学校」学事出版 【課題・予習・復習・授業準備指示】 民主主義国としてのアメリカ、ドイツ、社会主義国としての中国の教育事情等について理解し、関心のある他の国の様子について調べてみる。次回に向けて身近な生涯学習の事例について考えてみる。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間程度 第１５回　生涯学習社会の展望（生涯学習の歩みと現状、学習のボーダレス化等について考察） 【key words】 生涯学習、経験知、専門知 【授業概要】 生涯学習について、社会教育→生涯教育→生涯学習と歩んできた日本の状況を学び、学習のボーダレス化について考察する。事例として「江戸川総合人生大学」等を取り上げ、日本の生涯学習の今後について考える。 【教科書ページ・参考文献】 教科書には該当ページ無し　「江戸川総合人生大学」等の事例を示す資料配付　参考文献：岩永雅也･稲垣恭子編著「新版教育社会学」放送大学 【課題・予習・復習・授業準備指示】 私たちはなぜ学校教育を終えてからも生涯にわたって学び続けようとするのか、「生涯学習」が学びの在り方そのものを変化させてきているのではないか、ということについて考えてみる。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間程度
受講生に関わる情報および受講のルール	・教科書を必ず用意し、該当ページのポイントをしっかり理解するように努めること。 ・配付資料について積極的に読み取り、自分なりの考えを持つように努めること。なお、配付資料の予備は保管しませんので、出席者に取り置いてもらうかコピーをさせてもらうかしてください。 ・教育に関し社会問題化している報道等に幅広く関心を持ち、常に問題意識を持って受講すること。 ・授業中に生じた疑問は、コメントカードで質問したり、自分でも調べたりすること。 ・授業中携帯電話、スマートフォンの電源は切り、しまっておくこと。（特別な事情がある場合は申し出ること） ・授業中、私語は慎むこと。なお、飲食は禁止します。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	・各回のテーマに即してあらかじめ新聞報道等を読み、問題意識を持って講義に臨むように努めること。
オフィスアワー	火曜　9時30分～10時10分　それ以外の時間帯については、アポイントを取って頂きたい。
評価方法	・筆記試験の成績の結果を主とする（90%） ・受講後の感想や質問内容を加味する（10%）
教科書	住田正樹・高島秀樹（編著）「変動社会と子どもの発達ー教育社会学入門」北樹出版　最新版
参考書	加野芳正・越智康詞（編著）「新しい時代の教育社会学」ミネルヴァ書房　最新版
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 小・中学校教諭・校長及び教育行政官（指導主事、指導係長、学校教育課長、指導部長）として勤務した。この経験を活かし、教育学、教育社会学の理論を、学校現場等の実際の状況と関連付けて具体的に分かりやすく講ずる。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 介護技術Ⅰ　　授業コード： S5041

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	2単位(60)	選択
担当教員			
植田　裕太朗			
専門科目	演習		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 介護を必要としている人たちに、尊厳をもってその人らしい生活が送ることができるように、適切な支援が提供できるための、知識や技術を習得し実践できるようになることを目的とする。 【到達目標】 介護とは何か。介護の意義と役割を理解。日常生活に必要な介護技術を習得。介護における安全確保と危機管理を理解。
授業の概要	介護技術の基礎知識、介護と生活支援の関係、生活行為に関連した高齢者の生活支援に焦点をあて、介護の根拠を学ぶ。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	○
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	△
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	△
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	◎
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画

第１回　ガイダンス　介護とは・介護の基礎知識①
【key words】
介護・生活支援
【授業概要】
ガイダンスを行い、授業時の注意点や進め方について確認する。介護の意義について理解を深める時間となる。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
第1回目の資料の確認
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第２回　介護とは・介護の基礎知識②　（コミュニケーション）
【key words】
介護とは何か、日常生活を送る上で様々なコミュニケーション場面における支援方法を理解する。
【授業概要】
介護は実践学で、介護の質は実践力が大きく影響し、介護技術も重要である。介護の理念を具体化する技術の意味や展開する姿勢を学ぶとともにその際に必要なコミュニケーションについて理解する。
【教科書ページ・参考文献】
P3-5、適宜資料を配布する
【課題・予習・復習・授業準備指示】
第1回目の資料の確認、第2回目の資料の確認、P61-73
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第３回　移動の支援技術①「移動の意義と目的」
【key words】
介護における移動の意義と目的について理解する

【授業概要】
生活において、移動は生活の基礎である。移動支援の意義と目的について理解し、確認を行い演習につなげていく
【教科書ページ・参考文献】
P61-73、適宜資料を配布する
【課題・予習・復習・授業準備指示】
第2回目の資料の確認、P93
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第４回　移動の支援技術②「移動の意義と目的」「移動の実際と確認」
【key words】
介護、移動、留意点の確認
【授業概要】
介護における移動の意義と目的の確認を行う。
【教科書ページ・参考文献】
P93、適宜資料を配布する
【課題・予習・復習・授業準備指示】
P74-77、P93
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第５回　移動の支援技術③「居室環境の整備・ベッドメーキング」
【key words】
居室環境の整備、ベッドメイキング

【授業概要】
快適なベッド生活を送るためには、シーツを崩れにくく、寝心地がよく、見た目も美しいベッドを作成する必要性を学ぶ。シーツのたたみ方については清潔と手早さを重視することを学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
適宜資料を配布する
【課題・予習・復習・授業準備指示】
第4回目の配布資料の確認
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第６回　移動の支援技術④　（居室環境の整備・ベッドメーキング・シーツ交換）
【key words】
居室環境の整備、三角折り、四角折り

【授業概要】
快適なベッド生活を送るためには、シーツを崩れにくく、寝心地がよく、見た目も美しいベッドを作成する必要性を学ぶ。シーツのたたみ方については清潔と手早さを重視することを学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
適宜資料を配布する
【課題・予習・復習・授業準備指示】
第5回目の配布資料の確認
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第７回　移動の支援技術⑤　（体位の確認）
【key words】
生活行為、移動、移乗動作、体位

【授業概要】
移動・移乗動作援助の原則を理解し、ベッド上での水平移動を学ぶ。寝返り・起き上がり動作を学ぶ。体位の確認を行う。
【教科書ページ・参考文献】
P74-81、適宜資料を配布する
【課題・予習・復習・授業準備指示】
第6回目の資料の確認、P74-81、P86
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第８回　移動の支援技術⑥　（車いすの種類、操作の理解）
【key words】
車いすの各部の名称・車いすの種類・車いすの移乗方法を理解する。
【授業概要】
車いすの各部の名称や車いすの種類、車いすの移乗方法を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
P86-92、適宜資料を配布する
【課題・予習・復習・授業準備指示】
P86-92、配布した資料を確認する
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第９回　移動の支援技術⑦　（車いすへの移乗について）
【key words】
車いすの移乗方法を理解する。
【授業概要】
車いすの操作に慣れる。段差の上がり方、降り方を学ぶ。砂利道や急な坂道の場合の介助方法を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
P86-92、適宜資料を配布する
【課題・予習・復習・授業準備指示】
P86-92、配布した資料を確認する
【予習復習に必要な想定時間】

60分
第１０回　移動の支援技術⑧　（歩行の介助）
【key words】
杖歩行の動作歩行を理解する。
【授業概要】
杖歩行の方法を学ぶ。階段の昇降、障害物をまたぐ方法を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
P83-85、適宜資料を配布する
【課題・予習・復習・授業準備指示】
P83-85、配布した資料を確認する
【予習復習に必要な想定時間】
60分
第１１回　移動の支援技術⑨　（安楽な姿勢、良肢位の理解）
【key words】
安楽な姿勢の重要性と保持の援助方法を理解する。
【授業概要】
安楽な姿勢の保持の原則を学ぶ。転倒予防の重要性を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
適宜資料を配布する
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義・演習をもとに復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分
第１２回　移動の支援技術⑩　「これまでの学習を通して、移動支援の留意点をまとめる」
【key words】
前期実技試験の課題を理解する。
【授業概要】
これまでの学習を通して、個人で移動支援の留意点をまとめる
【教科書ページ・参考文献】
P61-93、適宜資料を配布する
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義・演習をもとに復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分
第１３回　移動の支援技術⑪「これまでの学習を通して、移動支援の留意点を発表する①」
【key words】
移動支援、留意点、発表
【授業概要】
これまでの学習を通して、各グループに分かれて移動支援の留意点をまとめ発表する
【教科書ページ・参考文献】
P61-93、適宜資料を配布する
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義・演習をもとに復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分
第１４回　移動の支援技術⑫「これまでの学習を通して、移動支援の留意点を発表する②」
【key words】
移動支援、留意点、発表
【授業概要】
これまでの学習を通して、各グループに分かれて移動支援の留意点をまとめ発表する
【教科書ページ・参考文献】
P61-93、適宜資料を配布する

【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義・演習をもとに復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分
第１５回　前期のまとめ
【key words】
前期の振り返り
【授業概要】
前期の振り返りを行うとともに、前期実技の確認をする。
【教科書ページ・参考文献】
P61-93、適宜資料を配布する
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義・演習をもとに復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分
第１６回　後期オリエンテーション、 介護におけるコミュニケーションの基礎
【key words】
オリエンテーション、介護、コミュニケーション

【授業概要】
後期オリエンテーションを行う。対人援助職に必要なコミュニケーション能力について学び、実践方法について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
適宜資料を配布する
【課題・予習・復習・授業準備指示】
P25
【予習復習に必要な想定時間】
60分

	第１７回	利用者の特性に応じたコミュニケーション技法の実際①「視覚障害のある人のコミュニケーションの概要」 【key words】 視覚障害、コミュニケーションの概要 【授業概要】 視覚障害のある人のコミュニケーションについて学び、視覚障害を持つ方の気持ちを考える。 【教科書ページ・参考文献】 P25-27、適宜資料を配布する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第16回目の資料の確認、P24 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第１８回	利用者の特性に応じたコミュニケーション技法の実際②「視覚障害のある人のコミュニケーションの実際」 【key words】 視覚障害、コミュニケーションの実際 【授業概要】 視覚障害のある人のコミュニケーション方法を確認し、実際の支援方法について理解を深める 【教科書ページ・参考文献】 P24、適宜資料を配布する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第17回目の資料の確認、P27-29 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第１９回	利用者の特性に応じたコミュニケーション技法の実際③「聴覚障害のある人のコミュニケーションの支援」 【key words】 聴覚障害、コミュニケーションの実際 【授業概要】 聴覚障害のある人のコミュニケーションについて学び、支援方法を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 P27-29、適宜資料を配布する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第18回目の資料の確認、P18-21 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第２０回	利用者の特性に応じたコミュニケーション技法の実際④「認知症の人とのコミュニケーションの支援」 【key words】 認知症、コミュニケーション、支援方法 【授業概要】 認知症の基礎的な知識を学び、コミュニケーションの際の留意点について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 P17-21、適宜資料を配布する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第19回目の資料の確認 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第２１回	利用者の特性に応じたコミュニケーション技法の実際⑤「認知症の人とのコミュニケーションの実際」 【key words】 アルツハイマー型認知症、血管性認知症、レビー小体型認知症 【授業概要】 認知症の基礎的な疾患であるアルツハイマー型認知症、血管性認知症、レビー小体型認知症について学び認知症の基礎的な理解をする 【教科書ページ・参考文献】 P22-23、適宜資料を配布する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第20回目の資料の確認 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第２２回	利用者の特性に応じたコミュニケーション技法の実際⑥「認知症の人に対する先進的な取り組み」 【key words】 認知症、先進的な取り組み、改善 【授業概要】 介護現場における認知症の先進的な取り組みについて理解し、認知症の改善事例を確認する 【教科書ページ・参考文献】 適宜、資料を配布する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第21回目の資料の確認 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第２３回	身じたくの意義と目的について理解する 【key words】 身じたく、着替え、口腔ケア

【授業概要】
介護現場における身じたくの意義と目的について理解し、着替え、口腔ケアの在り方や重要性について学ぶ
【教科書ページ・参考文献】
P136-140、適宜資料を配布する
【課題・予習・復習・授業準備指示】
第22回目の資料の確認
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第２４回　総合生活支援技術①「着脱介助」
【key words】
座位、仰臥位、片麻痺、着脱介助

【授業概要】
座位、仰臥位、片麻痺の着脱の介助について演習を通して理解する。
【教科書ページ・参考文献】
P136-140、適宜資料を配布する
【課題・予習・復習・授業準備指示】
第23回目の資料の確認
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第２５回　総合生活支援技術②「事例についての移乗の介助」
【key words】
事例、移乗、留意点
【授業概要】
事例を提示するため、事例を理解した上で移乗介助の留意点について理解する
【教科書ページ・参考文献】
適宜資料を配布する
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義・演習をもとに復習、練習をする。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第２６回　総合生活支援技術③「事例についての車いすの介助」
【key words】
事例、車いす操作、留意点
【授業概要】
事例を提示するため、事例を理解した上で車いすの介助の留意点について理解する
【教科書ページ・参考文献】
適宜資料を配布する
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義・演習をもとに復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第２７回　総合生活支援技術④「事例についての居住環境の整備」
【key words】
事例、居住環境整備、シーツ交換、留意点
【授業概要】
事例を提示するため、事例を理解した上で車いすの介助の留意点について理解する
【教科書ページ・参考文献】
適宜資料を配布する
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義・演習をもとに復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第２８回　総合生活支援技術⑤「事例についての歩行介助」
【key words】
事例、歩行介助、留意点
【授業概要】
事例を提示するため、事例を理解した上で歩行介助の留意点について理解する
【教科書ページ・参考文献】
適宜資料を配布する
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義・演習をもとに復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第２９回　学生の振り返り（介護の考え方、介護を適切に行う能力と姿勢とは何か）
【key words】
1年間の振りかえり　　・　後期の実技の確認
【授業概要】
1年間の振り返り、実技の確認及び振り返りを行う。
【教科書ページ・参考文献】
適宜資料を配布する
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義・演習をもとに復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第３０回　まとめ（総括）
【key words】
1年間の振り返りを行う
【授業概要】
1年間の実技の振り返りをする。
【教科書ページ・参考文献】

	適宜資料を配布する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義・演習をもとに復習を行うこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
受講生に関わる情報および受講のルール	講義中の迷惑な行為、私語、携帯電話の使用は厳禁。演習時の教材の準備、後片付けは各グループで協力して行う。 教材は大切に使用し、整理・整頓を心掛ける。 演習時は学校指定のジャージを着用すること。イヤリング、ネックレス、腕時計はつけないこと。長い髪は束ねること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	介護は幅広い多面的な知識と人との関わりが重要である。授業だけではなく実習やボランティア等で学んだことを活かし、総合的な視点で利用者を支援することが大切である。
オフィスアワー	水曜日
評価方法	授業態度：20%、レポート：80%
教科書	介護福祉士養成テキスト第3巻（コミュニケーション技術／生活支援技術Ⅰ・Ⅱ）
参考書	必要時、配布する
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 介護施設にて介護実務の経験あり。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 教職概論　　授業コード： S5061

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	学校教育コース・初等教育コース・必修／児童福祉コース・選択
担当教員			
木部　日出雄			
専門科目	講義		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 「教職の意義及び教員の役割」や「教員の職務内容」について考察し、理解する 〔到達目標〕 ・教職の専門性及び教師に求められる資質・能力について理解できる。 ・各回の学校教育に関する事象に関心を持ち、具体的な事例をあげることができる。 ・自分自身の理想的な教師像についてイメージすることができる。
授業の概要	・学校教育の概要について学習し、教員の使命や服務義務について理解する。 ・日本の近代教育の成立から今日までの変遷をたどり、教育の今日的課題について考察する。 ・これからの時代に求められる教師像について考察し、自分自身の考えをもつ。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	△
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	◎
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回	科目オリエンテーション ー教師とは何か （教科の全体像、教師の役割、資質能力、優れた教師等についての考察） 【key words】 教師、教員、教職員、教諭、資質能力 【授業概要】 科目の位置づけとシラバスの説明　「教師」という言葉の意味・概念、教師に求められる役割、優れた教師の条件、教師の資質能力について考察する。 【教科書ページ・参考文献】 16p～29p 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自身の理想的な教師像をイメージできるような心構えを持つ。次回に向けて教科書66p～99pを読み、自身の受けた学習指導の状況を想起してみる。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間程度
	第２回	学習指導（1）ーカリキュラムを作成する（学習指導の基盤であるカリキュラムの編成・基準等について考察） 【key words】 カリキュラム、教育課程の編成・管理、学習指導要領の改訂 【授業概要】 教師の仕事の中核をなす学習指導とその基盤であるカリキュラムの編成について、カリキュラムと学校の教育課程、学習指導要領及びその改訂の観点から考察する。 【教科書ページ・参考文献】

		66p～99p 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実際の学校の教育課程をみてカリキュラムについて具体的に理解し、その基盤である学習指導要領とその改訂の変遷について理解する。次回に向けて教科書100p～116pを読んでおく。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間程度
	第３回	学習指導（2）ー授業力をつける（学力の現状と授業力が問われる背景、授業力の要素等についての考察） 【key words】 学力、授業力の要素、教材解釈、教材開発、授業評価 【授業概要】 教師の資質能力と専門性に負うところの大きい「良い授業をつくる力」について、子どもの学力の現状、授業力が問われる背景、授業力の要素、授業力をつけるという観点から考察する。 【教科書ページ・参考文献】 100p～116p 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業力について、模擬授業を想定して具体的に理解し、自身の改善点について考える意欲を持つ。次回に向けて教科書32p～56pを読み、生徒指導上の課題について考えてみる。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間程度
	第４回	生徒指導ー子どもの心理と行動（子どもの心理や行動を生徒理解、問題行動等から考察） 【key words】 発達課題、適応、不適応、生徒理解、問題行動、規範意識 【授業概要】 児童生徒を理解する上で必要な発達段階に応じた心理状態や行動様式について、学校生活における適応、不適応、生徒理解、問題行動の現状等の観点から考察し、問題行動に対する指導の在り方について考える。 【教科書ページ・参考文献】 32p～56p 【課題・予習・復習・授業準備指示】 生徒指導の基盤である生徒理解について、その視点や方法を具体的に理解する。次回に向けて教科書56p～64pを読み、自身の経験した学級集団について想起してみる。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間程度
	第５回	学級の経営ー集団で指導する（学級集団づくりについて学級担任、学級経営等の観点から考察） 【key words】 学級経営、学級活動、学級集団 【授業概要】 教師が学級担任として直面する学級集団づくりについて、学級担任の仕事、学級経営と学級活動、学級活動と学級集団づくりといった観点から考察し、学級経営における生徒指導の在り方について考える。 【教科書ページ・参考文献】 56p～64p 【課題・予習・復習・授業準備指示】 学級集団づくりは、児童生徒一人一人の人間的成長に関わる教師の重要な仕事であることを理解する。次回に向けて教科書152p～158p、167p～173pを読み、自身が経験した教師の様子を想起してみる。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間程度
	第６回	学校の組織（校務分掌、職員会議、運営委員会等の組織・機能を理解し、学校運営への参画について考察） 【key words】 校務分掌、職員会議、企画調整会議（運営委員会）、教育環境の醸成、学校組織機能の向上 【授業概要】 現在の学校の組織・構造について、校務分掌、職員会議、企画調整会議、学校運営への参画といった観点から具体的に考察する。 【教科書ページ・参考文献】 152p～158p、167p～173p 【課題・予習・復習・授業準備指示】 学校組織と構成員の役割について知り、教師がチームを組んで学校運営に当たっていることを理解する。次回に向けて教科書158p～167pを読み、組織体としての学校について考えてみる。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間程度
	第７回	学校の運営（P-D-C-Aサイクルによる学校運営の改善及び教職員の自己評価等について考察） 【key words】 学校の教育目標、学校経営計画、学校評価、自己申告制度、人事考課制度 【授業概要】 学校は、全教育活動を通じて学校の教育目標の具現化を目指し、学校経営計画を立案し、P-D-C-Aサイクルによって内部評価、外部評価を行い、学校運営の改善を図っている。教職員は自己目標

		の設定と自己評価等によって学校運営に協力することが重要であることを考察する。 【教科書ページ・参考文献】 158p～167p 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「学校は組織体であり、教員は学校組織の一員である」ということの意味について具体的に理解する。次回に向けて教科書118p～132pを読み、教員の養成について考えてみる。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間程度
	第８回	教員の養成と任用（教員の養成、専門職性の向上、教員免許状、任用について考察） 【key words】 県費負担教職員制度、教育委員会制度、教員免許状 【授業概要】 国や地方公共団体が法令に基づいて教育政策や施策を決定・実施していることを教育行政の仕組みを通して考察し、教員の養成、教職の専門職性、教員の資格、教員免許状び任用について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 118p～132p 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教員になるための条件、専門職性や資格の取得、任用の在り方について理解を深める。次回に向けて教科書132p～138pを読み、教員研修にはどのようなものがあるか知っておく。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間程度
	第９回	教師の資質向上と研修（教員の力量形成、職能成長等を図るための様々な研修について考察） 【key words】 学校管理職研修、教職経験者研修、初任者研修、職務研修、校内研修 【授業概要】 教員は、それぞれの職能、専門分野、能力、適性、興味・関心等に応じて、常に資質能力を向上させる必要があり、そのため「絶えず研究と修養に努めなければならない」と規定されている。このことを教師の資質能力のとらえ方、力量形成と研修、職能成長と研修、研修の種類といった観点から考察する。 【教科書ページ・参考文献】 132p～138p 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教育公務員と地方公務員の研修についての規定の違いについて理解する。次回に向けて教科書138p～150pを読み、教員の服務義務等の規定について知っておく。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間程度
	第１０回	教員の服務制度と勤務条件（教育公務員の採用と任免、身分上・職務上の義務、勤務条件等について考察） 【key words】 任免、服務義務、分限、懲戒、時間外勤務 【授業概要】 公立学校教員の採用と任免、服務義務、身分保障と分限・懲戒、勤務条件といった点について考察し、身分上も職務上も厳しい基準が設けられているが、それによって教員としての身分が守られていることを理解する。 【教科書ページ・参考文献】 138p～150p 【課題・予習・復習・授業準備指示】 服務義務の学習では、法令で示されている義務・禁止・制限について具体的事例を通して理解する。次回に向けて教科書152p～155p、234p～239pを読み、戦前期の教師像について考えてみる。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間程度
	第１１回	時代の流れと教師像の変遷（1）ー戦前期の学校教育と教師像（明治期～大正・昭和戦前期） 【key words】 寺子屋、学制、被仰出書、森有礼、聖職教師像、国民教育、沢柳政太郎 【授業概要】 様々な歴史性を帯びて存在する教師像について、近代学校成立以前の教師、近代学校成立と教師、定型的教師像の誕生、ファシズム期の教師像という観点から戦前期における教師像について考察する。 【教科書ページ・参考文献】 152p～155p、234p～239p　　参考文献：秋田喜代美・佐藤　学編著「新しい時代の教職入門」有斐閣アルマ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 江戸・明治期から第二次世界大戦までの間、教師像はどのように変遷してきたかについて理解する。次回に向けて教科書240p～256pを読み、戦後の教師像の変化を考えてみる。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間程度
	第１２回	時代の流れと教師像の変遷（2）ー戦後の教育改革と教育の普及（昭和戦後期～現在及び今後） 【key words】 教育使節団、日本国憲法、教育基本法、学習指導要領、中央教育審議会、臨時教育審議会

	【授業概要】 戦後、教育法制、学校制度等の改革、第三の教育改革といった教育改革が進められる中で、教師像はどのように変遷してきたかについて考察する。 【教科書ページ・参考文献】 240p～256p　　参考文献：秋田喜代美・佐藤　学編著「新しい時代の教職入門」有斐閣アルマ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 戦後の教育改革の流れとその中における教師像の変化についてとらえる。次回に向けて教科書176p～187pを読み、道徳教育の変化について考えてみる。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間程度 第１３回　教育の今日的課題（1）ー道徳教育の充実（「特別の教科 道徳」の概要と要請の背景について考察） 【key words】 道徳教育、「特別の教科　道徳」 【授業概要】 教育の今日的課題の一つである道徳教育、特に「特別の教科　道徳」について、中教審答申及び学習指導要領（一部改正）を基に、その概要とそれが要請された背景について考察する。 【教科書ページ・参考文献】 176p～187p　　配付資料：平成26年中教審答申、平成27年「学習指導要領解説　道徳編」等（抜粋） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 学校の全教育活動を通じて行う道徳教育と「特別の教科　道徳」の目標、内容の概要を理解した上で、なぜそれが教育の今日的課題なのかについて考える。次回に向けて小学校の外国語教育に関する資料を探してみる。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間程度 第１４回　教育の今日的課題（2）ー小学校の外国語教育（これまでの成果と課題、目標の改善、概要等について考察） 【key words】 コミュニケーション能力 【授業概要】 学習指導要領改訂の中で大きな変化の一つである小学校における外国語教育について取り上げ、これまでの成果と課題、目標の改善等について理解し、今後の方向性について考察する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書に該当ページ無し　配付資料：平成28年12月中教審答申、平成29年3月改訂学習指導要領、同年７月初等教育資料（抜粋） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 小学校における外国語教育が改訂されたポイントと理由について考える。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間程度 第１５回　教育の今日的課題（3）ーチーム学校運営への対応（「チームとしての学校」の在り方について考察） 【key words】 学校組織マネジメント 【授業概要】 学校は、校長のリーダーシップの下、カリキュラム、日々の教育活動、学校の教育資源が一体的にマネジメントされ、教職員のほか多様な人材が専門性を生かし、能力を発揮して、子どもたちに必要な資質能力を確実に身に付けさせることができる「チームとしての学校」になることが求められていることを理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書に該当ページ無し　　配付資料：文科省「チーム学校運営の推進等に関する法律案概要」「チームとしての学校の在り方（要約）」 【課題・予習・復習・授業準備指示】 学校を取り巻く環境の変化に伴って、学校運営の在り方にも変化が求められている。こうした中で、これからの教師はどうあるべきか、教職に就く心構えについて考える。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間程度
受講生に関わる情報および受講のルール	・教科書を必ず用意し、該当ページのポイントをしっかり理解するように努めること。 ・配付資料の予備は保管しませんので、出席者に取り置いてもらうかコピーをさせてもらうかしてください。 ・配付資料について積極的に読み取り、自分なりの考えを持つように努めること。 ・授業中に生じた疑問は、コメントカードで質問したり、自分でも調べたりすること。 ・授業中携帯電話､スマートフォンの電源は切り、しまっておくこと。（特別な事情がある場合は申し出ること） ・私語は慎むこと。授業中の飲食は禁止します。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	・新聞報道等の教師に関する記事などに関心を持ち、各回のテーマに即して問題意識を持って講義に臨むように努めること。毎回、次回の授業に該当する教科書のページを読み、予習しておくこと。
オフィスアワー	火曜　9時30分～10時10分　それ以外の時間帯については、アポイントを取って頂きたい。
評価方法	・筆記試験の成績の結果を主とする（90%） ・受講後の感想や質問の内容を加味する（10%）

教科書	佐藤　徹（編著）「教職論ー教職に就くための基礎・基本ー」東海大学出版　最新版
参考書	秋田喜代美・佐藤　学（編著）「新しい時代の教職入門」有斐閣アルマ　最新版
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 小・中学校教諭・校長及び教育行政官（指導主事、指導係長、学校教育課長、指導部長）として勤務した。この経験を活かし、教育学、教育社会学の理論を、学校現場等の実際の状況と関連付けて具体的に分かりやすく講ずる。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 福祉科教育法　　授業コード： S5071

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	4単位(60)	学校教育コース・選択
担当教員			
大竹　勤			
専門科目	演習		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 高等学校教科「福祉」の教育法について学び、いかに授業を構成していくべきかを考察し、模擬授業を通して、教育実習に向けた実践力を身につける。 【到達目標】 １．高校生が教科「福祉」を学ぶ意義を理解する。 ２．興味をもって学べるような授業を目指して、教科「福祉」の指導内容とその取扱いについて理解する。　　３．「福祉」を考える教員として必要な資質を育む。
授業の概要	「福祉科教育法」では、高校生に対し「福祉」についていかに理解させるかといった教育実践上の視点、留意点、その教育方法と教材の仕方に関して学ぶ科目である。しかしながら、自分自身も社会福祉の基礎知識を体系的に理解するのと同じような考え方が根底になければならない。この授業では、教科「福祉」の指導法を学ぶことの意義･役割について学ぶことを目的とするとともに、今日の社会福祉の動向を的確に把握し、何を生徒に伝えるべきかを考える授業とする。 １．福祉科教育の意義と福祉科教員の役割 ２．新学習指導要領に基づく教科「福祉」の指導内容とその取扱 ３．学習指導案の作成と模擬授業の実施

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	◎
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	○
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	○
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	○
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	○
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	オリエンテーション 自分のことを知ってもらう（プロフィール票の作成･提出） 【key words】 自分を知ってもらう 【授業概要】 授業計画について説明する　予習・復習について説明する　評価方法について説明する。 教員としても福祉援助者としても必要なコミュニケーション能力の第一歩である「自分のことを知ってもらう」ことについて考える。 【教科書ページ・参考文献】 資料配付 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業時に配付するプロフィール票の作成 自分を知ってもらうための印象に残る自己紹介を考える 【予習復習に必要な想定時間】 0.5時間
	第２回	障害者の理解、DVD 視聴（ 自閉症について）　（感想文を提出） 【key words】 自閉症 【授業概要】 社会福祉の援助の対象となる方への正しい理解は、福祉援助者としても、また援助者を養成する

		福祉科教員としても身につけるべき資質である。このことについて考察する。援助支援の対象となるハンディキャップを持った方への意識を映像を通して知る 専門職者としての役割をレポートにまとめる 【教科書ページ・参考文献】 資料配付 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自身の障害者観について考えてみる　自閉症という病気についてあらかじめ調べておく 【予習復習に必要な想定時間】 1.0時間
	第３回	対人援助技術の原則（コミュニケーション技術） 【key words】 ソーシャルワーカー　バイスティック 【授業概要】 場面にあわせた援助の原理原則についてバイスティックの７原則をもとに考察する 【教科書ページ・参考文献】 バイスティックの７原則に関する資料を配付する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 バイスティックについて事前に調べておくこと（予習）原理原則をまとめる（復習） ソーシャルワーカーとしての原理原則がボランティアや実習の場面でどのように役立つのかを実践の場で確認する 【予習復習に必要な想定時間】 1.0時間
	第４回	コミュニケーションスキルを磨く･演習とビデオ視聴（コミュニケーション技術） 【key words】 コミュニケーションスキル　ア行トーク　サイレントトーク 【授業概要】 援助のテクニック・スキル・マインドについて、演習及び映像を通して学ぶ 映像を見て、援助場面でどのように役立てられるかレポートにまとめる 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業中に行うア行トーク・サイレントトークを復習してみよう 【予習復習に必要な想定時間】 0.5時間
	第５回	伝達について（コミュニケーション技術） 【key words】 図形伝達　言語コミュニケーション　非言語コミュニケーション　コミュニケーション手段 【授業概要】 図形を言語コミュニケーションのみで伝達し、その難しさを体験する 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 話す側・聴く側の態度についても学ぶ 【予習復習に必要な想定時間】 0.5時間
	第６回	信頼関係を結ぶ面接技術とは 【key words】 面接技術　ラポール　信頼関係 【授業概要】 信頼関係を結ぶ面接技術について映像を通して学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 資料配付 【課題・予習・復習・授業準備指示】 普段の生活における自分の言動行動について考える 【予習復習に必要な想定時間】 0.5時間
	第７回	コンセンサス（合意）について（コミュニケーション技術） 【key words】 コンセンサス 【授業概要】 グループ演習を通して、コンセンサス（合意すること）の難しさと重要性について学ぶ 演習を通して学んだことをレポートにまとめる 【教科書ページ・参考文献】 演習（ゲーム）の資料を配付する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 他者の意見もしっかりと聴けるような習慣を身につける 【予習復習に必要な想定時間】 0.5時間
	第８回	部活動指導のあり方　DVD 視聴

【key words】
課外活動
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備】
家族についてあらためて考えてみよう
【授業概要】
映像を見て家族について考える

【教科書ページ・参考文献】
資料配付
【課題・予習・復習・授業準備指示】
部活指導のあり方について考えてみよう
【予習復習に必要な想定時間】
1.0時間

第９回　人の一生と社会福祉 家族援助事例検討
【key words】
相談援助　社会福祉　児童福祉　老人福祉　障害者福祉　生活保護

【授業概要】
事例をもとに援助の実際について学ぶ

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
身近でおきている問題について考えてみよう
福祉サービスの利用方法について調べる
【予習復習に必要な想定時間】
1.0時間

第１０回　社会福祉制度（身近な問題から）
【key words】
相談援助　社会福祉　児童福祉　老人福祉　障害者福祉　生活保護

【授業概要】
事例をもとに援助の実際について学び、わが国の社会福祉制度について学ぶ

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
身近でおきている問題について考えてみよう
福祉サービスの利用方法について調べる
【予習復習に必要な想定時間】
1.0時間

第１１回　正しい敬語の使い方（教師としての正しい言葉使い）
【key words】
尊敬語　謙譲語　丁寧語　若者用語

【授業概要】
教師として身につけるべき必要な敬語の使い方について学ぶ

【教科書ページ・参考文献】
資料配付

【課題・予習・復習・授業準備指示】
日常会話の中で間違った敬語を使用していないか考えてみよう
【予習復習に必要な想定時間】
0.5時間

第１２回　学習指導要領（福祉）　教科「福祉」９科目の指導内容
【key words】
福祉教育　福祉体験学習　総合的な学習の時間

【授業概要】
福祉教育の意義と必要性について学習指導要領をもとに考える

【教科書ページ・参考文献】
資料配付

【課題・予習・復習・授業準備指示】
自分が小中高で経験した福祉体験学習についてまとめてみよう
【予習復習に必要な想定時間】
1.0時間

第１３回　学習指導要領（課外活動）　部活動指導の現状
【key words】
部活動　体罰問題　課外活動
【授業概要】
課外活動の意義と必要性について学習指導要領をもとに考える
【教科書ページ・参考文献】
資料配付

【課題・予習・復習・授業準備指示】
自分が小中高で経験した課外活動についてまとめてみよう
【予習復習に必要な想定時間】

0.5時間
第１４回　学習指導要領（道徳教育）　人種問題・障害者問題 等
【key words】
道徳教育　福祉教育　総合的な学習の時間

【授業概要】
道徳教育の意義と必要性について学習指導要領をもとに考える

【教科書ページ・参考文献】
資料配付

【課題・予習・復習・授業準備指示】
自分が小中高で経験した道徳教育についてまとめてみよう
【予習復習に必要な想定時間】
0.5時間
第１５回　福祉科教育法(教科書・学習ノート・参考図書)注文
【key words】
社会福祉基礎　模擬授業　学習指導案

【授業概要】
高校福祉教科書「社会福祉基礎」をもとに、模擬授業について考える

【教科書ページ・参考文献】
資料配付

【課題・予習・復習・授業準備指示】
模擬授業で担当する単元を決定する
【予習復習に必要な想定時間】
1.0時間
第１６回　ストレスの理論　メンタルヘルスにおけるストレス理論の重要性
【key words】
ストレス　メンタルヘルス　ストレス理論の歴史と現状
【授業概要】
ストレス理論の歴史と現状について学び、メンタルヘルスにおけるストレス理論の重要性について学ぶ。放送大学が提供している映像をもとに講義を進める
【教科書ページ・参考文献】
今日のメンタルヘルス「第06回 ストレスの理論」
https://v.ouj.ac.jp/view/ouj/#/navi/player?co=10235&ct=V&ca=1169
【課題・予習・復習・授業準備指示】
身近なストレスについて事前に考えておく
【予習復習に必要な想定時間】
1.0時間
第１７回　模擬授業について　指導案の書き方、担当決め等
【key words】
社会福祉基礎　模擬授業　学習指導案

【授業概要】
高校福祉教科書「社会福祉基礎」をもとに、担当する単元を決定し、模擬授業の指導案を作成してみる
【教科書ページ・参考文献】
資料配付

【課題・予習・復習・授業準備指示】
必要な資料収集の方法について考える
【予習復習に必要な想定時間】
1.5時間
第１８回　伝達について（コミュニケーション技術）学習指導案と模擬授業評価項目の提示
【key words】
伝達　社会福祉基礎　模擬授業　めやす　導入　展開　まとめ
【授業概要】
正しく伝達することの難しさを演習を通して学ぶ　学習指導案と模擬授業評価項目の提示
【教科書ページ・参考文献】
資料配付

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
2.0時間
第１９回　家族について考える　ＤＶＤ（エンディングノート視聴）
【key words】
エンディングノート　終末医療　終末介護　家族　社会保障
【授業概要】
ＤＶＤを視聴し家族とは何かを考える
【教科書ページ・参考文献】
資料配付

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
2.0時間

第２０回　ミニ模擬授業② テーマを選択してのミニ模擬授業
【key words】
模擬授業　めやす　導入　展開　まとめ　板書　パワーポイント

【授業概要】
学生による模擬授業　授業後に他の学生からの意見を聞く

【教科書ページ・参考文献】
資料配付

【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業準備
【予習復習に必要な想定時間】
2.0時間

第２１回　ミニ模擬授業② テーマを選択してのミニ模擬授業
【key words】
模擬授業　めやす　導入　展開　まとめ　板書　パワーポイント

【授業概要】
学生による模擬授業　授業後に他の学生からの意見を聞く

【教科書ページ・参考文献】
資料配付

【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業準備
【予習復習に必要な想定時間】
2.0時間

第２２回　模擬授業① 少子化時代の子ども子育て支援
【key words】
社会福祉基礎　模擬授業　めやす　導入　展開　まとめ

【授業概要】
学生による模擬授業　授業後に他の学生からの意見を聞く

【教科書ページ・参考文献】
資料配付

【課題・予習・復習・授業準備指示】
学習指導案提出（全受講生）
【予習復習に必要な想定時間】
2.0時間

第２３回　模擬授業② 子育て支援と保育
【key words】
社会福祉基礎　模擬授業　めやす　導入　展開　まとめ

【授業概要】
学生による模擬授業　授業後に他の学生からの意見を聞く

【教科書ページ・参考文献】
資料配付

【課題・予習・復習・授業準備指示】
学習指導案提出（全受講生）
【予習復習に必要な想定時間】
2.0時間

第２４回　模擬授業③ 障害者福祉とは・身体障害者の現状と課題
【key words】
社会福祉基礎　模擬授業　めやす　導入　展開　まとめ

【授業概要】
学生による模擬授業　授業後に他の学生からの意見を聞く

【教科書ページ・参考文献】
資料配付

【課題・予習・復習・授業準備指示】
学習指導案提出（全受講生）
【予習復習に必要な想定時間】
2.0時間

第２５回　模擬授業④ 身体障害者福祉の推進・障害者の生活支援
【key words】
社会福祉基礎　模擬授業　めやす　導入　展開　まとめ

【授業概要】
学生による模擬授業　授業後に他の学生からの意見を聞く

【教科書ページ・参考文献】
資料配付

【課題・予習・復習・授業準備指示】
学習指導案提出（全受講生）

	【予習復習に必要な想定時間】 2.0時間 第２６回　模擬授業⑤ 知的障害者の現状と課題・知的障害者の在宅支援と施設の役割 【key words】 社会福祉基礎　模擬授業　めやす　導入　展開　まとめ 【授業概要】 学生による模擬授業　授業後に他の学生からの意見を聞く 【教科書ページ・参考文献】 資料配付 【課題・予習・復習・授業準備指示】 学習指導案提出（全受講生） 【予習復習に必要な想定時間】 2.0時間 第２７回　模擬授業⑥ 人口の高齢化と高齢者福祉・高齢者の健康保持と社会参加 【key words】 社会福祉基礎　模擬授業　めやす　導入　展開　まとめ 【授業概要】 学生による模擬授業　授業後に他の学生からの意見を聞く 【教科書ページ・参考文献】 資料配付 【課題・予習・復習・授業準備指示】 学習指導案提出（全受講生） 【予習復習に必要な想定時間】 2.0時間 第２８回　模擬授業⑦ 介護保険制度（１）介護保険制度（２） 【key words】 社会福祉基礎　模擬授業　めやす　導入　展開　まとめ 【授業概要】 学生による模擬授業　授業後に他の学生からの意見を聞く 【教科書ページ・参考文献】 資料配付 【課題・予習・復習・授業準備指示】 学習指導案提出（全受講生） 【予習復習に必要な想定時間】 2.0時間 第２９回　模擬授業⑧ 高齢者の在宅サービス（１）・高齢者の在宅サービス（２） 【key words】 社会福祉基礎　模擬授業　めやす　導入　展開　まとめ 【授業概要】 学生による模擬授業　授業後に他の学生からの意見を聞く 【教科書ページ・参考文献】 資料配付 【課題・予習・復習・授業準備指示】 学習指導案提出（全受講生） 【予習復習に必要な想定時間】 2.0時間 第３０回　まとめ 【key words】 大村はま 【授業概要】 教えるということについて考える 【教科書ページ・参考文献】 資料配付 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 0.5時間
受講生に関わる情報および受講のルール	「福祉科教育法」は、模擬授業を中心とした実践的な科目となる。高校福祉科の社会福祉に関する専門教科の科目ではなく、教科教育法に関する科目である以上、社会福祉の制度や歴史そのものを理解するというより、その理解のさせ方に関する教育実践上の視点、留意点、その教育方法に関して学ぶ科目であるが、社会福祉の基礎知識を体系的に理解するのと同じような考え方が根底になければならない。福祉科教育法履修の前後に相談援助演習･介護技術等の科目も併せて履修すること。 ※対面授業とオンライン授業の関係で、状況に応じて授業の順番を入れ替えるなどの変更があり得ます。
毎回の授業に関する	コメントカード

質問や学習の進捗状況の確認方法	
授業外時間にかかわる情報	コメントカードにはその日の授業を振り返り、まとめを記入すること。 模擬授業の際には、自分の担当ではない場合も学習指導案を毎回提出すること。
オフィスアワー	火曜日10時～12時
評価方法	提出レポート（ 50%）と学習指導案及び模擬授業（ 50%）により評価する。
教科書	社会福祉基礎（ 実教出版）　（購入方法について詳しくは授業中に説明する）。
参考書	介護福祉基礎（実教出版）、コミュニケーション技術（実教出版）、生活支援技術 （実教出版）、介護過程（実教出版）、こころとからだの理解（実教出版）、社会福祉基礎学習ノート（実教出版）、介護福祉基礎学習ノート（実教出版）
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 ■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 教育方法論　　授業コード： S5121

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	学校教育コース・必修
担当教員			
中津瀬　隆			
専門科目	講義		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 ・教育の方法を探求し、教育実践のよりよい在り方を探り、実習へとつなげる。 【到達目標】 ・教育方法についての学びを深め、教師としての実践に生かすことができるようになる。 ・教育方法に関する基礎的概念を習得することができる。
授業の概要	教育史の立場、一般教授学の立場、教科教育学の立場、教育社会学の立場、教育心理学の立場などの研究から得られた知見を交え、これまで培われてきた教育の実践と、その根底に流れている理論を学び、理論や実践の歴史を辿ることで、これから教育実践の現場で働こうとしている人たちにとって長期的な基軸となる知識･技能を形成し、磨き上げていく。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	◎
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	△
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	ガイダンス・教育方法の学とは 【key words】 教育、生活、科学 【授業概要】 自己紹介をする。授業の受け方・進め方、理解の深め方、評価の仕方、ついて説明する。 【教科書ページ・参考文献】 テキストpp.1-6 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「教育方法」とはどんなことか、自分なりに調べてみる。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第２回	西洋における教育思想と教育方法の歴史① 【key words】 コメニウス、ルソー、ペスタロッチ 【授業概要】 西洋に起こった近代教育思想は、教育の目的をどのようにとらえ、その実現のためにどんな理論や方法が考え出されてきたのか、主に教授学成立の観点から考える。 【教科書ページ・参考文献】 テキストpp.11-22 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業前に教科書の該当ページを読み、現時点で分からないことは何かを整理しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第３回	西洋における教育思想と教育方法の歴史② 【key words】 デューイ、ブルーム、ブルーナー 【授業概要】 西洋近代教育思想から、どんな理論や方法が考え出されてきたのか、主に教育学の体系化と授業

		の組織化、カリキュラム研究の観点から考える。 【教科書ページ・参考文献】 テキストpp.23-42 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業前に教科書の該当ページを読み、現時点で分からないことは何かを整理しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第４回	日本における教育方法の歴史 【key words】 ペスタロッチ主義、ヘルバルト主義、大正新教育運動、戦後教育改革 【授業概要】 日本における教育方法の歴史について、近代学校制度の成立から、大正新教育運動、戦後教育実践について考察する。 【教科書ページ・参考文献】 テキストpp.43-72 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業前に教科書の該当ページを読み、現時点で分からないことは何かを整理しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第５回	現代教育方法学の論点と課題 【key words】 学力、問題解決学習、たのしい授業 【授業概要】 第二次大戦後に提起された教育に関わる論争から、現在の教育方法学をめぐる諸課題について考える。 【教科書ページ・参考文献】 テキストpp.73-102 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業前に教科書の該当ページを読み、現時点で分からないことは何かを整理しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第６回	子どもは何を学ぶか 【key words】 教育目標、教科内容 【授業概要】 教育目標に関する基本的な考え方を理解し、目標の設定や内容の編成に必要な視点はどんなものであるのかを考える。 【教科書ページ・参考文献】 テキストpp.103-120 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業前に教科書の該当ページを読み、現時点で分からないことは何かを整理しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第７回	学習とは何か 【key words】 学習理論、プログラム学習、発見学習 【授業概要】 学習をめぐる理論を理解しつつ、その理論が反映された学習方法にはどんなものがあるのか、実践にどう活かすことができるのかを考える。 【教科書ページ・参考文献】 テキストpp.121-142 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業前に教科書の該当ページを読み、現時点で分からないことは何かを整理しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第８回	学力をどう高めるか 【key words】 できる学力、わかる学力 【授業概要】 子ども自身がこれまでに獲得した知識・概念から、いかに学力を形成していくことができるのか、どこの課題があるのかについて考える。 【教科書ページ・参考文献】 テキストpp.143-168 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業前に教科書の該当ページを読み、現時点で分からないことは何かを整理しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第９回	授業をどうデザインするか 【key words】 教材で教える、対話的・協同的な学び合い 【授業概要】 子どもとともに授業を作っていくという考えの上で、授業をどのようにデザインしていけばよいのか、ということについて考える。 【教科書ページ・参考文献】 テキストpp.169-200 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業前に教科書の該当ページを読み、現時点で分からないことは何かを整理しておく。 【予習復習に必要な想定時間】

90分
第１０回　教育の道具・素材・環境を考える
【key words】
メディア、環境

【授業概要】
「教材」という概念を捉えなおし、教科書の活用のあり方・学習環境としての時空間のあり方について改めて考えてみる。
【教科書ページ・参考文献】
テキストpp.201-222
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業前に教科書の該当ページを読み、現時点で分からないことは何かを整理しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
90分
第１１回　何をどう評価するか①
【key words】
目標に準拠した評価、形成的評価
【授業概要】
教育評価についての考え方・その進め方について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
テキストpp.223-233
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業前に教科書の該当ページを読み、現時点で分からないことは何かを整理しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
90分
第１２回　何をどう評価するか②
【key words】
パフォーマンス評価、ポートフォリオ評価

【授業概要】
「真正の評価」論に基づくパフォーマンス評価や、教育評価としての「実践記録」の可能性について考えてみる。
【教科書ページ・参考文献】
テキストpp.234-244
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業前に教科書の該当ページを読み、現時点で分からないことは何かを整理しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
90分
第１３回　教科外教育活動について
【key words】
特別活動、集団づくり
【授業概要】
教科外教育を構成する諸要素の特徴や課題から、今日的な役割を考える。
【教科書ページ・参考文献】
テキストpp.245-262
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業前に教科書の該当ページを読み、現時点で分からないことは何かを整理しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
90分
第１４回　どのような教師を目指すべきか
【key words】
技術的熟達者、反省的実践家

【授業概要】
優れた教師とはどのようなものであり、そのようになるためにはどんなことが必要なのかを考える。
【教科書ページ・参考文献】
テキストpp.263-282
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業前に教科書の該当ページを読み、現時点で分からないことは何かを整理しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
90分
第１５回　まとめ
【key words】
技術的熟達者、反省的実践家

【授業概要】
これまで学んだ事柄を整理しながら、望ましい教育方法とはどんなものであるのかを考える。
【教科書ページ・参考文献】
テキストpp.283-285
【課題・予習・復習・授業準備指示】

	授業前に教科書の該当ページを読み、現時点で分からないことは何かを整理しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
受講生に関わる情報および受講のルール	・意欲的な学習態度であること。 ・教師としての在り方について、常に意識しながら学習を進めていくこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	webポータル経由でのリアクションペーパー
授業外時間にかかわる情報	教育をとりまく社会状況、現場状況、教育改革等に関する情報の事象をとらえ、それを分析・考察し討論することによって客観的に検証・考察する。
オフィスアワー	金曜・第2時限
評価方法	期末レポート(60%)、小レポート(30%)、各回終了時に記入するリアクションペーパー(10%)で総合的に判断する。
教科書	田中耕治・鶴田清司　新しい時代の教育方法　有斐閣
参考書	授業の中で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 （平成21年4月～平成25年12月）国立市役所子ども家庭部子育て支援課（現 児童青少年課児童･青少年係）嘱託員[非常勤] （平成26年4月～平成29年3月）公益財団法人 荒川区自治総合研究所　研究員 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 ■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 教育実習事前事後指導（中・高）　　授業コード： S5141

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	-	学校教育コース・選択
担当教員			
江原　京子			
専門科目	演習		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 　教育実習の事前事後に関する指導を通して、その意義・目的、課題、内容等を十分に理解し、教育実習が有意義で効 果的なものとなることを目的とする。 [到達目標] １　学習指導・生徒指導および教育実習生としての心得などを身につける。 ２　学習指導案を作成し、模擬授業の実践を行い、振り返りとして授業研究に取り組むことができる。 ３　生徒理解に努めることができる。
授業の概要	１　３年次に行われる教育実習に向けて、その意義と目的について学びながら、実習生としての心構えを体得する。 ２　中学校や高等学校への授業参観を通して実際の教育現場を知ることで、本実習に向けての意識を高める。 ３　学習指導案の作成を行い、模擬授業の実践を行うことにより本実習の授業実践に備える。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	△
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション（授業概要、評価方法等の説明）　教職への招待・ガイダンス　大学の事前指導で何を学ぶか 【key words】 教職とは、教育実習、教員免許状取得 【授業概要】 【授業にあたり】 １　中学校もしくは高等学校への授業参観は、新年度に参観校と日程調整を行うため、提示した回での実施とならない場合がある。 ２　先輩学生の研究授業の参観も同様である。 ３　模擬授業の順番は、前期中の授業内で決定する　※１～３、いずれの場合も変更した内容を提示する。 　教職への招待･ガイダンスを通して、教職に就くために必要とされるものは何かについて学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 ・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』 ・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・教職への招待･ガイダンスを通して、教職に就くために必要とされるものは何か、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出する。プレゼンテーション用の資料の作成を行う。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第２回	教職に就くにあたり：教師を目指した理由－プレゼンテーション－ 【key words】 中学校/高等学校時代を振り返る、教師を目指した理由

【授業概要】

教職に就くにあたり、教師を目指した理由を中学校もしくは高等学校時代を振り返りながらプレゼンテーションを行う。
【教科書ページ・参考文献】
プレゼンテーション用にまとめておいた冊子
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・プレゼンテーションした内容を聞いて、意見・感想等をミニミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』P.1を確認しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第３回　教育実習の意義と目的

【key words】
教育実習の意義と目的、必要とされる資質・能力
【授業概要】
教育実習の意義と目的、必要とされる資質・能力について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』pp.1～2
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教育実習の意義と目的、必要とされる資質・能力について、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。教育実習生としての心構えとはどのようなことか、事前に考えてくること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第４回　教育実習の課題と実習生としての心構え

【key words】
教育実習の課題、実習生としての心構え
【授業概要】
教育実習の課題、実習生としての心構えについて学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』pp.9～10
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・教育実習の課題、実習生としての心構えについて、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
・観察実習について、事前に調べておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第５回　観察実習の目的とその重要性

【key words】
教師の指導法、教師と生徒及び生徒間、学習適応
【授業概要】

「見ること」によって「学ぶ」観察実習の目的とその重要性を学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』P.15～
・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・観察実習の目的とその重要性について、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
・学習指導案について調べてくること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第６回　学習指導案とは何か

【key words】
授業の設計図、確かな学びの保障
【授業概要】
生徒の確かな学びを保障する、授業づくりの指針となる学習指導案とは何かについて学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』P15～
・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・学習指導案とは何かについて、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
予習：学習指導案の単元観、生徒観について調べておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第７回　学習指導案の作成にあたり　①　単元観、生徒観

【key words】
単元観、生徒観
【授業概要】
学習指導案の作成にあたり、単元観、生徒観について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』
・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房
【課題・予習・復習・授業準備指示】
学習指導案の作成にあたり、単元観、生徒観について、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』P17～学習指導案を確認しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

	第８回	学習指導案の作成にあたり　②　授業のねらい、導入、展開、まとめ 【key words】 授業のねらい、導入、展開、まとめ 【授業概要】 授業のねらいをつかみ、前回学んだ単元観、生徒観を踏まえ、導入、展開、まとめの流れに沿った学習指導案について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 ・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』 ・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業のねらいをつかみ、前回学んだ単元観、生徒観を踏まえ、導入、展開、まとめの流れに沿った学習指導案について、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第９回	中学校授業参観（朝の会、社会科、意見交換会） 【key words】 授業構成、生徒指導、教師の指導技術 【授業概要】 中学校の授業参観（朝の会、社会科の授業等）を通して、学校現場における教育活動の実際を知る。 【教科書ページ・参考文献】 ・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』 ・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房・観察実習記録 【課題・予習・復習・授業準備指示】 中学校の授業参観（朝の会、社会科の授業等）を通して、学校現場における教育活動の在り方について、意見･感想をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第１０回	中学校授業参観の検討会　（朝の会、社会科、意見交換会） 【key words】 授業構成、生徒指導、教師の指導技術 【授業概要】 前回、実施した中学校の授業参観（朝の会、社会科の授業等）の意見・感想を踏まえ、実習に向けた深い学びへと繋げる。 【教科書ページ・参考文献】 ・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』 ・学生の感想・意見をまとめた観察記録 【課題・予習・復習・授業準備指示】 中学校の授業参観（朝の会、社会科の授業等）を通して、学校現場における教育活動の在り方について、意見交換を行った内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第１１回	先輩学生による研究授業の視聴 【key words】 授業実習、各教科、学習指導案 【授業概要】 先輩学生の研究授業（中学校:社会科／高等学校:公民科･福祉科）を視聴し、授業実習の実際を知る。 【教科書ページ・参考文献】 ・先輩学生の研究授業指導案 ・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房 【課題・予習・復習・授業準備指示】 先輩学生の研究授業（中学校（社会科）／高等学校（公民科･福祉科）視聴をし、意見・感想をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第１２回	先輩学生による研究授業の振り返り、意見交換会 【key words】 授業実習、各教科、学習指導案 【授業概要】 前回、視聴した先輩学生の研究授業（中学校:社会科／高等学校：公民科･福祉科）について意見交換を行い、授業実習に向けた深い学びへ繋げる。 【教科書ページ・参考文献】 ・先輩学生の研究授業指導案 ・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房 【課題・予習・復習・授業準備指示】 先輩学生の研究授業について、自分の意見と共通、あるいは思ってもいなかった意見･感想について、ミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。板書とは何かについて調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第１３回	板書とは 【key words】 文字の大小、内容、記述、チョークの使い方 【授業概要】 板書とは何かについて学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料：板書とは何か、板書の要件 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・板書とは何か、板書の要件等について、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 ・発問について調べてくること。

【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第１４回　発問とは

【key words】
発問と質問、指導言、子供の思考･認識過程
【授業概要】
発問とは何か、発問と質問の違いに言及し、子供の思考に働きかける発問の重要性について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料：発問とは
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・発問と何か、発問の重要性について、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
・評価規準について調べてくること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第１５回　評価規準について

【key words】
到達目標、評価の観点、学力観
【授業概要】
評価規準について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料：評価規準について
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・評価規準とは何か、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
・前期の授業で学んだことを復習し、後期から実施する模擬授業に備えておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第１６回　模擬授業の実践　①　中学校（地理、歴史、公民分野）もしくは高等学校（公民、福祉）の模擬授業を行う

【key words】
学習指導案（導入、展開、まとめ）の作成、生徒指導･理解
【授業概要】
【受講にあたり】
・後期の授業は模擬授業の実践と授業研究を行う。授業者は、予め、模擬授業を行う単元を決め、学習指導案（提示した形）を作成し、教科書、資料等のコピーを期日までに提出する。
･学習指導案に沿って模擬授業が行えるように準備をしておくこと。
･授業日の前週に模擬授業の単元が授業者から提示されるため、どの回のタイトルも模擬授業の実践と明記しておくことを了承願いたい。KJ法を活用した授業研究も同様である。
・中学校（地理、歴史、公民分野）もしくは高等学校（公民、福祉）の模擬授業の実践を行う。
【教科書ページ・参考文献】
・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房
・模擬授業実践者の学習指導案、教科書のコピー、ワークシート等
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・模擬授業観察記録、模擬授業の感想等をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
・次回の授業者は、指導案、板書計画、プリント等のコピーを期日までに提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第１７回　模擬授業の実践　②　中学校（地理、歴史、公民分野）もしくは高等学校（公民、福祉）の模擬授業を行う

【key words】
学習指導案（導入、展開、まとめ）の作成、生徒指導･理解
【授業概要】
－模擬授業の実践を通して来年度実施される教育実習に備える－
授業者は、予め、模擬授業を行う単元の学習指導案、ワークシートやパネルの作成、板書計画等を用意し、模擬授業を実践する。
【教科書ページ・参考文献】
・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房
・模擬授業実践者の学習指導案、教科書のコピー、ワークシート等
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・模擬授業観察記録、模擬授業の感想等をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
・次回の授業者は、指導案、板書計画、プリント等のコピーを期日までに提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第１８回　授業研究　(1)　①、②の模擬授業の振り返り；KJ法を活用した授業検討会を実施する

【key words】
KJ法を利用した授業分析、指導技術、生徒への働きかけ
【授業概要】
－KJ法で模擬授業の実践の振り返りを行う－
模擬授業の実践　①、②をKJ法を利用して授業分析を行い、模擬授業の質の向上を図る。
授業内容、教師の指導技術、心構え、生徒への働きかけ等を分析する。
【教科書ページ・参考文献】
・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房
・模擬授業実践者の学習指導案、教科書のコピー、ワークシート等
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・模擬授業者はKJ法を図にまとめて提出、観察者はKJ法を実施した意見･感想を提出すること。
・次回の授業者は、指導案、板書計画、プリント等のコピーを期日までに提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第１９回　模擬授業の実践　③　中学校（地理、歴史、公民分野）もしくは高等学校（公民、福祉）の模擬授業を行う

【key words】

		学習指導案（導入、展開、まとめ）の作成、生徒指導･理解 【授業概要】 －模擬授業の実践を通して来年度実施される教育実習に備える－ 授業者は、予め、模擬授業を行う単元の学習指導案、ワークシートやパネルの作成、板書計画等を用意し、模擬授業を実践する。 【教科書ページ・参考文献】 ・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房 ・授業実践者の学習指導案、教科書のコピー、ワークシート等 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・模擬授業観察記録、模擬授業の感想等をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 ・次回の授業者は、指導案、板書計画、プリント等のコピーを期日までに提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第２０回	模擬授業の実践　　④　中学校（地理、歴史、公民分野）もしくは高等学校（公民、福祉）の模擬授業を行う 【key words】 学習指導案（導入、展開、まとめ）の作成、生徒指導･理解 【授業概要】 －模擬授業の実践を通して来年度実施される教育実習に備える－ 授業者は、予め、模擬授業を行う単元の学習指導案、ワークシートやパネルの作成、板書計画等を用意し、模擬授業を実践する。 【教科書ページ・参考文献】 ・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房 ・模擬授業実践者の学習指導案、教科書のコピー、ワークシート等 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・模擬授業観察記録、模擬授業の感想等をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 ・次回の授業者は、指導案、板書計画、プリント等のコピーを期日までに提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第２１回	授業研究　(2)　　③、④の模擬授業の振り返り；KJ法を活用した授業検討会を実施する 【key words】 KJ法を利用した授業分析、指導技術、生徒への働きかけ 【授業概要】 －KJ法で模擬授業の実践の振り返りを行う－ 模擬授業の実践　③、④をKJ法を利用して授業分析を行い、模擬授業の質の向上を図る。 授業内容、教師の指導技術、心構え、生徒への働きかけ等を分析する。 【教科書ページ・参考文献】 ・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房 ・模擬授業実践者の学習指導案、教科書のコピー、ワークシート等 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・模擬授業者はKJ法を図にまとめて提出、観察者はKJ法を実施した意見･感想を提出すること。 ・次回の授業者は、指導案、板書計画、プリント等のコピーを期日までに提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第２２回	模擬授業の実践　　⑤　中学校（地理、歴史、公民分野）もしくは高等学校（公民、福祉）の模擬授業を行う 【key words】 学習指導案（導入、展開、まとめ）の作成、生徒指導･理解 【授業概要】 －模擬授業の実践を通して来年度実施される教育実習に備える－ 授業者は、予め、模擬授業を行う単元の学習指導案、ワークシートやパネルの作成、板書計画等を用意し、模擬授業を実践する。 【教科書ページ・参考文献】 ・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房 ・模擬授業実践者の学習指導案、教科書のコピー、ワークシート等 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・模擬授業観察記録、模擬授業の感想等をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 ・次回の授業者は、指導案、板書計画、プリント等のコピーを期日までに提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第２３回	模擬授業の実践　⑥　中学校（地理、歴史、公民分野）もしくは高等学校（公民、福祉）の模擬授業を行う 【key words】 学習指導案（導入、展開、まとめ）の作成、生徒指導･理解 【授業概要】 －模擬授業の実践を通して来年度実施される教育実習に備える－ 授業者は、予め、模擬授業を行う単元の学習指導案、ワークシートやパネルの作成、板書計画等を用意し、模擬授業を実践する。 【教科書ページ・参考文献】 ・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房 ・模擬授業実践者の学習指導案、教科書のコピー、ワークシート等 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・模擬授業観察記録、模擬授業の感想等をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 ・次回の授業者は、指導案、板書計画、プリント等のコピーを期日までに提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第２４回	授業研究　(3)　　⑤、⑥の模擬授業の振り返り；KJ法を活用した授業検討会を実施する 【key words】 KJ法を利用した授業分析、指導技術、生徒への働きかけ 【授業概要】 －KJ法で模擬授業の実践の振り返りを行う－ 模擬授業の実践　⑤、⑥をKJ法を利用して授業分析を行い、模擬授業の質の向上を図る。 授業内容、教師の指導技術、心構え、生徒への働きかけ等を分析する。

		【教科書ページ・参考文献】 ・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房 ・模擬授業実践者の学習指導案、教科書のコピー、ワークシート等 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・模擬授業者はKJ法を図にまとめて提出、観察者はKJ法を実施した意見･感想を提出すること。 ・次回の授業者は、指導案、板書計画、プリント等のコピーを期日までに提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第２５回	模擬授業の実践　⑦　中学校（地理、歴史、公民分野）もしくは高等学校（公民、福祉）の模擬授業を行う 【key words】 学習指導案（導入、展開、まとめ）の作成、生徒指導･理解 【授業概要】 －模擬授業の実践を通して来年度実施される教育実習に備える－ 授業者は、予め、模擬授業を行う単元の学習指導案、ワークシートやパネルの作成、板書計画等を用意し、模擬授業を実践する。 【教科書ページ・参考文献】 ・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房 ・模擬授業実践者の学習指導案、教科書のコピー、ワークシート等 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・模擬授業観察記録、模擬授業の感想等をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 ・次回の授業者は、指導案、板書計画、プリント等のコピーを期日までに提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第２６回	模擬授業の実践　⑧　中学校（地理、歴史、公民分野）もしくは高等学校（公民、福祉）の模擬授業を行う 【key words】 学習指導案（導入、展開、まとめ）の作成、生徒指導･理解 【授業概要】 －模擬授業の実践を通して来年度実施される教育実習に備える－ 授業者は、予め、模擬授業を行う単元の学習指導案、ワークシートやパネルの作成、板書計画等を用意し、模擬授業を実践する。 【教科書ページ・参考文献】 ・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房 ・模擬授業実践者の学習指導案、教科書のコピー、ワークシート等 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・模擬授業観察記録、模擬授業の感想等をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 ・次回の授業者は、指導案、板書計画、プリント等のコピーを期日までに提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第２７回	授業研究　(4)　　⑦、⑧の模擬授業の振り返り；KJ法を活用した授業検討会を実施する 【key words】 KJ法を利用した授業分析、指導技術、生徒への働きかけ 【授業概要】 －KJ法で模擬授業の実践の振り返りを行う－ 模擬授業の実践　⑦、⑧をKJ法を利用して授業分析を行い、模擬授業の質の向上を図る。 授業内容、教師の指導技術、心構え、生徒への働きかけ等を分析する。 【教科書ページ・参考文献】 ・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房 ・模擬授業実践者の学習指導案、教科書のコピー、ワークシート等 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・模擬授業者はKJ法を図にまとめて提出、観察者はKJ法を実施した意見･感想を提出すること。 ・次回の授業者は、指導案、板書計画、プリント等のコピーを期日までに提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第２８回	模擬授業の実践　⑨　中学校（地理、歴史、公民分野）もしくは高等学校（公民、福祉）の模擬授業を行う 【key words】 学習指導案（導入、展開、まとめ）の作成、生徒指導･理解 【授業概要】 －模擬授業の実践を通して来年度実施される教育実習に備える－ 授業者は、予め、模擬授業を行う単元の学習指導案、ワークシートやパネルの作成、板書計画等を用意し、模擬授業を実践する。 【教科書ページ・参考文献】 ・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房 ・模擬授業実践者の学習指導案、教科書のコピー、ワークシート等 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・模擬授業観察記録、模擬授業の感想等をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 ・次回の授業者は、指導案、板書計画、プリント等のコピーを期日までに提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第２９回	模擬授業の実践　⑩　中学校（地理、歴史、公民分野）もしくは高等学校（公民、福祉）の模擬授業を行う 【key words】 学習指導案（導入、展開、まとめ）の作成、生徒指導･理解 【授業概要】 －模擬授業の実践を通して来年度実施される教育実習に備える－ 授業者は、予め、模擬授業を行う単元の学習指導案、ワークシートやパネルの作成、板書計画等を用意し、模擬授業を実践する。 【教科書ページ・参考文献】 ・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』 ・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房 【課題・予習・復習・授業準備指示】

	・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房 ・模擬授業実践者の学習指導案、教科書のコピー、ワークシート等 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第３０回　授業研究　(5)　⑨、⑩の模擬授業の振り返り；KJ法を活用した授業検討会を実施する。まとめ:本実習に向けて 【key words】 KJ法を利用した授業分析、指導技術、生徒への働きかけ 【授業概要】 －KJ法で模擬授業の実践の振り返りを行う－ 模擬授業の実践　⑨、⑩をKJ法を利用して授業分析を行い、模擬授業の質の向上を図る。 授業内容、教師の指導技術、心構え、生徒への働きかけ等を分析する。 教育実習に向けてまとめを行う。 【教科書ページ・参考文献】 ・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房 ・模擬授業実践者の学習指導案、教科書のコピー、ワークシート等 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・模擬授業者はKJ法を図にまとめて提出、観察者はKJ法を実施した意見･感想を提出すること。 ・次年度に実施する教育実習に向けてまとめを行っておくこと。後期試験に向けて準備を行う。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
受講生に関わる情報および受講のルール	１　本講義は３年次に行われる教育実習の本実習と同様に位置づけられており、遅刻・欠席は事前に必ず届け出るこ と。欠席や遅刻の多い学生（３回の欠席で実習を認めない）や授業態度の悪い学生は、教育実習の中止も有り得るた め、熱心な受講態度を求める。 ２　教育実習の本実習に向けて、指導案を作成し模擬授業に積極的に取り組み、授業構成や教材研究、生徒理解を熱 心に学習すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード、ミニミニレポート
授業外時間にかかわる情報	１　模擬授業を行う者は授業日の前週までに指導案、教科書のコピー等を提出すること。模擬授業を受けた学生は、観 察記録・意見・感想を次回の授業日までに提出すること。ＫＪ法のまとめは授業者が行い、次回の授業日までに提出 すること。 ２　授業の要約もしくは課題をミニミニレポートとシャトルカードにまとめ、指定した日時までに提出すること。ミニ ミニレポートをまとめる際、語句の意味や内容を専門書等で調べ詳細にまとめること。
オフィスアワー	水曜日　16時～17時30分　それ以外の時間帯については、要相談・要予約
評価方法	授業中に課したミニミニレポートの内容（30%）、模擬授業の実践（３0%）、試験またはレポート（40%）を総合して評価する。
教科書	１　『教育実習へのガイドブック』、群馬医療福祉大学 ２　文部科学省　『中学校学習指導要領（平成29年告示）/高等学校学習指導要領(平成30年告示)』、東山書房 ３　文部科学省　『中学校学習指導要領（平成29年告示）特別の教科　道徳編』、文京出版
参考書	講義の中で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 中学校教諭として勤務経験をもつ教員が、教育実習の本実習に向けて、授業運営方法、指導案の作成、生徒理解を踏まえた模擬授業の実践を指導する。実際の教育現場において、教師として相応しい資質･能力の向上を目指す指導を行う。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援

	□その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 日本史Ⅰ　　授業コード： S5201

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位(30)	選択
担当教員			
後藤　雅彦			
基礎教養科目	講義		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 各時代の特色を覚え直すのではなく、歴史的特色や意義を探っていく。 【到達目標】 （1）日本史の基本的な内容を身に付ける。 （2）時代の流れをつかみ直し、見方考え方を深める。
授業の概要	日本史の原始から近世までを扱う。各時代の流れを「ストーリー」でつかみ、映像資料と共に歴史的内容を多面的に考えていく。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回	日本のあけぼの(１) 【key words】 新人、磨製石器 【授業概要】 「ストーリー」で歴史の流れをつかむと共に、「稲作が伝わったことで、社会はどのように変わっていったのか」調べたことを話し合う。 【教科書ページ・参考文献】 P13～P23 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習として、教科書の指定頁を2回読む。復習として、同頁を2回読み、「人類の誕生と日本列島」を解く。 【予習復習に必要な想定時間】 各１時間
	第２回	日本のあけぼの(２) 【key words】 縄文文化、弥生文化 【授業概要】 映像資料から「イネ」を扱い、その歴史的意義について話し合う。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習として「縄文文化と弥生文化」を解く。 【予習復習に必要な想定時間】 各１時間
	第３回	大和王権の成立(１) 【key words】 邪馬台国、ヤマト政権 【授業概要】 「ストーリー」で歴史の流れをつかむと共に、「古墳について」調べたことを話し合う。 【教科書ページ・参考文献】 P24～P37 【課題・予習・復習・授業準備指示】

		予習として、教科書の指定頁を2回読む。復習として、同頁を2回読み、「国々の誕生とヤマト政権」を解く。 【予習復習に必要な想定時間】 各１時間
	第４回	大和王権の成立(２) 【key words】 古墳 【授業概要】 映像資料から「古墳」を扱い、その歴史的意義について話し合う。 【教科書ページ・参考文献】 p24～p37 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習として「ヤマト政権と東アジア」を解く。 【予習復習に必要な想定時間】 各１時間
	第５回	古代国家の形成(１) 【key words】 冠位十二階、法隆寺 【授業概要】 「ストーリー」で歴史の流れをつかむと共に、「聖徳太子はどのような国家をつくろうとしたのか」調べたことを話し合う。 【教科書ページ・参考文献】 P38～P52 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習として、教科書の指定頁を2回読む。復習として、同頁を2回読み、「推古朝の政治と飛鳥文化」を解く。 【予習復習に必要な想定時間】 各１時間
	第６回	古代国家の形成(２) 【key words】 聖徳太子 【授業概要】 映像資料から「聖徳太子」を扱い、その歴史的意義について話し合う。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習として「大化の改新と白鳳文化」を解く。 【予習復習に必要な想定時間】 各１時間
	第７回	律令国家の成立(１) 【key words】 大宝律令、平城京 【授業概要】 「ストーリー」で歴史の流れをつかむと共に、「奈良の都について」調べたことを話し合う。 【教科書ページ・参考文献】 P52～P60 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習として、教科書の指定頁を2回読む。復習として、同頁を2回読み、「律令制度の成立、平城京の時代」を解く。 【予習復習に必要な想定時間】 各１時間
	第８回	古代国家の成立(２) 【key words】 大仏 【授業概要】 映像資料から「大仏」を扱い、その歴史的意義について話し合う。 【教科書ページ・参考文献】 復習として「遣唐使の活躍と天平文化」を解く。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題　教科書P167～P224を熟読し、「ストーリー」800字にまとめる。(A4表面１枚　10.5 MS明朝体)　第11回授業開始時に、紙に印刷したものを提出する。 【予習復習に必要な想定時間】 各１時間
	第９回	律令国家の変質 【key words】 桓武天皇、摂関政治 【授業概要】 「ストーリー」で歴史の流れをつかむと共に、「天皇の政治がどのように変わっていったのか」調べたことを話し合う。 【教科書ページ・参考文献】 P61～P82 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習として、教科書の指定頁を2回読む。復習として、同頁を2回読み、「平安遷都と弘仁・貞観文化、摂関政治と藤原氏の繁栄」を解く。 【予習復習に必要な想定時間】 各１時間
	第１０回	武家社会の形成 【key words】 保元・平治の乱、平清盛 【授業概要】

	「ストーリー」で歴史の流れをつかむと共に、「どのようにして武士の政治に変わっていったのか」調べたことを話し合う。 【教科書ページ・参考文献】 P86～P92 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習として、教科書の指定頁を2回読む。復習として、同頁を2回読み、「武士の台頭、院政と保元・平治の乱」を解く。 【予習復習に必要な想定時間】 各１時間
	第１１回　武家社会の成立(１) 【key words】 守護・地頭、御恩・奉公 【授業概要】 「ストーリー」で歴史の流れをつかむと共に、「鎌倉幕府について」調べたことを話し合う。 【教科書ページ・参考文献】 P92～P112 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習として、教科書の指定頁を2回読む。復習として、同頁を2回読み、「源平の争乱と鎌倉幕府の成立」を解く。 【予習復習に必要な想定時間】 各１時間
	第１２回　武家社会の成立(２) 【key words】 鎌倉幕府 【授業概要】 映像資料から「鎌倉」を扱い、その歴史的意義について話し合う。 【教科書ページ・参考文献】 復習として「執権政治の成立と武士の動き」を解く。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題　教科書P228～P265を熟読し、「ストーリー」800字にまとめる。(A4表面１枚　10.5 MS明朝体)　第15回授業開始時に、紙に印刷したものを提出する。 【予習復習に必要な想定時間】 各１時間
	第１３回　武家社会の転換 【key words】 蒙古襲来、建武の新政 【授業概要】 「ストーリー」で歴史の流れをつかむと共に、「武士の政治がどのように変わっていったのか」調べたことを話し合う。 【教科書ページ・参考文献】 p113～p131 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習として、教科書の指定頁を2回読む。復習として、同頁を2回読み、「蒙古襲来と幕府の衰退、建武の新政と南北朝の動乱」を解く。 【予習復習に必要な想定時間】 各１時間
	第１４回　織豊政権の誕生(１) 【key words】 織豊政権 【授業概要】 「ストーリー」で歴史の流れをつかむと共に、「織田信長について」調べたことを話し合う。 【教科書ページ・参考文献】 P132～P167 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習として、教科書の指定頁を2回読む。復習として、同頁を2回読み、「惣村の発展と応仁の乱、下剋上と戦国大名の誕生」を解く。 【予習復習に必要な想定時間】 各１時間
	第１５回　織豊政権の誕生(２) 【key words】 織田信長 【授業概要】 映像資料から「戦国の戦い」を扱い、その歴史的意義について話し合う。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習として「ヨーロッパ人の来航と織田信長、豊臣秀吉の全国統一」を解く。 【予習復習に必要な想定時間】 各１時間
受講生に関わる情報および受講のルール	各自ノートパソコンを準備する。(注意　授業中にパソコン本体から電源を取ることは原則しない。このため、自宅で前日に充電を済ませておく。専用ソフトケースに入れて持参する。)
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	復習シート
授業外時間にかかわる情報	歴史への自らの見方や考え方をより深めるため、進んでドキュメント番組、映画、新聞等にふれる機会や体験を積んでください。
オフィスアワー	火曜日の午後
評価方法	授業や演習への参加態度(30%)、課題への取組内容(30%)、レポート提出(40%)を総合して評価する。

教科書	『新　もういちど読む　山川日本史』五味文彦・鳥海靖編　山川出版社　ISBN 978-4-634-59090-8　1,600円＋税
参考書	『大学で学ぶ日本の歴史』木村茂光・小山俊樹・戸部良一・深谷幸治　吉川弘文館　ISBN978-4-642-00831-0　1,900円＋税
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 新潟県/市公立中学校28年勤務 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 日本史Ⅱ　　授業コード： S5205

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	選択
担当教員			
後藤　雅彦			
基礎教養科目	講義		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 ヨーロッパから広がる戦争の歴史に、どう影響されて今日に至ったのかを探っていく。 【到達目標】 （1）日本史の基本的な内容を身に付ける。 （2）ヨーロッパの世界が強まっていく世界史の流れを踏まえた見方考え方ができる。
授業の概要	近代の戦史を中心に扱う。「資料」と「映像」で追い、その歴史的意義や教訓を見出していく。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回	明治維新(１) 【key words】 【授業概要】 「明治維新」のいきさつをつかんだ上で、「当時の日本と朝鮮との関係について」調べる。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習として、前期で使用した教科書の関連個所を読み、「日本の開国と幕末の動乱、明治維新」を解く。 【予習復習に必要な想定時間】 各１時間
	第２回	明治維新(２) 【key words】 【授業概要】 「当時の日本と朝鮮との関係について」調べたことを、画像と共に発表、検討していく。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習として「富国強兵と文明開化、政府の外交と国境の画定」を解く。 【予習復習に必要な想定時間】 各１時間
	第３回	自由民権運動 【key words】 【授業概要】 「自由民権運動」のいきさつをつかんだ上で、「脱亜論について」調べたことを話し合う。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習として、前期で使用した教科書の関連個所を読み、「自由民権運動と立憲体制の樹立」を解く。

【予習復習に必要な想定時間】
各１時間

第４回　日清戦争(１)
【key words】

【授業概要】
「日清戦争」のいきさつをつかんだ上で、「日清戦争の結果やその後の影響について」調べる。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習として、前期で使用した教科書の関連個所を読み、「条約改正・日清戦争」を解く。
【予習復習に必要な想定時間】
各１時間

第５回　日清戦争(２)
【key words】

【授業概要】
「日清戦争の結果やその後の影響について」調べたことを、画像と共に発表、検討していく。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習として「帝国主義と世界の分割①②」を解く。
【予習復習に必要な想定時間】
各１時間

第６回　日露戦争(１)
【key words】

【授業概要】
「日露戦争」のいきさつをつかんだ上で、「日清戦争と日露戦争を比較して、何が分かるか」調べる。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習として、前期で使用した教科書の関連個所を読み、「日露戦争」を解く。
【予習復習に必要な想定時間】
各１時間

第７回　日露戦争(２)
【key words】

【授業概要】
「日清戦争と日露戦争を比較して、何が分かるか」調べたことを、画像と共に発表、検討していく。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習として「産業革命の進展」を解く。
【予習復習に必要な想定時間】
各１時間

第８回　日露戦争(３)
【key words】

【授業概要】
映像資料から「日露戦争」を扱い、その歴史的意義を探る。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習として「労働運動と社会主義運動」を解く。
【予習復習に必要な想定時間】
各１時間

第９回　第一次世界大戦(１)
【key words】

【授業概要】
「第一次世界大戦」のいきさつをおさえた上で、その映像資料から「大戦中に何が変わっていったのか」を検討していく。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習として、前期で使用した教科書の関連個所を読み、「大正政変と大戦の勃発、日本の中国進出」を解く。
【予習復習に必要な想定時間】
各１時間

第１０回　第一次世界大戦(２)
【key words】

【授業概要】
映像資料から「第一次世界大戦」を扱い、「大戦を通して、何が変わっていったのか」検討していく。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習として、前期で使用した教科書の関連個所を読み、「ワシントン体制、大正デモクラシーと

	社会運動」を解く。※課題レポート　原爆について」（レポートの書式提出は授業の中で説明） 【予習復習に必要な想定時間】 各１時間 第１１回　大陸への膨張 【key words】 【授業概要】 「対立への膨張」のいきさつをつかんだ上で、「満州国について」調べたことを話し合う。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習として、前期で使用した教科書の関連個所を読み、「恐慌の時代、満州事変」を解く。 【予習復習に必要な想定時間】 各１時間 第１２回　第二次世界大戦（１） 【key words】 【授業概要】 「第二次世界大戦」のいきさつをつかんだ上で、その映像資料から「この戦争の教訓とは何か」を検討していく。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習として、前期で使用した教科書の関連個所を読み、「日中戦争と新体制運動、第二次世界大戦」を解く。 【予習復習に必要な想定時間】 各１時間 第１３回　第二次世界大戦（２） 【key words】 【授業概要】 映像資料から「第二次世界大戦」を扱い、「この戦争の教訓とは何か」を検討していく。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習として「太平洋戦争の勃発」を解く。 【予習復習に必要な想定時間】 各１時間 第１４回　第二次世界大戦（３） 【key words】 【授業概要】 映像資料から「原爆」を扱い、レポート課題と絡めて見方考え方がどのように変わったのか発表し、話し合う。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習として「戦争の終結」を解く。 【予習復習に必要な想定時間】 各１時間 第１５回　まとめ 【key words】 【授業概要】 前時の発表の続きと話し合いを行った上で、戦史を学んだ意義について振り返る。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習として、戦史を学んだ意義について、自分の歴史への見方考え方をより鍛えていくために何ができるのかをまとめてみる。 【予習復習に必要な想定時間】 各１時間
受講生に関わる情報および受講のルール	各自ノートパソコンを準備する。（注意　授業中にパソコン本体から電源を取ることは原則しない。このため、自宅で前日に充電を済ませておく。専用ソフトケースに入れて持参する。）
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	復習シート
授業外時間にかかわる情報	歴史への自らの見方や考え方をより深めるため、進んでドキュメント番組、映画、新聞等にふれる機会や体験を積んでください。
オフィスアワー	火曜日の午後
評価方法	授業や演習への参加態度(30%)、課題への取組内容(30%)、レポート提出(40%)を総合して評価する。
教科書	なし
参考書	『新　もういちど読む　山川日本史』五味文彦・鳥海靖編　山川出版社　ISBN 978-4-634-59090-8 1,600円＋税
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している

	具体的な実務経験の内容 新潟県/市公立中学校勤務28年 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 世界史　　授業コード： S5211

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位(30)	選択
担当教員			
後藤　雅彦			
基礎教養科目	講義		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 ヨーロッパを中心に世界史の流れを追い、近代社会へ与えた歴史的影響を探っていく。 【到達目標】 （1） 西洋史の基本的な内容を身に付ける。 （2） ヨーロッパ世界が影響を強めていくいきさつを理解する。
授業の概要	ヨーロッパを中心に、世界史の文明の起源～近代までを扱う。各時代の流れを「ストーリー」でつかみ、映像資料と共に歴史的内容を多面的に考えていく。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	イントロダクション 【key words】 【授業概要】 学校現場における世界史の扱いとその課題を知った上で、本講義のねらいや進め方について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 各１時間
	第２回	人類の出現・文明の誕生 【key words】 原生人類(ホモ・サピエンス)、狩猟・採集、農耕牧畜、定住生活 【授業概要】 「ストーリー」を作成し、歴史の流れをつかむと共に、興味をもった古代文明の画像を一つ紹介する。 【教科書ページ・参考文献】 p7～p12 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習として、教科書の指定した頁を2回読み、頁内全体をストーリーとして200字にまとめられるように準備する。実際にストーリーを作成するのは授業時に行う。復習として、「人類の誕生と文明の成立」を解く。 【予習復習に必要な想定時間】 各１時間
	第３回	四大文明－エジプト文明－ 【key words】 エジプト文明 【授業概要】 映像資料から「エジプト文明」を扱い、その歴史的意義や魅力について話し合う。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習として「メソポタミア文明とエジプト文明を解く。
【予習復習に必要な想定時間】
各１時間

第４回　ヨーロッパの歴史(１)－ヘレニズム世界の誕生－
【key words】
アレクサンドロス大王、ヘレニズム文化
【授業概要】
「ストーリー」を作成し、歴史の流れをつかむと共に、「ヘレニズム文化について」画像を一つ紹介する。

【教科書ページ・参考文献】
p17～p29
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習として、教科書の指定した頁を2回読み、頁内全体をストーリーとして200字にまとめられるように準備する。復習として、「オリエントの統一、アレクサンドロス大王とヘレニズム時代」を解く。
【予習復習に必要な想定時間】
各１時間

第５回　ヨーロッパの歴史(２)－ローマ帝国の出現－
【key words】
ローマ帝国、イエス、キリスト教
【授業概要】
「ストーリー」を作成し、歴史の流れをつかむと共に、「キリスト教の成立について」調べたことを話し合う。

【教科書ページ・参考文献】
p29～p35
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習として、教科書の指定した頁を2回読み、頁内全体をストーリーとして200字にまとめられるように準備する。復習として、「ローマによる地中海世界の統一、キリスト教の成立」を解く。
【予習復習に必要な想定時間】
各１時間

第６回　ローマ帝国－帝国繁栄の光と影－
【key words】
ポンペイの遺跡
【授業概要】
映像資料から「ローマ帝国」を扱い、その歴史的意義や魅力について話し合う。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習として「ローマ帝国の繁栄」を解く。
【予習復習に必要な想定時間】
各１時間

第７回　ヨーロッパの歴史(３)－ローマ帝国の分裂－
【key words】
ゲルマン人の大移動
【授業概要】
「ストーリー」を作成し、時代の流れをつかむと共に、「ゲルマン人の大移動について」調べたことを話し合う。

【教科書ページ・参考文献】
p104～p111
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習として、教科書の指定した頁を2回読む。復習として、「ゲルマン人の大移動とフランク王国、ビザンツ帝国と東ヨーロッパ世界を解く。※課題レポート　教科書P89～P103「中東の歴史」第10回に提出
【予習復習に必要な想定時間】
各１時間

第８回　ヨーロッパの歴史(４)－ローマ帝国の分裂－
【key words】
十字軍の遠征
【授業概要】
「ストーリー」を作成し、時代の流れをつかむと共に、「十字軍の遠征について」調べたことを話し合う。

【教科書ページ・参考文献】
p111～p124
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習として、教科書の指定した頁を2回読み、頁内全体をストーリーとして200字にまとめられるように準備する。復習として、「ローマ＝カトリック教会の発展、十字軍とその影響」を解く。
【予習復習に必要な想定時間】
各１時間

第９回　大航海時代の歴史(１)－ヨーロッパ世界の拡がり
【key words】
ルネサンス、大航海時代
【授業概要】
「ストーリー」を作成し、時代の流れをつかむと共に、興味をもった「ルネサンス」の画像を一つ紹介する。

【教科書ページ・参考文献】
p129～p140
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習として、教科書の指定した頁を2回読み、頁内全体をストーリーとして200字にまとめられるように準備する。実際にストーリーを作成するのは授業時に行う。復習として、「近世ヨーロッパの新しい動き」を解く。
【予習復習に必要な想定時間】
各１時間

第１０回　大航海時代の歴史（２）
【key words】
コロンブス
【授業概要】
映像資料から「大航海時代」を扱い、その歴史的意義や魅力について話し合う。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習として「ヨーロッパによる世界の一体化」を解く。
【予習復習に必要な想定時間】
各１時間

第１１回　大航海時代の歴史（３）－もう一つのルネサンス・宗教改革－
【key words】
宗教改革、ルター、プロテスタント
【授業概要】
「ストーリー」を作成し、時代の流れをつかむと共に、「宗教改革について」調べたことを話し合う。

【教科書ページ・参考文献】
p140～p158
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習として、教科書の指定した頁を2回読み準備する。復習として、「宗教改革」を解く。　※課題レポート　教科書P43～P50,P61～P88「中国の歴史」第14回に提出
【予習復習に必要な想定時間】
各１時間

第１２回　革命の歴史（１）－政治や社会における革命編－
【key words】
アメリカ独立革命
【授業概要】
ストーリー」を作成し、時代の流れをつかむと共に、「アメリカ独立革命」について調べたことを話し合う。
【教科書ページ・参考文献】
p162～p164
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習として、教科書の指定した頁を2回読み、頁内全体をストーリーとして200字にまとめられるように準備する。復習として、「イギリスの絶対王政、イギリス革命」を解く。
【予習復習に必要な想定時間】
各１時間

第１３回　革命の歴史（２）－政治や社会における革命編－
【key words】
アメリカ独立戦争、独立宣言
【授業概要】
「映像資料から「アメリカ独立革命」を扱い、その歴史的意義や魅力について話し合う。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習として「アメリカ独立革命」を解く。
【予習復習に必要な想定時間】
各１時間

第１４回　革命の歴史（３）－政治や社会における革命編－
【key words】
フランス革命
【授業概要】
「ストーリー」を作成し、時代の流れをつかむと共に、「フランス革命」について調べたことを話し合う。

【教科書ページ・参考文献】
p165～p173
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習として、教科書の指定した頁を2回読み、頁内全体をストーリーとして200字にまとめられるように準備する。実際にストーリーを作成するのは授業時に行う。復習として、「フランス革命Ⅰ・Ⅱ」を解く。
【予習復習に必要な想定時間】
各１時間

第１５回　革命の歴史（４）－経済における革命編－
【key words】
産業革命
【授業概要】
「ストーリー」を作成し、時代の流れをつかむと共に、「産業革命」について調べたことを話し合う。

【教科書ページ・参考文献】

	p173～p193 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習として、教科書の指定した頁を2回読み、頁内全体をストーリーとして200字にまとめられるように準備する。復習として、「イギリスの産業革命、ウィーン体制」を解く。 【予習復習に必要な想定時間】 各１時間
受講生に関わる情報および受講のルール	各自ノートパソコンを準備する。(注意　授業中にパソコン本体から電源を取ることは原則しない。このため、自宅で前日に充電を済ませておく。専用ソフトケースに入れて持参する。)
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	復習シート
授業外時間にかかわる情報	歴史への自らの見方や考え方をより深めるため、進んでドキュメント番組、映画、新聞等にふれる機会や体験を積んでください。
オフィスアワー	火曜日の午後
評価方法	授業やグループ協議への参加態度(30%)、課題への取組内容(30%)、レポート提出(40%)を総合して評価する。
教科書	『新　もういちど読む山川世界史』「世界の歴史」編集委員会　山川出版社　ISBN 978-4-634-64090-0　1,600円＋税
参考書	『大学で学ぶ西洋史［古代・中世］』服部良久、南川高志、山辺規子編著　ミネルヴァ書房　ISBN978-4-623-04592-1　2,800円＋税 『大学で学ぶ西洋史［近現代］』小山哲、上垣豊、山田史郎、杉本淑彦編著　ミネルヴァ書房　ISBN978-4-623-05938-6　2,800円＋税
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 新潟県/市公立中学校勤務28年 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 地理学　　授業コード： S5215

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	選択
担当教員			
後藤　雅彦			
基礎教養科目	講義及び演習		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 世界や日本の地理的な諸事象を互いに調べ、発表し、地理的魅力の一端を探っていく。 【到達目標】 （1）世界や日本の地理的な基礎教養を身に付ける。 （2）視聴覚教材から地理的魅力を探求する態度を養う。
授業の概要	地理的な諸事象を分担するプレゼンによって解き明かしていく。途中、紀行番組の視聴を織り交ぜ、地理的興味や関心を高めていく。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画

第１回　イントロダクション
【key words】
静態地誌、動態地誌、「中核方式」、主題学習、季節風、改革開放政策、経済特区、西部大開発
【授業概要】
本講義の進め方を説明し、合わせて学校現場における地理教育の現状を知る。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
東アジア(中国)の地誌①②
【予習復習に必要な想定時間】
各１時間

第２回　世界地理の基本（１）
【key words】
世界地図・自然環境・民族・生活文化・産業・環境問題
オンドル、セマウル運動、イスラーム、緑の革命
【授業概要】
世界地理の基本的理解のため、各自分担した「テーマ」(指定課題)を調べ、解説できるように準備する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
東アジア(朝鮮半島)の地誌、東南アジアの地誌①
【予習復習に必要な想定時間】
各１時間

第３回　世界地理の基本（２）
【key words】
世界地図・自然環境・民族・生活文化・産業・環境問題
ASEAN、輸出加工区、ヒンドゥー教、白い革命
【授業概要】
各自分担した「テーマ」(指定課題)を調べ、解説できるように準備する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
東南アジアの地誌②、南アジアの地誌
【予習復習に必要な想定時間】
各１時間

第４回　世界地理の基本（３）
【key words】
世界地図・自然環境・民族・生活文化・産業・環境問題　カナート、エルサレム、モノカルチャー経済、プランテーション
【授業概要】
「テーマ」(指定課題)を、内容要点を一人5分ずつで解説していく。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
中央・西アジアの地誌、アフリカの地誌
【予習復習に必要な想定時間】
各１時間

第５回　映像で知る世界地理（１）
【key words】
白夜
【授業概要】
紀行番組「グリーンランド」にかかる映像資料を視聴後、その地理的な特色や魅力について話し合う。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
句集として「白夜」について調べる。
【予習復習に必要な想定時間】
各１時間

第６回　世界の衣食住（１）
【key words】
世界の衣食住
北大西洋海流、混合農業、青いバナナ、ブレグジット
【授業概要】
世界の衣食住に関し、各自に基づくテーマで、その地理的特色についてプレゼンを準備する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
ヨーロッパの地誌①②
【予習復習に必要な想定時間】
各１時間

第７回　世界の衣食住（２）
【key words】
世界の衣食住
シベリア、ロシア正教、サラダボウル、適地適作
【授業概要】
世界の衣食住に関し、各自に基づくテーマで、その地理的特色についてプレゼンを準備する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
ロシアと周辺諸国の地誌、アングロアメリカの地誌①
【予習復習に必要な想定時間】
各１時間

第８回　世界の衣食住（３）
【key words】
世界の衣食住
スノーベルト、サンベルト、メスチーソ、銅鉱

【授業概要】
世界の衣食住に関し、各自に基づくテーマで、その地理的特色についてプレゼンを準備する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
アングロアメリカの地誌②、ラテンアメリカの地誌
【予習復習に必要な想定時間】
各１時間

第９回　世界の衣食住（４）
【key words】
世界の衣食住
アボリジニ、白豪主義
【授業概要】
各自に基づくテーマを、その地理的特色の内容要点を一人5分で発表していく。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
オセアニアの地誌
課題レポート　「世界の衣食住」（プレゼンの基となった調査内容）　提出書式は授業の中で説明する。提出期限　１月末
【予習復習に必要な想定時間】
各１時間

第１０回　映像で知る世界地理（２）
【key words】
アマゾン

	【授業概要】 紀行番組「アマゾン」にかかる映像資料を視聴後、その地理的な特色や魅力について話し合う。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習として「アマゾン」について調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 各１時間 第１１回　日本地理の基本(１) 【key words】 地方の地形・産業・気候・交通・観光・歴史 【授業概要】 日本地理の基本的理解のため、各自分担した「テーマ」(指定課題)を調べ、解説できるように準備する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 各１時間 第１２回　映像で知る日本地理(１) 【key words】 水俣病 【授業概要】 紀行番組「九州地方」にかかる映像資料を視聴後、その地理的な特色や魅力について話し合う。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習として「水俣病」について調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 各１時間 第１３回　日本地理の基本(２) 【key words】 地方の地形・産業・気候・交通・観光・歴史 【授業概要】 「各自分担した「テーマ」(指定課題)を調べ、解説できるように準備する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 各１時間 第１４回　映像で知る日本地理(２) 【key words】 東北地方の伝統文化 【授業概要】 紀行番組「東北地方」にかかる映像資料を視聴後、その地理的な特色や魅力について話し合う。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習として「東北地方の伝統文化」について調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 各１時間 第１５回　日本地理の基本(３) 【key words】 地方の地形・産業・気候・交通・観光・歴史 【授業概要】 「テーマ」(指定課題)を、内容要点を一人5分ずつで解説していく。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 各１時間
受講生に関わる情報および受講のルール	各自ノートパソコンを準備する。(注意　授業中にパソコン本体から電源を取ることは原則しない。このため、自宅で前日に充電を済ませておく。専用ソフトケースに入れて持参する。)
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	復習シート
授業外時間にかかわる情報	地理への自らの見方や考え方をより深めるため、進んでドキュメント番組、映画、新聞等にふれる機会や体験を積んでください。
オフィスアワー	火曜日の午後
評価方法	授業やグループ協議への参加態度(30%)、プレゼンへの取組内容(30%)、レポート提出(40%)を総合して評価する。
教科書	なし
参考書	『地理学基礎シリーズ３　地誌学概論(第２版)』矢ケ﨑典隆・加賀美雅弘・牛垣雄矢編著　朝倉書店　ISBN978-4-254-16820-4　3,400円＋税 『世界地誌シリーズ１　日本』菊池俊夫編　朝倉書店　ISBN978-4-254-16855-6　3,400円＋税

実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 新潟県/市公立中学校勤務28年 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 社会科教育法Ⅰ　　授業コード：S5221

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	4単位(60)	学校教育コース・選択
担当教員			
片山　哲也			
専門科目	演習		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	中学校社会科指導に必要な知識・技能を身に付けることを基本とする。 具体的な授業の到達目標は、 ①社会科学習指導要領の目標と内容について理解すること。 ②教材研究の方法を理解し、授業準備が出来る。 ③学習指導案の作成、（単元計画を含め細案を作る事が出来る） ④自作の指導案を使って模擬授業画出来る。 ⑤中学校社会科の実践的指導力を身に付けることができる。
授業の概要	中学校社会科の指導に必要な教師の理論面・実技面での基礎基本である学習指導要領及び解説の理解、三分野の基礎知識、板書の方法などを身に付ける。その上で生徒用の教科書を用い教材研究の仕方、学習指導案の作成、模擬授業、授業研究などを行う。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	△
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回　オリエンテーション 【key words】 到達目標 【授業概要】 授業概要】授業の到達目標と概要、教科の目標、評価の方法 授業のルール確認 教科書入手方法 【教科書ページ・参考文献】 中学校地理教科書 中学校歴史教科書 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する 【予習復習に必要な想定時間】 第２回　学習指導要領の概要　学習指導要領の概要 【key words】 板書計画、アクティブラーニング＝ALと記述 【授業概要】 授業概要】地理的分野・歴史的分野の目標と内容、次期学習指導要領の概要、 示範授業①を通じて授業展開例を示し、併せて板書計画を考えさせる。〃 地理的分野年間指導計画表１ 地理用語集作成１（アクティブラーニング＝ALと記述） 【教科書ページ・参考文献】 各自分担する年間計画・板書計画・示範授業に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備 【教科書ページ・参考文献】 中学校地理教科書 中学校歴史教科書

		【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する 【予習復習に必要な想定時間】 30分から1時間
	第３回	社会科指導の基礎基本１ 【key words】 年間指導計画 【授業概要】 【授業概要　】地理的分野の内容、 授業の展開方法、示範授業②を通じて授業展開例を示し、併せて板書計画を考えさせる。 指導事例の紹介 地理的分野年間指導計画表２　AL 地理用語集作成２　AL 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 各自分担する年間計画・板書計画・示範授業に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する 【予習復習に必要な想定時間】 30分から1時間
	第４回	社会科指導の基礎基本２ 【key words】 授業展開例 【授業概要】 授業概要】歴史的分野の内容、 授業の展開方法、示範授業③を通じて授業展開例を示し、併せて板書計画を考えさせる。 指導事例の紹介 地理的分野年間指導計画表３　AL 地理用語集作成３　AL 【教科書ページ・参考文献】 各自分担する年間計画・板書計画・示範授業に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する 【予習復習に必要な想定時間】 30分から1時間
	第５回	教材研究の方法1 【key words】 地図帳の利用 【授業概要】 授業概要】地理的分野、教科書、指導書、地図帳、参考書、地理用語辞典など 示範授業④を通じて授業展開例を示し、併せて板書計画を考えさせる。〃 地理的分野年間指導計画表４　AL 地理用語集作成４　AL 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 各自分担する年間計画・板書計画・示範授業に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する 【予習復習に必要な想定時間】 30分から1時間
	第６回	教材研究の方法２ 【key words】 【Key words】教授用ノート、板書ノート 【授業概要】 【授業概要】地理的分野、教授用ノートの作成、板書事項の作成方法、 示範授業⑤を通じて授業展開例を示し、併せて板書計画を考えさせる。〃 地理的分野年間指導計画表５　AL 地理用語集作成５　AL 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 各自分担する年間計画・板書計画・示範授業に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する 【予習復習に必要な想定時間】 30分から1時間
	第７回	教材研究の方法３ 【key words】 歴史授業に必要なエピソード 【授業概要】 【授業概要】歴史的分野、教科書、指導書、地図帳、参考書、歴史用語辞典など

		示範授業を⑥通じて授業展開例を示し、併せて板書計画を考えさせる。〞 歴史的分野年間指導計画表１　AL 歴史用語集作成１　A 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 各自分担する年間計画・板書計画・示範授業に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する 【予習復習に必要な想定時間】 30分から1時間
	第８回	教材研究の方法４ 【key words】 教授用ノートの作成、板書事項の作成方法 【授業概要】 【授業概要】歴史的分野、教授用ノートの作成、板書事項の作成方法 示範授業⑦を通じて授業展開例を示し、併せて板書計画を考えさせる。〞 歴史的分野年間指導計画表2　AL 歴史用語集作成２　AL 【Key words】 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 各自分担する年間計画・板書計画・示範授業に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する 【予習復習に必要な想定時間】 30分から1時間
	第９回	学習評価の方法 【key words】 【Key words】総合評価、個別評価、パフォーマンス、ポートフォリオ 【授業概要】 【授業概要】総合評価、個別評価、パフォーマンス、ポートフォリオの活用 示範授業⑧を通じて授業展開例を示し、併せて板書計画を考えさせる。 歴史的分野年間指導計画表３　AL 歴史用語集作成３　AL 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 各自分担する年間計画・板書計画・示範授業に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する 【予習復習に必要な想定時間】 30分から1時間
	第１０回	学習指導案と講義資料の作成方法 【key words】 【Key words】学習指導案と講義資料の作成 【授業概要】 【授業概要】導入・展開・まとめを基本として重点の把握に注意 示範授業⑨を通じて授業展開例を示し、学習宇指導案作成の基本的事項を学び、併せて板書計画を考えさせる。 歴史的分野年間指導計画表４　AL 歴史用語集作成４　AL 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 各自分担する年間計画・板書計画・示範授業に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する 【予習復習に必要な想定時間】 30分から1時間
	第１１回	授業法を学ぶための示範授業⑩ 【key words】 【Key words】世界の姿 【授業概要】 【授業概要】地理的分野「世界の様々な地域」を題材として授業法を学ぶ 歴史的分野年間指導計画表５　AL 歴史用語集作成５　AL 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 各自分担する年間計画・板書計画・示範授業に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する 【予習復習に必要な想定時間】 30分から1時間

	第１２回	授業法を学ぶための示範授業⑪ 【key words】 【Key words】世界の姿 【授業概要】 【授業概要】地理的分野「日本のあまざまな地域」を題材として授業法を学ぶ 授業担当者が板書計画を作成、他は重要語句の整理や補助教材を作成 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 各自分担する年間計画・板書計画・示範授業に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する 【予習復習に必要な想定時間】 30分から1時間
	第１３回	授業法を学ぶための示範授業⑫ 【key words】 板書計画を作成、他は重要語句の整理や補助教材 【授業概要】 【授業概要】歴史的分野「古代までの日本」「中世の日本」を題材として授業法を学ぶ 授業担当者が板書計画を作成、他は重要語句の整理や補助教材を作成 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 各自分担する年間計画・板書計画・示範授業に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する 【予習復習に必要な想定時間】 30分から1時間
	第１４回	授業法を学ぶための示範授業⑬ 【key words】 板書計画を作成、他は重要語句の整理や補助教材 【授業概要】 【授業概要】歴史的分野「近世の日本」「開国と近代日本の歩み」を題材として授業法を学ぶ 授業担当者が板書計画を作成、他は重要語句の整理や補助教材を作成 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 各自分担する年間計画・板書計画・示範授業に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する 【予習復習に必要な想定時間】 30分から1時間
	第１５回	授業法を学ぶための示範授業⑭ 【key words】 地理的分野、歴史的分野の示範授業から何を学ぶか 【授業概要】 【授業概要】授業研究会、地理的分野、歴史的分野の示範授業で学習したことをまとめる プレゼンテーションと討議 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 各自分担する年間計画・板書計画・示範授業に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する 【予習復習に必要な想定時間】 30分から1時間
	第１６回	後期授業計画オリエンテーション社会教師の基礎・基本 【key words】 東国文化副読本、地域学習の方法 【授業概要】 【授業概要】中学校社会科の指導を支える社会科学全般の知識を身に付ける方策を学ぶ 博物館、美術館などの活用や体験的学習、地域教材の扱い方やフィールドワークを学ぶ 東国文化副読本を使って、地域学習の方法を学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 各自分担する年間計画・板書計画・示範授業に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する 【予習復習に必要な想定時間】 30分から1時間
	第１７回	生徒の実態の把握方法 【key words】 授業中の生徒指導 授業中の生徒指導について

		【授業概要】 【授業概要】観察方法、学力調査、学習環境の整備、座席表の活用など C&S調査法（Q-U テスト）の活用 授業中の生徒指導について 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する 【予習復習に必要な想定時間】 30分から1時間
	第１８回	情報機器と教材の活用法 【key words】 G-Tac　の活用 【授業概要】 【授業概要】インターネット、新聞、雑誌、年表、地図 群馬県総合教育センター　G-Tac　の活用方法 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する 【予習復習に必要な想定時間】 30分から1時間
	第１９回	指導案作成① 【key words】 学習指導案作成 【授業概要】 【授業概要】地理的分野、歴史的分野を受講生が分担して学習指導案作成と事前検討会 役割分担（授業者、司会、研究員、指導講評） 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 各自分担する年間計画・板書計画・指導案作成に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する 【予習復習に必要な想定時間】 30分から1時間
	第２０回	指導案作成② 【key words】 学習指導案作成 【授業概要】 【授業概要】地理的分野、歴史的分野を受講生が分担して学習指導案作成と事前検討会 役割分担（授業者、司会、研究員、指導講評） 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 各自分担する年間計画・板書計画・指導案作成に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する 【予習復習に必要な想定時間】 30分から1時間
	第２１回	指導案作成③ 【key words】 学習指導案作成 【授業概要】 【授業概要】地理的分野、歴史的分野を受講生が分担して学習指導案作成と事前検討会 役割分担（授業者、司会、研究員、指導講評） 【教科書ページ・参考文献】 教科書ページ・参考文献】 各自分担する年間計画・板書計画・指導案作成に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する 【予習復習に必要な想定時間】 30分から1時間
	第２２回	模擬授業① 【key words】 学習指導案、模擬授業、事後検討会 【授業概要】 【授業概要】 地理的分野「世界のさまざまな地域」、を受講生が分担して各自作成した学習指導案で模擬授業、事後検討会 役割分担（授業者、司会、研究員、指導講評） 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 各自分担する年間計画・板書計画・指導案作成に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する 【予習復習に必要な想定時間】

		30分から1時間
	第２３回	模擬授業② 【key words】 学習指導案、模擬授業、事後検討会 【授業概要】 【授業概要】 地理的分野「日本のさまざまな地域」を受講生が分担して各自作成した学習指導案で模擬授業、事後検討会 役割分担（授業者、司会、研究員、指導講評） 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 各自分担する年間計画・板書計画・指導案作成に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する 【予習復習に必要な想定時間】 30分から1時間
	第２４回	模擬授業③ 【key words】 学習指導案、模擬授業、事後検討会 【授業概要】 授業概要】 歴史的分野「古代までの日本」「中世の日本」を受講生が分担して各自作成した学習指導案で模擬授業、事後検討会 役割分担（授業者、司会、研究員、指導講評） 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 各自分担する年間計画・板書計画・指導案作成に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する 【予習復習に必要な想定時間】 30分から1時間
	第２５回	模擬授業④ 【key words】 学習指導案、模擬授業、事後検討会 【授業概要】 授業概要】 歴史的分野「近世の日本」「開国と近代日本の歩み」を受講生が分担して各自作成した学習指導案で模擬授業、事後検討会 役割分担（授業者、司会、研究員、指導講評） 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 各自分担する年間計画・板書計画・指導案作成に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する 【予習復習に必要な想定時間】 30分から1時間
	第２６回	模擬授業⑤ 【key words】 学習指導案、模擬授業、事後検討会 【授業概要】 【授業概要】 歴史的分野「二度の世界大戦と日本」「現代の日本と世界」を受講生が分担して各自作成した学習指導案で模擬授業、事後検討会 役割分担（授業者、司会、研究員、指導講評） 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 各自分担する年間計画・板書計画・指導案作成に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する 【予習復習に必要な想定時間】 30分から1時間
	第２７回	模擬授業⑥ 【key words】 学習指導案、模擬授業、事後検討会 【授業概要】 【授業概要】 地理的分野「日本の様々な地域」を受講生が分担して各自作成した学習指導案で模擬授業、事後検討会 役割分担（授業者、司会、研究員、指導講評） 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 各自分担する年間計画・板書計画・指導案作成に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備 【課題・予習・復習・授業準備指示】

	授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する 【予習復習に必要な想定時間】 30分から1時間 第２８回　実践研究の方法、社会科教育の歴史 【key words】 実践研究事例紹介 【授業概要】 【授業概要】 社会科教育に関する学会の実践研究事例紹介、社会科教育論紹介、博物館学習紹介 昭和戦後の社会科の誕生、学習指導要領の変遷（１９４５年～１９７７年　１９７８年～現在） 教育関連法規（日本国憲法、教育基本法、学校教育法）等 【教科書ページ・参考文献】 教育関連法規（日本国憲法、教育基本法、学校教育法）等 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する 【予習復習に必要な想定時間】 30分から1時間 第２９回　学校教育の現状と課題 【key words】 アクティブラーニング 【授業概要】 【授業概要】アクティブラーニングによるジグソー、ディベート、シュミレーション、ロールプレイング、NIE いじめ、不登校、非行、貧困、虐待、働き方改革、ESD、コミニュケーションスクール 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 生徒指導提要　１章　（文部科学省） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する 【予習復習に必要な想定時間】 30分から1時間 第３０回　ふりかえりとまとめ 【key words】 ふりかえり 【授業概要】 【授業概要】１年間を振り返り、学生間で意見交流、 教育実習に行くにあたっての課題等学生間で意見交流 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕講義に関係する情報は、必要に応じて口頭で伝えるか印刷をして配布する。 〔受講のルール〕教育は厳格さと強制力を伴ってこそ身に付くものである。授業中の私語や居眠りなどが目立ち注意をしても改まらない場合は、退出を命ずる場合もある。スマホは必ず机上に置き、陰で使用しないこと。調べ学習に必要な場合があるので指示によっては活用する。また、遅刻・早退・欠席については必ず申し出ること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカードで確認しつつ、課題としたものは授業後に提出を求め、課題のフィードバックは提出された次の授業時に行い、疑問解決や優れた意見を共有することとする。
授業外時間にかかわる情報	教育に関係する必要な情報は、日頃から留意をして収集するように心掛けること。また、授業の中に参考となる書籍や雑誌の記事は必要に応じて紹介する。 地域学習も取り扱うことから、住居近くの文化財や歴史的遺産、博物館などについて調査研究を行うこと。（プレゼンもしくはレポートを求める）
オフィスアワー	質問や相談については、原則として授業の前後を活用する。なお、質問は内容により文書を作成して配布する。
評価方法	授業への取り組み態度（20%）、指導案と模擬授業（30%）、試験（50%）＝前期 授業への取り組み態度（20%）、指導案作成（30%）と模擬授業（30%）年間計画と板書例作成（20%）＝後期
教科書	１、中学校生徒用教科書　社会科　中学生の地理　　帝国書院 ２、中学校生徒用教科書　社会科　中学生の歴史　　帝国書院 ３、中学校地図帳　　帝国書院 ４　中学校学習指導要領解説　社会編　東洋出版　平成30年3月刊行 ５　国立教育政策研究所論文及び群馬県教育センター資料（担当教員が準備）
参考書	近藤裕幸著　「まずやってみる実践重視の中学校社会科教育法」梓出版社
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 小学校教諭１５年、中学校社会科教諭４年、小中学校管理職１０年、市教育委員会学校教育課長３年、県教育委員会青少年行政６年、市教育研究所長２年（嘱託）など実務経験に基づき、学生には教師としての基本的資質と指導力の育成に当たることを授業の重要課題とする。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク

	■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 ■その他 その他の具体的内容 社会科資料をインターネット、グーグルなどから引用、活用をし、実践的に使えること

講義科目名称： 社会科教育法Ⅱ　　授業コード： S5225

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	4単位(60)	学校教育コース・選択
担当教員			
時田　詠子			
専門科目	演習		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 中学校社会科公民的分野等の指導に必要な知識・技能を身に付けることを目的とする。 【到達目標】 ①「社会科学習指導要領公民的分野等の目標と内容」、「解説」について理解することができる。 ②教材研究の仕方、学習指導案の作成、マイクロ・ティーチング、模擬授業や授業研究会の実践を通して、 社会科の「実践的指導力の基礎」を身に付けることができる。
授業の概要	1　社会科（公民的分野等）を指導する教師の基礎基本について学ぶ。 2　実際の中学校生徒用の教科書を活用して、学習指導案の作成、模擬授業、授業研究等を行い、アクティブ・ラーニングを取り入れるなどして、「実践的な授業」について学ぶ。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	△
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	オリエンテーション、学習指導要領と解説の理解（教科の目標）、社会科学習ゲーム 【key words】 学習指導要領、３分野の概観、社会科学習ゲーム 【授業概要】 ①　本授業の意義とシラバスを理解する。特に、１コマごとのシラバスを確認し、30コマの授業概観と評価方法、予習や復習について知る。 ②　学習指導要領と解説を概観する。 ③　地理・歴史・公民領域の主な指導内容について知る。 ④　授業に生かせる学習ゲーム（世界人口ベストテン、似ている国旗）について知り実践する。 【教科書ページ・参考文献】 ①教科書『新版新しい社会公民』東書、『社会科中学生の地理』帝国・『新しい社会歴史』東書、『中学校社会科地図』帝国、②『学習指導要領（社会編）』日文、③担当自作の配布資料をテキストとする。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】生徒用教科書３分野を概観して授業に臨む。 【復】学習指導要領の「教科の目標」を理解し、キーワードを暗記する。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第２回	社会科教師の基礎基本①、学習指導要領と解説の理解（地理的分野、生徒用地理教科書を用い指導事例を紹介する。） 【key words】 学習指導要領の目標・内容、学習指導要領解説、地図帳の指導 【授業概要】 ①　「学習指導要領」と「解説」の関係を理解するとともに、『生徒用地理的分野教科書』

		『地図帳』を用い地理的分野を概観する。今後、教科書の重要語句を中心にミニテストをすることを知る。 ②　『学習指導要領』の地理的分野の目標と内容を概観する。 ③　生徒用教科書掲載の世界・日本の略地図の書き方を知り、実際に練習する。 【教科書ページ・参考文献】 ①教科書『新版新しい社会公民』東書、『社会科中学生の地理』帝国・『新しい社会歴史』東書、『中学校社会科地図』帝国、②『学習指導要領（社会編）』日文、③担当自作の配布資料をテキストとする。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】配布された「教科書（地理的分野）「地図帳」を概観し授業に臨む。 【復】世界・日本の略地図が書けるよう、反復練習をしておく。 【予習復習に必要な想定時間】 90～120分
	第３回	社会科教師の基礎基本②、学習指導要領と解説の理解（歴史的分野、生徒用歴史教科書を用い指導事例を紹介する。） 【key words】 歴史的分野、年表の指導 【授業概要】 ①　「学習指導要領」と「解説」の関係を復習するとともに、『生徒用歴史教科書』を用い歴史的分野を概観する。 ②　『学習指導要領』の歴史的分野の目標を概観する。 ③　歴史教科書、折りこみ年表、資料を活用し、社会科教師として必要な知識、特に、主な年号、教科書ゴシック重要語句等を概観する。重要語句については、ミニテストをすることを知る。 【教科書ページ・参考文献】 ①教科書『新版新しい社会公民』東書、『社会科中学生の地理』帝国・『新しい社会歴史』東書、『中学校社会科地図』帝国、②放送大学「日本の古代中世（2017）」全15コマを前期までに視聴する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】『生徒用教科書（歴史的分野）』を読み、授業に臨む。 【復】必要な知識、年号、教科書ゴシック重要語句は理解し、暗記する。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第４回	社会科教師の基礎基本③、学習指導要領と解説の理解（公民的分野、生徒用公民教科書を用い指導事例を紹介する。） 【key words】 公民的分野、新聞等を活用した指導 【授業概要】 ①　「学習指導要領」と「解説」の公民的分野を概観する。 ②　公民教科書、歴史カルタ、新聞等を活用し、社会科教師として必要な知識を身に付ける。重要語句については、ミニテストをすることを知る。 ③　教員と学生が話し合い、年間の模擬授業実施計画（年間６回程度）を立案する。 【教科書ページ・参考文献】 ①教科書『新版新しい社会公民』東書、『社会科中学生の地理』帝国・『新しい社会歴史』東書、『中学校社会科地図』帝国、②『学習指導要領（社会編）』日文、③担当自作の配布資料をテキストとする。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】「生徒用教科書（公民的分野）」を読み、授業に臨む。 【復】パワーポイントによるプレゼンテーション「弥生文化と邪馬台国」の準備をしておく。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第５回	教材研究「弥生文化と邪馬台国①」、学習指導案略案の書き方 【key words】 教材づくり、略案の書き方 【授業概要】 ①　なぜ、学習指導案を作成するのか、その意義について理解する。 ②　学習指導案略案からどのように授業がつくられるのか、グループワークを行いながら理解する。 【教科書ページ・参考文献】 ①教科書『新版新しい社会公民』東書、『社会科中学生の地理』帝国・『新しい社会歴史、30～35頁』東書、『中学校社会科地図』帝国、②『学習指導要領（社会編）』日文。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】「弥生文化と邪馬台国」の授業について、教科書該当頁を熟読しておく。 【復】パワーポイントによるプレゼンテーション「弥生文化と邪馬台国」の準備をしておく。 【予習復習に必要な想定時間】 90～180分
	第６回	教材研究「弥生文化と邪馬台国②」、プレゼンテーション１（各自が調べたことを発表する。） 【key words】 教材研究、プレゼンテーション 【授業概要】 ①　教材研究の仕方：教科書熟読⇒学習指導要領及び解説の熟読⇒教科書会社解説の熟読⇒学習指導案関連の市販本の熟読⇒必要に応じて先輩等の学習指導案の参照等、流れについて理解する。 ②　指導するのに必要な教師としての知識について、全員が１つキーワードを選び、パワーポイントにてプレゼンテーションをする。効果的なスライド作成、伝わる説明についても学ぶ。 ③　放送大学「日本の古代中世（2017）」「第02回 日本列島の原始から古代へ」を視聴する。 https://v.ouj.ac.jp/view/ouj/#/navi/player?co=6858&ct=V&ca=806(2023/03/13最終閲覧) 【教科書ページ・参考文献】 ①教科書『新版新しい社会公民』東書、『社会科中学生の地理』帝国・『新しい社会歴史、30～35頁』東書、『中学校社会科地図』帝国、②『学習指導要領（社会編）』日文。 【課題・予習・復習・授業準備指示】

		【予】プレゼンテーションのスライド、印刷物を準備をして、授業に臨む。【復】放送大学「日本の古代中世」第02回 日本列島の原始から古代へ以外の回も視聴する。URLはその他の具体的内容に記載。 【予習復習に必要な想定時間】 90分～180分
	第７回	教材研究「弥生文化と邪馬台国」、授業準備、プレゼンテーション２（各自が調べたことを発表する。） 【key words】 教材研究、授業準備 【授業概要】 ①　模擬授業の授業者は、次週の授業の展開を説明する。 ②　指導するのに必要な教師としての知識について、全員がキーワードを選び、 パワーポイントにてプレゼンテーションをする。 【教科書ページ・参考文献】 ①教科書『新版新しい社会公民』東書、『社会科中学生の地理』帝国・『新しい社会歴史、30～35頁』東書、『中学校社会科地図』帝国、②『学習指導要領（社会編）』日文。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】プレゼンテーション担当者は準備をして、授業に臨む。 【復】「弥生文化…」の授業者は担当教員に学習指導案や模擬授業の指導を受ける。 【予習復習に必要な想定時間】 90～180分
	第８回	模擬授業①「弥生文化と邪馬台国」、授業研究会①（授業者は代表学生２名） 【key words】 模擬授業（歴史的分野）、授業研究会 【授業概要】 ①　模擬授業（50分間）、授業研究会（35分間）を実施する。授業研究会は現場の校内研修で行ってい るような流れで、学生が進行する。特に、学生は、授業のよい点・改善点を出し、教師は最後に補説・ 指導助言をする。 ②　省察のため、教師が模擬授業の写真、動画を撮影し、その場または事後line配信をする 【教科書ページ・参考文献】 ①教科書『新版新しい社会公民』東書、『社会科中学生の地理』帝国・『新しい社会歴史、30～35頁、』東書、『中学校社会科地図』帝国、②『学習指導要領（社会編）』日文。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】「弥生文化…」の模擬授業者はシミュレーション、指導案修正を重ね、授業に臨む。 【復】授業者・参観者ともに、授業を振り返り、次の模擬授業や教育実習に役立てる。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第９回	学習指導案細案の書き方①（生徒の実態、実態把握のためのアンケート、指導方針） 【key words】 学習指導案細案、生徒の実態、指導方針 【授業概要】 ①　略案と細案の違いを理解する。 ②　学習指導案細案「弥生文化と邪馬台国」の書き方（生徒の実態、教材観、 指導方針）について理解する。学生は予習での疑問点を発表しながら主体的に学習する。 ③　生徒の実態把握をするためのアンケート（レディネス・プリテスト等）の 作成方法について実物を見ながら、理解する。 ④　板書の仕方、ワークシート作成について、実物を見ながら理解する。 【教科書ページ・参考文献】 ①教科書『新版新しい社会公民』東書、『社会科中学生の地理』帝国・『新しい社会歴史、、30～35頁』東書、『中学校社会科地図』帝国、②『学習指導要領（社会編）』日文。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】配布された学習指導案細案を熟読し、疑問点をメモし、授業に臨む。 【復】指導方針がどのように決まるか、復習しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第１０回	学習指導案細案の書き方②（目標、指導計画、評価規準） 【key words】 学習指導案細案、目標、指導計画、評価規準 【授業概要】 ①　学習指導案細案「弥生文化と邪馬台国」の書き方（単元の目標と評価規準の関係、 指導計画、本時のねらいと展開内の評価項目と評価方法）について、実物を見ながら 理解する。 ②　評価項目と３観点1）知識及び技能、2）思考力・判断力・表現力等 、3）主体的に 学習に取り組む態度、評価方法の種類について知る。 ③　ミニテスト（歴史的分野）を行う。 【教科書ページ・参考文献】 ①教科書『新版新しい社会公民』東書、『社会科中学生の地理』帝国・『新しい社会歴史、、30～35頁』東書、『中学校社会科地図』帝国、②『学習指導要領（社会編）』日文。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】ミニテスト（歴史的分野）の準備を行い、授業に臨む。 【復】ミニテストの復習を行う。「ちがい…」授業者は、指導案や模擬授業の指導を受ける。 【予習復習に必要な想定時間】 90～120分
	第１１回	学習指導案事前検討会（公民的分野「ちがいのちがい」） 【key words】 模擬授業（公民的分野）、学習指導案事前検討会 【授業概要】 ①　学生が進行し学習指導案の検討会を行う。（授業者の説明→参観者の質問・ 意見→教員の指導助言）。予習での疑問点等を発表し、解決を図る。

		②　公民的分野の基本的な指導方法について理解する。 ③　学習指導案の基本的な書き方を復習する。 【教科書ページ・参考文献】 ①教科書『新版新しい社会公民、38～39頁』東書、『社会科中学生の地理』帝国・『新しい社会歴史』東書、『中学校社会科地図』帝国、②『学習指導要領（社会編）』日文、③担当自作の配布資料をテキストとする。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】事前配布された、学習指導案を熟読し、疑問点等をメモし、授業に臨む。 【復】学習指導案細案の主な項目とその書き方について復習しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 90～120分
	第１２回	模擬授業②（公民的分野「ちがいのちがい」）、授業研究会②　（授業者は代表学生２名） 【key words】 模擬授業（公民的分野）、授業研究会、省察 【授業概要】 ①　模擬授業（50分間）、授業研究会（35分間）を実施する。授業研究会は現場の校内研修で行ってい るような流れで、学生が進行する。特に、学生は、授業のよい点・改善点を出し、教師は最後に補説・ 指導助言をする。 ②　省察のため、教師が模擬授業の写真、動画を撮影し、その場または事後line配信をする。 【教科書ページ・参考文献】 ①教科書『新版新しい社会公民、38～39頁』東書、『社会科中学生の地理』帝国、『新しい社会歴史』東書、『中学校社会科地図』帝国、②『学習指導要領（社会編）』日文。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】「ちがい…」の授業者は、授業シミュレーション、指導案修正を重ね授業に臨む。 【復】授業者・参観者ともに、授業を振り返り、次の模擬授業や教育実習に役立てる。 【予習復習に必要な想定時間】 90～120分
	第１３回	社会科教師の基礎基本④「たくさんの知識を身に付けよう！」、地理的分野の必須な知識の習得、地図帳の指導例 【key words】 知識・技能の修得、地図帳の指導 【授業概要】 ①　『地理的分野の教科書』や『地図帳』を用い、指導に必要な知識・技能を身に付ける。特に、教科書や　地図帳内の二次元バーコードの使い方を知る。 ②　高等教育支援センターの備品（世界・日本大地図、地球儀、OHC）の活用方法を知る。 ③　学生自身が受けた「地図帳」の指導事例、教師が提示する指導事例について知る。 【教科書ページ・参考文献】 ①教科書『新版新しい社会公民』東書、『社会科中学生の地理』帝国・『新しい社会歴史』東書、『中学校社会科地図』帝国、②『学習指導要領（社会編）』日文、③担当自作の配布資料をテキストとする。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】地理的分野教科書のゴシック重要語句の理解、地図帳の指導例を確認して、授業に臨む。 【復】地理的分野教科書のゴシック重要語句は理解して、暗記する。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第１４回	社会科教師の基礎基本⑤「たくさんの知識を身に付けよう！」、歴史的分野の必須な知識の習得、歴史年表の扱い方 【key words】 知識・技能の修得、歴史年表 【授業概要】 ①　『歴史的分野の教科書』や年表を用い、指導に必要な知識・技能を身に付ける。特に、教科書や　地図帳内のQRコードの使い方を知る。 ②　板書練習を行う。 【教科書ページ・参考文献】 ①教科書『新版新しい社会公民』東書、『社会科中学生の地理』帝国・『新しい社会歴史』東書、『中学校社会科地図』帝国、②『学習指導要領（社会編）』日文、③担当自作の配布資料をテキストとする。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】生徒用歴史的分野教科書のゴシック重要語句は理解して、授業に臨む。 【復】生徒用歴史的分野教科書のゴシック重要語句は理解して、暗記する。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第１５回	社会科教師の基礎基本⑥「たくさんの知識を身に付けよう！」、公民的分野の必須な知識の習得、新聞・ニュースの扱い方、シャトルカード前期のまとめ欄への記入 【key words】 知識・技能の修得 【授業概要】 ①　公民的分野の教科書や新聞等を用い、指導に必要な知識・技能を身に付ける。特に、 NIE(Newspaper in Education＝「エヌ・アイ・イー」について知る。 ②　板書練習を行う。 ③　ミニテスト（公民的分野）を行う。 【教科書ページ・参考文献】 ①教科書『新版新しい社会公民』東書、『社会科中学生の地理』帝国・『新しい社会歴史』東書、『中学校社会科地図』帝国、②『学習指導要領（社会編）』日文、③担当自作の配布資料をテキストとする。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】公民的分野教科書のゴシック重要語句の理解、ミニテスト準備をして、授業に臨む。 【復】公民的分野教科書のゴシック重要語句は理解して、暗記する。 【予習復習に必要な想定時間】 90分

	第１６回	後期オリエンテーション、国旗ブックマーク作り 【key words】 後期オリエンテーション、世界の国旗 【授業概要】 ①　後期15コマの授業内容と評価方法、予習・復習について、１コマ毎のシラバスで確認し、理解する。 ②　予習で考えてきた社会科ゲームを発表しあったり、実施に行ったりして共有する。 ③　国旗のブックマークを作成する。（教員の準備：ラミネーター、ラミネートシート、リボン等） 【教科書ページ・参考文献】 ①教科書『新版新しい社会公民』東書、『社会科中学生の地理』帝国・『新しい社会歴史』東書、『中学校社会科地図』帝国、②『学習指導要領（社会編）』日文、③担当自作の配布資料をテキストとする。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】社会科ゲームを考え、授業に臨む。 【復】後期の模擬授業の学習指導案の作成に取り掛かる。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第１７回	学習指導案事前検討会（公民的分野「日本国憲法とは」） 【key words】 模擬授業（公民的分野）学習指導案事前検討会 【授業概要】 ①　学生が進行し学習指導案の検討会を行う。（授業者の説明→参観者の質問・意見→教員の指導助言） ②　公民的分野の基本的な指導方法について理解する。 ③　学習指導案の基本的な書き方を復習する。 【教科書ページ・参考文献】 ①教科書『新版新しい社会公民、42～43頁』東書、『社会科中学生の地理』帝国・『新しい社会歴史』東書、『中学校社会科地図』帝国、②『学習指導要領（社会編）』日文。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】「日本国憲法とは」の模擬授業者は、シミュレーションを重ね、指導案を修正し授業に臨む。 【復】「日本国憲法とは」の模擬授業者は、検討会でのアドバイスを受け、指導案を修正しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 90～120分
	第１８回	模擬授業③（公民的分野「日本国憲法とは」）、授業研究会③（授業者は代表学生２名） 【key words】 模擬授業、授業研究会、省察 【授業概要】 ①　模擬授業（50分間）、授業研究会（35分間）を実施する。授業研究会は現場の校内研修で行ってい るような流れで、学生が進行する。特に、学生は、授業のよい点・改善点を出し、教師は最後に補説・ 指導助言をする。 ②　省察のため、教師が模擬授業の写真、動画を撮影し、その場または事後line配信をする。 【教科書ページ・参考文献】 ①教科書『新版新しい社会公民』東書、『社会科中学生の地理』帝国・『新しい社会歴史』東書、『中学校社会科地図』帝国、②『学習指導要領（社会編）』日文、③担当自作の配布資料をテキストとする。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】「日本国憲法とは」の模擬授業者はシミュレーション、指導案修正を重ね授業に臨む。 【復】授業者・参観者ともに、授業を振り返り、次の模擬授業や教育実習に役立てる。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第１９回	教材研究（歴史的分野「江戸幕府の成立と支配のしくみ」プレゼンテーション１　各自が調べたことを発表する。） 【key words】 教材研究、プレゼンテーション 【授業概要】 ①　指導するのに必要な教師としての知識について、全員がキーワードを選び、パワーポイントにてプレゼンテーションをする。 ②　「江戸幕府の成立と支配のしくみ」の模擬授業者は、授業展開を説明する。 【教科書ページ・参考文献】 ①教科書『新版新しい社会公民』東書、『社会科中学生の地理』帝国・『新しい社会歴史、114～115頁』東書、『中学校社会科地図』帝国、②『学習指導要領（社会編）』日文。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】プレゼンテーション担当者は準備をして、授業に臨む。 【復】「江戸幕府の成立と支配のしくみ」の模擬授業者は、学習指導案を作成しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 90～180分
	第２０回	教材研究（歴史的分野「江戸幕府の成立と支配のしくみ」プレゼンテーション２　各自が調べたことを発表する。） 【key words】 教材研究、プレゼンテーション 【授業概要】 ①　指導するのに必要な教師としての知識について、全員がキーワードを選び、パワーポイントにてプレゼンテーションをする。 ②　「江戸幕府の成立と支配のしくみ」の模擬授業者は、学習指導案を配布し、説明する。 【教科書ページ・参考文献】 ①教科書『新版新しい社会公民』東書、『社会科中学生の地理』帝国・『新しい社会歴史、114～115頁』東書、『中学校社会科地図』帝国、②『学習指導要領（社会編）』日文。

【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予】プレゼンテーション担当者は準備をして、授業に臨む。
【復】「江戸幕府の成立と支配のしくみ」の模擬授業者は、教材研究を深めておく。
【予習復習に必要な想定時間】
90～120分

第２１回　学習指導案事前検討会（歴史的分野「江戸幕府の成立と支配のしくみ」）
【key words】
模擬授業（歴史的分野）、学習指導案細案検討
【授業概要】
①　学生が進行し学習指導案の検討会を行う。（授業者の説明→参観者の質問・意見→教員の指導助言）
②　公民的分野の基本的な指導方法について理解する。
③　学習指導案の基本的な書き方を復習する。
【教科書ページ・参考文献】
①教科書『新版新しい社会公民』東書、『社会科中学生の地理』帝国・『新しい社会歴史、114～115頁』東書、『中学校社会科地図』帝国、②『学習指導要領（社会編）』日文。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予】「江戸幕府…」の授業者は、シミュレーションを重ね、指導案を修正し授業に臨む。
【復】「江戸幕府…」の授業者は、検討会でのアドバイスを受け、指導案を修正しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第２２回　模擬授業④（歴史的分野「江戸幕府の成立と支配のしくみ」、授業研究会④（授業者は代表学生２名）
【key words】
模擬授業（歴史的分野）、授業研究会、省察
【授業概要】
①　模擬授業（50分間）、授業研究会（35分間）を実施する。授業研究会は現場の校内研修で行ってい
るような流れで、学生が進行する。特に、学生は、授業のよい点・改善点を出し、教師は最後に補説・
指導助言をする。
②　省察のため、教師が模擬授業の写真、動画を撮影し、その場または事後line配信をする。
【教科書ページ・参考文献】
①教科書『新版新しい社会公民』東書、『社会科中学生の地理』帝国・『新しい社会歴史、114～115頁』東書、『中学校社会科地図』帝国、②『学習指導要領（社会編）』日文。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予】「江戸幕府…」授業者はシミュレーション、指導案修正を重ね授業に臨む。
【復】授業者・参観者ともに、授業を振り返り、次の模擬授業や教育実習に役立てる。
【予習復習に必要な想定時間】
90～180分

第２３回　教材研究（地理的分野「川がつくる地形と海岸や海洋の特色」）プレゼンテーション　各自が調べたことを発表する。）
【key words】
学習指導案細案、学習指導要領・解説
【授業概要】
①　指導するのに必要な教師としての知識について、全員がキーワードを選び、
パワーポイントにてプレゼンテーションをする。
②　「世界と比べた日本の平野」の授業者は、授業展開を説明する。
【教科書ページ・参考文献】
①教科書『新版新しい社会公民』東書、『社会科中学生の地理、144～145頁』帝国・『新しい社会歴史』東書、『中学校社会科地図』帝国、②『学習指導要領（社会編）』日文。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予】プレゼンテーション担当者は準備をして、授業に臨む。
【復】「世界と比べた日本の平野」の授業者は、学習指導案を作成しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
90～180分

第２４回　学習指導案事前検討会（地理的分野「川がつくる地形と海岸や海洋の特色」）
【key words】
模擬授業（地理的分野）、学習指導案細案検討
【授業概要】
①　学生が進行し学習指導案の検討会を行う。（授業者の説明→参観者の質問・意見→
教員の指導助言）
②　地理的分野の基本的な指導方法について理解する。
③　学習指導案の基本的な書き方を復習する。
【教科書ページ・参考文献】
①教科書『新版新しい社会公民』東書、『社会科中学生の地理、144～145頁』帝国・『新しい社会歴史』東書、『中学校社会科地図』帝国、②『学習指導要領（社会編）』日文。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予】「川がつくる…」の授業者は、シミュレーションを重ね、指導案を修正し授業に臨む。
【復】「川がつくる…」の授業者は、検討会でのアドバイスを受け、指導案を修正しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
90～120分

第２５回　模擬授業⑤（地理的分野「川がつくる地形と海岸や海洋の特色」）、授業研究会⑤（授業者は代表学生２名）
【key words】
模擬授業（地理的分野）、授業研究会、省察
【授業概要】
①　模擬授業（50分間）、授業研究会（35分間）を実施する。授業研究会は現場の校内研修で行ってい
るような流れで、学生が進行する。特に、学生は、授業のよい点・改善点を出し、教師は最後に補説・
指導助言をする。
②　省察のため、教師が模擬授業の写真、動画を撮影し、その場または事後line配信をする。

【教科書ページ・参考文献】
①教科書『新版新しい社会公民』東書、『社会科中学生の地理』帝国・『新しい社会歴史』東書、『中学校社会科地図』帝国、②『学習指導要領（社会編）』日文、③担当自作の配布資料をテキストとする。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予】「川がつくる…」授業者は、シミュレーション、指導案修正を重ね授業に臨む。
【復】授業者・参観者ともに、授業を振り返り、次の模擬授業や教育実習に役立てる。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第２６回　社会科授業におけるＴＴ、社会科におけるノート指導とワークシート（各自のレポートを基に討論会を行う。）

【key words】
Ｔ・Ｔの意義、Ｔ・Ｔの学習指導案
【授業概要】
①　Ｔ・Ｔの意義、授業の仕方、学習指導案の作成について学生が作成した資料を
　用い、話し合う。
②　学生が司会・板書をしながら討論を進める。
【教科書ページ・参考文献】
①教科書『新版新しい社会公民』東書、『社会科中学生の地理』帝国・『新しい社会歴史』東書、『中学校社会科地図』帝国、②『学習指導要領（社会編）』日文、③担当自作の配布資料をテキストとする。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予】Ｔ・Ｔの意義、ノート指導とワークシートを使用した指導についてまとめ、授業に臨む。
【復】社会科授業でのＴ・Ｔの実践についてまとめておく。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第２７回　模擬授業⑥（自由選択）、授業研究会⑥（授業者は１名）

【key words】
選択した単元での重要事項
【授業概要】
①　模擬授業（50分間）、授業研究会（35分間）を実施する。授業研究会は現場の校内研修で行ってい
　るような流れで、学生が進行する。特に、学生は、授業のよい点・改善点を出し、教師は最後に補説・
　指導助言をする。
②　省察のため、教師が模擬授業の写真、動画を撮影し、その場または事後line配信をする。
【教科書ページ・参考文献】
①教科書『新版新しい社会公民』東書、『社会科中学生の地理』帝国・『新しい社会歴史』東書、『中学校社会科地図』帝国、②『学習指導要領（社会編）』日文、③担当自作の配布資料をテキストとする。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予】模擬授業者は、授業シミュレーション、指導案修正を重ね、授業に臨む。
【復】授業者・参観者ともに、授業を振り返り、次の模擬授業や教育実習に役立てる。
【予習復習に必要な想定時間】
90～180分

第２８回　教育実習に必要な社会科教師の知識について①（中学・高校教科書、教師用指導書、教採過去問より）

【key words】
知識の修得
【授業概要】
①　中学校・高校教科書、教師用指導書、学習指導要領・解説、教採過去問題集を用い、
　必要最低限の知識は必ず修得する。
②　教育実習で参考となる学習指導案集めをする。
【教科書ページ・参考文献】
①教科書『新版新しい社会公民』東書、『社会科中学生の地理』帝国・『新しい社会歴史』東書、『中学校社会科地図』帝国、②『学習指導要領（社会編）』日文、③担当自作の配布資料をテキストとする。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予】希望受験自治体の過去問題を調べ、解いてみる。
【復】引き続き、希望受験自治体の過去問題を解き、自己の弱点を知る。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第２９回　教育実習に必要な社会科教師の知識について②（中学・高校教科書、教師用指導書、教採過去問より）

【key words】
知識の修得
【授業概要】
①　中学校・高校教科書、教師用指導書、学習指導要領・解説、教採過去問題集を用い、必要最低限の
　知識は必ず習得する。
②　教育実習で参考となる学習指導案集めをする。

【教科書ページ・参考文献】
①教科書『新版新しい社会公民』東書、『社会科中学生の地理』帝国・『新しい社会歴史』東書、『中学校社会科地図』帝国、②『学習指導要領（社会編）』日文、③担当自作の配布資料をテキストとする。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予】希望受験自治体の過去問題を調べ、解いてみる。
【復】引き続き、希望受験自治体の過去問題を解き、自己の弱点を知り、補強する。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第３０回　１年間のまとめ（含む教育理論）、シャトルカードのまとめ欄への記入

【key words】

	教育理論、自己の成長 【授業概要】 ①　１年間の学修を振り返り、自己の成長や課題を知る。 ②　社会科授業に使える教育理論について知る。 ③　「シャトルカード（１年間の総括」を仲間と見合い、仲間の良さを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 ①教科書『新版新しい社会公民』東書、『社会科中学生の地理』帝国・『新しい社会歴史』東書、『中学校社会科地図』帝国、②『学習指導要領（社会編）』日文、③担当自作の配布資料をテキストとする。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】１年間の学修を振り返り、自己の成長や課題を発表できるようにして、授業に臨む。 【復】年度末筆記試験準備の学修を行う。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関する情報〕 ・学習することが多いので、シラバスを見て、予習・復習を行う。 ・本授業は、対面とする。 〔受講のルール〕 ・対面授業で配布する資料の予備について、教員は保管しないので、欠席者は出席者からコピーをとる。 ・シラバスを必ず確認し、積極的に授業に臨む。 ・欠席・遅刻・早退は担当教員及び教務課に必ず申し出る。 ・授業中の携帯電話の使用、居眠り、私語は厳禁とする。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	・学生は毎時間の最後に「シャトルカード」に質問や感想を記入し担当教員に提出する。担当教員は、学生の 質問や感想についてコメントを記載し、次回の授業で返す。当該授業受講者全員に知って欲しい質問の回答等 は本人の了解を得て、共通理解を図る。
授業外時間にかかわる情報	①　社会科教育に係るニュース、新聞記事、雑誌、書籍等には目を通す習慣を身に付ける。 ②　月３冊以上の社会科に関する読書をする。 ③　教科書としてあげた 1）中学校生徒用教科書『新版　新しい社会　公民』東京書籍、2）中学校生徒用教科書『新しい社会　歴史』東京書籍、3）中学校生徒用教科書『社会科中学生の地理』帝国書院、4）中学校生徒用地図帳『中学校社会科地図』帝国書院、5）『中学校学習指導要領解説（社会編）平成29年７月』日本文教出版『中学生徒用教科書』は熟読しておく。 ④　教員採用試験で、中高社会科を受験する学生は、当該自治体の過去問題集を解いておく。
オフィスアワー	火曜日：9時～12時、水曜日：9時～12時
評価方法	学期末試験（50%）、ミニテスト（30%）、学習指導案の作成・模擬授業（20%）
教科書	①中学校生徒用教科書『新版　新しい社会　公民』東京書籍、②中学校生徒用教科書『新しい社会歴史』東京書籍、③中学校生徒用教科書　『社会科中学生の地理』帝国書院、④中学校生徒用地図帳『中学校社会科地図』帝国書院、⑤『中学校学習指導要領解説（社会編）』平成29年７月」日本文教出版、 ⑥その他授業担当者が適宜配布する資料をテキストとして使用する。
参考書	・近藤裕幸：『まずやってみる実践重視の中学校社会科教育法』梓出版社、2012年、・多賀一郎、佐藤隆史『教師の話し方』学事出版、2019年 ・その他、講義の中で、随時紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 社会科関連教員専修免許状（中：社会、高：地歴・公民）を持ち、群馬県教育委員会指導主事として、中学校社会科教員の指導に４年間携わった。本授業では、担当教員が、学生の実態に応じ、アクティブ・ラーニングを取り入れたり、学習指導案を提示したりして、授業の流れを体得してもらうなど、現場経験を生かした実践的な指導を行っている。公民に力点を置くが、大学３年次の教育実習に備え、他２分野（地理的分野・歴史的分野）でも学生の模擬授業を実施している。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用

	■ICTを活用した双方向型の授業の実施 ■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 ■その他 その他の具体的内容 放送大学の学習コンテンスが無料で公開されている。下記のURLにアクセスし、興味関心のある学習コンテンhttps://www.ouj.ac.jp/reasons-to-choose-us/ocw/ 特に①～③は本授業と関連があり、是非視聴してほしい。 ①「考古学（2018）」１コマのみ公開。 https://v.ouj.ac.jp/view/ouj/#/navi/vod?caa=1554921p ②「日本の古代中世（2017）」全15コマは、参考になるので、視聴したい。 https://v.ouj.ac.jp/view/ouj/#/navi/vod?caa=1554913p ③「世界の中の日本外交（2021）」 https://v.ouj.ac.jp/view/ouj/#/navi/player?co=31625&ct=V&ca=30175 （2023/03/13最終閲覧）

講義科目名称： 知的障害教育Ⅰ　　授業コード： S5301

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位(30)	学校教育コース・選択
担当教員			
大谷　幸雄			
専門科目	講義		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 特別支援教育では最も対象者の多い障害種である知的障害について理解し、その教育の基本的な事項が理解できる。 【到達目標】 ①知的障害児の特性について理解できている。 ②知的障害教育の基本的な事項（教育課程、考え方、指導形態、指導方法など）が理解できている。 ③特別支援学校学習指導要領について理解できている。
授業の概要	講義を通して知的障害児の行動特性を理解する。また、知的障害児の学習指導要領の変遷、知的障害児のあゆみ、知的障害教育の歴史や知的障害児の現況について学習することにより、知的障害教育全般について幅広い知見を得る。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画

第１回　オリエンテーション（知的障害とは　知的障害児の心理と行動傾向について）

【key words】
知的障害児について　定義　障害程度　知能　行動

【授業概要】
１５回の講義内容説明。　知的障害児のいだくイメージについて。　知的障害児との接点を振り返る
知的障害児とは（障害の程度、定義、心理、行動、知能、運動機能、認知、記憶等）について考察する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp. ９－３５　資料提示
【課題・予習・復習・授業準備指示】
指定された次回の資料の範囲を予習する。今回の復習と整理。知的障害児との接点、知的障害児のイメージ、どう係わりたいかをレポート①にし、提出する。
【予習復習に必要な想定時間】
３０分～６０分

第２回　障害種について　発達障害との関係　知的障害に関する法律等について

【key words】
障害種　知的障害　発達障害　就学免除　就学猶予　学校教育法　学習指導要領　他

【授業概要】
他の障害との関係、比較について　法律面から　障害の違いについて　知的障害児の個性について

【教科書ページ・参考文献】

教科書pp.３６－４７　　資料提示
【課題・予習・復習・授業準備指示】
今回の復習、次回の予習　　次回以降学習指導要領と同解説書を持参する。
【予習復習に必要な想定時間】
４０分～６０分

第３回　知的障害児の歴史　　知的障害教育の歴史
【key words】
知的障害児の歴史　　差別　　養護学校の義務化

【授業概要】
知的障害児と知的障害教育について　　その歴史と歩み　　養護学校の義務化　　特殊教育と特別支援教育

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp.９－３５　　提示資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
知的障害児と教育の変遷について、学んだことを自分なりに復習し整理する。次回の予習。知的障害児の理解を深める。学習指導要領と同解説書を持参する。
【予習復習に必要な想定時間】
３０分～６０分

第４回　学習指導要領の変遷、学習指導要領の位置づけ、学習指導要領について考える　知的障害教育の教育課程（１）　　学習指導要領について
【key words】
法的根拠　　学習指導要領の歩み　　解説　　教育課程

【授業概要】
知的障害児の指導と知的障害児の特性など考慮して、どのような配慮が必要かを考察し、さらに知的障害児教育の現在の教育課程に至るまでを理解する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書ｐｐ．9ー３５、提示資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
学習指導要領及び解説に親しみ熟読して内容を理解する。学習指導要領と同解説書を持参する。次回以降に自分で調べた課題について発表するので準備をする。
【予習復習に必要な想定時間】
４０～６０分

第５回　学習指導要領　　教科・領域別の指導について
【key words】
知的障害教育の教育課程（２）　　教科別の指導について　　教科　　国語　算数　音楽　他

【授業概要】
発表　　教科書より障害教育の教育課程について理解する。他の障害児の教育課程と知的障害教育の教育課程の違いについても考察する。　そして、教科・領域別指導について考える。

【教科書ページ・参考文献】
教科書ｐｐ４８－６３．ｐｐ１１０－１２０

【課題・予習・復習・授業準備指示】
特別支援学校学習指導要領、同解説を読み復習する。次回使用する資料配付、熟読しておく。次回ミニテスト①あり
【予習復習に必要な想定時間】
４０分～６０分

第６回　各教科等を合わせた指導について（日常生活の指導）
【key words】
日常生活　　日常の生活　　遊び　　学習

【授業概要】
発表　　領域・教科を合わせた指導の一つである日常生活の指導について学ぶ。それぞれ領域、教科をする場合の教科の内容、及びメリット、デメリット等についても検討する。復習のミニテスト実施①

【教科書ページ・参考文献】
教科書ｐp.97－109　　特別支援学校学習指導要領解説　　資料配付
【課題・予習・復習・授業準備指示】
知的障害と他の障害の教科の違いについて。教科の学習と合わせた指導の仕方など、混乱しないよう十分復習しておくこと。次回の資料配付、熟読しておく。次回復習ミニテスト②予定
【予習復習に必要な想定時間】
４０分～６０分

第７回　各教科等を合わせた指導について（遊びの指導、生活単元学習）
【key words】
遊び　　生活　　学習　　集団　　単元

【授業概要】
発表　　知的障害特別支援学校で主に実施されている指導形態の一つである遊びの指導、生活単元学習について理解する。復習のミニテスト②実施

【教科書ページ・参考文献】
教科書ｐｐ97－109．64－81

【課題・予習・復習・授業準備指示】
知的と他の障害の教科の違い、教科の学習と合わせた指導の仕方など十分復習しておくこと。復習のミニテス②予定
【予習復習に必要な想定時間】
４０分～６０分

第８回　各教科等を合わせた指導について（生活単元学習）
【key words】
各教科等を合わせた指導　　日常の活動　　単元

【授業概要】
発表　　知的障害特別支援学校で一番知られている「生活単元学習」についていくつか事例を挙げ、詳しく検討する。復習のミニテスト②実施

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp.６４－８１
参考：阿部芳久　知的障害児の特別支援教育入門　日本文化科学社　２００６他
【課題・予習・復習・授業準備指示】
各教科等を合わせた指導について理解する。次回使用の配付資料を読んでおく。次回ミニテスト③実施。
【予習復習に必要な想定時間】
４０分～６０分

第９回　各教科等を合わせた指導について（作業学習　キャリア教育）
【key words】
領域・教科　　園芸　　農業　　陶芸　　木工　　紙工　　各種の作業

【授業概要】
ミニテスト③実施。主に中学部や高等部において実施することの多い指導形態の１つである作業学習について、いくつかの事例を挙げ説明する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書８２－９６、pp.１２１－１３３
参考書　阿部芳久　　知的障害児の特別支援教育入門　　日本文化科学社　２００６
【課題・予習・復習・授業準備指示】
自分でも作業学習について調べて理解を深める。
【予習復習に必要な想定時間】
４０分～６０分

第１０回　自立活動の指導について
【key words】
自立活動　　養護・訓練　　６領域

【授業概要】
特別支援教育の教育課程では特に重要な自立活動について、変遷や概要、意義等について理解する

【教科書ページ・参考文献】
特別支援学校学習指導要領解説　自立活動

【課題・予習・復習・授業準備指示】
自立活動について復習し理解を深める。次回の準備。
知的障害児の教育における学習形態について自分なりの考えをレポート②提出する。
【予習復習に必要な想定時間】
４０分～６０分

第１１回　学校参観　　もしくは調査発表　　特別支援学校と特別支援学級の学級経営について
【key words】
教育現場の実情　　授業　　諸問題

【授業概要】
県内の知的障害の特別支援学校の授業の様子を参観し、学校現場の授業の様子を知る
（参観出来ない場合は各地の知的障害特別支援学校の様子を資料を通して知る。各自調べた特別支援学校について発表する）

【教科書ページ・参考文献】
教科書今まで学習した箇所全般　　参考資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
参観（調査）した学校で感じたことや調査で出てきた課題などを含めた感じたことをレポート③にし提出する
知的障害児・者の進路問題について調べておく
【予習復習に必要な想定時間】
４０分～６０分

第１２回　特別支援学校と特別支援学級の指導方法について
【key words】
特別支援学校　　知的障害　　授業　　知的障害教育

【授業概要】
前回に続いて各特別支援学校、特別支援学級で行われている教育実践の実際を検討する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書ｐｐ．１３４－１６５　　教科書　特別支援学校学習指導要領、配付資料

	【課題・予習・復習・授業準備指示】 知的障害教育特別支援学校の現状と課題を理解する。 【予習復習に必要な想定時間】 復習２０分、予習３０分 第１３回　個別の指導計画と個別の教育支援計画について 【key words】 個別支援　　教育支援計画　　指導計画 【授業概要】 個別の教育支援計画とは、また、個別の指導計画とは、個別の支援計画全般から眺めて説明する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp.１９８－２１２　　参考資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 障害児・者の一生を眺めて計画される観点から教育現場でおこなわれている各支援計画と指導計画を理解する 【予習復習に必要な想定時間】 ４０分～６０分 第１４回　学校卒業後の課題　進路問題について　キャリア教育について 【key words】 進路　　トラブル　　サポート　　卒業後の課題　　卒業前に対応する課題　　キャリア教育 【授業概要】 知的障害者の学校卒業後の進路の現状、そこから見える課題と学校現場で求められている課題について考察する。学生各個人が調査したものを元に、そこから見えてくる課題や問題点を出しながら進め、直面してい　る問題から学校教育を見直してみる。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp.１６６－１９７ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業以外でも情報を集めて、進路問題に対して障害者の直面する課題の認識を深める 【予習復習に必要な想定時間】 ４０分～６０分 第１５回　特別支援教育の展望と課題について 【key words】 学校卒業後の課題　　社会生活　　支援体制 【授業概要】 中学校卒業後すぐ社会に出る状態から後期教育の重視が叫ばれ、高等部進学が増えたが、新たなる課題が出てきた現状について講義する。講義等を通して知的障害教育の認識が深まったか話し合う。知的障害児の一貫した取り組みの現状を理解し、どのような社会が今後どのような社会にしたいかを含め、自分の考えをまとめてレポート④を提出する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書ｐｐ２１３－２２５ 資料提示 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義で出てきた知的障害教育の問題点、課題等を整理し、概要をまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 ４０分～６０分
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に係わる情報〕 ①講義の回数に応じて若干授業内容がずれる場合がある。 ②講義では予定のミニテスト以外に確認の意味でミニテストを実施する。 〔受講のルール〕 ①特別支援教育に進路を決めている学生は将来担当することが十分考えられるので、その自覚をもって授業に臨むこと。 ②予習、復習は必ず行うこと。参考書、資料にも目を通し熟知することが大切である。 ③他の学生に迷惑になる行為（私語、携帯電話の操作等）は厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	①予習、復習はその都度指示されなくても毎回実施すること。 ②学習の一環として要求された感想文や課題は提出期限を守って提出すること。
オフィスアワー	質問があれば授業終了後１０分間に質問、メールも可、またはシャトルカードに記載すれば次回以降に対応する。
評価方法	①レポート・ミニテスト・発表（内容、適切さ）５０％ ②筆記試験（客観的、論述）５０％ 総合評価は①②の合計が６０％を超えていること
教科書	・太田俊己・佐藤慎二：「改定新版　知的障害教育総論」放送大学教育振興会2020 ・文部科学省「特別支援学校幼稚部教育要領　小学部・中学部学習指導要領」海文堂書店2018 ・文部科学省「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　総則編（幼稚部・小学部・中学部）2018 ・文部科学省「特別支援学校　高等部学習指導要領」2019

参考書	授業の中で適宜紹介、またはプリント配付する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 盲教育６年、知的障害教育２５年、肢体不自由教育５年の教育現場で実践教育を積み重ねる。特に障害の重い児童生徒との係わりを通して学んだこと、感じたこと、更に発達障害児の現場などを通して特別支援教育全般について幅広く講じます。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 肢体不自由教育Ⅰ　　授業コード： S5311

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位(30)	学校教育コース・選択
担当教員			
大山　知恵子			
専門科目	講義		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 肢体不自由教育の基礎となる用語・概念を習得する。また、関連する諸課題についての理解と自らの視点から課題を捉える力が涵養される。 【到達目標】 1　肢体不自由教育の基礎基本を習得する。（知識・理解） 2　肢体不自由教育に関わる教育・心理・医学等の多角的な視点を身につける。（思考） 3　知識を他者に表現することができる。（表現）
授業の概要	肢体不自由児の教育に関する教育・心理・生理・検査・歴史等について概説する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	△
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテ-ション、肢体不自由の定義、合理的配慮 【key words】 肢体不自由とは　脳性麻痺 【授業概要】 肢体不自由とはどういう状態であるか、肢体不自由の原因にはどんなものがあるか等について。 【教科書ページ・参考文献】 1ページ～3ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 肢体不自由とはどういうものか、まとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分
	第２回	肢体不自由の骨格と関節、筋肉と神経系、脳機能と診断 【key words】 先天性疾患　二次障害 【授業概要】 人の身体の骨格や関節のおおまかな仕組みや筋肉や脳のおおまかな働き等について。骨や関節の先天性疾患や脳性麻痺における二次障害について。 【教科書ページ・参考文献】 4ページ～15ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 先天性疾患としてあげられる疾病を調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分
	第３回	肢体不自由の医学的理解、脳性まひ、重度重複化 【key words】 自閉症スペクトラム障害　未熟児 【授業概要】 脳障害の広がりに伴う麻痺以外の、前頭葉機能障害や視知覚認知障害や、脳性麻痺の様々なタイプについて。 【教科書ページ・参考文献】

		16ページ～23ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 未熟児がかかえる問題について調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分
	第４回	肢体不自由の心理特性、行動特性 【key words】 認知の障害　抽象的思考活動　社会性の発達 【授業概要】 肢体不自由児は移動運動に制限があることが多く、それが原因となって起こる様々な発達の遅れや、脳損傷によって起こる特徴的な行動特性について。 【教科書ページ・参考文献】 24ページ～27ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 移動制限がもたらす弊害についてまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分
	第５回	肢体不自由児の社会的理解 【key words】 自己受容　社会的受容 【授業概要】 我が国で定着している障害受容の定義について。肢体不自由者に対する態度とその変容について。 【教科書ページ・参考文献】 28ページ～31ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 肢体不自由児（者）と接した経験についてまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分
	第６回	肢体不自由教育におけるアセスメントの意義と活用、知能検査、運動検査の方法と活用 【key words】 フォーマル・アセスメント　インフォーマル・アセスメント 【授業概要】 肢体不自由教育における実態把握のための、WISC－ⅣやGMFM（粗大運動能力尺度）等のアセスメントの方法と活用の仕方について。 【教科書ページ・参考文献】 32ページ～39ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 WISC－Ⅳについて調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分
	第７回	肢体不自由教育における　知覚・認知検査、感覚検査、言語検査の方法と活用 【key words】 空間認知　基礎感覚 【授業概要】 知覚・認知検査、感覚検査、言語検査の方法を知ると共に検査結果から見えてきた児童の実態に対して、どのような支援ができるかについて。 【教科書ページ・参考文献】 40ページ～45ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 検査結果を活かす支援についてまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分
	第８回	肢体不自由教育における　発達検査、行動観察、学力検査の方法と活用 【key words】 遠城寺式・乳幼児分析的発達検査法　CRT・NRT 【授業概要】 発達検査、行動観察、学力検査の方法を知ると共に検査結果から見えてきた児童の実態に対して、どのような支援ができるかについて。 【教科書ページ・参考文献】 46ページ～51ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 検査結果を活かす支援についてまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分
	第９回	動作法、静的弛緩誘導法、感覚統合療法の基礎 【key words】 課題－意図－努力－身体運動 【授業概要】 動作法の歴史や心理リハビリテーションキャンプ、動作法の理論等について。 【教科書ページ・参考文献】 52ページ～53ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 動作法について調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分
	第１０回	肢体不自由教育の歴史（戦前）、高木憲次、学校の設立 【key words】 高木憲次　整肢療護園　柏学園 【授業概要】 肢体不自由教育の発展に関わる、田代義徳氏、高木憲次氏、柏倉松蔵氏等の業績について。 【教科書ページ・参考文献】

	56ページ～63ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 肢体不自由教育の発展に関わった先人の中から、一人を選んで調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分
	第１１回　肢体不自由教育の歴史　　公立養護学校整備特別措置法成立と養護学校の整備、学習指導要領の制定と改訂 【key words】 盲学校、聾学校の義務制実施　養護学校の義務制 【授業概要】 盲学校、聾学校の義務制が実施されその後養護学校が義務化されるまでの経緯、肢体不自由養護学校の学習指導要領の制定についてなど。 【教科書ページ・参考文献】 64ページ～67ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 学習指導要領を読む。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分
	第１２回　肢体不自由教育の歴史　　養護学校義務制、自立活動の成立と意義、特別支援学校の理念と制度 【key words】 就学猶予・免除 【授業概要】 養護学校教育の義務制の実施により、どのような子どもが教育を受けられるようになったかについて。障害のある子どもに対して行われた養護・訓練から自立活動へと変わっていった経緯について。 【教科書ページ・参考文献】 68ページ～75ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 就学猶予・免除についての自分の考えをまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分
	第１３回　肢体不自由特別支援学校、肢体不自由特別支援学級の現状と課題、通級による指導の現状と役割 【key words】 障害の重複化 【授業概要】 肢体不自由の特別支援学校、特別支援学級、通級による指導の特別支援教育における、それぞれの現状と課題、それぞれの役割について。 【教科書ページ・参考文献】 76ページ～81ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 障害の重複化に伴い、発生する問題についてまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分
	第１４回　小中学校等における肢体不自由児の教育的ニーズ、特別支援教育に関わる法令、個別の教育支援計画に基づく連携 【key words】 PT　OT　ST　バリアフリー 【授業概要】 「教育内容・方法の工夫」「支援体制の整備」「施設・設備の整備」の３つの観点から考える、肢体不自由児の教育的ニーズの実際、特別支援教育に関わる法令、支援の質に向上につながる個別の教育支援計画等について。 【教科書ページ・参考文献】 82ページ～87ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 PT　OT　STの用語を詳しく調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分
	第１５回　肢体不自由教育のまとめ 【key words】 教員の役割 【授業概要】 肢体不自由教育に関わろうとする教員として、何を考え何をしていくべきかそれぞれの考えを述べる。 【教科書ページ・参考文献】 教科書全ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 他の人の発表を聞いての感想をまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分
受講生に関わる情報および受講のルール	・遅刻、欠席は必ず届けること。 ・積極的な授業参加、予習を求めます。 ・他の学生の迷惑となる行為（私語、スマホの操作等）、授業の流れや雰囲気を壊す行為は退席とし、欠席扱いとしま す。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード　ノート
授業外時間にかかわる情報	特別支援教育に関する情報に普段から触れておくこと。　（新聞、ニュース等からの情報収集） 特別支援教育の現場を知ること。　（見学、ボランティア等）
オフィスアワー	授業の前後10分間

評価方法	定期試験（50%）　ノート提出（30%）　授業への取り組み（コメントカードの内容、発言等）（20%）
教科書	安藤隆男・藤田継道編書「よくわかる肢体不自由教育」　2017　ミネルヴア書房
参考書	特に指定しない
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 教員として長年特別支援教育に携わってきた。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） ■情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容 言語障害について、外部講師を招いて講義をしてもらう。

講義科目名称： 特別支援教育総論　　授業コード： S5321

英文科目名称： Introduction to Special Needs Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位(30)	学校教育コース・選択
担当教員			
久田　信行			
専門科目	講義		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 特別支援教育とは何か、その全体像を理解すること。障害児教育の教育思想、歴史、制度、障害の特性、教育課程、教育方法の入門的な事項を学ぶことを通じて、特別支援教育の全体的な見通しを把握することが目的である。 【到達目標】 特別支援教育の教育思想，歴史，教育制度、法規、教育課程、教育方法等の基礎となる事項を幅広く学び、特別支援教育の基本的な考え方を身につけることが本授業の目標である。
授業の概要	目的に接近するため、障害児の心理・生理・病理を学ぶ意義や教育課程・指導方法を学ぶ必要を実践例を元に解説する。 「障害のある子供の教育支援の手引」を教科書として用い、特別支援教育に関する基本的通知や学習指導要領等の文書を適宜参照しつつ、講義形式を中心に、一部、project based learning (PBL)などアクティブ学習を加えて実施する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	△
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	特別支援教育の理念（１） 【key words】 障害　ICF(国際生活機能分類)　障害者の権利条約　共生社会　インクルージョン 【授業概要】 「障害」の定義をICFの図式から検討する。障害の社会モデルと病理モデルという考え方を理解し、障害の全体像を俯瞰し、権利条約が強調している障害者の尊厳を理解し、権利条約と教育の関連の基盤を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書　はじめに 久田信行　2011　国際生活機能分類（ICF）の基本的概念と評価の考え方　―「生活機能」と「潜在能力」を中心に―　群馬大学教育実践研究，第28号，179～191頁. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書のはじめに　を読んでくる。教科書がない場合は、文科省「障害のある子供の教育支援の手引」の「はじめに」を読んでくる。 【予習復習に必要な想定時間】 40分
	第２回	特別支援教育の理念（2） 【key words】 尊厳　人権　平等　差別禁止　インクルージョン 【授業概要】 特別支援教育を支える、障害者の権利条約1～8条を読み、特別支援教育制度の成立と障害者の権利に関する条約に基づくインクルーシブ教育システムの理念の背景について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書　第1編

		外務省　障害者の権利条約　（公定訳）1－8条 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記の条文（前文を含む）を読んでくる 【予習復習に必要な想定時間】 50分
	第３回	特別支援教育の理念（3） 【key words】 教育　合理的配慮　インクルージョン 【授業概要】 インクルーシブ教育システムの理念を踏まえた特別支援教育への展開を理解する。第24条（教育）に述べられている目標とその実現のための方法の一つである合理的配慮、インクルージョンの記載と他の記載事項との関係を比較する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書　第1編 外務省　障害者の権利条約　（公定訳）24条 【課題・予習・復習・授業準備指示】 権利条約24条教育を読んでくる。復習として、教科書関連資料の「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）」（平成 24 年）（抄）を読んで比較する。 【予習復習に必要な想定時間】 80分
	第４回	特別支援教育の仕組み 【key words】 特別支援教育　初中局長通知　特殊教育 【授業概要】 ｈ19初中局長通知を教材に、特別支援教育制度における特別支援学校等が有する機能・役割を理解する 【教科書ページ・参考文献】 特別支援教育の推進について（通知）平成19年4月1日 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記の資料を読み、初歩的用語も含めて、あいまいな部分にマーカーで印を付けてくる 【予習復習に必要な想定時間】 70分
	第５回	障害児教育の歴史 【key words】 京都訓盲唖院　楽善会訓盲院　山尾庸三 【授業概要】 　我が国の障害児教育の開始時点を振り返ることで、その当時の人々が、障害のどのような側面に注目し、どのようなアプローチをしたかを学ぶことで、当時の障害者の置かれていた状況も推察する事が出来る。 【教科書ページ・参考文献】 参考資料　久田信行　2009　盲唖学校の成立と山尾庸三　ー吉田松陰の思想と時代背景ー　群馬大学教育実践研究，第 26号，89～100頁．（群馬大学リポジトリ所収） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 参考資料を読み、明治初期の教育や障害児を取り巻く環境をネットなどで調べてイメージを膨らませてくる。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第６回	特殊教育の歴史と特別支援教育 【key words】 整肢療護園　養護学校　ノーマライゼイション　特別支援学校 【授業概要】 障害児教育に関する歴史、特殊教育の果たしてきた役割やその変遷を踏まえつつ、特別支援教育制度の教育に関する歴史、特殊教育の果たしてきた役割を踏まえつつ、特別支援教育制度の成立と展開を理解する 【教科書ページ・参考文献】 教科書第1編３　「今日的な障害の捉えと対応 」 「特別支援教育の推進に関する調査研究協力者会議　審議経過報告」平成22年3月24日 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書と審議経過報告を読み、特別支援教育の今日的課題を理解する。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第７回	特別支援教育における就学先決定等の仕組み 【key words】 教育支援委員会　学校教育法施行令一部改正（平成25年8月） 【授業概要】 学校へ就学するときは大きな節目になる。このときどのように就学先を決めて行くか、平成25年から制度が大きく変わった。教科書は詳しく書いてあるので、旧制度と比較しながら現行の制度と配慮点を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書　第2編 【課題・予習・復習・授業準備指示】 就学を迎える子どもの親はどのような発言をしているかネットで調べる 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第８回	特別支援教育の思想（１） 【key words】

		インテグレーション　インクルージョン 【授業概要】 サラマンカ声明を熟読し、インクルージョンの基礎や多様性、誰一人取り残さない教育などを理解する 【教科書ページ・参考文献】 サラマンカ声明（http://www.dove.co.jp/sumomo/　siryou_folder/Salamanca.html） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ネットでサラマンカ声明の位置づけなど調べてくる。講義のあとは同声明を読み返して、考え方の意味を読み取る。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第９回	特別支援教育の思想（2） 【key words】 バズセッション（討論）インクルージョンは可能か？ 【授業概要】 前回学んだサラマンカ声明は、我が国の特殊教育から特別支援教育への転換にも大きな影響を与えた。その大きな柱であるインクルージョンをめぐって議論をする。 【教科書ページ・参考文献】 サラマンカ声明 【課題・予習・復習・授業準備指示】 討論の柱は、インクルージョンが障害児と周囲の子どもにとってどのような影響を与えるかである。そのつもりでサラマンカ声明を読み直し、各自の意見をメモしておく 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第１０回	特別支援教育の思想（3） 【key words】 障害者の権利条約　障害者の権利に関する委員会総括所見 【授業概要】 障害者の権利条約の基づいて特別支援教育への改革を行ったのに、どうして抜本的な検討を求められたか、簡単に言うと、どこでボタンの掛け違いが起こったかを議論する。あるいは、どう誤解されているのかを議論する。 【教科書ページ・参考文献】 障害者の権利に関する委員会総括所見（https://www.mofa.go.jp/mofaj/files/100448721.pdf）の教育に関する部分 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記の資料を読み、できれば、障害者の権利に関する条約 第１回日本政府報告（抜粋）https://mon.psychoreha.org/tsk/CRPD_JPA_1S.pdf　を読んでおく 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第１１回	いわゆる発達障害児について 【key words】 学習障害（LD）　ADHD　ASD　特性に応じた指導 【授業概要】 短く発達障害児の概略を講義し、各自の発達障害に関する知識を発表し、判定の難しさなど話し合う 【教科書ページ・参考文献】 教科書　第3編　Ⅶ　Ⅸ　Ⅹ　文科省「発達障害児」の用語の使用について（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/main/002.htm） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書を読んでくる。余裕があれば文科省の上記資料も目をとおしてくる 【予習復習に必要な想定時間】 80分
	第１２回	特別支援教育の実態を調べる 【key words】 通常の学級における発達障害児の出現率 【授業概要】 この回は演習的な内容が主となる。各自ノートパソコンを持参し、文科省のPDFで公表されている資料を、エクセルの表に変換する手法を教えるので、全員が自分で処理可能なデータにできるようにする。その後、手分けしてデータを作成し、共有する。 【教科書ページ・参考文献】 文部科学省の発達障害児在籍率調文部科学省の発達障害児在籍率調査の問題点(2013) https://mon.psychoreha.org/DEV/JASE2013.pdf 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記資料を読んでくる 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第１３回	特別支援教育のデータを分析する 【key words】 特別支援教育資料　学校基本調査　特別支援教育の対象児の在籍率 【授業概要】 第12回で変換した資料から、通級や特別支援学級、特別支援学校の在籍率を計算し、都道府県での在籍率の違いを実感する。また、過去のデータと比較する。 【教科書ページ・参考文献】 （配付資料）通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果(令和4年)について 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記資料に関する新聞などの記事をネットで調べてくる 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第１４回	特別支援教育の未来予測

	【key words】 特別支援教育の対象児の激増 【授業概要】 特別支援教育の対象児が激増している傾向を確認し、その傾向が続くとどうなるか予測を議論し、対処の方策を検討する。当然のこととして、現在の教育制度で対応できないなら、別案を柔軟に検討することが必要である。 【教科書ページ・参考文献】 文科省：通常の学級に在籍する障害のある児童生徒への支援の在り方に関する検討会議報告 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記資料を読んでおく 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１５回　教員の資質向上 【key words】 教員養成　研修　自己開発 【授業概要】 将来に向けて、自らのキャリアを発展させるために、どのような構えで今後学んでいくか、それぞれの見解を出し合って、自らのキャリア開発の方向性を点検する 【教科書ページ・参考文献】 教科書（全体）と第6回で読んだ、「特別支援教育の推進に関する調査研究協力者会議　審議経過報告」平成22年3月24日」 【課題・予習・復習・授業準備指示】 これまでの授業で調べた資料と教科書を各自で読み返し、これまでの学修を振り返る。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
受講生に関わる情報および受講のルール	入門的な内容なので、受講の条件は無い。幅広く、特別支援教育の基本的な考え方を学習するので、日常生活の中でも、障害児の教育や福祉の話題について敏感に情報収集し、自ら考えることを努力されたい。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	各授業ごとにメールで質問や感想、小レポートを書いてもらいます。
授業外時間にかかわる情報	途中で本を探して読む学習等を求めますので、特別支援教育に関する本を探すようにしておいてください。
オフィスアワー	授業後の30分あるいは昼休み等をあてるので、相談等がある場合はメールで事前に申し込んでください。メールやZOOMによる相談も受けます。
評価方法	授業ごとのメール(コメントカードに替えて）10%　読書レポート　20%　小レポート　10%　最終レポート　60%
教科書	文部科学省初等中等教育局特別支援教育課（著)「障害のある子供の教育支援の手引―子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて―」ジアース教育新社
参考書	青山 新吾・岩瀬 直樹（著)「インクルーシブ教育を通常学級で実践するってどういうこと？（インクルーシブ発想の教育シリーズ）」学事出版 文科省 「発達障害を含む障害のある幼児児童生徒に対する教育支援体制整備ガイドライン」（平成29年）（インターネットで入手のこと）　その他、適宜指示する
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 昭和53年から58年まで、北九州市立総合療育センターの臨床心理士として超早期療育を中心に、各種の障害児への実務を行ってきた。その後、昭和58年から平成4年までは国立特殊教育総合研究所の教育相談を担当し、平成4年から平成24年まで群馬大学で教育相談を担当してきた。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート □グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 障害児支援法総論　　授業コード： S5361

英文科目名称： Support Methods for Person with Special Educational Needs

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	学校教育コース・選択
担当教員			
久田　信行			
専門科目	講義		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 障害児教育は、個々の教育的ニーズに応える教育的営みである。この講義では、どのように障害のある児童・生徒の教育的ニーズに応えるか、講義・実習的アクティブラーニングを通じて、教育方法論について体験的に考えられるようになることを目的とする。 【到達目標】 特別支援教育の全体像を理解するためにも、広く障害全般についての理解を深め、その指導方法と教育課程を理解することが必要である。自立活動を中心に方法論の比較が出来るようになることを目標とする。
授業の概要	心身に障害のある子どもの教育課程及びに指導法に関する科目で、視聴知肢病を含む科目である。発達障害児等の指導についても講義する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	◎
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	△
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	○
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	自立活動が無かったらー自立活動の歴史ー 【key words】 体育・機能訓練　養護・訓練　自立活動　療育と治療教育 【授業概要】 就学猶予・免除される児童生徒がかなりの数いて、全員就学や養護学校義務制といった政策が実施された。そのおり多数の重度重複障害児が学校に就学し、それへの対応が出来る様に教育課程で養護・訓練の領域が総説された。その経緯を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編(幼稚部・小学部・中学部) 第１章、第２章--以下「自立活動解説」と略記 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「自立活動解説」　第１章、第２章を読んでくる 【予習復習に必要な想定時間】 50分
	第２回	特別の指導「自立活動」 【key words】 自立活動　国際生活機能分類（ICF）　区分　項目 【授業概要】 自立活動の教育課程上の位置づけを中心に概略を理解し、ICFとの関連で、個別の教育支援計画と自立活動の関連を解説するICFの図式を参考に、自立活動が担うべき活動と教育全般ではぐくむ活動、参加について学習する。これらの学習を基礎に、どのように社会参加し、地域・社会の人々と連携するかの、枠組みを学習する。 【教科書ページ・参考文献】 自立活動解説　第２章 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書を読み、ネット等でも調べてくる

【予習復習に必要な想定時間】
50分

第３回　動作法１　基礎的な自己リラクセーション
【key words】
自己弛緩　リラクセーション　動作法
【授業概要】
動作法の理論と方法を講義し、自己弛緩の方法を練習する
【教科書ページ・参考文献】
動作法に関するネットの情報
【課題・予習・復習・授業準備指示】
動作法についてネットで調べてくる

【予習復習に必要な想定時間】
50分

第４回　動作法２　基礎的な他者リラクセーション
【key words】
リラクセーションの技法　肩、軀幹、膝、足首
【授業概要】
他者弛緩　身体各部位のリラクセーションの技法を実習する
【教科書ページ・参考文献】
学習指導要領解説　自立活動編
【課題・予習・復習・授業準備指示】
運動動作に関連する部分をいくつか読んでまとめる
【予習復習に必要な想定時間】
50分
60分

第５回　ブラインドウォーク、難聴体験
【key words】
ブラインドウォーク、ガイドヘルプ、キャップハンディー、視野
【授業概要】
感覚を制限した状況で、ガイドされて歩く体験を通じて、介護される恐怖や介護する上での配慮事項について検討する。
【教科書ページ・参考文献】
ガイドヘルパーに関する情報をネットで調べる
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書　視覚障害を読み直す
【予習復習に必要な想定時間】
50分

第６回　知的障害、肢体不自由、病弱・身体虚弱の教育
【key words】
知的障害　知能の発達　知能の測定（知能検査）　生活中心教育と生活単元学習　肢体不自由　高木憲次　整肢療護園　動作法　自立活動　慢性疾患　病弱　虚弱　学習空白
【授業概要】
的障害、肢体不自由、病･虚弱の教育について概略を講義する
【教科書ページ・参考文献】
教科書第3編　学習指導要領解説　自立活動編
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書を読み，インターネットで高木憲次について調べておく。余裕があれば、key wordsの中の分からない事項を調べておく
【予習復習に必要な想定時間】
50分

第７回　特異な行動の理解と支援　：　いわゆる問題行動へのアプローチ
【key words】
問題行動　離席　他害　常同行動
【授業概要】
いわゆる問題行動について、どう捉え、どう支援していくかを整理する。あわせて強度行動障害の問題について紹介する。
【教科書ページ・参考文献】
配付資料：「特異な行動の理解と支援」
【課題・予習・復習・授業準備指示】
上記資料を読む
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第８回　自立活動とICF　：　個別の教育支援計画と個別の指導計画
【key words】
自立活動　心身機能　活動　参加　生活機能　拡大された心
【授業概要】
ICFの図式を参考に、自立活動が担うべき活動と教育全般ではぐくむ活動、参加について学習する。これらの学習を基礎に、どのように社会参加し、地域・社会の人々と連携するかの、枠組みを学習する。
それらを基礎に、個別の指導計画を立てる実習をする。
【教科書ページ・参考文献】
教科書　第1編　久田信行　2011　国際生活機能分類（ICF）の基本的概念と評価の考え方　―「生活機能」と「潜在能力」を中心に―　群馬大学教育実践研究，第28号，179～191頁.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
資料を読んでくる
【予習復習に必要な想定時間】
50分

第９回　教育支援の手引にみる障害児の教育方法1；自閉症児の支援方法
【key words】
自閉症　対人行動　感覚過敏　視覚優位　言語機能

【授業概要】
自閉症児の指導について自らの体験等からディスカッションし、教育支援資料のまとめと比較検討する
【教科書ページ・参考文献】
教育支援の手引　Ⅶ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
資料を読んでくる。特性に応じた指導の箇所をまとめてくる。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１０回　教育支援の手引にみる障害児の教育方法2；ADHD児の支援方法
【key words】
多動　注意散漫　衝動性　薬物療法
【授業概要】
注意欠如多動性障害について指導法を検討する。行動のコントロールが必要なこともあるため、その方法も実習し、留意点についても検討する。
【教科書ページ・参考文献】
教育支援の手引　Ⅸ.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
資料を読んでくる。特性に応じた指導の箇所をまとめてくる
【予習復習に必要な想定時間】
60分
60分

第１１回　教育支援資料にみる障害児の教育方法3；学習障害児の支援方法
【key words】
発達障害　障害特性　教科学習　情報処理
【授業概要】
学習障害児発見の歴史を述べ、変化の経過を知る。特性の理解ということ、学習困難の諸相、知的障害との関連などについても講義する。
【教科書ページ・参考文献】
教育支援の手引　Ⅷ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
資料を読んでくる。特性に関して述べられている部分をまとめてくる。
【予習復習に必要な想定時間】
50分

第１２回　教育支援資料にみる障害児の教育方法4；情緒障害児の支援方法
【key words】
情緒障害　場面緘黙　不登校
【授業概要】
情緒障害児への支援について、場面緘黙児を例に、捉え方と支援の方法について講義し、討論する。
【教科書ページ・参考文献】
教育支援の手引　Ｘ　久田, 金原, 梶, 角田, 青木(2016) 総説 場面緘黙(選択性緘黙)の多様性−その臨床と教育−,不安症研究, 8 巻 1 号 p. 31-45
【課題・予習・復習・授業準備指示】
参考文献を読み、関心のある部分をまとめる
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１３回　食事介助と食機能
【key words】
摂食　嚥下　咀嚼
【授業概要】
食事介護を実習し、食物の形態や扱いでどのような体験をするか、様々な条件で調べる
【教科書ページ・参考文献】
ネットで食事介助について調べる（老人介護の情報でも可）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
調べた結果をまとめる
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１４回　肢体不自由児の動作困難
【key words】
動作不自由　不安　身を委ねる体験
【授業概要】
実習を行う。身体の動きを制限されて、立つ、歩く、寝る体験を介助付きで行う体験により、何を感じ、何を考えるかを内省する。
【教科書ページ・参考文献】
肢体不自由者の介護に関するネット情報
【課題・予習・復習・授業準備指示】
動画などで介護の方法を調べておく
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１５回　行動の自己コントロールといわゆる発達障害児等の対人関係の支援
【key words】
問題行動　離席　飛び出し　他害
【授業概要】
様々な状況で、いわゆる問題行動が発生する。それへの対処を検討するなかで、行動の自己調整が出来る様に教えることが重要になってくる。
【教科書ページ・参考文献】
ネット上の問題行動に関する情報
【課題・予習・復習・授業準備指示】
問題行動というキーワードで対処法を探してまとめる
【予習復習に必要な想定時間】
60分

受講生に関わる情報および受講のルール	指導法・支援法を中心とするが、生理・病理・心理の基礎的理解を前提に授業をするので、予習を行うこと。 実習的な授業も取り入れるので、動きやすい服装で受講して下さい。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード（メールにより質問や感想あるいは小レポートを送ってもらいます）
授業外時間にかかわる情報	障害児への支援全般に関するテーマですので、ニュースやドキュメント番組など、障害児関係の報道等に特に気を付けて情報収集してください。
オフィスアワー	授業後の30分ないしは昼休み等をあてるので、相談等がある場合は、授業中にお知らせするメールアドレスで事前に申し込んでください。
評価方法	コメントカード　10%　読書レポート　20%　実習への取り組み　10%　最終レポート　60%
教科書	文部科学省初等中等教育局特別支援教育課（著）「障害のある子供の教育支援の手引―子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて―」ジーアース教育新社（前期の特別支援教育総論と同じ教科書を使用する）
参考書	文科省 「特別支援学校学習指導要領解説　自立活動編」，「発達障害を含む障害のある幼児児童生徒に対する教育支援体制整備ガイドライン」（新ガイドライン；インターネットで入手のこと）
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 5年間、北九州市立総合療育センターという大規模療育施設で臨床心理士として障害児療育を行ってきた。また、障害児専門の研究所(国立特殊教育総合研究所）の重複障害研究員として10年間教育相談に当たってきた。さらに、24年間大学教員として、教育相談を行ってきた。中心的な方法は動作法で、日本リハビリテイション心理学会認定の指導者資格を有している。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート □グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 ■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容 学習指導要領、特に自立活動については、様々な情報があるので、その検索の仕方など習熟することが必要である。授業の内容に応じて、e-ラーニングなど参考にする。

講義科目名称： 重複障害教育総論　　授業コード： S5381

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	1単位(30)	学校教育コース・選択
担当教員			
大谷　幸雄			
専門科目	講義		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 （重度）重複障害児の実態把握、重複障害教育の理解。個々の重複障害児に応じた指導の工夫、教材・教具の工夫をすることが重要と理解できる 【到達目標】 ①ヘレン・ケラーの学習の様子が十分理解できている。 ②日本で実践された重複障害児の学習と指導方法が理解できている。 ③重複障害児の実践事例を読み込んで、その学習内容と指導方法が理解できている。
授業の概要	（重度）重複障害児の指導について、ヘレン・ケラーの事例や日本での重複障害教育実践事例を通して考察する。そして、（重度）重複障害児一人一人に応じた支援の工夫や教材・教具の工夫について十分な理解を得る。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回　オリエンテーション（重度・重複障害児とは　歴史の中における重複障害児の状況と教育実践） 【key words】 重複障害児　重度・重複障害児　重複障害児の歴史　重複障害児の教育 【授業概要】 障害種について　重複障害児の概念　重度・重複障害児とは　重複障害児の実態　重複障害児の捉え方　重度・重複障害児の教育の変遷等について 【教科書ページ・参考文献】 参考：文部省：重複障害教育の手引き　東洋館　昭和４５　文部省：重複障害児指導事例集　東洋館　昭和５８ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本時の復習　次回の予習：教科書「ヘレン・ケラーはどう教育されたか」（pp.1-１８）の熟読 【予習復習に必要な想定時間】 ４０分～６０分 第２回　重複障害教育の実践事例検討①　ヘレン・ケラーのケース（その１）ヘレン・ケラーとサリバンとの初対面 【key words】 視覚聴覚障害　ヘレンの生育歴　指文字　食事場面　サリバンについて　サリバンとの初対面　サリバンの教育方針 【授業概要】 目の見えない世界、聞こえない世界の体験と映像から考える　教育的観点からヘレンの指導前の行動を読み取る　指導者サリバンのヘレン・ケラーに対する対応の仕方について 【教科書ページ・参考文献】

		教科書「ヘレン・ケラーはどう教育されたか」（pp. １－１８） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本時の箇所からヘレン・ケラーについて復習する。予習と復習の確認テスト①実施予定 【予習復習に必要な想定時間】 ４０分～６０分
	第３回	重複障害教育の実践事例検討①　ヘレン・ケラーのケース（その２）ヘレン・ケラーの食事、しつけとサリバンの教育方針 【key words】 食事の様子　　つたみどりの家　　MugとMilk　ホームシック 【授業概要】 予習確認ミニテスト①　　ヘレン・ケラーの学習前の様子　　学習の方法　　学習に対する取り組み　　学習上のトラブル　　身振りサインについて 【教科書ページ・参考文献】 教科書「ヘレン・ケラーはどう教育されたか」（pp. １８－２６） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習の確認ミニテスト②実施予定。　本時の箇所からヘレン・ケラーの行動の様子をまとめる。同様の仕方で次回の予習（pp.２６－４２）をする。 【予習復習に必要な想定時間】 ４０分～６０分
	第４回	重複障害教育の実践事例検討①　ヘレン・ケラーのケース（その３）つたみどりの家から自宅に 【key words】 様々なトラブル　　MUG　　MILK　　WATER　　学習の混乱　　井戸小屋　　物には名前が？ 【授業概要】 予習確認ミニテスト②　　教科書の記事を通してヘレン・ケラーに対するサリバンの教育について確認する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書「ヘレン・ケラーはどう教育されたか」（pp. ２６－４２） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の記述の理解。次回の予習（pp.４２－８８）をする。 【予習復習に必要な想定時間】 ４０分～６０分
	第５回	重複障害教育の実践事例検討①　ヘレン・ケラーのケース（その４）物には名前がある 【key words】 MUG　MILK　　WATER　　行動の変容　　文章作成　　色の名 【授業概要】 教科書の記事の確認と映像を通してヘレン・ケラーの教育について再認識をする。 【教科書ページ・参考文献】 教科書「ヘレン・ケラーはどう教育されたか」（pp. ４２－８８） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の記述と映像の比較をし整理する。次回の予習をする。ヘレン・ケラーの教育について整理する。 【予習復習に必要な想定時間】 ４０分～６０分
	第６回	重複障害教育の実践事例検討①　ヘレン・ケラーのケース（その５）物には名前があることが理解できたヘレン・ケラーのその後 【key words】 手話　　単語　　語い数　　文章構成　　疑問噴出 【授業概要】 物に名前があると理解した後のヘレン・ケラーの様子を学ぶ。前回の映像の続きと教科書の記述の確認。 時系列にまとめる。 【教科書ページ・参考文献】 教科書「ヘレン・ケラーはどう教育されたか」（pp. ４２－８８） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書「ヘレン・ケラーはどう教育されたか」（pp. ８８－最期）の予習（時系列に） 【予習復習に必要な想定時間】 ４０分～６０分 今まで学習したヘレン・ケラーの歩みについてまとめる。感想文予告。
	第７回	重複障害教育の実践事例検討①　ヘレン・ケラーのケース（その６）成長したヘレン・ケラー 【key words】 成人した姿　　来日したヘレン・ケラー 【授業概要】 ヘレン・ケラーがどのような支援の仕方で大人になれたか、どのような考え方をしていったかを教科書、映像から理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書「ヘレン・ケラーはどう教育されたか」（pp. ８８－最後）　　次回の予習（配付資料）。 【課題・予習・復習・授業準備指示】

ヘレン・ケラーのまとめ。感想文①の提出。次回の予習（配付資料）
【予習復習に必要な想定時間】
４０分～６０分

第８回　重複障害教育の実践事例検討②　Y盲学校における盲ろう児の指導実践
【key words】
視覚・聴覚障害　　ことば　　身ぶりサイン　　発声　　見本合わせ学習　　手話

【授業概要】
戦後日本で行われた重複障害児の教育実践事例を検討し、重複障害教育について考察する。残っている映像から様子を知る。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料
志村　太喜彌：　「重度･重複障害児の教育」コレール社１９８９　他資料提供
【課題・予習・復習・授業準備指示】
日本で実践された重複障害教育を理解する。
【予習復習に必要な想定時間】
４０分～６０分

第９回　重複障害教育の実践事例検討③　G盲学校における弱視ろう児の指導実践
【key words】
弱視・聴覚障害　　目の使い方　　形の学習　　文字の学習

【授業概要】
弱視で聴覚障害児の学習の様子を実践事例を通して学習する。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料　大谷：「弱視難聴児の初期学習」　重複障害教育研究所研究報告書
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業の実践事例のまとめ　　ヘレン・ケラーの教育との違い、共通点などを考察しレポート①提出。次回の教科書の箇所の予習（確認ミニテスト③実施予定）
【予習復習に必要な想定時間】
４０分～６０分

第１０回　重複障害教育の実践事例検討④　重度・重複障害児の指導（その１）自発行動の乏しい児童
【key words】
自発行動の乏しい重度・重複障害児　　適切な支援　　係わり方　　教材教具　仰臥位　　側臥位　　自発　行動　幼児

【授業概要】
予習確認ミニテスト③実施　　①重度・重複障害児の一般的な捉え方　　一般的な理解　　重度・重複障害児に対する教師の仕事とは　　教材・教具の役割について。　　②指導の実際（指導事例１）の検討
【教科書ページ・参考文献】
参考書「重度・重複障害障がい児の発達と指導法」(pp.３－１１）（ｐｐ７１－７７）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
重度・重複障害児について理解する　　今日のまとめと自分の考えを整理する
【予習復習に必要な想定時間】
４０分～６０分

第１１回　重複障害教育の実践事例検討④　重度・重複障害児の指導（その２、３）側臥位。　手と足の働き
【key words】
触刺激　　足の操作　　自発　　側臥位　　手の操作

【授業概要】
指導事例２と指導事例３の検討。事例の発表とまとめ。事例を読んで関心のあったこと、気づかされたこと等話し合う。
【教科書ページ・参考文献】
参考書「重度・重複障害障がい児の発達と指導法」(pp.７８－８８）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・本時の指導事例を整理　　次回の事例４，５の予習
【予習復習に必要な想定時間】
４０分～６０分

第１２回　重複障害教育の実践事例検討④重度・重複障害児の指導（その４、５）定頸困難。視覚障害のある重複障害児
【key words】
触刺激　　足の操作　　仰臥位　　手の操作　　姿勢の調整　　バランス

【授業概要】
指導事例４、５の検討。事例の発表とまとめ。事例を読んで関心のあったこと、気づかされたこと等話し合う。
【教科書ページ・参考文献】
参考書「重度・重複障害障がい児の発達と指導法」(pp８９－９６）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の指導事例を整理　　次回の事例６，７の予習
【予習復習に必要な想定時間】
４０分～６０分

第１３回　重複障害教育の実践事例検討④　重度・重複障害児の指導（その６、７）前起こし。机座位

	【key words】 手の操作　垂直軸スイッチ　視覚障害　刺激の受容　姿勢の調整　前起こし 【授業概要】 指導事例６，７の検討。事例の発表とまとめ。事例を読んで、関心のあったこと、気づかされたこと等話し合う。 【教科書ページ・参考文献】 参考書「重度・重複障害障がい児の発達と指導法」(pp.９７－１０７) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本時の指導事例を整理　次回の事例８，９の予習 【予習復習に必要な想定時間】 ４０分～６０分 第１４回　重複障害教育の実践事例検討④　重度・重複障害児の指導（その８、９）初期学習。意思の表出 【key words】 姿勢　感覚と運動　体の部分の役割 【授業概要】 教科書の実践事例８，９の検討。　事例の発表とまとめ。　事例を読んで関心のあったこと、気づかされたこと等話し合う。　今までの重度・重複障害児の実践事例を振り返り、検討する 【教科書ページ・参考文献】 参考書「重度・重複障がい児の発達と指導法」（ｐｐ.１０８-１２０） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回使用する学習指導要領､同解説書から重複障害児の教育課程について。また、医療的ケアについて、進路問題等を調べる。今まで学んだ指導事例から考えたこと等レポート②にしてまとめる 【予習復習に必要な想定時間】 ４０分～６０分 第１５回　重複障害教育の展望と課課（医療的ケア、教育課程、自立活動、進路指導、諸課題） 【key words】 医療的ケア　重複障害教育の教育課程　重複障害教育の課題　自立活動　進路指導 【授業概要】 重度・重複障害児の発達と学習、及び教育課程や自立活動、医療的ケアを含め、重複障害教育の課題と展望について考える。まとめレポート②提出 【教科書ページ・参考文献】 医療的ケアの資料、特別支援学校学習指導要領及びその解説。 教科書「重度・重複障がい児の発達と指導法（ｐｐ.１２－２５） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 今まで学んできたことから課題と展望について考察する。重複障害教育に対する自分の意見をまとめておく。 【予習復習に必要な想定時間】 ４０分～５０分
受講生に関わる情報および受講のルール	①可能であれば重複障害児理解のため特別支援学校もしくは入所施設訪問を計画し、重複障害児の生活の様子を理解する。 ②予習、復習は必ず行うこと、教科書は授業の前に熟読すること。 ③授業で配付する資料の予備は保管しないので、出席者からコピーをしておいてください。 ④授業中に他の学生に迷惑になる行為（私語、携帯電話使用等）は厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	①予習、復習はその都度指示されなくても毎回実施すること。 ②学習の一環として要求された感想文や課題は提出期限を守って提出すること。 ③授業の一環として特別支援学校か入所施設が参観できたら参観するので、日程調節が必要になる場合がある。
オフィスアワー	質問があれば授業終了後１０分間に、またはシャトルカード、メール等に記載すれば次回以降に対応する。
評価方法	①レポート・ミニテスト（内容、適切さ）５０％　②筆記もしくはレポート試験（正確性、客観的、論述）５０％ 総合評価は①②の合計が６０％を超えていること
教科書	アン・サリバン：「ヘレン・ケラーはどう教育されたかーサリバン先生の記録ー」明治図書２０１０
参考書	進　一鷹：「重度・重複障がい児の発達と指導法」　明治図書　２０１０ ヘレン・ケラー：「わたしの生涯」角川文庫　1973　他は授業の中で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 盲教育６年、知的障害教育２５年、肢体不自由教育５年の教育現場で実践教育を積み重ねる。特に障害の重い児童生徒との係わりを通して学んだこと、感じたこと、更に発達障害児の現場などを通して特別支援教育全般について幅広く講じます。 アクティブラーニング要素

	■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 社会福祉特講Ⅱ　　授業コード： S8003

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	2単位(60)	社会福祉コース・福祉心理コース・学校教育コース・児童福祉コース・選択
担当教員			
大久保　圭介・浅川　茂実			
専門科目	講義	社会福祉士指定科目ではないが国家試験受験希望者は履修すること	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 社会福祉士国家試験対策の一環として、履修済み科目についてグループ学習を行う。問題の解説を作成することを通じて、調べる方法や適切なまとめ方、伝える手段を習得することを目的とする。 【到達目標】 ①履修済み科目（1年次及び2年次前期）の基本的事項を説明できる。 ②解説をグループメンバーに理解してもらうために適切な資料を作成し、説明することができる。
授業の概要	履修済み科目の国家試験の問題（過去問等）に取り組み、グループで解説を作り説明することでグループでの学習をすすめる。 社会福祉士国家試験の受験に向け、過去問題等を活用し試験の内容や傾向に慣れ、自己学習を各自が進められるようにする。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回　オリエンテーション及び第2回～第4回準備作業（グループワーク） 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２回　人体の構造と機能及び疾病／心理学理論と心理的支援／社会理論と社会システム（グループワーク） 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第３回　福祉行財政と福祉計画／保健医療サービス（グループワーク） 【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第４回　相談援助の基盤と専門職／高齢者に対する支援と介護保険制度（グループワーク）

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第５回　確認テスト【第1回】

【key words】

【授業概要】

第1回～第4回までの範囲の中から小テストを行う。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第６回　第7回～第9回準備作業（グループワーク）

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第７回　人体の構造と機能及び疾病／心理学理論と心理的支援／社会理論と社会システム（グループワーク）

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第８回　福祉行財政と福祉計画／保健医療サービス（グループワーク）

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第９回　相談援助の基盤と専門職／高齢者に対する支援と介護保険制度（グループワーク）

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１０回　確認テスト【第2回】

【key words】

【授業概要】

第7回～第9回までの範囲の中から小テストを行う。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１１回　第12回～第14回準備作業（グループワーク）

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１２回　人体の構造と機能及び疾病／心理学理論と心理的支援／社会理論と社会システム（グループワーク）

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１３回　福祉行財政と福祉計画／保健医療サービス（グループワーク）

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１４回　相談援助の基盤と専門職／高齢者に対する支援と介護保険制度（グループワーク）

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１５回　前期まとめ講義

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１６回　オリエンテーション及び第17回～第19回準備作業（グループワーク）

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１７回　人体の構造と機能及び疾病／心理学理論と心理的支援／社会理論と社会システム（グループワーク）

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１８回　福祉行財政と福祉計画／保健医療サービス／社会調査の基礎（グループワーク）

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１９回　相談援助の基盤と専門職／高齢者に対する支援と介護保険制度（グループワーク）

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２０回　確認テスト【第3回】

【key words】

【授業概要】
第17回～第19回までの範囲の中から小テストを行う。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２１回　第22回～第24回準備作業（グループワーク）

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２２回　人体の構造と機能及び疾病／心理学理論と心理的支援／社会理論と社会システム（グループワーク）

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２３回　福祉行財政と福祉計画／保健医療サービス／社会調査の基礎（グループワーク）

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２４回　相談援助の基盤と専門職／高齢者に対する支援と介護保険制度（グループワーク）

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２５回　確認テスト【第4回】

【key words】

【授業概要】
第22回～第24回までの範囲の中から小テストを行う。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２６回　第27回～第29回準備作業（グループワーク）

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２７回　人体の構造と機能及び疾病／心理学理論と心理的支援／社会理論と社会システム（グループワー

	ク） 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２８回　福祉行財政と福祉計画／保健医療サービス／社会調査の基礎（グループワーク） 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２９回　相談援助の基盤と専門職／高齢者に対する支援と介護保険制度（グループワーク） 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第３０回　後期まとめ講義 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	①すでに履修済みの科目をグループワークを行うことから、教科書を持参することが望ましい。 ②グループワークを行う回は、担当の問題の解説を次回までに作成をすること。（1問につきA4　1枚程度） ③解説はグループのメンバー分及び提出分をコピーしてくること。 解説の作成に際しての評価基準は以下の通りである。 優（5点）・・・適切な正答・解説が示されているだけでなく、図表や関連する用語なども含め、受講生にとってわかりや すい記述がされているもの 良（3点）・・・適切な正答が示されており、なおかつ必要な解説がなされているもの 可（1点）・・・適切な正答が示されているものの、解説が殆どされていないもの 不可（0点）・・・提出がされていない／提出されたものの記述が非常に乏しいもの ※なお、提出に遅延が見られた場合には1段階低い評価とします
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード又はそれに準じる提出物
授業外時間にかかわる情報	①グループワークを行う回は、担当の問題の解説を次回までに作成をすること。（1問につきA4　1枚） ②自分の担当の問題以外も調べておくことが望ましい。
オフィスアワー	授業内で説明する。
評価方法	定期試験30%、確認テスト20%、担当する問題の解説の作成50%（具体的な評価については受講のルールを参照のこと）※ただし、定期試験において、60 点に満たない場合は再試験とする。
教科書	1年次及び2年次前期に使用した各科目の教科書
参考書	社会福祉小六法　社会福祉用語辞典（出版社は指定しないが、最新版のもの）
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 社会福祉領域における利用者への相談対応などを中心とした実務経験を有する。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

	情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 基礎演習Ⅱ

授業コード： S9011　S9012　S9013　S9014
S9015　S9016　S9017

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	2単位(60)	必修
担当教員			
大久保　圭介・三橋　真人・後藤　雅彦・原　純子・櫻井　秀雄			
基礎教養科目	演習		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 本学の建学の精神・教育目的に基づき、基礎演習Ⅱにおいては基礎演習Ⅰで行った初年次教育のステップアップとして、礼儀・挨拶、ボランティア活動、環境美化活動に工夫しながら自主的に取り組み、人間としての基礎的教養力と自律的実践能力を確実なものとする。また、基礎演習の集大成となる研究小論文の作成により、研究テーマを自主的に設定し、適した研究方法に基づき収集した資料を駆使して問題の構造を明らかにするなかで学士力の向上を図る。 〔到達目標〕 1　礼儀・挨拶、ボランティア活動、環境美化活動に自主的に取り組み、工夫して行うことができる。 2　研究小論文の完成を目指す。 3　昌賢祭の研究発表を通して、問題解決能力やコミュニケーション能力を身につける。
授業の概要	授業を①建学の精神と実践教育、②学士力育成、③進路・資格取得、④地域貢献、⑤心身の健康の５つのプログラムから構成し、建学の精神に則り、ボランティア活動、環境美化活動、挨拶等の礼儀作法に人間としての基礎的教養力と自律的実践能力の涵養と、研究小論文作成にむけて、読書力、読解力、問題解決能力、コミュニケーション能力を高め、学士力の向上を図る。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	○
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	◎
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	◎
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回	建学の精神と実践教育プログラム①：基礎演習Ⅱオリエンテーション 【key words】 学長訓話・学部長講話、基礎演習Ⅱのスケジュール 【授業概要】 ・学長先生の訓話、学部長先生の講話を聞き、大学２年目の各自の目標が達成できるように、計画的に進める。　・基礎演習Ⅱのスケジュールを確認する。　・クラス担任とクラス運営方針を確認しあい、２年次が充実した一年となるよう計画を立てる。　・本時の学修をワークシートにまとめ、担任に提出する。 【教科書ページ・参考文献】 参考文献　鈴木利定・中田勝共著「威有一徳」（2002）中央法規 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習として、2年次の目標を基礎演習ノートに記入しておくこと。授業後、学長先生の訓話、学部長先生の講話の内容を基礎演習ワークシートにまとめておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第２回	学士力育成プログラム①：研究小論文の作成の概要、研究倫理 【key words】 小論文の書き方、研究倫理 【授業概要】 小論文の書き方、組み立て方、テーマの設定方法を学ぶ。提出締め切りや発表のスケジュールに

		ついて知る。 【教科書ページ・参考文献】 学習技能研究会『知へのステップ』くろしお出版 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習として『知へのステップ』103～125ページを読み、論文の書き方を確認しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第３回	進路・資格取得プログラム①：自己表現テスト＋図書館オリ① 【key words】 自己表現テスト 【授業概要】 自己表現テストに取り組み、自分自身を知る。なお、テストは１時間なので、小論文のための図書館オリエンテーション一回目(図書館職員の説明)をテスト前に行う。 【教科書ページ・参考文献】 自己表現テスト 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自己PRできること、自分の興味・関心について考えておく。また、結果をもとに、自分らしさや自己PRを上手に表現できるようにする。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第４回	進路・資格取得プログラム②：就職常識テスト＋図書館オリ② 【key words】 就職常識テスト、一般常識 【授業概要】 就職常識テストで、日本語能力と数理的能力分野の自己課題を確認し、自主学習の課題を探る。なお、テストは１時間なので、小論文のための図書館オリエンテーション二回目(図書館職員の説明)をテスト前に行う。 【教科書ページ・参考文献】 就職活動の一般常識の対策本やアプリ等 【課題・予習・復習・授業準備指示】 就職活動の一般常識の対策本やアプリ等を用いて、問題を解く。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第５回	学士力育成プログラム②：研究小論文のテーマ設定 【key words】 問いを立てる、テーマと背景 【授業概要】 現時点での興味関心のあるテーマを、体育館でのグループワークで自由に話し合ってみる。 【教科書ページ・参考文献】 『知へのステップ』103～125ページを読み、論文の書き方を確認しておくこと。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 小論文のテーマについて、自分の興味・関心を振り返ってメモしておく。小論文のテーマに関する資料取集を行う。執筆のスケジュールを立てる。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第６回	心身の健康プログラム①：SST(ソーシャルスキルトレーニング) 【key words】 コミュニケーション 【授業概要】 外部の専門家を招聘し、どのような言動が対話となって伝わるのかを練習することを通して、将来、福祉・介護・保育・教育職をめざす上で、どんなスキルが求められるのかについて学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 SST(ソーシャルスキルトレーニング) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自らの問題としてとらえ、学び得たことを基礎演習ワークシートにまとめておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第７回	学士力育成プログラム③：研究小論文の文献検索 【key words】 研究小論文の文献検索 【授業概要】 クラス単位で時間を設け、図書館での文献検索を全員で行う。小論文には図書館の文献を一冊以上は引用する。 【教科書ページ・参考文献】 知へのステップ、収集資料等 【課題・予習・復習・授業準備指示】 図書の貸出手続を行い、諸論文執筆への準備を進める。 【予習復習に必要な想定時間】 120分
	第８回	心身の健康プログラム②：がんやストレス、たばこの害 【key words】 がん検診の啓発、ストレス、たばこの害 【授業概要】 外部の専門家を招聘し、がん検診の必要性、ストレスへの対応、たばこの害と健康への影響などについて学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 講義資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自らの問題としてとらえ、学び得たことを基礎演習ノートにまとめておく。

【予習復習に必要な想定時間】
60分

第９回　地域貢献プログラム①：地域とのかかわりⅠ　昌賢祭の意義，テーマ，制作・発表
【key words】
昌賢祭、テーマ設定、発表、制作
【授業概要】
昌賢祭について、クラス、学年として、どのような意義を見出し、今年度のテーマとするかを議論する。発表・制作内容について考える。イベント委員が中心となって進める。
【教科書ページ・参考文献】
昌賢祭スケジュール表等
【課題・予習・復習・授業準備指示】
クラス員一丸となって制作活動・発表準備にあたること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１０回　地域貢献プログラム②：地域とのかかわりⅡ　昌賢祭の制作活動・発表準備
【key words】
昌賢祭、制作・発表準備

【授業概要】
クラスごとに昌賢祭実行委員が主体となって制作活動・発表準備を行う
【教科書ページ・参考文献】
昌賢祭スケジュール表等
【課題・予習・復習・授業準備指示】
クラス員一丸となって制作活動・発表準備にあたること
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１１回　地域貢献プログラム③：地域とのかかわりⅢ　昌賢祭の制作活動・発表準備まとめ
【key words】
昌賢祭、制作・発表最終チェック
【授業概要】
昌賢祭実行委員を主体として最終準備、チェックを行い来場者にしっかりと趣旨を伝えられるようにする。
【教科書ページ・参考文献】
昌賢祭スケジュール表等
【課題・予習・復習・授業準備指示】
昌賢祭の最終チェック
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第１２回　学士力育成プログラム④：研究小論文の中間報告
【key words】
研究小論文の進捗状況と考察、中間報告
【授業概要】
小論文の結果を見据えた進捗状況と考察を行う（研究小論文中間報告）。クラスやグループで、小論文の進捗状況について助言し合う。
【教科書ページ・参考文献】
知へのステップ、収集資料等
【課題・予習・復習・授業準備指示】
中間報告用のレジュメを作成しておく。諸論文執筆を進めておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１３回　進路・資格取得プログラム③：先輩学生が伝えたい事
【key words】
4年生講話
【授業概要】
進路が決定した先輩から、学生生活、ボランティア、資格取得の勉強、就職活動等の話を聴くことで今後の学修の参考として活かす。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
4年生に質問してみたいことを基礎演習ワークシートにメモしてくる。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１４回　学士力育成プログラム⑤：研究小論文のクラス内発表会
【key words】
クラス内発表会、クラス代表者の選出
【授業概要】
これまでの成果を発表するとともに、クラスメイトの発表内容を聴き、理解に努める。全体発表会のクラスの代表を決定する。
【教科書ページ・参考文献】
発表資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
発表練習をしておく。振り返りとして、自分の研究についてわかりやすく伝えられたかどうかまとめておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１５回　建学の精神と実践教育プログラム②・学士力育成プログラム⑤：後期まとめ、各クラス代表者による研究小論文発表
【key words】
研究小論文全体発表会、基礎演習まとめ、演習ファイルの整理、授業アンケート

【授業概要】
各クラスの代表者による研究小論文の発表会を行う。司会進行、タイムキーパーは、クラスリー

	ダー、サブリーダーを中心に学生が行う。後期のまとめを行うとともに演習ファイルを整理し担任に提出する。また、３年次への心構え等についてもしっかりと認識する。 【教科書ページ・参考文献】 演習ファイル、研究小論文集 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ２年次の振り返りをノートにまとめておく。３年次の目標を考えておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

【key words】

	【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	1　基礎演習は、本学の人間教育の要である。そのことに深く留意して取り組むこと。 2　私語は慎み、出欠席の状況や受講態度等本学の学生にふさわしい態度で臨むこと。 3　全体オリエンテーション等の学校行事は必ず出席すること。 4　座席を指定する。なお、携帯電話は指示のあった場合を除き電源を切り机上に置かないこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	Webポータルサイトのスレッドを活用
授業外時間にかかわる情報	図書館の利用、資料収集や作成に要する時間は、授業時間外の活用が必須である。
オフィスアワー	各担当者に確認すること
評価方法	研究小論文（４０％）、課題等の提出状況及び成果物（３０％）、取り組み状況（３０％）を総合して評価する。
教科書	1　鈴木利定・中田勝（著）『咸有一徳』中央法規，2002年。 2　学習技術研究会『知へのステップ』くろしお出版，2002年。
参考書	授業で適宜紹介していく。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 本科目は複数名の教員がクラス別で指導を行っている。 従って、それぞれの教員の実務経験の内容は異なるが、これらを加味した上で、 基礎演習を展開していく。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 福祉情報処理　　授業コード： S1141

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	2単位(30)	選択
担当教員			
藤本　壱			
基礎教養科目	演習		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 実社会で不可欠な「伝える能力」に主眼を置き、PowerPointの操作技術習得と共に、情報収集能力・プレゼンテーション能力・資料作成能力の向上を目的とする。 【到達目標】 ①プレゼンテーション本来の意味を理解し、実践できる。 ②Powerpointを様々な資料作成に活用できる。 ③様々な機能を駆使してデザイン力の高い資料を作成できる。
授業の概要	本講義では、PowerPointの操作技術習得と共に、「伝える力」「コミュニケーション力」を習得する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	△
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	◎
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	△
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回　オリエンテーションとプレゼンテーションの基本 【key words】 プレゼンテーション 【授業概要】 ・オリエンテーション ・プレゼンテーション作成前の準備（目的の明確化など） ・プレゼンテーション発表前の準備（リハーサルなど） ・プレゼンテーション発表後の作業（フォローなど） 【教科書ページ・参考文献】 7～19ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 プレゼンテーション前の準備や、発表後のフォローアップなどの流れを復習する 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第２回　プレゼンテーションの作成(1) 【key words】 プレゼンテーション、スライド 【授業概要】 ・プレゼンテーションの新規作成 ・初期設定（スライドサイズ、デザインの設定） ・スライドの作成（文字の入力、書式の設定） 【教科書ページ・参考文献】 21～43ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 プレゼンテーションの新規作成から入力までの流れを復習する 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第３回　プレゼンテーションの作成(2) 【key words】

		スライド 【授業概要】 ・既存のスライドの再利用 ・Word文書の利用 ・スライドのリセット ・Excelデータの利用 【教科書ページ・参考文献】 44～57ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 既存のデータをプレゼンテーションで活用する方法を復習する 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第４回	訴求力のあるスライドの作成(1) 【key words】 表、罫線、セル 【授業概要】 ・表の作成 ・罫線の設定 ・セルの塗りつぶしと結合 ・セルの余白の設定 【教科書ページ・参考文献】 88～97ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 表を効果的に扱って見やすいプレゼンテーションを作ることができるようにする 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第５回	訴求力のあるスライドの作成(2) 【key words】 グラフ 【授業概要】 ・グラフの元データの作成 ・グラフ要素の追加と削除 ・グラフ要素の書式設定 【教科書ページ・参考文献】 98～107ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 グラフでデータを視覚的に表すことができるようにする 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第６回	訴求力のあるスライドの作成(3) 【key words】 図形、SmartArt 【授業概要】 ・図形の作成 ・図形の書式設定 ・SmartArtグラフィックの作成 ・SmartArtグラフィックの書式設定 【教科書ページ・参考文献】 108～129ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 図形やSmartArtを活用してわかりやすいスライドを作る 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第７回	瓦版の作成(1) 【key words】 レイアウト、配色、背景 【授業概要】 ・ページレイアウトの設定 ・配色の設定 ・背景画像の設定 ・図形の詳細な書式設定 【教科書ページ・参考文献】 143～155ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 瓦版を作る際の様々な作業を復習する 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第８回	瓦版の作成(2) 【key words】 ワードアート、テキストボックス、段組み 【授業概要】 ・ワードアートの作成 ・テキストボックスの作成 ・段組みの作成 ・画像の配置 ・スクリーンショットの利用 【教科書ページ・参考文献】 156～175ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 見やすい瓦版を作成することができるようにする 【予習復習に必要な想定時間】 30分

	第９回	カタログ冊子の作成 【key words】 スライドマスター 【授業概要】 ・Word文書の利用 ・スライドのリセット ・スライドマスターの設定 【教科書ページ・参考文献】 156～175ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 カタログ冊子作成の際に使う機能を理解する 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１０回	動きのあるプレゼンテーション 【key words】 画面切り替え、アニメーション 【授業概要】 ・画面切り替えの設定 ・アニメーションの設定 ・動画の利用 【教科書ページ・参考文献】 177～209ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 プレゼンテーションの動きを付けて訴求力を高められるようにする 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１１回	配布用飼料の作成 【key words】 ノート、PDF、印刷 【授業概要】 ・ノートの作成 ・配布資料の印刷 ・スライドのPDF化 ・資料のインターネットでの公開 【教科書ページ・参考文献】 スライド資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布資料を作成し配布できるようにする 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１２回	プレゼンテーションの実行 【key words】 スライドショー、リハーサル 【授業概要】 ・スライドショーの実行 ・スライドにペンで書きこむ ・リハーサルの実行 ・目的別スライドショーの作成 【教科書ページ・参考文献】 スライド資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 スライドショーやリハーサルの操作を覚えて実際の発表を行えるようにする 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１３回	プレゼンテーション作成実習 【key words】 実習 【授業概要】 ・課題に沿ってプレゼンテーションを作成 【教科書ページ・参考文献】 なし 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題に沿ったプレゼンテーションを作成し、発表の準備をする 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第１４回	プレゼンテーション発表 【key words】 発表 【授業概要】 ・1人ずつ順番にプレゼンテーション発表 【教科書ページ・参考文献】 なし 【課題・予習・復習・授業準備指示】 発表が終わった人は自分の発表を振り返る 発表がこれからの人は練習する 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１５回	プレゼンテーション発表 【key words】 発表 【授業概要】 ・1人ずつ順番にプレゼンテーション発表

	【教科書ページ・参考文献】 なし 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分の発表を振り返る 【予習復習に必要な想定時間】 30分
受講生に関わる情報および受講のルール	[受講生に関わる情報] ・ファイル保存用にUSBメモリを持参すること。 [受講のルール] ・積極的に授業に臨むこと。 ・実習形式の授業なので、話を聞くだけでなく、手を動かしてパソコンの操作を身につけること。 ・授業に関係のないこと（例：YouTubeを見る）をしないこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	教科書の練習問題等を利用して復習すること
オフィスアワー	授業前後20分。
評価方法	・平常点（50%） ・レポート課題（50%）
教科書	よくわかるPowerPoint2013ビジネス活用編　FOM出版
参考書	必要に応じて適宜指示する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 Office関係の雑誌原稿執筆多数あり コンピュータ関連書籍執筆多数あり アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： レクリエーション活動援助法　　授業コード： S2223

英文科目名称： Assistance method of recreational activities

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	2単位(60)	選択
担当教員			
田口　敦彦			
基礎教養科目	演習		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] レクリエーション活動の社会的意義を理解し、福祉施設、医療機関、学校等様々な活動の場面における適切なレクリエーション支援の在り方や技術を身につけ、良好な人間関係を構築し、人々が笑顔に満ちた豊かなライフスタイルを確立できるように、公認指導者資格を有する支援者 （レクリエーション・インストラクター） として、実践できるようになることを目的とする。また医療、福祉を学ぶ者として虚弱(フレイル) 高齢者を対象とした運動機能向上トレーニングの方法についても理解を深める。 [到達目標] 1.福祉分野や教育分野などで、高齢者や子どもなどの対象者の心の元気づくりの手助けをすることができる。 2.1 対1、1 対集団といった場面で、コミュニケーションを促進する力を身につけている 3.既存のアクティビティを、対象に合ったアクティビティへとアレンジする力を身につけている 4.対象者の主体性や協調性を引き出す力を身につけている 5.福祉施設や保育や学校教育など、現場に応じたレクリエーションプログラムを企画・展開する力を身につけている 6.虚弱(フレイル) 高齢者の身体的側面、精神的側面、社会的側面にアプローチすることができる。
授業の概要	年代ごとの課題や特徴ををを知り、対象者のニーズに沿ったふさわしい形で提供できるレクリエーション活動の計画づくりを行い、対象者の元気や活力づくりの意欲を高め、自立・自律的な活動展開を支援できるよう学ぶ。レクリエーション活動支援に必要な理論と基礎技術を身につけ、様々な現場・対象者に快い楽しさのレクリエーションを提供することや良好な人間関係を構築し、楽しさの雰囲気づくりの方法を体験を通して学習する。対象者の成長や満足、達成感、充実感を獲得するためのレクリエーションプログラムの作成、発表。さらに身体的、知的、社会的活動（脳トレ、体操等）を通して高齢者へ介護予防運動が実践できる指導技術を身につける。 ※教室で実施る講義でも脳トレ、体操、手遊び、歌遊びなどの実技活動を必ず取り入れる。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	◎
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	○
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	◎
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回　　科目オリエンテーション　　福祉サービスにおけるレクリエーション援助の役割 【key words】 生きがい、基本的人権、良循環 【授業概要】 余暇活動におけるレクリエーション援助の役割を理解する。さらに基本的人権としてレクリエーション活動が位置づけられていることも同時に学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 参考書　レクリエーション活動援助法P2～P7 【課題・予習・復習・授業準備指示】 これからレクリエーションを活用して人々や地域を支える支援者にとってのレクリエーションの在り方について考えてみる。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間

	第２回	レクリエーション概論　　レクリエーションという言葉の主旨 【key words】 RE-CREATE　再生　再創造 【授業概要】 レクリエーションという言葉の由来や、様々な学説・定義から、レクリエーションがどのようにとらえられてきたかを理解し、その捉え方からレクリエーションの基本的な考え方を確認する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P10～11　参考書　レクリエーション活動援助法P10～P11 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分がいままで体験してきたレクリエーション活動についてどのような活動があったのか思い出してみる。さらにその活動が、福祉分野においてどのように活用できるのかを考えてみる。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第３回	レクリエーション概論　　レクリエーション支援　　日常生活援助の実践的アプローチ 【key words】 生活の快論　（垣内理論）心身と生活の活性化 【授業概要】 日常生活援助の実践的アプローチについての概念を学ぶ。今までの健康な人のみにしか想像できないレクリエーションの考え方から、レクリエーションがすべての人が享有すべきものであり、権利でなくてはならない考え方に基づいたレクリエーションへの考え方を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 レクリエーション支援を学ぶ上で重要な考え方を学んだ。日常生活の中で本講義で学んだ概念をどのように活かせるか考えておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第４回	レクリエーション概論　レクリエーション支援 【key words】 生活者　支援者　人を支える　基本的人権 【授業概要】 生活者、支援者という2つの視点から日常のレクリエーションが期待されていることを確認する。さらに人を支えていく支援者にとってのレクリエーションについて理解を深める。”心が動く”とはどのようなことかを映画【レナードの朝】から学習する。 【教科書ページ・参考文献】 映画　レナードの朝https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%AC%E3%83%8A%E3%83%BC%E3%83%89%E3%81%AE%E6%9C%9D 【課題・予習・復習・授業準備指示】 映画鑑賞のレポート提出 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第５回	日常生活援助を支えるもの　コミュ二ケーション 【key words】 聞く（hear）　聴く(listen)　訊く(ask) 【授業概要】 福祉サービスの利用者が「生活の快」を感じ、「心身と生活の活性化」を手に入れるには、援助者とのコミュニケーションをうまく成立させることが最低限の条件であることを理解する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 高齢者の方と同じステージに立てる人材になるためにはどのような情報が必要になるか。80代の方とコミュ二ケーションを取り、その対象者の心を動かす支援をするにはどうすれば良いか考えておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第６回	余暇時間と余暇時間の概念 【key words】 余暇時間 【授業概要】 福祉施設入所者の余暇時間について整理し、日常のレクリエーションについて考え方を深める 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分自身における日常・非日常のレクリエーションが何かを整理する 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第７回	基礎理論　生活のレクリエーション化　社会福祉の理念から見たレクリエーション 【key words】 生活のレクリエーション化 【授業概要】 レクリエーションを生活の軸に生活を遊び化してく支援の在り方を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 参考書　レクリエーション活動援助法P19～P23 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回の講義でレクリエーションの生活化を学習する。本講義を良く整理しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第８回	基礎理論　レクリエーションの生活化 【key words】

		レクリエーションの生活化 【授業概要】 日常生活において余暇の獲得とその充実を通して自律的な余暇生活の確立を目指すことを理解する。 【教科書ページ・参考文献】 参考書　レクリエーション活動援助法P19～P23 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回の講義で学習した生活のレクリエーション化と本講義を良く整理しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第９回	介護予防評価学　筋力向上トレーニング　実技 【key words】 おたしゃ21　老研式活動能力指標　SF-36　SF-8　MFS 【授業概要】 質問紙を使った調査、運動機能検査などの実施方法についてポイントを押させ、正確・厳密にかつ対象者にストレスなく実施する必要がある。また筋力向上トレーニングの実施方法についてに理解を深める 【教科書ページ・参考文献】 東京都健康長寿医療センター　https://www.tmghig.jp/research/team/shiencenter/ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 いくつかの質問紙を紹介する。質問項目を聴取する時の注意点をまとめておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第１０回	日常生活におけるレクリエーションの捉え方 【key words】 基礎生活　社会生活　　余暇生活 【授業概要】 近年、余暇活動にとどまらず「人間性の回復・再創造」など広義的に理解されている。福祉領域においては利用者の主体性をより尊重し、より楽しい生活を実現していくということを理解する。 【教科書ページ・参考文献】 参考書　レクリエーション活動援助法P39～P42 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ライフスタイルと基本的欲求の関係を確認しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第１１回	日常生活の３領域とレクリエーション援助の関係 【key words】 基礎生活　社会生活　　余暇生活　ライフスタイル　基本的欲求 【授業概要】 福祉領域に含まれる「レクリエーション」の在り方を理解するとともに、日常生活の３つの領域(基礎生活、社会生活、余暇生活)についてどのような援助が望ましいか理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 参考書　レクリエーション活動援助法P43～P48 【課題・予習・復習・授業準備指示】 それぞれの領域における必要なレクリエーション援助について確認しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第１２回	レクリエーションワーカーとしての資質 【key words】 レクリエーションインストラクター　日本レクリエーション協会 【授業概要】 インストラクターが計画されたプログラムを実施するためには、専門的な知識、技術、豊かな経験持っているだけでなく、その人の人間性が重要でることを理解する。 【教科書ページ・参考文献】 日本レクリエーション協会　ホームページ　https://shikaku.recreation.or.jp/ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第１３回	レクリエーション支援のためのゲーム　実技 【key words】 フレイル　身体機能、社会性、認知機能向上トレーニング 【授業概要】 歌遊び、手遊び、ニュースポーツなどを行う。対象者に応じたレクリエーション財や素材などについて理解する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 歌遊び、手遊び、ﾆｭｰｽﾎﾟｰﾂについて調べ、実技を体得すること 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第１４回	介護予防概論、地域づくりによる介護予防 【key words】 健康寿命　老年症候群　ハイリスクアプローチ　ポピュレーションアプローチ　エイシズム 【授業概要】

		身近な地域（コミュニティ)とより広い範域の(リージョン)。それぞれの地域が抱える課題を理解し、解決するためのレクリエーションの活用について考えてみる。健康度を見ると身体機能のみならず、社会的側面に注目することも重要であり、その基盤は「外出」と「交流」の促進であることを理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P142～157 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分の住む地域を調べ、レクリエーションを活用して働きけることができる課題についてあげてみる。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第１５回	まとめ（評価・ふりかえり） 【key words】 【授業概要】 前期　授業の振り返りとテストについての確認を行う。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前期テストにむけて配付プリント　ノートを整理しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第１６回	行動科学特論 【key words】 トランスセオレティカルモデル　セルフエフィカシー　バンデューラ　スキナー 【授業概要】 健康行動はきっかけとなる刺激(先行刺激）やその行動によって生じた結果によって大きく影響を受ける。バンディーラによって提唱されたセルフィエフィカシーが健康行動と深い関係があることを理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P70～P81 【課題・予習・復習・授業準備指示】 行動変容の定着を促す具体的な方法として、いくつかの行動変容技法がある。技法について整理しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第１７回	フレイル・サルコペニアについて①　特論 【key words】 フレイル　サルコペニア 【授業概要】 フレイルの概念、定義について理解する。フレイル予防の具体策は基礎体力を維持する運動の実践、多様な食品摂取による十分な栄養摂取、社会とのかかわりを持ち続けることに集約されることを理解する。 【教科書ページ・参考文献】 東京都健康長寿医療センター　補助資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 フレイル、サルコペニアの概念的義について説明できるようにしておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第１８回	フレイル・サルコペニアについて②　予防　-実技- 【key words】 フレイル　サルコペニア 【授業概要】 フレイルは、筋力低下などの身体的要素、認知症やうつなど精神的・心理的要素、独居や経済的困窮などの社会的要素で構成されます。これらのことを理解し、フレイルを予防するための取組、方法について理解する。　　健康長寿ネット　https://search.yahoo.co.jp/search?ei=UTF-8&fr=mcafeess1&p=%E3%83%95%E3%83%AC%E3%82%A4%E3%83%AB%E3%81%A8%E3%81%AF 【教科書ページ・参考文献】 東京都医師会　https://www.tokyo.med.or.jp/citizen/frailty 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記の資料、動画等を事前に確認しておくこと　実技については自分で主体的に活動ができるようにしておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第１９回	支援論　治療的意味合いを含めたレクリエーション　　セラピューティックレクリエーションサービス① 【key words】 レクリエーション療法、セラピューティックレクリエーション 【授業概要】 治療的な意味合いを含めたレクリエーションについて、レクリエーション療法とセラピューティックレクリエーションの二つの方向性があることを理解する。 【教科書ページ・参考文献】 参考書　レクリエーション活動援助法(中央法規）　P150～P168 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第２０回	支援論　治療的意味合いを含めたレクリエーション　　セラピューティックレクリエーションサービス② 【key words】 レクリエーション療法、セラピューティックレクリエーション　フロー　チクセントミハイ

【授業概要】
治療的な意味合いを含めたレクリエーションについて、レクリエーション療法とセラピューティックレクリエーションの二つの方向性があることを理解する。
【教科書ページ・参考文献】
参考書　レクリエーション活動援助法(中央法規)　P150～P168

【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回からレクリエーション計画の策定について学習を進めるが、どんなプログラムができそうかイメージを膨らませておく。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第２１回　目的にあわせたレクリエーションワーク　対象者間の相互作用の活用法
【key words】
素材・アクティビティ、ハードル設定　CSSプロセス
【授業概要】
達成感の積み重ねが対象者の有用感・自尊感情を満たし、前向きな姿勢や意欲を引き出すこと、ハードルの設定について理解する。さらに対象者間の相互作用が、対象者自ら支援の目的に近づく原動力となる原則を確認する。活用する基本技術としてのCSSプロセスについても理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
素材、アクティビティの選択が支援者の思いと対象者の目標により、慎重に検討されていることを確認しておくこと。また、目的に合わせたレクリエーションワークを構成する3つの技術について確認しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】

第２２回　目的にあわせたレクリエーションワーク　　歌　体操　　実技
【key words】
ハードル設定　CSSプロセス
【授業概要】
乳幼児から高齢者まで幅広い支援の対象者に好まれている歌や体操を用いて、支援の良い手段として「素材・アクティビティ」を活用する技術を理解する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
リズム手遊びにみるハードルの設定について確認しておく。普段の遊びの中からCSSプロセスを実践してみる。今回、紹介した技術を自分たちでも実践できるように復習しておくこと

【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第２３回　転倒予防　失禁予防　　実技
【key words】
転倒予防　大腿頸部骨折　失禁予防　腹圧性失禁　切迫性失禁
【授業概要】
地域在住高齢者における過去1年間の転倒率は10%～20%である。転倒には内的要因と外的要因があることを理解する。失禁は、加齢に伴う心身機能低下によって生活機能障害を生じる老年症候群であることを理解する。これらの予防には運動指導が効果があることを知り、実施できるようになる。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
トレーニングメニューについて整理しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】

第２４回　レクリエーション支援のプログラム　事業計画　レクリエーション事業とは
【key words】
マズロー５段階欲求説　生活の快　動機付け　A-PIEプロセス
【授業概要】
レクリエーションプログラムを計画する際の基本的な考え方について理解する。また利用者のレクリエーションニーズの実現とレクリエーションの動機づけについて理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
教科書　P162～P169　参考書　楽しさの追求を支える理論と支援の方法P26～P27
【課題・予習・復習・授業準備指示】
自分の得意とすることを活かしてどんな事業が展開できるかイメージを膨らませておくこと。

【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第２５回　レクリエーション支援のプログラム　アセスメントに基づいたプログラム計画　A-PIEプロセス～ニーズの確認　目標設定　展開　期待される効果　～
【key words】
A-PIEプロセス
【授業概要】
A－PIEプロセスの手順とそれぞれのステップで考慮しなくてはならない事柄について理解を深める。事例に基づき支援計画の作成方法を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書　P184～P195　参考書　楽しさの追求を支える理論と支援の方法P40～P45
【課題・予習・復習・授業準備指示】
A-PIEプロセスについてテキストにでている事例を確認しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第２６回　レクリエーション支援のプログラム　レクリエーション事業のプログラムの組み立て方～集団を介して個人にアプローチする支援計画のつくり方～
【key words】

	レクリエーションプログラム総合計画　A-PIEプロセス 【授業概要】 福祉レクリエーション総合計画の基本的な考え方に基づき計画前の確認を行う。その後、展開の技術について理解を深め、グループごとにレクリエーションプログラムの作成を行う。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P162～P195　　参考書　楽しさの追求を支えるサービスの企画と実施P30～P43 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実際に自分たちが将来活躍するであろう施設や病院をイメージしながら、レクリエーション実施の一連の流れを確認しておくこと。その際に、支援者の対象者への思いを必ず確認すること。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
第２７回	レクリエーション支援のプログラム　　レクリエーションプログラムの計画発表及び実践 【key words】 レクリエーションプログラム総合計画 【授業概要】 福祉レクリエーション総合計画の基本的な考え方に基づきそれぞれのグループごとに発表を行う。発表に際して、プログラムの目的の明確化、利用者の心を動かすプログラム内容であったかを評価する。(質疑応答含む) 【教科書ページ・参考文献】 教科書P162～P195 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実際に自分たちが将来活躍するであろう福祉施設や病院等をイメージしながら、レクリエーション実施の一連の流れを確認しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
第２８回	リスクマネジメント　リスクマネジメントの方法～ 【key words】 リスクマネジメント 【授業概要】 レクリエーション活動における安全管理の必要性と方法について学習し、自己だけでなく犯罪や災害をも視野に入れた安全管理の考え方について理解を深める。対象者の持病の悪化、転倒、外傷、意識障害など事前のメディカルチェックで睡眠、生活歴などの問診、バイタルサインなどの確認が必須であることを理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P208～P223　参考書　楽しさの追求を支えるサービスの企画と実施P30～P43 【課題・予習・復習・授業準備指示】 子ども、高齢者のプログラムイベントでどんなリスクがあるか確認しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
第２９回	認知症予防運動プログラム　コグニサイズ　実技 【key words】 コグニサイズ　国立長寿医療研究センター 【授業概要】 認知症を患う人数は、今後大きく増えることが予想され、2025年には700万人を超えるとされてる。このような背景の中で、国立長寿医療研究センターでは、ＭＣＩ（認知症ではないが正常とも言えない状態）の段階で、運動と認知トレーニングを組み合わせた「コグニサイズ」の実施が、認知機能の低下を抑制することを明らかにした。講義ではこのコグニサイズを取り上げ実施する。 国立長寿医療研究センターは、認知症になる方を少しでも減らすことを目指して「コグニサイズ」の普及をしている。 【教科書ページ・参考文献】 国立長寿医療研究センター https://www.ncgg.go.jp/hospital/kenshu/kenshu/27-4.html 【課題・予習・復習・授業準備指示】 認知機能と身体機能を使った運動を行う。実践後は活動内容を忘れないように整理しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】
第３０回	一年間のまとめ（評価・ふりかえり） 【key words】 【授業概要】 1年の授業の振り返りとテストについての確認を行う。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 後後期試験に向けてノート、プリントを整理しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
受講生に関わる情報および受講のルール	・出席を重視し、授業態度を評価するので積極的で反応の良い授業参加を心がけること。また支援者として好感のもてる 態度、身だしなみを心掛けること。 ・授業シラバスを必ず確認すること。 ・グループ活動は仲間と協力して作業をすすめること。自分勝手な行動をとる受講者は減点の対象とする。 ・遠隔授業にて受講する場合はにはカメラ機能をオンにすること。通信環境により実施できない場合は申し出ること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	各地で開催される、大会や講習会・研修会・セミナー・ボランティア等へ積極的に参加し、楽しい体験（世代間交流）の中で、レクリエーション支援の在り方、手法を幅広く習得すること。

オフィスアワー	月曜日　5時間目　（変更時は掲示する）
評価方法	筆記試験70％　　レポート30％
教科書	スポーツ・レクリエーション指導者養成テキスト - スポレク活動で健康寿命を延伸 (財)日本レクリエーション協会編
参考書	参考書　【楽しさの追求を支えるサービスの企画と実施】　【楽しさの追求を支える理論と支援の方法】(日本レクリエーション協会)　【レクリエーション活動援助法】　(中央法規)
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 介護予防運動指導員（東京都健康長寿医療センター）、福祉レクリエーションワーカー（日本レクリエーション協会）として地域の介護予防・フレイル予防活動に取り組んでいる。また地域スポーツクラブにおけるスポーツ指導の経験があり、障がい者スポーツ指導員養成研修講師としてパラスポーツ活動にも取り組んでいる。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 相談援助実習

授業コード： S2801　S2802　S2803　S2804
S2805　S2806

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	3年次	4単位(180)	社会福祉コース・必修／福祉心理コース・学校教育コース・児童福祉コース・選択
担当教員			
富澤　一央・安留　孝子・大久保　圭介・田中　幸作			
専門科目	実習	社会福祉士指定科目	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 ①相談援助実習を通して、相談援助に係る知識と技術について、具体的かつ実際的に理解し、実践的な技術等を体得する。 ②社会福祉士として求められる資質、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 ③関連分野と専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。 【到達目標】 ①実習機関・施設の役割や関連する社会資源について説明できる。 ②支援対象との状況に合わせた会話ができる。 ③地域における実習機関・施設の役割や位置づけを説明できる。 ④実習機関・施設に関連する他職種の役割や業務、連携方法の必要性を理解し説明できる。 ⑤実習機関・施設で使用する記録の必要性を理解し、適切な記録技法をもちいて記録する事ができる。 ⑥コミュニケーション技術、面接技術をもちいて利用者と関る事ができる。 ⑦適切なアセスメントツールを使用し支援対象の全体像を把握できる。 ⑧ソーシャルワーク過程を理解し、実習指導者の指導の下、支援対象に適切な支援を実践する事ができる。 ⑨社会福祉士として倫理綱領・行動規範に基づいた行動をすることができる。 ⑩実習担当者教員・指導者からスーパービジョンを受け、社会福祉士としての課題を抽出し学習に繋げる事ができる。
授業の概要	相談援助実習は原則3年次（編入生は4年次）において実施する。ただし、3年次に履修要件を満たさず実習できなかった者は、4年次に実習を行なうことができる。 相談援助実習は実23日以上かつ180時間以上とする。 実習期間中に原則3回以上の帰学日指導と1回の実習巡回指導を受けること。 群馬医療福祉大学相談援助実習資格及び実習中止等の基準と実習へのガイドブックを参照し、遵守すること。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	△
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	◎
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	△
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	△
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	△
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	△
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	△
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	△
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	◎
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回 第２回 第３回 第４回

	第５回 第６回 第７回 第８回 第９回 第１０回 第１１回 第１２回 第１３回 第１４回 第１５回
受講生に関わる情報および受講のルール	群馬医療福祉大学相談援助実習履修資格及び実習中止等の基準を参照すること。 相談援助実習を行うために以下の履修要件を全て満たさなければならない。 1　将来、社会福祉士として社会福祉現場で働く意思を強く持っている者 2　社会福祉の学習及び実践に対して熱意と意欲を強くもっている者 3　健康状態、精神状態が相談援助実習を行うのに適当と認める者 4　実習履修年次までに哲学、倫理学、道徳教育、基礎演習Ⅰ・Ⅱ、ボランティア活動Ⅰ・Ⅱ、相談援助の基盤と専門職、相談援助演習Ⅰ・Ⅱ、相談援助実習指導Ⅰ、社会福祉特講Ⅰ・Ⅱの単位を修得した者（再履修者においては、上記科目の他、総合演習Ⅰ、社会福祉特講Ⅲの単位を履修した者、編入生においては、4年次までに哲学、倫理学、道徳教育、相談援助の基盤と専門職、相談援助演習Ⅰ・Ⅱ、相談援助実習指導Ⅰ、総合演習Ⅰ、社会福祉特講Ⅲの単位を履修した者） 5　実習履修年次において相談援助演習Ⅲ、相談援助実習指導Ⅱ、社会福祉特講Ⅲを履修見込みの者（再履修者及び編入生においては、4年次に総合演習Ⅱ、相談援助演習Ⅲ、相談援助実習指導Ⅱ、社会福祉特講Ⅳを履修見込みの者） 6　社会福祉士及び介護福祉士法第7条1号の規定に基づき文部科学大臣・厚生労働大臣の指定する社会福祉に関する科目の履修済みまたは履修中の科目においての出席状況及び授業態度が良好な者 7　ボランティア活動に積極的に取り組み、施設・機関の理解及び技術の向上を促進した者 8　相談援助実習に必要な書類及び実習担当教員が課した課題を期限までに提出し、提出書類の内容が適当と認められる者 9　相談援助実習資格試験に合格している者 10　学則に違反していない者、または学則に違反し停学等の処分を受けた者で改善の見込みのある者
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	各教員より実習指導Ⅱの授業時に伝える
授業外時間にかかわる情報	【相談援助実習中止の措置】 相談援助実習を行っている期間に以下の中止要件に該当する場合は相談援助実習を中止する場合がある。 1　重大なルール違反（実習先の就業規則並びにそれに準ずる実習のルールへの違反）を行ったとき 2　利用者への加害行為、人権的侵害を行ったとき 3　心身の事由により相談援助実習の継続が困難なとき。 4　守秘義務違反及び信用失墜行為を行ったとき 5　実習指導者が実習生に行った指摘に対して適切に対応しなかったとき 6　実習施設・機関の長または実習指導者より相談援助実習中止の申し出があったとき 7　実習担当教員が実習生に行った指摘に対して適切に対応しなかったとき 8　その他、実習を行うのに困難な事由が発生したとき
オフィスアワー	各教員より実習指導Ⅱの授業時に伝える
評価方法	①実習施設・機関による実習評価を傾斜配点し、教員が総合的に評価（40%） ②実習施設の概要の記載内容（10%） ③相談援助実習記録の記載内容（15%） ④実習のまとめの記載内容（10%） ⑤実習報告書の記載内容（10%） ⑥その他提出物の提出状況（15%） ※相談援助実習が終了したとしても提出物等が提出されない場合は相談援助実習の単位を認定しない。 ※相談援助実習指導Ⅱの単位を同一年度において修得出来なかった場合は相談援助実習の単位を認定しない。
教科書	「実習へのガイドブック」群馬医療福祉大学出版

参考書	福祉臨床シリーズ編集委員会編「社会福祉シリーズ２２　相談援助実習・相談援助実習指導」弘文堂出版　／社会福祉小六法、社会福祉用語辞典、その他教員配付資料
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 ※実務経験のある教員も含まれている。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 卒業論文指導

授業コード： S2901 S2902 S2903 S2904 S2905 S2906 S2907 S2908

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	2単位(30)	選択
担当教員			
担当教員			
専門科目	講義		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 卒業論文の作成に必要な問題意識の醸成、研究方法、参考文献・資料等の収集方法、調査の方法、発表の方法等の学習を深める。これらの学習から、学生自身の専門とする領域の実践能力や、地域での活動の基礎となる問題解決能力や分析能力の質を高めることを目標とする。 〔到達目標〕 論文作成に向けた研究計画作成と研究活動の準備ができる。
授業の概要	［授業の概要］ 　これまでの講義・実習・演習等を通じて学んだ専門的な知識や技術をもとに、日常的な社会問題や社会福祉に関する事柄について研究的な視点から問いを立て、探求する活動の基本を学習する。学生個々の関心に基づいてテーマを設定し、担当教員の指導のもとで研究活動を実践するための準備や論文としてまとめるための資料収集を行う。 担当する教員が個別的に指導を行うが、時間割上での指定時間はないので、担当教員と協議の上、適宜指導時間を調整し指導を受けること。 ［授業内容］ 研究方法に関する指導、研究計画立案に関する指導 〔留意事項〕 令和4年度は受講希望者に対して「受講オリエンテーション」を行い、1か月程度の全体指導（担当：大野・鈴木淳・大島）を行った上で指導教員を決定する予定である。受講を希望する場合には原則として4月6日までに履修申請を行うこと。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	◎
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	◎
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	◎
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	◎
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	◎
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２回 【key words】 【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習復習に必要な想定時間】
第３回
【key words】
【授業概要】
【教科書ページ・参考文献】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習復習に必要な想定時間】
第４回
【key words】
【授業概要】
【教科書ページ・参考文献】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習復習に必要な想定時間】
第５回
【key words】
【授業概要】
【教科書ページ・参考文献】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習復習に必要な想定時間】
第６回
【key words】
【授業概要】
【教科書ページ・参考文献】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習復習に必要な想定時間】
第７回
【key words】
【授業概要】
【教科書ページ・参考文献】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習復習に必要な想定時間】
第８回
【key words】
【授業概要】
【教科書ページ・参考文献】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習復習に必要な想定時間】
第９回
【key words】
【授業概要】
【教科書ページ・参考文献】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習復習に必要な想定時間】
第１０回
【key words】
【授業概要】
【教科書ページ・参考文献】

	【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１１回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１２回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１３回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１４回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１５回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	この授業では、これまでの学習成果を統合し、そこから生じた問題意識を明確化した上で参加することが求められる。また、その問題意識を研究レベルで展開するために必要な事前作業が求められる。興味関心を持ち自ら積極的に取り組むことが大切となる。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	その他（個々の教員とのゼミ方式の個別指導による。）
授業外時間にかかわる情報	各担当教員から指示する。
オフィスアワー	各担当教員による指示に従うこと。
評価方法	担当教員からの個別指導の履行状況：60%、研究計画：40%
教科書	授業中に紹介する。
参考書	授業中に紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート □グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク

	□アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 心理学実験実習Ⅱ　　授業コード： S3131

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	2単位(30)	福祉心理コース・必修
担当教員			
森　慶輔			
専門科目	演習		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔 授業の目的 〕 受講生に調査研究に関する知識・技術を習得させ，受講生が調査レポートを作成できるようになってもらうことを目的とする． 〔 到達目標 〕 実験，量的・質的調査研究に関する知識・技術を習得させる． 実験・調査レポートを作成できるスキルを身につけさせる． 客観的にレポートを評価できるスキルを身につけさせる．
授業の概要	本講義では，調査法（質問紙法）を利用しての人間理解の方法を学ぶ．その基礎として質問紙の作成に際しての項目作成，回答方法選択，face sheet の作成および倫理の問題，データ分析などについて触れる．

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	◎
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	○
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	△
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画

第１回　心理学における調査法

【key words】
調査法，虚偽尺度，内観法，自己報告，心理尺度，主観報告，再現性，文献検索．

【授業概要】
心理学における調査法の特徴や意義，長所，短所を知り，調査法における主観報告の意味や心理尺度を用いた研究の実施に関する手法・手順について理解する．
【教科書ページ・参考文献】
第1章
pp. 2～12
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〔予習〕教科書を読んでくる．質問事項は授業ノートに書き留めておき，準備する．〔復習〕授業ノートと教科書を読み直す．考えた事はノートに書き足す．質問事項はノートに書き留めておき，次の授業に備える．
【予習復習に必要な想定時間】
予習・復習の時間は，３時間を目安に．

第２回　調査法に関する諸問題

【key words】
サンプリング，許容誤差，信頼レベル，面接調査，電話調査，留置調査，郵送調査，オンライン調査，集合調査，インフォームド・コンセント，ディブリーフィング，ディセプション，研究倫理，利益相反．

【授業概要】
調査法を用いた研究を実施する際に留意すべき点として，サンプリング，調査方法，研究倫理に関する諸問題について学び，調査法の基礎について理解を深める．
【教科書ページ・参考文献】
第2章
pp. 16～27

【課題・予習・復習・授業準備指示】
〔予習〕教科書を読んでくる．質問事項は授業ノートに書き留めておき，準備する．〔復習〕授業ノートと教科書を読み直す．考えた事はノートに書き足す．質問事項はノートに書き留めておき，次の授業に備える．
【予習復習に必要な想定時間】
予習・復習の時間は，３時間を目安に．

第３回　何をつくるのかを考える：測定概念の明確化と質的データの収集

【key words】
構成概念，心理尺度，感覚尺度，ブレイン・ストーミング，観察法，面接法，自由記述法，テキスト・マイニング，文章完成法．

【授業概要】
調査において“測りたいもの”の概念や研究背景を理解し，“測りたいもの”の測定に用いる尺度について学んだうえで，それを明確にし，実際に測るための質問項目作成の最初の段階について学ぶ．
【教科書ページ・参考文献】
第3章
pp. 30～37
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〔予習〕教科書を読んでくる．質問事項は授業ノートに書き留めておき，準備する．〔復習〕授業ノートと教科書を読み直す．考えた事はノートに書き足す．質問事項はノートに書き留めておき，次の授業に備える．
【予習復習に必要な想定時間】
予習・復習の時間は，３時間を目安に．

第４回　項目をつくる：質問項目の作成と内容的妥当性の検討

【key words】
カテゴリー分類，単一回答法，複数回答法，順位法，一対比較法，強制選択法，評定法，自由記述法，逆転項目，内容的妥当性．

【授業概要】
具体的な質問項目づくりの段階として，質問項目の表現や形式，項目数の調整，回答形式の決定などを行い，項目案の作成と内容的妥当性の検討について学ぶ．
【教科書ページ・参考文献】
第4章
pp. 40～45
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〔予習〕教科書を読んでくる．質問事項は授業ノートに書き留めておき，準備する．〔復習〕授業ノートと教科書を読み直す．考えた事はノートに書き足す．質問事項はノートに書き留めておき，次の授業に備える．
【予習復習に必要な想定時間】
予習・復習の時間は，３時間を目安に．

第５回　調査票をつくる：調査票の作成と調査の実施方法

【key words】
ロー・データ，スコアリング・データ，

【授業概要】
調査票を完成させ，サンプリングや調査方法を選定し，そして調査を実施する．またその後，収集したデータを統計ソフトに入力するところまでを学ぶ．
【教科書ページ・参考文献】
第5章
pp. 47～57
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〔予習〕教科書を読んでくる．質問事項は授業ノートに書き留めておき，準備する．〔復習〕授業ノートと教科書を読み直す．考えた事はノートに書き足す．質問事項はノートに書き留めておき，次の授業に備える．
【予習復習に必要な想定時間】
予習・復習の時間は，３時間を目安に．

第６回　項目を選ぶ：項目の選定とその手法（その１）

【key words】
記述統計量，平均値，標準偏差，中央値，最大値，最小値，度数分布表，回答偏向，天井効果，床効果，相関分析，散布図，共分散，非線形関係，疑似相関，クロス表，等質性，因子分析，回転法．

【授業概要】
得られたデータの傾向や統計的な分析結果から，心理尺度として適切な項目を選定していく方法について学ぶ．
【教科書ページ・参考文献】
第6章の前半
pp. 59～78の範囲の主に前半
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〔予習〕教科書を読んでくる．質問事項は授業ノートに書き留めておき，準備する．〔復習〕授業ノートと教科書を読み直す．考えた事はノートに書き足す．質問事項はノートに書き留めておき，次の授業に備える．
【予習復習に必要な想定時間】
予習・復習の時間は，３時間を目安に．

第７回　項目を選ぶ：項目の選定とその手法（その２）

【key words】
記述統計量，平均値，標準偏差，中央値，最大値，最小値，度数分布表，回答偏向，天井効果，床効果，相関分析，散布図，共分散，非線形関係，疑似相関，クロス表，等質性，因子分析，回転法．

【授業概要】
得られたデータの傾向や統計的な分析結果から，心理尺度として適切な項目を選定していく方

		法について学ぶ. 【教科書ページ・参考文献】 第6章の後半 pp. 59～78の範囲の主に後半 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〔予習〕教科書を読んでくる．質問事項は授業ノートに書き留めておき，準備する．〔復習〕授業ノートと教科書を読み直す．考えた事はノートに書き足す．質問事項はノートに書き留めておき，次の授業に備える. 【予習復習に必要な想定時間】 予習・復習の時間は，３時間を目安に.
	第８回	心理尺度をつくる：信頼性，妥当性の検討 【key words】 信頼性，折半法，Cronbachのα係数，McDonaldのω係数，主成分分析，再検査法，並行検査法，妥当性. 【授業概要】 適切な物差しとして心理尺度を完成させる過程として，信頼性と妥当性について学ぶ. 【教科書ページ・参考文献】 第7章 pp. 82～93 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〔予習〕教科書を読んでくる．質問事項は授業ノートに書き留めておき，準備する．〔復習〕授業ノートと教科書を読み直す．考えた事はノートに書き足す．質問事項はノートに書き留めておき，次の授業に備える. 【予習復習に必要な想定時間】 予習・復習の時間は，３時間を目安に.
	第９回	ＳＤ法 【key words】 ＳＤ法（semantic differential technique，semantic differential method），プロフィール（プロファイル），因子分析. 【授業概要】 ある刺激に対して，個人が抱くイメージや感情的な意味を含む心理的意味を数量的に測定するために開発された方法がＳＤ法である．汎用性のあるＳＤ法の特徴について，具体的な調査手順からデータ分析，結果の解釈までを紹介する. 【教科書ページ・参考文献】 第8章 pp. 96～104 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〔予習〕教科書を読んでくる．質問事項は授業ノートに書き留めておき，準備する．〔復習〕授業ノートと教科書を読み直す．考えた事はノートに書き足す．質問事項はノートに書き留めておき，次の授業に備える. 【予習復習に必要な想定時間】 予習・復習の時間は，３時間を目安に.
	第１０回	経験抽出法（その１） 【key words】 経験抽出法，生態学的経時的評価法，一日再構成法，日記法，生態学的妥当性. 【授業概要】 人が時間をどのように使っているのかを調べるために開発されたデータ収集法が経験抽出法である．この調査法の長所は，経験した出来事からあまり時間を空けずに一定期間，人の感情や思考，行動などのデータの記録を行う点にある．一日再構成法などを含めた経験抽出法について学ぶ. 【教科書ページ・参考文献】 第9章の前半 pp. 105～125の範囲の主に前半 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〔予習〕教科書を読んでくる．質問事項は授業ノートに書き留めておき，準備する．〔復習〕授業ノートと教科書を読み直す．考えた事はノートに書き足す．質問事項はノートに書き留めておき，次の授業に備える. 【予習復習に必要な想定時間】 予習・復習の時間は，３時間を目安に.
	第１１回	経験抽出法（その２） 【key words】 経験抽出法，生態学的経時的評価法，一日再構成法，日記法，生態学的妥当性. 【授業概要】 人が時間をどのように使っているのかを調べるために開発されたデータ収集法が経験抽出法である．この調査法の長所は，経験した出来事からあまり時間を空けずに一定期間，人の感情や思考，行動などのデータの記録を行う点にある．日記法などを含めた経験抽出法について学ぶ. 【教科書ページ・参考文献】 第9章の後半 pp. 105～125の範囲の主に後半 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〔予習〕教科書を読んでくる．質問事項は授業ノートに書き留めておき，準備する．〔復習〕授業ノートと教科書を読み直す．考えた事はノートに書き足す．質問事項はノートに書き留めておき，次の授業に備える. 【予習復習に必要な想定時間】 予習・復習の時間は，３時間を目安に.
	第１２回	オンライン調査 【key words】 オンライン調査，クラウド・ソーシング，ＳＮＳ，社会調査. 【授業概要】 オンライン調査とは，インターネットを利用して行われる調査のことである．今後のさまざまな発展可能性を秘めたオンライン調査について，その使い道と現在の限界，今後の可能性について学ぶ.

	【教科書ページ・参考文献】 第10章 pp. 126～133 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〔予習〕教科書を読んでくる．質問事項は授業ノートに書き留めておき，準備する．〔復習〕授業ノートと教科書を読み直す．考えた事はノートに書き足す．質問事項はノートに書き留めておき，次の授業に備える． 【予習復習に必要な想定時間】 予習・復習の時間は，３時間を目安に．
	第１３回　翻訳法 【key words】 翻訳研究，トップダウン，比較文化研究，ボトムアップ，逆翻訳法，脱中心化，収束アプローチ， 【授業概要】 心理尺度作成の応用的な手法として「翻訳法」を取り上げ，心理尺度の翻訳に関する留意点やコツなどを紹介する．翻訳研究は，その作業自体が異なる文化を理解する一つの過程でもある．さまざまな言語や文化を有する人たちを対象にした研究を展開するという意味で，視点の転換により心理学の広がりが見えてくる． 【教科書ページ・参考文献】 第11章 pp. 138～144 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〔予習〕教科書を読んでくる．質問事項は授業ノートに書き留めておき，準備する．〔復習〕授業ノートと教科書を読み直す．考えた事はノートに書き足す．質問事項はノートに書き留めておき，次の授業に備える． 【予習復習に必要な想定時間】 予習・復習の時間は，３時間を目安に．
	第１４回　対象者の特性に応じた調査法／比較文化研究における調査法 【key words】 対象者の特性，信頼関係づくり，調査票の読みやすさ，調査票の回答のしやすさ，丁寧なアフターケア，フィードバック／比較文化調査，バイアス，不変性（等価性），確認的因子分析． 【授業概要】 高齢の対象者への質問紙調査の実施に関して，具体例を挙げながら紹介する．調査依頼のための信頼関係づくりや，調査票の作成に関する工夫や留意点，調査後の丁寧なアフターケアなど，対象者の特性に応じたさまざまな調査法の手順や各種の対応の要点について学ぶ．／比較文化研究が対象とする人たちは，異なる文化を有し，言語もさまざまである場合が多い．個人差をも含む文化という大きな概念の測定と，その影響の解明に挑戦し続けるための興味深い手法を理解しながら，調査法の応用とその可能性について学ぶ． 【教科書ページ・参考文献】 第12章／第13章 pp. 145～155 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〔予習〕教科書を読んでくる．質問事項は授業ノートに書き留めておき，準備する．〔復習〕授業ノートと教科書を読み直す．考えた事はノートに書き足す．質問事項はノートに書き留めておき，次の授業に備える． 【予習復習に必要な想定時間】 予習・復習の時間は，３時間を目安に．
	第１５回　郵送調査法／まとめ 【key words】 郵送調査法，回収率． 【授業概要】 現代では郵送を用いた調査法の頻度は減っているが，郵送調査法の具体的な手順の理解とともに，その長所と短所を知ることで，オンライン調査と併用する意味を考えてみる． 【教科書ページ・参考文献】 第14章 pp. 157～160 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〔予習〕教科書を読んでくる．質問事項は授業ノートに書き留めておき，準備する．〔復習〕授業ノートと教科書を読み直す．考えた事はノートに書き足す．質問事項はノートに書き留めておく． 【予習復習に必要な想定時間】 予習・復習の時間は，３時間を目安に．
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 PC室もしくはLL教室での課題作成を含む． 〔受講のルール〕 事前にUSBメモリを用意することが望ましい．課題レポートの提出が必須．
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	予習・復習にかける時間は，３時間を目安にし，教科書の該当部分は必ず事前に通読しておく．
オフィスアワー	原則として，毎回授業終了後に質問・学習相談などに応じる．
評価方法	課題レポートが約６割，コメント評価が約４割．合計で60%以上が合格点． 実験・実習科目であるため，中間試験・学期末試験は実施しない．
教科書	三浦麻子監修・大竹恵子編著『心理学ベーシック第３巻 なるほど！ 心理学調査法』北大路書房，2017．ISBN 978-4-7628-2990-1
参考書	講義の中で適宜紹介する．
実務者経験/アク	

ティブラーニング/ リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 ■その他 その他の具体的内容 ＰＣで表計算ソフトを用いてデータを分析する.

講義科目名称： 児童文学　　授業コード： S4432

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	2単位(30)	社会福祉専攻・選択
担当教員			
鈴木　耕太郎			
基礎教養科目	講義		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 「児童文学」と呼ばれるジャンルの作品について、受講生ひとりひとりが理解を深め、その役割や意義についてさまざまな視点から考えられるようになることが本授業の目的となります。 [到達目標] 1:「児童文学」とは何かを理解し、その役割や意義を学ぶ。 2:「児童文学」の世界に触れ、それぞれの作品の楽しさ/おもしろさを自分のことばで述べることができるようになる。 3:「児童文学」にたくさん触れ、自分のおすすめの作品を紹介できるようになる。
授業の概要	ひとことで「児童文学」といっても、その範囲は広範にわたります。授業では「児童文学」の歴史やジャンルなど知識面を広げるとともに、なるべく多くの「児童文学」作品に触れ、それらが示す「世界」を共有してもらいます。そのほか、本授業では以下のような取り組みをします。 ・講義時は、ほぼ毎回絵本を中心とした児童文学作品を紹介します(15分弱)。 ・講義第7回目に受講生参加型の児童書限定「ビブリオバトル」を行います(ただし、受講人数次第で全員参加か希望者参加かを決めます。希望者参加の場合、直接参加していない受講生にも代替課題を課しますので、成績上、不利とならないようにします)。 ・講義第14回目に「絵本読み聞かせ大会」を行います(受講人数次第ではグループ単位での発表とします)。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	○
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	オリエンテーション＋児童文学とは何か 【key words】 児童文学の定義／子どもから大人まで／関心・感動 【授業概要】 まずこの講義ではどのようなことをするのか、また注意事項としてはどのようなことがあるのか、成績はどのようにつけられるのか、などをお伝えします。残りの時間でそもそも児童文学とはどのようなものを指すのか、その定義について考えます。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 （予習）講義前にどんな作品が児童文学なのか考えておいてください。 【予習復習に必要な想定時間】 15分程度
	第２回	児童文学の形式とジャンル 【key words】 形式／対象年齢／ジャンル／内容別 【授業概要】 ひとことで「児童文学」といっても、多様な作品を含みます。そこで、形式や内容、ジャンルなどである程度、分類し、児童文学の幅の広さ・多様さを実感してもらいます。 【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
（予習・復習）日本人作家の絵本を講義前に最低でも1冊、講義後に1～3冊、読んでみましょう。また、それぞれの作品はどこが面白いのか、作者の狙いはどこにあるのか考えてみましょう。
【予習復習に必要な想定時間】
5～20分

第３回　児童文学に触れてみる（絵本の楽しさ１）　＋　ビブリオバトルの説明
【key words】
絵本／日本人作家／絵本の読解／絵と文字／読み聞かせ
【授業概要】
実際に幼児に絵本の読み聞かせを行うような形で、いくつかの絵本作品を読みます（この回では日本人作家に限定します）。そして読み聞かせ後に、それぞれの作品について解説を行います。また残りの時間でビブリオバトルの説明を行います。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
（予習）児童文学を分類するとしたら、どのような分類が考えられるか、予想してみましょう。
【予習復習に必要な想定時間】
5～15分

第４回　児童文学に触れてみる（絵本の楽しさ２）
【key words】
絵本／海外の作家／絵本の読解／絵と文字／読み聞かせ
【授業概要】
実際に幼児に絵本の読み聞かせを行うような形で、いくつかの絵本作品を読みます（この回では海外の作家に限定します）。そして読み聞かせ後に、それぞれの作品について解説を行います。
【教科書ページ・参考文献】
（予習・復習）海外の作家の絵本を講義前に最低でも1冊、講義後に1～3冊、読んでみましょう。また、それぞれの作品はどこが面白いのか、作者の狙いはどこにあるのか考えてみましょう。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
5～20分

第５回　伝説と昔話の世界（＋絵本読み聞かせグループ決定）
【key words】
神話／伝説／昔話／群馬の伝説・昔話
【授業概要】
児童文学の中でも伝説や昔話に特化して考えます。それらの伝説や昔話はなぜ、創作されたのか。またそれらが伝える意味や意義とは何か、考えます。また、受講生の人数が多かった場合はこの段階で第14回目の絵本読み聞かせ会のグループを決めます。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
（予習）群馬県内の昔話や伝説、あるいは自分の地元の市町村に残る伝説や昔話にはどのようなものがあるのか、調べておきましょう。
【予習復習に必要な想定時間】
60分程度

第６回　都市伝説と学校の怪談
【key words】
現代伝説／都市伝説／ネットロア／学校の怪談
【授業概要】
都市伝説や学校の怪談も、広い意味では児童文学といえます。近年ではネット上の怖い話・不思議な話（ネットロア）なども話題になっています。これらの話はなぜ生まれ、広まるのでしょうか。こうした話をいくつか紹介し、そのメカニズムを考えます。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
（予習・復習）現代伝説・都市伝説・ネットロア・学校の怪談で自分が知っているものを複数思い出しておきましょう。またそれらの共通点を言えるようにしておきましょう。
【予習復習に必要な想定時間】
30分程度

第７回　【個人発表】絵本ビブリオバトル
【key words】
ビブリオバトル／スピーチ
【授業概要】
1人3～5分（受講人数によって変わります）のビブリオバトルを行います。なお、受講生の人数次第で、ビブリオバトルを行う人とジャッジする人にわかれてもらう可能性があります（この点は第3回講義時にいいます）。ただ、どちらにせよ、ビブリオバトル用のメモを提出してもらいます（メモも第3回講義終了時に渡します）。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
（予習）絵本ビブリオバトルに向けたメモを作成し、発表当日までにきちんと3～5分のスピーチにまとめられるようにしましょう（900～1200字程度です）。当日はなるべくメモを見ないように努力しましょう。
【予習復習に必要な想定時間】
120～180分

第８回　ファンタジーの世界（日常編）
【key words】
ファンタジー／日常生活／異物・異世界・異人
【授業概要】
いわゆるフィクション（虚構世界）を描く児童文学作品の多くが「ファンタジー」と呼ばれるジャンルになります。その中でも、日常生活の中にファンタジーの要素が入り込む作品（たとえば、異世界の住人が日常生活の中に入り込む、あるいは日常世界と異世界とがつながっている）

		をいくつか紹介したうえで、それらの解説を行います。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 （予習）日常生活の中にファンタジー的な要素が含まれるような作品で、児童文学といえるものは何があるか、調べておいてください（また、その大まかな内容を把握しておいてください）。 【予習復習に必要な想定時間】 15～30分程度
	第９回	ファンタジーの世界（異世界編） 【key words】 ファンタジー／異世界／世界観 【授業概要】 前回に引き続き「ファンタジー」作品を取り上げます。この回は、異世界を舞台にした作品をいくつか取り上げ、その解説を行います。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 （予習）異世界を舞台にしたファンタジー作品で児童文学といえるものは何があるか、調べておいてください（また、その大まかな内容を把握しておいてください）。 【予習復習に必要な想定時間】 15～30分程度
	第１０回	戦争と平和の児童文学 【key words】 戦争／平和／残虐性／命の尊さ 【授業概要】 児童文学作品のなかで忘れてはならないのが、戦争や平和を扱う作品です。人類にとって大変難しい課題である平和の大切さ、戦争の愚かさを子どもたちにどうやって伝えるか、いくつかの作品を紹介しながら考えます。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 （予習・復習）戦争や平和に関する児童文学作品を最低でも講義前に1冊、講義後に1冊、読んでみましょう。また、それらが子どもたちに与える影響についても考えましょう。 【予習復習に必要な想定時間】 15～45分
	第１１回	ノンフィクション作品と子どもの成長＋絵本読み聞かせ大会の説明 【key words】 ノンフィクション／フィクション／読み聞かせ 【授業概要】 児童文学作品の中でも「ノンフィクション」と称されるジャンルに当てはまる作品は意外に多く存在します。はたしてどのような作品がノンフィクションと呼べるのか、またそれらはどのような意図や意義をもっているのか、いくつかの作品を紹介し、解説を加えます。残りの時間で第14回に行う絵本読み聞かせ大会の説明を行います。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 （予習）児童文学の中でもノンフィクション作品としてはどのようなものがあるのか、調べておいてください（また、その内容もある程度、把握しておきましょう）。 【予習復習に必要な想定時間】 15～30分程度
	第１２回	わらべ歌・童謡・詩の世界＋絵本読み聞かせ大会の準備 【key words】 わらべ歌・童謡／歌詞／詩／グループワーク 【授業概要】 わらべ歌や童謡もまた児童文学の一つといえます。私たちが幼いころに聞いたわらべ歌や童謡の歌詞を作品としてとらえなおし、その意味や意義について考えます。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 （予習）自分が知っている童謡のなかで、歌詞の意味がよくわからない（あるいは部分的にわからない）ものがないか、探してみましょう。 【予習復習に必要な想定時間】 15～30分程度
	第１３回	アニメ・漫画と児童文学 【key words】 アニメ／漫画／視覚と聴覚 【授業概要】 専門家のなかでも意見が分かれるところでもありますが、広義の意味でアニメや漫画も児童文学と見なせるかと思います。これらの作品を児童文学としてとらえ返したとき、どのような意義、意味が見えるでしょうか。アニメや漫画の歴史や特性などを抑えて、その役割を考えます。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 （予習）自分の好きな漫画あるいはアニメが児童文学のジャンルでは何に当てはまるかを考えておきましょう。また、それらの漫画やアニメ作品の持つ意味・意義について考えてみましょう。 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度
	第１４回	【発表】絵本読み聞かせ大会 【key words】 読み聞かせ／絵本／実践 【授業概要】 絵本読み聞かせの本番です。5分程度の読み聞かせを行ってください。なお、受講生の人数次第で

	個人発表かグループ発表になるかが異なります。制限時間は厳守のこと。なお、絵本読み聞かせの詳細は第11回に行います。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 （予習）本番までに最低でも3回は練習をしておいてください（個人／グループ発表問わず）。なおグループ発表となる場合は第5回講義中に決定します。 【予習復習に必要な想定時間】 180分以上 第１５回　児童文学これまでのまとめと展望 【key words】 児童文学とは何か／意義と意味 【授業概要】 これまでの15回の内容を振り返ります。またテストに関する諸注意も行います。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 （復習）これまでの講義を振り返り、テストに備えましょう。 【予習復習に必要な想定時間】 180分以上
受講生に関わる情報および受講のルール	・講義中は受講生同士のディスカッションを含め、積極的にコミュニケーションを取ってもらいます。ただし、講義と関係のない私語は謹んでください。また、講義中は携帯電話などの使用(通話やゲーム、LINEなど)は原則認めません(教員が許可した場合に限ります)。 ・この講義では「遅刻」を設定します。講義開始から10分以上45分未満の入室を「遅刻」とします。なお、2回の遅刻につき、1回の欠席とみなします。 ・累積6回以上の「欠席」（遅刻2回=1欠席も含む）した場合は定期試験は受験できないこととします。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	講義中に聞いていただいても構いませんが、授業掲示板を用いて毎回、質問を受け付けます。なお、小課題を課す回は、小課題と一緒に質問事項もご記入ください。次回の講義時にお答えできるものはお答えします。
授業外時間にかかわる情報	・日常的に児童文学に触れておいてください。 ・絵本ビブリオバトルメモの未提出は原則認めません。未提出の場合は、大幅な減点を行います。 ・質問や疑問がある場合は講義中、あるいは講義後に掲示板を用いて必ず書いておいてください。そうした疑問や質問をする＝積極性があると見なして評価の対象とします。
オフィスアワー	対面授業の場合は原則講義終了後、講師室で30分(ただし、場合によっては時間を取れないこともあります)。
評価方法	①定期試験60%、②絵本ビブリオバトルメモ10%、③定期的に取る小課題および講義での態度15%、④ビブリオバトル・絵本読み聞かせの評価併せて15%
教科書	特に指定しません(レジュメを用います)
参考書	・川端有子『児童文学の教科書』(玉川大学出版、2013年) ・三宅興子、多田昌美『児童文学12の扉をひらく』(翰林書房、1999年) ※購入必須ではありません。余裕があれば手に取ってください。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 介護技術Ⅱ　　授業コード： S5045

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	2単位(60)	選択
担当教員			
植田　裕太朗			
専門科目	演習		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	「授業の目的」 介護ニーズの複雑化・高度化に伴い、介護を必要としている人に、全人的で質の高い介護が提供できるよう、基礎的な　知識と技術及び態度を習得し、実践できるようになることを目的とする。 「到達目標」 ①身体障害のある人に対する医学的な知識と介護の方法が理解でき対応することができる。 ②入浴や排泄の介護について理解することができる。 ③終末期における介護の意義と尊厳を考慮した支援について理解することができる。 ④介護における安全確保と危機管理の重要性について理解し対応することができる。
授業の概要	本講義は、介護を必要とする人の「尊厳の保持」や「自立支援」などの観点から、基本的な日常の「生活支援」に焦点をあて質の高い適切な介護を提供できる能力と態度を育てることを重視している。また介護を実践する際に必要なこころとからだについての基礎的な知識を習得するとともに、社会的に重要性を増している高齢者や認知症、障害、終末期における介護についても理解を深め、介護の現状と支援のあり方について学習する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	○
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	△
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	◎
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション（授業概要、評価方法等の説明）、介護とは 【key words】 シラバス、介護とは 【授業概要】 科目の位置付けと授業概要の説明。学生個々の履修目的について確認し、学習目標について理解する 【教科書ページ・参考文献】 適宜資料を配布する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 シラバスの確認 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第２回	食事の支援技術①　生活における食事の重要性 【key words】 食事、意義、目的 【授業概要】 介護における食事の重要性を学び食事における意義や目的について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P94-97、適宜資料を配布する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 P98-106、第1回目の資料の確認 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第３回	食事の支援技術②　安全な食事の留意点について学ぶ

		【key words】 食事姿勢、安全、留意点、水分 【授業概要】 介護場面において、安全な食事姿勢について学ぶ。自身の食事姿勢を振り返ると共に水分の重要性についても理解する。 【教科書ページ・参考文献】 P98-106、適宜資料を配布する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第2回目の資料の確認、P107-109 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第４回	食事の支援技術③　食事における多職種連携 【key words】 食事、多職種連携、確認コーナー 【授業概要】 食事における多職種連携について理解する。さらに食事における確認コーナーを実施する。 【教科書ページ・参考文献】 P107-109、適宜資料を配布する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第3回目の資料の確認、食事の確認コーナーを整理してみましょう。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第５回	移動支援技術①　前期の振り返り・車いす操作 【key words】 移動、車いす操作 【授業概要】 前期の振り返りとして、移動における車いす操作の確認を行う。 【教科書ページ・参考文献】 P86-89、適宜資料配布する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第4回目の資料の確認、P107-109 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第６回	移動支援技術②　前期の振り返り・移乗 【key words】 移動、移乗 【授業概要】 前期の振り返りとして、移動におけるベッドから車いすへの移乗等の確認を行う。また、ベット上での水平移動や、上方移動等も実施する。 【教科書ページ・参考文献】 P74-81、適宜資料を配布する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第5回目の資料の確認、P74-81 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第７回	移動支援技術③　前期の振り返り・歩行 【key words】 移動、歩行、杖 【授業概要】 前期の振り返りとして、移動における歩行介助の確認を行う。また、片麻痺のある利用者を対象とした階段昇降等も実施する。 【教科書ページ・参考文献】 P82-85、適宜資料を配布する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第6回目の資料の確認、P82-85 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第８回	介護を必要とする人の理解（高齢者の暮らしと生活） 【key words】 介護を必要とする人の生活、高齢者の暮らし 【授業概要】 動画活用し、介護を必要とする人の生活や、高齢者の暮らしについて理解する 【教科書ページ・参考文献】 適宜資料を配布する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義内容をもとに復習を行うこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第９回	排泄の支援技術①　排泄の意義と目的 【key words】 排泄、意義、目的 【授業概要】 介護現場における排泄の意義と目的について学ぶ。排泄における羞恥心や介護者における心構えについて理解する。 【教科書ページ・参考文献】 P110-112、適宜資料を配布する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 P112-116 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第１０回	排泄の支援技術②　トイレ介助について～自立・一部介助～ 【key words】

		排泄、トイレ、自立、一部介助、留意点 【授業概要】 介護場面における排泄について理解を深める。自立、一部介助のトイレ介助の際の留意点について実践し、まとめる 【教科書ページ・参考文献】 112-113、適宜資料を配布する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第9回目の資料、P116-118 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第１１回	排泄の支援技術③　トイレ介助について～全介助～ 【key words】 排泄、トイレ、全介助、留意点 【授業概要】 介護場面における排泄について理解を深める。全介助のトイレ介助の際の留意点について実践し、まとめる 【教科書ページ・参考文献】 P116-118、適宜資料を配布する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第10回目の資料、P118-121 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第１２回	排泄の支援技術④　トイレ介助について～ポータブルトイレ～ 【key words】 排泄、ポータブルトイレ、留意点 【授業概要】 介護場面における排泄について理解を深める。ポータブルトイレ介助の際の留意点について実践し、まとめる 【教科書ページ・参考文献】 P118-121、適宜資料を配布する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義内容をもとに復習を行うこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第１３回	総合生活支援技術①　食事 【key words】 食事介助 【授業概要】 事例の利用者に対する、食事介助支援を実践する。 【教科書ページ・参考文献】 適宜資料を配布する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義内容をもとに復習を行うこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第１４回	総合生活支援技術②　排泄 【key words】 排泄介助 【授業概要】 事例の利用者に対する、排泄介助を実践する。 【教科書ページ・参考文献】 適宜資料を配布する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義内容をもとに復習を行うこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第１５回	まとめ　（総括） 【key words】 食事、排泄介助 【授業概要】 14回までの授業を振り返るとともに、実技の確認を行う。 【教科書ページ・参考文献】 これまで配布した資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義内容をもとに復習を行うこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第１６回	後期　科目オリエンテーション（授業概要） 【key words】 シラバス　授業の関連性 【授業概要】 前期授業の振り返りと後期授業の関連性の説明を行い、後期授業目標と行動目標について確認する。併せて、介護実習室の使用方法についても再度、確認をする 【教科書ページ・参考文献】 適宜資料を配布する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第１７回	清潔・入浴の支援技術①　清潔の意義と目的 【key words】 清潔、目的、一般浴、機械浴 【授業概要】

		介護現場における清潔・入浴の支援技術として清潔の意義と目的について学び、一般浴と機械浴の留意点について理解する 【教科書ページ・参考文献】 P158-166、適宜資料を配布する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義内容をもとに復習を行うこと、P167-170 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第１８回	清潔・入浴の支援技術②　手浴、足浴 【key words】 手浴、足浴 【授業概要】 介護現場における清潔の一つとして、手浴と足浴の介助を体験し、留意点について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P167-170、適宜資料を配布する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第17回目の資料の確認、P170-178 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第１９回	清潔・入浴の支援技術③　清拭、感染予防 【key words】 清拭、感染予防、手袋 【授業概要】 介護現場において、清拭方法について学ぶ。、また、感染症の観点からも感染症予防や対策について理解を深める 【教科書ページ・参考文献】 P170-178、適宜資料を配布する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義内容をもとに復習を行うこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第２０回	居住環境の整備 【key words】 居住環境の整備、意義、目的 【授業概要】 居住環境の整備の重要性について学び、住まいの役割や快適な室内管理を理解する 【教科書ページ・参考文献】 P181-191、適宜資料を配布する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義内容をもとに復習を行うこと、P214-230 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第２１回	睡眠の支援技術 【key words】 睡眠、意義、目的、安眠、メラトニン 【授業概要】 介護現場における睡眠の意義や目的について学び、眠りの周期や安眠について理解を深める 【教科書ページ・参考文献】 P214-P230、適宜資料を配布する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第20回目の資料の確認、P233-234 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第２２回	ターミナルケア、グリーフケアについての理解 【key words】 ターミナルケア、死への受容、グリーフケア 【授業概要】 ターミナルケアについて理解し、死への受容過程について学ぶ。介護者への支援として、グリーフケアの意味ついても理解する。 【教科書ページ・参考文献】 P233-234、適宜資料を配布する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第21回目の資料の確認、P124-125 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第２３回	排泄の支援技術①　おむつ交換～パット交換～ 【key words】 おむつ交換、パット交換 【授業概要】 介護場面における排泄のおむつ交換のパット交換について学ぶ。排泄の際の羞恥心等についても、利用者役、介助者役に分かれて理解を深める 【教科書ページ・参考文献】 P124-125、適宜資料を配布する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義内容をもとに復習を行うこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第２４回	排泄の支援技術②　おむつ交換～全介助～ 【key words】 おむつ交換、全介助 【授業概要】

	介護場面における排泄のおむつ交換の全介助について学ぶ。排泄の際の支援方法の手順について理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 P126-127、適宜資料を配布する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義内容をもとに復習を行うこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第２５回　排泄の支援技術③　尿器・便器 【key words】 尿器・便器、留意点 【授業概要】 介護場面における排泄の尿器・便器について学ぶ。主にベッド上での尿器や便器の使用方法について理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 P128-129、適宜資料を配布する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義内容をもとに復習を行うこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第２６回　総合生活支援技術①　入浴 【key words】 入浴介助、支援方法、留意点 【授業概要】 事例をもとに、適切な入浴介助方法について考えグループで留意点をまとめる。 【教科書ページ・参考文献】 適宜資料を配布する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義内容をもとに復習を行うこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第２７回　総合生活支援技術②　排泄 【key words】 排泄介助、支援方法、留意点 【授業概要】 事例をもとに、適切な排泄介助方法について考えグループで留意点をまとめる。 【教科書ページ・参考文献】 適宜資料を配布する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義内容をもとに復習を行うこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第２８回　総合生活支援技術③　清拭 【key words】 清拭介助、支援方法、留意点 【授業概要】 事例をもとに、適切な清拭介助方法について考えグループで留意点をまとめる。 【教科書ページ・参考文献】 適宜資料を配布する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義内容をもとに復習を行うこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第２９回　まとめ （後期の振り返り） 【key words】 後期の振り返り、入浴、排せつ 【授業概要】 後期の振り返りを行う。 【教科書ページ・参考文献】 これまでに配布した資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義内容をもとに復習を行うこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第３０回　まとめ（総括） 【key words】 人間の尊厳の保持　自立支援　介護職と多職種との連携　介護予防 【授業概要】 これまでの授業の振り返りと総括を行う 【教科書ページ・参考文献】 これまでに配布した資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 介護について自己の思いや考え方を整理しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	「受講生に関わる情報」 演習は、学校指定の運動着、シューズを着用のこと。イヤリング、ネックレス腕時計はつけないこと。 長い爪と　マニュキアは禁止、長い髪は束ねること。 「受講のルール」 他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。挨拶や身だしなみを整えること。

	演習時の教材の準備、後片付けはグループメンバーと協力して行うこと。 教材は大切に使用し、整理整頓を心がけること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	介護は、人間らしく生きることの支援なので、幅広い多面的な知識と人との関りが重要である。日頃から、新聞等の情報から社会情勢や高齢者・障害者問題等にも関心をもつことが大切である。
オフィスアワー	授業時に指示します。
評価方法	レポート８０％　　授業への取り組み　２０％
教科書	介護福祉士養成テキスト第3巻（コミュニケーション技術／生活支援技術Ⅰ・Ⅱ）
参考書	適宜、配布する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 高齢者施設にて介護実務の経験あり。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 公民科教育法　　授業コード： S5082

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	4単位(60)	学校教育コース・選択
担当教員			
後藤　雅彦			
専門科目	演習		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 公民科の指導者として、授業づくりにかかる資質能力を身に付ける。 【到達目標】 （1）公民科の教材内容への理解を深める。 （2）学校現場を想定し、授業を設計実践できる。
授業の概要	（1）現場で指導力を発揮させるための授業づくりの要件を知る。 （2）学習課題の設定を核にして、授業づくりを支える教材研究とその実際に取り組む。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	◎
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	△
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	授業づくりの導入(１) 【key words】 授業の導入、一斉指導、課題解決型学習 【授業概要】 授業の導入ポイントを知り、使用する教材画像を選定し、本時の学習課題の提示を準備する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 各30分
	第２回	授業づくりの導入(２) 【key words】 授業の導入、一斉指導、課題解決型学習 【授業概要】 授業の導入に使用する教材画像を選定し、本時の学習課題の提示を準備する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 各30分
	第３回	授業づくりの導入(３) 【key words】 授業の導入、一斉指導、課題解決型学習 【授業概要】 ５分の導入の末に、本時の学習課題を提示する模擬授業を試みる。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】

	各30分 第４回　授業づくりの展開（１） 【key words】 授業の展開、個別指導、板書 【授業概要】 授業の展開ポイントを知り、学習課題の提示からの学習活動を準備する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 各30分 第５回　授業づくりの展開（２） 【key words】 授業の展開、個別指導、板書 【授業概要】 学習課題の提示からの学習活動を準備する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 各30分 第６回　授業づくりの展開（３） 【key words】 授業の展開、個別指導、板書 【授業概要】 学習課題の提示から、15分間の学習活動がある模擬授業を試みる。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 各30分 第７回　授業づくりの展開（４） 【key words】 授業の展開、個別指導、板書 【授業概要】 学習課題の提示から、15分間の学習活動がある模擬授業を試みる。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 各30分 第８回　政治経済の教材内容（１） 【key words】 グローバル化、情報化、少子高齢化、人権の歴史、日本国憲法 【授業概要】 政治経済の教材内容を各自の模擬授業を試みることを通して知る。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 各30分 第９回　政治経済の教材内容（２） 【key words】 基本的人権、民主主義、選挙、政党 【授業概要】 政治経済の教材内容を各自の模擬授業を試みることを通して知る。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 各30分 第１０回　政治経済の教材内容（３） 【key words】 国会の地位、国会の仕組み、国会の働き、内閣の仕事、内閣の仕組み 【授業概要】 政治経済の教材内容を各自の模擬授業を試みることを通して知る。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 各30分 第１１回　政治経済の教材内容（４） 【key words】 裁判所の仕組み、三権分立、地方自治、地方財政

【授業概要】
政治経済の教材内容を各自の模擬授業を試みることを通して知る。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
各30分

第１２回　政治経済の教材内容(５)
【key words】
直接請求権、住民投票、家計、消費者の権利
【授業概要】
政治経済の教材内容を各自の模擬授業を試みることを通して知る。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
各30分

第１３回　政治経済の教材内容(６)
【key words】
流通、企業の役割、市場経済の仕組み、金融の働き
【授業概要】
政治経済の教材内容を各自の模擬授業を試みることを通して知る。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
各30分

第１４回　政治経済の教材内容(７)
【key words】
財政、租税、社会保障、四大公害、為替相場
【授業概要】
政治経済の教材内容を各自の模擬授業を試みることを通して知る。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
各30分

第１５回　政治経済の教材内容(８)
【key words】
主権国家、国際連合、環境問題、資源・エネルギー問題、地域紛争、民族紛争
【授業概要】
政治経済の教材内容を各自の模擬授業を試みることを通して知る。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
各30分

第１６回　政治経済の教材研究(１)
【key words】
日本国憲法
【授業概要】
政治経済の基盤となる日本国憲法について、映像資料の視聴を通して理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
各30分

第１７回　政治経済の教材研究(２)
【key words】
東日本大震災
【授業概要】
政治経済の転機となった東日本大震災について、映像資料の視聴を通して理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
各30分

第１８回　政治経済の教材研究(３)
【key words】
地球環境問題
【授業概要】
政治経済の未来にかかる地球環境問題について、映像資料の視聴を通して理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
各30分

第１９回　政治経済の教材研究(４)

【key words】
現代的課題
【授業概要】
政治経済の現代的課題について、映像資料の視聴を通して理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
各30分

第２０回　公民科の目標と内容

【key words】
公民的資質
【授業概要】
学習指導要領に示された目標や内容を踏まえ、現場における授業づくりの留意点を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
各30分

第２１回　政治経済の授業設計(１)

【key words】
課題解決型学習
【授業概要】
30分の模擬授業の進め方、テーマ選びをする。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
各30分

第２２回　政治経済の授業設計(２)

【key words】
学習課題、学習活動
【授業概要】
各自テーマに沿った授業構想と教材準備をする。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
各30分

第２３回　政治経済の授業設計(３)

【key words】
学習課題、学習活動
【授業概要】
各自テーマに沿った授業構想と教材準備をする。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
各30分

第２４回　政治経済の授業設計(４)

【key words】
学習課題、学習活動
【授業概要】
各自テーマに沿った授業構想と教材準備をする。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
各30分

第２５回　政治経済の教材研究(５)

【key words】
国民主権、安全保障、新型コロナウイルス、主権者教育
【授業概要】
政治経済の見方考え方を整理する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
定期試験に関連する内容でもあるため各自よく復習しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
各30分

第２６回　政治経済の授業実践(１)

	【key words】 課題解決型学習 【授業概要】 各自テーマに沿った30分の模擬授業、その後授業反省を行う。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 各30分 第２７回　政治経済の授業実践(２) 【key words】 課題解決型学習 【授業概要】 各自テーマに沿った30分の模擬授業、その後授業反省を行う。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 各30分 第２８回　政治経済の授業実践(３) 【key words】 課題解決型学習 【授業概要】 各自テーマに沿った30分の模擬授業、その後授業反省を行う。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 各30分 第２９回　政治経済の授業実践(４) 【key words】 課題解決型学習 【授業概要】 各自テーマに沿った30分の模擬授業、その後授業反省を行う。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 各30分 第３０回　まとめ－現場に求められる公民科教師をめざして－ 【key words】 教師の現場力 【授業概要】 「現場に立つ意味」を再考し、生徒たちとめざすべき授業像とそれを支える資質能力について振り返る。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 各30分
受講生に関わる情報および受講のルール	各自ノートパソコンを準備する。(注意　授業中にパソコン本体から電源を取ることは原則しない。このため、自宅で前日に充電を済ませておく。専用ソフトケースに入れて持参する。)
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	復習シート
授業外時間にかかわる情報	政治経済への自らの見方や考え方をより深めるため、進んでドキュメント番組、映画、新聞等にふれる機会や体験を積んでください。
オフィスアワー	火曜日午後
評価方法	授業やグループ協議への参加態度(25%)、授業の取組内容(25%)、定期試験(50%)を総合して評価する。
教科書	①『新しい社会　公民』中学校用　東京書籍　文部科学省検定教科書　令和3年2月10日発行　ISBN978-4-487-12333-9 ②『政治・経済』高等学校用　東京書籍　文部科学省検定教科書　令和3年2月10日発行　ISBN978-4-487-16524-7
参考書	『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説　公民編』文部科学省　東京書籍　ISBN978-4-487-28633-1　1,100円＋税
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 新潟県/市公立中学校28年勤務 アクティブラーニング要素

	■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 教育相談論　　授業コード： S5091

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	2単位(30)	学校教育コース・必修／児童福祉コース・初等教育コース・選択
担当教員			
青木　美穂子			
専門科目	講義		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	教師として児童生徒の悩みに共感し、一人一人の課題解決への適切な支援ができる能力や人間としての心の痛みを理解でき、児童生徒のよさを引き出すことのできる資質の育成を図る。
授業の概要	教育相談の意義や目的、教育相談の心理学的基礎、心理アセスメント、カウンセリング諸理論、不登校等の問題行動の理解と指導について学ぶとともに、カウンセリング実習を通して教育相談の基礎的技法を身に付け、教師として必要な教育相談的資質や能力を養う。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	○
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	△

授業計画

第１回　オリエンテーション　子どもの存在と「生きる力」

【key words】
【Key Word】
生きる力　教育相談の考え方　自己育成

【授業概要】
オリエンテーション、シラバス、教育相談の目的及び必要性について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ１～１４
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ１４～２９
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第２回　教育相談・カウンセリングの考え方

【key words】
【Key Word】
教育相談の考え方　教育相談と生徒指導　カウンセリングの発想

【授業概要】
教育相談の考え方、教育相談と生徒指導、カウンセリング感覚について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ１４～２９
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ３１～４４
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第３回　子どもとかかわる基本原理　ーカウンセリングの発想からー　①

【key words】
【key word】
教師としての自己を語る　自己開示　子どもの心を聴く　感情の明確化
【授業概要】
教師として自己開示をすること、子どもの気持ちを聴き取り感情の明確化をすることの重要性を理解する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ３１～４４
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ４４～５７
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第４回　子どもとかかわる基本原理　ーカウンセリングの発想からー　②
【key words】
【Key Word】
スピーディーな対応　子どものメッセージに応じる　子どもの努力・成長に学ぶ　事実に即して誉める・叱る

【授業概要】
子どもとかかわる基本原理について理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ４４～５７
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ５９～７２
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第５回　子どもの人間関係づくり①　学級の「まとまり」をつくる　＜かかわる力＞をはぐくむ
【key words】
【Key Word】
　学級のまとまり　かかわる力

【授業概要】
学級のまとまりをつくること、「かかわる力」を育むことの重要性を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ５９～７２
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ７２～８７
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第６回　子どもの人間関係づくり②　コミュニケーション能力を育成する　指導観・授業観の転換
【key words】
【Key Word】
　コミュニケーション能力　指導観・授業観の転換

【授業概要】
コミュニケーション能力を育成することの大切さや指導観・授業観の転換について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ７２～８７
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習課題　教科書Ｐ１～８７
【予習復習に必要な想定時間】
復習２時間

第７回　前半のまとめとカウンセリング実習①　　構成的グループエンカウンター（実習）　　ソーシャルスキルトレーニング（実習）
【key words】
【Key Word】
　前半まとめ　カウンセリング実習　ロールプレイ

【授業概要】
前半のまとめをする。　次回からのカウンセリング実習の意義を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ１～８７
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ８９～１１４
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第８回　教育相談の計画と活動の実際　　カウンセリング実習②
【key words】
【Key Word】
　教育相談の計画　計画立案の実際例　教育相談活動　家庭訪問　進路指導　保護者会

【授業概要】
教育相談計画の立案や教育相談活動の実際例（家庭訪問・進路指導・保護者会）について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ８９～１１４
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ１１５～１２３
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第９回　学級担任が向き合う危機的な問題①　学級崩壊を克服する　　カウンセリング実習③
【key words】
【Key Word】
　学級崩壊　状況分析　事態改善の方向　予防対策

【授業概要】
学級崩壊の要因を理解し、学級崩壊を克服する対策を考える。
【教科書ページ・参考文献】

教科書Ｐ１１５～１２３
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ１２４～１４５
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第１０回　学級担任が向き合う危機的な問題②　いじめを克服する　　カウンセリング実習④

【key words】
【Key Word】
いじめの基本認識　いじめ集団　指導体制　教師に求められる指導

【授業概要】
いじめについての理解を深め、いじめ解消の対策を考える。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ１２４～１４５
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ１４５～１５７
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第１１回　学級担任が向き合う危機的な問題③　不登校の問題を考える　　カウンセリング実習⑤

【key words】
【Key Word】
不登校の実態　不登校のきっかけ　不登校のサイン　子どものサイン

【授業概要】
不登校の実態を知り、不登校対策としてカウンセリングの考えを生かした対応や子どものサインに気づくことの大切さを理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ１４５～１５７
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ１５８～１７１
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第１２回　学級担任が向き合う危機的な問題④　保護者との対応力を磨く　あってはならない体罰　　カウンセリング実習⑥

【key words】
【Key Word】
保護者との対応力　関係づくり　保護者の不安を解消する　体罰

【授業概要】
保護者との対応力を高めるために必要なポイントを理解する。
体罰についての理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ１５８～１７１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ
【予習復習に必要な想定時間】

第１３回　問題行動の考え方と対応の実際①　　カウンセリング実習⑦

【key words】
【Key Word】
早期発見　組織的対応　近年の問題行動の考え方

【授業概要】
問題行動の考え方を知り、早期発見や組織的対応の重要性を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ１７３～１７９
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習課題　教科書Ｐ８９～１８２
【予習復習に必要な想定時間】
復習　２時間

第１４回　問題行動の考え方と対応の実際②　　カウンセリング実習のまとめ

【key words】
【Key Word】
事例から学ぶ　対応の実際例　　カウンセリング実習のまとめ

【授業概要】
実際の対応例　カウンセリング実習のまとめをする。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ１７３～１８１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ１８２～２０５
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第１５回　まとめ

【key words】
【Key Word】
事例から学ぶ　対応の実際例　まとめ　　発表

【授業概要】
事例を通して対応の実際例を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ１８２～２０５
【課題・予習・復習・授業準備指示】

	試験に向けてのまとめ 【予習復習に必要な想定時間】 試験に向けて　５時間
受講生に関わる情報および受講のルール	誠意ある態度での受講を求めます。講義や実習等を妨げる態度や私語を慎んで下さい。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	授業時に指示する。
オフィスアワー	授業終了後３０分。
評価方法	定期試験（８０％）　授業態度・ワークシート（２０％）を総合して評価します。
教科書	有村久春著　学級教育相談入門　金子書房　２，５００円＋税
参考書	学習指導要領（文部科学省）　生徒指導提要（文部科学省）　幼稚園教育要領　幼保連携子ども園教育・保育要領
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 公立小・中学校の教諭経験　公立小学校の管理職経験 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 教育実習（高等学校）　　授業コード： S5145

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
－	3年次	2単位(80)	学校教育コース・選択
担当教員			
江原　京子			
専門科目	実習		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 　教育実習は、教職課程の総括的、実践的意義を持つ教育経験の場である。講義・演習をとおして得た専門的知識・技能を活かし、実習に取り組むことにより、教育者としての資質・能力の向上を図る。 [到達目標] １　高等学校の教育活動の場に臨み、生徒と直接触れ合い、指導教員の指導を受けながら、教育者として求められる 　知識・技能・態度を修得する。 ２　教科指導や生徒指導などの教育実践をとおして、生徒理解、人間尊重の精神及び教育者としての使命感を養う。
授業の概要	「実習時期及び実習日数・時間」 　原則として当該学年の6月中に、80時間(2週間)の実習を行う。 　※中学校と高等学校両方の教員免許状を希望する者は、中学校あるいは高等学校において、原則として6月中120時 　間（3週間）の教育実習を行い、教員免許状に必要な科目を履修することで取得できる。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	○
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	△
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回　　福祉祉科　教育実習履修資格者要件 － 【key words】 【福祉科　教育実習履修資格者】 【授業概要】 以下に記載するすべての履修要件を満たした者 １　将来、教員として学校現場で働く意思を強くもっている者 ２　教職課程の学習に熱意と意欲をもっている者 ３　健康状態が実習を行うのに適当と認められる者 ４　実習前あるいは実習期間中に、教科または教職に関する科目：教育原理、教育方法論、教育心理学、教職概論、教育社会学、教育実習事前・事後指導、生徒指導･進路指導の理論と方法、教育相談論、特別活動の指導法、特別支援教育総論、日本国憲法、介護概論、介護技術Ⅰ、福祉科教育法を履修済みあるいは履修中であること。 ５　ボランティア活動に積極的に取り組んでいる者 ６　3年次後期開講の教職対策講座Ⅰと4年次前期開講の教職対策講座Ⅱを必ず受講する者 ７　1年次より実施する一般教養講座（基礎学力養成講座）を受講する者（原則として3年次まで） ８　実習後に都道府県で実施している教員採用試験を必ず受験する者（都道府県によっては受験が実施されない教科がある。その場合は私立学校主催の適正検査を必ず受験すること） 【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２回　　公民科　教育実習履修資格者要件

【key words】
【公民科　教育実習履修資格者】

【授業概要】
以下に記載するすべての履修要件を満たした者
１　将来、教員として学校現場で働く意思を強くもっている者
２　教職課程の学習に熱意と意欲をもっている者
３　健康状態が実習を行うのに適当と認められる者
４　実習前あるいは実習期間中に、教科または教職に関する科目：教育原理、教育方法論、教育心理学、教職概論、教育社会学、教育実習事前・事後指導、生徒指導･進路指導の理論と方法、教育相談論、特別活動の指導法、特別支援教育総論、日本国憲法、公民科教育法を履修済みあるいは履修中であること。
５　ボランティア活動に積極的に取り組んでいる者
６　3年次後期開講の教職対策講座Ⅰと4年次前期開講の教職対策講座Ⅱを必ず受講する者
７　1年次より実施する一般教養講座（基礎学力養成講座）を受講する者（原則として3年次まで）
８　実習後に都道府県で実施している教員採用試験を必ず受験する者（都道府県によっては受験が実施されない教科がある。その場合は私立学校主催の適正検査を必ず受験すること）

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第３回

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第４回

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第５回

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第６回

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第７回

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第８回

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第９回

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１０回

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１１回

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１２回

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１３回

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１４回

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

	第１５回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	「実習上の注意」 １　実習中は実習校の指導教員の指導・指示に従い、真摯な態度で熱意をもって実習を行うこと ２　実習生といえども「教員」であるという意識をもち、態度、服装、言動等に充分気をつけること ３「教育実習記録」は毎日記録し、指導教員へ提出すること。実習終了後は本学実習指導教員に提出すること ４　授業研究を充分に行い、授業に臨むこと ５　実習中は学習指導要領及び実習へのガイドブックを携行すること ６　実習中、本学実習指導教員に実習状況等を必ず報告すること 7　実習中、SNSへの投稿を禁止する（内容の如何を問わず） [実習中止の措置] １　本学実習指導教員及び実習校の指導教員の指導・指示に従えない者 ２　実習上の注意（１～7）が守れない者 ３　実習校の校長より実習中止の申し出があったとき ４　その他、実習を行うのに困難な事由が発生したとき
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	実習中におけるメール等（文章化したもの）での報告
授業外時間にかかわる情報	※　実習中は本学実習指導教員に実習状況･内容等をメール等で必ず報告(評価に関わる）し、疑問を残さないようにすること。
オフィスアワー	水曜日　16時～17時30分　それ以外の時間帯については、要相談・要予約
評価方法	１　実習中における実習状況・内容の報告(２０％)：メール等（文章化したもの）での報告を義務付ける。 ２　実習校の評価(５０％) ３　教育実習録の評価(３０％)
教科書	１　群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック』 ２　文部科学省『高等学校学習指導要領(平成30年告示)』 ３　文部科学省『高等学校学習指導要領解説(平成30年度告示)福祉編』(福祉科の教員免許状取得希望者) ４　文部科学省『高等学校学習指導要領解説(平成30年度告示)公民編』(公民科の教員免許状取得希望者)
参考書	適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 担当者が、それぞれ社会福祉（社会福祉士、精神保健福祉士他）、子ども（保育園、幼稚園、小学校他）、学校教育（特別支援、中学校、高等学校、教育委員会での教育行政他）等で勤務実績を積み上げている。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 ■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 教育実習事前事後指導（中・高）　　授業コード： S5146

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	1単位(90)	学校教育コース・選択
担当教員			
江原　京子			
専門科目	演習		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 　中学校及び高等学校の本実習を控え、教育基本法の目標と目的を熟知し、教育の理念・目標を熟知して教育実習に臨む。直前に控えた本実習では、どのようなことを学び、どのような視点で実習を行っていったら良いか、教材研究にも力を注ぎ、教育実習生としての心得や自覚を促すことを目的とする。 　本実習終了後は、教育実習の成果を再確認して今後の課題を見いだせるようにする。 [到達目標] １　学校の組織・運営や生徒指導および学習（教科）指導に関する基礎・基本となる内容を確実におさえることがで 　きる。 ２　本実習終了後は報告会を行い、将来学校教育に従事する教員としての役割や資質について考えられる。
授業の概要	１　２年次に行った事前指導の内容を確認し、直前に控えた本実習に向けて、教育実習生としての心得や実習中に留意 　することを中心に講義を行う。 ２　生徒一人一人に対しての望ましい教育的働きかけに言及し、教材研究が充実したものとなるように指導していく。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	△
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回　科目オリエンテーション（授業概要、評価方法等の説明）　教育実習に臨み　－教育実習の範囲と内容－ 【key words】 学生指導、生徒指導、学級／クラス活動、校務分掌 【授業概要】 【授業にあたり】 　１　教育実習の期間が異なるため、提示した回の内容での実施とならない場合がある。 　　※　変更した内容を適宜提示する。 　２　本実習中は、必ずメール等で実習内容についてメールで報告を行うこと（週3回必須） 　３　本実習中に困ったこと、不安なこと、わからないこと等、自分で判断せず、必ず相談すること。 【授業概要】教育実習本実習に向けて、教育実習の範囲と内容について確認を行う。 【教科書ページ・参考文献】 ・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』 ・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教育実習本実習に向けて、教育実習の範囲と内容について、ミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。中学生の特徴について調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】

60分～90分
第２回　実習を受け入れる立場から　　①　－中学校の立場から－
【key words】
思春期、生徒指導、進路指導、学習指導
【授業概要】

教育実習を受け入れる中学校の立場から、思春期真っ只中の中学生との接し方、学習面で開きがある生徒の指導について等、学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』
・配布資料等
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教育実習を受け入れる中学校の立場から、実習生に必要とされる資質・能力とは何か等、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。高校生の特徴について調べてくること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分
第３回　実習を受け入れる立場から　　②　－高等学校の立場から－
【key words】
青年期、生徒指導、進路指導
【授業概要】

教育実習を受け入れる高等学校の立場から、子どもでも大人でもない、「高校生」という時期の接し方、将来の自分像を考え･悩む進路指導について等、学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』
・配布資料等
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教育実習を受け入れる高等学校の立場から、実習生に必要とされる資質･能力とは何か等、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。教育実習で留意する点をまとめておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分
第４回　教育実習で留意すること
【key words】
規則正しい生活、守秘義務、報告･連絡･相談、提出物
【授業概要】
教育実習で留意することについて、確認する。
【教科書ページ・参考文献】
・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』
・レジュメ等
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教育実習で留意することについて、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
教育実習校の特徴等をホームページ等で確認しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分
第５回　観察実習、教育実習録の書き方
【key words】
実習校の特徴、時間割、実習日誌、実習内容、総括
【授業概要】

教育実習録（実習日誌）の書き方について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』P82～・配布資料：書き方例
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・配布資料の書き方例を参考にして実習日誌を書き、期日までに提出すること。
・教育実習録に必要事項を記入しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分
第６回　教育実習･本実習における教材研究の在り方
【key words】
教材研究、教材･教具、補助教材、確かな学びの保障
【授業概要】
教育実習･本実習における教材研究の進め方について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』P15～
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教育実習･本実習における教材研究の進め方について、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分
第７回　教育実習･本実習の流れ　　一日の日程（朝の会･帰りの会／ショートホームルーム等）
【key words】
一日の流れ、観察実習、授業実習、実習内容
【授業概要】
教育実習･本実習の流れ、実習内容、一日の流れ：日程（朝の会･帰りの会／ショートホームルーム等）について確認をする。
【教科書ページ・参考文献】

		・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』 ・大学オリテンのレジュメ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 各実習校の教育実習･本実習の流れ、実習内容、一日の流れについて、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 実習校の流れを確認しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第８回	本実習前　大学オリエンテーション 【key words】 実習の心構え、守秘義務、留意事項 【授業概要】 本実習前　大学オリエンテーションを実施する。 学長、学部長先生より訓話・講話をいただく。 心構え、留意事項等、担当教員より 【教科書ページ・参考文献】 ・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』 ・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房 【課題・予習・復習・授業準備指示】 大学オリエンテーションの内容をまとめ、期日までに提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第９回	研究授業案の作成（各実習校の形式に合わせて） 【key words】 学習指導案の作成、生徒理解、材料の提示、学びの保障 【授業概要】 研究授業案を各実習校の形式に合わせて作成する準備を整える。 【教科書ページ・参考文献】 ・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』・観察実習記録 ・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・研究授業案を各実習校の形式に合わせて作成する準備を整える。 ・次回の授業で研究授業案を作成するため、準備をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第１０回	研究授業に向けて　　①　中学校（地理、歴史、公民分野）もしくは高等学校（公民、福祉）の実習校での計画 【key words】 学習指導案の作成、生徒理解、材料の提示、学びの保障 【授業概要】 研究授業案を各実習校の形式に合わせて作成する。 【教科書ページ・参考文献】 ・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』P17～P36、P35～P45 ・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房 【課題・予習・復習・授業準備指示】 研究授業案を各実習校の形式に合わせて作成しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第１１回	研究授業に向けて　　②　中学校（地理、歴史、公民分野）もしくは高等学校（公民、福祉）の実習校での実際 【key words】 挨拶（実習前･後、全体集会での挨拶、担当学級･クラス）、御礼状 【授業概要】 実習校における挨拶の仕方・御礼状の書き方について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 ・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』 ・挨拶の仕方：レジュメ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・挨拶の仕方について、まとめたものを期日までに提出すること。 ・教育実習報告会に向けて、報告書を作成しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第１２回	教育実習報告・検討会①　中学校及び高等学校教育実習（報告書の作成に基づき実習生数名による報告会） 【key words】 学習指導、生徒指導、学級／クラス経営、校務分掌、特別活動 【授業概要】 前回に引き続き報告会を実施する。 ・教育実習本実習を終え、教育実習報告書を作成し発表することで、自身の実習内容を振り返ることができる。 ・研究授業の録画を視聴し、研究授業を実施した時には気づかなかった部分に目を向けることができる。 ・他学生からの意見を聴き、実習報告書、DVDを通して、将来、教員として活躍するための基盤をつくる。 【教科書ページ・参考文献】 作成した教育実習報告書 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・教育実習の報告について、ミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 ・次回の発表者は報告書の準備とプレゼンテーションの準備をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分

	第１３回　教育実習報告・検討会②　中学校及び高等学校教育実習（報告書の作成に基づき実習生数名による報告会） 【key words】 学習指導、生徒指導、学級／クラス経営、校務分掌、特別活動 【授業概要】 前回に引き続き報告会を実施する。 ・教育実習本実習を終え、教育実習報告書を作成し発表することで、自身の実習内容を振り返ることができる。 ・研究授業の録画を視聴し、研究授業を実施した時には気づかなかった部分に目を向けることができる。 ・他学生からの意見を聴き、実習報告書、DVDを通して、将来、教員として活躍するための基盤をつくる。 【教科書ページ・参考文献】 作成した教育実習報告書 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・教育実習の報告について、ミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 ・次回の発表者は報告書の準備とプレゼンテーションの準備をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分 第１４回　教育実習報告・検討会③　中学校及び高等学校教育実習（報告書の作成に基づき実習生数名による報告会） 【key words】 学習指導、生徒指導、学級／クラス経営、校務分掌、特別活動 【授業概要】 前回に引き続き報告会を実施する。 ・教育実習本実習を終え、教育実習報告書を作成し発表することで、自身の実習内容を振り返ることができる。 ・研究授業の録画を視聴し、研究授業を実施した時には気づかなかった部分に目を向けることができる。 ・他学生からの意見を聴き、実習報告書、DVDを通して、将来、教員として活躍するための基盤をつくる。 【教科書ページ・参考文献】 作成した教育実習報告書 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・教育実習の報告について、ミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 ・次回の発表者は報告書の準備とプレゼンテーションの準備をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分 第１５回　教育実習報告・検討会④　中学校及び高等学校教育実習 【key words】 学習指導、生徒指導、学級／クラス経営、校務分掌、特別活動 【授業概要】 前回に引き続き報告会を実施する。 ・教育実習本実習を終え、教育実習報告書を作成し発表することで、自身の実習内容を振り返ることができる。 ・研究授業の録画を視聴し、研究授業を実施した時には気づかなかった部分に目を向けることができる。 ・他学生からの意見を聴き、実習報告書、DVDを通して、将来、教員として活躍するための基盤をつくる。 【教科書ページ・参考文献】 作成した教育実習報告書 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・後輩学生に向けた教育実習報告会の準備（教育実習報告書の作成等）を行う。 ・教員採用試験に向けて学習計画を立てる。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
受講生に関わる情報および受講のルール	１　遅刻・欠席は授業時間前に必ず届け出ること。無断欠席や遅刻の多い学生は受講取消もあり得る。 ２　授業中に課したミニレポート・シャトルカードを必ず提出すること。 ３　予習復習を必ず行い、疑問点を確認しておくこと。 ４　将来、教職に携わる者としての資質を養うため、私語を慎み、誠意ある態度での受講を求める。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード、ミニミニレポート
授業外時間にかかわる情報	１　授業の要約もしくは課題をミニミニレポートとシャトルカードにまとめ、指定した日時までに提出すること。ミニミニレポートをまとめる際、語句の意味や内容を専門書等で調べ詳細にまとめること。 ２　教育実習の報告書は指定された形式に則り、教育実習報告会までに提出すること。
オフィスアワー	水曜日　16時～17時30分　それ以外の時間帯については、要相談・要予約
評価方法	授業中に課したミニミニレポーの内容（40%）、実習報告書の内容･発表（50%）、大学オリエンテーションのまとめレポート（10%）を総合して評価する。
教科書	１　『教育実習へのガイドブック』、群馬医療福祉大学 ２　文部科学省　『中学校学習指導要領（平成29年告示）/高等学校学習指導要領(平成30年告示)』、東山書房 ３　文部科学省　『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）特別の教科　道徳編』、文京出版
参考書	講義の中で適宜紹介する。

実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 中学校教諭として勤務経験をもつ教員が、教育実習の本実習に向けて、授業運営方法、指導案の作成、生徒理解を踏まえた模擬授業の実践を指導する。実際の教育現場において、教師として相応しい資質･能力の向上を目指す指導を行う。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 教育実習（中学校）　　授業コード： S5149

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
－	3年次	4単位(120)	学校教育コース・選択
担当教員			
江原　京子			
専門科目	実習		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 　教育実習は、教職課程の総括的、実践的意義を持つ教育経験の場である。講義・演習をとおして得た専門的知識・技能を活かし、実習に取り組むことにより、教育者としての資質・能力の向上を図る。 [到達目標] １　中学校の教育活動の場に臨み、生徒と直接触れ合い、指導教員の指導を受けながら、教育者として求められる 　知識・技能・態度を修得する。 ２　教科指導や生徒指導などの教育実践をとおして、生徒理解、人間尊重の精神及び教育者としての使命感を養う。
授業の概要	【実習時期及び実習日数・時間】 　原則として当該学年の6月中に、120時間(3週間)の実習を行う。 　※中学校と高等学校両方の教員免許状を希望する者は、中学校あるいは高等学校において、原則として6月中120時 　間（3週間）の教育実習を行い、教員免許状に必要な科目を履修することで取得できる。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	△
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	教育実習履修資格者要件 【key words】 【教育実習履修資格者】 【授業概要】 以下に記載するすべての履修要件を満たした者 １　将来、教員として学校現場で働く意思を強くもっている者 ２　教職課程の学習に熱意と意欲をもっている者 ３　健康状態が実習を行うのに適当と認められる者 ４　実習前あるいは実習期間中に、教科または教職に関する科目：教育原理、教育方法論、教育心理学、教職概論、教育社会学、教育実習事前・事後指導、生徒指導･進路指導の理論と方法、特別活動の指導法、特別支援教育総論、道徳の理論及び指導法、総合的な学習の時間の指導法、日本国憲法、地理学、世界史、日本史Ⅰ、日本史Ⅱ、社会科教育法Ⅰ、社会科教育法Ⅱを履修済みあるいは履修中であること。 ５　ボランティア活動に積極的に取り組んでいる者 ６　3年次後期開講の教職対策講座Ⅰと4年次前期開講の教職対策講座Ⅱを必ず受講する者 ７　１年次より実施する一般教養講座（基礎学力養成講座）を受講する者（原則として3年次まで） ８　実習後に各都道府県で実施する教員採用試験を必ず受験する者 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】

第２回
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第３回
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第４回
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第５回
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第６回
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第７回
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第８回
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第９回
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

	第１０回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１１回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１２回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１３回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１４回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１５回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	【実習上の注意】 １　実習中は実習校の指導教員の指導・指示に従い、真摯な態度で熱意をもって実習を行うこと ２　実習生といえども「教員」であるという意識をもち、態度、服装、言動等に充分気をつけること ３　「教育実習記録」は毎日記録し、指導教員へ提出すること。実習終了後は本学実習指導教員に提出すること ４　授業研究を充分に行い、授業に臨むこと ５　実習中は学習指導要領及び実習へのガイドブックを携行すること ６　実習中、本学実習指導教員に実習状況等を必ず報告すること 7　実習中、SNSへの投稿を禁止する（内容の如何を問わず） 【実習中止の措置】 １　本学実習指導教員及び実習校の指導教員の指導・指示に従えない者 ２　実習上の注意（１～7）が守れない者 ３　実習校の校長より実習中止の申し出があったとき ４　その他、実習を行うのに困難な事由が発生したとき
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	実習中におけるメール等（文章化したもの）での報告
授業外時間にかかわる情報	※　実習中は本学実習指導教員に実習状況･内容等をメール等(評価に関わる）で必ず報告し、課題･

	疑問点等を残さないようにすること。
オフィスアワー	水曜日　16時～17時30分　それ以外の時間帯については、要相談・要予約
評価方法	1　実習中における実習状況・内容の報告（２０％）：メール等（文章化したもの）での報告を義務付ける。 2　実習校の評価（５０％） 3　教育実習録の評価（３０％）
教科書	1　『教育実習へのガイドブック』、群馬医療福祉大学 2　文部科学省　『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）』、東山書房 3　文部科学省　『中学校学習指導要領解説（平成29年3月告示）社会科編』、文京出版 4　文部科学省　『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）特別の教科　道徳編』、文京出版
参考書	適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 中学校教諭として勤務経験をもつ教員が、実習の巡回指導を行うほか、教師としての指導力が身に着くよう実践的な指導を行う。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 知的障害者の心理・生理・病理　　授業コード： S5331

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	2単位(30)	学校教育コース・選択
担当教員			
山﨑　博幸			
専門科目	講義		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　知的障害児の教育では、児童生徒の個別の実態を適切に把握し、心理・生理・病理学の側面を踏まえて援助することが必要である。そのために、知的障害の原因となる疾患について生物学的な観点から理解することを目的とする。 【到達目標】 　①脳の構造、機能、遺伝子変異がもたらす障害について説明することができる。 　②知的障害者（児）の心理・生理・病理の基本的知識について説明することができる。
授業の概要	知的障害者（児）を支援するには、その疾患及び病態を理解することが前提となる。知的障害の心理・生理・病理の特性を理解するために、基本的な脳の機能から代表的な原因疾患について学習する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画

第１回　イントロダクション
【key words】
知的障害、適応障害、知能指数
【授業概要】
知的障害の定義や知的障害を生物学的に理解する意義について理解する。
15回の講義についての計画・概要を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
p1～20
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前に教科書・参考書の該当箇所を読んでおくこと。
授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。

【予習復習に必要な想定時間】
45分

第２回　知的障害を理解するための生理学的基礎（１）染色体と遺伝子
【key words】
染色体、遺伝子、DNA、RNA、セントラルドグマ、タンパク質、遺伝子変異
【授業概要】
知的障害を生物学的に理解するための細胞生物学的基礎知識を理解する。古典的なセントラルドグマの考え、その基礎となる生体高分子であるDNA、RNA、タンパク質について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
p20～27
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前に教科書・参考書の該当箇所を読んでおくこと。
授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。
【予習復習に必要な想定時間】
45分

	第３回	知的障害を理解するための生理学的基礎（２）神経系の発生・発達 【key words】 発生、神経板、外胚葉、ニューロン、細胞移動、層形成、シナプス、シナプス形成 【授業概要】 知的障害を生物学的に理解するための発生学的な基礎知識を理解する。神経板からどのように脳が形成され、中枢神経系の機能的基盤であるシナプスがどのように形成されるのか、またどのように洗練化されていくのかについて理解する。 【教科書ページ・参考文献】 p33～34 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前に教科書・参考書の該当箇所を読んでおくこと。 授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。 【予習復習に必要な想定時間】 45分
	第４回	脳の構造・機能 【key words】 大脳皮質、海馬、ペンフィールド、ウェルニッケ、ブローカ、ホモンクルス 【授業概要】 知的障害を生物学的に理解するための脳の機能局在について理解する。 古典的なペンフィールドの仕事から、最近のオプトジェネティクスを用いた研究の概要を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 p31～33、36～38 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前に教科書・参考書の該当箇所を読んでおくこと。 授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。 【予習復習に必要な想定時間】 45分
	第５回	学習と記憶 【key words】 短期記憶、長期記憶、陳述記憶（顕在）、非陳述記憶（潜在）、古典的条件づけ、オペラント条件づけ、長期増強、海馬、大脳皮質、行動実験 【授業概要】 記憶の分類、記憶に大きく関わる脳の領域、記憶のメカニズムと考えられている長期増強モデルについて概要を理解する。また、マウスを用いた行動実験について概要を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 p77～81、86～96 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前に教科書・参考書の該当箇所を読んでおくこと。 授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。 【予習復習に必要な想定時間】 45分
	第６回	意識と注意 【key words】 意識、魂、心、感情、記憶、注意、両眼視野闘争 【授業概要】 生物の意識はどこにあるのか？　視覚系を中心に両眼視野闘争のモデル等について概要を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 p75～77、81～85 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前に教科書・参考書の該当箇所を読んでおくこと。 授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。 【予習復習に必要な想定時間】 45分
	第７回	染色体異常 【key words】 染色体、ダウン症、ターナー症候群、トリソミー、転座 【授業概要】 先天性疾患の原因となる染色体異常、特にダウン症は比較的頻度が高く知的障害を呈する。ダウン症の病理、合併症等について理解する。また、その他の染色体異常のメカニズムや病理についても概要を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 p42～48 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前に教科書・参考書の該当箇所を読んでおくこと。 授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。 【予習復習に必要な想定時間】 45分
	第８回	自閉症（１） 【key words】 DSM-5、自閉スペクトラム症、アスペルガー症候群、脆弱X症候群 【授業概要】 古典的なカナー症候群から、DSM-5による自閉スペクトラム症（ASD, Autism Spectrum Disorder）としての捉え方について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 p185～190 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前に教科書・参考書の該当箇所を読んでおくこと。 授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。 【予習復習に必要な想定時間】 45分

	第９回	自閉症（２） 【key words】 原因遺伝子、父親高齢、de novo突然変異、シナプス、シナプス形成、細胞接着、エピジェネティクス 【授業概要】 自閉症を脳の器質的障害として捉え、脳にどのような変化が起こっているのか、その原因遺伝子は何かについて21世紀以降に新たに分かってきた知見について概要を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 p185～190 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前に教科書・参考書の該当箇所を読んでおくこと。 授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。 【予習復習に必要な想定時間】 45分
	第１０回	胎生期の環境要因 【key words】 感染症、胎児性アルコール症候群、低栄養、バルプロ酸、妊娠高血圧 【授業概要】 脳に破壊的病変・先天性奇形を誘発し知的障害の原因となる環境要因について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 p39～42 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前に教科書・参考書の該当箇所を読んでおくこと。 授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。 【予習復習に必要な想定時間】 45分
	第１１回	脳発生異常 【key words】 大脳皮質、細胞移動、脳形成障害、水頭症、滑脳症、多小脳回、全前脳胞症 【授業概要】 第7回～１０回の振り返りを行い、これまでの流れを理解する。さらに脳の発生異常について概要を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 p51～52 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前に教科書・参考書の該当箇所を読んでおくこと。 授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。 【予習復習に必要な想定時間】 45分
	第１２回	知的障害児と健康問題 【key words】 肥満、てんかん、興奮毒性、自閉症 【授業概要】 知的障害者は健康に対する自己管理能力が低いために、肥満傾向を示す割合が高い。また、自閉症児はてんかんを併発することが多い。その他、知的障害児がかかえやすい健康問題に関して理解する。 【教科書ページ・参考文献】 p147～170 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前に教科書・参考書の該当箇所を読んでおくこと。 授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。 【予習復習に必要な想定時間】 45分
	第１３回	知的障害とその周辺領域 【key words】 LD（学習障害）、ADHD（注意欠如・多動性障害） 【授業概要】 近年とくに注目されている発達障害、その中でもLD（学習障害）、ADHD（注意欠如・多動性障害）について最新の知見について概要を理解する。また、発達障害が原因と思われる事件の例をあげて、ディスカッションを行う。 【教科書ページ・参考文献】 p171～184 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前に教科書・参考書の該当箇所を読んでおくこと。 授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。 【予習復習に必要な想定時間】 45分
	第１４回	知的障害が及ぼす心理的影響 【key words】 知覚、認知、性格、問題行動、個人因子、環境因子 【授業概要】 知的障害が及ぼす心理的影響、問題行動等について理解する。 また、事例を紹介しディスカッションを行う。 【教科書ページ・参考文献】 p104～114 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前に教科書・参考書の該当箇所を読んでおくこと。 授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。 【予習復習に必要な想定時間】 45分
	第１５回	まとめと授業の振り返り 【key words】

	知的障害、発達障害、脳、神経細胞、遺伝子、遺伝子変異 【授業概要】 第１回～１４回の授業の振り返りを行い、知的障害の原因、病理について確認を行う。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 60分
受講生に関わる情報および受講のルール	知的障害者（児）の療育及び福祉に対する熱意のある学生の受講を望みます。教員が指名した時はきちんと受け答えをすること。スマートフォンは基本的に机の上に置かずにしまっておくこと。私語は厳禁、注意しても止めない場合は退室させます。 ディスカッションは歓迎します。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード　又は　Google Form
授業外時間にかかわる情報	授業時に指示する
オフィスアワー	木曜日、金曜日の4限（面接希望の学生は事前に要連絡）
評価方法	筆記試験（80%）、レポート(20%)
教科書	勝二博亮　　「知的障害児の心理・生理・病理」　　北大路書房
参考書	小池敏英・北島善夫　　「知的障害の心理学」　　北王路書房
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 肢体不自由者の心理・生理・病理　　授業コード： S5341

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	2単位(30)	学校教育コース・選択
担当教員			
山﨑　博幸			
専門科目	講義		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 肢体不自由児の教育では、児童生徒の個別の実態を適切に把握し、心理・生理・病理学の側面を踏まえて援助することが必要である。そのために、肢体不自由の原因となる疾患について生物学的な観点から理解することを目的とする。 【到達目標】 ①運動器と脳の関係について説明することができる。 ②肢体不自由をきたす主な原因について説明することができる。 ②運動発達と認知発達の関係、肢体不自由者（児）の認知特性について説明することができる。
授業の概要	肢体不自由者（児）は、その原因となる疾患のため、学校教育や社会参加に支障をきたしている。特別支援学校教諭として必要な医学知識と障がい者（児）の心理を学習する。先ずは肢体不自由を理解するために骨・筋肉の生理学の講義を行う。その後、肢体不自由の原因となる疾患類を学習し事例検討を行う。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	イントロダクション 【key words】 肢体不自由、運動麻痺、不随運動、四肢の短縮欠損、高木憲次 【授業概要】 現在の肢体不自由の原因は多様である。肢体不自由の原因の変遷や、「なぜ、人体の構造・機能、疾患のメカニズムを学ぶのか？」について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 ｐ１～１３ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前に教科書・参考書の該当箇所を読んでおくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 45分
	第２回	骨・筋肉の生理学（１） 【key words】 骨、筋肉、関節、体位、骨芽細胞、破骨細胞、カルシウム、腎臓、ビタミンD 【授業概要】 人体の概要、骨・筋肉の解剖、骨を構成する細胞について理解する。 また、カルシウムの代謝について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 「オックスフォード・生理学」「医学書院・標準生理学」「医学書院・解剖生理学」等の各種生理学、の教科書の該当箇所 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前に教科書・参考書の該当箇所を読んでおくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 45分

	第３回	骨・筋肉の生理学（２） 【key words】 骨格筋、筋収縮、アクチン、ミオシン、カルシウム、活動電位 【授業概要】 筋収縮のメカニズムについて、機能するタンパク質、生体分子がどのように働いているのかを理解する。 【教科書ページ・参考文献】 ｐ16～41 および 「オックスフォード・生理学」「医学書院・標準生理学」「医学書院・解剖生理学」等の各種生理学、の教科書の該当箇所 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前に教科書・参考書の該当箇所を読んでおくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 45分
	第４回	中枢神経系と運動の制御 【key words】 脳、大脳皮質、脊髄、下行性伝導路・皮質脊髄路・錐体路、随意運動、不随意運動、神経筋接合部 【授業概要】 中枢神経系がどのように運動をコントロールしているのか、その伝導路、神経筋接合部等について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 ｐ44～54 および 「オックスフォード・生理学」「医学書院・標準生理学」「医学書院・解剖生理学」等の各種生理学、の教科書の該当箇所 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前に教科書・参考書の該当箇所を読んでおくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 45分
	第５回	運動発達と認知発達 【key words】 原始反射、脳幹、歩行中枢、中脳、運動発達と認知発達 【授業概要】 子どもの発達過程から運動発達が認知発達にどのように影響するのか、心理的影響も含めて理解する。 【教科書ページ・参考文献】 「肢体不自由児の医療・療育・教育」金芳堂　のp4～6 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前に教科書・参考書の該当箇所を読んでおくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 45分
	第６回	脳性麻痺（１） 【key words】 脳性麻痺の定義、周産期、低酸素脳症、頭蓋内出血、重症黄疸、胎内感染、先天性奇形 【授業概要】 脳性麻痺の定義、原因、疫学等について概要を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 p 56～63 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前に教科書・参考書の該当箇所を読んでおくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 45分
	第７回	脳性麻痺（２） 【key words】 運動障害、痙直型、アテトーゼ型、強剛型（固縮型）、失調型、無緊張型、混合型、四肢麻痺、両麻痺、片麻痺、対麻痺 【授業概要】 脳性麻痺の症状、特徴、神経病理について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 p 56～63 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前に教科書・参考書の該当箇所を読んでおくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 45分
	第８回	二分脊椎 【key words】 二分脊椎、神経発生、神経板、DNA合成、葉酸、脊柱、脊柱管、水頭症、知覚麻痺、自己導尿 【授業概要】 二分脊椎について、その病態、原因について理解する。さらに、二分脊椎を理解するための基礎となる人体発生、特に神経発生についても確認を行う。さらに、二分脊髄による障害のセルフケアについても理解する。 【教科書ページ・参考文献】 「肢体不自由児の医療・療育・教育」金芳堂　のp 33～43 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前に教科書・参考書の該当箇所を読んでおくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 45分
	第９回	筋ジストロフィーとペルテス病 【key words】 筋ジストロフィー、デュシャンヌ型、X染色体、男児、ペルテス病、大腿骨、股関節

【授業概要】
筋ジストロフィー（主にデュシャンヌ型）の病態、原因遺伝子、及びペルテス病の病態について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
「肢体不自由児の医療・療育・教育」金芳堂 P64～67
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前に教科書・参考書の該当箇所を読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第１０回　骨系統疾患と先天奇形

【key words】
軟骨無形性症、骨形成、FGFR3、骨形成不全症、Ⅰ型コラーゲン、多指症、先天性切断、サリドマイド
【授業概要】
骨形成について骨芽細胞、破骨細胞について復習する。軟骨無形性症、骨形成不全症の病態、原因遺伝子について理解する。また、手足の先天性奇形、サリドマイド禍等について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
「肢体不自由児の医療・療育・教育」金芳堂　p63-84
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前に教科書・参考書の該当箇所を読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第１１回　先天性多発性関節拘縮症と先天性股関節脱臼

【key words】
関節拘縮、発育性股関節形成不全、股関節脱臼、脱臼、亜脱臼、臼蓋形成不全、三角おむつ

【授業概要】
関節拘縮の定義、病態、関連遺伝子について理解する。また、股関節の解剖、股関節脱臼の病態、原因について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
各種解剖学の教科書
「肢体不自由児の医療・療育・教育」金芳堂　p85～108
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前に教科書・参考書の該当箇所を読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第１２回　障害と適応機制

【key words】
適応、適応機制、フロイト、フラストレーション、ストレス、ストレッサー、コーピング、心的外傷、PTSD、障害の認識、心理的バリア
【授業概要】
適応および適応機制について復習し、障害と適応機制の関係について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
中央法規出版「最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座２ 心理学と心理的支援」
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前に教科書・参考書の該当箇所を読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第１３回　障害の受容

【key words】
受容、自己理解、セルフケア、セルフエスティーム
【授業概要】
障害によって生じた心理的状態、それがどのように変化していくかのプロセスについて講義する。
講義の後、事例を動画で紹介する。
【教科書ページ・参考文献】
「肢体不自由児の医療・療育・教育」金芳堂　p8～11
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前に教科書・参考書の該当箇所を読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第１４回　ICFと障害の理解

【key words】
ICIDH、ICF、心身機能・身体構造、活動、参加、環境因子、個人因子
【授業概要】
ICIDHからICFへの変遷、ICFの概要について理解する。また、事例をもとにしてICFの活用についてディスカッションを行う。
【教科書ページ・参考文献】
中央法規出版「最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 医学概論」p25～30
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前に教科書・参考書の該当箇所を読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第１５回　まとめと授業の振り返り

【key words】
肢体不自由、原因疾患、原因遺伝子、骨、筋肉
【授業概要】
これまでの授業の振り返りを行う。
【教科書ページ・参考文献】
p１～１０８
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義ノートを見返しておくこと。肢体不自由の原因疾患について不明点がある場合はこの時間に

	もういちど解説を行うので、事前に質問をなげかけること。 【予習復習に必要な想定時間】 45分
受講生に関わる情報および受講のルール	肢体不自由者（児）の療育及び福祉に対する熱意のある学生の受講を望みます。教員が指名した時はきちんと受け答えをすること。スマートフォンは基本的に机の上に置かずにしまっておくこと。私語厳禁、私語を注意しても止めない場合は退室させます。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード　又は　Google Form
授業外時間にかかわる情報	授業時の指示する
オフィスアワー	木曜日、金曜日の4限
評価方法	筆記試験（８０%）、レポート（２０%）
教科書	竹田一則（著）　「肢体不自由児、病弱・身体虚弱児教育のためのやさしい医学・生理学」　ジアース教育新社
参考書	岡野ら（監訳）　「オックスフォード・生理学　4版」　丸善出版 篠田達明監修　「肢体不自由児の医療・療育・教育」　金芳堂　最新版 系統看護学講座　専門基礎分野「解剖生理学　人体の構造と機能１」　医学書院　最新版
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 知的障害教育Ⅱ　　授業コード： S5371

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	2単位(30)	学校教育コース・選択
担当教員			
大谷　幸雄			
専門科目	講義		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　知的障害教育の基本的知識を基に、障害の重度化・重複化している障害児の実態も理解できる。更に、人間行動の成り立ちや基本的行動や概念行動などの学習内容が理解できる。個々の障害児に合った学習法について考察できる。 【到達目標】 　①アヴェロンの野生児から当時の学習の様子が理解できる。 　②様々な学習停滞時の支援の仕方が理解できる。 　③特別支援教育の学習の方法が理解できる。
授業の概要	知的障害教育の原点である「アヴェロンの野生児の記録」をはじめ、知的障害教育の現状を知る。さらに、知的障害児には難しいといわれている教科的な学習についても、その実践事例を通して理解する。また、知的障害教育の教材・教具を実際に見たり、使い方を学習することにより知的障害教育の支援の方法を知る。今後の知的障害教育の在り方についても考察する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回　オリエンテーション　知的障害教育Ｉの復習①（教育課程　領域・教科別の指導他） 【key words】 知的障害教育　知的障害児の特徴　各教科　教科別の指導　領域別の指導 【授業概要】 知的障害児について知的障害教育Ｉで学んだことを復習する。知的障害とは？ 知的障害児の特徴について。知的障害児の歴史。　知的障害児の学習について。各教科の指導　等々。 【教科書ページ・参考文献】 特別支援学校学習指導要領及びその解説書、自立活動解説書 【課題・予習・復習・授業準備指示】 今日の復習と各教科等を合わせた指導についてなどについて学んだことを復習しておくこと。次回予習復習確認のミニテスト①実施予定。 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分～４０分 第２回　知的障害教育Ｉの復習②（各教科等を合わせた指導　他） 【key words】 日常生活の指導　遊びの学習　生活単元学習　作業学習 【授業概要】 予習復習確認ミニテスト①　各教科等を合わせた指導の歴史　それぞれの指導形態について復習確認　教育現場で実際に行われている指導と課題について考える。

【教科書ページ・参考文献】
特別支援学校学習指導要領、及びその解説書　　自立活動解説書　　前回配付資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
アヴェロンの野生児の資料配付、次回までに読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
３０分～５０分

第３回　知的障害教育の原点と言われる「アヴェロンの野生児」の記録から学ぶ①　捕らえられた野生児の様子
【key words】
観察された行動　　動物との比較　　野生児について　　人間性とは

【授業概要】
観察された野生児の様子をどう見るか　　当時の人の考え方　　野生児に見られる変化、現代の教育に通用する考え方　等を資料から読み取り考察する。　　イタールの指導方針と野生児への対応について考察する。
【教科書ページ・参考文献】
前回配付資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回予習の確認のためミニテスト②実施予定
今回の復習・整理をし、次回使用の資料に目を通しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
３０分～５０分

第４回　「アヴェロンの野生児」の記録から学ぶ②　人間の社会に入れられた野生児、野生児の変化
【key words】
野生児の変化　　人との係わるということ　　イタールの指導

【授業概要】
次回予習の確認のためミニテスト②実施
野生児に対して試みたイタールの指導について資料から読み取り考察する。イタールの指導、野生児の対応について考察する。

【教科書ページ・参考文献】
配付資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
「アヴェロンの野生児」について復習。「アヴェロンの野生児」についての感想文①を提出する。
次回の予習、参考資料A－①（ｐｐ２７－３５）を読んでおく。アヴェロンの野生児の感想文提出

【予習復習に必要な想定時間】
３０分～５０分

第５回　知的障害教育の基礎学習について①（初期学習、　教材とは、　日常生活行動の学習）
【key words】
日常生活行動　　学習の見通し　　学習の区切り　　自発の尊重　　見るということ　　教材の役割
課題学習　　行動観察
【授業概要】
日常生活行動とは、学習とは、学習の見通しとは、子どもの現状保障とは、障碍児における教材の果たす役割など　基本的なことを理解し、知的障害児の支援に重要なことがらについて学習する。

【教科書ページ・参考文献】
参考資料A－①（pp.２７－３５）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
本日のまとめ。次回の事前参考資料A－②（pp.３６－４８）
・参考資料B－①（１９－２７）を予習。
【予習復習に必要な想定時間】
４０分～６０分

第６回　知的障害教育の基礎学習について②（教材教具　　日常生活行動の学習　　課題学習）
【key words】
教材・教具　　自作教材　　課題学習　　学習するということ

【授業概要】
教材の意味するもの　　初期学習について　　目と手の協応　　学習に必要な条件が整うことの大切さ。学習を前進させるための基礎的な課題について理解する。

【教科書ページ・参考文献】
参考資料A－②（pp.３６－４８）参考資料B－①（１９－２７）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回の予習（配布資料A-③（pp４８－５９）

【予習復習に必要な想定時間】
４０分～６０分

第７回　知的障害教育の基礎学習について③（知的障害学習法　　概念行動の学習）
【key words】
目と手の使い方　　初期学習　　教材・教具　　自作教材　　自発行動　　考えるということ

【授業概要】

		パイプ抜き　　目と手の協応　　スライド　　手の使い方 様々な基礎的な学習を積み重ねた知的障害児・者が次のステップに行う学習とはどのようなものがあるのか、概観的に知る。 【教科書ページ・参考文献】 参考資料A１－③（pp４８－５９）、参考になる書物等紹介 【課題・予習・復習・授業準備指示】 今回の復習　　次回に学ぶ参考資料A-④（pp.５９～７４）を予習しておく。 次回予習の確認ミニテスト③ 【予習復習に必要な想定時間】 ４０分～６０分
	第８回	知的障害教育の概念学習について①（概念行動形成の学習　　見本合わせ学習） 【key words】 大小　　比較　　文字の型はめ　　形の構成　　マス目　　位置の学習　　方向　　目と手の使い方 【授業概要】 確認ミニテスト③ 教材の位置　　なぜ教材が重要か　記号操作とは　　文字学習前に行う学習について　などを検討する。 【教科書ページ・参考文献】 参考資料A-④（pp.５９－７４） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回に学ぶ参考資料A-⑤　（pp.７４～８９）を読んでおく。 【予習復習に必要な想定時間】 ４０分～６０分
	第９回	知的障害教育の概念学習について③（概念行動形成の学習） 【key words】 見本合わせ　　宝探し　　延滞見本合わせ　　ことば　　型はめ　　形の分類　　分解と合成 【授業概要】 予習確認ミニテスト③実施　　位置、順序など文字や数の学習に関連する学習について理解する。 合見本合わせわせ　　宝探し　　遅延見本合わせ　ことば　　型はめ　　形の分類　　形の分解と合成 【教科書ページ・参考文献】 参考資料A-⑤（pp.７４－８９） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次に学ぶ参考資料A-⑤（pp.８９－１０３）参考資料B－②（ｐｐ．１９－２４）を読んでおく。 【予習復習に必要な想定時間】 ４０分～６０分
	第１０回	知的障害児の教材・教具について参観 【key words】 教材・教具　　自作教材　　学習するということ 【授業概要】 今後の学習に関係する知的障害児の学習場面の様子を見学するか、もしくは知的障害児の学習場面で使用している教材・教具を手にとって学ぶ。授業に関係する学習方法と知的障害児との係わり、子どもと教材との係わり、教材に対する工夫の仕方など実際の学習事例を通して考察する。 【教科書ページ・参考文献】 今までの参考資料、追加資料持参 【課題・予習・復習・授業準備指示】 参観を通して次回以降に行う授業との係わりについて、見通しをつける。参観の感想文②を提出する。出 次回の予習（考資料A-⑥（pp.８９－１０３） 参考資料B－②（pp.１９－２４） 【予習復習に必要な想定時間】 ４０分～６０分
	第１１回	知的障害教育の教材作りと概念学習①（見本合わせ　　記号操作の基礎学習） 【key words】 大小　　比較　　文字の型はめ　　形の構成　　マス目　　位置の記号化　　方向　　目と手の使い方 見本合わせ学習 【授業概要】 そもそも教材とはどのようなものか、なぜ大切なのか？また、記号操作とは何なのか等、文字学習に至る前に行う学習の内容について考察する。 【教科書ページ・参考文献】 参考資料A－⑥（ｐｐ．８９－１０３）　参考資料B－②（pp.１９－２４） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 今回の復習と次回に学ぶ配付資料A-⑦（pp.１０３－１１２）を読んでおく。予習の確認テスト⑤実施予定 【予習復習に必要な想定時間】 ４０分～６０分
	第１２回	知的障害教育の教材作りと概念学習②（絵と実物　　文字と単語の学習） 【key words】

	文字の見本合わせ　文字と文字　絵と文字　絵と単語　５０音表 【授業概要】 予習確認ミニテスト⑤　教材の確認　教材の工夫　概念行動について　物には名前があることを知る、など具体的に学習する。 【教科書ページ・参考文献】 参考資料A－⑦（pp.１０３-１１２） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 今回の復習と次回に学ぶ参考資料A－⑧（pp.１１３－１２７）を読んでおく 【予習復習に必要な想定時間】 ４０分～６０分 第１３回　知的障害教育の教材作りと概念学習③（文章と数の学習） 【key words】 数の系列化　順序数と集合数　３と５までの分解合成　記号操作 【授業概要】 学習の見通しが出来て、それが文字や数の学習に繋がることまでの一連の流れを理解し、基礎の学習の重要性について考察する。 【教科書ページ・参考文献】 参考資料A－⑧（pp.１１３－１２７） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 今回の復習と次回に学ぶ箇所参考資料B－②（pp.３０－３６）を読んでおく 【予習復習に必要な想定時間】 ４０分～６０分 第１４回　知的障害教育の教材作りと概念学④（文の構成と計算の学習） 【key words】 文の構成と計算　お金の計算　お金のそろばん　足し算　引き算　文章問題 【授業概要】 様々な基礎的な学習を積み重ねた知的障害児・者が行う学習とはどのようなものなのか、今まで学んできたことを整理する。 【教科書ページ・参考文献】 参考資料B-②（pp.３０－３６） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 今回の復習と次回学習（補足資料）を読んでおく。 今までの参考資料などから検討した「障害児の指導」について自分なりの考え方をまとめておく。 【予習復習に必要な想定時間】 ４０分～６０分 第１５回　知的障害児の教育の可能性と学習法、今後の展望について 【key words】 知的障害教育の考え方　基礎学習　概念行動形成　記号操作の学習　生活単元学習 個に応じた教育 【授業概要】 今まで学習してきた知的障害教育について復習し、整理、まとめをする。 知的障害児の学習や教育課程について検討してきたことを、配付資料を通してふり返る。 知的障害児に学習は可能か、知的障害児の学習が出来ない原因は何か、など話し合いを通して考察する。自分なりの考えをまとめ提出する。 【教科書ページ・参考文献】 今までの参考資料　今回の補足資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 今までのまとめと復習。解らないところがあれば早めに質問をする。知的障害教育について自分の考えをレポートにして提出する。 【予習復習に必要な想定時間】 復習４０分
受講生に関わる情報および受講のルール	①知的障害児を指導している現場の視察、もしくは実際に使用している教材・教具の見学を計画予定。 ②進捗状況によって講義回数と講義内容が必ずしも一致しない場合がある。 ③予習、復習は必ず行うこと、教科書は授業の前に必ず熟読すること。 ④授業で配付する資料の予備は保管しないので、出席者からコピーをしておいてください。 ⑤授業中に他の学生に迷惑になる行為（私語、携帯電話使用等）は厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカードもしくはメール等
授業外時間にかかわる情報	①予習、復習はその都度指示されなくても毎回実施すること。 ②学習の一環として要求された感想文や課題は提出期限を守って提出すること。 ③授業の一環として特別支援学校か教材・教具のあるところを参観するので、日程調節が必要になる場合がある。
オフィスアワー	質問があれば授業終了後１０分間に、またはシャトルカードに記載すれば次回以降に対応する。
評価方法	①レポート・発表・ミニテスト（内容、適切さ）50% ②筆記試験（正確性、客観性、論述）50% 総合評価は①②の合計が６０%を超えていること
教科書	配付した資料

参考書	A：進　一鷹：「＜ことば・文字・数＞基礎学習の教材づくりと学習法」　明治図書　２００６ B：進　一鷹：「＜ことば・文字・数＞国語・算数の基礎学習と指導の実際」　明治図書　２００７ 他プリント配付をする
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 盲教育６年、知的障害教育２５年、肢体不自由教育５年の教育現場で実践教育を積み重ねる。特に障害の重い児童生徒との係わりを通して学んだこと、感じたこと、更に発達障害児の現場などを通して特別支援教育全般について幅広く講じます。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 肢体不自由教育Ⅱ　　授業コード： S5391

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	2単位(30)	学校教育コース・選択
担当教員			
大山　知恵子			
専門科目	講義		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　肢体不自由教育の実際を習得する。また、関連する諸課題についての理解と自らの視点から深く課題を捉える力が涵養される。 【到達目標】 １　肢体不自由教育の実践的知識、技能を獲得する。（知識・理解） ２　肢体不自由教育に関わる教育・心理・医学等の多角的な視点を身につける。（思考） ３　知識を他者に表現することができる。（表現）
授業の概要	肢体不自由児の教育の実践に関する教育・心理・生理、福祉等について概説する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	△
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテ-ション、医療的ケア、食事指導、排泄指導 【key words】 教員による３つの行為　誤嚥　便秘 【授業概要】 教員が行う３つの医療的ケアの詳細について。重度・重複障害児に対しての食事指導や排泄指導における留意点について。 【教科書ページ・参考文献】 92ページ～97ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 食事指導で留意することについてまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分
	第２回	呼吸障害と姿勢づくり、ポジショニングと変形・側弯 【key words】 ポジショニング　感覚のフィルター機能 【授業概要】 呼吸障害を起こしやすい重度・重複障害児に対して行うポジショニングについて。また、感覚過敏の除去の仕方等について。 【教科書ページ・参考文献】 98ページ～103ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ポジショニングの種類を調べる 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分
	第３回	発作の理解と対応、外部専門家との連携、教育課程の基準と学習指導要領 【key words】 てんかん　教育計画 【授業概要】 肢体不自由児はてんかんを高頻度に合併する。その発作の種類や対応について。肢体不自由教育は医師、看護師をはじめ外部専門家との連携のもとで行われるが、その中での教師の役割や教育

		計画の立て方について。 【教科書ページ・参考文献】 104ページ～111ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 てんかん発作への対応についてまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分
	第４回	教育課程の原理と編成、体育の指導 【key words】 法令　個別の評価基準　肢体不自由をふまえた体育の指導 【授業概要】 法令の下、実態・地域の教育資源・学校の設備等をふまえて、調和のとれた人間の形成を目指して作成される教育課程について。表現することや認知面で困難を抱えていることが多い肢体不自由児に対する体育の指導について。 【教科書ページ・参考文献】 112ページ～121ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 今まで経験した総合学習についてまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分
	第５回	肢体不自由者と各教科等を合わせた指導 【key words】 単元設定の力　総合的な学習 【授業概要】 肢体不自由のある子どもが知的障害を併せ持つ場合に行うことができる、知的障害特別支援学校の各教科や領域・教科を合わせた指導について。地域や子どもの実態に合わせて行う総合学習の内容について。 【教科書ページ・参考文献】 122ページ～127ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 肢体不自由児に対して、どのような総合学習ができるか、考える。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分
	第６回	進路指導、キャリア教育、自立活動とは 【key words】 自己決定権　養護・訓練から自立活動へ 【授業概要】 肢体不自由のある子どもが、自己理解を深め進路を決定できるように進めるキャリア教育のあり方について。養護・訓練という名称で行われていたものが自立活動と言われるようになった理由等について。 【教科書ページ・参考文献】 128ページ～135ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自立活動の6つの区分について調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分
	第７回	自立活動の指導と個別の指導計画、身体の動きの指導 【key words】 自立活動の６つの区分　座位と立位 【授業概要】 自立活動における、「健康の保持」「心理的な安定」「人間関係の形成」「環境の把握」「身体の動き」「コミュニケーション」の６つの区分の詳しい内容について。その中の、「身体の動き」に関わる、座位から立位への指導の方法等について。 【教科書ページ・参考文献】 136ページ～145ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 6つの区分の中の1つを選んで、評価規準を作る。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分
	第８回	コミュニケーション、学習指導要領における重複障害者への対応 【key words】 サイン・シンボル　AAC 【授業概要】 言葉を話すことが困難、言語理解が困難、文字を書くことが困難等の重複障害を含む肢体不自由児のコミュニケーション指導で使われる、サインやシンボル、拡大・代替コミュニケーション機器（AAC）とその効果的な使い方について。 【教科書ページ・参考文献】 146ページ～157ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 マカトンサインについて調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分
	第９回	肢体不自由特別支援学校の専門性 【key words】 教員の力量　研修 【授業概要】 教員の力量の３つの側面と言われる、「①目に見える実践的技量」「②内面的な思考様式」「③総合的な人間力」を高めていくには、どのようなにしたらいいか、専門性の向上を図るにはどのような研修を重ねたらいいか等について。 【教科書ページ・参考文献】 158ページ～167ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】

	特別支援学校に求められる機能について調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分
	第１０回　特別支援学校教員の養成、保護者との連携 【key words】 肢体不自由特別支援学校教師の専門性の５つの因子 【授業概要】 教員が身につけておかなければならない、「専門知識と技能」「仕事の理解」「協働」「教育に対する熱意」「子どもの健康ケア」の５つの因子の内容について。保護者と教員が共通の視点で子どもを見るためにはどのような支援が必要か等について。 【教科書ページ・参考文献】 168ページ～181ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 保護者に対する具体的な支援についてまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分
	第１１回　脳性まひへの治療と最新アプローチ 【key words】 早期発見・早期治療 【授業概要】 理学療法（上田法）、ボツリヌス療法、胎児臍帯血移植等の脳性麻痺への治療や療育について。神経可塑性と早期発見・早期治療の関係について。 【教科書ページ・参考文献】 184ページ～193ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 脳性麻痺の治療の1つについて調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分
	第１２回　肢体不自由者、障害児の福祉サービス 【key words】 障害者総合支援法　障害者手帳 【授業概要】 身体障害者手帳を持つことで受けられる福祉サービスや、障害のある一人一人の生涯にわたる生活充実のための支援について。 【教科書ページ・参考文献】 194ページ～203ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 福祉サービスの中の1つについて調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分
	第１３回　障害者の権利擁護、肢体不自由児とインクルーシブ教育、 【key words】 アドボカシー　合理的配慮 【授業概要】 障害者権利条約における、「すべての障害者」の「あらゆる人権」をどのように保障していくかについて。障害のある者と障害のない者が共に学ぶインクルーシブ教育では、どのような合理的配慮が求められているか等について。 【教科書ページ・参考文献】 204ページ～211ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 インクルーシブ教育の具体例について調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分
	第１４回　就学前の肢体不自由教育・療育、交流及び共同学習 【key words】 通所支援　医療型児童発達支援センター　居住地校交流 【授業概要】 肢体不自由児が地域で生活していく上で、主体的に過ごすことができるようにするにはどんな支援が必要か、また、子どもを養育する親にはどのような支援が必要か等について。 【教科書ページ・参考文献】 212ページ～219ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 居住地交流をする場合、どんな交流ができるかまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分
	第１５回　地域生活と余暇活動、肢体不自由者と家族 【key words】 生活の質（QOL）　親のストレス 【授業概要】 肢体不自由者が地域において生きがいのある生活を送り、生活の質を高めるにはどのような支援ができるか、また、親のストレスを和らげるためにどのような支援ができるか等について。 【教科書ページ・参考文献】 220ページ～227ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 親がかかえるストレスについてまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分
受講生に関わる情報および受講のルール	・遅刻、欠席は必ず届けること。 ・積極的な授業参加、予習を求めます。 ・他の学生の迷惑となる行為（私語、スマホの操作等）、授業の流れや雰囲気を壊す行為は退席とし、欠席扱いとします。

毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード ノート提出
授業外時間にかかわる情報	特別支援教育に関する情報に普段から触れておくこと。　（新聞、ニュース等からの情報収集） 特別支援教育の現場を知ること。　（見学、ボランティア等）
オフィスアワー	授業の前後10分間
評価方法	授業への取り組み（コメントカードの内容、発表）20% 提出物（ノート）30%　　定期試験　50%
教科書	安藤隆男・藤田継道編書「よくわかる肢体不自由教育」　　2017　　ミネルヴア書房
参考書	特に指定しない
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 教員として長年特別支援教育に携わってきた。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) ■情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容 医療的ケアやインクルーシブ教育に関わる映像（DVD）から、実態を知ったり課題を考えたりする。 肢体不自由児をもつ保護者の方の話を聴く。

講義科目名称： 学校図書館メディアの構成　　授業コード： S6001

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	2単位(30)	学校教育コース・児童福祉コース・初等教育コース・選択
担当教員			
小柳　聡美			
専門科目	講義		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 　司書教諭として、学校図書館メディアの構成（選択・収集・組織・保存等）ができるようになることを目的とする。 〔到達目標〕 ①学校図書館メディアの選択・収集に関する基礎知識を習得する。 ②「日本目録規則1987年版　改訂3版」により学校図書館メディアの目録が作成できる。 ③「日本十進分類法　新訂10版」により学校図書館メディアの分類ができる。
授業の概要	学校図書館メディアの教育的意義・役割及び種類・特性について学習し、その選択・収集・組織・保存等についての理解を図る。特に、各種メディアへのアクセスを容易にするための情報資源組織化の技術について学び、実務能力の養成を図る。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	△
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回	科目オリエンテーション、　学校図書館メディアの教育的意義及び役割 【key words】 学校図書館メディア 【授業概要】 配付資料に基づき学校図書館メディアの教育的意義･役割について解説する。 【教科書ページ・参考文献】 まだ教科書は使いません。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義の目標を理解し、なぜ司書教諭資格を取得しようと考えたか、という点を交えて自己紹介が出来るようにしておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第２回	学校図書館メディアの種類と特性 【key words】 学校図書館メディア、奥付 【授業概要】 配付資料に基づき学校図書館メディアの種類と特性について解説する。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料で対応します。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習・奥付とは何かを理解し､実例を挙げられるようにしておく。 復習・学校図書館メディアの種類と特性について理解する。 【予習復習に必要な想定時間】 90分

第３回　学校図書館メディアの選択と構成
【key words】
学校図書館メディア、資料選択論

【授業概要】
配付資料に基づき学校図書館メディアの選択について考察する。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料で対応します。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習・「図書館の自由に関する宣言」に目を通しておく。
復習・資料選択方針について理解する。

【予習復習に必要な想定時間】
90分～180分

第４回　学校図書館メディアの組織化（１）分類の意義と機能
【key words】
分類、資料分類法

【授業概要】
資料分類法の変遷について考察する。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料で対応します。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
分類とは何か、近代分類法出現以降の主要な分類表の歴史について理解する。
【予習復習に必要な想定時間】
90分～180分

第５回　学校図書館メディアの組織化（２）日本十進分類法の概要
【key words】
ＮＤＣ

【授業概要】
日本十進分類法について考察する。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料で対応します。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
類目表、綱目表、要目表について理解する。
【予習復習に必要な想定時間】
90～180分

第６回　高度情報社会における学校教育と学校図書館メディア
【key words】
ＮＤＣ

【授業概要】
分類規定について考察し、分類作業を行う。分類･区分の分析的過程について補足する。

【教科書ページ・参考文献】
pp9-18
【課題・予習・復習・授業準備指示】
学校図書館メディアについて復習する。
【予習復習に必要な想定時間】
90～180分

第７回　学校図書館メディアの種類と特性
【key words】
ＮＤＣ、図書記号法

【授業概要】
図書記号法について解説する。
【教科書ページ・参考文献】
pp19-37
【課題・予習・復習・授業準備指示】
関連資料を読む。
【予習復習に必要な想定時間】
90～180分

第８回　学校図書館のコレクション構築
【key words】
ＮＤＣ

【授業概要】
図書以外の資料（メディア）の保管と運用について解説し、考察する。
【教科書ページ・参考文献】
pp38-58
【課題・予習・復習・授業準備指示】
選書において大切な事は何か説明できるようにしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
90～180分

第９回　学校図書館のコレクション構築
【key words】
件名標目、シソーラス

【授業概要】

基本件名標目表の使い方について解説する。

【教科書ページ・参考文献】
pp59-78
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ファイル資料について理解する。
【予習復習に必要な想定時間】
90～180分

第１０回　学校図書館メディア組織化の意義と展開
【key words】
目録法

【授業概要】
目録の意義と機能について解説する。特別支援における学校図書館教育について考察する。
【教科書ページ・参考文献】
pp79-89
【課題・予習・復習・授業準備指示】
配架の原則、目録とは何かを理解する。
【予習復習に必要な想定時間】
90～180分

第１１回　学校図書館メディア組織化の実際：目録法
【key words】
日本目録規則

【授業概要】
日本目録規則について解説し､考察する。
【教科書ページ・参考文献】
pp90-114
【課題・予習・復習・授業準備指示】
目録規則の意義と構成について理解する。
【予習復習に必要な想定時間】
90～180分

第１２回　学校図書館メディア組織化の実際：主題索引法
【key words】
日本目録規則

【授業概要】
日本目録規則の使い方について解説し、考察する。
演習問題。
【教科書ページ・参考文献】
pp116-144
【課題・予習・復習・授業準備指示】
分類法、件名標目法について理解する。」
【予習復習に必要な想定時間】
90～180分

第１３回　学校図書館メディアの組織化に伴う発表
【key words】
日本目録規則、件名標目表、主題目録法

【授業概要】
日本目録規則の使い方について考察する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
発表準備
【予習復習に必要な想定時間】
90～180分

第１４回　学校図書館メディアの組織化に伴う発表
【key words】
ＯＰＡＣ、書誌ユーティリティ

【授業概要】
国立情報学研究所、国立国会図書館等の書誌情報ネットワークシステムを解説し、目録業務の電算化について考察する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習・身近にあるコンピュータ目録は何かを確認する。
復習・コンピュータ目録の作成と検索について理解する。
発表準備
自身の振り返りと自分以外の発表についての考察。
【予習復習に必要な想定時間】
90～180分

第１５回　多様な学習環境と学校図書館メディアの配置、　まとめ
【key words】
学校図書館メディア、学習環境

	【授業概要】 現在の多様化した学習環境の中で、どのような学校図書館メディアの配置が望ましいかを考察する。 【教科書ページ・参考文献】 p201・第2次区分表（綱目表） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習・第2次区分表の暗記 復習・自身が利用してきた学校図書館について、学習環境とメディア配置の特長･改善点について考察し、全講義を振り返る。 【予習復習に必要な想定時間】 90～180分
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・指定した予習・復習は必ず行うこと。 〔受講のルール〕 ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。 ・他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用等）は厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	「日本十進分類法　新訂10版」の第２次区分表（教科書にあり）を暗記すること。
オフィスアワー	時間を要する相談などについては、授業掲示板、コメントカード、メール等にて予約する。後日、日程を調整し連絡。 その他、講義前後に講師に申し出る。
評価方法	筆記試験　60%、授業時間内発表及び提出物　30%、授業参加度　10% 総合評価60%以上を合格とする 詳しい評価基準は、初回講義時に提示
教科書	「探求学校図書館学」編集委員会『学校図書館メディアの構成』（探求学校図書館学第2巻）全国学校図書館協議会　2020 ISBN978-4-7933-2275-4
参考書	志保田務・高鷲忠美編著、平井尊共著『情報資源組織法』（第３版）第一法規（最新版） ISBN978-4-474-07255-8 授業内で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 進学塾教務職員として1年間勤務 公立小中学校の教員でも、学力テスト対策等を行います。日常の教科指導等とのバランスを考えて、学校図書館の活用と連動させ、学力を向上させる手立ても講じます。 学校図書館司書として1997年より勤務（今年度も会計年度任用職員として小中学校兼務） アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート □グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 情報メディアの活用　　授業コード： S6011

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	2単位(30)	学校教育コース・児童福祉コース・初等教育コース・選択
担当教員			
小柳　聡美			
専門科目	講義		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 司書教諭として、学校図書館における情報メディアの活用ができるようになることを目的とする。 〔到達目標〕 ①学校図書館の各種情報メディアの特性とその活用方法を理解できる。 ②データベースの構造を理解できる。 ③情報検索の理論と技法を習得する。 ④著作権法を理解できる。
授業の概要	学校図書館における多様な情報メディアの特性とその活用方法の理解を図る。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	○
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回	科目オリエンテーション、　メディア専門職としての司書教諭 【key words】 高度情報通信ネットワーク社会、　司書教諭、　メディア専門職 【授業概要】 科目の位置付けとシラバスの説明／現代社会における期待される司書教諭像について考察する。 【教科書ページ・参考文献】 参考書pp1-15（配布資料で対応します） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本科目における小レポートの書き方について説明します。 前期科目「学校図書館メディアの構成」を復習しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第２回	情報化が進展する社会 【key words】 高度情報通信ネットワーク社会、　ナレッジマネジメント、　学校図書館、　学習情報センター 【授業概要】 現代社会における学校図書館の役割について考察する。 引用と出典。 【教科書ページ・参考文献】 pp14-26 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書　pp14-26 【予習復習に必要な想定時間】 90～180分

第３回　教育・学習理論と情報メディアの活用
【key words】

情報メディア、　本、　コミュニケーション・メディア

【授業概要】
本の歴史を中心に情報メディアの発達を解説する。
アースボールについての説明。
【教科書ページ・参考文献】
pp27-46
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書　pp.27-46
【予習復習に必要な想定時間】
90～180分

第４回　教育メディアの歴史
【key words】
情報メディア、　教授学習支援、　情報メディア環境

【授業概要】
各種情報メディアの特性を解説し、選択の理論を考察する。
百科事典の活用指導法。
【教科書ページ・参考文献】
pp47-66
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書　pp47-66
【予習復習に必要な想定時間】
90～180分

第５回　情報メディアの種類と特性
【key words】

視聴覚メディア

【授業概要】
視聴覚メディアの特性とその活用方法について解説する。
【教科書ページ・参考文献】
pp67-94
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書　pp67-94
【予習復習に必要な想定時間】
90～180分

第６回　学校におけるICTの活用
【key words】

教育用ソフトウエア、　教育用コンテンツ

【授業概要】
主なインターネットの教育用コンテンツの活用について解説する。
年鑑活用指導法。
【教科書ページ・参考文献】
pp95-104
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書　pp95-104

【予習復習に必要な想定時間】
90～180分

第７回　インターネット情報源と情報検索
【key words】

データベース、　ファイル、　レコード、　フィールド

【授業概要】
データベースの構造について書誌データベースを例として解説する。
【教科書ページ・参考文献】
pp105-113
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書　pp105-113

【予習復習に必要な想定時間】
90～180分

第８回　児童生徒の情報行動の実態と指導
【key words】

論理演算、　トランケーション、　フィールド指定

【授業概要】
情報検索の技法について解説する。
【教科書ページ・参考文献】
pp114-125
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書　pp114-125
【予習復習に必要な想定時間】
90～180分

第９回　情報メディアの活用事例(小中学校)
【key words】

ＴＣＰ／ＩＰ，　IPアドレス、　ホストネーム、　ドメインネーム

【授業概要】
インターネットの仕組みについて解説する。
【教科書ページ・参考文献】
pp126-158
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書　pp126-158
【予習復習に必要な想定時間】
90～180分

第１０回　情報メディアの活用事例（高等学校・特別支援）
【key words】

情報検索、　ポータルサイト

【授業概要】
本学図書館のホームページの情報検索ポータルを用いて情報検索演習を行う。

【教科書ページ・参考文献】
本学図書館のホームページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
公共図書館、他大学図書館ホームページを閲覧する。
pp159-192
【予習復習に必要な想定時間】
90～180分

第１１回　情報メディアを取り巻く連携の事例
【key words】

教育用ポータルサイト、ショートカット、お気に入り（ブックマーク）、リンク集、情報共有、ネチケット

【授業概要】
インターネット利用による情報発信・情報共有・情報モラルについて解説する。
【教科書ページ・参考文献】
pp193-202
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書　pp193-202
【予習復習に必要な想定時間】
90～180分

第１２回　情報メディアをめぐる課題と展望
【key words】

知的所有権、　著作権、　著作者人格権、著作隣接権、　著作権法、　ベルヌ条約、　万国著作権条約

【授業概要】
著作権法に基づく著作者の権利について解説する。
【教科書ページ・参考文献】
pp203-215
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書　pp203-215
【予習復習に必要な想定時間】
90～180分

第１３回　著作権とメディア
【key words】

図書館サービス、　権利の制限

【授業概要】
著作権法上の権利の制限と図書館サービスの関連について解説する。
模擬授業
【教科書ページ・参考文献】
参考書pp163-169（配布資料で対応します）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
模擬授業準備
【予習復習に必要な想定時間】
90～180分

第１４回　著作権とメディア（学校図書館と著作権）
【key words】

学校図書館、　著作権

【授業概要】
学校図書館サービスにおける著作権問題について考察する。
模擬授業
【教科書ページ・参考文献】
参考書pp169-170（配布資料で対応します）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
模擬授業準備

	【予習復習に必要な想定時間】 90～180分 第１５回　著作権とメディア（インターネットと著作権）まとめ 【key words】 インターネット、　著作権 【授業概要】 インターネット利用による著作権問題について考察する。 筆記試験 【教科書ページ・参考文献】 参考書pp171-179（配布資料で対応します） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 全回を通してのkey wordの見直し 【予習復習に必要な想定時間】 90～180分
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・指定した予習・復習は必ず行うこと。 〔受講のルール〕 ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。 ・他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用等）は厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	本学図書館ホームページの「所蔵検索」及び「情報検索ポータル」を利用し、検索方法を習得すること
オフィスアワー	時間を要する相談などについては、授業掲示板、コメントカード、メール等にて予約する。後日、日程を調整し連絡。 その他、講義前後に講師に申し出る。
評価方法	筆記試験　６０％、　授業中の小レポート　２０％、　模擬授業（発表及び活用レポート）　２０％ （詳細は講義オリエンテーションで説明）
教科書	「探求学校図書館学」編集委員会『情報メディアの活用』（探求学校図書館学第5巻）全国学校図書館協議会 ISBN978-4-7933-2278-5
参考書	井口磯夫編『情報メディアの活用』樹村房（司書教諭テキストシリーズ０５）（最新版） 授業内で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 学校図書館司書として1997年度より勤務（今年度も会計年度任用職員として小中学校兼務） 司書の立場から、図書主任・司書教諭への研修等も担当した経験により、学生の皆さんが教員となり司書教諭として発令された際、他教員への授業等のコーディネートについて講じます。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 学習指導と学校図書館　　授業コード： S6021

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	2単位(30)	学校教育コース・初等教育コース・選択
担当教員			
鈴木　淳			
専門科目	講義		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】学校図書館法および学習指導要領に示されているように、知識基盤社会・情報社会の中の諸学校における学習展開に 学校図書館は不可欠であり、児童・生徒の発達段階に応じた「読書センター」と「学習情報センター」の機能を十分に実践しなければなりません。その要としての司書教諭の役割を理解し、学習指導にかかわる図書館情報学の基礎を身につけます。 【到達目標】1）学校図書館の目的と教育課程編成・学習指導展開との関係について述べることができる。2）情報リテラシー育成の諸段階と司書教諭の介入について具体的に説明できる。3）児童・生徒および教員に対するレファレンスサービス業務の実際について具体的に説明できる。
授業の概要	受講学生によるテキストの輪読分担発表をベースに、1）図書館および図書館員の役割・業務、2）学校図書館という館種の機能特性、3）学校教育課程と連動した学校図書館としての学習指導・情報リテラシー教育、4）司書教諭の役割、5）学校図書館というインフラの整備・経営、6）レファレンスサービス業務の実際 について解説します。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	△
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	○
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	△

授業計画

第１回　科目オリエンテーション　社会における図書館とは何か

【key words】
情報社会　図書館　図書館員　学校図書館　司書教諭

【授業概要】
情報社会における図書館および図書館員の役割・業務を概観し、学校図書館という館種が担う機能と司書教諭・学校司書の位置づけを理解します。

【教科書ページ・参考文献】
プリント資料、教科書pp1－11。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

館種間の機能差異をふまえた上で、学校図書館とはどのような特徴をもったところなのか、概要をまとめましょう。

第２回　学校図書館の意義・目的

【key words】
学校教育法　学校図書館法　読書センター　学習情報センター　発達段階

【授業概要】
学校図書館の意義と目的を理解し、各学年の学習指導要領；すなわち児童生徒の発達段階と連動して、学校図書館が学習指導展開に対してどのように密に関わるのかを考えます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp12－28。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

目的的に活発な読書センター/学習情報センターとしての学校図書館の役割を整理して下さい。

第３回　図書館活用教育と情報リテラシー教育
【key words】
図書館活用教育　情報リテラシー教育　学校図書館経営

【授業概要】
従来的な図書館教育・学校図書館利用指導から発展して、卒業後の生涯学習につながる、学び方の学びのための学校図書館活用ひいては情報リテラシーのスキル・アップを支援することについて、具体的に理解します。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp29－55。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

図書館教育→学校図書館利用指導→学校図書館活用・情報リテラシー教育 各観点の差異をまとめて下さい。

第４回　学校図書館というインフラの整備と経営
【key words】
学校図書館基準　学校図書館の施設と設備　学校図書館資料選定　学習活動の充実

【授業概要】
教育課程の展開と実践に寄与するインフラとしての学校図書館の整備・経営について、そのハードウェア/ソフトウェア双方の有機的な関連を意識ながら、学びます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp231－245、プリント資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

よりよい学校図書館の構築・整備に関係する要因と現代的な課題を書き出してみましょう。

第５回　学習/教育活動を支援する情報サービス業務
【key words】
情報要求　情報サービス　二次資料　レファレンスプロセス　相互貸借

【授業概要】
情報サービスの種類のうち、特にレファレンスサービスについてその概要を学び、教員を含めた利用者のニーズに対応した資料・情報提供のための準備について理解します。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp246－236。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

授業の第13回・第14回で、レファレンスサービスの演習を予定しています。それより前の時点で、演習課題が提示されますので、注意して下さい。

第６回　教科学習と学校図書館活用
【key words】
知識基盤社会　ＩＣＴ　分類法（NDC）　配架　教員間連携

【授業概要】
発達段階に即した知識修得を児童生徒に重ねさせることの前提として、調べ学習等に対応した学校図書館資料の整備と教員間の準備と連携について学びます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp169－195。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

資料を探しやすい学校図書館とは何か、その条件要素をまとめましょう。

第７回　総合的な学習における学校図書館活用
【key words】
総合的な学習　調べ学習　問題意識の醸成

【授業概要】
総合的な学習における授業展開と学校図書館の活用の連動について理解を深めます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp196－214。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

領域横断的で探求的・協働的な学習に対する司書教諭としての支援のあり方を具体的に例示してみましょう。

第８回　特別支援教育における学校図書館活用
【key words】
特別な教育的ニーズ　個別の指導計画　障害特性　学校図書館サービスの工夫

【授業概要】
重複障害例も含め、特別支援教育の対象となる児童生徒の教育的ニーズを個別かつ総合的に把握し、普通教育と同質同等の学校図書館サービスを提供するために必要な工夫を認識します。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp215－230。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

		学校図書館の施設・設備、資料・メディア、活動の各々について、工夫の具体例を整理して下さい。
	第９回	情報リテラシー教育の理論的背景 【key words】 情報探索過程　メタ認識　情報活用プロセス　情報リテラシー基準　司書教諭の関わりのレベル 【授業概要】 学習者の視点からの情報探索過程を概観し、目標としての児童生徒の情報リテラシー基準ならびに情報活用プロセスでの指導の基本事項を理解します。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp67－82。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 情報探索過程の児童生徒のニーズに沿った司書教諭の支援・指導；関わりの各水準をまとめて下さい。
	第１０回	全校的組織的体系的指導　年間計画　チームティーチング　実施評価 【授業概要】 児童生徒の情報リテラシー育成にかかる全校教職員の共通理解の下で組織的体系的かつ計画的に取り組むことの重要性と教育実践後の評価の有用性について学びます。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp83－103。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 情報リテラシー教育の計画的なチーム連携実践とそこでの司書教諭の役割をまとめて下さい。
	第１１回	情報リテラシー教育の実際　1 【key words】 情報活用プロセス　情報リテラシー　情報活用スキル　問いの可視化　テーマ設定 【授業概要】 探求型学習および情報活用プロセスの指導の実際のうち、テーマの設定と情報探索の計画について学びます。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp104－124。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 児童生徒の発達段階に沿ったテーマ設定の指導について、その具体例を示してみましょう。
	第１２回	情報リテラシー教育の実際　2 【key words】 分類　目録　参考図書　情報カード　プレゼンテーション 【授業概要】 探求型学習および情報活用プロセスの指導の実際のうち、情報・資料の探索・収集および活用、まとめ方や発表の方法について学びます。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp125－167。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 児童生徒の発達段階に沿った資料検索とまとめ方の指導について、その具体例を示してみましょう。
	第１３回	レファレンスサービス各論 【key words】 資料収集のためのチェックリスト　レファレンス依頼　レファレンス進行表 【授業概要】 第5回および第12回の内容をふまえ、レファレンスサービス業務演習のための準備をします。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp246－236、プリント資料。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 レファレンスサービスを実践するための実務的な準備について確認して下さい。
	第１４回	レファレンスサービス演習 【key words】 資料収集のためのチェックリスト　レファレンス依頼　レファレンス進行表 【授業概要】 第5回、第12回および第13回の内容をふまえ、レファレンスサービス業務の演習をします。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp246－236、プリント資料。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 レファレンスサービスの実務的な流れと参考資料群を確認して下さい。
	第１５回	まとめ　司書教諭という仕事 【key words】

	司書教諭の役割　教科間の連携　職員間の協働 【授業概要】 教育課程と図書館学の双方に通じている司書教諭が担う多面的な役割をまとめ、学校教育における学校図書館の意義を再確認しましょう。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp264－277。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 司書であり教諭であることの二重性と期待される活動内容について、発展的にまとめておきましょう。
受講生に関わる情報および受講のルール	受講学生の多くは、初めて図書館情報学を学ぶのだと思います。司書教諭科目群では、限られた時間内で必須事項を説いていきますから、注意を集中して授業に参加し、まずは復習を習慣化させましょう。教科書の該当箇所をあらためて通読する、ノートを見返す ことをまめにすることが、この領域の総合的な理解の基礎になります。 ★1回の授業に対して、概ね2時間以上の事前事後自主学習が必要です。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	minute paper
授業外時間にかかわる情報	図書館情報学を学んで理解した観点から、さまざまな館種の図書館を見学することをおすすめします。特に、教育実習は、実習先の学校図書館を少しでも見学するよい機会ですし、母校の学校図書館を訪れるのもいいでしょう。ただし、見学を希望する際には、事前の申し出等、先方への打診・相談が必要です(本授業担当者に まずは相談してください)。 ★1回の授業に対し、概ね2時間程度の事前事後自主学習が必要です。
オフィスアワー	水曜日 17：00～19：00　1号館204研究室
評価方法	学期末課題レポート（85%）および授業への取り組み方（15%）で評定します。
教科書	堀川照代・塩谷京子　改訂新版 学習指導と学校図書館　放送大学振興協会　2016年
参考書	図書館ハンドブック編集委員会編　図書館ハンドブック　第6版補訂版　日本図書館協会　2010年 他
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 授業担当教員は、図書館司書資格を有しています。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート □グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 学校経営と学校図書館　　授業コード： S6031

英文科目名称： School Library and School Management

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	2単位(30)	学校教育コース・児童福祉コース・初等教育コース・選択
担当教員			
小柳　聡美			
専門科目	講義		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 司書教諭として、学校図書館の働きを理解し、学校教育にとってその必要性と司書教諭は何ができるかを考える。 【到達目標】 1）現行の学校教育の問題点を整理する。 2）現行の学校図書館が学校教育の中でどのような位置づけにあるかを理解する。 3）期待される学校図書館がどうあるべきかを考え、自分なりの学校図書館のあり方をイメージできるようにする。
授業の概要	学校図書館が学校教育の中で、果たす役割を、制度化される課程と実際の学校図書館活動の実際を通して理解する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	△
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	○
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	△

授業計画

第１回　科目オリエンテーション・司書教諭になるための学習
【key words】
司書教諭資格付与の規程　　司書教諭資格科目　　テキストの編集方針
【授業概要】
「学校経営と学校図書館」という科目の位置づけを理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：pp1-10　　参考書：適宜授業中に提示する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
シラバス、テキストの関係する章を読んで、疑問や問題点を把握する。
【予習復習に必要な想定時間】
概ね40分

第２回　求められる新しい知識社会
【key words】
知の変化　知の民主化　協働探求　プラグマティズム
【授業概要】
専門知識の限界と現在の社会とはどんな状況で、現代社会に必要とされている知のあり方について理解する
【教科書ページ・参考文献】
教科書：pp11-28　　参考書：適宜授業中に提示する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストの関係する章を読んで、疑問や問題点を把握し、課題を行う
前回のコメントに回答するで、復習の補完とすること
【予習復習に必要な想定時間】
概ね1時間

第３回　これからの学校教育とあるべき学びの形
【key words】
拡張した心　　物知識　　協同的知識　　個人主義的学習観　　協同学習　　ファシリテーター

【授業概要】
新しい知のあり方とは、専門家と市民が協同探求する知である。その知のあり方を実現するための学校教育のあり方と学び方を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：pp29-49　　参考書：適宜授業中に提示する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストの関係する章を読んで、疑問や問題点を把握し、課題を行う
前回のコメントに回答するで、復習の補完とすること
【予習復習に必要な想定時間】
概ね1時間

第４回　メディアと人間の循環

【key words】
旧来の知識観　　新しい知識観　　協同的知識
【授業概要】
新しい知のあり方のための学校教育において、学校図書館はどうあるべきかを理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp46-56　　参考書：適宜授業中に提示する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストの関係する章を読んで、疑問や問題点を把握し、課題を行う
前回のコメントに回答するで、復習の補完とすること
【予習復習に必要な想定時間】
概ね1時間

第５回　学校の中の図書館

【key words】
社会的機関　　収集・組織・保存・提供　　図書館の館種　　図書館ネットワーク
納本制度　　国立情報学研究所（NII）　　NACSIS-CAT/ILL
【授業概要】
日本における学校図書館を含む図書館制度及びその目的、そして学校図書館の目的実現の方法について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp57-74　　参考書：適宜授業中に提示する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストの関係する章を読んで、疑問や問題点を把握し、課題を行う
前回のコメントに回答するで、復習の補完とすること
【予習復習に必要な想定時間】
概ね1時間

第６回　学校図書館の歴史（アメリカ）

【key words】
ライブラリアン　　『学校と社会』　　復誦（レシテーション）室　　プロジェクト・メソッド（キルパトリック）　ダルトン・プラン（パーカスト）
【授業概要】
【key words　続き】
スクールライブラリアン　　アメリカスクールライブラリアン協会（ＡＡＳＬ）
【授業概要】
学校図書館の本質を具現化していると考えられるアメリカの学校図書館史を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp75-89　　参考書：適宜授業中に提示する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストの関係する章を読んで、疑問や問題点を把握し、課題を行う
前回のコメントに回答するで、復習の補完とすること
【予習復習に必要な想定時間】
概ね1時間

第７回　学校図書館の歴史（日本）

【key words】
国定教科書　　問題解決学習の提唱　　新教科課程　　全国学校図書館協議会（全国ＳＬＡ）
学校図書館法の制定　　司書教諭の専従化　　学校図書館事務職員　　司書助教諭(のち学校司書)
【授業概要】
日本の学校図書館の源流について学び、近年どのように関心が寄せられているか理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp90-103　　参考書：適宜授業中に提示する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストの関係する章を読んで、疑問や問題点を把握し、課題を行う
前回のコメントに回答するで、復習の補完とすること
【予習復習に必要な想定時間】
概ね1時間

第８回　日本の学校図書館の現状

【key words】
学校図書館の法的定義　　学校図書館の運営　　司書教諭　　学校司書
【授業概要】
日本の学校図書館の最新の実態により現状を把握し、新しい学校図書館のあり方を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp104-118　　参考書：適宜授業中に提示する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストの関係する章を読んで、疑問や問題点を把握し、課題を行う
前回のコメントに回答するで、復習の補完とすること
◎課題レポートを提示する（字数：２,０００字程度　作成期間：１ヵ月程度）
【予習復習に必要な想定時間】
概ね1時間

第９回　学校図書館の目的と機能

【key words】
学習指導要領と法的拘束力　　健全な教養　　リベラルアーツ　　奉仕機関　　指導機関

【授業概要】
近代的学校教育の問題解決のための教育改革の中で誕生・発展してきた学校図書館の目的と機能を総合的に理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp119-132　　参考書：適宜授業中に提示する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストの関係する章を読んで、疑問や問題点を把握し、課題を行う
前回のコメントに回答するで、復習の補完とすること
【予習復習に必要な想定時間】
概ね1時間

第１０回　学校図書館の図書館サービス

【key words】
テクニカルサービス　　パブリックサービス
【授業概要】
奉仕機関であり、指導機関である学校図書館の各種のサービスについて理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp133-144　　参考書：適宜授業中に提示する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストの関係する章を読んで、疑問や問題点を把握し、課題を行う
前回のコメントに回答するで、復習の補完とすること
【予習復習に必要な想定時間】
概ね1時間

第１１回　学校図書館の教育活動

【key words】
読書指導　　読解指導　　読みの教育の新しい視点　　読書推進運動協議会
読書週間　　子ども読書週間　　読書のアニマシオン　　ブックトーク
【授業概要】
「読み」の教育、教育内容の改革、教育方法の改革の観点から、学校図書館に期待される教育活動について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp134-146　　参考書：適宜授業中に提示する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストの関係する章を読んで、疑問や問題点を把握し、課題を行う
前回のコメントに回答するで、復習の補完とすること
◎課題レポートを提示する。（字数：2,000字程度　　作成期間：1ヶ月程度）
【予習復習に必要な想定時間】
概ね1時間

第１２回　学校図書館の担当者

【key words】
司書教諭制度　　学校司書の法制化　　これからの学校図書館の活用の在り方等について
ティーチャー・ライブラリアン　　ライブラリアンシップ　　専門職の要件
【授業概要】
学校図書館運営のための協力体制と学校図書館専門職の成立の可能性の課題について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp160-172　　参考書：適宜授業中に提示する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストの関係する章を読んで、疑問や問題点を把握し、課題を行う
前回のコメントに回答するで、復習の補完とすること
【予習復習に必要な想定時間】
概ね1時間

第１３回　学校図書館のマネジメント

【key words】
学校図書館マネジメント　マネジメント・サイクル（ＰＤＣＡサイクル）　学校図書館評価基準　利用者からのフィードバック　報告・連絡・相談（ホウレンソウ）　学校図書館のステークホルダー
【授業概要】
学校図書館の「マネジメント」とその活動の「評価」の課題について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書p173-185　　参考書：適宜授業中に提示する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストの関係する章を読んで、疑問や問題点を把握し、課題を行う
前回のコメントに回答するで、復習の補完とすること
【予習復習に必要な想定時間】
概ね1時間

第１４回　学校図書館の設計

【key words】
学校図書館は機能である　　メディアセンター機能　　ゾーニング　　ユニバーサル・デザイン
インクルーシブ・デザイン　　アフォーダンス　　教科センター方式　　学校図書館施設基準
【授業概要】
学校図書館の現状を学び、課題やその克服のために手法を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp186-199　　参考書：適宜授業中に提示する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストの関係する章を読んで、疑問や問題点を把握し、課題を行う
前回のコメントに回答するで、復習の補完とすること
【予習復習に必要な想定時間】
概ね1時間

第１５回　学校図書館研究と学校図書館の発展

【key words】
アメリカの学校図書館ガイドライン　PISA型読解力と学校図書館　アメリカ図書館協会　全国学校図書館協議会　日本図書館協会学校図書館部会　学校図書館問題研究会
【授業概要】

	【key words 続き】国際図書館連盟学校図書館分科会　国際スクール・ライブラリアンシップ協会 【授業概要】授業概要 学校図書館の発展のために何が社会的課題か、何をなすべきかを話し合ったことを整理して自分なりの学校図書館像を考えてみる。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp200-208　　参考書：適宜授業中に提示する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストの関係する章を読んで、疑問や問題点を把握し、課題を行う 前回のコメントに回答するで、復習の補完とすること 過去の授業中に自分なりに考えた問題・課題等を整理しておく 【予習復習に必要な想定時間】 概ね1.5時間
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕・指定した予習・復習は必ず行うこと。 〔受講のルール〕・授業シラバスを確認し、積極的に授業に臨むこと。 ・他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用等）は厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	予習として、課題に対する疑問や興味を持ったことを整理する。また、毎回、必ずコメントカードに対する回答を行うので、回答によっては、どう対応すべきか考え、次のコメントカードにその結果を報告すること。また、授業中に参考図書を紹介するので、その内容を把握すること。
オフィスアワー	時間を要する相談などについては、授業掲示板、コメントカード、メール等にて予約する。後日、日程を調整し連絡。 その他、講義前後に講師に申し出る。
評価方法	□筆記試験　60% 試験内容は、講義内で確認。 □講義内の小レポート及び受講態度　４０点 評価基準は、講義内で説明。
教科書	中村百合子 編　司書教諭テキストシリーズⅡ…１　『改訂　学校経営と学校図書館』樹村房　2022 ISBN978-4-88367-361-2
参考書	授業で、適宜紹介
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 学校図書館司書として1997年度より勤務（今年度も会計年度任用職員として小中学校兼務） 司書の立場から、図書主任・司書教諭への研修等も担当した経験により、学生の皆さんが教員となり司書教諭として発令された際の、他教員へのコーディネートについて講じる。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 読書と豊かな人間性　　授業コード： S6041

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	2単位(30)	学校教育コース・児童福祉コース・初等教育コース・選択
担当教員			
小柳　聡美			
専門科目	講義		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 読書教育は豊かな人間性の涵養や生きる力の育成を目的とする。その目的を達成するための方法と実践力を身につける。 【到達目標】 ① 読書指導の計画を作成し、指導できる。　② ブックトークを実演し、指導できる。 ③ 読書ノートが作成できる。　④ 読書会を実施し、指導できる。
授業の概要	学校教育における読書指導の理論と実際の全体像を把握する。さらに、読書ノートの作成や読書会を実施し、評価する。また、ブックトークという新しいコミュニケーションの精神と技術の獲得を目指す。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	○
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	△
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回	科目オリエンテーション、科目の位置づけとシラバスの説明、評価法、レポート課題など。 【key words】 読書教育　読書指導　司書教諭 【授業概要】 授業の目的、到達目標、授業計画の全体像、評価方法等々、受講にかかわる必要情報を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 まだ教科書は使いません。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自身の児童生徒時代の読書活動を発表できるようにしておく。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第２回	読書の意義と目的 【key words】 読書活動 【授業概要】 読書の意味を明らかにすると共に、その根拠を提示する。 【教科書ページ・参考文献】 pp13-27 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1回で行われた、自分以外の受講生の発表についてコメントできるようにしておく。 【予習復習に必要な想定時間】 90～180分
	第３回	読書教育の系譜 【key words】 生きる力　不読者　識字力 【授業概要】 読書ノートの作成や評価の仕方を学び、図書館における読書指導計画の方法を理解する。

【教科書ページ・参考文献】
pp28-43
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の復習　読書
【予習復習に必要な想定時間】
90～180分

第４回　読書指導と学校図書館
【key words】
発達課題と読書興味
【授業概要】
多様な読書材の選択は、読書能力と読書興味の発達段階に応じて行われることを学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
pp44-57
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の復習　読書
【予習復習に必要な想定時間】
90～180分

第５回　子どもの読書環境、発達段階に応じた読書指導
【key words】
ストーリーテリング　読み聞かせ
【授業概要】
読書指導の方法は、さまざまなものがあるが、その主なものの概要について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
p582-77
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の復習　読書
【予習復習に必要な想定時間】
90～180分

第６回　子どもの本の種類と提供、読書環境の整備
【key words】
ブックトーク
【授業概要】
ブックトークとは何かについて理解を深め、その一般的なプロセスや実践上のヒント等を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
オリジナル資料配布
pp78-95
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の復習　読書
【予習復習に必要な想定時間】
90～180分

第７回　子どもと本を結ぶための方法
【key words】
読み聞かせ　ストーリーテリング　読書感想文　読書感想画　アニマシオン　ビブリオバトル
読書会　リテラチャーサークル　紙芝居　読書集会　読書郵便　POP　帯
【授業概要】
様々な読書活動について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
pp96-109
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の復習　読書
【予習復習に必要な想定時間】
90～180分

第８回　各教科等での読書指導・探究的な学習と読書指導
【key words】
児童図書賞
【授業概要】
探究的な学習について他講義ではどのような学びをしているかも振り返る。
【教科書ページ・参考文献】
pp110-123
オリジナル資料配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の復習　読書
【予習復習に必要な想定時間】
90～180分

第９回　読書活動の実際
【key words】
小中学校の読書活動
【授業概要】
活動事例を考察する。
【教科書ページ・参考文献】
pp124-136
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の復習　読書
【予習復習に必要な想定時間】
90～180分

第１０回　読書活動の実際
【key words】
高等学校、特別支援学校の読書活動
【授業概要】
活動事例を考察する。
【教科書ページ・参考文献】
pp137-155

	【課題・予習・復習・授業準備指示】 本時の復習　読書 【予習復習に必要な想定時間】 90～180分 第１１回　読書活動の推進と司書教諭・学校司書、個に応じた読書指導 【key words】 学校図書館の整備 【授業概要】 図書館に携わる教職員の役割について考察する。 【教科書ページ・参考文献】 pp156-184 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本時の復習　読書 【予習復習に必要な想定時間】 90～180分 第１２回　地域社会との連携 【key words】 図書の収集と紹介 【授業概要】 読書法の原理を学び、読書人格を高める各種の方法を探求する。 どのような地域連携があるか考察する。 【教科書ページ・参考文献】 pp185-193 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本時の復習　読書 【予習復習に必要な想定時間】 90～180分 第１３回　ブックトーク発表 【key words】 司書教諭による読書指導　調査活動 【授業概要】 教育課程の具体化としての読書資料と読書環境をどう整備するかについて検討する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 発表準備 本時の復習　読書 【予習復習に必要な想定時間】 90～180分 第１４回　ブックトーク発表 【key words】 ブラウジング 【授業概要】 読書体験のひろがりとしての図書館活動や地域社会との連携の方法を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 発表準備 本時の復習　読書 【予習復習に必要な想定時間】 90～180分 第１５回　まとめ 【key words】 読書と豊かな人間性　涵養 【授業概要】 確認試験。 配布資料に示されたkey wordの確認をする。 【教科書ページ・参考文献】 pp2-193 【課題・予習・復習・授業準備指示】 全回を通してのkey wordの見直し 【予習復習に必要な想定時間】 90分
受講生に関わる情報および受講のルール	・毎回、次の授業の資料（オリジナルプリントなど）を配布し、授業内容を予告する。 ・出席重視。向上心と問題意識を持って授業に取り組むこと。 ・授業に支障を来たすような行為は厳に慎むこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	・シラバスで示した課題については、ワークシート等によるレポートを作成し提出すること。 ・授業テーマに関連した書を読み、読書人としての生活スタイルを確立すること。
オフィスアワー	時間を要する相談などには、授業掲示板、コメントカード、メール等にて予約する。後日、日程を調整し連絡。 その他、講義前後に講師に申し出る。
評価方法	筆記試験　60%、授業中の小レポート　20%、ブックトークの発表とレポート　20%の総合評価による。 提出物の評価基準：①課題(テーマ)が適切にまとめられている。(60%)　②文章表現が適切である。

	(20%) ③オリジナリティーがある。(20%)
教科書	「探求学校図書館学」編集委員会『読書と豊かな人間性』（探求学校図書館学第4巻）全国学校図書館協議会 ISBN978-4-7933-2277-8
参考書	朝比奈大作編集『読書と豊かな人間性』（司書教諭テキストシリーズ04）樹村房 渡辺暢惠・小柳聡美・和田幸子・齋藤洋子『学校司書と先生のためのすぐできるブックトーク：小・中学校・高等学校のわかりやすいシナリオ集』ミネルヴァ書房
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 学校図書館司書として、1997年度より勤務（今年度も会計年度任用職員として公立小中学校兼務）。 学習指導要領、単元に即した読み聞かせやブックトーク等の授業支援を日常的に行う。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート □グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 社会福祉特講Ⅲ　　授業コード： S8005

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	2単位(60)	社会福祉コース・福祉心理コース・学校教育コース・児童福祉コース・選択

担当教員			
富澤　一央・松永　尚樹			
専門科目	講義	社会福祉士指定科目ではないが国家試験受験希望者は履修すること	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】社会福祉士国家試験対策の一環として、特に過去問題を中止に毎回解き進める。低得点率の問題の解説に加え、学生自身が学習進度を確認しながら進め、それぞれの学生が学習の習慣化と学習課題の焦点化を目的とする。 【到達目標】 (1) 自身の学習状況を振り返り，国家試験受験に向けた学習内容を明確にできる。 (2) 解説や解答演習を通して，個々の学習方法を習慣化できる。 (3) 各回の解答演習で国家試験合格水準の正答が導き出せる。
授業の概要	社会福祉士として身に付けることが必要とされる広い範囲の基礎的な知識を学習し、その学習方法等についても解説を行う。特に、社会福祉士の国家試験の出題基準に対応した範囲の重要な点について焦点化し学習を進める。 なお、学習進度によっては取り上げる科目の順序等を変更することがあるので、各回の説明には注意すること。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回　オリエンテーション 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２回　問題の解説及び問題を解く 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第３回　問題の解説及び問題を解く 【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第４回　問題の解説及び問題を解く

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第５回　問題の解説及び問題を解く

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第６回　問題の解説及び問題を解く

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第７回　問題の解説及び問題を解く

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第８回　問題の解説及び問題を解く

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第９回　問題の解説及び問題を解く

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１０回　問題の解説及び問題を解く

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１１回　問題の解説及び問題を解く

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１２回　問題の解説及び問題を解く

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１３回　問題の解説及び問題を解く

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１４回　問題の解説及び問題を解く

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１５回　問題の解説及び問題を解く

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１６回　問題の解説及び問題を解く

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１７回　問題の解説及び問題を解く

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１８回　問題の解説及び問題を解く

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１９回　問題の解説及び問題を解く

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２０回　問題の解説及び問題を解く

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２１回　問題の解説及び問題を解く

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２２回　問題の解説及び問題を解く

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２３回　問題の解説及び問題を解く

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２４回　問題の解説及び問題を解く

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２５回　問題の解説及び問題を解く

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２６回　問題の解説及び問題を解く

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２７回　問題の解説及び問題を解く

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

	【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２８回　問題の解説及び問題を解く 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２９回　問題の解説及び問題を解く 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第３０回　問題の解説及び問題を解く 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	赤マル福祉（有料）の登録及び年2回の模擬試験（有料）の受験は必須とする。 自主学習を前提とした学習方法や内容の説明を行う。 したがって，各々が国家試験に関する学習時間を確保した上で国家試験合格に向けた学修を進めていることが必要である。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	国家試験の過去問題を用いた予習，復習をしていること。
オフィスアワー	第1回授業時に説明する。
評価方法	授業内テスト（60%），赤マル福祉の習熟度（40%）
教科書	赤マル福祉（登録方法は授業内で案内します。）
参考書	社会福祉用語辞典など，適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 教職対策講座Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	－	学校教育コース・選択
担当教員			
江原　京子			
専門科目	講座		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 　次年度、全国の自治体で実施される教員採用試験に向けて、教職教養を中心として、過去・予想問題「学内模擬試験の実施を含む」を解きながら教員採用試験の合格を目指す。 [到達目標] 1　教職教養の知識を身につける。 2　各自治体で実施される教員採用試験の予想問題が解ける。 3　将来学校教育に従事する教員としての資質の向上を図る。
授業の概要	1　4年次、各自治体で実施される教員採用試験の合格に向けて、教職教養を中心に採用試験対策に取組む。 2　学内模擬試験を実施し本番の試験に備える（模擬試験の振り返りを行うことで力をつけていく）。 3　教員採用試験の最新情報を得る。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	△
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	学習指導要領の変遷－改訂の推移－ 【key words】 学習指導要領改訂の推移 【授業概要】 【受講にあたり】 ※教員免許状取得希望者の必須科目である。 1　授業の進捗状況により各回の内容に変更が生じる場合がある。随時、その旨を確認しながら進めていくことを了承願いたい。 2　予習・復習の内容についても同様である。 3　以下のテキストを使用する。予習・復習に関しては、その回毎に指示する。 ①文部科学省　『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領(平成30年告示）』 ②東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2022年度版 ③時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』 4　予習･復習用のノートを用意すること（原則5冊以上の提出を求める）。 【授業概要】学習指導要領の改訂の推移を学習する。 【教科書ページ・参考文献】 ・時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』2018．12月号 ・文部科学省「新しい学習指導要領の考え方」 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・学習指導要領の改訂の推移について、本時の内容をミニレポートまとめ、期日までに提出すること。 ・文部科学省「新しい学習指導要領の考え方」を印刷してくること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分から90分

	第２回	新学習指導要領－総則を読み解く－① 【key words】 中教審、8つの観点、総則 【授業概要】 ・文部科学省「新しい学習指導要領の考え方」を中央教育審議会が提示した8つの観点から読み解く ・新旧学習指導要領（総則）の対照表から総則を読み解く。 【教科書ページ・参考文献】 ・時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』2018．12月号 ・文部科学省「新しい学習指導要領の考え方」・新旧対照表 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・本時の内容をミニレポートまとめ、期日までに提出すること。 ・配布プリントを確認しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分から90分
	第３回	小学校学習指導要領－改訂のポイント 【key words】 学習指導要領前文、小学校の教育課程の編成 【授業概要】 ・小学校学習指導要領の総則を丁寧に読み解き、新学習指導要領の改訂部分を学習する。 ・新旧学習指導要領（総則）の対照表から改訂のポイントを掴む。 【教科書ページ・参考文献】 ・文部科学省　『中学校学習指導要領（平成29年3月告示） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・本時の内容をミニレポートまとめ、期日までに提出すること。 ・東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2021年度版「学習指導要領」 【予習復習に必要な想定時間】 60分から90分
	第４回	中学校学習指導要領－改訂のポイント 【key words】 学習指導要領前文、中学校の教育課程の編成 【授業概要】 ・授業開始30分から40分程度、教員採用試験対策として、東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2022年度版から確認テストを実施する（範囲は予めメール等で周知する）。 ・中学校学習指導要領の総則を丁寧に読み解き、新学習指導要領の改訂部分を学習する。 ・新旧学習指導要領（総則）の対照表から改訂のポイントを掴む。 【教科書ページ・参考文献】 ・東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2022年度版「学習指導要領」 ・本時の内容をミニレポートまとめ、期日までに提出すること。 ・配布プリントを確認しておくこと。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・本時の内容をミニレポートまとめ、期日までに提出すること。 ・東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2022年度版「学習指導要領」 【予習復習に必要な想定時間】 60分から90分
	第５回	高等学校学習指導要領－改定のポイント－ 【key words】 学習指導要領前文、高等学校の教育課程の編成 【授業概要】 ・授業開始30分から40分程度、教員採用試験対策として、東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2022年度版から確認テストを実施する（範囲は予めメール等で周知する）。 ・高等学校学習指導要領の総則を丁寧に読み解き、新学習指導要領の改訂部分を学習する。 ・新旧学習指導要領（総則）の対照表から改訂のポイントを掴む。 【教科書ページ・参考文献】 ・東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2022年度版 ・時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』号、月は本授業内で提示する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・本時の内容をミニレポートまとめ、期日までに提出すること。 ・東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2022年度版「教育法規」を予習しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分から90分
	第６回	教育法規　①　教育基本法－教育の目的・理念－ 【key words】 法規の概要、教育権･学習権、教育基本法 【授業概要】 ・授業開始30分から40分程度、教員採用試験対策として、東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2022年度版から確認テストを実施する（範囲は予めメール等で周知する）。 ・教育法規-法規の概要を学ぶ-。 【教科書ページ・参考文献】 ・東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2022年度版　「教育法規」 ・時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』号、月は本授業内で提示する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・本時の内容をミニレポートまとめ、期日までに提出すること。 ・東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2022年度版「教育法規」を予習しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】

		60分から90分
	第７回	教育法規　②　地方教育行政法、地方公務員法 【key words】 教育委員会、教職員の義務 【授業概要】 ・授業開始30分から40分程度、教員採用試験対策として、東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2022年度版から確認テストを実施する（範囲は予めメール等で周知する）。 ・地方教育行政法、地方公務員法とは何かを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 ・東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2022年度版「教育法規」 ・時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』号、月は本授業内で提示する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・本時の学びをミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。・東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2022年度版、時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』号、月は本授業内で提示する。 【予習復習に必要な想定時間】 60分から90分
	第８回	教育法規　③　学校教育法 【key words】 教職員に関する法規、就学 【授業概要】 ・授業開始30分から40分程度、教員採用試験対策として、東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2022年度版から確認テストを実施する（範囲は予めメール等で周知する）。 ・教職員に関する法規とは何か、学校教育法について学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 ・東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2022年度版「教育法規」 ・時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』号、月は本授業内で提示する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・本時の学びをミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。・東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2022年度版、時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』号、月は本授業内で提示する。 【予習復習に必要な想定時間】 60分から90分
	第９回	教育法規　④　学校保健安全法 【key words】 学校保健、学校安全 【授業概要】 ・授業開始30分から40分程度、教員採用試験対策として、東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2022年度版から確認テストを実施する（範囲は予めメール等で周知する）。 ・学校保健、学校安全について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 ・東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2021年度版「教育法規」 ・時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』号、月は本授業内で提示する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・本時の学びをミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。・東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2021年度版、時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』号、月は本授業内で提示する。 【予習復習に必要な想定時間】 60分から90分
	第１０回	教育法規　⑤　学校の目的･目標 【key words】 小中高特支、教育課程 【授業概要】 ・授業開始30分から40分程度、教員採用試験対策として、東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2022年度版から確認テストを実施する（範囲は予めメール等で周知する）。 ・小中高特支の目的･目標を確認する。 【教科書ページ・参考文献】 ・東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2021年度版「教育法規」 ・時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』号、月は本授業内で提示する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・本時の学びをミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。・東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2021年度版、時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』号、月は本授業内で提示する。 【予習復習に必要な想定時間】 60分から90分
	第１１回	生徒指導の意義･課題 【key words】 生徒理解、教育相談 【授業概要】 ・授業開始30分から40分程度、教員採用試験対策として、東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2022年度版から確認テストを実施する（範囲は予めメール等で周知する）。 ・生徒理解、教育相談の在り方について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 ・東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2022年度版「生徒指導･安全指導」 ・時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』号、月は本授業内で提示する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・本時の学びをミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。・東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2021年度版、時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』号、月は

	本授業内で提示する。 【予習復習に必要な想定時間】 60分から90分 第１２回　進路指導、安全指導のあり方 【key words】 職業理解、自己理解、安全管理 【授業概要】 ・授業開始30分から40分程度、教員採用試験対策として、東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2021年度版から確認テストを実施する（範囲は予めメール等で周知する）。 ・進路指導、安全指導のあり方について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 ・東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2021年度版「生徒指導･安全指導」 ・時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』号、月は本授業内で提示する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・本時の学びをミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。・東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2021年度版、時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』号、月は本授業内で提示する。 【予習復習に必要な想定時間】 60分から90分 第１３回　西洋教育史 【key words】 教育思想の流れ、主要人物･著作概要 【授業概要】 ・授業開始30分から40分程度、教員採用試験対策として、東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2022年度版から確認テストを実施する（範囲は予めメール等で周知する）。 ・西洋史について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 ・東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2022年度版「西洋教育史」 ・時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』号、月は本授業内で提示する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・本時の学びをミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。・東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2021年度版、時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』号、月は本授業内で提示する。 【予習復習に必要な想定時間】 60分から90分 第１４回　日本教育史 【key words】 時代毎の教育、人物史 【授業概要】 ・授業開始30分から40分程度、教員採用試験対策として、東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2022年度版から確認テストを実施する（範囲は予めメール等で周知する）。 ・日本教育史について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 ・東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2021年度版「日本教育史」 ・時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』号、月は本授業内で提示する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・本時の学びをミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。・東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2022年度版、時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』号、月は本授業内で提示する。 【予習復習に必要な想定時間】 60分から90分 第１５回　教育課程と教授･学習 【key words】 カリキュラム、学習の分類 【授業概要】 ・授業開始30分から40分程度、教員採用試験対策として、東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2022年度版から確認テストを実施する（範囲は予めメール等で周知する）。 ・教育課程とは何か、について確認する。 【教科書ページ・参考文献】 ・東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2022年度版「教育課程と教授･学習」 ・時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』号、月は本授業内で提示する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・本時の学びをミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 ・ノートのの提出（原則5冊以上）の準備をしておくこと。 ・春休みの学習計画を立てておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分から90分
受講生に関わる情報および受講のルール	１　本講義は教育実習と同様に位置づけられており、遅刻・欠席は事前に必ず届け出ること。欠席や遅刻の多い学生や 　受講態度の悪い学生は、本実習の単位認定取り消しも有り得るため、熱心な受講態度を求める。 ２　教員採用試験の合格を目指し、熱心に取り組むこと。 ３　予習復習を必ず行い、疑問点を確認しておくこと。 ４　授業中に課したミニミニレポート・シャトルカードを必ず提出すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード、ミニミニレポート

授業外時間にかかわる情報	1　授業の要約もしくは課題をミニミニレポートにまとめ、指定した日時までに提出すること。ミニミニレポートをまとめる際、語句の意味や内容を専門書等で調べ詳細にまとめること(評価にかかわる)。 2　各自、ノートを用意し、授業中に行った問題を再度行い、重要事項をまとめて指定した日時までに提出すること。
オフィスアワー	水曜日　16時～17時30分　それ以外の時間帯については、要相談・要予約
評価方法	授業中に課したミニミニレポートの内容（30%)、授業中に実施した試験(20%)、予習復習を含めた自主学習 ノート（50%)を総合して評価する。
教科書	1　文部科学省　『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領(平成30年告示）』 2　東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2022年度版 3　時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』
参考書	東京ｱｶﾃﾞﾐｰ　『教員採用試験』（各教科）シリーズ、各自治体が出版している過去問題等
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 中学校教諭として勤務経験をもつ教員が、教員採用試験合格に向けて、教職教養を中心に指導･支援をおこなう。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 総合演習Ⅰ

授業コード： S9021　S9022　S9023　S9024
S9025　S9026　S9027

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	2単位(60)	必修
担当教員			
松永　尚樹・鈴木　淳・大島　由之・岡野　康幸・増田　泉・田中　浩之			
基礎教養科目	演習		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 本学の建学の精神に基づき、基礎演習で身につけた基礎学力や問題解決能力等を基として、高度な専門知識と豊かな人間性及び人間愛並びに奉仕の精神を備え、自立心と礼儀を重んじた世の中で役に立つ心豊かな学生を育成する。プレゼンテーション能力の向上を目指し、総合的な学士力を養成する。また、総合演習における集大成である課題研究・制作に向けて、リテラシー力を身につけ、テーマの設定や資料収集等を積極的におこなう。 【到達目標】 ①礼儀・挨拶、環境美化活動に自主的に取り組み、さらに就職模擬試験等を通じて、進路を明確化し、具体化させる。 ②総合演習の集大成である課題研究・制作についてグループまたは個人でテーマを設定し　資料収集等を積極的におこなう。 ③昌賢祭での総合的な活動を通じて、地域との深まりについて考え・実践し、社会生活における自立的実践能力を身につける。
授業の概要	授業を①建学の精神と実践教育、②心身の健康、③地域貢献、④学習統合　⑤進路･資格取得の５つのプログラムから構成し、建学の理念や教育方針にそって、ボランティア活動、環境美化活動、挨拶等の礼儀作法といった自立的実践能力を育成するとともに、身だしなみ等の生活指導、学習指導及び進路指導ならびに学生生活全般に係わる個別相談などの指導･助言をおこなう。さらに、総合的な学士力を養成することにより進路を明確にし具現化させる。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	○
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	△
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	△
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回	建学の精神と実践教育プログラム①　前期オリエンテーション　学長訓話　学部長講話　総合演習Ⅰの内容説明 【key words】 学長等の訓話・講話、年間計画 【授業概要】 【学年】 ①　学長訓話、学部長講話を聞き、年度初めを意欲的にスタートする。 ②　総合演習Ⅰの３０コマの計画、学習内容の概要、評価方法、予習・復習、準備・課題、演習ノート の記載方法等に　ついて知る。 ③　建学の精神「仁」について理解する。 ④　第２回の雑巾縫いの必要物品を知る。 ④　教科書配付が行われる場合がある（体育館）。前年度配付の場合もある。 【教科書ページ・参考文献】 ○『咸有一徳』中央法規、『知へのステップ』くろしお出版 ○　授業担当者の準備した資料。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【復】今年度の授業計画を確認し、手帳・スマホ等に記録する。昌賢スーツ着用・提出物に留意する。

		【準】第２回は、雑巾縫いをするので、必要物品の準備をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 45分
	第２回	建学の精神と実践教育プログラム②　雑巾制作をとおした日常生活の科学をさぐる、二者面談 【key words】 雑巾縫い、教育理念、教育目標、二者面談 【授業概要】 【前半全体、後半クラス】 ①　教育理念「知行合一（ちこうごういつ）」、教育目標「質実剛健・敬愛・至誠・忠恕」、社会福祉学部の３つのポリシー（AP:アドミッションポリシー、入学者受け入れの方針、CP:カリキュラムポリシー、教育課程編成・実施の方針、DP:ディプロマポリシー、卒業認定・学位授与の方針）について知る。、 ②　雑巾縫いの意義（特にミシン縫いと手縫いの違いについてパワーポイントを見ながら、理解する。 ③　実際に雑巾を縫う。特に針や糸、はさみの準備・後始末についてきちんと行い、 　安全に作業ができるよう配慮する。パワーポイント配付資料を見ながら自分のスピードで縫う。 ④　雑巾縫い完成について時間差が出るので、早く完成した者は、自習を行う。また、 　二者面談を行うこともできる。 【教科書ページ・参考文献】 ○『咸有一徳』中央法規、『知へのステップ』くろしお出版 ○　授業担当者の準備した資料。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】「二者面談事前アンケート」に入力、提出してから二者面談を受ける。 【課】時間内に雑巾が仕上がらない場合は、次回までに必ず仕上ておく。 【予習復習に必要な想定時間】 45分
	第３回	進路・資格取得プログラム①　自己の適性を知る　～PS-U総合適性試験～ 【key words】 就職、自己の適性 【授業概要】 【全体】 ①　PS-U総合適性試験を受ける（説明10分、解答80分）。かなりタイトなスケジュールなので、事前に 　問題用紙・解答用紙等をクラス毎に仕分けしておくとよい。 ②　試験終了後、回答が配布されるので、時間があれば自己採点する。 【教科書ページ・参考文献】 ○『咸有一徳』中央法規、『知へのステップ』くろしお出版 ○　授業担当者の準備した資料。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】自己の進路について考えておく。【復】自己採点をし、弱点を補強しておく。【課】演習ノートの「進路希望等(前期)」を記入しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第４回	進路・資格取得プログラム②　　面接力を身に付ける 【key words】 就職試験、面接試験 【授業概要】 【全体】 ①　面接試験での話し方や聞き方について、パワーポイントを見ながら理解する。 ②　必要に応じて、実際の面接試験の映像から学ぶ。 ③　クラス代表学生が模擬面接をするのを見て学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 ○『咸有一徳』中央法規、『知へのステップ』くろしお出版 ○　授業担当者の準備した資料。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】志望職種の面接試験について傾向を調べておく。 【予習復習に必要な想定時間】 45分
	第５回	心身の健康プログラム①　クラスの絆を深める 【key words】 クラスの絆、仲間とのコミュニケーション、ゲーム 【授業概要】 【クラス】 ①　クラスで話し合い、絆が深まる活動<例：友の宝（＝長所）探し、私の宝物>を考え、実践する。 ②　施設や学級・園で使えるゲームを体育・イベント委員が紹介し、実践する。 【教科書ページ・参考文献】 ○『咸有一徳』中央法規、『知へのステップ』くろしお出版 ○　授業担当者の準備した資料。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】施設や学級・園で使えるゲームを考えておく。 【復】実習に備え、すぐできるゲームや手遊びを身に付けておく。 【予習復習に必要な想定時間】 45分
	第６回	学習統合プログラム①　「課題研究・制作」について知る 【key words】 課題研究・制作の意義 【授業概要】 【全体】 ①　課題研究・制作の意義、３年次から４年次までの流れを知る。

		②　先行研究の調べ方を知る。 【教科書ページ・参考文献】 ○『咸有一徳』中央法規、『知へのステップ、　　』くろしお出版 ○　授業担当者の準備した資料。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】『知へのステップ、　頁』を読み、授業に臨む。 【課】関心のある先行研究（論文）を２本読み、まとめておく。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第７回	学習統合プログラム②　「課題研究・制作」のテーマ決めについて知る 【key words】 課題研究・制作のテーマ 【授業概要】 【全体】 ①　個人で興味のあるテーマに基づきテーマについて考え、テーマの仮決定をする。 ②　関心のある先行研究（論文）を２本以上読み、まとめる。 【教科書ページ・参考文献】 ○『咸有一徳』中央法規、『知へのステップ』くろしお出版 ○　授業担当者の準備した資料。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課】関心のある先行研究（論文）を２本以上読み、まとめておく。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第８回	学習統合プログラム③　　「研究倫理」について理解しよう、リーディングの力を付けよう 【key words】 研究倫理、リーディング 【授業概要】 【全体】 ①　課題研究・制作に必要な研究倫理について理解する。 ②　課題研究・制作に必要なリーディングについて理解する。 【教科書ページ・参考文献】 ○『咸有一徳』中央法規、『知へのステップ』くろしお出版 ○　授業担当者の準備した資料。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】『知へのステップ』の指示された頁を読み、授業に臨む。 【課】関心のある先行研究（論文）を２本以上読み、まとめておく。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第９回	進路・資格取得プログラム③　自己の適性を確認する 【key words】 適性、PS-U総合適性試験の振り返り 【授業概要】 【クラス】 ①　PS-U総合適性試験結果を知り、自己の進路に一助とする。 ②　課題研究・制作の報告書を作成する。（前期成果物の一つとなる） 【教科書ページ・参考文献】 ○『咸有一徳』中央法規、『知へのステップ』くろしお出版 ○　授業担当者の準備した資料。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】課題研究・制作の報告書の下書きを作成しておく。 【復】PS-U総合適性試験結果の詳細を確認しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 45分
	第１０回	地域貢献プログラム①　地域貢献の実践「子ども食堂」について知る 【key words】 地域貢献、子ども食堂 【授業概要】 【全体】 ①　「子ども食堂」を運営している地域貢献ボランティアの方のお話から学ぶ。 ②　講話後、学生間でのミニディスカッション、質疑応答をする。 【教科書ページ・参考文献】 ○『咸有一徳』中央法規、『知へのステップ』くろしお出版 ○　授業担当者の準備した資料。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課】子ども食堂に関するニュースや新聞、著書等を視聴し、子どもの貧困について関心を持つ。 【予習復習に必要な想定時間】 45分
	第１１回	地域貢献プログラム②　地域で活躍する障がいのある方について知ろう 【key words】 地域貢献、地域で活躍する障がいのある方 【授業概要】 【全体】 ①　地域で活躍する障害のある方のお話から、その生きざまを知る。 ②　障がいのある方の講話を聞き、学生間でのミニディスカッション、質疑応答をする。 【教科書ページ・参考文献】 ○『咸有一徳』中央法規、『知へのステップ』くろしお出版 ○　授業担当者の準備した資料。

【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課】障がい児者に関するニュースや新聞、著書等を視聴し、地域でくらす障がい児者に関心を持つ。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１２回　進路・資格取得プログラム④　先輩から学ぶ
【key words】
先輩講話
【授業概要】
【全体】
①　３名ほど本学卒の先輩を招き、講話を聞く。ポイントはメモし、蓄積する。
②　自己の進路の一助とする。
※前半は、全体で３名程の先輩講話を聞き、後半は先輩がコースの場所に移動し、質疑応答を行う。
【教科書ページ・参考文献】
○『咸有一徳』中央法規、『知へのステップ』くろしお出版
○　授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課】質問事項を考えておく。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１３回　心身の健康プログラム②　大学生のメンタルヘルスについて考える
【key words】
大学生のメンタルヘルス
【授業概要】
【全体】
①　学内講師の話「大学生のメンタルヘルス」「精神保健の現状と課題」を聞き、大学生のメンタルヘルスや精神保健について知る。
②　簡単なアンケートより自己のメンタルヘルスについて知る。
【教科書ページ・参考文献】
○『咸有一徳』中央法規、『知へのステップ』くろしお出版
○　授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【復】自己のメンタルヘルスに心配があれば、担任や教育相談部門、然るべき所に相談する。

【予習復習に必要な想定時間】
45分

第１４回　地域貢献プログラム③　昌賢祭での研究発表の内容決め、進路意識調査
【key words】
昌賢祭での研究発表内容決定、進路意識調査

【授業概要】
【クラス】
①　昌賢祭委員を中心に、専攻またはクラスでの研究発表のテーマ・内容を決める。
②　夏休みにできること、後期のおおよその計画を決める。
③　進路意識調査に入力し、担任に送る。
④　Webポータルの入力事項を入力する。（キャリア発達診断①②、ディプロマサプリメントの学内活動、　目標と振り返り、令和４年度社会人基礎力調査）

【教科書ページ・参考文献】
○『咸有一徳』中央法規、『知へのステップ』くろしお出版
○　授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予】昌賢祭での研究発表の内容を考え、授業に臨む。
【復】昌賢祭での研究発表で、夏休みできることを計画し、実践する。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１５回　建学の精神と実践教育プログラム③　前期の総括
【key words】
前期総括
【授業概要】
【クラス】
①　前期総括を演習ノートにまとめる。
②　webポータルの入力（キャリア発達診断①②、ディプロマサプリメントの学内活動、目標と振り返り、社会人基礎力調査）する。

【教科書ページ・参考文献】
○『咸有一徳』中央法規、『知へのステップ』くろしお出版
○　授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【復】前期の演習ノート（6頁）を整理し、期日までに提出する。
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第１６回　建学の精神と実践教育プログラム④　後期オリエンテーション　学長訓話　学部長講話、昌賢祭
【key words】
学長等の訓話・講話、後期計画
【授業概要】
【全体】
① 学長訓話、学部長講話を聞き、後期を意欲的にスタートする。
② 総合演習Ⅰ後期の１５コマの計画を知り、学習内容の概要、評価方法、予習・復習、演習ノート
　の記載方法等にいて知る。
③　昌賢祭について話し合い、当日までの計画を立案する。

【教科書ページ・参考文献】
○『咸有一徳』中央法規、『知へのステップ』くろしお出版
○　授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【復】2021年度後期の授業計画を確認し、手帳等に記録する。制服着用・提出物に留意する。
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第１７回　地域貢献プログラム⑤　　地域防災について知る
【key words】
地域防災、防災教育　就職常識試験
【授業概要】
【全体】
①　学内講師より地域防災についての講話を聞く。
②　講話のポイントについて、演習ノートに整理する。

【教科書ページ・参考文献】
○『咸有一徳』中央法規、『知へのステップ』くろしお出版
○　授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【復】受験後、回答が配布されるので、採点・間違い直し、復習をする。
【課】演習ノート8頁「進路希望等(後期)」を記入しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１８回　地域貢献プログラム⑥　昌賢祭研究発表にむけて計画を確定する
【key words】
昌賢祭研究発表、計画、制作
【授業概要】
【クラスまたは専攻】
①　昌賢祭研究発表具体物の作成計画を立てる。
②　昌賢祭研究発表について、具体物を制作する。

【教科書ページ・参考文献】
○『咸有一徳』中央法規、『知へのステップ』くろしお出版
○　授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課】昌賢祭研究発表の計画に則り、制作する。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１９回　地域貢献プログラム⑦　　昌賢祭研究発表にむけて発表物を制作する
【key words】
昌賢祭研究発表

【授業概要】
【クラスまたは専攻】
①　昌賢祭研究発表時の具体物の制等を始める。
②　毎回、振り返りを行い計画票をチェック、一言コメントを書き、担当に提出する。

【教科書ページ・参考文献】
○『咸有一徳』中央法規、『知へのステップ』くろしお出版
○　授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課】昌賢祭研究発表具体物の作成計画を踏まえ、遅れのないように作成する。
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第２０回　地域貢献プログラム⑧　　昌賢祭研究発表にむけて発表物を制作する
【key words】
昌賢祭研究発表
【授業概要】
【クラスまたは専攻】
①　昌賢祭研究発表時の具体物の制作等を行う。
②　毎回、振り返りを行い計画票をチェック、一言コメントを書き、担当に提出する。

【教科書ページ・参考文献】
○『咸有一徳』中央法規、『知へのステップ』くろしお出版
○　授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課】昌賢祭研究発表具体物の作成計画を踏まえ、遅れのないように作成する。
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第２１回　地域貢献プログラム⑨　　昌賢祭研究発表にむけて発表物を制作する（最終確認）
【key words】
昌賢祭研究発表
【授業概要】
【クラスまたは専攻】
①　昌賢祭研究発表時の具体物の制作等を行い、最終まとめと確認をする。
②　毎回、振り返りを行い計画票をチェック、一言コメントを書き、担当に提出する。

【教科書ページ・参考文献】
○『咸有一徳』中央法規、『知へのステップ』くろしお出版
○　授業担当者の準備した資料。

【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課】昌賢祭研究発表具体物の作成計画を踏まえ、遅れのないように作成する。
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第２２回　地域貢献プログラム⑩　　昌賢祭への参加
【key words】
昌賢祭への参加
【授業概要】
【全体】
①　昌賢祭に参加しクラス・専攻発表を行う。
②　昌賢祭委員を中心に、振り返りについて口頭で話し合う。

【教科書ページ・参考文献】
○『咸有一徳』中央法規、『知へのステップ』くろしお出版
○　授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予】昌賢祭について省察し、授業に臨む。
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第２３回　進路・資格所得プログラム⑥　　自己の常識力を知る　～就職常識試験～
【key words】
就職常識試験
【授業概要】
【全体】
①　就職常識試験を受ける（説明10分、解答80分）。
②　試験後、回答が配布されるので、時間があれば答え合わせをする。

【教科書ページ・参考文献】
○『咸有一徳』中央法規、『知へのステップ』くろしお出版
○　授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【復】受験後、回答が配布されるので、採点・間違い直し、復習をする。
【課】演習ノート8頁「進路希望等(後期)」を記入しておく。【復】就職常識試験結果の詳細を確認しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第２４回　地域貢献プログラム⑪　　社会福祉の現状と課題（学内講師）
【key words】
社会福祉の現状と課題
【授業概要】
【全体】
①　講話の要点を記録し、社会福祉の現状について考える。
②　福祉・教育職を目指すものとして、講話を聞き、現状理解を図り、今後の自らの学びや進路に活かす。
【教科書ページ・参考文献】
○『咸有一徳』中央法規、『知へのステップ』くろしお出版
○　授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課】講話の要点を記録し、期日までに提出する。
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第２５回　学習統合プログラム④　研究テーマを再考する　昌賢祭を振り返る
【key words】
課題研究・制作、研究テーマ
【授業概要】
【クラス】
①　研究テーマ、研究目的、研究方法について再考する。
②　テーマ発表会に向け、パワーポイントスライドの原案を考える。
③　昌賢祭委員を中心に、振り返りについて口頭で話し合う。
【教科書ページ・参考文献】
○『咸有一徳』中央法規、『知へのステップ』くろしお出版
○　授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課】テーマ発表会のパワーポイントスライドを作り始める。
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第２６回　学習統合プログラム⑤　課題研究・制作のテーマ発表会の準備をする
【key words】
課題研究・制作、テーマ発表会
【授業概要】
【クラス】
①　課題研究・制作のテーマ発表会に向け、パワーポイントを作成する。
②　効果的なパワーポントスライド作成、プレゼンテーションについて理解する。

【教科書ページ・参考文献】
○『咸有一徳』中央法規、『知へのステップ』くろしお出版
○　授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課】課題研究・制作のテーマ発表会に向け期日までパワーポイントを仕上げ、発表練習もしておく。

【予習復習に必要な想定時間】

	45分 第２７回　学習統合プログラム⑥　課題研究・制作のテーマ発表会を行う（1） 【key words】 課題研究・制作、テーマ発表、プレゼンテーション 【授業概要】 【クラス】 ①　自作したパワーポイントを提示する。一人10分間程度。 ②　発表後、各自、仲間や教員からコメントをもらう。 【教科書ページ・参考文献】 ○『咸有一徳』中央法規、『知へのステップ』くろしお出版 ○　授業担当者の準備した資料。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課】課題研究・制作のテーマ発表会に向け期日までパワーポイントを仕上げ、発表練習をしておく。 【予習復習に必要な想定時間】 90分 第２８回　学習統合プログラム⑦　課題研究・制作のテーマ発表会を行う（2） 【key words】 課題研究・制作、テーマ発表、プレゼンテーション 【授業概要】 【クラス】 ①　自作したパワーポイントを提示する。一人10分間程度。 ②　発表後、各自、仲間や教員からコメントをもらう。 【教科書ページ・参考文献】 ○『咸有一徳』中央法規、『知へのステップ』くろしお出版 ○　授業担当者の準備した資料。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】決められた時間内に、伝わるプレゼンテーションができるよう準備をして臨む。 【課】仲間や教員からのコメントに基づき、テーマについて要に応じて修正を行う。 【予習復習に必要な想定時間】 90分 第２９回　進路・資格所得プログラム⑥　　各種Web調査で自己の適性を知る、就職常識試験の振り返り 【key words】 進路、キャリア、適性 【授業概要】 【クラス】 ①　Webポータル上の諸調査に回答する。（社会人基礎力、キャリア意識等） ②　就職常識試験結果を知り、自己の進路に一助とする。 ③　進路意識調査に入力し、担任に送る。 【教科書ページ・参考文献】 ○『咸有一徳』中央法規、『知へのステップ』くろしお出版 ○　授業担当者の準備した資料。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課】仲間や教員からのコメントに基づき、必要に応じてテーマの修正を行う。 【予習復習に必要な想定時間】 90分 第３０回　建学の精神と実践教育プログラム④　後期の総括　　総括レポート作成　満足度調査 【key words】 後期総括、授業アンケート 【授業概要】 【クラス】 ①　後期総括（9頁）を演習ファイルにまとめ、提出する。 ②　授業アンケートを行い、学生の視点から本授業を評価する。 ③　webポータルの入力（キャリア発達診断①②、ディプロマサプリメントの学内活動、目標と振り返り、社会人基礎力調査）する。自己の進路を考え、進路意識調査に記入する。 ④　学生委員会からの「満足度調査」に回答する。 【教科書ページ・参考文献】 ○『咸有一徳』中央法規、『知へのステップ』くろしお出版 ○　授業担当者の準備した資料。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課】後期の演習ノート（7～9頁）を整理して、期日までに提出する。 【予習復習に必要な想定時間】 45分
受講生に関わる情報および受講のルール	【受講に係わる情報】 1　総合演習は、本学の人間教育の要である。そのことに深く留意して取り組む。 2　私語は慎み、出欠席の状況や受講態度等、本学の学生にふさわしい態度で臨む。 3　全体オリエンテーション等の学校行事は必ず出席する。 〔受講のルール〕 ・本授業は、対面授業を原則とする。 ・対面授業で配布する資料の予備は保管しないので、欠席者は出席者からコピーをとる。 ・シラバスを必ず確認し、積極的に授業に臨む。 ・欠席・遅刻・早退は担当教員及び教務課に必ず申し出る。 ・授業中の携帯電話の使用、居眠り、私語は厳禁とする。〔受講生に関する情報〕 ・学習することが多いので、シラバスを見て、予習・復習を行うこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード、演習ノート

授業外時間にかかわる情報	1　図書や雑誌等の読書をし、論文の基礎力を身に付けておく。 2　論理的思考力を身につけるには、日々の生活を課題意識を持って送ることが重要となる。 授業で学んだことを生活の中で実践することが大切である。
オフィスアワー	各担当教員に確認すること。
評価方法	提出物（50%）　演習への取り組み・内容等（50%）を総合して評価する。
教科書	『成有一徳』中央法規、『知へのステップ』くろしお出版
参考書	授業の中で適宜紹介していく。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 社会福祉施設現場、教育現場の実務経験を持つ教員がおり、理論や法律を具体化した指導ができる。また、現場より講師を招き、最新の情報を学生に話してもらうことも可能である。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 ■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 ■その他 その他の具体的内容 放送大学の学習コンテンスが無料で公開されてる。下記のURLにアクセスし、興味関心のある学習コンテンツで学んでみよう。https://www.ouj.ac.jp/reasons-to-choose-us/ocw/ 特に、「社会福祉　新しい地平を拓く（2022）」https://v.ouj.ac.jp/view/ouj/#/navi/player?co=33098&ct=V&ca=30302 「子どもの人権をどうまもるか（2021）」https://v.ouj.ac.jp/view/ouj/#/navi/vod?caa=1519328p は大変参考になる。年度末までには視聴したい。 以上のURLは、2023/03/13最終閲覧。

講義科目名称： 介護体験実習指導　　授業コード： S9041

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	1単位(30)	選択
担当教員			
大竹　勤			
専門科目	演習		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	※この科目は、高等学校教諭１種免許状「福祉」の取得に必要な科目のうち「教科に関する科目」の「社会福祉総合実習」に該当する科目である。同免許取得を目指す学生のうち、本学カリキュラムにおいて「相談援助実習」、「精神保健福祉援助実習」、のうちいずれか１科目以上の単位を取得した場合はその単位で代替することができるので、その場合は当該科目を履修する必要はない。さらに、この科目は中学校教諭１種免許状並びに小学校教諭１種免許状の取得に必要な「介護等体験」に該当する科目である。同免許取得を目指す学生のうち、本学カリキュラムにおいて「相談援助実習」、「精神保健福祉援助実習」、「保育実習（社会福祉施設での実習に限る）」のうちいずれか１科目以上の単位を取得した場合はその単位で代替することができるので、その場合は当該科目を履修する必要はない。 【授業の目的】 上記の教員免許を目指す学生に必要な社会福祉に関する体験について学び、実践できるようになることを目的とする。 【到達目標】 社会福祉施設等における現場実習などを通して、講義・演習・実習等で学んだ知識と技術を実際に活用し、高齢者や障害者への総合的な介護活動等が実践できるための基礎的な能力を習得し、介護に関する総合的な知識と技術を習得する。
授業の概要	介護体験実習の意義と目的、教員として必要な福祉倫理、実習の対象となる機関・施設の設置目的・業務内容・利用者・職員の役割と援助内容・課題についての調べ学習・発表を中心に授業を進める。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	◎
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	○
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	○
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	○
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	◎
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回	科目オリエンテーション（シラバス説明、授業方法及び留意事項）、自己紹介カード作成 【key words】 【keywords】 授業の進め方　自己紹介 【授業概要】 【授業概要】 授業計画について説明する　予習・復習について説明する　評価方法について説明する コミュニケーションの第一歩である自己紹介について考察する 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 自己紹介カードを配付 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備】 自分を知ってもらうための印象に残る自己紹介を考える 【予習復習に必要な想定時間】 0.5時間
	第２回	障害者の理解、ＤＶＤ視聴（障害者の自立について）

【key words】
【keywords】
障害者の自立　筋ジストロフィー　難病

【授業概要】
【授業概要】
援助支援の対象となるハンディキャップを持った方の自立への意識を映像を通して知る
専門職者としての役割をレポートにまとめる

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
筋ジストロフィーに関する資料配付

【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備】
筋ジストロフィーという病気についてあらかじめ調べておく
【予習復習に必要な想定時間】
0.5時間

第３回　対人援助技術の原理原則
【key words】
【keywords】
ソーシャルワーカー　バイスティック

【授業概要】
【授業概要】
場面にあわせた援助の原理原則について学ぶ
バイスティックの７原則について学ぶ

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
バイスティックの７原則に関する資料を配付する

【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備】
バイスティックについて事前に調べておくこと
ソーシャルワーカーとしての原理原則がボランティアや実習の場面でどのように役立つのかを実践の場で確認する

【予習復習に必要な想定時間】
1.0時間

第４回　事前学習の意義・目的・方法の理解（実習先希望調査票の提出）
【key words】
【keywords】
介護体験　福祉施設

【授業概要】
【授業概要】
なぜ実習事前指導が必要かを考える

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
資料を配付する

【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備】
実習先として希望する種別・施設名をあらかじめ考えておく

【予習復習に必要な想定時間】
1.0時間

第５回　実習先機関・施設の理解（高齢者施設）
【key words】
【keywords】
関係法規　介護体験　福祉施設

【授業概要】
【授業概要】
実習先を理解する（高齢者施設）
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
資料を配付する

【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備】
将来、生徒に指導する観点で受講する
【予習復習に必要な想定時間】
1.0時間

第６回　実習先機関・施設の理解（児童福祉施設）
【key words】
【keywords】
関係法規　介護体験　福祉施設

【授業概要】
【授業概要】

		実習先を理解する（児童福祉施設） 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 資料を配付する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備】 将来、生徒に指導する観点で受講する 【予習復習に必要な想定時間】 1.0時間
	第７回	実習先機関・施設の理解（障害者支援施設） 【key words】 【keywords】 関係法規　介護体験　福祉施設 【授業概要】 【授業概要】 実習先を理解する（障害者支援施設） 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 資料を配付する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備】 将来、生徒に指導する観点で受講する 【予習復習に必要な想定時間】 1.0時間
	第８回	実習先機関・施設の理解（その他の施設） 【key words】 【keywords】 関係法規　介護体験　福祉施設 【授業概要】 【授業概要】 実習先を理解する（その他施設） 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 資料を配付する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備】 将来、生徒に指導する観点で受講する 【予習復習に必要な想定時間】 1.0時間
	第９回	事前訪問（事前オリエンテーション）の理解（連絡方法・挨拶・身だしなみ・訪問の目的と確認事項） 【key words】 【keywords】 連絡方法・挨拶・身だしなみ・訪問の目的と確認事項 【授業概要】 【授業概要】 実習先訪問についての具体的指導 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 資料を配付する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備】 将来、生徒に指導する観点で受講する 【予習復習に必要な想定時間】 1.0時間
	第１０回	実習開始までの取り組み（まとめ、レポート課題） 【key words】 【keywords】 実習先概要　職員配置 【授業概要】 【授業概要】 実習開始まで準備しておくべきことについて考える 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 資料を配付する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備】 将来、生徒に指導する観点で受講する 【予習復習に必要な想定時間】 1.0時間

第１１回　記録方法の理解（実習記録①）
【key words】
【keywords】
実習記録

【授業概要】
【授業概要】
実習記録の記入方法

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
資料を配付する

【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備】
将来、生徒に指導する観点で受講する
【予習復習に必要な想定時間】
第１２回　記録方法の理解（実習記録②）
【key words】
【keywords】
実習記録

【授業概要】
【授業概要】
実習記録の記入方法

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
資料を配付する

【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備】
将来、生徒に指導する観点で受講する
【予習復習に必要な想定時間】
1.0時間
第１３回　コミュニケーションスキルを磨こう
【key words】
【keywords】
コミュニケーションスキル　ア行トーク　サイレントトーク

【授業概要】
【授業概要】
援助のテクニック・スキル・マインドについて、演習及び映像を通して学ぶ
映像を見て、援助場面でどのように役立てられるかレポートにまとめる

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備】
授業中に行うア行トーク・サイレントトークを復習してみよう

【予習復習に必要な想定時間】
0.5時間
第１４回　実習生に求められる基本姿勢の理解（職業倫理、権利擁護、プライバシーの保護、守秘義務、礼儀作法、健康管理）
【key words】
【keywords】
職業倫理、権利擁護、プライバシーの保護、守秘義務、礼儀作法、健康管理

【授業概要】
【授業概要】
実習生に求められる基本姿勢について理解する

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
資料配付する

【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備】

【予習復習に必要な想定時間】
0.5時間
第１５回　実習計画書作成の理解　*「実習計画書」の完成、*「実習生紹介票」、「誓約書」
【key words】
【keywords】
実習計画書　実習生紹介票　誓約書

【授業概要】

	【授業概要】 実習先に提出する資料の作成 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 資料を配付する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備】 将来、生徒に指導する観点で受講する 【予習復習に必要な想定時間】 2.0時間
受講生に関わる情報および受講のルール	対人援助サービスに携わる者としての視点で授業に参加すること。 演習には積極的に参加すること。授業の流れに反した行動を取る場合には履修しないこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	実習記録の練習、実習計画書の作成、実習生紹介票、誓約書等の作成は授業時間外に各自で行うこととなる。
オフィスアワー	火曜日10時～12時
評価方法	レポート及び実習計画書・実習報告書による評価とする。書類の提出状況、演習への参加状況を加味する。
教科書	教師をめざす人の介護等体験ハンドブック（大修館書店）
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 介護体験実習Ⅰ　　授業コード： S9045

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
-	3年次	1単位(45)	選択
担当教員			
大竹　勤			
専門科目	実習		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	※この科目は、高等学校教諭１種免許状「福祉」の取得に必要な科目のうち「教科に関する科目」の「社会福祉総合実習」に該当する科目である。同免許取得を目指す学生のうち、本学カリキュラムにおいて「相談援助実習」、「精神保健福祉援助実習」、のうちいずれか１科目以上の単位を取得した場合はその単位で代替することができるので、その場合は当該科目を履修する必要はない。さらに、この科目は中学校教諭１種免許状並びに小学校教諭１種免許状の取得に必要な「介護等体験」に該当する科目である。同免許取得を目指す学生のうち、本学カリキュラムにおいて「相談援助実習」、「精神保健福祉援助実習」、「保育実習（社会福祉施設での実習に限る）」のうちいずれか１科目以上の単位を取得した場合はその単位で代替することができるので、その場合は当該科目を履修する必要はない。 【授業の目的】 上記の教員免許を目指す学生に必要な社会福祉に関する体験について学び、実践できるようになることを目的とする。 【到達目標】 社会福祉施設等における現場実習などを通して、講義・演習・実習等で学んだ知識と技術を実際に活用し、高齢者や障害者への総合的な介護活動等が実践できるための基礎的な能力を習得し、介護に関する総合的な知識と技術を習得する。
授業の概要	障害者、高齢者等が豊かで安定した生活を送ることができるために、社会福祉施設等における支援内容、方法について考え、実践的体験を通して、教育従事者に必要な豊かな人間性を養う。社会福祉施設等での介護体験がより良く行えるよう、実習の意義や必要性についての理解を深める。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	◎
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	○
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	○
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	○
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	◎
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第３回
【key words】
【授業概要】
【教科書ページ・参考文献】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習復習に必要な想定時間】
第４回
【key words】
【授業概要】
【教科書ページ・参考文献】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習復習に必要な想定時間】
第５回
【key words】
【授業概要】
【教科書ページ・参考文献】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習復習に必要な想定時間】
第６回
【key words】
【授業概要】
【教科書ページ・参考文献】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習復習に必要な想定時間】
第７回
【key words】
【授業概要】
【教科書ページ・参考文献】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習復習に必要な想定時間】
第８回
【key words】
【授業概要】
【教科書ページ・参考文献】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習復習に必要な想定時間】
第９回
【key words】
【授業概要】
【教科書ページ・参考文献】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習復習に必要な想定時間】
第１０回
【key words】
【授業概要】
【教科書ページ・参考文献】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習復習に必要な想定時間】

	第１１回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１２回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１３回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１４回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１５回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	対人援助サービスに携わる者としての視点で実習すること。 また、将来、児童・生徒に対して社会福祉についての話ができるような意識を持って実習すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	実習記録の作成、実習報告書の作成
オフィスアワー	火曜日10時～12時
評価方法	社会福祉施設における、障害者・高齢者への基礎的な支援内容、方法が理解できていることを合格基準とし、レポート等により評価する。実習先指導者の評価及び実習記録等を加味する。
教科書	教師をめざす人の介護等体験ハンドブック（大修館書店）
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育

	□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 介護体験実習Ⅱ　　授業コード： S9046

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
-	3年次	1単位(45)	選択
担当教員			
大竹　勤			
専門科目	実習		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	※この科目は、高等学校教諭１種免許状「福祉」の取得に必要な科目のうち「教科に関する科目」の「社会福祉総合実習」に該当する科目である。同免許取得を目指す学生のうち、本学カリキュラムにおいて「相談援助実習」、「精神保健福祉援助実習」、のうちいずれか１科目以上の単位を取得した場合はその単位で代替することができるので、その場合は当該科目を履修する必要はない。 〔授業の目的〕 上記の教員免許を目指す学生に必要な社会福祉に関する体験について学び、実践できるようになることを目的とする。 〔到達目標〕 社会福祉施設等における現場実習などを通して、講義・演習・実習等で学んだ知識と技術を実際に活用し、高齢者や障害者への総合的な介護活動等が実践できるための基礎的な能力を習得し、介護に関する総合的な知識と技術を習得する。
授業の概要	障害者、高齢者等が豊かで安定した生活を送ることができるために、社会福祉施設等における支援内容、方法について考え、実践的体験を通して、教育従事者に必要な豊かな人間性を養う。社会福祉施設等での介護体験がより良く行えるよう、実習の意義や必要性についての理解を深める。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	◎
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	○
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	○
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	○
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	◎
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回 第２回 第３回 第４回 第５回 第６回 第７回 第８回 第９回

	第１０回 第１１回 第１２回 第１３回 第１４回 第１５回
受講生に関わる情報および受講のルール	対人援助サービスに携わる者としての視点で実習すること。 また、将来、児童・生徒に対して社会福祉についての話ができるような意識を持って実習すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	実習記録の作成、実習報告書の作成
オフィスアワー	火曜日10時～12時
評価方法	社会福祉施設における、障害者・高齢者への基礎的な支援内容、方法が理解できていることを合格基準とし、レポート等により評価する。実習先指導者の評価及び実習記録等を加味する。
教科書	教師をめざす人の介護等体験ハンドブック（大修館書店）
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 英会話　　授業コード： S1182

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年次	2単位(30)	選択
担当教員			
ｻﾞｯｸ・ｸﾞﾚｰｽ			
基礎教養科目	講義		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 様々な場面で英語を聞きとりそれに応答する会話や、様々な場面で英語で自分を表現する会話を学ぶことにより会話のスキルを習得する。 [到達目標] 1.基本的な英会話に必要な語彙、文法、語句表現などを場面に応じて聞きとり、それに応答できるようになること。 2.聞き取れない語句や言い回しがある場合は英語で質問できるようになること。 3.習得した語彙、文法、語句表現を用いて、自発的に話せるようになること（応答するだけでなく）。
授業の概要	Listening, Speakingの練習を中心に行う。使い慣れていない語彙や語句、文法は例文を通して練習を行い、次にペアーでそれらを用いて会話できるようにする。それぞれの練習では様々な場面を想定して想像力を豊かにして会話を練習する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回　1. What do you think？ 〔内容〕 ・Do you think..? Yes, I do.　No, I don't. ・Interview a partner 〔Phrases, Vocab., Grammar〕 goes with Nouns related to clothes 第２回　2. I' ll get him some CDs. 〔内容〕 ・Buying presents ・What do you have? 〔Phrases, Vocab., Grammar〕 dress up shopping list 第３回　3. Do you mind if　I sit here？ 〔内容〕 ・Practice the conversation in pairs ・Asking permission board game. 〔Phrases, Vocab., Grammar〕 Do you mind if? Yes, of course. Actually I'd rather you didn't 第４回　4. Review Lesson 〔内容〕 The First Three Lessons 〔Phrases, Vocab., Grammar〕

	第５回	5. What was he doing？ 〔内容〕 ・適当な時制を用いる練習 ・Tell the story from the pictures ・what happened to you? 〔Phrases, Vocab., Grammar〕 過去形、過去進行形 Vocab related to injuries
	第６回	6. What are you going to do？ 〔内容〕 ・Interview partner on their next vacation ・Make a sentence from words in brackets 〔Phrases, Vocab., Grammar〕 I may go 〜, I am going to go 〜 Vocab related to occupations
	第７回	7. Where should I go if I want to go out？ 〔内容〕 ・Make new conversation using examples ・How will you find your way? 〔Phrases, Vocab., Grammar〕 Vocab related to tourism what to take / why
	第８回	8. Review Lesson 〔内容〕 Games, practice, and exercises 5,6 and 7 〔Phrases, Vocab., Grammar〕
	第９回	9. Complaints 〔内容〕 ・Put the complaints with the picture. ・Customer survey, Describing food ・How do you like your food?(Role Play) 〔Phrases, Vocab., Grammar〕 I'm afraid / I'm terribly sorry Vocab. Related to food
	第１０回	10. The best way to travel辞書を活用 〔内容〕 ・In pairs decide.which hotel to stay in. ・Personal qualities ・Match the adjectives with the phrases 〔Phrases, Vocab., Grammar〕 比較級. Not quite as cheap/A little more expensive 性格を表す形容詞
	第１１回	11. I wish it wasn't raining. 〔内容〕 ・Read the post card and talk about the things he wishes were different. 〔Phrases, Vocab., Grammar〕 性格を表す形容詞
	第１２回	12. What have you been doing？ 〔内容〕 ・Match the person with the activity and how long have they been doing it? ・Pronunciation Practice 〔Phrases, Vocab., Grammar〕 現在完了進行形 感情を表す形容詞 get up to
	第１３回	13. What would you do？ 〔内容〕 ・what would you do in each situation? ・Describe the people using the adjectives 〔Phrases, Vocab., Grammar〕 人格を表す形容詞
	第１４回	14. What have you done？ 〔内容〕 ・Use examples to make new conversations. ・Speaking before and after:What have these people had done. ・Interview partner :Would you ever...? 〔Phrases, Vocab., Grammar〕 現在完了形 使役動詞 I've had it dyed
	第１５回	15. Review Lesson　(8-12) 〔内容〕 Games, exercises and practice. short test on whole syllabus
受講生に関わる情報および受講のルール	講師の説明が理解できない時や、質問がある場合は挙手して発言する。間違いを恐れないで積極的に会話する。	
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	ICT利用（WEBフォームやメールなど）・その他（ミニテスト）	
授業外時間にかかわ	授業時に指示する。	

る情報	
オフィスアワー	授業終了後30分。
評価方法	定期試験50%、授業への参加50%。
教科書	"Get Real 3" New edition　　出版社 Macmillan
参考書	英和辞典・英英辞典
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 生涯学習概論　　授業コード： S1271

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3・4年次	2単位(30)	選択
担当教員			
篠原　章			
基礎教養科目	講義		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	生涯学習の基本理念と内容を理解し、わが国の歴史的展開と現状や世界の流れを知るとともに、生涯学習における学び方を身に付け、学習者への支援方法を効果的に活かせる力を養う。
授業の概要	生涯学習における日本と世界の基本的考え方や理念、特にユネスコとＯＥＣＤの相違、外国の生涯教育、日本の生涯教育の先駆け、生涯学習の今後の展望を学ぶ。また現在の家庭・学校・社会の諸課題を踏まえ、生涯学習時代に期待される人間像について考察する。 社会人として仕事上必要とする書類作成の要領を公用文を中心に学ぶ。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	◎
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	◎
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	△

授業計画

第１回　オリエンテーション

【key words】
生涯学習　生涯教育　豊かな人生　偶発的学習　独力的学習
【授業概要】
科目の位置づけとシラバスの説明。生涯学習とは何か。生涯学習は様々な局面で使われており、使う人の立場によって異なる場合が多い。法律や答申での用法を始め、これをめぐる現実や課題をさまざまな側面から説明
【教科書ページ・参考文献】
教科書：Ｐ１～４
参考文献：三輪健二著「生涯学習の理論と実践」放送大学出版会
【課題・予習・復習・授業準備指示】
生涯学習に対する考え方を整理しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第２回　国際社会の議論　21世紀教育はケルン宣言によって方向づけられ、生涯学習による知識と技術と資格の重要性を解説する。

【key words】
ケルン憲章　教育大臣会議　知識　技術　資格
【授業概要】
21世紀の教育の世界の流れは、先進国首脳会議でのケルン宣言・生涯学習の目的と希望によって方向づけられたと言われている。そのなかで知識と技術と資格が重要であり、すべての人々の流動性へのパスポートは教育と生涯学習であることを説明
【教科書ページ・参考文献】
教科書：
参考文献：文部科学省ホームページ・ケルン宣言と世界教育大臣会議
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ケルン憲章・教育大臣会議の内容を確認すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第３回　日本での議論・政策　教育基本法は生涯学習の理念を導入、だれでも、いつでも、どこでも学習でき、どう評価するかを考える。

【key words】

		誰でも　どこでも　いつでも　ワークライフバランス 【授業概要】 教育基本法の改正で生涯学習の理念を導入。これを踏まえて、国、文部科学省の政策・方針を学び、どこでも、いつでも学習でき、それをどのように評価するかをを説明。ワークライフバランスや遠隔教育の重要性を知る。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：P9～14 参考文献：「生涯学習政策研究」文部科学省生涯学習政策局 【課題・予習・復習・授業準備指示】 世界大学学長シンポジウム（さいたま）での文部科学省生涯学習政策局長の講演を確認すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第４回	生涯学習の理念と理論１　古代ギリシャの思想、公教育の父コンドルセの公教育理念、私学教育を概観する。 【key words】 公教育　知識を育てる 【授業概要】 ソクラテス、プラトン、ソクラテスの思想を考える。 コンドルセの公教育の理念とその後を説明し、わが国おける私学教育と生涯学習の考えを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：P5～6 参考文献：荻野弘之著「哲学の饗宴」ＮＨＫライブラリー 【課題・予習・復習・授業準備指示】 家庭教師的学習　コンドルセ、天野貞祐氏の考え方を知ること。 【予習復習に必要な想定時間】 50分
	第５回	生涯学習の理念と理論２　ユネスコとOECDの流れを知り、最近話題のPISAの問題点を考える。 【key words】 ペタゴジー　アンドラゴジー　自己決定性　生きることを学ぶ　ＰＩＳＡ 【授業概要】 ユネスコとＯＥＣＤの教育・学習の流れと相違を知り、基本的なそれぞれの考え方を学ぶ。 最近、3年ごとに行われ話題となっているＰＩＳＡによる学習調査の問題点と将来を考える。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：P20から22 参考文献：ポール・ラングラン著「生涯教育入門」全日本教育連合会 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ユネスコとＯＥＣＤの基本的な考え方を整理 【予習復習に必要な想定時間】 50分
	第６回	生涯学習の内容と形態　民間組織の台頭と情報社会の進展を取り上げ、生涯学習への影響を検討する。 【key words】 役に立つ学習　楽しむ学習　学習の基礎となる学習　個人・集団・集合学習　ワークショップ 【授業概要】 生涯学習の実態を実態を内容と形態という側面から説明 生涯学習を支える学校開放に着目しその動向を紹介する。 最近の民間組織の台頭と情報社会の進展を取り上げ、生涯学習にどのような影響するかを検討する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：P37～40 参考文献：藤岡英雄「学習関心と行動」学文社、 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分の地域の学校がどのような開放をしているか調べること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第７回	学校教育と生涯学習　現在の学校は生涯学習の場であり、そのような役割を期待されているかを考える。 【key words】 リカレント教育　生きる力　奉仕・体験活動　学社連携　コミュニティールーム 【授業概要】 学校教育にかかわる人々にとって、現在の学校とは、どのような生涯学習の場であり、またどのような役割を期待されているかを説明 初等・中等教育を検討する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：P49～64 参考文献：浦野東洋一「学校改革に挑む」つなん書房 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自己の学校観がどのようなものか整理して授業に臨むこと。 【予習復習に必要な想定時間】 50分
	第８回	外国の生涯学習１　ドイツの生涯学習の学習プログラム、統一後の問題点や北欧の生涯学習事情を概説する。 【key words】 宿泊型学習プログラム　コンブックス　学習サークル 【授業概要】 ドイツの生涯学習の特徴はフォルクスホッホシューレという公の施設を中心に幅広い学習プログラムが提供されている点である。この点を説明するとともに、統一後のドイツ社会が抱える問題を考える。

		豊かな生活水準や充実した福祉国家政策で知られているスウェーデンとデンマークの生涯学習事情を説明 【教科書ページ・参考文献】 参考文献：三島憲一「現代ドイツ」岩波新書 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ドイツ、スウェーデンとデンマークの学校教育制度と福祉の関係を整理しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第９回	外国の生涯学習２　オランダの個別教育、アメリカで発達したサービスラーニングや地域コミュニティーを概説する。 【key words】 ワールドオリエンテーション　シティズンシップ　サービスラーニング 【授業概要】 テーマ型の教育が取り入られているのオランダの教育、アメリカで発達したサービスラーニングや地域コミュニティーのこと、世界最大規模と言われるスミソニアン美術館を説明 【教科書ページ・参考文献】 教科書： 参考文献：リヒテルズ直子「オランダの個別教育はなぜ成功したのか」平凡社 【課題・予習・復習・授業準備指示】 オランダ、アメリカの教育事情、スミソニアン博物館について調べること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第１０回	生涯学習の先駆け１　生涯勉強に励むことは古今東西を問わず語られてきた。セネカや世阿弥佐藤一斎を概説する。 【key words】 初心　修身　学は一生の大事 【授業概要】 生涯を通して勉学に励むことの重要性は古今東西を問わず語られてきた（セネカ、スマイルズ、大学　世阿弥　佐藤一斎）が、その語られ方は多様である。学び続けることの意義はどのように説かれてきたのかを考える。 【教科書ページ・参考文献】 参考文献：諸橋轍次著「古典の叡智」講談社学術文庫、野上豊一郎・西尾実「風姿花伝」岩波　文庫宇野哲人「大学」講談社学術文庫、川上正光「言志四録」講談社学術文庫 【課題・予習・復習・授業準備指示】 大学　風姿花伝　言志四録の一つ読むこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第１１回	生涯学習の先駆け２　理想的人間像のあり方を示した中江藤樹の生き方、生活倫理実践者の石田梅岩の石門心学を概説する。 【key words】 致良知　　五事を正す　職分　心学 【授業概要】 学問に専念することを人格完成への道筋と捉え、理想的人間像のあり方を示した中江藤樹の生きたかを説明 生活倫理の生涯学習実践者の石田梅岩の石門心学を説明 【教科書ページ・参考文献】 参考文献：山住正巳著「中江藤樹」朝日新聞、古川治著「中江藤樹」明徳出版　今井淳・山本真功編「石門心学の思想」ぺりかん社、柴田実著「石田梅岩」吉川弘文館 【課題・予習・復習・授業準備指示】 中江藤樹、石田梅岩の時代背景を事前に調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第１２回	社会教育制度　生涯学習を推進するうえで重要な役割を担うことが期待されている社会教育の制度について概観する。 【key words】 公的社会教育生涯学習センター 【授業概要】 生涯学習を推進・進行するうえで重要な役割を担うことが期待されている社会教育の制度について概観する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：P65～86 【課題・予習・復習・授業準備指示】 社会教育を担う人々の役割を考えること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第１３回	生涯学習支援の動向と課題　個人、団体、施設、機関などが、ネットワークを構築し連携・協力する課題について考える。 【key words】 ネットワーク型行政　NPM　学ぶ意欲　知の循環型社会 【授業概要】 生涯学習支援においては、学習支援に係わるあらゆる人々、団体、施設、機関などが、ネットワークを構築し、連携・協力することが重要であるといわれている。これらの生涯学習支援の動向と課題について取り上げエ考える。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：P87～97 参考文献：伊藤俊夫編「生涯学習の支援」実務教育出版 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分自身が主体となり学習支援を考える。 【予習復習に必要な想定時間】 50分

	第１４回　まちづくりと生涯学習　自治体が旗振り役のまちづくりと住民主体のまつづくりで、「学び」がどのように関連しているか考える。 【key words】 生涯学習宣言市町村　まちおこし　地域文化 【授業概要】 自治体が旗振り役を務めるまちづくりと住民が主体となって草の根的に展開するまちづくりに分類したうえで、それぞれの街づくりに人々の「学び」がどのように関連しているか考える。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：P99～110 参考文献：田村明「まちづくりの実践」岩波書店 【課題・予習・復習・授業準備指示】 住民自らの生涯学習学習成果をまちづくりにいかにして反映しているかを考える。 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１５回　グローバリゼーションと生涯学習　ダカール行動枠組みなどを初めとする世界の動きを概観し、私たちの生活への影響を考える。 【key words】 ダカール行動枠組み　ESD　自分自身との闘い 【授業概要】 生涯学習の領域でもグローバリゼーションに関する議論が活発に行われるようになった。国境にとらわれない世界が一つであるという感覚と、それに起因する諸問題が私たちの生活に影響を及ぼしている。ダカール行動枠組みなどを始めとする世界の動きを説明 【教科書ページ・参考文献】 教科書：P111～121 参考文献：ロランド・ロバートソン「グローバリゼーション」東京あ大学出版会 【課題・予習・復習・授業準備指示】 経済・文化的グローバリゼーションの生み出す諸問題を解決するにはどのようにすればよいかを考えること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
受講生に関わる情報および受講のルール	板書・口述内容は、定期試験に重要なので整理すること。 レポートは必ず提出すること。 ５回を超えて欠席すると定期試験の受験資格を失う。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	予習に重点を置き学習すること。「学び方を学ぶ」ということ意識して学習すること。
オフィスアワー	講師室で授業後30分
評価方法	定期テストとレポート等で総合的に評価する。
教科書	「　テキスト生涯学習　　新訂版　」　学文社
参考書	講義の中で適宜紹介していく。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 更生保護制度　　授業コード： S2185

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年次	1単位(30)	社会福祉コース・必修／福祉心理コース・学校教育コース・児童福祉コース・選択
担当教員			
篠原　章			
専門科目	講義	社会福祉士指定科目	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	更生保護の実態と社会支援のあり方を明らかにして、犯罪・非行をした人との共生社会の実現が不可欠であることを理解し、参加協力の意識を持たせる。更生保護制度は社会福祉士国家試験の科目なので、合格水準到達を目標とする。
授業の概要	相談援助活動において必要となる更生保護を考察し、刑事司法・少年司法分野で活動する組織、団体及び専門職についての知識を得るとともに、機関相互の連携を学習する。社会福祉士国家試験の過去問題を取り上げる。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	◎
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	△
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	△
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回	オリエンテーション　更生保護は、罪を犯した者又は非行少年を社会内で処遇改善するものであり、福祉との関連も説明する。 【key words】 非行犯罪臨床　共生社会　犯罪少年　触法少年　司法福祉　ダブルロール 【授業概要】 更生保護は、犯罪をした者及び非行のある少年に対し適切に働きかけることで、再犯を防ぎ、立ち直らせることで社会を保護し個人と公共の福祉を増進させることや福祉との関連も踏まえ、その概要を説明 【教科書ページ・参考文献】 教科書：p2～14 参考書:犯罪白書令和３年版、 【課題・予習・復習・授業準備指示】 更生保護は、犯罪をした者、非行をした者を社旗復帰させることを総合的に考察し共生社会を考えること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第２回	仮釈放等　仮釈放は収容期間満了前に仮に釈放し、円滑な社会復帰を図ろうとする制度であることを概説する。 【key words】 仮釈放　仮出場　仮退院　悔悟の情 【授業概要】 矯正施設に収容されている人は収容期間が決められているが、仮釈放等とは、その収容期間満了前に一定の条件を付けて仮に釈放し、社会の中で生活することで、円滑な社会復帰を図ろうとする制度であることを説明 【教科書ページ・参考文献】 教科書：ｐ15～22 参考書：瀬川晃「＜論説＞仮釈放の現代的動向とVol. 38, No. 3. 38, No. 3 【課題・予習・復習・授業準備指示】 仮釈放、仮出場、仮退院ごとに整理をすること。 【予習復習に必要な想定時間】 50分
	第３回	保護観察　保護観察の制度と処遇のあり方を捉え、保護観察の種類と方法に重点を置いて概説す

		る。 【key words】 社会内処遇　指導監督　補導援護 【授業概要】 保護観察の制度と処遇のあり方を捉え、保護観察の種類と方法に重点を置いて説明 【教科書ページ・参考文献】 教科書:　p23～35 参考書：北沢信次著「犯罪者処遇の展開」成文社、 【課題・予習・復習・授業準備指示】 保護観察の種類を中心にまとめること。 【予習復習に必要な想定時間】 50分
	第４回	生活環境の調整　刑事施設又少年院収容中の者、保護観察付執行猶予者の裁判確定前の生活環境の調整を考える。 【key words】 生活環境の調整、改善 【授業概要】 刑事施設又少年院に収容中の者に対する生活環境の調整、保護観察付執行猶予者の裁判確定前の生活環境の調整について主に説明 【教科書ページ・参考文献】 教科書：ｐ36～40 参考書：松本勝編者「更生保護入門」成文堂 【課題・予習・復習・授業準備指示】 更生保護法第82，83条を確認しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第５回	更生緊急保護・犯罪被害者対策　刑期を終えて出所した人や保護観察中の人の保護。被害者への救済を考える。 【key words】 応急の措置　意見等聴取　心情伝達　被害者等通知 【授業概要】 刑期を終えて出所した人や保護観察中の人が改善更生のために必要な保護が受けられない場合どのような保護が受けられるか。また犯罪の被害者への支援の取組を説明 【教科書ページ・参考文献】 教科書：ｐ４１～５１ 参考書：野坂明宏著「司法と福祉の接点ー救護・更生緊急保護」犯罪社会学No2222 【課題・予習・復習・授業準備指示】 最近、社会的問題となっている犯罪被害の事例を見ておく。 【予習復習に必要な想定時間】 40分
	第６回	恩赦・犯罪予防活動　政令恩赦、個別恩赦について説明。犯罪予防活動の根拠、位置づけ、具体的活動を紹介する。 【key words】 大赦　特赦　復権　社会を明るくする運動　ＢＢＳ会　更生保護女性会 【授業概要】 恩赦の歴史は古く、奈良時代から行われていた。現在の政令恩赦、個別恩赦について説明。また犯罪予防活動の根拠、位置づけ、具体的活動を紹介する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書:p52～59　参考書：野坂明弘著「司法と福祉の接点」犯罪社会学研究22 【課題・予習・復習・授業準備指示】 例年7月に実施されている社会を明るく運動について調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 50分
	第７回	保護観察官・保護司　わが国の保護観察制度は官民協働であり、保護観察官と保護司の役割とその実際を説明する。 【key words】 不良措置　所在調査　保護区 【授業概要】 わが国の保護観察制度は、官民協働に大きな特色があり、保護観察官と保護司はその主要な役割を担っているといえる。この人達の役割とその実際を説明 【教科書ページ・参考文献】 教科書：ｐ62～67 参考書：北沢信次著「犯罪者処遇の展開」清文社 【課題・予習・復習・授業準備指示】 保護観察官と保護司の役割を整理すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第８回	更生保護施設・民間協力者　更生保護施設の役割・機能 【key words】 更生保護事業　更生保護法人　更生保護女性会　ＢＢＳ会　協力雇用主 【授業概要】 更生保護施設は被保護者を宿泊させながら改善更生に必要な保護を行う場であるが、具体的にどのような役割・機能を担っているかを説明。また民間ボランティアの役割を説明 【教科書ページ・参考文献】 教科68～77～77 参考書：日本更生保護女性連盟「40年に続く5年の歩み」、日本ＢＢＳ連盟編「MesMessageBBS活動 【課題・予習・復習・授業準備指示】 BBS会を調べてみること 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第９回	裁判所との連携　少年事件は家庭裁判所と密接に関係している。司法機能と福祉機能を有する家

		庭裁判所の役割を説明する。 【key words】 全件送致主義　少年保護手続　要保護性　福祉機能　処遇勧告　処遇の転換 【授業概要】 保護観察所は少年事件をめぐって家庭裁判所と密接に連携している。少年による事件は、警察、検察で犯罪の嫌疑があるとされると、すべて家庭裁判所の司法機能と福祉機能を有する家庭裁判所の役割を説明 【教科書ページ・参考文献】 教科書：ｐ80～86 【課題・予習・復習・授業準備指示】 最高裁判所のホームページで家庭裁判所の地位と権限を調べること。 【予習復習に必要な想定時間】 40分
	第１０回	検察庁・矯正施設との連携　検察官、更生保護委員会、刑務所、少年院、拘置所の役割と児童相談所について概説する。 【key words】 刑の執行指揮者　再犯防止　矯正教育　矯正処遇　被害者の視点 【授業概要】 検察官は刑の執行指揮を行っており、試行期間である保護観察所や地方更生保護委員会は事件処理等で連携している。この検察庁について説明する。また刑事施設である刑務所、少年院、拘置所の役割と国の機関と児童相談所について説明 【教科書ページ・参考文献】 教科87～95～95 【課題・予習・復習・授業準備指示】 検察庁の組織図、刑務所、少年院、拘置所の配置場所を確認しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 40分
	第１１回	公共職業安定所・福祉事務所との連携　公共職業安定所、福祉事務所のあり方、民間団体とのかかわりを説明する。 【key words】 社会参加　総合就労支援対策　応急の救護 【授業概要】 犯罪や非行を行った者を社会に再統合していく有効な方法は、就労支援と言われている。また保護観察対象者が適切な医療、食事など健全な社会生活を営むために援護を必要とする。そのための公共職業安定所、福祉事務所のあり方を説明 【教科書ページ・参考文献】 96～102　～102 参考書：阿部彩著「貧困から社会排除へ―指標の開発と現状」海外社会保障研究 【課題・予習・復習・授業準備指示】 福祉事務所のこと調べること。 【予習復習に必要な想定時間】 40分
	第１２回	医療観察法に基づく処遇　重大な他害行為を行った人の社会復帰を目的とする医療観察制度を概説する。 【key words】 心神喪失、心神耗弱　他害行為　精神保健参与 【授業概要】 心神喪失、心神耗弱の状態で重大な他害行為を行った人の社会復帰を促進することを目的とした医療観察制度では精神保健福祉士、社会福祉士の活躍が期待されていることについて説明。また、生活環境の調査を本人の社会復帰の促進の説明 【教科書ページ・参考文献】 教科書：ｐ104～110 【課題・予習・復習・授業準備指示】 医療観察法、精神保健福祉法の該当条項を確認すること。 【予習復習に必要な想定時間】 50分
	第１３回	地域社会における処遇、関係機関との連携　医療機関、保護観察所、都道府県、市町村、民間団体の連携について概説する。 【key words】 ケア会議　精神保健観察　処遇の実施計画 【授業概要】 本人の円滑な社会復帰のためには地域社会における処遇の3要素ともいえる医療、精神保健観察、援助が統一的な方針のもとで、適正かつ円滑に実施されることについて説明 【教科書ページ・参考文献】 教科書：ｐ111～115 【課題・予習・復習・授業準備指示】 医療機関、保護観察所、都道府県、市町村、民間団体の連携を考えること。 【予習復習に必要な想定時間】 40分
	第１４回	社会復帰調整官等の業務の実際　専門知識を有する社会復帰調整官の業務の実際を説明する。 【key words】 精神保健審判員　精神保健参与　処遇実施計画 【授業概要】 医療観察法の社会復帰調整官が成立した。保護観察所において精神障害者の保健及び福祉に関する専門資格を有する者が社会復帰調整官として活躍している。この社会復帰調整官の業務の実際を説明 【教科書ページ・参考文献】 教科書：ｐ134～141 【課題・予習・復習・授業準備指示】 社会復帰調整官の配置の実際を調べておくこと。

	【予習復習に必要な想定時間】 50分 第１５回　更生保護の今後の展望　更生保護改革、国民・地域社会の理解の拡大、官民協働、保護観察の充実強化を概説する。 【key words】 再犯リスク　認知行動療法　処遇プログラム　証拠に基づく施策 【授業概要】 現在進行している更生保護改革を出発点として、問題点とされる国民・地域社会の理解の拡大、実効性の高い官民協働、保護観察の充実強化を中心に説明 【教科書ページ・参考文献】 教科書：ｐ142～150 【課題・予習・復習・授業準備指示】 更生保護改革の問題点を整理すること。 【予習復習に必要な想定時間】 40分
受講生に関わる情報および受講のルール	板書・口述内容は、定期試験に重要なので整理すること。 国家試験の過去・予想問題の小テストを実施する。 5回を超えての欠席は、定期試験の受験資格失う。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	各授業内容の重要項目はその周辺の知識も得ておくこと。
オフィスアワー	講師室で授業後３０分
評価方法	定期試験、小テストを総合的に評価する。（目安）定期試験結果70%、小テスト30%
教科書	新・社会福祉士養成講座「更生保護制度」中央法規出版
参考書	授業の中で適宜紹介していく。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 権利擁護と成年後見制度　　授業コード： S2186

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年次	2単位(30)	社会福祉コース・必修／福祉心理コース・学校教育コース・児童福祉コース・選択
担当教員			
森田　隆夫			
専門科目	講義	社会福祉士・精神保健福祉士指定科目	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 成年後見制度に代表されるように、権利擁護のための法、制度、組織、団体および専門職は、現在においても多くのものが用意されている。しかし、このような法、制度等を知らず又は理解しなければ、折角の法、制度等は画餅に帰する。そこで、権利擁護のための法、制度等を知り理解して、それを社会福祉の仕事、社会福祉士の資格の取得等に生かしてもらうことを目指す。 【到達目標】 ①憲法・行政法・民法につきその重要な概念、制度等を説明することができる。 ②成年後見制度につきその重要な概念、手続等を説明することができる。 ③成年後見に関連する事業、機関、団体、専門職につき重要な点を説明することができる。 ④権利擁護に関する実際の事案につき、分析、配慮等ができる。
授業の概要	相談援助活動と法との関係を学んだ上で、相談援助活動に不可欠な成年後見制度および権利擁護に係る事業、組織、団体につき概説し、これらを踏まえて、権利擁護活動の実際を考えて行きたい。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	◎
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	○
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回	科目オリエンテーション、権利擁護と憲法Ⅰ（人権） 【key words】 基本原理　精神的自由　経済的自由　社会権 【授業概要】 基本的人権の保障につき、自由権と社会権の性質の違いを中心に説明する。 【教科書ページ・参考文献】 P7～18 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書　P19～26 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第２回	権利擁護と憲法Ⅱ（統治） 【key words】 権力分立　国会　内閣　裁判所 【授業概要】 権力分立を基礎に国会、内閣、裁判所について説明をする。 【教科書ページ・参考文献】 P19～26 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書　P27～33　P44～45 【予習復習に必要な想定時間】

60分
第３回　権利擁護と行政法Ⅰ（行政組織、行政活動）
【key words】
行政主体　行政行為　行政手続
【授業概要】
行政主体、その行う行政行為の意義・種類・効果、それをチェックするための行政手続について説明をする。

【教科書ページ・参考文献】
P27～33　P44～45
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】教科書　P33～44
【予習復習に必要な想定時間】
60分
第４回　権利擁護と行政法Ⅱ（行政救済）
【key words】
行政不服審査　行政事件訴訟
【授業概要】
行政権行使に対する救済方法としての国家賠償、損失補償、行政不服審査、行政事件訴訟について説明をする。

【教科書ページ・参考文献】
P33～44
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】教科書　P46～63
【予習復習に必要な想定時間】
60分
第５回　権利擁護と民法Ⅰ（契約など）
【key words】
契約　不法行為
【授業概要】
契約の成立、内容、効果、解除等を説明する。
契約がなくても法律関係の生じる不法行為も説明をする。〃

【教科書ページ・参考文献】
P46～63
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】教科書　P64～75
【予習復習に必要な想定時間】
60分
第６回　権利擁護と民法Ⅱ（親族・相続）
【key words】
婚姻　親子　相続　遺言
【授業概要】
近しい関係にある人との法律関係として、婚姻、親子、相続、遺言について説明する。

【教科書ページ・参考文献】
P64～75
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】教科書　P78～85
【予習復習に必要な想定時間】
60分
第７回　成年後見の概要
【key words】
成年後見制度　成年被後見人　後見開始の審判の申立
【授業概要】
成年後見制度（法定・任意）について説明する。
法定後見の一つである成年後見につき、対象、申立等を説明する。〃
【教科書ページ・参考文献】
P78～85　P108～122
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】教科書　P86～93
【予習復習に必要な想定時間】
60分
第８回　保佐の概要
【key words】
被保佐人　保佐人　権限付与の申立
【授業概要】
補佐につき、対象、申立等を説明する。

【教科書ページ・参考文献】
P86～93
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】教科書　P86～93

【予習復習に必要な想定時間】
60分

第９回　補助の概要
【key words】
被補助人　補助人　権限付与の申立
【授業概要】
補助につき、対象、申立等を説明する。
【教科書ページ・参考文献】
P86～93
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】教科書　P94～102
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１０回　法定後見制度の手続等、任意後見制度
【key words】
欠格事由　行為能力　資格制限　鑑定　登記　任意後見契約　代理権
【授業概要】
後見人等の欠格事由を説明する。
成年被後見人等の行為能力・資格制限等について説明する。
鑑定、登記といった法定後見制度の手続について説明する。
任意後見について、その利用形態、手続、効力等を説明する。
日常生活自立支援事業について、その目的、内容、成年後見制度との連携等を説明する。
【教科書ページ・参考文献】
P94～102　P103～107
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】教科書
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１１回　日常生活自立支援事業、成年後見制度利用支援事業、
【key words】
日常生活自立支援事業　成年後見制度利用支援事業
【授業概要】
成年後見制度利用支援事業につき、　その主旨、内容、課題力等を説明する。

【教科書ページ・参考文献】
P124～132　P134～164
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】教科書　P166～186
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１２回　権利擁護にかかわる組織・団体、権利擁護にかかわる専門職の役割
【key words】
家庭裁判所　法務局　社会福祉協議会　弁護士　司法書士　社会福祉士　リーガルサポート　ぱーとなあ
【授業概要】
権利擁護にかかわる組織、団体として、家庭裁判所　法務局　社会福祉協議会等につき説明する。
権利擁護にかかわる専門職として、弁護士　司法書士　社会福祉士　リーガルサポート　ぱーとなあ等につき説明する。
【教科書ページ・参考文献】
P166～186
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】教科書　P188～233
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１３回　権利擁護活動の実際Ⅰ（成年後見活動の実際・権利擁護活動の実際）
【key words】
成年後見制度の利用　クーリングオフ　市町村長申立て　児童虐待
【授業概要】
権利擁護活動の実際として、教科書の事例を題材にその対処例を提示・検討する。

【教科書ページ・参考文献】
P188～233
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】教科書　P78～122
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１４回　権利擁護活動の実際Ⅱ（ＤＶＤ鑑賞）
【key words】
成年後見制度　根抵当
【授業概要】
成年後見制度に関するＤＶＤを鑑賞し、その実際と手続の概要を見てもらう。

【教科書ページ・参考文献】
P78～122
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】教科書　P7～233
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１５回　まとめ
【key words】

	憲法　行政法　民法　成年後見制度 【授業概要】 権利擁護と成年後見制度に関し、特に重要と思われる事項につき再度説明をし、復習をしてもらう。 【教科書ページ・参考文献】 P7～233 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	・可及的に多くの情報を提供したいので、予習復習は必ず行うこと。 ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。 ・社会福祉を志す者として、出席時間の厳守し、態度や身だしなみ等を整えること。 ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	教科書で予習・復習すること、根拠条文を確認しておくことが、絶対に必要です。
オフィスアワー	火曜　14時半～16時、　金曜　14時半～16時
評価方法	定期試験（６０％）、授業時間に行う小テスト（４０％）を総合して評価する。
教科書	社会福祉士養成講座編集委員編「権利擁護と成年後見制度（新・社会福祉士養成講座19）」中央法規
参考書	六法（例：ミネルヴァ書房編集部 編「社会福祉小六法」ミネルヴァ書房，2023年） 森長秀 編著「法学入門 第2版 」光生館，2022年
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 就労支援サービス　　授業コード： S2187

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年次	1単位(30)	社会福祉コース・必修／福祉心理コース・学校教育コース・児童福祉コース・選択
担当教員			
田中　博一			
専門科目	講義	社会福祉士指定科目	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 障害者世帯や母子世帯、生活保護受給世帯等の低所得者を中心とする就労の現状及び就労支援等の実状を把握し、労働を取り巻く状況やそれらを調整するための支援について学習する。 【到達目標】 ①労働の権利性について理解し、言語化できる。 ②労働の意義及び労働を支えることの意義を理解し、言語化できる。 ③相談援助活動において必要となる就労支援制度について理解し、説明できる。 ④就労支援組織と専門職の機能について理解し、概要について説明できる。 ⑤就労支援を実施する上での連携について理解し、個別のケースに応じた支援方法を想定できる。
授業の概要	労働は、一般市民としての権利である。生活を営む上でも重要な要素であるこの権利を全うするため、様々な支援施策が展開されており、社会福祉専門職としてもそれらの支援を担う人材が期待されている。 この授業では、①就労と就労支援の意義、②労働市場の動向、③労働法規の概要、④就労支援制度の概要、⑤就労支援サービスの実施体制、⑥就労支援を取り巻く各分野（労働、福祉、教育など）における連携と実際、これらの内容を中心に「就労」について社会福祉士が携わることの意義や目的を踏まえ学習を進める。 随時、授業中にその回の主題となるテーマについて受講者の発言を求める場合がある。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	◎
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	◎
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	オリエンテーション　講義の目的、到達目標、評価方法等の理解 【key words】 ・オリエンテーション 【授業概要】 ＜授業の目標＞ ・現行の社会福祉士養成カリキュラムのなかでの“就労支援サービス（本授業科目）”の位置づけを理解するとともに、この科目を学ぶことの意味について考える。 ・ソーシャルワークのグローバル定義、地域共生社会の実現、社会福祉士養成カリキュラムの改定などを概観し、今後、社会福祉士に期待されることについて考える。 ・就労支援サービス（本授業科目）のなかで学んでもらいたい（考えてもらいたい）ことなどを説明する。 ＜授業概要＞ ・社会福祉士のカリキュラム（就労支援サービスの位置づけ） ・社会福祉士養成のなかで、就労支援サービスを学ぶ意味 ・これからの社会福祉士に求められること①（社会福祉士の現状） ・これからの社会福祉士に求められること②（授業に望むことのメッセージ） 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】

60～120分

第２回　労働の意義　働く事の意味、労働の権利と義務との関係性、社会福祉士の役割

【key words】
・労働の意義，動機づけ，キャリア発達
【授業概要】
＜授業の目標＞
・就労の意義は“生計の維持”、“社会的役割の実現”、“個性の発揮”など多義的であることを理解する。
・就労の場において、労働者がその持てる個性を発揮するためには、仕事に対する“動機づけ”が重要であることを理解する。
・人間は生涯を通して、多様な役割を果たしつつ、“キャリア発達”していくことを理解する。
・就労支援のプロセスを理解する。
＜授業概要＞
・労働の多面的な意義
・動機づけ
・キャリア発達と就労支援
・就労支援のプロセス
【教科書ページ・参考文献】
・就労支援サービス（弘文堂）p1-p16
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを読み「労働の意義等」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第３回　現代の労働を取り巻く状況　労働市場の変化

【key words】
・労働市場，雇用課題
【授業概要】
＜授業の目標＞
・労働力の概念や労働指標を通じて、労働市場の動向をみる基礎を学ぶ。
・今後も人口減少が進む中、就労支援の経済的意義も考える。
・産業別、職業別の就業者数の動向と特徴を考える。
・様々な日本の雇用課題を理解する。
・雇用、生活をめぐる新しい概念をみることで、あるべき労働の姿を考える。
＜授業概要＞
・労働市場の動向
　・就業状態の把握と労働指標
　・労働市場の変化
・労働をめぐる課題
　・非正規雇用の増大、長時間労働、など
　・労働をめぐる新たな概念
【教科書ページ・参考文献】
・p10-p33
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを読み「現代の労働を取り巻く状況等」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第４回　労働に関する法律と制度

【key words】
・労働法規
【授業概要】
＜授業の目標＞
・労働法規として、労働三法や労働三権について、労働契約について、労働紛争解決制度の動向について理解する。
・労働に関する公的保険として、労働災害補償保険法（労災保険法）と雇用保険法の概要を理解する。
・就労支援にかかる主な法律として、雇用対策法、職業安定法、職業能力開発促進法、最低賃金法、短時間労働者の雇用管理の改善等に関する法律の概要を理解する。
＜授業概要＞
・労働法規の動向
・労働に関する公的保険
・就労支援にかかる主な法律
【教科書ページ・参考文献】
・p19-p33
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを読み「労働に関する法律と制度」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第５回　障害者と就労支援①　障害者の就労の現状

【key words】
・授産事業，障害者総合支援法，障害者雇用制度
【授業概要】
＜授業の目標＞
・わが国における授産事業の歴史、その後の障害者雇用の概要を理解する。
・障害者の就労支援に関する、厚生省、労働省それぞれにおける就労支援、そして厚生労働省発足後の、就労支援について理解する。
・旧制度（自立支援法以前）の就労支援の課題、そして、障害者自立支援法（現、障害者総合支援法）における就労支援について理解する。
・就労支援にかかる諸制度と、現在の障害者雇用の状況について理解する。
＜授業概要＞
・職業補導事業－授産
・厚生省と労働省
・就労支援施策の統合機運
・障害者総合支援法と就労支援

		・就労支援にかかる諸制度 ・障害者雇用の状況 【教科書ページ・参考文献】 ・p34-p43 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・テキストを読み「障害者の就労の現状」について予習をしておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第６回	障害者と就労支援②　障害者福祉施策における就労支援 【key words】 ・就労移行支援事業，就労継続支援（A型・B型）事業 【授業概要】 ＜授業の目標＞ ・福祉分野のサービス体系と、障害者の（就労）支援において大切なポイントを理解する。 ・障害者総合支援法における就労支援（就労移行支援事業、就労継続支援A型事業、就労継続支援B型事業）について、それぞれの違いを意識しながら理解する。 ＜授業概要＞ ・福祉分野のサービス体系 ・障害者の就労支援において大切なこと ・福祉分野のサービス組織 ・福祉施策と雇用施策の連携 【教科書ページ・参考文献】 ・p44-p50 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・テキストを読み「障害者福祉施策における就労支援」について予習をしておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第７回	障害者と就労支援③　障害者雇用施策における就労支援 【key words】 ・障害者雇用促進法 【授業概要】 ＜授業の目標＞ ・障害者雇用促進法の内容について、その主な内容である、①障害者雇用率制度（雇用義務制度、納付金制度）、②職業リハビリテーションを理解する。 ・雇用サービスの組織、団体について、①ハローワーク、②障害者職業センター、③職業能力開発施設を理解する。 ・雇用支援の具体的な内容を（なんとなく）理解する。 ＜授業概要＞ ・雇用分野のサービス体系 ・雇用分野のサービス組織と団体 ・雇用支援の内容 【教科書ページ・参考文献】 ・p51-p65 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・テキストを読み「障害者雇用施策における就労支援」について予習をしておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第８回	障害者と就労支援④　特別支援学校における就労支援・民間の取り組み 【key words】 ・特別支援学校，民間企業，CSR，SDGs，ソーシャルファーム 【授業概要】 ＜授業の目標＞ ・特別支援学校における就労支援について、特に、対象となる障害別の取り組みについて、その概要を理解する。 ・特別支援学校における就労支援において、“個別の教育支援計画”の必要性や有効性について理解する。 ・民間企業で働く障害者の現状（一般企業に雇用されている障害者数の推移など）を理解する。 ・企業の社会的責任（CSR）やSDGs、社会的企業（ソーシャル・エンタープライズ）について（なんとなく）理解し、（可能であれば）自分なりの意見をもつ。 ＜授業概要＞ ・特別支援学校における就労支援、 　・特別支援学校の現状、 　・特別支援学校での就労支援、 　・移行期での連携と個別の教育支援計画、 ・民間の取り組み、 　・民間企業で働く障害者の現状、 　・CSR、SDGs、社会的企業（ソーシャルファーム） 【教科書ページ・参考文献】 ・p66-p80 ・沖大幹，ほか（2018）『SDGsの基礎』，東英弥 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・テキストを読み「特別支援学校における就労支援・民間の取り組み」について予習をしておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第９回	障害者と就労支援⑤　諸外国の取り組み 【key words】 ・IPS，EBP，フィデリティ 【授業概要】 ＜授業の目標＞ ・IPS（Individual Placement and Support）について（なんとなく）理解する。 ・特に、IPSと従来の職業リハビリテーションサービスの違いについて理解し、説明できるようになる。

		・そのうえで、我が国の就労支援の現状や課題について、受講生それぞれが自分なりに考えることができるようになる。 ・EBP（Evidence-Based Practices）やフィデリティ尺度について（なんとなく）理解する。 ＜授業概要＞ ・IPS（Individual Placement and Support）とは何か、 ・IPSの理念、 ・DVD（IPSを学ぶ）、 ・Japan Individual Placement and Support Association（JIPSA）とフィデリティ尺度 【教科書ページ・参考文献】 ・デボラ・D・ベッカー，ロバート・E・ドレイク（2004）『精神障害をもつ人たちのワーキングライフーIPS：チームアプローチに基づく援助付き雇用ガイド』，金剛出版 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第10回	低所得者と就労支援①　低所得者等の就労の現状 【key words】 ・生活保護受給世帯，ひとり親世帯，ホームレス，生活困窮者 【授業概要】 ＜授業の目標＞ ・生活保護受給世帯の現状を理解し、このような人々に対する就労支援の必要性について考える。 ・母子世帯（ひとり親世帯）の現状を理解し、このような人々に対する就労支援の必要性について考える。 ・ホームレスの現状を理解し、このような人々に対する就労支援の必要性について考える。 ・生活困窮者の現状を理解し、このような人々に対する就労支援の必要性について考える。 ＜授業概要＞ ・低所得者の就労を学ぶ意味 ・生活保護受給世帯 ・母子世帯 ・ホームレス ・生活困窮者 【教科書ページ・参考文献】 ・p90-p99 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・テキストを読み「低所得者等の就労の現状」について予習をしておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第11回	低所得者と就労支援②　生活保護受給世帯への就労支援 【key words】 ・自立，生活保護制度，自立支援プログラム 【授業概要】 ＜授業の目標＞ ・生活保護制度において“自立”という概念がどう変化してきたのか、現在は“自立”をどうとらえているのかを理解する。 ・自立支援プログラムの概要について理解する。 ・生活保護法による就労支援について、特に、①生活保護受給者等就労自立促進事業、②被保護者就労支援事業、③被保護者就労準備支援事業、を中心に理解する。 ＜授業概要＞ ・社会保障制度の目的と機能 ・生活保護制度における自立概念の再検討 ・自立支援プログラムの導入 ・生活保護法による就労支援の実際 　・生活保護受給者等就労自立促進事業 　・被保護者就労支援事業 　・被保護者就労準備支援事業 　・その他生活保護制度における就労支援の取り組み 【教科書ページ・参考文献】 ・p100-p113 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・テキストを読み「生活保護受給世帯への就労支援」について予習をしておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第12回	低所得者と就労支援③　母子世帯への就労支援 【key words】 ・ひとり親世帯 【授業概要】 ＜授業の目標＞ ・母子及び父子ならびに寡婦福祉法や児童扶養手当法が改正され、ひとり親家庭の就労支援施策が充実してきた経緯を理解する。 ・ひとり親世帯を支援する様々な事業について（なんとなく）理解し、そのうちのいくつかは、自分の言葉で説明できるようになる。 ・ひとり親世帯を対象とした就労支援において、どのようなことが大切なのか、各々に考えてみる。 ＜授業概要＞ ・母子世帯の年間就労収入の状況 ・就労支援の実際 　・母子及び父子ならびに寡婦福祉法、児童扶養手当法等による就労支援 　・母子家庭等就業・自立支援事業 　・母子・父子自立支援プログラム策定事業 　・自立支援教育訓練給付金 　・高等職業訓練促進給付金 　・専門実践教育訓練給付金および教育訓練支援給付金 　・ひとり親家庭高等学校卒業程度認定試験合格支援事業

【教科書ページ・参考文献】
・p114-p122
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを読み「ひとり親世帯への就労支援」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第13回　低所得者と就労支援④　ホームレス・生活困窮者への就労支援

【key words】
・ホームレス，生活困窮者
【授業概要】
＜授業の目標＞
・ホームレスの自立支援に対する基本的な方針と、具体的な施策（とりわけ、就労支援に関するもの）について理解する。
・生活困窮者自立支援制度における基本的視点について理解する。
・生活困窮者自立支援制度に規定される事業（自立相談支援事業、住居確保給付金、就労準備支援事業、認定就労訓練事業、一時生活支援事業、家計相談支援事業、学習支援事業）について理解する。
＜授業概要＞
・ホームレスへの就労支援
　・ホームレスの自立支援対策と就労支援
　・ホームレスの自立に向けた施策と今後の展望
　・ビッグイシュー
・生活困窮者への就労支援
　・生活困窮者自立支援制度の基本的視点
　・生活困窮者自立支援制度における具体的支援
　・就労支援を展開するにあたっての今後の課題
【教科書ページ・参考文献】
・p123-p137
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを読み「ホームレス・生活困窮者への就労支援」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第14回　専門職の役割と実際①　障害者福祉施策・障害者雇用施策における専門職の役割

【key words】
・障害者福祉施策，障害者雇用施策
【授業概要】
＜授業の目標＞
・障害福祉施策における専門職（サービス管理責任者、就労支援員、職業指導員、生活支援員、障害者就業・生活支援センターの生活支援担当職員）の役割について理解する。
・障害者雇用施策における専門職（ハローワークの職員、職業カウンセラー、障害者就業・生活支援センターの就業支援担当職員、ジョブコーチ、職業訓練指導員）の役割について理解する。
＜授業概要＞
・障害者福祉施策における専門職の役割
　・サービス管理責任者
　・就労支援員
　・職業指導員
　・生活支援員
　・障害者就業・生活支援センターの生活支援担当職員
・障害者雇用施策における専門職の役割
　・ハローワークの職員
　・障害者職業カウンセラー
　・障害者就業・生活支援センターの就業支援担当職員
　・職場適応援助者（ジョブコーチ）
　・職業訓練指導員
【教科書ページ・参考文献】
・p138-148
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを読み「障害者福祉施策・障害者雇用施策における専門職の役割」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第15回　専門職の役割と実際②　低所得者等の就労支援における専門職の役割・その他の就労支援従事者

【key words】
・低所得者等の就労支援
【授業概要】
＜授業の目標＞
・低所得者等の就労支援における専門職（生活保護の就労支援員、福祉事務所の就労支援コーディネーター、福祉事務所の総括コーディネーター、ハローワークの就労支援ナビゲーター、生活困窮者自立支援制度における支援員）の役割を理解する。
・特別支援学校の進路指導担当者、企業の従業員、発達障害者支援センターの就労支援担当職員、などを（なんとなく）理解する。
＜授業概要＞
・低所得者等の就労支援における専門職の役割
　・生活保護の現業員
　・福祉事務所の就労支援員
　・福祉事務所の就労支援コーディネーター
　・福祉事務所の総括コーディネーター
　・ハローワークの生活保護受給者等就労支援ナビゲーター
　・生活困窮者自立支援制度における支援員
・その他の就労支援の従事者
　・特別支援学校の進路指導担当者
　・企業の従業員
　・発達障害者支援センターの就労支援担当職員
　・その他の専門職

	【教科書ページ・参考文献】 ・p149-157 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・テキストを読み「低所得者等の就労支援における専門職の役割・その他の就労支援従事者」について予習をしておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
受講生に関わる情報および受講のルール	この科目の指定テキストを一読し、分からない用語は事前に調べておくこと。また、授業中には受講者に対して授業の主題や視聴覚教材に対する発言を求める場合がある。受講者同士の相談等は認めるものの、他の受講者の迷惑にならないよう配慮すること。授業中に、疑問点や不明な点があれば、教員に質問をしても良い。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	授業中、質問やノートのチェックを適宜行う
授業外時間にかかわる情報	本科目は、社会福祉士の国家試験の受験科目にも指定されている。また、就労支援を必要とする人々を支援するためには、労働関係法規や就労支援に係るサービスだけでなく、障害者や母子家庭、低所得者支援施策に関する知識も実務レベルで求められる。 したがって、この科目だけでなく「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」や「低所得者に対する支援と生活保護制度」等の専門科目で学習した内容を復習することが必要となる。 なお、予習や復習の範囲については、授業時間中に指示する。
オフィスアワー	水曜日4限
評価方法	①定期試験80% ②授業への取り組み（出席状況・授業態度）20%
教科書	社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座18　就労支援サービス』中央法規（最新版）
参考書	授業の中で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク ■アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： アクティビティ・サービス援助技術　　授業コード： S2252

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年次	2単位(60)	選択
担当教員			
清水　久二雄			
専門科目	演習		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〈授業の目的〉 人は生活の中にさまざまな「快さ」を感じながら生活しています。その「快さ」が人の心も体も豊かに、活き活きとしますが、それらは一瞬で通り過ぎ、見落としたり、気がつかないこともあります。本科目は対人援助サービスにこれらの「快さ」を発見し、その「快さ」を広げ、深めていきつつ活き活きと豊かとなる生活の支援技術を学びます。 〈到達目標〉 ①「生活の快」をベースとした心身の活性化の意義を説明することができる。 ②日常生活の全般にある「生活の快」を発見し、それらを援助技術のヒントに創造できる。 ③1つの「生活の快」のヒントから複数の広がりを想像し、具体的援助方法の計画と実践ができる。 ④1つの「生活の快」のヒントを深める技術を身につけ、あらゆる人の心身の活性化につながる具体的援助方法の計 画と実践ができる。
授業の概要	・本科目は理論と実践のバランスを重視しています。そのため座学で知識を得たのちに演習を行うスタイルとなって 　います。演習では受講生が対象者となって体験場面と支援者としてプログラムを立案、実践することがあります。 　さらに「生活の快さ」は個人によって感じ方や捉え方が違うため、受講生同士で話し合い共有する場もあります。 ・「生活の快さ」をテーマにしているため、視覚・聴覚・嗅覚・触覚・味覚　など、あらゆる感覚を支援に活かすこ 　とも授業のテーマとしているため、可能な限り体験する機会も大切にしています。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	◎
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	○
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	△

授業計画	第１回	ガイダンス　　「快さ」を考える 【key words】 生活の快、活性化、心が動くこと 【授業概要】 本科目の授業運営に関する説明を実施します〉アクティビティ・サービスは「快さ」という考え方を基盤としているので、履修生が持つ趣味に注目しその魅力を10倍引き出すことを目指します。 (演習)　あなたの趣味紹介カードの作成と発表 　　線を繋ぐ 【教科書ページ・参考文献】 テキスト全般を使用 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習)　演習で行った内容を振り返りましょう 予習)　テキスト　pp8～12 【予習復習に必要な想定時間】 60～80分
	第２回	アクティビティ・サービスの定義

【key words】
生活の快、セラピー、垣内理論
【授業概要】
アクティビティ・サービスの定義を紹介します。定義には「生活の快」という概念があるため、「快さ」について考えてみます
演習）生活の中にある「快」を探そう
　　快さの境目を考えてみましょう

【教科書ページ・参考文献】
配布資料　テキスト　pp　8～12
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習）　演習のふりかえり　テキスト　pp8～12
予習）　テキスト　pp13～16

【予習復習に必要な想定時間】
60～80分

第３回　「快」を考えよう
【key words】
快　余暇　動く活動
【授業概要】
生きる喜びと「動く」「動ける」は深く関わっているように考えられています。「このテーマから「快さを演習を通じて考えていきます。
演習）　心　身体　思考　嗜好　などから「動く」を考える　（「クスッ」と「ホワッ」と）
【教科書ページ・参考文献】
配布資料　テキスト　pp13～16
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習）　演習のふりかえり　テキスト　pp13～16
予習）　テキスト　pp22～21

【予習復習に必要な想定時間】
60～80分

第４回　アクティビティ・サービスの効果
【key words】
心理的、生理的、文化的、　社会的、物理的
【授業概要】
アクティビティ・サービスの支援によって期待される効果は大きく分けて5つあると言われています。それぞれの側面では具体的にどのようなものなのかを体験を通じて考えていこう
演習）1つのプログラムを事例として活用する(考えてみよう)
【教科書ページ・参考文献】
配布資料　テキスト　pp22～21
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習）　演習のふりかえり　テキスト　pp22～21
予習）　テキスト pp22～28

【予習復習に必要な想定時間】
60～80分

第５回　アクティビティ・サービスの対象　　（人と生活への支援）
【key words】
対象、コミュニティワーク、話す、聞く、聴く、尋ねる
【授業概要】
アクティビティ・サービスはすべての人を対象としています。またその関わりのベースとして「聴き方」の工夫があります。「聴く」という演習から快さに結びつく方法について考えていきましょう。　　演習）　「聴く」を体験しあう
【教科書ページ・参考文献】
配布資料　テキスト pp22～28
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習）演習のふりかえり　テキスト pp22～28
予習）テキスト　pp30～31

【予習復習に必要な想定時間】
60～80分

第６回　生活支援学とアクティビティ・サービス
【key words】
人権思想　個性　人間性　生活の営み
【授業概要】
日常生活の中にはたくさんの「生活の快」があります。その快さを保障することで生活は豊かとなることが指摘されているため、生活支援の学びを個性　人間性　生活の営みの側面から考えます。
演習)ナラティブアプローチ①

【教科書ページ・参考文献】
配布資料　テキスト　pp30～311
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習）　配布資料　テキストP30～31
予習）　テキストP32～36

【予習復習に必要な想定時間】
60～80分

第７回　生活支援学の成り立ち①　（人権思想から考える）
【key words】
理念価値、現実価値、文化、ニーズ、健康
【授業概要】
アクティビティ・サービスは個人として豊かに生活することを目指すため、個人を尊重すること

		から始まります。そのベースとなる人権思想、価値について健康を通じて考えます 演習)ナラティブアプローチ②　(人生の語り) 【教科書ページ・参考文献】 配布資料　テキストpp32～36 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習）配布資料　テキストpp32～36 予習）テキスト　pp37～43　　pp162～(資料編) 【予習復習に必要な想定時間】 60～80分
	第８回	生活支援学の成り立ち②　(健康　文化　ニーズ　　関係性から考える) 【key words】 健康　文化　ニーズ　関係性 【授業概要】 人が快く生活するためには健康　文化、ニーズ　関係性の要素が重要です。この3つの要素から人が快く生活することを考えます。 演習))ナラティブアプローチの体験を通じて②　(人生史と年表と文化を対比させて) 【教科書ページ・参考文献】 配布資料　テキスト　pp44～49 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習）　テキスト pp36～43　　pp162～(資料編) 予習）　テキスト pp44～49　　pp162～(資料編) 【予習復習に必要な想定時間】 60～80分
	第９回	人間科学としての生活支援学 【key words】 学問体系、人間科学 【授業概要】 アクティビティ・サービスは実践の中にたくさんの学びがあります。具体的なアクティビティ・サービスの事例を用いて考えていきます 演習)ナラティブアプローチの体験を通じて③　(他己紹介) 【教科書ページ・参考文献】 テキストpp44～49　pp162～(資料編) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習）　配布資料　テキスト　pp44～49　　pp162～(資料編) 予習）　楽しみの種類を考えておく 【予習復習に必要な想定時間】 60～80分
	第１０回	アクティビティ・サービスのヒント①　(6つの分類と12の種類) 【key words】 財、偶然性、アレンジ 【授業概要】 生活の快さは多様でさまざまにあると考えられますが、大きく6つの分類とその中でも12の種類があると考えられます。このように整理し支援に活かせる方法について考えていきます。 演習)ひとつのテーマから広げて考える 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習）　配布資料 予習）　刹那的なプログラムと創造的なプログラムを考える 【予習復習に必要な想定時間】 60～80分
	第１１回	アクティビティ・サービスのヒント②　(刹那的、創造的) 【key words】 刹那的、創造的 【授業概要】 生活の快さには刹那的で一瞬で感じる快さもあれば、作品つくるような創造的な快さもあります。刹那的な快さと創造的な快さの演習を通じて考えていきます。 演習)花色紙を使って 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習）　配布資料 予習）　言葉あそびをつくる　みんなの知らない雑学 【予習復習に必要な想定時間】 60～80分
	第１２回	アクティビティ・サービスのヒント③　(娯楽的、学習的) 【key words】 娯楽的、学習的 【授業概要】 生活の快さには娯楽的な快さもあれば、学習的な快さもあります。それらの演習を通じて学んでいきます。 演習）　言葉あそびと雑学を使って 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習）　配布資料 予習）　生理的欲求と苦痛回避欲の言葉の違いは何かを考える

【予習復習に必要な想定時間】
60～80分

第１３回　アクティビティ・サービスのヒント④　(生理的欲求的・苦痛回避的)

【key words】
苦痛回避欲、生理的欲求
【授業概要】
生活の快さには生理的欲求を満たすものと、苦痛を回避するものがあります。それらについて、ディスカッションを通じて学んでいこう
【教科書ページ・参考文献】
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習)　配布資料
予習)「私だけの楽しみ」と「誰かの喜びが私の喜び」を考える
【予習復習に必要な想定時間】
60～80分

第１４回　アクティビティ・サービスのヒント⑤　(利己的・社会的)

【key words】
利己的、社会的
【授業概要】
生活の快さには自らの楽しみのために行うものと、人のために行い喜んでもらう姿を見て自らの喜びになるものがあります。それらについグループディスカッションを通じて学んでいこう
演習)　グループディスカッション(快さを比較してみよう)
【教科書ページ・参考文献】
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習)　配布資料
予習)　これまでのテキストと配布資料のふりかえり
【予習復習に必要な想定時間】
60～80分

第１５回　授業のまとめ

【key words】
生活の快、アクティビティ・サービス
【授業概要】
これまでの授業を振りかえり、アクティビティめサービスに関する学びのまとめをグループディスカッションと個人ワークによって学んだことを整理していこう。
演習)快さの見つけ方
【教科書ページ・参考文献】
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習)　グループワークの内容を整理してまとめる
【予習復習に必要な想定時間】
60～80分

第１６回　後期ガイダンス

【key words】
レクリエーション　生活の快　垣内理論　福祉教育
【授業概要】
本科目の授業運営について説明します。アクティビティ・サービスの歴史的な変遷について説明します。　演習)様々な感覚を使うということを考える
【教科書ページ・参考文献】
配布資料　テキスト　pp52～63
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈復習)　配布資料　テキスト　pp52～63
予習)　テキスト　pp64～69
【予習復習に必要な想定時間】
60～80分

第１７回　諸外国のアクティビティ・サービス

【key words】
メディケア　アクティビティプログラム　アクティビティディレクター　自立心
【授業概要】
諸外国、特にアメリカで実践されている「アクティビティプログラム」について説明する。またこの取り組みから今後の支援や内容について考える。
演習)「見る」を楽しむ①

【教科書ページ・参考文献】
テキスト pp64～69
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習)テキスト pp64～69
予習)テキスト pp72～74

【予習復習に必要な想定時間】
60～80分

第１８回　アクティビティ・サービス計画①　　(基本的考え方とニーズ)

【key words】
ニーズ、自己実現、社会関係の維持・参加、心身機能の維持・改善、健康の維持・促進
【授業概要】
基本的なニーズに応じた計画の立案の重要性について説明します。また実際に計画を実行する際は「個別支援」かそれとも「集団支援」なのかの判断を迫られるため、「個別支援」と「集団支援」それぞれの特性について考えます。
演習)　「見る」を楽しむ②

【教科書ページ・参考文献】
配布資料　テキストpp72～76
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習）　配布資料　テキスト　pp72～76
予習）　テキスト　pp77～80、
【予習復習に必要な想定時間】
60～80分

第１９回　アクティビティ・サービス計画②　　（こころが動くこと、支援者に求められること）
【key words】
こころが動く　5つのH(Head　Hand　Heart　Health　Humor)
【授業概要】
アクティビティ・サービスでは対象者の「こころが動く」ということ大切にしています。そのため「こころを動く」ような計画立案と実施が大切になります。またこのように「こころが動く」という変化を見逃さず支援に活かすために必要なスキルについて5つのH(Head　Hand　Heart　Health　Humor)について説明します
演習)触覚的な快さへの支援
【教科書ページ・参考文献】
配布資料　テキスト　pp77～80、
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習）　配布資料　テキスト pp77～80、
予習）　テキスト P80～80
【予習復習に必要な想定時間】
60～80分

第２０回　アクティビティ・サービス計画③　　(:計画上の留意点)
【key words】
身体リズム　9つの要素
【授業概要】
アクティビティ・サービスを計画する時には対象者の状態に合わせることは基本となります。またそういった意識で臨むことによって、思いがけず対象者の大きな喜びにつながる実例もあります。そのように大きな喜びにつながるために９つの要素を意識しながら計画を立案する意義について学びます。　　演習）　「音」を楽しむ②
【教科書ページ・参考文献】
配布資料　テキスト pp81～88
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習）　テキスト pp81～88
予習）　テキスト pp89～102
【予習復習に必要な想定時間】
60～80分

第２１回　アクティビティ・サービス計画④　(具体的な立案方法)
【key words】
テーマ　目的　リスクマネジメント　内容
【授業概要】
アクティビティ・サービス計画書の具体的な立案方法について学びます。また計画の段階でどのような視点を持つかなど、テキストにある実例を見ながらそのポイントについても解説いたします。
演習）　触れるを楽しむ①
【教科書ページ・参考文献】
配布資料　テキスト pp89～102
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習）　テキスト pp89～102
予習）　テキスト pp104～111
【予習復習に必要な想定時間】
60～80分

第２２回　アクティビティ・サービスの広がりと深まり①　(ICFの生活機能から考える)
【key words】
ICF　活動　参加
【授業概要】
アクティビティ・サービスによって、その対象者の生活は大きく変化することがある。そのことについてICFの概念の生活機能から検討する。
演習)触れるを楽しむ②
【教科書ページ・参考文献】
配布資料　テキスト pp104～111
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習）　配布資料　テキスト pp104～11
予習）テキスト pp104～114
【予習復習に必要な想定時間】
60～80分

第２３回　アクティビティ・サービスの広がりと深まり②　(ICFの背景因子から考える)
【key words】
ICF　個人因子　環境因子
【授業概要】
アクティビティ・サービスによって、その対象者の生活は大きく変化することがある。そのことについてICFの概念の背景因子から検討する。
演習)香りを楽しむ①
【教科書ページ・参考文献】
配布資料　テキスト pp104～114
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習）　配布資料　テキスト pp104～114
予習）　テキスト pp115～117
【予習復習に必要な想定時間】
60～80分

第２４回　アクティビティ・サービスの広がりと深まり③　　(サービスの方向性とマインドマップ)

【key words】
ICF、意義、内容、背景因子、マインドマップ　広がり
【授業概要】
アクティビティ・サービスプログラムが生活とどのように結びつくかICFの概念図に基づきマインドマップの手法を用いて考えていきます
演習))　香りを楽しむ②
【教科書ページ・参考文献】
配布資料　テキスト pp115～117
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習）　配布資料　テキスト pp115～117
予習）配布したワークシート
【予習復習に必要な想定時間】
60～80分

第２５回　アクティビティ・サービス計画立案①
【key words】
ICF、意義、内容、生活機能、背景因子
【授業概要】
アクティビティ・サービスの立案を実際に行います。
演習）　灯りを楽しむ①
【教科書ページ・参考文献】
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
配布したワークシート
【予習復習に必要な想定時間】
60～80分

第２６回　アクティビティ・サービス計画立案②
【key words】
ICF、意義、内容、生活機能、背景因子
【授業概要】
アクティビティ・サービスの立案を行い、次回の授業での発表を準備します
演習）　灯りを楽しむ②
【教科書ページ・参考文献】
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
配布したワークシート
【予習復習に必要な想定時間】
60～80分

第２７回　アクティビティ・サービスの計画発表①
【key words】
ICF、意義、内容、生活機能、背景因子
【授業概要】
立案したアクティビティ・サービスのプログラム を発表します。
【教科書ページ・参考文献】
成果物
【課題・予習・復習・授業準備指示】
成果物
【予習復習に必要な想定時間】
60～80分

第２８回　アクティビティ・サービスの計画発表②
【key words】
ICF、意義、内容、生活機能、背景因子
【授業概要】
立案したアクティビティ・サービスのプログラム を発表します。
【教科書ページ・参考文献】
成果物
【課題・予習・復習・授業準備指示】
成果物
【予習復習に必要な想定時間】
60～80分

第２９回　緩和ケアとアクティビティ・サービス
【key words】
苦痛回避欲・緩和ケア
【授業概要】
ターミナル期にある人への苦痛軽減の支援についてアクティビティ・サービスのプログラムの視点から考え、学びます。
演習）　感覚への支援　(快い呼吸、排泄、口渇予防への支援)
【教科書ページ・参考文献】
テキスト pp154～160
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習)テキスト pp1154～160
【予習復習に必要な想定時間】
60～80分

第３０回　総括　　アクティビティ・サービスのまとめ
【key words】
アクティビティ・サービス
【授業概要】
これまでの学びを通してアクティビティ・サービスの可能性についてラウンドロビンの方式で発表し、利用者が生活の快をベースとしたいきいきと生活支援について考えていく。

	テキスト全般 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 60～80分
受講生に関わる情報および受講のルール	・アクティビティ・サービスは多様価値感があり皆違うことを尊重し合えるようにしましょう。 ・個人の価値観や考える機会が多いかもしれません。授業内での情報共有した内容について、むやみに情報は共有しな いでください。特にSNSを使ったむやみな書き込み、誹謗中傷は固く禁止します。 ・受講生皆さん1人1人が主体的に学ぶことは、誰かの学びに通じています。そのため授業で出される課題等については ルールに乗っ取った引用は出典元を明らかにし、盗用は固く禁じます。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	アクティビティ・サービスは「生活」という広い領域から「快さ」を発見することを大切にしています。生活の中にあるあらゆるものに関心を持ち、それらについて意見が求められたときに自分なりの答えができる準備をしておいてください。
オフィスアワー	初回授業時にアナウンスいたします。
評価方法	授業時の課題提出物80%　小テスト10&　授業の取り組み姿勢　10% で総合的に評価する。
教科書	新訂アクティビティ・サービス(中央法規出版・.2014)
参考書	講義中に適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 介護老人保健施設で5年弱　特別養護老人ホームで19年の実務経験あり。老人保健施設においては2年10ヶ月、専従のレクリエーションワーカーとして業務にあたる。　特別養護老人ホームにおいて介護長として14年従事し、兼務として施設介護支援専門員として従事する。　利用者のアクティビティ・サービスに関するケア内容をケアプランにて計画し、またアクティビティ・サービスを日常生活の中にとり入れてきた。　現在NPO法人　アクティビティ・サービス協議会　理事　アクティビティワーカー資格とアクティビティ・ワーカー担当教員　資格保持している アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 ■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容 ・新型コロナウイルス感染状況により分散登校となる場合等は、遠隔授業を実施します。尚その場合はシラバスの 内容が変更することがあります。状況に応じて適宜説明いたします。 ・授業でのワークシートおよび調べ学習の成果物などkの提出、また個人として添削指導の要望がある場合はメー ルでも受け付けいたします。 ・成果物は学生の了承が得られた場合に限り、Google共有ドライブを使用したいと考えています。

講義科目名称： 特設科目・論語　　授業コード： S2301

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年次	2単位(30)	必修
担当教員			
岡野　康幸			
基礎教養科目	講義		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 ・本学の特色は建学の精神に「仁」を据えていることである。「仁」とは他者を自分のように感じる心である。仁の精神を学ぶことにより、自己陶冶や他者への配慮といった、人格の絶えまざる向上を目指すものである。社会を担う人間にはある程度の社会倫理が要求される。“noblesse oblige”本講義では『論語』を通じて人としてどのように生きるべきか考えていく。 ・仁の実現のために孔子が重要視したものが「学習」である。そして学習の中心は古今東西「読書」であることに変わりはない。読書の習慣が身に付くか否かは、学生時代にかかっている。そのため、本講義では「読書」に関する様々な課題を出す。 【到達目標】 ・論語の内容を建学の精神との関りで他者に説明できる。 ・論語に現れる語彙を用いて自分の考えを説明できる。
授業の概要	・孔子の発言、あるいは孔子の弟子や当時の貴族との対話から、孔子が人間や社会にどのような関心を抱き、そして分析をしていたのか。当時の社会情勢を踏まえて説明していく。そのことにより孔子の考えていたことが我々にも共通する関心ごとであることが窺えよう。 ・講義では孔子に関する映画「孔子の教え」（放題）や中島敦「弟子」を併用していく。映画や小説を通じて、現代人が孔子をどのように捉えていたのかを読み解いていく。 ・内容理解を深めるために、抗議講義した個所を１００字から２００字程度でまとめる練習をしていく。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	△
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	◎
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	○
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	○
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	◎
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	△
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション　諸注意　論語概説 【key words】 論語　孔子　儒学 【授業概要】 受講の際の注意点を最初に説明する。本学の建学の精神は『論語』で述べられている「仁」です。「仁」の理解を深めることで、人間そのものの理解を深めていきます。仁の説明の前に『論語』の来歴や孔子の人物について概説します。一つの書籍や人物が途絶えることなく、二千年以上読み継がれてきた所以を考えてみましょう。 【教科書ページ・参考文献】 P151、P152 【課題・予習・復習・授業準備指示】 図書館にある『大漢和辞典』で孔子を調べておく。 【予習復習に必要な想定時間】 10分
	第２回	日本人は孔子や論語をどのように感じたか、本居宣長① 【key words】 本居宣長　漢意　大和魂　文学論　紫文要領 【授業概要】 『論語』をはじめとする儒学が広く普及していくことで、反ベクトルとして日本固有のものに対する考察が深められます。その際に最初に検討されたものが、今の分類で言えば文学です。文学

		を鑑賞する・評価する際に儒学的・仏教的価値観で判断をしてはいけないと本居宣長は言います。宣長の『源氏物語』論である『紫文要領』を題材に、どのように文学を鑑賞するべきか。また、日本人の心とはどういうものだと言っているのかを検討することで、『論語』や儒学の影響の深さを探ります。 【教科書ページ・参考文献】 プリントを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ブリタニカオンラインで本居宣長について調べておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 10分
	第３回	日本人は孔子や論語をどのように感じたか、本居宣長② 【key words】 本居宣長　字音仮字用格　玉勝間 【授業概要】 本居宣長は「国学の大成者」「古事記」の注作者として知られていますが、青年期には『論語』をはじめとする儒学を学習し、儒学や漢文の教養・知識があった上で儒学を批判します。宣長の「字音仮字用格」は現代の我々にも深く影響を与えています。それは宣長のこの著作によって50音が、今の我々が見るような形になったからです。この著作ができ上るまでに、当然ながら中国の学術も影響しています。宣長に与えた中国の学術の影響について考察をしていきます。 【教科書ページ・参考文献】 プリントを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 『玉勝間』という書籍がどのような性質なものかを図書館で調べておく。 【予習復習に必要な想定時間】 10分
	第４回	孔子の倫理思想Ⅰ 【key words】 孝　父母　身体 【授業概要】 芥川龍之介は「人生の悲劇の第一幕は親子となったことにはじまっている」（『侏儒の言葉』）と言っています。芥川の真意がどこにあるかは別として、人間は生れた瞬間に親子という関係が自然・必然的に発生します。この親子関係の情愛を重視したのが孔子です。孔子は親（父母）と子の関係をどのように考えていたのか考察していきます。また映画「孔子の教え」を観て、孔子についての理解を深めてもらいます。 【教科書ページ・参考文献】 P1、P6、P7 【課題・予習・復習・授業準備指示】 図書館にある『大漢和辞典』で惻隠・羞悪・辞譲・是非・四端を調べておいてください。 【予習復習に必要な想定時間】 15分
	第５回	孔子の倫理思想Ⅱ 【key words】 仁 【授業概要】 孔子思想の中心をなすものは「仁」です。『論語』の中で仁について言及している箇所は６０以上ありますが、定義づけはなされていません。孔子自身によって場面場面でさまざまな意味合いが付されています。ここでは孔子自身によって「仁」がどのように展開されていったのか考察していきます。 【教科書ページ・参考文献】 P19 【課題・予習・復習・授業準備指示】 図書館にある『大漢和辞典』で仁・義・礼・智・信・を調べておいてください。 【予習復習に必要な想定時間】 10分
	第６回	孔子の学問観 【key words】 学　習　文献 【授業概要】 「学びて時に之を習ふ、亦説ばしからずや。」これは『論語』開巻第一章の言葉であり、誰もが聞いたことのある言葉でしょう。儒家における「学」の重視は、まさに孔子から始まります。孔子にとって、「学」にはどのような意味が込められていたのか。また我々が学ぶ意義についても考察していきます。 【教科書ページ・参考文献】 P1、P8 【課題・予習・復習・授業準備指示】 図書館にある『大漢和辞典』で学・習を調べておいてください。 【予習復習に必要な想定時間】 10分
	第７回	「弟子」1・2を読む 【key words】 子路　論語　中島敦 【授業概要】 今回より授業と平行して中島敦「弟子（ていし）」を読んでいきます。みなさんも中島の作品「山月記」（人間が虎になる話）は、高校の現代文の時間に読んだことがあるかと思います。その中島には『論語』を題材にした小説があるのです。それが「弟子」です。「弟子」は孔子より9歳年下の弟子である子路（しろ）の眼を通して、孔子と子路自身の変化を書いた小説です。第7回では子路の孔子への入門から（１）、孔子の下で学ぶ子路の姿を読んでいきます（２）。また子路の母への孝行についても考えてみましょう。「弟子」に出てきた『論語』についても解説します。 【教科書ページ・参考文献】 「弟子」1・2 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「弟子」1・2を読んでおいてください。

【予習復習に必要な想定時間】
15分

第８回　「弟子」3・4を読む

【key words】
子路　論語
【授業概要】
子路が街中を歩いていると、人々は孔子の噂をしています。それを聞いた子路はどうしたか（３）。孔子の学園では音楽を重視し、弟子たちに瑟（しつ）の練習をさせます。しかし子路の音は殺気にあふれています。それを聞いて孔子はどうしたのでしょう（４）。「弟子」に出てきた『論語』についても解説します。
【教科書ページ・参考文献】
「弟子」3・4
【課題・予習・復習・授業準備指示】
「弟子」3・4を読んでおいてください。
【予習復習に必要な想定時間】
15分

第９回　「弟子」5・6を読む

【key words】
子路　読書
【授業概要】
子路はよく孔子に怒られていますが、孔子は子路をどのように捉えていたのか（５）。孔子が政治の表舞台に立つと子路も師とともに出てきます。しかし孔子の活躍を隣国は恐れ策をめぐらします。母国の政治に失望した孔子は、子路をはじめ弟子たちとともに放浪の旅に出ます（６）。孔子と弟子の絆についても考えてみましょう。「弟子」に出てきた『論語』についても解説します。読書に関する発表をしてもらいます。
【教科書ページ・参考文献】
「弟子」5・6
【課題・予習・復習・授業準備指示】
「弟子」5・6を読んでおいてください。
【予習復習に必要な想定時間】
15分

第１０回　「弟子」7・8を読む

【key words】
天道　天命　読書
【授業概要】
「邪が栄えて正が虐げられるという・ありきたりの事実について」子路は疑問に思っている。と中島は子路をしてかく言わしめています。中島も抱いたであろうこの難題は、古代中国の歴史書『史記』の作者司馬遷も「伯夷列伝」に「天道是か非か」と記しています。ここでは「弟子」の他に「伯夷列伝」も視野にいれて考えていきます（７）。孔子の門下は多士済々です。子路以外の弟子の様子も読んでいきましょう（８）。「弟子」に出てきた『論語』についても解説します。読書に関する発表をしてもらいます。
【教科書ページ・参考文献】
「弟子」7・8
【課題・予習・復習・授業準備指示】
「弟子」7・8を読んでおいてください。
【予習復習に必要な想定時間】
15分

第１１回　「弟子」9・10を読む

【key words】
放浪
【授業概要】
孔子は諸国放浪中、衛の国の為政者とたびたび面会していますが、孔子は受け入れられるのか（９）。また放浪中の孔子と弟子の集団はしばしば危険な目に遭いますが、そのような時でも孔子は泰然自若としています。その様子を見た子路はどうしたでしょうか（10）。「弟子」に出てきた『論語』についても解説します。
【教科書ページ・参考文献】
「弟子」9・10
【課題・予習・復習・授業準備指示】
「弟子」9・10を読んでおいてください。
【予習復習に必要な想定時間】
15分

第１２回　「弟子」11・12を読む

【key words】
隠者　道　心
【授業概要】
放浪中の孔子師弟はさまざまな種類の人間に会います。その中でも逸民（世間を逃れ隠れ住んでいる人）との対話が眼を引きます。『論語』微子篇にその様子が記されていますが、これを題材に中島は小説「弟子」の一齣に入れます。逸民の態度に孔子や子路は自分たちの考えをどう伝えるのか、読んでみましょう。また「道」という言葉の持つ意味について夏目漱石の『心』からも考察してみましょう（11）。孔子に心酔している子路ではありますが、そんな子路にも師孔子への不満はあります。どういう不満なのでしょうか（12）。「弟子」に出てきた『論語』についても解説します。
【教科書ページ・参考文献】
「弟子」11・12
【課題・予習・復習・授業準備指示】
「弟子」11・12を読んでおいてください。
【予習復習に必要な想定時間】
15分

第１３回　「弟子」13・14を読む

【key words】
政事
【授業概要】

	孔子師弟の放浪は１４年に及びます。その間、子路は孔子から離れずついていき成長していきます（13）。子路は衛の国に乞われ仕官することになりました。これは表舞台で政治に携わることを意味します。政治家子路の誕生です。子路の手腕を読んでいきましょう（14）。「弟子」に出てきた『論語』についても解説します。 【教科書ページ・参考文献】 「弟子」13・14 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「弟子」13・14を読んでおいてください。 【予習復習に必要な想定時間】 15分
	第１４回　「弟子」15・16を読む 【key words】 君子 【授業概要】 子路の名声は諸国に鳴り響くようになりましたが（15）、子路は衛の国の内乱に巻き込まれてしまいます。衛の内乱を伝え聞いた孔子は「由や死なん（子路は死ぬだろう）」と発言しました（16）。果たしてどうなるのか、最終章を読んでみましょう。「弟子」に出てきた『論語』についても解説します。 【教科書ページ・参考文献】 「弟子」15・16 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「弟子」15・16を読んでおいてください。 【予習復習に必要な想定時間】 15分
	第１５回　『論語』と儒家思想の展開ー孟子を例にー 【key words】 鰥　寡　孤　独　惻隠の心 【授業概要】 孔子の歿後、孔子の教えは弟子たちによって諸国に広められていきます。孔子の教えを受け継いだ者たちの中で、現在にも伝わっているのが孟子と荀子の思想です。ここでは、孔子の倫理思想の展開として『孟子』の中から「仁義」「鰥寡孤独（かんかこどく）」と「惻隠の心」を取り上げ、孔子の思想がどのように展開したのか跡を追っていきます。また孟子の思想について考察していきます。 プリントを配布します。 【教科書ページ・参考文献】 配布プリント 【課題・予習・復習・授業準備指示】 孟子の性善説について説明できるよう調べておいてください。 【予習復習に必要な想定時間】 15分
受講生に関わる情報および受講のルール	・ただ授業を聞くといった受け身の姿勢ではなく、「学ぶ意義」を問いかけながら、積極的に参加すること。 ・本人の責に帰す遅刻早退は認めません。また注意しても態度を改めない者（講義中のおしゃべり・居眠り等）には、退室を命ず。 ・不明な用語の当たったら、辞典類で調べること。 ・この講義では毎回受講生にも、講義内容について意見を表明したり、学生同士で議論をしてもらう。また課題について自分で調べてもらう。 ・日頃より古典をはじめとした人文学に親しみ、読書の習慣を取得すること。人生において読書の習慣が身に付くか否かの最後の年になろう。学生時代に読書が習慣化されなかったならば、恐らく一生涯読書の習慣が身に付くことはないであろう。したがって、読書に関する課題や発表等を課す。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	・『論語』を代表とする古典に親しみ、古人の思考に触れ、人文学における学問様式を理解するように努めること。 ・授業計画に示されている部分を必ず一読してから授業に臨むこと。
オフィスアワー	火曜日16時から18時
評価方法	定期試験70%、レポート20%、発表10%
教科書	鈴木利定監修／中田勝編著『注解書下し論語全文』明治書院
参考書	金谷治訳注『論語』（岩波文庫）吉田賢抗著『論語』（明治書院、1960年5月）渋沢栄一『論語と算盤』（2008年10月、角川ソフィア文庫）
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法

	等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 卒業論文

授業コード： S2951　S2952　S2953　S2954
S2955　S2956　S2957　S2958

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年次	4単位(60)	選択
担当教員			
担当教員			
専門科目	講義		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 卒業論文の作成を通して問題意識の醸成、研究方法、参考文献・資料等の収集方法、調査の方法、発表の方法等の学習を深める。これらの学習から、学生自身の専門とする領域の実践能力や、地域での活動の基礎となる問題解決能力や分析能力の質を高めることを目標とする。 〔到達目標〕 論文作成
授業の概要	これまでの講義・実習・演習等を通じて学んだ専門的な知識や技術をもとに、日常的な社会問題や社会福祉に関する事柄について研究的な視点から問いを立て、探求する活動の基本を学習する。学生個々の関心に基づいてテーマを設定し、担当教員の指導のもとで研究活動を実践するための準備や論文としてまとめるための資料収集を行う。 担当する教員が個別的に指導を行うが、時間割上での指定時間はないので、担当教員と協議の上、適宜指導時間を調整し指導を受けること。 授業内容：立案した研究計画に沿った、論文執筆に関する指導 〔留意事項〕 履修登録にあたって、事前に各自の研究課題などを考慮し、上記一覧から指導を受けたい担当教員へ相談し研究内容と指導方法等について話し合うこと。なお、担当教員の主な専門領域は、履修学生の研究計画のテーマを制限するものではない。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	◎
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	○
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	◎
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第３回

【key words】
【授業概要】
【教科書ページ・参考文献】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習復習に必要な想定時間】
第４回
【key words】
【授業概要】
【教科書ページ・参考文献】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習復習に必要な想定時間】
第５回
【key words】
【授業概要】
【教科書ページ・参考文献】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習復習に必要な想定時間】
第６回
【key words】
【授業概要】
【教科書ページ・参考文献】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習復習に必要な想定時間】
第７回
【key words】
【授業概要】
【教科書ページ・参考文献】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習復習に必要な想定時間】
第８回
【key words】
【授業概要】
【教科書ページ・参考文献】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習復習に必要な想定時間】
第９回
【key words】
【授業概要】
【教科書ページ・参考文献】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習復習に必要な想定時間】
第１０回
【key words】
【授業概要】
【教科書ページ・参考文献】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習復習に必要な想定時間】
第１１回
【key words】

	【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１２回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１３回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１４回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１５回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	この授業では、これまでの学習成果を統合し、そこから生じた問題意識を明確化した上で参加することが求められる。また、その問題意識を研究レベルで展開するために必要な事前作業が求められる。興味関心を持ち自ら積極的に取り組むことが大切となる。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	その他（個々の教員とのゼミ方式の個別指導による。）
授業外時間にかかわる情報	各担当教員から指示する。
オフィスアワー	各担当教員による指示に従うこと。
評価方法	担当教員からの個別指導の履行状況：50%、執筆論文：50%
教科書	授業中に紹介する。
参考書	授業中に紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート □グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）

	■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 福祉事務所運営論　　授業コード： S3041

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年次	２単位(30)	社会福祉コース・必修／福祉心理コース・学校教育コース・児童福祉コース・選択
担当教員			
石井　千麻			
専門科目	講義		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　行政組織の仕組み、そこで働く専門職の実態について理解を深め、「福祉事務所」の制度や社会福祉主事等の専門職員の役割を理解する。
授業の概要	福祉事務所の組織や機能、歴史と関連法制度など概要を理解し、特に行政組織の仕組みやそこで働く専門職員の実態から、福祉事務所運営的課題等を学ぶ。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	○
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	◎
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	○
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	△

授業計画

第１回　オリエンテーション

【key words】
社会福祉行政の実施主体となるのが福祉事務所である

【授業概要】
社会福祉サービスに関することの中心となる機関である福祉事務所について学ぶための基本的事項を説明する。また、授業概要、授業の実施形態、評価基準等など説明する。
【教科書ページ・参考文献】
―
【課題・予習・復習・授業準備指示】
福祉事務所の存在を確認しておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２回　福祉事務所とは何か

【key words】
福祉ニーズと社会福祉サービスの相談窓口たる福祉事務所の特徴を知る

【授業概要】
福祉ニーズを取り巻く環境の変化。福祉事務所の法的根拠、設置目的、業務内容などを知る。また、福祉サービスの基本である地域性・総合性・迅速性とは何かについても考察する。
【教科書ページ・参考文献】
P51～70
【課題・予習・復習・授業準備指示】
福祉サービスにおける地域性とは何か考察しておく
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第３回　福祉事務所の成立と歴史的展開

【key words】
福祉事務所の大きな役割は国民のセーフティーネット実践の最前線機関である。

【授業概要】
セーフティネットの中心となる困窮対策の流れを時代考証し、主に旧生活保護法や現在の生活保

		護法に至る経緯を学ぶとともに、福祉事務所の設置、社会福祉主事制度の開始に至る法整備の状況についても検証する。 【教科書ページ・参考文献】 P15～50 【課題・予習・復習・授業準備指示】 我が国の困窮対策の歴史的流れを考察しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 120分
	第４回	福祉事務所の専門職と役割 【key words】 福祉事務所の大きな役割は国民のセーフティーネット実践の最前線機関である。 【授業概要】 福祉事務所の役割、勤務する専門職の役割、業務執行体制等など学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P93～101 【課題・予習・復習・授業準備指示】 福祉事務所で働く専門職の種類、業務内容を確認しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第５回	生活保護と福祉事務所１ 【key words】 生活保護　被保護者　被保護世帯　扶養照会　扶助 【授業概要】 生活保護の原理・原則、生活保護の現状と問題点、生活保護の相談から決定までを学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 P157～176 【課題・予習・復習・授業準備指示】 生活保護の現状を調べておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第６回	生活保護と福祉事務所２ 【key words】 生活保護　被保護者　被保護世帯　扶養照会　扶助 【授業概要】 生活保護における扶助の内容と具体的なケースを紹介、宿所提供施設について学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 P157～176 【課題・予習・復習・授業準備指示】 生活保護の現状を調べておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 120分
	第７回	母子及び父子並びに寡婦と福祉事務所 【key words】 母子　父子　寡婦　ドメスティックバイオレンス　売春防止法 【授業概要】 母子自立支援員・婦人相談員の役割、DV（配偶者等による暴力）、相談・一時保護と福祉事務所の業務、役割について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P75、P177～185 【課題・予習・復習・授業準備指示】 母子、父子、寡婦の現状について考察しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 120分
	第８回	ケース検討１ 【key words】 就労困難　就労支援　母子　父子　寡婦　ドメスティックバイオレンス　売春防止法 【授業概要】 生活保護世帯、ひとり親世帯のケースを検討する。 【教科書ページ・参考文献】 P182～185 【課題・予習・復習・授業準備指示】 生活保護世帯の内訳を調べておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 20分
	第９回	高齢者福祉と福祉事務所 【key words】 老人福祉法、高齢者虐待防止法、介護保険法、介護保険制度 【授業概要】 老人福祉法と措置、高齢者虐待防止法とその支援のあり方などを理解する。また、各種法制度と福祉事務所との関わりを理解する。 【教科書ページ・参考文献】 P173～174 【課題・予習・復習・授業準備指示】 高齢者福祉の現状を調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 120分

	第１０回	障がい者福祉と福祉事務所 【key words】 身体障害　知的障害　精神障害　発達障害 【授業概要】 障がい者に関連する法律、制度を理解し、その支援のあり方を理解する。また、各種法制度と福祉事務所との関わりを理解する。 【教科書ページ・参考文献】 P74～P75 【課題・予習・復習・授業準備指示】 障がい者福祉の現状を調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 120分
	第１１回	ケース検討２ 【key words】 高齢者　障がい者　介護問題　貧困　就労支援　稼働能力 【授業概要】 高齢者世帯、精神障がい者世帯のケースを検討する。 【教科書ページ・参考文献】 P103～128 【課題・予習・復習・授業準備指示】 高齢者の介護問題、精神障がい者の就労に関する現状を調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 120分
	第１２回	保育及び児童手当等と福祉事務所 【key words】 保健所　児童手当　児童扶養手当　保育所 【授業概要】 保育に関する相談業務、保育所への入所事務手続き、各種手当（児童、児童扶養）を理解する。 放送大学の無料教材を視聴する。 ■使用教材　社会保障の国際動向と日本の課題 第08回 子育て世代と社会保障 https://v.ouj.ac.jp/view/ouj/#/navi/player?co=10252&ct=V&ca=1170 ※17:00～24:00のシーン　を使用する 【教科書ページ・参考文献】 P75、P164～170 【課題・予習・復習・授業準備指示】 児童福祉に関する現状を調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 120分
	第１３回	児童相談所と福祉事務所 【key words】 児童相談所　児童虐待　保護 【授業概要】 児童相談所とは、児童虐待の現状、福祉事務所との関わりなどを理解する。 【教科書ページ・参考文献】 P75 【課題・予習・復習・授業準備指示】 児童虐待の現状を調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 120分
	第１４回	保健センター・地域福祉と福祉事務所 【key words】 保健所　保健センター 【授業概要】 市町村保健センターの役割・主な業務、福祉事務所との関わりなどを理解する。 【教科書ページ・参考文献】 P76 【課題・予習・復習・授業準備指示】 保健センター、保健所の役割を調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第１５回	試験前オリエンテーション 【key words】 　社会福祉推進の第一線機関として抱える諸課題等について整理するとともに、今後の在り方についても検討を試みる 【授業概要】 福祉事務所の今日的課題を見ながら、今後の在り方について総論的に学びを深める。また、試験出題範囲、出題形式、評価基準を説明する。 【教科書ページ・参考文献】 　― 【課題・予習・復習・授業準備指示】 　これまで学修してきた中で、課題やそれに対する提言などを整理しておく 【予習復習に必要な想定時間】 120分
受講生に関わる情報および受講のルール	授業の前に教科書は読んで予習をすること。ペットボトルや飲料は机上に置かないこと。私語を慎むこと。	

毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	その他授業内で質問の有無を問うので、積極的に発問すること。
授業外時間にかかわる情報	上記に示した授業以外の学修は、身近な行政機関、福祉事務所や福祉施設を訪れて学習するなど授業外学修をすること。
オフィスアワー	毎週水曜日　午後16：00～17：30（この時間帯以外については要予約）
評価方法	定期試験70%、授業への参画30%
教科書	宇山勝儀/船水浩行編著　『福祉事務所運営論』　［第４版］　ミネルバァ書房　　2016年4月
参考書	授業中に適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） ■情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容 質問・疑問等があれば講義中に聞いてもらうか、リアクションペーパーに記入すると、次回の講義で回答する。

講義科目名称： 人権教育論　　授業コード： S4371

英文科目名称： human rights education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4年次	2単位(30)	選択
担当教員			
久山　宗彦			
専門科目	講義		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 第二次世界大戦で敗戦国となった日本は、戦争の惨禍の中から世界に誇れる経済大国にまで成長してきたが、これからは更に、真に人権が確立された新しい日本につくり変えていく努力が必要である。 【到達目標】 人権の面において、新しい日本を創り出すことへと動く勇気ある人になるよう努力することである。
授業の概要	真に人権が確立されることによって、日本社会には画一性ではない、多様性と豊かな自由が齎される真の国際化がなされ、これによっての新しい日本が生まれてくるよう、私達は努力したいものである。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	△
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	◎
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回	SDGsの基礎には人権がある 【key words】 人権、SDGs,世界人権宣言、貧困、飢餓 【授業概要】 SDGsのそれぞれの課題は、社会権・自由権の実現と深く関わっていて、総じて、SDGsは人権を基礎にしていると言える 【教科書ページ・参考文献】 授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特にはありません。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第２回	足元の人権（その１） 【key words】 人権、錯覚の救済、表面的な学習 【授業概要】 自分にとって人権問題とはなんであるのか、自分はどのように生きていきたいのか、どんな社会に住みたいのか、そのようなことを自らの足元から見据え直すことが重要であろう。世界の中での責任ある日本には相応しくない人権の諸課題について、ここでは特に取り上げたい 【教科書ページ・参考文献】 授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特にはありません。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第３回	真の人権教育の視点をもった国際理解 【key words】 人権教育および研修に関する国連宣言、Minority,Majority 【授業概要】 「標準」を解体するという思いを共有することによって、MinorityとMajorityは、繋がり直すことが出来るのではなかろうか

【教科書ページ・参考文献】
授業レジュメを配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
特にはありません。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第４回　国際交流は本来、対立が生じることになる
【key words】
原則と方法論、,反日を巡る日・韓の理解の違い
【授業概要】
人権教育・国際理解教育は、基本的には異なる文化・価値体系間の対立を克服し,共生することを目指している
【教科書ページ・参考文献】
授業レジュメを配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
特にはありません。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第５回　足元の人権（その２）
【key words】
ミャンマーの民主化、アウンサンスーチー、軍事政権、仏教、ODA
【授業概要】
軍事政権による過酷な弾圧にくじけることなく、民主化を実現しようとするミャンマーの人たちの闘い、
【教科書ページ・参考文献】
授業レジュメを配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
特にはありません。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第６回　多様性の中での統合
【key words】
同化、分裂、ドイツの移民・難民の社会統合の支援プロジェクト、画一性、全体主義、両義性
【授業概要】
多様性の統合の基盤は、Majorityからの同化へのモーメントからではなく、偏見や人権侵害に対するMinorityの闘いの中から求められる
【教科書ページ・参考文献】
授業レジュメを配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
特にはありません。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第７回　日本に必要な真の多様性
【key words】
移民・難民、日本人とドイツ人、DiversityとInclusion,みんな一緒
、

【授業概要】
多様性は、違いが見えるように立ち、違いに率直に学ぶところから生まれてくるのであろう。民族・人種差別は許されない、という共通認識は、日本社会にはまだ十分には育っていないようである
【教科書ページ・参考文献】
授業レジュメを配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
特にはありません。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第８回　基本的人権を巡っての真の国際化と間違った（？）国際化
【key words】
基本的人権、憲法11条・１３条、個人の人権擁護、家族と結婚の問題、

【授業概要】
真の国際化がもたらすのは社会の多様性であり、人類の平等・自由であるのに対して、誤った国際化が強化するのは画一性であり、人権侵害である。こうしたことに対するはっきりとした自覚が重要であろう
【教科書ページ・参考文献】
授業レジュメを配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
特にはありません。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第９回　「違い」に対する捉え方が全く違うということ
【key words】
差別、Minority、均質性
【授業概要】
日・欧米間では、「違い」に対する捉え方が全く違っている点について特に解説する
【教科書ページ・参考文献】
授業レジュメを配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
特にはありません。
【予習復習に必要な想定時間】

	６０分
第１０回	差別の根拠がないのに、差別の実態がある 【key words】 区別と差別、多文化教育 【授業概要】 部落出身者は、日本社会の非人権性･非国際化性を真の意味で認識しうる位置にあると思う。また、日本社会全体が部落問題に向き合うことが出来るかどうか、実はそれが日本の人権化・国際化の key であると思う。 【教科書ページ・参考文献】 授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特にはありません。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
第１１回	被差別部落の実態 【key words】 部落民、アウトカースト、解放令、ETA・HININ 【授業概要】 解放令後、元ETA・HININの最も重要な仕事は、軍事・警察に関わるものであった。ところが、彼らは公僕にはならなかった。彼らは日本の資本主義の初期の発展にとって、非常に重要な存在であったのに 【教科書ページ・参考文献】 授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特にはありません。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
第１２回	偏見・階級・人権侵害に対する MINORITYの闘い 【key words】 違い, 共生、国際理解、新疆のウイグル族、同化教育 【授業概要】 それぞれの人間が本来的に持っている「違い」を、互いに認め尊重し合って生きていこうとする共生の論理・倫理を創る作業が、この闘いにおいては最も重要であろう 【教科書ページ・参考文献】 授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特にはありません。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
第１３回	私たちは皆　MINORITYであるのか 【key words】 白人もMinorityに?、Black Lives Matter, Majorityが持っている生得的な権利,民主主義か"whitenessか 、、、 【授業概要】 ”人間の平等は画一性を生む”という誤った認識がある。MINORITYは、これからの人間の普遍的なあり方であるのでは 【教科書ページ・参考文献】 授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特にはありません。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
第１４回	”差別”に関する日本政府の取り組みとこれからの課題 【key words】 deep discrimination,国連、法律の欠如 【授業概要】 日本の少数派、特に難民・移民に対する差別はどれほど深刻であろうか、差別を減らすためにどんな努力がなされてきたであろうか。将来できる法律は、民族的・人種的な調和をよく考えたものでなければならない 【教科書ページ・参考文献】 授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特にはありません。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
第１５回	日本の人権問題を総括する 【key words】 総括、部落民に対する差別から法務省の難民制度改革まで、１１条の基本的人権、 【授業概要】 日本にはまだ、独立した国の人権機関がない。日本は人権問題を扱う仕組みが、まだ適当ではないのではないか、と思っている 【教科書ページ・参考文献】 授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特にはありません。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分

受講生に関わる情報および受講のルール	・授業レジュメは原則として毎回配布する。 ・授業には積極的な態度で臨むように。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	世界の国々と関わる日本の人権問題のニュースに、いつも関心を持っていただきたい。
オフィスアワー	授業後の5分間は対応可能です。また、リアクションペーパーに質問を記していただければ、次回の授業後にお答えします。
評価方法	最終試験（70%）、小レポート（20%）、リアクションペーパー（10%）
教科書	教科書は使用しないが、毎回の授業レジュメのほかに時々参考資料を配布する。
参考書	授業時に随時紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 教育実習事前事後指導（特支）　　授業コード：S5144

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年次	1単位(60)	学校教育コース・選択
担当教員			
小林　義信			
専門科目	演習		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　特別支援学校の教育実習にあたり、本実習に必要な知識・技能・態度を学び、教育実習を通して特別支援学校の教員となる資質・意欲を高める。 【到達目標】 1　特別支援学校の組織、教育課程の仕組みを理解する。 2　障害のある児童生徒理解に努め、一人一人の障害特性に合った個別の指導計画及び学習指導案の作成方法を学び、児童生徒の実態に即した指導方法を組み立てることができる。
授業の概要	1　特別支援学校教育実習の意義・目的を十分理解し、教育実習生としての心得や実習中に留意することを中心に講義を行う。 2　障害のある児童生徒一人一人の理解に努め、障害特性を踏まえた個別の指導計画及び学習指導案の作成方法を学び、教育課程の自主編成を理解する。 3　本実習終了後、報告書を作成し発表する。研究授業の指導案をもとに授業実習の振り返りを行う。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	○
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回　　オリエンテ―ション　教育実習の意義と目的、心構え 【key words】 教職　免許法、特別支援教育、特別支援学校、特別な教育課程、守秘義務 【授業概要】 教育実習へのガイドブックをもとに、教育実習の意義と目的、実施の方法と内容、手続き、心得等について学習する。また、特別支援学校（知的障害）の教育課程の基礎的知識について、ワークシートを通して確認する。 【教科書ページ・参考文献】 教育実習へのガイドブック（教科書）　Ｐ1-11、Ｐ46-49 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書を事前に読んで予習しておくこと。キーワードについて簡単に説明できるようにしておくこと。 授業終了後は、キーワードについてそれぞれ理解を深めておく。 【予習復習に必要な想定時間】 45分 第２回　　知的障害特別支援学校の教育活動の理解　（ＤＶＤ視聴）

【key words】

知的障害を主な対象とする特別支援学校、教科等を合わせた指導、自立活動

【授業概要】
学生の輪番による教育関係新聞記事等の話題提供および協議を行う。学校現場のDVDによる映像を視聴することで、実際の教育現場の様子を概観する。必要に応じて、指導者が映像を止め説明を加える。特に、知的障害を対象とする特別支援学校における特徴的な指導形態である各教科等を合わせた指導について理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
教育実習へのガイドブック（教科書）　P61-62　P65-67
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業を復習し、キーワードについて説明できるようにしておくこと。担当になった学生は、話題提供する情報の収集およびコメントを考えておく。

【予習復習に必要な想定時間】
45分

第３回　肢体不自由特別支援学校の教育活動の理解　（ＤＶＤ視聴）
【key words】
バリヤフリー設備、自立活動、医療的ケア、摂食指導、食形態

【授業概要】
学生の輪番による教育関係新聞記事等の話題提供および協議を行う。学校現場のDVDによる映像を視聴することで、実際の教育現場の様子を概観する。必要に応じて、指導者が映像を止め説明を加える。特に、肢体不自由を対象とする特別支援学校における特徴的な校舎設備（バリヤ　フリー、自立活動室等）や自立活動の指導、医療的ケア等について理解を深める。

【教科書ページ・参考文献】
教育実習へのガイドブック（教科書）　P62-64、P65-67
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業を復習し、キーワードについて説明できるようにしておくこと。担当になった学生は、話題提供する情報の収集およびコメントを考えておく。

【予習復習に必要な想定時間】
45分

第４回　個別の教育支援計画・個別の指導計画
【key words】

個別の教育支援計画　個別の指導計画、個別の支援計画、関係機関との連携

【授業概要】
学生の輪番による教育関係新聞記事等の話題提供および協議を行う。個別の支援計画と個別の教育支援計画、個別の指導計画との関係について概観図をもとに理解する。また、個別の教育支援計画、個別の指導計画について、具体例をもと項目、記述内容等確認する。指導案との関係についても触れる。
【教科書ページ・参考文献】
教育実習へのガイドブック（教科書）　P67-69　特別支援学校学習指導要領解説、
【課題・予習・復習・授業準備指示】
特別支援教育論で使用した教科書等を事前に読んでそれぞれの特徴について整理しておく。担当になった学生は、話題提供する情報の収集およびコメントを考えておく。
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第５回　学習指導案の書き方　(1)
【key words】
学習指導案　単元　題材　評価規準　　評価基準　目標　評価　手だて

【授業概要】
学生の輪番による教育関係新聞記事等の話題提供および協議を行う。学習指導案（知的障害教育）の書き方について、知的障害の教育課程について再確認しながら学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
教育実習へのガイドブック（教科書）　P51-53　特別支援学校学習指導要領解説
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書を事前に読んで知的障害教育における学習指導案について、概要を理解しておく。話題提供の担当になった学生は、話題提供する情報の収集およびコメントを考えておく。

【予習復習に必要な想定時間】
45分

第６回　学習指導案の作成　(2)　生活単元学習　①
【key words】
題材（単元）設定の理由、実態、目標、評価の整合性、関連する各教科等、生活上の課題

【授業概要】
学生の輪番による教育関係新聞記事等の話題提供および協議を行う。生活単元学習の学習指導案の作成例をもとに、各教科等を合わせた指導の学習指導案の作成方法について理解する。

【教科書ページ・参考文献】
教育実習へのガイドブック（教科書）　P65-67　特別支援学校学習指導要領解説、自立活動解説
【課題・予習・復習・授業準備指示】
担当になった学生は、話題提供する情報の収集およびコメントを考えておく。教科書及び配付資料については、事前に読んでおく。

【予習復習に必要な想定時間】
45分

第７回　学習指導案の作成　(3)　生活単元学習　②

【key words】
題材（単元）設定の理由、実態、目標、評価の整合性、関連する各教科等、生活上の課題
【授業概要】
学生の輪番による教育関係新聞記事等の話題提供および協議を行う。生活単元学習の学習指導案の作成例をもとに、各教科等を合わせた指導の学習指導案の作成方法について理解する。

【教科書ページ・参考文献】
教育実習へのガイドブック（教科書）P65-67　特別支援学校学習指導要領解説、自立活動解説
【課題・予習・復習・授業準備指示】
担当になった学生は、話題提供する情報の収集およびコメントを考えておく。教科書及び配付資料を事前に読んでおく。

【予習復習に必要な想定時間】
45分～60分

第８回　学習指導案の作成　(4)　作業学習

【key words】
題材（単元）設定の理由、実態、目標、評価の整合性、関連する各教科等、職業・家庭　働くことの意義　職業的自立

【授業概要】
学生の輪番による教育関係新聞記事等の話題提供および協議を行う。作業学習の学習指導案の作成例をもとに、各教科等を合わせた指導の学習指導案の作成方法について理解する。また、作業学習の授業の進め方について学ぶとともに、実態、目標、評価の整合性及び関係する各教科等について理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
教育実習へのガイドブック（教科書）P65-67　特別支援学校学習指導要領解説、

【課題・予習・復習・授業準備指示】
担当になった学生は、話題提供する情報の収集およびコメントを考えておく。　教科書及び配付資料を読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第９回　学習指導案の作成　(5)　日常生活の指導

【key words】
日常生活の指導（朝の会、帰りの会、基本的生活習慣の指導等）

【授業概要】
学生の輪番による教育関係新聞記事等の話題提供および協議を行う。日常生活の指導の学習指導案をもとに、各教科等を合わせた指導の学習指導案の作成方法について理解する。また、日常生活の指導について実際の授業の進め方について学ぶとともに実態、目標、評価の整合性及び関係する各教科等について理解を深める。

【教科書ページ・参考文献】
教育実習へのガイドブック（教科書）P65-67　特別支援学校学習指導要領解説、自立活動解説
【課題・予習・復習・授業準備指示】
担当になった学生は、話題提供する情報の収集およびコメントを考えておく。
日常生活の指導の学習指導案について読んでいくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
45分～60分

第１０回　　本実習前オリエンテーション
【key words】
教育実習に向けての個人目標、守秘義務、安全管理　教育実習録　　教育実習報告書

【授業概要】
学生の輪番による教育関係新聞記事等の話題提供および協議を行う。教育実習を実施するに当たり、実習生としての心得を改めて確認するとともに、学生が一人ずつ自分の目標　について発表する。併せて実習校の概要についても説明する。
【教科書ページ・参考文献】

教育実習へのガイドブック（教科書）　P1-10、P46-49　　P11、p82-92
【課題・予習・復習・授業準備指示】
担当になった学生は、話題提供する情報の収集およびコメントを考えておく。各自、個人目標の発表及び担学校概要説明の準備をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
45分～60分

第１１回　学習指導案の作成　(6)　　各教科の指導　①　　（算数・数学科）
【key words】
教科指導における実態把握、各段階、内容、目標、評価

【授業概要】
学生の輪番による教育関係新聞記事等の話題提供および協議を行う。学習指導案の作成例をもとに、各教科の学習指導案の作成方法について理解する。特に、個人ごとの実態把握の方法と指導内容、目標、評価との関係について整理していく。

【教科書ページ・参考文献】
教育実習へのガイドブック（教科書）P65-67　特別支援学校学習指導要領解説、各教科編
【課題・予習・復習・授業準備指示】
担当になった学生は話題提供する情報の収集、コメントを考えておく。算数科学習指導案を読んでおくこと。

【予習復習に必要な想定時間】
45分～60分

第１２回　学習指導案の作成　(7)　　各教科の指導　　②　（国語科）
【key words】

教科指導における実態把握、各段階、内容、目標、評価

【授業概要】
学生の輪番による教育関係新聞記事等の話題提供および協議を行う。学習指導案の作成例をもとに、各教科の学習指導案の作成方法について理解する。特に、個人ごとの実態把握の方法と指導内容、目標、評価との関係について整理していく。

【教科書ページ・参考文献】
教育実習へのガイドブック（教科書）P65-67　特別支援学校学習指導要領解説、各教科編

【課題・予習・復習・授業準備指示】
担当になった学生は、話題提供する情報の収集およびコメントを考えておく。
配付された国語科の学習指導案をよく読んでおく。
【予習復習に必要な想定時間】
45分～60分

第１３回　学習指導案の作成　(8)　　各教科の指導　③　（図工・美術科）
【key words】
教科指導における実態把握、各段階、内容、目標、評価

国語、算数・数学、図工・美術等の指導

【授業概要】
学生の輪番による教育関係新聞記事等の話題提供および協議を行う。
学習指導案例の記述内容について、実態、内容、目標、評価の一貫性についてワークシートにより整理する。

【教科書ページ・参考文献】
教育実習へのガイドブック（教科書）P65-67　特別支援学校学習指導要領解説　各教科編
【課題・予習・復習・授業準備指示】
担当になった学生は、話題提供する情報の収集およびコメントを考えておく。

配付された図工・美術科の学習指導案をよく読んでおく。
【予習復習に必要な想定時間】
45分～60分

第１４回　学習指導案の作成　(9)　　自立活動　　①
【key words】
生活上・学習上の困難　中心的課題　　6区分27項目
【授業概要】
学生の輪番による教育関係新聞記事等の話題提供および協議を行う。
自立活動の指導について概要を復習する。その後、自立活動学習指導案例の記述内容について、実態、内容、目標、評価の一貫性についてワークシートにより整理する。

【教科書ページ・参考文献】
教育実習へのガイドブック（教科書）　Ｐ65-67　特別支援学校学習指導要領解説　自立活動編
【課題・予習・復習・授業準備指示】
担当になった学生は、話題提供する情報の収集およびコメントを考えておく。
配付された自立活動の学習指導案をよく読んでおく。

【予習復習に必要な想定時間】
45分

第１５回　学習指導案の作成　(10)　　自立活動　　②
【key words】
生活上・学習上の困難　中心的課題　　6区分27項目

【授業概要】
学生の輪番による教育関係新聞記事等の話題提供および協議を行う。自立活動学習指導案例の記述内容について、実態、内容、目標、評価の一貫性についてワークシートにより整理する。

【教科書ページ・参考文献】
教育実習へのガイドブック（教科書）Ｐ65-67　特別支援学校学習指導要領解説　自立活動編
【課題・予習・復習・授業準備指示】
担当になった学生は、話題提供する情報の収集およびコメントを考えておく。
配付された自立活動の学習指導案をよく読んでおく。
【予習復習に必要な想定時間】
45分～60分

第１６回　教育実習報告1名・研究授業の指導案を元にした授業実習の振り返り(説明・質問・検討)　　1名
①
【key words】
個のニーズに応じた学習指導案、実態、目標、評価に整合性のある学習指導案
【授業概要】
学生の輪番による教育関係新聞記事等の話題提供および協議を行う。教育実習の研究授業のために作成し、授業を行った指導案をもとに、一人ずつ学生が授業説明を行い、その後、検討会を行う。最後に、指導者が研究授業の対象とした教科等の指導案及び授業についてコメントをする。
【教科書ページ・参考文献】
研究授業指導案（発表者作成）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
担当になった学生は、話題提供する情報の収集およびコメント、研究授業及び指導案について、課題や反省、評価について説明できるように準備をしておく。担当以外の学生は指導案をよく読んでおく。
【予習復習に必要な想定時間】
45分～60分

第１７回　個別指導と教材の活用について　①
【key words】
教材・教具　個別指導　概念活動　自発行動　交信関係　発信　受信
【授業概要】
学生の輪番による教育関係新聞記事等の話題提供および協議を行う。

DVD映像を視聴することで個別指導の実際と教材の活用について理解する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
日頃から障害者問題や教育関係の情報について収集しておく。担当になった学生は、話題提供する情報の収集およびコメントを考えておく。

【予習復習に必要な想定時間】
45分

第１８回　個別指導と教材の活用について　②
【key words】
教材・教具　個別指導　概念活動　自発行動　交信関係　発信　受信

【授業概要】
学生の輪番による教育関係新聞記事等の話題提供および協議を行う。

DVD映像を視聴することで個別指導の実際と教材の活用について理解する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

	日頃から障害者問題や教育関係の情報について収集しておく。担当になった学生は、話題提供する情報の収集およびコメントを考えておく。 【予習復習に必要な想定時間】 45分
第１９回	特別支援学校での保護者・児童生徒との出会い 【key words】 障害観　保護者の思い　指導を受ける子どもの思い　共感力 【授業概要】 学生の輪番による教育関係新聞記事等の話題提供および協議を行う。 特別支援学校での様々な人との出会いの事例を通して障害についての思い、共感力について理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 日頃から障害者問題や教育関係の情報について収集しておく。担当になった学生は、話題提供する情報の収集およびコメントを考えておく。 【予習復習に必要な想定時間】 45分
第２０回	研究授業の指導案を元にした授業実習の振り返り(説明・質問・検討)　　1名ずつ　② 【key words】 個のニーズに応じた学習指導案、実態、目標、評価に整合性のある学習指導案 【授業概要】 学生の輪番による教育関係新聞記事等の話題提供および協議を行う。教育実習の研究授業のために作成し、授業を行った指導案をもとに、一人ずつ学生が授業説明を行い、その後、検討会を行う。最後に、指導者が研究授業の対象とした教科等の指導案及び授業についてコメントをする。 【教科書ページ・参考文献】 研究授業指導案（発表者作成） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 担当になった学生は、話題提供する情報の収集およびコメント、研究授業及び指導案について、課題や反省、評価について説明できるように準備をしておく。担当以外の学生は指導案をよく読んでおく。 【予習復習に必要な想定時間】 45分～60分
第２１回	教育実習布告会・検討会　①　　4人 【key words】 学習指導、生徒指導、学校組織（チームで働く）、保護者との連携、コミュニケーション力 個別の教育支援計画、個別の指導計画、チームティーチング、保護者との連携 【授業概要】 学生の輪番による教育関係新聞記事等の話題提供および協議を行う。 教育実習報告書をもとに、学生が一人ずつ、教育実習の概要や教育実習で学んだこと等を発表する。特に個別に立案した教育実習の目標に対する評価について、詳しく説明する。その後、質疑応答や課題等について検討を加えることで、教育実習の学びをより深めていく。 【教科書ページ・参考文献】 教育実習報告書（発表者作成） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 担当になった学生は、話題提供する情報の収集およびコメント、教育実習報告書発表者は、発表事項をわかりやすくまとめておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 45分～60分
第２２回	教育実習布告会・検討会　②　　4人 【key words】 学習指導、生徒指導、学校組織（チームで働く）、保護者との連携、コミュニケーション力 個別の教育支援計画、個別の指導計画、チームティーチング、保護者との連携 【授業概要】 学生の輪番による教育関係新聞記事等の話題提供および協議を行う。

教育実習報告書をもとに、学生が一人ずつ、教育実習の概要や教育実習で学んだこと等を発表する。特に個　別に立案した教育実習の目標に対する評価について、詳しく説明する。その後、質疑応答や課題等について検討を加えることで、教育実習の学びをより深めていく。

【教科書ページ・参考文献】
教育実習報告書（発表者作成）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
担当になった学生は、話題提供する情報の収集およびコメント、教育実習報告書発表者は、発表事項をわかりやすくまとめておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
45分～60分

第２３回　研究授業の指導案を元にした授業実習の振り返り(説明・質問・検討)　1名　③
【key words】
個のニーズに応じた学習指導案、実態、目標、評価に整合性のある学習指導案

【授業概要】
学生の輪番による教育関係新聞記事等の話題提供および協議を行う。教育実習の研究授業のために作成し、授業を行った指導案をもとに、一人ずつ学生が授業説明を行い、その後、検討会を行う。最後に、指導者が研究授業の対象とした教科等の指導案及び授業についてコメントをする。

【教科書ページ・参考文献】
研究授業指導案（発表者作成）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
担当になった学生は、話題提供する情報の収集およびコメント、研究授業及び指導案について、課題や反省、評価について説明できるように準備をしておく。担当以外の学生は指導案をよく読んでおく。
【予習復習に必要な想定時間】
45分～60分

第２４回　研究授業の指導案を元にした授業実習の振り返り(説明・質問・検討)　1名　④
【key words】
個のニーズに応じた学習指導案、実態、目標、評価に整合性のある学習指導案

【授業概要】
学生の輪番による教育関係新聞記事等の話題提供および協議を行う。教育実習の研究授業のために作成し、授業を行った指導案をもとに、一人ずつ学生が授業説明を行い、その後、検討会を行う。最後に、指導者が研究授業の対象とした教科等の指導案及び授業についてコメントをする。

【教科書ページ・参考文献】
研究授業指導案（発表者作成）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
担当になった学生は、話題提供する情報の収集およびコメント、研究授業及び指導案について、課題や反省、評価について説明できるように準備をしておく。担当以外の学生は指導案をよく読んでおく。
【予習復習に必要な想定時間】
45分～60分

第２５回　研究授業の指導案を元にした授業実習の振り返り(説明・質問・検討)　1名　⑤
【key words】
個のニーズに応じた学習指導案、実態、目標、評価に整合性のある学習指導案

【授業概要】
学生の輪番による教育関係新聞記事等の話題提供および協議を行う。教育実習の研究授業のために作成し、授業を行った指導案をもとに、一人ずつ学生が授業説明を行い、その後、検討会を行う。最後に、指導者が研究授業の対象とした教科等の指導案及び授業についてコメントをする。

【教科書ページ・参考文献】
研究授業指導案（発表者作成）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
担当になった学生は、話題提供する情報の収集およびコメント、研究授業及び指導案について、課題や反省、評価について説明できるように準備をしておく。担当以外の学生は指導案をよく読んでおく。

【予習復習に必要な想定時間】
45分～60分

第２６回　研究授業の指導案を元にした授業実習の振り返り(説明・質問・検討)　1名　⑥
【key words】

		個のニーズに応じた学習指導案、実態、目標、評価に整合性のある学習指導案 【授業概要】 学生の輪番による教育関係新聞記事等の話題提供および協議を行う。教育実習の研究授業のために作成し、授業を行った指導案をもとに、一人ずつ学生が授業説明を行い、その後、検討会を行う。最後に、指導者が研究授業の対象とした教科等の指導案及び授業についてコメントをする。 【教科書ページ・参考文献】 研究授業指導案（発表者作成） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 担当になった学生は、話題提供する情報の収集およびコメント、研究授業及び指導案について、課題や反省、評価について説明できるように準備をしておく。担当以外の学生は指導案をよく読んでおく。 【予習復習に必要な想定時間】 45分～60分
	第２７回	研究授業の指導案を元にした授業実習の振り返り(説明・質問・検討)　1名　⑦ 【key words】 個のニーズに応じた学習指導案、実態、目標、評価に整合性のある学習指導案 【授業概要】 学生の輪番による教育関係新聞記事等の話題提供および協議を行う。教育実習の研究授業のために作成し、授業を行った指導案をもとに、一人ずつ学生が授業説明を行い、その後、検討会を行う。最後に、指導者が研究授業の対象とした教科等の指導案及び授業についてコメントをする。 【教科書ページ・参考文献】 研究授業指導案（発表者作成） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 担当になった学生は、話題提供する情報の収集およびコメント、研究授業及び指導案について、課題や反省、評価について説明できるように準備をしておく。担当以外の学生は指導案をよく読んでおく。 【予習復習に必要な想定時間】 45分～60分
	第２８回	研究授業の指導案を元にした授業実習の振り返り(説明・質問・検討)　1名　⑧ 【key words】 個のニーズに応じた学習指導案、実態、目標、評価に整合性のある学習指導案 【授業概要】 学生の輪番による教育関係新聞記事等の話題提供および協議を行う。教育実習の研究授業のために作成し、授業を行った指導案をもとに、一人ずつ学生が授業説明を行い、その後、検討会を行う。最後に、指導者が研究授業の対象とした教科等の指導案及び授業についてコメントをする。 【教科書ページ・参考文献】 研究授業指導案（発表者作成） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 担当になった学生は、話題提供する情報の収集およびコメント、研究授業及び指導案について、課題や反省、評価について説明できるように準備をしておく。担当以外の学生は指導案をよく読んでおく。 【予習復習に必要な想定時間】 45分～60分
	第２９回	研究授業の指導案を元にした授業実習の振り返り(説明・質問・検討)　1名　⑨ 【key words】 個のニーズに応じた学習指導案、実態、目標、評価に整合性のある学習指導案 【授業概要】 学生の輪番による教育関係新聞記事等の話題提供および協議を行う。教育実習の研究授業のために作成し、授業を行った指導案をもとに、一人ずつ学生が授業説明を行い、その後、検討会を行う。最後に、指導者が研究授業の対象とした教科等の指導案及び授業についてコメントをする。 【教科書ページ・参考文献】 研究授業指導案（発表者作成） 【課題・予習・復習・授業準備指示】

	担当になった学生は、話題提供する情報の収集およびコメント、研究授業及び指導案について、課題や反省、評価について説明できるように準備をしておく。担当以外の学生は指導案をよく読んでおく。 【予習復習に必要な想定時間】 45分 第３０回　教育実習のまとめ　学校の危機管理 【key words】 学習指導案の整合性　　危機管理　　信用失墜行為 【授業概要】 学生の輪番による教育関係新聞記事等の話題提供および協議を行う。 現在の教育現場における様々な危機管理について、想定される危機とそれぞれの危機への対応方法について具体的に学ぶ。また、併せて教育公務員としての意識（識見）の向上を図る。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 担当になった学生は、話題提供する情報の収集およびコメントを考えておく。講義後は、教育公務員として求められる責任、安全配慮、資質等について整理しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 45分
受講生に関わる情報および受講のルール	1　本講義は4年時に行われる教育実習の本実習と同様に位置づけられており、遅刻・欠席は事前に必ず届けること。欠席　　や遅刻の多い学生（3回の欠席で実習を認めない）や授業態度の悪い学生は、教育実習の中止もあり得るため、熱心な受講態度を求める。 2　教育実習に向けて、児童生徒の障害特性を理解し、個別の指導計画及び学習指導案の作成に積極的に取り組み、授業構成や教材研究を熱心に行うこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード、学習内容確認レポート
授業外時間にかかわる情報	・授業の要約もしくは課題をミニレポートという形でまとめ、指定した日時までに提出すること。教育実習の報告書は指　定された形式に則り、教育実習報告会の1週間前までに提出すること。 ・実習校の情報に注意を向け、学習支援ボランティア等に積極的に参加すること。 ・学習指導案に関連した資料や図書を理解し授業に臨むこと。 ・学習指導要領、解説書等を読んでおくこと。
オフィスアワー	火曜日（前期　終日、後期　12:00～18:00）、水曜日　　(9:00～18:00)
評価方法	授業中に課したミニレポート・コメントカードの内容（20%）、実習報告書の内容（30%）、まとめのレポート（50%）を総合して評価する。
教科書	群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック』 文部科学省『特別支援学校教育要領・学習指導要領』、『解説総則編（幼稚園、小学部、中学部）と（高等部）』、『自立活動編』『各教科等編　小・中学部』
参考書	宮崎英憲　監修　全国特別支援学校長会　編著　　『特別支援学校のすべてがわかる　　教員をめざすあなたへ』　ジアース教育新社 2017
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 群馬県立の特別支援学校（知的特別支学校・肢体不自由特別支援学校）での教諭としての勤務年数31年間、教頭としての勤務年数2年間、副校長としての勤務年数1年間、校長としての勤務年数3年間をもとに、特別支援学校における教育実習の基礎的知識（教育実習の意義、学校組織、生徒理解、学習指導案の作成、授業研究の仕方等）について指導する。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート □グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援

	□その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 教育実習（特別支援学校）　　授業コード： S5148

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
10日間	4年次	2単位(80)	学校教育コース・選択
担当教員			
小林　義信			
専門科目	実習		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 　障害のある児童生徒一人一人の実態に即した教育的ニーズを把握し、個別の指導計画を立て、児童生徒が主体的に 　活動し、全人的発達を促せる指導･支援ができるような実践力や指導技術を習得することを目指す。 [到達目標] １　特別支援学校の教育活動の場に臨み、特別支援学校の仕組みを知り、障害のある児童生徒の理解に努め、教育課 　　程の自主編成が理解できる。 ２　一人一人の障害特性にあった個別の指導計画･教育支援計画、学習指導案の作成方法を学び、児童生徒の実態に 　　即した学習指導（教材教具の開発や工夫等）ができる。ティームティーチングの方法を知る。 ３　保護者理解や地域と学校との関連を理解する。
授業の概要	１　実習校（特別支援学校）において、原則として10日間（80時間以上）の実習を行う。 ２　教育実習前に立案した自己目標に対しての評価を行う。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	△
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	○
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	△
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	△
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	○
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回　就務式　配属学級での実習（授業観察・授業参加）　校長講話 【key words】 職員への挨拶、指導教諭との打ち合わせ、実習録記入 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２回　配属学級での実習（授業参観・授業参加）　講話（生徒指導、進路指導、教務主任等） 【key words】 指導教諭との打ち合わせ、実習録記入 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第３回　配属学級での実習（授業参観・授業参加）　講話（生徒指導、進路指導、教務主任等） 【key words】

	指導教諭との打ち合わせ、実習録記入 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
第４回	配属学級での実習（授業参観・授業参加） 【key words】 実指導教諭との打ち合わせ、実習録記入 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
第５回	配属学級での実習（授業参観・授業参加、授業実習） 【key words】 実指導教諭との打ち合わせ、実習録記入 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
第６回	配属学級での実習（授業参観・授業参加、授業実習） 【key words】 実指導教諭との打ち合わせ、実習録記入 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
第７回	配属学級での実習（授業参観・授業参加、授業実習） 【key words】 実指導教諭との打ち合わせ、実習録記入 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
第８回	配属学級での実習（授業参観・授業参加、授業実習、研究授業）、授業研究会 【key words】 実指導教諭との打ち合わせ、授業研究会への参加、授業説明、評価、実習録記入 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
第９回	配属学級での実習（授業参観・授業参加、授業実習） 【key words】 実指導教諭との打ち合わせ、実習録記入 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
第１０回	解務式、配属学級での実習（授業参観・授業参加、授業実習） 【key words】 職員への挨拶、実指導教諭との打ち合わせ、実習録記入（まとめ） 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
第１１回	 【key words】

	【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１２回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１３回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１４回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１５回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	以下の全ての履修条件を満たしている者。 １　将来、教員として学校現場で働く意思を満たしている者。 ２　特別支援教育とその教育課程の学習に熱意と意欲を持っている者。 ３　健康状態が実習を行うのに適当と認められる者。 ４　中学校もしくは高等学校教員免許状取得可能な単位を持っている者。 ５　実習前あるいは実習期間中に、教科または教職に関する科目：障害者教育総論、障害児教育総論、知的障害教育Ⅰ、　Ⅱ、肢体不自由教育Ⅰ、Ⅱ、重複障害教育総論、ＬＤ等教育総論、知的障害者の心理・生理・病理、肢体不自由者へ　の心理・生理・病理、病弱者への心理・生理・病理、教育実習事前・事後指導を履修済みあるいは履修中であること。 ６　3年次後期開講の教職対策講座Ⅰと4年次前期開講の教職対策講座Ⅱを必ず受講する者。 ７　ボランティア活動において、障害児・者に関わる活動を積極的に行い、体験した者。 ８　実習後に都道府県で実施している教員採用試験を必ず受験する者（都道府県によっては受験が実施されない教科があ　る。その場合は私立学校主催の適性検査を必ず受験すること。）
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	実習校では、指導教諭から指導を受ける。大学担当者へは、進捗状況をメール等で報告する。また、担当者の巡回指導時にも進捗状況を報告する。必要があれば指導を受ける。
授業外時間にかかわる情報	１　ボランティア活動において、障害児・者に関わる活動を積極的に体験しておく。 ２　ＨＰ等で実習を希望する特別支援学校等の情報を得ておく。
オフィスアワー	火曜日（前期　終日、後期 12:00～18:00）　水曜日（10:30～18:00）
評価方法	１　実習中における実習状況・内容の報告（10%） ２　実習校の評価（50%） ３　教育実習録の評価（40%）
教科書	群馬医療福祉大学：「教育実習へのガイドブック」
参考書	文科省：特別支援学校小学部・中学部・高等部学習指導要領」「特別支援学校学習指導要領解説　総則編・自立活動編・各教科　編」
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容

	群馬県立の特別支援学校（知的特別支学校・肢体不自由特別支援学校）での教諭としての勤務年数31年間、教頭としての勤務年数2年間、副校長としての勤務年数1年間、校長としての勤務年数3年間をもとに、特別支援学校における教育実習の基礎的知識（教育実習の意義、学校組織、生徒理解、学習指導案の作成、授業研究の仕方等）について指導する。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 政治学Ⅰ　　授業コード： S5152

英文科目名称： politics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年次	2単位(30)	選択
担当教員			
久山　宗彦			
基礎教養科目	講義		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的・到達目標】 世界の色々な国の中での日本が、それらの国とどのように関わっていけばよいかに関心を持ち、取り分け、問題を抱えている外国の人達にもどのように関わり、どのようにサポートできるかまで考える。
授業の概要	目下、日本人に求められているのは、地球市民として行動できる人になっていくことではなかろうか。このような原点に立ち返っての問題について、本講義では考えていきたい。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	◎
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	○
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	現代の世界が抱える地球的問題 【key words】 ポスト主権、国連、欧州共同体、NATOとウクライナ、NGO 【授業概要】 国連組織というものが主権国家同士の関係で動かされていると、国家の段階では存在している民主的な統制が忘れられ、国家間の力学で動かされることになりかねない。そのような状況下にこそ、NGOが成長していく可能性があることに期待したい 【教科書ページ・参考文献】 授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特にはありません。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第２回	「政治」ということば、「政治」と「ことば」は切り離せない 【key words】 Politicsと日本の政治、国民・選挙民 【授業概要】 学問の世界に嘘・誤解が入り込むと虚構になるように、政治も本来はアカデミックなものであるから、同様になる。我が国のリーダーが誰になるとしても、リーダーの条件としては、先ず、真の「ことば」を語る人であるということである 【教科書ページ・参考文献】 授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特にはありません。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第３回	平和憲法と社会福祉 【key words】 コスタリカ、紛争の仲介、積極的永世非武装中立宣言、平和憲法 【授業概要】 平和憲法の精神は、コスタリカから学ぶことが多いが、コスタリカの人たちにとって平和とは、戦争がないこと、軍隊が存在しないことではなくて、民主主義・人権・自由・豊かな自然環境、そして、謙虚・寛容等の価値観が統合されている状態である。コスタリカはまた、「積極的永世

		非武装中立宣言」を公表した国であるが、それは、どの国にも加担しないが、紛争を終わらせるために仲介者として積極的に介入するということである 【教科書ページ・参考文献】 授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特にはありません。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第４回	国際ボランティア活動、かつての湾岸戦争後のイラクの弱者に対する救援活動 【key words】 イラク、国際ボランティア活動、経済制裁 【授業概要】 湾岸戦争後、１３回も出かけることになったイラクの乳幼児に対する緊急救援活動を通して、イラクと日本での国際ボランティア活動のスタートから終了までの大事な諸点を紹介し、ボランティア精神の重要性も明らかにする 【教科書ページ・参考文献】 授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特にはありません。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第５回	カリタス・ジャパンと社会福祉 【key words】 カリタス・ジャパン、政教分離、アガペー 【授業概要】 アガペー的な愛他行動に源流がある社会福祉（賀川豊彦など）であるが、しかし今日では、人間観の世俗化が行き着くところまでいっている場合もあるように思われる。社会福祉におけるSpiritualityにも触れたい 【教科書ページ・参考文献】 授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特にはありません。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第６回	「感染症」問題 【key words】 都市化、自然の生態系、コロンブス、コロナ 【授業概要】 都市化やグローバル化が進んできたことや、人間が自然の生態系を破壊し攪乱させてきたこと等が、ヒトにとってまだ免疫が低い新規の病原微生物との接触頻度を増やしていくことになった。今回は感染症の問題を政治学として扱いたい 【教科書ページ・参考文献】 授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特にはありません。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第７回	資源枯渇と環境破壊 【key words】 エネルギー供給、森林・オゾン層・温室効果、地球環境危機 【授業概要】 １　ソフト・エネルギーへの転換が今日ほど求められている時はない。 ２　森林消失が、オゾン層破壊が、大気中の二酸化炭素濃度上昇が、どんな物理的作用を私たちに齎すかは、科学的には問題は解けているのに、政治的には解決されていない。そのことは大きな問題である 【教科書ページ・参考文献】 授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特にはありません。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第８回	難民の問題 【key words】 難民、基本的人権、ドイツ、日本、グローバル化、ウクライナ・シリア難民 【授業概要】 現在、難民こそ実在であり、基本的人権の観点から保護すべきである、ということが言えるであろうか。この問いはどうも宙に浮いてしまっているようだ。難民の定義そのものが混迷しているからである 【教科書ページ・参考文献】 授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特にはありません。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第９回	人口問題 【key words】 緑の革命、漁場、水不足、環境破壊、砂漠化 【授業概要】 宇宙船地球号には、現在の技術水準から考えられる収容定員があるようである。ただ、この水準は変動してきたし、今後も変動するようである。この問題を技術的に突破しても、問題が悪化する可能性もあるようだ 【教科書ページ・参考文献】

		授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特にはありません。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第１０回	宗教紛争（１） 【key words】 排他性、孤立、合理主義、物質主義、選民、イエス 【授業概要】 今日のユダヤ教徒・キリスト教徒・イスラーム教徒間の争いの根にあるものの一つは、三教徒間の根深い偏見、そして特に、神の子イエスの十字架上の死を巡っての問題であり、もう一つは、宗教が異なる国家間の富・技術・工業発展などの格差から来るものである 【教科書ページ・参考文献】 授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特にはありません。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第１１回	宗教紛争（２） 【key words】 教会組織、東方正教会、スンナとシーア、クルアーン、民主主義 【授業概要】 イスラームには、ローマ・カトリックで見られる教皇・枢機卿・司教・神父・信徒という特別の教階的組織はない。宗教的なヒエラルヒー（教階制）はイスラームではどのように働くのであろうか 【教科書ページ・参考文献】 授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特にはありません。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第１２回	人種差別問題 【key words】 イタリア、移民、多様性、アメリカ、個性、ローマ帝国 【授業概要】 ユニークであること、クリエイティブであること、人と違うことは、尊重されるべき個性であり、このような違いをあるがままに受け止めるのがイタリア人の姿勢である。人種差別のないイタリア人の視点から今回の問題を検討したい 【教科書ページ・参考文献】 授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特にはありません。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第１３回	中東諸国・中国・ミャンマーに対する民主化要求 【key words】 リベラル・デモクラシー、アラブの春、世俗主義、イスラーム 【授業概要】 アラブの春のことに限らず、イスラームと民主主義について考える時には、何よりも先ず、イスラーム社会には、神から離脱することによって民主主義が達成されるという捉え方はない、ということである。中国については、新疆ウイグル自治区の問題を扱いたい 【教科書ページ・参考文献】 授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特にはありません。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第１４回	平和について考える～「聖遷」（ヒジュラ）と「聖家族エジプト避難の旅」の今日への問題提起～ 【key words】 平和への第一歩、ウクライナ避難民、聖遷、聖家族エジプト避難の旅 【授業概要】 自分に敵対する悪行に対して反抗・敵対することで、真の平和がもたらされるであろうか？ムハンマドや聖家族がとった姿勢は、＜積極的な反一抵抗（敵対）＞あった 【教科書ページ・参考文献】 授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特にはありません。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第１５回	世界と日本の間違い～日本や諸外国を巨視的に捉える～ 【key words】 中東、文化交流、カイロ大学文学部日本学科 【授業概要】 近代化１００年のスローガンは、「西洋に追い着き追い越せ」であったが、日本人は中東世界については全く欠落していた。１９７３年、オイルショックが起こって初めて、中東世界との文化交流の重要性が認識されはじめることになった 【教科書ページ・参考文献】 授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特にはありません。 【予習復習に必要な想定時間】

	６０分
受講生に関わる情報および受講のルール	・授業レジュメは原則として毎回配布する。 ・授業には積極的な態度で臨むように。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	世界の色々な国と関わる日本のニュースに、いつも関心を持っていただきたい。
オフィスアワー	授業後の5分間は対応可能です。また、リアクションペーパーに質問を記していただければ、次回の授業後にお答えします。
評価方法	最終試験（70%）、小レポート（20%）、リアクションペーパー（10%）
教科書	教科書は使用しないが、毎回の授業レジュメのほかに時々参考資料を配布する。
参考書	授業時に随時紹介する。久山宗彦著「神の文化と和の文化」（北樹出版）もそのうちの一つである。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 政治学Ⅱ　　授業コード： S5154

英文科目名称： politics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4年次	2単位(30)	選択
担当教員			
久山　宗彦			
基礎教養科目	講義		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的・到達目標】 世界の色々な国の中での日本が、それらの国とどのように関わっていけばよいかに関心を持ち、取り分け、問題を抱えている外国の人達にもどのように関わり、どのようにサポートできるかまで考える。
授業の概要	目下、日本人に求められているのは、地球市民として行動できる人になっていくことではなかろうか。このような原点に立ち返っての問題について、本講義では考えていきたい。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	◎
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回　２１世紀の世界秩序 【key words】 平和、ウクライナとロシア、イスラーム（ハーガ・リッラー）、赦し 【授業概要】 平和への第一歩を巡ってのウクライナ・ロシア問題や、イスラームの中での「サラーム」と日本の「和」の関わりを中心に、２１世紀の世界秩序について考察したい 【教科書ページ・参考文献】 授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特にはありません。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分 第２回　余暇・研究・仕事 【key words】 二つの世界観、受験教育、労働原理、プラトンのアカデメイア、cultとculture 【授業概要】 毎日の重要な睡眠・食事・適度の運動とは別に、勉学（研究）・仕事・休息余暇の関わりについて深く考えてみる 【教科書ページ・参考文献】 授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特にはありません。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分 第３回　神の文化と和の文化 【key words】 和、一と多、個人化のプロセス 【授業概要】 神中心の思惟方法に対する和中心の思惟方法について解説する 【教科書ページ・参考文献】 授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】

		特にはありません。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第４回	日本・韓国・中国の文化の違い（１） 【key words】 同一文化圏、漢字文化圏、儒教文化圏 【授業概要】 日本・韓国・中国の文化の違いを、私達はどのように乗り越えていったらよいかについて論じる 【教科書ページ・参考文献】 授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特にはありません。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第５回	日本・韓国・中国の文化の違い（２） 【key words】 日・韓・中の比較文化、歴史問題 【授業概要】 日本・韓国・中国の文化の違いを、私達はどのように乗り越えていったらよいかについて論じる 【教科書ページ・参考文献】 授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特にはありません。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第６回	文明の衝突 【key words】 ハンチントン、八つの文明、パックス・アメリカーナ、テロの時代 【授業概要】 冷戦後の世界からは諸文明の対立・衝突が生じ、これが世界を動かしていくというハンチントン理論を紹介する 【教科書ページ・参考文献】 授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特にはありません。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第７回	聖徳太子・福沢諭吉の方針が日本外交の原点 【key words】 聖徳太子・福沢諭吉、華夷秩序、冊封国家、時事新報 【授業概要】 ６０７年に聖徳太子が隋の煬帝に送った「日出ずる処の天子、書を日没する処の天子に致す。つつがなきや」という、日中対等の姿勢を表す手紙は、日本外交の原点を説いたものと言えるが、この外交方針はその後の歴史を顧みれば、正しかったと言える。近代日本でこの外交の原点を説いたのは福沢諭吉である 【教科書ページ・参考文献】 授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特にはありません。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第８回	ユダヤ文明とキリスト教文明の対話 【key words】 ヘブライズム・ヘレニズム、イエス、準備と完成、アレクサンドリアのクレメンス 【授業概要】 クリスチャンはユダヤ人の信仰を、他の信仰の伝統とは違ったものと見做している。キリスト教は自らを、イスラエルの子らの信仰の自然的な継続と見ているのである。神がイスラエルの子らになした約束は、イエスにおいて成就された、と新約聖書は語っている 【教科書ページ・参考文献】 授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特にはありません。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第９回	ロシア、ウクライナ正教文明～ローマ・カトリック世界と比較しつつ～ 【key words】 第二バチカン公会議、教皇皇帝主義・皇帝教皇主義、ウクライナ正教会のロシア正教会からの離脱 【授業概要】 キリスト教をローマ帝国の国教にしたテオドシウス一世の死後、この国は西ローマ帝国（ローマ・カトリック教会）と東ローマ帝国（ギリシャ正教会）に分かれ、ギリシャ正教会（東方正教会）はイスラームの影響もあって、聖像禁止令まで出すことになった。また、ロシア・ウクライナ両国間の正教会の分裂が、今回のウクライナ危機を誘発させることに影響したかもしれない 【教科書ページ・参考文献】 授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特にはありません。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第１０回	キリスト教文明とイスラーム文明の対話（１） 【key words】

	モーセ、サリーブ（十字架）と、アッラー・アクバル、共存 【授業概要】 モーセの山（ガバル・ムーサ）の頂上を目指す旅を通じて、ムスリムとクリスチャンの対話を考えてみたい 【教科書ページ・参考文献】 授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特にはありません。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
第１１回	キリスト教文明とイスラーム文明の対話（２） 【key words】 クルアーン、ネストリウス派のクリスチャン、ムハンマド 【授業概要】 イスラームの聖典、クルアーンは、旧約・新約聖書のアラビア的陳述であるとも言われる。「我らはこれをアラビア語のクルアーンにしておいた。お前たちにもわかるように。その内容はすべて我々の手元にある啓典の母体に載っているいと高くいとも賢きもの。」（光まばゆい部屋飾りの章４３：３～４９）対話への第一歩は相互認識だと思う 【教科書ページ・参考文献】 授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特にはありません。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
第１２回	平和について考える（１）～コプトの平和観～ 【key words】 報復の論理、コプトの平和論 【授業概要】 ヘロデ王の幼子イエス殺害計画という攻撃に対してなされた聖家族のエジプト避難の旅には、積極的な反一抵抗（敵対）という極めて能動的な態度が見られるが、これは「汝の敵を愛し、汝の敵を赦すように」というコプトの平和論に由来するものである 【教科書ページ・参考文献】 授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特にはありません。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
第１３回	平和について考える（２）～アッシジの聖フランシスコの平和観～ 【key words】 聖フランシスコと教皇フランシスコ、「平和を求める祈り」 【授業概要】 戦いと平和を巡って、エジプトのスルターンと熱い対話をしたのは聖フランシスコであったが、スルターンの真の回心は望めなかった。これは現在のムスリムとクリスチャンの対話にも通じるものがあるようだ 【教科書ページ・参考文献】 授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特にはありません。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
第１４回	ダブリン（Dublin）のホスピス発祥の地である「聖母ホスピス」を訪ねて 【key words】 ターミナルケア、聖母ホスピス、careとcure 【授業概要】 医療技術は絶えず最新のものでなければならないが、「死」に対する深い精神的な態度は変わるものではない 【教科書ページ・参考文献】 授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特にはありません。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
第１５回	歴史から学ぶ国際政治学と日本の進む道 【key words】 国際政治学、理想主義、現実主義、現状是認主義 【授業概要】 国際政治学は、時代によって平和の到来を大きく捉えたり、そしてまた、現実主義へ回帰していったりしている。歴史の中には因果関係を考える題材が豊富にあるはずである。しかし、体系的な因果関係を考えることはなかなか難しい。また、日本で言われる現実主義は、現状是認主義の場合が多く、Realismと区別しなければならない 【教科書ページ・参考文献】 授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特にはありません。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
受講生に関わる情報および受講のルール	・授業レジュメは原則として毎回配布する。 ・授業には積極的な態度で臨むように。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード

授業外時間にかかわる情報	世界の色々な国と関わる日本のニュースに、いつも関心を持っていただきたい。
オフィスアワー	授業後の5分間は対応可能です。また、リアクションペーパーに質問を記していただければ、次回の授業後にお答えします。
評価方法	最終試験（70%）、小レポート（20%）、リアクションペーパー（10%）
教科書	教科書は使用しないが、毎回の授業レジュメのほかに時々参考資料を配布する。
参考書	授業時に随時紹介する。久山宗彦著「神の文化と和の文化」（北樹出版）もそのうちの一つである。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： マスメディア論　　授業コード： S5155

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4年次	2単位(30)	選択
担当教員			
新井　英司			
基礎教養科目	講義		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　混迷の現代社会の中で、いかに自分の人生を輝かせていくか。そのために、物事を客観的に見ていくには どうしたらよいのだろうか。 　３６年前、群馬県上野村で起きた日航機の墜落という大惨事を多角的に見つめながら、墜落は事故だった のか、それとも事件だったのか、考察してゆきます。 【到達目標】 ①ものの見方、考え方が深められるようになる。 ②客観的な認識の方法と態度について理解する。 ③メディア・リテラシーが磨かれる。 ④複眼で見る大切さを知る。 ⑤なぜ、という問いの重要性を認識する。
授業の概要	日航１２３便の墜落は単独機としては世界最大の犠牲者、５２０人を数えました。しかし、３６年も 経とうとするいま、依然として原因は不明で、墜落の責任はだれ一人とっていません。 　そこで、墜落をめぐる国、自衛隊、警察、日航、米軍等の動きを追いながら、墜落の真相を探ります。 　５２０人もの犠牲者を出しながら誰一人責任を取らず、納得のいく原因もままならない腑に落ちない墜落の 実態を最新の資料を見ながら深めていきます。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	◎
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	◎
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回　　オリエンテーション 【key words】 令和の時代と世界 【授業概要】 ・オリエンテーション ・「令和」という時代、どんな風景？ ・ファクト(事実)とフェイク(偽) ・政府はいつも真実を語っているか 【教科書ページ・参考文献】 ロシアのウクライナ侵攻など世界や日本の動きに関心を持って下さい 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・情報やニュースを批判的に読むことを日日の生活態度にしよう。 ・これ本当か、疑問に思ったら確かな複数の新聞で確認してみよう。

【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第２回　１９８５年８月１２日、日航機が墜落、場所はどこ

【key words】
「どうして自分たちは死ななければならなかったのか」
【授業概要】
・あの日に何が見えたのか
・青山透子さんの挑戦
・多数の腑に落ちない出来事
・新たな真実を求めて

【教科書ページ・参考文献】
『日航１２３便　墜落の新事実』の序章
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回は「羽田離陸から44分、航路は、機内は」（テキストの第１，２章）
墜落した日航機は羽田を離陸して４４分、細かく追ってみよう。

【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第３回　羽田離陸から44分、航路は、機内は

【key words】
離陸から４４分間のドキュメント
【授業概要】
・墜落機の当日の運航日程
・１２３便、１２分遅れで羽田離陸
・１８時２４分、コックピットは極度の緊張
・機内で遺書を書く乗客も

【教科書ページ・参考文献】
『日航１２３便　墜落の新事実』（序章　第１，２，３章）
配布資料　「日航機の航跡図」「家族に宛てたメモ」ほか

【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回は「犠牲者への変わらぬ想い」
（テキストの序章、第１、２、３章）

【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第４回　犠牲者への変わらぬ想い

【key words】
乗客乗員５２４人と遺族の想い
【授業概要】
・墜落機はお盆の帰省客等で満員
・墜落の真相を究明する遺族たち
・「御巣鷹に逝った科学者」、上毛で連載
・生命の大切さを訴える遺族の絵本

【教科書ページ・参考文献】
『日航１２３便　墜落の新事実』（序章　第１，２，３章）、
遺族や関係者の最新資料を提示
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回は「日米、日航の関係者はどう動いたか」
（テキストの序章、第１、２、３章）

【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第５回　日米、日航の関係者はどう動いたか

【key words】
それぞれの狙いや思惑
【授業概要】
・「ロン　ヤス」、日米は表向き仲良し
・「軽井沢は近し、現場は遠し」、中曽根首相
・奇縁だった山下徳夫運輸大臣
・原因に触れたがらない日航関係者

【教科書ページ・参考文献】
『日航１２３便　墜落の新事実』（序章　第１，２，３章）、

【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回は「不可解な自衛隊、米軍、警察」
（テキストの序章、第１、２、３、４章）

【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第６回　不可解な自衛隊、米軍、警察

【key words】
不可解な救助活動と自衛隊の動向
【授業概要】
・不可解な自衛隊の動向
・米軍の対応
・東京消防庁の対応、群馬県警察の対応

・国産ミサイル開発さなかの日航機墜落

・

【教科書ページ・参考文献】
『日航１２３便　墜落の新事実』(序章　第１、２、３、４章)
「国産ミサイル本格推進」(1985/08/11　日航機墜落前日の読売新聞)

【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回は「地元の小、中学生は見た」
(テキストの序章、第１、２、３、４、終章)

【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第７回　地元の小、中学生は見た

【key words】
生かされない目撃情報
【授業概要】
・「小さな目、事故に怒り」
・文集が記録した墜落前後の上野村
・真っ赤な飛行機とファントム二機
・未来を見つめて

【教科書ページ・参考文献】
『日航１２３便　墜落の新事実』(序章　第１、２、３、４、終章)
「川上慶子さん　死の直前の妹を励ます」(上毛新聞)

【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回は「墜落現場は本当に御巣鷹山?」
(テキストの序章、第１、２、３、４、終章)

【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第８回　墜落現場は本当に御巣鷹山?

【key words】
御巣鷹山と高天原山
【授業概要】
・上野村の「上野」とは
・御巣鷹山とはどんな山
・墜落現場、高天原山とは
・「彷徨える魂を救う」

【教科書ページ・参考文献】
配布資料　「山中領」と呼ばれた地域の地図と特徴
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回は「遺体に秘められた事実」
(テキストの序章、第１、２、３、４、終章)

【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第９回　遺体に秘められた事実

【key words】
「死人に口あり」
【授業概要】
・「死人に口あり」
・どうしてなの、完全炭化の遺体
・炭化遺体の不自然な位置
・ガソリンとタールの異臭
【教科書ページ・参考文献】
『日航１２３便　墜落の新事実』(序章　第１、２、３、４、終章)
「５０５名の遺体の位置」(事故調査報告書から作成)

【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回は「第４エンジンはどこ」
(テキストの序章、第１、２、３、４、終章)
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１０回　第４エンジンはどこ

【key words】
散乱する第４エンジン
【授業概要】
・木っ葉微塵の第４エンジン
・墜落現場にはあり得ない遺物
・編集されたボイスレコーダ

【教科書ページ・参考文献】
墜落機の残骸分布の全容図（原画は事故調査報告書）
参考文献　青山　透子『日航１２３便墜落　遺物は真相を語る』

【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回は「相模湾の衝撃は何だったのか」

	青山　透子著『日航１２３便　墜落の新事実』(序章～終章) 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
第１１回	相模湾の衝撃は何だったのか 【key words】 墜落は事件だった 【授業概要】 ・米国調査団、異例の早さで来日 ・調査実施前に原因報道 ・正式な事故調査報告書は発生2年後 ・墜落は事故ではなく事件 【教科書ページ・参考文献】 墜落直後に原因をスクープした毎日新聞が 「墜落きょう１５年」（2008/08/12）で隔壁修理ミスを否定 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回は「アメリカにいいなりの日本」 風化していく墜落、次世代への語り部は 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
第１２回	アメリカにいいなりの日本 【key words】 我がもの顔の日米地位協定 【授業概要】 ・墜落から３８年、いま ・不平等な日米地位協定 ・次世代に向け、語り部となれ 【教科書ページ・参考文献】 青山　透子著『日航１２３便　墜落の新事実』(序章～終章) 「米軍任せ検疫スルー」（2021/12/26　毎日新聞） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回は「原因の特定をなぜ米国は急いだのか」 テキストの文庫解説「日本の経済社会を変えた日航１２３便事件」 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
第１３回	原因の特定をなぜ米国は急いだのか 【key words】 日航機墜落とプラザ合意 【授業概要】 ・墜落原因の特定をなぜ米国は急いだのか ・日本経済の衰退の原点、プラザ合意 ・修理ミスを犯したはずのＢ社から飛行機を買い続けた日航 ・先進国でも最貧国の日本の現状 【教科書ページ・参考文献】 青山　透子著『日航１２３便　墜落の新事実』(序章～終章) テキストの文庫解説「日本の経済社会を変えた日航１２３便事件」 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回は「まとめ①　どうする家康　どうする君たち」 人は常に選択、判断を迫られる、そこで大切なことは 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
第１４回	まとめ①　どうする家康　どうする君たち 【key words】 客観的認識とは 【授業概要】 ・常に迫られる判断、選択 ・批判と疑いの精神 ・メディア・リテラシー ・客観的認識に大切な３視点 【教科書ページ・参考文献】 配布資料「偽情報に対する抵抗力、欧州一はフィンランド」 （2022/01/14　毎日新聞） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 最終回は「ありがとうの心で前進」 日航機墜落事件から学んだことを整理してみよう 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
第１５回	まとめ②　ありがとうの心で前進 【key words】 日航機墜落事件から学んだこと 【授業概要】 ・日航機墜落事件が教えること ・３８年間、不問に付されていること ・救われた事実 ・ありがとうの心で前進 【教科書ページ・参考文献】

	「急がば回れ」 「苦労は買ってでも」 【課題・予習・復習・授業準備指示】 後期の試験に向けて 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	講義の際にテキストの事前に読んでおくページを指示しますので、必ず取り組んで下さい。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	スレッドに毎回、感想や質問等を送信して下さい。これが普段点となります。
授業外時間にかかわる情報	授業時に指示する。
オフィスアワー	毎時間授業終了後、３０分は対応可能。
評価方法	筆記試験５０％　講義への取り組み点５０％
教科書	テキストは　青山　透子　著『日航１２３便　墜落の新事実』（河出書房新社　刊）の最新版
参考書	日々の新聞、テレビ等。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 群馬テレビに４１年余り勤務し、この間、報道、制作、編成、営業、事業と各部門を経験、一方、アナウンサー　やプロデューサーとして番組・イベントの企画、制作に携わりました。 また、県域テレビ局の誕生から成長、さらにはテレビのデジタル化という難局に直面し、現場の局員として、あるいは役員、顧問として様々な試練を乗り越えて来ました。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 教職実践演習（中・高）　　授業コード： S5163

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4年次	2単位(30)	学校教育コース・選択
担当教員			
江原　京子			
専門科目	演習		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 　それまでに履修した教職に関する科目の状況を踏まえ、教員としての必要な実践的指導力を確認し、その定着を図ることにより、教職生活をより円滑にスタートできることを目的とする。 [到達目標] １　履修カルテを通じて、将来、教員になる上で、自己にとって何が課題であるのかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補うことができる。 ２　急激な社会の変化に対応しきれない子どもたちの心の叫びに耳を傾けることができる。 ３　教師に求められる規範意識を確認することができる。 ４　学校を取り巻く地域社会や保護者との人間関係の構築、専門職との協働等の在り方について、関心をもつことができる。
授業の概要	１　講義形態はオムニバス方式である。学校教育からの視点にとどまらず、それぞれの担当教員が社会的規範、福 　祉の分野から、広い視野をもって将来、教員を目指す学生の資質の向上を図る。 ２　教師としての使命感や責任感、教育的愛情がもてるようにする。 ３　社会性や対人関係能力を養う。 ４　教科内容等の指導力が身につくように、授業設計と模擬授業を取り入れる。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション（授業概要、評価方法等の説明）　　共生社会を生きる 【key words】 ～との共生、共生･共育の思想と実践 【授業概要】 【受講にあたり】 1　全15回の授業はオムニバス方式となっているため、タイトル自体の変更はないが、回の入れ替わりがある。その旨を授業の初日に配布資料等で説明する。 2　資料等に関しては、各担当の教員が用意する。 　障害のある子どもと共に生き、共に学び合う、共生社会を生きる意味を探る。 【教科書ページ・参考文献】 参考図書：嶺井正也･小沢牧子(1996)『共生・教育を求めて』赤石書店. 資料、レジュメ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 共生･教育の思想と実践について、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 子ども観について調べてくること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第２回	子どもの世界　-子ども観とは- 【key words】 子供の世界、子供観

		【授業概要】 子供観とは、子供をどのような存在とみなすかに関する大人社会で広く共有されている見方のことである。近世になって、子供はただの「小さな大人」なのではなく、子供という独自な存在であるとみなされるようになった。子供観の変遷について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 参考図書：宮澤康人、星薫(1992)『子供の世界』放送大学教育振興会. 舘昭、広瀬洋子(1991)『子供観』放送大学教育振興会. 資料、レジュメ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 子ども観とは何か、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 インテグレーションとインクルージョンについて調べてくること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第３回	障害児教育を考える 【key words】 障害者の定義、障害児教育の成立、養護学校義務化 【授業概要】 生産性の低い原始・古代社会は、多くの障害児（者）の遺棄・殺害が行われ、生産力向上･キリスト教の普及になると、障害児（者）の保護・救済が行われるようになった。貧困からの開放の手段として、子ども･障害児（者）の教育・訓練に着目されるようになった歴史的変遷を辿り、現在の障害児教育を考える。 【教科書ページ・参考文献】 参考図書：後藤安彦(1988)『逆光の中の障害者たち』千書房 資料、レジュメ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 障害児教育の歴史的変遷を理解し、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 障害者の権利条約･教育について調べてくること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第４回	学校における合理的配慮と環境整備 【key words】 障害者の権利に関する条約、合理的配慮、環境整備 【授業概要】 平成26年1月、わが国は「障害者の権利に関する条約」を批准し、共生社会の実現に向けたインクルーシブ教育を推進していく必要がある。学校における合理的配慮と環境整備について具体的に学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 障害者の権利条約･教育 資料・レジュメ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・学校における合理的配慮と環境整備について、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 ・教師に必要とされる資質について考えてくること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第５回	教職について考える　①　A小学校教諭のドキュメンタリーから教師に必要とされる資質、教育的愛情、使命感　について学ぶ 【key words】 教師に必要とされる資質、教育的愛情、使命感 【授業概要】 A小学校教諭のドキュメンタリー番組の映像を視聴し、教師に必要とされる資質、教育的愛情、使命感について学ぶ。 グループになり、意見交換を行う。 【教科書ページ・参考文献】 ドキュメンタリー番組の録画 レジュメ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教師に必要とされる資質、教育的愛情、使命感について、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。配布資料を読んでおくこと。学校文化と教師文化について調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第６回	教職について考える　②　学校文化、教師文化からみる教師像 【key words】 学校文化、教師文化 【授業概要】 学校文化、教師文化からみる教師像について学ぶ。 わが国における学校文化、教師文化についてグループ討議を行う。 【教科書ページ・参考文献】 参考書：長田勇他(1990)『なぜ少女は走ったか』川島書店. 配布資料･レジュメ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 わが国における学校文化、教師文化について、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。生徒指導提要を読み、次回の授業に持参すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第７回	教職について考える　③　生徒指導の事例から教師と家庭との連携について考える 【key words】 生徒指導の在り方、家庭との連携 【授業概要】 生徒指導（「断念を教えることのつらさ－家庭に複雑な事情のある生徒－」）の事例から教師と家庭との連携について考える グループになり、意見交換を行う。

		【教科書ページ・参考文献】 参考書：関根正明(1998)『子どもの心にせまる生徒指導』学事出版. 配付資料、レジュメ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 生徒指導の在り方について、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。学校内の職務内容、役割等を調べておくこと。第12回、13回のプレゼンテーションの準備をしておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第８回	学校内におけるチームアプローチ 【key words】 教員の役割、職務内容、教職員間の連携 【授業概要】 教員の役割、職務内容、教職員間の連携の在り方について学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 配布資料、レジュメ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 学校を取り巻く地域社会と保護者との人間関係について、各自、考えをまとめておくこと。 学校内におけるチームアプローチについて、ミニミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第９回	学校外の関係者との協働 【key words】 地域社会、保護者との連携 【授業概要】 学校を取り巻く地域社会や保護者との人間関係の構築等について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料、レジュメ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 学校を取り巻く地域社会や保護者との人間関係の構築等について、ミニミニレポートにまとめ、期日日までに提出すること。学校と協働している専門機関・専門職にはどのような所・ものがあるか、調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第１０回	他専門機関・専門職との協働 【key words】 医療、福祉、労働 【授業概要】 教員が医療、福祉、労働といった他専門機関・専門職と協働することで、生徒理解を深める 【教科書ページ・参考文献】 配布資料、レジュメ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 他専門機関・専門職との協働について、ミニミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第１１回	教育法規－教師がよってたつべき法規範－①日本国憲法、教育基本法、学校教育法、学校教育法施行規則 【key words】 日本国憲法、教育基本法、学校教育法、学校教育法施行規則、体罰 【授業概要】 日本国憲法、教育基本法、学校教育法、学校教育法施行規則の重要な条文を音読してもらった後、その意義等の解説を加える。それを踏まえて、体罰に関する判例を用いて討論を行なう。 【教科書ページ・参考文献】 配布プリント（日本国憲法、教育基本法、学校教育法、学校教育法施行規則） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布プリント（学校保健安全法、教員職員免許法、地方公務員法、教育公務員特例法、著作権法）の特に下線が引かれた条文を確認しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第１２回	教育法規－教師がよってたつべき法規範－②学校保健安全法、教員職員免許法、地方公務員法、教育公務員特例法、著作権法　務員特例法、著作権法 【key words】 学校保健安全法、教員職員免許法、地方公務員法、教育公務員特例法、著作権 【授業概要】 学校保健安全法、教員職員免許法、地方公務員法、教育公務員特例法、著作権法の重要な条文を音読してもらった後、その意義等の解説を加える。それを踏まえて、著作権に関する具体例を用いて討論を行なう。 【教科書ページ・参考文献】 配布プリント（学校保健安全法、教員職員免許法、地方公務員法、教育公務員特例法、著作権法） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 練習問題の答案提出と交換に解説を渡すので、よく復習をしておいてほしい。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第１３回	授業設計と模擬授業　① -中学校の教育実習から- 【key words】 教材観、生徒観、導入の仕方、授業設計

	【授業概要】 　中学校の教育実習で実施した授業実習を振り返り、授業実習の総まとめとして行なった研究授業を基にして授業設計のあり方を検証する。 　作成した資料を基にプレゼンテーションを行う。 【教科書ページ・参考文献】 発表者が作成した資料、レジュメ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 各発表者の授業設計について、ミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分 第１４回　授業設計と模擬授業　② -高等学校の教育実習から- 【key words】 教材観、生徒観、導入の仕方、授業設計 【授業概要】 　高等学校の教育実習で実施した授業実習を振り返り、授業実習の総まとめとして行なった研究授業を基にして授業設計のあり方を検証する。 　作成した資料を基にプレゼンテーションを行う。 【教科書ページ・参考文献】 発表者が作成した資料、レジュメ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 各発表者の授業設計について、ミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分 第１５回　「教職実践演習」のまとめ；改めて教師とは－使命感・責任感、教育的愛情等を確認する－B小学校の実践事例を通して－ 【key words】 使命感・責任感、教育的愛情 【授業概要】 F県B小学校のLD通級指導教室に通う子どもの「わかった」に寄り添う指導の実際の場面を録画したビデオを視聴し、教師としての使命感・責任感・教育的愛情とは何かを確認する。 【教科書ページ・参考文献】 B小学校の実際の指導の様子を録画したDVD レジュメ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 改めて教師とは－使命感・責任感、教育的愛情等-について、ミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。定期試験に向けて準備をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
受講生に関わる情報および受講のルール	1　遅刻・欠席は授業時間前に必ず届け出ること。無断欠席や遅刻の多い学生は受講取消もあり得る。 2　授業中に課したミニミニレポート・シャトルカードを必ず提出すること。 3　予習復習を必ず行い、疑問点を確認しておくこと。 4　将来、教職に携わる者としての資質を養うため、私語を慎み、誠意ある態度での受講を求める。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード、ミニミニレポート
授業外時間にかかわる情報	1　授業の要約もしくは課題をミニミニレポートにまとめ、指定した日時までに提出すること。ミニミニレポートをまとめる際、語句の意味や内容を専門書等で調べ詳細にまとめること。 2　定期試験やミニミニレポートのまとめは授業中の内容が中心となるため、真摯な態度で授業に臨み、毎回の授業内容を確認し、疑問点等を残さないようにしておくこと。 3　各担当教員の課題を期日までにまとめ提出すること。
オフィスアワー	水曜日　16時～17時30分　それ以外の時間帯については、要相談・要予約
評価方法	授業中に課したミニミニレポート(30%)、小テスト･課題(40%）、発表の内容（10%）、試験またはレポート（20%）を総合して評価する。
教科書	各担当教員が準備する。
参考書	講義の中で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 ・教育委員会の適応指導教室、中学校の特別支援学級を担当した経験をもつ教員が、一人一人の子どもの障害特性を理解し、多様性を受け入れられる広い視野がもてる教師の育成を目指す。 ・校長職を務めた教員が、学校を取り巻く地域社会や保護者との人間関係の構築、専門職との協働等について、学校現場で求められる教員の基本的な在り方・資質を学ぶ。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法

	等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 病弱者の心理・生理・病理　　授業コード： S5351

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4年次	2単位(30)	学校教育コース・選択
担当教員			
山﨑　博幸			
専門科目	講義		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 病弱児の教育では、児童生徒の個別の実態を適切に把握し、心理・生理・病理学の側面を踏まえて援助することが必要である。そのために、障害の原因となる疾患について生物学的な観点から理解することを目的とする。 【到達目標】 ①人体の機能・構造および疾患の成り立ちについて説明することができる。 ②病弱者（児）の心理・生理・病理の基本的知識について説明することができる。
授業の概要	病弱児は、その原因となる疾患のため、学校教育や社会参加に支障をきたしている。病弱児を支援するには、その疾患及び病態を理解することが前提となる。そのために、基本的な人体の構造・機能を学び、その後代表的な疾患群を学習する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	イントロダクション 【key words】 健康、病気、障害、症候群、疫学統計、ICIDH、ICF、WHO、ADL、QOL 【授業概要】 健康、病気、障害、症候群の定義等、全体の講義の計画を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 p1～14 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当箇所を読んでおくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 45分
	第２回	子どもの発達 【key words】 発達、発達障害、粗大運動、言語、微細運動、適応、個人・社会 【授業概要】 子どもの発達について、発生学的な面から行動学的な面について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 p17～27 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当箇所を読んでおくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 45分
	第３回	発達障害の考え方 【key words】 DSM-5、広汎性発達障害、自閉症、アスペルガー症候群、注意欠陥多動性障害 【授業概要】 DSM-5によって定義された自閉スペクトラムや周辺領域について理解する。

		【教科書ページ・参考文献】 p28～44 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当箇所を読んでおくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 45分
	第４回	発達障害と二次障害 【key words】 二次障害、ストレッサー、ストレス 【授業概要】 発達障害にともなう二次障害について理解する。 場合によっては二次障害のほうが原因疾患より問題になることを理解する。 【教科書ページ・参考文献】 p45～55 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当箇所を読んでおくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 45分
	第５回	循環器疾患 【key words】 心臓、先天性心疾患、後天性心疾患、原因となる基礎疾患 【授業概要】 心臓の解剖、機能等の基礎知識から代表的な疾患について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 p59～69 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当箇所を読んでおくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 45分
	第６回	呼吸器疾患 【key words】 呼吸器、肺、気管、気管支、風邪、インフルエンザ、集団感染、気管支ぜん息、過換気症候群 【授業概要】 呼吸器の解剖や換気のメカニズム、代表的な呼吸器疾患について理解する。 代表的な呼吸器感染症（風邪、インフルエンザ、COVID-19等）について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 p74～85 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当箇所を読んでおくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 45分
	第７回	悪性腫瘍 【key words】 小児がん、白血病、リンパ腫、脳腫瘍、神経芽腫、ウィルムス腫瘍、化学療法、造血幹細胞移植 【授業概要】 悪性腫瘍の発生メカニズム、統計、疫学等の基礎知識および小児がんについて理解する。 小児がんの代表である白血病について、その歴史や病態について概要を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 p86～102 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当箇所を読んでおくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 45分
	第８回	腎・泌尿器疾患 【key words】 腎臓、ネフロン、急性腎炎、慢性腎炎、ネフローゼ症候群、腎不全 【授業概要】 腎臓の機能及び代表的な腎疾患について理解する。 腎臓の微小解剖についても理解する。 【教科書ページ・参考文献】 p103～114 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当箇所を読んでおくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 45分
	第９回	成長障害、内分泌疾患 【key words】 内分泌、成長ホルモン、成長障害、脳下垂体、甲状腺、膵臓、糖尿病 【授業概要】 成長障害を伴う内分泌疾患やⅠ型糖尿病について理解する。 自己免疫疾患の概要について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 p115～133 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当箇所を読んでおくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 45分
	第１０回	消化器、肝臓、栄養疾患 【key words】 消化器系、肝臓、胆のう、膵臓、胃食道逆流症 【授業概要】 消化器系の解剖と機能、および代表的な疾患について理解する。

	附属器官（肝臓、すい臓等）に機能についても理解する。 【教科書ページ・参考文献】 ｐ134～149 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書該当箇所を読んでおくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 45分
	第１１回　神経系疾患（1） 【key words】 神経発生、てんかん、脳性まひ、染色体異常、外胚葉、神経皮膚症候群 【授業概要】 てんかん、ダウン症、神経発生の異常による疾患について概要を理解する。 てんかんの起こるメカニズムについて理解する。 【教科書ページ・参考文献】 ｐ150～172 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書該当箇所を読んでおくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 45分
	第１２回　神経系疾患（2） 【key words】 知的障害、知的障害の原因疾患、水頭症、筋ジストロフィー 【授業概要】 知的障害の原因疾患について、その概要を理解する。 脳の解剖についても復習する。 【教科書ページ・参考文献】 ｐ173～194 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書該当箇所を読んでおくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 45分
	第１３回　病気、障害の受容とセルフケア 【key words】 受容、セルフケア、主体性 【授業概要】 発達段階における病気、障害のセルフケア、疾患の受け止め方、受容過程について理解する。 事例を通して、病気の受容過程について考察する。 【教科書ページ・参考文献】 ｐ197～205 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書該当箇所を読んでおくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 45分
	第１４回　病気、障害の子どもの心理的特性 【key words】 病気の概念、メンタルヘルス、ターミナル期、ステロイド剤 【授業概要】 一般的な子どもの心理的特性から病気の概念、病気の子どもの心理的特性について理解する。さらに事例を通して、病弱児の心理について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 ｐ206～214 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書該当箇所を読んでおくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 45分
	第１５回　まとめと授業の振り返り 【key words】 健康、疾病、病気、障害、解剖学、生理学、病理学 【授業概要】 人体の構造及び、これまでの講義で学んだ疾患について、その成り立ち、病理について復習する。 【教科書ページ・参考文献】 ｐ１～２１４ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 これまでの講義ノートを見返すこと。 【予習復習に必要な想定時間】 45分
受講生に関わる情報および受講のルール	病弱児の療育及び福祉に対する熱意のある学生の受講を望みます。教員が指名した時はきちんと受け答えをすること。スマートフォンは基本的に机の上に置かずにしまっておくこと。私語を注意しても止めない場合は退室させます。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード　又は　Google Form
授業外時間にかかわる情報	授業時の指示する
オフィスアワー	木曜日、金曜日の4限（面接希望の学生は事前に要連絡）
評価方法	筆記試験（80%）　レポート（20%）
教科書	小野次朗ら　編著　　「病弱児の生理・病理・心理」　　ミネルヴァ書房　最新版
参考書	宮本信也、土橋圭子　編集　　「病弱・虚弱児の医療・療育・教育」　　金芳堂

実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： LD等教育総論　　授業コード： S5401

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年次	2単位(30)	学校教育コース・選択
担当教員			
江原　京子			
専門科目	講義		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 　地域の小・中学校に在籍するLD（学習障害）、ADHD（注意欠陥多動性障害）、高機能自閉症等、発達障障害のある子ども達の特性を把握し、一人一人がもつ「困り感」を理解し、その指導・支援方法を考えていく。 [到達目標] 1　LD･ ADHD･高機能自閉症等、発達障害のある子ども達の特性を把握できる。 2　LD･ ADHD･高機能自閉症等、発達障害のある子ども達がもつ「困り感」に寄り添う指導・支援ができる。 3　LD通級指導教室の実際の指導の様子をみて、一人一人に合った教材・教具を作成することができる。
授業の概要	1　特殊教育から特別支援教育へと移行した歴史的背景に触れながら、LD,ADHD,高機能自閉症といわれる発達障がい 　のある子どもたちの学校における「困り感」を緩和できるような指導・支援方法を考えていく。 2　LD 通級指導教室での実際の指導の様子を見ながら、発達障がいのある子どもにとって有効な指導・支援方法を探 　り、個別の教育支援計画・指導計画の作成方法を学ぶ。 3　学校の支援体制にも触れ、保護者との好ましい関係づくりを模索していく。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	△
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション（授業概要、評価方法等の説明）　　特殊教育から特別支援教育へ 【key words】 特殊教育、特別支援教育 【授業概要】 ※　15回の予定は、受講生の関心や理解の程度により多少変更があります。 障害の種類や程度等に応じ特別の場で指導を行う特殊教育から、障害のある児童生徒まで含めて一人ひとりの教育的ニーズに応じて適切に支援を行う特別支援教育とは何かを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 参考書：石部元雄『よくわかる障害児教育　第3版』(2015) ミネルヴァ書房 文部科学省ホームページ　第1章　特殊教育から特別支援教育へ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特殊教育から特別支援教育へと変わっていった歴史的変遷を復習し、本時の授業内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。テキストP64～P79の該当ページを事前に学習しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第２回	LDとは　　LDの定義・特性（視･聴覚）-アメリカにみる歴史的な背景 - 【key words】 LDの定義、特性(視覚･聴覚) 【授業概要】

		LDの概念がS.A.Kirkによって提唱された当時のアメリカの社会的背景に目を向ける。 LDの定義に言及し、その特性（視覚･聴覚）を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 テキストP64～P71　第3章　LD、ADHD、高機能自閉症の概論 【課題・予習・復習・授業準備指示】 LDとは何か、LDの定義とその特性に言及した本時の授業内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。テキストP64～P71、P80～P92の該当ページを事前に学習しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
第３回	ADHDとは　　ADHDの定義・特性(感覚と知覚)	【key words】 ADHDの定義、特性(感覚と知覚) 【授業概要】 ADHDの定義に言及し、その特性(感覚と知覚）を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 テキストP64～P71、P80～P92　第3章　LD、ADHD、高機能自閉症の概論 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ADHDとは何か、ADHDの定義とその特性に言及した本時の授業内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。テキストP64～P79、P93～P102の該当ページを事前に学習しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
第４回	高機能自閉症と自閉症　　自閉症の定義・特性(感覚と知覚)	【key words】 高機能自閉症、自閉症の定義、特性(感覚と知覚) 【授業概要】 高機能自閉症、自閉症の定義に言及し、その特性(感覚と知覚）を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 テキストP64～P79、P93～P102　第3章　LD、ADHD、高機能自閉症の概論 【課題・予習・復習・授業準備指示】 高機能自閉症の定義とその特性に言及した本時の授業内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。発達の遅滞や発達障害の判定のために用いられることの多い、WISC知能検査について調べておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
第５回	WISC知能検査から子どもの特徴を捉える	【key words】 WISC知能検査、子どもの特徴･特性 【授業概要】 ・発達の遅滞や広汎性発達障害の判定のために用いられることの多いWISC知能検査を学び、子どもの 特徴･特性を捉える。 ・実際のWISC知能検査に触れる。 【教科書ページ・参考文献】 WISC知能検査 WISC知能検査についての配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実際のWISC知能検査に触れ、本時の授業内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 文部科学省ホームページ：「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」とについて調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
第６回	「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」	【key words】 個別の教育支援計画、個別の指導計画 【授業概要】 「個別の教育支援計画」、「個別の指導計画」とは何かについて学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 文部科学省ホームページ「個別の指導計画」と「個別の教育支援計画」について 「個別の指導計画」と「個別の教育支援計画」についての資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」とは何か、本時の授業内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。テキストP12～P19の該当ページを事前に学習しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
第７回	発達障がいのある子どもの「困り感」に寄り添う支援　①　読み書きが苦手な子どもの理解と指導の在り方	【key words】 発達障がい、「困り感」、読み書きの指導 【授業概要】 読み書きが苦手な子どもの理解と指導の在り方を学び、発達障がいのある子どもの「困り感」に寄り添う支援を考える。 【教科書ページ・参考文献】 テキストP12～P19　第2章　指導の方法と理論:具体例をとおして 【課題・予習・復習・授業準備指示】 読み書きが苦手な子どもの理解と指導の在り方について、本時の授業内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。テキストP20～P27　第2章　指導の方法と理論:具体例を事前に学習しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】

		60分～90分
	第８回	発達障がいのある子どもの「困り感」に寄り添う支援　②　算数が苦手な子どもの理解と指導の在り方 【key words】 発達障がい、「困り感」、算数の指導 【授業概要】 算数が苦手な子どもの理解と指導の在り方を学び、発達障がいのある子どもの「困り感」に寄り添う支援を考える。 【教科書ページ・参考文献】 テキストP20～P27　第2章　指導の方法と理論:具体例をとおして 【課題・予習・復習・授業準備指示】 算数が苦手な子どもの理解と指導の在り方について、本時の授業内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。テキストP28～P43　第2章　指導の方法と理論:具体例を事前に学習しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第９回	発達障がいのある子どもの「困り感」に寄り添う支援　③　不注意・多動・衝動性のある子どもの理解と指導の在り方 在り方 【key words】 発達障がい、「困り感」、不注意･多動･衝動性 【授業概要】 不注意・多動・衝動性のある子どもの理解と指導の在り方を学び、発達障がいのある子どもの「困り感」に寄り添う支援を考える。 【教科書ページ・参考文献】 テキストP28～P43　第2章　指導の方法と理論:具体例をとおして 【課題・予習・復習・授業準備指示】 不注意・多動・衝動性のある子どもの理解と指導の在り方について、本時の授業内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。テキストP44～P61の該当箇所を事前に学習しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第１０回	発達障がいのある子どもの「困り感」に寄り添う支援　④　対人関係が苦手な子どもの理解と指導の在り方 【key words】 発達障がい、「困り感」、対人関係 【授業概要】 対人関係が苦手な子どもの理解と指導の在り方を学び、発達障がいのある子どもの「困り感」に寄り添う支援を考える。 【教科書ページ・参考文献】 テキストP44～P61　第2章　指導の方法と理論:具体例をとおして 【課題・予習・復習・授業準備指示】 対人関係が苦手な子どもの理解と指導の在り方について、本時の授業内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。テキストP8～プレゼンテーションを行う箇所を選び、事前にレジュメを作成し準備を行う。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第１１回	LD通級指導教室の指導の実際　　①　子どもの実態を把握する 【key words】 LD通級指導教室、子どもの実態、指導の実際 【授業概要】 ※プレゼンテーションの順番について;予め学生相互で話し合って決定する。 　レジュメ等、プレゼンテーションに必要な資料は各自が予め用意し、配布する。 LD通級指導教室に通う子どもの実態を把握し、指導の実際を学ぶ。 テキストの第2章　指導の方法と理論:具体例をとおしての中から、興味関心のある指導例をまとめ、プレゼンテーションを行う①。 【教科書ページ・参考文献】 テキストP8～　第2章　指導の方法と理論:具体例をとおして 資料：プレゼンテーションのレジュメ等 【課題・予習・復習・授業準備指示】 LD通級指導教室の指導の実際を踏まえ、プレゼンテーションの内容についてミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。プレゼンテーションの準備をする。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第１２回	LD通級指導教室の指導の実際　　②　子どもの実態に合った指導・支援方法を捉える 【key words】 LD通級指導教室、子どもの実態、指導･支援方法 【授業概要】 LD通級指導教室に通う子どもの実態を把握し、指導・支援方法を捉える。 テキストの第2章指導の方法と理論:具体例をとおしての中から、興味関心のある指導例をまとめ、プレゼンテーションを行う②。 【教科書ページ・参考文献】 テキストP8～　第2章　指導の方法と理論:具体例をとおして 資料：プレゼンテーションのレジュメ等 【課題・予習・復習・授業準備指示】 LD通級指導教室の指導の実際を踏まえ、プレゼンテーションの内容についてミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。プレゼンテーションの準備をする。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第１３回	LD通級指導教室の指導の実際　　③　子どもの実態に合った教材・教具を考える 【key words】 LD通級指導教室、子どもの実態、教材･教具

	【授業概要】 LD通級指導教室に通う子どもの実態を把握し、一人ひとりに合った教材・教具の在り方について考える。 テキストの第2章指導の方法と理論:具体例をとおしての中から、興味関心のある指導例をまとめ、プレゼンテーションを行う③。 【教科書ページ・参考文献】 テキストP8～　第2章　指導の方法と理論:具体例をとおして 資料：プレゼンテーションのレジュメ等 【課題・予習・復習・授業準備指示】 LD通級指導教室の指導の実際を踏まえ、プレゼンテーションの内容についてミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。プレゼンテーションの準備をする。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第１４回　LD通級指導教室の指導の実際　　④　教材・教具の有効的な活用方法 【key words】 LD通級指導教室、教材･教具の有効的な活用方法 【授業概要】 LD通級指導教室に通う子どもの実態を把握し、一人ひとりに合った教材・教具の有効な活用方法について考える。 テキストの第2章指導の方法と理論:具体例をとおしての中から、興味関心のある指導例をまとめ、プレゼンテーションを行う④。 【教科書ページ・参考文献】 テキストP8～　第2章　指導の方法と理論:具体例をとおして 資料：プレゼンテーションのレジュメ等 【課題・予習・復習・授業準備指示】 LD通級指導教室の指導の実際を踏まえ、プレゼンテーションの内容についてミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。LD指導教室の指導の実際を確認しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第１５回　保護者との関わり／まとめ 【key words】 保護者との関わり、寄り添う 【授業概要】 LD通級指導教室等、通常学級に在籍している発達障がいのある子どもとの指導・支援を通して、当該子どもの保護者との関わり、寄り添う支援を考える。 まとめを行う。 【教科書ページ・参考文献】 テキストP8～　第2章　指導の方法と理論:具体例をとおして 資料：保護者との関わりについて 【課題・予習・復習・授業準備指示】 LD通級指導教室等、通常学級に在籍する子どもとの関わりを通して、当該子どもの保護者との関わり方についてミニレポートにまとめ期日までに提出すること。定期試験に向けて準備をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
受講生に関わる情報および受講のルール	1　遅刻・欠席は授業時間前に必ず届け出ること。無断欠席や遅刻の多い学生は受講取消もあり得る。 2　授業中に課したミニレポート・シャトルカードを必ず提出すること。 3　予習復習を必ず行い、疑問点を確認しておくこと。 4　将来、教職に携わる者としての資質を養うため、私語を慎み、誠意ある態度での受講を求める。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード、ミニミニレポート
授業外時間にかかわる情報	1 授業の要約もしくは課題をミニミニレポートにまとめ、指定した日時までに提出すること。ミニミニレポートをまとめる際、語句の意味や内容を専門書等で調べ詳細にまとめること。 2 定期試験やミニミニレポートのまとめは授業中の内容が中心となるため、真摯な態度で授業に臨み、毎回の授業内容を確認し、疑問点等を残さないようにしておくこと。
オフィスアワー	水曜日　16時～17時30分　それ以外の時間帯については、要相談・要予約
評価方法	授業中に課したミニミニレポートの内容（30%）、発表（20%）、試験またはレポート（50%）を総合して評価する。
教科書	独立行政法人国立特殊教育総合研究所『LD・ADHD・高機能自閉症の子ども指導ガイド』東洋館出版、2005年
参考書	佐藤暁著　『見てわかる　困り感に寄り添う支援の実際』　学習研究社、200８年
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 学習障害コーディネーターの経験をもつ教員が、通常学級におけるLDの特性が見られる児童の指導、さらにはLD通級指導教室に通う児童の指導、担当教諭の指導を通して、一人一人に合った教材・教具の工夫・作成ができ、子どもの「困り感」に寄り添う指導･支援ができる教師を養成する。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク

	■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 病弱教育　　授業コード： S5411

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年次	2単位(30)	学校教育コース・選択
担当教員			
大谷　幸雄			
専門科目	講義		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目標〕 病弱教育では特別支援教育の中では普通教育に近い学習をすることも求められている。また、近年、からだの病気以外にも心に問題を抱えている児童生徒も入級してきている。病弱教育のこのような様々の現状とその対応について理解できる。 〔到達目標〕 ①病弱児の主な病気についての理解が深まる。 ②病弱教育に係わる教員の専門性について理解できる。 ③病気の子や保護者の気持ちが理解できる。
授業の概要	病弱教育は対象の児童生徒が罹患している主な病気について理解を深めるとともに、病弱教育の教員として問われる資質についても考えながら、病弱教育の専門性と病弱教員としての基本的な知識が習得出来る。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	○
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	△
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画

第１回　オリエンテーション　病弱教育とは　病気の子どもの現状

【key words】
病弱　虚弱　病弱教育　病弱の子の現状　障害者白書　全国病弱調査

【授業概要】
シラバスについて。病弱、虚弱の意味。テキストについて説明。県内の病弱特別支援学校について。学校参観について。　普通教育、特別支援教育、病弱教育のそれぞれの専門性について。学生に病気について調査発表の依頼。「①病弱教育ではどんな教員が求められているか？　②また、病弱教育に対してどのような対応が求められているかなど、また、この授業で何を学習したいか」をレポートにより提出。

【教科書ページ・参考文献】
テキストｐｐ．１６－２９。参考書「病気の子どもの理解のために」より引用
【課題・予習・復習・授業準備指示】
発表担当の病気について調べること、本日のまとめ、次回の予習（配付資料）をする。
【予習復習に必要な想定時間】
３０～４０分

第２回　病弱教育の変遷と現状

【key words】
海外の病弱教育　日本の病弱教育　病弱児の学校教育

【授業概要】
海外の病弱教育の歴史　日本の病弱教育の歴史　休暇集落　養護学園など病弱教育の歴史と用語の説明　病弱教育の意義　病気の子どもの学校教育

【教科書ページ・参考文献】
配付資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】

本日のまとめと整理、課せられた病気について調べまとめておくこと。次回の予習。次回の発表者は発表資料を準備すること。
【予習復習に必要な想定時間】
４０分～６０分

第３回　特別支援教育の現状　　病気の理解について①～例：色素性乾皮症　膠原病
【key words】
インクルーシブ教育　特別支援学校　特別支援学級　通級による指導　合理的配慮　XP　紫外線　コラーゲン病　エリテマトーデス　あざ

【授業概要】
特別支援教育の現状、特に病弱教育について理解する。また、色素性乾皮症、膠原病等について発表してもらった後、病弱教育の観点から配慮事項等を考察する。

【教科書ページ・参考文献】
テキストｐｐ．２２、１１２－１３５　参考書「病気の子どもの理解のために」
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本日の病気と病弱教育としての観点から、配慮事項等をまとめ整理する。次回の予習。次回の発表者は発表資料準備を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
４０分～６０分

第４回　具体的な指導への配慮事項①　不安　　病気の理解について②～例：腎疾患　てんかん等
【key words】
子どもの不安　ソーシャルサポート　組織的な対応　腎臓の働き　発作　コントロール　診断と治療法　退院後　セルフケア

【授業概要】
病気になった子どもの不安、対応の仕方について考える。　発表者に腎疾患等について発表してもらった後、病弱教育の観点から配慮事項等を考察する

【教科書ページ・参考文献】
テキストｐｐ.１６－４７　ｐｐ．１１２－１３５　必要に応じて参考書の該当箇所
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本日の病気と病弱教育としての観点から、配慮事項等をまとめ整理する。次回の予習。次回の発表者は発表資料準備を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
４０分～６０分

第５回　学校視察　出来ない場合は全国の病弱教育特別支援学校について資料調査
【key words】
病弱教育の現場　全国にある病弱の特別支援学校

【授業概要】
県内の病弱特別支援学校を訪問、参観と説明を聞き、病弱教育の現状を知る。授業で出てきた病弱教育特有の特徴の確認を行う。見学の日を変更しても参観実施出来ない場合は全国にある病弱特別支援学校について資料等を通して実態調査をし発表する。

【教科書ページ・参考文献】
必要に応じて病弱特別支援学校の資料配付
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本日の病弱の特別支援学校の感想文①を提出する。次回の発表者は発表資料準備を行うこと。学校参観が実施出来なかった場合は、授業で出された日本国内にある病弱特別支援学校についてまとめ、課題等まとめて提出。
【予習復習に必要な想定時間】
３０分～４０分

第６回　病気の子どもに関する手続きと関係法令　　病気の理解について③～例：アレルギーとぜんそく　クローン病　等
【key words】
学校教育法　学校生活管理指導表　病院にある学級　退院後　気管支　アレルゲン　治療　ピークフローメーター　炎症性腸疾患

【授業概要】
病気に罹患した子どものための教育環境について考える。法令に基づいた対応とは。　病気について発表してもらった後、病弱教育としての配慮事項を考察する。

【教科書ページ・参考文献】
テキストｐｐ７６－９８、１１２－１３５　必要に応じて参考書の該当箇所
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本日の病気と病弱教育としての観点から、配慮事項等をまとめ整理する。次回の予習。次回の発表者は発表資料準備を行う。今までの病弱教育の確認ミニテスト次回予告
【予習復習に必要な想定時間】
４０分～６０分

第７回　学習指導要領を踏まえた病弱教育について①　　病気の理解について④～例：肥満　糖尿病　等
【key words】
個別の教育支援計画　訪問教育　自立活動　食事　運動　生活　血糖値　インシュリン　体重

【授業概要】
学習指導要領を踏まえて行う病弱教育の中にある個別の教育支援計画、教育課程編成について考える。また、発表者に肥満、糖尿病等について発表してもらった後、病弱教育の観点から配慮事項等を考察する。ミニテスト実施。

【教科書ページ・参考文献】
テキストpp.２２－６９　ｐｐ．１１２－１３５必要に応じて参考書の該当箇所
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本日の病気と病弱教育としての観点から、配慮事項等をまとめ整理する。次回の予習。次回の発表者は発表資料準備を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
４０分～６０分

第８回　学習指導要領を踏まえた病弱教育について②　病気の理解について⑤～例：筋ジストロフィー　潰瘍性大腸炎　等
【key words】
合理的配慮　高等部　自立活動　教科書　ベッドサイド　ジストロフィン　筋力低下　大腸　二次障害　クローン病

【授業概要】
前回に引き続けて学習指導要領を踏まえた指導について考える。　発表者に筋ジストロフィ、腫瘍性大腸炎等について発表してもらた後、病弱教育の観点から配慮事項等を考察する

【教科書ページ・参考文献】
テキストpp.２２－６９　ｐｐ．１１２－１３５必要に応じて参考書の該当箇所
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本日の病気と病弱教育としての観点から、配慮事項等をまとめ整理する。次回の予習。次回の発表者は発表資料準備を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
４０分～６０分

第９回　具体的な指導への配慮事項②（入院まで）　病気の理解について⑥～例：心疾患　ペルテス病　等
【key words】
身体の病気の事例　チアノーゼ　大腿骨　早期診断　早期治療

【授業概要】
身体の病気の事例について検討する。　発表者に心疾患、ペルテス病等について発表してもらった後、病弱教育の観点から配慮事項等を考察する。

【教科書ページ・参考文献】
テキストpp.１６－８１　ｐｐ．１１２－１３５必要に応じて参考書の該当箇所
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本日の病気と病弱教育としての観点から、配慮事項等をまとめ整理する。次回の予習。次回の発表者は発表資料準備を行う。次回ミニテスト実施予定。
【予習復習に必要な想定時間】
４０分～６０分

第１０回　具体的な指導への配慮事項③（家族に対して他）　病気の理解について⑦～例：もやもや病　ムコ多糖症　等
【key words】
ペアレントトレーニング　心の病　脳血管　バイパス手術　GAG　酵素補充　喪失の体験

【授業概要】
身体の病気事例について検討する。　発表者にもやもや病、ムコ多糖症等について発表してもらった後、病弱教育の観点から配慮事項等を考察する。ミニテスト実施。

【教科書ページ・参考文献】
テキストpp.１６－８１　ｐｐ．１１２－１３５必要に応じて参考書の該当箇所
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本日の病気と病弱教育としての観点から、配慮事項等をまとめ整理する。次回の発表者は発表資料準備を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
４０分～６０分

第１１回　具体的な指導への配慮事項④（入院中）　病気の理解について⑧～例：白血病　血友病　等
【key words】
前籍校　医療との連携等　骨髄　プロトコール　造血組織　出血症状　インヒビター

【授業概要】
退院後に考えられることを事例を通して理解する。発表者に白血病、血友病等について発表してもらった後、病弱教育の観点から配慮事項等を考察する

【教科書ページ・参考文献】
テキストpp.１６－８１　ｐｐ．１１２－１３５　必要に応じて参考書の該当箇所
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本日の病気と病弱教育としての観点から、配慮事項等をまとめ整理する。次回の予習。次回の発表者は発表資料準備を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
４０分～６０分

第１２回　具体的な指導への配慮事項⑤（退院に向けて）　病気の理解について⑨～例：こころの病気　等
【key words】
ストレス、　脳の病気、１００人に一人

【授業概要】
こころの病は誰もが罹患する可能性のあるものであり、適切な治療で完治するものでもあるが、

	こじらせてしまうこともありうる。様々な心の病気について知り、正しい理解をする。 【教科書ページ・参考文献】 テキストpp.１６－１９．１１２－１３５．　必要に応じて参考書の該当箇所 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日の病気と病弱教育としての観点から、配慮事項等をまとめ整理する。次回の予習。次回の発表者は発表資料準備を行う。 【予習復習に必要な想定時間】 ４０分～６０分 第１３回　具体的な配慮事項⑥（発達障害）　病気の理解について⑩～例：脳腫瘍　心身症　他 【key words】 発達障害　LD　ADHD　自閉スペクトラム症 【授業概要】 発達障害（LD、ADHD、自閉スペクトラム症など）と病弱教育について考察する。 【教科書ページ・参考文献】 テキストｐｐ．１１２－１３５他　必要に応じて参考書の該当箇所 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日の病気と病弱教育としての観点から、配慮事項等をまとめ整理する。 【予習復習に必要な想定時間】 ４０分～６０分 第１４回　具体的な指導への配慮事例⑦（退院後の生活、再発）　病気の理解⑪その他の病気 【key words】 配慮事項　受容　多軸評価　連携　知能検査　授業　活動　不登校　二分脊椎　骨形成不全 【授業概要】 現代社会の片隅で生じている様々な問題（摂食障害、不登校、緘黙等）について、考え理解し、対応について対応することができる。 【教科書ページ・参考文献】 テキストｐｐ．１１－９８、　ｐｐ．１１２－１３５ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 今までのまとめをする。今までの様々な検討から病弱教育の教師像を考える。「①この授業で何を学んだか？②どんな病弱教師になりたいか」を振り返ってレポート②次週提出する。 【予習復習に必要な想定時間】 ４０分～６０分 第１５回　病弱教育の展望と今日的課題について 【key words】 病気と社会　自立と病気　進路問題　教師の専門性 【授業概要】 病弱教育の抱えている問題、課題について今まで受講した中から明確にさせていく。病弱教育の現状から問われる教師としての専門性についても考察する。「①この授業で何を学んだか？②どんな病弱教師になりたいか」を振り返ってレポート②を提出する。 【教科書ページ・参考文献】 まとめ資料提示 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特別支援教育の一つである病弱教育について理解が深めたかを自分でチェックする。病気と児童生徒の関係を正しく理解すること。 【予習復習に必要な想定時間】 ４０分～６０分
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に係わる情報〕 ①病弱教育の現地視察が可能であれば、授業の一環として計画する。この場合は見学者の健康管理もできていないと実施できないので十分健康に注意する必要がある。 ②病弱教育は病気に関することを扱うきわめて教師の専門性や倫理観が求められる。そこで児童生徒について知り得た個人情報の取り扱いなどには十分注意する。 ③学校参観の日程などは不確実な面がある。また、病気について発表してもらうので、講義の回数と講義内容が必ずしも一致しない場合がある。確認のため臨時にミニテストを行う場合がある。 〔受講のルール〕 ①予習・復習を必ず行うこと。教科書は授業前に熟読すること。 ②将来自分が病弱教育の担任になったつもりで課題を明確にすること。 ③受講中に他の学生に迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用等）は厳禁
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカードもしくはメール
授業外時間にかかわる情報	質問等あれば授業終了時に、メールまたはコメントカードに記載あれば次回以降に対応。
オフィスアワー	質問があれば授業終了後１０分間に、またはシャトルカードに記載すれば次回以降に対応する。
評価方法	①発表（取り組みと内容）・②ミニテスト・レポート（内容、適切さ）５０％　③筆記もしくはレポート試験（客観　論述）５０％　総合評価は①②③の合計が６０％を超えていること
教科書	独立行政法人　国立特別支援教育総合研究所：「病気の子どもの教育支援ガイド」ジアーズ教育新社　２０１８
参考書	全国特別支援学校病弱教育校長会編：「病気の子どもの理解のために」　より引用するのでプリントアウトする。http://www.nise.go.jp/portal/elearm/shiryou/byoujyaku/supportbooklet.html
実務者経験/アク	

ティブラーニング/ リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 盲教育６年、知的障害教育２５年、肢体不自由教育５年の教育現場で実践教育を積み重ねる。特に障害の重い児童生徒との係わりを通して学んだこと、感じたこと、更に発達障害児の現場経験など踏まえて特別支援教育全般について幅広く講じます。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 精神保健の課題と支援　　授業コード： S7003

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年次	4単位(60)	社会福祉コース・福祉心理コース・選択
担当教員			
鈴木　秀夫			
専門科目	講義	精神保健福祉士指定科目	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】こころと社会について深い関心を持ち、主体的に学習を続け基本知識を理解させる。 【到達目標】ライフサイクルで見る精神保健学の視点を理解させる。精神保健の個別課題への取り組みと実際について理解させる。
授業の概要	精神保健を縦軸（ライフサイクル）　と横軸（日常の実際の生活面）でとらえ、現代社会病理を精神保健の視点でとらえる。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	◎
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画

第１回　オリエンテーション　講義の進め方

【key words】
ライフサイクル
【授業概要】
昔は異常心理学と重なっていた。
今は精神保健・メンタルヘルスと呼び、切り口がライフサイクルになっている。
メンタルヘルスの啓発講話を実際に体験してもらい精神保健の理解を深める。

※　海馬
【教科書ページ・参考文献】
１P～
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２回　精神保健とは？メンタルヘルスの予防とは？

【key words】
カプランさん
【授業概要】
精神保健とは？健康とは？
カプランの第一次予防、第二次予防、第三次予防を理解する。

※ウエルビーン。ヘルスプロモーション
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第３回　ライフサイクルと精神保健

【key words】
ウェルビーン
【授業概要】
WHOの健康の定義。
疾病性、事例性を理解する。

	腕のいい医者は疾病化させない。腕のいいワーカーは事例化させない。 ※スピリチュアルな健康も忘れない。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
第４回	これまでの精神保健教育 【key words】 学校精神保健 【授業概要】 精神疾患についての捉え方、学校保健教育の問題。 人生の節目（ライフサイクル）、ここに目を向ける。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
第５回	学童期前、学童期・青年期の精神保健 【key words】 思春期とドーパミン 【授業概要】 エリクソンの発達課題から教科書に従って。 【教科書ページ・参考文献】 教科書17～28P 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
第６回	モンスターペアレントを精神保健で見ると 【key words】 家族は怖くない 【授業概要】 クライマー、モンスターペアレントはどこにもいる。 ※キーワードは罪悪感！ 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
第７回	不登校・いじめ 【key words】 登校刺激は意味がない 【授業概要】 引きこもりの悪循環。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
第８回	虐待とその背景 【key words】 境界性パーソナリティ障害と虐待 【授業概要】 暴力の連鎖、NHKの教育番組から。斉藤学の調査。 精神疾患との関連。境界性人格障害、解離性障害　…等。 ※精神医学の教科書をひも解く。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
第９回	成人の精神保健 【key words】 うつ病の人格特性 【授業概要】 成人期の危機。職場、家庭での新たな精神保健課題。 ※うつ病 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１０回　アルコール関連問題・薬物乱用について
【key words】
嗜癖とは？
【授業概要】
依存と乱用の区別、違い。

【教科書ページ・参考文献】
教科書107～121P
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１１回　高齢者の精神保健
【key words】
薬の誕生
【授業概要】
認知症対策を中心に。

※二つの失語。

教科書61～69P、82～92P
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１２回　精神保健福祉法の成立と精神保健
【key words】
精神保健医療福祉の改革ビジョン
【授業概要】
精神障害者対策。
パラダイムの転換。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１３回　精神保健福祉の歴史
【key words】
時代の変化
【授業概要】
新しい取り組み、精神保健医療福祉の改革ビジョン。
ストレス－脆弱性モデルを正確に理解し、精神保健福祉と精神科医療の実際を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１４回　学校精神保健
【key words】
個人と集団の違い
【授業概要】
犯罪の低年齢化は本当か？
非行の二つのタイプ。家庭裁判所の調査報告を基に。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１５回　DALYと精神保健
【key words】
DALY
【授業概要】
疾病調整生命年（DALY)を知る。
新しい精神保健の捉え方。

※21世紀はメンタルヘルスの時代。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１６回　精神保健を精神病理から見る
【key words】
正常・異常
【授業概要】
異常とは？
量的異常と質的異常。では病的とは？

※清風堂書店「精神保健学」から
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１７回　西のゲール、東の岩倉
【key words】
障害者を地域が支える。
【授業概要】
ベルギーゲールの取り組み。伝説と家庭看護の実際の取り組み。
日本では京都、岩倉の実際。

※スピリチュアルの世界。スピリチュアルな健康！
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１８回　記憶の異常
【key words】
記憶、知能、認知
【授業概要】
前期、認知症の単元を復習。神経伝達物質、ドーパミン、セロトニンだけでなくアセチルコリンも。
大脳中枢神経について精神医学の教科書から。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１９回　知能・　知覚の異常
【key words】
感覚、知覚
【授業概要】
幻覚としての幻聴、幻視の違い。

※精神医学をひも解く。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２０回　感情の異常
【key words】
不安も感情の障害
【授業概要】
気分障害と感情の異常。
抑うつ、不安、パニックも感情の障害。
パニック障害を正確に知る。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２１回　不眠と精神保健
【key words】
レム睡眠、ノンレム睡眠
【授業概要】
不眠のメカニズム。時差ボケがどうして起こるか？
うつ病の不眠。入眠導入剤。新たに非ベンゾジアゼピン系も出た。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２２回　精神障害者の現状
【key words】
復習を兼ねて！
【授業概要】
平成25年精神保健福祉法の改正で「退院後生活環境相談員」が誕生。
そして地域移行が加速化。

※精神障害者制度改革
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２３回　障害者総合支援法
【key words】

精神保健福祉法や医療法と組めるのか？

【授業概要】
教科書のポイントから総合支援法を押さえる。

【教科書ページ・参考文献】
教科書238P～。136P～
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２４回　医療観察法、更生保護法
【key words】
CPAやケース会議の区別
【授業概要】
ソーシャルワークとプロベーションの違い。
更生保護制度を絡めて。

【教科書ページ・参考文献】
教科書149～164P
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２５回　精神保健関連法
【key words】
保健所の業務
【授業概要】
地域精神保健の実際と課題。
生活臨床も忘れずに！
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２６回　世界の精神保健
【key words】
国連総会、WHO
【授業概要】
DALYをもう一度。アルコール関連問題での社会的損出をについても扱う。

※国連やWHOの新しい取り組み。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２７回　緩和ケアと精神保健
【key words】
在宅でターミナルケア
【授業概要】
これまでのターミナルケアからの転換。

【教科書ページ・参考文献】
教科書164～179P
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２８回　精神保健学の新しい取り組みと調査研究。
【key words】
調査研究
【授業概要】
国際調査研究。参与観察からトライアングレーション。

※プログラム研究とフディリティ尺度。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２９回　精神保健分野における精神保健福祉士の役割
【key words】
司法ソーシャルワーク
【授業概要】
教科書に従って。

※スクールソーシャルワーク、スクールカウンセリング。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

	【予習復習に必要な想定時間】 第３０回　　精神保健の課題と支援を学んで 【key words】 1年間のまとめ。 【授業概要】 1年間のまとめ。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	精神保健福祉士を目指し、国家試験受験を予定している学生は必ず履修すること。（授業中に予備知識、技能上のポイントの助言が多い）適宜レポート提出、小テストを実施する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	施設ボランティア、精神障害者イベントボランティアの紹介。ピア活動・講演会の紹介。
オフィスアワー	原則、火曜除く放課後。
評価方法	定期試験50％　レポート30％　その他毎回での考察２０％
教科書	へるす出版　　精神保健学　　精神保健の課題と支援
参考書	適宜紹介する
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 精神科病院、30年以上のPSWとしての実務経験。最後の１０年は当時の副院長と看護勉強会を実施。他、医局勉強会において医師、SW,CPを対象にSSTトレーニングを実施。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 精神疾患とその治療　　授業コード： S7006

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年次	4単位(60)	社会福祉コース・福祉心理コース・選択
担当教員			
重田　理佐			
専門科目	講義	精神保健福祉士指定科目	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 精神保健福祉士の仕事を行う基礎となる精神医学の知識を身につける。 【到達目標】 １、精神医学、医療の歴史と現状について理解する。 ２、脳及び神経の生理、解剖の基礎の理解。 ３、精神医学の概念、診断の基本について理解する。 ４、代表的な精神障害について理解する。 ５、精神障害の治療の概要について理解する。 ６、病院精神医療について理解する。 ７、司法精神医学、産業精神医学、学校精神保健について理解する。
授業の概要	精神科病院の勤務医としての臨床経験を伝えながら精神保健福祉士の仕事の基礎となる精神医学の知識を習得出来るよう援助する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	○
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	△
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回　授業オリエンテーション 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２回　精神医学、精神医療の歴史 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第３回　精神現象の生物学的基礎 【key words】 【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第４回　精神医学の概念

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第５回　精神疾患の症状と診断１

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第６回　精神疾患の症状と診断２

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第７回　精神科検査法

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第８回　器質性精神障害

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第９回　精神作用物質使用による精神及び行動の障害

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１０回　統合失調症１

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１１回　統合失調症２

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１２回　気分障害

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１３回　気分障害２

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１４回　神経症性障害１

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１５回　神経症性障害２、摂食障害

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１６回　パーソナリティ障害、人格障害

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１７回　知的障害、発達障害

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１８回　小児期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１９回　精神科薬物療法

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２０回　電気けいれん療法
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２１回　精神療法
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２２回　作業療法、リハビリテーション
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２３回　精神医療の現在
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２４回　医療観察法、司法精神医学
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２５回　精神科救急
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２６回　産業精神医学
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２７回　学校精神保健
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

	【予習復習に必要な想定時間】 第２８回　　復習１ 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２９回　　復習２ 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第３０回　　復習３ 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	予習復習を行う。積極的な授業への参加、質問を行うことが望ましい。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	授業時に指示する。
オフィスアワー	授業終了後30分。
評価方法	前期末にレポート課題を行い、後期末に筆記試験を行う。筆記試験により評価を行う。
教科書	新・精神保健福祉士養成講座１　精神疾患とその治療　中央法規
参考書	講義のなかで適宜紹介していく。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 精神科病院の勤務医 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 精神保健福祉援助実習指導Ⅱ　　授業コード： S7008

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年次	2単位(60)	社会福祉コース・福祉心理コース・選択
担当教員			
三橋　真人			
専門科目	演習	精神保健福祉士指定科目	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 各自の配属実習先の特徴を学びながら、精神障害者の理解、精神障害者及び精神障害者施設の歴史的背景や制度の理解、配属実習先の理解をとおして、自らの精神保健福祉士像を明確にし、精神保健福祉士として援助できるようになることを目的とする。 【到達目標】 ①配属実習機関における精神保健福祉士の役割を学び、理解する。 ②実習における各自の実習目標の設定方法や記録方法を具体的に学ぶ。 ③精神保健福祉士として精神疾患を抱えている人を理解し、受容できるようになる。 ④精神保健福祉士としてのアイデンティティを確立する。
授業の概要	実習計画書の作成をとおして精神保健福祉援助実習についての理解を深め、実習後のグループワークをとおした振り返りにより、自らの精神保健福祉士としてのアイデンティティの確立と、対人援助者としての自己覚知を深めていく。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	△
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	○
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	講義オリエンテーションおよび精神保健福祉援助実習に向けての心構え 【key words】 ・オリエンテーション，精神保健福祉援助実習 【授業概要】 【授業概要】 ・精神保健福祉援助実習指導Ⅰでこれまで学習してきた内容について振り返りを行い、本科目との関連性について解説する。 ・前期における本科目の授業内容について説明する。 ・精神保健福祉援助実習について解説する。 【教科書ページ・参考文献】 ・p2-p23 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・テキストを参照し、「精神保健福祉援助実習」について予習をしておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第２回	精神保健福祉現場実習について　配属施設の決定 【key words】 ・精神保健福祉援助実習 【授業概要】 ・各自の配属先施設について伝える。 ・実習に向けて作成する各書類と作成におけるポイントについて説明する。 【教科書ページ・参考文献】 ・p53-p63 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・テキストを参照し、「実習計画、関係書類の作成」について予習をしておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分

	第３回	自己紹介表の作成①　自己紹介表の意義と目的および作成 【key words】 ・自己紹介表 【授業概要】 ・自己紹介表の意義や目的について説明する。 ・グループディスカッションを通して検討することで、自己紹介表を完成させる。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・各自、自分なりに自己紹介表を作成しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第４回	自己紹介表の作成②　自己紹介表の作成 【key words】 ・自己紹介表 【授業概要】 ・グループディスカッションを通して検討することで、自己紹介表を完成させる。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・各自、自分なりに自己紹介表を作成しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第５回	実習計画書の作成①　実習先施設の情報収集および概要書の作成 【key words】 ・実習機関・施設の概要 【授業概要】 ・実習機関・施設の概要を整理することの意義や目的について説明する。 ・グループディスカッションを通して検討することで、実習機関・施設の概要を完成させる。 【教科書ページ・参考文献】 ・p53-p63 ・ソーシャルワーク実習ノート第2版　p14-p17 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・テキストを参照し、「実習計画、関係書類の作成」について予習をしておく。 ・各自、自分なりに実習機関・施設の概要を作成しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第６回	実習計画書の作成②　実習先施設の情報収集および概要書の作成 【key words】 ・実習機関・施設の概要 【授業概要】 ・グループディスカッションを通して検討することで、実習機関・施設の概要を完成させる。 【教科書ページ・参考文献】 ・p53-p63 ・ソーシャルワーク実習ノート第2版　p14-p17 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・各自、自分なりに実習機関・施設の概要を作成しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第７回	実習計画書の作成③　実習先施設の情報収集および概要書の作成 【key words】 ・実習計画書 【授業概要】 ・実習計画書を作成することの意義や目的について説明する。 ・グループディスカッションを通して検討することで、実習計画書を完成させる。 【教科書ページ・参考文献】 ・p53-p63 ・ソーシャルワーク実習ノート第2版　p18-p37 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・テキストを参照し、「実習計画、関係書類の作成」について予習をしておく。 ・各自、自分なりに実習計画書を作成しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第８回	実習計画書の作成④　実習先施設の情報収集および概要書の作成 【key words】 ・実習計画書 【授業概要】 ・グループディスカッションを通して検討することで、実習計画書を完成させる。 【教科書ページ・参考文献】 ・p53-p63 ・ソーシャルワーク実習ノート第2版　p18-p37 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・各自、自分なりに実習計画書を作成しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第９回	現場実習に係わる留意事項①　守秘義務および契約・契約書 【key words】 ・守秘義務，契約書 【授業概要】 ・精神保健福祉士の倫理綱領について解説する。 ・グループディスカッションを通して検討することで、実習生としての守秘義務について理解を深める。

・誓約書を作成する（印鑑持参）。
【教科書ページ・参考文献】
・p69-p75
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを参照し、「実習に向けての心構え」について予習をしておく。
・誓約書を作成するので、印鑑を持参すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第10回　現場実習に係わる留意事項②　卒業生講話
【key words】
・卒業生講話
【授業概要】
・卒業生の講話を聞き、精神保健福祉士の仕事や精神保健福祉援助実習について具体的に理解する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
・卒業生講話に向けて、質問したいことなどを整理しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第11回　実習記録・日誌の記述方法①
【key words】
・実習記録・日誌
【授業概要】
・実習記録・日誌の意義や目的について説明する。
・事例を読み、実際に実習記録を作成してみることによって、実習記録・日誌の書き方について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
・p79-p88
・ソーシャルワーク実習ノート第2版　p38-p61
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを参照し、「実習記録・実習日誌」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第12回　実習記録・日誌の記述方法②
【key words】
・実習記録・日誌
【授業概要】
・グループディスカッションを通して検討することで、実習記録・日誌の目的や書き方について理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
・p79-p88
・ソーシャルワーク実習ノート第2版　p38-p61
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・各自、自分なりに実習記録・日誌を作成しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第13回　実習先への事前訪問について
【key words】
・事前訪問
【授業概要】
・事前訪問の目的について説明する。
・グループディスカッションを通して検討することで、事前訪問の目的や確認すべき内容について理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
・p64-p68
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを参照し、「事前訪問」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第14回　自らの課題検討
【key words】
・課題
【授業概要】
・グループディスカッションを通して検討することで、実習に向けての自らの課題を明らかにし、その対応について理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
・各自、実習に向けて不安なことなどを整理しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第15回　前期のまとめ
【key words】
・まとめ
【授業概要】
・グループディスカッションを通して検討することで、実習に向けての自らの課題を明らかにし、その対応について理解を深める。
・実習に向けての最終確認を行う。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

		・各自、実習に向けて不安なことなどを整理しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第16回	後期の講義の進め方と具体的方法について　オリエンテーション 【key words】 ・オリエンテーション 【授業概要】 ・精神保健福祉援助実習で学習してきた内容について振り返りを行い、後期の授業内容との関連性について解説する。 ・後期における本科目の授業内容について説明する。 【教科書ページ・参考文献】 ・p120-p149 ・ソーシャルワーク実習ノート第2版　p61-p75 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・テキストを参照し、「事後学習」について予習をしておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第17回	配属実習の振り返り①　個別事例の検討 【key words】 ・事後学習 【授業概要】 ・実習後の事後学習の目的や方法について解説する。 ・グループディスカッションを通して検討することで、各自の実習体験を共有し、精神保健福祉士の役割やソーシャルワークについて考察する。 【教科書ページ・参考文献】 ・p120-p149 ・ソーシャルワーク実習ノート第2版　p61-p75 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・各自の実習体験を振り返り、整理しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第18回	配属実習の振り返り②　個別事例の検討 【key words】 ・事後学習 【授業概要】 ・グループディスカッションを通して検討することで、各自の実習体験を共有し、精神保健福祉士の役割やソーシャルワークについて考察する。 【教科書ページ・参考文献】 ・p120-p149 ・ソーシャルワーク実習ノート第2版　p61-p75 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・各自の実習体験を振り返り、整理しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第19回	配属実習の振り返り③　個別事例の検討 【key words】 ・事後学習 【授業概要】 ・グループディスカッションを通して検討することで、各自の実習体験を共有し、精神保健福祉士の役割やソーシャルワークについて考察する。 【教科書ページ・参考文献】 ・p120-p149 ・ソーシャルワーク実習ノート第2版　p61-p75 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・各自の実習体験を振り返り、整理しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第20回	配属実習の振り返り④　個別事例の検討 【key words】 ・事後学習 【授業概要】 ・グループディスカッションを通して検討することで、各自の実習体験を共有し、精神保健福祉士の役割やソーシャルワークについて考察する。 【教科書ページ・参考文献】 ・p120-p149 ・ソーシャルワーク実習ノート第2版　p61-p75 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・各自の実習体験を振り返り、整理しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第21回	配属実習の振り返り⑤　個別事例の検討 【key words】 ・事後学習 【授業概要】 ・グループディスカッションを通して検討することで、各自の実習体験を共有し、精神保健福祉士の役割やソーシャルワークについて考察する。 【教科書ページ・参考文献】 ・p120-p149 ・ソーシャルワーク実習ノート第2版　p61-p75 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・各自の実習体験を振り返り、整理しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】

		60～120分
	第22回	配属実習の振り返り⑥　個別事例の検討 【key words】 ・事後学習 【授業概要】 ・グループディスカッションを通して検討することで、各自の実習体験を共有し、精神保健福祉士の役割やソーシャルワークについて考察する。 【教科書ページ・参考文献】 ・p120-p149 ・ソーシャルワーク実習ノート第2版　p61-p75 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・各自の実習体験を振り返り、整理しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第23回	配属実習の振り返り⑦　個別事例の検討 【key words】 ・事後学習 【授業概要】 ・グループディスカッションを通して検討することで、各自の実習体験を共有し、精神保健福祉士の役割やソーシャルワークについて考察する。 【教科書ページ・参考文献】 ・p120-p149 ・ソーシャルワーク実習ノート第2版　p61-p75 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・各自の実習体験を振り返り、整理しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第24回	配属実習の振り返り⑧　個別事例の検討 【key words】 ・事後学習 【授業概要】 ・グループディスカッションを通して検討することで、各自の実習体験を共有し、精神保健福祉士の役割やソーシャルワークについて考察する。 【教科書ページ・参考文献】 ・p120-p149 ・ソーシャルワーク実習ノート第2版　p61-p75 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・各自の実習体験を振り返り、整理しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第25回	配属実習の振り返り⑨　個別事例の検討 【key words】 ・事後学習 【授業概要】 ・グループディスカッションを通して検討することで、各自の実習体験を共有し、精神保健福祉士の役割やソーシャルワークについて考察する。 【教科書ページ・参考文献】 ・p120-p149 ・ソーシャルワーク実習ノート第2版　p61-p75 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・各自の実習体験を振り返り、整理しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第26回	実習報告会① 【key words】 ・実習報告会 【授業概要】 ・実習報告会の目的や方法について説明する。 ・実習報告会でのプレゼンテーションを聞き、質疑応答を行うことを通して、精神保健福祉士の役割やソーシャルワークについての理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・各自、自分なりに実習報告会の準備をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第27回	実習報告会② 【key words】 ・実習報告会 【授業概要】 ・実習報告会の目的や方法について説明する。 ・実習報告会でのプレゼンテーションを聞き、質疑応答を行うことを通して、精神保健福祉士の役割やソーシャルワークについての理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・各自、自分なりに実習報告会の準備をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第28回	実習報告会③ 【key words】 ・実習報告会

	【授業概要】 ・実習報告会の目的や方法について説明する。 ・実習報告会でのプレゼンテーションを聞き、質疑応答を行うことを通して、精神保健福祉士の役割やソーシャルワークについての理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・各自、自分なりに実習報告会の準備をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分 第29回　振り返りと今後の課題 【key words】 ・振り返り，今後の課題 【授業概要】 ・本科目で学習してきた内容を振り返り、各自が専門職として今後どのような課題に向き合うべきかを考察する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・本科目で学習してきた内容を復習しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分 第30回　全体のまとめ 【key words】 ・まとめ 【授業概要】 ・本科目で学習してきた内容を振り返り、今後向けての講義を行う。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・本科目で学習してきた内容を復習しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
受講生に関わる情報および受講のルール	①対人援助専門職としての態度を身につけるため、時間厳守、連絡および相談、報告を行うことを重視します。 a 遅刻および欠席の場合は、開始前に教務課に連絡する必要があります。 b 無断欠席および無断遅刻の場合は精神保健福祉実習部会にて対応を協議します。 ②精神保健福祉援助実習に関わる授業のため、自ら演習に取り組む実践的行動への努力を重視します。 ③グループワークを中心に講義を進めるため、他者とのグループワークに取り組む努力ができない場合は、受講を認めません。 ④授業中の活動を乱す行為（私語、携帯電話の使用、飲食、居眠り等）は慎んでください。 ⑤提出期限を過ぎたものについては評価の対象になりません。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	ワークシートやコメントカード
授業外時間にかかわる情報	①授業内での自己学習課題の指示は必ず行うこと。 ②授業時間外での日常生活での自己覚知に積極的に取り組むこと。
オフィスアワー	初回の講義内で具体的に案内します。
評価方法	①授業への取り組み（授業内での発言・発表やグループワークへの参加状況）30%。 ②授業レポート（内容および提出状況を含む）30%。 ③課題レポート　40%。
教科書	新精神保健福祉士養成講座「精神保健福祉援助実習指導・実習　第2版」日本精神保健福祉士養成校協会　編集　中央法規出版　2015／「実習へのガイドブック（学生用）」群馬医療福祉大学　2015／「実習生必携　ソーシャルワーク実習ノート　第2版」杉本浩章・田中和彦　みらい　2015
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない

	ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 精神保健福祉援助演習（専門）　　授業コード： S7012

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年次	2単位(60)	社会福祉コース・福祉心理コース・選択
担当教員			
三橋　真人			
専門科目	演習	精神保健福祉士指定科目	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性を視野に入れつつ、精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に必要な知識と技術について実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し、理論化し、体系立てていくことができる能力を身に着ける。 【到達目標】 ①基本的な話す、聴く、書く、観ることを含めたコミュニケーション方法を身につけ、実践できるようになる。 ②精神障害者の生活や生活上の困難について把握することができる。 ③精神保健福祉士に求められる相談援助に必要な知識と技術を習得する。 ④専門的技術を概念化し、理論化し、体系立てていくことができる能力を身に着ける。
授業の概要	精神保健福祉分野での専門的援助技法を具体的に学び、演習をとおして実践できるようグループワークやディスカッション形式で演習をすすめていく。尚、授業のなかでは総合的かつ包括的な相談援助、医療と協働・連携する相談援助に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげるとともに、個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導を中心とした演習形態の授業を行うこととする。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	○
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	前期の講義の進め方と具体的方法について　オリエンテーション 【key words】 ・オリエンテーション 【授業概要】 ・精神保健福祉援助演習（基礎）でこれまで学習してきた内容について振り返りを行い、本科目との関連性について解説する。 ・前期における本科目の授業内容について説明する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・精神保健福祉援助演習（基礎）で学習してきた内容について復習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第２回	セルフヘルプグループについて理解する 【key words】 ・セルフヘルプグループ，ヘルパーセラピー原則，非専門性 【授業概要】 ・事例を読み、グループディスカッションによる検討を通して検討することで、セルフヘルプグループの役割などを理解する。 ・セルフヘルプグループの成り立ちや役割、専門職との関係について解説する。 【教科書ページ・参考文献】 ・p312-p316

【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを参照し、「セルフヘルプグループ」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第３回　ピアサポートについて理解する
【key words】
・ピアサポート，ピアサポーターのバウンダリー，ピアサポーターのヒエラルキー
【授業概要】
・ピアサポートについて解説する。
・「WRAPその魂に触れる」というDVDを鑑賞し、WRAPの実際からピアサポートに期待される要因について理解する。
・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、ピアサポートの必要性などを考察する。
【教科書ページ・参考文献】
・p317-p321
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを参照し、「ピアサポート」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第４回　自死遺族に対する支援について理解する
【key words】
・ソーシャルワークのグローバル定義，自死遺族への支援，グリーフワーク・グリーフケア
【授業概要】
・ソーシャルワークのグローバル定義について解説する。
・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、ソーシャルワーカーとしての自死遺族への支援について考察する。
【教科書ページ・参考文献】
・p327-p331
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを参照し、「自死遺族に対する支援」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第５回　地域との連携について理解する
【key words】
・地域住民，ボランティア
【授業概要】
・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、地域住民が主体となる精神保健福祉の推進について考察する。
・地域住民が主体となる精神保健福祉の推進における精神保健福祉士の役割について解説する。
【教科書ページ・参考文献】
・p332-p336
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを参照し、「地域との連携」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第６回　薬物事犯者の更正保護について理解する
【key words】
・保護観察所，社会復帰調整官，薬物依存，ダルク（自助グループ）
【授業概要】
・更生保護の目的や保護観察所について解説する。
・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、覚せい剤使用の影響や必要な支援について考察する。
・薬物事犯者の更生保護における自助グループや精神保健福祉士の役割について解説する。
【教科書ページ・参考文献】
・p337-p343
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを参照し、「薬物事犯者の更生保護」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第７回　発達障害のある子ども・若者の支援について理解する
【key words】
・発達障害，ライフステージ，教育現場との連携
【授業概要】
・「発達障害へのアプローチ」および「発達障害の理解と支援」というDVDを鑑賞し、発達障害の特徴について理解する。
・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、発達障害のある子ども・若者の支援について考察する。
・発達障害のある子ども・若者の支援について解説する。
【教科書ページ・参考文献】
・p344-p348
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを参照し、「発達障害のある子ども・若者の支援」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第８回　うつ病性障害（うつ病）の成人の支援について理解する
【key words】
・うつ病性障害（うつ病），自殺のリスク，家族への支援
【授業概要】
・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、うつ病性障害（うつ病）の成人の支援について考察する。
・うつ病性障害（うつ病）支援や家族支援について解説する。
【教科書ページ・参考文献】

・p384-p388
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを参照し、「うつ病性障害（うつ病）の成人の支援」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第９回　ひきこもりの若者の支援について理解する
【key words】
・ひきこもり，家族への支援，社会資源
【授業概要】
・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、ひきこもりの若者の支援について理解する。
・ひきこもりの若者の支援について解説する。
※ 可能であれば、ゲストスピーカーによる講話を行う。
【教科書ページ・参考文献】
・p369-p373
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを参照し、「ひきこもりの若者の支援」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第10回　アルコール依存症の成人の支援について理解する
【key words】
・アルコール依存症，自助グループ（断酒会）
【授業概要】
・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、アルコール依存症の成人の支援について考察する。
・断酒会を含んだ、アルコール依存症の成人の支援について解説する。
【教科書ページ・参考文献】
・p379-p383
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを参照し、「アルコール依存症の成人の支援」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第11回　相談援助場面を想定した実技指導①　インテーク
【key words】
・インテーク（受理面接）
【授業概要】
・インテーク（受理面接）の目的や方法などについて解説する。
・事例を読み、ロールプレイを通して検討することでインテーク（受理面接）の実際を理解する。
・インテーク（受理面接）のポイントについて解説する。
【教科書ページ・参考文献】
・p124-p128
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを参照し、「インテーク（受理面接）」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第12回　相談援助場面を想定した実技指導②　アセスメント
【key words】
・アセスメント
【授業概要】
・アセスメントの目的や方法などについて解説する。
・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、アセスメントの実際について理解する。
・アセスメントのポイントについて解説する。
【教科書ページ・参考文献】
・p129-p133
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを参照し、「アセスメント」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第13回　相談援助場面を想定した実技指導③　プランニング
【key words】
・プランニング（支援計画の作成）
【授業概要】
・プランニング（支援計画の作成）の目的や方法などについて解説する。
・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、プランニング（支援計画の作成）の実際について理解する。
・プランニング（支援計画の作成）のポイントについて解説する。
【教科書ページ・参考文献】
・p134-p138
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを参照し、「プランニング（支援計画の作成）」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第14回　相談援助場面を想定した実技指導④　モニタリングおよび評価
【key words】
・モニタリング，評価
【授業概要】
・モニタリング及び評価の目的や方法などについて解説する。
・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、モニタリング及び評価の実際について理解する。
・モニタリング及び評価のポイントについて解説する。

【教科書ページ・参考文献】
・p139-p148
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを参照し、「モニタリング及び評価」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第15回　前期のまとめ
【key words】
・まとめ
【授業概要】
・前期の授業で学んだことを復習し、簡単なテストを実施することで各々の理解度を確認する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
・これまでの授業を復習しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第16回　後期の講義の進め方と具体的方法について　オリエンテーション
【key words】
・オリエンテーション
【授業概要】
・前期の授業で学習してきた内容について振り返りを行い、後期の授業内容との関連性について解説する。
・後期における本科目の授業内容について説明する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
・前期の授業内容を復習しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第17回　配属実習の振り返り①　個別事例の検討
【key words】
・事後学習
【授業概要】
・実習後の事後学習の目的や方法について解説する。
・グループディスカッションを通して検討することで、各自の実習体験を共有し、精神保健福祉士の役割やソーシャルワークについて考察する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
・各自の実習体験を振り返り、整理しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第18回　配属実習の振り返り②　個別事例の検討
【key words】
・事後学習
【授業概要】
・実習後の事後学習の目的や方法について解説する。
・グループディスカッションを通して検討することで、各自の実習体験を共有し、精神保健福祉士の役割やソーシャルワークについて考察する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
・各自の実習体験を振り返り、整理しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第19回　配属実習の振り返り③　個別事例の検討
【key words】
・事後学習
【授業概要】
・実習後の事後学習の目的や方法について解説する。
・グループディスカッションを通して検討することで、各自の実習体験を共有し、精神保健福祉士の役割やソーシャルワークについて考察する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
・各自の実習体験を振り返り、整理しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第20回　配属実習の振り返り④　個別事例の検討
【key words】
・事後学習
【授業概要】
・実習後の事後学習の目的や方法について解説する。
・グループディスカッションを通して検討することで、各自の実習体験を共有し、精神保健福祉士の役割やソーシャルワークについて考察する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
・各自の実習体験を振り返り、整理しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

	第21回	配属実習の振り返り⑤　実習報告書の作成 【key words】 ・実習報告書 【授業概要】 ・実習報告書を作成する目的や作成の方法について説明する。 ・グループディスカッションを通して検討しながら、実習報告書を作成する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・各自、自分なりに実習報告書を作成しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第22回	配属実習の振り返り⑥　実習報告書の作成 【key words】 ・実習報告書 【授業概要】 ・実習報告書を作成する目的や作成の方法について説明する。 ・グループディスカッションを通して検討しながら、実習報告書を作成する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・各自、自分なりに実習報告書を作成しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第23回	配属実習の振り返り⑦　実習報告書の作成 【key words】 ・実習報告書 【授業概要】 ・実習報告書を作成する目的や作成の方法について説明する。 ・グループディスカッションを通して検討しながら、実習報告書を作成する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・各自、自分なりに実習報告書を作成しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第24回	配属実習の振り返り⑧　実習報告会の準備 【key words】 ・実習報告会 【授業概要】 ・実習報告会の目的や方法について説明する。 ・グループディスカッションを通して検討しながら、実習報告会の準備を行う。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・各自、自分なりに実習報告会のプレゼン資料を作成しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第25回	配属実習の振り返り⑨　実習報告会の準備 【key words】 ・実習報告会 【授業概要】 ・実習報告会の目的や方法について説明する。 ・グループディスカッションを通して検討しながら、実習報告会の準備を行う。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・各自、自分なりに実習報告会のプレゼン資料を作成しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第26回	配属実習の振り返り⑩　実習報告会の準備 【key words】 ・実習報告会 【授業概要】 ・実習報告会の目的や方法について説明する。 ・グループディスカッションを通して検討しながら、実習報告会の準備を行う。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・各自、自分なりに実習報告会のプレゼン資料を作成しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第27回	実習報告会① 【key words】 ・実習報告会 【授業概要】 ・実習報告会の目的や方法について説明する。 ・実習報告会でのプレゼンテーションを聞き、質疑応答を行うことを通して、精神保健福祉士の役割やソーシャルワークについての理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】

	・各自、自分なりに実習報告会の準備をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分 第28回　実習報告会② 【key words】 ・実習報告会 【授業概要】 ・実習報告会の目的や方法について説明する。 ・実習報告会でのプレゼンテーションを聞き、質疑応答を行うことを通して、精神保健福祉士の役割やソーシャルワークについての理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・各自、自分なりに実習報告会の準備をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分 第29回　振り返りと今後の課題 【key words】 ・振り返り，今後の課題 【授業概要】 ・本科目で学習してきた内容を振り返り、各自が専門職として今後どのような課題に向き合うべきかを考察する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・本科目で学習してきた内容を復習しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分 第３０回　全体のまとめ 【key words】 ・まとめ 【授業概要】 ・本科目で学習してきた内容を振り返り、今後向けての講義を行う。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・本科目で学習してきた内容を復習しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
受講生に関わる情報および受講のルール	①対人援助専門職としての態度を身につけるため、時間厳守、連絡および相談、報告を行うことを重視します。 a 遅刻および欠席の場合は、開始前に教務課に連絡する必要があります。 b 無断欠席および無断遅刻の場合は精神保健福祉実習部会にて対応を協議します。 ②精神保健福祉援助実習に関わる授業のため、自ら演習に取り組む実践的行動への努力を重視します。 ③グループワークを中心に講義を進めるため、他者とのグループワークに取り組む努力ができない場合は、受講を認めません。 ④授業中の活動を乱す行為（私語、携帯電話の使用、飲食、居眠り等）は慎んでください。 ⑤提出期限を過ぎたものについては評価の対象になりません。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	①授業内での自己学習課題の指示は必ず行うこと。 ②授業時間外での日常生活での自己覚知に積極的に取り組むこと。
オフィスアワー	金曜日4限（14:20～15:50）
評価方法	①授業への取り組み（授業内での発言・発表およびグループワークへの参加状況）30%。 ②授業レポート（内容および提出状況含む）30%。 ③定期試験または課題レポート40%。
教科書	新精神保健福祉士養成講座「精神保健福祉援助演習（基礎・専門）第2版」日本精神保健福祉養成校協会　編集　中央法規出版　2016
参考書	Rapp, C. A. and Goscha, R. J.(2012) The Strengths Model:A Recovery-Oriented Approach to Mental Health Services, Third Edition, New York: Oxford University Press.（＝2014, 田中英樹監訳『ストレングスモデル―リカバリー志向の精神保健福祉サービス[第3版]金剛出版）
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育

	□情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 精神障害者の生活支援システム　　授業コード： S7015

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年次	2単位(30)	社会福祉コース・福祉心理コース・選択
担当教員			
鈴木　秀夫			
専門科目	講義	精神保健福祉士指定科目	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】精神障害者の生活支援、相談支援、居住支援、雇用・就労支援を精神保健福祉士のかかわりから学ぶ。 【到達目標】地域生活支援と相談支援援助に焦点を当て事例を重ね実戦的なソーシャルワークを学ぶ。
授業の概要	これまでの精神保健福祉士養成科目の総まとめ。精神障害者の地域生活支援に焦点をあて「意義」と「特徴」について学ぶ。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	○
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画

第１回　オリエンテーション　講義の進め方

【key words】
精神保健福祉士と精神保健福祉。

【授業概要】
授業の進め方とパラダイムシフトについて。
実習のためのSSTを行う。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２回　SSTと精神障害者の概念

【key words】
アンチスティグマ。

【授業概要】
オープンドアからオープン・ザ　ドア
ICFとアンチスティグマ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書1～26P
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第３回　SSTとパラダイムの転換とピア活動

【key words】
パラダイムの転換の歴史

【授業概要】
支援関係の転換。
地域移行・地域定着とピア活動
【教科書ページ・参考文献】
教科書26～46P
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第４回　SSTと精神障害者の生活実態
【key words】
患者調査と東日本大震災

【授業概要】
教科書に従い
内閣府の障害者白書、患者調査。
【教科書ページ・参考文献】
教科書51～60P
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第５回　SSTと居住支援
【key words】
ケア付きかケア無し。

【授業概要】
宿所提供
ケアホーム、グループホームの一元化。ほか
【教科書ページ・参考文献】
教科書135P～
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第６回　障害者雇用
【key words】
WHOの定義

【授業概要】
教科書に従う。

障害者雇用と職業リハビリテーション。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
※体験グループの開始
【予習復習に必要な想定時間】
第７回　作業療法と就労支援
【key words】
「職業レディネス」。

【授業概要】
ソーシャルワークと障害者雇用。
【教科書ページ・参考文献】
教科書174～190P
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第８回　ストレングスモデル、ＩＰＳの考え方
【key words】

ACT、IPS

【授業概要】
脱施設化による地域移行とクライシス。
対応するクライシスシステム。
【教科書ページ・参考文献】
教科書113P
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第９回　障害者の自立と社会参加のための生活支援システム
【key words】
新しい支援、自助グループ

【授業概要】

障害者のための生活支援システム。
コープランドと仲間たちによるケア。

※WRAPによるケアシステム。

【教科書ページ・参考文献】
教科書57P,120P
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１０回　社会療法のための病院機構
【key words】
社会療法と治療共同体

【授業概要】
社会療法のための病院機構いわゆる精神科病院が本来あるべき姿を見直す。

社会学的視点。クラーク・Dの著書を読みあう。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
プリント配布
【予習復習に必要な想定時間】
第１１回　退院時訪問指導と地域移行
【key words】
イギリスでの始まり
【授業概要】
コミュニティーミーティングのルール。
自我志向の発言、「私」を主語にした発言。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１２回　新しい精神科医療の流れ
【key words】
人間図書館
【授業概要】
新しい役割とグループワーク。
①退院後生活環境相談員の仕事。
②英国の新しい取り組み。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１３回　福祉的就労
【key words】
自由と責任
【授業概要】
医療機関でのグループ、福祉サービス事業所でのグループ。

※発言の自由。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１４回　行政による相談支援
【key words】
ストレングスモデル
【授業概要】
精神保健福祉センター。保健所活動。
引きこもりの青年にミーティング。
ミーティングは人を育て、成長させる。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１５回　世界の退院促進の流れに遅れない
【key words】
のぞえ式の紹介
【授業概要】
精神科スーパー救急。
入院は3か月以内。精神保健福祉士は病棟に2名以上。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

	【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	精神保健福祉士を目指し、国家試験受験を予定している学生は必ず履修すること。（授業中に予備知識、技能上のポイントの助言が多い）適宜レポート提出、精神保健福祉法の確認小テストを実施する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	施設ボランティア、精神障害者イベントボランティアの紹介。ピア活動・講演会の紹介。
オフィスアワー	原則、火曜除く放課後。
評価方法	定期試験50％　レポート30％　その他毎回での考察２０％
教科書	（注意）中央法規出版　　精神障害者の生活支援システム
参考書	適宜紹介する
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 精神科病院、３０年以上のPSWとしての実務経験。最後の１０年は当時の副院長と看護勉強会を実施。他、医局勉強会において医師、SW、CPを対象にSST トレーニングを実施。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 精神保健福祉援助実習　　授業コード： S7021

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年次	4単位(180)	社会福祉コース・福祉心理コース・選択
担当教員			
三橋　真人			
専門科目	実習	精神保健福祉士指定科目	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	①精神保健福祉援助実習をとおして、精神疾患を抱えている利用者の理解を深め、精神疾患を抱えて生活することを具体的に理解・把握し、援助実践の具体的技術を体得する。 ②精神保健福祉士として求められる資質、倫理を理解し、精神保健福祉士としてのアイデンティティを確立するための自己理解につなげる課題把握および総合的に対応できる能力を習得する。 ③精神保健福祉士と関連分野の専門職との連携のあり方および具体的内容を実践的に理解する。
授業の概要	実習は4年次において大学の指定および実習受入れ機関の指定する期間にて実施する。実習は23日間以上かつ210時間（相談援助実習履修者は180時間）（休憩時間を除く総実習時間）とする。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	△
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	◎
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	○
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第３回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第４回

【key words】
【授業概要】
【教科書ページ・参考文献】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習復習に必要な想定時間】
第５回
【key words】
【授業概要】
【教科書ページ・参考文献】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習復習に必要な想定時間】
第６回
【key words】
【授業概要】
【教科書ページ・参考文献】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習復習に必要な想定時間】
第７回
【key words】
【授業概要】
【教科書ページ・参考文献】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習復習に必要な想定時間】
第８回
【key words】
【授業概要】
【教科書ページ・参考文献】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習復習に必要な想定時間】
第９回
【key words】
【授業概要】
【教科書ページ・参考文献】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習復習に必要な想定時間】
第10回
【key words】
【授業概要】
【教科書ページ・参考文献】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習復習に必要な想定時間】
第11回
【key words】
【授業概要】
【教科書ページ・参考文献】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習復習に必要な想定時間】
第12回
【key words】

	【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第13回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第14回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第15回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	（実習履修資格者） 本学における実習履修者資格は原則として「精神保健福祉法」に定める「精神保健福祉士」の資格取得を目指す第4年次の学生で、次に掲げる者とする。 ①将来、精神保健福祉士として精神保健福祉現場で働く意思を強くもっている者。 ②精神保健福祉の学習および実践に対しての熱意と意欲があり、健康状態等実習を行うのに適当と認められる者。 ③精神保健福祉士国家試験の受験に必要な科目の単位を取得または、取得見込みのある者。 ④「精神保健福祉援助演習基礎・専門」、「精神保健福祉援助実習指導Ⅰ・Ⅱ」、「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」、「総合演習Ⅰ・Ⅱ」、「ボランティア活動Ⅰ・Ⅱ」の単位を取得または、取得見込みのある者。 ⑤実習先機関事前見学実習に出席し、レポート課題を提出している者。 ⑥実習に関する書類等を提出期限内に提出している者。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	ワークシートやコメントカード
授業外時間にかかわる情報	（実習上の注意） ①実習へのガイドブック（学生用）学校法人昌賢学園　最新版を参照し、遵守すること。 ②精神保健福祉援助実習の教科書を熟読し、精神保健福祉援助演習および精神保健福祉各科目を充分に事前学習すること。 ③群馬医療福祉大学精神保健福祉援助実習履修資格及び実習中止等の基準、群馬医療福祉大学精神保健福祉援助実習履修資格及び実習中止等の基準細則を熟読すること。
オフィスアワー	授業のなかで説明する。
評価方法	①実習機関における実習評価を基準に、実習担当教員による総合評価（40%） ②巡回および帰学日および実習中の指導状況と実習態度（15%） ③実習記録（10%） ④実習後の振り返りをとおした実習報告会を含めた実習のまとめ（10%） ⑤実習報告書（10%） 注意１：実習終了後、提出物等が未提出の場合は実習の単位を認定しない。 注意２：精神保健福祉援助実習指導Ⅱの単位を同一年度において取得できない場合は実習の単位を認定しない。
教科書	授業のなかで適宜紹介する。
参考書	授業のなかで適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容

	アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 社会福祉特講Ⅳ　　授業コード： S8007

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年次	2単位(60)	社会福祉コース・福祉心理コース・学校教育コース・児童福祉コース・選択
担当教員			
富澤　一央・松永　尚樹			
専門科目	講義	社会福祉士指定科目ではないが国家試験受験希望者は履修すること	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 社会福祉特講Ⅲで学習したことを基礎とし、社会福祉士国家試験対策の一環として、特に指定科目の重要な点と学習すべき内容について解説する。各回の講義に加え毎月月例テストを実施し、学生自身が学習進度を確認しながら進め、それぞれの学生が学習の習慣化と学習課題の焦点化を目的とする。 【到達目標】 ①自身の学習状況を振り返り、国家試験受験に向けた学習内容を明確にする。 ②解説や回答演習を通して、個々の学習方法を習慣化する。 ③月例テストや各階の回答演習で国家試験合格水準の正答が導き出せる。
授業の概要	社会福祉士として身に付けることが必要とされる広い範囲の基礎的な知識を学習する。特に、社会福祉士の国家試験の出題基準に対応した範囲の重要な点について焦点化し学習を進める。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回　科目オリエンテーション 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２回　人体の構造と機能及び疾病 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第３回　心理学理論と心理的支援 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第４回　社会理論と社会システム
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第５回　社会理論と社会システム
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第６回　現代社会と福祉
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第７回　現代社会と福祉
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第８回　地域福祉の理論と方法
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第９回　福祉行財政と福祉計画
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１０回　福祉行財政と福祉計画
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１１回　社会保障
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１２回　低所得者に対する支援と生活保護制度
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１３回　保健医療サービス
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１４回　権利擁護と成年後見制度
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１５回　確認テスト
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１６回　社会調査の基礎
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１７回　相談援助の基礎と専門職
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１８回　相談援助の理論と方法
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１９回　相談援助の理論と方法
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２０回　福祉サービスの組織と経営
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２１回　高齢者に対する支援と介護保険制度
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２２回　障害者に対する支援と障害者自立支援制度
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２３回　障害者に対する支援と障害者自立支援制度
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２４回　児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２５回　就労支援サービス
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２６回　更正保護制度
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２７回　確認テスト
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

	【予習復習に必要な想定時間】 第２８回　重要項目解説 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２９回　重要項目解説 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第３０回　重要項目解説 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	自分自身での学習が大切となるため、毎日の積み重ねをすること 各国家試験対策委員が行なう試験対策グループのいずれかに必ず参加すること 過去3年分の国家試験問題の解答・解説を読んでおくこと 模擬試験や国家試験の案内を行うため聞き逃さないようにすること
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	個人での学習とグループ学習を併用し学習へのモチベーションを維持していくこと。
オフィスアワー	0
評価方法	試験（月例テストを含む）（60%）、授業中の課題や提出物及び受講態度（40%）を総合して評価する。
教科書	新・社会福祉士養成講座21　資料編　中央法規出版
参考書	医療情報科学研究所「クエスチョン・バンク 社会福祉士」、中央法規出版「社会福祉士国家試験過去問題集」、社会福祉小六法、社会福祉士用語辞典、（最新版）　その他自分にあった参考書
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 教職対策講座　　授業コード： S8014

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年次	2	学校教育コース・選択
担当教員			
江原　京子			
専門科目	講座		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 　全国の自治体で実施される教員採用試験に備え、願書の書き方、自己アピール文・小論文の作成、面接試験対策を行う。一般教養、教職教養、専門教養の直前予想問題「学内模擬試験の実施を含む」を解きながら教員採用試験合格を目指す。 [到達目標] 1　願書、自己アピール文、小論文の作成ができる。 2　各自治体で実施される教員採用試験の予想問題が解ける。 3　面接試験対策を通して、将来学校教育に従事する教員としての資質の向上を図る。
授業の概要	1　３年次の後期から開講している教職対策講座Ⅰを教職教養、専門教養を中心に継続して行う。 2　外部講師を招くなどして、面接試験対策を強化する。 3　願書の書きかた、小論文の書きかた、面接試験対策を行い、教員採用試験合格に向けて取り組む。 4　学内模擬試験を実施する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	△
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション（授業概要、評価方法等の説明　教員採用試験対策　教員採用試験の概要説明 【key words】 教員採用試験、願書 【授業概要】 【受講にあたり】 ※教員免許状取得希望者の必須科目である。 1　授業の進捗状況により各回の内容に変更が生じる場合がある。随時、その旨を確認しながら進めてい 　くことを了承願いたい。 2　予習・復習の内容についても同様である。 3　以下のテキストを使用する。予習・復習に関しては、その回毎に指示する。 　①文部科学省　『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領(平成30年告）』 　②東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2022年度版 　③時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』 4　予習･復習用のノートを用意すること。 【授業概要】教員採用試験の概要説明　※希望する自治体の願書を持参すること。 次回以降、授業開始20分から30分程度、直前対策として時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』等から小テストを実施する。範囲は予めメール等で周知する。 【教科書ページ・参考文献】 希望する自治体の願書 【課題・予習・復習・授業準備指示】 時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』2019.4月号の願書の書き方を読んでおくこと。

次回の授業時に持参すること。希望する自治体の願書を作成し、次回持参すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第２回　願書の書き方
【key words】
志望動機、求める教師像
【授業概要】
・授業開始20分から30分程度、直前対策として時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』等から小テストを実施する（範囲は予めメール等で周知する）。
・希望する自治体の願書を作成する。
【教科書ページ・参考文献】
時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』2019.4月号
【課題・予習・復習・授業準備指示】
希望自治体の願書を作成、次回持参すること。
時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』2019.4月号の願書の書き方を読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第３回　自己アピール文の作成方法・解説
【key words】
自己アピール、強み
【授業概要】
・授業開始20分から30分程度、直前対策として時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』等から小テストを実施する（範囲は予めメール等で周知する）。
・自己アピール文を作成する。
【教科書ページ・参考文献】
時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』2019.4月号
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・次回の授業時までに自己アピール文を完成させ、持参すること。
・時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』2019.5月号、論作文のページを読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第４回　論作文の基本
【key words】
序論･本論･結論
【授業概要】
・授業開始20分から30分程度、直前対策として時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』等から小テストを実施する（範囲は予めメール等で周知する）。
・論作文の基本を学習する。
【教科書ページ・参考文献】
時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』2019.5月号
【課題・予習・復習・授業準備指示】
時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』2019.5月号、論作文のページを読んでおくこと。当日、持参すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第５回　パターンでスラスラ論作文
【key words】
論理性、教職への情熱、使命感
【授業概要】
・授業開始20分から30分程度、直前対策として時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』等から小テストを実施する（範囲は予めメール等で周知する）。
・論作文の出題傾向を熟知する。
【教科書ページ・参考文献】
時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』2019.5月号、論作文のページを読んでおくこと。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題にあった論作文を書き、期日までに提出すること。時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』2018.5月号　合否を分ける「答申」の部分を読んでおくこと。当日持参すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第６回　合否を分ける「答申」
【key words】
文部科学大臣、中教審、諮問
【授業概要】
・授業開始20分から30分程度、直前対策として時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』等から小テストを実施する（範囲は予めメール等で周知する）。
・答申とは何か
【教科書ページ・参考文献】
時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』2018.5月号
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・答申とは何か、ミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
・時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』2019.6月号「答申」早わかりシートを読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第７回　「答申」早わかりシート
【key words】
教育制度改革、生徒指導、学力･学習活動関連
【授業概要】
・授業開始20分から30分程度、直前対策として時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』等から小テストを実施する（範囲は予めメール等で周知する）。
・出る「答申」早わかり14シートを確認し、教育制度改革、生徒指導、学力･学習活動関連の「答

		申」を熟知する。 【教科書ページ・参考文献】 時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』2019.6月号「答申」 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・本時の学びをミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 ・時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』2019.12月号を読んでおくこと。当日、持参すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第８回	試験直前対策　①　生徒指導 【key words】 生徒指導提要 【授業概要】 ・授業開始20分から30分程度、直前対策として時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』等から小テストを実施する（範囲は予めメール等で周知する）。 ・圧倒的に出題される生徒指導（生徒指導提要）の資料を確認する。 【教科書ページ・参考文献】 時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』2019.12月号 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・本時の学びをミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 ・時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』2019.3月号を読んでおくこと。当日、持参すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第９回	試験直前対策対策　②　いじめ、不登校、児童虐待 【key words】 いじめ、不登校、児童虐待 【授業概要】 ・授業開始20分から30分程度、直前対策として時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』等から小テストを実施する（範囲は予めメール等で周知する）。 ・いじめ、不登校、児童虐待をデータで読み解く。 【教科書ページ・参考文献】 時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』2019.3月号 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・本時の学びをミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 ・時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』号、月は本授業内で提示する。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第１０回	試験直前対策問題　③　教育法規・専門教養 【key words】 教育法規、専門教養 【授業概要】 ・授業開始20分から30分程度、直前対策として時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』等から小テストを実施する（範囲は予めメール等で周知する）。 ・教員採用試験で頻出される教育法規、専門教養を確認する。 【教科書ページ・参考文献】 時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』号、月は前授業内で提示する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・本時の学びをミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 ・時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』号、月は本授業内で提示する。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第１１回	試験直前対策問題　④　教育時事、専門教養 【key words】 教育時事、専門教養 【授業概要】 ・授業開始20分から30分程度、直前対策として時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』等から小テストを実施する（範囲は予めメール等で周知する）。 ・教員採用試験で頻出される教育時事・専門教養を確認する。 【教科書ページ・参考文献】 時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』号、月は前授業内で提示する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・本時の学びをミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 ・時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』2018.8月号 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第１２回	試験直前対策問題　⑤　個人面接試験対策 【key words】 志望動機、目指す教師像 【授業概要】 ・授業開始20分から30分程度、直前対策として時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』等から小テストを実施する（範囲は予めメール等で周知する）。 ・個人面接試験対策を実施する。 【教科書ページ・参考文献】 時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』2018.8月号 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・実際に行った個人面接について、ミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 ・時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』2018.8月号を持参すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第１３回	試験直前対策問題　⑥　集団面接試験対策 【key words】

	自己アピール、教師としての資質･能力、使命感 【授業概要】 ・授業開始20分から30分程度、直前対策として時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』等から小テストを実施する（範囲は予めメール等で周知する）。 ・集団面接試験対策を実施する。 【教科書ページ・参考文献】 時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』2018.8月号 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・実際に行った集団面接について、ミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 ・時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』2018.8月号を持参すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分 第１４回　試験直前対策問題　⑦　集団討論試験対策 【key words】 教育時事、教師としての資質･能力、使命感 【授業概要】 ・授業開始20分から30分程度、直前対策として時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』等から小テストを実施する（範囲は予めメール等で周知する）。 ・集団討論試験対策を実施する。 【教科書ページ・参考文献】 時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』2018.8月号 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・実際に行った集団討論について、ミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 ・時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』2018.8月号を持参すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分 第１５回　試験直前対策問題　⑧　場面指導 【key words】 状況判断、児童生徒に寄り添う 【授業概要】 ・授業開始20分から30分程度、直前対策として時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』等から小テストを実施する（範囲は予めメール等で周知する）。 ・場面指導のやり方を熟知する。 【教科書ページ・参考文献】 時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』2018.8月号 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・実際に行った場面指導について、ミニレポートにまとめ、期日までに提出する。 ・教員採用試験に向けて最終確認、準備をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
受講生に関わる情報および受講のルール	１　本講義は教育実習と同様に位置づけられており、遅刻・欠席は事前に必ず届け出ること。欠席や遅刻の多い学生 や受講態度の悪い学生は、本実習の単位認定取り消しも有り得るため、熱心な受講態度を求める。 ２　教員採用試験の合格を目指し、熱心に取り組むこと。 ３　予習復習を必ず行い、疑問点を確認しておき、授業中に課したミニミニレポートを必ず提出すること。 ４　全国の自治体で行われる教員採用試験を必ず受験すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	ミニミニレポート
授業外時間にかかわる情報	１　授業の要約もしくは課題をミニミニレポートにまとめ、指定した日時までに提出すること。ミニミニレポートを まとめる際、語句の意味や内容を専門書等で調べ詳細にまとめること。 ２　各自、ノートを用意し、授業中に行った問題を再度行い、重要事項をまとめて指定した日時までに提出するこ と。
オフィスアワー	水曜日　16時～17時30分　それ以外の時間帯については、要相談・要予約
評価方法	授業中に課したミニミニレポートの内容（50%）、試験またはまとめのレポート（50%）を総合して評価する。
教科書	１　文部科学省　『中学校学習指導要領（平成29年告示）/高等学校学習指導要領(平成30年告示)』 ２　東京教友会編著　『教職教養ランナー』一ツ橋書店、2022年度版 ３　時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』
参考書	東京ｱｶﾃﾞﾐｰ　『教員採用試験』シリーズ、各自治体が出版している過去問題等
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 中学校教諭として勤務経験をもつ教員が、間近に迫る教員採用試験に向けて、願書の作成、小論文、模擬授業の実践、個人面接、集団討論･面接を中心に指導・支援を行う。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート □グループワーク ■プレゼンテーション

	□実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 総合演習Ⅱ

授業コード： S9031　S9032　S9033　S9034
S9035　S9036　S9037

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年次	2単位(60)	必修
担当教員			
安留　孝子・山﨑　博幸・鈴木　秀夫・江原　京子・浅川　茂実・山岸　裕美子			
基礎教養科目	演習		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 本学の建学の精神・教育目的に基づき、３年次で身につけた知見を深める。総合演習Ⅱにおいては、礼儀・挨拶、環境美化活動、課題研究・制作、進路決定等に主体的に取り組み、学士力を養成する。特に、この演習における集大成である「課題研究・制作」では、自発的なテーマ設定、資（史）料収集、分析・考察を行うが、適切な方法で丹念に調べることや、検討過程を論理的に記述できることを目指す。テーマ設定においては、地域貢献に供する課題をとりあげ、提案や論考を行うことも有効である。 【到達目標】 ①礼儀・挨拶、環境美化活動について、自主的に取り組むことができる。 ②総合演習の集大成である「課題研究・制作」について、的確な研究方法に基づいて取り組むことができる。 ③自己の適性を把握し、適切な進路決定ができる。
授業の概要	内容を、①建学の精神と実践教育 ②学習統合 ③進路・資格所得 ④地域貢献 ⑤心身の健康 の５つのプログラムから構成する。学年全体での授業では、建学の精神に則り、社会人となるための基礎的スキルの修得、福祉の視点から地域生活をとらえるための講義（外部講師）を予定している。クラス単位での授業では、「課題研究・制作」と題し、４年間の集大成として専門的な知識・技能を活かした論述・制作等を仕上げる。これらの演習を通し、総合的に学士力の向上を図る。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	◎
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	◎
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	建学の精神と実践教育プログラム①　学長訓話・学部長講話、ディプロマポリシー、演習Ⅱの計画 【key words】 建学の精神　ディプロマポリシー　学士力　地域貢献　履修計画　進路対策 【授業概要】 学長訓話・学部長講話から大学４年生としての自覚を新たにするとともに、各担当教員から説明された為すべきことがらについての意識を持つ。 【教科書ページ・参考文献】 「総合演習Ⅱノート」 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：次回の「自己表現テスト」受験に向け、各自の進路希望を明確にしておく。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第２回	進路・資格プログラム①　「自己表現テスト」 【key words】 進路希望　志望動機　自己アピール　文章表現 【授業概要】 「自己表現テスト」の実施。 文章作成に当たっては端的かつ印象深い表現のために、全体の構想・訴えたい事項などを予めメモする。 【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習：文章作成時に忘れていて書けなかった漢字や不確かだった語について、辞典や事典で調べる。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第３回　学習統合プログラム①「課題研究・制作」
【key words】
執筆要領　発表会日程　提出締め切り
【授業概要】
課題研究・制作」に関するガイダンスを行う。
各自もしくは各研究グループ毎に、担当教員にテーマの申請を行い、指導の下で調整を進める。
【教科書ページ・参考文献】
「執筆要領」（配布プリント）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習：担当教員から示された指示に従い、研究対象を絞り込む。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第４回　学習統合プログラム②　研究倫理教育
【key words】
研究倫理　人を対象とする研究　捏造・改竄・盗用　研究倫理審査　学士力
【授業概要】
「課題研究・制作」に取り組むに当たって研究倫理について理解し、研究を進める上での規範を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
ビデオ視聴
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習：自身が取り組もうとしている研究について、研究倫理の観点から検討する
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第５回　学習統合プログラム③「課題研究・制作」
【key words】
テーマの絞り込み　研究方法　先行研究　情報検索ポータル(図書館)
【授業概要】
各自・各グループの研究目標を明確にするために、情報検索を行って先行研究を調べ、テーマを絞り込む。
適宜、担当教員に相談する。
【教科書ページ・参考文献】
『知のナヴィゲーター』
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業終了後も各自で継続して調べ、関連する文献にあたる。
【予習復習に必要な想定時間】
30分～60分

第６回　建学の精神と実践教育プログラム②環境美化活動について―雑巾縫いから生活の科学・文化を考える―
【key words】
“生活を科学する”　身近な事象の原理原則の理解と福祉現場での応用
【授業概要】
本学で行っている環境美化活動を単なる清掃としてではなく、自然科学・社会科学・人文科学の各分野の「総合科学」として捉え実験・実践・思索するあり方について説く。
【教科書ページ・参考文献】
配布プリント
【課題・予習・復習・授業準備指示】
受講後は「総合科学」の観点から清掃を実施し、DPの達成・学士力養成に資する活動を継続する。
【予習復習に必要な想定時間】
環境美化活動実施時

第７回　地域貢献プログラム①「真に求められる災害ボランティアの姿」（仮題）講演
【key words】
災害ボランティアの種類（時・場所・場合）　災害ボランティアの心得　被災者への心的・物的支援
【授業概要】
東日本大震災・熊本地震などの震災や大雨による水害など、大きな災害が各地で起きている。災害ボランティアを行う希望のある学生は多いが、安易な気持ちや装備で被災地に行くことは却って妨げとなることもある。そこで、災害が起こる毎に先発隊として現地の調査に当たってきた講師を招き、現地の様子やボランティアを行う佐うの手続きや準備について講話を聴く。
【教科書ページ・参考文献】
配布プリント
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習：福祉の現場で利用者を無事に避難させるための気構えを持つ。また、避難所ではどのような支援ができるかについて調べ、考える。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第８回　学習統合プログラム④　課題研究・制作
【key words】
テーマの絞り込み（継続）　研究方法　先行研究　情報検索ポータル（図書館）
【授業概要】
各自・各グループの研究を進める（第５回の続きを行う）。

（子ども専攻は実習中）
【教科書ページ・参考文献】

『知のナヴィゲーター』
【課題・予習・復習・授業準備指示】
時間内に進まなかった部分を補う。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第９回　学習統合プログラム⑤　課題研究・制作
【key words】
研究方法
【授業概要】
取り組んでいる研究のための、的確な方法を検討する（担当教員に相談する）。

(子ども専攻は実習中)
【教科書ページ・参考文献】
『知のナヴィゲーター』
【課題・予習・復習・授業準備指示】
時間内に進まなかった部分を補う。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１０回　学習統合プログラム⑥　課題研究・制作
【key words】
論文検索　考察に当たっての考え方
【授業概要】
取り組んでいる研究を論述する際、論理性を示すことができる文献の補充を行う。また、考察を行うにあたってのアプローチの仕方を検討する。

(子ども専攻は実習中)
【教科書ページ・参考文献】
『知のナヴィゲーター』　情報検索ポータル
【課題・予習・復習・授業準備指示】
時間内に進まなかった部分を補う。
【予習復習に必要な想定時間】
30分
30分

第１１回　学習統合プログラム⑦　課題研究・制作
【key words】
文献検討　考察に当たっての考え方
【授業概要】
取り組んでいる研究課題について、論理的に説明するために必要な文献の補充を行う。また、考察を行うにあたっての方法論について担当教員に相談し、方向性を定める。
【教科書ページ・参考文献】
『知のナヴィゲーター』　情報検索ポータル
【課題・予習・復習・授業準備指示】
時間内に進まなかった部分を補う。
【予習復習に必要な想定時間】
30分～60分

第１２回　進路・資格取得プログラム②　「自己表現テスト」の振り返り（添削に従い答案書き直し）
【key words】
添削内容の精察　自身の文章表現の省察
【授業概要】
第２回で実施した「自己表現テスト」の添削答案を返却する。その添削指導に従って、全文を検討し書き直しを行い“我が物”とする。
【教科書ページ・参考文献】
各自の添削答案
【課題・予習・復習・授業準備指示】
書き直しが終わらなかった学生は、時間外に仕上げる。
【予習復習に必要な想定時間】
（30分）

第１３回　進路・資格取得プログラム③「自己表現テスト」の振り返り（読み合わせ）
【key words】
模範文　ピア・レビュー
【授業概要】
前回（第12回）で書き直した「自己表現テスト」の原稿を、グループになって読み合わせを行い記録する。それにより、お互いの良いところ（表現）を共有し、またアドバイスもしあって就職採用試験に臨む。
【教科書ページ・参考文献】
ワークシート（配布）・各自の修正（書き直し）答案
【課題・予習・復習・授業準備指示】
記入したワークシート（参考になる表現や文章作成の技法の記入欄）を見直し、進路対策に役立てる。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１４回　学習統合プログラム⑧「課題研究・制作」
【key words】
研究計画の再検討　ディスカッション
【授業概要】
今まで進めてきた研究について概要・進捗状況を発表し合い、ディスカッションを行う。そこで議論された内容や担当教員のアドバイスに基づき、再検討を行う。
【教科書ページ・参考文献】
『知のナヴィゲーター』
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習：授業でのディスカッションに基づいて、研究計画の再検討を行う。

【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１５回　建学の精神と実践教育プログラム②　「長寿社会・私のメッセージコンクール」作文作成
【key words】
高齢化の状況　高齢者の生活　地域の支え合い
【授業概要】
我が国の高齢者を取り巻く状況について調べ、考えながら、「長寿社会・私のメッセージ」の作文を作成する。
【教科書ページ・参考文献】
インターネット・図書館での情報収集可。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
時間内に作成できなかった場合は、各自で仕上げ提出する（担任まで）。
【予習復習に必要な想定時間】

第１６回　建学の精神と実践教育プログラム③　「政治を我が事に（主権者教育）」中曽根康隆氏講演
【key words】
主権者教育
【授業概要】
若い世代の国政選挙の投票率は低い。その原因には、日常的に社会について考える文化が醸成されていない現状がある。そこで、社会に出るに当たり、政治に関心を抱き“自分自身の声”を持つことで政治を変えていける仕組みなどを知り、将来を担う者としての心構えを新たにする。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習：自身の選挙に対する姿勢を再考する。
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第１７回　学習統合プログラム⑨「課題研究・制作」
【key words】
研究論文の構成　論理性　文章表現
【授業概要】
各自、各グループでの研究を進める。
担当教員に相談する。
【教科書ページ・参考文献】
各自の研究資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習：担当教員のアドバイスに基づき、再考するとともに、原稿作成に必要な資料を補足する。
【予習復習に必要な想定時間】
20～60分

第１８回　学習統合プログラム⑩「課題研究・制作」
【key words】
論文の構成　論理性
【授業概要】
各研究についての概要・進捗について発表し合い、ディスカッションを行う。それにより曖昧な部位・論理性に欠ける部分について知り、修正を行う。
【教科書ページ・参考文献】
各自の研究資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習：論の弱点を補強する。
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第１９回　地域貢献プログラム②「今、地域に求められているもの」（仮題）講演
【key words】
地域福祉　地域貢献
【授業概要】
地域に貢献することを謳う大学に在籍し間もなく卒業する者として、地域社会でどのような人がどんな支援を必要としているのかをについて知ることは大切である。最新の情報に基づく講演を聴き、将来の自分自身の活動の位置づけを明確にする。さらに「課題研究・制作」にも、この知見を取り入れることが可能である。
【教科書ページ・参考文献】
配布プリント
【課題・予習・復習・授業準備指示】
取り組んでいる「課題研究・制作」の内容を、地域貢献の観点からも考えてみる。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２０回　地域貢献プログラム③　地域貢献と「昌賢祭」～役割分担をとおして～
【key words】
昌賢祭　地域住民　地域貢献
【授業概要】
４学年学生は昌賢祭を支える役目を担う。各役割の仕事について理解するとともに、それぞれの分担をとおして
地域住民（来客）に心地よいサービスを提供する方途について話し合う。
【教科書ページ・参考文献】
配布プリント
【課題・予習・復習・授業準備指示】
昌賢祭当日までに、用意するべき物品等の準備を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２１回　地域貢献プログラム④　昌賢祭援助活動【昌賢祭当日】
【key words】
昌賢祭　地域の活性化
【授業概要】
割り当てられた役割を果たす中で工夫を行い（作業効率・接遇のあり方など）、地域のイベント

としての昌賢祭の活性化に貢献する。さらに、群馬医療福祉大学が地域の中心として親しまれるための活動とする。
【教科書ページ・参考文献】
各担当教職員からの指示による。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
自身の行動を振り返り、将来に活かす。
【予習復習に必要な想定時間】
30分（全体集会での学長コメントを参考に）

第２２回　学習統合プログラム⑪　「課題研究・制作」
【key words】
論理性
【授業概要】
取り組んでいる研究を進める。グループ研究においては、全体をまとめる。適宜、担当教員からのアドバイスを得る。
【教科書ページ・参考文献】
研究資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習：原稿作成に必要な資料を補足する。
【予習復習に必要な想定時間】

第２３回　学習統合プログラム⑫　「課題研究・制作」
【key words】
推敲　校閲
【授業概要】
担当教員のアドバイスを受けながら、研究を進め、文献の正しい引用の仕方・参考文献や註の書き方について確認する。
【教科書ページ・参考文献】
『知のナヴィゲーター』　研究資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習：不足している部分を補う。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第２４回　学習統合プログラム⑬　課題研究・制作
【key words】
論文要旨　校閲
【授業概要】
研究の総括を行い、専攻内発表で配布する研究要旨の原稿を作成する。グループでの研究は全体を集約し、制作を行っているグループは完成品として仕上げる。

【教科書ページ・参考文献】
研究資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習：研究の発表の要旨を完成させる。制作品を仕上げる。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第２５回　心身の健康プログラム①「ストレス社会をどう生きるか」（仮題）　講演
【key words】
ストレス解消法
【授業概要】
国家試験の勉強や進路選択などでストレスを感じることが多くなる時期である。また、社会に出ると様々な人間関係が生じ、悩むことも多くなる。そこで、それらをどのように乗り切るかについての講師（臨床心理士）からの講話を聴き、参考とする。
【教科書ページ・参考文献】
配布プリント
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講演内容を振り返り、各自のケースに適応させながら調整をはかる。
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第２６回　学習統合プログラム⑭　「課題研究・制作」（研究成果発表会<専攻内①>）
【key words】
研究成果　プレゼンテーション（発表）　質疑応答
【授業概要】
今まで進めてきた「課題研究・制作」の専攻毎の発表を行う（第１回）。それぞれの発表内容をワークシートに記しながら、学び合う。
【教科書ページ・参考文献】
発表要旨集（専攻別版）　ワークシート（配布プリント）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習：要旨集を再読し、各研究技法について学ぶ。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２７回　学習統合プログラム⑮「課題研究・制作」（研究成果発表会<専攻内②>）
【key words】
研究成果　プレゼンテーション（発表）　質疑応答
【授業概要】
今まで進めてきた「課題研究・制作」の専攻毎の発表を行う（第２回）。それぞれの発表内容をワークシートに記しながら、学び合う。また、専攻内発表会（第１回・第２回）で発表された中から、学年全体発表会のための代表研究を選出する。また、研究成果全体発表会に向けて運営委員会を組織し、当日の準備を始める。
※研究成果全体発表会は、学生自身が運営する。
【教科書ページ・参考文献】
発表要旨集（専攻別版）　ワークシート（配布プリント）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習：要旨集を見直し、各研究技法について学ぶ。

	【予習復習に必要な想定時間】 30分 第２８回　学習統合プログラム⑯「課題研究・制作」（研究成果発表会<全体>） 【key words】 研究成果　プレゼンテーション　発表会の運営（学会の口頭発表形式） 【授業概要】 専攻内発表会で選ばれた研究の発表会を行う。形式は学会の口頭発表に準じ、全て学生の運営委員が役割を担う。 【教科書ページ・参考文献】 発表要旨集（全体版） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習：選出された研究について、優れた点を見出す。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第２９回　学習統合プログラム⑰「課題研究・制作」の振り返り（個人） 【key words】 研究の振り返り　方法　文献　考察の視点　技法　材料　表現　学士力 【授業概要】 これまで行ってきた自身の研究・制作について振り返る。専攻別・全体の各成果発表会で公表された研究内容をもとに、方法（技法）・考察を行うに当たっての視点・他の文献利用の可能性などについて再検討し、研究すること・調べること・創造することの更なる可能性について考える。 【教科書ページ・参考文献】 発表要旨集　各自の研究資料　『知のナヴィゲーター』　ワークシート配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習：自身の学士力について、各項目毎にその是非を顧みる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～60分 第３０回　建学の精神と実践教育プログラム⑤　後期・４年間の総括 【key words】 建学の精神　ディプロマポリシー　学士力　研究　学修　社会貢献 【授業概要】 ４年間の学生生活の気着点にいることを自覚しながら振り返るとともに、卒業後の新たな生活に向けての心構えを行う（略意を発表し合い締めくくりとする）。 ※各アンケート・調査への回答も実施する。 【教科書ページ・参考文献】 「総合演習Ⅱノート」 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習：時間内に回答しきれなかったアンケートや調査への回答を行う。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
受講生に関わる情報および受講のルール	１　総合演習は、本学の人間教育の要である。そのことに深く留意して取り組むこと。 ２　遅刻・欠席をしないことはもとより、折り目正しく熱意のある受講態度で臨むこと。 ３　全体オリエンテーション等の「学校行事」には、必ず出席すること（制服着用）。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	授業計画に示されている内容を事前に把握し、わからない部分については授業にて解決するよう努力すること。「課題研究・制作」に共同で取り組む際は、まず綿密な計画を立て必ず各分担を明確にするとともに、常に進捗状況を確認しあうこと。また、不明なことがらについては担当教員に相談すること。
オフィスアワー	各担当教員に確認すること。
評価方法	課題研究・制作（40%）、演習への取り組み・内容等（30%）、提出物（30%）の総合点とする。
教科書	『知へのステップ―大学生からのスタディ・スキルズ―』くろしお出版
参考書	講義の中で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）

	□情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 ■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 市民防災の基礎Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	選択
担当教員			
鈴木　淳			
基礎教養科目			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	いま日本における自然環境と地域社会との相互関係・状況は大きく変化してきています。その“恵み”の側面だけでなく、さまざまな“災害特性”をできる限り適切に理解し主体的に考えることは、生活市民ひとり一人にとって必須の教養であるといえます。そこでは、「自助(自分の命はまず自分で守るということ)」「共助・協働(災害をうまくやり過ごすための知恵の共有と協力)」ならびに「公助(公的な支援等の理解と活用)」が、危機的な事態や情報錯綜へ遭遇し直面することとひとり一人の生活の維持継続にかかわって、効果がある行動(人が死なない防災・減災)の基盤として重要視されています。本授業では、「市民目線」で防災行動を「考える」ための基本事項をまず学び、生活場面で最大限的確な a)リスク管理と b)避難 他 対処行動が 具体的にできるようになることを目標として、多様な状況に対応した「想定外を想定する」力を養います。
授業の概要	ⅠおよびⅡの1年間で、1)災害とは何か；自然災害・人為的災害(テロ・戦争等社会的な事象を含む)、発災・被災(受災)・防災・減災、人と社会の脆弱性とresilience、2)個々人による防災対策、耐震診断と補強、ライフラインと交通等インフラ、3)災害医療(DMAT、JRAT他)の仕組み、triage、bystanderによるおとな/子どもに対する応急処置等(AEDを含む)、4)行政の災害時対応、避難所、地域の自主防災組織、災害とボランティア活動、防災士、災害時要配慮者、防災訓練、5)自助・共助・協働・公助のポイント、6)自然災害発生の理科学(地震・津波・火山噴火の仕組みと被害、気象災害の仕組みと被害、火災) 、自然災害への対策・工学技術、7)災害情報の入手・理解・活用、被害想定とハザードマップおよび居住地域の地理学的な観察と理解、公的機関による予報・警報等の意味、タイムラインという考え方、流言・風評、災害時の心理と行動、「想定外を想定する」力、避難と避難行動、8)防災装備品、アウトドアサバイバルスキル(ロープワーク等の実技)、9)都市防災、いわゆる帰宅難民、災害危機管理の仕組み(統制・連携)、企業防災と事業継続計画 BCP、損害保険、復旧と復興、災害と公衆衛生・保健(感染症予防等)、10)対人支援機関における防災行動の現状と課題 について学びます。 ※受講学生の理解進捗状況 等 によっては、学修項目・内容の順番を前後させる場合があります。 ※市民応急処置の基礎知識と手技の習得(赤十字救急法基礎講習等の受講)については、別途に案内推奨します。 ●この授業は選択科目ですが、内容の密接な連続性から、Ⅱ(後期)のみの選択履修・登録はできません(一方、Ⅰ(前期)のみの受講選択は可能です)。授業担当者としては、Ⅰ(前期)→Ⅱ(後期) 通して受講することをお薦めします。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	◎
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	◎
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	○
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	○
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	○
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	◎
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	○
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	◎
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	1　災害史事例から学ぶ：「わがこと意識」で考えていくために 【key words】 【授業概要】 過去の災害史事例について、1)いつ、どこで、何が起きたのか？ 2)その被害・生活への影響はどんなようすだったのか を調べ、3)自分が被災者であったら、何を感じ、何をどうしようとするか もまとめてみる。 【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

2 災害とは何か

【key words】

【授業概要】
自然災害の種類、人為的災害の種類 を整理し、誘因(外力)、素因(脆弱さ)、防災の底力(リジリエンス) の相互関係：災害リスクの定式 を知る。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

3 日本の地学地理学的特徴

【key words】

【授業概要】
日本で起こりうる自然災害を理解する土台として、日本が位置する「気圏」「水圏」「地圏」の特徴を大まかにイメージし、理解する。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

4 地震災害の理科学

【key words】

【授業概要】
地震発生の仕組みとともに、建物・構造物や地形・地盤へのその影響の可能性(被害変化)を考える。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

5 津波災害の理科学

【key words】

【授業概要】
津波発生の仕組みとともに、強大なそのパワーのリスクを知り、「できるだけ高いところに最大限早く避難する」意識をもつ。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

6 火山災害の理科学

【key words】

【授業概要】
火山の成り立ちを学び、その活動・現象にともなう多様な災害リスクを理解する。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

7 気象災害の理科学１

【key words】

【授業概要】
風と降水の仕組みと日本の国土の特徴をふまえて、近年の風水害事例を考える。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

8 気象災害の理科学２

【key words】

【授業概要】
台風、竜巻、雷の仕組みを学び、その減災の考え方を理解する。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

9 土砂災害(地盤災害)の理科学

【key words】

	【授業概要】 地表と地層の「風化」と土石流・がけ崩れ・地すべり現象の仕組みを知り、特に大規模盛土造成宅地のリスクを意識する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 １０　火災の理科学 【key words】 【授業概要】 大規模ガス爆発事故災害を含めた火災発生の内的条件・外的条件を理解し、防火の原則を知る。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 １１　防災マップ・ハザードマップの読み解き演習 【key words】 【授業概要】 防災マップ・ハザードマップに盛り込まれている地域情報や趣旨を具体的に読み取るとともに、その一方でこれらがなかなか十分には活かされていない現状の問題点を考える。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 １２　防災まち歩き１　巡検準備 【key words】 【授業概要】 大学あるいは自宅の周辺を例に、危険箇所の洗い出しと防災資源の再発見を目的とした「防災まち歩き」巡検を具体的に計画立案する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 １３　防災まち歩き２　巡検実習 【key words】 【授業概要】 計画にもとづいて、実際に「防災まち歩き」巡検して情報を収集する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 １４　防災まち歩き３　巡検まとめ 【key words】 【授業概要】 実施した「防災まち歩き」巡検の結果を整理し、独自の防災マップ・ハザードマップとして相互に発表する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 １５　地域の環境特性を理解することの意義 【key words】 【授業概要】 「ひとが死なない防災」を意識した根拠ある「自助」行動について、一旦具体的にまとめる。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	災害時、自分の命を自分で守るためにも、対人支援職や医事課職員として医療・福祉の利用者を支えるためにも、防災減災についてを「しぶしぶ学ばされる」のではなく、「わがこと意識」で知り/考え始めることが何よりも重要です。まずは授業に地道に出席・参加して、自分のポートフォリオをよりリッチなものに仕立て上げていくようにしてください。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	minute paper、ポートフォリオ
授業外時間にかかわる情報	最近は、NHKなどのマスメディアが災害の映像記録をアーカイブしている他、youtube等でもそれらに類する動画を視聴できるようになっています。そこには少なからず衝撃的な映像も含まれる場合もあ

	りますが、何が起きたのかを考えるために冷静にそれらを事例として知ることも必要です。百聞は一見に如かず。授業でふれたキーワードを手がかりに検索して、各自が自発的に映像資料にもあたるようにしてください。 ★1回の授業にかかわって、概ね1.5時間程度の事前事後自主学習が必要です。
オフィスアワー	水曜日　17：00～19：00　1号館204研究室
評価方法	授業資料＋ワークシート、授業内容確認クイズ、居住地域の観察調査(巡検)小レポート提出、簡単なロービング等の実技課題、災害心理・災害時要配慮者・福祉避難所をめぐる議論演習、学期末最終課題小レポート提出を含めた ポートフォリオ(この授業科目専用の時系列ファイル)を整理・完成させて提出してもらい、それにもとづいて理解度到達度(成績)の評定をします。
教科書	授業時に資料を配布します。
参考書	ベック,U.(東廉・伊藤美登里訳)危険社会：新しい近代への道.法政大学出版局.1998. 浜島書店編集部.ニューステージ新地学図表.浜島書店.2015. 木村玲欧.災害・防災の心理学―教訓を未来につなぐ防災教育の最前線.北樹出版.2015. 公立大学連携地区防災教室ワークブック編集委員会 他 編.コミュニティ防災の基本と実践.大阪公立大学出版会.2018. 目黒公郎,村尾 修.地域と都市の防災.放送大学教育振興会.2016. 逃げ地図づくりプロジェクトチーム編著.災害から命を守る「逃げ地図」づくり.ぎょうせい.2019. 日本防災士機構編.防災士教本.2020.日本防災士機構. 柴山元彦,戟 忠希.自然災害から人命を守るための防災教育マニュアル.創元社.2015. 鈴木康弘編.防災・減災につなげるハザードマップの活かし方.岩波書店.2015. ワイズナー,B.他.(岡田憲夫監修)防災学原論.築地書館.2010. 山村武彦.新・人は皆「自分だけは死なない」と思っている.宝島社.2015.
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 ○防災士資格(赤十字救急法救急員 同・幼児安全法支援員 の各認定を含む)ならびに測量士補免許と乙種第4類危険物取扱者免状を有し、群馬県危機管理室ぐんま地域防災アドバイザーに登録しています。 ○本学出前講座や前橋商工会議所まちなかキャンパスで 防災啓蒙の市民講座を複数回開講・担当してきました。；「災害をやり過ごすための知恵としての地域理解」(2017)、「ハザードマップの読み解きと私たちが住む地域の再認識にチャレンジ！」(2018)、「市民目線で風水害をどう理解するか；タイムラインと避難行動の考え方」(2019) 等。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 市民防災の基礎Ⅱ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	選択
担当教員			
鈴木　淳			
基礎教養科目			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	いま日本における自然環境と地域社会との相互関係・状況は大きく変化してきています。その“恵み”の側面だけでなく、さまざまな“災害特性”をできる限り適切に理解し主体的に考えることは、生活市民ひとり一人にとって必須の教養であるといえます。そこでは、「自助(自分の命はまず自分で守るということ)」「共助・協働(災害をうまくやり過ごすための知恵の共有と協力)」ならびに「公助(公的な支援等の理解と活用)」が、危機的な事態や情報錯綜へ遭遇し直面することとひとり一人の生活の維持継続にかかわって、効果がある行動(人が死なない防災・減災)の基盤として重要視されています。本授業では、「市民目線」で防災行動を「考える」ための基本事項をまず学び、生活場面で最大限的確な a)リスク管理と b)避難 他 対処行動が 具体的にできるようになることを目標として、多様な状況に対応した「想定外を想定する」力を養います。
授業の概要	ⅠおよびⅡの1年間で、1)災害とは何か；自然災害・人為的災害(テロ・戦争等社会的な事象を含む)、発災・被災(受災)・防災・減災、人と社会の脆弱性とresilience、2)個々人による防災対策、耐震診断と補強、ライフラインと交通等インフラ、3)災害医療(DMAT、JRAT他)の仕組み、triage、bystanderによるおとな/子どもに対する応急処置等(AEDを含む)、4)行政の災害時対応、避難所、地域の自主防災組織、災害とボランティア活動、防災士、災害時要配慮者、防災訓練、5)自助・共助・協働・公助のポイント、6)自然災害発生の理科学(地震・津波・火山噴火の仕組みと被害、気象災害の仕組みと被害、火災) 、自然災害への対策・工学技術、7)災害情報の入手・理解・活用、被害想定とハザードマップおよび居住地域の地理学的な観察と理解、公的機関による予報・警報等の意味、タイムラインという考え方、流言・風評、災害時の心理と行動、「想定外を想定する」力、避難と避難行動、8)防災装備品、アウトドアサバイバルスキル(ロープワーク等の実技)、9)都市防災、いわゆる帰宅難民、災害危機管理の仕組み(統制・連携)、企業防災と事業継続計画 BCP、損害保険、復旧と復興、災害と公衆衛生・保健(感染症予防等)、10)対人支援機関における防災行動の現状と課題 について学びます。 ※受講学生の理解進捗状況 等 によっては、学修項目・内容の順番を前後させる場合があります。 ※市民応急処置の基礎知識と手技の習得(赤十字救急法基礎講習等の受講)については、別途に案内推奨します。 ●この授業は選択科目ですが、内容の密接な連続性から、Ⅱ(後期)のみの選択履修・登録はできません(一方、Ⅰ(前期)のみの受講選択は可能です)。授業担当者としては、Ⅰ(前期)→Ⅱ(後期) 通して受講することをお薦めします。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	◎
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	◎
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	○
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	○
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	◎
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	○
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	○
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	○
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	○
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	１６　　行政による災害対応 【key words】 【授業概要】 行政の危機管理と災害時対応、公的機関による災害情報発信、タイムラインという考え方、被災地域住民の情報理解力 について学ぶ。あわせて、視覚的に提供される災害情報の理解にかかわって、「環境の可視化」の重要性にも言及する。 （放送大学「環境の可視化」第8回　https://v.ouj.ac.jp/view/ouj/#/navi/player?

		co=159&ct=V&ca=505の一部も視聴する） 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	１７	防災対策行動 【key words】 【授業概要】 個人による防災対策、保険加入や住宅の耐震化、地域の自主防災組織、災害時要配慮者への意識、災害とライフライン・交通インフラ、防災訓練の本質 について考える。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	１８	防災心理学 【key words】 【授業概要】 災害時におけるひとの心理と行動(正常性バイアスほか)、ひとと社会の脆弱性とresilienceに気づくとともに、「想定外を想定」した避難行動、流言や風評について考える。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	１９	evacuation、sheltering、refuge 【key words】 【授業概要】 避難場所・避難所・福祉避難所の違いとその運営、都市防災上の重要なテーマである帰宅困難者や駅周辺での混乱対策について知る。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	２０	災害医療１ 【key words】 【授業概要】 災害と公衆衛生、特に避難(所)生活における保健衛生・感染症対策を意識する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	２１	災害医療２ 【key words】 【授業概要】 限られた医療資源で対応を図らなければならないDMAT、triage protocolの意味を理解する。特に、注意が必要な挫滅症候群crush syndromeについて知る。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	２２	災害医療３ 【key words】 【授業概要】 bystanderによる応急処置、AEDによる救命救急を、具体的に学ぶ。 ※実際の手技については、日赤等での救急法講習受講を推奨します。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	２３	企業防災 【key words】 【授業概要】 防災基本計画において企業が取り組むべき事項・協定、目標復旧時間・レベル、サプライチェーン保持、事業継続計画BCP、事業継続マネジメントBCMについて考える。あわせて、生活維持に必須のエネルギー確保にかかわって、省エネルギー行動ならびに地球環境保全行動についても言及する（放送大学「エネルギーと社会」第14回

		https://v.ouj.ac.jp/view/ouj/#/navi/vod?caa=1930036p および 「地球温暖化と社会イノベーション」第14回 https://v.ouj.ac.jp/view/ouj/#/navi/player?co=8783&ct=V&ca=1006の一部を視聴する） 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	２４	防災備品、備蓄 【key words】 【授業概要】 被災・受災を何とかやり過ごすために、「どういったものを、どのように」あらかじめ備えることが、防災・減災上実効的・機能的なのかを検討する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	２５	アウトドアサバイバルスキル１ 【key words】 【授業概要】 緊急救助技術を身につける。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	２６	アウトドアサバイバルスキル２ 【key words】 【授業概要】 ロープワークスキルを身につける。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	２７	災害とボランティア活動 【key words】 【授業概要】 防災対応の段階に呼応したボランティア活動の多様な役割・機能、被災者の自立支援、被災地域の「受援力」、ボランティア活動展開上の課題について考える。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	２８	災害時想定演習１　在宅時(昼間・夜間) 【key words】 【授業概要】 自助・共助・協働のシミュレーション：グループワーク 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	２９	災害時想定演習２　外出時(地元周辺地域・首都圏市街地域・ウォーターフロント) 【key words】 【授業概要】 自助・共助・協働のシミュレーション：グループワーク 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	３０	まとめ：自助・共助・協働・公助の連携 【key words】 【授業概要】 わが家の防災計画チェックシート、地域の防災計画チェックシートを元に、未来に備える。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】

受講生に関わる情報および受講のルール	災害時、自分の命を自分で守るためにも、対人支援職や医事課職員として医療・福祉の利用者を支えるためにも、防災減災についてを「しぶしぶ学ばされる」のではなく、「わがこと意識」で知り/考え始めることが何よりも重要です。まずは授業に地道に出席・参加して、自分のポートフォリオをよりリッチなものに仕立て上げていくようにしてください。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	minute paper、ポートフォリオ
授業外時間にかかわる情報	最近は、NHKなどのマスメディアが災害の映像記録をアーカイブしている他、youtube等でもそれらに類する動画を視聴できるようになっています。そこには少なからず衝撃的な映像も含まれる場合もありますが、何が起きたのかを考えるために冷静にそれらを事例として知ることも必要です。百聞は一見に如かず。授業でふれたキーワードを手がかりに検索して、各自が自発的に映像資料にもあたるようにしてください 。 ★1回の授業にかかわって、概ね1.5時間程度の事前事後自主学習が必要です。
オフィスアワー	水曜日　17：00～19：00　1号館204研究室
評価方法	授業資料＋ワークシート、授業内容確認クイズ、居住地域の観察調査(巡検)小レポート提出、簡単なロールプレイング等の実技課題、災害心理・災害時要配慮者・福祉避難所をめぐる議論演習、学期末最終課題小レポート提出を含めた ポートフォリオ(この授業科目専用の時系列ファイル)を整理・完成させて提出してもらい、それにもとづいて理解度到達度(成績)の評定をします。
教科書	授業時に資料を配布します。
参考書	ベック,U.(東廉・伊藤美登里訳)危険社会：新しい近代への道.法政大学出版局.1998. 浜島書店編集部.ニューステージ新地学図表.浜島書店.2015. 木村玲欧.災害・防災の心理学―教訓を未来につなぐ防災教育の最前線.北樹出版.2015. 公立大学連携地区防災教室ワークブック編集委員会 他 編.コミュニティ防災の基本と実践.大阪公立大学出版会.2018. 目黒公郎,村尾 修.地域と都市の防災.放送大学教育振興会.2016. 逃げ地図づくりプロジェクトチーム編著.災害から命を守る「逃げ地図」づくり.ぎょうせい.2019. 日本防災士機構編.防災士教本.2020.日本防災士機構. 柴山元彦,戟 忠希.自然災害から人命を守るための防災教育マニュアル.創元社.2015. 鈴木康弘編.防災・減災につなげるハザードマップの活かし方.岩波書店.2015. ワイズナー,B.他.(岡田憲夫監修)防災学原論.築地書館.2010. 山村武彦.新・人は皆「自分だけは死なない」と思っている.宝島社.2015.
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 ○防災士資格(赤十字救急法救急員 同幼児安全法支援員 の各認定を含む)および測量士補免許と乙種第4類危険物取扱者免状を有し、群馬県危機管理室ぐんま地域防災アドバイザーに登録しています。 ○本学出前講座や前橋商工会議所まちなかキャンパスで 防災啓蒙の市民講座を複数回開講・担当してきました。；「災害をやり過ごすための知恵としての地域理解」(2017)、「ハザードマップの読み解きと私たちが住む地域の再認識にチャレンジ！」(2018)、「市民目線で風水害をどう理解するか；タイムラインと避難行動の考え方」(2019) 等。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 ■その他 その他の具体的内容

講義科目名称： サービス・ラーニングⅠ　　授業コード：S2001　S2003

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年次	1単位(60)	必修
担当教員			
中越　信一			
基礎教養科目	演習		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 大学近隣の地域の様々なフィールドで行われる実践活動と課題、そして学生らに期待されている事柄を知り、興味関心を持ったフィールドにおける課題解決のための取り組みを企画することを通じて、地域社会の様々な実践に触れ、その経験を他の授業にフィードバックさせて学生自身の学修を深化させること、様々な人々と関わる経験からコミュニケーション能力・社会性・協調性・行動力といった能力を培うことを目的とする。 【到達目標】 ①本学カリキュラムにおけるサービス・ラーニングの位置づけを理解し、説明することが出来る ②大学近隣で実践される様々な団体・機関の活動について理解し、説明することが出来る ③地域の課題の調査分析、解決方法の提案、企画化の手順を体験し、実践することが出来る ④グループワークやプレゼンテーションのプロセスや留意点を学び、実践することが出来る
授業の概要	身近な地域で行われている実践を知り、そこでの課題を見つけ、その解決に向けた調査・分析から解決のためのプロジェクトの企画立案と提案、実行と振り返りまでを2年間かけて実施する。この1年目にあたるこの講義では、全学ディプロマポリシーである『真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける』基礎を育むものとして、前期・後期の年間を通じた講義（15回）を実施する。 具体的には、学生にとって身近な大学近隣地域の社会福祉・教育等の現場をフィールドとし、前期は地域の社会福祉や教育の現場で行われている実践やその機関についての知識と学生としてこれらの地域と関わるための社会的常識やマナーを座学と演習を通じて学ぶ。後期は、各自の興味関心に応じたグループを作成し、グループ単位で地域の実践の場における取り組みへの見学・参加を通じて、自分たちに何ができるのかを学び取り、次年度の実践活動につながるプロジェクトを企画立案する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	△
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	△
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	◎
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	○
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	◎
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	△

授業計画	第１回	科目オリエンテーション，サービス・ラーニングとは何か 【key words】 知行合一，ボランティア活動，サービス・ラーニング，社会人基礎力 【授業概要】 これまでの「地域・団体からの依頼に受講生が参加・協力する」という姿勢から「学生が主体となって地域の身近な問題を見つけ，その解決に向けて調査・分析から解決策の提示を行う」という，より能動的な活動を目指す本講義の意義、「サービス・ラーニングとは何か」の説明を行う。その後，全15回の授業の概要と各回の流れ，授業の中で必要となる姿勢等についての説明と簡単な演習を行う。 【教科書ページ・参考文献】 参考文献：『いちばんはじめのボランティア』など 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：ボランティア活動の経験や関心のある活動分野について口頭で発表できるようにまとめておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】

	15-30分
第２回	サービス・ラーニングとボランティア活動の理念、歴史 【key words】 サービス・ラーニング，ボランティア活動，ボランティア活動の原則 【授業概要】 今後，地域での活動を考えていく際の基盤となる「ボランティア」の理念について，その歴史と合わせて解説を行う。その後，ワークシートを用いたグループワークを行い，ボランティアや地域で学ぶことに対するお互いの考えを共有し，理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：第1回で配布されたワークシートを完成させる。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
第３回	地域連携センターの紹介，ボランティア先の探し方，参加方法 【key words】 地域連携センター，ボランティア活動，地域貢献活動，社会福祉協議会，ボランティアセンター 【授業概要】 学内の地域連携センターの機能の紹介と，学年や専攻単位で参加する行事ボランティアや地域貢献活動の意義と内容について解説を行う。地域から大学に募集や依頼のあったボランティア活動に応募・参加する際の方法の説明を受け，各個人で申し込みが行えるようになる。また、社会福祉協議会のボランティアセンターやインターネットを活用した情報収集やボランティア先の検索，参加方法についても学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 参考書：ボランティア活動ハンドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業準備：ボランティア活動ハンドブックを講義に持参する（配布されている場合） 予習：ボランティアハンドブック1～9ページを読んでおく。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
第４回	高齢者や障害者を対象とした活動の実際 【key words】 高齢者，社会福祉施設でのボランティア活動，障害者，障害者スポーツ，余暇支援 【授業概要】 高齢者や障害者を対象とした活動の実際，そこでの課題，大学や地域の若者に期待されていること等について，講義やグループワークを通じて理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 授業時に指示 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習：高齢者や障害者を対象とした活動において、大学や地域の若者に期待されていることについてまとめておく。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
第５回	子どもを対象とした活動の実際 【key words】 保育園，幼稚園，児童福祉施設，小学校，中学校，高等学校，特別支援学校，教育委員会 【授業概要】 幼児教育，児童福祉領域における活動，学校現場における活動を取り上げ，その活動の実際，課題，大学や地域の若者に期待されていること等について講義やグループワークを通じて理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 授業時に指示 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習：幼児教育，児童福祉領域における活動，学校現場における活動において、大学や地域の若者に期待されていることについてまとめておく。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
第６回	災害支援活動の実際 【key words】 災害ボランティア，社会福祉協議会，ボランティアセンター，ボランティアコーディネーター 【授業概要】 災害時の支援活動の実際，課題，大学や若者に期待されていること等について講義やグループワークを通じて理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 授業時に指示 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習：災害支援活動において、大学や地域の若者に期待されていることについてまとめておく。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
第７回	ボランティアの経験，関心のある活動について聴く・話す 【key words】 振り返り，ボランティアの経験からの学び，関心のある活動 【授業概要】 第3回～第6回までのさまざまな活動分野の講義を振り返る。その中で、印象に残ったこと，学び得たこと，またこれまでの自分のボランティア経験，今後チャレンジしてみたい関心のある活動等について言語化し、クラスメイトと分かち合う。 【教科書ページ・参考文献】 授業時に指示 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：第3回～第6回までのさまざまな活動分野の講義内容のノート等に目を通し、特に印象に残ったことや関心を持った内容とその理由等を整理して、授業時のグループワークで発表できる

		ように準備しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第８回	夏休み中のボランティア活動及び後期の学生の発表について 【key words】 ボランティア活動中の留意点，人を惹きつけるプレゼンテーション 【授業概要】 ①夏休み期間中に各自で関心のあるボランティア活動に参加する。ボランティアの探し方，活動前に大学に提出する書類，活動後の報告等について確認する。活動中の留意点について、講義とグループワークを通して理解する。②ボランティアの経験を通して学び得たことを後期に学生が発表するため、その発表形式や課題の提出方法等について説明する。人を惹きつけるプレゼンテーション方法についても講義やグループワークを通じて理解する。 【教科書ページ・参考文献】 参考書：ボランティア活動ハンドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：ボランティア活動ハンドブックの19～21ページを読んでおく。人を惹きつけるプレゼンテーションをするためには、どのようなことに留意すべきか、考えてメモをしてくる。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第９回	学生の発表・ボランティア活動の経験からの学び① 【key words】 発表，経験からの学び，学びの共有，発表会の運営，学生ボランティア委員会 【授業概要】 夏休み中のボランティア活動について、参加動機、経験から学び得たこと等を発表し、クラス全体でその学びを共有する。発表会の司会進行やタイムキーパー等の運営は、学生ボランティア委員会を中心に、学生が担う。 【教科書ページ・参考文献】 授業時に指示 【課題・予習・復習・授業準備指示】 発表者は、発表資料の作成及び発表練習をしておく。発表を聴いた感想をまとめておく。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１０回	学生の発表・ボランティア活動の経験からの学び② 【key words】 発表，経験からの学び，学びの共有，発表会の運営，学生ボランティア委員会 【授業概要】 夏休み中のボランティア活動について、参加動機、経験から学び得たこと等を発表し、クラス全体でその学びを共有する。発表会の司会進行やタイムキーパー等の運営は、学生ボランティア委員会を中心に、学生が担う。 【教科書ページ・参考文献】 授業時に指示 【課題・予習・復習・授業準備指示】 発表者は、発表資料の作成及び発表練習をしておく。発表を聴いた感想をまとめておく。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１１回	学生の発表・ボランティア活動の経験からの学び③ 【key words】 発表，経験からの学び，学びの共有，発表会の運営，学生ボランティア委員会 【授業概要】 夏休み中のボランティア活動について、参加動機、経験から学び得たこと等を発表し、クラス全体でその学びを共有する。発表会の司会進行やタイムキーパー等の運営は、学生ボランティア委員会を中心に、学生が担う。 【教科書ページ・参考文献】 授業時に指示 【課題・予習・復習・授業準備指示】 発表者は、発表資料の作成及び発表練習をしておく。発表を聴いた感想をまとめておく。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１２回	学生の発表・ボランティア活動の経験からの学び④ 【key words】 発表，経験からの学び，学びの共有，発表会の運営，学生ボランティア委員会 【授業概要】 夏休み中のボランティア活動について、参加動機、経験から学び得たこと等を発表し、クラス全体でその学びを共有する。発表会の司会進行やタイムキーパー等の運営は、学生ボランティア委員会を中心に、学生が担う。 【教科書ページ・参考文献】 授業時に指示 【課題・予習・復習・授業準備指示】 発表者は、発表資料の作成及び発表練習をしておく。発表を聴いた感想をまとめておく。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１３回	2年次の実践に向けての準備①地域課題への関心，グループ作り 【key words】 地域課題，関心，グループ 【授業概要】 2年次の実践に向けて、関心のある地域課題について各自が発表し合い、関心が近い者同士でグループを作成する。 【教科書ページ・参考文献】 授業時に指示 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：地域の中にある課題について，これまでの講義内容，自身のボランティア経験，インター

	ネットでの情報収集等を通して、自分の関心をワークシートにまとめてくる。 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１４回　2年次の実践に向けての準備②地域課題の現状把握・活動計画の検討 【key words】 地域課題の現状，活動計画，私たちにできること 【授業概要】 グループで取り上げた地域課題の解決に向けて、学生である自分たちに何ができるかを考える。そのためにまず、地域課題の現状をより詳細に把握するための活動計画を立てる（主に春休み中に行う活動について計画を立てる）。 【教科書ページ・参考文献】 授業時に指示 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：グループで取り上げたテーマについて、知りたいことをまとめてくる。 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１５回　2年次の実践のテーマ発表，一年間のまとめ 【key words】 テーマの発表，振り返り，まとめ 【授業概要】 2年次に実践したいテーマと活動概要について発表する。また、一年間の振り返り，まとめを行い、春休み中に行うべきことを確認する。 【教科書ページ・参考文献】 授業時に指示 【課題・予習・復習・授業準備指示】 グループの代表者は、テーマと活動概要の発表準備を行う。ワークシートなど，一年間を通して使用した資料を整理しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
受講生に関わる情報および受講のルール	＜受講生に関わる情報＞ ・配布資料やポートフォリオの保管用として配布されたファイルを毎回持参すること ・講師を大学外から招くことや学外に出る機会があり得るため、実習に順ずる態度・身だしなみで取り組むこと。 ・クラスやコース、専攻を超えたグループワークが多く行われる予定であるため、真摯な態度でのぞむこと。 ＜受講のルール＞ ・遅刻／欠席については大学のルールに則り、教務課に連絡を行うこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	毎回の授業後にウェブポータルのスレッドやコメントカード（またはシャトルカード）のやり取りを行う予定
授業外時間にかかわる情報	・前期：各回でワークシートの作成等が課題として課される。 ・後期：各グループでの活動が多くなる。活動ごとのポートフォリオ記入に加え、担当教員の指示を確認すること。
オフィスアワー	授業内で案内する
評価方法	P/D評価である。各回のワークシートの作成・提出（50%）、発表内容・発表態度、グループへの貢献度（50%）で評価を行い、基準を超えた場合に単位を認定する予定である。
教科書	使用しない。各回で資料の配布等を行うため、ファイルに保管すること。
参考書	ボランティア活動ハンドブック（鈴木利定・監修）
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 社会福祉協議会において、ボランティアや地域福祉に関わる実務を経験している。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 相談心理学（公認心理師の職責）　　授業コード： S3322

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位(30)	社会福祉専攻・選択
担当教員			
大島　由之			
専門科目	講義	公認心理師養成課程	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　対人援助職の中でも，公認心理師に代表される心理学の専門職が関わる心理的支援の具体的な活動や，そこで求められる知識・職責を理解すること。 【到達目標】 ①福祉，保健医療，教育その他の分野における心理職の役割，求められる倫理、法的義務等について説明できるようになる。 ②各分野における心理職の具体的な業務について例示できるようになる。 ③心理的支援を要する者等の安全を確保するための方法やその考え方、情報の適切な取り扱い方の留意点ついて具体的に述べることができ，各分野での相談援助活動での実践に関連づけることができるようになる。 ④心理職として求められる知識・技術に関する自己分析や研鑽の方法について理解し，計画を立てることができるようになる。 ⑤心理職の立場から多職種連携や地域資源活用の意義と実践例について説明できるようになる。
授業の概要	福祉，保健医療，教育等の分野で心理職によって実践されている支援や業務の具体像を学び，そこで求められる専門性や職責について理解することを目指す講義である。様々な分野における心理職とその支援の実際について座学と演習を通じて紹介する。また、講義後半の回では実際に群馬県近隣において心理職として活躍されている方を外部講師としてお招きし、講話をいただく計画である。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	△
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	○
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	◎
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	△
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回　　科目オリエンテーション・公認心理師とは 【key words】 公認心理師，主要5分野，職責 【授業概要】 　15回の講義での実施内容と講義のルール、調べ学習の方法等について説明を行う。また，2017年7月に施行された「公認心理師法」によって誕生した国家資格である「公認心理師」の紹介（国家資格化の経緯・資格の取得方法・類似資格との違い）の後，主な活動分野である保健医療・福祉・司法犯罪・教育・産業労働における業務と職務上の責任の概要について紹介する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書p11-22 参考文献：一般社団法人 日本心理研修センター「よくあるご質問」 https://www.jccpp.or.jp/faq.cgi 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ＊課題：次回の予習 　❶用語調べ：スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー・チーム学校 　❷演習準備（配布されたワークシートの完成）

【予習復習に必要な想定時間】
20-45分

第２回　福祉・保健医療・教育等の分野における「心理職」の役割

【key words】
心理職，福祉職，教職

【授業概要】
　多職種連携の中で，公認心理師が務める心理職に求められる役割とその特徴について，教育分野での事例を用いた演習（グループワーク）を通じて学ぶ。

［事前知識として理解が必要な用語］
□スクールカウンセラー（p91）
□スクールソーシャルワーカー（p90）
□チーム学校（p97）

【教科書ページ・参考文献】
教科書p84-96
参考文献：群馬県教育委員会義務教育課（2021）『リーフレット SC・SSWとの協働で学校の対応力を高めましょう!!』https://onl.bz/QJmmndR

【課題・予習・復習・授業準備指示】
［課題：次回の予習］
❶用語調べ…信用失墜行為・多重関係・チーム内守秘
❷演習準備

＊復習
・講義内で指示のあったURLより授業後テストに回答すること

【予習復習に必要な想定時間】
30-60分

第３回　福祉・保健医療・教育等の分野における「心理職」の法的義務，倫理

【key words】
法律と職業倫理，信用失墜行為，秘密保持義務

【授業概要】
　各分野の心理職に課せられる法的義務と求められる倫理について学び，教育分野での事例を用いた演習（グループワーク）を通じて考えを深める。

［事前知識として理解が必要な用語］
□信用失墜行為（p25）
□多重関係（p25-26）
□チーム内守秘（p28）

【教科書ページ・参考文献】
教科書p22-34
参考文献
公認心理師法 第四章 義務等（p192）
一般社団法人 日本公認心理師協会（2020）「倫理綱領」https://onl.bz/7f3fC86

【課題・予習・復習・授業準備指示】
＊課題：次回の予習
❶用語調べ…インテーク面接，インフォームド・コンセント，リファー
❷演習準備

＊復習：講義内で指示のあったURLより授業後テストに回答すること

【予習復習に必要な想定時間】
30-60分

第４回　心理的支援の場におけるクライエントの安全確保

【key words】
インテーク面接，インフォームド・コンセント，リファー

【授業概要】
　各分野の心理職が行う心理的支援において，共通して求められるクライエントの安全確保に関する考え方と手続きについて学び，事例を用いた演習を通じてクライエントが安全な環境で安心して自己開示を行うための工夫と配慮について考えを深める。

［事前知識として理解が必要な用語］
□インフォームド・コンセント（p24）
□インテーク面接（p39）
□リファー（p40）

【教科書ページ・参考文献】
教科書p35-47
参考文献：藤原祥子（2009）「Ⅲ-3 初回面接」下山晴彦編『よくわかる臨床心理学 改訂新版』ミネルヴァ書房,p44-45.

【課題・予習・復習・授業準備指示】
＊課題：次回の予習
❶用語調べ…秘密保持義務・条件付き秘密保持・警告義務

＊復習：講義内で指示のあったURLより授業後テストに回答すること

【予習復習に必要な想定時間】

30-60分

第５回　心理的支援を行う際の情報の適切な取り扱い

【key words】
秘密保持義務，条件付き秘密保持，警告（保護）義務

【授業概要】
　各分野の心理職に共通して求められる情報の取り扱いに関する留意点について学び，事例を用いた演習を通じて秘密保持義務の持つ意味とその例外状況で求められる対応について考えを深める。

［事前知識として理解が必要な用語］
□秘密保持義務（p192）
□条件付き秘密保持（p55）
□警告義務／保護義務（p56-57）

【教科書ページ・参考文献】
教科書p48-60.
参考文献：慶野遥香（2009）「ⅩⅣ-4.社会的責任②倫理」下山晴彦編『よくわかる臨床心理学 改訂新版』ミネルヴァ書房,p256-257.

【課題・予習・復習・授業準備指示】
＊課題（次回の予習）
❶用語調べ…自己覚知・スーパーヴィジョン・燃え尽き症候群（バーンアウト）
❷演習準備

＊復習：講義内で指示のあったURLより授業後テストに回答すること

【予習復習に必要な想定時間】
30-60分

第６回　心理的支援を行う専門職としての自己課題の発見とその解決

【key words】
自己覚知，スーパーヴィジョン，燃え尽き症候群（バーンアウト）

【授業概要】
　各分野の心理職に共通して求められる自己課題の発見とその研鑽について学び，事例を用いた演習を通じて自己研鑽の必要性とその方法について理解を深める。

［事前知識として理解が必要な用語］
□自己覚知
□スーパーヴィジョン（p131）
□燃え尽き症候群／バーンアウト

【教科書ページ・参考文献】
教科書p121-130.
参考文献：小堀彩子（2009）「ⅩⅤ-4. 援助観とライフサイクル」下山晴彦編『よくわかる臨床心理学 改訂新版』ミネルヴァ書房,p288-289.

【課題・予習・復習・授業準備指示】
＊課題（次回の予習）：第6回に配布された穴埋め式ワークシートの完成
＊復習：講義内で指示のあったURLより授業後テストに回答すること

【予習復習に必要な想定時間】
30-45分

第７回　心理的支援を行う専門職としてのキャリア発達を支える生涯学習

【key words】
キャリア発達，職能団体，ピア・サポート

【授業概要】
　各分野の心理職に共通して求められる専門職としての生涯学習について学び，事例を用いた演習を通じてキャリア発達の観点でどのような学習が必要かについて理解を深める。

［事前知識として理解が必要な用語］
□ドナルド・E・スーパーによるキャリア発達段階
□職能団体（具体例p178）
□ピア・サポート

【教科書ページ・参考文献】
教科書p131-141
参考文献：岡田昌毅（2023）「キャリア発達とキャリア・カウンセリング」筑波大学人間学類『つくばの心理学』p38-39 https://onl.bz/AaWSj64

【課題・予習・復習・授業準備指示】
＊課題（次回の予習）
❶用語調べ…コンサルテーション，リエゾン，児童福祉司／児童心理司
❷演習準備

＊復習：講義内で指示のあったURLより授業後テストに回答すること

【予習復習に必要な想定時間】
30-60分

第８回　多職種と連携した心理的支援の実際

【key words】
コンサルテーション，リエゾン，児童福祉司／児童心理司

【授業概要】
心理職とその他の様々な職種の連携について，背景となる考えと具体例を学ぶ。具体的に取り上げる分野と連携としては，保健医療分野の身体科と精神科の連携，福祉分野の児童虐待対応における福祉職と心理職の連携の3つを予定し，それぞれについて事例を用いた演習を通じて理解を深める。

［事前知識として理解が必要な用語］
□コンサルテーション
□リエゾン（p150）
□児童福祉司／児童心理司

【教科書ページ・参考文献】
教科書p142-151
参考文献：藤川　麗（2009）「XI-3. コンサルテーション」下山晴彦編『よくわかる臨床心理学 改訂新版』ミネルヴァ書房,p220-203.

【課題・予習・復習・授業準備指示】
＊課題（次回の予習）：事前に配布された穴埋め式ワークシートの完成
＊復習：講義内で指示のあったURLより授業後テストに回答すること

【予習復習に必要な想定時間】
30-45分

第９回　地域資源を活用した心理的支援の実際

【key words】
キャプランの予防モデル（一次予防・二次予防・三次予防），アウトリーチ，包括的地域支援（ACT）

【授業概要】
心理職が行う地域資源を活用した心理的支援について，背景となる考えと具体例を学ぶ。具体例として福祉分野におけるアウトリーチと，保健医療分野における精神障害者に対する包括的地域支援（Assertive Community Treatment）の2つを取り上げ，それぞれについて事例を用いた演習を通じて理解を深める。

［事前知識として理解が必要な用語］
□キャプランの予防モデル／一次予防・二次予防・三次予防（p156）
□アウトリーチ（p83, 157）
□包括的地域支援（p157）

【教科書ページ・参考文献】
教科書p151-155
参考文献：大西晶子（2009）「IX-8. コミュニティ心理学」下山晴彦編『よくわかる臨床心理学 改訂新版』ミネルヴァ書房,p166-167.

【課題・予習・復習・授業準備指示】
＊課題（次回の予習）：事前に配布されたワークシートの完成
＊復習：講義内で指示のあったURLより授業後テストに回答すること

【予習復習に必要な想定時間】
30-60分

第１０回　福祉分野における心理的支援の実際

【key words】
権利擁護，エンパワメント，被虐待児のケア

【授業概要】
福祉分野における心理的支援の実際について，大学近隣の福祉施設や行政機関において公認心理師として実際に業務を行っている方による講義を通じて，具体的な業務内容と特徴，職責について学ぶ予定。

［過去にお招きした講師］
・児童相談所 所長経験のある大学教員
・児童養護施設の心理療法担当職員

なお，調整が難しい場合には，受講生の興味関心に対応した福祉分野での事例を用いたグループワークを通じて業務内容とその特徴、職責について理解を深める。

【教科書ページ・参考文献】
教科書p76-85,180.
参考文献：川畑　隆（2009）「XIV-9. 職域③福祉」下山晴彦編『よくわかる臨床心理学 改訂新版』ミネルヴァ書房,p270-273.

【課題・予習・復習・授業準備指示】
＊課題（次回の予習）：事前に配布されたワークシートの完成
＊復習：講義内で指示のあったURLより授業後テストに回答すること

【予習復習に必要な想定時間】
60-120分

第１１回　保健医療分野における心理的支援の実際

【key words】
心理アセスメント，リエゾン，チーム医療

【授業概要】
保健医療分野における心理的支援の実際について，大学近隣の医療機関において公認心理師として実際に業務を行っている方による講義を通じて，具体的な業務内容と特徴，職責について学

		ぶ予定。 ［過去にお招きした講師］ ・難病支援センターにおいて相談業務を行っている大学教員 ・精神科病院の心理士 　なお，調整が難しい場合には，受講生の興味関心に対応した保健医療分野での事例を用いたグループワークを通じて業務内容とその特徴、職責について理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 教科書p62-75，179. 参考文献：松澤広和（2009）「ⅩⅣ-9. 職域②医療・保健」下山晴彦編『よくわかる臨床心理学 改訂新版』ミネルヴァ書房,p266-269. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ＊課題（次回の予習）：事前に配布されたワークシートの完成 ＊復習：講義内で指示のあったURLより授業後テストに回答すること 【予習復習に必要な想定時間】 60-120分
	第１２回	教育分野における心理的支援の実際 【key words】 スクールカウンセラー，チーム学校，不登校 【授業概要】 　教育分野における心理的支援の実際について，大学近隣の教育機関において公認心理師として実際に業務を行っている方による講義を通じて，具体的な業務内容と特徴，職責について学ぶ予定。 ［過去にお招きした講師］ ・スクールカウンセラー経験のある大学教員 ・小学校／中学校／高等学校のスクールカウンセラー 　なお，調整が難しい場合には，受講生の興味関心に対応した教育分野での事例を用いたグループワークを通じて業務内容とその特徴、職責について理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 教科書p86-99，181. 参考文献：田中志帆（2009）「ⅩⅣ-9. 職域①教育」下山晴彦編『よくわかる臨床心理学 改訂新版』ミネルヴァ書房,p262-265. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ＊課題（次回の予習）：事前に配布されたワークシートの完成 ＊復習：講義内で指示のあったURLより授業後テストに回答すること 【予習復習に必要な想定時間】 60-120分
	第１３回	司法・犯罪分野における心理的支援の実際 【key words】 少年鑑別所，法務技官（心理），法務教官 【授業概要】 　司法・犯罪分野における心理的支援の実際について，矯正施設において公認心理師として実際に業務を行っている方による講義を通じて，具体的な業務内容と特徴，職責について学ぶ予定。 ［過去にお招きした講師］ ・前橋少年鑑別所の法務技官（心理）／法務教官 　なお，調整が難しい場合には，受講生の興味関心に対応した司法・犯罪分野での事例を用いたグループワークを通じて業務内容とその特徴、職責について理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 教科書p100-113，182.. 参考文献：原田杏子（2009）「ⅩⅣ-9. 職域④司法・矯正」下山晴彦編『よくわかる臨床心理学 改訂新版』ミネルヴァ書房,p274-277. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ＊課題（次回の予習）：事前に配布されたワークシートの完成 ＊復習：講義内で指示のあったURLより授業後テストに回答すること 【予習復習に必要な想定時間】 60-120分
	第１４回	産業・労働分野における心理的支援の実際 【key words】 従業員支援プログラム（Employee Assistance Program），働く人のストレス，復職支援 【授業概要】 　産業・労働分野における心理的支援の実際について，公認心理師として働く人への相談業務を行っている方や医療機関でのリワークプログラムを行っている方による講義を通じて，具体的な業務内容と特徴，職責について学ぶ予定。 ［過去にお招きした講師］ ・群馬県産業労働保健センター職員 ・群馬県「働く人のメンタルヘルス相談」担当者

	なお，調整が難しい場合には，受講生の興味関心に対応した産業・労働分野での事例を用いたグループワークを通じて業務内容とその特徴、職責について理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 教科書p114-124，183. 参考文献：坂井一史（2009）「ⅩⅣ-9. 職域⑤産業」下山晴彦編『よくわかる臨床心理学 改訂新版』ミネルヴァ書房,p278-281. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ＊課題（次回の予習）：事前に配布されたワークシートの完成 ＊復習：講義内で指示のあったURLより授業後テストに回答すること 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分 第１５回　まとめと展開 【key words】 公認心理師養成課程、資格取得後の資質向上、支援領域／方法の多様化 【授業概要】 これまでの講義内容について振り返りを行った後，公認心理師をはじめとする心理職を取り巻く状況（公認心理養成課程の動向，資格取得後の研修制度，今後想定される支援の多様化）について解説を行う。 【教科書ページ・参考文献】 教科書p162-176 【課題・予習・復習・授業準備指示】 別途指示 【予習復習に必要な想定時間】 15-30分
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ＊受講について ・公認心理師国家試験の受験資格取得のための必須科目であるため「将来的に公認心理師の資格取得を検討している学生」は必ず受講すること。 ・国家資格の受験に関わらず『カウンセラーという仕事』に興味関心がある受講生も歓迎する。 ＊授業方法と予習／復習 ・90分のうち，座学（教員による講義を通じて知識を得ること）よりも，演習（受講生間でのグループワークを通じて理解を深めること）に多くの時間を割り振る予定である。事前準備と積極的な参加を期待します。 ・演習は3～5人の班を教員より指定する。また，各班に1名，スチューデントアシスタントを務める福祉心理コース3・4年次生が参加し，演習を補助する場合がある。 〔受講のルール〕 ＊持参するもの ・指定する教科書を購入し、毎回持参すること。 ・補助教材として資料を配布することが多い。前述の課題の保管用を兼ね，各自でA4版のフラットファイル等を用いて保管することが望ましい。 ・授業時間内にウェブポータルへの接続を求める場合があるため，接続可能なデバイス（スマートフォン，パソコン、タブレット端末等）を持参すること。難しい場合には個別に対応するため，初回に教員に相談すること。 ・これらのデバイスを私用では用いず，指示のあった時以外は卓上にも置かないこと。個別の事情（例：授業中に保護者や実習先からの連絡がある）には対応するので，常に卓上にこれらをおく必要がある場合には，その回の授業開始前に担当教員に相談すること。 ＊欠席について ・欠席する際には，大学のルールに則り講義開始前までに事務局へ電話連絡を行うこと。 ・受講生への伝言や，担当教員への個別連絡はトラブルを防ぐために行わないこと。 ・事務局への事前連絡があった欠席の場合のみ，予習課題の後日提出を認める。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	ウェブポータルのスレッド機能／アンケート機能を利用予定
授業外時間にかかわる情報	「演習を充実させること」と「SABCの成績評価の材料を得ること」を目的に，ほぼ毎回「予習課題」と「復習課題」が課される。 ［予習課題］ ・事前準備にあたる「用語調べ（3つ）」と「演習準備（次の回で用いる事例と自分の考えを記入するワークシートの完成）」を各回の予習課題として提示する。図書館，PC室／LL室の利用が可能なようにしておくこと。 ［復習課題］ 振り返りにあたる「確認テスト／アンケート」をウェブポータルを通じて各回の復習課題として提示する。成績に反映する部分（知識、演習で発表した自分の意見を問う部分）と反映されない部分（意見や感想等）があるため，講義内での説明に留意すること。
オフィスアワー	初回に案内
評価方法	試験期間にテスト・レポートは行わず、以下を用いて成績評価を行う（詳細は初回説明） ・各回の予習課題／復習課題：40% ・テーマごとのレポート課題：60%

教科書	野島一彦（編）公認心理師の基礎と実践① 公認心理師の職責［第2版］遠見書房（2023）
参考書	・下山晴彦編（2009）『よくわかる臨床心理学［改訂新版］』ミネルヴァ書房 ・WILLこども知育研究所（2019）『医療・福祉の仕事 見る・知るシリーズ 公認心理師の一日』保育社
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 教育機関・福祉施設での心理職 ・大学附属の心理・発達教育相談室（心理相談部）の相談員 ・大学併設の学生相談室のカウンセラー ・児童養護施設の心理療法担当職員 ・児童相談所における療育手帳判定業務 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 心理学実験実習Ⅲ（心理的アセスメント）　　授業コード：S3141

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	2単位(30)	福祉心理コース・必修
担当教員			
植原　美智子			
専門科目	演習		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	［授業の目標］ 　社会福祉士や精神保健福祉士、公認心理師に代表される対人援助職に求められる心理的アセスメントに関する基礎的な知識を理解し、観察法や検査法（代表的な知能検査・パーソナリティ検査等）のなりたち・特徴・意義及び限界について説明できるようになる。 ［到達目標］ ①心理的アセスメントの手法、意義、目的について説明できるようになる。 ②代表的なパーソナリティ検査，知能検査，神経心理学的検査の理論的背景とその運用上の特徴について説明できるようになる。 ③事例を読み解く際に，どういった心理的アセスメントが必要かについて想定できるようになる。
授業の概要	心理的アセスメントとは、「対象となる事例の心理的側面に関する情報を収集し、その情報を統合し、事例の心理的問題についての総合的な査定を行う作業」と定義される。本講義ではその手法である面接や観察、信頼性・妥当性が確かめられた心理検査の概要と事例での運用、報告のまとめ方について解説を行う。 授業は双方向性で進めるため、教科書等で予習が必要である。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	○
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	○
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーションと授業契約　心理学的アセスメントについて 【key words】 心理的アセスメント　信頼性と妥当性 【授業概要】 本講義15回の説明 本講義では心理的アセスメントの手法である面接や観察、信頼性・妥当性が確かめられた心理検査の概要と事例での運用、報告のまとめ方について解説を行う。 授業の目標 社会福祉士や精神保健福祉士、公認心理師などに代表される対人援助職に求められる心理セスメントに関する基礎的な知識を理解し、観察法や検査法のなりたち・特徴・意義及び限界について説明できるようになる。 【教科書ページ・参考文献】 pp40-41 【課題・予習・復習・授業準備指示】 心理学的アセスメントの定義、なぜアセスメントが重要なのかを調べてくる。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第２回	心理的アセスメントとは何か、心理的アセスメントの目的及び倫理 【key words】 面接　行動観察　情報　守秘義務 【授業概要】 心理学的アセスメントは、対象となる事例の心理的側面に関する情報を収集し、その情報を統合

し、事例の心理的問題についての総合的な査定を行う作業である。アセスメントにおける倫理を確認し、アセスメントの諸技法について理解する。

【教科書ページ・参考文献】
P41（1アセスメントとは何か）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。まとめたレポートを提出。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがあるので、指示された範囲を予習する。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第３回　面接法を用いたアセスメント
【key words】
初回面接　協働関係　情報収集　言語・非言語的情報

【授業概要】
初回面接とは、クライエントのどの問題をどのように扱っていくのかということを話し合う場である。またなぜ、ケース・フォーミュレーションが必要なのか、グループで議論を通して、ケース・フォーミュレーションの特徴を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
pp42～P45（2ケース・フォーミュレーション,3初回面接）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがあるので指示された範囲を予習する。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第４回　観察法を用いたアセスメント
【key words】
観察　行動の生起頻度や連続性　観察法の利点と限界　観察法に対応した記録法

【授業概要】
観察法は、対象となる人や行動を、自然な状況や統制された状況の下で観察する方法である。事前学習してきた内容をグループでディスカッションしてまとめる。その内容を発表しコメントをもらう。ディスカッション：調べてきた内容を説明し話し合う。

【教科書ページ・参考文献】
pp48～49（3.観察法）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
レポート提出。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがあるので指示された範囲を予習する。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第５回　検査法によるアセスメント（1）心理検査とは何か
【key words】
パーソナリティ理論　ビッグファイブ理論
【授業概要】
1980年代以降、人間に最も普遍的で重要と思われる特性を特定していこうという動向が強くなった。こうした流れの中、パーソナリティ理論、ビッグファイブが誕生した。この背景と理論を学ぶ。ディスカッション：調べてきた内容を説明し話し合う。

【教科書ページ・参考文献】
pp50～51（3.質問紙法）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出。授業の冒頭でミニテストを行うことがあるので指示された範囲を予習する。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第６回　〃　（2）質問紙法によるアセスメント
【key words】
リッカート尺度　介入効果　質問紙法の長所と短所

【授業概要】
質問法の長所・短所・使用上の注意点を理解する。授業では実際に標準化された質問紙を体験する。事前学習してきた内容をグループでディスカッションしてまとめる。その内容を発表しコメントをもらう。
【教科書ページ・参考文献】
pp50～51（3.質問紙法）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがあるので指示された範囲を予習する。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第７回　投影法によるアセスメント(1)
【key words】
あいまいな状況　SCT　インクのしみ　反応

【授業概要】
投影法は、質問紙法や作業検査法と並ぶ人格検査の一方法である。その種類と特徴を理解する。投影法の代表的なロールシャッハ・テストや文章完成法・P-Fスタディの実施方法・内容を理解す

		る。また質問紙法との比較をする。グループで議論してまとめ、発表する。 【教科書ページ・参考文献】 pp52～53 (4.検査法(2)投影法) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがあるので指示された範囲を予習する。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第８回	投影法によるアセスメント(2) 【key words】 あいまいな状況　バウム・テスト　統合型S-HTP法　家族画法 【授業概要】 事前学習してきた内容をグループでディスカッションしてまとめる。その内容を発表しコメントをもらう。その後、描画法もいくつかの種類があるのでその種類と特徴を理解したうえで、実際に被験者体験をしてみる。体験後、投影法のグループ討論し理解を深め、まとめる。 【教科書ページ・参考文献】 pp52～53 (4.検査法(2)投影法) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがあるので指示された範囲を予習する。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第９回	作業検査法によるアセスメント 【key words】 連続加算作業　作業曲線　作業の安定性や注意力 加算作業　一桁　内田勇三郎　パーソナリティ検査 【授業概要】 作業検査とは、一定の作業を課し、そこでの反応に認められる特徴から被験者のパーソナリティを推定する。具体的で明確な作業を課すため、投影法のような反応の自由度を持たない点が特徴である。事前学習してきた内容をグループでディスカッションしてまとめる。 【教科書ページ・参考文献】 資料を配布する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがあるので指示された範囲を予習する。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第１０回	知能検査と発達検査（1）保護者からの聞き取りによる発達段階の査定 【key words】 知的活動　精神年齢　知能指数(IQ) 【授業概要】 知能検査と発達検査の理解とそれぞれの特徴を学ぶ。事前学習してきた内容をグループでディスカッションしてまとめる。その内容を発表しコメントをもらう。 【教科書ページ・参考文献】 資料を配布する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがあるので指示された範囲を予習する。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第１１回	〃　　（2）個別式知能検査 【key words】 WAIS　WISC　WPPSIの4つの指標得点 【授業概要】 事前学習してきた内容をグループでディスカッションしてまとめる。臨床心理学における「知能」は「賢さ」や「頭の良さ」というものより、もう少し広い要素を含めた概念である。知能検査の歴史を知る。WAIS　WISC　WPPSIのそれぞれの特徴を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 pp54～57 (5.検査法3　知能検査) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがあるので指示された範囲を予習する。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第１２回	神経心理学的検査やストレスチェックに関連した心理的アセスメントの実際 【key words】 高次脳機能　見当識　言語　認知　行為　記憶　注意　前頭葉機能 【授業概要】 高次脳機能障害には、外傷、疾病などによる脳の損傷によって生じ、おもには言語、認知、行為、読み書き、記憶、注意、前頭葉機能に障害を示すもの、および認知症がある。授業では、各

	高次脳機能とその代表的な検査法について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 pp58～59(検査法(4.神経心理学的検査) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがあるので指示された範囲を予習する。 【予習復習に必要な想定時間】 90分 第１３回　検査バッテリーとは 【key words】 質問紙検査　投影法　知能検査 【授業概要】 事前学習してきた内容をグループでディスカッションしてまとめる。人間のあらゆる側面を評価できる単独の心理検査は存在しない。そこで通常は、被験者を多面的にとらえるため、複数の異なる検査を組み合わせて使用する。 【教科書ページ・参考文献】 資料配布する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがあるので指示された範囲を予習する。 【予習復習に必要な想定時間】 90分 第１４回　心理的アセスメントの解釈・報告・倫理 【key words】 各検査の性質・長所・短所　背景にある理論　被験者の心身の状態 【授業概要】 心理検査が活かされ、真にクライエントに利するものとなるためには、検査のデータについて考えるだけではなく、面接時に受ける印象、家庭に関する情報など、心理検査結果以外の情報までを含めた総合的な査定が行われる必要がある。役立つ報告書について概説する。 【教科書ページ・参考文献】 資料を配布する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがあるので指示された範囲を予習する。 【予習復習に必要な想定時間】 90分 第１５回　まとめ 【key words】 読み手のニーズ　守秘義務　通告義務　インフォームド・コンセント 【授業概要】 15回の授業を振り返り、守秘義務　通告義務　インフォームド・コンセントについて、理解できたか確認する。 アセスメントとは何か、診断との違い、定義、諸技法についてまとめる。 【教科書ページ・参考文献】 資料を配布する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 15回のまとめ 【予習復習に必要な想定時間】 90分
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・教科書を毎回持参すること。 〔受講のルール〕 ・遅刻／欠席については大学のルールに則り、事務局に講義開始前に連絡すること。受講生への伝言等による連絡はトラブルを避けるため認めない。 ・事前に規定の方法で連絡があった欠席の場合のみ、配布資料の再配布を行う。 ・その他、詳細についてはシラバスを参照すること。 ・オンライン授業に変更される場合は学修内容の効果性を鑑み、講義内容の組み換えを行う場合がある。また、オンライン授業の際の資料配付及び講義ではZoomMeeting・Google・PDFファイル・Wordファイル・PowerPointファイル・Youtube等を利用予定。 ・ZoomMeetingを使う際は、ビデオ「ON」の指示をすることがある。 ・授業形態に関わらず、積極的に授業に参加し他の受講生の迷惑となる行為（私語、携帯電話の使用等）は厳禁。 ・提出物は〆切厳守。 ・受講者には積極的な参加が求められる。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	シラバスにのっとり授業を進める。したがってシラバスで紹介した内容を事前に予習をしておくこと（レポート提出）。 授業の初めに前回の授業内容が把握できているか確認のためにミニテストを行うので復習をしておく

	こと。 また授業内での指示に留意すること。
オフィスアワー	火曜日　15時～18時。それ以外の時間を希望する場合には，応相談。
評価方法	■定期試験50%　■ミニテスト20%　■事前学習10%　■レポート課題の提出20%（詳細は初回講義時に説明）
教科書	下山晴彦（編）　よくわかる臨床心理学［改訂新版］　ミネルヴァ書房　(2009)　［注］第11版以降を購入すること
参考書	下山晴彦（編）公認心理師必携　精神医療・臨床心理の知識と技法　医学書院　(2016) 福島哲夫（編）公認心理師　必携テキスト　学研　(2018)
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 臨床心理士・公認心理師として、精神科病院における心理面接・心理療法・心理アセスメント等の心理担当職員、教育機関のスクールカウンセラー、児童養護施設における心理療法担当職員など15年の実務経験を活かし，公認心理師・臨床心理士に必要な知識・技術・価値・倫理について講じる。また社会福祉士としてソーシャルワークにおける心理的援助について講じる。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 ■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容 ■コメントカードの実施。授業後、コメントカードを記入してもらい次回の授業で全員に説明する（質問提供者は匿名、授業の質問のほかに希望すること、問題点など）。 ■授業は基本的に双方向型。次回の授業についての事前学習をして授業に臨み、各グループでまとめ、代表者が発表する。コメントをもらう。

講義科目名称： 認知心理学（知覚・認知心理学）　　授業コード： S3151

英文科目名称： Cognitive Psychology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	2単位(30)	社会福祉コース・学校教育コース・選択／福祉心理コース・必修
担当教員			
大野　俊和			
専門科目	講義		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 知覚・認知心理学の知識を習得するとともに、その活用について思考をめぐらせることができること。 【到達目標】 社会福祉の場面において、その知識をどう活用できるか吟味する能力を得ること。
授業の概要	知覚・認知心理学は，感覚や感情、思考や記憶、理解や推論といった人間の知覚・認知活動について研究する幅広い学問です。本講義では、認知心理学の分野で行われた実験研究、臨床的事例を紹介しながら、やさしく人間の認知機能について紹介します。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	△
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回	認知心理学の誕生と変貌――認知革命ー 【key words】 【授業概要】 1認知心理学とは何か　<1>認知心理学の定義　<2>認知心理学の誕生 2認知心理学の特徴と方法 【教科書ページ・参考文献】 1～13ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書第1章を読んでおくこと 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第２回	認知心理学の誕生と変貌――情報工学から機能的生物学へ 【key words】 【授業概要】 認知心理学の変貌　抽象的情報処理モデルから脳の機能モデルへ、新たな視点 【教科書ページ・参考文献】 18～25ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書第1章を読んでおくこと 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第３回	知覚の基礎――環境とのファーストコンタクト　臨床事例を通じて 【key words】

【授業概要】
不良設定問題としての知覚　同化と対比　順応と残効
【教科書ページ・参考文献】
32～48ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書第2章を読んでおくこと
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第４回　知覚の基礎――生態とのかかわり―
【key words】

【授業概要】
知覚世界　ミッドレベルビジョン
【教科書ページ・参考文献】
49～68ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書第2章を読んでおくこと
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第５回　高次の知覚――見ることから理解することへ
【key words】

【授業概要】
2次元形態の認識、3次元形態の認識（マーの円柱理論、ビーダーマンのRBC理論）
【教科書ページ・参考文献】
69～79ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書第3章を読んでおくこと
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第６回　高次の知覚――顔の認識
【key words】

【授業概要】
顔認識研究の意義　相貌失認とその理論
【教科書ページ・参考文献】
80～98ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】

教科書第3章を読んでおくこと

【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第７回　注意――情報の選択と資源の集中
【key words】

【授業概要】
注意とは何か　注意の古典的モデル
【教科書ページ・参考文献】
99～109ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書第4章を読んでおくこと

【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第８回　注意――視覚的注意
【key words】

【授業概要】

視覚的注意の特性　有限資源としての注意
【教科書ページ・参考文献】
110～127ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】

教科書第4章を読んでおくこと

【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第９回　表象――こころの中身、その形式
【key words】

【授業概要】
表象とは何か　命題表象　アナログ表象
【教科書ページ・参考文献】

131～139ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書第5章を読んでおくこと
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

	第１０回　表象――イメージ論争 【key words】 【授業概要】 ピリシンの批判とイメージ論争　イメージ論争と神経科学的研究、スキーマ 【教科書ページ・参考文献】 140～164ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書第5章を読んでおくこと 【予習復習に必要な想定時間】 1時間 第１１回　記憶――過去・現在・未来の自己をつなぐ 【key words】 【授業概要】 記憶のあらまし、記憶の基礎 【教科書ページ・参考文献】 165～192ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書第6章を読んでおくこと 【予習復習に必要な想定時間】 1時間 第１２回　記憶――臨床事例を通じて 【key words】 【授業概要】 生きることと記憶　記憶と自己　日常記憶 【教科書ページ・参考文献】 193～204ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書第6章を読んでおくこと 【予習復習に必要な想定時間】 1時間 第１３回　言語――成長する心の辞書システム 【key words】 【授業概要】 言語研究と認知心理学　言語の表象　脳と言語機能 【教科書ページ・参考文献】 205～244ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書第7章を読んでおくこと 【予習復習に必要な想定時間】 1時間 第１４回　問題解決と推論――意思決定、集合知 【key words】 【授業概要】 心理学における「問題」、問題解決へのアプローチの歴史、推論 【教科書ページ・参考文献】 245～267ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書第8章を読んでおくこと 【予習復習に必要な想定時間】 1時間 第１５回　問題解決と推論・到達テスト 【key words】 【授業概要】 推論・思考の領域固有性　生得性と文化による影響、確認テスト 【教科書ページ・参考文献】 268～279ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書第8章を読んでおくこと、配布資料をまとめておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
受講生に関わる情報および受講のルール	各章ごとに確認小テストを実施する予定である。また毎回コメントカードを用いてコメントの提出が求められる。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状	コメントカード方式、毎回の授業の理解度についてコメントカードにより確認する。

況の確認方法	
授業外時間にかかわる情報	授業中に必要な文献を適宜紹介するので、文献探索・ダウンロードしておくこと。 授業中に検査や資料を渡すので、USBメモリを用意しておくこと。
オフィスアワー	金曜日3時限目を予定している。
評価方法	授業内小テスト40%、授業内コメントや発言20%、到達テスト40%
教科書	認知心理学 -- 知のアーキテクチャを探る 新版道又 爾（著），北崎 充晃（著），大久保 街亜（著），今井 久登（著），山川 恵子（著），黒沢 学（著）有斐閣
参考書	適宜指定する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク ■アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 ■その他 その他の具体的内容 展望記憶の訓練において，スマホのカレンダーやタイマーを利用し，実際に使えるようにする。

講義科目名称： 社会心理学（社会・集団・家族心理学）　　授業コード： S3161

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	2単位(30)	社会福祉コース・学校教育コース・選択／福祉心理コース・必修
担当教員			
大野　俊和			
専門科目	講義		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　個人が集団や社会の中でどのように振る舞うかについて、適応およびマイクローマクロ関係という視点から社会心理学の基本知識を身につける。また、社会的相互作用を読み解くことで、人間と社会に関する幅広い視野と総合的な知識を身につける。 【到達目標】 ①人の心理や行動について、状況との関係から理解する視点を得る。 ②よりよい人間関係を阻害したり促進する要因について理解し、関係づくりのために必要なことについて考えることができる。 ③社会心理学の視点を学ぶことで集団間の対立を越えるために必要なことについて考えることができる。
授業の概要	「社会的動物」といわれる人間を理解するために、人間の社会性をめぐる社会心理学の知見を、「適応」、「マイクローマクロ関係」という2つのキーワードをもとに整理し、解説を試みる。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	△
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	◎
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	人間の社会性をどう捉えるか　ガイダンスと序章 【key words】 【授業概要】 「適応」と「マイクローマクロ関係」という2つのキーワードを用いて人間の社会性を理解する試みについて理解を深めます。 とくに、集団という生活形式の中で生じた適応がより複雑な情報処理能力を生み出してきた可能性を軸に学びます。 【教科書ページ・参考文献】 1～25ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 序章を読み、用語などを調べておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第２回	社会的影響過程 【key words】 【授業概要】 集団という生活形式はどのような特徴をもち、人々はその中でどのような行動傾向を見せるのでしょうか。 他者の存在だけで生じる社会的促進、社会的抑制、規範的影響や情報的影響といった社会心理学の古典的な研究を紹介しながら社会的影響の「文法」となるものについて学びます。 【教科書ページ・参考文献】 31～42ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】

第1章を読み、用語などを調べておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第３回　社会的影響過程
【key words】

【授業概要】
個々人の社会的影響の結果、いったい何が巨視的には起こっているのでしょうか。
社会的影響のマクロ的帰結に関する限界質量モデルやダイナミック社会的インパクト理論について学びます。
【教科書ページ・参考文献】
43～58ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
第1章を読み、用語などを調べておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第４回　社会的交換
【key words】

【授業概要】
霊長類の中で高度な知性を持つヒトが、協力的な関係をどのように作り出し、集団の中で適応していくのかを「社会的交換」の観点から理解を深めます。
【教科書ページ・参考文献】
59～80ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
第2章を読み、用語などを調べておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第５回　社会的交換
【key words】

【授業概要】
社会的交換の視点から、協力行為や利他性に関する不思議について学びます
【教科書ページ・参考文献】
81～96ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
第2章を読み、用語などを調べておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第６回　グループとしての協調行為
【key words】

【授業概要】
グループによる協調行為がどのような特徴をもつのかについてグループを媒介とする適応の観点から学びます。
【教科書ページ・参考文献】
97～109ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
第3章を読み、用語などを調べておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第７回　グループとしての協調行為
【key words】

【授業概要】
ブレインストーミングを例証しながら、グループによる遂行が少なからず非効率を生み出すことを学びます。
この非効率とグループの耐性とのトレードオフ関係について理解を深めていきます。
【教科書ページ・参考文献】
110～130ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
第3章を読み、用語などを調べておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第８回　文化・社会環境と適応行動――文化の生成
【key words】

【授業概要】
適応論の視点を社会・文化の問題に拡張し、これまでの社会・文化研究での議論を学びます。
【教科書ページ・参考文献】
131～139ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
第4章を読み、用語などを調べておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第９回　文化・社会環境と適応行動――文化の生成
【key words】

【授業概要】
ヒトにとっての適応行動の有効性は、社会環境の性質に左右されます。この点についてパトナムや山岸の研究を紹介し、理解を深めます。
【教科書ページ・参考文献】

	140～157ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第4章を読み、用語などを調べておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第１０回　態度、社会的認知のメカニズム 【key words】 【授業概要】 「適応」と「マイクローマクロ関係」をキーワードにしながら、「個人の心理」について学びます。 ここではとくに、態度や社会的認知の諸研究から社会的知性について理解を深めます。 【教科書ページ・参考文献】 163～179ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第5章を読み、用語などを調べておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第１１回　態度、社会的認知のメカニズム 【key words】 【授業概要】 前回に引き続き、態度、社会的認知の研究の中から、意識的ではない自動的な認知処理過程を取り上げて学びます。 【教科書ページ・参考文献】 180～198ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第5章を読み、用語などを調べておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第１２回　集団間認知とステレオタイプ 【key words】 【授業概要】 集団に対する個人の認知を学びます。内集団びいき、外集団差別など社会的アイデンティティ理論にもとづく研究を学びます。 【教科書ページ・参考文献】 199～212ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第6章を読み、用語などを調べておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第１３回　集団間認知とステレオタイプ 【key words】 【授業概要】 社会的認知研究のうち、集団間認知や行動の背後にあるステレオタイプの性質やステレオタイプ化について学びます。 【教科書ページ・参考文献】 213～236ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第6章を読み、用語などを調べておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第１４回　統合的な社会心理学に向けて 【key words】 【授業概要】 各回を振り返り、あらためて「適応」と「マイクローマクロ関係」というキーワードを振り返り、メタ理論の重要性について学びます。 【教科書ページ・参考文献】 237～248ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 終章を読み、用語などを調べておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第１５回　具体的な研究動向の紹介と到達テスト 【key words】 【授業概要】 配偶者選択や殺人に関する進化心理学的研究を学びます。最後に理解を深めるために各回のキーワードに確認のテストを行います。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布資料を読み、理解を深めておいてください 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 PCを用いて資料の閲覧を行うため、LLもしくはPC室で作業を行う。 〔受講のルール〕

	メールでのコメントカード記入を毎回実施する。 各トピックごとに小テストを実施する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	スマートフォンを用いたコメントカードを使用する。
授業外時間にかかわる情報	教科書はもとより、講義中に指定した文献は各自で事前に読んでおくこと。
オフィスアワー	金曜日3時限目（206研究室）
評価方法	授業内コメントカード（20%）、小テスト・小レポート（50%）、到達テスト（30%）
教科書	亀田達也・村田光二　複雑さに挑む社会心理学(改訂版)：適応エージェントとしての人間　有斐閣アルマ (2010年改訂版)　2010
参考書	講義の中で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク ■アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 臨床心理学（臨床心理学概論）　　授業コード： S3171

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	2単位(30)	社会福祉コース・学校教育コース・選択／福祉心理コース・必修
担当教員			
植原　美智子			
専門科目	講義		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	［授業の目標］ 　社会福祉士や精神保健福祉士、公認心理師などに代表される対人援助職に求められる臨床心理学の基礎として、こころの病理・失調、心理アセスメント、心理療法に関する概要（歴史となりたち、概念、意義、適応及び限界）、その知識を有する者としての社会的責任に関する知識を習得すること。 ［到達目標］ ①こころの異常／失調の捉え方やその生起・維持のメカニズムの理論的枠組みについて説明できるようになること ②心理アセスメントの目的と意義、代表的な手法の種類と特徴と適応に関する基礎的な内容について説明できるようになること ③代表的な心理療法のなりたちと概要、特徴的な技法，効果と限界／課題について説明できるようになること
授業の概要	臨床心理学とは、「科学、理論、実践を統合して、人間行動の適応調整や人格的成長を促進し、さらには不適応、障害、苦悩の成り立ちを研究し、問題を予測し、そして問題を軽減、解消することを目指す学問」と定義されている。本講義では、対人援助職として「こころの失調／異常」を抱える人への適切な対応／他専門家との協働できるようになるための基礎知識を広く取り上げ、その成り立ちや実践との関連を紹介する予定である。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	△
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーションと授業契約，異常心理学（1）こころの異常・失調をどのように捉えるか 【key words】 異常、適応的基準、価値的基準、統計的基準、病理的基準 【授業概要】 15回の講義での実施内容と講義のルールについて説明を行う。また、臨床心理学という学問の中で取り上げられる「こころの失調／異常」を捉える視点である4つの基準について解説を行う。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：p69-70 参考書：青木省三（2012）「ぼくらの中の発達障害」筑摩書房 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。まとめたレポートを提出。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがあるので、指示された範囲を復習する 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分
	第２回	臨床心理学のなりたちと展開（1）歴史と社会的背景 【key words】 診断・査定・評価、臨床心理学・カウンセリング・心理療法、臨床心理士、PTSD、公認心理師 【授業概要】 わが国における臨床心理学の成り立ちについて、特に医療や社会情勢との関連を中心に知識を学

		ぶ。また、医療との関連で必須となる診断の基準について、各自が事前に調べたレポートを活用し、グループディスカッションを通じて理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：p2-9,18-25. 参考書：西井重超（2018）「精神疾患にかかわる人が最初に読む本」照林社 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。まとめたレポートを提出。 授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。 【予習復習に必要な想定時間】 15-30
	第３回	異常心理学（2）ストレッサーとストレス反応，対処方略 【key words】 ストレッサー、ストレス反応、コーピング 【授業概要】 ストレッサーとストレス反応の関係性、およびコーピングの関係性とその代表的理論について講義を通じて知識を学ぶ。また、ラザルスの心理社会的ストレスモデルにおけるコーピングの重要性について、各自が事前に調べたレポートを活用し、グループディスカッションを通じて理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：p36-37 参考書：マーガレット・M・ホームズ（2015）「子どものトラウマ治療のための絵本シリーズ；こわい目にあったアライグマくん」誠信書房 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。まとめたレポートを提出。 授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。 【予習復習に必要な想定時間】 30-60
	第４回	異常心理学（3）発達障害と二次障害 【key words】 発達障害、自閉症スペクトラム、注意欠如多動症、学習症、二次障害 【授業概要】 福祉・教育領域をはじめ、心理的アプローチの重要性が指摘されている発達障害の特徴について、特に代表的な3つを中心に講義を通じて知識を学ぶ。また、その対応や支援を検討する際の視点について、グループディスカッションを通じて理解を深める。その後、まとめたものを発表する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：p122-127 参考書：札幌市発達障が者支援関係機関連絡会議 就労支援プロジェクト（2017）「職場で使える『虎の巻』；発達障がいのある人たちへの八つの支援ポイント」同市保健福祉局 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。まとめたレポートを提出。 授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分
	第５回	心理療法（1）精神分析／力動論的アプローチ①理論的背景 【key words】 意識・前意識・無意識（局所論）、リビドー、イド・エス・超自我（構造論） 【授業概要】 「こころの異常・失調」を理解し、介入するための理論の1つである精神分析／精神力動的アプローチの成り立ちと特徴について講義を通じて知識を学ぶ。また、実際にクライエントの困難を理解する際の視点について、各自が事前に調べたレポートを活用し、グループディスカッションを通じて理解を深める。レポートにまとめる。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：p146-153 参考書：藤山直樹（2008）「集中講義・精神分析（上）精神分析とは何かフロイトの仕事」岩崎学術出版社 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。まとめたレポートを提出。 授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分
	第６回	心理療法（2）精神分析／力動論的アプローチ②防衛機制と心理・性的発達段階 【key words】 防衛機制、リビドー、心理・性的発達段階 【授業概要】 精神分析／精神力動的アプローチの特徴の1つである「心の平衡を保つために生じる心の中の働き（力動）」である防衛機制について、その個人差がどのように形成され、どのような形であらわれるのかを中心に講義を通じて知識を学ぶ。また、それぞれの表現型について各自が事前に調べたレポートを活用し、グループディスカッションを通じて理解を深める。レポートにまとめる。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：p146-153 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。まとめたレポートを提出。 授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分
	第７回	心理療法（3）行動療法／行動論的アプローチ 【key words】 レスポンデント条件づけ・系統的脱感作、オペラント条件づけ・トークンエコノミー法、観察学習・SST 【授業概要】 「こころの異常・失調」を理解し、介入するための理論の1つである行動療法の成り立ちと特徴について講義を通じて知識を学ぶ。また、具体的な技法とその基盤となった実験の対応について、

		各自が事前に調べたレポートを活用し、グループディスカッションを通じて理解を深める。レポートにまとめる。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：p154-161 参考書： ・三田村 仰（2017）「はじめてまなぶ行動療法」金剛出版 ・アダム・ハート=デイヴィス（2016）「パブロフの犬:実験でたどる心理学の歴史」創元社 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。まとめたレポートを提出。 授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分
	第８回	心理療法（4）来談者中心療法／ヒューマニスティック・アプローチ 【key words】 無条件の肯定的関心、共感的理解、自己一致 【授業概要】 「こころの異常・失調」を理解し、介入するための理論の1つである来談者中心療法の成り立ちと特徴について講義を通じて知識を学ぶ。また、その理念と技法との対応について、各自が事前に調べたレポートを活用し、グループディスカッションを通じて理解を深める。レポートにまとめる。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：p142-145 参考書：平木典子・藤田博康（編）（2019）「キーワードコレクション カウンセリング心理学」新曜社 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。まとめたレポートを提出。 授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分
	第９回	心理的アセスメント（1）面接法 【key words】 アセスメント、初回面接、ラポール、守秘義務、面接の構造化 【授業概要】 心理アセスメントの諸技法の1つである面接法の特徴について講義を通じて知識を学ぶ。また、構造化による差異について、各自が事前に調べたレポートを活用し、グループディスカッションを通じて理解を深める。レポートにまとめる。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：p40-47 参考書：高野陽太郎・岡隆（2017）「心理学研究法；心を見つめる科学のまなざし 補訂版」有斐閣 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。まとめたレポートを提出。 授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分
	第１０回	心理的アセスメント（2）観察法 【key words】 参加観察法・非参加観察法、交流的観察・面接観察・非交流的観察、サンプリング 【授業概要】 心理アセスメントの諸技法の1つである観察法の特徴について講義を通じて知識を学ぶ。また、観察者の参加形態によって生じる変化と特長について、各自が事前に調べたレポートを活用し、グループディスカッションを通じて理解を深める。レポートにまとめる。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：p48-49 参考書：高野陽太郎・岡隆（2017）「心理学研究法；心を見つめる科学のまなざし 補訂版」有斐閣 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。まとめたレポートを提出。 授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分
	第１１回	心理的アセスメント（3）検査法①パーソナリティ 【key words】 質問紙法、投影法、作業検査法、テストバッテリー 【授業概要】 心理アセスメントの諸技法の1つである検査法、特にパーソナリティの測定を中心に、その特徴について講義を通じて知識を学ぶ。また、手法による差異と特長について、各自が事前に調べたレポートを活用し、グループディスカッションを通じて理解を深める。レポートにまとめる。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：p50-53 参考書：高野陽太郎・岡隆（2017）「心理学研究法；心を見つめる科学のまなざし 補訂版」有斐閣 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。まとめたレポートを提出。 授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分
	第１２回	心理的アセスメント（4）検査法②知的能力・高次脳機能 【key words】 知能検査、神経心理学的検査 【授業概要】 心理アセスメントの諸技法の1つである検査法、特に知的能力・高次脳機能の測定を中心に、その特徴について講義を通じて知識を学ぶ。また、検査の特徴について、各自が事前に調べたレポー

	トを活用し、グループディスカッションを通じて理解を深める。レポートにまとめる。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：p54-61 参考書：武田克彦・山下 光（2019）「神経心理検査ベーシック」中外医学社 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。まとめたレポートを提出。 授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分
	第１３回　臨床心理学のなりたちと展開（2）専門性と社会的連携 【key words】 コミュニケーション、ケース・マネジメント、システム・オーガニゼーション 【授業概要】 これまでに紹介した異常心理学・心理アセスメント・心理療法についての専門職である臨床心理士や公認心理師の実践活動、特に諸領域で共通して必要となる技能を中心に、その特徴について講義を通じて学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：p10-13 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。まとめたレポートを提出。 授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分
	第１４回　臨床心理学のなりたちと展開　(3) 各領域における実践の特徴 【key words】 保健医療、福祉、教育、司法犯罪、産業労働 【授業概要】 諸領域における臨床心理学を活用した実践活動について講義を行う。各自が事前に調べたレポートを活用し、グループディスカッションを通じて理解を深める。レポートにまとめる。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：p260-281 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。まとめたレポートを提出。 授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分
	第１５回　臨床心理学のなりたちと展開　(4) 職責と倫理、科目のまとめ 【key words】 倫理、法的義務、倫理的ジレンマ 【授業概要】 15回の講義の振り返りを行う。これまでに紹介した異常心理学・心理アセスメント・心理療法における倫理や法的義務について知識を学び、理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：p254-257 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義内で受けた指示に沿って定期試験への準備を行うこと 【予習復習に必要な想定時間】 60-90分
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・子ども専攻の学生の受講は、内容が大きく異なるため原則として不可とする。特別な理由があって受講を希望する場合には、事前に教務課と担当教員へご相談ください。 ・事前学習の課題作成のため、図書館やPC室／LL室の利用が可能な状態にしておいてください。 ・講義内で事前学習の課題を資料として用いるグループワークを行う機会があります。グループは基本的に教員がランダムに指定します。 ・教科書以外に、補助教材としてプリントを配布します。前述の事前学習の課題とあわせて、各自でA4版のフラットファイル等を用いて保管するようにしてください。なくしてしまった場合の再発行はできない場合があります。 〔受講のルール〕 ・遅刻／欠席については大学のルールに則り、事務局に講義開始前に連絡してください。受講生への伝言等による連絡は過去にトラブルがありましたので、行わないようにしてください。 ・事務局への事前連絡があった欠席の場合のみ、配布資料の再配布や課題の後日提出を認めます。 ・教科書を毎回持参してください。 ・授業中は、講義に集中するため、私用での携帯電話、スマートフォン、タブレット端末の使用せず、卓上にも置かないでください。 ・オンライン授業に変更される場合は学修内容の効果性を鑑み、講義内容の組み換えを行う場合があります。また、オンライン授業の際の資料配付及び講義ではZoomMeeting・Google・PDFファイル・Wordファイル・PowerPointファイル・Youtube等を利用予定です。 ・ZoomMeetingを使う際は、ビデオ「ON」の指示をすることがあります。 ・提出物は〆切厳守です。 ・受講者には積極的な参加が求められます。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	シラバスにのっとり授業を進める。したがってシラバスで紹介した内容を事前に予習をしておくこと（レポート提出）。 授業の初めに前回の授業内容が把握できているか確認のためにミニテストを行うので復習をしておくこと。 また授業内での指示に留意すること。

オフィスアワー	火曜日　15時～18時。それ以外の時間を希望する場合には、応相談。
評価方法	■定期試験50%　■ミニテスト20%　■事前学習10%　■レポート課題の提出20%（詳細は初回講義時に説明）
教科書	下山晴彦（編）　よくわかる臨床心理学［改訂新版］　ミネルヴァ書房　(2009)　　［注］第11版以降を購入すること
参考書	本学図書館に所蔵のある書籍やウェブ上で公開されている資料などを各回の授業テーマや課題に応じて適宜紹介します。購入の必要はありませんが、興味を持った場合には各自で手に取ってみてください。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 臨床心理士・公認心理師として、精神科病院における心理面接・心理療法・心理アセスメント等の心理担当職員、教育機関のスクールカウンセラー、児童養護施設における心理療法担当職員など20年の実務経験を活かし、公認心理師・臨床心理士に必要な知識・技術・価値・倫理について講じる。また社会福祉士としてソーシャルワークにおける心理的援助について講じる。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 ■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容 ■コメントカードの実施：授業後、コメントカードを記入してもらい次回の授業で全員に説明する（質問提供者は匿名、授業の質問のほかに希望すること、問題点など）。 ■授業は基本的に双方向型。次回の授業についての事前学習をして授業に臨み、各グループでまとめ、代表者が発表する。コメントをもらう。

講義科目名称： 心理療法（心理学的支援法）　　授業コード： S3221

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	2単位(30)	社会福祉専攻・選択
担当教員			
植原　美智子			
専門科目	講義		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	［授業の目標］ 　社会福祉士や精神保健福祉士、公認心理師に代表される対人援助職に求められる心理療法並びにカウンセリングに関する基礎的な知識を理解し、事例への適用について考察することができるようになること。 ［到達目標］ ①代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義及び適用、その限界について説明できるようになること。 ②福祉、保健医療、教育等の領域における訪問による心理的支援や地域での実践の意義について説明できるようになること。 ③心理学的支援における留意点や倫理的配慮を想定できるようになること。
授業の概要	心理療法は臨床心理学の知見を応用した心理的支援の技法の総称であり、各々の背景には理論・歴史、特徴、効果と限界、特徴が存在する。本講義では「心理的支援が実施できるようになること」ではなく、これまでの講義で学んできた「心理的支援に関する理解」を深め、対人援助職を目指す／対人援助職として活躍する中で、その知識を活用できるようになることを目指す。そのため、講義では出来る限り演習形式や疑似体験を含めた体験的な学びを行う予定である。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	○
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーションと授業契約及び心理療法とカウンセリングの歴史 【key words】 臨床心理学の全体構造　カウンセリングと心理療法と臨床心理学の違い　日本の臨床心理学の課題 【授業概要】 【講義の進め方】 ①出席の確認 ②ミニテスト ③テーマの確認 ④テーマについて、グループディスカッション ④次回までの課題提示(レポート等) 【授業の目標】 日本の臨床心理学には、森田療法や内観療法といった心理療法もあるが、基本的には欧米からの移入によって成立し、発展したのが日本の臨床心理学の歴史である。現在、日本の臨床心理学は、大きな転換点に立っている。外国から移入した各学派の理論を越えて、日本の社会的現実に根差した臨床心理学の統合と再構築が求められている。日本の臨床心理学の歴史を概観する。 【教科書ページ・参考文献】 P18-P25（6世界の臨床心理学の歴史　7日本の日臨床心理学の歴史） 資料の配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当ページを読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。

【予習復習に必要な想定時間】
90分

第２回　基礎となる3つの考え方（１）精神分析療法／力動的アプローチ

【key words】
Freud,S.　無意識と意識　精神分析の古典的技法　自由連想法・介入・抵抗の分析・夢の分析・転移

【授業概要】
フロイトによる精神分析理論を学ぶ。精神分析の古典的分析技法にはどのような技法があるのかを学習する。ディスカッション：グループで調べてきた内容・用語を他者に説明してディスカッションする。また、代表者が発表する。各自が事前に調べたレポートを活用し、グループディスカッションを通じて精神分析の古典的分析技法にはどのような技法があるのか理解を深める。レポートにまとめる。
【教科書ページ・参考文献】
P146～P153（3.精神分析 4.分析心理学）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当ページを読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第３回　〃　（２）行動療法／行動的アプローチ

【key words】
レスポンデント行動　オペラント行動　学習理論　古典的条件づけ　オペラント条件づけ

【授業概要】
ディスカッション：グループで調べてきた内容・用語を他者に説明してディスカッションする。また、代表者が発表する。現在の行動療法は、仮説検証を目指す実証的なアプローチを共通基盤に持つ。行動科学から引き出された知識と系統的に利用して人間の問題の把握をしていく。授業では、行動療法における学習とは、また授業では、行動療法における学習と行動、古典的条件づけ、オペラント条件づけ行動を説明する。
【教科書ページ・参考文献】
P154～P157(5.行動療法)

【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当ページを読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第４回　〃　（３）来談者中心療法／ヒューマニスティック・アプローチ　面接技術

【key words】
クライエント　非指示的アプローチ　逐語記録　無条件の積極的関心　共感的理解　自己一致

【授業概要】
クライエント中心療法は、アメリカの心理療法家であるロジャーズによって提唱された。理論の基本について学ぶ。事前に調べてきた内容・用語を他者に説明してディスカッションする。また、代表者が発表する。各自が事前に調べたレポートを活用し、グループディスカッションを通じて来談者中心療法にはどのような技法があるのか理解を深める。レポートにまとめる。
【教科書ページ・参考文献】
P142～P143（2.クライエント中心新療法）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当ページを読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第５回　エビデンスを重視する心理療法：認知療法と認知行動療法

【key words】
認知行動理論　エビデンスベイスト　ABC理論　推論のあやまり　三項随伴性（刺激ー反応ー結果）

【授業概要】
治療の有効性が厳しく審査される欧米において、クライエントの恩恵を最大限にすべく効率性を実証し、社会的な説明責任を全うしようとする認知行動療法が心理療法の中核的地位を占めるに至っている。その成り立ちを学ぶ。事前に調べてきた内容・用語を他者に説明してディスカッションする。代表者が発表する。各自が事前に調べたレポートを活用し、グループディスカッションを通じて認知療法と認知行動療法はどのような理論・技法があるのか理解を深める。レポートにまとめる。
【教科書ページ・参考文献】
P158～P161（6.認知行動療法）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当ページを読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第６回　個人ではなくシステムに働きかける心理療法（１）家族療法／システムズ・アプローチ

【key words】
IP(Identitied Patient)　円環的因果律　家族システム論

【授業概要】

		家族療法は個人を取り巻く家族をひとまとまりの単位として心理療法の対象とする。IPとは「患者とみなされる人」という意味であり、IPが示す問題行動や症状は、個人だけではなく家族のSOSであるとみなされる。事前に調べてきた内容・用語を他者に説明してディスカッションする。代表者が発表する。各自が事前に調べたレポートを活用し、グループディスカッションを通じて家族療法にはどのような技法があるのか理解を深める。レポートにまとめる。 【教科書ページ・参考文献】 P162～P165（7家族療法） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当ページを読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第７回	〃　（２）アウトリーチとコミュニティ心理学 【key words】 地域精神保健活動　心理的社会的問題　社会的文脈のなかの人間　人と環境への働きかけ　社会構成主義　相対主義的性質 【授業概要】 コミュニティ心理学は、1960年代の米国において、地域精神保健活動を母体として誕生した新しい心理学の分野である。コミュニティ心理学の実践の場も変容を続けている。調べてきた内容・用語をグループ内で他者に説明してディスカッションする。また、代表者が発表する。 【教科書ページ・参考文献】 P166～P171(8コミュニティ心理学 9ナラティブ・セラピー) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当ページを読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第８回	日本独自の心理療法：森田療法、内観療法、動作法 【key words】 森田療法の「ヒポコンドリー現象」　内観療法の「身調べ」　動作法の心身一元「現象」 【授業概要】 日本で生まれた心理療法について、理論と方法を学ぶ。動作法は実際に体験する。調べてきた内容・用語をグループで他者に説明してディスカッションする。また、代表者が発表する。各自が事前に調べたレポートを活用し、グループディスカッションを通じて日本独自の心理療法の理解を深める。レポートにまとめる。 【教科書ページ・参考文献】 P172～177（10動作法　11森田療法　12内観療法） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当ページを読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第９回	『ことば』に頼らない心理療法（１）遊戯療法 【key words】 遊ぶことの意味　アクスラインの8原則　問題解決を促すかかわり 【授業概要】 遊戯療法では、子どもとセラピストが遊びに集中できるための枠組みが重要になる。枠組みとはどのようなものか、遊ぶことにはどのような意味があるのか学ぶ。調べてきた内容・用語をグループ内で他者に説明してディスカッションする。また、代表者が発表する。各自が事前に調べたレポートを活用し、グループディスカッションを通じて遊戯療法にはどのような技法があるのか理解を深める。レポートにまとめる。 【教科書ページ・参考文献】 p178-p179（1遊戯療法） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当ページを読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第１０回	〃　（２）表現療法・箱庭療法・コラージュ療法 【key words】 「選ぶ」「置く」「切る」「貼る」 【授業概要】 箱庭療法はイメージを媒介する介入方法の一つである。たくさんのミニチュアからいくつかを「選んで」、それらを「箱」のなかに「置く」。箱庭療法の意義をを学ぶ。表現療法・コラージュ療法の理論・技法を学ぶ。実際に体験する。調べてきた内容・用語を他者に説明してディスカッションする。また、代表者が発表する。 【教科書ページ・参考文献】 p180～p181（2箱庭療法） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当ページを読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第１１回	技法に特徴を持つ心理療法（１）ブリーフセラピー／短期療法 【key words】

	受動的注意集中　標準練習　特殊練習　黙想練習　気持ちが落ち着いている 【授業概要】 ディスカッション：グループで調べてきた内容・用語を他者に説明してディスカッションする。また、代表者が発表する。自律訓練法は、心身安定のための心理生理学的訓練法で、一定の言語公式を心の中で反復的に唱え、その公式の内容に受動的注意集中を行って、段階的に心理生理的再体制化をはかる方法である。その効果を体験的に学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P186-P187（5自律訓練法） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当ページを読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
第１２回	〃　　（２）トラウマの治療 【key words】 自己表現　アサーション　非主張的表現　攻撃的表現　「私もOK、あなたもOK」 【授業概要】 【授業概要】 アサーションとは、「自分の気持ち・考え・意見・相手への希望などを伝えたいときには、なるべく素直に、その場にあった適切な方法で杖たる自己表現」すること。その根底には、人間一人ひとりが頃なる価値観や考えをもち、表現することを基本的人権として大切にしようとする理念がある。相手も自分も大切にする表現とはどのようなものかを学ぶ。 グループで調べてきた内容・用語を他者に説明してディスカッションする。また、代表者が発表する。グループワークを行い体験する。体験を分かち合う。 【教科書ページ・参考文献】 P196-P197（10アサーション・トレーニング） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当ページを読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
第１３回	集団に対する心理的支援：エンカウンター、こころの健康教育、心理教育 【key words】 ファシリテーターと複数のメンバー　グループ・ダイナミクス　対人関係 【授業概要】 集団療法は、集団を対象とした心理療法であり、セラピストあるいはファシリテーターと複数のメンバーによって行われる。集団療法の種類や特徴を体験的に学ぶ。調べてきた内容・用語を他者に説明してディスカッションする。また、代表者が発表する。 【教科書ページ・参考文献】 P198～P207（1集団療法　4心理教育） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当ページを読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
第１４回	福祉、保健医療、教育等の分野における心理的支援の実際　プライバシーの配慮や倫理 【key words】 被害・被災とトラウマ反応　心理的反応　適応の援助　文化の問題　従業員援助プログラム　行動側面に注目 【授業概要】 衝撃的で強いストレスとなる出来事に巻き込まれたときに、さまざまな精神的な変調を生じることがあり、これをトラウマと呼んでいる。こうしたトラウマ体験への多様な心理的反応を知り、どのような対応ができるのか考える。調べてきた内容・用語を他者に説明してディスカッションする。また、代表者が発表する。 【教科書ページ・参考文献】 P218-P223（15被害者相談　6異文化間カウンセリング　7 EAP） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当ページを読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
第１５回	まとめ 【key words】 死への心理的プロセス　ターミナルケア　緩和ケア　精神的ケアの重要性 【授業概要】 現代の心理療法はエビデンスがいかに担保されるか、の問題が大きい。しかしながら、人には古代から脈々と受けつがれた固有の文化が存在する。これは普段は意識されないものであるが、全世界の人々に共通する普遍的な無意識の層に流れていると考えられている。自然界の考え方をどのようにとらえるか。各心理療法の特徴から福祉的場面での心理療法を考える。全講義のまとめをする。 【教科書ページ・参考文献】 資料配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 全講義のまとめと学期末試験の準備を行う。 【予習復習に必要な想定時間】 90分

受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・教科書を毎回持参すること。 〔受講のルール〕 ・遅刻／欠席については大学のルールに則り、事務局に講義開始前に連絡すること。受講生への伝言等による連絡はトラブルを避けるため認めない。 ・事前に規定の方法で連絡があった欠席の場合のみ、配布資料の再配布を行う。 ・オンライン授業に変更される場合は学修内容の効果性を鑑み、講義内容の組み換えを行う場合がある。また、オンライン授業の際の資料配付及び講義ではZoomMeeting・Google・PDFファイル・Wordファイル・PowerPointファイル・Youtube等を利用予定。 ・ZoomMeetingを使う際は、ビデオ「ON」の指示をすることがある。 ・授業形態に関わらず、積極的に授業に参加し他の受講生の迷惑となる行為（私語、携帯電話の使用等）は厳禁。 ・提出物は〆切厳守。 ・受講者には積極的な参加が求められる。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	シラバスにのっとり授業を進める。したがってシラバスで紹介した内容を事前に予習をしておくこと（レポート提出）。 授業の初めに前回の授業内容が把握できているか確認のためにミニテストを行うことがあるので復習をしておくこと。 また授業内での指示に留意すること。
オフィスアワー	火曜15時～18時。それ以外の時間を希望する場合には，応相談。
評価方法	■定期試験50%　■ミニテスト20%　■事前学習10%　■レポート課題の提出20%
教科書	下山晴彦（編）　よくわかる臨床心理学［改訂新版］　ミネルヴァ書房　(2009)　　［注］第11版以降を購入すること
参考書	下山晴彦（編）公認心理師必携　精神医療・臨床心理の知識と技法　医学書院　(2016) 福島哲夫（編）公認心理師　必携テキスト　学研　(2018)
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 臨床心理士・公認心理師として、精神科病院における心理面接・心理療法・心理アセスメント等の心理担当職員、教育機関のスクールカウンセラー、児童養護施設における心理療法担当職員など20年の実務経験を活かし、公認心理師・臨床心理士に必要な知識・技術・価値・倫理について講じる。また社会福祉士としてソーシャルワークにおける心理的援助について講じる。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 ■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容 ■コメントカードの実施。授業後、コメントカードを記入してもらい次回の授業で全員に説明する（質問提供者は匿名、授業の質問のほかに希望すること、問題点など）。 ■授業は基本的に双方向型。次回の授業についての事前学習をして授業に臨み、各グループでまとめ、代表者が発表する。コメントをもらう。

講義科目名称： 人格心理学（感情・人格心理学）　　授業コード： S3261

英文科目名称： Psychology of Emotion and Personality

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	2単位(30)	社会福祉専攻・選択
担当教員			
橋本　広信			
専門科目	講義		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 自分や自分以外の人がどのような人かを考える心理学的視点について、「人格（パーソナリティ）」と「感情」に注目しながら、人が生きている大きな時間的空間的な背景にも注目し、多面的に人とその人生をとらえる力を養うことを目的とする。 【到達目標】 ①人とその心の全体的な理解をめざして、多様な人格（パーソナリティ）理論と感情のメカニズムについて理解できる。 ②すべての人に共通する視点、集団の一員としての人を理解する視点、一人ひとり個別の人間を理解する視点という三層の視点を養う。 ③人格と感情の機能や構造を理解し、その人それぞれに出会うであろう危機や回復についての道筋をイメージすることができ、「人がその人らしく生きる」ことを心理学的に支援する方法を描ける。
授業の概要	・教科書に沿いながら、まず「人格（パーソナリティ）」に関する理論や研究を全般的に見ていく。そして、後半には時として人の行動を強く規定する「感情」について参考書を基に学んでいく。 ・この授業を通して、普通に生きる人のあり方やその感情の動きはもちろん、時に了解しがたい次元に行ってしまう人の心理をも理解し、それも人の心のある意味自然な働きとしてとらえる枠組みなどもつかみながら、深い人間理解に根差した人間観、人生観を磨く機会にしてもらいたい。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	○
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	どうして人は誰かの性格をきめつけるの？：科目オリエンテーション 【key words】 内集団・外集団、個人差、基本的な統計的手法、構成概念、統制過程と自動過程、ステレオタイプ、偏見、内集団ひいき、相貌学、体系によるパーソナリティ分類、ハロー効果、血液型ステレオタイプ、確証バイアス 【授業概要】 ・15回の授業の流れと目標などについて、科目のオリエンテーションを行います。まず、ある人に関心をもったとき、その人を端的な特徴に基づき単純化して捉える人の傾向性について学び、人が人と関わるときに何に基づいて振る舞いを決めているかについて検討します。 【教科書ページ・参考文献】 教科書1-21ﾍﾟｰｼﾞ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 社会心理学で基本的に扱う内容となるので、なるべく社会心理学の教科書を持参しながら受講すること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習2時間
	第２回	性格の個人差などは、存在しないのでは？：社会構成主義のパーソナリティ観 【key words】 パーソナルコンストラクト理論（ケリー）、if...then...行動パターン、パーソナリティの一貫性、基本的帰属のエラー、対応バイアス、状態と特性 【授業概要】

		パーソナリティというものが人の中に実態として存在するようなものではなく、状況に応じて場面場面で作られていくという考え方を基本的にとる立場の社会構成主義的な考え方について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書22-34ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ケリーのパーソナルコンストラクト理論についてあらかじめ予習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間
	第３回	類型としてとらえるパーソナリティ、特性でとらえるパーソナリティ 【key words】 ユング、外向、内向、キャッテルの特性論、アイゼンクの2軸、ビッグファイブ理論、オルポート、 【授業概要】 どのようにパーソナリティが形成されるかの論争とは別に、心理学の大きな課題として、人のパーソナリティを客観的に理解するにはどうすればよいかというテーマがある。今回はその基本となる類型論と特性論に基づくパーソナリティ理解のあり方について、様々な心理学者の考えを基に学んでいく。 【教科書ページ・参考文献】 教科書35-46ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当箇所について予習をしておくこと。またそれに基づいて作られたパーソナリティ検査についても調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間
	第４回	遺伝はパーソナリティのあり方にどう影響していると考えるべきか？ 【key words】 遺伝、ポリジーンモデル、遺伝的多様性、クロニンジャー、行動遺伝学、共有環境、非共有環境 【授業概要】 自分の中に生まれながらにあって、歳をとるごとになおかつ影響を及ぼし続ける「遺伝」の影響について学んでいく。まだまだ不明な点も多い遺伝の影響であるが、「行動遺伝学」などの研究を理解し、どのように遺伝の影響を考えるべきかについて解説する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書47-62ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「「犯罪者」の先祖をもつ子どもがいたとしたら「犯罪者」になりやすいのか？」という問題について、いろいろ調べて自分なりの答えを出せるようにしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間
	第５回	遺伝と環境の相互作用によるパーソナリティ形成の考え方 【key words】 新相互作用論、当為自己、理想自己、ＣＡＰＳ、パーソナリティの神経基盤、精神力動モデル、対話的自己（ハーマンス） 【授業概要】 遺伝の影響は侮れないが、それが決定的な要因になるとはいえない。遺伝はパーソナリティの基盤を作りながらも、生まれ育つ環境の中でどのようなことを学びながら生きるのかという環境との相互作用のあり方を理解する必要がある。ここでは、基本的に相互作用的にパーソナリティが形成されるメカニズムをモデル化した理論を学び、パーソナリティを多面的に動きのあるものとして見る視点を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書63-73ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 フロイト、ハーマンスの理論について予習をし、彼らの見方からどうパーソナリティのあり方を説明できるかを確認しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間
	第６回	パーソナリティは変わるもの？変わらないもの？ 【key words】 トーマスとチェス、ニューヨーク縦断研究、乳児期の３タイプ、愛着（アタッチメント）、ストレンジ・シチュエーション法、愛着スタイル、アイデンティティ地位論、モラトリアム、マクアダムスの3層構造 【授業概要】 パーソナリティは生まれた時と青年期、また老年期では同じだろうか、違うだろうか。それぞれどんなところが変わって、そして変わらないのだろうか。今回はそんな疑問に対して、発達心理学の研究から答えを考えていく。 【教科書ページ・参考文献】 教科書76-83ページ　（青年期、パーソナリティの形ができあがってくるまで） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 パーソナリティを層構造としてとらえる視点について、特に復習をしっかりしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間、復習3時間
	第７回	パーソナリティの完成ってあるの？　成人期・老年期のパーソナリティ 【key words】 親密性、生殖性（ジェネラティビティ）、中年期の危機（ミッドライフクライシス）、個性化（ユング）、ライフレビュー（バトラー）、後悔、老延期超越 【授業概要】 青年期を通過する間に、人それぞれのパーソナリティが明確になってくる。それに伴い、それぞれのパーソナリティの偏りやくせ、課題も明確になってくる。良い悪いは別として、そうした課題を抱えながら中年期以降に現れる、中年期の危機と「個性化」の過程について理解し、人格の全体を生きるという視点から人とその人生を捉える見方を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書84-86ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】

		ユングの個性化について予習をし、ある程度人に説明できるようにしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間
	第８回	私の中の私　パーソナリティと統合失調症 【key words】 多重人格、統合失調症 【授業概要】 ここまで学んだことのまとめとして、自明であるはずの自分のパーソナリティが混乱したり崩壊したり、機能しなくなる統合失調症をもとにして、病から見えてくる、パーソナリティというものの本質を考えてみる。 【教科書ページ・参考文献】 参考書：ともよ（2018）『わたし中学生から統合失調症やってます』（合同出版）、木村きこり『統合失調症日記』（ぶんか社）、他 【課題・予習・復習・授業準備指示】 参考として当事者による漫画や物語を参考にしていくので、受講前にそれらに目を通してもらいたい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間
	第９回	パーソナリティの測り方とは？ 【key words】 観察法、実験法、面接法、質問紙法、投影法、 【授業概要】 これまでの心理学の歴史において、多様な方法とスタイルでパーソナリティを測ろうとする試みが行われてきた。他の教科でもすでに有名な心理検査を学習済みだと思われるので、そうした検査の解説というより、そうしたものを利用した研究などについて解説し、パーソナリティを測ることの意義や方法について学んでいく。 【教科書ページ・参考文献】 教科書87-112 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習3時間、復習1時間 【予習復習に必要な想定時間】 今あるものとは別に、自分が独自に客観的にパーソナリティを測りたいと仮定したとき、何をどう図ればよいかについて、学生なりの考えを説明できるようにしておくこと。
	第１０回	パーソナリティに問題がある場合、臨床ではどうすればいいの？：パーソナリティ障害と心理臨床 【key words】 DSM-5、パーソナリティ障害、Ａ群、Ｂ群、Ｃ群、自己愛性人格障害、パーソナリティ障害、愛着障害 【授業概要】 パーソナリティのあり方自体に生きづらさを生む問題を抱え込みながら生きる人がいる。現在増えていると言われるこの障害は薬物療法そのもので問題が解決しにくい面もあり、専門家も忌避することが多いという。ここで、このパーソナリティ障害について、参考書を参照しながら、じっくりと考えてみたい。そして、具体的にどのような点が問題になるか、またどのようにして回復の道が開かれるのかを学んでいく。 【教科書ページ・参考文献】 教科書113-116ﾍﾟｰｼﾞ、鍋田恭孝（2007）『思春期臨床の考え方・すすめ方』（金剛出版）、レイチェル・レイランド（2007）『ここは私の居場所じゃない：境界性人格障害からの回復』（星和書店） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書該当ページ、ＤＳＭ、参考文献などを調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間
	第１１回	普遍言語としての「感情」と、パーソナリティと感情の関係 【key words】 情動の文化理論、エクマン、高次認知的情動、基本情動の価値、罪悪感、愛情、復讐心の進化、道徳的感情 【授業概要】 動物に比較するとはるかに複雑に発達をしている「感情」が、人に普遍的にパーソナリティに備わっているのはなぜか。エヴァンズの参考書に沿いながら、進化論の観点からまず普遍言語のように備わる人の感情について学んでいく。そして、人それぞれにもっている感情の強さが、どのようにそのパーソナリティに関わっているかについても検討する。 【教科書ページ・参考文献】 エヴァンズの参考文献1-63ﾍﾟｰｼﾞの中からトピックを抜き出して扱う。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 可能であれば参考書を手に入れること。なければ借りたり他の感情に関する図書に目を通しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間
	第１２回	感情心理学からみた幸福への近道 【key words】 幸福感（happiness）、喜び（joy）、世界幸福感データベース、デブリーフィング、ベック、認知療法、情動のカタルシス論、デブリーフィング、至高体験（マズロー）、フランクル 【授業概要】 人にとって満足をもたらす快感や幸福感を引き起こす要素は共通であるとはいえないが、ある意味でそれぞれの人が感じる幸福感の要素の中に、その人の個性もあるといえよう。また、中には幸福感を避けて通るような思考回路を形成する人もいる。こうした幸福を感じさせる感情が、いかにある人の人生と結びつくのかについて、様々な角度から探ってみる。 【教科書ページ・参考文献】 エヴァンズの参考文献64-105ﾍﾟｰｼﾞ、配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 マズローの「至高体験」について調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習2時間

	第１３回　感情と心の健康とパーソナリティ 【key words】 オールポート、成熟した人間、機能的自律性、プロプリウム（固有我）、マズロー、自己実現、 【授業概要】 これまでに学んだ人格心理学のまとめとして、参考書をもとに、人格理論を提唱した４人の心理学者の説を概観する。それぞれの心理学者たちが考える「健康なパーソナリティ」とはどのようなものかを知ることで、どのような人格のあり方が、人として生きる上で重要なのかについて考える。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料、シュルツ（1982）『健康な人格』（川島書店）、島　義弘（2017）『パーソナリティと感情の心理学』（サイエンス社）、乾　敏郎（2018）『感情とはそもそも何なのか』（ミネルヴァ書房） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 マズローとオールポートについて調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間 第１４回　健康な人格 【key words】 フロム、生産的人間、正気の社会、非生産的かまえ、自由からの逃走、ユング、普遍的無意識、個人的無意識、個性化、コンプレックス、影、元型 【授業概要】 前回学んだ二人の人格心理学の理論と同様、健康な人格に関するイメージを、もう二人の人格理論からつかむ。それぞれの心理学者たちが考える「健康なパーソナリティ」とはどのようなものかを知ることで、どのような人格のあり方が、人として生きる上で重要なのかについて考える。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料、シュルツ（1982）『健康な人格』（川島書店） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 あらかじめ、この授業時間までにフロムとユングの理論を調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間 第１５回　「偉い人」・「理想のパーソナリティ」とはどういう人か 【key words】 理想自己、ゴールトン、操作的定義、宮沢賢治、福沢諭吉、人格ピラミッド（健全性X、偉大性Y、超越性Z）、患者性 【授業概要】 人格心理学のまとめとして、これまでに学んだことも通しながら、「理想的なパーソナリティ」や「偉い人」とはどのようなものかを考えていく。特に西平直喜の「偉い人とはどういう人か」という問いと、人格の「X、Y、Z」理論から、人格の偉大さをどう捉えるか、というテーマについて考え、この講義をまとめる。 【教科書ページ・参考文献】 西平直喜（2004）『偉い人とはどういう人か』（北大路書房） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・あらかじめ、「偉大な人」「理想のパーソナリティ」だと思われる人について調べ、説明できるようにしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・選択科目ではあるが、社会福祉士や公認心理等国家資格に関連する基礎知識も扱う。 〔受講のルール〕 ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語・携帯電話の使用等）は退席を命じる。その場合は欠席扱いとする。 ・評価方法を選べる。早めに選択をし、レポート方式を選択する学生は、準備のため、伝記を早めに読み込むこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	資料を送るスレッドに返信をする形で、コメントを毎回投稿することにより、双方向性を確保する。積極的にコメントを書き込むこと。
授業外時間にかかわる情報	シラバスにある授業外時間の課題を参考にして、教科書や参考書、その他資料について積極的に予習をお願いしたい。 人格の構造について関心を持ち、精神障害などの本質について考える視点を持って授業に臨んでほしい。
オフィスアワー	火曜日　11：00～13：30
評価方法	・総合評価は、以下の通りの割合で評価。総合得点６０～６９点：C　７０～７９点：B　８０～８９点：A　９０点以上：S ・それぞれの関心と実力に合わせ、「筆記試験方式」か「レポート方式」を選択できる。筆記試験の場合は訂正法にて行う。レポート方式は「手に入る伝記が存在している著名人」を選択し、その人生の記録を通して、人物の分析を行う（伝記分析）。レポートの方が難易度が高いため、粗点×1.5の点数を与え、総合評価を出す。
教科書	鈴木公啓・荒川歩・太幡直也・友野隆成（2018）『パーソナリティ心理学入門：ストーリーとトピックで学ぶ心の個性』（ナカニシヤ出版）
参考書	・ディラン・エヴァンズ（遠藤利彦訳）『感情』（岩波書店）、乾　敏郎（2018）『感情とはそもそも何なのか』（ミネルヴァ書房）、Dan.P.McAdams The Person:An Introduction to the Science of Personality Psychology .(5th edition). Wiley.,USA.2009. 他適宜指示。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容

	アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 ■その他 その他の具体的内容 zoomを用いた授業を実施する場合がある。その際にはzoomのブレイクアウトルームや投票機能を使用して、可能な限り双方向的に授業を行いたいと考えているので、積極的な参加をお願いする。

講義科目名称： 司法・犯罪心理学　　授業コード： S3271

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	2単位(30)	社会福祉専攻・選択
担当教員			
加藤　篤士			
専門科目	講義		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	我が国の司法・犯罪心理学の諸理論について理解し説明できるようになること、および司法・犯罪領域における公認心理師の業務について理解しその基礎を身につけることを目的とします。
授業の概要	司法・犯罪心理学が関わるテーマを幅広く扱います。犯罪の原因と考えられる要因、非行・犯罪への対応、司法の手続きと対応の流れ、被害者の支援などについて講義を行い、必要に応じてディスカッションの時間を設けます。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	△
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画

第1回　オリエンテーション
【key words】
司法・犯罪心理学
【授業概要】
司法・犯罪心理学のイメージと実際、犯罪心理学がカバーする範囲などについて概説する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第2回　日本の司法システム
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第3回　犯罪の生物学的要因
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第4回　犯罪の心理的要因
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第5回　犯罪の社会的要因

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第6回　非行

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第7回　DV

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第8回　虐待

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第9回　依存症

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第10回　身近な犯罪

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第11回　捜査・供述・精神鑑定

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第12回　適切な情報を聞き出すために

【key words】

【授業概要】

	【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第13回　目撃証言 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第14回　裁判 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第15回　支援 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	あらかじめテキストを読み、問題意識を持って受講してください。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	リアクションペーパーの提出を求めます。
授業外時間にかかわる情報	新聞やメディアを通じて、関連する出来事に問題意識を持って授業に出席してください。また、授業で関心を持ったトピックスについて、文献にあたるなど理解を深めてください。
オフィスアワー	授業前後を予定しています
評価方法	平常点(リアクションペーパー)30%、期末試験70%
教科書	使用しない
参考書	入門 司法・犯罪心理学　法と心理学会(監)　有斐閣　2022 その他、授業の中で適宜紹介します。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 医療観察法病棟を持つ医療機関での心理士業務 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 社会福祉法制（関連行政論）　　授業コード： S3301

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	2単位(30)	選択
担当教員			
森田　隆夫			
専門科目	講義		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　社会福祉は、憲法25条にその根拠を置くが、その多くは、憲法25条を具体化した福祉六法等の社会福祉に関する法律に基づいて運営される。従って、社会福祉をはじめとする相談援助を志す者は、この社会福祉に関する法律を知り、理解することが不可欠である。この授業は、社会福祉法制の歴史を踏まえた上で社会福祉に関する法律を理解し、法的な面からの社会福祉の考察を目指す。 【到達目標】 ①社会福祉と法の通史的観点を身につける。 ②六法で条文を調べることができる。 ③社会福祉六法等につきその重要な概念、制度等を説明することができる。 ④法を解釈するという思考方法をとることができる。
授業の概要	社会福祉法制の歴史、憲法との関わりを明らかにした上、社会福祉法及び社会福祉6法、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律、介護保険法、そして、障害者自立支援法などを例にとり、概説する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	△
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	◎
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回	科目オリエンテーション、社会福祉法制の意義と体系 【key words】 社会福祉法制　社会保障　社会福祉　公的扶助 【授業概要】 社会福祉法制の意義と体系について説明をする。 個々の社会福祉概念につき説明をする。 【教科書ページ・参考文献】 プリント１ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】プリント２pp1~2、資料pp12~15 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第２回	社会福祉の法と行政のあゆみⅠ 【key words】 鰥寡条　目盲条　恤救規則 【授業概要】 古代から現代にいたる社会福祉の歴史を概観する。 【教科書ページ・参考文献】 プリント２pp1~2、資料pp12~15 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】プリント２pp3~4、資料pp16~19 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第３回	社会福祉の法と行政のあゆみⅡ

【key words】
鰥寡条　目盲条　恤救規則
【授業概要】
古代から現代にいたる社会福祉の歴史を概観する。
【教科書ページ・参考文献】
プリント２pp3~4、資料pp16~19
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】プリント３
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第４回　日本国憲法と社会福祉
【key words】
幸福追求権　生存権　公的助成　地方自治
【授業概要】
社会福祉法制の基礎となる日本国憲法について、特に関連する事項について説明する。
【教科書ページ・参考文献】
プリント３
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】教科書　pp27～32、pp67～68
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第５回　社会福祉法Ⅰ（理念・目的、定義、実施機関・専門職務者など）
【key words】
目的・理念　社会福祉事業　福祉事務所
【授業概要】
社会福祉法の目的・理念、定義、福祉事務所等の実施機関・専門職務者などについて説明する。
【教科書ページ・参考文献】
pp27～32、pp67～68
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】教科書　pp32～67
【予習復習に必要な想定時間】

第６回　社会福祉法Ⅱ（社会福祉法人、社会福祉事業、地域福祉の推進など）
【key words】
社会福祉法人　社会福祉事業　福祉サービス
【授業概要】
社会福祉法人について説明する。
社会福祉事業の主体、経営準則、福祉サービスの制度等につき説明する。
【教科書ページ・参考文献】
pp32～67
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】教科書 pp98～104
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第７回　生活保護法Ⅰ（目的・理念、原理・原則、実施機関と専門職務者、収入認定など）
【key words】
目的・理念　原理・原則　福祉事務所、収入認
【授業概要】
生活保護法の目的・理念　原理・原則を説明する。
福祉事務所といった実施・現業機関や専門職務者に就き説明をする。
保護決定のための収入認定について説明をする。

【教科書ページ・参考文献】
pp98～104
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】教科書　pp104～120
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第８回　生活保護法Ⅱ（保護の決定・実施、保護の種類・範囲・方法、保護施設、被保護者の権利義務など）
【key words】
保護の決定・実施　保護の種類・範囲・方法　保護施設　被保護者の権利義務
【授業概要】
保護の決定・実施、それに基づく保護の種類・範囲・方法、保護施設について説明をする。
保護を受ける被保護者の権利および義務について説明する。

【教科書ページ・参考文献】
pp104～120
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】教科書　pp168～248
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第９回　児童福祉法
【key words】
児童　児童相談所　児童福祉事
【授業概要】
児童福祉法の基本理念、対象、実施期間、事業・施設について説明をする。
【教科書ページ・参考文献】
pp168～248
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】教科書　pp308～321　資料(教育基本法、少年法)
【予習復習に必要な想定時間】
60分

	第１０回　母子及び父子並びに寡婦福祉法、教育基本法、少年法（刑法との関連から） 【key words】 母子等　寡婦　児童福祉審議会、教育基本法、少年法、刑法 【授業概要】 母子及び父子並びに寡婦福祉法の目的、定義、サービス等を説明する。 児童・未成年保護の観点から教育基本法、少年法（刑法との関連して）についても概説する。 【教科書ページ・参考文献】 pp308～321　資料(教育基本法、少年法) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書　pp617～627 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１１回　身体障害者福祉法 【key words】 身体障害者　身体障害者更生相談所　身体障害者福祉司　身体障害者手帳　身体障害者更生施設 【授業概要】 身体障害者福祉法の目的・理念、定義、実施機関等について、身体障害者手帳、身体障害者福祉法のサービス・施設について説明する。 【教科書ページ・参考文献】 pp617～627 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書　pp654～681 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１２回　知的障害者福祉法、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律 【key words】 知的障害者　療育手帳　精神障害者　精神障害者保健福祉手帳 【授業概要】 知的障害者福祉法と精神保健及び精神障害者福祉に関する法律を比較しつつ、それぞれの目的、定義実施機関等を説明する。 【教科書ページ・参考文献】 pp654～681 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書　pp559～602　資料(労働三法、労働安全衛生法 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１３回　障害者総合支援法、労働三法、労働安全衛生法 【key words】 目的・理念　障害者　応能負担、労働三法、労働安全衛生法 【授業概要】 障害者総合支援法の目的、基本理念、定義、サービス等を説明する。 就労支援に関連して労働三法、労働安全衛生法についても概説する。 【教科書ページ・参考文献】 pp559～602　資料(労働三法、労働安全衛生法) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書　pp323～336、pp377～513 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１４回　老人福祉法、介護保険法 【key words】 老人福祉法、介護保険法、老人、被保険者、要支援、要介護 【授業概要】 老人福祉法、介護保険法の目的、定義、サービス等を説明する。 【教科書ページ・参考文献】 pp323～336、pp377～513 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書（主だった条文）、プリントの見直し 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１５回　まとめ 【key words】 社会福祉法制の体系　社会福祉法制のあゆみ　福祉六法　障害者総合支援法　介護保険法 【授業概要】 社会福祉法制に関し、特に重要と思われる事項につき再度説明をし、復習をしてもらう。 【教科書ページ・参考文献】 教科書（主だった条文）、プリントの見直し 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	・可及的に多くの情報を提供したいので、予習復習は必ず行うこと。 ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。 ・社会福祉を志す者として、出席時間の厳守し、態度や身だしなみ等を整えること。 ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	教科書で予習・復習すること、根拠条文を確認しておくことが、絶対に必要です。　また、別掲の参考書での学習も、お勧めします。

オフィスアワー	火曜　14時半～16時、　金曜　14時半～16時
評価方法	定期試験（６０％）、授業時間に行う小テスト（４０％）を総合して評価する。
教科書	ミネルヴァ書房編集部 編「社会福祉六法」ミネルヴァ書房，2023年
参考書	宇山勝義 他 編「社会福祉行政論」ミネルヴァ書房，2010年 河野正輝 他 編「社会福祉法入門 第3版」有斐閣，2015年
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 臨床心理学特論（神経・生理心理学）　　授業コード： S3341

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	2単位(30)	福祉心理コース　選択
担当教員			
鈴木　淳			
専門科目	講義		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】大脳を中心とした中枢神経系の構造と活動(すなわち、高次脳機能)は、ヒトが生きていく上でのさまざまな心理事象・認知行動の生物学的基盤そのものであり、その基盤自体を支持・応用するものでもあります。その一方で、高次脳機能障害の様子に対する世間一般の理解のしかたとしては多彩ゆえに不可解な印象をもちやすいともいえ、当事者の心理的ケアはそのリハビリテーション上 極めて重要です。その支援に携わる心理専門家は、一見不可解なその当事者の心の成り立ちや仕組みについての科学的理解・根拠にもとづくことが必須であるといえます。本授業では、その素養である神経・生理心理学の知識と考え方を教授し、症例等も提示しながら立体的・有機連関的な当事者理解に導きます。 【到達目標】 1)中枢神経系の構造と機能の概要を説明できる。2)心理事象・認知行動の生理学的基盤・機序を概説できる。3)高次脳機能障害の病態を説明できる。4)多彩な高次脳機能障害児者の多様なリハビリテーションに伴なう心理的ケアのポイントとその根拠を説明できる。
授業の概要	1)中枢神経系の構造・構成と機能・情報処理について、視覚的に講じ、2)認知行動の各側面とそれに与る中枢神経系部位等の対応関係(機能局在と神経連絡)をおさえます。その上で、3)脳損傷をもたらす神経内科・脳神経外科的疾患の各病態を概観し、高次脳機能障害の臨床症状群を理解し、4)当事者のリハビリテーションにおける心理的ケアのポイントと根拠について言及します。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	○
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	○
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	◎
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	○
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回　科目オリエンテーション　ヒトの心理事象とその生物学的基礎　神経・生理心理学を学ぶ意義 【key words】 精神機能　行動　生物学的基盤　全体論と局在論　研究方法 【授業概要】 心と脳は“同一”のものであるという作業仮説にもとづいて、多彩な精神機能・行動と脳との関係をどのように考えるか、その学問的背景を理解します。 【教科書ページ・参考文献】 教科書および配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業での重要項目の復習を重視 【予習復習に必要な想定時間】 第２回　神経系の解剖・生理　１　神経系の構成と情報伝達　連絡線維　髄鞘化　神経系の発生と成長・発達 【key words】 神経細胞（ニューロン）　グリア細胞　血液-脳関門（BBB）　神経信号伝達の物理/化学　跳躍伝導 【授業概要】 神経活動の基本単位であるニューロンの機能解剖を概観し、特に中枢神経系の発達（髄鞘化）にともなう跳躍伝導が迅速な認知行動の下地であることを理解します。 【教科書ページ・参考文献】 教科書および配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業での重要項目の復習を重視

【予習復習に必要な想定時間】

第３回　神経系の解剖・生理　２　大脳の3次元構成　皮質と皮質下　機能局在と全体　連合野　　脳動脈系　画像診断

【key words】
前頭葉　頭頂葉　側頭葉　後頭葉　大脳基底核　視床　機能局在　連合野　脳血管系　責任病巣　CT/MRI

【授業概要】
大脳の各部位(脳葉皮質および皮質下構造)が分担しかつ統合する生理・心理機能とあわせて、それらを維持するのに不可欠な栄養・酸素供給の仕組み(脳血管系・脳血流)を知り、臨床上基本的な画像診断情報について学びます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書および配布資料

【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業での重要項目の復習を重視

【予習復習に必要な想定時間】

第４回　小テスト　１　および　神経活動の背景・一般機能　意識　注意　認知適応のための構え

【key words】
意識レベル　見当識　感情　気分　意欲　(汎性)注意　精神反応　機能変動

【授業概要】
臨床上、大脳巣症状に多様に影響をおよぼし修飾しうる大局的・全体的な背景機能・一般機能の状態について考えます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書および配布資料

【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業での重要項目の復讐を重視

【予習復習に必要な想定時間】

第５回　視覚　聴覚　体性感覚　運動　大脳の機能的非対称性(側性化)　利き手

【key words】
視覚　聴覚　体性感覚　身体運動　大脳の側性化　利き手

【授業概要】
感覚様式ごとの知覚・認識や身体運動の調整にかかわっている経路・仕組みを概観し、利き手や言語中枢と関係する大脳の機能偏倚を知ります。

【教科書ページ・参考文献】
教科書および配布資料

【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業での重要項目の復習を重視

【予習復習に必要な想定時間】

第６回　小テスト　２　および　言語(speechとlanguage　言語中枢　角回　縁上回　右半球と言語)

【key words】
話しことばと言語　運動言語中枢　感覚言語中枢　弓状束　角回　縁上回

【授業概要】
ヒトに固有な高次脳機能である言語行動を支持する神経系の機能解剖を学びます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書および配布資料

【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業での重要項目の復習を重視

【予習復習に必要な想定時間】

第７回　学習　記憶

【key words】
ワーキングメモリ　長期記憶　側頭葉内側部　間脳　健忘　学習　意思決定　脳の可塑性

【授業概要】
適応行動の基盤でもある学習と記憶の生理・病理について考えます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書および配布資料

【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業での重要項目の復習を重視

【予習復習に必要な想定時間】

第８回　小テスト　３　および　情動　感情　動機づけ　発動性　人格　ストレス

【key words】
情動　自律神経系　大脳辺縁系　情動の表出　情動の認知　ストレス　動機づけ

【授業概要】
喜怒哀楽が行動の組織化にどのようにかかわってくるのかについて言及します。

【教科書ページ・参考文献】
教科書および配布資料

【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業での重要項目の復習を重視

【予習復習に必要な想定時間】

第９回　睡眠　概日リズム

【key words】
睡眠　睡眠周期　脳波　脳幹網様体賦活系　概日リズム

【授業概要】
日常生活の大きなリズムである睡眠の生理について系統発生的・生涯発達的に学ぶとともに、睡眠の病態にもふれる。

【教科書ページ・参考文献】
教科書および配布資料

【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業での重要項目の復習を重視

【予習復習に必要な想定時間】

第１０回　小テスト　４　および　脳損傷(神経内科・脳神経外科的疾患)概要、高次脳機能障害　１　失語１　臨床分類と特徴的症状

【key words】

	脳損傷の病態　失語症　古典的分類　臨床症状 【授業概要】 脳損傷をもたらす神経内科・脳神経外科的疾患を概観し、失語症の臨床分類・特性について学びます。 【教科書ページ・参考文献】 教科書および配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業での重要項目の復習を重視 【予習復習に必要な想定時間】
	第１１回　高次脳機能障害　２　失語　２　リハビリテーションにおける心理的ケア 【key words】 言語治療　失語症リハビリテーション　失語症者の心理・社会的問題 【授業概要】 失語症リハビリテーション過程ならびに治療的コミュニケーションの意味を理解します。また、失語症者がかかえやすい心理・社会的問題について学びます。 【教科書ページ・参考文献】 教科書および配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業での重要項目の復習を重視 【予習復習に必要な想定時間】
	第１２回　小テスト　５　および　高次脳機能障害　３　失行・失認　１　臨床分類と特徴的症状(遂行機能障害を中心に) 【key words】 高次脳機能障害　失行　失認　遂行機能障害　臨床症状 【授業概要】 一見不可解に感じられてしまいがちな高次脳機能障害の神経心理学的病態を、障害当事者の視点に立って理解します。 【教科書ページ・参考文献】 教科書および配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業での重要項目の復習を重視 【予習復習に必要な想定時間】
	第１３回　高次脳機能障害　４　失行・失認　２　リハビリテーションにおける心理的ケア 【key words】 高次脳機能障害リハビリテーション　高次脳機能障害者の心理・社会的問題 【授業概要】 高次脳機能障害リハビリテーション過程ならびに生活行動支援の意味を理解します。また、高次脳機能障害者がかかえやすい心理・社会的問題について学びます。 【教科書ページ・参考文献】 教科書および配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業での重要項目の復習を重視 【予習復習に必要な想定時間】
	第１４回　器質性精神疾患(認知症を中心に)　特徴的症状　リハビリテーションにおける心理的ケア 【key words】 認知症　臨床症状　認知症リハビリテーション　認知症者の心理・社会的問題 【授業概要】 記憶障害の特徴的進展が中核の認知症者について、その心理・社会的問題を中心に、リハビリテーション過程ならびに生活行動支援の意味を理解します。 【教科書ページ・参考文献】 教科書および配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業での重要項目の復習を重視 【予習復習に必要な想定時間】
	第１５回　小テスト　６　および　臨床評価(神経心理検査)のテストバッテリー 概説　授業全体のまとめ 【key words】 神経心理検査　臨床評価　エビデンス　職業倫理 【授業概要】 神経心理検査の代表的なものについて、その評価守備範囲・構成内容を紹介します。あわせて、支援対象者を評価し支援するということの職業倫理を理解します。 【教科書ページ・参考文献】 教科書および配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業での重要項目の復習を重視 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	各専門用語で表わされる内容を徐々に組み上げていくように授業が進展していきますから、小テストを足がかりに都度確実に理解しようという姿勢が受講生には求められます。それを経ることで、高次脳機能障害児者の支援にかかわる心理専門家としてのevidence-based practiceの基本が養われていきます。必ず慣れてきますから、少し難しさを感じたくらいで学びを諦めないこと。高次脳機能障害児者は、かかえてしまったその障害特性の本質を理解しようとする 一人でも多くのひと(＝皆さん)の支援現場登場を待っているのです。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	minute paper
授業外時間にかかわる情報	まずは授業の復習を十分に行なうようにして下さい。あわせて、世に送り出されている数多くの神経心理学書を複数手に取って読みましょう。電子メディアに載っている中枢神経系のアトラスも多く眺め、あわせて自分の手で実際にイラストを描いてみるなど、その構造の立体的理解に努めて下さい。 ★1回の授業に対し、概ね2時間程度の事前事後自主学習が必要です。
オフィスアワー	水曜日 17：00～19：00　1号館204研究室

評価方法	6回の小テスト(60%)および学期末レポート(40%)で評定します。
教科書	早川友恵・田邊宏樹　神経・生理心理学　公認心理士ベーシック講座　講談社　2022年
参考書	ジョン・ピネル　佐藤敬 他 訳　ピネル バイオサイコロジー 脳-心と行動の神経科学　西村書店　2005年 山鳥　重　神経心理学入門　医学書院　1985年 メディックメディア　脳・神経(第2版)　病気がみえる 第7巻　メディックメディア　2017年 梅田　聡編　神経・生理心理学(公認心理士の基礎と実践10) 遠見書房　2021年
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 言語聴覚士として、聴覚言語障害/発達遅滞・発達障害/高次脳機能障害/摂食嚥下障害を中心に、当事者に対するリハビリテーション治療・生活支援(就学・就労等を含む)ならびにその家族および関係者に対する適切な応談(コミュニケーション)・支援・リエゾン・調整・啓蒙を具体的に実践しています。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 心理演習　　授業コード： S3351

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	3年次	2単位(30)	福祉心理コース・選択
担当教員			
大島　由之			
専門科目	演習	公認心理師資格取得を希望する者のみを対象	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	［授業の目標］ 　社会福祉士や精神保健福祉士，公認心理師に代表される対人援助職の援助技法としてのコミュニケーション，カウンセリング技法やアセスメント結果や支援計画の伝達等について，その基本的技能と研鑽の方法について具体的な場面を想定したロールプレイを通じて理解し，一定の水準で技法を意図的に使用できるようになること。 ［到達目標］ ①カウンセリングにおける「聴くこと」に関する基礎的な技能を修得すること。 ②対人援助場面における「伝えること」に関する基礎的な技能を修得すること。 ③自分の「聴き方」「伝え方」の特徴を把握し，その振り返りと自己研鑽の計画が立てられるようになること。
授業の概要	対人援助において、目の前の相手との間に信頼関係を築き，その語りに耳を傾け、求めている援助ニーズを的確に捉え、支援計画や情報を伝えることは重要な課題である。本講義では、こうしたコミュニケーションの基本的な技法について確認した上で、カウンセリングの中核である「聴くこと」と「伝えること」の実践的なトレーニングを行う。講義は演習とロールプレイを中心に進める予定であり，受講生間でのロールプレイの実施、振り返り、記録の作成を通じて技能の習得を目指す。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画		
	第１回	科目オリエンテーションと授業契約，対人援助場面におけるコミュニケーションとは 【key words】 カウンセリング，自己一致、無条件の肯定的配慮、共感的理解、熟練性、魅力性、信頼性、援助専門職の欲求、援助動機 【授業概要】 ・コース及び公認心理師養成課程における科目の位置づけ、授業契約の説明。 ・心理に関する支援を要する対象とのコミュニケーションで必要となる知識を学び、知識を活用した技法によって期待される効果を左右する要因について学ぶ。 ・「対人援助」に関わることへの欲求や動機が、対人援助場面におけるコミュニケーションにどのような影響を与えうるかを学び、 自分自身の欲求や動機を題材に考えを深める。 【教科書ページ・参考文献】 教科書p1-19. 参考書①p1-12. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：配布した事例の中から1つ選び、相談者の立場となって10分程度のロールプレイが出来るようワークシートを完成させ、次回持参すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60-90分
	第２回	ロールプレイを用いた演習の意義と方法 【key words】

		ロールプレイ、ロールテイキング、オブザーバー、PNP技法 【授業概要】 ・カウンセリング技法をはじめとする言語的／非言語的コミュニケーション技法の訓練方法について学ぶ。 ・事例を用いたロールテイキングによる模倣学習を体験する。 ・課題を用いたロールプレイとその観察を体験し、それぞれの立場からフィードバックする体験をする。 【教科書ページ・参考文献】 参考書①p129-142. 参考書②p8-20. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回準備指示：配布された資料を通読し、「明確化」と「感情反映」がどんな技法かを理解しておくこと 課題：配布したワークシートの事例に対して自分であれば何と返答するかを記入し、次回持参すること 【予習復習に必要な想定時間】 60-90分
	第３回	傾聴技法（１）明確化・感情反映 【key words】 明確化、思考、感情、態度、行動、感情反映、生理反応、動機、欲求 【授業概要】 傾聴技法である「明確化」と「感情反映」の定義と期待される機能について知る。 ・2つの技法について、講義内でのロールプレイを通して模倣などの形で体験し、技法を意図的に用いる経験を積む。 【教科書ページ・参考文献】 教科書p40-44. 参考書①p25-35. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回準備指示：配布資料を通読し、「言い換え」と「要約」がどんな技法かを理解しておくこと 課題：配布したワークシートの事例に対して自分であれば何と返答するかを記入し、次回持参すること 【予習復習に必要な想定時間】 60-90分
	第４回	〃　（２）言い換え・要約 【key words】 言い換え、意訳、要約、簡略化 【授業概要】 ・傾聴技法である「言い換え」と「要約」の定義と期待される機能について知る。 ・2つの技法について、講義内でのロールプレイを通して模倣などの形で体験し、技法を意図的に用いる経験を積む。 ・「明確化」「感情反映」も含めた一連の傾聴技法を用いたコミュニケーション方法を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書p40-44. 参考書①p25-40. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回準備指示：配布資料を通読し、「探索」がどんな技法かを理解しておくこと 課題：配布したワークシートの事例に対して自分であれば何と質問するかを記入し、次回持参すること 【予習復習に必要な想定時間】 60-90分
	第５回	活動技法（１）探索 【key words】 開放型Q（なぜ・どのように）、閉鎖型Q（いつ・誰・何・どこで） 【授業概要】 ・活動技法である「探索」の定義と特徴について知る ・傾聴技法の明確化との差異をロールプレイを通じて体験し、理解を深める ・意図しない「探索」の乱用を避けるための工夫を学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 教科書p267-286. 参考書①p41-445. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回準備指示：配布資料を通読し、「情報提供」と「自己開示」の特徴と差異を理解しておくこと 課題：配布したワークシートの事例に対して自分なりの「情報提供」と「自己開示」を記入し、次回持参すること 【予習復習に必要な想定時間】 60-90分
	第６回	〃　（２）情報提供と自己開示 【key words】 情報提供、心理教育、自己開示 【授業概要】 ・活動技法である「情報提供」の定義と特徴について知る ・援助的コミュニケーションの中で用いられる自己開示の特徴と期待される効果、留意点を知る ・ロールプレイを通じて「情報提供」と「自己開示」について体験し、理解を深める 【教科書ページ・参考文献】 教科書p267-286. 参考書①pp54-58（情報提供）,68-71（自己開示） 【課題・予習・復習・授業準備指示】

		次回準備指示：配布資料を通読し、「A-B-Cモデル」の特徴を理解しておくこと 復習：講義内で実施したロールプレイの振り返りワークシートを記入し、次回持参すること 【予習復習に必要な想定時間】 60-90分
	第７回	困りごと・問題を定義づける技法 【key words】 A-B-Cモデル、問題の特定性、問題の的確性 【授業概要】 ・心理に関する支援を要する対象の理解とニーズの把握及び支援計画を検討する中で困りごとや問題を定義する枠組みの1つであるA-B-Cモデルを知り、事例に応用する ・問題行動（B）を理解する際に、特定性（いつ・誰・何・どこで）の視点で整理できるようになる ・問題行動（B）を理解する際に、的確性（何・どのように）の視点から思考・情動・行動・生理を整理することを体験する 【教科書ページ・参考文献】 参考書①p81-97. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回準備指示：配布資料を通読し、観察技法とその枠組みを理解しておくこと 復習：講義内で実施したロールプレイの振り返りワークシートを記入し、次回持参すること 【予習復習に必要な想定時間】 60-90分
	第８回	対人援助場面における観察技法 【key words】 観察、非言語的要素、矛盾提示、語調反射 【授業概要】 ・対人援助場面における非言語的要素の重要性と観察の技法について学ぶ ・身振り、表情、生理的反応、身体的特徴、容姿、声と話し振りなどの非言語的要素の特徴とそれが持つ意味を理解する ・非言語的要素に注目した面接技法（矛盾提示、語調反射）についてロールプレイを通じて体験し、理解を深める 【教科書ページ・参考文献】 参考書①p13-23（観察技法）、45-49（矛盾提示）、63-67（語調反射） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習：講義内で実施したロールプレイの振り返りワークシートを記入し、次回持参すること 課題：配布された事例のロールプレイ原稿の冒頭に「自己紹介」、「守秘義務の説明」を自分なりに加え、次回持参すること 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分
	第９回	伝える技法（1）必要なことを伝える（自己紹介、守秘義務、インフォームドコンセント） 【key words】 初回面接、自己紹介、守秘義務、タラソフ判決、インフォームドコンセント 【授業概要】 ・初回面接を題材に、自己紹介と守秘に関する説明を行う方法とその重要性について学ぶ ・守秘義務とその例外事項について、タラソフ判決等を含めてその条件や考える観点を理解する ・相談者に説明を尽くして同意を得ることの重要性と難しさをロールプレイを通じて体験し、理解を深める 【教科書ページ・参考文献】 教科書p34-39. 参考書③p44-45, 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：放送大学オープンコースウェア（OCW）学校臨床心理学特論（'21）第06回「高等学校でのスクールカウンセリング」を視聴し、ワークシートに記入を行って持参すること 【予習復習に必要な想定時間】 60-120分 動画URL：https://v.ouj.ac.jp/view/ouj/#/navi/player?co=31607&ct=V&ca=30166
	第１０回	〃　（2）分かったことを伝える（アセスメント結果等） 【key words】 臨床心理査定、フィードバック、倫理的配慮 【授業概要】 ・心理検査や面接、観察を通じて得られたアセスメントの結果のフィードバックの実際とその意義について学ぶ ・ロールプレイを通じて、「伝える内容」と「伝え方」にどのような配慮が求められるのかを体験し、理解を深める 【教科書ページ・参考文献】 教科書p50-63. 参考書③p40-41 Ⅲ-1.アセスメントとは何か 参考書④pp7-23. 第1章 心理検査の伝え方と活かし方 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回準備指示：配布資料を通読し、目標設定とその援助手続きについて理解しておくこと 復習：講義内で実施したロールプレイの振り返りワークシートを記入し、次回持参すること 【予習復習に必要な想定時間】 60-90分
	第１１回	〃　（3）これからのことを伝える（支援計画と同意） 【key words】 目標設定、最終目標の設定と具体化・現実化、利益と損失、小目標 【授業概要】 ・相談者との間での目標設定とその達成に向けた経過支援について学ぶ ・相談者自身が目標達成に向けて動きやすく工夫された支援計画について学ぶ ・相談者の現実生活を検討した上で、地域資源を活用した支援方法とその計画を学ぶ

	【教科書ページ・参考文献】 参考書①p99-114. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業準備指示：これまでに作成・提出・評価を受けたロールプレイの振り返りワークシートを整理し、次回持参すること 【予習復習に必要な想定時間】 15－30分
	第１２回　自分の対人援助技法を振り返る方法（1）これまでのロールプレイを振り返る 【key words】 ロールプレイ、クライエント体験、自己の価値観 【授業概要】 ・これまでのロールプレイで得られた感想やオブザーバー役からのコメントを振り返り、自分自身の対人的コミュニケーション方法の特徴について省察する。 ・自分が苦手とする場面や得意とする場面について振り返り、グループワークを通じて受講生間でその共有を行う ・自分の特徴に沿ってどのような自己研鑽／訓練の計画を立てることができるかを考え、理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 参考書②p8-20. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業準備指示：指定されたペアで模擬面接を行い、その録音データをUSB等に入れて次回持参すること 【予習復習に必要な想定時間】 60-120分
	第１３回　〃　（2）録画や録音を用いた振り返り 【key words】 ロールプレイ、自己の面接技法のクセ 【授業概要】 ・録画された各自のロールプレイの映像を見直し、自分の対人援助場面におけるコミュニケーション技法を振り返る ・振り返りとグループワークを通じて自分のコミュニケーション技法の特徴について省察を行う ・他者の面接映像を通じて、自分とは異なる特徴や技法を学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 参考書②pp8-20. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 最終レポート課題を呈示するので指示に沿って計画的に作成すること。 【予習復習に必要な想定時間】 120-360分
	第１４回　福祉、保健医療、教育等の分野におけるチームアプローチを考える 【key words】 多職種連携、守秘義務、倫理的ジレンマ 【授業概要】 ・相談援助の場面で協働しうる専門職（社会福祉士、精神保健福祉士、医師、カウンセラー等）の専門性と役割について学ぶ ・公認心理師をはじめとした対人援助職としての職業倫理及び法的義務について学ぶ ・相談者に関わる専門職間で連携をとりながらチームアプローチを行う場合の留意点について学ぶ ・倫理的ジレンマに関する事例についてグループ討議を行い、その捉え方について理解を深める 【教科書ページ・参考文献】 教科書の第5章を適宜利用 参考書③p38-39, pp262-281 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業準備指示：これまでの提出物等を綴じたファイルを整理・次回持参すること 【予習復習に必要な想定時間】 30-180分
	第１５回　まとめ 【key words】 面接技法、自己研鑽 【授業概要】 ・これまでの講義およびロールプレイで得られた知識と考えについて振り返りを行う。 ・公認心理師をはじめとした対人援助職に求められる職業倫理と法的義務に基づく自己研鑽・生涯学習について、各自の進路設計に応じた今後の自己研鑽を検討し、グループでの共有を行う 【教科書ページ・参考文献】 適宜指示 【課題・予習・復習・授業準備指示】 最終レポート課題について期日までに作成を行い、提出すること 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・公認心理師資格取得を希望する者のみを対象とする。 ・受講生間でロールプレイやグループワークを行う講義であるため，遅刻／欠席については相談援助演習等に準ずる形で厳密に連絡を行うこと ・携帯電話やタブレット端末等は講義中、指示があった場合を除き、原則として使用しないこと。個別の事情がある場合には、各回の講義開始前に申し出ること。 ・教科書以外に、補助教材としてプリントを配布することが多いため、前述の課題とあわせて各自でA4版のフラットファイル等を用いて保管することが望ましい。 〔受講のルール〕

	・指定された教科書を購入し、毎回持参すること。 ・授業で使用したワークシートを講義後半で振り返りに用いるため、フラットファイル等で各自保管すること。 ・模擬面接の録画等を行う場合がある。映像や音声の保管が必要となるため，指示に応じてUSBメモリー等を用意すること。 ・遅刻／欠席については大学のルールに則り，事務局に講義開始前に連絡すること。 ・受講生への伝言等による連絡はトラブルを避けるため認めない。 ・事前に規定の方法で連絡があった欠席の場合のみ，配布資料やワークシートの再配布を行う。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカードまたはウェブポータルのスレッド機能を用いる予定
授業外時間にかかわる情報	・各回の演習内容の振り返りをレポートとして課すため，授業内の指示に留意すること
オフィスアワー	初回に案内する。
評価方法	(1) レポート課題の提出：35% ・100%の提出で35点評価。また規定の方法で連絡のあった欠席のみ後日の提出を認める。 ・ルーズリーフ等、規定の用紙や様式以外の提出は評価の対象としないので留意すること。 ・ワークシートの形式では、指示された全ての欄に記述があることを条件とする。空欄や不足がある場合には評価の対象としない。 ・欠席による後日の提出、または不足があった場合の再提出は講義のあった週の金曜18時までとする。 (2) 課題内容および授業内課題の取り組みの評価：65% 以下の2つの基準で評価を行う。なお最終レポートについても同様である。 基準①（7点）：指示に沿った内容の記述や考察が行われている。 基準②（3点）：レポートの体裁面の評価として、「誤字脱字なし」・「論文調の表現」・「文字数の規定」を評価する ；①②を満たして1つの課題あたり10点満点。 最終評価では総得点を100点満点に換算し、0.65をかけた値を評価点とする。
教科書	鑪幹八郎・名島潤慈（編著）心理臨床家の手引［第４版］誠信書房（2018）
参考書	①大谷 彰（著） カウンセリングテクニック入門 二瓶社（2004）. ②氏原 寛・藤田博康（著） ロールプレイによるカウンセリング訓練のかんどころ 創元社（2014）. ③下山晴彦（編）よくわかる臨床心理学 改訂版 ミネルヴァ書房(2016) ④竹内健児（著） 事例でわかる心理検査の伝え方・活かし方 金剛出版（2009）.
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 教育機関・福祉施設での心理職 ・大学附属の心理・発達教育相談室（心理相談部）の相談員 ・大学併設の学生相談室のカウンセラー ・児童養護施設の心理療法担当職員 ・児童相談所における療育手帳判定業務 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 ■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 心理実習　　授業コード： S3361

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	3年次	2単位(30)	福祉心理コース・選択
担当教員			
植原　美智子			
専門科目	実習		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	『公認心理師法』では、保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の5分野（主要5分野）において、合計80時間以上実習が求められている。現在のところ、医療機関での実習が必須となっている。心理学が貢献できる分野とその実践を体験的に学んでいく。 【目的】 ①心理に関する支援を要するものへのチームアプローチを理解する。 ②多職種連携の重要性、および地域連携の実際について理解する。 ③公認心理師としての役割の基本的な水準を習得する。 【到達目標】 ①訪問する施設において適切な態度で実習に臨むことができる。 ②事前事後学習を通して、心理師として必要な姿勢とは何かを述べることができる。 ③将来、公認心理師として活動するための基本的姿勢を身につける。
授業の概要	本科目は、「公認心理師」資格を受験するために必要になる。心理実習は、公認心理師としての役割や基礎姿勢を養うための学外実習である。実習機関は、保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の5分野に関する施設であり、各実習施設における実習と学内での指導を含める。施設の見学を主とする「見学実習」を通して、心理職としての役割の基本的な水準を習得する。事前事後指導と見学の全出席が必要である。実習先や実習の日程は、実習機関の都合により決定する。 授業形態：演習、実習・実技、一部対面授業あり（遠隔授業の可能性もある）。 注意：医療機関実習では、予防接種などが義務付けられる可能性がある。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	◎
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画		
	第1回	大学内で実習担当教員によるオリエンテーション。教育分野における施設見学1 【key words】 スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、教職員、保護者 【授業概要】 教育分野における公認心理師が働く現場を理解する。基本的コミュニケーションを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 適宜指示する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 報告書の作成及び次回の施設見学の予定の確認と事前学習 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分
	第2回	教育分野における施設見学2 【key words】 関係者との連携、地域理解、公認心理師の役割 【授業概要】 教育現場における公認心理師から話を聞く。主に心理職員の業務の様子や施設内の見学、機関概要・業務内容についての講義により、それぞれの分野についての基礎知識を深める。 【教科書ページ・参考文献】 適宜指示する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】

		報告書の作成及び次回の施設見学の予定の確認と事前学習 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分
	第3回	教育分野における施設見学3 【key words】 外部機関、保護者、教職員、学校教育法 【授業概要】 教育分野における公認心理師に質問する。多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 適宜指示する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 報告書の作成及び次回の施設見学の予定の確認と事前学習 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分
	第4回	福祉分野における施設見学1 【key words】 関係者との連携、利用者と地域理解、公認心理師の役割 【授業概要】 福祉分野における公認心理師が働く現場を理解する。基本的コミュニケーションを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 適宜指示する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 報告書の作成及び次回の施設見学の予定の確認と事前学習 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分
	第5回	福祉分野における施設見学2 【key words】 児童福祉法、障害者総合支援法、社会福祉法、老人福祉施設、地域包括支援センター 【授業概要】 福祉分野における公認心理師から話を聞く。主に心理職員の業務の様子や施設内の見学、機関概要・業務内容についての講義により、それぞれの分野についての基礎知識を深める。 【教科書ページ・参考文献】 適宜指示する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 報告書の作成及び次回の施設見学の予定の確認と事前学習 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分
	第6回	福祉分野における施設見学3 【key words】 国立児童支援施設、国立障害者リハビリテーションセンター、ホームレス自立支援事業 【授業概要】 福祉分野における公認心理師に質問する。多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 適宜指示する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 報告書の作成及び次回の施設見学の予定の確認と事前学習 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分
	第7回	保健医療分野における施設見学1 【key words】 病院、診療所、保健所、市町村保健センター、介護老人保健センター 【授業概要】 保健医療分野における公認心理師が働く現場を理解する。基本的コミュニケーションを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 適宜指示する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 報告書の作成及び次回の施設見学の予定の確認と事前学習 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分
	第8回	保健医療分野における施設見学2 【key words】 チーム医療、チームアプローチ、多職種連携 【授業概要】 保健医療分野における公認心理師から話を聞く。主に心理職員の業務の様子や施設内の見学、機関概要・業務内容についての講義により、それぞれの分野についての基礎知識を深める。 【教科書ページ・参考文献】 適宜指示する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 報告書の作成及び次回の施設見学の予定の確認と事前学習 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分
	第9回	保健医療分野における施設見学3 【key words】 医療法、介護保険法、地域保健法、精神保健福祉法、介護保険法 【授業概要】 保健医療分野における公認心理師に質問する。多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 適宜指示する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】

	報告書の作成及び次回の施設見学の予定の確認と事前学習 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分
	第10回　司法・犯罪分野における施設見学1 【key words】 裁判所、刑務所、少年院、少年鑑別所、保護観察所、更生保護施設、家庭裁判所 【授業概要】 司法・犯罪分野における公認心理師が働く現場を理解する。基本的コミュニケーションを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 適宜指示する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 報告書の作成及び次回の施設見学の予定の確認と事前学習 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分
	第11回　司法・犯罪分野における施設見学2 【key words】 刑法、裁判所法、更生保護事業法、法務省設置法 【授業概要】 司法・犯罪分野における公認心理師から話を聞く。主に心理職員の業務の様子や施設内の見学、機関概要・業務内容についての講義により、それぞれの分野についての基礎知識を深める。 【教科書ページ・参考文献】 適宜指示する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 報告書の作成及び次回の施設見学の予定の確認と事前学習 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分
	第12回　司法・犯罪分野における施設見学3 【key words】 刑事司法制度、矯正機関、更生保護機関、犯罪被害者等基本法、被害者支援 【授業概要】 司法・犯罪分野における公認心理師に質問する。多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 適宜指示する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 報告書の作成及び次回の施設見学の予定の確認と事前学習 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分
	第13回　産業・労働分野における施設見学1 【key words】 組織内健康管理センター、地域障害者職業センター、障害者就業・生活線センター 【授業概要】 産業・労働分野における公認心理師が働く現場を理解する。基本的コミュニケーションを学ぶ。多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 適宜指示する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 報告書の作成及び次回の施設見学の予定の確認と事前学習 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分
	第14回　産業・労働分野における施設見学2 【key words】 障害者雇用促進法、労働基準法、労働契約法、過労死等防止対策推進法、メンタルヘルス、自殺予防 【授業概要】 産業・労働における公認心理師から話を聞く。主に心理職員の業務の様子や施設内の見学、機関概要・業務内容についての講義により、それぞれの分野についての基礎知識を深める。 【教科書ページ・参考文献】 適宜指示する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 報告書の作成及び次回の施設見学の予定の確認と事前学習 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分
	第15回　大学内で実習者の報告会 【key words】 プレゼンテーション、振り返り、まとめ、公認心理師の役割 【授業概要】 外部実習の報告。プレゼンテーションを行い、振り返りをする。 【教科書ページ・参考文献】 適宜指示する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 外部実習の報告。プレゼンテーションの準備。 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分
受講生に関わる情報および受講のルール	［受講生に関わる情報］ ・受講に際しては，「公認心理師」資格を受験するための必修科目の単位を修得していること、または習得見込みであること。 ・授業の出席は必須。もし欠席する場合は教務課に連絡するとともに担当教員にも連絡すること。 ・心理職志望者としての自覚を持って実習に臨むこと。 ・遅刻欠席は厳禁。 ・実習指導者および担当教員の指示に必ず従うこと。

	・施設等を訪問する際には社会人としてのマナーや礼儀をわきまえること。 ・施設等の外部実習において、諸事情から内部実習に変更することもある。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	・実習報告書（レポート） ・レポート ・実習先訪問
授業外時間にかかわる情報	・配布される「心理実習の手引き」を熟読すること。 ・訪問する施設の概要、設立根拠法、歴史について理解しておくこと。 ・毎回の実習の後、速やかに「実習レポート」を作成し提出すること。
オフィスアワー	火曜日　15:00～18:00　これ以外は応相談
評価方法	■事前・事後指導および見学実習の参加40%　■討論・報告書作成50%　■学生の自己評価10%
教科書	・心理臨床家の手引［第4版］鑪　幹八郎・名島潤慈　誠信書房(2018/6/20)
参考書	・「臨床心理学」第15巻第1号―医療・保健領域で働く心理職のスタンダート　金剛出版（2015/1/8） ・「臨床心理学」第15巻第2号―学校・教育領域で働く心理職のスタンダード　金剛出版（2015/3/10） ・「臨床心理学」第15巻第3号―産業・組織領域で働く心理職のスタンダード　金剛出版（2015/5/10） ・「臨床心理学」第18巻第4号―公認心理師のための職場地図 金剛出版（2018/7/1） ・「臨床心理学」第15巻第5号―福祉領域で働く心理職のスタンダード　金剛出版（2015/9/8）
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 臨床心理士・公認心理師として、精神科病院における心理面接・心理療法・心理アセスメント等の心理担当職員、教育機関のスクールカウンセラー、児童養護施設における心理療法担当職員など20年の実務経験を活かし，公認心理師・臨床心理士に必要な知識・技術・価値・倫理について講じる。また社会福祉士としてソーシャルワークにおける心理的援助について講じる。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 ■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容 ■コメントカードの実施：授業後、コメントカードを記入してもらい次回の授業で全員に説明する（質問提供者は匿名、授業の質問のほかに希望すること、問題点など）。 ■授業は基本的に双方向型。次回の授業についての事前学習をして授業に臨み、各グループでまとめ、代表者が発表する。コメントをもらう。

講義科目名称： 心理学と心理的支援（心理学概論）　　授業コード：S1052

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	社会福祉コース／福祉心理コース／児童福祉コース／初等教育コース・必修／学校教育コース・選択
担当教員			
大島　由之			
基礎教養科目	講義	社会福祉士・精神保健福祉士指定科目	公認心理師（学部）指定科目
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 人間行動について，科学としての心理学の視点で，科学的客観的に観察するための基礎知識の習得を目指す。さまざまな領域の心理学を学びながら、人間に対する視野を広げることを目的とする。 【到達目標】 ①人の心の基本的な仕組みと機能を理解し、環境との相互作用の中で生じる心理的反応を 理解する。 ②人の成長・発達段階の各期に特有な心理的課題を理解する。 ③日常生活と心の健康との関係について理解する。 ④心理学の理論を基礎としたアセスメントの方法と支援について理解する。
授業の概要	はじめて心理学を専門的に学ぶ講義として，知覚・認知・学習・発達・適応・臨床の分野に分け，心理学の主要領域について，広く概説を行う。また，心理学の基礎的な知識の習得を通じて，社会福祉士・精神保健福祉士・幼小中高特別支援学校教諭・保育士・公認心理師などをはじめとする対人援助職を目指す上で基本となる心理学的な観点からの人間理解・支援の方法について学ぶことを目指す。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第1回	心理学の歴史と心理学の研究法 【key words】 授業についてのガイダンス，心理学の歴史と対象，心理学の種類、心を探求する方法の発展 【授業概要】 授業開始にあたっての連絡事項を説明する。続いて，科学としての心理学の誕生から現在の心理学までの経緯，心理学の研究法や心理学の種類を学習する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書「第1章 心理学の視点」p1-17. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習課題：授業内で指示・配布を行う事前課題を完成させて次回持参すること。 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分
	第2回	外部環境をとらえる 【key words】 感覚の種類と特徴，視知覚，対比，錯視，プレグナンツの法則，運動の知覚、感覚・知覚 【授業概要】 外部環境のとらえ方，網膜に写る像とは異なる形で知覚される人間の視知覚について学習し，実際に簡単な知覚の実験も行う。また，アニメーションの原理であるベータ運動とファイ現象についても確認する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書「第2章 第3節 感覚・知覚」p45-53. 【課題・予習・復習・授業準備指示】

		予習課題：授業内で指示・配布を行う事前課題を完成させて次回持参すること。 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分
	第3回	内部環境の調整ー神経系の仕組み 【key words】 神経伝達物質とホルモン，中枢神経系の仕組み，脳の構造と機能、心の生物学的基盤 【授業概要】 感覚器官から入った刺激は中枢神経系に入る。脳の神経回路を用いて推理し判断する。中枢系の構造と機能について学習確認する 【教科書ページ・参考文献】 教科書「第2章 第1節 心の生物学的基盤」p20-28. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習課題：授業内で指示・配布を行う事前課題を完成させて次回持参すること。 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分
	第4回	発達１ 【key words】 心の発達の基盤、発達とライフサイクル，生涯発達について，ハヴィガーストとエリクソンの発達理論 【授業概要】 人間の発達を生涯という観点から捉えたハヴィガーストとエリクソンの発達理論を学習する。現代社会での生涯発達を考えていく。 【教科書ページ・参考文献】 教科書「第3章 第1節 生涯発達」p98-106. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習課題：授業内で指示・配布を行う事前課題を完成させて次回持参すること。 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分
	第5回	発達２ 【key words】 情動の発達，自律と依存，援助行動，認知思考の発達とピアジェの発達理論，恐怖と不信感，現代の発達病理 【授業概要】 人間の発達の中でも，情動・自律と依存・援助行動といった対人関係に関わる発達，心の理論の発達，更にピアジェの認知発達について学習していく。心の理論課題を実際に体験する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書「第3章 第2節 心の発達の基盤」p107-123. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習課題：授業内で指示・配布を行う事前課題を完成させて次回持参すること。 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分
	第6回	学習，欲求と動機づけ 【key words】 古典的条件づけとオペラント条件づけ，感情・動機づけ・欲求，技能の学習における集中と分散、学習・行動 【授業概要】 古典的条件づけとオペラント条件づけの違い，様々な動機づけ，技能学習における集中と分散の効果の違いについて学習を進める。 【教科書ページ・参考文献】 教科書「第2章 第2節 感情・動機づけ・欲求」p29-44、「第2章 第4節 学習・行動」p54-63 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習課題：授業内で指示・配布を行う事前課題を完成させて次回持参すること。 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分
	第7回	認知と記憶 【key words】 記憶，認知、記銘の方略，情報の検索と忘却，問題解決，記憶障害と認知症 【授業概要】 短期記憶と長期記憶の違い，エラーフリーや記憶のコード化等の記憶方略，情報の検索と忘却，問題の解決について学習を進める。記憶障害について，記憶のコード化の課題作成練習を行う。 【教科書ページ・参考文献】 教科書「第2章 第5節 認知」p64-74. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習課題：授業内で指示・配布を行う事前課題を完成させて次回持参すること。 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分
	第8回	知能 【key words】 知能と知能テスト，知能検査と知能の表示法，知的障害と発達障害、個人差 【授業概要】 知能の定義と様々な知能検査について確認する。また実際に知能検査結果から知能指数を算出する。知的障害と発達障害の違いを確認する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書「第2章 第6節 知能・パーソナリティ」p75-85、「第5章 第1節 心理アセスメント」p152-163. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習課題：授業内で指示・配布を行う事前課題を完成させて次回持参すること。 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分
	第9回	パーソナリティ 【key words】 パーソナリティとその測定，心理検査の信頼性と妥当性，性格の形成，テストバッテリー

【授業概要】
パーソナリティとその測定方法である心理検査の違いを確認していく。さまざまなテストを組み合わせるテストバッテリーについて説明する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書「第2章 第6節 知能・パーソナリティ」p75-85、「第5章 第1節 心理アセスメント」p152-163.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習課題：授業内で指示・配布を行う事前課題を完成させて次回持参すること。
【予習復習に必要な想定時間】
30-60分

第10回 適応の問題１

【key words】
適応とストレス，正常と異常，適応と不適応，ストレスが身体に及ぼす影響、健康生成論
【授業概要】
正常と異常の違い，適応と不適応の違いを確認する。ストレスが身体に与える影響について，心理学的理論と個体差、レジリエンス、首尾一貫感覚などについて取り上げ学習を進める。
【教科書ページ・参考文献】
教科書「第4章 日常生活と心の健康」p124-151
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習課題：授業内で指示・配布を行う事前課題を完成させて次回持参すること。
【予習復習に必要な想定時間】
30-60分

第11回 適応の問題２

【key words】
乳幼児期・児童期の適応困難，思春期・青年期の不適応，青年期・成人の適応困難
【授業概要】
乳幼児期・児童期からの適応困難として，学習障害・注意欠陥／多動性障害・自閉症スペクトラム障害について学習を進める。思春期・青年期の不適応として，摂食障害・家庭内暴力・不登校などを取り上げる。青年期・成人の適応困難として，神経症と心身症，及び精神病，特に双極性障害（躁うつ病）と統合失調症についてその違いと対応について説明する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書「第6章 第1節 子ども・家庭福祉」p75-85、「同第3節 障害児・者福祉」p208-213、「同第4節 精神保健福祉」p214-218.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習課題：授業内で指示・配布を行う事前課題を完成させて次回持参すること。
【予習復習に必要な想定時間】
30-60分

第12回 高次脳機能障害

【key words】
注意障害，記憶障害，遂行機能障害，失認失行，病識，
【授業概要】
頭部外傷や脳血管症などによる高次脳機能障害の主なものについて，その機序を説明し，その対応についても取り上げる。
【教科書ページ・参考文献】
「医学概論（人体の構造と機能及び疾病）」の教科書を用いる予定。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習課題：授業内で指示・配布を行う事前課題を完成させて次回持参すること。
【予習復習に必要な想定時間】
30-60分

第13回 心理臨床とカウンセリング、公認心理師

【key words】
アセスメントの諸技法，面接法，心理療法におけるアセスメントと介入技法、マイクロカウンセリング
【授業概要】
心理臨床にとって必要なアセスメントの諸技法，面接法・観察法・検査法を確認する。更に面接法での基本的スキルを概説する。様々な心理療法（精神分析、認知行動療法、ブリーフセラピー、家族療法など）についても概説していく。また、公認心理師について概説する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書「第5章 第2節 心理的支援の基本的技法～第4節 心理の専門職」p162-197.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習課題：授業内で指示・配布を行う事前課題を完成させて次回持参すること。
【予習復習に必要な想定時間】
30-60分

第14回 対人関係１

【key words】
非言語的コミュニケーション，好意の獲得，対人距離
【授業概要】
対人関係における非言語的コミュニケーションの役割，対人効果の決定因，パーソナルスペース等，対人関係の取り方，その意味について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書「第1章 第7節 社会のなかでの心理」p86-97.また、参考資料を別途指定予定。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習課題：授業内で指示・配布を行う事前課題を完成させて次回持参すること。
【予習復習に必要な想定時間】
30-60分

第15回 対人関係２，社会と文化，対人交流とコミュニケーション

【key words】
対人関係における親和欲求，コミュニケーションスキル，社会と文化におけるグローバルコミュニケーション、集団・組織
【授業概要】
対人関係における親和欲求，効果的なコミュニケーションスキル，社会と文化におけるグローバルコミュニケーション，文化，ジェンダーの問題を取り上げ，学習を進めていく。

	【教科書ページ・参考文献】 教科書「第1章 第7節 社会のなかでの心理」p86-97.また、参考資料を別途指定予定。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 試験準備として授業内での指示・案内に沿って各自で準備を行うこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60-90分
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ＊大人数の講義に伴う座席指定＊ 社会福祉学部1年生だけでなく，他学年や他学部の学生が受講する可能性があり，本学の授業の中では比較的、大人数の講義となります。出欠確認や提出物の返却を効率的に行うために，毎回座席の指定があるものとお考え下さい。指定する座席は，事前にウェブポータル等で連絡するか各教室の入口に貼り出します。 〔受講のルール〕 ＊持参が必要なもの：教科書・インターネットに接続が可能な端末＊ ・授業時間内にウェブポータルやGoogle Formを利用する場合があります。これらに接続可能なデバイス（スマートフォン，パソコン、タブレット端末等）を持参してください。難しい場合には個別に対応するため，初回に教員に相談してください。 ・授業時間中は，講義に集中するために，私用で携帯電話・スマートフォン・タブレット端末は使用せず，指示がない限り，卓上にも置かないでください。 ・各自の個別の事情（例：授業中に保護者や実習先からの連絡がある）で確認が必要な場合には卓上に置くことを認めます。その際は，授業開始前に担当教員にご相談ください。 ＊遅刻／欠席の連絡は事務局に＊ ・大学のルールに則り，講義開始前までに事務局に連絡を行ってください。受講生への伝言や担当教員への個別連絡は，『言った／言わない』のトラブルを防ぐために行わないようにしてください。 ・事務局への事前連絡があった遅刻／欠席の場合のみ，その回の課題を後日に提出することを認めます。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	ウェブポータルのスレッド機能やアンケート機能を使用予定
授業外時間にかかわる情報	「事前学習の課題」として，次回内容の予習にあたる用語調べや事例検討を課すことが多くあります。そのため，シラバスの記載内容や授業内での指示をよく確認するようにしてください。この「事前学習の課題」を用いて、授業時間中のグループワークを行うため，各自の積極的かつ真摯な取り組みを望みます。また，提出後に評価・返却を受けた「事前学習の課題」の定期試験への持ち込みを許可する予定です（詳しくは初回に説明）。
オフィスアワー	初回に案内する
評価方法	各回の提出物／課題（50%）と定期試験（50%）によるSABCD評価（詳細は初回に説明します） ［内訳］ ・課題の提出：25% ・提出された課題の内容／各回の確認テストの評価：25% ・定期試験：50%
教科書	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟(編)『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座2 心理学と心理的支援』中央法規出版,2021年.
参考書	各回で適宜紹介。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 教育機関・福祉施設での心理職 ・大学附属の心理・発達教育相談室（心理相談部）の相談員 ・大学併設の学生相談室のカウンセラー ・児童養護施設の心理療法担当職員 ・児童相談所における療育手帳判定業務 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他

	その他の具体的内容

講義科目名称： 社会学と社会システム　　授業コード： S1074

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	社会福祉コース・必修／福祉心理コース／学校教育コース／児童福祉コース／初等教育コース・選択
担当教員			
白石　憲一			
基礎教養科目	講義	社会福祉士・精神保健福祉士指定科目	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 人口構造の変化、経済の低成長、グローバル化、技術進歩などによって生じている現在の大きな社会変動や社会問題について、マクロ、ミクロ、メゾレベルから整理することにより、社会学のエッセンスを解説することを目的とする。 【到達目標】 「社会を見る眼」を養い、社会問題の改善のための処方箋を模索する力を身につけることを到達目標とする。 ①現代社会の特性を理解する。 ②生活の多様性について理解する。 ③人と社会の関係について理解する。 ④社会問題とその背景について理解する。
授業の概要	個別的な問題領域について、統計資料や研究事例を紹介するとともに、社会学の理論的・抽象的な概念について整理する。授業では小テストを適宜実施して、学生の理解の確認も行っていく。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	◎
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	△
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第1回	科目オリエンテーション 【key words】 社会学 【授業概要】 講義で扱う内容について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 2頁～235頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
	第2回	ジェンダー 【key words】 ジェンダー開発指数、ジェンダーエンパワメント指数 【授業概要】 ジェンダー開発指数、ジェンダーエンパワメント指数の解釈の方法について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 154～170頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ジェンダー開発指数、ジェンダーエンパワメント指数の統計を調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
	第3回	貧困問題

【key words】
貧困線、相対的貧困
【授業概要】
貧困の種類、健康格差について、統計数値を用いて学習する。
【教科書ページ・参考文献】
112頁～122頁
【課題・予習・復習・授業準備指示】
貧困率の統計について確認する。
【予習復習に必要な想定時間】
4時間

第4回　格差

【key words】
ジニ係数
【授業概要】
不平等の指数について、統計数値を用いて学習する。
【教科書ページ・参考文献】
112頁～122頁
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ジニ係数の統計について確認する。
【予習復習に必要な想定時間】
4時間

第5回　福祉国家

【key words】
イギリス、アンデルセン
【授業概要】
イギリスの福祉の歴史とアンデルセンの福祉国家レジーム論について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
126頁～129頁
【課題・予習・復習・授業準備指示】
諸外国の社会保障制度について確認する。
【予習復習に必要な想定時間】
4時間

第6回　児童虐待

【key words】
児童虐待
【授業概要】
児童虐待の種類と対応を中心に学習する。
【教科書ページ・参考文献】
167頁～168頁、215頁～216頁
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の該当ページを通読する。
【予習復習に必要な想定時間】
4時間

第7回　虐待

【key words】
障害者・高齢者虐待、DV
【授業概要】
虐待の種類と対応を中心に学習する。
【教科書ページ・参考文献】
167頁～168頁
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の該当ページを通読する。
【予習復習に必要な想定時間】
4時間

第8回　人口からみた社会変動

【key words】
合計特殊出生率、人口オーナス
【授業概要】
人口に関係する指標について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
51頁～64頁
【課題・予習・復習・授業準備指示】
人口統計について確認する。
【予習復習に必要な想定時間】
4時間

第9回　社会集団と組織

【key words】
官僚、集団の類型
【授業概要】
集団の諸類型について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
40頁～50頁
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の該当ページを通読する。
【予習復習に必要な想定時間】
4時間

第10回　社会関係資本

【key words】
社会関係資本、パットナム
【授業概要】
社会関係資本の理論について学習する。
【教科書ページ・参考文献】

	230頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間 第11回　社会問題と福祉 【key words】 社会問題、福祉 【授業概要】 社会問題と福祉の関係について、実例に基づいて学習する。 【教科書ページ・参考文献】 112頁～122頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間 第12回　所得不平等の実態 【key words】 トマ・ピケティ 【授業概要】 世界的な所得不平等の実態について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 「21世紀の資本」（みすず書房） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「21世紀の資本」（みすず書房）の興味のある章を読む。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間 第13回　生活の質 【key words】 幸福感 【授業概要】 幸福感の決定要因について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 171頁～182頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 幸福感の統計について調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間 第14回　家族 【key words】 マードック、ウォーナー、オグバーン、パーソンズ 【授業概要】 家族の機能、制度としての家族について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 154頁～170頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間 第15回　日本社会と社会問題 【key words】 マルクス、オグバーン、ウェーバー、マートン 【授業概要】 日本の社会問題と社会学における思想とのかかわりについて学習する。 【教科書ページ・参考文献】 2頁～235頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
受講生に関わる情報および受講のルール	新聞、ニュースなどで最新の経済の情報について確認すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	予習を毎回行い、質問があればコメントカードを活用すること。
オフィスアワー	木曜日4限
評価方法	試験（60%）と授業中の課題（40%）によって評価
教科書	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟「社会学と社会システム」（中央法規出版株式会社） 川村匡由「社会福祉の原理と政策」（ミネルヴァ書房）
参考書	いとう総研資格取得支援センター「見て覚える！社会福祉士国試ナビ」（中央法規）
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容

	アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： プログラミングの基礎　　授業コード： S1143

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	選択
担当教員			
藤本　壱			
基礎教養科目	講義		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 基本的なプログラミングを通して、物事を順序立てて考えられるようになることを目的とする 【到達目標】 ①プログラミングの基本的な考え方を理解できる ②基本的なプログラムを自分で作ることができる ③機械学習の基本を理解することができる
授業の概要	様々な用途に利用できるプログラミング言語の「Python」を使い、プログラミングの基本を解説する。 また、Pythonは人工知能関連のプログラミングでもよく使われているので、人工知能のごく基本の部分（画像認識）も解説する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	○
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第1回	オリエンテーションと初めてのPython 【key words】 Python、IDLE 【授業概要】 Pythonの導入部分を解説する ・授業のオリエンテーション ・Pythonの概要 ・IDLEの起動 ・1行だけのプログラムを入力する 【教科書ページ・参考文献】 12～41ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自宅のパソコンにPythonをインストールしてIDLEで復習する 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第2回	複数行のプログラム 【key words】 ファイル 【授業概要】 複数行からなるプログラムを作成する ・ファイルの作成や保存 ・プログラムの入力と実行 ・プログラムの入力例 【教科書ページ・参考文献】 42～53ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 プログラムの入力から実行までの流れを復習する 【予習復習に必要な想定時間】 30分

	第3回	変数と計算 【key words】 変数、計算 【授業概要】 プログラムの中で情報を記憶するための「変数」を解説する ・変数の基本 ・データの型 ・変数の計算 ・文字列の操作 【教科書ページ・参考文献】 66～83ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 変数を使って計算するプログラムを自分で作ってみる 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第4回	条件によって処理を分ける 【key words】 if、論理演算子 【授業概要】 条件を判断してその後の処理を分ける方法を解説する ・条件判断の基本 ・条件を表す式の書き方 ・条件判断の書き方 【教科書ページ・参考文献】 92～97ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 条件によって処理が分かれるプログラムを自分で作ってみる 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第5回	処理の繰り返し 【key words】 for、range 【授業概要】 同じ処理を何度も繰り返して実行する方法を解説する ・一定回数の繰り返し ・条件を満たすまで繰り返す ・繰り返しのネスト ・繰り返しを途中で抜ける 【教科書ページ・参考文献】 98～105ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 繰り返しを含むプログラムを自分で作ってみる 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第6回	リストによるデータの処理 【key words】 リスト、for 【授業概要】 同じ系統のデータを多数扱う際に便利なリストを解説する ・リストの概要 ・リストにデータを代入する ・リストからデータを順に取り出す 【教科書ページ・参考文献】 84～89ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 リストを含むプログラムを自分で作ってみる 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第7回	辞書によるデータの処理 【key words】 辞書 【授業概要】 リストと並んでよく使うデータ構造である辞書を解説する ・辞書の概要 ・辞書にデータを代入する ・辞書の活用 【教科書ページ・参考文献】 スライド資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 辞書を活用したプログラムを自分で作ってみる 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第8回	関数の利用 【key words】 関数、引数、戻り値 【授業概要】 処理を関数にまとめることで、同じような処理を何度も書かずに効率良くすることができる。この回では既存の関数を使う方法を解説する ・関数の概要 ・組み込み関数とユーザー定義関数 ・よく使う組み込み関数

【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
関数を使ったプログラムを自分で作ってみる
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第9回　関数の作成

【key words】
関数、def
【授業概要】
プログラムの中で同じような処理が複数回出てくる場合、それを関数にまとめると効率が良くなる。この回では関数を作る方法を解説する。
・関数を作る手順
・引数と戻り値の扱い方

【教科書ページ・参考文献】
106～111ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
自分で関数を作る練習をする
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第10回　モジュールの基本

【key words】
モジュール、import
【授業概要】
関数を集めてモジュールにすると、他のプログラムでも使いまわすことができる。この回では、既存のモジュールを使う方法や、自分でモジュールを作る方法を解説する
・モジュールの概要
・モジュールのインストール
・モジュールの作成
・モジュールのインポート
・モジュール内の関数の呼び出し

【教科書ページ・参考文献】
112～118ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
モジュールを使ったプログラムを作ってみる
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第11回　モジュールの活用

【key words】
モジュール
【授業概要】
既存のモジュールがいろいろあるので、便利なものを紹介する
・グラフの作成（matplotlib）
・Webページのスクレイピング（Requests、BeautifulSoup）

【教科書ページ・参考文献】
114～115ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
モジュールを活用したプログラムを作ってみる
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第12回　アプリを作ってみる(1)

【key words】
アプリ、tkinter
【授業概要】
画像を扱うアプリを作ることを通して、画像の処理やアプリづくりの実際を学ぶ
ユーザーからの入力を受け付けて動作するアプリを作る
・画面にボタンを配置する
・ボタンがクリックされたときに反応するようにする
・アプリの中身を作る
【教科書ページ・参考文献】
122～129ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
アプリの中身を書き換えて動作を試してみる
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第13回　アプリを作ってみる(2)

【key words】
pillow、画像
【授業概要】
画像を扱うアプリを作ることを通して、画像の処理やアプリづくりの実際を学ぶ
・アプリを使ってみる
・画像の扱い方
・画像ファイルの選択
・アプリの機能追加
【教科書ページ・参考文献】
130～148ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
piloowの他の機能を調べて自分で改造してみる
【予習復習に必要な想定時間】

	30分 第14回　機械学習の基本(1) 【key words】 scikit-learn 【授業概要】 Pythonは機械学習のライブラリが充実しているが、その中の1つである「scikit-learn」を使って、機械学習の基本を学習する ・機械学習の考え方 ・scikit-learnのインストール ・サンプルデータの扱い方 【教科書ページ・参考文献】 150～169ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 機械学習の仕組みを復習する 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第15回　機械学習の基本(2) 【key words】 scikit-learnを使って手書きの数字を認識するところまでを学習する 【授業概要】 ・手書き文字認識の仕組み ・手書き文字認識をアプリ化する 【教科書ページ・参考文献】 170～187ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 手書き文字認識の仕組みを復習する 【予習復習に必要な想定時間】 30分
受講生に関わる情報および受講のルール	[受講生に関わる情報]　配布資料は当授業のホームページから各自ダウンロードすること。 [受講のルール] 積極的に授業に臨むこと。 演習形式の授業なので、話を聞くだけでなく、手を動かしてパソコンの操作を身につけること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	配布資料を使って復習する プログラミングに必要なソフトは自分でパソコンにインストールする
オフィスアワー	授業前後20分
評価方法	筆記試験
教科書	Python1年生、森巧尚著、翔泳社
参考書	なし
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 プログラム開発経験豊富 プログラミング関連の書籍を多数執筆 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク ■アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 ■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 ■その他 その他の具体的内容 授業を録画して後日YouTubeで配信

講義科目名称： 医学概論（人体の構造と機能及び疾病）　　授業コード： S2032

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
山﨑　博幸			
専門科目	講義	社会福祉士・精神保健福祉士指定科目	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 社会福祉専門職（又は医療専門職）に求められる基本的な医学知識・医学用語を正しく理解する。人体の構造と機能及び疾病を理解する。疾病・障害とその支援について理解する。具体的には以下の点について理解する。 ①人のライフステージにおける心身の変化と健康課題について理解する。 ②健康・疾病の捉え方について理解する。 ③人の身体構造と心身機能について理解する。 ④疾病と障害の成り立ち及び回復過程について理解する。 ⑤公衆衛生の観点から、人々の健康に影響を及ぼす要因や健康課題を解決するための対策 を理解する。 【到達目標】 基礎的な人体の構造、疾病について説明することができる。 生命の尊厳を知り、人体への畏怖の念を持つことができる。 医療、福祉分野において危機管理能力の形成がなされる。
授業の概要	社会福祉専門職、教育職に必要な基本的な医学知識・医学用語を学び、次に人体の構造と機能、さらに疾病・障害とその支援について学んでいく。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第1回	ライフステージにおける心身の特徴、心身の加齢・老化 【key words】 成長、発達、発育、思春期、青年期、成人期、加齢、老化 【授業概要】 ・乳幼児期・学童期の成長、思春期・青年期の心身の特徴について学習する ・成人期の心身の特徴について学習する ・加齢と老化の違い、臓器の加齢変化について学習する 【教科書ページ・参考文献】 教科書　p2～14 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始前日までに、指定の教科書のページを読んで予習をすること。 【予習復習に必要な想定時間】 45分
	第2回	ライフステージ別の健康問題、健康と疾病の概念、国際生活機能分類 【key words】 ライフステージ、健康、疾病、ICIDH、ICF 【授業概要】 ・ライフステージ別の現代的課題について学習する ・健康と疾病の概念及び国際生活機能分類について学習する 【教科書ページ・参考文献】

		教科書　p15～31 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始前日までに、指定の教科書のページを読んで予習をすること。 【予習復習に必要な想定時間】 45分
	第3回	人体部位の名称 【key words】 骨格系、筋系、循環器系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、神経系、感覚器系、皮膚、血液 【授業概要】 ・人体の体表における区分や各部位の名称を学習する ・人体を構成する器官系と、各器官系を構成する臓器系の名称を学習する 【教科書ページ・参考文献】 教科書　p32～46 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始前日までに、指定の教科書のページを読んで予習をすること。 【予習復習に必要な想定時間】 45分
	第4回	器官系と臓器の役割 【key words】 骨格系、筋系、循環器系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、神経系、感覚器系、皮膚、血液 【授業概要】 ・各器官系の機能および人体における役割の全体像を学習する ・各器官系を構成する臓器系の機能を学習する 【教科書ページ・参考文献】 教科書　p47～57 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始前日までに、指定の教科書のページを読んで予習をすること。 【予習復習に必要な想定時間】 45分
	第5回	疾病の発生原因と成立機序 【key words】 外的要因、内的要因、炎症、変性、虚血、発がん、免疫反応 【授業概要】 ・疾病の発生原因について学習する ・病変の成立機序について学習する 【教科書ページ・参考文献】 教科書　p58～74 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始前日までに、指定の教科書のページを読んで予習をすること。 【予習復習に必要な想定時間】 45分
	第6回	リハビリテーションの概要と範囲 【key words】 リハビリテーション、ノーマライゼーション、ADL、QOL、IADL、高次脳機能障害、廃用症候群、ロコモティブシンドローム、チーム医療 【授業概要】 ・リハビリテーションの定義、概念、目的について学習する ・ADLとQOLについて学習する ・リハビリテーションの対象及び方法について学習する 【教科書ページ・参考文献】 教科書　p75～91 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始前日までに、指定の教科書のページを読んで予習をすること。 【予習復習に必要な想定時間】 45分
	第7回	感染症、神経疾患、認知症、高次脳機能障害 【key words】 インフルエンザ、ノロウィルス、エイズ、COVID-19、ウイルス性肝炎、アルツハイマー病、パーキンソン病 【授業概要】 ・主な感染症の概要及び感染対策について学習する ・代表的な神経疾患の症状、検査、診断、治療について学習する 【教科書ページ・参考文献】 教科書　p92～107 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始前日までに、指定の教科書のページを読んで予習をすること。 【予習復習に必要な想定時間】 45分
	第8回	脳血管疾患、心疾患 【key words】 脳梗塞、脳出血、くも膜下出血、CT、MRI、虚血性心疾患、心不全、弁膜疾患、不整脈、大動脈疾患、高血圧 【授業概要】 ・脳血管疾患の概要、後遺症について学習する ・虚血性心疾患の病態について学習する

・高血圧症の基準や治療について学習する

【教科書ページ・参考文献】
教科書　p108～121
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業開始前日までに、指定の教科書のページを読んで予習をすること。
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第9回　内分泌・代謝疾患、呼吸器疾患
【key words】
糖尿病、コレステロール、甲状腺、気管支喘息、COPD、肺炎、肺がん
【授業概要】
・糖尿病、脂質異常症、甲状腺疾患、下垂体疾患、副腎疾患の概要について学習する。
・高齢者に多い肺疾患について学習する

【教科書ページ・参考文献】
教科書　p122～137
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業開始前日までに、指定の教科書のページを読んで予習をすること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第10回　腎・泌尿器疾患、消化器・肝胆膵疾患、骨・関節の疾患
【key words】
腎不全、透析、腎移植、肝炎、ヘリコバクターピロリ、骨粗鬆症、関節リウマチ
【授業概要】
・腎不全、泌尿器疾患について病態を学習する
・肝疾患、胆嚢疾患、すい臓疾患について概要・検査・治療・予防法を学習する
・高齢化に伴い増加する骨・関節の疾患の特徴を理解する

【教科書ページ・参考文献】
教科書　p138～156
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業開始前日までに、指定の教科書のページを読んで予習をすること。
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第11回　血液・免疫・アレルギー疾患、眼科疾患、視覚障害、耳鼻咽喉科疾患、聴覚障害、平衡機能障害
【key words】
貧血、造血器腫瘍、アレルギー、白内障、緑内障、難聴、メニエール病
【授業概要】
・貧血、造血器腫瘍、造血不全の概念について学習する。
・再生不良性貧血、全身性エリトマトーデスについて学習する
・主要な眼科疾患、耳鼻咽喉疾患について学習する

【教科書ページ・参考文献】
教科書　p157～176
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業開始前日までに、指定の教科書のページを読んで予習をすること。
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第12回　口腔疾患、婦人科・産科
【key words】
う蝕、歯周疾患、生殖器腫瘍、妊娠、合併症、更年期障害
【授業概要】
・歯・歯周組織の構造、疾患について学習する
・生殖器悪性腫瘍と良性腫瘍について学習する
・妊娠・分娩の一連の流れを学習する
・育児放棄、特定妊婦について学習する

【教科書ページ・参考文献】
教科書　p177～189
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業開始前日までに、指定の教科書のページを読んで予習をすること。
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第13回　精神疾患、精神障害、発達障害、小児科疾患、肢体不自由、知的障害、高齢者に多い疾患
【key words】
DSM-5、自閉症スペクトラム、ADHD、統合失調症、先天性疾患、肢体不自由、知的障害、ダウン症候群、老年症候群、フレイル
【授業概要】
・代表的な精神疾患について学習する
・小児疾患の特徴、要因について学習する
・高齢者に多く出現する病態・疾病の特徴について学習する

【教科書ページ・参考文献】
教科書　p190～208
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業開始前日までに、指定の教科書のページを読んで予習をすること。
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第14回　生活習慣病（総論）、内部障害、悪性腫瘍と緩和ケア
【key words】
メタボリックシンドローム、内部障害、緩和ケア

	【授業概要】 ・生活習慣病の病態と予防の概要を学習する ・内部障害の概要を学習する ・悪性腫瘍とその治療の概略について学習する ・緩和ケアの対象者とその概要について学習する 【教科書ページ・参考文献】 教科書　p209～219 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始前日までに、指定の教科書のページを読んで予習をすること。 【予習復習に必要な想定時間】 45分 第15回　公衆衛生 【key words】 予防医学、健康の社会決定要因、健康増進 【授業概要】 ・公衆衛生とは何かについて学習する ・公衆衛生の目的である健康の保持・増進、寿命の延長、疾病の予防について学習する ・公衆衛生の各ライフステージの保健対策について学習する ・公衆衛生の疾病対策について学習する 【教科書ページ・参考文献】 教科書　p220～232 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始前日までに、指定の教科書のページを読んで予習をすること。 【予習復習に必要な想定時間】 45分
受講生に関わる情報および受講のルール	スライドで映した重要事項や口述した内容はノートに筆記していく事。 将来医療福祉分野に携わる者としてふさわしい知識を会得する事。 講義毎に前回の講義のおさらいを行う。各自、復習をすること。 手を動かすことによって記憶の定着が促進される。ノートのみではなく、積極的に教科書にも書き込みを行ってください。 〔受講のルール〕 私語、スマホの使用は禁止。注意してもやめない場合は退室していただきます。 その他授業の妨害行為を禁止とする。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード　又は　Google Form
授業外時間にかかわる情報	授業時に指示する。
オフィスアワー	木曜日、金曜日の4限、又は随時（要連絡）。
評価方法	定期試験（100%）
教科書	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟　編集 『最新・社会福祉士養成講座　『医学概論』最新版　中央法規
参考書	講義の中で適宜紹介していく。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） ■情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 保健医療と福祉　　授業コード： S2043

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
山﨑　博幸			
専門科目	講義	社会福祉士指定科目	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 ①保健医療の課題を持つ人に対する、社会福祉士としての適切な支援のあり方を理解する。 ②ソーシャルワーク実践において必要となる保健医療の動向を理解する。 ③保健医療に係る政策、制度、サービスについて理解する。 ④保健医療領域における社会福祉士の役割と、連携や協働について理解する。 【到達目標】 医療倫理を含む保健医療に係る倫理について説明することができる。保健医療の動向について説明することができる。保健医療に係る政策・制度・サービスの概要について説明することができる。保健医療領域にお ける専門職の役割と連携について説明することができる。保健医療領域における支援の実際について説明することができる。
授業の概要	ソーシャルワークに必要な保健医療と福祉について以下の点を理解する。 ・保健医療の課題をもつ人の理解 ・医療倫理 ・保健医療の動向 ・保健医療領域に必要な政策・制度およびサービスに関する知識 ・保健医療領域における専門職の役割と連携 ・保健医療領域における支援の実際

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第1回	病者の理解 【key words】 疾病、健康、ICIDH、ICF、ナラティブモデル、パーソンズ、キューブラ―ロス、スティグマ 【授業概要】 ・初回なので、授業の進め方やルールについて理解する。 ・健康の定義、疾病の概念、等について理解する。 ・病をもつことによって生じる諸問題について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 第１章　p2-12 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前に教科書指定のページを読んでおくこと。 授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。 【予習復習に必要な想定時間】 45分
	第2回	家族の理解 【key words】 家族の多様化、世帯、ダブルケア、五大疾病、家族支援、スピリチュアルペイン 【授業概要】

・家族構成の変遷とその弊害について理解する。
・疾病・障害が家族に与える影響について理解する。
・家族支援について、事例をふまえて理解する。

【教科書ページ・参考文献】
第１章　p13-22
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前に教科書指定のページを読んでおくこと。
授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。

【予習復習に必要な想定時間】
45分

第3回　患者の権利

【key words】
患者の権利法をつくる会、パターナリズム、患者の権利章典、リスボン宣言、インフォームドコンセント、インフォームドアセント
【授業概要】
・患者の権利という概念が生まれてきた経緯について理解する。
・インフォームドコンセント、インフォームドアセントについて理解する。

【教科書ページ・参考文献】
第１章　p23-30
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前に教科書指定のページを読んでおくこと。
授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。

【予習復習に必要な想定時間】
45分

第4回　医療倫理と倫理的課題

【key words】
倫理、規範、法令遵守、医療倫理の4原則、ニュルンベルク綱領、生殖医療、移植医療、終末期医療
【授業概要】
・医療倫理の基礎4原則について理解する。
・現代における医療倫理の課題について理解する。

【教科書ページ・参考文献】
第２章　p34-41
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前に教科書指定のページを読んでおくこと。
授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。

【予習復習に必要な想定時間】
45分

第5回　患者の意思決定をめぐる課題

【key words】
パターナリズム、ICモデル、IDモデル、SDMモデル、DNAR、アドバンスケアプランニング、人生会議
【授業概要】
・医療における意思決定支援のモデルについて理解する。
・DNAR、アドバンスケアプランニング、厚生労働省が普及・啓発している人生会議について理解する。

【教科書ページ・参考文献】
第２章　p42-50
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前に教科書指定のページを読んでおくこと。
授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。

【予習復習に必要な想定時間】
45分

第6回　疾病構造の変化

【key words】
疾病構造、人口転換、慢性疾患、非感染性疾患（NCDs）、健康の社会決定要因、疾病負荷
【授業概要】
・死因別にみた疾病構造に変化について理解する。
・戦後日本の人口構成及び高齢化について理解する。
・非感染性疾患（生活習慣病）について理解する。

【教科書ページ・参考文献】
第３章　p52-61
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前に教科書指定のページを読んでおくこと。
授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。

【予習復習に必要な想定時間】
45分

第7回　入院医療から在宅医療/病院完結型医療から地域完結型医療へ

【key words】
社会的入院、老人保健法、後期高齢者医療制度、在宅医療、地域包括ケアシステム
【授業概要】
・高齢者医療制度の変遷について理解する。
・地域包括ケアシステムの概要について理解する。

【教科書ページ・参考文献】
第３章　p62-73
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前に教科書指定のページを読んでおくこと。
授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。

【予習復習に必要な想定時間】
45分

第8回　保健医療における福祉的課題

【key words】
難病、ターミナルケア、老人ホーム、依存症、嗜癖、ICD（国際疾病分類）、認知症、自殺企図、虐待防止
【授業概要】
・難病と福祉的課題について理解する。
・認知症、ターミナルケアと福祉的課題について理解する。
・自殺企図、虐待防止と福祉的課題について理解する。

【教科書ページ・参考文献】
第３章　p74-83
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前に教科書指定のページを読んでおくこと。
授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。

【予習復習に必要な想定時間】
45分

第9回　保健医療の政策・制度および保健医療サービスの提供

【key words】
保健医療制度、国民医療費、医療法、医療事故、医療提供施設、在宅医療サービス
【授業概要】
・保健医療の政策・制度について全体像を理解する。
・医療提供施設、在宅医療サービスと医療提供体制について理解する。

【教科書ページ・参考文献】
第４章　p86-103
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前に教科書指定のページを読んでおくこと。
授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。

【予習復習に必要な想定時間】
45分

第10回　医療費の保障およびその他の政策・制度

【key words】
医療保険、労災保険、被用者保険、地域保険、高額療養費制度、難病法、精神保健福祉法、診療報酬、介護保険
【授業概要】
・医療費保障制度の体系を理解する。
・社会保険、公費負担医療、無料低額診療、診療報酬制度について理解する。
・介護保険制度の概要について理解する。

【教科書ページ・参考文献】
第４章　p105-125
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前に教科書指定のページを読んでおくこと。
授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。

【予習復習に必要な想定時間】
45分

第11回　保健医療領域における専門職と院内連携

【key words】
専門職、業務独占、チームモデル、SECIモデル、暗黙知、アンティシペーション・ダイアログ
【授業概要】
・保健医療領域のソーシャルワーカーが連携することになる専門職について理解する。
・３つのチームモデルについて理解する。

【教科書ページ・参考文献】
第５章　p128-137
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前に教科書指定のページを読んでおくこと。
授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。

【予習復習に必要な想定時間】
45分

第12回　地域の関係機関との連携の実際

【key words】
地域共生社会、地域連携クリティカルパス、医療ソーシャルワーカー業務指針
【授業概要】
・医療を取り巻く社会環境、地域の関係機関との連携について理解する。
・いくつかの事例から、地域の関係機関との連携について理解する。

【教科書ページ・参考文献】
第５章　p138-149

	【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前に教科書指定のページを読んでおくこと。 授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。 【予習復習に必要な想定時間】 45分 第13回　医療機関におけるソーシャルワーカーが所属する部門の構築 【key words】 スクリーニング、カンファレンス、電子カルテ、スーパーバイザー、バーンアウト、キャリアラダー、ワークライフバランス、マネジメント 【授業概要】 ・医療機関におけるソーシャルワーカーが所属する部門の位置づけについて理解する。 ・情報共有の仕組みについて理解する。 ・組織における管理体制について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 第５章　p150-160 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前に教科書指定のページを読んでおくこと。 授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。 【予習復習に必要な想定時間】 45分 第14回　保健医療領域におけるソーシャルワーカーの役割 【key words】 医療ソーシャルワーカー業務指針、グリーフワーク、アドバンスケアプランニング、退院援助、ソーシャルワークの歴史、マネージドケア、生江孝之、清水利子、浅賀ふさ、吉田ますみ、出淵みや子 【授業概要】 ・医療ソーシャルワーカー業務指針について理解する。 ・ソーシャルワークの歴史について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 第６章　p162-174 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前に教科書指定のページを読んでおくこと。 授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。 【予習復習に必要な想定時間】 45分 第15回　保健医療領域にお ける支援の実際 【key words】 回復期リハ、自宅退院、在宅医療、終末期ケア、救急現場、周産期、認知症、災害現場 【授業概要】 教科書第6章にあげられている８つの事例のうち、各自１つのシナリオを読んでレポートを作成する。 レポートに書くべき課題内容は、前の週に知らせる。 【教科書ページ・参考文献】 第６章　p175-222 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前に教科書指定ページの事例１から８までを読んでおくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
受講生に関わる情報および受講のルール	予習・復習を必ず行うこと。授業だけではなく、日頃から新聞・ニュース・インターネット等から保健医療に関する情報に接すること。 授業中は私語厳禁。スマホは指示された時以外は触らないこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード　又は Google Form
授業外時間にかかわる情報	授業時に指示する
オフィスアワー	木曜日、金曜日の4限、又は随時（事前に要連絡）。
評価方法	定期試験　80%　　レポート　20%
教科書	日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集　最新・社会福祉士養成講座　『保健医療と福祉』最新版 中央法規
参考書	講義の中で適宜紹介していく。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション

	□実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） ■情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 高齢者福祉　　授業コード： S2063

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年次	4単位(60)	社会福祉コース／福祉心理コース／学校教育コース・必修／児童福祉コース／初等教育コース・選択
担当教員			
石井　千麻			
専門科目	講義	社会福祉士指定科目	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 高齢化が著しい我が国において、高齢者を取り巻く環境は大きく変化してきていることを理解し、高齢者が活き活きとその人らしい生き方を実現するための各種施策を理解する。また、介護を必要とする高齢者も増加することが予測されていることから、介護保険制度を中心に介護を社会で支えるということはどのようなことかを知る。 【到達目標】 ①高齢者の定義と特性を踏まえ、高齢者とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境につ いて理解する。 ②高齢者福祉の歴史と高齢者観の変遷、制度の発展過程について理解する。 ③高齢者に対する法制度と支援の仕組みについて理解する。 ④高齢期における生活課題を踏まえて、社会福祉士としての適切な支援のあり方を理解する。
授業の概要	我が国の高齢者を取り巻く環境は大きく変容している。そこで高齢化の現状を把握するとともに、高齢者の特性の理解や高齢者のニーズについての理解を高める。また、具体的な支援方策の論拠となる介護保険制度をはじめとした諸制度をしっかり理解する。このことにより、専門職である社会福祉士として高齢者に対するより適切な支援が可能となり、高齢者の自立した生活と生活の質の向上に資するものである。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第1回	オリエンテーション（授業の進め方等概説） 【key words】 高齢者に対する支援を学ぶにあたって、「高齢者」と一括りにすることなく一人ひとりを尊厳をもって対応することが基本。 【授業概要】 高齢者に対する支援と介護保険制度を学ぶにあたって、学生の高齢者への意識やイメージについて確認し、それはなぜかを自らの言葉で語れるようにする。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第2回	高齢者の定義と特性（社会的理解・身体的理解） 【key words】 高齢者と老いを検証する 【授業概要】 高齢期における生活の変化や家族と社会との関係、生きがいや安全安心の確保、高齢者差別など様々な課題・問題が発生している。その原因を探るために社会的理解や身体的機能の変化等を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第3回　高齢者の特性（精神的理解・総合的理解）

【key words】
高齢者個々に特性がある
【授業概要】
高齢者の身体的理解をする。ここでは加齢に伴う身体機能の変化や外見から見た高齢化と内面から見た変化について検証するとともに、加齢に伴う基礎的運動機能の変化などから高齢者を総合的に理解する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第4回　高齢者の生活実態、少子高齢化と社会的問題

【key words】
人生５０年時代から人生９０年時代へ
【授業概要】
我が国の高齢化は先進国に例を見ない速さで進行しており、その推移及びその大きな原因となった少子高齢化等の動向について現状認識をする。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第5回　高齢者を取り巻く諸問題

【key words】
高齢化は重層的な課題を社会に投げかける
【授業概要】
高齢者を取り巻く諸問題とは何か、例えば健康問題や介護の門外、更には経済的な問題等々多くの問題の派生が懸念されている。それらについて具体的な事例を含めて検証する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第6回　高齢者保健福祉の起源と生成

【key words】
老いを歴史から考える
【授業概要】
我が国の高齢者の定義はどのように変遷してきたのか。高齢者（老人）に対する福祉サービスはどのようになされてきたのか、奈良時代までさかのぼってその起源から現代にいたるまでを検証する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第7回　高齢者保健福祉制度の発展

【key words】
介護の社会化とは何かを考え整理する
老年人口の急増とその対応とは
【授業概要】
第二次世界大戦後、我が国の福祉制度は児童や障害者、貧困者に対する対応を中心に充実されてきた。そうした中で、新たな課題として老年人口の急増が表出し、その対応を図るため老人福祉法が制定された。その経緯と現在の状況について歴史的に学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第8回　高齢者保健福祉の法体系

【key words】
高齢者は一律に支えられる人ではない
【授業概要】
高齢者保健福祉推進の基本的考え方を示した「高齢社会対策基本法」や「高齢社会対策大綱」について、その理念や国等が行うべき施策について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第9回　高齢者支援の関係法令　老人福祉法

【key words】
老人は敬愛される存在だけか？
【授業概要】
歴史的な救済制度等について学んできた中で、社会の変化に伴い「老人福祉法」が制定されるが、その基本的な理念や法の構成とその役割について学ぶ
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第10回　高齢者の医療の確保に関する法律
【key words】
高齢者と医療は切っても切れない
【授業概要】
高齢化に伴い多くの人々が加齢による身体機能の衰えや精神的課題を生じる。その対応を図るための医療制度について基本的なことを学ぶ。また、高齢者の支援に関連して近年表出してきた高齢者虐待や住宅問題等の課題への対策などについて学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第11回　高齢者虐待防止法・その他の関係法規　　「小テスト」
【key words】
高齢者を取り巻く環境は社会の縮図
【授業概要】
高齢者虐待や高齢者の住みやすい街づくり、更には高齢者の住まいの問題と様々な分野において高齢者の生活支援が求められている。そう言った分野についても知識を修得する。
第１回から第１０回までを振り返り、その成果を小テストで評価する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第12回　介護保険制度の全体像
【key words】
「介護を社会で支える」とはどういったことなのかの基本的な理解をする
【授業概要】
介護保険制度の最も初歩的・基本的事項である「サービス利用の方法」「サービス内容」「全体の仕組み」さらには目的と理念について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第13回　法改正と背景と方向性
【key words】
新たな高齢者介護の在り方を考える
【授業概要】
介護保険制度の理念の把握と共に、介護保険制度創設から最近の制度改正に至る原因、改正内容について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第14回　保険財政と保険者・被保険者
【key words】
安定したサービス供給のために
【授業概要】
制度の基本である財源の基本的な分野とともに、主体となる保険者・被保険者について、より詳細な把握を行う。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第15回　前期授業の総括
【key words】
介護の普遍化
授業概要　　第１回から第１４回までの講義を総括する
課題等　　夏季休業中に高齢者福祉のポイントや介護保険制度についてしっかりと復習しておくこと
【授業概要】
第１回から第１４回までの講義を総括する
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第16回　後期オリエンテーション
【key words】
高齢者の特性、健康問題、経済的問題、高齢者の定義、高齢者福祉の歴史、老人福祉法、高齢者虐待防止法、介護保険法
【授業概要】
前期で学んだ内容、試験内容をの振り返るとともに、知識として定着・整理できているか確認する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第17回　介護保険制度の仕組みとプロセス
【key words】
介護保険法　介護保険制度　要介護認定
【授業概要】
要介護認定の流れ、介護保険サービス該当者になる条件などについて学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第18回　介護保険制度における保険給付
【key words】
介護給付、予防給付、支給限度額、市町村特別給付、介護報酬、自己負担
【授業概要】
介護保険制度のなかで受給できる様々な給付を学ぶ。また、サービスの質の確保等に関して求められる情報の公表や苦情への対応を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第19回　介護保険サービスの体型１
【key words】

【授業概要】
居宅サービス、介護予防サービス、地域密着型サービス、
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第20回　介護保険サービスの体型２
【key words】
介護住宅改修、居宅介護支援、施設サービス
【授業概要】
介護保険制度におけるより具体的なサービスの中身を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第21回　地域支援事業と地域包括支援センター
【key words】
地域支援事業創設の経緯・内容、地域包括支援センターの役割
【授業概要】
介護保険制度における地域支援事業創設の経緯、内容を学ぶ。また、重要な役割を担う地域包括支援センターの概要を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第22回　バリアフリー法、高齢者住まい法
【key words】
高齢者住まい法の概要、バリアフリー法　我が国におけるバリアフリー政策の展開
【授業概要】
バリアフリー法の概要、我が国におけるバリアフリー政策の展開について学ぶ。高齢者の住まい法、これからの高齢者住まい法と高齢者の住まいの展望、バランスの取れた住宅行政について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第23回　高年齢雇用安定法
【key words】
高年齢雇用安定法の概要
【授業概要】
高年齢者雇用安定法の概要、高齢期における就労と経済状況、定年制と年金保険制度を学ぶ
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第24回　育児休業・介護休業法、市町村独自の支援
【key words】
育児休業法　介護休業法　介護保険外の高齢者支援サービスの意義
【授業概要】
育児・介護休業法の概要、介護保険外の支援サービスの意義について学ぶ

	【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第25回　高齢者支援における公的機関の役割 【key words】 行政機関の役割、指定サービス事業所、国保連の役割など 【授業概要】 高齢者福祉政策における国、都道府県、市町村などの行政機関の役割を学ぶ。また、地域包括支援センターや国民健康保険団体連合会、ハローワーク、シルバー人材センターの役割を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第26回　高齢者支援に関連する専門職の役割 【key words】 医師、看護師、社会福祉士、介護福祉士等の専門職と多職種との連携 【授業概要】 高齢者の支援に携わる様々な専門職の役割、連携のあり方を学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第27回　高齢者と家族に対する支援1 【key words】 アセスメントとコミュニケーション、個人・家族へのソーシャルワーク 【授業概要】 高齢者領域におけるソーシャルワーク場面を示し、求められるスキル・役割を学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第28回　高齢者と家族に対する支援2 【key words】 社会福祉士の役割、認知症ケア、ソーシャルワーク 【授業概要】 認知症高齢者の支援に関するソーシャルワーク場面を示し、求められるスキル・役割を学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第29回　高齢者と家族に対する支援3 【key words】 社会福祉士の役割、終末期ケア、ソーシャルワーク 【授業概要】 終末期高齢者の支援に関するソーシャルワーク場面を示し、求められるスキル・役割を学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第30回　後期試験前オリエンテーション 【key words】 後期の振り返り、定期試験の出題範囲、出題形式、評価基準のおさらい 【授業概要】 第16回から第29回までの講義を総括する。定期試験の出題範囲、出題形式を発表する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	座席を指定する。私語厳禁。ペットボトルは机上に置かないこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	リアクションペーパーによる。
授業外時間にかかわる情報	予習をして授業に臨むこと。わからない部分については、授業中若しくは授業終了後に遠慮なく行うこと。新聞やニュースなどを確認し、高齢者関係情報については必ず目を通すように心がけること。
オフィスアワー	毎週水曜日　午後16：00～17：00（この時間帯以外については要予約）
評価方法	定期試験60%、理解度テスト20%、授業への参画20%
教科書	最新・社会福祉士養成講座 2 『高齢者福祉』中央法規
参考書	関係資料は適宜配布する。
実務者経験/アク	

ティブラーニング/ リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 高齢者福祉施設にて生活相談員の経験あり。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) ■情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容 質問・疑問等があれば講義中に聞いてもらうか、リアクションペーパーに記入し、次回の講義で回答する。

講義科目名称： ソーシャルワークの基盤と専門職（共通）　　授業コード：S2123

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
大久保　圭介			
専門科目	講義	社会福祉士・精神保健福祉士指定科目	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 ソーシャルワーク専門職の土台となる共通基盤の習得を目的とする。 【到達目標】 ①ソーシャルワーク専門職の「法的基盤」を理解する。 ②ソーシャルワークの「定義」を理解する。 ③ソーシャルワークの「原理」を理解する。 ④ソーシャルワークの「形成過程」を理解する。 ⑤ソーシャルワーク専門職の「倫理観」を身に着ける。
授業の概要	社会福祉士・精神保健福祉士といったソーシャルワーク専門職が携えておくべき共通基盤とその上に成り立つ専門性を養う素養を身に着ける。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	△
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	◎
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	△
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	△
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	○
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	△
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第1回	オリエンテーション／社会福祉士・精神保健福祉士の法的基盤１ 【key words】 ソーシャルワーク専門職の国家資格　社会福祉士及び介護福祉士法　精神保健福祉士法 【授業概要】 ソーシャルワーク専門職の国家資格、社会福祉士及び介護福祉士法、精神保健福祉士法を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 テキスト第1章第１節～第３節 【課題・予習・復習・授業準備指示】 該当箇所のテキスト読み込み 【予習復習に必要な想定時間】 予習・復習ともに各９０分程度
	第2回	社会福祉士・精神保健福祉士の法的基盤２ 【key words】 課題発見　資源活用　多機関・多職種連携　終結と支援の波及効果　当事者との協働と普及啓発 【授業概要】 社会福祉士・精神保健福祉士の専門性を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 テキスト第1章第４節 【課題・予習・復習・授業準備指示】 該当箇所のテキスト読み込み 【予習復習に必要な想定時間】 予習・復習ともに各９０分程度
	第3回	社会福祉士・精神保健福祉士の法的基盤３ 【key words】 社会福祉士・精神保健福祉士に求められるコンピテンシー

【授業概要】
社会福祉士・精神保健福祉士に求められるコンピテンシーを学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
テキスト第1章第５節
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
予習・復習ともに各９０分程度

第4回　ソーシャルワークの枠組み１

【key words】
「ソーシャルワーク専門職のグローバル定義」
【授業概要】
「ソーシャルワーク専門職のグローバル定義」を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
テキスト第2章第１節
【課題・予習・復習・授業準備指示】
該当箇所のテキスト読み込み
【予習復習に必要な想定時間】
予習・復習ともに各９０分程度

第5回　ソーシャルワークの枠組み２

【key words】
「ソーシャルワーク専門職のグローバル定義」
【授業概要】
「ソーシャルワーク専門職のグローバル定義」を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
テキスト第2章第１節
【課題・予習・復習・授業準備指示】
該当箇所のテキスト読み込み
【予習復習に必要な想定時間】
予習・復習ともに各９０分程度

第6回　ソーシャルワークの枠組み３

【key words】
クライエント　ニーズ　ソーシャルワーカー　社会資源
【授業概要】
ソーシャルワークの構成要素を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
テキスト第2章第２節
【課題・予習・復習・授業準備指示】
該当箇所のテキスト読み込み
【予習復習に必要な想定時間】
予習・復習ともに各９０分程度

第7回　ソーシャルワークの基盤となる考え方１

【key words】
ソーシャルワークの原理
【授業概要】
ソーシャルワークの原理を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
テキスト第３章第１節
【課題・予習・復習・授業準備指示】
該当箇所のテキスト読み込み
【予習復習に必要な想定時間】
予習・復習ともに各９０分程度

第8回　ソーシャルワークの基盤となる考え方２

【key words】
当事者主権　尊厳の保持　権利擁護　自立支援
【授業概要】
ソーシャルワークの理念を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
テキスト第３章第２節
【課題・予習・復習・授業準備指示】
該当箇所のテキスト読み込み
【予習復習に必要な想定時間】
予習・復習ともに各９０分程度

第9回　ソーシャルワークの基盤となる考え方３

【key words】
エンパワメント　ノーマライゼーション　ソーシャル・インクルージョン　原理・理念に基づくソーシャルワーク
【授業概要】
ソーシャルワークの理念を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
テキスト第３章第２節
【課題・予習・復習・授業準備指示】
該当箇所のテキスト読み込み
【予習復習に必要な想定時間】
予習・復習ともに各９０分程度

第10回　ソーシャルワークの歴史１

【key words】
リッチモンド　社会診断　慈善の科学化
【授業概要】
ソーシャルワークの源流を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
テキスト第４章第１節

	【課題・予習・復習・授業準備指示】 該当箇所のテキスト読み込み 【予習復習に必要な想定時間】 予習・復習ともに各９０分程度 第11回　ソーシャルワークの歴史２ 【key words】 診断主義　機能主義　YMCA　コミュニティオーガニゼーション 【授業概要】 ・ソーシャルワークの発展過程を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 テキスト第4章第2節 【課題・予習・復習・授業準備指示】 該当箇所のテキスト読み込み 【予習復習に必要な想定時間】 予習・復習ともに各９０分程度 第12回　ソーシャルワークの歴史３ 【key words】 ジェネラリスト・ソーシャルワーク　一般システム論 【授業概要】 ソーシャルワークの統合化、および日本におけるソーシャルワークの形成過程を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 テキスト第4章第3節 【課題・予習・復習・授業準備指示】 該当箇所のテキスト読み込み 【予習復習に必要な想定時間】 予習・復習ともに各９０分程度 第13回　ソーシャルワークの倫理１ 【key words】 専門職倫理の概念　ソーシャルワーカーに関する各種「倫理綱領」 【授業概要】 専門職倫理の概念、およびソーシャルワーカーに関する各種「倫理綱領」について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 テキスト第5章１節～第２節 【課題・予習・復習・授業準備指示】 該当箇所のテキスト読み込み 【予習復習に必要な想定時間】 予習・復習ともに各９０分程度 第14回　ソーシャルワークの倫理２ 【key words】 ソーシャルワーカーに関する各種「倫理綱領」 【授業概要】 ソーシャルワーカーに関する各種「倫理綱領」について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 テキスト第５章第２節 【課題・予習・復習・授業準備指示】 該当箇所のテキスト読み込み 【予習復習に必要な想定時間】 予習・復習ともに各９０分程度 第15回　ソーシャルワークの倫理３ 【key words】 ソーシャルワーカーに関する各種「倫理綱領」　倫理的ジレンマ 【授業概要】 ソーシャルワーカーに関する各種「倫理綱領」、および倫理的ジレンマについて学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 テキスト第５章２節～３節 【課題・予習・復習・授業準備指示】 該当箇所のテキスト読み込み 【予習復習に必要な想定時間】 予習・復習ともに各９０分程度
受講生に関わる情報および受講のルール	オンラインに接続できるスマートフォン、タブレット、PCを持参すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード及びそれに準ずるもの
授業外時間にかかわる情報	授業の前後にテキストを読み込むように努めること。
オフィスアワー	金曜日５限
評価方法	定期試験（またはレポート試験）60%、提出物等40%
教科書	『最新　社会福祉士養成講座　精神保健福祉士養成講座１１ソーシャルワークの基盤と専門職［共通・社会専門］』（中央法規）
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 特別養護老人ホームの生活相談室において、ソーシャルワーカーとして約10年間の実務経験を有する。 また、現在も福祉心理領域のカウンセラーとして臨床に従事している。

	アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： ソーシャルワークの基盤と専門職（社福）　　授業コード：S2124

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
大久保　圭介			
専門科目	講義	社会福祉士指定科目	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 ジェネラリスト・ソーシャルワーカーの土台となる共通基盤の習得を目的とする。 【到達目標】 ①ジェネラリスト・ソーシャルワークの概念と意義を理解する。 ②ジェネラリスト・ソーシャルワーク展開と考え方を理解する。 ③総合的かつ包括的な支援の意義と内容を理解する。
授業の概要	ジェネラリスト・ソーシャルワーカーとして社会福祉士が携えておくべき共通基盤とその上に成り立つ専門性を養う素養を身に着ける。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	△
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	◎
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	△
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	△
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	○
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	△
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第1回	オリエンテーション／社会福祉士の専門性を構成する枠組 【key words】 専門職の成立条件　社会生活支援・地域支援の専門性　認定社会福祉士　日本社会福祉士会 【授業概要】 社会福祉士の専門性を構成する枠組みを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 テキスト第６章第１節 【課題・予習・復習・授業準備指示】 該当箇所のテキスト読み込み 【予習復習に必要な想定時間】 予習・復習ともに各９０分程度
	第2回	社会福祉士の職域と役割 【key words】 制度の狭間　高齢者　障害者（児）　児童福祉　生活困窮者　保健医療　学校教育　司法　地域福祉　独立型社会福祉士 【授業概要】 社会福祉士の職域と役割を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 テキスト第６章第２節 【課題・予習・復習・授業準備指示】 該当箇所のテキスト読み込み 【予習復習に必要な想定時間】 予習・復習ともに各９０分程度
	第3回	多様な組織・機関・団体における専門職 【key words】 公共職業安定所　NPO法人　福祉事務所　児童相談所　婦人相談所（女性相談支援センター）　身体障害者更生相談所　知的障害者更生相談所　民間の社会福祉施設 【授業概要】

		多様な組織・機関・団体における専門職を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 テキスト第６章第３節・４節 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 予習・復習ともに各９０分程度
	第4回	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象 【key words】 ミクロレベル　メゾレベル　マクロレベル 【授業概要】 ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 テキスト第７章第１節 【課題・予習・復習・授業準備指示】 該当箇所のテキスト読み込み 【予習復習に必要な想定時間】 予習・復習ともに各９０分程度
	第5回	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの展開 【key words】 社会開発　ストレングス　チームアプローチ　セルフヘルプグループ　コミュニティ　ステークホルダー　スクールソーシャルワーカー 【授業概要】 ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの展開を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 テキスト第７章第２節 【課題・予習・復習・授業準備指示】 該当箇所のテキスト読み込み 【予習復習に必要な想定時間】 予習・復習ともに各９０分程度
	第6回	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの展開 【key words】 社会開発　ストレングス　チームアプローチ　セルフヘルプグループ　コミュニティ　ステークホルダー　スクールソーシャルワーカー 【授業概要】 ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの展開を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 テキスト第７章第２節 【課題・予習・復習・授業準備指示】 該当箇所のテキスト読み込み 【予習復習に必要な想定時間】 予習・復習ともに各９０分程度
	第7回	総合的かつ包括的支援体制の構築 【key words】 8050問題　ダブルケアラー　ヤングケアラー　制度の狭間 【授業概要】 総合的かつ包括的な支援におけるジェネラリストの視点を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 テキスト第８章第１節 【課題・予習・復習・授業準備指示】 該当箇所のテキスト読み込み 【予習復習に必要な想定時間】 予習・復習ともに各９０分程度
	第8回	総合的かつ包括的支援体制の構築 【key words】 地域生活課題　社会資源　ニーズ　ソーシャルキャピタル（社会関係資本）　コミュニティ・ディブロップメント　フードバンク　フォーマルな社会資源　インフォーマルな社会資源　資源開発機能 【授業概要】 総合的かつ包括的な支援におけるジェネラリストの視点を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 テキスト第８章第２節 【課題・予習・復習・授業準備指示】 該当箇所のテキスト読み込み 【予習復習に必要な想定時間】 予習・復習ともに各９０分程度
	第9回	総合的かつ包括的支援体制の構築 【key words】 地域生活課題　社会資源　ニーズ　ソーシャルキャピタル（社会関係資本）　コミュニティ・ディブロップメント　フードバンク　フォーマルな社会資源　インフォーマルな社会資源 【授業概要】 多職種連携およびチームアプローチを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 テキスト第８章第３節 【課題・予習・復習・授業準備指示】 該当箇所のテキスト読み込み 【予習復習に必要な想定時間】 予習・復習ともに各９０分程度
	第10回	総合的かつ包括的支援体制の構築 【key words】 地域生活課題　社会資源　ニーズ　ソーシャルキャピタル（社会関係資本）　コミュニティ・ディブロップメント　フードバンク　フォーマルな社会資源　インフォーマルな社会資源

	【授業概要】 多職種連携およびチームアプローチを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 テキスト第８章第３節 【課題・予習・復習・授業準備指示】 該当箇所のテキスト読み込み 【予習復習に必要な想定時間】 予習・復習ともに各９０分程度
	第11回　ジェネラリスト・ソーシャルワークの視座（諸理論） 【key words】 ジェネラリスト・ソーシャルワークの成立経緯　ジェネラリスト・ソーシャルワークの特徴 【授業概要】 ジェネラリスト・ソーシャルワークの成立経緯やその特徴を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 テキスト及び配布教材等、これまでの学習範囲 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業資料及び該当箇所のテキスト読み込み 【予習復習に必要な想定時間】 予習・復習ともに各９０分程度
	第12回　ジェネラリスト・ソーシャルワークの視座（諸理論） 【key words】 循環的実践展開過程　交互作用の変化にもとづく包括的な介入　批判的思考 【授業概要】 ジェネラリスト・ソーシャルワークの主要な諸理論を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 テキスト及び配布教材等、これまでの学習範囲 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業資料及び該当箇所のテキスト読み込み 【予習復習に必要な想定時間】 予習・復習ともに各９０分程度
	第13回　ジェネラリスト・ソーシャルワークの視座（実践） 【key words】 システム理論、エコロジカル・パースペクティブ、ストレングスモデル、エンパワメントアプローチ 【授業概要】 システム理論、エコロジカル・パースペクティブ、ストレングスモデル、エンパワメントアプローチの実践事例への応用から学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 テキスト及び配布教材等、これまでの学習範囲 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業資料及び該当箇所のテキスト読み込み 【予習復習に必要な想定時間】 予習・復習ともに各９０分程度
	第14回　ジェネラリスト・ソーシャルワークの視座（実践） 【key words】 システム理論、エコロジカル・パースペクティブ、ストレングスモデル、エンパワメントアプローチ 【授業概要】 システム理論、エコロジカル・パースペクティブ、ストレングスモデル、エンパワメントアプローチの実践事例への応用から学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 テキスト及び配布教材等、これまでの学習範囲 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業資料及び該当箇所のテキスト読み込み 【予習復習に必要な想定時間】 予習・復習ともに各９０分程度
	第15回　ジェネラリスト・ソーシャルワークの視座（実践） 【key words】 システム理論、エコロジカル・パースペクティブ、ストレングスモデル、エンパワメントアプローチ 【授業概要】 システム理論、エコロジカル・パースペクティブ、ストレングスモデル、エンパワメントアプローチの実践事例への応用から学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 テキスト及び配布教材等、これまでの学習範囲 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業資料及び該当箇所のテキスト読み込み 【予習復習に必要な想定時間】 予習・復習ともに各９０分程度
受講生に関わる情報および受講のルール	オンラインに接続できるスマートフォン、タブレット、PCを持参すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード及びそれに準ずるもの
授業外時間にかかわる情報	授業の前後にテキストを読み込むように努めること。
オフィスアワー	金曜日５限
評価方法	定期試験（またはレポート試験）60%、提出物等40%
教科書	『最新　社会福祉士養成講座　精神保健福祉士養成講座１１ソーシャルワークの基盤と専門職［共通・社会専門］』（中央法規）

参考書	授業内で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 特別養護老人ホームの生活相談室において、ソーシャルワーカーとして約10年間の実務経験を有する。 また、現在も福祉心理領域のカウンセラーとして臨床に従事している。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： ソーシャルワーク演習Ⅰ（共通）　　授業コード：S2171　S2172　S2173　S2174　S2175

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	1単位(30)	社会福祉コース／児童福祉コース・必修／福祉心理コース／学校教育コース／初等教育コース・選択
担当教員			
富澤　一央・安留　孝子・大久保　圭介・石井　千麻			
専門科目	演習	社会福祉士・精神保健福祉士指定科目	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 ①ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性を踏まえ、社会福祉士及び精神保健福祉士として求められる基礎的な能力を涵養する。 ②ソーシャルワークの価値規範と倫理を 実践的に理解する。 ③ソーシャルワークの実践に必要なコミ ュニケーション能力を養う。 ④ソーシャルワークの展開過程において 用いられる、知識と技術を実践的に理解する。 【到達目標】 ①自己覚知について説明することができる。 ②基本的なコミュニケーション技術について説明することができる。 ③基本的な面接技術について説明することができる。 ④ソーシャルワークの展開過程について説明することができる。 ⑤ソーシャルワークの記録について説明することができる。 ⑥グループダイナミクスの活用の仕方について説明することができる。 ⑦プレゼンテーション技術について説明することができる。
授業の概要	ソーシャルワーク等の実習と関連づけながら、福祉専門職として必要な基本的な視点や原則、姿勢、態度についての理解を深め、援助技術として、ソーシャルワークの役割や価値基盤の理解、専門職としての自己覚知、他者理解、基本的なコミュニケーション技法の習得を目指し、ロールプレイやグループワークによる実践的・体験的な演習方法で学ぶ。いくつかの事例を通して、ソーシャルワークの展開過程について学ぶ。ソーシャルワークにおける記録、グループダイナミクス、プレゼンテーションについて学ぶ。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	◎
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	△
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回　オリエンテーション　ソーシャルワーク演習の意義・目的及び位置づけ　授業の進め方　授業に参加する上での注意事項 【key words】 演習の概要　相談援助実習規定 【授業概要】 演習の位置づけを理解し演習に参加することができる。 ソーシャルワーク実習の規定を理解し、相談援助実習に向かう姿勢の基礎を構築する。 自己紹介を通して自分自身の振り返り、人の話を聞く態度を学 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第２回　自己覚知 【key words】

		自己理解と他者理解 【授業概要】 自己覚知のための、自己理解と他者理解について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第３回	基本的なコミュニケーション技術　言語的技術　質問、促し 【key words】 質問、促し 【授業概要】 言語的技術 について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第４回	基本的なコミュニケーション技術　言語的技術　感情の反映、繰り返し、要約 【key words】 感情の反映、繰り返し、要約 【授業概要】 言語的技術について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第５回	基本的なコミュニケーション技術　言語的技術まとめ 【key words】 質問、促し、言い換え、感情の反映、繰り返し、要約 【授業概要】 言語的技術（質問、促し、言い換え、感情の 反映、繰り返し、要約等） について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第６回	基本的なコミュニケーション技術　非言語技術 【key words】 表情、態度、身振り、位置取り 等 【授業概要】 非言語技術(表情、態度、身振り、位置取り 等） について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第7回	基本的な面接技術　　面接の構造化 【key words】 面接の構造化 【授業概要】 面接の構造化について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第８回	基本的な面接技術　場の設定 【key words】 場の設定 【授業概要】 場の設定(面接室、生活場面、自宅等)について学ぶ。 ツールの活用 (電話、e-mail 等)について、それぞれの特徴を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第９回	ソーシャルワークの展開過程　児童 【key words】 ソーシャルワークの展開過程 【授業概要】 事例を通して、ソーシャルワークの展開過程（ケースの発見 ・インテーク ・アセスメント ・プ

		ランニング ・支援の実施 ・モニタリング ・支援の終結と事後評価 ・アフターケア）について学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１０回	ソーシャルワークの展開過程　高齢 【key words】 ソーシャルワークの展開過程 【授業概要】 事例を通して、ソーシャルワークの展開過程（ケースの発見 ・インテーク ・アセスメント ・プランニング ・支援の実施 ・モニタリング ・支援の終結と事後評価 ・アフターケア）について学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１１回	ソーシャルワークの展開過程　障害 【key words】 ソーシャルワークの展開過程 【授業概要】 事例を通して、ソーシャルワークの展開過程（ケースの発見 ・インテーク ・アセスメント ・プランニング ・支援の実施 ・モニタリング ・支援の終結と事後評価 ・アフターケア）について学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１２回	ソーシャルワークの展開過程　生活困窮 【key words】 ソーシャルワークの展開過程 【授業概要】 事例を通して、ソーシャルワークの展開過程（ケースの発見 ・インテーク ・アセスメント ・プランニング ・支援の実施 ・モニタリング ・支援の終結と事後評価 ・アフターケア）について学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１３回	ソーシャルワークの記録 【key words】 支援経過の把握と管理 【授業概要】 ソーシャルワークの記録について学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１４回	グループダイナミクスの活用 【key words】 グループワークの構成、グループワークの展開過程 【授業概要】 グループワークの構成(グループリーダー・ コリーダー・グループメンバー) 、・グループワークの展開過程(準備期・開始 期・作業期・終結期) について学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１５回	プレゼンテーション技術 【key words】 個人プレゼンテーション ・グループプレゼンテーション 【授業概要】 個人プレゼンテーション ・グループプレゼンテーション について学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 今までの演習で考えたことを振り返り、まとめる。 【予習復習に必要な想定時間】

	30分
受講生に関わる情報および受講のルール	(1)履修上の注意 グループワーク等に積極的に参加すること。無断欠席、無断遅刻はグループワークを乱すものであることを自覚すること。また、無断欠席、無断遅刻は実習に多大な影響を及ぼすことから、実習出来なくなる場合がある。 (2)学習上の助言 福祉専門職として必要な実践力を習得するために、自ら考え、気付くことが重要である。 (3)予備知識や技能 「ソーシャルワークの基盤と専門職」と深い関わりがある科目であることから、講義内容を十分に理解することが重要である。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	演習で学んだ内容や援助技術等を意識しながらボランティア活動に参加することが重要である。また、ボランティア活動を通して自己理解を深め、あるいは他者理解に努め、その都度振り返ることが求められる。
オフィスアワー	各教員より授業時に伝える
評価方法	試験またはレポート（40%）、提出物・リアクションペーパー・課題への取り組み（60%）
教科書	社会福祉士養成講座編集委員会編　『ソーシャルワーク演習（共通）』　中央法規出版
参考書	社会福祉六法（出版社は問わない）、社会福祉用語辞典
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 特別養護老人ホームの生活相談員を10年経験し、現在も遠隔による相談援助を実践している。 高齢者デイサービスや地域交流拠点「地域の小さな居場所」における3年間の相談援助の経験に加え、2012年より、海外（インドネシア共和国）の地域保健・福祉活動のスーパーバイザーとして、青少年や高齢者等の住民や活動の担い手の支援を行っている。 介護老人保健施設の生活相談員を経験 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 精神保健福祉制度論　　授業コード： S7005

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	社会福祉コース・福祉心理コース・選択
担当教員			
鈴木　秀夫			
専門科目	講義	精神保健福祉士指定科目	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 社会における精神障害者の人権上の問題点を踏まえ精神保健福祉士として支援できるようになることを目指す。 【到達目標】 ①精神障害者に関する法制度の体系について理解する。 ②精神保健福祉法、医療観察法等の医療に関する制度の概要と課題、制度に規定されている精神保健福祉士の役割について理解する。 ③生活支援に関する制度の概要と課題、制度に規定されている精神保健福祉士の役割について理解する。 ④生活保護制度や生活困窮者自立支援制度等の経済的支援に関する制度の概要と課題、制度に規定されている精神保健福祉士の役割について理解する。 ⑤障害者に関する法制度を適切に活用でき、法制度の限界と課題について考えることができる。
授業の概要	精神障害者の理解のために障害者福祉の理念、基本施策を学ぶ。精神障害者の人権について学ぶ。障害に配慮した生活支援について理解させる。精神保健福祉法、障害者総合支援法、医療観察法等法律の意義を学ぶ。精神保健福祉士の理念、意義、対象について学ぶ。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第1回	オリエンテーション　講義の進め方 【key words】 精神保健福祉士　精神保健 【授業概要】 授業の進め方と精神保健について説明する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書18PのPSWからMWSWへ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回以降医学概論も併用 【予習復習に必要な想定時間】
	第2回	精神障害者に関する制度・施策の理解　精神障害者に関する法律の体系 【key words】 精神保健福祉法　宇都宮病院事件 【授業概要】 精神保健福祉法の歴史と関連法律について講義を行う。 精神保健福祉の特殊性をグループワークで体験。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】

	第3回	精神障害者に関する制度・施策の理解　精神障害者に関する法律の体系 【key words】 人権擁護　障害者基本法　障害者権利条約 【授業概要】 精神保健福祉法の歴史と関連法律について講義を行う。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第4回	精神障害者の医療に関する制度　精神保健福祉法の概要と精神保健福祉士の役割 【key words】 入院形態　入院の方法（移送制度等）　人権擁護（退院請求、精神医療審査会指定医制度）　精神保健福祉法における精神保健福祉士の役割（退院後生活環境相談員等） 【授業概要】 入院形態について講義し、入院、退院時の精神保健福祉士の役割をディスカッションする。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第5回	精神障害者の医療に関する制度　医療観察法の概要と精神保健福祉士の役割 【key words】 審判・処遇の流れ　処遇の内容　精神保健参与員の役割　社会復帰調整官の役割　医療観察法における精神保健福祉士の役割 【授業概要】 医療観察法について講義し、医療観察法における精神保健福祉士の役割をディスカッションする。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第6回	精神障害者の医療に関する制度　精神障害者の医療に関する課題 【key words】 非自発的入院　意思決定支援　家族等の同意　アウトリーチ　精神科救急　地域移行、地域定着 【授業概要】 現在の精神障害者医療の課題について説明し、精神保健福祉士の支援方法を考える。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第7回	精神障害者の生活支援に関する制度　相談支援制度と精神保健福祉士の役割 【key words】 相談支援制度　精神保健福祉士の役割 【授業概要】 相談支援制度の概要と精神保健福祉士の役割について講義する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第8回	精神障害者の生活支援に関する制度　居住支援制度と精神保健福祉士の役割 【key words】 居住支援制度　精神保健福祉士の役割 【授業概要】 居住支援制度の概要と居住支援における精神保健福祉士の役割について講義する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第9回	精神障害者の生活支援に関する制度　就労支援制度と精神保健福祉士の役割 【key words】 就労支援制度　精神保健福祉士の役割 【授業概要】 就労支援制度の概要と就労支援における精神保健福祉士の役割について講義する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第10回	精神障害者の生活支援に関する制度　精神障害者の生活支援制度に関する課題 【key words】 相談支援　居住支援　就労支援 【授業概要】 精神障碍者の生活支援に関する課題を概説し、精神保健福祉士としての対応についてディスカッションする。 【教科書ページ・参考文献】

	【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第11回　精神障害者の経済的支援に関する制度　生活保護制度と精神保健福祉士の役割 【key words】 生活保護　精神保健福祉士の役割 【授業概要】 生活保護法を受給している精神障害者の生活と支援について概説し、精神保健福祉士の役割についてディスカッションする。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第12回　精神障害者の経済的支援に関する制度　生活困窮者自立支援制度と精神保健福祉士の役割 【key words】 生活困窮者自立支援制度　精神保健福祉士の役割 【授業概要】 生活困窮に陥っている精神障害者に対する支援と連携についてディスカッションする。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第13回　精神障害者の経済的支援に関する制度　低所得者対策と精神保健福祉士の役割 【key words】 生活福祉資金貸付制度　無料定額診療所　無料定額宿泊所　求職者支援制度　法律扶助　災害救助等　低所得者対策における精神保健福祉士の役割 【授業概要】 精神障害者が利用できる低所得者対策について概説し、精神障害者への支援についてディスカッションする。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第14回　精神障害者の経済的支援に関する制度　精神障害者の経済的支援制度に関する課題 【key words】 無年金　経済的支援 【授業概要】 精神障害者の経済的支援制度に関する課題を概説し、経済的支援の法制度について振り返る。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第15回　まとめ 【key words】 ノーマライゼーション　人権擁護　合理的配慮 【授業概要】 精神障害者が生活をする中での課題、精神保健福祉士としての役割、支援方法についてまとめる。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	精神保健福祉士を目指し、国家試験受験を予定している学生は必ず履修すること。（授業中に予備知識、技能上のポイントの助言が多い）適宜レポート提出、小テストを実施する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	施設ボランティア、精神障害者イベントボランティアの紹介。ピア活動・講演会の紹介。
オフィスアワー	原則、火曜を除く放課後。
評価方法	定期試験50%　レポート30%　その他毎回での考察２０%
教科書	一般社団法人　日本ソーシャルワーク教育学校連盟　編集　『最新・精神保健福祉士養成講座』　中央法規出版
参考書	適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 精神科病院30年以上のPSWとしての実務経験。最後の10年は当時の副院長と看護の勉強会を実施。 他、医局の勉強会において医師、SW,CPを対象にSSTトレーニングを実施。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習)

	□ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： サービス・ラーニングⅡ　　授業コード：S2004　S2006

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	1単位(60)	必修
担当教員			
中越　信一・2学年サービス・ラーニングⅡ担当者			
基礎教養科目	演習		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 大学近隣の地域の様々なフィールドで行われる実践活動と課題、そして学生らに期待されている事柄を知り、興味関心を持ったフィールドにおける課題解決のための取り組みとして昨年度に企画立案したプロジェクトの実施を通じて、地域社会の問題解決に挑み、その経験から社会福祉・教育の専門職としてのキャリアを形成する土台となる体験基盤を主体的・実践的学習活動を通して構築する。 【到達目標】 ①地域社会にある課題を見つけ出し、その解決に向けた道筋を描き出すことができる。 ②課題解決に向けた具体的な地域貢献・社会貢献のための活動を計画することができる。 ③計画した活動について、地域社会への提案と具体的な実践をすることができる。 ④実践を通じて得た学びから、専門職としてのキャリアを考える体験基盤をつくることができる。
授業の概要	身近な地域で行われている実践を知り、そこでの課題を見つけ、その解決に向けた調査・分析から解決のためのプロジェクトの企画立案と提案、実行と振り返りまでを2年間かけて実施する。この2年目にあたる本講義では、全学ディプロマポリシーである『地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践』を行う場として、年間を通じてグループ単位での実践活動を行う。 具体的には、昨年度に各グループの企画案に基づき、前期は大学近隣地域の社会福祉・教育等の現場への提案とそこでの協議を通じ、企画の具体化に向けた準備を行う。後期はグループで企画した活動の実践活動を展開する。最終的にはそれぞれが活動した内容をポートフォリオとして記録に残し、全体での報告会によって知識と体験を共有する。これらを全体を通して、一人一人がそれぞれの進路や具体的な学習課題と向き合う上で、土台となる体験基盤を得られるよう、積極的な関与を求めたい。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション 【key words】 サービス・ラーニング、授業予定、ポートフォリオ 【授業概要】 今年度に取り組む予定（前期：企画立案・依頼・調整、後期：実践と振り返り、発表）を説明後、昨年度のグループごとに取り組みの振り返りと、昨年度に他の受講生から受けたフィードバックを確認し、今年度の活動について自分の興味関心をまとめる。 【教科書ページ・参考文献】 昨年度のポートフォリオと配布資料、新ポートフォリオ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 完成済の「昨年度のポートフォリオ」を活用する。 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分（以下分単位）
	第２回	活動準備①学内外での活動および、各自で行うボランティア活動の手続きの説明 【key words】

		ボランティア活動（継続・依頼・行事）、地域貢献活動、学生事故補償制度 【授業概要】 今後の学内外でのグループ単位での活動に向けた事務手続きについて、地域連携センター等などより説明を受ける。また、個人でのボランティア活動を行う際の手続きや記録の方法についても説明を受ける。最後に、助言・指導を受けることが可能な教員を紹介するとともに、活動のためのグループ編成を行う。 【教科書ページ・参考文献】 （当日配布予定のボランティア活動ハンドブック・ボランティア活動記録簿 【課題・予習・復習・授業準備指示】 昨年度のホーとフォリオと配布資料等 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分
	第３回	活動準備②グループ活動1 【key words】 グループワーク、情報収集、ニーズの確認、調べ学習、研究室訪問、企画立案 【授業概要】 自分たちの興味関心と昨年度に自他が調査・発表したニーズに沿ってグループごとに情報収集を行う。また、活動先との調整や活動可能な日時の調整をグループごとに確認し企画立案を行う。 【教科書ページ・参考文献】 ポートフォリオ（配布予定） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 活動予定日時・場所の報告 【予習復習に必要な想定時間】 15-30
	第４回	活動準備③グループ活動2 【key words】 グループワーク、情報収集、ニーズの確認、調べ学習、研究室訪問、企画立案 【授業概要】 グループごとに立てた計画に沿って実施する。昨年度に自他が調査・発表したニーズに沿ってグループごとに情報収集を行う。また、活動先との調整や活動可能な日時の調整をグループごとに確認し企画立案を行う。 【教科書ページ・参考文献】 ポートフォリオ､ワークシート 【課題・予習・復習・授業準備指示】 活動予定日時・場所の報告 【予習復習に必要な想定時間】 30-60
	第５回	活動準備④グループ活動3 【key words】 グループワーク、情報収集、ニーズの確認、調べ学習、研究室訪問、企画立案 【授業概要】 グループごとに立てた計画に沿って実施する。昨年度に自他が調査・発表したニーズに沿ってグループごとに情報収集を行う。また、活動先との調整や活動可能な日時の調整をグループごとに確認し企画立案を行う。 【教科書ページ・参考文献】 ポートフォリオ､ワークシート 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：活動予定日時・場所の報告 【予習復習に必要な想定時間】 15-30
	第６回	活動準備⑤他の班との情報共有 【key words】 グループワーク、情報共有、ニーズの確認、企画立案 【授業概要】 他のグループとの間で、自分の班で検討されている企画案や進捗状況について発表・共有する。その後、各グループに戻り、改めてグループの企画・今後のスケジュール等を確認する。 【教科書ページ・参考文献】 ポートフォリオ､ワークシート 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ポートフォリオ､ワークシート 【予習復習に必要な想定時間】 30-60
	第７回	活動準備⑥グループ活動4 【key words】 グループワーク、情報収集、ニーズの確認、調べ学習、研究室訪問、実践活動 【授業概要】 グループごとに立てた計画に沿って実施する。昨年度に自他が調査・発表したニーズに沿ってグループごとに情報収集を行う。また、活動先との調整や活動可能な日時の調整をグループごとに確認し企画立案を行う。 【教科書ページ・参考文献】 ポートフォリオ・配布資料・ワークシート 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：活動予定日時・場所の報告 【予習復習に必要な想定時間】 30-60
	第８回	後期オリエンテーション 【key words】 地域での実践活動、サービス・ラーニング 【授業概要】 後期は前期に立案した企画に基づき、地域での実践活動と振り返りを行う予定であり、その流れや手続きについて確認を行う。 【教科書ページ・参考文献】

		ボランティア活動ハンドブック、ポートフォリオ、配付資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回に向けた準備学習を指示予定 【予習復習に必要な想定時間】 30-60
	第９回	活動準備⑦グループ活動5 【key words】 グループワーク、実践活動、振り返り、社会人基礎力 【授業概要】 改めて地域で求められるマナーや態度について各自の考えや意見をもとにグループワークを行い、次回以降の実践活動に備えた準備を行う。 【教科書ページ・参考文献】 ポートフォリオ、配付資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ポートフォリオに基づく活動報告 【予習復習に必要な想定時間】 30-60
	第１０回	後期中間報告 【key words】 グループワーク、コミュニケーション、情報共有 【授業概要】 他のグループとの間で、自分のグループで実施している活動について発表・共有する。その後、各グループに戻り、改めてここまでのグループの活動について振り返りを行う。 【教科書ページ・参考文献】 ポートフォリオ、配付資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ポートフォリオに基づく活動報告 【予習復習に必要な想定時間】 30-60
	第１１回	報告会の解説及び御礼状の作成 【key words】 社会人基礎力、御礼状、振り返り 【授業概要】 報告会の内容や形式を説明後、実践活動に関連して対応いただいた方へのお礼状の作成について説明を行う。 【教科書ページ・参考文献】 ポートフォリオ・配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 御礼状の作成 【予習復習に必要な想定時間】 30-60
	第１２回	報告会準備 【key words】 振り返り、企画調整、プレゼンテーション 【授業概要】 グループごとに立てた計画に沿って実施する。主に企画発表会に向けた準備、活動先との調整やプレゼン資料の作成の準備を行う。 【教科書ページ・参考文献】 ポートフォリオ､御礼状の作成 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ポートフォリオに基づく活動報告 【予習復習に必要な想定時間】 30-60
	第１３回	報告会① 【key words】 プレゼンテーション 【授業概要】 実践した活動について､グループごとの報告を順次行う。 発表に伴う質疑応答。 【教科書ページ・参考文献】 発表資料、ポートフォリオ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 発表の感想記録 【予習復習に必要な想定時間】 30-60
	第１４回	報告会② 【key words】 プレゼンテーション 【授業概要】 実践した活動について､グループごとの報告を順次行う。 発表に伴う質疑応答。 【教科書ページ・参考文献】 発表資料、ポートフォリオ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 発表の感想記録 ポートフォリオの完成 【予習復習に必要な想定時間】 30-60
	第１５回	全体振り返り 【key words】 振り返り、職業観 【授業概要】

	全体でこれまでの学習全体を振り返っての学びや今後のキャリアについて検討する。 【教科書ページ・参考文献】 ポートフォリオ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ポートフォリオの提出 【予習復習に必要な想定時間】 30-120
受講生に関わる情報および受講のルール	＜受講生に関わる情報＞ ・授業時間として設定された時限以外でのグループ活動が中心となるため、メンバー同士で協力し合い、活動がうまく動いていくように、各自積極的に役割を担っていくこと。 ・講義内やグループ活動ごとに、ポートフォリオへの記入や小レポートの作成、メールやウェブポータル上での報告を求める。各自が期限を厳守し、真摯な態度で臨むこと。 ・大学外での活動が中心となるため、実習に順ずる態度・身だしなみで取り組むこと。 ・わからないことなどがあれば、遠慮なく担当教員をはじめとした学内の教員、地域連携センターに相談をすること。一人で解決しようとせず、人に力を借りることも学ぶこと。 ＜受講のルール＞ ・遅刻／欠席については大学のルールに則り、教務課に連絡を行うこと。 ・特に後期は各グループで教室や時限が異なる可能性があるため、担当教員との連絡、掲示板の確認を密に行うこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	毎回の授業後にウェブポータルのスレッド／アンケートやコメントカード（またはシャトルカード）のやり取りを行う予定
授業外時間にかかわる情報	・前期：各回でワークシートの作成等が課題として課される。 ・後期：各グループでの指導となるため、担当教員の指示を毎回確認すること。
オフィスアワー	授業内で案内する
評価方法	P/D評価である。各回でのワークシート等の作成・提出（50%）、とポートフォリオの作成・完成（50%）で評価を行い、基準を超えた場合に単位を認定する。
教科書	使用しない。各回で資料の配布等を行うため、配布されたファイルに保管すること。
参考書	適宜紹介
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 社会福祉協議会において､ボランティアや地域福祉に関わる実務を経験している。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 道徳の理論及び指導法　　授業コード： S5085

英文科目名称： Moral theory and teaching methods

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	2単位(30)	学校教育コース・初等教育コース・選択
担当教員			
岡野　康幸			
専門科目	講義		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】道徳心をどのように育てていくのかを建学の精神と関連しながら、「小学校・中学校道徳化指導に必要な知識・技能の習得」をすることで学んでいく。 【到達目標】①「道徳科学習指導要領の目標と内容及び解説」について理解することができる。②教材研究の仕方、学習指導案の作成、模擬授業や授業研究会の実践を通して、道徳科の実践的指導力を身に付けることができる。
授業の概要	小学校・中学校道徳化指導に必要な教師の理論面・実技面での基礎基本を身に付ける。その基礎基本の力量を活用して、教材研究の仕方、学習指導案の作成、模擬授業、授業研究会等を行う。児童・生徒が日常的に経験する事例から道徳の端緒を探り、どのように拡充していくか考察する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	◎
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	△
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	◎
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	○
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	△
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画		
	第1回	オリエンテーション（授業概要、評価方法等）、道徳の本質・意義 【key words】 道徳の本質 【授業概要】 授業の進め方や概要を説明します。また道徳の本質とはどういうことなのか。教育の視点から考察する。 【教科書ページ・参考文献】 『道徳教育論』11頁～22頁、『中学校学習指導要領　道徳編』134頁、『小学校学習指導要領　道徳編』128頁、 【課題・予習・復習・授業準備指示】 該当頁を読んでおくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 40分
	第2回	建学の精神「仁」から、道徳心について考える 【key words】 仁、道徳的価値 【授業概要】 建学の精神「仁」の価値観から、現代の道徳的価値観を再検討する。 【教科書ページ・参考文献】 『道徳教育論』23頁～38頁、『中学校学習指導要領　道徳編』14頁、『小学校学習指導要領　道徳編』17頁、 【課題・予習・復習・授業準備指示】 該当頁を読んでおくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 40分
	第3回	道徳教育の歴史、学習指導要領の目標と内容 【key words】 道徳教育　学習指導要領 【授業概要】 日本における道徳教育の流れを概説する。また学習指導要領の意義について考察する。 【教科書ページ・参考文献】

		『道徳教育論』39頁～50頁、『中学校学習指導要領　道徳編』62・63頁、『小学校学習指導要領　道徳編』60・61頁、 【課題・予習・復習・授業準備指示】 該当頁を読んでおくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 40分
	第4回	子どもの心の成長と道徳性の発達について 【key words】 道徳性の発達 【授業概要】 子供が成長する過程からどのように心が育っていくのか。道徳性の視点から考える。 【教科書ページ・参考文献】 『道徳教育論』51頁～64頁、 【課題・予習・復習・授業準備指示】 該当頁を読んでおくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第5回	現代社会における道徳教育の課題について 【key words】 道徳教育の課題 【授業概要】 特定の立場に立たないで、公教育のしてんからどのようにして道徳性を教授し児童・生徒に涵養させるかを考える。 【教科書ページ・参考文献】 『道徳教育論』65頁～80頁、 【課題・予習・復習・授業準備指示】 該当頁を読んでおくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第6回	道徳科指導計画：全体計画、年間指導計画、教育活動全体を通じた指導について 【key words】 道徳科指導計画、全体計画、年間指導計画 【授業概要】 教育活動を通じてどのように道徳性を養わせるのか、また年間の活動を通じてどのように道徳心について振り返らせるかを考えてみる。 【教科書ページ・参考文献】 『道徳教育論』93頁～109頁、 【課題・予習・復習・授業準備指示】 該当頁を読んでおくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第7回	様々な指導法（ティーム・ティーチング、ロールプレイング、ペープサートや場面絵、類型化、板書、説話等） 【key words】 ティーム・ティーチング、ロールプレイング、ペープサートや場面絵、類型化、板書、説話等 【授業概要】 さまざまな指導法の原則を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 『道徳教育論』126頁～141頁、 【課題・予習・復習・授業準備指示】 該当頁を読んでおくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第8回	評価方法（記述による評価、個人内評価、ポートフォリオ評価、座席表・通知票の評価、組織を生かした評価等） 【key words】 記述による評価、個人内評価、ポートフォリオ評価、座席表・通知票の評価、組織を生かした評価等 【授業概要】 「特別の教科　道徳」記述評価です。どのように評価をするのか。いくつかの視点から考えてみます。 【教科書ページ・参考文献】 『道徳教育論』185頁～196頁、 【課題・予習・復習・授業準備指示】 該当頁を読んでおくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第9回	学習指導案の基本的な作成方法 【key words】 学習指導案 【授業概要】 学習指導案の基本的な作成方法について学んでいきます。 【教科書ページ・参考文献】 『道徳教育論』197頁～209頁、 【課題・予習・復習・授業準備指示】 該当頁を読んでおくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第10回	学習指導案の作成・模擬授業の準備① 【key words】 学習指導案　模擬授業準備 【授業概要】

	学習指導案を作成してもらいます。その傍ら、模擬授業の準備も進めてもらいます。 【教科書ページ・参考文献】 『道徳教育論』142頁～157頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 該当頁を読んでおくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第11回　学習指導案の作成・模擬授業の準備② 【key words】 学習指導案　模擬授業準備 【授業概要】 学習指導案を作成してもらいます。その傍ら、模擬授業の準備も進めてもらいます。 【教科書ページ・参考文献】 『道徳教育論』158頁～170頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 該当頁を読んでおくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第12回　学習指導案の作成・模擬授業の準備③ 【key words】 学習指導案　模擬授業準備 【授業概要】 学習指導案を作成してもらいます。その傍ら、模擬授業の準備も進めてもらいます。 【教科書ページ・参考文献】 『道徳教育論』171頁～184頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 該当頁を読んでおくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第13回　模擬授業①、授業研究会① 【key words】 模擬授業 【授業概要】 作成した指導案に基づき、模擬授業を行う。 【教科書ページ・参考文献】 『道徳教育論』185頁～209頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 指導案を作成し、模擬授業前に教員へ提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分から120分
	第14回　模擬授業②、授業研究会② 【key words】 模擬授業 【授業概要】 先週に続き模擬授業をしてもらう。作成した指導案に基づき、模擬授業を行う。 【教科書ページ・参考文献】 『道徳教育論』185頁～209頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 指導案を作成し、模擬授業前に教員へ提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分から120分
	第15回　日常の事例から改めて道徳について考える 【key words】 道徳　習慣 【授業概要】 日常生活から道徳について改めて考えてみる。 【教科書ページ・参考文献】 『道徳教育論』210頁～225頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 該当頁を読んでおくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
受講生に関わる情報および受講のルール	・周囲の迷惑になるので私語は慎むこと。注意をしてもやめない時は退室を命ずる。 ・本人の責に帰す遅刻早退は認めない。 ・不明な用語に当たったら、辞典類で調べること。 ・臨機応変の対応ができるよう、15回の講義中に１人１分で発表をしてもらいます。 ・シラバスは講義の進行状況によって変わることもある。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	教育に関する新聞記事等の情報を常に把握していること。
オフィスアワー	火曜日16時～18時
評価方法	筆記試験70%、課題の作成15%、小テスト・レポート15%
教科書	文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年3月公示）解説　特別の教科　道徳編」廣済堂あかつき、文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年3月公示）解説　特別の教科　道徳編」教育出版、貝塚茂樹・林泰成『道徳教育論』放送大学教育振興会、2021年3月
参考書	・文部科学省「わたしたちの道徳（小学校1・2・3・4年、5・6年）各文渓堂、教育出版、廣済堂あかつき2015年6月。文部科学省「私たちの道徳（中学校）」廣済堂あかつき、2015年6月、文部科学省

	「私たちの道徳」活用のための指導資料。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 特別活動の指導法　　授業コード： S5101

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	2単位(30)	学校教育コース・必修／児童福祉コース・初等教育コース・選択
担当教員			
青木　美穂子			
専門科目	演習		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	特別活動の内容構成と教育的意義、特別活動の目標と基本的な性格、学級（ＨＲ）活動・児童会（生徒会）活動・学校行事・クラブ活動の目標･内容等を理解し、小･中・高等学校教師として、特別活動を指導できる資質や能力の育成を図る。
授業の概要	特別活動の内容構成と教育的意義、特別活動の目標と基本的な性格、学級（ＨＲ）活動・児童会（生徒会）活動･学校行事・クラブ活動の目標･内容等を講義やグループ協議を通して理解する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	○
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	△

授業計画

第１回　オリエンテーション　特別活動とはどんな学習活動か
【key words】
思い出に残る特別活動　集団活動
【授業概要】
オリエンテーション、シラバス、学習活動としての集団活動の特質を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ８～１７
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ１８～２９
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第２回　特別活動の教育上の特性
【key words】
教科教育　課外活動　世界の学校　日本の学校教育　特別活動の位置づけ
【授業概要】
特別活動の教育上の特質を知り、これからの日本の学校教育における特別活動について理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ１８～２９
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ３０～３８
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第３回　特別活動の目標と主な内容
【key words】
特別活動の目標　学級活動・ＨＲ活動　児童会活動･生徒会活動　クラブ活動　学校行事　国旗･国歌の取り扱い
【授業概要】
特別活動の目標と主な内容を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ３０～３８
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ３９～４６

【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第４回　特別活動の教育課程上の位置づけ
【key words】
各教科との関連　道徳教育との関連　総合的な学習の時間との関連　学級経営との関連　生徒指導･キャリア教育との関連
【授業概要】
特別活動の教育活動全体における意義を知り、各教科・外国語活動・道徳教育・総合的な学習の時間や学級経営・生徒指導･キャリア教育との関連を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ３９～４６
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ４７～６４
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第５回　特別活動で教師に求められる力量
【key words】
教師の指導力　ガイダンスとカウンセリング　構成的グループエンカウンター　ＣＳＳ
【授業概要】
特別活動で教師に求められる力量について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ４７～６４
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ６５～７５
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第６回　特別活動と学級経営　学級集団の心理学
【key words】
学習指導要領　学級風土　学級集団づくり
【授業概要】
特別活動と学級経営の関係を知り、学級集団の心理学について理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ６５～７５
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ７６～８７
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第７回　特別活動の全体計画と指導計画
【key words】
全体計画　年間指導計画　教師のリーダーシップ
【授業概要】
特別活動の全体計画と年間指導計画について知り、教師のリーダーシップの重要性を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ７６～８７
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ８８～９７
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第８回　学級活動・ホームルーム活動とは
【key words】
学級活動　ホームルーム活動
【授業概要】
小・中学校における学級活動の目標や学習過程、内容や指導計画について理解する。
高等学校のホームルーム活動について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ８８～９７
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ９８～１１５
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第９回　学級活動の指導の実際
【key words】
学級会　学年オリエンテーション　クラス会議　キャリア教育
【授業概要】
小中学校の学級活動の指導の実際を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ９８～１１５
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ１１６～１２１
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第１０回　児童会・生徒会活動とは
【key words】
生徒会活動　児童会活動
【授業概要】
児童会活動・生徒会活動の成立と展開、目標と内容、指導計画、指導上の留意点を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ１１６～１２１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ１２２～１３２
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

	第１１回　児童会･生徒会活動の指導の実際 【key words】 指導計画　指導内容　荒れの見られる集団 【授業概要】 児童会･生徒会活動の児童計画や指導内容を知り、指導の実際について理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 教科書Ｐ１２２～１３２ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書Ｐ１３３～１４５ 【予習復習に必要な想定時間】 １時間 第１２回　クラブ活動の内容と指導の実際 【key words】 クラブ活動　位置づけ　年間指導計画　部活動 【授業概要】 クラブ活動の内容と指導の実際を理解する。また、荒れの見られる集団で行うクラブ活動や部活動の指導のポイントも理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書Ｐ１３３～１４５ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書Ｐ１４６～１５２ 【予習復習に必要な想定時間】 １時間 第１３回　学校行事とは 【key words】 学校行事　内容　指導計画 【授業概要】 学校行事の目標や学習過程、内容について理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 教科書Ｐ１４６～１５２ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書Ｐ１５３～１６１ 【予習復習に必要な想定時間】 １時間 第１４回　学校行事の指導の実際 【key words】 指導のポイント　指導事例 【授業概要】 学校行事の指導の実際を理解する 【教科書ページ・参考文献】 教科書Ｐ１５３～１６１ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書Ｐ１６２～１７３ 【予習復習に必要な想定時間】 １時間 第１５回　特別活動における評価　まとめ 【key words】 評価の意義　評価の方法　評価の具体 【授業概要】 特別活動における評価の意義や方法を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書Ｐ１６２～１７３ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 試験に向けてまとめ 【予習復習に必要な想定時間】 ５時間
受講生に関わる情報および受講のルール	誠意ある態度での受講を求めます。講義や実習等を妨げる態度や私語を慎んで下さい。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	授業中に指示します。
オフィスアワー	授業終了後３０分
評価方法	定期試験（８０･ワークシート･ワークシート（２０％）を総合して評価します。
教科書	河村茂雄編著　特別活動の理論と実際　図書文化　２，２００円＋税
参考書	小･中･高等学校学習指導要領　特別活動編（文部科学省）
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 公立小・中学校の教諭経験　公立小学校の管理職経験 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション

	□実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 生徒指導・進路指導の理論と方法　　授業コード： S5131

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	2単位(30)	学校教育コース・必修／児童福祉コース・初等教育コース・選択
担当教員			
青木　美穂子			
専門科目	講義		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	いじめ、不登校、自殺、体罰、暴力、万引き等の問題行動を示す児童生徒をはじめとして、規範意識の低下、人間関係の希薄化等、様々な課題が学校教育にはある。教師としてこれらの生徒指導上の諸課題に適切に対応できる基礎的･基本的な資質･能力を備えた教師の育成を図ることを目的としている。
授業の概要	小･中･高校教諭として求められる生徒指導に関する基礎的知識や援助・指導方法等について、講義やグループワーク、話し合いを通して習得する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	○
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	△
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回	生徒指導とは 【key words】 生徒指導　日本の学校教育の特徴 【授業概要】 日本の学校教育の特徴を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書Ｐ１０～２１ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書Ｐ２２～３５ 【予習復習に必要な想定時間】 １時間
	第２回	現代の子どもとこれからの生徒指導 【key words】 発達課題　対人関係 【授業概要】 子どもの発達課題や対人関係の変化を知り、現代の子どもとこれからの生徒指導のあり方を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書Ｐ２２～３５ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書Ｐ３６～６１ 【予習復習に必要な想定時間】 １時間
	第３回	教育活動における生徒指導 【key words】 教育活動　子どもの理解　資料 【授業概要】 学習指導と生徒指導の関係を知り、教育活動における生徒指導の重要性を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書Ｐ３６～６１ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書Ｐ６２～７３

【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第４回　生徒指導体制と組織的な取組
【key words】
学級担任　教科担任　校務分掌　年間指導計画
【授業概要】
学級担任や教科担任等の校務分掌を知り、生徒指導体制の確立と組織的な取組の重要性を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ６２～７３
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ７４～８１
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第５回　生徒指導に関する主な法令
【key words】
法令　懲戒　校則　体罰　中途退学
【授業概要】
生徒指導に関する主な法令を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ７４～８１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ８２～９９
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第６回　進路指導･キャリア教育とは
【key words】
進路指導　キャリア教育
【授業概要】
進路指導・キャリア教育の内容と指導の実際を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ８２～９９
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ１００～１１３
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第７回　現代の子どもを取り巻く問題
【key words】
社会の変化　子どもの変化
【授業概要】
現代の子どもを取り巻く生徒指導上の課題を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ１００～１１３
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ１１４～１２５
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第８回　不登校の理解と対応
【key words】
不登校
【授業概要】
不登校の現状と対応についての理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ１１４～１２５
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ１２６～１４１
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第９回　いじめの理解と対応
【key words】
いじめ　実態調査
【授業概要】
いじめの全般的傾向を知り、対応についての理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ１２６～１４１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ１４２～１５９
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第１０回　非行の理解と対応
【key words】
非行　対応事例
【授業概要】
非行の理解と対応について知る。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ１４２～１５９
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ１６０～１７３
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第１１回　学級崩壊･授業崩壊の理解と対応

	【key words】 学級崩壊　授業崩壊　予防 【授業概要】 学級集団が崩壊する際の学校種ごとの特徴を知り、学級崩壊や授業崩壊を予防する指針を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書Ｐ１６０～１７３ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書Ｐ１７４～１８３ 【予習復習に必要な想定時間】 １時間 第１２回　家庭･地域･関係機関との連携 【key words】 地域社会　関係機関　教育センター 【授業概要】 地域社会と学校との関係を知り、家庭･地域･関係機関とのよりよい連携を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書Ｐ１７４～１８３ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書Ｐ１８４～１９７ 【予習復習に必要な想定時間】 １時間 第１３回　特別支援教育と生徒指導 【key words】 特別支援教育　障害特性 【授業概要】 特別支援教育における生徒指導のあり方を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書Ｐ１８４～１９７ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書１９８～２０９ 【予習復習に必要な想定時間】 第１４回　進路指導・キャリア教育の展開 【key words】 進路指導　キャリア教育　ガイダンス　ポートフォリオ 【授業概要】 ガイダンスの機能を生かした進路指導･キャリア教育のあり方を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書Ｐ１９８～２０９ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書Ｐ２１０～２１７ 【予習復習に必要な想定時間】 １時間 第１５回　高等学校中途退学問題の理解と対応　まとめ 【key words】 中途退学 【授業概要】 高等学校教育に内在する諸問題を知り、中途退学の現状と相談･指導のポイントを理解する。 試験に向けてのまとめ 【教科書ページ・参考文献】 教科書Ｐ２１０～２１７ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 試験に向けてまとめ 【予習復習に必要な想定時間】 ５時間
受講生に関わる情報および受講のルール	誠意ある態度での受講を求めます。講義や実習等を妨げる態度や私語を慎んで下さい。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	授業中に指示します。
オフィスアワー	授業終了後３０分
評価方法	定期試験（８０･ワークシート･ワークシート（２０％）を総合して評価します。
教科書	河村茂雄編著　生徒指導･進路指導の理論と実際　図書文化　２，２００円＋税
参考書	小･中･高等学校学習指導要領（文部科学省）　生徒指導提要（文部科学省）
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 公立小･中学校教諭　公立小学校管理職 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク

	□アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 総合的な学習の時間の指導法　　授業コード：S5135

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	2単位(30)	学校教育コース・初等教育コース・選択
担当教員			
青木　美穂子			
専門科目	演習		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	総合的な学習の時間の特徴である、探求的な見方･考え方･総合的･横断的な学習の仕方を理解し、各教科等の見方･考え方を総合的に活用して、児童生徒一人一人の豊かな学びの実現に向けた指導力を身に付ける。
授業の概要	小学校･中学校･高等学校の各学校段階における総合的な学習の時間に必要な知識･技能（学習指導要領･解説の理解、年間指導計画･単元計画の作成、各教科等の関連性、評価方法等）を身に付ける。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	△
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	○
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	○
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	△

授業計画

第１回　オリエンテーション　　進化し、教育課程の中核を担う総合的な学習の時間
【key words】
アクティブ･ラーニング　学びの地図　カリキュラムデザイン
【授業概要】
教育課程の中核を担う総合的な学習の時間の重要性を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ８～１５
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ１６～２１
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第２回　資質･能力の三つの柱と目標の改訂
【key words】
三つの柱　横断的・総合的　探求
【授業概要】
改訂された資質･能力の三つの柱と目標を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ１６～２１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ２２～２７
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第３回　目標と内容のポイント
【key words】
総合的な学習の時間の目標と内容　資質･能力
【授業概要】
同号的な学習の時間の目標と内容を理解し、育成を目指す資質・能力を知る。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ２２～２７
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ２８～３１
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第４回　他教科等で育成を目指す資質･能力との関連　日常生活や社会との関わりの重視

【key words】
他教科との関連　日常生活とのかかわり
【授業概要】
他教科等で育成を目指す資質･能力との関連を理解する。
日常生活や社会との関わりを重視していることを理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ２８～３１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ３２～４１
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第５回　探求課題の解決
【key words】
探求課題　横断的･総合的な課題　地域や学校の特色　興味・関心
【授業概要】
横断的･総合的な課題や地域や学校の特色に応じた課題等、探求的な課題について理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ３２～４１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ４２～５５
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第６回　指導計画
【key words】
全体計画　年間計画　単元計画
【授業概要】
全体計画や年間計画･単元計画について理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ４２～５５
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ５６～６５
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第７回　学習指導（比較･分類、ＩＣＴ活用、体験活動）
【key words】
比較･分類　ＩＣＴ　体験活動
【授業概要】
比較･分類、関連図蹴る技法の活用やＩＣＴの活用、体験活動の充実等の指導方法を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ５６～６７
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ６８～８３
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第８回　学習指導（指導体制・地域教材･学習環境の活用、調査活動、プログラミング）
【key words】
指導体制」地域教材　プログラミング
【授業概要】
指導体制の工夫や地域教材の活用、調査活動やプログラミング体験の充実等の指導方法を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ６８～８３
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ８４～９３
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第９回　評価
【key words】
評価の基本　児童の評価　教師の評価　指導計画の評価
【授業概要】
評価の基本や児童の評価、教師の評価、指導計画の評価等を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ８４～９３
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ９４～１１１
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第１０回　新授業プラン（３年生）　授業プラン作成の計画
【key words】
授業プラン（３年生）
【授業概要】
３年生の授業プラン例を学習し、自分の授業プラン作成の計画を立てる。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ９４～１１１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ１１２～１２９
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第１１回　新授業プラン（４年生）
【key words】
授業プラン（４年生）
【授業概要】

	４年生の授業プラン例を学習し、自分の授業プランの作成に取りかかる。 【教科書ページ・参考文献】 教科書Ｐ１１２～１２９ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書Ｐ１３０～１４７ 【予習復習に必要な想定時間】 １時間 第１２回　新授業プラン（５年生） 【key words】 授業プラン（５年生） 【授業概要】 ５年生の授業プラン例を学習し、自分の授業プランの作成を進める。 【教科書ページ・参考文献】 教科書Ｐ１３０～１４７ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書Ｐ１４８～１６５ 【予習復習に必要な想定時間】 １時間 第１３回　新授業プラン（６年生） 【key words】 授業プラン（６年生） 【授業概要】 ６年生の授業プラン例を学習し、自分の授業プランの作成をまとめる。 【教科書ページ・参考文献】 教科書Ｐ１４８～１６５ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 中学校教科書Ｐ１１２～１６５ 【予習復習に必要な想定時間】 １時間 第１４回　新授業プラン（中学生） 【key words】 授業プラン（中学生） 【授業概要】 中学１・２・３年生の授業プラン例を学習し、自分の学習プラン作成を仕上げる。 【教科書ページ・参考文献】 教科書Ｐ１１２～１６５ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 まとめ 【予習復習に必要な想定時間】 １時間 第１５回　授業プラン発表 【key words】 授業プラン発表 【授業概要】 作成した授業プランの発表する。 発表を聞いて互いに学びあう。 【教科書ページ・参考文献】 まとめ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 まとめ 【予習復習に必要な想定時間】 １時間
受講生に関わる情報および受講のルール	誠意ある態度での受講を求めます。講義や実習等を妨げる態度や私語を慎んで下さい。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	授業中に指示します。
オフィスアワー	授業終了後３０分
評価方法	レポート（授業プラン）作成と発表（８０･ワークシート･ワークシート（２０％）を総合して評価します。
教科書	田村学編著　小学校新学習指導横領の展開　総合的な学習　明治図書　１８００円＋税
参考書	小･中･高等学校学習指導要領　総合的な学習の時間編　文部科学省
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 公立小･中学校教諭　公立小学校管理職 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育

	■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 特別支援教育論　　授業コード：S5421　S5422

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	2単位(30)	学校教育コース・初等教育コース　必修
担当教員			
小林　義信・鈴木　淳			
専門科目	講義		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害等、様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童、生徒の授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、子供たちの学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な基礎的な知識や支援方法を理解する。
授業の概要	テキストをもとに、特別支援教育の制度、内容、発達障害等の障害特性、通常学校における特別支援教育、学級経営、生活指導、授業づくり、教育課程、個別の教育支援計画、個別の指導計画、特別支援教育コーディネーターの役割、家庭や地域との連携、支援体制、外国籍の児童生徒等への支援について学習する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画

第1回　オリエンテーション、本講義の目的　特別支援教育の概要

【key words】
特別支援教育、重複障害、盲聾、点字。指文字
【授業概要】
オリエンテーションを受けることで本講義の概要、目的、評価方法等を理解し、各自の学修の見通しをもつ。重複障害教育の実践映像を視聴することで、特別支援教育の実際に触れる。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
シラバスや教科書の目次等を読んでおく。日頃から新聞、インターネット等で特別支援教育関係の記事の情報収集をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
受講のルール参照

第2回　特別支援教育の変遷　　統合教育　　インクルーシブ教育　　特別支援教育の現行制度

【key words】
特別支援教育の理念　統合教育　　インクルーシブ教育　　特別支援学校　特別支援学級　通級指導教室
【授業概要】
教科書の内容を中心に説明をしていく。その過程で、必要に応じて学生に質問をし、理解度を確認する。キーワードについては、内容を理解し説明できるようにする。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P10～P23
【課題・予習・復習・授業準備指示】
シラバス、教科書を読んでおく。日頃から新聞、インターネット等で特別支援教育関係の記事の情報収集をしておく。キーワードについては、内容を確認しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
受講のルール参照

第3回　障害特性の理解と学習指導・生活指導①　視覚障害

【key words】
視機能　盲　弱視　触覚特性　ブラインディズム
【授業概要】
視覚の生理と病理、視機能、盲と弱視、視覚障害児の心理特性、視覚障害児に対する教科指導と生活指導の基本的な配慮事項 について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P152～P165
【課題・予習・復習・授業準備指示】
シラバス、教科書を読んでおく。日頃から新聞、インターネット等で特別支援教育関係の記事の情報収集をしておく。キーワードについては、説明できるようにしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
受講のルール参照

第4回　障害特性の理解と学習指導・生活指導②　聴覚・言語障害１
【key words】
ことばの鎖　言語習得　speechとlanguage　聴こえの仕組み　難聴
【授業概要】
聴覚・言語の生理と病理、言語発達、聴覚・言語障害の臨床類型、聴力レベルと聴覚保障、聴覚・言語障害児の言語と心理、聴覚・言語障害児に対する教科指導と生活指導の基本的な配慮事項 について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P166～P181
【課題・予習・復習・授業準備指示】
シラバス、教科書を読んでおく。日頃から新聞、インターネット等で特別支援教育関係の記事の情報収集をしておく。キーワードについては、説明できるようにしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
受講のルール参照

第5回　障害特性の理解と学習指導・生活指導③　聴覚・言語障害２
【key words】
構音障害　吃音　音声障害　言語発達の遅れ
【授業概要】
聴覚・言語の生理と病理、言語発達、聴覚・言語障害の臨床類型、聴力レベルと聴覚保障、聴覚・言語障害児の言語と心理、聴覚・言語障害児に対する教科指導と生活指導の基本的な配慮事項 について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P134～P151
【課題・予習・復習・授業準備指示】
シラバス、教科書を読んでおく。日頃から新聞、インターネット等で特別支援教育関係の記事の情報収集をしておく。キーワードについては、説明できるようにしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
受講のルール参照

第6回　障害特性の理解音と学習指導・生活指導④　知的障害
【key words】
IQ　社会適応行動 知的発達　運動発達　重複障害
【授業概要】
知的精神活動と大脳機能、AAIDD(旧AAMR)による知的障害の定義、知的障害児の心理特性、知的障害児に対する教科指導と生活指導の基本的な配慮事項 について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P210～P219
【課題・予習・復習・授業準備指示】
シラバス、教科書を読んでおく。日頃から新聞、インターネット等で特別支援教育関係の記事の情報収集をしておく。キーワードについては、説明できるようにしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
受講のルール参照

第7回　障害特性の理解音と学習指導・生活指導⑤　発達障害、情緒障害
【key words】
発達障害者支援法　学習障害　注意欠陥多動性障害　自閉症スペクトラム障害　情緒障害
【授業概要】
発達障害者支援法、発達障害の臨床特性(LD、ADHD、ASD)、発達障害児に対する教科指導と生活指導の基本的な配慮事項、情緒障害の特徴と教育的・福祉的配慮事項 について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P78～133
【課題・予習・復習・授業準備指示】
シラバス、教科書を読んでおく。日頃から新聞、インターネット等で特別支援教育関係の記事の情報収集をしておく。キーワードについては、説明できるようにしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
受講のルール参照

第8回　障害特性の理解音と学習指導・生活指導⑥　肢体不自由(運動機能障害)、摂食嚥下障害
【key words】
姿勢　運動　感覚　摂食嚥下　リスク管理
【授業概要】
四肢・頭頚部体幹、運動と感覚の生理・病理、運動発達、肢体不自由児の心理特性、肢体不自由児に対する教科指導と生活指導の基本的な配慮事項、摂食嚥下障害における食事介助とリスク管理 について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P182～P195
【課題・予習・復習・授業準備指示】
シラバス、教科書を読んでおく。日頃から新聞、インターネット等で特別支援教育関係の記事の情報収集をしておく。キーワードについては、説明できるようにしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
受講のルール参照

第9回　障害特性の理解音と学習指導・生活指導⑦　病弱・身体虚弱(内部障害)
【key words】

		学習空白　自己管理支援　自尊感情　医療的ケア　特定行為 【授業概要】 代表的な内部障害の病態とそれに伴う生活制限、病弱・身体虚弱児の心理特性、病弱・身体虚弱児に対する教科指導と生活指導の基本的な配慮事項、特別支援教育における医療的ケア について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P196～P209 【課題・予習・復習・授業準備指示】 シラバス、教科書を読んでおく。日頃から新聞、インターネット等で特別支援教育関係の記事の情報収集をしておく。キーワードについては、内容を確認しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 受講のルール参照
	第10回	障害はないが特別な教育ニーズがある子どもたちの学習上または生活上の困難とその対応 【key words】 外国につながる子ども、国籍、就学義務　日本語教室　double limited　絶対的貧困　相対的貧困　子どもの権利条約　児童相談所　虐待 【授業概要】 生活の根幹に影響を及ぼしかねない ①外国語母語・外国籍 あるいは ②生活困窮・貧困 という社会状況下の子どもたちの多様なニーズと教育支援について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P220～P235 【課題・予習・復習・授業準備指示】 シラバス、教科書を読んでおく。日頃から新聞、インターネット等で特別支援教育関係の記事の情報収集をしておく。キーワードについては、内容を確認しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 受講のルール参照
	第11回	特別支援学校における教育の仕組みとその実際（特別支援学校とは、障害種に応じた特別支援学校）① 【key words】 学校教育法第72条　訪問教育、個別の指導計画　個別の教育支援計画　認定特別支援学校就学者　視覚障害聴覚障害　知的障害　肢体不自由　病弱 【授業概要】 教科書の内容を中心に説明をしていく。その過程で、必要に応じて学生に質問をし、理解度を確認する。キーワードについては、内容を理解し説明できるようにする。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P51～P58 【課題・予習・復習・授業準備指示】 シラバス、教科書を読んでおく。日頃から新聞、インターネット等で特別支援教育関係の記事の情報収集をしておく。キーワードについては、内容を確認しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 受講のルール参照
	第12回	特別支援学校における教育の仕組みとその実際（知的障害を主とする特別支援学校の実際、地域の特別支援教育センター的役割）② 【key words】 準ずる教育、特別な教育課程　生活科　日常生活の指導　遊びの指導　生活単元学習　作業学習　自立活動　特別支援教育のセンター的機能 【授業概要】 教科書の内容を中心に説明をしていく。その過程で、必要に応じて学生に質問をし、理解度を確認する。キーワードについては、内容を理解し説明できるようにする。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P51～P59 【課題・予習・復習・授業準備指示】 シラバス、教科書を読んでおく。日頃から新聞、インターネット等で特別支援教育関係の記事の情報収集をしておく。キーワードについては、内容を確認しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 受講のルール参照
	第13回	小・中学校における特別支援教育の仕組（特別支援教育コーディネーター　関係機関・家庭との連携） 【key words】 特別支援学校のセンター的機能　特別支援教育コーディネーター　発達障害（LD、ADHD、広汎性発達障害） 【授業概要】 教科書の内容を中心に説明をしていく。その過程で、必要に応じて学生に質問をし、理解度を確認する。キーワードについては、内容を理解し説明できるようにする。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P24～P33、P58～P59 【課題・予習・復習・授業準備指示】 シラバス、教科書を読んでおく。日頃から新聞、インターネット等で特別支援教育関係の記事の情報収集をしておく。キーワードについては、内容を確認しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 受講のルール参照
	第14回	特別支援学級や通級による指導の仕組みとその実際 【key words】 特別支援学級　通級による指導　対象とする障害種　教育課程　自立活動 【授業概要】 教科書の内容を中心に説明をしていく。その過程で、必要に応じて学生に質問をし、理解度を確認する。キーワードについては、内容を理解し説明できるようにする。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P36～P45 【課題・予習・復習・授業準備指示】 シラバス、教科書を読んでおく。日頃から新聞、インターネット等で特別支援教育関係の記事の情報収集をしておく。キーワードについては、説明できるようにしておく。 【予習復習に必要な想定時間】

	受講のルール参照 第15回　就学までの支援の仕組みとその実際 【key words】 早期発見・早期支援、言葉の発達　乳幼児健康診査　就学児健康診断 【授業概要】 教科書の内容を中心に説明をしていく。その過程で、必要に応じて学生に質問をし、理解度を確認する。キーワードについては、内容を理解し説明できるようにする。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P62～P74 【課題・予習・復習・授業準備指示】 シラバス、教科書を読んでおく。日頃から新聞、インターネット等で特別支援教育関係の記事の情報収集をしておく。キーワードについては、説明できるようにしておく。 【予習復習に必要な想定時間】 受講のルール参照
受講生に関わる情報および受講のルール	1　教科書を事前に読んで予習をしておくこと。（1時間程度） 2　学修の過程でに生じた疑問等は積極的に質問して、内容理解に努める。 3　授業後復習することで内容理解に努める。　（1時間程度） 4　やむを得ず授業を欠席する場合には、メール等で必ず講師に連絡する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	授業中に質問できなかった事項については、コメントカードやメール等を利用して早めに担当教員にコンタクトを取り、疑問のまま放置しない。学習の進捗状況については、コメントカード、授業中の質問、ワークシート等で確認する。
授業外時間にかかわる情報	1　特別支援教育に関する情報を日頃から新聞記事やインターネット等で収集に努める。
オフィスアワー	小林　火・水　（17:00～18:00）　2号館 2階 高等教育支援センター室 鈴木淳　水　（17:00～19:00）　1号館 2階 204研究室
評価方法	レポート　30%　　試験　70%
教科書	大塚玲編著　「教員をめざすための特別支援教育入門」萌文書林
参考書	湯浅恭正編　「よくわかる特別支援教育」第2版　ミネルヴァ書房 文部科学省　特別支援学校　幼稚部教育要領、小学部・中学部学習指導要領 河合康・小宮三弥編著　「わかりやすく学べる特熱支援教育と障害児の心理・行動特性」北樹出版
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 （小林） 群馬県立の特別支援学校（知的特別支学校・肢体不自由特別支援学校）での教諭としての勤務年数31年間、教頭としての勤務年数2年間、副校長としての勤務年数1年間、校長としての勤務年数3年間をもとに、特別支援学校における教育実習の基礎的知識（教育実習の意義、学校組織、生徒理解、学習指導案の作成、授業研究の仕方等）について指導する。 （鈴木じ） 主に大学病院等で言語聴覚士として、乳幼児から高齢者まで広くリハビリテーション臨床に40年間従事してきた実務経験を有する。これには、機能回復訓練習（治療）の他、家族支援、就学・復学・復職支援、多職種連携等含む。また、特別支援教育コーディネーターと協働して支援対象幼児・児童・生徒および担任教諭への専門アドバイスも行ってきた。大学では学生支援センターの障害学生学修支援担当を兼任している。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： カウンセリング（心理演習）　　授業コード： S3182

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4年次	2単位(30)	社会福祉コース・学校教育コース・児童福祉コース・初等教育コース・選択／福祉心理コース・必修
担当教員			
植原　美智子			
専門科目	演習		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	［授業の目標］ 　社会福祉士や精神保健福祉士、公認心理師に代表される対人援助職の援助技法として、カウンセリング技法やアセスメント結果、支援計画の伝達等の基本的技能と研鑽の方法についてロールプレイを通じて理解し、一定の水準で技法を意図的に使用できるようになること。 ［到達目標］ ①カウンセリングにおける「聴くこと」に関する基礎的な技能を修得すること。 ②対人援助場面における「伝えること」に関する基礎的な技能を修得すること。 ③自分の「聴き方」「伝え方」の特徴を把握し，その振り返りと自己研鑽の計画が立てられるようになること。
授業の概要	対人援助において、目の前の相手との間に信頼関係を築き、その語りに耳を傾け、求めている援助ニーズを的確に捉え、支援計画や情報を伝えることは重要な課題である。本講義では、こうしたコミュニケーションの基本的な技法について確認した上で、カウンセリングの中核である「聴くこと」と「伝えること」の実践的なトレーニングを行う。講義は演習とロールプレイを中心に進める予定であり、受講生間でのロールプレイの実施、振り返り、記録の作成を通じて技能の習得を目指す。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	◎
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回	科目オリエンテーションと授業契約及びカウンセリングとは 【key words】 カウンセリングの技法、理論的背景 【授業概要】 ・講師および授業内容の紹介、成績評価の説明 ・これまでに学んでいる相談援助技術と「カウンセリング技法」との関連について理解し、この授業での学びについてイメージを深める。 ・グループワーク等の試行。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：p1-12. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。 【予習復習に必要な想定時間】 30～60分
	第２回	カウンセリング技法の理論的背景・効果・機能するための条件 【key words】 カウンセリング技法の大別、人間性中心理論、社会的影響条件 【授業概要】 カウンセリングの技法の理論的背景、技法に期待される効果、技法がその機能を発揮するための条件について理解する。 【教科書ページ・参考文献】

		教科書：p1-12. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。 【予習復習に必要な想定時間】 30～60分
	第３回	クライエントの観察技法 【key words】 身振り、表情、生理反応や容姿、声と話し振り、スペースと時間 【授業概要】 カウンセリングの基盤となるクライエントの観察技法について、非言語要素ごとの特徴とその検討について講義と演習を通じて理解を深める。2～3人のグループセッションを通して、観察者、面接者、クライエントの役割りを演じ、理解を深める。体験をフィードバックして、発表する。まとめる。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：p13-23. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。 【予習復習に必要な想定時間】 30～60分
	第４回	傾聴技法①全体説明と明確化 【key words】 傾聴技法、理解とフィードバック、ラポール形成、明確化 【授業概要】 カウンセリング技法の中心となる傾聴技法の目的を理解し、傾聴技法についてイメージを持つ。また、明確化技法についての講義・演習を行う。2～3人のグループセッションを通して、観察者、面接者、クライエントの役割りを演じ、傾聴技法の理解を深める。面接過程を録音し、逐語記録に残す練習をする。体験をフィードバックして、発表する。まとめる。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：p25-30 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。 【予習復習に必要な想定時間】 30～60分
	第５回	傾聴技法②明確化と感情反映 【key words】 明確化、感情反映、感情と生理的変化、感情の背景にある動機と欲求 【授業概要】 傾聴技法「明確化」と「感情反映」について講義・演習を通じて理解を深める。2～3人のグループセッションを通して、観察者、面接者、クライエントの役割りを演じ、各技法の理解を深める。体験をフィードバックして、発表する。まとめる。面接過程を録音し、逐語記録をとる練習を行う。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：p27-35. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。 【予習復習に必要な想定時間】 30～60分
	第６回	傾聴技法③言い換えと要約 【key words】 思考と事実、発言の簡略化、フィードバック、意図的 【授業概要】 傾聴技法とは何か、聴き方の基礎技術を学ぶ。その上で、傾聴技法「言い換え」と「要約」について講義・演習を通じて理解を深める。2～3人のグループセッションを通して、観察者、面接者、クライエントの役割りを演じ、「言い換え」「要約」の理解を深める。体験をフィードバックして、発表する。まとめる。面接過程を録音し、逐語記録を起こす練習をする。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：p35-40. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。 【予習復習に必要な想定時間】 30～60分
	第７回	カウンセリング技法の訓練方法 【key words】 ロールプレイ、スキル、模倣学習、抵抗の処理 【授業概要】 カウンセリング技法の訓練方法について講義と演習を通じて理解を深める。さらに、いくつかの技法をロールプレイにおいて、繰り返し使ってみる。カウンセリングにおける有効な技法とは何か、技法を効果的にするカウンセラーの態度とはどのようなものか、体験的に学ぶ。2～3人のグループセッションを通して、観察者、面接者、クライエントの役割りを演じ、カウンセリング技法の理解を深める。体験をフィードバックして、発表する。まとめる。面接過程を録音し、逐語記録を起こす練習をする。 【教科書ページ・参考文献】 教科書p129-139. 参考書：氏原寛・藤田博康（2014）「ロールプレイによるカウンセリング訓練のかんどころ」創元社 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終

		了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。 【予習復習に必要な想定時間】 30～60分
	第８回	カウンセリング技法を実践・振り返る①傾聴技法 【key words】 ロールプレイ、明確化、感情反映、言い換え、要約 【授業概要】 これまでに取り上げた4つの傾聴技法を用いた模擬面接（ロールプレイ）を受講生間で実施し、傾聴技法の理解の度合いについて知識と実践から振り返る。クライエントのあいまいな思考や感情・行動・態度をはっきりさせていく明確化によって、カウンセラーの理解をクライエントに確認することを体験する。2～3人のグループセッションを通して、観察者、面接者、クライエントの役割りを演じ、カウンセリング技法の理解を深める。体験をフィードバックして、発表する。まとめる。面接過程を録音し、逐語記録を起こす練習をする。 【教科書ページ・参考文献】 教科書p25-40 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。 【予習復習に必要な想定時間】 30～60分
	第９回	活動技法①探索と矛盾提示 【key words】 活動技法、探索（開放型／閉鎖型）、情報収集、クライエントの言動の不一致 【授業概要】 傾聴技法によるラポール形成の次の段階であるクライエントのより深い理解を目的としたカウンセリング技法として、4つの活動技法を学ぶ。また、この4つの活動技法のうち、探索と矛盾提示を取り上げ、演習を通じて理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 教科書p41-49 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。 【予習復習に必要な想定時間】 30～60分
	第１０回	活動技法②解釈と情報提供 【key words】 高度な共感、仮説の提起、心理教育、意図的応答 【授業概要】 活動技法はクライエントに深い洞察や情報を与えることを目的としている。探索・矛盾提示・解釈・情報提示の4技法を使うことにより、クライエントが認識しない感情、行動のパターを明らかにすることができる。本講義では活動技法の「解釈」と「情報提供」について講義・演習を通じて理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 教科書p49-58 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。 【予習復習に必要な想定時間】 30～60分
	第１１回	カウンセリング技法を実践・振り返る②傾聴技法と活動技法 【key words】 ロールプレイ、傾聴技法、活動技法 【授業概要】 これまでに取り上げた傾聴技法と活動技法を用いた模擬面接（ロールプレイ）を受講生間で実施し、それぞれの技法の理解について実践から振り返る。 【教科書ページ・参考文献】 教科書p25-40, 41-58 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。 【予習復習に必要な想定時間】 30～60分
	第１２回	さまざまなカウンセリング技法 【key words】 リフレーミング、語調反射、自己開示、反復、沈黙 【授業概要】 これまでに学んだ傾聴技法、活動技法には分類されていない技法について、講義と演習を通じて理解を深める。自己開示や沈黙の意味を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書p59-80 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。 【予習復習に必要な想定時間】 30～60分
	第１３回	模擬面接①実施 【key words】 傾聴技法、活動技法、観察技法 【授業概要】 これまでに講義で取り上げた技法について各自の目標を設定し、模擬面接を行う。6～7人のグループセッションを通して、面接者、クライエントの二人のやり取りを観察し理解を深める。体験をフィードバックして、それぞれの立場から発表する。まとめる。

	【教科書ページ・参考文献】 講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実施した模擬面接の振り返り（例：遂語録またはワークシートなど）の完成 【予習復習に必要な想定時間】 30～60分 第１４回　模擬面接②振り返り 【key words】 傾聴技法、活動技法、観察技法 【授業概要】 前回行った模擬面接の振り返りについてグループディスカッションを行う。グループで話し合った結果を報告し、フィードバックを受ける。 【教科書ページ・参考文献】 講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 適宜指示 【予習復習に必要な想定時間】 30～60分 第１５回　まとめ 【key words】 傾聴技法、活動技法、観察技法 【授業概要】 全15回講義の振り返りを行う。分析的理論による技法、実存・人間主義的理論による技法、認知理論による技法、行動理論による技法、システム理論による技法、特定の障害の治療を目的とした技法などの総括を行う。 【教科書ページ・参考文献】 適宜指示 【課題・予習・復習・授業準備指示】 定期試験に向けて復習をする。 【予習復習に必要な想定時間】 30～60分
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・受講生間でロールプレイやグループワークを行う講義であるため、遅刻／欠席については厳密に連絡を行うこと。 ・携帯電話やタブレット端末等は講義中、指示があった場合を除き、原則として使用しないこと。個別の事情がある場合には、各回の講義開始前に申し出ること。 ・教科書以外に、補助教材としてプリントを配布することが多いため、前述の課題とあわせて各自でA4版のフラットファイル等を用いて保管することが望ましい。 〔受講のルール〕 ・教科書を毎回持参すること。 ・遅刻／欠席については大学のルールに則り、事務局に講義開始前に連絡すること。 ・受講生への伝言等による連絡はトラブルを避けるため認めない。 ・事前に規定の方法で連絡があった欠席の場合のみ、配布資料やワークシートの再配布を行う。 ・オンライン授業に変更される場合は学修内容の効果性を鑑み、講義内容の組み換えを行う場合がある。また、オンライン授業の際の資料配付及び講義ではZoomMeeting・Google・PDFファイル・Wordファイル・PowerPointファイル・Youtube等を利用予定。 ・ZoomMeetingを使う際は、ビデオ「ON」の指示をすることがある。 ・授業形態に関わらず、積極的に授業に参加し他の受講生の迷惑となる行為（私語、携帯電話の使用等）は厳禁。 ・提出物は〆切厳守。 ・受講者には積極的な参加が求められる。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	・参考図書や関連書籍を読み、授業内に解説したキーワードについて理解を深めること。 ・各授業の学習成果を確認するため、小レポートやミニテストを適宜行う予定である。復習をしっかりしておくこと。 ・各回の演習内容の振り返りをレポートとして課すため、授業内の指示に留意すること
オフィスアワー	火曜日　15:00～18:00 これ以外の時間は応相談
評価方法	■定期試験50%　■ミニテスト20%　■事前学習10%　■レポート課題の提出20%
教科書	大谷 彰（著）　カウンセリングテクニック入門 二瓶社（2004）.
参考書	氏原 寛・藤田博康（著）　ロールプレイによるカウンセリング訓練のかんどころ 創元社（2014）.
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 臨床心理士・公認心理師として、精神科病院における心理面接・心理療法・心理アセスメント等の心理担当職員、教育機関のスクールカウンセラー、児童養護施設における心理療法担当職員など20年の実務経験を活かし，公認心理師・臨床心理士に必要な知識・技術・価値・倫理について講じる。また社会福祉士としてソーシャルワークにおける心理的援助について講じる。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート

	■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 ■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容 ■コメントカードの実施。授業後、コメントカードを記入してもらい次回の授業で全員に説明する（質問提供者は匿名、授業の質問のほかに希望すること、問題点など）。 ■授業は基本的に双方向型。次回の授業についての事前学習をして授業に臨み、各グループでまとめ、代表者が発表する。コメントをもらう。

講義科目名称： 発達心理学特講（健康・医療心理学）　　授業コード： S3331

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年次	2単位(30)	福祉心理コース
担当教員			
植原　美智子			
専門科目	講義		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	［授業の目標］ わが国では多くのメンタルヘルスの問題を抱えており、その解決は日本社会全体の重要な課題である。医療・保健領域におけるチーム医療に参加する場合は言うまでもなく、福祉や教育などの他領域においても、適切な実践活動をするためには、精神医療の基本的な知識は必須である。心理学を健康づくりに応用するために、医療ではどのような視点が必要なのかを学ぶ。 ［到達目標］ ①健康心理学、医療心理学の特徴を説明することができる。 ②地域での心理学的視点での支援を理解できる。 ③多職種協働における患者中心の連携システムの特徴を説明できる。 ④生物・心理・社会的アセスメントの概略を説明できる。
授業の概要	主に保健医療関連分野における予防、治療、リハビリテーションに関する心理的支援を行うために必要となる心理学の基礎知識とその実践について理解することを目指す講義である。 ディスカッション：調べてきた内容・用語をグループで他者に説明し合う。また、違いや共通する側面について議論し、代表者が発表し、全体で共有することを授業の基本とする。 ミニテスト：授業の冒頭に前回授業内容のミニテストを実施して理解度を確認する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	○
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回　　科目オリエンテーション　及び健康心理学 【key words】 生活習慣病、疾病予防、行動変容、一次・二次・三次予防 【授業概要】 【講義の進め方】 ①出席の確認 ②ミニテスト ③テーマの確認 ④テーマについて、グループディスカッション ④次回までの課題提示(レポート等) 【講義の概要】 健康とは、心身両面の健やかさに留まらず、社会情勢や信仰などの個人の信念まで含めて、良好な状態を指す。我が国においても、国民の健康を保持増進する目的から、我が国固有の医療保険制度を確立してきた。その制度の維持等、を含めて健康と医療とは何かを考える。 【授業の目標】 保健医療領域における公認心理師の役割は今後ますます期待されてくる。医学・心理学における正確な知識とそれに基づくアセスメント、心理支援の方法を習得することは重要なカリキュラムである。ここでは、その基本となる予防、心理相談、アセスメント、再発予防、リハビリテーションを柱として、チーム医療の流れを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 健康・医療心理学　pp6-16　資料の配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範

		囲を学習すること。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第２回	健康心理学におけるアセスメントと支援 【key words】 健康行動変容、計画行動理論、社会認知理論、認知行動療法 【授業概要】 目標 ■健康心理学におけるアセスメントの特性について理解する。 ■計画行動理論とそのアセスメントについて学ぶ。 ■社会的認知理論とそのアセスメントについて説明できるようにする。 ディスカッション：調べてきた用語をグループで話し合い代表者が発表する。 事前学習してきた内容をグループでディスカッションしてまとめる。その内容を発表しコメントをもらう。 【教科書ページ・参考文献】 健康・医療心理学　pp17-28 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第３回	ストレスマネジメント 【key words】 ストレス、コーピング、トランスアクショナル・モデル、ストレスマネジメント 【授業概要】 目標 ■ストレスの成立プロセスを理解し説明できる。 ■コーピングの種類を説明できる。 ■ストレスと心身の疾病との関係を説明できる。 ディスカッション：調べてきた用語を他者に説明し合う。グループで議論し、代表者が発表する。 事前学習してきた内容を授業で理解を深め、グループでディスカッションしてまとめる。 【教科書ページ・参考文献】 健康・医療心理学　pp29-38 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第４回	各種の心理支援法 【key words】 リラクセーション法、漸進的筋弛緩法、自律訓練法、腹式呼吸、エクスポージャー療法、アクセプタンス＆コミットメントセラピー、多職種協働 【授業概要】 目標 ■リラクセーション法の機序と効果を説明できる。 ■エクスポージャー療法の機序と効果を説明できる。 ■健康心理学的多職種協働について理解し、具体例を述べることができる。 事前学習してきた内容を授業で理解を深め、グループでディスカッションしてまとめる。 【教科書ページ・参考文献】 健康・医療心理学　pp39-53 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第５回	医療心理学 【key words】 チーム医療、他職種との連携、個別支援、医療制度、ライフステージ 【授業概要】 目標 ■医療機関での心理職の役割を説明できる。 ■診断の意味を理解できる。 ディスカッション：調べてきた用語を他者に説明し合う。グループで議論し、代表者が発表する。 事前学習してきた内容を授業で理解を深め、グループでディスカッションしてまとめる。 【教科書ページ・参考文献】 健康・医療心理学　pp56-66 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第６回	医療心理学におけるアセスメントと支援 【key words】 面接、テストバッテリー、心理検査、生物・心理・社会的アセスメント 【授業概要】 目標 ■面接によるアセスメントの概略を説明できる。 ■テストバッテリーを説明できる。 ディスカッション：調べてきた用語を他者に説明し合う。代表者が発表する。

		事前学習してきた内容を授業で理解を深め、グループでディスカッションしてまとめる。 【教科書ページ・参考文献】 健康・医療心理学　pp.67-81 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第７回	精神科・児童精神科 【key words】 精神科医療、精神疾患、コンサルテーション、リエゾン、精神科リエゾンチーム 【授業概要】 目標 ■精神科医療の領域・疾患・心理支援について説明できる。 ■精神科における心理臨床とコンサルテーション、及びコンサルテーション・リエゾンの違いを説明できる。 ディスカッション：調べてきた用語をグループで議論し、代表者が発表する。 事前学習してきた内容を授業で理解を深め、グループでディスカッションしてまとめる。 【教科書ページ・参考文献】 健康・医療心理学　pp63-101 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第８回	院内独立型心理室 【key words】 総合病院、独立型審理室、コンサルテーション・リエゾン精神医学、力動的アセスメント 【授業概要】 目標 ■独立型心理室の支援について理解し、説明できる。 ■心理支援に必要な職能について理解し、説明できる。 グループで議論し、代表者が発表する。 事前学習してきた内容を授業で理解を深め、グループでディスカッションしてまとめる。 【教科書ページ・参考文献】 健康・医療心理学　pp102-112 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第９回	心療内科 【key words】 心療内科、心身相関、心身症の発症、心身医学的アセスメント、心身症の治療 【授業概要】 目標 ■心身症について説明できる。 ■心身相関について説明できる。 ■心身症の発症機序と心身医学的心理療法について説明できる。 事前に用語調べをして当日はグループでディスカッションする。グループで議論し、代表者が発表する。 事前学習してきた内容を授業で理解を深め、グループでディスカッションしてまとめる。 【教科書ページ・参考文献】 健康・医療心理学　pp113-125 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第１０回	小児科（母子保健含む） 【key words】 小児科疾患、周産期の心理支援、NICU、周産期母子医療センター 【授業概要】 目標 ■小児科でのチーム医療の特徴を説明できる。 ■周産期医療について説明できる。 ディスカッション：調べてきた用語を他者に説明し合う。 事前学習してきた内容を授業で理解を深め、グループでディスカッションしてまとめる。 【教科書ページ・参考文献】 健康・医療心理学　pp127-140 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第１１回	緩和医療 【key words】 緩和医療、全人的苦痛、がん対策基本法、対象喪失、悲嘆の過程 【授業概要】 目標 ■緩和医療について説明できる。 ■対象喪失に伴う心理過程、悲嘆の過程について理解し、説明できる。

	ディスカッション：調べてきた用語を他者に説明し合う。グループで議論し、代表者が発表する。 事前学習してきた内容を授業で理解を深め、グループでディスカッションしてまとめる。 【教科書ページ・参考文献】 健康・医療心理学　pp141-147 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
第１２回	産業保健 【key words】 労働者の心の健康、ストレス関連疾患、セルフケア、ストレスチェック制度 【授業概要】 目標 ■産業保健について説明できる。 ■産業保健領域の疾患と心理支援について説明できる。 ディスカッション：調べてきた用語をグループで議論し、代表者が発表する。 事前学習してきた内容を授業で理解を深め、グループでディスカッションしてまとめる。 【教科書ページ・参考文献】 健康・医療心理学　pp150-157 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
第１３回	地域保険活動の実際 【key words】 社会資源、多職種連携、地域機関連携、生活支援、ケア会議 【授業概要】 目標 ■地域で暮らす人々のニーズを把握できる。 ■地域での相談活動の進め方を理解できる。 ディスカッション：調べてきた用語をグループで議論し、代表者が発表する。 事前学習してきた内容を授業で理解を深め、グループでディスカッションしてまとめる。 【教科書ページ・参考文献】 健康・医療心理学　pp164-185 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
第１４回	災害心理学 【key words】 急性ストレス障害、外傷後ストレス障害、PFA、フラッシュバック、ストレスマネジメント 【授業概要】 目標 ■急性ストレス障害、外傷後ストレス障害を説明できる。 ■災害時の心理状態の変化と心理的ケアについて説明できる。 ■心理的応急措置（PFA）の活動内容を述べることができる。 ディスカッション：調べてきた用語を他者に説明し合う。グループで議論し、代表者が発表する。 事前学習してきた内容を授業で理解を深め、グループでディスカッションしてまとめる。 【教科書ページ・参考文献】 健康・医療心理学　pp188-198 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
第１５回	多職種協働と医療連携 【key words】 チーム医療、キーパーソン、多職種協働、スペシャリティ・ジェネラリティ、患者中心 【授業概要】 目標 ■臨床チームワークについての歴史的の経緯を説明できる。 ■チーム医療の重要性を理解しチーム医療について説明できる。 ディスカッション：調べてきた用語をグループで議論し、代表者が発表する。 事前学習してきた内容を授業で理解を深め、グループでディスカッションしてまとめる。 【教科書ページ・参考文献】 健康・医療心理学　pp212-220　資料配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
受講生に関わる情報および受講のルール	［受講生に関わる情報］ ・受講に際しては、「心理学理論と心理的支援」「臨床心理学（社会福祉専攻）」の授業を受講済みであることが望ましい。 ・予習、復習をしっかり行い、授業への理解度を高めること。 ・授業の予習をしてまとめたレポートは提出する。

	・授業では、調べた内容をグループで話し合い、代表者が発表する。 ・各授業の学習成果を確認するため，授業の冒頭にミニテストを実施する。 [受講のルール] ・授業には，遅刻、居眠り、忘れ物、私語、等をせずに、目的意識を持ち、集中して臨むこと。 ・他の受講生の迷惑になる行為はしないこと。 ・授業に関係のない物は鞄の中にしまうこと。各自の諸事情により、机上に出す必要のある物に関しては、あらかじめ担当教員に申し出ること。 ・オンライン授業に変更される場合は学修内容の効果性を鑑み、講義内容の組み換えを行う場合がある。また、オンライン授業の際の資料配付及び講義ではZoomMeeting・Google・PDFファイル・Wordファイル・PowerPointファイル・Youtube等を利用予定。 ・ZoomMeetingを使う際は、ビデオ「ON」の指示をすることがある。 ・授業形態に関わらず、積極的に授業に参加し他の受講生の迷惑となる行為（私語、携帯電話の使用等）は厳禁。 ・提出物は〆切厳守。 ・受講者には積極的な参加が求められる。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	・新聞、ニュースなどで関連事項をチェックしておき、各自の意識を高めること。 ・参考図書や関連書籍を読み、授業内に解説したキーワードについて理解を深めること。 ・各授業の学習成果を確認するため，小レポートやミニテストを適宜行う予定である。復習をしっかりしておくこと。
オフィスアワー	火曜日：15:00～18:00　　これ以外は応相談
評価方法	■定期試験50%　■ミニテスト20%　■事前学習10%　■レポート課題の提出20%
教科書	健康・医療心理学（公認心理師カリキュラム準拠）　宮脇　稔・大野太郎・藤本　豊・松野俊夫（編）医歯薬出版
参考書	臨床発達心理学の基礎（講座・臨床発達心理学)2017　臨床発達心理士認定運営機構　ミネルヴァ書房 丹野義彦（編著）「公認心理師の基礎と実践」シリーズ⑯健康・医療心理学 遠見書房、2018年 適宜，授業時に紹介
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 臨床心理士・公認心理師として、精神科病院における心理面接・心理療法・心理アセスメント等の心理担当職員、教育機関のスクールカウンセラー、児童養護施設における心理療法担当職員など20年の実務経験を活かし，公認心理師・臨床心理士に必要な知識・技術・価値・倫理について講じる。また社会福祉士としてソーシャルワークにおける心理的援助について講じる。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 ■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容 ■コメントカードの実施。授業後、コメントカードを記入してもらい次回の授業で全員に説明する（質問提供者は匿名、授業の質問のほかに希望すること、問題点など）。 ■授業は基本的に双方向型。次回の授業についての事前学習をして授業に臨み、各グループでまとめ、代表者が発表する。コメントをもらう。

講義科目名称： 社会福祉調査の基礎　　授業コード：S1102　S1103

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期（社福②）・後期（社福Ⅰ）	2年次	2単位(30)	社会福祉コース・必修／福祉心理コース・学校教育コース・選択
担当教員			
大野　俊和			
専門科目	講義	社会福祉士・精神保健福祉士指定科目	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 社会福祉士受験のためだけでなく、社会科学としての社会福祉を生み出すうえで必要な調査の知識習得を目的とする。 【到達目標】 ①社会福祉調査の意義と目的について理解する。 ②社会福祉調査と社会福祉の歴史的関係について理解する。 ③社会福祉調査における倫理や個人情報保護について理解する。 ④量的調査の方法及び調査の結果について適切に理解する。 ⑤質的調査の方法及び調査の結果について適切に理解する。 ⑥ソーシャルワークにおける評価の意義と方法について理解する。
授業の概要	本講義では、社会現象を検討する上で用いられる社会調査の理論とその分析手法について解説を行う。 講義では、実際のデータを用いた基礎分析ならびに、表グラフを用いたレポート作成についての実習がなされることになる。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	△
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第1回	社会福祉と社会調査　社会福祉調査とは何か　社会福祉調査と社会福祉の歴史的関係 【key words】 【授業概要】 講義ガイダンスおよび社会福祉調査の捉え方について学びます。 ブースのロンドン調査、ラウントリーのヨーク調査について資料をもとに触れていきます。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第2回	社会福祉と社会調査　社会福祉士の役割と社会福祉調査 【key words】 【授業概要】 社会福祉調査とは何か、社会福祉士の役割という観点から、社会福祉調査の今日的意義について概観した後、社会福祉調査の意義や重要性について学びます。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第3回　社会福祉調査の概要 社会福祉調査の意義と目的

【key words】

【授業概要】
社会福祉調査は、調査対象に関係する諸問題の理解、対応策の立案を目的とした、調査主体による調査対象を実態把握するための試みです。この社会調査の意義や目的について触れ、調査の一連の進め方について学びます。
またキーワードとして、上級財、下級財、SSM調査について学びます。ソーシャルワーク実践の可視化、理論化、アクションリサーチ、公的統計と政策決定、ソーシャルワークの価値や倫理と社会福祉調査の関連などについて学びます。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第4回　調査における考え方・論理、社会福祉調査の目的と対象、社会福祉調査でのデータ収集・分析及びプロセス、 統計法の概要

【key words】

【授業概要】
前回に引き続き、度数分布表とヒストグラムの作成を行います。
また、代表値について理解を深めます。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第5回　量的調査の概要、量的調査の種類と方法

【key words】

【授業概要】
量的調査の特徴と種類について、全数調査と標本調査、横断調査と縦断調査、自計式調査と他計式調査のキーワードをもとに学びます。
また、今後の分析に先立ちΣの計算などの基礎的事項の確認を行います。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第6回　量的調査の方法　調査票（質問紙）の作成方法と留意点　、質問紙の配布と回収

【key words】

【授業概要】
前週に引き続き、平均と標本標準偏差の課題を個人で解いていきます。
その後、調査票作成時におけるワーディングの問題について学びます。質問紙の配布方法と回収方法について学びます。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第7回　量的調査の方法　量的調査におけるデータ解析（量的調査の集計と分析）

【key words】

【授業概要】
代表値および散布度についてデータを用いて学びます。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第8回　量的調査の方法　量的調査におけるデータ解析

【key words】

【授業概要】
不偏分散、標本標準偏差についてデータを用いて学びます。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第9回　量的調査の方法　量的調査におけるデータ解析

【key words】

【授業概要】
前回に引き続き、不偏分散、標本標準偏差についてデータを用いて学びます。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

	第10回　量的調査の方法　量的調査におけるデータ解析 【key words】 【授業概要】 量的調査の重要用語および、回帰、相関係数を学びます。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第11回　質的調査の方法　質的調査の概要（特徴と種類） 【key words】 【授業概要】 質的調査の特徴や種類について学びます。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第12回　質的調査の方法　質的調査の特徴と種類　質的調査におけるデータの分析 【key words】 【授業概要】 質的調査の代表的な方法である、観察法、KJ法およびグラウンデッドセオリーアプローチ、ナラティブアプローチ、アクションリサーチなどについて学びます。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第13回　質的調査の方法　質的調査におけるデータの分析 【key words】 【授業概要】 面接法、質的調査における記録方法と留意点について学びます 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第14回　社会福祉調査における倫理と個人情報保護 【key words】 【授業概要】 調査における倫理的配慮や個人情報保護とその管理について学びます。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第15回　ソーシャルワークにおける評価の意義、評価対象、評価方法 【key words】 【授業概要】 ミクロ・メゾ・マクロレベルにおける実践の評価、根拠に基づく実践とナラティブに基づく実践、アカウンタビリティについて学びます。評価対象（政策、構造、過程、結果、影響）について学びます。評価方法（シングルシステムデザイン、実験計画法、質的な評価法）について学びます。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 LL教室での講義・実習が主体となる。 〔受講のルール〕 データの受け渡しのため、USBメモリ等の記録媒体を用意しておくこと。 マイクロソフトエクセルの基礎的な操作知識（if関数等）を前もって習得しておくことが望ましい。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	エクセルとワードが不得手の学生は1年次の情報処理のテキストを持参すること。教科書はもとより、講義中に指定した文献は各自で事前に読んでおくこと。
オフィスアワー	後日、記載します。
評価方法	コメント評価（20%）、課題の提出（50%）、授業内小テストなど（30%）
教科書	社会福祉士養成講座編集委員会　新・社会福祉士養成講座　　中央法規　最新版
参考書	講義中に適宜指定する

実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 社会福祉の原理と政策　　授業コード： S2053

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	4単位(60)	必修
担当教員			
富澤　一央			
専門科目	講義	社会福祉士・精神保健福祉士指定科目	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 現代社会における福祉制度の意義や理念、社会福祉政策との関係について理解することを目的とする。また、社会福祉の実践を支える制度的な枠組みである福祉行政の組織と財政について知り、住民主体の福祉を展開するため福祉専門職として必要な知識を推考し修得することを目的とする。 【到達目標】 ①社会福祉の原理をめぐる思想・哲学と理論を理解する。 ②社会福祉の歴史的展開の過程と社会福祉の理論を踏まえ、欧米との比較によって日本の社会福祉の特性を理解する。 ③社会問題と社会構造の関係の視点から、現代の社会問題について理解する。 ④福祉政策を捉える基本的な視点として、概念や理念を理解するとともに、人々の生活上 のニーズと福祉政策の過程を結びつけて理解する。 ⑤福祉政策の動向と課題を踏まえた上で、関連施策や包括的支援について理解する。 ⑥福祉サービスの供給と利用の過程について理解する。 ⑦福祉政策の国際比較の視点から、日本の福祉政策の特性について理解する。
授業の概要	現代の社会福祉を理解するために、その存立基盤、概念・理念、歴史、政策・制度、支援技術等に関して理解を深めていく。また、福祉の制度や法制度の展開について時代背景と比較しつつ理解を深める。さらに、福祉サービスの基盤となる福祉行政の組織や財政との関連についても考察する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	○
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	△
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	○
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	△
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第1回　オリエンテーション 【key words】 【授業概要】 講義の意義・目的　授業の進め方と参加する上での注意事項 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第2回　社会福祉の原理 【key words】 社会福祉の原理　福祉政策　福祉サービス 【授業概要】 社会福祉の原理と実践 ・社会福祉学の構造と特徴について学習する 【教科書ページ・参考文献】 P2～P13 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページをノートにまとめる 【予習復習に必要な想定時間】

		60分
	第3回	社会福祉の歴史を学ぶ視点　欧米の社会福の歴史 【key words】 社会福祉の歴史、イギリス、アメリカの社会福祉の歴史 【授業概要】 歴史を学ぶ意義、イギリス、アメリカの社会福祉の歴史的展開について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 P16～P33 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページをノートにまとめる 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第4回	日本の社会福祉の歴史的展開 【key words】 日本型福祉社会　慈善事業、博愛事業、社会事業、社会福祉事業、社会福祉 【授業概要】 日本の社会福祉の歴史的展開について学習する。慈善事業、博愛事業、社会事業、社会福祉事業、社会福祉の変遷と相違について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 P34～P45 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページをノートにまとめる 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第5回	社会福祉の思想・哲学 【key words】 社会福祉の思想　人間の尊厳　社会正義　平和主義 イデオロギー　フェミニズム　自助　互助　共助　公助 【授業概要】 わが国及び諸外国の社会福祉をめぐる思想や哲学について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 P48～P59 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページをノートにまとめる 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第6回	社会福祉の理論 【key words】 社会福祉理論　ソーシャルアドミニストレーション　福祉多元主義 【授業概要】 社会福祉の理論（政策論、技術論、固有論、統合論、運動論、経営論）について学習する。また、欧米の社会福祉の理論について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 P60～P69 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページをノートにまとめる 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第7回	社会福祉の論点 【key words】 公私関係、効率性と公平性、普遍主義と選別主義、自立と依存　自己選択・自己決定とパターナリズム　参加とエンパワメント　ジェンダー　社会的承認 【授業概要】 現代の福祉におけるいくつかの論点を整理し、支援者としての考え方や立ち位置について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 P70～P79 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページをノートにまとめる 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第8回	社会福祉の対象とニーズ 【key words】 ニーズ　ニート　ワーキングプア　ヤングケアラー 【授業概要】 ニーズと需要の概念、社会福祉の対象とニーズ、ニーズの種類と次元、ニーズの理論とその課題について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 P80～P87 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページをノートにまとめる 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第9回	現代における社会問題 【key words】 社会問題 【授業概要】

		貧困　孤立　失業　要援護性　偏見と差別　社会的排除　ヴァルネラビリティ　ニューリスク 依存症　自殺などの社会問題について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 P90～P98 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページをノートにまとめる 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第10回	社会問題の構造的背景 【key words】 低成長経済　グローバル化　少子高齢化　人口減少社会　格差　貧困　社会意識　価値観の変化 【授業概要】 社会問題が引き起こされる背景を理解し構造化されていることを学習する。 【教科書ページ・参考文献】 P100～P107 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページをノートにまとめる 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第11回	福祉政策の基本的な視点 【key words】 福祉政策　ブロッコリー型構造　狭義の福祉　広義の福祉 ニーズ 【授業概要】 狭義の福祉と広義の福祉について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 P110～P118 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページをノートにまとめる 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第12回	福祉政策において重要な概念・理念 【key words】 自由と平等 自立と依存 【授業概要】 福祉政策と社会保障、社会政策、福祉レジームと福祉政策について学習する。 現代の社会問題と福祉政策、福祉政策の概念・理念について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 P119～P130 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページをノートにまとめる 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第13回	ニーズ 【key words】 ニーズ 【授業概要】 ニーズの種類と内容、ニーズの把握方法について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 P134～P151 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページをノートにまとめる 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第14回	資源 【key words】 資源 【授業概要】 資源の種類と内容、資源の把握方法、資源の開発方法について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 P152～P163 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページをノートにまとめる 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第15回	福祉政策の構成要素 【key words】 福祉政策　市場　措置制度　契約制度　福祉多元主義　自助　互助　共助　公助 【授業概要】 福祉政策の構成要素とその役割・機能、政府、市場（経済市場、準市場、社会市場）、事業者、国民（利用者を含む）について学習する。 措置制度、契約制度について学習する。多元化する福祉サービス提供方式について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 P166～P177 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページをノートにまとめる 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第16回	福祉政策の過程と評価

【key words】
福祉政策　福祉計画　評価方法
【授業概要】
政策決定、実施、評価について学習する。福祉政策の方法・手段、福祉政策の政策評価・行政評価について学習する。福祉政策と福祉計画について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
P178～P192
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の該当ページをノートにまとめる
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第17回　福祉政策と包括的支援の現状
【key words】
包括的支援　地域共生社会　多文化共生　持続可能性（SDGs 等）
【授業概要】
社会福祉法、地域包括ケアシステムについて学習する。
【教科書ページ・参考文献】
P194～P213
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の該当ページをノートにまとめる
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第18回　福祉政策と包括的支援の課題
【key words】
地域共生社会　地域づくり　社会的インパクト
【授業概要】
地域共生社会の実現と地域づくりに向けた課題について学習する
【教科書ページ・参考文献】
P214～P221

【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の該当ページをノートにまとめる
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第19回　保健医療政策
【key words】
国民皆保険　医療ソーシャルワーカー
【授業概要】
保健医療政策について学習する
【教科書ページ・参考文献】
P224～P227
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の該当ページをノートにまとめる
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第20回　教育政策
【key words】
教育政策　子どもの貧困　ソーシャルインクルージョン
【授業概要】
教育政策について学習する
【教科書ページ・参考文献】
P228～P232

【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の該当ページをノートにまとめる
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第21回　住宅政策
【key words】
住宅政策　住宅セーフティネット法
【授業概要】
住宅政策について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
P233～P238
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の該当ページをノートにまとめる
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第22回　労働政策
【key words】
労働政策　雇用保険　生活困窮者自立支援制度　生活保護　就労支援
【授業概要】
労働政策について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
P239～P244
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の該当ページをノートにまとめる
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第23回　災害政策
【key words】
災害政策　災害対策基本法

【授業概要】
災害政策について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
P245～P251
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の該当ページをノートにまとめる
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第24回　福祉サービスの供給
【key words】
福祉供給部門　公共セクター　民間営利セクター　民間非営利セクター　インフォーマルセクター
【授業概要】
福祉サービスの供給主体について学ぶ。
福祉供給部門としての公的部門、民間部門の役割や機能などについて学習する。

【教科書ページ・参考文献】
P254～P261

【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の該当ページをノートにまとめる
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第25回　福祉サービスの供給過程
【key words】
福祉供給　ストリート官僚　福祉計画　ニュー・パブリック・マネジメント　プライベート・ファイナンス・イニシアティブ
【授業概要】
福祉サービスの供給過程のメカニズムや全体像について学ぶ。
公私（民）関係、再分配、割当 ・市場、準市場、福祉行財政、福祉計画、福祉開発について学習する。

【教科書ページ・参考文献】
P263～P271
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の該当ページをノートにまとめる
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第26回　福祉サービスの利用過程
【key words】
スティグマ、情報の非対称性、受給資格とシティズンシップ
【授業概要】
福祉を利用する過程におけるスティグマ、情報の非対称性、受給資格とシティズンシップについて学習する。
【教科書ページ・参考文献】
P272～P280
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の該当ページをノートにまとめる
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第27回　国際比較の視点と方法
【key words】
国際比較　脱商品化　自由主義レジーム　保守主義レジーム　社会民主主義レジーム　21世紀型福祉政策
【授業概要】
国際比較の視点と方法について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
P282～P288
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の該当ページをノートにまとめる
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第28回　福祉政策の動向　欧米　東アジア
【key words】
自由主義レジーム　保守主義レジーム　社会民主主義レジーム　地域包括ケア
【授業概要】
欧米諸国、東アジアの福祉政策の動向について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
P289～P303
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の該当ページをノートにまとめる
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第29回　これからの社会福祉
【key words】
社会福祉士　ソーシャルワーク専門職のグローバル定義　地域共生社会
【授業概要】
これからの社会福祉について考え、支援について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
P306～P324
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の該当ページをノートにまとめる

	【予習復習に必要な想定時間】 60分 第30回　総まとめ 【key words】 【授業概要】 総まとめ 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 まとめノートを整理する 【予習復習に必要な想定時間】 60分
受講生に関わる情報および受講のルール	授業シラバスを必ず確認しておくこと。 まとめノート（手書き）を作成し、授業の該当ページをまとめ発表できるようにしておくこと。 積極的な態度で授業に臨むこと
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	・テキストをしっかり予習しましょう。 ・意味の解らない言葉・用語は、調べておきましょう。
オフィスアワー	火曜日　午前
評価方法	・まとめノート　40% ・授業中の発表・コメントカード　20% ・筆記試験・レポート　40%
教科書	社会福祉士養成講座編集委員会編　『社会福祉の原理と政策』　中央法規出版
参考書	必要に応じて適宜指示する
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 介護老人保健施設の生活相談員を経験 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 障害者福祉　　授業コード： S2083

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	
後期	2年次	2単位(30)	必修	
担当教員				
松永　尚樹				
専門科目	講義		社会福祉士・精神保健福祉士指定科目	
添付ファイル				

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢や福祉・介護需要を把握し、障害者福祉制度の発展過程を学んだうえで、専門職として必要な障害者総合支援法や障害者の福祉・介護に係る他の法制度を理解する。 【到達目標】 ①障害の概念と特性を踏まえ、障害者とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境について理解する。 ②障害者福祉の歴史と障害観の変遷、制度の発展過程について理解する。 ③障害者に対する法制度と支援の仕組みについて理解する。 ④障害による生活課題を踏まえ、社会福祉士及び精神保健福祉士としての適切な支援のあり方を理解する。
授業の概要	この授業では、障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢や障害者福祉制度の発展過程について学び、障害者総合支援法の内容を理解するとともに、障害児者にかかる福祉制度を学修する。 障害児者の支援の過程において、障害者総合支援法や障害者の福祉・介護に係る他の法制度からニーズにそったサービスを考え、専門職として必要な障害者総合支援法や障害者の福祉・介護に係る他の法制度の概要を実践において想定できるように授業を展開する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第1回	オリエンテーション（講義の進め方、評価、リアクションペーパーや小テストの提出方法等） 【key words】 オリエンテーション／講義の進め方 【授業概要】 ①シラバスの確認 ②履修上の注意 ③コメントカードについて ④定期試験について ⑤教科書について ⑥予習・復習について 【教科書ページ・参考文献】 レジュメに記載 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日配布【次回の資料】のレジュメを見てわからない語句は下線を引いておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 1.5時間（コメントカード及びwebのによる小テストの時間を含める。）小テストは原則単元の終わりに実施する。
	第2回	障害の概念と理念≪レジュメ①≫ 【key words】 障害の概念／ICF／統合モデル／障害者の定義と特性／障害者を取り巻く社会環境 【授業概要】

		①障害の概念と理念 ②障害者の人権保障と福祉の理念 ③障害者の定義と特性 ④障害者を取り巻く社会環境 【教科書ページ・参考文献】 レジュメに記載 【課題・予習・復習・授業準備指示】 キーワードを事前に調べておくこと。 ※小テスト実施予定 【予習復習に必要な想定時間】 1.5時間（コメントカード及びwebのによる小テストの時間を含める。）小テストは原則単元の終わりに実施する。
	第3回	障害者の生活実態とニーズ≪レジュメ②≫ 【key words】 障害者人口の現状／手帳取得状況／生活実態・ニーズ／基本指針 【授業概要】 ①障害者人口からみた課題 ②障害種別にみる定義と生活実態・ニーズ ③障害者問題とニーズ（地域移行、居住、就学、就労、高齢化、介護需要、芸術、スポーツ） 【教科書ページ・参考文献】 レジュメに記載 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日配布【次回の資料】のレジュメを見てわからない語句は下線を引いておくこと。 キーワードを事前に調べておくこと。 次回からは小六法を使用するので持参すること。 ※小テスト実施予定 【予習復習に必要な想定時間】 1.5時間（コメントカード及びwebのによる小テストの時間を含める。）小テストは原則単元の終わりに実施する。
	第4回	障害者福祉制度の歴史・発展過程（障害者権利保障の歴史を含む）≪レジュメ③≫ 【key words】 国連・障害者権利条約／国際障害者年／障害者権利条約／日本の障害者施策の歴史 【授業概要】 ①障害者福祉の理念 ②障害観の変遷 ③国連・障害者権利条約 ④日本における障害者福祉のあゆみ 【教科書ページ・参考文献】 レジュメに記載 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日配布【次回の資料】のレジュメを見てわからない語句は下線を引いておくこと。 キーワードを事前に調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 1.5時間（コメントカード及びwebのによる小テストの時間を含める。）小テストは原則単元の終わりに実施する。
	第5回	障害者福祉の法制度（障害者基本法、身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、精神保健福祉法） 【key words】 障害者基本法／身体障害者福祉法／知的障害者福祉法／精神保健福祉法 【授業概要】 ①障害者基本法と障害者福祉の法体系 ②対象別の法 【教科書ページ・参考文献】 レジュメに記載 【課題・予習・復習・授業準備指示】 キーワードを事前に調べておくこと。 本日確認した、法律は小六法を再度見ておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 1.5時間（コメントカード及びwebのによる小テストの時間を含める。）小テストは原則単元の終わりに実施する。
	第6回	障害者福祉の法制度（発達障害者福祉法、医療観察法、難病法、障害者虐待防止法、障害者差別解消法、その他） 【key words】 発達障害者支援法／児童福祉法／子ども・子育て支援法／医療観察法／難病法／障害者虐待防止法 【授業概要】 ①対象別の法 ②差別の禁止、差別是正措置の法 【教科書ページ・参考文献】 レジュメに記載 【課題・予習・復習・授業準備指示】 障害者総合支援法のサービス利用説明パンフレットを熟読すること。（全国社会福祉協議会） 【予習復習に必要な想定時間】 1.5時間（コメントカード及びwebのによる小テストの時間を含める。）小テストは原則単元の終わりに実施する。
	第7回	障害者の福祉サービス（障害者総合支援法と障害者支援　経緯・理念・考え方） 【key words】 障害者総合支援法の経緯・理念・考え方 【授業概要】 ①障害者総合支援法までの経緯 ②障害者総合支援法の概要 【教科書ページ・参考文献】 レジュメに記載 【課題・予習・復習・授業準備指示】 キーワードを事前に調べておくこと。

		本日確認した法律は小六法を再度見ておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 1.5時間（コメントカード及びwebのによる小テストの時間を含める。）小テストは原則単元の終わりに実施する。
	第8回	障害者の福祉サービス（障害者総合支援法と障害者支援　サービス内容・支給決定のプロセス） 【key words】 介護給付の種類／訓練等給付の種類／障害福祉サービスの支給決定／障害支援区分／利用者負担 【授業概要】 ①介護給付と訓練等給付 ②障害福祉サービスの支給決定、障害支援区分、利用者負担 【教科書ページ・参考文献】 レジュメに記載 【課題・予習・復習・授業準備指示】 キーワードを事前に調べておくこと。 本日確認した法律は小六法を再度見ておくこと。 サービス内容・支給決定のプロセスは覚えよう。 【予習復習に必要な想定時間】 1.5時間（コメントカード及びwebのによる小テストの時間を含める。）小テストは原則単元の終わりに実施する。
	第9回	障害者の福祉サービス（障害者総合支援法と障害者支援　自立支援医療・審査請求） 【key words】 自立支援医療／補装具／相談支援／地域生活支援事業／苦情解決／審査請求／他法との適用関係 【授業概要】 ①自立支援医療 ②補装具 ③相談支援 ④地域生活支援事業 ⑤苦情解決と審査請求 ⑥障害者総合支援法と他法との適用関係 【教科書ページ・参考文献】 レジュメに記載 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日配布【次回の資料】のレジュメを見てわからない語句は下線を引いておくこと。 キーワードを事前に調べておくこと。 本日確認した法律は小六法を再度見ておくこと。 ※小テスト実施予定 【予習復習に必要な想定時間】 1.5時間（コメントカード及びwebのによる小テストの時間を含める。）小テストは原則単元の終わりに実施する。
	第10回	障害者の所得保障（障害者雇用促進法を含む） 【key words】 障害者の就労実態／障害者雇用促進法／障害者優先調達推進法／ハローワーク等における支援／障害者職業センター／学校卒業後の進路保障 【授業概要】 ①障害者の就労実態 ②労働保障の制度 ③福祉と労働の統一的保障 【教科書ページ・参考文献】 レジュメに記載 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日配布【次回の資料】のレジュメを見てわからない語句は下線を引いておくこと。 キーワードを事前に調べておくこと。 本日確認した法律は小六法を再度見ておくこと。 ※小テスト実施予定 【予習復習に必要な想定時間】 1.5時間（コメントカード及びwebのによる小テストの時間を含める。）小テストは原則単元の終わりに実施する。
	第11回	障害者の社会生活参加 【key words】 障害基礎年金／障害厚生年金／特別障害給付金／特別児童扶養手当法／特別児童扶養手当／障害児福祉手当／特別障害者手当／経過的福祉手当／労働者災害補償保険法／生活保護法／ 【授業概要】 ①障害者の低所得性と所得保障の課題 ②所得保障、経済的負担軽減の制度 【教科書ページ・参考文献】 レジュメに記載 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日配布【次回の資料】のレジュメを見てわからない語句は下線を引いておくこと。キーワードを事前に調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 1.5時間（コメントカード及びwebのによる小テストの時間を含める。）小テストは原則単元の終わりに実施する。
	第12回	障害福祉の整備計画と障害者運動 【key words】 障害者の社会参加実態とニーズ／国連・障害者権利条約における社会参加の理念／障害者の社会参加における制度上の課題／情報アクセシビリティ／ユニバーサルデザイン／差別禁止と偏見 【授業概要】 ①障害者の社会参加実態とニーズ ②市民の障害理解と差別・偏見の実態とニーズ ③バリアフリー環境の整備 【教科書ページ・参考文献】 レジュメに記載

	【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日配布【次回の資料】のレジュメを見てわからない語句は下線を引いておくこと。キーワードを事前に調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 1.5時間（コメントカード及びwebのによる小テストの時間を含める。）小テストは原則単元の終わりに実施する。 第13回　障害者と家族等に対する支援の実際 【key words】 障害児支援／児童の権利に関する条約／障害者の権利に関する条約／母子保健法／障害児の福祉サービス／障害児福祉計画／児童福祉法／特別支援教育／ソーシャルワーカー／地域相談支援／就労支援／居住支援 【授業概要】 ①子ども期の特徴と障害児支援 ②2つの権利条約と障害児支援 ③障害の早期発見と早期対応 ④障害児の福祉サービス ⑤ソーシャルワーカーの役割 ⑥多職種連携 【教科書ページ・参考文献】 レジュメに記載 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日配布【次回の資料】のレジュメを見てわからない語句は下線を引いておくこと。キーワードを事前に調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 1.5時間（コメントカード及びwebのによる小テストの時間を含める。）小テストは原則単元の終わりに実施する。 第14回　障害者と家族等に対する支援における関係機関と専門職の役割 【key words】 障害者参加／障害福祉サービス利用における国、事業者の責務／障害者運動／生活のしづらさなどに関する調査／国・地方公共団体の役割／障害者基本計画／障害福祉計画／特別支援学校／ハローワーク／専門職 【授業概要】 ①障害者・関係団体の法参加、整備計画参加 ②障害者総合支援法等の国・自治体の役割と障害者参加 ③障害者基本法の障害者計画と障害者総合支援法の障害福祉計画 ④関連する専門職等の役割 【教科書ページ・参考文献】 本日配布【次回の資料】のレジュメを見てわからない語句は下線を引いておくこと。キーワードを事前に調べておくこと。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 レジュメに記載 【予習復習に必要な想定時間】 1.5時間（コメントカード及びwebのによる小テストの時間を含める。）小テストは原則単元の終わりに実施する。 第15回　まとめ（事例検討） 【key words】 まとめ 【授業概要】 ①まとめ ②授業の振り返り ③グループワークによる全体の総括 【教科書ページ・参考文献】 教科書全体 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テストに向けた学習を進めること。 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語・携帯電話の使用）は厳禁。 　授業開始時（単元の最初）にプリントを配布する場合がある。休んだ場合は、原則、友達等にプリントをもらってもらうこと。 　単元の終わりに小テストを実施する。 　定期試験時に自筆のノート、教科書、小六法の持ち込みを可とする。授業内ではレジュメを用いて授業を展開するが、教科書に載っていない内容も講義する。そのため、自筆のノートを作ることにより覚えることができると考えているため、レジュメの持ち込みは認めていない。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	本科目は、社会福祉士及び精神保健福祉士の国家試験の受験科目にも指定されている。障害児者に関する事柄について、幅広い内容を学習するため、教科書及び配布プリント等を利用し予習、復習すること。
オフィスアワー	火曜　2限　それ以外の時間帯については、アポイントを取ってもらいたい。
評価方法	定期試験50%、小テスト35%、リアクションペーパー15% ※定期試験が60点を満たない場合は再試とする。
教科書	社会福祉士養成講座編集委員会編『障害者福祉』中央法規（最新版）
参考書	福祉小六法編集委員会『福祉小六法』（株）みらい（最新版）
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 　□実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容

	アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 児童・家庭福祉　　授業コード： S2092

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	
通年	2年次	4単位(60)	必修	
担当教員				
原　純子				
専門科目	講義		社会福祉士指定科目	
添付ファイル				

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 ①児童が権利の主体であることを踏まえ、児童・家庭及び妊産婦の生活とそれを取り巻く社会環境について理解する。 ②児童福祉の歴史と児童観の変遷や制度の発展過程について理解する。 ③児童や家庭福祉に係る法制度について理解する。 ④児童や家庭福祉領域における支援の仕組みと方法、専門職の役割について理解する。 ⑤児童・家庭及び妊産婦の生活課題を踏まえて、適切な支援のあり方を理解する。 【到達目標】 ①現代の児童福祉の現状と課題、児童福祉の理念、児童福祉の関係法令・実施体制・専門職・権利擁護が理解できる。 ②児童家庭福祉の専門職として必要な児童福祉の基本的な知識を修得できる。
授業の概要	【前期】児童家庭福祉の基本的理解 児童家庭福祉の理念 児童家庭福祉の基本構造 児童の最善の利益 児童の人権と権利保障 児童・家庭の生活実態と社会環境 児童家庭福祉制度における関係機関と専門職 【後期】児童家庭福祉の支援の実際 母子保健 子育て支援・保育・児童健全育成 スクールソーシャルワーク 子どもと家庭の貧困 女性福祉 障害児福祉 児童虐待 少年非行 社会的養護

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	○
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	△
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	○
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	◎
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第1回　児童家庭福祉とは 【key words】 児童家庭福祉　児童　乳児　幼児　少年　家庭　保護者 【授業概要】 児童家庭福祉の学びについて理解する 【教科書ページ・参考文献】 第1部　第1章1節・第2章2節

【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書内の読めない漢字や意味不明な言葉を調べておく
関心を持った点や疑問点をメモしておく
【予習復習に必要な想定時間】
20～30分

第2回　児童家庭福祉の理念と基本構造
【key words】
児童の権利　保護者の責任　国民の努力義務　児童福祉法　児童家庭福祉制度

【授業概要】
児童の権利保障における保護者、国、地方公共団体の責任について理解する
児童福祉法と児童家庭福祉制度について理解する

【教科書ページ・参考文献】
第1部　第1章2節－３節
【課題・予習・復習・授業準備指示】
同上
【予習復習に必要な想定時間】
同上

第3回　児童の権利保障
【key words】
権利　人権　子どもの権利　親権　子ども観　子どもの権利保障
【授業概要】
子どもの権利と親権について理解する
子ども観の変遷と子どもの権利保障について理解する

【教科書ページ・参考文献】
第1部　第２章1節・第2章３節
【課題・予習・復習・授業準備指示】
同上
【予習復習に必要な想定時間】
同上

第4回　児童の権利条約
【key words】
児童の権利に関する条約　児童福祉法改正　最善の利益　自己決定
【授業概要】
児童の権利に関する条約について理解する
児童・保護者それぞれの最善の利益と自己決定について理解する
胎児と最善の利益について理解する

【教科書ページ・参考文献】
第1部　第1章4節
【課題・予習・復習・授業準備指示】
同上
【予習復習に必要な想定時間】
同上

第5回　児童家庭福祉制度と児童家庭福祉サービス
【key words】
児童家庭福祉制度　児童家庭福祉サービス
【授業概要】
日本における児童家庭福祉制度について理解する
欧米の児童家庭福祉制度について理解する
日本の児童家庭福祉サービスの最近の動向について理解する

【教科書ページ・参考文献】
第1部　第2章４節・第1章５節
【課題・予習・復習・授業準備指示】
同上
【予習復習に必要な想定時間】
同上

第6回　国・都道府県・市町村の役割
【key words】
国　地方公共団体　厚生労働省　内閣府
【授業概要】
児童家庭福祉制度における国および地方公共団体の責務や役割を理解する
児童福祉の財源について理解する

【教科書ページ・参考文献】
第1部　第4章1節
【課題・予習・復習・授業準備指示】
同上
【予習復習に必要な想定時間】
同上

第7回　児童相談所の役割
【key words】
児童相談所　児童福祉司　相談援助活動　一時保護
【授業概要】
児童相談所の設置目的、業務概要や役割、機能について理解する
児童相談所職員による相談援助、入所措置など活動の実際について理解する

【教科書ページ・参考文献】
第1部　第４章２節

【課題・予習・復習・授業準備指示】
同上
【予習復習に必要な想定時間】
同上

第8回　その他の組織・団体の役割
【key words】
児童福祉法　児童福祉施設子ども・若者育成支援ネットワーク　司法福祉
【授業概要】
児童福祉法に規定されている児童福祉施設について理解する
司法福祉とのかかわりについて理解する（家庭裁判所や警察）
公民の役割関係について理解する

【教科書ページ・参考文献】
第1部　第4章３節
【課題・予習・復習・授業準備指示】
同上
【予習復習に必要な想定時間】
同上

第9回　専門職の役割
【key words】
専門職　地域住民　連携・協働
【授業概要】
児童家庭福祉および行政機関に配置される専門職について理解する
児童家庭福祉の専門職と地域住民との連携・協働について理解する

【教科書ページ・参考文献】
第1部　第4章４節
【課題・予習・復習・授業準備指示】
同上
【予習復習に必要な想定時間】
同上

第10回　児童・家庭の生活実態
【key words】
共働き世帯　性別役割分業　三間の喪失　暴力行為　いじめ　不登校
【授業概要】
共働き世帯の増加と子育ての実態について理解する
子どもの育ちをめぐる実態について理解する

【教科書ページ・参考文献】
第1部　第３章1節
【課題・予習・復習・授業準備指示】
同上
【予習復習に必要な想定時間】
同上

第11回　児童・家庭を取り巻く社会環境
【key words】
少子化　合計特殊出生率　1.57ショック　完結出生児数　ワーク・ライフ・バランス
【授業概要】
少子化と家族の変容について理解する
子育て世代の働き方・働く環境について理解する
地域社会をめぐる状況の変化と子育て・子育ちについて理解する

【教科書ページ・参考文献】
第1部　第３章２節
【課題・予習・復習・授業準備指示】
同上
【予習復習に必要な想定時間】
同上

第12回　児童・家庭の福祉ニーズ　その１
【key words】
母子保健　障害のある子ども　ひとり親家庭
【授業概要】
児童・家庭の福祉ニーズについて理解する
ひとり親家庭の実態と福祉ニーズについて理解する

【教科書ページ・参考文献】
第1部　第３章３節－1・2
【課題・予習・復習・授業準備指示】
同上
【予習復習に必要な想定時間】
同上

第13回　児童・家庭の福祉ニーズ　その２
【key words】
要保護児童　児童虐待　少年非行
【授業概要】
児童虐待の実態と福祉ニーズについて理解する
【教科書ページ・参考文献】
第1部　第３章３節－3
【課題・予習・復習・授業準備指示】
同上
【予習復習に必要な想定時間】
同上

第14回　前期まとめ　その１
【key words】

【授業概要】
前期講義内容を総括する
【教科書ページ・参考文献】
第1部　全章
【課題・予習・復習・授業準備指示】
同上
【予習復習に必要な想定時間】
同上

第15回　前期まとめ　その２
【key words】

【授業概要】
前期講義内容を総括する
【教科書ページ・参考文献】
第1部　全章
【課題・予習・復習・授業準備指示】
同上
【予習復習に必要な想定時間】
同上

第16回　母子保健
【key words】
妊産婦　母子保健法　母子健康手帳　特定妊婦　乳児家庭全戸訪問事業　養育支援訪問事業
【授業概要】
母子保健サービスとは何かについて理解する
妊産婦・子どものためのサービスについて理解する

【教科書ページ・参考文献】
第2部　第1章
【課題・予習・復習・授業準備指示】
同上
【予習復習に必要な想定時間】
同上

第17回　子育て支援
【key words】
子育て支援　エンゼルプラン　少子化社会対策大綱　子ども家庭庁
【授業概要】
子育て支援とは何かについて理解する
子育て支援施策について理解する

【教科書ページ・参考文献】
第２部　第２章第１節
【課題・予習・復習・授業準備指示】
同上
【予習復習に必要な想定時間】
同上

第18回　保育と児童健全育成
【key words】
保育所　保育所保育指針　幼児教育・保育の無償化
児童厚生施設　児童館　児童遊園　放課後児童クラブ　児童手当
【授業概要】
施設型・地域型給付としての保育について理解する
地域子ども・子育て支援としての保育関連事業について理解する
児童厚生施設における児童健全育成と放課後保障について理解する

【教科書ページ・参考文献】
第２部　第２章第２－３節
【課題・予習・復習・授業準備指示】
同上
【予習復習に必要な想定時間】
同上

第19回　スクールソーシャルワーク
【key words】
学校福祉　子どもの貧困対策　学校プラットフォーム　他職種連携・協働　いじめ防止対策推進法

【授業概要】
学校と福祉について理解する
スクールソーシャルワークについて理解する
スクールソーシャルワーカーの役割について理解する

【教科書ページ・参考文献】
第２部　第３章
【課題・予習・復習・授業準備指示】
同上
【予習復習に必要な想定時間】
同上

第20回　子どもの貧困
【key words】
子どもの貧困率　子どもの貧困対策

【授業概要】
子どもと家庭の貧困の背景と支援について理解する
【教科書ページ・参考文献】
第２部　第４章第１節
【課題・予習・復習・授業準備指示】
同上
【予習復習に必要な想定時間】
同上

第21回　ひとり親家庭
【key words】
ひとり親家庭　母子及び父子並びに寡婦福祉法
【授業概要】
ひとり親家庭の福祉ニーズと制度的対応について理解する
【教科書ページ・参考文献】
第２部　第４章３節
【課題・予習・復習・授業準備指示】
同上
【予習復習に必要な想定時間】
同上

第22回　女性福祉
【key words】
ドメスティック・バイオレンス　売春防止法　婦人相談所　配偶者網力相談支援センター
【授業概要】
差別撤廃と日常生活における暴力の防止について理解する
【教科書ページ・参考文献】
第２部　第４章第２節
【課題・予習・復習・授業準備指示】
同上
【予習復習に必要な想定時間】
同上

第23回　児童虐待　その１
【key words】
権利侵害　児童虐待相談対応件数　児童虐待防止法　通告義務
【授業概要】
児童の権利侵害について理解する
児童虐待の多様性について理解する
児童虐待防止法について理解する

【教科書ページ・参考文献】
第２部　第６章第１－３節
【課題・予習・復習・授業準備指示】
同上
【予習復習に必要な想定時間】
同上

第24回　児童虐待　その２
【key words】
要保護児童対策地域協議会　個別ケース検討会議　スーパービジョン
【授業概要】
要保護児童対策地域協議会について理解する
児童虐待への支援の実際と福祉専門職の役割について理解する

【教科書ページ・参考文献】
第２部　第６章第4－5節
【課題・予習・復習・授業準備指示】
同上
【予習復習に必要な想定時間】
同上

第25回　児童虐待　その３
【key words】
ソーシャルアクション　アウトリーチ　児童虐待防止運動
【授業概要】
児童虐待の予防や防止運動について理解する
【教科書ページ・参考文献】
第２部　第６章第６節
【課題・予習・復習・授業準備指示】
同上
【予習復習に必要な想定時間】
同上

第26回　社会的養護　その１
【key words】
社会的養護　家庭養育　代替養育　移行支援　在宅支援　家庭養育優先原則
【授業概要】
社会的養護の理念と体系について理解する
社会的養護の実施体制と担い手について理解する

【教科書ページ・参考文献】
第２部　第５章第１節・第２節１－2
【課題・予習・復習・授業準備指示】
同上

【予習復習に必要な想定時間】
同上

	第27回　社会的養護　その２ 【key words】 権利擁護　少年非行 【授業概要】 社会的養護の理念と体系について理解する 社会的養護の実施体制と担い手について理解する 少年非行に対する社会的養護について理解する 【教科書ページ・参考文献】 第２部　第５章 【課題・予習・復習・授業準備指示】 同上 【予習復習に必要な想定時間】 同上 第28回　社会的養護　その３ 【key words】 要保護児童　家庭的養護　個別化　新しい社会的養育ビジョン　パーマネンシー保障　アドボカシー 【授業概要】 要保護児童の実態と諸課題について理解する 要保護児童への支援を見直す６原則について理解する 社会的養護が向き合う諸課題について理解する 【教科書ページ・参考文献】 第２部　第５章第３節 【課題・予習・復習・授業準備指示】 同上 【予習復習に必要な想定時間】 同上 第29回　社会的養護　その３ 【key words】 要保護児童　家庭的養護　個別化　新しい社会的養育ビジョン　パーマネンシー保障　アドボカシー 【授業概要】 要保護児童の実態と諸課題について理解する 要保護児童への支援を見直す６原則について理解する 社会的養護が向き合う諸課題について理解する 【教科書ページ・参考文献】 第２部　第５章第３節 【課題・予習・復習・授業準備指示】 同上 【予習復習に必要な想定時間】 同上 第30回　後期まとめ 【key words】 グループワーク　グループディスカッション　プレゼンテーション 【授業概要】 後期講義内容を総括する 【教科書ページ・参考文献】 第２部　全章 【課題・予習・復習・授業準備指示】 同上 【予習復習に必要な想定時間】 同上
受講生に関わる情報および受講のルール	レスポンス・フォームで出席登録を行うこと レスポンス・フォームで受講内容を送信すること （レスポンス・フォームについては初回講義内で説明する）
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	レスポンス・フォーム（Google formsによる指定様式）
授業外時間にかかわる情報	講義内容について情報収集する 講義内で紹介された参考図書を読む
オフィスアワー	講義内で伝える
評価方法	期末試験70%　課題15%　出席15%
教科書	社会福祉学習双書2023第5巻 児童・家庭福祉 社会福祉法人全国社会福祉協議会 2023年2月10日
参考書	授業のなかで必要に応じて伝える
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 幼稚園（国内・ドイツ）幼稚園教諭 保育所　保育所長 児童養護施設　保育士

	児童家庭支援センター　里親委託等推進員・主任相談員 小児保健医療施設　医療保育士 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 ■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： ソーシャルワークの理論と方法（共通）　　授業コード：S2113

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	4単位(60)	社会福祉専攻・必修／子ども専攻・選択
担当教員			
松永　千惠子			
専門科目	講義	社会福祉士・精神保健福祉士指定科目	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】クライエントは、身体上または精神上の障害や社会生活環境上の理由などから、実に多様な日常生活問題に直面しています。社会福祉士が、クライエントの主体性に力添えし、well-beingの増進をめざしてクライエントと協働する際に、その支援の中核となるのが相談援助活動です。これを適切に展開するためには、クライエントその人と置かれている状況の双方/全体を理解することで得られる根拠に基づく必要があります。本授業では、多岐にわたる実際の相談援助活動で着目すべきことがらを理論的・方法論的な基礎として整理し、ていねいに確認していきます。 【到達目標】(1～15) 1)クライエントとその社会生活環境の関係性の何に社会福祉士が関わりをもつのかを説明できる。2)社会福祉士が認識し呼応すべきクライエントのニーズの種類を述べることができる。3)クライエント-社会福祉士援助関係の構造形成とその質について説明できる。4)ケースの発見から支援終結までの支援展開過程の各段階を経時的に述べることができる。 (16～30) 1) 相談援助活動におけるアウトリーチの意義と必要性を説明できる。2) クライエント-社会福祉士関係の根底にある「契約」「面接」「介入」の特性を説明できる。3) 相談援助活動でのアセスメントとモニタリングの着目点を具体的に述べることができる。4) 相談援助活動記録の方法と活用について説明できる。
授業の概要	(1～15) 1)相談援助活動を構成する複数の要素とその関係構造を解説したのち、2)クライエント-社会福祉士間援助関係の構築について理解します。3)実際はつなぎ目なく連続している相談援助活動の展開過程を、段階的に追いながら、その各々の目的や意義について説明します。 (16～30) 1) 来談対応と対をなすアウトリーチによるクライエントへの接近について解説を追加し、2)クライエント-社会福祉士間援助関係の構築に欠かせない「契約」「介入」「面接」の意義を理解します。3)連続している相談援助活動展開上、目的に応じた修正を適宜図るために併行させる経過観察の実際について学び、支援の有効性・効果性の意識も高めます。4) 個人情報保護と職業倫理を基礎に、活用できる記録のあり方を説明します。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	○
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	△

授業計画	第１回	科目オリエンテーション　現代社会の諸相と福祉ニーズに対応する社会福祉士 【key words】 福祉ニーズ　ウェルビーイング　QOL　クライエント　ソーシャルワーカー 【授業概要】 クライエントという人とその社会生活という環境の双方とその相互関係に関わりをもつことになる、ソーシャルワーカーとソーシャルワークの全体像・構成要素を概観します。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp1－25。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 クライエントを支援するためにソーシャルワーカーが自分自身をどのように準備しておくのかを理解しましょう。
	第２回	クライエント-環境-社会資源-社会福祉士

【key words】
相互作用過程/関係　ストレングス/エンパワメント　介入　社会資源活用　ソーシャルワーカーの役割/機能
【授業概要】
社会生活上の問題から導き出されるクライエントのニーズの階層性と、それに対応するソーシャルワーカーの役割・機能を整理します。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp27－51。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

その場面や課題に応じて担うソーシャルワーカーの役割・機能は複合的です。クライエントの生活全体を見すえる観点を理解しましょう。

第３回　人と環境の相互作用をシステムとして理解する
【key words】
システム理論　相互作用　援助関係
【授業概要】
人の生活の全体を理解する際に有用なシステム論の考え方を学び、関係要因が相互作用する中でソーシャルワーカーがクライエントと援助関係を形成する意義にふれます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp53－77。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

システム論モデルについては抽象的な印象をもつかもしれませんが、本来多面的な社会生活をありのまま理解していくのに重要な視点群を用意してくれます。

第４回　相談援助の構造
【key words】
援助関係　援助構造　よい関係　自己覚知

【授業概要】
相談援助を進めるのにあたって、ソーシャルワーカーがクライエントにとってどのような位置関係にいる必要があるのか、について考えます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp78－90。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

クライエントへ関わることと同時並行してソーシャルワーカーが自分自身を観察する意識を養いましょう。

第５回　相談援助の展開過程 1　ケース発見
【key words】
相談援助の過程　相談援助の構造　ケース発見　ラポール形成　不安の除去

【授業概要】
相談援助の展開過程について、その目的と対象を整理し、各段階の概要とそれを支える基本概念を理解します。それをふまえて、クライエントをケースとして見出す際の留意点を学びます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp91－102。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

ソーシャルワーカーとの出会いの段階でクライエントがもっている心理社会的特性を理解しましょう。

第６回　相談援助の展開過程 2　受理面接
【key words】
主訴　傾聴　個別化　問題の要点　緊急度

【授業概要】
クライエントの主訴を理解し、ソーシャルワーカーが具体的に担える役割・機能を提示し、支援契約を結ぶ確認をする段階の意義を学びます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp103－107。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

主訴をより理解するためには、人－環境に関する情報が必須で、次回のテーマとなります。

第７回　相談援助の展開過程 3　問題の把握とニーズの確定
【key words】
ニーズ確定　人と環境の相互作用　アセスメント

【授業概要】
主訴を分析して問題の本質を理解し、具体的な支援のテーマであるニーズとして確認していくステップをたどります。その際、クライエントの現状を評価・把握する際に必須となる、人－環境に関する情報を多次元的に整理することも学びます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp108－117。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

		人－環境に関する情報群を分析的かつ総合的に整理し、クライエントの全体像を理解する視点を理解しましょう。
	第８回	相談援助の展開過程 4　評価から目標設定へ 【key words】 評価結果　目標設定　ニーズ　実現性　リスクの把握 【授業概要】 クライエントの生活問題の何をどのように判断して、支援の目標を設定するのかを具体的に学びます。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp118－126。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 現時点で あるいは 今後 予測されるリスクについての意識と管理も、同時に考えていくことになります。
	第９回	相談援助の展開過程 5　支援計画の立案と実施 【key words】 援助計画　介護計画　ソーシャルワーク理論　支援チーム　ケース会議 【授業概要】 クライエントと生活問題の双方を全体的に理解する多視点＝多様な理論的視野の概要を理解し、明確化された目標に向けての援助計画の立案と介護計画の検討について学びます。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp123－130。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 社会資源の単なる提供ではなく、クライエントおよび家族の能力の活用を促す支援の具体化が基本です。
	第１０回	相談援助の展開過程 6　経過観察 【key words】 経過観察（モニタリング）　生活課題への取組状況の把握　新しい問題　状況の変化　記録 【授業概要】 計画にもとづく支援の提供が実際「的確に」進んでいるかを把握し、必要に応じて支援の修正などへつなげていく、経過観察（モニタリング）の内容を学びます。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp131－135。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 支援に伴われた生活の開始時点は、クライエントが戸惑いを覚えやすい時期でもあります。その心理社会的状態を理解しましょう。
	第１１回	相談援助の展開過程 7　再評価 【key words】 再評価（再アセスメント）　支援の見直し　支援の強化　生活の継続　潜在的ニーズ 【授業概要】 経過観察よって確認されたクライエントの状況変化や新たなニーズについて、再度評価し、支援計画の調整を図ることを学びます。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp136－139。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 支援開始後に、よりきめ細やかな問題対応などが具体化してくる場合があります。支援の修正や目標の再設定は、クライエントの生活の継続性を支持するものです。
	第１２回	相談援助の展開過程 8　支援終結 【key words】 支援の終結　分離不安　依存　自立 【授業概要】 支援は永久に続くものではなく、クライエントの自立性が確認されて一段落するものであることを理解します。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp140－142。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 後任者に引き継ぐような場合も、ひとつの終結といえます。その準備についても、この機会に具体的に考えてみましょう。
	第１３回	相談援助の展開過程 9　支援の効果測定 【key words】 支援計画の妥当性　支援の効果性　評価　アカウンタビリティ　エビデンス・ベースド・プラクティス 【授業概要】 支援の終結にあわせて行なう、計画の的確性、支援の効果性、クライエントが築いてきた力 の評価をすることについて学びます。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp141－144。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 支援の過程を振り返るためには、記録を適切に残していくことが必須です。

第１４回　相談援助の展開過程10　地域支援
【key words】
地域ニーズ　地域資源の課題　予防的対応　サービス開発

【授業概要】
複数の個別的支援によって集約しうる地域ニーズを把握するとともに、問題の深刻化を回避するための予防的視点やサービス開発のためのソーシャルアクションを学びます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp144－148。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

個別的支援とともに地域社会へ目を向けることの意義を理解しましょう。

第１５回　前期のまとめ
【key words】
―
【授業概要】
前期学習内容を振り返るとともに、後期学習内容への接続を図ります。

【教科書ページ・参考文献】
―
【課題・予習・復習・授業準備指示】

相談援助の理論的方法論的な考え方学び始めました。十分に復習をして、Ｉ後期ひいては次年度Ⅱへ学習をつなげていきましょう。

第１６回　前期の復習　相談援助活動をより精緻にするために
【key words】
―
【授業概要】
前期学習内容を振り返るとともに、後期学習内容を概観します。

【教科書ページ・参考文献】
―
【課題・予習・復習・授業準備指示】

前期に学んだ相談援助の過程を実践活動として機能させる意識をもちましょう。

第１７回　地域福祉とアウトリーチ
【key words】
アウトリーチ　インボランタリー・クライエント　社会的不適応　ケース発見　ニーズの掘り起こし
【授業概要】
アウトリーチを必要としている人たち、アウトリーチの機能と方法、アウトリーチを実践する際の留意点について学びます。
【教科書ページ・参考文献】
教科書ｐｐ149－159。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

アウトリーチは、ソーシャルワーク実践上、来談対応と対をなす重要なクライエント接近方法です。

第１８回　相談援助活動における契約
【key words】
契約　合意形成　対等関係　目標設定　支援方法　目標達成

【授業概要】
相談援助過程の基本原則である クライエントとソーシャルワーカー間の各種合意とその総体の契約について理解します。
【教科書ページ・参考文献】
教科書ｐｐ161－173。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

支援においては、クライエントとの対等性やクライエントの自己決定を実現することが中核であり、そのために契約は重要な基盤です。

第１９回　相談援助活動におけるアセスメント 1　問題の多面的統合的とらえ方
【key words】
アセスメント特性　援助関係　バイステックの7原則　自己覚知　面接における言語反応

【授業概要】
ソーシャルワークにおけるアセスメントの特性を理解し、クライエントがかかえた問題を多面的統合的にとらえるための面接構成の方法や援助関係の形成について学びます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp175－182。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

面接では、基本的な知識、観察力、感受性、コミュニケーション力が実践的に求められてきます。特に、ソーシャルワーカーのクライエントに向けた言語反応は、具体的に理解して下さい。

第２０回　相談援助活動におけるアセスメント 2　得るべき情報項目と情報理解のための視覚化の手法

【key words】
統合的アセスメント　守秘義務　共感性と想像力　情報の分析と統合　エコマップ　ジェノグラム
【授業概要】
渡部（1999）をよりどころに、ジェネラリストソーシャルワーカーにおける統合的アセスメントの着目点16項目を学び、得られた情報群を視覚的に整理する方法を理解します。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp183－194。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

クライエントをとりまくさまざまな環境がかかわって問題がつくり出されることが多いので、背景情報の関係性をどのように整理するかについて注目しましょう。

第２１回　相談援助活動におけるアセスメント 3　得た情報の整理と活用
【key words】
情報の組織化　情報の関連性　情報の解釈と類推　情報の要約　ライフサイクル論

【授業概要】
アセスメント面接で得た情報を統合化し支援に利用するために必要な知識、想像力、分析・解析力、統合・要約についてまとめます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp195－198。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

アセスメント力を高めるためには、ひとと社会を理解する目的のさまざまな分野の知見を学んでいく必要があります。ソーシャルワーカーとしての自己研鑽を意識しましょう。

第２２回　支援介入の意義と方法
【key words】
全体論的認識　直接的介入　間接的介入　介入の戦略　クリティカル・シンカー

【授業概要】
ミクロからマクロに至る広範囲なレベルにおけるソーシャルワーク介入の意義とその方法について理解します。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp199－215。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

支援介入を適切に行なうために、エビデンス・ベースドの考え方を十分理解しましょう。

第２３回　経過観察（モニタリング） 1 対象　方法・手順
【key words】
インプリメンテーション　モニタリング　対象者の明確化　モニタリングのスケジュールと手続き
【授業概要】
支援計画の実施（インプリメンテーション）に付帯する支援進捗の観察（モニタリング）の意義と具体的な手続きを学びます。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp217－226。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

支援目標に向かって、関係支援者間でのリアルタイムな情報共有や役割修正・強化を図る主旨・根拠を理解しましょう。

第２４回　経過観察（モニタリング） 2 状況分析から再アセスメントへ
【key words】
進捗状況の把握　ソーシャルワーカーの態度　クライエントの問題解決能力　再アセスメント　支援計画の修正
【授業概要】
モニタリングによって把握した多面的な情報の再統合とそれにもとづく支援計画の的確な修正について理解します。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp226－232。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

モニタリングの結果は、短期目標ごとに時系列的にまとめていくことが、多岐にわたる問題の整理につながります。

第２５回　相談援助活動の効果性の検証
【key words】
効果測定　実験計画法　プロセス評価　アウトカム評価　サービス開発

【授業概要】
支援実行が支援目標にかかわってどのように有効であったかを検証し、社会資源提供とニーズ充足の因果関係について考えます。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp233－242。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

クライエントの人権がかかわるために、全て数理科学的に効果測定が実施できるわけではないですが、支援活動の根拠をもとうとすることは重要です。

	第２６回　相談援助活動における面接 【key words】 面接の目的　焦点づけ・方向づけ　関与しながら待つ　構造化面接　非構造化面接 【授業概要】 支援の中核である面接の構造的特性を理解し、そこでのコミュニケーション展開について留意点をまとめます。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp243－262。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 何のための面接か、今日のこの面接は次の何につながるのか、支援全体におけるその面接の意味をよく理解しましょう。 第２７回　記録をすること 1　意義と目的および種類 【key words】 記録業務　記録の活用目的　記録の種類 【授業概要】 最も基本となるケース記録・面接記録だけでなく、カンファレンス資料を含め、ケースワークに付帯して多様な記録業務がある認識と、記録は活用されて意味をもつという考え方を学びます。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp263－277。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 目にするかもしれない他者を意識して、適切な情報内容や表現で都度記載することが重要です。 第２８回　記録をすること 2　記録業務のIT化と倫理的配慮 【key words】 記録の形式　記録のIT化　個人情報の保護　個人情報の利用・共有　倫理 【授業概要】 記録の形式について概観した後、記録のIT化にともなってより一層注意を払うべき個人情報の保護と利用にかかる倫理を学びます。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp278－287。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 クライエントの個人情報を十分保護するとともに、関係支援者とその個人情報を共有することは、一件相反しますが、倫理観を持って工夫を考えることにより、支援に結びつけることができます。 第２９回　交渉と支援チーム連携 【key words】 多様で複雑な問題　多職種支援チーム　交渉・調整　エンパワメント　プレゼンテーション 【授業概要】 支援にかかわる多職種混成チームの連携のあり方と、クライエントの多様なニーズに呼応する支援を目的とした交渉の技術について考えます。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp289－309。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 面接も交渉も目的的なコミュニケーションの技術が必要です。支援チームが機能するためにも、チームメンバーが相互理解を意識し、意見交流を図らなければなりません。 第３０回　相談援助の理論と方法Ⅰのまとめ 【key words】 ― 【授業概要】 後期学習内容を振り返るとともに、次年度Ⅱへの接続を図ります。 【教科書ページ・参考文献】 ― 【課題・予習・復習・授業準備指示】 相談援助の理論的方法論的な考え方を1年間学びました。十分に復習をして、次年度Ⅱへ学習をつなげていきましょう。
受講生に関わる情報および受講のルール	チェック式のレジュメを用意する他、視覚的な板書を心がけますから、各自 口頭説明も書き添えるなどノートはまめに取るようにして、さらに 受講後一両日中の復習につなげて下さい。理解を助けるために、適宜事例を示していきます。仮に、欠席によって事例を聴き逃し、自分で指定教科書だけで内容を押さえようとしても、しばしば教科書の表現が難しいため、わかりづらいことがあります。欠席しないように十分注意して下さい。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	minute paper
授業外時間にかかわる情報	たとえば、皆さんは、ボランティア活動などでいろいろな背景・ニーズをもったひと達と出会うでしょう。その機会には、与えられたその時の役割をこなすだけでなく、授業で取り上げた社会福祉士の観点と照らし合わせてそのひと達を理解しようと試みて下さい。それが、専攻学生としての資質と力量を向上させるトレーニングになるはずです。ただし、そのひと達に関して知り得たことについては、守秘義務を遵守することは必須です。

	★1回の授業に対して、概ね2時間以上の事前事後自主学習が必要です。
オフィスアワー	水曜日 15：00～1600
評価方法	学期末課題レポート（85%）および授業への取り組み方（15%）で評定します。
教科書	日本ソーシャルワーク教育学校連盟編　ソーシャルワークの理論と方法　最新社会福祉士。精神保健福祉士養成講座12　中央法規、2021.
参考書	「よくわかるソーシャルワーカーの倫理綱領」、学文社、2023.
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 障害者施設に3年勤務し、生活支援、相談支援を担当。専門は知的障害、発達障害である。社会福祉士、精神保健福祉士、保育士の国家資格を所持。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： ソーシャルワーク実習指導Ⅰ（社福）　　授業コード：S2151　S2152　S2153　S2154　S2155

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	1単位(30)	社会福祉コース・必修／福祉心理コース・学校教育コース・児童福祉コース・選択
担当教員			
富澤　一央・安留　孝子・大久保　圭介・石井　千麻			
専門科目	演習	社会福祉士指定科目	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】単位認定は別々に行うが、ソーシャルワーク実習指導Ⅱと連続している。 ①ソーシャルワーク実習の意義について理解する。 ②社会福祉士として求められる役割を理解 し、価値と倫理に基づく専門職としての姿 勢を養う。 ③ソーシャルワークに係る知識と技術につ いて具体的かつ実践的に理解し、ソーシャ ルワーク機能を発揮するための基礎的な能 力を習得する。 ④実習を振り返り、実習で得た具体的な体 験や援助活動を、専門的援助技術として概 念化し理論化し体系立てていくことがで きる総合的な能力を涵養する。 【到達目標】 ①相談援助実習の意義、社会福祉士の役割や専門性について表現できる。 ②実習先施設・機関についての概要を伝えることができる。 ③相談援助実習履修試験に合格できる水準の知識及び技術を身につけている。 ④自己理解、自己覚知を行い、自分自身の実習先を選択できる。
授業の概要	相談援助実習の意義と目的、社会福祉士として必要な福祉倫理、相談援助実習の対象となる機関・施設の設置目的・業務内容・利用者・職員の役割と援助内容・課題についてグループによる調べ学習・発表を中心に授業を進める。 【ソーシャルワーク実習指導Ⅰ及び同Ⅱにおいて実施する内容】 次に掲げる事項について個別指導及び集団 指導を行うものとする。 ①実習及び実習指導の意義（スーパービジョ ン含む。） ②多様な施設や事業所における現場体験学習 や見学実習 ③実際に実習を行う実習分野（利用者理解含 む。）と施設・機関、地域社会等に関する基 本的な理解 ④実習先で関わる他の職種の専門性や業務に 関する基本的な理解 ⑤実習先で必要とされるソーシャルワークの 価値規範と倫理・知識及び技術に関する理解 ⑥実習における個人のプライバシーの保護と 守秘義務等の理解 ⑦実習記録への記録内容及び記録方法に関す る理解 ⑧実習生、実習担当教員、実習先の実習指導 者との三者協議を踏まえた実習計画の作成及 び実習後の評価 ⑨巡回指導 ⑩実習体験や実習記録を踏まえた課題の整理 と実習総括レポートの作成 ⑪実習の評価及び全体総括会

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	◎
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	○
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	○
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第1回　オリエンテーション　授業方法及び留意事項　ソーシャルワーク実習資格試験について 【key words】 実習前学習　ソーシャルワーク実習の意義 【授業概要】 実習へのガイドブックを使用し、実習の意義と目的や実習教育の流れを解説する。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 必要に応じて授業内で指示する。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分　復習30分

	第2回	ソーシャルワーク実習の意義と目的の理解 【key words】 実習前学習　相談援助実習の意義 【授業概要】 実習へのガイドブックを使用し、実習の意義と目的や実習教育の流れを解説する。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 必要に応じて授業内で指示する。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分　復習30分
	第3回	社会福祉士に期待される役割と専門性の理解（社会福祉士に求められる職業倫理 【key words】 実習教育の流れ　倫理綱領　行動規範 【授業概要】 実習へのガイドブックを使用し、実習の意義と目的や実習教育の流れを解説する。相談援助実習の留意事項を解説する。社会福祉士の倫理綱領を読み、社会福祉士が守らなければならないことを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 必要に応じて授業内で指示する。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分　復習30分
	第4回	実習先機関・施設の理解（課題の説明） 【key words】 実習が行なえる施設・機関　実習前学習 【授業概要】 事前学習の課題を整理し、事前学習のグループ分けを行い、グループ学習を行い発表の準備を行う。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 必要に応じて授業内で指示する。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分　復習30分
	第5回	実習先機関・施設の理解（行政機関） 【key words】 福祉事務所　児童相談所 【授業概要】 行政関係施設①福祉事務所、②児童相談所に関するグループ学習の内容を発表する。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 必要に応じて授業内で指示する。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分　復習30分
	第6回	実習先機関・施設の理解（社会福祉協議会、地域包括支援センター） 【key words】 社会福祉協議会　地域包括支援センター 【授業概要】 市町村社会福祉協議会、地域包括支援センターに関するグループ学習の内容を発表する。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 必要に応じて授業内で指示する。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分　復習30分
	第7回	実習先機関・施設の理解（高齢者施設） 【key words】 高齢者者施設・事業 【授業概要】 高齢者関係施設（①特別養護老人ホーム、②養護老人ホーム、③介護老人保健施設、④デイサービスセンター（ショートステイ）、⑤グループホーム（地域密着型施設）、）に関する概要等調べた内容を発表し、質問を受け理解を深める。 事前学習の課題を整理し、グループ学習を行い発表の準備を行う。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 必要に応じて授業内で指示する。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分　復習30分
	第8回	実習先機関・施設の理解（高齢者施設） 【key words】 高齢者関係施設 【授業概要】 高齢者関係施設（①特別養護老人ホーム、②養護老人ホーム、③介護老人保健施設、④デイサービスセンター（ショートステイ）、⑤グループホーム（地域密着型施設）、）に関する概要、グループ学習で調べた内容を発表し、質問を受け理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】

		必要に応じて授業内で指示する。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分　復習30分
	第9回	実習先機関・施設の理解（児童福祉施設） 【key words】 児童福祉施設 【授業概要】 児童福祉施設（①児童養護施設、②母子生活支援施設、③障害児入所施設、④児童発達支援センター、⑤情緒障害児短期治療施設、⑥児童自立支援施設）に関する事前学習の課題を整理し、グループ学習を行い発表の準備を行う。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 必要に応じて授業内で指示する。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分　復習30分
	第10回	実習先機関・施設の理解（児童福祉施設） 【key words】 児童福祉施設 【授業概要】 児童関係施設（①児童養護施設、②母子生活支援施設、③障害児入所施設、④児童発達支援センター、⑤情緒障害児短期治療施設、⑥児童自立支援施設）に関する事前学習内容の発表を行う。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 必要に応じて授業内で指示する。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分　復習30分
	第11回	実習先機関・施設の理解（障害者支援施設） 【key words】 障害者施設・事業 【授業概要】 事前学習の課題を整理し、障害者関係施設・事業（①障害者支援施設、②就労継続・就労移行事業、③障害者地域活動支援センター、④相談支援事業・障害者就業・生活支援センター、⑤独立行政法人　国立重度知的障害者総合施設のぞみの園、⑥群馬県立障害者リハビリテーションセンター）のグループ学習を行い発表の準備を行う。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 必要に応じて授業内で指示する。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分　復習30分
	第12回	実習先機関・施設の理解（障害者支援施設、医療福祉関連施設） 【key words】 障害者施設・事業 【授業概要】 障害者関係施設・事業（①障害者支援施設、②就労継続・就労移行事業、③障害者地域活動支援センター、④相談支援事業・障害者就業・生活支援センター、⑤独立行政法人　国立重度知的障害者総合施設のぞみの園、⑥群馬県立障害者リハビリテーションセンター）のグループで調べた内容を発表する。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 必要に応じて授業内で指示する。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分　復習30分
	第13回	実習先機関・施設の理解（その他の機関・施設） 【key words】 病院　更正保護　独立社会福祉士 【授業概要】 病院、更生保護施設、独立型社会福祉士に関するグループ学習の内容を発表する。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 必要に応じて授業内で指示する。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分　復習30分
	第14回	事前学習の意義・目的・方法の理解（実習先希望調査票の提出） 【key words】 事前学習　関係法令・制度　社会資源 【授業概要】 社会福祉援助実習を行なうまでに事前学習をしておく必要性を理解する。 事前学習の内容を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 必要に応じて授業内で指示する。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分　復習30分
	第15回	実習開始までの取り組み（まとめ、レポート課題）　ソーシャルワーク実習資格試験 【key words】 実習までの流れ

	【授業概要】 社会福祉援助実習を行なうまでの流れについて理解する。 実習開始までに準備をしておく内容について理解する。 春休み中に見学実習及びボランティアを行うことを理解する。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 必要に応じて授業内で指示する。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分　復習30分
受講生に関わる情報および受講のルール	①5分の4以上出席しない場合は単位取得できない（公欠を含む）。 ②提出物の期限内提出が行われない場合は単位取得ができないこと。 ③欠席、遅刻をする場合は、授業開始前に大学に連絡を入れること。 ④無断遅刻・無断欠席をした場合は社会福祉士実習委員会で対応を協議する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	実習先機関・施設の理解のために調べ学習をグループ等で行うことがある。グループで連携・協力し課題に取り組むこと。
オフィスアワー	各教員より授業時に伝える
評価方法	ソーシャルワーク実習資格履修試験（20%）、課題やグループワークへの取り組み（50%）、提出物の提出状況 及びその内容（30%）を総合して評価する。　但し、ソーシャルワーク実習資格試験に合格しなければ単位を認定しない
教科書	「実習へのガイドブック」群馬医療福祉大学出版
参考書	福祉臨床シリーズ編集委員会編「社会福祉シリーズ２２　」弘文堂出版　／社会福祉小六法、社会福祉用語辞典、その他教員配付資料
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 特別養護老人ホームの生活相談員を10年経験し、現在も遠隔による相談援助を実践している。 高齢者デイサービスや地域交流拠点「地域の小さな居場所」における3年間の相談援助の経験に加え、2012年より、海外（インドネシア共和国）の地域保健・福祉活動のスーパーバイザーとして、青少年や高齢者等の住民や活動の担い手の支援を行っている。 介護老人保健施設の生活相談員を経験 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： ソーシャルワーク演習Ⅱ（社福①）　　授業コード：S2191　S2192　S2193　S2195　S2196

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	2単位(60)	社会福祉コース・児童福祉コース・必修／福祉心理コース・学校教育コース・初等教育コース・選択
担当教員			
富澤　一央・安留　孝子・大久保　圭介・石井　千麻			
専門科目	演習	社会福祉士指定科目	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】単位認定は別々に行うが、ソーシャルワーク演習Ⅲ（専門②）と連続している。 ①ソーシャルワークの実践に必要な知識 と技術の統合を行い、専門的援助技術とし て概念化し理論化し体系立てていくこと ができる能力を習得する。 ②社会福祉士に求められるソーシャルワ ークの価値規範を理解し、倫理的な判断能 力を養う。 ③支援を必要とする人を中心とした分野 横断的な総合的かつ包括的な支援につい て実践的に理解する。 ④地域の特性や課題を把握し解決するための、地域アセスメントや評価等の仕組み を実践的に理解する。 ⑤ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソ ーシャルワークの対象と展開過程、実践モ デルとアプローチについて実践的に理解 する。 ⑥実習を通じて体験した事例について、事 例検討や事例研究を実際に行い、その意義 や方法を具体的に理解する。 ⑦実践の質の向上を図るため、スーパービ ジョンについて体験的に理解する。 【到達目標】 ①各相談援助技術の特色を理解し、説明できる。 ②ソーシャルワーク実習指導Ⅰでの学びと並行し、各福祉領域での相談援助技術について説明できる。 ③倫理綱領、行動規範に基づいた社会福祉士としての行動を想定できる。
授業の概要	ソーシャルワーク等の実習と関連づけながら、福祉専門職として必要な基本的な技法、ソーシャルワークの展開過程について理解を深め、事例を通して、ソーシャルワーカーの役割や考え方、アプローチの方法、技法の使用方法をロールプレイやグループによるり実践的・体験的な演習方法で学ぶ。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	◎
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	△
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第1回	オリエンテーション　授業の進め方　授業に参加する上での注意事項　評価方法 【key words】 講義の進め方 【授業概要】 ソーシャルワーク演習Ⅰの振り返り ソーシャルワークⅡの流れと受講時のルール確認 本授業の進め方や参加する上での注意事項について説明する 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第2回	ソーシャルワークの価値と倫理　倫理綱領 【key words】 傾聴　価値と倫理 【授業概要】 物語を読み、個人の考えをまとめた後グループになり話し合いを行う。まとまった意見を発表

		し、共感・受容、価値観の違いなどについて、ソーシャルワーカーとして利用者をどのように捉えることが重要になるのかを解説する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第3回	ソーシャルワークの価値と倫理　行動規範 【key words】 社会福祉士の倫理綱領　行動規範 【授業概要】 社会福祉士の倫理綱領を読み、自分自身が考える社会福祉士の価値を理解する。 グループになり専門職の倫理を考える、日本社会福祉士会の「倫理綱領」と比較し、社会福祉士としての「倫理綱領」とは何かを考察する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第4回	ソーシャルワーク実践　面接技法 面接の目的 【key words】 インテーク面接　非言語的コミュニケーション 【授業概要】 社会福祉士として行う面接とはどのようなものかビデオを見て考え、ワークシートにまとめる。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第5回	ソーシャルワーク実践　面接技法　面接に入る心構え 【key words】 構造化面接　SOLER 【授業概要】 面接に対する利用者の気持ちを理解する演習を行い、社会福祉士として面接を行う時の心構えと環境設定についてグループワークを行う。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第6回	ソーシャルワーク実践　面接技法　インテーク面接 【key words】 インテーク面接　主訴　傾聴 【授業概要】 初めて会う社会福祉士に対する利用者の気持ちをグループで話し合う。利用者の気持ちを尊重した面接とはどのようなものか演習を行う。 インテーク面接の目的について講義を行う。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第7回	ソーシャルワーク実践　面接技法　傾聴の方法 【key words】 姿勢　態度　距離 【授業概要】 面接場面における非言語的コミュニケーションの重要性を知り、ソーシャルワーカーとして、姿勢・態度・距離などが利用者の話を促進させたり、逆に阻害させる要因になることを考えながら演習を行う。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第8回	ソーシャルワーク実践　面接技法　面接の具体的技法 【key words】 ロールプレイ　面接技法 【授業概要】 三人一組になり、作成したシナリオに沿ってロールプレイを行なう。実際に行なって振り返りをグループと全体で行なう。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第9回	ソーシャルワーク実践　記録技法　記録の意義と目的 【key words】 面接　記録 【授業概要】 前回の振り返りを行い、面接とは何かを考える。その時のワーカーとしての心構えや使用する技術等についてまとめる。 面接や支援を行なった結果を記録として残す目的を講義する。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第10回　ソーシャルワーク実践　記録技法　記録の種類

【key words】
逐語記録　要約記録　説明体記録
【授業概要】
記録の種類について講義を行い、それぞれがどのように記録をする時に使用されるのかを理解する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第11回　ソーシャルワーク実践　記録技法　記録の内容と方法

【key words】
逐語記録　要約記録　説明体記録
【授業概要】
社会福祉士が記録に使用する用紙の説明を行う。説明を聞き、読んできた事例を面接用紙、アセスメント用紙にまとめる。
グループワークを行い読みやすい内容にするためにはどのようにすれば良いのか検討する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第12回　ソーシャルワーク実践　記録技法　記録における留意点

【key words】
逐語記録　要約記録　説明体記録
【授業概要】
前回の記録を使用し、読みやすい内容に改善する。
記録技法のまとめの講義を行う。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第13回　ソーシャルワークの展開過程　ケースワーク

【key words】
ケースワークの展開過程　ケース発見　インテーク　アセスメント　プランニング
【授業概要】
ケースワークの展開過程の講義を行い、各段階を理解する。
【取り扱う事例の例】・障害・児童・虐待（児童・障害者・高齢者等）　・ひきこもり　・貧困　・認知症　・終末期ケア　・災害時　・その他の危機状態にある事例（権利擁護活動を含む）、依存症など
【関連技術】・アウトリーチ・チームアプローチ・ネットワーキング・・コーディネーション　・ネゴシエーション　・ファシリテーション　・プレゼンテーション　・ソーシャルアクション
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第14回　ソーシャルワークの展開過程　ケースワーク

【key words】
モニタリング　支援の終結と事後評価　アフターケア　面接技法　記録技法
【授業概要】
展開過程の続きを講義し理解を深める。
【取り扱う事例の例】・障害・児童・虐待（児童・障害者・高齢者等）　・ひきこもり　・貧困　・認知症　・終末期ケア　・災害時　・その他の危機状態にある事例（権利擁護活動を含む）、依存症など
【関連技術】・アウトリーチ・チームアプローチ・ネットワーキング・・コーディネーション　・ネゴシエーション　・ファシリテーション　・プレゼンテーション　・ソーシャルアクション
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第15回　ソーシャルワークの展開過程　ケースワーク

【key words】
アセスメント　情報収集・分析　アセスメント時の留意点
【授業概要】
展開過程の一連の事例を使用し、各段階で何を行うのかを具体的に理解していく。
アセスメントではどのような情報を収集するのかを理解する。
【取り扱う事例の例】・障害・児童・虐待（児童・障害者・高齢者等）　・ひきこもり　・貧困　・認知症　・終末期ケア　・災害時　・その他の危機状態にある事例（権利擁護活動を含む）、依存症など
【関連技術】・アウトリーチ・チームアプローチ・ネットワーキング・・コーディネーション　・ネゴシエーション　・ファシリテーション　・プレゼンテーション　・ソーシャルアクション
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第16回　ソーシャルワークの展開過程　ケースワーク

【key words】
プランニング　長期目標　短期目標　数値化
【授業概要】
展開過程の一連の事例を使用し、各段階で何を行うのかを具体的に理解していく。
アセスメントした情報からプランニングを行う。
自分で考えてきたプランニングをグループで話し合い、援内容を具体的に考える。
【取り扱う事例の例】・障害・児童・虐待（児童・障害者・高齢者等）　・ひきこもり　・貧困　・認知症　・終末期ケア　・災害時　・その他の危機状態にある事例（権利擁護活動を含む）、依存症など
【関連技術】・アウトリーチ・チームアプローチ・ネットワーキング・・コーディネーション　・ネゴシエーション　・ファシリテーション　・プレゼンテーション　・ソーシャルアクション
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第17回　ソーシャルワークの展開過程　　グループワーク

【key words】
グループダイナミクス　社会福祉士の役割
【授業概要】
グループワーク時の社会福祉士の役割と留意点の講義を行い、グループワークについて理解する。
【取り扱う事例の例】・障害・児童・虐待（児童・障害者・高齢者等）　・ひきこもり　・貧困　・認知症　・終末期ケア　・災害時　・その他の危機状態にある事例（権利擁護活動を含む）、依存症など
【関連技術】・アウトリーチ・チームアプローチ・ネットワーキング・・コーディネーション　・ネゴシエーション　・ファシリテーション　・プレゼンテーション　・ソーシャルアクション
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第18回　ソーシャルワークの展開過程　　グループワーク

【key words】
準備期　開始期　作業期　終結
【授業概要】
グループワークの事例を読み、社会福祉士の役割と留意点を理解し、グループで、どのようにグループワークを進めていくのか検討を行う。
【取り扱う事例の例】・障害・児童・虐待（児童・障害者・高齢者等）　・ひきこもり　・貧困　・認知症　・終末期ケア　・災害時　・その他の危機状態にある事例（権利擁護活動を含む）、依存症など
【関連技術】・アウトリーチ・チームアプローチ・ネットワーキング・・コーディネーション　・ネゴシエーション　・ファシリテーション　・プレゼンテーション　・ソーシャルアクション
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第19回　ソーシャルワークの展開過程　　グループワーク

【key words】
準備期　開始期　作業期　終結
【授業概要】
検討した結果を発表し、全体で理解する。
【取り扱う事例の例】・障害・児童・虐待（児童・障害者・高齢者等）　・ひきこもり　・貧困　・認知症　・終末期ケア　・災害時　・その他の危機状態にある事例（権利擁護活動を含む）、依存症など
【関連技術】・アウトリーチ・チームアプローチ・ネットワーキング・・コーディネーション　・ネゴシエーション　・ファシリテーション　・プレゼンテーション　・ソーシャルアクション
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第20回　ソーシャルワークの展開過程　コミュニティワーク

【key words】
アウトリーチとニーズ把握　地域アセスメント　組織化　地域ニーズ　地域福祉の計画　社会資源の活用・調整・開発　サービスの評価　社会福祉士の役割
【授業概要】
コミュニティワーク時の社会福祉士の役割と留意点の講義を行い、コミュニティワークについて理解する。
【取り扱う事例の例】・障害・児童・虐待（児童・障害者・高齢者等）　・ひきこもり　・貧困　・認知症　・終末期ケア　・災害時　・その他の危機状態にある事例（権利擁護活動を含む）、依存症など
【関連技術】・アウトリーチ・チームアプローチ・ネットワーキング・・コーディネーション　・ネゴシエーション　・ファシリテーション　・プレゼンテーション　・ソーシャルアクション
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第21回　ソーシャルワークの展開過程　コミュニティワーク
【key words】
アウトリーチとニーズ把握　地域アセスメント　組織化　地域ニーズ　地域福祉の計画　社会資源の活用・調整・開発　サービスの評価　社会福祉士の役割
【授業概要】
コミュニティワークの事例を読み、コミュニティの役割と留意点を理解し、グループで、どのようにコミュニティワークを進めていくのか検討を行う。
【取り扱う事例の例】・障害・児童・虐待（児童・障害者・高齢者等）　・ひきこもり　・貧困　・認知症　・終末期ケア　・災害時　・その他の危機状態にある事例（権利擁護活動を含む）、依存症など
【関連技術】・アウトリーチ・チームアプローチ・ネットワーキング・・コーディネーション　・ネゴシエーション　・ファシリテーション　・プレゼンテーション　・ソーシャルアクション
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第22回　ソーシャルワークの展開過程　コミュニティワーク
【key words】
アウトリーチとニーズ把握　地域アセスメント　組織化　地域ニーズ　地域福祉の計画　社会資源の活用・調整・開発　サービスの評価
【授業概要】
検討した結果を発表し、全体で理解する。
【取り扱う事例の例】・障害・児童・虐待（児童・障害者・高齢者等）　・ひきこもり　・貧困　・認知症　・終末期ケア　・災害時　・その他の危機状態にある事例（権利擁護活動を含む）、依存症など
【関連技術】・アウトリーチ・チームアプローチ・ネットワーキング・・コーディネーション　・ネゴシエーション　・ファシリテーション　・プレゼンテーション　・ソーシャルアクション
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第23回　実践モデルやアプローチに関する相談援助について　治療モデル・環境モデル・生活モデル
【key words】
治療モデル　生活モデル
【授業概要】
事例を使用し、治療モデルと生活モデルのアセスメントやプランニングに違いについてグループワークを行い理解する。
グループで検討したことを発表し全体で分かち合う。
【取り扱う事例の例】・障害・児童・虐待（児童・障害者・高齢者等）　・ひきこもり　・貧困　・認知症　・終末期ケア　・災害時　・その他の危機状態にある事例（権利擁護活動を含む）、依存症など
【関連技術】・アウトリーチ・チームアプローチ・ネットワーキング・・コーディネーション　・ネゴシエーション　・ファシリテーション　・プレゼンテーション　・ソーシャルアクション
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第24回　実践モデルやアプローチに関する相談援助について　ストレングスモデル
【key words】
ストレングスモデル　リフレーミング
【授業概要】
事例を使用し、ストレングスモデルでの社会福祉士の視点、アセスメントやプランニングについてグループワークを行い理解する。
グループで検討したことを発表し全体で分かち合う。
【取り扱う事例の例】・障害・児童・虐待（児童・障害者・高齢者等）　・ひきこもり　・貧困　・認知症　・終末期ケア　・災害時　・その他の危機状態にある事例（権利擁護活動を含む）、依存症など
【関連技術】・アウトリーチ・チームアプローチ・ネットワーキング・・コーディネーション　・ネゴシエーション　・ファシリテーション　・プレゼンテーション　・ソーシャルアクション
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第25回　実践モデルやアプローチに関する相談援助について　心理社会的アプローチ
【key words】
社会心理的アプローチ　状況の中の人
【授業概要】
事例を使用し、社会心理的アプローチでの社会福祉士の視点、アセスメントやプランニングについてグループワークを行い理解する。
グループで検討したことを発表し全体で分かち合う。
【取り扱う事例の例】・障害・児童・虐待（児童・障害者・高齢者等）　・ひきこもり　・貧困　・認知症　・終末期ケア　・災害時　・その他の危機状態にある事例（権利擁護活動を含む）、依存症など
【関連技術】・アウトリーチ・チームアプローチ・ネットワーキング・・コーディネーション　・ネゴシエーション　・ファシリテーション　・プレゼンテーション　・ソーシャルアクション
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第26回　実践モデルやアプローチに関する相談援助について　問題解決アプローチ
【key words】
問題解決アプローチ　4つのP
【授業概要】
事例を使用し、問題解決アプローチでの社会福祉士の視点、アセスメントやプランニングについてグループワークを行い理解する。
グループで検討したことを発表し全体で分かち合う。
【取り扱う事例の例】・障害・児童・虐待（児童・障害者・高齢者等）　・ひきこもり　・貧困　・認知症　・終末期ケア　・災害時　・その他の危機状態にある事例（権利擁護活動を含む）、依存症など
【関連技術】・アウトリーチ・チームアプローチ・ネットワーキング・・コーディネーション　・ネゴシエーション　・ファシリテーション　・プレゼンテーション　・ソーシャルアクション
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第27回　実践モデルやアプローチに関する相談援助について　危機介入アプローチ
【key words】
危機介入アプローチ　死の受容過程
【授業概要】
事例を使用し、危機介入アプローチでの社会福祉士の視点、アセスメントやプランニングについてグループワークを行い理解する。
グループで検討したことを発表し全体で分かち合う。
【取り扱う事例の例】・障害・児童・虐待（児童・障害者・高齢者等）　・ひきこもり　・貧困　・認知症　・終末期ケア　・災害時　・その他の危機状態にある事例（権利擁護活動を含む）、依存症など
【関連技術】・アウトリーチ・チームアプローチ・ネットワーキング・・コーディネーション　・ネゴシエーション　・ファシリテーション　・プレゼンテーション　・ソーシャルアクション
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第28回　実践モデルやアプローチに関する相談援助について　行動変容アプローチ
【key words】
行動変容アプローチ　モデリング　オペラント条件付け
【授業概要】
事例を使用し、行動変容アプローチでの社会福祉士の視点、アセスメントやプランニングについてグループワークを行い理解する。
グループで検討したことを発表し全体で分かち合う。
【取り扱う事例の例】・障害・児童・虐待（児童・障害者・高齢者等）　・ひきこもり　・貧困　・認知症　・終末期ケア　・災害時　・その他の危機状態にある事例（権利擁護活動を含む）、依存症など
【関連技術】・アウトリーチ・チームアプローチ・ネットワーキング・・コーディネーション　・ネゴシエーション　・ファシリテーション　・プレゼンテーション　・ソーシャルアクション
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第29回　実践モデルやアプローチに関する相談援助について　エンパワーメントアプローチ
【key words】
エンパワメントアプローチ　ストレングス　パワーレス
【授業概要】
事例を使用し、エンパワメントアプローチでの社会福祉士の視点、アセスメントやプランニングについてグループワークを行い理解する。
グループで検討したことを発表し全体で分かち合う。
【取り扱う事例の例】・障害・児童・虐待（児童・障害者・高齢者等）　・ひきこもり　・貧困　・認知症　・終末期ケア　・災害時　・その他の危機状態にある事例（権利擁護活動を含む）、依存症など
【関連技術】・アウトリーチ・チームアプローチ・ネットワーキング・・コーディネーション　・ネゴシエーション　・ファシリテーション　・プレゼンテーション　・ソーシャルアクション
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第30回　実践モデルやアプローチに関する相談援助について　家族システム論
【key words】
家族システム　家族の相互作用
【授業概要】
事例を使用し、家族システムアプローチでの社会福祉士の視点、アセスメントやプランニングについてグループワークを行い理解する。
グループで検討したことを発表し全体で分かち合う。
【取り扱う事例の例】・障害・児童・虐待（児童・障害者・高齢者等）　・ひきこもり　・貧困　・認知症　・終末期ケア　・災害時　・その他の危機状態にある事例（権利擁護活動を含む）、依存症など
【関連技術】・アウトリーチ・チームアプローチ・ネットワーキング・・コーディネーション　・ネゴシエーション　・ファシリテーション　・プレゼンテーション　・ソーシャルアクション
【教科書ページ・参考文献】

	【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	（1）履修上の注意 グループワーク等に積極的に参加し、次年度の相談援助実習に対するモチベーションを高められるよう、自己研鑽に努めること。 グループワークを行うため遅刻・欠席厳禁 （2）学習上の助言 社会福祉専門職として必要な実践力の習得するために、自ら考え、気づくことが重要である。 （3）予備知識や技能 「ソーシャルワークの基盤と専門職」及び「ソーシャルワークの理論と方法」と深い関わりがある科目である。各科目と関連付けて学習することが望まれる。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	学んだ技術などをしっかりと復習すること。
オフィスアワー	各教員より授業時に伝える
評価方法	試験またはレポート（40%）、提出物・リアクションペーパー・課題への取り組み（60%）
教科書	社会福祉士養成講座編集委員会編　『ソーシャルワーク演習（社会専門）』　中央法規出版
参考書	社会福祉小六法　社会福祉用語辞典（出版社は指定しないが、最新版のもの）
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 特別養護老人ホームの生活相談員を10年経験し、現在も遠隔による相談援助を実践している。 高齢者デイサービスや地域交流拠点「地域の小さな居場所」における3年間の相談援助の経験に加え、2012年より、海外（インドネシア共和国）の地域保健・福祉活動のスーパーバイザーとして、青少年や高齢者等の住民や活動の担い手の支援を行っている。 介護老人保健施設の生活相談員を経験 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 精神保健福祉の原理　　授業コード： S7009

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	4単位(60)	社会福祉コース・福祉心理コース・選択
担当教員			
三橋　真人			
専門科目	講義	精神保健福祉士指定科目	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業目的】 ①「障害者」に対する思想や障害者の社会的立場の変遷から、障害者福祉の基本的枠組み(理念・視点・関係性)について理解する。 ②精神保健福祉士が対象とする「精神障害者」の定義とその障害特性を構造的に理解するとともに、精神障害者の生活実態について学ぶ。 ③精神疾患や精神障害をもつ当事者の社会的立場や処遇内容の変遷をふまえ、それに対する問題意識をもつ価値観を体得する。 ④精神障害者へのかかわりについて、精神医学ソーシャルワーカーが構築してきた固有の価値を学び、精神保健福祉士の存在意識を理解して職業的アイデンティティの基礎を築く。 ⑤現在の精神保健福祉士の基本的枠組み（理念・視点・関係性）と倫理綱領に基づく職責について理解する。 ⑥精神保健福祉士を規定する法律と倫理綱領を把握し、求められる機能や役割を理解する。 ⑦近年の精神保健福祉の動向を踏まえ、精神保健福祉士の職域と業務特性を理解する。 【到達目標】 ①障碍者に関する基本的枠組みや制度等の歴史を説明できる。 ②精神障害者のニーズや生活実態について説明できる。 ③精神保健福祉士を規定する法律と倫理綱領に基づいた実践を想定した価値観を体得する。
授業の概要	精神保健福祉士を規定する法律と倫理綱領に基づいた実践を行うために、基本的枠組みや障害特性を理解するとともに精神保健福祉士としての職責を全うできる専門職としての基盤や視点を学ぶ。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	○
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	◎
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	◎
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	○
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	◎
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第1回	前期オリエンテーション 【key words】 前期オリエンテーション 【授業概要】 授業全体を概観し、授業の展開にかかる説明を行う。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第2回	障害者福祉の思想と原理 【key words】 優生思想と社会防衛思想、基本的人権の保障、社会正義の実現、法の下の平等 【授業概要】 障害者福祉の歴史的思想の変遷について説明する。また、憲法に保障する基本的人権や法の下の平等について概説し、社会正義の実現ができる専門職としての価値を説明する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第3回　障害者福祉の理念
【key words】
リハビリテーション、ノーマライゼーション、エンパワメント、自立生活、機会均等、インクルージョン
【授業概要】
　ノーマライゼーションやエンパワメント、ソーシャルインクルージョンといった障害者福祉の理念について説明するとともに、障害者福祉で学んだ内容とも合わせ障害者福祉の理念について説明できるようになる。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第4回　障害者福祉の歴史的展開
【key words】
基本的人権の保障（自由権と社会権）、障害者の権利に関する条約、自立支援・社会参加支援、消費者としての権利保障
【授業概要】
　基本的人権の保障（自由権と社会権）に関する歴史的展開や自立支援や社会参加支援、消費者としての権利保障について歴史的背景とともに概説する。また、障害者の権利に関する条約についても学びを深める。
【教科書ページ・参考文献】
・p10-p29
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを読み、「障害者福祉の歴史的展開」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
・60分～120分
第5回　精神障害者福祉の歴史的展開
【key words】
精神障害者の基本的人権、自立支援、社会参加支援、精神保健福祉法
【授業概要】
明治以降の精神障害者福祉の歴史的展開を概観し、精神保健福祉士として必要な視点を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
p30-p41
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを読み、「精神障害者の歴史的展開」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分
第6回　制度における「精神障害者」の定義
【key words】
障害者基本法、障害者総合支援法、精神保健福祉法
【授業概要】
精神保健福祉法における「精神障害者」の定義を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
p44-p52
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・「精神障害者」の定義の変遷について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
・60分～120分
第7回　精神障害の障害特性
【key words】
精神障害、障害特性、蜂矢モデル、ICFモデル、上田敏モデル
【授業概要】
　精神障害の特性を各モデルをもとに説明する。
【教科書ページ・参考文献】
p53-p73
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを読み、精神障害の「障害特性」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
・60分～120分
第8回　精神障害の理解と支援にかかわる新たな潮流
【key words】
当事者主体、ナラティブアプローチ、当事者研究
【授業概要】
　精神障害者に対する見方を変える新たな取り組み、当事者を中心とした取り組みについて学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
p74-p84
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストを読み、当事者主体の支援について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分
第9回　精神障害者の保護及び精神保健ケア改善のための諸原則
【key words】
精神障害者の保護及び精神保健ケア改善のための諸原則
【授業概要】
　精神障害者の保護及び精神保健ケア改善のための諸原則について説明する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第10回　日本の精神保健福祉施策に影響を与えた出来事①
【key words】
相馬事件（精神病者監護法、精神病院法、呉秀三）、ライシャワー事件（精神衛生法の改正）、宇都宮病院事件（精神保健法、指定医）
【授業概要】
相馬事件、ライシャワー事件、宇都宮病院事件について説明するとともにその事件の背景や制度改正について討論する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第11回　日本の精神保健福祉施策に影響を与えた出来事②
【key words】
大和川病院事件（精神保健福祉法における入院制度、地域移行）、池田小学校事件（医療観察法）、相模原事件（措置入院の運用等の整理）
【授業概要】
大和川病院事件、池田小学校事件、相模原事件について説明するとともにその事件の背景や制度改正について討論する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第12回　日本における社会的障壁①
【key words】
欠格条項、強制不妊手術、保健体育の教科書、古典的偏見と制御可能型偏見
【授業概要】
古典的偏見と制御可能型偏見について説明するとともに、各制度における欠格条項や社会的な動向について確認する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第13回　日本における社会的障壁②
【key words】
コンフリクトの種類、人権侵害としての施設コンフリクト
【授業概要】
コンフリクトの種類を概説するとともに、施設コンフリクトの事例を挙げ、人権侵害について討論する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第14回　日本における社会的障壁③
【key words】
アルコール・薬物問題の取締法と刑罰の優先、自己責任論と受療への障壁
【授業概要】
自己責任論と刑罰優先について説明し、受療への障壁について討論する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第15回　前期まとめ
【key words】
前期まとめ
【授業概要】
前期の授業について振り返りを行う。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第16回　後期オリエンテーション
【key words】
後期オリエンテーション
【授業概要】
授業全体を概観し、授業の展開にかかる説明を行う。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第17回　精神障害者の生活実態（精神科医療の特異性）
【key words】
強制入院・治療、精神科特例、病床数と在院日数、隔離及び身体的拘束、多剤併用

【授業概要】
精神科医療の特異性について、精神科病院等の実情を踏まえて説明する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第18回　精神障害者の生活実態（家族とクライエントと社会生活）
【key words】
保護義務者の歴史、家族とその生活実態、家族の多様性、移住形態、家族の同居率、生活保障、就労状況
【授業概要】
保護義務者の歴史について説明するとともに、生活のしづらさなどに関する調査や患者調査を読み解き、精神障害者とその家族の暮らしについて理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第19回　精神保健福祉士の資格化に至る経緯
【key words】
精神医学ソーシャルワーカー協会の設立、Y問題、倫理綱領の規程の経緯、視覚化までの経緯
【授業概要】
精神保健福祉士の資格化に至る経緯について、歴史も踏まえつつ説明する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第20回　精神保健福祉の原理（原理及び価値）
【key words】
社会的復権と権利擁護、自己決定、当事者主体、社会正義、ごく当たり前の生活、倫理綱領
【授業概要】
精神保健福祉の原理及び価値について、倫理綱領を読み解きながら説明する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第21回　精神保健福祉の原理（観点・視点、関係性）
【key words】
人と環境の相互作用、生活者、エンパワメント、リカバリー、アンチスティグマ、ハームリダクション、加害者性、援助関係、間主観（相互主体性）、協働関係
【授業概要】
精神保健福祉の原理の観点、視点、関係性について説明し、専門職としての視点を会得してもらう。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第22回　精神保健福祉士の機能と役割（精神保健福祉士法）
【key words】
精神保健福祉士法制定と改訂の経緯、法の目的、定義、義務等の規定、社会福祉士法及び介護福祉士法と精神保健福祉士法との関係
【授業概要】
精神保健福祉士の機能と役割について精神保健福祉士法をもとに説明する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第23回　精神保健福祉士の機能と役割（精神保健福祉士の職業倫理）
【key words】
倫理綱領、倫理的ジレンマ、専門職団体の意義と役割
【授業概要】
精神保健福祉士の機能と役割について精神保健福祉士の倫理綱領をもとに説明する。また、実践において陥る可能性のある倫理的ジレンマについても事例をもとに理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第24回　精神保健福祉士の機能と役割（精神保健福祉士の業務特性①）
【key words】
価値、理念、視点、知識、技術による業務構成
【授業概要】
精神保健福祉の実践における価値、理念、視点、知識、技術による業務構成について説明を行い、事例をもとに討論する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

	【予習復習に必要な想定時間】 第25回　精神保健福祉士の機能と役割（精神保健福祉士の業務特性②） 【key words】 ミクロ・メゾ・マクロの連続性（包括的アプローチ） 【授業概要】 精神保健福祉士の実践におけるミクロ・メゾ・マクロの連続性（包括的アプローチ）について説明を行い、事例をもとに討論する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第26回　精神保健福祉士の機能と役割（精神保健福祉士の業務特性③） 【key words】 連携（多職種連携・多機関連携）における精神保健福祉士の役割 【授業概要】 精神保健福祉士の実践における連携（多職種連携・多機関連携）における精神保健福祉士の役割について説明を行い、事例をもとに討論する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第27回　精神保健福祉士の機能と役割（精神保健福祉士の職場・職域） 【key words】 配置状況（医療（病院・診療所）、福祉（障害福祉サービス等事業所）、行政（精神保健福祉センター・保健所・市町村・保護観察所）、教育、司法、産業等） 【授業概要】 精神保健福祉士の職場・職域について説明を行うとともに、各職場・職種の精神保健福祉士をお招きしてお話を伺う。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第28回　精神保健福祉士の機能と役割（精神保健福祉士の業務内容と業務指針①） 【key words】 精神保健福祉士の業務指針及び業務分類、指針に基づく業務の展開例 【授業概要】 精神保健福祉士の業務指針について説明を行う。また、想定される指針に基づく業務の展開例についても概説する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第29回　精神保健福祉士の機能と役割（精神保健福祉士の業務内容と業務指針②） 【key words】 精神保健福祉士の業務指針及び業務分類、指針に基づく業務の展開例 【授業概要】 想定される指針に基づく業務の展開例について事例をもとに討論する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第30回　後期まとめ 【key words】 後期まとめ 【授業概要】 後期の授業について振り返りを行う。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語・携帯電話の使用）は厳禁とする。 ・授業に疑問点や不明な点があれば、教員に対して質問をしても良い。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	・授業に臨むにあたって、次回のテーマに該当するテキストの該当箇所を一読して、予習をしておくこと。また、復習の時間は必ず設け、知識の習得や理解を深めることに時間をあてること。
オフィスアワー	月曜日４限（14:20～15:50）
評価方法	定期試験　50%／課題レポート　30%／授業への参画状況による評価（コメントカードの内容・出席状況・授業態度等）20%
教科書	精神保健福祉士養成講座『精神保健福祉の原理』（最新版）中央法規

参考書	授業時に紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： サービス・ラーニングⅢ　　授業コード： S2011

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	3年次	1単位(15)	選択
担当教員			
中越　信一・大島　由之			
基礎教養科目	演習		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 サービス・ラーニングⅠ・Ⅱで学び／実践した取り組みを踏まえ、個人又はグループ単位で興味関心に沿った実践活動への参加を通じ、目指す社会福祉・教育等の専門職としてのキャリアを形成すること、地域社会に生きる一市民としての社会人基礎力を養成することの2点を目的とする。 【到達目標】 ①地域社会にある課題と見つけ出し、その解決に向けた道筋を描き出すことができる。 ②課題解決に向けた具体的な地域貢献・社会貢献のための活動を調査・参加することができる。 ③参加した活動の中で、課題解決に向けた取り組みの提案・実践をすることができる。 ④実践を通じて得た学びから、専門職としてのキャリアを検討・発表することができる。
授業の概要	過去2年間の発展形にあたる本講義では、全学ディプロマポリシーである『地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践』を行う場として、年間を通じて個人またはグループでの実践活動を行う。 昨年度までの学びを踏まえ、個人またはグループにて年間を通じた地域での実践活動の計画を立案し、各自のペースで実践活動に継続的に参加し、学びを深めていく。前期後期を通じ、授業時間外での実践活動と授業時間内での実践活動とそこでの学びの共有を繰り返してゆく。最終的にはそれぞれの実践と，そこで得た学びを全体での報告会にて共有する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	履修希望者オリエンテーション 【key words】 サービス・ラーニング、ボランティアの活動の原則、目標設定 【授業概要】 全体で集合して実施する。 授業目的や到達目標、概要について説明し、スケジュールや成績評価の方法について確認を行う。その後、「受講を希望した理由」や「想定している継続的な活動の分野・活動先」、「継続的な活動と振り返りを通じて学びたい／伸ばしたい事柄」をまとめ、受講生間で共有を行う、 【教科書ページ・参考文献】 特になし 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「受講を希望した理由」・「想定している継続的な活動の分野・活動先」・「継続的な活動と振り返りを通じて学びたい／伸ばしたい事柄」についてまとめておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 15-30分（以下分単位）
	第２回	活動準備①実践活動に向けた留意事項、事務手続きの確認 【key words】 活動先の選定基準、態度・マナー、継続ボランティア事務手続き 【授業概要】 全体で集合して実施する。 学外での実践活動に向けた準備を行うにあたっての留意事項や事務手続きについて説明を行う。

		その後、事務手続きとして必要になる書類作成について演習を行う。 【教科書ページ・参考文献】 特になし 【課題・予習・復習・授業準備指示】 興味のあるボランティア活動や施設・機関に関して調べ、資料をプリントアウトして持参すること 【予習復習に必要な想定時間】 15-60
	第３回	活動準備②実践活動の依頼先検討 【key words】 活動先の選定基準、地域連携センター、情報収集 【授業概要】 全体で集合して実施する。 実践活動の依頼先について現時点の候補を挙げ、そこを候補とした理由や準備状況について確認・共有する。その後、下見を行う際の留意事項や電話のかけ方などの演習を行う。 【教科書ページ・参考文献】 特になし 【課題・予習・復習・授業準備指示】 活動実施を検討ている施設・機関に関して調べ、資料をプリントアウトして持参すること 【予習復習に必要な想定時間】 15-60
	第４回	活動準備③実践活動の依頼先検討 【key words】 継続ボランティア、地域連携センター 【授業概要】 学外での実践活動を行う依頼先について検討を行う。 すでに依頼を行う候補や見学先、活動先がある場合にはこの時限で依頼・見学・活動を行ってもよい。まだ依頼先の検討段階にある場合には、個別相談に応じる。 【教科書ページ・参考文献】 サービス・ラーニングⅢハンドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回準備：実践活動の依頼先候補とその施設・団体等を候補とした理由、そこで学びたいことについてまとめておく 【予習復習に必要な想定時間】 15-60
	第５回	活動準備④実践活動の依頼先の報告と共有 【key words】 継続ボランティア、地域連携センター 【授業概要】 全体で集合して実施する。 実践活動の依頼先について現時点の候補を挙げ、そこを候補とした理由や準備状況について確認・共有する。 その後、継続ボランティアとしての事務手続きを再確認し、年間活動計画について検討を行う、 【教科書ページ・参考文献】 特になし 【課題・予習・復習・授業準備指示】 5分程度のプレゼンテーションの準備（スクリーン提示資料、配布資料）の用意 【予習復習に必要な想定時間】 30-60
	第６回	活動準備報告会 【key words】 プレゼンテーション、目標設定、活動計画 【授業概要】 全体で集合して実施する。 実践活動の依頼先候補とそこでの活動計画、活動を通じて学びたいこと、実践活動に向けた準備状況についてプレゼンテーションを行い、お互いの興味関心や計画について理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 各自の配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特になし 【予習復習に必要な想定時間】
	第７回	活動準備④活動目標・活動計画の再確認 【key words】 継続ボランティア、活動目標、活動計画 【授業概要】 全体で集合して実施する。 夏季休業期間の様々な活動や各種資格の実習等を経て、前期に設定した活動目標や活動計画を再検討し、活動開始前の最終準備を行う。 【教科書ページ・参考文献】 サービス・ラーニングⅢハンドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1回の活動（またはそれまでの活動）についての報告書の作成 【予習復習に必要な想定時間】 15-60
	第８回	活動状況報告と共有① 【key words】 PDCAサイクル、ポートフォリオ、振り返り 【授業概要】 全体で集合して実施する。 第1回の活動（又はそれまでの活動）について、活動の内容、感じたこと、課題とその解決方法について報告し、共有を行う。 【教科書ページ・参考文献】

		ポートフォリオ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特になし 【予習復習に必要な想定時間】
	第９回	活動状況報告と共有②個別相談 【key words】 PDCAサイクル、ポートフォリオ、振り返り 【授業概要】 実践している活動に関する個別報告と実施に関する相談の機会とする。 実践活動が滞りなく進んでいる場合には、この時限で実践活動を行ってもよい。 【教科書ページ・参考文献】 ポートフォリオ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特になし 【予習復習に必要な想定時間】
	第１０回	活動状況報告と共有③ 【key words】 PDCAサイクル、ポートフォリオ、振り返り 【授業概要】 全体で集合して実施する。 それまでの活動について、活動の内容、感じたこと、課題とその解決方法について報告し、共有を行う。 また、目標達成やそれぞれの活動において自身の感じている課題についてお互い解決方法を検討する機会を設ける。 【教科書ページ・参考文献】 ポートフォリオ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自身の立てた目標達成に向けて感じている課題についてまとめておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 15-30
	第１１回	活動状況報告と共有④個別相談 【key words】 PDCAサイクル、ポートフォリオ、振り返り 【授業概要】 実践している活動に関する個別報告と課題達成に向けた相談の機会とする。 実践活動が滞りなく進んでいる場合には、この時限で実践活動を行ってもよい。 【教科書ページ・参考文献】 ポートフォリオ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特になし 【予習復習に必要な想定時間】
	第１２回	活動状況報告と共有③ 【key words】 PDCAサイクル、ポートフォリオ、振り返り 【授業概要】 全体で集合して実施する。 それまでの活動の終了を見越し、活動で得た学びや目標の達成状況、感じている課題とその解決方法について報告し、共有を行う。 また、終了手続きやお礼状の作成について説明を行う予定。 【教科書ページ・参考文献】 ポートフォリオ、サービスラーニングⅢハンドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特になし 【予習復習に必要な想定時間】
	第１３回	活動報告会に向けて① 【key words】 プレゼンテーション、目標達成の評価、課題の設定 【授業概要】 全体で集合して実施する。 最終15回で行う活動報告会の内容や作成予定の冊子について説明を行い、各自の準備に充てる。 特に、活動内容の紹介や目標達成の評価、さらなる課題の設定について解説を行う予定。 【教科書ページ・参考文献】 ポートフォリオ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 期間に送付するお礼状の下書きを完成させておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60-90
	第１４回	活動報告会に向けて②個別相談 【key words】 プレゼンテーション、目標達成の評価、課題の設定 【授業概要】 活動報告会に向けた準備と冊子の作成に関する個別対応と相談の機会とする。 準備が問題なく進んでいる場合には、この時限を各自の作業に充ててもよい。 【教科書ページ・参考文献】 ポートフォリオ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 最終報告会の準備を行うこと 【予習復習に必要な想定時間】 30-60
	第１５回	活動報告会 【key words】 プレゼンテーション

	【授業概要】 全体で集合して実施する。各自の成果報告を行う予定である。 【教科書ページ・参考文献】 発表資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 発表の感想を指定の書式で作成 【予習復習に必要な想定時間】 30-60
受講生に関わる情報および受講のルール	＜受講生に関わる情報＞ ・授業時間として設定された時限以外での個人またはグループでの活動が中心となるため、担当教員（グループの場合にはメンバー同士）との密な連絡と積極的な姿勢が求められる。 ・講義内外の活動ごとに、ポートフォリオへの記入や小レポートの作成、メールやウェブポータル上での報告を求める。各自が期限を厳守し、真摯な態度で臨むこと。 ・大学外での活動が中心となるため、実習に順ずる態度・身だしなみで取り組むこと。 ・わからないことなどがあれば、遠慮なく担当教員をはじめとした学内の教員、地域連携センターに相談をすること。一人で解決しようとせず、人に力を借りることも学ぶこと。 ＜受講のルール＞ ・遅刻／欠席については大学のルールに則り、教務課に連絡を行うこと。 ・担当教員との連絡、掲示板の確認を密に行うこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	毎回の授業後にウェブポータルのスレッド／アンケート、スプレッドシートなどを用いる予定
授業外時間にかかわる情報	・実践活動が主となる。地域連携センターや担当教員との連絡を密に行うこと。
オフィスアワー	授業内で案内する
評価方法	P/D評価である。ポートフォリオの作成・完成（50%）、定期的な報告での報告内容（25%）、最終報告（25%）で評価を行い、基準を超えた場合に単位を認定する。
教科書	別途指示
参考書	適宜紹介
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 地域福祉と包括的支援体制　　授業コード： S2091

英文科目名称： Community welfare and Comprehensive support system

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	4単位(60)	社会福祉コース・必修／福祉心理コース・学校教育コース・児童福祉コース・選択
担当教員			
安留　孝子			
専門科目	講義	社会福祉士・精神保健福祉士指定科目	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 様々な福祉サービスの実施主体が市町村へと移譲され、地域住民が主体となるまちづくり、地域福祉の推進が重要視されている。これらの活動の一翼を担う立場としてソーシャルワーク実践を理解する。また、社会福祉の実践を支える制度的な枠組みである福祉行政の組織と財政について理解する。従来の対処療法的福祉サービスから計画に基づいた福祉サービスを実施することの効果や、住民主体の福祉を展開するため福祉専門職として必要な知識を推考し修得する。さらに、包括的支援体制について理解し、ソーシャルワーカーの役割を理解する。 【到達目標】 ①地域福祉の基本的な考え方、展開、動向について理解する。 ②地域福祉における主体と対象を理解し、住民の主体形成の概念を理解する。 ③地域福祉を推進するための、福祉行財政の実施体制と果たす役割について理解する。 ④地域福祉計画をはじめとした福祉計画の意義・目的及び展開を理解する。 ⑤包括的支援体制の考え方と、多職種及び多機関協働の意義と実際について理解する。 ⑥地域生活課題の変化と現状を踏まえ、包括的支援体制における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割を理解する。
授業の概要	地域でのソーシャルワーク実践に伴う基本的視座及び理論の活用方法を学修し、受講者それぞれがソーシャルワーカーとしての基本的実践を「想定できる」レベルで獲得するとともに、少子高齢化の進展に伴う国等の政策の方向を正しく理解できる。集団や地域の捉え方に関する理論、地域ニーズの捉え方に関する視点、生活課題として表出する問題認識の視点を基にソーシャルワークの実践過程を学習する。福祉の制度や法制度の展開について時代背景と比較しつつ理解を深める。さらに、福祉サービスの基盤となる福祉行政の組織や財政との関連についても考察する。また、将来の動向を見据えた福祉サービスを推進するために何故福祉計画が必要か、計画の主体となるのは「行政組織なのか住民なのか」などについて考察する。包括的支援体制とは何かについて学習する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第1回	オリエンテーション、地域福祉の概念と理論 【key words】 地域福祉、福祉コミュニティ論、ボランティア、共生社会 【授業概要】 地域福祉の概念、地域福祉の構造と機能について学習する。福祉コミュニティ論や在宅福祉サービス論、ボランティア・市民活動論について学習する。共生社会とは何かについて学習する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストとノート（ルーズリーフ等）を準備しておく。 【予習復習に必要な想定時間】
	第2回	地域福祉の歴史 【key words】

		セツルメント、COS、社会福祉協議会、民生児童委員、社会福祉基礎構造改革、地域包括ケアシステム 【授業概要】 慈善事業から社会事業への変遷について学習する。わが国の戦後から今日の福祉事業の変遷について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 テキスト125～134ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキスト125～134ページまでを読んで、わからない用語は調べておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第3回	地域福祉の動向 【key words】 コミュニティソーシャルワーク、コミュニティサービス、地域再生、ケアリングコミュニティ 【授業概要】 地域福祉をめぐる歴史的動向について学習する。地域を基盤としたソーシャルワークの視点について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 テキスト135～138ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキスト135～138ページまでを読んで、わからない用語は調べておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第4回	地域福祉の推進主体 【key words】 地域自治体、市民活動、自治会、保護司、当事者組織、共同募金、企業 【授業概要】 地域福祉を推進していく役割が多岐に亘っていることを学習する。 【教科書ページ・参考文献】 テキスト139～148ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキスト139～148ページまでを読んで、わからない用語は調べておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第5回	地域福祉の主体と形成 【key words】 当事者、ボランティア、市民活動、住民自治、住民参加、福祉教育 【授業概要】 地域福祉の担い手はあくまでも住民であることを前提とし、組織化や福祉教育の在り方について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 テキスト149～156ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキスト149～156ページまでを読んで、わからない用語は調べておく。福祉教育のアイデアを考えておく。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第6回	福祉行財政システム　国の役割 【key words】 法廷受託事務、自治事務 【授業概要】 国と地方自治体の関係性について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 テキスト286～289ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキスト286～289ページまでを読んで、わからない用語は調べておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第7回	福祉行財政システム　都道府県の役割 【key words】 福祉行政の広域的調整、事業者の指導監督 【授業概要】 福祉行財政システムとしての、都道府県の役割について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 テキスト290、291ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキスト290、291ページを読んで、わからない用語は調べておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第8回	福祉行財政システム　市町村の役割 【key words】 サービス運営主体、条例、社会福祉協議会 【授業概要】 住民に身近な市町村の役割について学習する。条例とは何かについて学習する。市町村と社会福祉協議会が一体として進めていく福祉のあり方について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 テキスト292～295ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキスト292～1295ページまでを読んで、わからない用語は調べておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第9回	福祉行財政システム　国と地方の関係

【key words】
地方分権、地方自治、地域主権、地方創生
【授業概要】
地方分権が求められている背景を知り、地方自治体としての役割について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
テキスト296～300ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキスト296～300ページまでを読んで、わからない用語は調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第10回　福祉行政の組織及び専門職の役割

【key words】
福祉事務所、各相談所、地域包括支援センター、専門職
【授業概要】
行政機関における福祉事務所や児童相談所をはじめとする各相談所の役割とそこで働いている専門職の役割について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
テキスト301～311ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキスト301～311ページまでを読んで、わからない用語は調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第11回　福祉における財源

【key words】
公的財源、保険料財源、民間の財源
【授業概要】
福祉事業を進めていく上で必要な財源（税、保険料など）のあり方について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
テキスト312～323ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキスト312～323ページまでを読んで、わからない用語は調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第12回　福祉計画の意義・目的と展開

【key words】
福祉計画、福祉計画の種類
【授業概要】
行政が福祉を進めていく上で福祉計画が必要であることを学び、その内容について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
テキスト240～247ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキスト240～247ページまでを読んで、わからない用語は調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第13回　市町村地域福祉計画・都道府県地域福祉支援計画の内容

【key words】
市町村地域福祉計画、都道府県地域福祉支援計画、地域福祉活動計画
【授業概要】
市町村地域福祉計画と都道府県地域福祉支援計画の関係性、機能について学習する。市町村社会福祉協議会の地域福祉活動計画と市町村地域福祉計画の関係性について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
テキスト248～258ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキスト248～258ページまでを読んで、わからない用語は調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第14回　福祉計画の策定過程と方法

【key words】
課題把握・分析、協議と合意形成、パブリックコメント
【授業概要】
各福祉計画の策定するための課題把握・分析の方法、協議の場、住民との合意形成のあり方について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
テキスト259～267ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキスト259～267ページまでを読んで、わからない用語は調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第15回　福祉計画の実施と評価

【key words】
モニタリング、サービス評価、プログラム評価
【授業概要】
各福祉計画の実施状況のモニタリング方法、評価方法のあり方について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
テキスト268～283ページ

【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキスト268～283ページまでを読んで、わからない用語は調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第16回　地域社会の概念と理論

【key words】

		地域社会の概念、地域社会の理論 【授業概要】 岡村重夫をはじめとする地域社会をめぐるいくつかの概念と理論について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 テキスト116～124ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキスト116～124ページまでを読んで、わからない用語は調べておく。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第17回	地域社会の変化 【key words】 世帯、過疎化、都市化、地域格差、外国人住民 【授業概要】 地域社会のあり様の変化と今日的課題について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 テキスト11～30ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキスト11～30ページまでを読んで、わからない用語は調べておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第18回	多様化・複雑化した地域生活課題の現状とニーズ 【key words】 ひきこもり、ニート、8050問題、ダブルケア、依存症、多文化共生、自殺、災害 【授業概要】 家族問題とされていた課題を地域社会の課題として捉えることの重要性と多文化共生や災害支援など新たな地域社会の課題について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 テキスト20～30ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキスト20～30ページまでを読んで、わからない用語は調べておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第19回	地域福祉と社会的孤立 【key words】 社会的孤立、社会的排除、セルフネグレクト 【授業概要】 ゴミ屋敷、施設コンフリクト、元受刑者の社会的復帰などの事象から、社会的孤立や社会的排除、セルフネグレクトについて学習する。 【教科書ページ・参考文献】 テキスト31～36ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキスト31～36ページまでを読んで、わからない用語は調べておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第20回	包括的支援体制 【key words】 包括的支援体制 【授業概要】 地域包括的支援体制の考え方及び展開について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 テキスト55～60ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキスト55～60ページまでを読んで、わからない用語は調べておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第21回	地域包括ケアシステム 【key words】 地域包括ケアシステム、子育て世代包括支援センター 【授業概要】 地域包括ケアシステムの考え方と展開について学習する。子育て世代包括支援センターの役割と意義について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 テキスト38～43ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキスト38～43ページまでを読んで、わからない用語は調べておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第22回	生活困窮自立支援の考え方 【key words】 生活困窮者自立支援制度と理念、支援課程と方法と実際、伴走型支援 【授業概要】 生活困窮者自立支援制度の支援のあり方が従来の福祉支援のあり方とは異なることを学習する。 【教科書ページ・参考文献】 テキスト44～54ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキスト44～54ページまでを読んで、わからない用語は調べておく。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第23回	地域共生社会の実現に向けた各種施策 【key words】 多機関協働、圏域 【授業概要】

		地域共生社会の実現に向け、多機関協働による包括的支援体制や身近な圏域における相談支援体制について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 テキスト65～74ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキスト65～74ページまでを読んで、わからない用語は調べておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第24回	地域共生の実現に向けた多機関協働を促進する仕組み 【key words】 総合相談、多機関協働、協議会、地域ケア会議、地域包括支援センター運営協議会、要保護児童対策地域協議会、障害者自立支援協議会 【授業概要】 地域ケア会議、地域包括支援センター運営協議会、要保護児童対策地域協議会、障害者自立支援協議会などの実際を理解し、多機関協働を促進する仕組みについて学習する。 【教科書ページ・参考文献】 テキスト83～91ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキスト83～91ページまでを読んで、わからない用語は調べておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第25回	地域共生の実現に向けた多職種連携について 【key words】 多職種連携、ネットワーク、個人情報保護 【授業概要】 地域共生の実現に向けた保険、医療、福祉に関わる多職種連携のあり方について学習する。生活支援に関わるネットワークについて学習する。多職種連携における個人情報保護について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 テキスト92～103ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキスト92～103ページまでを読んで、わからない用語は調べておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第26回	地域共生の実現に向けた福祉以外の分野との機関協働の実際 【key words】 社会的企業、農福連携、観光・商工労働等との連携、地方創生 【授業概要】 地域共生社会の実現には福祉分野以外の参入が欠かせない。近年注目されている社会的企業や農福連携、観光・商工労働との連携、地方創生について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 テキスト104～114ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキスト104～114ページまでを読んで、わからない用語は調べておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第27回	非常時や災害時における法制度 【key words】 災害対策基本法、災害救助法、各自治体等の避難計画 【授業概要】 災害対策基本法や災害救助法について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 テキスト200～218ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキスト200～218ページまでを読んで、わからない用語は調べておく。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第28回	非常時や災害時における総合的かつ包括的な支援 【key words】 災害時要援護者支援、BCP(事業継続計画)、福祉避難所運営、災害ボランティア 【授業概要】 災害時におけるソーシャルワークのあり方について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 テキスト219～236ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキスト219～236ページまでを読んで、わからない用語は調べておく。 【予習復習に必要な想定時間】
	第29回	地域福祉ガバナンス 【key words】 ガバナンス、住民自治、プラットフォーム 【授業概要】 ガバナンスの考え方、多様化・複雑した課題と多機関協働の必要性、社会福祉法における包括的な支援体制づくり、住民の参加と協働、住民自治、プラットフォームの形成と運営について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 テキスト76～82ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキスト76～82ページまでを読んで、わからない用語は調べておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第30回	地域共生社会の構築 【key words】

	地域共生社会、地域力の強化、包括的支援体制 【授業概要】 地域共生社会の構築のあり方について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 テキスト第2章、第5章 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキスト第2章を復習し、第5章にも目を通しておく。これまでに学習した内容から、地域共生社会においてソーシャルワーカーが果たすべき役割について考えてくる。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
受講生に関わる情報および受講のルール	授業はテキストを中心に進めるが、必要に応じ講義の資料を配布する。予習した上で講義に臨むこと。授業中に生じた疑問はそのままにせず、まず自分で調べる、そして質問する等の行動に移すこと。毎週ではないが、授業内でグループを作り、学生同士でテキストをまとめたり、調べたりしたことを発表し合う（教え合う）時間を設ける。また、社会福祉士国家試験の過去問等を使用して、理解度を把握する時間を設ける。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	振り返りをGoogleフォームに記入する形式
授業外時間にかかわる情報	毎回の授業内容に関わるテキストの該当ページは、よく読んで、わからない用語は調べておく等の予習を行うこと。グループワークの準備のための予習が必要であるが、それをしていない場合、グループメンバーにも迷惑をかける行為になるため注意すること。
オフィスアワー	月曜2限
評価方法	筆記試験（前期・後期の期末テスト）概ね70%、各回の振り返り・考察、グループワークの準備・参加度概ね30%とし、総合的に評価する。
教科書	新・社会福祉士養成講座『地域福祉と包括的支援体制』(最新版)中央法規
参考書	ベンクト・ニィリエ（ハンソン友子　訳）（2008）『再考・ノーマライゼーションの原理』現代書館 広井良典（2009）『コミュニティを問い直す―つながり・都市・日本社会の未来』ちくま新書 勝部麗子（2016）『ひとりぼっちをつくらない』全国社会福祉協議会 早瀬昇（2018）『「参加の力」が創る共生社会』ミネルヴァ書房 日本社会福祉士会編（2018）『地域共生社会に向けたソーシャルワークー社会福祉士による実践事例から』 上野谷加代子・松端克文他編（2019）『よくわかる地域福祉』ミネルヴァ書房 藤井博志編（2019）『地域福祉のはじめかた』ミネルヴァ書房 広井良典（2019）『人口減少社会のデザイン』東洋経済新報社 加山弾・熊田博喜他（2020）『ストーリーで学ぶ地域福祉』有斐閣 上野谷加代子編（2020）『共生社会創造におけるソーシャルワークの役割―地域福祉実践の挑戦』ミネルヴァ書房 朝比奈ミカ・菊池馨実編（2021）『地域を変えるソーシャルワーカー』岩波書店　など その他、授業中に適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： ソーシャルワークの理論と方法（社福）　　授業コード： S2122

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	4単位(60)	社会福祉専攻・必修／子ども専攻・選択
担当教員			
松永　千惠子			
専門科目	講義	社会福祉士指定科目	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 クライエントは、身体上または精神上の障害や社会生活環境上の理由などから、実に多様な日常生活問題に直面しています。社会福祉士が、クライエントの主体性に力添えし、well-beingの増進をめざしてクライエントと協働する際に、その支援の中核となるのが相談援助活動です。これを適切に展開するためには、クライエントその人と置かれている状況の双方／全体を理解することで得られる根拠に基づく必要があります。本授業では、多岐にわたる実際のソーシャルワークで着目すべきことがらを理論的・方法論的な基礎として整理し、ていねいに確認していきます。 【到達目標】 ①社会福祉士として多様化・複雑化する課題に対応するため、より実践的かつ効果的なソーシャルワークの様々な理論と方法を理解する。 ②支援を必要とする人との援助関係の形成やニーズの掘り起こしを行うための、知識と技術について理解する。 ③社会資源の活用の意義を踏まえ、地域における社会資源の開発やソーシャルアクションについて理解する。 ④個別の事例の具体的な解決策及び事例の共通性や一般性を見出すための、事例分析の意義や方法を理解する。
授業の概要	本授業では、多岐にわたる実際のソーシャルワークで着目すべきことがらを理論的・方法論的な基礎として整理し講義する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	△
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	◎
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	◎
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画		
	第1回	援助構造、援助関係の定義、援助関係の意義と概念、援助の機能・役割 【key words】 援助関係、アウトリーチワーカー、アドボケーター、エンパワメント、ファシリテーター 【授業概要】 カデューシンの「関係の定義」を学ぶ。ソーシャルワーカーとクライエントシステムの関係について学ぶ。ジェネラリスト・ソーシャルワークにおけるソーシャルワークの役割について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第2回	援助関係の形成方法、関係とは、パターナイズム、均等性と公平性、ラポール、自己覚知、他者理解 【key words】 権威的ソーシャルワーカー、パターナリズム、均等性、ラポール、アタッチメント理論、転移、逆転移 【授業概要】 ソーシャルワーカーが権威的になることにより生じるパターナリズムについて学ぶ。援助関係で生じる転移、逆転移について学ぶ。ラポールを形成する上で重要な事を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第3回　面接の目的、面接の展開、面接技術、面接の形態

【key words】
面接の目的、面接の展開、面接技術、面接の形態

【授業概要】
専門職として面接の意義、目的、構造、方法、技法等について理解を深め、面接の展開の仕方を学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第4回　アウトリーチの必要性

【key words】
アウトリーチ、多問題家族

【授業概要】
アウトリーチの必要性、その対象、担う機能について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第5回　アウトリーチの具体的方法と留意点

【key words】
クライエントレベルでの対応、システムレベルでの対応、アウトリーチを可能にする要因、ニーズの掘り起こし

【授業概要】
アウトリーチの具体的方法、その範囲、留意点について学ぶ。アウトリーチによるニーズの掘り起こしについて学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第6回　社会資源の定義と目的

【key words】
フォーマルな社会資源　インフォーマルな社会資源　内的資源　肯定的自己概念

【授業概要】
ウェル・ビーンぐの具体的な側面に関わって援用しうる有形・無形の社会資源とは何か について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第7回　社会資源の活用と調整

【key words】
人と環境の相互作用　個人の力　環境の力　言語化　適応支援

【授業概要】
社会資源の活用とは、その資源のあてがい／ほどこしではない。各クライエントが自ら将来に眼を向けるための契機となるように、個別に調整された適応支援について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第8回　社会資源の開発及びソーシャルアクション

【key words】
社会資源の整備状況　再資源化　資源創出　アドヴォカシー機能　ソーシャルアクション

【授業概要】
質的にも量的にもより十分にクライエントへサービス提供するためには、支援者は、社会における資源整備の現状を認識し、社会資源の展開にも積極的に関与していくことになる。社会のさまざまなシステムへの働きかけや当事者の権利擁護のためのソーシャルアクションまで、その連続性について学ぶ。ソーシャルアクションの意義、目的、方法、留意点について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第9回　ネットワーキング

【key words】
ネットワーキング、セイフティーネット

【授業概要】
ネットワーキングの意義、目的、方法、留意点について学ぶ。セーフティーネットの機能とネットワーキングの関係性について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第10回　ミクロ・メゾ・マクロにおけるネットワーキング
【key words】
ネットワーキング
【授業概要】
家族や住民、サービス提供者間のネットワーキングについて学ぶ。ミクロ・メゾ・マクロにおけるネットワーキングについて学ぶ。多様な分野の支援機関とのネットワーキングについて学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第11回　コーディネーション
【key words】
コーディネーション
【授業概要】
コーディネーションの意義、目的、方法、留意点について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第12回　ネゴシエーション
【key words】
ネゴシエーション
【授業概要】
ネゴシエーションの意義、目的、方法、留意点について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第13回　ファシリテーション
【key words】
ファシリテーション
【授業概要】
ファシリテーションの意義、目的、方法、留意点について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第14回　プレゼンテーション
【key words】
プレゼンテーション
【授業概要】
プレゼンテーションの意義、目的、方法、留意点について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第15回　ケースカンファレンスの意義と目的
【key words】
ケースカンファレンス　サーベイランス　連携　共通理解　エビデンス・ベイスト
【授業概要】
相談援助実践課程における情報共有・役割分担・方針決定の場であるケースカンファレンスのあり方について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第16回　ケースカンファレンスの展開と運営
【key words】
カンファレンス委員　カンファレンス資料　個人情報保護　カンファレンススケジュール　カンファレンス進行
【授業概要】
ケースカンファレンスの開催の準備と進行について具体的に学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第17回　ケースカンファレンス　実例の読み解き
【key words】
ケースカンファレンスの評価　ケースカンファレンスの普遍化
【授業概要】
ケースカンファレンスでは何がテーマとなり、出席参加者が何を取り決めて、次の支援につなげていくのか、実例を読み解きながら理解を深める。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第18回　実例の研究と分析

【key words】
実例研究　エビデンス・ベイスド・プラクティス　アカウンタビリティ　研究デザイン　研究倫理
【授業概要】
担当事例の振り返りは、相談援助実践上の有用・重要な知見を生み、支援サービスの質を向上させる契機となる。研究倫理に則った事例検討・事例研究・事例分析のあり方について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第19回　総合的かつ包括的な支援の考え方　多様化、複雑化した生活課題への対応

【key words】
多様化、複雑化、生活課題
【授業概要】
多様化、複雑化した生活課題への対応の仕方について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第20回　総合的かつ包括的な支援の考え方　今日的な地域福祉課題への対応

【key words】
地域福祉課題
【授業概要】
今日的な地域福祉課題への対応の仕方について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第21回　総合的かつ包括的な支援の考え方　分野、領域を横断する支援

【key words】
横断的支援
【授業概要】
分野、領域を横断する支援の仕方について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第22回　家族支援の実際　家族が抱える総合的な生活課題

【key words】
家族支援　生活課題
【授業概要】
家族が抱える総合的な生活課題について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第23回　家族支援の実際　家族支援の目的、方法、留意点

【key words】
家族支援
【授業概要】
家族支援の目的、方法、留意点について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第24回　地域支援の実際　地域が抱える課題

【key words】
地域課題
【授業概要】
地域が抱える課題について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第25回　地域支援の実際　多機関協働

【key words】
多機関協働
【授業概要】

	地域支援を実践していく際の多機関協働について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第26回　地域支援の実際　地域アセスメント 【key words】 地域アセスメント 【授業概要】 地域支援を実践していく際の地域アセスメントの方法について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第27回　非常時や災害時の生活課題 【key words】 非常時、災害時 【授業概要】 非常時や災害時の生活課題について知り、ソーシャルワークの在り方について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第28回　非常時や災害時における支援 【key words】 非常時、災害時 【授業概要】 非常時や災害時における支援の目的、方法、留意点について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第29回　講義まとめ（第1回～第15回） 【key words】 まとめ 【授業概要】 第1回～第15回までのまとめを行う。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第30回　講義まとめ（第16回～第28回） 【key words】 まとめ 【授業概要】 第16回～第28回までのまとめを行う。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	チェック式のレジェメを用意する他、視覚的な板書を心がけますから、各自口頭説明も書き添えるなどノートはまめに取るようにして、さらに受講後一両日中の復習につなげて下さい。理解を助けるために、適宜事例を示していきます。仮に、欠席によって事例を聞き逃し、自分で指定教科書だけで内容を押さえようとしても、しばしば教科書の表現が難しいため、わかりづらいことがあります。欠席しないように十分注意して下さい。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	minute paper
授業外時間にかかわる情報	たとえば、皆さんは、ボランティア活動でいろいろな背景・ニーズをもったひと達と出会うでしょう。その機会には、与えられたその時の役割をこなすだけでなく、授業で取り上げた社会福祉士の観点と照らし合わせてそのひと達を理解しようと試みて下さい。それが、専攻学生としての資質と力量を向上させるトレーニングになるはずです。ただし、そのひと達に関して知り得たことについては、守秘義務を遵守することは必須です。 ★1回の授業に対して、概ね1.5時間以上の事前事後自主学習が必要です。
オフィスアワー	水曜日　15：00～16：00
評価方法	前期・後期学期末試験(85%)および授業への取り組み方(15%)で評定します。
教科書	日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『ソーシャルワークの理論と方［社会専門］』最新 社会福祉士養成講座　中央法規
参考書	「よくわかるソーシャルワーカーの倫理綱領」、学文社、2023.
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している

	具体的な実務経験の内容 福祉系大学を卒業後、障害者施設に勤務し、生活支援と相談支援を経験。専門は知的障害、発達障害。国立障害者リハビリテーションセンター学院の教員や国立重度知的障害者総合施設のぞみの園の研究員、研究科長を勤めた。社会福祉士、精神保健福祉士、保育士の国家資格を所持。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： ソーシャルワーク演習Ⅲ（社福②）　　授業コード：S2141　S2142　S2143　S2145

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	2単位(60)	社会福祉コース・必修／福祉心理コース・学校教育コース・児童福祉コース・諸島教育コース・選択
担当教員			
富沢　一央・安留　孝子・大久保　圭介・松永　尚樹　・石井　千麻			
専門科目	演習	社会福祉士指定科目	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 単位認定は別々に行うが、ソーシャルワーク演習Ⅱ（専門①）と連続している。 ①ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得する。②社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を養う。③支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について実践的に理解する。④地域の特性や課題を把握し解決するための、地域アセスメントや評価等の仕組みを実践的に理解する。⑤ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解する。⑥実習を通じて体験した事例について、事例検討や事例研究を実際に行い、その意義や方法を具体的に理解する。⑦実践の質の向上を図るため、スーパービジョンについて体験的に理解する。 【到達目標】 ①実習前段階のグループワーク（事例検討）において、事例に対する専門職としての実践方法を想定し言語化できる。 ②グループワークを通して、事例に関連する専門職としての実践方法及び多職種連携の在り方を導き出す事ができる。 ③実習後の事例研究を通して、専門職として必要な知識や技術について説明できる。 ④総合的かつ包括的援助の在り方について理解した上で、専門職を目指す上での自己アセスメントに基づく学習課題を明確化できる。 ⑤ジェネラリスト・ソーシャルワークの視点から特定の事例のソーシャルワーク展開過程について想定し、アセスメントや支援計画作成ができる。
授業の概要	グループワークでの事例検討を行い、ソーシャルワーカーとしての技術や価値観を修得し、知識の統合を図る。 実習後は、受講者自身の実習体験を基に事例研究をおこない、ソーシャルワーカーとしての技術及び知識の向上と統合を図る。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	◎
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	△
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第1回　オリエンテーション　授業の進め方　授業に参加する上での注意事項　評価方法 【key words】 シラバス、社会福祉士実習 【授業概要】 本授業の進め方や参加する上での注意事項について説明する 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第2回　社会問題を基盤とした相談援助就労支援　退院支援の相談援助

【key words】
医療ソーシャルワーク、退院促進支援、在宅支援、就労支援
【授業概要】
【授業概要】
就労支援及び退院支援に関する事例を元に制度の活用法や相談援助の方略について学ぶ。
【取り扱う事例の例】
・障害・児童・虐待（児童・障害者・高齢者等）・ひきこもり・貧困・認知症・終末期ケア・災害時・その他の危機状態にある事例（権利擁護活動を含む）、依存症など
【関連技術】
・アウトリーチ・チームアプローチ・ネットワーキング・コーディネーション・ネゴシエーション・ファシリテーション・プレゼンテーション・ソーシャルアクション
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第3回　社会問題を基盤とした相談援助就労支援　退院支援の相談援助

【key words】
医療ソーシャルワーク、退院促進支援、在宅支援、就労支援
【授業概要】
【授業概要】
就労支援及び退院支援に関する事例を元に制度の活用法や相談援助の方略について学ぶ。
【取り扱う事例の例】
・障害・児童・虐待（児童・障害者・高齢者等）・ひきこもり・貧困・認知症・終末期ケア・災害時・その他の危機状態にある事例（権利擁護活動を含む）、依存症など
【関連技術】
・アウトリーチ・チームアプローチ・ネットワーキング・コーディネーション・ネゴシエーション・ファシリテーション・プレゼンテーション・ソーシャルアクション
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第4回　社会問題を基盤とした相談援助就労支援　退院支援の相談援助

【key words】
医療ソーシャルワーク、退院促進支援、在宅支援、就労支援
【授業概要】
【授業概要】
就労支援及び退院支援に関する事例を元に制度の活用法や相談援助の方略について学ぶ。
【取り扱う事例の例】
・障害・児童・虐待（児童・障害者・高齢者等）・ひきこもり・貧困・認知症・終末期ケア・災害時・その他の危機状態にある事例（権利擁護活動を含む）、依存症など
【関連技術】
・アウトリーチ・チームアプローチ・ネットワーキング・コーディネーション・ネゴシエーション・ファシリテーション・プレゼンテーション・ソーシャルアクション
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第5回　社会問題を基盤とした相談援助虐待　DVの相談援助

【key words】
プライバシーの保護、児童相談所、婦人保護施設
【授業概要】
【授業概要】
虐待及びDVに関する事例を元に制度の活用法や相談援助の方略について学ぶ。
【取り扱う事例の例】
・障害・児童・虐待（児童・障害者・高齢者等）・ひきこもり・貧困・認知症・終末期ケア・災害時・その他の危機状態にある事例（権利擁護活動を含む）、依存症など
【関連技術】
・アウトリーチ・チームアプローチ・ネットワーキング・コーディネーション・ネゴシエーション・ファシリテーション・プレゼンテーション・ソーシャルアクション
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第6回　社会問題を基盤とした相談援助虐待　DVの相談援助

【key words】
プライバシーの保護、児童相談所、婦人保護施設
【授業概要】
【授業概要】
虐待及びDVに関する事例を元に制度の活用法や相談援助の方略について学ぶ。
【取り扱う事例の例】
・障害・児童・虐待（児童・障害者・高齢者等）・ひきこもり・貧困・認知症・終末期ケア・災害時・その他の危機状態にある事例（権利擁護活動を含む）、依存症など
【関連技術】
・アウトリーチ・チームアプローチ・ネットワーキング・コーディネーション・ネゴシエーション・ファシリテーション・プレゼンテーション・ソーシャルアクション
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第7回　社会問題を基盤とした相談援助虐待　DVの相談援助
【key words】
プライバシーの保護、児童相談所、婦人保護施設
【授業概要】
【授業概要】
虐待及びDVに関する事例を元に制度の活用法や相談援助の方略について学ぶ。
【取り扱う事例の例】
・障害・児童・虐待（児童・障害者・高齢者等）・ひきこもり・貧困・認知症・終末期ケア・災害時・その他の危機状態にある事例（権利擁護活動を含む）、依存症など
【関連技術】
・アウトリーチ・チームアプローチ・ネットワーキング・コーディネーション・ネゴシエーション・ファシリテーション・プレゼンテーション・ソーシャルアクション
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第8回　対象者別にみた相談援助について　低所得者・ホームレスの相談援助
【key words】
生活保護法、生活困窮者自立支援法、生活保護の原理・原則
【授業概要】
【授業概要】
低所得者・ホームレスに関する事例を元に制度の活用法や相談援助の方略について学ぶ。
【取り扱う事例の例】
・障害・児童・虐待（児童・障害者・高齢者等）・ひきこもり・貧困・認知症・終末期ケア・災害時・その他の危機状態にある事例（権利擁護活動を含む）、依存症など
【関連技術】
・アウトリーチ・チームアプローチ・ネットワーキング・コーディネーション・ネゴシエーション・ファシリテーション・プレゼンテーション・ソーシャルアクション
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第9回　対象者別にみた相談援助について　低所得者・ホームレスの相談援助
【key words】
生活保護法、生活困窮者自立支援法、生活保護の原理・原則
【授業概要】
【授業概要】
低所得者・ホームレスに関する事例を元に制度の活用法や相談援助の方略について学ぶ。
【取り扱う事例の例】
・障害・児童・虐待（児童・障害者・高齢者等）・ひきこもり・貧困・認知症・終末期ケア・災害時・その他の危機状態にある事例（権利擁護活動を含む）、依存症など
【関連技術】
・アウトリーチ・チームアプローチ・ネットワーキング・コーディネーション・ネゴシエーション・ファシリテーション・プレゼンテーション・ソーシャルアクション
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第10回　対象者別にみた相談援助について　低所得者・ホームレスの相談援助
【key words】
生活保護法、生活困窮者自立支援法、生活保護の原理・原則
【授業概要】
【授業概要】
低所得者・ホームレスに関する事例を元に制度の活用法や相談援助の方略について学ぶ。
【取り扱う事例の例】
・障害・児童・虐待（児童・障害者・高齢者等）・ひきこもり・貧困・認知症・終末期ケア・災害時・その他の危機状態にある事例（権利擁護活動を含む）、依存症など
【関連技術】
・アウトリーチ・チームアプローチ・ネットワーキング・コーディネーション・ネゴシエーション・ファシリテーション・プレゼンテーション・ソーシャルアクション
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第11回　対象者別にみた相談援助について高齢者への相談援助
【key words】
高齢者虐待防止法、ケアマネジメント、認知症、レスパイトケア
【授業概要】
【授号概要】
高齢者に関する事例を元に制度の活用法や相談援助の方略について学ぶ。
【取り扱う事例の例】
・障害・児童・虐待（児童・障害者・高齢者等）・ひきこもり・貧困・認知症・終末期ケア・災害時・その他の危機状態にある事例（権利擁護活動を含む）、依存症など
【関連技術】
・アウトリーチ・チームアプローチ・ネットワーキング・コーディネーション・ネゴシエーション・ファシリテーション・プレゼンテーション・ソーシャルアクション
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第12回　対象者別にみた相談援助について高齢者への相談援助

【key words】
高齢者虐待防止法、ケアマネジメント、認知症、レスパイトケア
【授業概要】
【授号概要】
高齢者に関する事例を元に制度の活用法や相談援助の方略について学ぶ。
【取り扱う事例の例】
・障害・児童・虐待（児童・障害者・高齢者等）・ひきこもり・貧困・認知症・終末期ケア・災害時・その他の危機状態にある事例（権利擁護活動を含む）、依存症など
【関連技術】
・アウトリーチ・チームアプローチ・ネットワーキング・コーディネーション・ネゴシエーション・ファシリテーション・プレゼンテーション・ソーシャルアクション
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第13回　対象者別にみた相談援助について高齢者への相談援助

【key words】
高齢者虐待防止法、ケアマネジメント、認知症、レスパイトケア
【授業概要】
【授号概要】
高齢者に関する事例を元に制度の活用法や相談援助の方略について学ぶ。
【取り扱う事例の例】
・障害・児童・虐待（児童・障害者・高齢者等）・ひきこもり・貧困・認知症・終末期ケア・災害時・その他の危機状態にある事例（権利擁護活動を含む）、依存症など
【関連技術】
・アウトリーチ・チームアプローチ・ネットワーキング・コーディネーション・ネゴシエーション・ファシリテーション・プレゼンテーション・ソーシャルアクション
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第14回　対象者別にみた相談援助について　障害者への相談援助

【key words】
障害者総合支援法、　障害特性、個別支援計画
【授業概要】
【授号概要】
障害者に関する事例を元に制度の活用法や相談援助の方略について学ぶ。
【取り扱う事例の例】
・障害・児童・虐待（児童・障害者・高齢者等）・ひきこもり・貧困・認知症・終末期ケア・災害時・その他の危機状態にある事例（権利擁護活動を含む）、依存症など
【関連技術】
・アウトリーチ・チームアプローチ・ネットワーキング・コーディネーション・ネゴシエーション・ファシリテーション・プレゼンテーション・ソーシャルアクション
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第15回　対象者別にみた相談援助について　障害者への相談援助

【key words】
障害者総合支援法、　障害特性、個別支援計画
【授業概要】
【授号概要】
障害者に関する事例を元に制度の活用法や相談援助の方略について学ぶ。
【取り扱う事例の例】
・障害・児童・虐待（児童・障害者・高齢者等）・ひきこもり・貧困・認知症・終末期ケア・災害時・その他の危機状態にある事例（権利擁護活動を含む）、依存症など
【関連技術】
・アウトリーチ・チームアプローチ・ネットワーキング・コーディネーション・ネゴシエーション・ファシリテーション・プレゼンテーション・ソーシャルアクション
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第16回　対象者別にみた相談援助について　障害者への相談援助

【key words】
障害者総合支援法、　障害特性、個別支援計画
【授業概要】
【授号概要】
障害者に関する事例を元に制度の活用法や相談援助の方略について学ぶ。
【取り扱う事例の例】
・障害・児童・虐待（児童・障害者・高齢者等）・ひきこもり・貧困・認知症・終末期ケア・災害時・その他の危機状態にある事例（権利擁護活動を含む）、依存症など
【関連技術】
・アウトリーチ・チームアプローチ・ネットワーキング・コーディネーション・ネゴシエーション・ファシリテーション・プレゼンテーション・ソーシャルアクション

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第17回　成年後見制度と相談援助

【key words】
未成年後見人、成年後見人、身上監護
【授業概要】
【授業概要】
成年後見制度と相談援助に関する事例を元に制度の活用法や相談援助の方略について学ぶ。
【取り扱う事例の例】
・障害・児童・虐待（児童・障害者・高齢者等）・ひきこもり・貧困・認知症・終末期ケア・災害時・その他の危機状態にある事例（権利擁護活動を含む）、依存症など
【関連技術】
・アウトリーチ・チームアプローチ・ネットワーキング・コーディネーション・ネゴシエーション・ファシリテーション・プレゼンテーション・ソーシャルアクション
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第18回　成年後見制度と相談援助

【key words】
未成年後見人、成年後見人、身上監護
【授業概要】
【授業概要】
成年後見制度と相談援助に関する事例を元に制度の活用法や相談援助の方略について学ぶ。
【取り扱う事例の例】
・障害・児童・虐待（児童・障害者・高齢者等）・ひきこもり・貧困・認知症・終末期ケア・災害時・その他の危機状態にある事例（権利擁護活動を含む）、依存症など
【関連技術】
・アウトリーチ・チームアプローチ・ネットワーキング・コーディネーション・ネゴシエーション・ファシリテーション・プレゼンテーション・ソーシャルアクション
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第19回　成年後見制度と相談援助

【key words】
未成年後見人、成年後見人、身上監護
【授業概要】
【授業概要】
成年後見制度と相談援助に関する事例を元に制度の活用法や相談援助の方略について学ぶ。
【取り扱う事例の例】
・障害・児童・虐待（児童・障害者・高齢者等）・ひきこもり・貧困・認知症・終末期ケア・災害時・その他の危機状態にある事例（権利擁護活動を含む）、依存症など
【関連技術】
・アウトリーチ・チームアプローチ・ネットワーキング・コーディネーション・ネゴシエーション・ファシリテーション・プレゼンテーション・ソーシャルアクション
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第20回　苦情解決の対処法

【key words】
苦情解決責任者、第三者委員、事業報告書
【授業概要】
【授業概要】
相談援助の場面において生じた苦情の対処方法について、事例を介して学ぶ。
【取り扱う事例の例】
・障害・児童・虐待（児童・障害者・高齢者等）・ひきこもり・貧困・認知症・終末期ケア・災害時・その他の危機状態にある事例（権利擁護活動を含む）、依存症など
【関連技術】
・アウトリーチ・チームアプローチ・ネットワーキング・コーディネーション・ネゴシエーション・ファシリテーション・プレゼンテーション・ソーシャルアクション
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第21回　苦情解決の対処法

【key words】
苦情解決責任者、第三者委員、事業報告書
【授業概要】
【授業概要】
相談援助の場面において生じた苦情の対処方法について、事例を介して学ぶ。
【取り扱う事例の例】
・障害・児童・虐待（児童・障害者・高齢者等）・ひきこもり・貧困・認知症・終末期ケア・災害時・その他の危機状態にある事例（権利擁護活動を含む）、依存症など
【関連技術】

・アウトリーチ・チームアプローチ・ネットワーキング・コーディネーション・ネゴシエーション・ファシリテーション・プレゼンテーション・ソーシャルアクション
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第22回　実習での学びを基に事例検討学生が選んだテーマでグループディスカッション
【key words】
事例を提供する学生が自ら受講生らに提示
【授業概要】
【授業概要】
実習で体験した事例を元にグループディスカッションを行う。
ソーシャルワークに係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的かつ学術的な知識及び技術として習得できるよう、集団指導並びに個別指導による実技指導を行う。事例検討を行い、スーパービジョン（個別・ピア）を実施する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第23回　実習での学びを基に事例検討学生が選んだテーマでグループディスカッション
【key words】
事例を提供する学生が自ら受講生らに提示
【授業概要】
【授業概要】
実習で体験した事例を元にグループディスカッションを行う。
ソーシャルワークに係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的かつ学術的な知識及び技術として習得できるよう、集団指導並びに個別指導による実技指導を行う。事例検討を行い、スーパービジョン（個別・ピア）を実施する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第24回　実習での学びを基に事例検討学生が選んだテーマでグループディスカッション
【key words】
事例を提供する学生が自ら受講生らに提示
【授業概要】
【授業概要】
実習で体験した事例を元にグループディスカッションを行う。
ソーシャルワークに係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的かつ学術的な知識及び技術として習得できるよう、集団指導並びに個別指導による実技指導を行う。事例検討を行い、スーパービジョン（個別・ピア）を実施する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第25回　実習での学びを基に事例検討学生が選んだテーマでグループディスカッション
【key words】
事例を提供する学生が自ら受講生らに提示
【授業概要】
【授業概要】
実習で体験した事例を元にグループディスカッションを行う。
ソーシャルワークに係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的かつ学術的な知識及び技術として習得できるよう、集団指導並びに個別指導による実技指導を行う。事例検討を行い、スーパービジョン（個別・ピア）を実施する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第26回　実習での学びを基に事例検討学生が選んだテーマでグループディスカッション
【key words】
事例を提供する学生が自ら受講生らに提示
【授業概要】
【授業概要】
実習で体験した事例を元にグループディスカッションを行う。
ソーシャルワークに係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的かつ学術的な知識及び技術として習得できるよう、集団指導並びに個別指導による実技指導を行う。事例検討を行い、スーパービジョン（個別・ピア）を実施する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第27回　実習での学びを基に事例検討学生が選んだテーマでグループディスカッション
【key words】
事例を提供する学生が自ら受講生らに提示
【授業概要】
【授業概要】

	実習で体験した事例を元にグループディスカッションを行う。 ソーシャルワークに係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的かつ学術的な知識及び技術として習得できるよう、集団指導並びに個別指導による実技指導を行う。事例検討を行い、スーパービジョン（個別・ピア）を実施する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第28回　実習での学びを基に事例検討学生が選んだテーマでグループディスカッション 【key words】 事例を提供する学生が自ら受講生らに提示 【授業概要】 【授業概要】 実習で体験した事例を元にグループディスカッションを行う。 ソーシャルワークに係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的かつ学術的な知識及び技術として習得できるよう、集団指導並びに個別指導による実技指導を行う。事例検討を行い、スーパービジョン（個別・ピア）を実施する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第29回　実習での学びを基に事例検討学生が選んだテーマでグループディスカッション 【key words】 事例を提供する学生が自ら受講生らに提示 【授業概要】 【授業概要】 実習で体験した事例を元にグループディスカッションを行う。 ソーシャルワークに係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的かつ学術的な知識及び技術として習得できるよう、集団指導並びに個別指導による実技指導を行う。事例検討を行い、スーパービジョン（個別・ピア）を実施する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第30回　演習まとめ 【key words】 第1～第29回までに用いたkey words 【授業概要】 相談援助演習Ⅲでこれまで学習してきた内容についてのまとめを行う。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	（1）履修上の注意 本演習は、各種専門科目の応用である事を自覚し専門技術の獲得に向けてグループワーク等に積極的に参加すること。グループワークを行うため遅刻・欠席厳禁 （2）学習上の助言 社会福祉専門職として必要な実践能力を修得するためには、自ら考え、気づくことが重要である。 （3）予備知識や技能 「ソーシャルワークの基盤と専門職」「ソーシャルワークの理論と方法」を始めとする各種専門科目の応用であり、それらの講義科目で得た知識と関わりが深い内容である。復習をしっかり行うこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	実習を考慮し、各種制度やサービス提供機関の理解、ソーシャルワークの専門技術について復習しておく。
オフィスアワー	各教員より授業時に伝える
評価方法	試験またはレポート（40%）、提出物・リアクションペーパー・課題への取り組み（60%）
教科書	社会福祉士養成講座編集委員会編　『ソーシャルワーク演習　（社会専門）』　中央法規出版
参考書	社会福祉小六法　社会福祉用語辞典（出版社は指定しないが、最新版のもの）
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 特別養護老人ホームの生活相談員を10年経験し、現在も遠隔による相談援助を実践している。 高齢者デイサービスや地域交流拠点「地域の小さな居場所」における3年間の相談援助の経験に加え、2012年より、海外（インドネシア共和国）の地域保健・福祉活動のスーパーバイザーとして、青少年や高齢者等の住民や活動の担い手の支援を行っている。 介護老人保健施設の生活相談員を経験 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク

	■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： ソーシャルワーク実習指導Ⅱ（社福）　　授業コード：S2161　S2162　S2163　S2165

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	2単位(60)	社会福祉コース・必修／福祉心理コース・学校教育コース・児童福祉コース・選択
担当教員			
富澤　一央・安留　孝子・松永　尚樹　・大久保　圭介・石井　千麻			
専門科目	演習	社会福祉士指定科目	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 単位認定は別々に行うが、ソーシャルワーク実習指導Ⅰと連続している。 ①ソーシャルワーク実習の意義について理解する。②社会福祉士として求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を養う。③ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基礎的な能力を習得する。④実習を振り返り、実習で得た具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる総合的な能力を涵養する。 【到達目標】 ①社会福祉士（ソーシャルワーカー）の役割、業務内容等を含めた専門性について説明できる。 ②実習体験を振り返り、ジェネラリスト・ソーシャルワークの視点から支援のあり方を説明できる。 ③実習体験を自己省察し、自身の課題解決方法を想定できる。
授業の概要	前期は、「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」を引き継ぎ、ソーシャルワーク実習の意義・目的等について再確認すると共に、実習先に関する情報収集（根拠法・関連制度・利用対象者及びニーズ等）を行い、知識を深めることを主眼とする。また、問題・関心事項の具体化、実習動機・実習課題の明確化を図るなかで、「実習計画書」等の作成を試み、加えて、実習に関する諸事項、実習関係書類の書き方等の伝達を通じ、実習に対する意識付けを行う。 　後期は、実習報告書等の作成を通して実習を振り返り、そのうえで、担当教員による個別指導のもと相談援助実習総括レポートを作成する。 　なお、本科目は「ソーシャルワーク実習Ⅰ（社福）」と「ソーシャルワーク実習Ⅱ（社福）」の両方の指導を行う。 【ソーシャルワーク実習指導Ⅰ及び同Ⅱにおいて実施する内容】 次に掲げる事項について個別指導及び集団指導を行うものとする。①実習及び実習指導の意義（スーパービジョン含む。）②多様な施設や事業所における現場体験学習や見学実習③実際に実習を行う実習分野（利用者理解含む。）と施設・機関、地域社会等に関する基本的な理解④実習先で関わる他の職種の専門性や業務に関する基本的な理解⑤実習先で必要とされるソーシャルワークの価値規範と倫理・知識及び技術に関する理解⑥実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等の理解⑦実習記録への記録内容及び記録方法に関する理解⑧実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成及び実習後の評価⑨巡回指導⑩実習体験や実習記録を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成⑪実習の評価及び全体総括会

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第1回　前期オリエンテーション　授業方法と留意事項　実習先の確認 【key words】 実習前学習　実習への心構え 【授業概要】 今年度の実習指導Ⅱ・実習の流れの説明

		各学生の状況確認 実習指導Ⅱ・実習の評価方法 事前学習一環として行った春休み見学実習及びボランティアの記録の提出 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第2回	実習の意義と目的の理解（事前学習の理解・事前学習の課題と学習方法） 【key words】 課題の発見　実習計画書　ソーシャルワーク実習 【授業概要】 見学実習及び事前ボランティアを行う中で自分自身の課題と相談員として学ぶべきことは何かを考える。その学ぶべきことはどのようにしたら実習で学べるのか文章にしていく。 学習の方法をグループで話し合う。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第3回	実習体験者（先輩）の講話（実習への心構え・事前学習の必要性） 【key words】 実習課題　実習の留意点　実習計画 【授業概要】 各種別に分かれ、先輩の実習体験談を聞き、不安に感じてることを質問し解消する機会とする。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第4回	実習先機関・施設の基本的理解（設置根拠、業務内容、組織、利用者のニーズ、職員と業務内容） 【key words】 根拠法令　ニーズ　業務内容　多職種連携 【授業概要】 各実習先がどのような法令に基づいているのかを調べ、実習先の役割を知る。グループワークを行い施設・機関での社会福祉士の業務と多職種との関りを話し合い、発表する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第5回	ソーシャルワーク実習資格試験 【key words】 社会福祉士　コミュニケーション 【授業概要】 実習に向けた基礎知識や実習生としての態度に対して試験を行う。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第6回	実習受け入れ体制の理解（実習指導者の講話） 【key words】 実習を行うための心得 【授業概要】 実習指導者より実習生に期待することについて講話をいただき、相談援助実習を行うための心構えと実習において何を学びたいのかを考える機会にする。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第7回	実習プログラムの理解（実習委託契約書の理解） 【key words】 契約書　合意書 【授業概要】 委託契約書と合意書の内容を講義し、実習生として遵守しなければならない事項を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第8回	実習計画書作成の理解（実習の目的・実習先選定の動機） 【key words】 実習計画書　職場実習　職種実習　ソーシャルワーク実習 【授業概要】 実習計画書と各段階（職場実習・職種実習・ソーシャルワーク実習）の実習で行うことを講義し、自分の課題がどの段階で学べるのかを考え実習計画に取り入れていく。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第9回　実習計画書作成の理解（実習の目標・実習課題）
【key words】
実習計画書　職場実習　職種実習　ソーシャルワーク実習
【授業概要】
ワークシートを通して実習を通して学ばなければならないことを文章化し実習計画書を作成する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第10回　実習計画書作成の理解　＊「実習計画書」の完成、＊「実習生紹介票」、「誓約書」
【key words】
実習計画書　実習生紹介票　誓約書
【授業概要】
実習生紹介票と誓約書の講義を行い、実習計画書、実習生紹介票、誓約書を完成させる。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第11回　実習プログラムの理解
【key words】
職場実習　職種実習　ソーシャルワーク実習
【授業概要】
実習目標ワークシートと実習計画書をもとに23日間ある実習の課題と毎日の目標を考える。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第12回　事前訪問（事前オリエンテーション）の理解（連絡方法・挨拶・身だしなみ・訪問の目的と確認事項）
【key words】
事前オリエンテーション　実習中の諸注意
【授業概要】
事前オリエンテーションの意義、目的に対して講義を行う。オリエンテーションで確認してくる事項、アポイントの取り方についてグループワークを行う。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第13回　記録方法の理解①（実習記録）
【key words】
実習日誌の目的　実習日誌の書き方
【授業概要】
実習日誌の例を読み、自分ならこのように書くと思われる箇所に赤で修正を加える。近くの学生と修正した日誌を見せ合い、意見を分かち合う。出た意見を発表し全体で分かち合う。
自分が書いた日誌を参考に利用者とのかかわりを思い出し、実習時にどのように日誌を書くのかを考えワークシートにまとめる。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第14回　実習生に求められる基本姿勢の理解（職業倫理、権利擁護、プライバシーの保護、守秘義務、礼儀作法、健康管理）
【key words】
実習生としての態度　個人情報保護　守秘義務
【授業概要】
実習の場面を想定したワークシートを使用し、実習生としてどのように答えるのか、どのような行動を取るのか考える。考えた内容を発表し全員で分かち合う。
個人情報の管理方法、SNSの使用について講義を行う。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第15回　オリエンテーション　学長訓話　学部長講和　巡回指導及び帰学日指導等
【key words】
実習プログラム　巡回指導　帰学日指導　PDCAサイクル
【授業概要】
実習に向けて学長より訓話、学部長より講話を頂く。
実習オリエンテーションで渡された実習プログラムを使用し、実習の内容や学ぶべき事を考える。
PDCAサイクルを使用し、実習中は実習計画の実行、評価、改善、計画を行いながら実習を行う。
巡回指導、帰学日指導について講話をし日程を確認する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第16回　記録方法の理解　実習報告書、実習レポート等　令状作成

【key words】
実習報告書　実習レポート
【授業概要】
行ってきた実習の振り返りとして報告書を作成する。
実習レポートと実習プログラム表について説明を行い作成する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第17回　実習評価の理解　自己評価

【key words】
実習評価表　自己評価
【授業概要】
実習評価表の説明を行い、行ってきた実習に対して振り返り、自分自身で評価を行う。
どのようなことができなかったのか、理由を考え、課題として行く。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第18回　実習評価の理解　実習先評価　実習指導者の講評

【key words】
実習評価
【授業概要】
実習先から送られてきた評価表と自分の評価表を比較し、どのような差があったのか、なぜそのようになったのか理由を考え、課題とし、これから何を学習していくのかを考える。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第19回　実習の振り返り（事前学習＊グループ討議と発表）

【key words】
実習事前学習
【授業概要】
実習を行って、事前学習でやっていて良かった点、どのように役立ったのか、事前学習でもっとやっておけば良かった点、どのような場面でそのように思ったのか、それをどのように勉強したのかグループで話し合い、発表し分かち合う。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第20回　実習の振り返り（自己理解、自己覚知、職業倫理＊グループ討議と発表）

【key words】
自己覚知
【授業概要】
実習中の自分自身が自己覚知で来た場面を振り返る。これから支援を行う中でどのように生かしていけるのか、また、他の人の意見を聞き自分自身はどのように考えるのか自己覚知を行い、グループで話し合い、発表する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第21回　実習の振り返り（クライエントとの関わり、職員との関わり＊グループ討議と発表）

【key words】
コミュニケーション
【授業概要】
実習を振り返り、実習中にクライエントや職員との関わりで苦労した点を挙げ、自分がどのように対応したのかロールプレイを行い、クライエントの気持ちを理解する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第22回　実習後の個別スーパービジョン　実習レポート等の作成

【key words】
実習評定表　自己評定表　実習指導者の講評
【授業概要】
実習先からの実習評定表、自己評定表、実習指導者の講評を基に個別に実習を振り返る。実習での学びについて実習レポート作成
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

	第23回	実習後の個別スーパービジョン　実習レポート等の作成 【key words】 実習評定表　自己評定表　実習指導者の講評 【授業概要】 実習先からの実習評定表、自己評定表、実習指導者の講評を基に個別に実習を振り返る。実習での学びについて実習レポート作成 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第24回	実習後の個別スーパービジョン　実習レポート等の作成 【key words】 実習評定表　自己評定表　実習指導者の講評 【授業概要】 実習先からの実習評定表、自己評定表、実習指導者の講評を基に個別に実習を振り返る。実習での学びについて実習レポート作成 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第25回	実習の総括（※実習レポート等の完成） 【key words】 実習評定表　自己評定表　実習指導者の講評 【授業概要】 実習先からの実習評定表、自己評定表、実習指導者の講評を基に個別に実習を振り返る。実習での学びについて実習レポート作成し提出する。 実習プログラム表も提出する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第26回	実習総括（クラス内実習報告会・プレゼンテーション技術）／「ソーシャルワーク実習Ⅱ（社福）」実習計画書・自己紹介票等作成 【key words】 実習の成果　自己覚知　社会福祉士 【授業概要】 作成したレポートとパワーポイントを使用し、実習での学びを報告する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第27回	実習の総括　クラス内実習報告会　／「ソーシャルワーク実習Ⅱ（社福）」実習計画書・自己紹介票等作成 【key words】 実習の成果　自己覚知　社会福祉士 【授業概要】 作成したレポートととパワーポイントを使用し、実習での学びを報告する。／「ソーシャルワーク実習Ⅱ（社福）」実習計画書・自己紹介票等の作成をする。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第28回	実習の総括　クラス内実習報告会　／「ソーシャルワーク実習Ⅱ（社福）」実習後の総括レポートについて 【key words】 実習の成果　自己覚知　社会福祉士 【授業概要】 作成したレポートととパワーポイントを使用し、実習での学びを報告する。／「ソーシャルワーク実習Ⅱ（社福）」実習後の総括レポートについて指導する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第29回	実習の総括　クラス内実習報告会　／「ソーシャルワーク実習Ⅱ（社福）」実習後の総括レポートについて 【key words】 実習の成果　自己覚知　社会福祉士 【授業概要】 作成したレポートととパワーポイントを使用し、実習での学びを報告する。クラス代表を決定する。／「ソーシャルワーク実習Ⅱ（社福）」実習後の総括レポートについて指導する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第30回	全体実習報告会

	【key words】 実習総括　ソーシャルワーク実習 【授業概要】 各実習指導クラスの概評による実習報告　実習での体験を聞き対人援助を考える。2年生は来年の実習に向け事前学習の一環として体験を聞き、ワークシートをまとめる。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	①5分の4以上出席しない場合は単位取得できない（公欠を含む）。 ②提出物が期限内に提出されない場合、単位認定を行わない。 ③欠席、遅刻をする場合は、必ず授業開始前に大学に連絡を入れること。 ④無断欠席・無断遅刻者に対しては社会福祉士実習委員会で対応について協議する。 ⑤「ソーシャルワーク実習Ⅱ（社福）」に関する実習指導は本科目に含まれる。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	実習に向けて、事前学習に取り組むこと。また、後期は実習のまとめ、プレゼンテーション、報告会の準備をする。
オフィスアワー	各教員より授業時に伝える。
評価方法	ソーシャルワーク実習資格試験（20%）、課題やグループワークへの取り組み（50%）、提出物の提出状況 及びその内容（30%）を総合して評価する。但し、ソーシャルワーク実習資格試験に合格しなければ単位を認定しない。 「ソーシャルワーク実習Ⅰ（社福）」の単位認定が得られない場合は、本科目の単位認定はしない。
教科書	「実習へのガイドブック」群馬医療福祉大学
参考書	福祉臨床シリーズ編集委員会編「社会福祉シリーズ２２」弘文堂出版　／社会福祉小六法、社会福祉用語辞典、その他教員配布資料
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 特別養護老人ホームの生活相談員を10年経験し、現在も遠隔による相談援助を実践している。 高齢者デイサービスや地域交流拠点「地域の小さな居場所」における3年間の相談援助の経験に加え、2012年より、海外（インドネシア共和国）の地域保健・福祉活動のスーパーバイザーとして、青少年や高齢者等の住民や活動の担い手の支援を行っている。 介護老人保健施設の生活相談員を経験 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 貧困に対する支援　　授業コード： S2181

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	2単位(30)	社会福祉コース・必修／福祉心理コース・学校教育コース・児童福祉コース・選択
担当教員			
土屋　昭雄			
専門科目	講義	社会福祉士指定科目	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 ①貧困や公的扶助の概念を踏まえ、貧困状態にある人の生活実態とこれを取り巻く社会環境について理解する。　②貧困の歴史と貧困観の変遷について理解する。　③貧困に係る法制度と支援の仕組みについて理解する。　④貧困による生活課題を踏まえ、社会福祉士としての適切な支援のあり方を理解する。 【到達目標】 低所得者の生活実態とその背景にある社会経済情勢を把握し、生活保護制度や低所得者対策、さらには、関連する諸施策等について学び、福祉専門職として必要な知識を習得するとともに、国家試験合格水準到達を目標とする。 ・公的扶助の意義と役割について理解している。 ・生活保護制度の動向についての説明ができる。 ・関連法規、施策について理解している。 ・ソーシャルワーカーが果たすべき役割について説明することができる。
授業の概要	本講義では、ソーシャルワーク実践を考慮し、生活保護制度概要はもとより、支援施策としての自立支援プログラム、ホームレス関連等について概説していく。また、制度を運営する組織の役割、連携のあり方についても確認し、さらには、低所得者層の生活実態、具体的なニーズと実情などについても言及していく。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	○
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	○
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第1回	オリエンテーション〔授業の進め方、評価等授業概要に基づき説明〕、社会保険と公的扶助の違い 【key words】 生活保護・公的扶助・社会保険・社会福祉士 【授業概要】 ・授業の進め方、評価、社会福祉士国家試験における本科目について ・社会保険と公的扶助の相違点 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第2回	貧困の概念 【key words】 ・絶対的貧困、相対的貧困、社会的排除、社会的孤立 等 【授業概要】 ・絶対的貧困、相対的貧困、社会的排除、社会的孤立等について学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第3回　公的扶助の意義と範囲
【key words】
・公的扶助の意義（生存権、セーフティーネット、ナショナルミニマム）・公的扶助の範囲（狭義、広義）
【授業概要】
・公的扶助の意義（生存権、セーフティーネット、ナショナルミニマム）・公的扶助の範囲（狭義、広義）について学ぶ
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第4回　貧困状態にある人 の生活実態
【key words】
・健康・移住・就労・教育・社会関係資本
【授業概要】
・健康・移住・就労・教育・社会関係資本について学ぶ
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第5回　貧困状態にある人 を取り巻く社会環境
【key words】
・経済構造の変化・家族、地域の変化・格差の拡大・社会的孤立
【授業概要】
・経済構造の変化・家族、地域の変化・格差の拡大・社会的孤立について学ぶ
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第6回　貧困状態にある人 に対する福祉の理念
【key words】
・人権の尊重・尊厳の保持・貧困、格差、差別の解消
【授業概要】
・人権の尊重・尊厳の保持・貧困、格差、差別の解消について学ぶ
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第7回　貧困観の変遷
【key words】
・スティグマ・貧困の測定・貧困の発見
【授業概要】
・スティグマ・貧困の測定・貧困の発見について学ぶ
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第8回　貧困に対する制度の発展過程
【key words】
・救貧制度（日本、諸外国）・生活保護法・ホームレスの自立の支援等に関する特別措置法・子どもの貧困対策の推進に関する法律・生活困窮者自立支援法
【授業概要】
・救貧制度（日本、諸外国）・生活保護法・ホームレスの自立の支援等に関する特別措置法・子どもの貧困対策の推進に関する法律・生活困窮者自立支援法について学ぶ
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第9回　生活保護法
【key words】
・生活保護法の原理原則と概要・生活保護制度の動向・最低生活費と生活保護基準・福祉事務所の機能と役割・相談支援の流れ・自立支援、就労支援の考え方と自立支援プログラム・生活保護施設の役割
【授業概要】
生活保護法について学ぶ
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第10回　生活困窮者自立支援法
【key words】
・生活困窮者自立支援法の理念と概要・生活困窮者自立支援制度の動向・自立相談支援事業と任

	意事業・生活困窮者自立支援制度における組織と実施体制・相談支援の流れ 【授業概要】 生活困窮者自立支援法について学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第11回　低所得者対策／ホームレス対策 【key words】 生活福祉資金貸付制度・無料定額診療事業・無料定額宿泊所・求職者支援制度・法律扶助・低所得者への住宅政策と住居支援・ホームレスの自立の支援等に関する特別措置法の概要・ホームレスの考え方と動向 【授業概要】 低所得者対策、ホームレス対策について学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第12回　貧困に対する支援における公私の役割関係／国、都道府県、市町村の役割 【key words】 ・行政の責務・公私の役割関係・国の役割・都道府県の役割・市町村の役割 【授業概要】 貧困に対する支援における公私の役割の関係、国、都道府県、市町村の役割について学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第13回　福祉事務所の役割／自立相談支援機関の役割 【key words】 福祉事務所の組織・福祉事務所の業務・自立相談支援機関の組織・自立相談支援機関の業務 【授業概要】 福祉事務所の役割、自立相談支援機関の役割について学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第14回　その他の貧困に対する支援における関係機関の役割／関連する専門職等の役割 【key words】 社会福祉協議会・ハローワーク、地域若者サポートステーション・民間支援団体 等 【授業概要】 その他の貧困に対する支援における関係機関の役割／関連する専門職等の役割について学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第15回　社会福祉士の役割／貧困に対する支援の実際（多職種連携等を含む） 【key words】 生活保護制度及び生活保護施設における自立支援、就労支援、居住支援・生活困窮者自立支援制度における自立支援、就労支援、居住支援・生活福祉資金貸付を通じた自立支援・多機関及び多職種、住民、 【授業概要】 社会福祉士の役割、貧困に対する支援の実際（多職種連携を含む）について学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	私語は慎み、真摯な態度で授業に臨むこと。知識習得に向け、予習、復習を励行すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	生活保護の動向〔被保護人員・被保護世帯数等〕については、最新の数値の把握に努めること。また、新聞等に掲載される関連記事にも注意を払うこと。
オフィスアワー	月曜日〔14：20～17：30〕及び昼休み〔12：00～12：30〕
評価方法	定期試験〔80%〕・確認テスト〔20%〕
教科書	日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『貧困に対する支援』中央法規出版
参考書	福祉小六法、その他は授業内で紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容

	アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク ■アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) ■情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 刑事司法と福祉　　授業コード： S2184

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	2単位(30)	社会福祉コース・必修／福祉心理コース・学校教育コース・児童福祉コース・選択
担当教員			
森田　隆夫			
専門科目	講義	社会福祉士・精神保健福祉士指定科目	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 犯罪や非行を行うものの中には、障害者た高齢者、少年も含まれる。また、犯罪等により被害を受ける者も生じる。このような人たちを守り、支援する法や制度、組織等が存在する。そこで、これらの法、制度等を福祉の観点から学び、社会福祉士の資格の取得、相談援助の仕事等に生かしてもらうことを目的とする。 【到達目標】 ①刑事司法の近年の動向と制度の仕組みを説明することができる。 ②刑事司法における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割について説明することができる。 ③刑事司法の制度に関わる関係機関等の役割について説明することができる。
授業の概要	犯罪と刑事司法を学んだうえで、更生保護、医療観察等を学ぶ。これらを踏まえて、刑事司法と福祉の実際を考えて行きたい。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	◎
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	◎
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	○
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	○
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	◎
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	○
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	◎
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第1回	科目オリエンテーション、「刑事司法と福祉」総論 【key words】 刑事司法　ソーシャルワーカー　司法福祉 【授業概要】 ″授業について概要を説明する。 当該科目を学び始めるにあたり、刑事司法とソーシャルワーカーのかかわりについて、その基本を学ぶ。″ 【教科書ページ・参考文献】 PP2～16 【課題・予習・復習・授業準備指示】 PP18～32 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第2回	社会と犯罪 【key words】 犯罪　警察統計　再犯　刑務所 【授業概要】 ″犯罪とは何かを考える。 日本の犯罪の現状と日本の刑事司法の特徴を知り、その問題について考える。 【教科書ページ・参考文献】

PP18～32

【課題・予習・復習・授業準備指示】
PP34～48

【予習復習に必要な想定時間】
60分

第3回　犯罪原因論と対策

【key words】
犯罪原因論　生物学的・心理学的アプローチ　社会学的アプローチ

【授業概要】
犯罪の原因をいかに考えるかを学び、それに基づき犯罪への対応を考える。

【教科書ページ・参考文献】
PP34～48

【課題・予習・復習・授業準備指示】
PP50～64
PP80～84

【予習復習に必要な想定時間】
60分

第4回　刑罰とは何か 犯罪の成立要件と責任能力判断

【key words】
矯正施設、保護観察所、地域生活定着支援センター、精神保健福祉センター
【授業概要】
刑罰の理論・種類とそれが課せられる犯罪の成立（刑法）について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
PP50～64
PP80～84

【課題・予習・復習・授業準備指示】
PP66～79

【予習復習に必要な想定時間】
60分

第5回　刑事司法

【key words】
刑事手続　捜査　公訴　無罪推定法理　黙秘権　当事者主義

【授業概要】
刑事手続の概要とその重要な原則（刑事訴訟法）を学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
PP66～79

【課題・予習・復習・授業準備指示】
PP86～102

【予習復習に必要な想定時間】
60分

第6回　少年司法

【key words】
少年法　少年保護　少年司法

【授業概要】
少年法を通して少年保護を学び、その表れとして少年司法を考える。

【教科書ページ・参考文献】
PP86～102

【課題・予習・復習・授業準備指示】
PP104～124

【予習復習に必要な想定時間】
60分

第7回　施設内処遇①成人

【key words】
施設内処遇　監獄法　矯正処遇　処遇モデル

【授業概要】
刑事施設の現状と課題を知り、そこにおけるソーシャルワーカーのあり方について考える。

【教科書ページ・参考文献】
PP104～124

【課題・予習・復習・授業準備指示】
PP104～124

【予習復習に必要な想定時間】
60分

第8回　施設内処遇②少年

【key words】
少年矯正施設　少年鑑別所　少年院

【授業概要】
少年矯正施設の現状と課題を知り、そこにおけるソーシャルワーカーのあり方について考える。

【教科書ページ・参考文献】
PP104～124

【課題・予習・復習・授業準備指示】
PP140～158

【予習復習に必要な想定時間】
60分

第9回　社会内処遇①更生保護の理念と概要

【key words】
更生保護　保護観察　更生緊急保護　仮釈放　恩赦

【授業概要】
社会において更生を図る更生保護制度について概説をする。

【教科書ページ・参考文献】
PP140～158

【課題・予習・復習・授業準備指示】
PP160～178

【予習復習に必要な想定時間】
60分

第10回　社会内処遇②更生保護の実際

【key words】
保護観察の流れ　保護観察の種類　仮釈放・仮退院の実際

【授業概要】
保護観察の流れやその種類について解説する。また、仮釈放・仮退院の実際についても学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
PP160～178

【課題・予習・復習・授業準備指示】
PP180～194

【予習復習に必要な想定時間】
60分

第11回　多様なニーズを有する犯罪行為者①精神障害者を対象とした医療観察制度

【key words】
医療観察　精神保健観察　社会復帰調整官

【授業概要】
心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の円滑な社会復帰を目指す医療観察について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
PP180～194

【課題・予習・復習・授業準備指示】
PP196～212

【予習復習に必要な想定時間】
60分

第12回　多様なニーズを有する犯罪行為者②高齢者・障害者による犯罪・非行と福祉

【key words】
司法と福祉の連携　高齢者　障害者　地域生活定着支援センター

【授業概要】
意外に多くの高齢者、障害者が、刑務所に収容されている。この現状にける、地域生活定着支援センターをはじめとする司法と福祉の連携について学ぶ

【教科書ページ・参考文献】
PP196～212

【課題・予習・復習・授業準備指示】
PP214～228

【予習復習に必要な想定時間】
60分

第13回　多様なニーズを有する犯罪行為者③アディクションを抱える人と刑事司法

【key words】
アディクション　治療　自助グループ

	【授業概要】 犯罪行為者の中に抱える人もいるアディクションを知り、それへの刑事司法、ソーシャルワークを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 PP214～228 【課題・予習・復習・授業準備指示】 PP230～250 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第14回　犯罪被害者等支援 【key words】 犯罪被害者　犯罪被害者等基本法　DV防止法　ストーカー規制法　意見等聴取制度、心情等伝達制度 【授業概要】 犯罪において関心の中心は、それを犯した者であったた。その陰に隠れがちであった被害者への支援を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 PP230～250 【課題・予習・復習・授業準備指示】 PP252～272 PP2～272 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第15回　コミュニティと刑事司法、まとめ 【key words】 市民参加　RJ　対話　憲法　行政法　民法　成年後見制度 【授業概要】 刑事司法にへの市民参加を学ぶ。 その後、刑事司法と福祉に関し、特に重要と思われる事項につき再確認をする。 【教科書ページ・参考文献】 PP252～272 PP2～272 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 60分
受講生に関わる情報および受講のルール	・可及的に多くの情報を提供したいので、予習復習は必ず行うこと。 ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。 ・社会福祉を志す者として、出席時間の厳守し、態度や身だしなみ等を整えること。 ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	教科書で予習・復習すること、根拠条文を確認しておくことが、絶対に必要である。
オフィスアワー	火曜　14時半～16時、　金曜　14時半～16時
評価方法	定期試験（６０％）、授業時間に行う小テスト（４０％）を総合して評価する。
教科書	日本ソーシャルワーク教育学校連盟編「刑事司法と福祉（最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座10）」 中央法規，2021年
参考書	六法（例：ミネルヴァ書房編集部 編「社会福祉小六法」ミネルヴァ書房，2023年） 森長秀 編著「法学入門 第2版 」光生館，2022年
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育

	□情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 権利擁護を支える法制度　　授業コード： S2188

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	2単位(30)	社会福祉コース・必修／福祉心理コース・学校教育コース・児童福祉コース・選択
担当教員			
森田　隆夫			
専門科目	講義	社会福祉・精神保健福祉士指定科目	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 成年後見制度に代表されるように、権利擁護のための法、制度、組織、団体および専門職は、現在において多くのものが用意されている。しかし、このような法、制度等を知らず、または理解できなければ、折角の法、制度等は画餅に帰する。そこで、権利擁護のための法、制度等を知り、理解して、それを社会福祉士の資格の取得、相談援助の仕事等に生かしてもらうことを目指す。 【到達目標】 ①憲法・行政法・民法につきその重要な概念、制度等を説明することができる。 ②権利擁護に関連する法、制度、活動等につき重要な点を説明することができる。 ③権利擁護に関連する事業、機関、団体、専門職につき重要な点を説明することができる。 ④成年後見制度につきその重要な概念、手続等を説明することができる。 ⑤権利擁護に関する実際の事案につき、分析、配慮等ができる。
授業の概要	相談援助活動と法との関係を学んだ上で、相談援助活動に不可欠な成年後見制度および権利擁護に係る事業、組織、団体につき概説し、これらを踏まえて、権利擁護活動の実際を考えて行きたい。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	◎
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	◎
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	○
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	○
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	◎
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	○
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	◎
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第1回	科目オリエンテーション、法の基礎 【key words】 法　規範　法体系　法解釈　裁判・判例 【授業概要】 授業について概要を説明する。 法規範、法体系、法解釈、裁判・判例といった法学の基礎を説明する。 【教科書ページ・参考文献】 PP46～68 PP2～8 【課題・予習・復習・授業準備指示】 PP9～20 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第2回	憲法 【key words】 基本原理　精神的自由　経済的自由　社会権　権力分立　国会　内閣　裁判所 【授業概要】 基本的人権の保障につき、自由権と社会権の性質の違いを中心に説明する。 権力分立を基礎に国会、内閣、裁判所について説明をする。

【教科書ページ・参考文献】
PP9～20

【課題・予習・復習・授業準備指示】
PP21～29

【予習復習に必要な想定時間】
60分

第3回　民法Ⅰ（総則・契約・不法行為）

【key words】
総則　無効　取消　契約　不法行為

【授業概要】
契約の成立、内容、効果、解除等を説明する。
契約がなくても法律関係の生じる不法行為も説明をする。

【教科書ページ・参考文献】
PP21～29

【課題・予習・復習・授業準備指示】
PP29～33

【予習復習に必要な想定時間】
60分

第4回　民法Ⅱ（親族・相続）

【key words】
婚姻　親子　相続　遺言

【授業概要】
近しい関係にある人との法律関係として、婚姻、親子、相続、遺言について説明する。

【教科書ページ・参考文献】
PP29～33

【課題・予習・復習・授業準備指示】
PP38～44
PP34～38

【予習復習に必要な想定時間】
60分

第5回　行政法

【key words】
行政不服審査　行政事件訴訟　国家賠償　行政主体　行政行為　行政手続

【授業概要】
行政権行使に対する救済方法としての国家賠償、損失補償、行政不服審査、行政事件訴訟について説明をする。その後、行政主体、その行う行政行為の意義・種類・効果等ついて説明をする。

【教科書ページ・参考文献】
PP38～44
PP34～38

【課題・予習・復習・授業準備指示】
PP70～105

【予習復習に必要な想定時間】
60分

第6回　権利擁護の意義と支える仕組み

【key words】
社会福祉法　苦情解決　虐待禁止　差別解消

【授業概要】
社会福祉法、苦情解決、虐待・暴力防止関係法、障害者差別解消法について説明する。

【教科書ページ・参考文献】
PP70～105

【課題・予習・復習・授業準備指示】
PP106～129

【予習復習に必要な想定時間】
60分

第7回　権利擁護活動と意思決定支援

【key words】
意思決定支援　ガイドライン

【授業概要】
意思決定支援の意義を確認し、そのガイドライについて説明をする。

【教科書ページ・参考文献】
PP106～129

【課題・予習・復習・授業準備指示】
PP130～150

【予習復習に必要な想定時間】
60分

第8回　権利擁護活動と意思決定支援

【key words】
インフォームド・コンセント　プライバシー　個人情報

【授業概要】
意思決定支援との関係から、インフォームド・コンセント、個人情報保護法等について説明をする。

【教科書ページ・参考文献】
PP130～150

【課題・予習・復習・授業準備指示】
PP188～199

【予習復習に必要な想定時間】
60分

第9回　成年後見の概要

【key words】
成年後見制度　成年被後見人　後見開始の審判の申立

【授業概要】
成年後見制度（法定・任意）について説明する。
法定後見の一つである成年後見につき、対象、申立等を説明する。

【教科書ページ・参考文献】
PP188～199

【課題・予習・復習・授業準備指示】
PP200～205

【予習復習に必要な想定時間】
60分

第10回　保佐・補助の概要

【key words】
被保佐人　保佐人　権限付与の申立　被補助人　補助人　権限付与の申立

【授業概要】
保佐・補助につき、対象、申立等を説明する。

【教科書ページ・参考文献】
PP200～205

【課題・予習・復習・授業準備指示】
PP206～220

【予習復習に必要な想定時間】
60分

第11回　任意後見制度、成年後見制度の最近の動向

【key words】
任意後見契約　代理権　成年後見制度の最近の動向　成年後見制度利用促進

【授業概要】
任意後見について、その利用形態、手続、効力等を説明する。
成年後見制度の最近の動向を確認した上で、成年後見制度利用促進法・基本計画について説明する。

【教科書ページ・参考文献】
PP206～220

【課題・予習・復習・授業準備指示】
PP221～229

【予習復習に必要な想定時間】
60分

第12回　日常生活自立支援事業、成年後見制度利用支援事業

【key words】
日常生活自立支援事業　成年後見制度利用支援事業

【授業概要】
日常生活自立支援事業および成年後見制度利用支援事業につき、　その主旨、内容、課題力等を説明する。

【教科書ページ・参考文献】
PP221～229

	【課題・予習・復習・授業準備指示】 PP152～185 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第13回　権利擁護に関わる組織、団体専門職 【key words】 家庭裁判所　法務局　社会福祉協議会　弁護士　司法書士　社会福祉士　リーガルサポート　ぱーとなあ 【授業概要】 権利擁護にかかわる組織、団体として、家庭裁判所　法務局　社会福祉協議会等につき説明する。 権利擁護にかかわる専門職として、弁護士　司法書士　社会福祉士　リーガルサポート　ぱーとなあ等につき説明する。 【教科書ページ・参考文献】 PP152～185 【課題・予習・復習・授業準備指示】 PP152～229 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第14回　権利擁護活動の実際（ＤＶＤ鑑賞） 【key words】 成年後見制度　根抵当 【授業概要】 成年後見制度に関するＤＶＤを鑑賞し、その実際と手続の概要を見てもらう。 【教科書ページ・参考文献】 PP152～229 【課題・予習・復習・授業準備指示】 PP2～229 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第15回　まとめ 【key words】 憲法　行政法　民法　成年後見制度 【授業概要】 権利擁護を支える法制度に関し、特に重要と思われる事項につき再度説明をし、復習をしてもらう。 【教科書ページ・参考文献】 PP2～229 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 60分
受講生に関わる情報および受講のルール	・可及的に多くの情報を提供したいので、予習復習は必ず行うこと。 ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。 ・社会福祉を志す者として、出席時間を厳守し、態度や身だしなみ等を整えること。 ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	教科書で予習・復習すること、根拠条文を確認しておくことが、絶対に必要である。
オフィスアワー	火曜　14時半～16時、　金曜　14時半～16時
評価方法	定期試験（６０％）、授業時間に行う小テスト（４０％）を総合して評価する。
教科書	日本ソーシャルワーク教育学校連盟編「権利擁護を支える法制度　（最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座9）」 中央法規，2021年
参考書	六法（例：ミネルヴァ書房編集部 編「社会福祉小六法」ミネルヴァ書房，2023年） 山口 光治 編「権利擁護を支える法制度 - 新社会福祉士養成課程対応」みらい，2021年 森長秀 編著「法学入門 第2版 」光生館，2022年
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素

	□PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： ソーシャルワーク実習Ⅰ（社福）　　授業コード：S2801　S2802　S2803　S2804

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	3年次	4単位	社会福祉コース・必修／福祉心理コース・学校教育コース・児童福祉コース・選択
担当教員			
富澤　一央・安留　孝子・大久保　圭介・松永　尚樹　・石井　千麻			
専門科目	演習	社会福祉士指定科目	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 ①ソーシャルワークの実践に必要な各科目の知識と技術を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための実践能力を養う。②支援を必要とする人や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）について把握する。③生活上の課題（ニーズ）に対応するため、支援を必要とする人の内的資源やフォーマル・インフォーマルな社会資源を活用した支援計画の作成、実施及びその評価を行う。④施設・機関等が地域社会の中で果たす役割を実践的に理解する。⑤総合的かつ包括的な支援における多職種・多機関、地域住民等との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。 【到達目標】 ①実習期間・施設の役割や関連する社会資源について説明できる。 ②支援対象との状況に合わせた会話ができる。 ③地域における実習期間・施設の役割や位置づけを説明できる。 ④実習期間・施設に関連する多職種の役割や業務、連携方法の必要性を理解し説明できる。 ⑤実習期間・施設で使用する記録の必要性を理解し、適切な記録技法をもちいて記録することができる。 ⑥コミュニケーション技術、面接技術をもちいて利用者と関る事ができる。 ⑦適切なアセスメントツールを使用し支援対象の全体像を把握できる。 ⑧ソーシャルワーク過程を理解し、実習指導者の指導の下、支援対象に適切な支援を実践する事ができる。 ⑨社会福祉士として倫理綱領・行動規範に基づいた行動をすることができる。 ⑩実習担当者教員・指導者からスーパービジョンを受け、社会福祉士としての課題を抽出し学習に繋げることができる。
授業の概要	ソーシャルワーク実習は原則3年次（編入生は4年次）において実施する。ただし、3年次に履修要件を満たさず実習できなかった者は、4年次に実習を行うことができる。 ソーシャルワーク実習Ⅰ（社福）は実23日以上かつ180時間以上とする。 実習期間中に原則3回以上の帰学日指導と1回の実習巡回指導を受けること。 群馬医療福祉大学ソーシャルワーク実習資格及び実習中止等の基準と実習へのガイドブックを参照し、遵守すること。 「ソーシャルワーク実習Ⅱ（社福）」と連続しているが、単位認定は別々に行う。ただし、介護福祉士養成における規程実習の単位修得者、精神保健福祉士養成における規程実習の単位修得者は「ソーシャルワーク実習Ⅱ（社福）」は免除される。 実習生は次に掲げる事項について実習指導者による指導を受けるものとする。①利用者やその関係者（家族・親族、友人等）、施設・事業者・機関・団体、住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成②利用者やその関係者（家族・親族、友人等）との援助関係の形成③利用者や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）の把握、支援計画の作成と実施及び評価④利用者やその関係者（家族・親族、友人等）への権利擁護活動とその評価⑤多職種連携及びチームアプローチの実践的理解⑥当該実習先が地域社会の中で果たす役割の理解及び具体的な地域社会への働きかけ⑦地域における分野横断的・業種横断的な関係形成と社会資源の活用・調整・開発に関する理解⑧施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際（チームマネジメントや人材管理の理解を含む。）⑨社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任の理解⑩ソーシャルワーク実践に求められる以下の技術の実践的理解・アウトリーチ・ネットワーキング・コーディネーション・ネゴシエーション・ファシリテーション・プレゼンテーション・ソーシャルアクション ソーシャルワーク実習指導担当教員は巡回指導等通して実習生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、実習生の実習状況についての把握とともに実習中の個別指導を十分に行うものとする。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	

(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	群馬医療福祉大学ソーシャルワーク実習履修資格及び実習中止等の基準を参照すること。 ソーシャルワーク実習を行うために以下の履修要件を全て満たさなければならない。 1 将来、社会福祉士として社会福祉現場で働く意思を強く持っている者 2 社会福祉の学習及び実践に対して熱意と意欲を強くもっている者 3 健康状態、精神状態が相談援助実習を行うのに適当と認める者 4 実習履修年次までに哲学、倫理学、道徳教育、基礎演習Ⅰ・Ⅱ、サービスラーニングⅠ・Ⅱ、ソーシャルワークの基盤と専門職（共通・社福）、ソーシャルワーク演習Ⅰ（共通）・Ⅱ（社福）、ソーシャルワーク実習指導Ⅰ（社福）、社会福祉特講Ⅰ・Ⅱの単位を修得した者（再履修者においては、上記科目の他、総合演習Ⅰ、社会福祉特講Ⅲの単位を履修した者、編入生においては、4年次までに哲学、倫理学、道徳教育、ソーシャルワークの基盤と専門職、ソーシャルワーク演習Ⅰ（共通）・Ⅱ（社福）、ソーシャルワーク実習指導Ⅰ（社福）、総合演習Ⅰ、社会福祉特講Ⅲの単位を履修した者） 5 実習履修年次においてソーシャルワーク演習Ⅲ（社福）、ソーシャルワーク実習指導Ⅱ（社福）、社会福祉特講Ⅲを履修見込みの者（再履修者及び編入生においては、4年次に総合演習Ⅱ、ソーシャルワーク演習Ⅲ（社福）、ソーシャルワーク実習指導Ⅱ（社福）、社会福祉特講Ⅳを履修見込みの者） 6 社会福祉士及び介護福祉士法第7条1号の規定に基づき文部科学大臣・厚生労働大臣の指定する社会福祉に関する科目の履修済みまたは履修中の科目においての出席状況及び事業態度が良好な者 7 サービスラーニング（あるいはボランティア活動）に積極的に取り組み、施設・機関の理解及び技術の向上を促進した者 8 ソーシャルワーク実習（社福）に必要な書類及び実習担当教員が課した課題を期限までに提出し、提出書類の内容が適当と認められる者 9 ソーシャルワーク実習資格試験に合格している者 10 学則に違反していない者、または学則に違反し停学等の処分を受けた者で改善の見込みのある者
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	【ソーシャルワーク実習中止の措置】 相談援助実習を行っている機関に以下の中止要件に該当する場合は相談援助実習を中止する場合がある。 1 重大なルール違反（実習先の就業規則並びにそれに準ずる実習のルールへの違反）を行ったとき 2 利用者への加害行為、人権的侵害を行ったとき 3 心身の事由により相談援助実習の継続が困難なとき 4 守秘義務違反及び信用失墜行為を行ったとき 5 実習指導者が実習生に行った指摘に対して適切に対応しなかったとき 6 実習施設・機関の長または失集指導者より相談援助実習中止の申出があったとき 7 実習担当教員が実習生に行った指摘に対して適切に対応しなかったとき 8 その他、実習を行うのに困難な事由が発生したとき
オフィスアワー	各教員より実習指導Ⅱの授業時に伝える。
評価方法	①実習施設・機関による実習評価を傾斜配点し、教員が総合的に評価（40%） ②実習施設の概要の記載内容（10%） ③実習記録の記載内容（15%） ④実習のまとめの記載内容（10%） ⑤実習報告書の記載内容（10%） ⑥その他提出物の提出状況（15%） ※ソーシャルワーク実習Ⅰが終了したとしても提出物等が提出されないに場合はソーシャルワーク実習Ⅰの単位を認定しない。 ※ソーシャルワーク実習指導Ⅱの単位を修得出来なかった場合はソーシャルワーク実習Ⅰの単位を認定しない。
教科書	「実習へのガイドブック」群馬医療福祉大学出版
参考書	社会福祉小六法、社会福祉用語辞典、その他教員配布資料
実務者経験/アクティブラーニング/	授業担当教員

リテラシー教育	■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 特別養護老人ホームの生活相談員を10年経験し、現在も遠隔による相談援助を実践している。 高齢者デイサービスや地域交流拠点「地域の小さな居場所」における3年間の相談援助の経験に加え、2012年より、海外（インドネシア共和国）の地域保健・福祉活動のスーパーバイザーとして、青少年や高齢者等の住民や活動の担い手の支援を行っている。 介護老人保健施設の生活相談員を経験 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 福祉サービスの組織と経営　　授業コード： S3031

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	4単位(60)	社会福祉コース・必修／福祉心理コース・学校教育コース・児童福祉コース・選択
担当教員			
高井　健二			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 社会福祉基礎構造改革の目指す「措置」から「契約」への転換の中で、社会福祉施設は、一般企業と同様に経営センスが求められている。本科目を受講することで経営学、経営理念・理論及び経営上の諸課題を学ぶことができ、社会福祉施設の経営に関する知識、センスを修得するとともに社会福祉の今後の動向を理解する。 【到達目標】 ①ソーシャルワークにおいて必要となる、福祉サービスを提供する組織や団体の概要について理解する。 ②社会福祉士に求められる福祉サービスの組織と遠隔、経営の視点と方法を理解する。 ③福祉サービスの組織と運営に係る基礎理論、労働者の権利等について理解する。 ④福祉サービスに求められる福祉人材マネジメントについて理解する。
授業の概要	この講義では、「経営資源の活用」にかかるヒト（人的資源）、モノ（サービス管理）、カネ（財源、会計財務）、情報（経営理論、危機管理、福祉動向等）に関する事柄について、広範に学習する。教科書のコンテンツに沿って、下記の授業計画に基づき講義を進めるが、第１回から第６回までは補助プリントを配布、第７回以降は教科書と一部補助プリントを併用して授業を進める。経営学や人事・労務管理、簿記会計、労働法など全く学んだことのない受講生でも体系的に理解できるようにする。毎回講義終了後にミニテストを実施し、理解を深めるようにする。第１５回は試験準備として前期の総復習、第３０回は後期の総復習とする。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第1回　オリエンテーション 【key words】 【授業概要】 本科目全体を俯瞰するとともに、「社会福祉事業、社会福祉施設」について、基礎的な事項を再認識する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第2回　社会福祉（制度）の変遷と社会福祉基礎構造改革 【key words】 社会福祉基礎構造改革 【授業概要】 社会福祉の流れと社会福祉基礎構造改革（措置から契約への転換等）、社会福祉法人制度改革、交易法人制度改革を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第3回　企業経営・経営理念

【key words】
企業経営、経営理念
【授業概要】
企業の基本的な性格や経営管理、経営理念等について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第4回　経営理論（伝統的管理論）

【key words】
科学的管理法、管理課程論
【授業概要】
テイラーの科学的管理法、フアヨールの管理過程論を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第5回　経営理論（人間関係論）

【key words】
ホーソン実験、欲求5段階説、X理論・Y理論
【授業概要】
メイヨーのホーソン実験、マズローの欲求５段階説、マグレガーのX理論・Y理論を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第6回　福祉サービスを提供する組織　企業形態と株式会社

【key words】
企業形態、株式会社
【授業概要】
企業の形態や株式会社の仕組み、設立、定款等について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第7回　福祉サービスにおける組織と経営

【key words】
福祉サービスとは、経営管理とは、
【授業概要】
事業主体・提供組織、福祉サービスと制度等を概観する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第8回　福祉サービスを提供する組織　法人とは

【key words】
法人、ガバナンス、コンプライアンス
【授業概要】
法人の意味・存立意義、法人の基本形態（財団法人・社団法人）、ガバナンスとコンプライアンス等を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第9回　福祉サービスを提供する組織

【key words】
社会福祉法人
【授業概要】
社会福祉法人法人の基本的な性格、業務内容、設立と機関、規制と優遇措置、課題等を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第10回　福祉サービスを提供する組織　特定非営利活動法人

【key words】
特定非営利活動法人
【授業概要】
特定非営利活動法人の管理運営の基本、現状と課題等を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第11回　経営体制

【key words】
経営戦略　事業計画
【授業概要】
経営戦略の策定プロセス（経営ビジョンの設定）、環境分析の手法、経営戦略の系譜、マーケティング等を学ぶ。事業計画の策定・報告、内部・外部環境の分析、事業計画の実行・評価等を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第12回　福祉サービス提供　組織のコンプライアンスとガバナンス

【key words】
説明責任、業務管理体制、権限移譲
【授業概要】
社会的ルールの遵守、説明責任の遂行、業務管理体制、内部管理体制の整備、権限委譲と責任のルール化等について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第13回　組織運営に関する基礎理論

【key words】
組織論
【授業概要】
組織構造と組織原則、意思決定、組織形態等を学ぶ。万代解決の思考と手順、モチベーションと組織の活性化について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第14回　管理運営の基礎理論

【key words】
PDCAサイクル、集団力学
【授業概要】
管理とは、管理の手法（PDCAサイクル）、集団の力学、チームの機能と構成等を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第15回　組織間連携と促進　まとめ

【key words】
多機関協働、地域マネジメント
【授業概要】
公益的活動の推進、多機関協働、地域連携、地域マネジメントについて学ぶ。前期の総復習、前期試験対策等を行う。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第16回　リーダーシップ

【key words】
リーダーシップ
【授業概要】
リーダーシップとは、リーダーシップ理論の系譜、福祉サービス組織におけるリーダーシップのあり方等を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第17回　サービスマネジメント

【key words】
サービスマネジメント、PDCAとSDCA管理サイクル
【授業概要】
福祉サービスの特性・課題、福祉サービスの価値・品質、品質マネジメント、PDCAとSDCA管理サイクル等を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第18回　サービスの質の評価

【key words】
サービス評価
【授業概要】
福祉サービスの質の向上、評価システム、第三者評価の仕組みと課題等を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第19回　苦情処理とリスクマネジメント
【key words】
苦情処理、リスクマネジメント
【授業概要】
リスクマネジメントとは、事故・苦情発生のメカニズムと対応、リスクマネジメント、権利擁護制度の取り組み等を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第20回　人事・労務管理（1）人事システム
【key words】
動機づけ理論、人事システム
【授業概要】
動機づけ理論、福祉人材マネジメント、人事システム、人材の確保と採用、配置、異動、職員研修棟を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第21回　人事・労務管理（2）職員の処遇
【key words】
職員の処遇、人事考課、人事評価システム
【授業概要】
職員の処遇、給与体系（職能資格等級制度）人事考課、人事評価と課題等を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第22回　労働法規
【key words】
労働法規
【授業概要】
労働法規の理念・体系、労働基本権等を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第23回　労働基準法（1）就業規則
【key words】
就業規則
【授業概要】
人たるに値する生活とは、労働基準法の性格・効力・適用範囲、就業規則、賃金・解雇等を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第24回　労働基準法（2）労働条件
【key words】
労働条件、育児休業、メンタルヘルス対策、ハラスメント対策
【授業概要】
労働条件の明示、労働時間、休日・有給休暇、産前産後・育児休業、メンタルヘルス対策、ハラスメント対策等を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第25回　人材育成
【key words】
人材育成
【授業概要】
福祉人材の確保、職場研修、キャリアパスの考え方等を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

	【予習復習に必要な想定時間】 第26回　会計管理・財務管理（1）　会計・財務とは 【key words】 会計　財務 【授業概要】 会計・財務とは、公会計と企業会計、財務諸表、社会福祉法人における会計制度等を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第27回　会計管理・財務管理（2）　財務諸表 【key words】 財務諸表、貸借対照表 【授業概要】 社会福祉法人における財務諸表の見方、貸借対照表、事業活動計算書、資金収支計算書、資金調達、資金運用等を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第28回　社会福祉施設の建物・設備管理 【key words】 防火　防災 【授業概要】 建物・設備の分類、点検・防災、アメニテイ、防火・防災設備、防火・防災計画と対策等を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第29回　情報管理 【key words】 情報管理　個人情報保護 【授業概要】 情報管理の重要性・必要性、個人情報保護、情報開示、経営における情報戦略、権利擁護制度・事業等を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第30回　まとめ 【key words】 【授業概要】 後期の総復習、期末テスト対策等を行う。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	本科目は、社会福祉施設経営にとって必要な広範な内容のものになっているため、基礎知識の積み重ねが重要である。毎回出席は言うまでもないが、授業に関わる事項については、関心を持って新聞、関連図書等により、自ら進んで調べる、学ぶ、知識を深めることが大事である。試験は「ノート持ち込み可」とするので、講義内容をノートに良く整理すること。毎回、事業計画に基づき予習をしたうえで講義に臨み、復習も欠かさないこと。授業中に生じた疑問は、コメントカード等により積極的に質問すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	テキスト該当箇所の予習を必須とする。本科目に関する事柄については、新聞を良く読むこと、関連図書、インターネット等で主体的に学習すること。幅広い素養、教養を身に着けるため、読書に努めること。
オフィスアワー	授業終了後３０分
評価方法	中間試験、期末試験を実施し、その平均点で評価（100%）する。
教科書	新・社会福祉士養成講座「福祉サービスの組織と経営」中央法規出版（最新版）
参考書	授業の中で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 　□実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素

	□PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： ソーシャルワーク実習指導Ⅰ（精神）　　授業コード：S7007

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	1単位(30)	社会福祉コース・福祉心理コース・選択
担当教員			
三橋　真人			
専門科目	演習	精神保健福祉士指定科目	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 ①ソーシャルワーク（精神保健福祉士）実習の意義について理解する。 ②精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。 ③ソーシャルワーク（精神保健福祉士）実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技能について具体的かつ実践的に理解し実践的な技術等を体得する。 ④精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 ⑤具体的な実習体験を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。 【到達目標】（授業の目的を踏まえ） ①実習機関における精神保健福祉士の役割を説明することができる。 ②学習をとおして精神疾患を抱えている人を理解し、自分なりに説明することができる。 ③実習機関の役割を学び、そこで行われていることを理解して、説明することができる。 ④精神保健福祉士としてのアイデンティティについて自分なりの考えをもつことができる。 ⑤実習の意義について考え、説明することができる。
授業の概要	精神保健医療福祉の現状に関する基本を理解し、実習先機関の学習をとおして精神障害者や精神保健福祉援助実習についての理解を深め、グループワークをとおした活動により、精神保健福祉士の活動する機関の役割および自らの精神保健福祉士としてのアイデンティティの確立を目指す。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第1回	本講義のオリエンテーション 【key words】 オリエンテーション 【授業概要】 ・ソーシャルワーク実習とソーシャルワーク実習指導における個別指導及び集団指導の意義について説明する。 ・他科目でこれまで学習してきた内容について振り返りを行い、本科目との関連性について解説する。 ・前期における本科目の授業内容について説明する。 【教科書ページ・参考文献】 p2～p23 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・テキストを参照し、「精神保健福祉援助実習の理解」を予習しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第2回	各実習先種別の学習①精神科医療機関 【key words】

		精神科病院、精神科診療所 【授業概要】 ・授業にあたって担当者（受講生）は説明用の資料を準備する。 ・精神保健医療福祉の現状（利用者理解を含む。）に関する基本的な理解を深める。 ・受講生による説明を聞き、質疑応答を行うことを通して、実習先機関についての理解を深める。 ・実習先機関についての説明を行う。 【教科書ページ・参考文献】 p30～p32 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・担当者は資料の作成など説明準備を行うこと。 ・テキストを参照し、「精神科病院」と「精神科診療所」について予習をしておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第3回	各実習先種別の学習②精神科医療機関 【key words】 精神科デイ・ケア施設、総合病院精神科 【授業概要】 ・授業にあたって担当者（受講生）は説明用の資料を準備する。 ・精神保健医療福祉の現状（利用者理解を含む。）に関する基本的な理解を深める。 ・受講生による説明を聞き、質疑応答を行うことを通して、実習先機関についての理解を深める。 ・実習先機関についての説明を行う。 【教科書ページ・参考文献】 p30～p32 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・担当者は資料の作成など説明準備を行うこと。 ・テキストを参照し、「精神科病院」と「精神科診療所」について予習をしておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第4回	各実習先種別の学習③精神科医療機関 【key words】 アルコール専門病棟、認知症疾患医療センター、児童思春期病棟 【授業概要】 ・授業にあたって担当者（受講生）は説明用の資料を準備する。 ・精神保健医療福祉の現状（利用者理解を含む。）に関する基本的な理解を深める。 ・受講生による説明を聞き、質疑応答を行うことを通して、実習先機関についての理解を深める。 ・実習先機関についての説明を行う。 【教科書ページ・参考文献】 p30～p32 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・担当者は資料の作成など説明準備を行うこと。 ・テキストを参照し、「アルコール専門病棟」と「認知症疾患医療センター」、「児童思春期病棟」について予習をしておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第5回	各実習先種別の学習④障害福祉サービス事業所 【key words】 グループホーム、生活介護および自立訓練 【授業概要】 ・授業にあたって担当者（受講生）は説明用の資料を準備する。 ・精神保健医療福祉の現状（利用者理解を含む。）に関する基本的な理解を深める。 ・受講生による説明を聞き、質疑応答を行うことを通して、実習先機関についての理解を深める。 ・実習先機関についての説明を行う。 【教科書ページ・参考文献】 p33～p37 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・担当者は資料の作成など説明準備を行うこと。 ・テキストを参照し、「グループホーム」と「生活介護及び自立訓練」について予習をしておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第6回	各実習先種別の学習⑤障害福祉サービス事業所 【key words】 就労移行支援、就労継続支援（A型・B型） 【授業概要】 ・授業にあたって担当者（受講生）は説明用の資料を準備する。 ・精神保健医療福祉の現状（利用者理解を含む。）に関する基本的な理解を深める。 ・受講生による説明を聞き、質疑応答を行うことを通して、実習先機関についての理解を深める。 ・実習先機関についての説明を行う。 【教科書ページ・参考文献】 p33～p37 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・担当者は資料の作成など説明準備を行うこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第7回	各実習先種別の学習⑥障害福祉サービス事業所 【key words】 相談支援事業、地域活動支援センター

		【授業概要】 ・授業にあたって担当者（受講生）は説明用の資料を準備する。 ・精神保健医療福祉の現状（利用者理解を含む。）に関する基本的な理解を深める。 ・受講生による説明を聞き、質疑応答を行うことを通して、実習先機関についての理解を深める。 ・実習先機関についての説明を行う。 【教科書ページ・参考文献】 p 33～ p 37 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・担当者は資料の作成など説明準備を行うこと。 ・テキストを参照し、「相談支援事業」と「地域活動支援センター」について予習をしておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第8回	各実習先種別の学習⑦行政機関 【key words】 精神保健福祉センター、保健所 【授業概要】 ・授業にあたって担当者（受講生）は説明用の資料を準備する。 ・精神保健医療福祉の現状（利用者理解を含む。）に関する基本的な理解を深める。 ・受講生による説明を聞き、質疑応答を行うことを通して、実習先機関についての理解を深める。 ・実習先機関についての説明を行う。 【教科書ページ・参考文献】 p 38～ p 39 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・担当者は資料の作成など説明準備を行うこと。 ・テキストを参照し、「精神保健福祉センター」と「保健所」について予習をしておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第9回	各実習先種別の学習⑧行政機関 【key words】 市町村保健センター、保護観察所 【授業概要】 ・授業にあたって担当者（受講生）は説明用の資料を準備する。 ・精神保健医療福祉の現状（利用者理解を含む。）に関する基本的な理解を深める。 ・受講生による説明を聞き、質疑応答を行うことを通して、実習先機関についての理解を深める。 ・実習先機関についての説明を行う。 【教科書ページ・参考文献】 p 38～ p 39 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・担当者は資料の作成など説明準備を行うこと。 ・テキストを参照し、「市町村保健センター」と「保護観察所」について予習をしておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第10回	各実習先種別の学習⑨行政機関 【key words】 更生保護施設、児童相談所、児童自立支援施設 【授業概要】 ・授業にあたって担当者（受講生）は説明用の資料を準備する。 ・精神保健医療福祉の現状（利用者理解を含む。）に関する基本的な理解を深める。 ・受講生による説明を聞き、質疑応答を行うことを通して、実習先機関についての理解を深める。 ・実習先機関についての説明を行う。 【教科書ページ・参考文献】 p 38～ p 39 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・担当者は資料の作成など説明準備を行うこと。 ・テキストを参照し、「更生保護施設」と「児童相談所」、「保護観察所」について予習をしておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第11回	各実習先種別の学習⑩その他 【key words】 児童福祉関連施設、法務省関連施設、など 【授業概要】 ・授業にあたって担当者（受講生）は説明用の資料を準備する。 ・精神保健医療福祉の現状（利用者理解を含む。）に関する基本的な理解を深める。 ・受講生による説明を聞き、質疑応答を行うことを通して、実習先機関についての理解を深める。 ・実習先機関についての説明を行う。 【教科書ページ・参考文献】 p 40～ p 43 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・担当者は資料の作成など説明準備を行うこと。 ・テキストを参照し、「児童福祉関連施設」や「法務省関連施設」などについて予習をしておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第12回	倫理と秘密保持について①精神保健福祉士の倫理綱領 【key words】

	ソーシャルワークにおける価値、ソーシャルワークにおける倫理 【授業概要】 ・ソーシャルワークにおける価値や倫理について解説する。 ・グループディスカッションを通して検討することで、ソーシャルワークにおける価値や倫理についての理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 演習（基礎・専門）のテキストｐ24～ｐ30 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを参照し、「ソーシャルワークにおける価値と倫理」について予習をしておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第13回　倫理と秘密保持について②精神保健福祉士の倫理綱領 【key words】 倫理綱領 【授業概要】 ・精神保健福祉士の倫理綱領について解説する。 ・精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務に関する理解を深める。 ・グループディスカッションを通して検討することで、精神保健福祉士の倫理綱領についての理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 演習（基礎・専門）のテキストｐ24～ｐ30 【課題・予習・復習・授業準備指示】 精神保健福祉士の倫理綱領を参照し、その内容について予習をしておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第14回　自らの課題検討 【key words】 実習先の理解 【授業概要】 ・いくつかのグループを設け、グループごとに実習計画書を作成してみる。 ・グループごとに実習計画書の発表を行い、質疑応答を行うことで、実習先に対する理解を深める。 ・実習先について解説を行う。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 これまでに学習した内容を復習しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第15回　全体のまとめ 【key words】 まとめ 【授業概要】 これまでに学習した内容の振り返りを行い、理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 これまでに学習した内容を復習しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
受講生に関わる情報および受講のルール	①対人援助専門職としての態度を身につけるため、時間厳守、連絡および相談、報告を行うことを重視します。 a遅刻および欠席の場合は、開始前に教務課に連絡する必要があります。 b無断欠席および無断遅刻の場合は精神保健福祉実習部会にて対応を協議します。 ②精神保健福祉援助実習に関わる授業のため、自ら演習に取り組む実践的行動への努力を重視します。 ③グループワークを中心に講義を進めるため、他社とのグループワークに取り組む努力ができない場合は、受講を認めません。 ④授業中の活動を乱す行為（私語、携帯電話の使用、飲食、居眠り等）は慎んでください。 ⑤提出期限を過ぎたものについては評価の対象になりません。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	3年生春休み期間中に精神科病院事前見学会を実施します。精神障害者及び実習機関の理解を深めるために、受け入れ可能機関等の状況により随時現場での体験学習活動を実施予定です。 ①授業内での自己学習課題の指示は必ず行うこと。 ②授業時間外の日常生活での自己覚知に積極的に取り組むこと。
オフィスアワー	初回の講義内で具体的に案内します。
評価方法	①授業への取り組み（授業内での発言・発表やグループワークへの参加状況）25% ②授業レポート（内容および提出状況を含む）35% ③課題レポート40%
教科書	・新精神保健福祉士養成講座「精神保健福祉援助実習指導・実習　第2版」日本精神保健福祉士養成校協会　編集　中央法規出版2015 ・「実習へのガイドブック（学生用）」群馬医療福祉大学2015
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 　□実務経験のある教員が担当している

	具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： ソーシャルワーク演習Ⅱ（精神①）　　授業コード：S7011

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	2単位(60)	社会福祉コース・福祉心理コース・選択
担当教員			
三橋　真人			
専門科目	演習	精神保健福祉指定科目	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 ①精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性（知識、技術、価値）の基礎を獲得する。 ②精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるようになる。 ③精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネート役を担えるようになる。 ④精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取り巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできるようになる。 ⑤精神保健福祉士として考え、行動するための基盤を獲得し、職業アイデンティティを構築する意義を理解できる。 【到達目標】 ①精神障害者の生活や生活上の困難について説明できる。 ②精神保健福祉士に求められる相談援助に係る基礎的な知識と技術を試行できる。 ③専門的技術を概念化し、理論化し、体系立てていくことができる。
授業の概要	精神保健福祉士としての基本的コミュニケーション方法を具体的に学び、演習をとおして実践できるようグループワークやディスカッション形式で授業をすすめていく。尚、授業のなかでは相談援助に係る基礎的な知識と技術に関する具体的な実技を用いるとともに、個別指導並びに集団指導を通して、地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談事例を体系的に取り上げることとする。なお、精神保健福祉援助の事例は①領域（医療機関等）、②課題（受診・受療・地域生活支援等）③法制度・サービス、④援助技術を組み合わせたものを活用し、精神保健福祉士としての実際の思考と援助課程における行為を想定し、課題を捉え、その解決に向けた援助について実践的に習得する。その際、精神保健福祉士に共通する原理として「社会的復権と権利擁護」「自己決定」「当事者主体」「社会主義」「ごく当たり前の生活」を実践的に考察できるようにする。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第1回	前期の講義の進め方と具体的方法について　オリエンテーション 【key words】 オリエンテーション 【授業概要】 ・他科目でこれまで学習してきた内容について振り返りを行い、本科目との関連性について解説する。 ・前期における本科目の授業内容について説明する。 【教科書ページ・参考文献】 p2～p17 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを参照し、「演習の意義と目的」を予習しておくこと。

		【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分
	第2回	自己覚知①精神障害を抱えて生きる人の理解① 【key words】 自己覚知、精神障害者の理解、ストレス脆弱性モデル 【授業概要】 ・「精神」というDVDを鑑賞し、自分自身が精神障害に対してどのような感想を抱いたか理解する。 ・グループディスカッションを通して、精神障害に対して抱いた感想を話し合い、精神障害について抱いた感想における自身と他者の違いを理解する。 ・一般的に言われている精神障害の特徴について解説する。 ●輪読：ストレングスモデル（第1章） →ストレングスモデルの該当部分を事前に読んでおき、「発表担当者」は発表資料作成、「指定討論者」は質問を準備、「それ以外の受講生」は指定の用紙を記入して授業に臨むこと。 【教科書ページ・参考文献】 ストレングスモデルｐ3～ｐ18 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「精神障害とは何か」について、テキストなどを参照して予習し、自分自身の言葉で説明できるようにしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分
	第3回	自己覚知②精神障害を抱えて生きる人の理解② 【key words】 自己覚知、精神障害者の理解、ピアサポート、ストレングス 【授業概要】 ・「べてる流女の一生」というDVDを鑑賞し、自分自身が精神障害に対してどのような感想を抱いたか理解する。 ・グループディスカッションを通して、精神障害に対して抱いた感想を話し合い、精神障害について抱いた感想における自身と他者の違いを理解する。 ・ピアサポートやストレングスをキーワードに精神障害のある人の生活について解説する。 ●輪読：ストレングスモデル（第1章） →ストレングスモデルの該当部分を事前に読んでおき、「発表担当者」は発表資料作成、「指定討論者」は質問を準備、「それ以外の受講生」は指定の用紙を記入して授業に臨むこと。 【教科書ページ・参考文献】 ストレングスモデルｐ18～ｐ30 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第2回の授業で、自分自身が精神障害について抱いた感想が何だったかを確認しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分
	第4回	コミュニケーションおよび面接技術の習得、ストレングスモデル 【key words】 ストレングスモデル、リフレーミング、ケースマネジメント、社会資源 【授業概要】 ・医学モデル・病理欠陥モデルとストレングスモデルの違いについて解説する。 ・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、ストレングス視点のアセスメントについて理解する。 ・ロールプレイを通して、ストレングス視点に基づいた声かけや対応の方法を学習する。 ●輪読：ストレングスモデル（第1章） →ストレングスモデルの該当部分を事前に読んでおき、「発表担当者」は発表資料作成、「指定討論者」は質問を準備、「それ以外の受講生」は指定の用紙を記入して授業に臨むこと。 【教科書ページ・参考文献】 ・ｐ210～ｐ214 ・ストレングスモデルｐ30～Ｐ44 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを参照し、「ストレングスモデル」について予習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分
	第5回	グループダイナミクス活用技術の習得①SSTについての理解 【key words】 SST（社会生活機能訓練） 【授業概要】 ・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、SSTの機能や必要性を理解する。 ・ロールプレイを通して、SSTの具体的な方法について学習する。 ・ロールプレイ後のグループディスカッションを通して、SSTにおけるリーダー、コ・リーダーの役割について考察する。 ●輪読：ストレングスモデル（第2章） →ストレングスモデルの該当部分を事前に読んでおき、「発表担当者」は発表資料作成、「指定討論者」は質問を準備、「それ以外の受講生」は指定の用紙を記入して授業に臨むこと。 【教科書ページ・参考文献】 ・ｐ215～ｐ219 ・ストレングスモデルｐ45～ｐ55 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テテキストを参照し、「SST」について予習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分
	第6回	グループダイナミクス活用技術の習得②心理教育についての理解① 【key words】

		心理教育、EE（感情表出）、EBP（科学的根拠に基づいた実践）、ツールキットプロジェクト 【授業概要】 ・心理教育やEE研究について解説する。 ・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、心理教育について理解する。 ●輪読：ストレングスモデル（第2章） →ストレングスモデルの該当部分を事前に読んでおき、「発表担当者」は発表資料作成、「指定討論者」は質問を準備、「それ以外の受講生」は指定の用紙を記入して授業に臨むこと。 【教科書ページ・参考文献】 ・ｐ220～ｐ224 ・ストレングスモデルｐ55～Ｐ66 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを参照し、「心理教育」について予習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分
	第7回	グループダイナミクス活用技術の習得③心理教育についての理解② 【key words】 心理教育、EE（感情表出）、EBP（科学的根拠に基づいた実践）、ツールキットプロジェクト 【授業概要】 ・「心理教育」の立ち上げ方・進め方ツールキット（グループワークの実際）」というDVDを鑑賞し、心理教育におけるグループワークの実際を理解する。 ●輪読：ストレングスモデル（第3章） →ストレングスモデルの該当部分を事前に読んでおき、「発表担当者」は発表資料作成、「指定討論者」は質問を準備、「それ以外の受講生」は指定の用紙を記入して授業に臨むこと。 【教科書ページ・参考文献】 ストレングスモデルｐ67～Ｐ80 【課題・予習・復習・授業準備指示】 さらに学習したい場合には、心理教育実施・普及ガイドライン・ツールキット研究会（大島巌・福井里江）（2011）「心理教育の立ち上げ方・進め方ツールキットⅠ」を参照すると良い。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分
	第8回	グループダイナミクス活用技術の習得④集団精神療法についての理解 【key words】 集団精神療法 【授業概要】 ・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、集団精神療法の特徴を考察する。 ・集団精神療法について解説する。 ●輪読：ストレングスモデル（第3章） →ストレングスモデルの該当部分を事前に読んでおき、「発表担当者」は発表資料作成、「指定討論者」は質問を準備、「それ以外の受講生」は指定の用紙を記入して授業に臨むこと。 【教科書ページ・参考文献】 ・ｐ225～Ｐ229 ・ストレングスモデルｐ80～Ｐ91 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを参照し、「集団精神療法」について予習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分
	第9回	情報収集および課題解決技術の習得①ソーシャルサポートシステム 【key words】 ソーシャルサポート、社会資源、エコマップ 【授業概要】 ・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、ソーシャルサポートについて理解する。 ・事例に基づき、エコマップの作成を行うことで、エコマップについて理解する。 ・精神障害者を支援するためのソーシャルサポートシステムについて解説する。 ●輪読：ストレングスモデル（第4章） →ストレングスモデルの該当部分を事前に読んでおき、「発表担当者」は発表資料作成、「指定討論者」は質問を準備、「それ以外の受講生」は指定の用紙を記入して授業に臨むこと。 【教科書ページ・参考文献】 ストレングスモデルｐ92～ｐ110 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを参照し、「社会資源」や「ソーシャルサポート」について予習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分
	第10回	情報収集および課題解決技術の習得②家族関係の理解　家族システム 【key words】 精神障害者家族、EE（感情表出）、循環的因果律（円環的因果律）、心理教育 【授業概要】 ・精神障害者の家族が置かれてきた状況（歴史）について解説する。 ・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、精神障害者家族が精神保健福祉士に期待することなどを考察する。 ・家族をシステムとして捉えることについて解説する。 ●輪読：ストレングスモデル（第4章） →ストレングスモデルの該当部分を事前に読んでおき、「発表担当者」は発表資料作成、「指定討論者」は質問を準備、「それ以外の受講生」は指定の用紙を記入して授業に臨むこと。

		【教科書ページ・参考文献】 ・ストレングスモデルｐ110～ｐ124 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを参照し、「精神障害者家族」について予習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分
	第11回	情報収集および課題解決技術の習得③アウトリーチについての理解 【key words】 アウトリーチ、面接技術、社会資源、ネットワーク形成 【授業概要】 ・アウトリーチについて解説する。 ・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、援助を拒否するクライエントの気持ちや訪問支援を行う際の留意点、アウトリーチの有効な点などについて考察する。 ・アウトリーチに関連する制度等について解説する。 族をシステムとして捉えることについて解説する。 ●輪読：ストレングスモデル（第5章） →ストレングスモデルの該当部分を事前に読んでおき、「発表担当者」は発表資料作成、「指定討論者」は質問を準備、「それ以外の受講生」は指定の用紙を記入して授業に臨むこと。
		【教科書ページ・参考文献】 ・ｐ235～ｐ239 ・ストレングスモデルｐ125～ｐ141 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを参照し、「アウトリーチ」について予習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分
	第12回	情報収集および課題解決技術の習得④チームアプローチについての理解 【key words】 高次脳機能障害、チームケア、チームワークの原則 【授業概要】 ・高次脳機能障害について解説する。 ・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、チームアプローチについて考察する。 ・チームワークの原則などについて解説する。 ●輪読：ストレングスモデル（第5章） →ストレングスモデルの該当部分を事前に読んでおき、「発表担当者」は発表資料作成、「指定討論者」は質問を準備、「それ以外の受講生」は指定の用紙を記入して授業に臨むこと。
		【教科書ページ・参考文献】 ・ｐ240～ｐ244 ・ストレングスモデルｐ141～156 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを参照し、「チームアプローチ」について予習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分
	第13回	情報収集および課題解決技術の習得⑤ケアマネジメントについての理解① 【key words】 ケアマネジメント、サービス等利用計画、ストレングスモデル、ＩＣＦ 【授業概要】 ・事例を読み、グループごとに「サービス等利用計画」を「作成する。 ●輪読：ストレングスモデル（第5章） →ストレングスモデルの該当部分を事前に読んでおき、「発表担当者」は発表資料作成、「指定討論者」は質問を準備、「それ以外の受講生」は指定の用紙を記入して授業に臨むこと。
		【教科書ページ・参考文献】 ・ｐ245～251 ・ストレングスモデルｐ156～167 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを参照し、「ケアマネジメント」や「サービス等利用計画」について予習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分
	第14回	情報収集および課題解決技術の習得⑥ケアマネジメントについての理解② 【key words】 ケアマネジメント、サービス等利用計画、ストレングスモデル、ＩＣＦ 【授業概要】 ・第13回授業にて作成した「サービス等利用計画」をグループごとに発表し、良い点や改善点などについて議論することで、ケアマネジメントの理解を深める。 ●輪読：ストレングスモデル（第5章） →ストレングスモデルの該当部分を事前に読んでおき、「発表担当者」は発表資料作成、「指定討論者」は質問を準備、「それ以外の受講生」は指定の用紙を記入して授業に臨むこと。
		【教科書ページ・参考文献】 ・ｐ245～ｐ251 ・ストレングスモデルｐ167～Ｐ178 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第13回授業で取り組んだ「サービス等利用計画」を授業開始までに完成させ、発表の手順をグループごとに確認しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】

		60分～120分
	第15回	前期のまとめ 【key words】 まとめ 【授業概要】 前期の授業で学んだことを復習し、簡単なテストを実施することで各々の理解度を確認する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 これまでの授業を復習しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分
	第16回	後期の講義の進め方と具体的方法について　オリエンテーション 【key words】 オリエンテーション 【授業概要】 ・前期の授業で学習してきた内容について振り返りを行い、後期の授業内容との関連性について解説する。 ・後期における本科目の授業内容について説明する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前期の授業内容を復習しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分
	第17回	危機介入について理解する 【key words】 危機、危機介入 【授業概要】 ・危機とは何かについて解説する。 ・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、危機状態の特徴や必要な支援について考察する。 ・必要な支援について解説する。 ・ソーシャルワーカーが危機介入をしなければならない状況としてどのような場面が想定されるかを考察する。 ●輪読：ストレングスモデル（第6章） →ストレングスモデルの該当部分を事前に読んでおき、「発表担当者」は発表資料作成、「指定討論者」は質問を準備、「それ以外の受講生」は指定の用紙を記入して授業に臨むこと。 【教科書ページ・参考文献】 ・ｐ230～ｐ239 ・ストレングスモデルｐ179～ｐ192 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを参照し、「危機介入」について予習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分
	第18回	医療に結びつける援助について理解する 【key words】 摂食障害、家族関係、病識がない人へのアプローチ、治療拒否をしている人へのアプローチ、入院 【授業概要】 ・摂食障害について解説する。 ・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、病識がない人や治療拒否をしている人へのアプローチついて考察する。 ・精神保健福祉法における入院について解説する。 ●輪読：ストレングスモデル（第6章） →ストレングスモデルの該当部分を事前に読んでおき、「発表担当者」は発表資料作成、「指定討論者」は質問を準備、「それ以外の受講生」は指定の用紙を記入して授業に臨むこと。 【教科書ページ・参考文献】 ・ｐ252～ｐ256 ・ストレングスモデルｐ192～ｐ207 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを参照し、「医療に結び付ける援助」について予習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分
	第19回	自殺予防について理解する 【key words】 自殺予防、バイスティックの7原則 【授業概要】 ・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、自殺を思い詰めるに至る課題や面接のポイントについて考察する。 ・ロールプレイを通して、精神保健福祉士としての面接の仕方を学習する。 ・自殺の危機にある人をどのような機関や人に繋げれば良いかを考察する。 ●輪読：ストレングスモデル（第6章） →ストレングスモデルの該当部分を事前に読んでおき、「発表担当者」は発表資料作成、「指定討論者」は質問を準備、「それ以外の受講生」は指定の用紙を記入して授業に臨むこと。 【教科書ページ・参考文献】 ・ｐ257～Ｐ261 ・ストレングスモデルｐ207～ｐ227

		【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを参照し、「自殺予防」について予習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分
	第20回	社会復帰①地域移行支援について理解する 【key words】 精神保健福祉士としての価値、施設症、地域移行支援、精神科病院 【授業概要】 ・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、退院に消極的な患者の気持ち等を考察する。 ・精神保健福祉士が行う地域移行支援について解説する。 ・グループディスカッションを通して社会的入院や求められる支援について考察する。 ●輪読：ストレングスモデル（第6章） →ストレングスモデルの該当部分を事前に読んでおき、「発表担当者」は発表資料作成、「指定討論者」は質問を準備、「それ以外の受講生」は指定の用紙を記入して授業に臨むこと。 【教科書ページ・参考文献】 ・ｐ267～ｐ271 ・ストレングスモデルｐ227～246 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを参照し、「地域移行支援」について予習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分
	第21回	社会復帰②地域定着支援について理解する 【key words】 ICF、チームアプローチ、地域定着支援、ACT（包括型地域生活支援） 【授業概要】 ・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、精神障害のある人の地域生活支援について考察する。 ・ICFについて解説する。 ・グループごとに地域生活の支援をどのように展開するか、そのなかでの精神保健福祉士の役割を考察する。 ●輪読：ストレングスモデル（第7章） →ストレングスモデルの該当部分を事前に読んでおき、「発表担当者」は発表資料作成、「指定討論者」は質問を準備、「それ以外の受講生」は指定の用紙を記入して授業に臨むこと。 【教科書ページ・参考文献】 ・ｐ272～ｐ276 ・ストレングスモデルｐ247～ｐ257 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを参照し、「地域定着支援」について予習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分
	第22回	社会復帰③医療観察法について理解する 【key words】 医療観察法、社会復帰調整官 【授業概要】 ・医療観察法について解説する。 ・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、加害者側の気持ち、被害者側の気持ちを考察する。 ・グループディスカッションを通して医療観察法の機能について考察する。 ・医療観察法に関する批判的な意見について解説する。 ●輪読：ストレングスモデル（第7章） →ストレングスモデルの該当部分を事前に読んでおき、「発表担当者」は発表資料作成、「指定討論者」は質問を準備、「それ以外の受講生」は指定の用紙を記入して授業に臨むこと。 【教科書ページ・参考文献】 ・ｐ277～ｐ281 ・ストレングスモデルｐ257～ｐ276 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを参照し、「医療観察法」について予習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分
	第23回	就労支援（IPS援助付き雇用）について理解する 【key words】 IPS援助付き雇用、EBP（科学的根拠に基づく実践）、就労移行支援 【授業概要】 ・IPS援助付き雇用について解説する。 ・「IPSを学ぶ　ストレングスモデルに基づく個別就労支援の進め方」というDVDを鑑賞し、IPSの実際について理解する。 ・我が国の一般的な就労支援とIPSの違いについて各々で考察する。 ●輪読：ストレングスモデル（第7章） →ストレングスモデルの該当部分を事前に読んでおき、「発表担当者」は発表資料作成、「指定討論者」は質問を準備、「それ以外の受講生」は指定の用紙を記入して授業に臨むこと。 【教科書ページ・参考文献】 ストレングスモデルｐ276～ｐ292 【課題・予習・復習・授業準備指示】 さらに学習したい場合には、デボラ・R・ベッカー、ロバート・E・ドレイク（2004）「精神障害をもつ人たちのワーキングライフ　IPS：チームアプローチに基づく援助付き雇用ガイド」を参照すると良い。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分
	第24回	地域生活支援（ACT）について理解する 【key words】

		ACT（包括型地域生活支援）、EBP（科学的根拠に基づく実践）、地域生活支援 【授業概要】 ・ACT（包括型地域生活支援）について解説する。 ・「ACTは地域精神医療を変えるか」というDVDを鑑賞し、ACTの実際について理解する。 ・我が国においてACTを実践するうえでの課題等について考察する。 ●輪読：ストレングスモデル（第7章） →ストレングスモデルの該当部分を事前に読んでおき、「発表担当者」は発表資料作成、「指定討論者」は質問を準備、「それ以外の受講生」は指定の用紙を記入して授業に臨むこと。 【教科書ページ・参考文献】 ストレングスモデルｐ292～ｐ302 【課題・予習・復習・授業準備指示】 さらに学習したい場合には、西尾雅明（2004）「ACT入門　精神障害者のための包括型地域生活支援プログラム」を参照すると良い。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分
	第25回	権利擁護について理解する 【key words】 社会権、権利擁護、自己決定、障害者の権利に関する条約、成年後見制度 【授業概要】 ・各々で権利とは何かについて考察する。 ・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、権利侵害とは何かについて考察する。 ・権利擁護について解説する。 ・グループディスカッションを通して検討することで、精神保健福祉士が行う権利擁護について考察する。 ●輪読：ストレングスモデル（第8章） →ストレングスモデルの該当部分を事前に読んでおき、「発表担当者」は発表資料作成、「指定討論者」は質問を準備、「それ以外の受講生」は指定の用紙を記入して授業に臨むこと。 【教科書ページ・参考文献】 ・ｐ282～ｐ286 ・ストレングスモデルｐ303～ｐ319 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを参照し、「権利擁護」について予習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分
	第26回	地域の組織化について理解する 【key words】 コミュニティワーク、地域福祉計画、住民参加 【授業概要】 ・コミュニティワークの3つのゴール（タスクゴール、プロセスゴール、リレーションシップゴール）について解説する。 ・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、地域の精神保健福祉ニーズの把握方法や計画の作成方法について考察する。 ・地域福祉計画や住民参加について解説する。 ●輪読：ストレングスモデル（第8章） →ストレングスモデルの該当部分を事前に読んでおき、「発表担当者」は発表資料作成、「指定討論者」は質問を準備、「それ以外の受講生」は指定の用紙を記入して授業に臨むこと。 【教科書ページ・参考文献】 ・ｐ297～ｐ301 ・ストレングスモデルｐ319～ｐ333 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを参照し、「地域の組織化」について予習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分
	第27回	障害年金について理解する 【key words】 障害年金、自立支援 【授業概要】 ・障害年金について解説する。 ・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、障害年金の受給と自立の関係について考察する。 ・障害年金を受給しやすい社会について、各々に考察する。 ●輪読：ストレングスモデル（第8章） →ストレングスモデルの該当部分を事前に読んでおき、「発表担当者」は発表資料作成、「指定討論者」は質問を準備、「それ以外の受講生」は指定の用紙を記入して授業に臨むこと。 【教科書ページ・参考文献】 ・ｐ302～ｐ305 ・ストレングスモデルｐ333～ｐ353 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを参照し、「障害年金」について予習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分
	第28回	社会資源につなげる支援について理解する 【key words】 アウトリーチ、ACT（包括型地域生活支援）、ホームレス支援 【授業概要】 ・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、アウトリーチ支援を行ううえで必要な配慮等について考察する。 ・アウトリーチ支援における精神保健福祉士の関わりについて、事例に基づいて解説を行う。 ●輪読：ストレングスモデル（第9章） →ストレングスモデルの該当部分を事前に読んでおき、「発表担当者」は発表資料作成、「指定

	討論者」は質問を準備、「それ以外の受講生」は指定の用紙を記入して授業に臨むこと。 【教科書ページ・参考文献】 ・ｐ307～ｐ311 ・ストレングスモデルｐ354～ｐ369 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを参照し、「社会資源につなげる支援」について予習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分 第29回　自己覚知③ゲストスピーカーによる講話 【key words】 精神障害者の実体験 【授業概要】 ・当事者であるとともに専門職でもある方をゲストスピーカーに招き、講話をして頂く。 ・講話を聞き、各々に精神保健福祉士として求められる役割を考察する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 これまでの授業を復習しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分 第30回　全体のまとめ 【key words】 まとめ 【授業概要】 後期の授業で学んだことを復習し、簡単なテストを実施することで各々の理解度を確認する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 これまでの授業を復習しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分
受講生に関わる情報および受講のルール	①対人援助専門職としての態度を身につけるため、時間厳守、連絡および相談、報告を行うことを重視します。 a遅刻および欠席の場合は、開始前に教務課に連絡する必要があります。 b無断欠席および無断遅刻の場合は精神保健福祉実習部会にて対応を協議します。 ②精神保健福祉援助実習に関わる授業のため、自ら演習Ⅱ取り組む実践的行動への努力を重視します。 ③グループワークを中心に講義を進めるため、他者とのグループワークに取り組む努力ができない場合は、受講を認めません。 ④授業中の活動を乱す行為（私語、携帯電話の使用、飲食、居眠り等）は慎んでください。 ⑤提出期限を過ぎたものについては評価の対象になりません。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	①授業内での自己学習課題の指示は必ず行うこと。 ②授業時間外での日常生活での自己覚知に積極的に取り組むこと。
オフィスアワー	初回の講義内で具体的に案内します。
評価方法	①授業への取り組み（授業内での発言・発表およびグループワークへの参加状況）25％ ②授業レポート（内容および提出状況含む）40％ ③定期試験または課題レポート35％
教科書	・新精神保健福祉士養成講座「精神保健福祉援助演習（基礎・専門）第2版」　日本精神保健福祉士養成校協会　編集　中央法規出版　2016 ・Rapp,C.A. and Goscha,R.J(2012) The Strengths Model:A Recovery-Oriented Approach to Mental Health Services,Third Edition,New York:Oxford University Press.(=2014,田中英樹監訳『ストレングスモデルーリカバリー志向の精神保健福祉サービス［第3班］金剛出版)
参考書	・Becker,D.R.and Dreke,R.E.(2003) Working Life for People with Severe Mental Illness, Oxford University Press.(=2004,大島巌・松為信雄・伊藤順一郎監訳『精神障害のある人たちのワーキングライフーIPS:チームアプローチに基づく援助付き雇用ガイド』金剛出版) ・西尾雅明（2004）『ACT入門』ー精神障害者のための包括型地域生活支援プログラム』金剛出版
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）

	□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： ソーシャルワークの理論と方法（精神）　　授業コード：S7016

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	4単位(60)	社会福祉コース・福祉心理コース・選択
担当教員			
鈴木　秀夫			
専門科目	講義	精神保健福祉士指定科目	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 ①精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークの過程を理解する。 ②精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人と家族の関係を理解し、家族への支援方法を理解する。 ③精神医療、精神障害者福祉における多職種連携・多機関連携の方法と精神保健福祉士の役割について理解する。 ④精神保健福祉士と所属機関の関係を踏まえ、組織運営管理、組織介入・組織活動の展開に関する概念と方法について理解する。 ⑤個別支援からソーシャルアクションへの実践展開をミクロ・メゾ・マクロの連続性・重層性を踏まえて理解する。 ⑥精神保健福祉分野以外における精神保健福祉士の実践展開を理解する。 【到達目標】 ①精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークの過程を説明できる。 ②精神保健福祉の課題を持つ人と家族の関係を説明するとともに、家族への支援方法を実践できる。 ③精神障害者福祉における多職種連携・多機関連携の方法と精神保健福祉士の役割及び組織運営管理、組織介入・組織活動の展開に関する概念を説明できる。 ④個別支援からソーシャルアクションへの実践展開をミクロ・メゾ・マクロの連続性・重層性を踏まえ、精神保健分野に限らず、ソーシャルワークを実践できる。
授業の概要	精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人や家族に対するソーシャルワークの過程を理解し、精神障害者福祉における多職種連携・多機関連携の方法と精神保健福祉士の役割及び組織運営管理、組織介入・組織活動の展開に関する視点を学ぶとともに個別支援からソーシャルアクションへの実践展開をミクロ・メゾ・マクロの連続性・重層性を踏まえ、精神保健福祉分野に限らず、ソーシャルワークを実践できるように授業を展開する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第1回	前期オリエンテーション 【key words】 前期オリエンテーション。PSWからMHSWへ。 【授業概要】 授業全体を概観し、授業の展開にかかる説明を行う。 【教科書ページ・参考文献】 しばらく切れ間で使用した教科書。1年時「制度論」2年時「原理」を持ってくること。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 原理２P,制度論１８P 【予習復習に必要な想定時間】
	第2回	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの概要と構成要素 【key words】 原理、理念、視点、知識、技術 【授業概要】 精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの概要と構成要素、ケースワーク、グループワー

		ク、コミュニティーワークについて説明する。その原理、理念、視点、知識、技術について概説する。 【教科書ページ・参考文献】 １３P図の1－1の展開過程を板書。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第3回	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの展開過程 【key words】 展開過程、ケースの発見、インテーク、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング、支援の終結と事後評価、アフターケア、ミクロ・メゾ・マクロレベルにおける展開 【授業概要】 精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの展開過程について説明する。また、ソーシャルワークの展開過程に関する事例をもとに展開過程を俯瞰する。 【教科書ページ・参考文献】 ７６Pのグループワークの展開過程w板書。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第4回	精神保健福祉分野のソーシャルワークの基本的視点 【key words】 人と環境の相互作用、精神障害及び精神保健の課題を有する人とその家族の置かれている状況、精神疾患・精神障害の特性を踏まえたソーシャルワークの留意点 【授業概要】 精神障害者の特性を踏まえたうえで、精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの基本的視点を説明する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第5回	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程（アウトリーチ） 【key words】 必要な支援にアクセスできない当事者及び家族へのアプローチ、支援を求めない当事者層へのアプローチ、多問題を含む家族へのアプローチ、社会的孤立とセルフネグレクトへのアプローチ 【授業概要】 必要な支援にアクセスできない当事者及び家族や支援を求めない当事者層、多問題を含む家族、社会的孤立やセルフネグレクト状態など様々な困難を抱えた精神障害者にたいするアプローチについて事例等を用いて理解する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第6回	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程（インテーク） 【key words】 主訴の把握、スクリーニング、契約 【授業概要】 精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程のインテーク場面における留意点を説明する。また、インテーク場面のロールプレイングを行う。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第7回	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程（アセスメント） 【key words】 【授業概要】 精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程のアセスメント場面における留意点を説明する。また、インテーク場面のロールプレイングを行う。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第8回	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程（援助関係の形成技法） 【key words】 バイスティックの援助関係を形成する技法、自己決定、意思決定、協議（パートナーシップ）、心理的防衛機制、転移と逆転移、バウンダリー、自己覚知 【授業概要】 精神保健福祉士として援助関係を形成する技法について説明し、自己覚知を深める取り組みを行う。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第9回	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程（面接技術とその応用） 【key words】 面接の構造、面接技法（マイクロカウンセリング）、生活場面面接、動機づけ面接

【授業概要】
面接に関する視聴教材を視聴するとともに面接について概説し、ロールプレイングを行う。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第10回　精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程（支援の展開における人、環境へのアプローチ）
【key words】
エコロジカルアプローチ（生活モデル）の展開、エンパメントアプローチの展開

【授業概要】
エコロジカルアプローチやエンパメントアプローチの展開について説明し、人や環境にたいするアプローチ理解する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第11回　精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程（ケアマネジメント）
【key words】
ケアマネジメントのプロセス、ケアマネジメントの実際（ACT、ストレングスモデルに基づくケアマネジメント、障害者総合支援法におけるケアマネジメント等）
【授業概要】
ケアマネジメントのプロセスについて説明し、事例をもとにケアマネジメントの実際について理解する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第12回　精神保健福祉分野における家庭支援の実際（精神障害者家族の課題及び家族理解の変遷）
【key words】

【授業概要】
精神障害者の家族を取り巻く課題やニーズについて理解し、家族に対する支援について説明を行う。また、家族理解に関する理解の変遷についてもまとめる。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第13回　精神保健福祉分野における家庭支援の実際（家族支援の方法）
【key words】
家族相談面接、家族療法的アプローチ、家族関係における暴力への介入（DV被害者支援、DV加害者プログラム）、家族のリカバリー、家族のセルフヘルプグループ
【授業概要】
家庭支援に対する支援の方法について説明するとともに事例をもとに検討する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第14回　精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程（まとめ）
【key words】
ソーシャルワークの展開過程、インテーク、アセスメント
【授業概要】
精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程とその過程における家族に対する支援の一連の流れを事例を通して理解する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第15回　前期まとめ
【key words】
前期まとめ

【授業概要】
前期の授業について振り返りを行う。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第16回　後期オリエンテーション
【key words】
後期オリエンテーション

【授業概要】
授業全体を概観し、授業の展開にかかる説明を行う。

		後期はグループワーク、その中のSSTを中心に進める。20回以降は大幅に変更の可能性がある。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第17回	多職種連携・多機関連携における連携の意義と目的及び留意点 【key words】 【授業概要】 多職種連携・多機関連携における連携の意義と目的及び留意点について説明する。当事者参加の原則とともに目標の共有、情報共有とプライバシー保護についての重要性についても説明する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第18回	多職種連携・多機関連携におけるチームビルディングとチームの形態と特徴 【key words】 リーダーシップ、メンバーシップ、ファシリテーション、パワーゲーム、マルチディシプリナリーチーム、インターディシプリナリーチーム、トランスディシプリナリーチーム 【授業概要】 多職種連携・多機関連携におけるチームの形態と特徴について概説し、チームビルディングにおける技法について説明する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第19回	多職種連携・多機関連携における精神保健福祉士の役割とチームアプローチの実際 【key words】 精神保健福祉士の役割、多職種連携、多機関連携、チームアプローチ 【授業概要】 事例を用いながら、各チームの形態及びチームビルディングについて討議する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第20回	SSTとソーシャルアドミニストレーションの概念とその意義及び組織と精神保健福祉士の関連性 【key words】 ソーシャルアドミニストレーション、組織経営（医療経営・事業経営）とソーシャルワーク、専門職と被用者（二重のロイヤリティ） 【授業概要】 ソーシャルアドミニストレーションについて概説し、組織経営（医療経営・事業経営）とソーシャルワークについて説明し、専門職と被用者という二重のロイヤリティについて理解する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第21回	SSTとソーシャルアドミニストレーションの展開方法（組織介入・組織改善の実践モデル及び組織運営管理の実際） 【key words】 【授業概要】 ソーシャルアドミニストレーションの展開方法について一連の流れの事例を使って説明する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第22回	SSTと精神保健福祉分野におけるコミュニティワークの意義 【key words】 地域生活支援、ソーシャルインクルージョン、精神障害にも対応した地域包括ケアシステム 【授業概要】 精神保健福祉分野におけるコミュニティワークの意義を概説するとともに精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの視点について説明する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第23回	SSTと地域における精神保健福祉の向上を目指すコミュニティワーク 【key words】 精神保健福祉に関する普及啓発、地域住民の精神保健福祉活動への参画、予防的アプローチ 【授業概要】 精神保健福祉分野の地域住民の意識と精神保健福祉士としての普及啓発活動や予防的アプローチについて説明する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】

	【予習復習に必要な想定時間】 第24回　SSTと個別支援からソーシャルアクションへの展開（基本的支援） 【key words】 当事者ニーズを軸とした展開・包括的アプローチ、ミクロ・メゾ・マクロの連続性と展開方法 【授業概要】 ミクロ・メゾ・マクロの連続性と展開方法について説明するとともに、当事者ニーズを軸とした展開・包括的アプローチについて考察する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第25回　SSTと個別支援からソーシャルアクションへの展開（個別支援から地域における体制整備） 【key words】 個別支援会議、地域における協議会、地域課題の発見・共有、ネットワークの構築、地域における社会資源の開発・改善、地域住民への啓発と住民参加 【授業概要】 個別支援の蓄積、ニーズ調査、地域アセスメントから地域課題の発見・共有する方法や自立支援協議会等を中心とする地域における社会資源の開発・改善について説明する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第26回　SSTと個別支援からソーシャルアクションへの展開（政策提言・政策展開） 【key words】 国及び広域圏において共通する課題の抽出・分析、職能団体・関係団体間での課題の共有とエビデンスの集積、法制度上の課題の解決に向けたアクションプランと実施、改善・創設された法制度の活用と評価 【授業概要】 ミクロ・メゾの実践における課題を抽出し、政策提言や政策展開できるプロセスを説明する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第27回　SSTと精神障害者の地域移行・地域定着に関わる展開 【key words】 地域移行・地域定着、個別支援、ソーシャルアクション 【授業概要】 精神障害者の地域移行・地域定着に関わる事例をもとに討議する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第28回　関連分野における精神保健福祉士の実践展開（学校・教育分野及び産業分野） 【key words】 スクールソーシャルワーク、EAP 【授業概要】 学校・教育分野及び産業分野における精神保健福祉士の実践展開について事例をもとに討議する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第29回　関連分野における精神保健福祉士の実践展開（司法分野） 【key words】 地域生活定着支援センター 【授業概要】 司法における精神保健福祉士の実践展開について事例をもとに討議する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第30回　後期まとめ 【key words】 後期まとめ 【授業概要】 後期の授業について振り返りを行う。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語・携帯電話の使用）は厳禁とする。 ・座学だけでなく、事例等を用いた討論も行うので積極的に参加してもらいたい。

	・精神保健福祉士を目指す学生、国家試験を受験予定の学生は必ず履修するこち。適宜レポート提出、小テストを実施する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	・授業終了時に課題を渡すので次回までに調べてくること。
オフィスアワー	原則、火曜日を除く放課後。
評価方法	定期試験50%/毎回の課題30%/授業への参画状況による評価20%
教科書	精神保健福祉士養成講座『ソーシャルワークの理論と方法（精神専門）』（最新版）中央法規
参考書	授業時に紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 精神科病院30年以上のPSWとしての実務経験。最後の10年は当時の副院長と看護の勉強会を実施。他医局の勉強会において医師、SW,CPを対象にSSTトレーニングを実施している。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： サービス・ラーニングⅣ　　授業コード： S2021

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	4年次	1単位（30）	選択
担当教員			
中越　信一・大島　由之			
基礎教養科目	演習		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　サービス・ラーニングⅠ・Ⅱ・Ⅲで学び／実践した取り組みを踏まえ、地域での実践活動への参加を通じ、目指す医療・福祉・教育の専門職としてのキャリアを形成すること、地域社会に生きる市民としての社会人基礎力を養成することの2点を目的とする 【到達目標】 ①地域社会にある課題と見つけ出し、その解決に向けた道筋を描き出すことができる。 ②課題解決に向けた具体的な地域貢献・社会貢献のための活動を調査・参加することができる。 ③参加した活動の中で、課題解決に向けた取り組みの提案・実践をすることができる。 ④実践を通じて得た学びから、専門職としてのキャリアを検討・発表することができる。
授業の概要	4年間の地域貢献活動の総括にあたる本講義では、全学ディプロマポリシーである『地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践』を行う場として、年間を通じて個人またはグループでの実践活動を行う。 　昨年度までの学びを踏まえ、個人またはグループにて年間を通じた地域での実践活動の計画を立案し、各自のペースで実践活動に継続的に参加し、学びを深めていく。前期後期を通じ、授業時間外での実践活動と授業時間内での実践活動とそこでの学びの共有を繰り返してゆく。最終的にはそれぞれの実践と，そこで得た学びを全体での報告会にて共有する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	履修希望者オリエンテーション 【key words】 サービス・ラーニング、ボランティアの活動の原則、目標設定 【授業概要】 全体で集合して実施する。 授業目的や到達目標、概要について説明し、スケジュールや成績評価の方法について確認を行う。その後、「受講を継続した理由」や「想定している継続的な活動の分野・活動先」、「継続的な活動と振り返りを通じて学びたい／伸ばしたい事柄」をまとめ、受講生間で共有を行う、 【教科書ページ・参考文献】 特になし 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「受講を継続した理由」・「想定している継続的な活動の分野・活動先」・「継続的な活動と振り返りを通じて学びたい／伸ばしたい事柄」についてまとめておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 15-30分（以下分単位）
	第２回	活動準備①実践活動に向けた留意事項、事務手続きの確認 【key words】 活動先の選定基準、態度・マナー、継続ボランティア事務手続き 【授業概要】 全体で集合して実施する。 学外での実践活動に向けた準備を行うにあたっての留意事項や事務手続きについて説明を行う。

		その後、事務手続きとして必要になる書類作成について演習を行う。 【教科書ページ・参考文献】 特になし 【課題・予習・復習・授業準備指示】 興味のあるボランティア活動や施設・機関に関して調べ、資料をプリントアウトして持参すること 【予習復習に必要な想定時間】 15-60
	第３回	活動準備②実践活動の依頼先検討 【key words】 活動先の選定基準、地域連携センター、情報収集 【授業概要】 全体で集合して実施する。 実践活動の依頼先について現時点の候補を挙げ、そこを候補とした理由や準備状況について確認・共有する。その後、下見を行う際の留意事項や電話のかけ方などの演習を行う。 【教科書ページ・参考文献】 特になし 【課題・予習・復習・授業準備指示】 活動実施を検討ている施設・機関に関して調べ、資料をプリントアウトして持参すること 【予習復習に必要な想定時間】 15-60
	第４回	活動準備③実践活動の依頼先検討 【key words】 継続ボランティア、地域連携センター 【授業概要】 学外での実践活動を行う依頼先について検討を行う。 すでに依頼を行う候補や見学先、活動先がある場合にはこの時限で依頼・見学・活動を行ってもよい。まだ依頼先の検討段階にある場合には、個別相談に応じる。 【教科書ページ・参考文献】 サービス・ラーニングⅢハンドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回準備：実践活動の依頼先候補とその施設・団体等を候補とした理由、そこで学びたいことについてまとめておく 【予習復習に必要な想定時間】 15-60
	第５回	活動準備④実践活動の依頼先の報告と共有 【key words】 継続ボランティア、地域連携センター 【授業概要】 全体で集合して実施する。 実践活動の依頼先について現時点の候補を挙げ、そこを候補とした理由や準備状況について確認・共有する。 その後、継続ボランティアとしての事務手続きを再確認し、年間活動計画について検討を行う、 【教科書ページ・参考文献】 特になし 【課題・予習・復習・授業準備指示】 5分程度のプレゼンテーションの準備（スクリーン提示資料、配布資料）の用意 【予習復習に必要な想定時間】 30-60
	第６回	活動準備報告会 【key words】 プレゼンテーション、目標設定、活動計画 【授業概要】 全体で集合して実施する。 実践活動の依頼先候補とそこでの活動計画、活動を通じて学びたいこと、実践活動に向けた準備状況についてプレゼンテーションを行い、お互いの興味関心や計画について理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 各自の配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特になし 【予習復習に必要な想定時間】
	第７回	活動準備④活動目標・活動計画の再確認 【key words】 継続ボランティア、活動目標、活動計画 【授業概要】 全体で集合して実施する。 夏季休業期間の様々な活動や各種資格の実習等を経て、前期に設定した活動目標や活動計画を再検討し、活動開始前の最終準備を行う。 【教科書ページ・参考文献】 サービス・ラーニングⅢハンドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1回の活動（またはそれまでの活動）についての報告書の作成 【予習復習に必要な想定時間】 15-60
	第８回	活動状況報告と共有① 【key words】 PDCAサイクル、ポートフォリオ、振り返り 【授業概要】 全体で集合して実施する。 第1回の活動（又はそれまでの活動）について、活動の内容、感じたこと、課題とその解決方法について報告し、共有を行う。 【教科書ページ・参考文献】

		ポートフォリオ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特になし 【予習復習に必要な想定時間】
	第９回	活動状況報告と共有②個別相談 【key words】 PDCAサイクル、ポートフォリオ、振り返り 【授業概要】 実践している活動に関する個別報告と実施に関する相談の機会とする。 実践活動が滞りなく進んでいる場合には、この時限で実践活動を行ってもよい。 【教科書ページ・参考文献】 ポートフォリオ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特になし 【予習復習に必要な想定時間】
	第１０回	活動状況報告と共有③ 【key words】 PDCAサイクル、ポートフォリオ、振り返り 【授業概要】 全体で集合して実施する。 それまでの活動について、活動の内容、感じたこと、課題とその解決方法について報告し、共有を行う。 また、目標達成やそれぞれの活動において自身の感じている課題についてお互い解決方法を検討する機会を設ける。 【教科書ページ・参考文献】 ポートフォリオ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自身の立てた目標達成に向けて感じている課題についてまとめておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 15-30
	第１１回	活動状況報告と共有④個別相談 【key words】 PDCAサイクル、ポートフォリオ、振り返り 【授業概要】 実践している活動に関する個別報告と課題達成に向けた相談の機会とする。 実践活動が滞りなく進んでいる場合には、この時限で実践活動を行ってもよい。 【教科書ページ・参考文献】 ポートフォリオ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特になし 【予習復習に必要な想定時間】
	第１２回	活動状況報告と共有③ 【key words】 PDCAサイクル、ポートフォリオ、振り返り 【授業概要】 全体で集合して実施する。 それまでの活動の終了を見越し、活動で得た学びや目標の達成状況、感じている課題とその解決方法について報告し、共有を行う。 また、終了手続きやお礼状の作成について説明を行う予定。 【教科書ページ・参考文献】 ポートフォリオ、サービスラーニングⅢハンドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特になし 【予習復習に必要な想定時間】
	第１３回	活動報告会に向けて① 【key words】 プレゼンテーション、目標達成の評価、課題の設定 【授業概要】 全体で集合して実施する。 最終15回で行う活動報告会の内容や作成予定の冊子について説明を行い、各自の準備に充てる。 特に、活動内容の紹介や目標達成の評価、さらなる課題の設定について解説を行う予定。 【教科書ページ・参考文献】 ポートフォリオ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 期間に送付するお礼状の下書きを完成させておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60-90
	第１４回	活動報告会に向けて②個別相談 【key words】 プレゼンテーション、目標達成の評価、課題の設定 【授業概要】 活動報告会に向けた準備と冊子の作成に関する個別対応と相談の機会とする。 準備が問題なく進んでいる場合には、この時限を各自の作業に充ててもよい。 【教科書ページ・参考文献】 ポートフォリオ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 最終報告会の準備を行うこと 【予習復習に必要な想定時間】 30-60
	第１５回	活動報告会 【key words】 プレゼンテーション

	【授業概要】 全体で集合して実施する。各自の成果報告を行う予定である。 【教科書ページ・参考文献】 発表資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 発表の感想を指定の書式で作成 【予習復習に必要な想定時間】 30-60
受講生に関わる情報および受講のルール	＜受講生に関わる情報＞ ・授業時間として設定された時限以外での個人またはグループでの活動が中心となるため、担当教員（グループの場合にはメンバー同士）との密な連絡と積極的な姿勢が求められる。 ・講義内外の活動ごとに、ポートフォリオへの記入や小レポートの作成、メールやウェブポータル上での報告を求める。各自が期限を厳守し、真摯な態度で臨むこと。 ・大学外での活動が中心となるため、実習に順ずる態度・身だしなみで取り組むこと。 ・わからないことなどがあれば、遠慮なく担当教員をはじめとした学内の教員、地域連携センターに相談をすること。一人で解決しようとせず、人に力を借りることも学ぶこと。 ＜受講のルール＞ ・遅刻／欠席については大学のルールに則り、教務課に連絡を行うこと。 ・担当教員との連絡、掲示板の確認を密に行うこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	毎回の授業後にウェブポータルのスレッド／アンケート、スプレッドシートなどを用いる予定
授業外時間にかかわる情報	授業時間外での実践活動が主となる。各種実習や国家試験対策、就職活動等の予定を鑑み、地域連携センターや担当教員との連絡を密に行うこと。
オフィスアワー	授業内で案内する
評価方法	P/D評価である。ポートフォリオの作成・完成（50%）、定期的な報告での報告内容（25%）、最終報告（25%）で評価を行い、基準を超えた場合に単位を認定する。
教科書	別途指示
参考書	適宜紹介
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容